

第480図 5・95区ピット出土遺物

### 9. 遺構外出土遺物

遺構に帰属し得なかった遺物について、遺構外出土として以下に記載する。これらの多くは、表土掘削時や遺構確認時の掘り下げ時に検出されたものの他、次章で扱う平安時代以降の遺構より出土した縄文時代の遺物も遺構外出土遺物として併せて報告する。

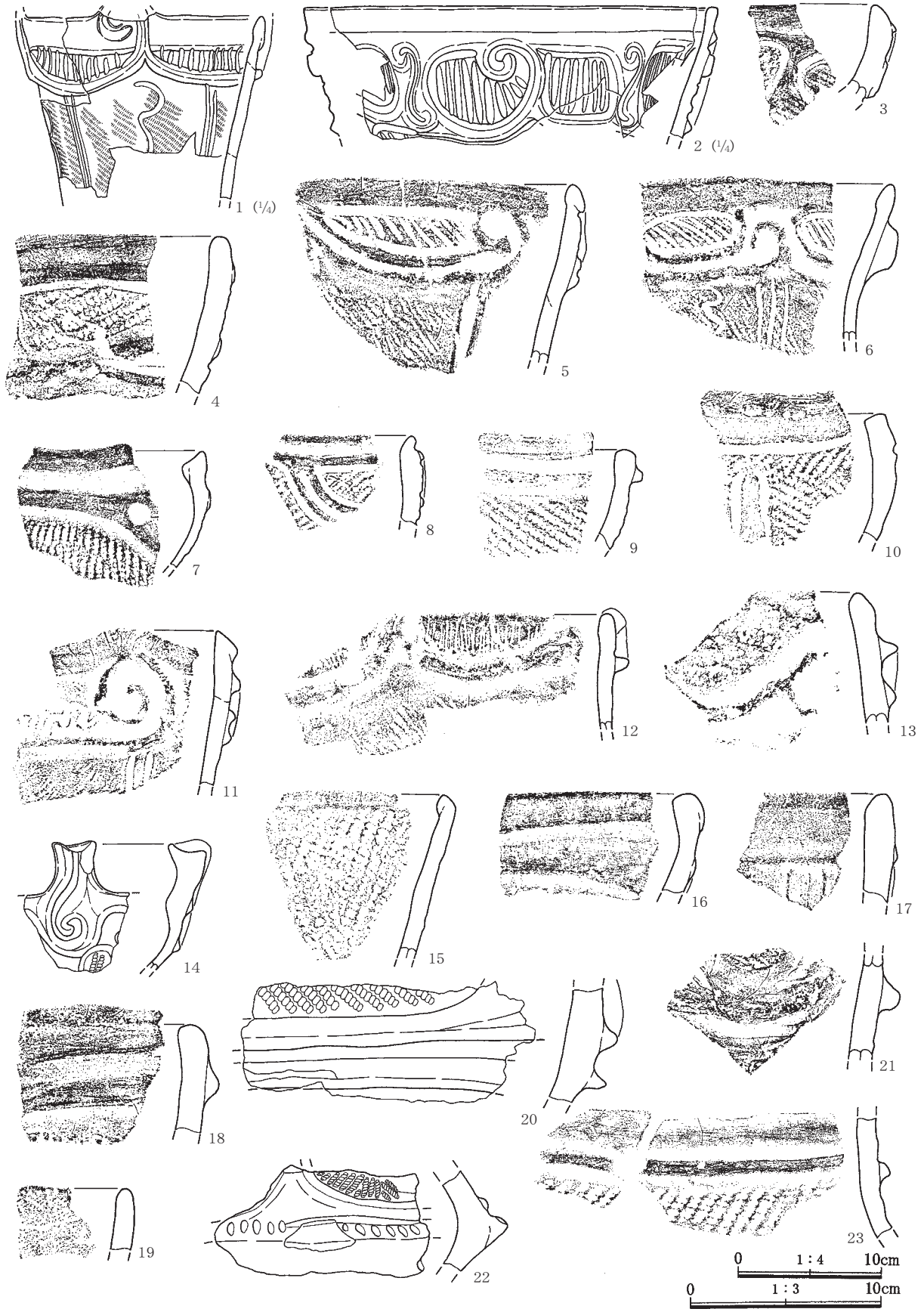
遺物は、特に調査区の南側谷地に掛かる部分から、やや下った谷の上位部分において多く出土している。また、今次の調査区では表土下遺構確認面までの黒色土層が比較的厚く、平安以降とした陥し穴等からの出土も多い。5区・95区は本来であれば同じ1つの調査区内であり、区別に記載する必要は無いかとも考えたが、これまでの記載方法に則り、土器、石器を5区・95区に分け掲載している。

#### (1) 土器・土製品 (第481～503図：PL.245～258)

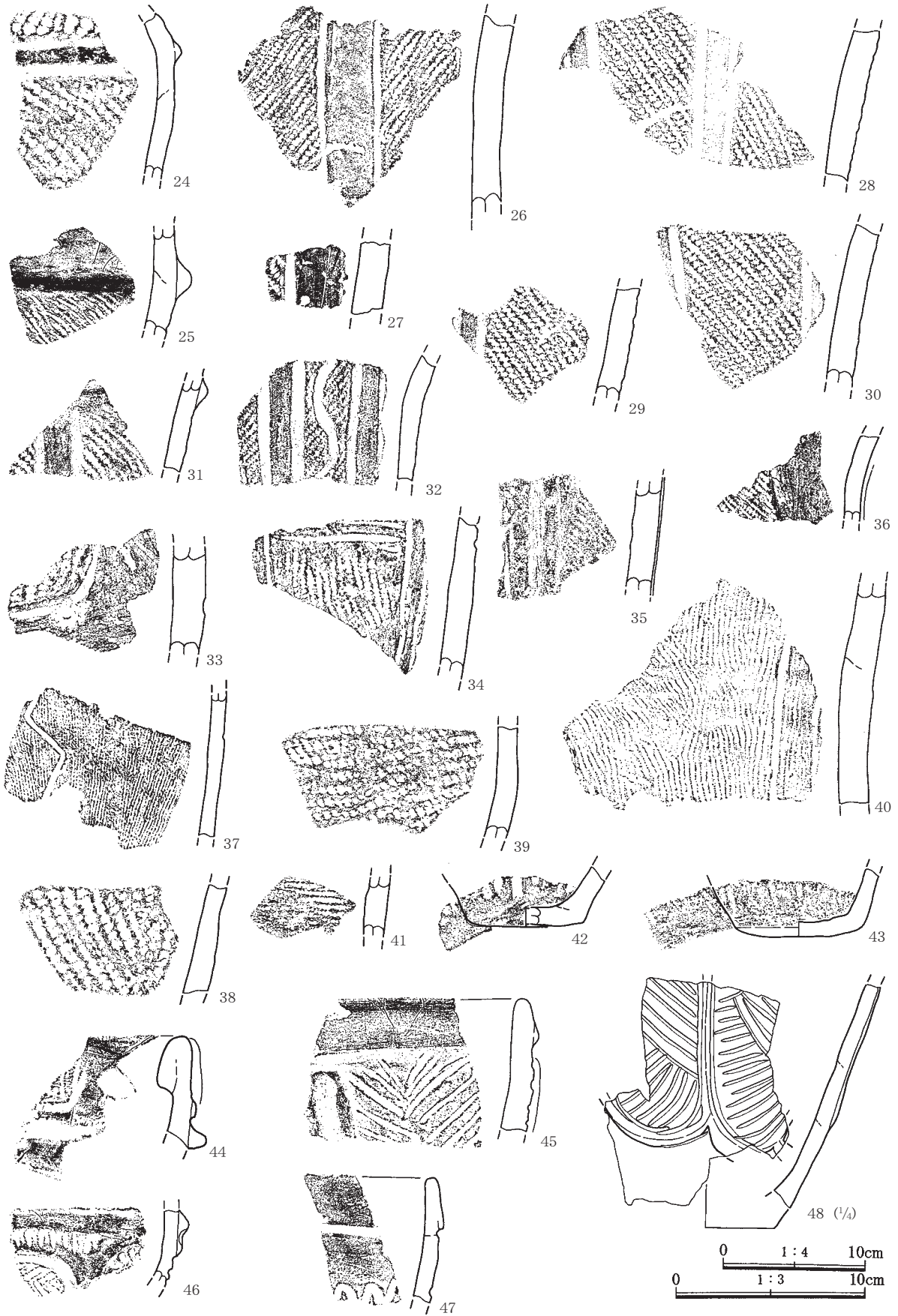
土器は遺構の時期が反映され、中期後葉に比定されるものが大半を占めている。隆線、矢羽根状の沈線文を多用する信州系の土器が多く含まれている。これに続いて多く見られるのが、後期初頭から前半期のものである。その他前期末から中期初頭の遺物も、僅かではあるが出土している。

#### (2) 石器・石製品 (第504～530図：PL.259～267)

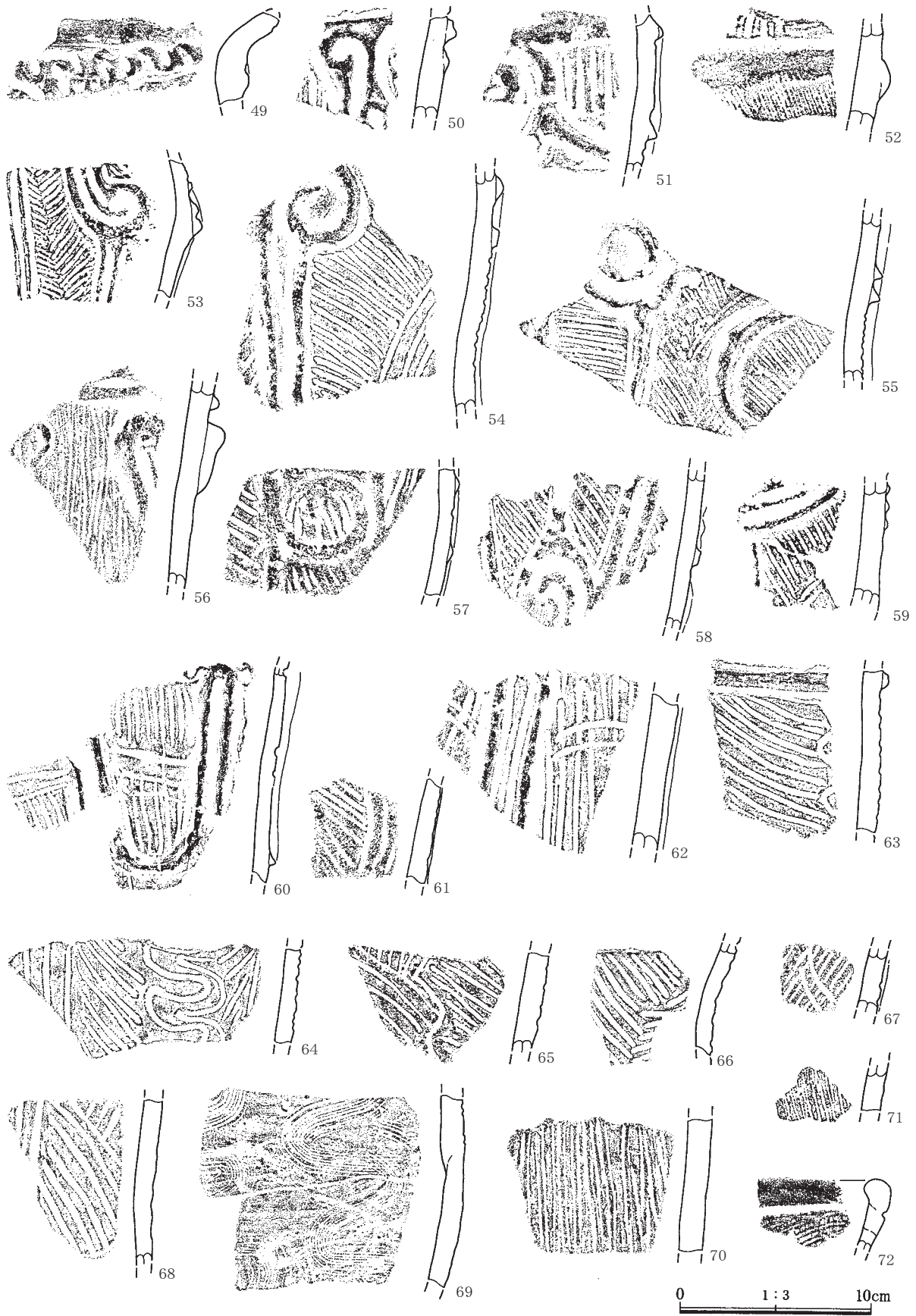
石器も多く、石鎌、石錐の多さは注意されるものである。その他、打製石斧、磨石も遺構出土のものと同様主要な器種となっている。このほか石棒・多孔石なども多く見られる。



第481図 5区遺構外出土土器(1)



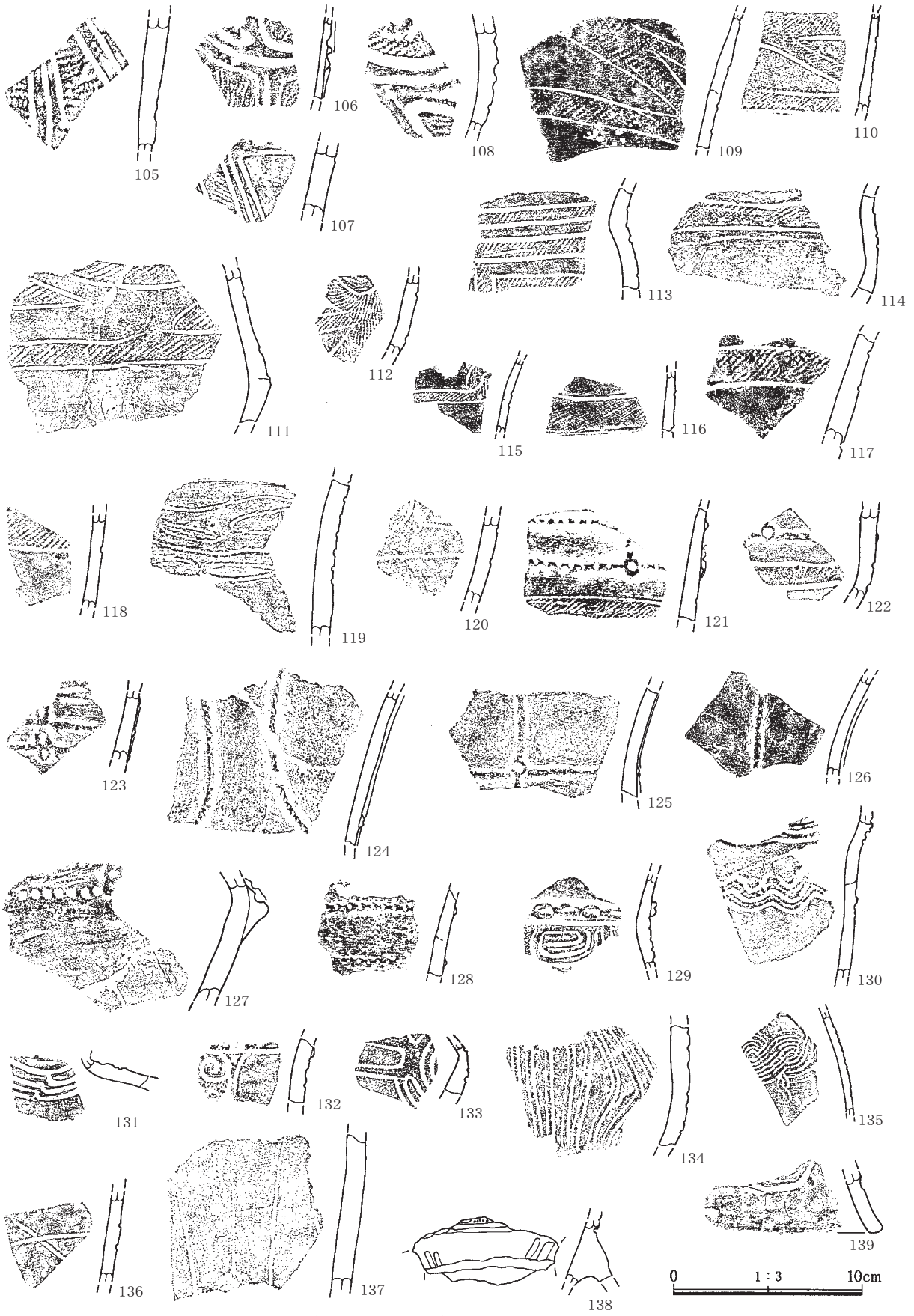
第482図 5区遺構外出土土器(2)



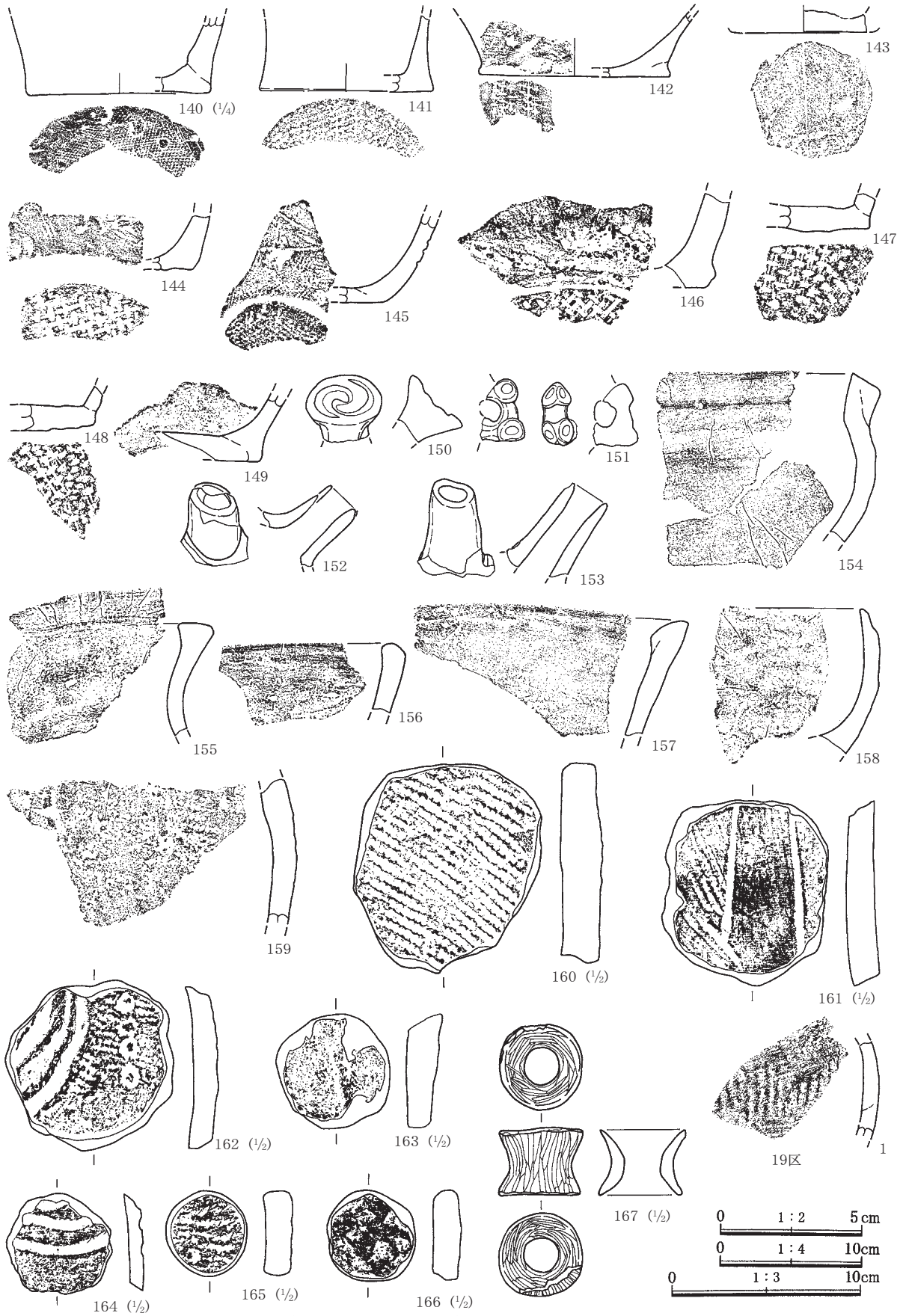
第483図 5区遺構外出土土器(3)



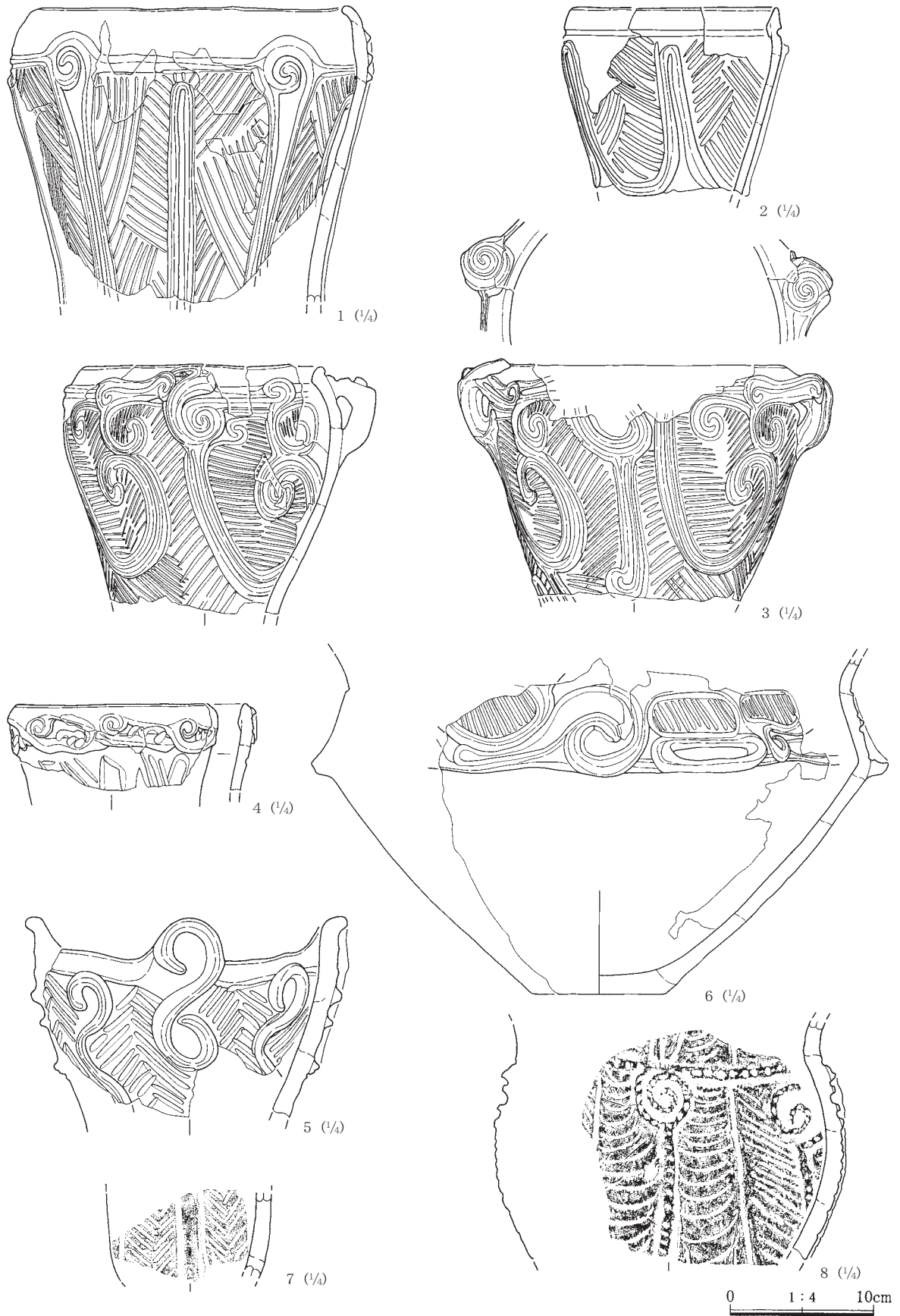
第484図 5区遺構外出土土器(4)



第485図 5区遺構外出土土器(5)

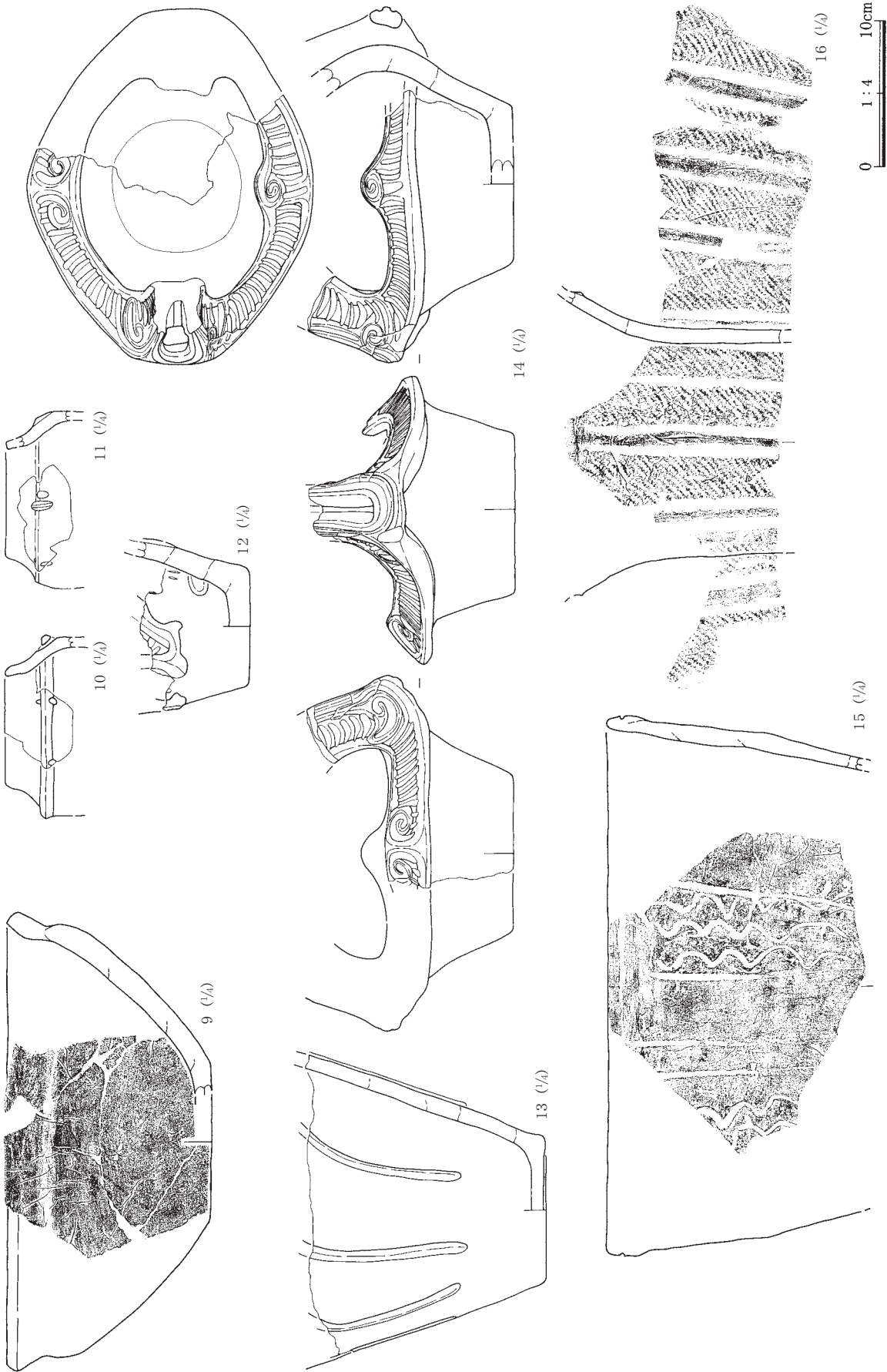


第486図 5・19区遺構外出土土器(6)

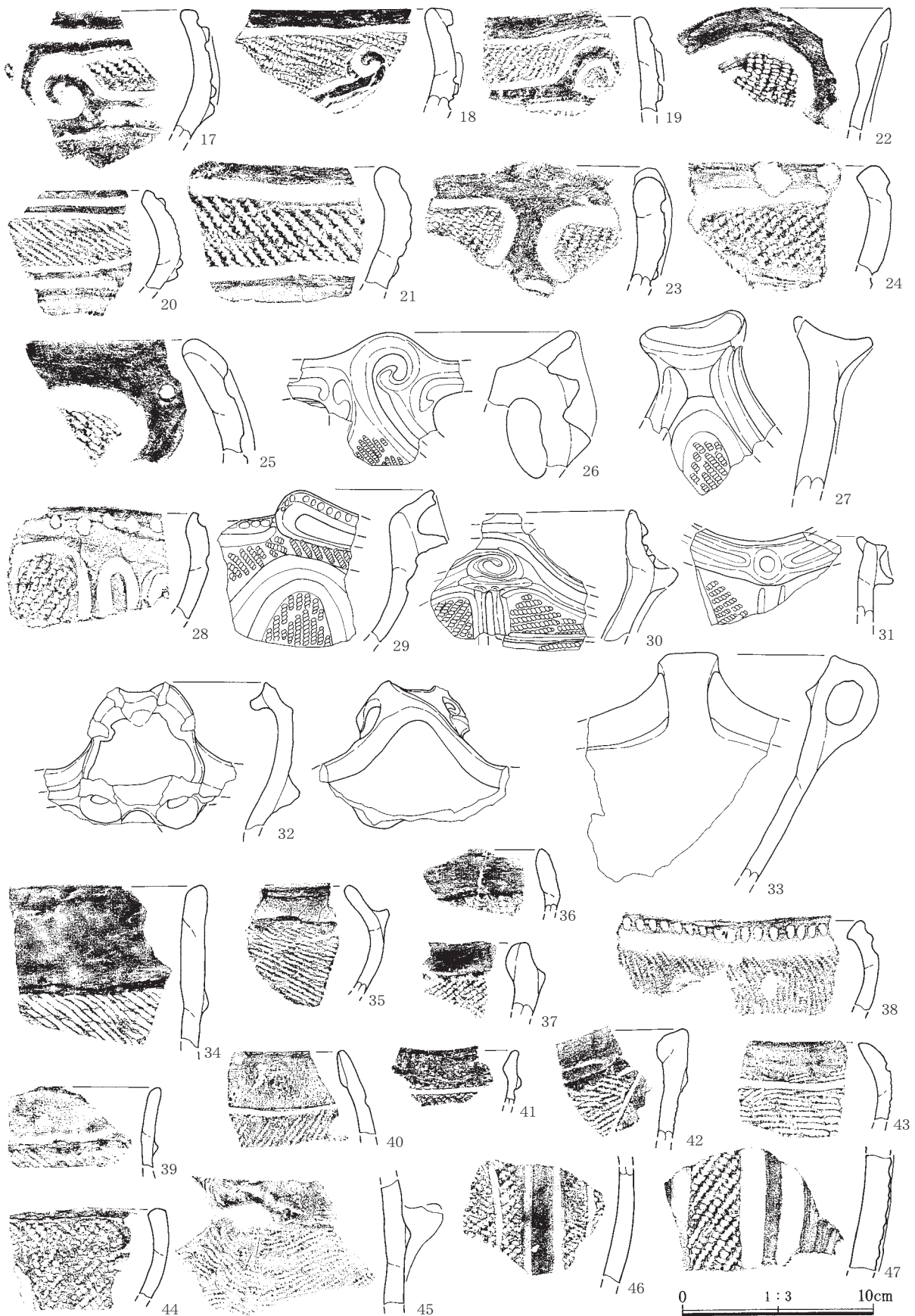


第487図 95区遺構外出土土器(1)

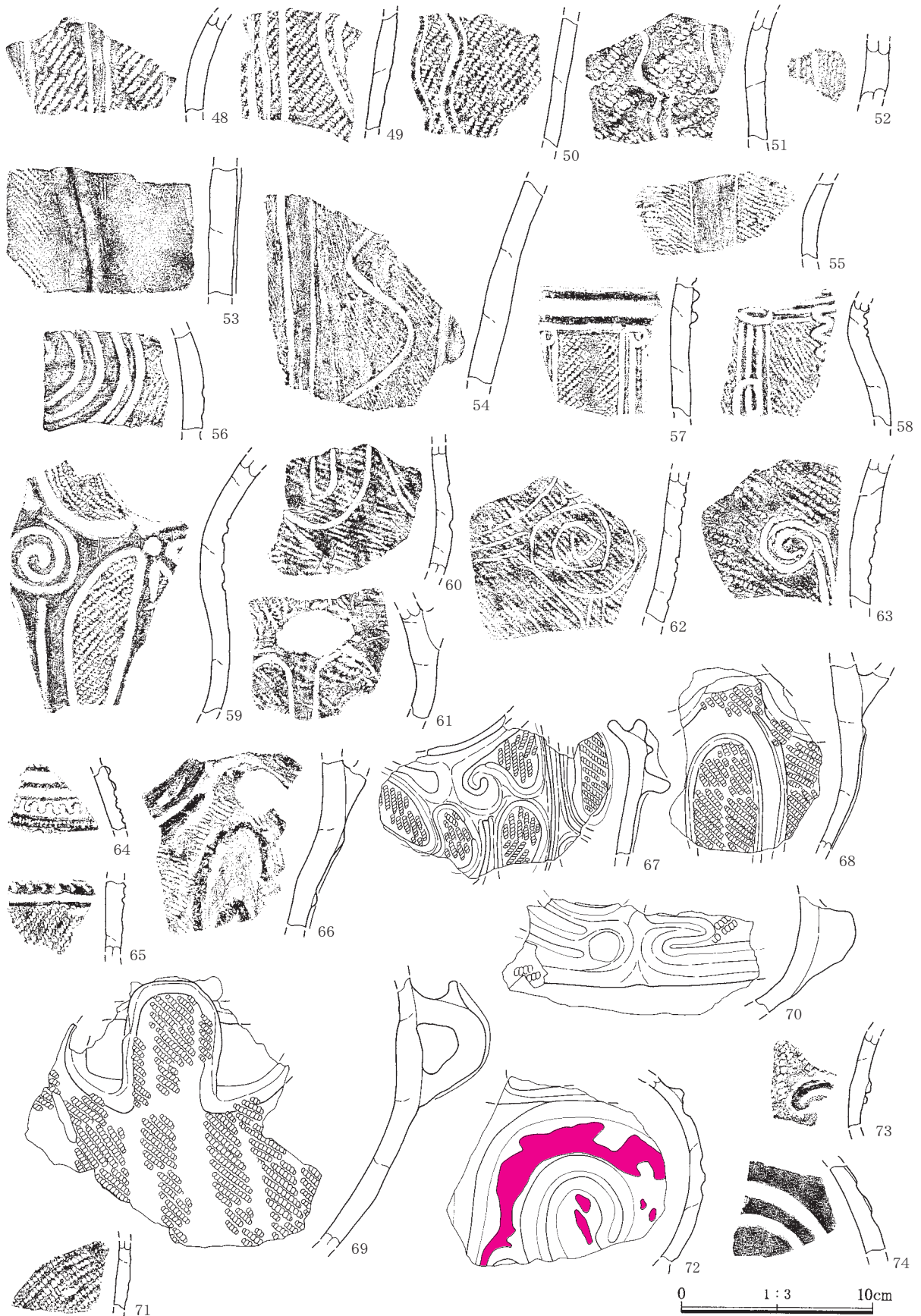




第488図 95区遺構外出土器(2)



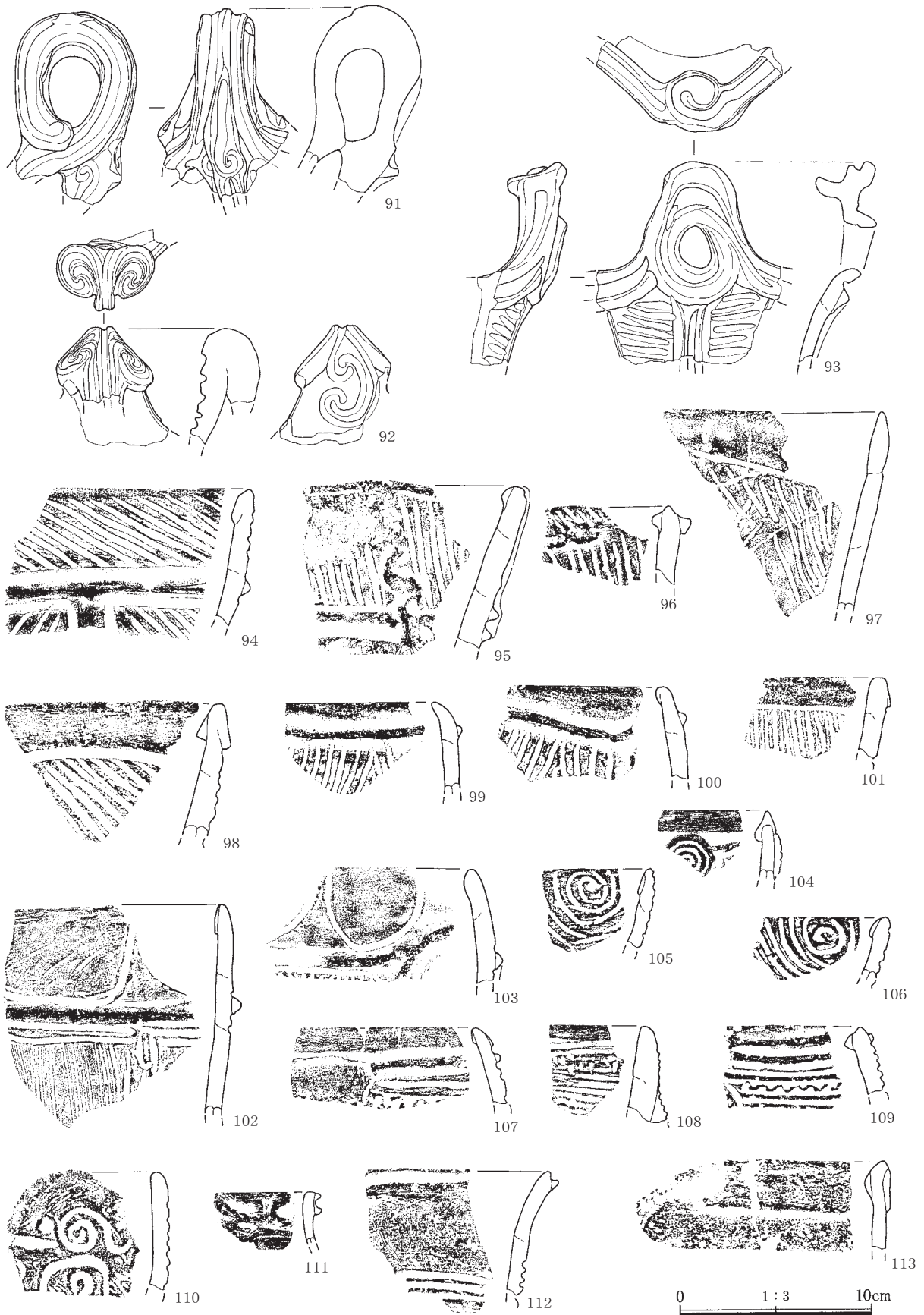
第489図 95区遺構外出土土器(3)



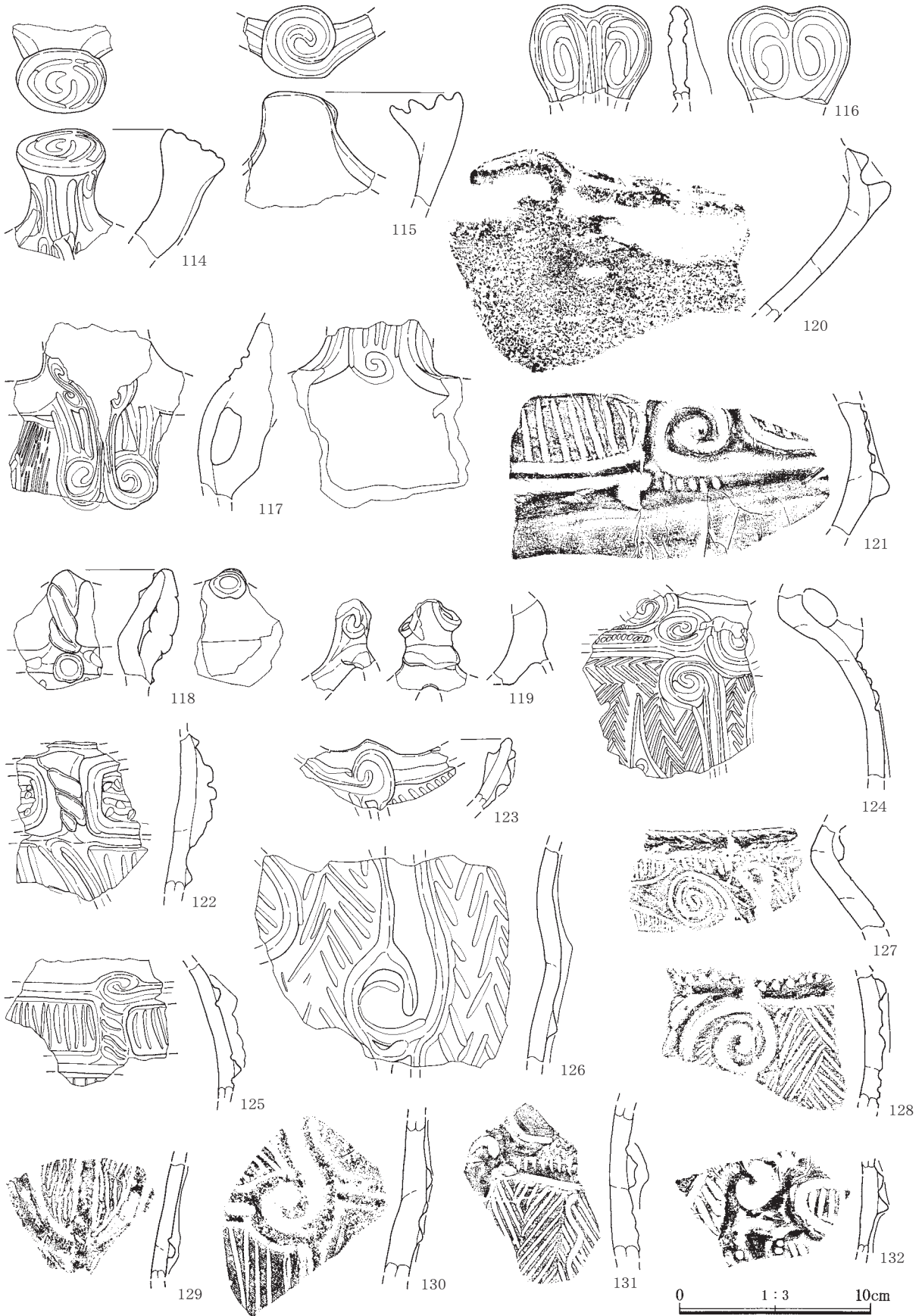
第490図 95区遺構外出土土器(4)



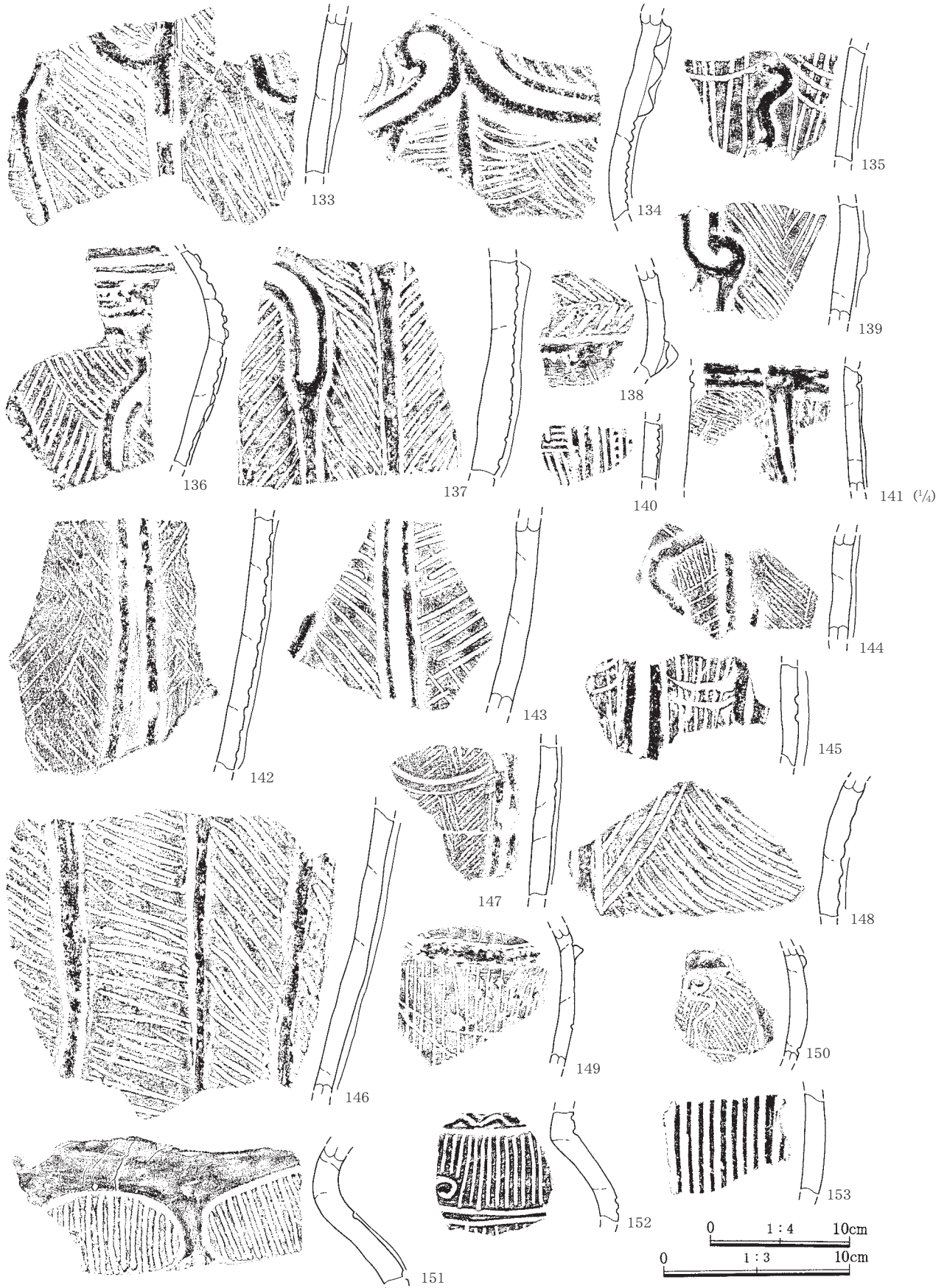
第491図 95区遺構外出土土器(5)



第492図 95区遺構外出土土器(6)

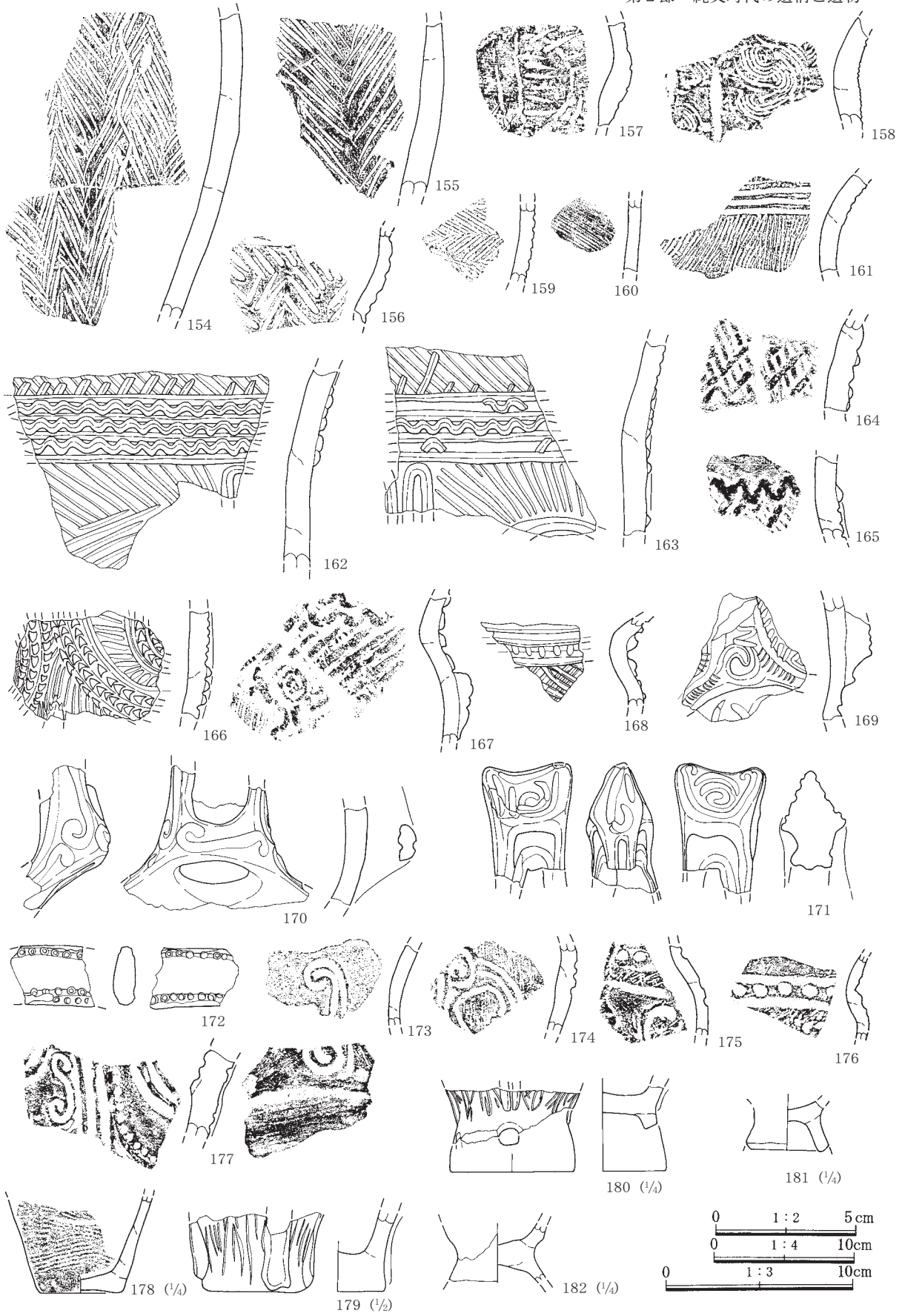


第493図 95区遺構外出土土器(7)



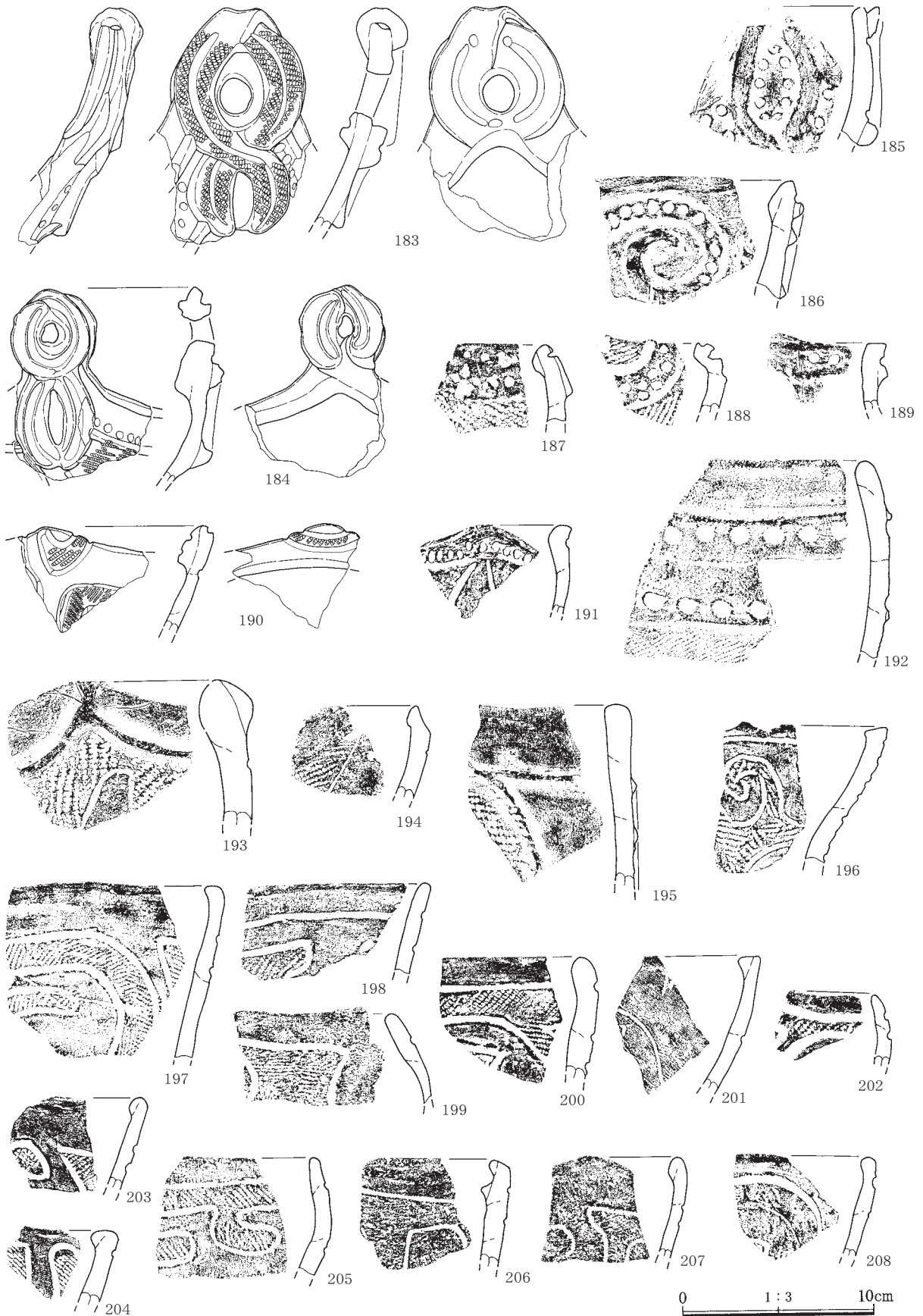
第494図 95区遺構外出土土器(8)

第2節 縄文時代の遺構と遺物

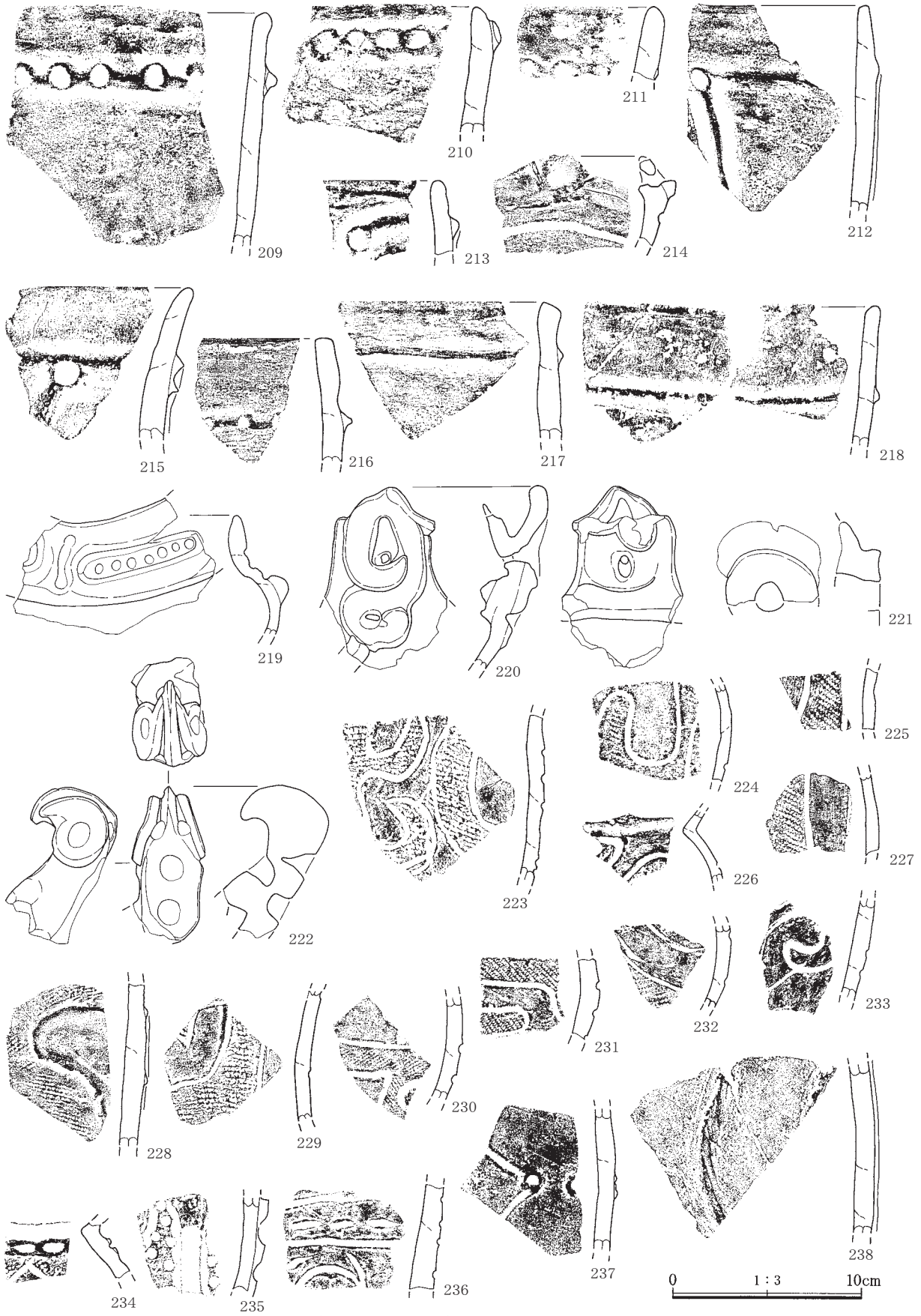


第495図 95区遺構外出土土器(9)





第496図 95区遺構外出土土器(10)



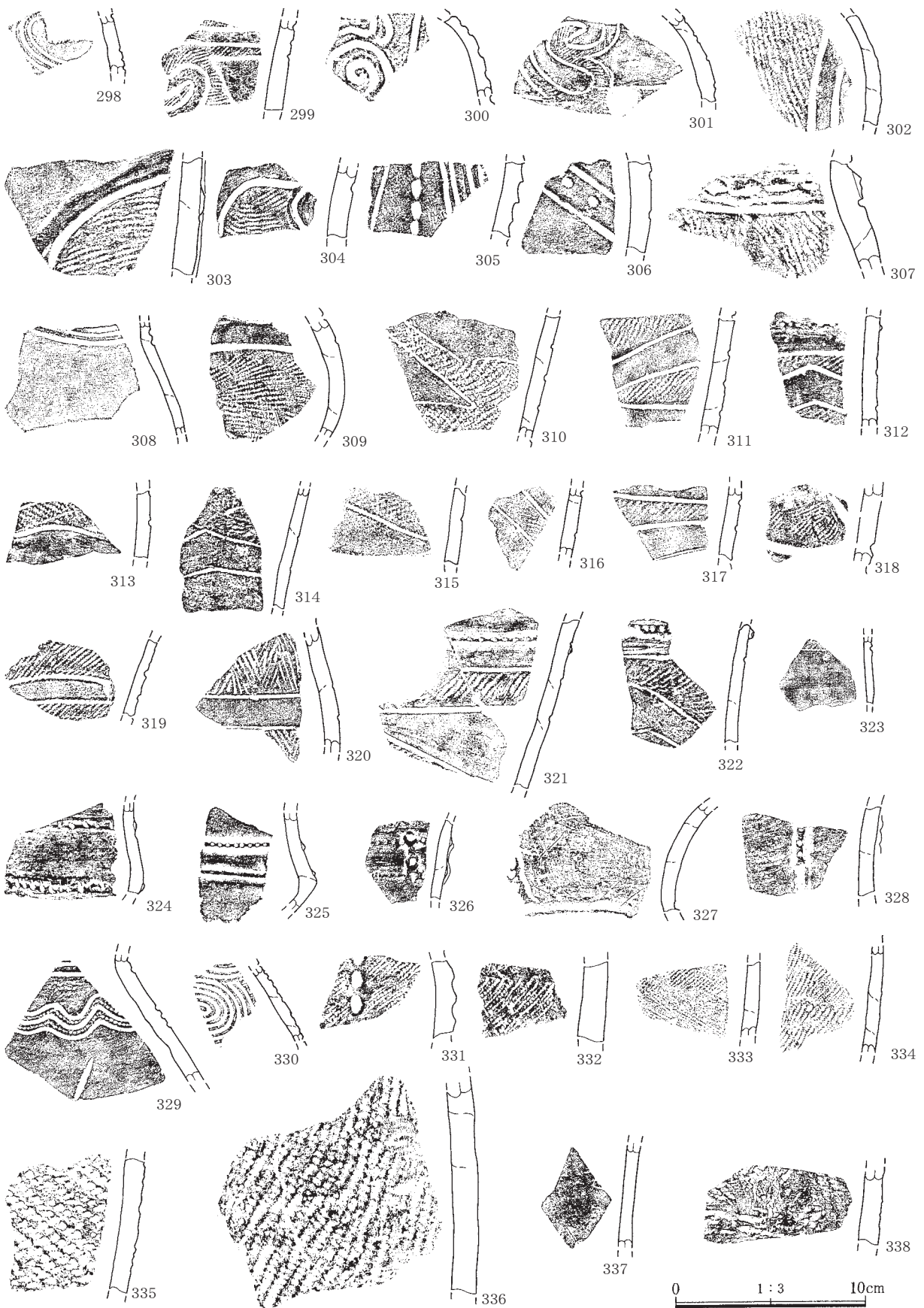
第497図 95区遺構外出土土器(II)



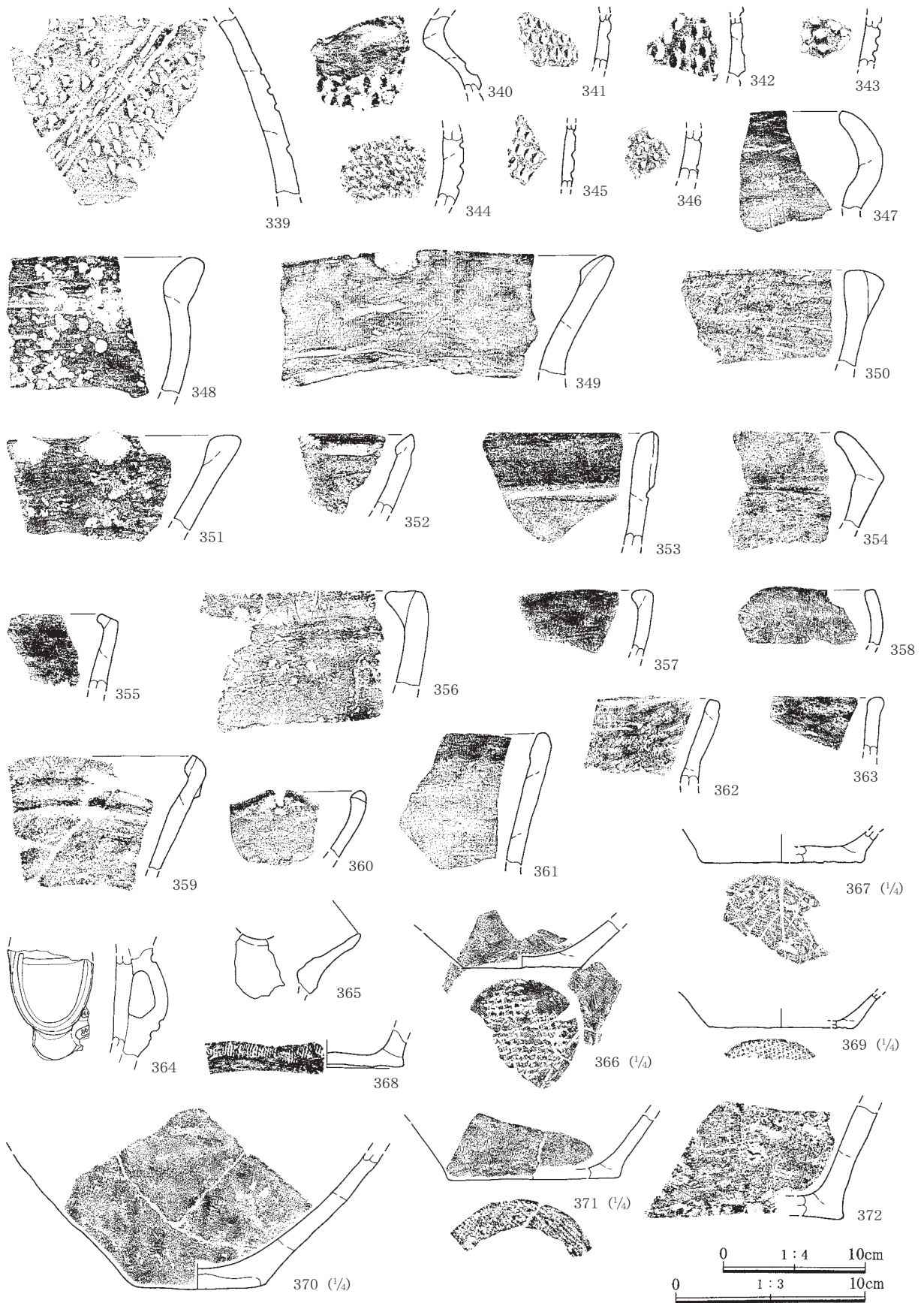
第498図 95区遺構外出土土器(12)



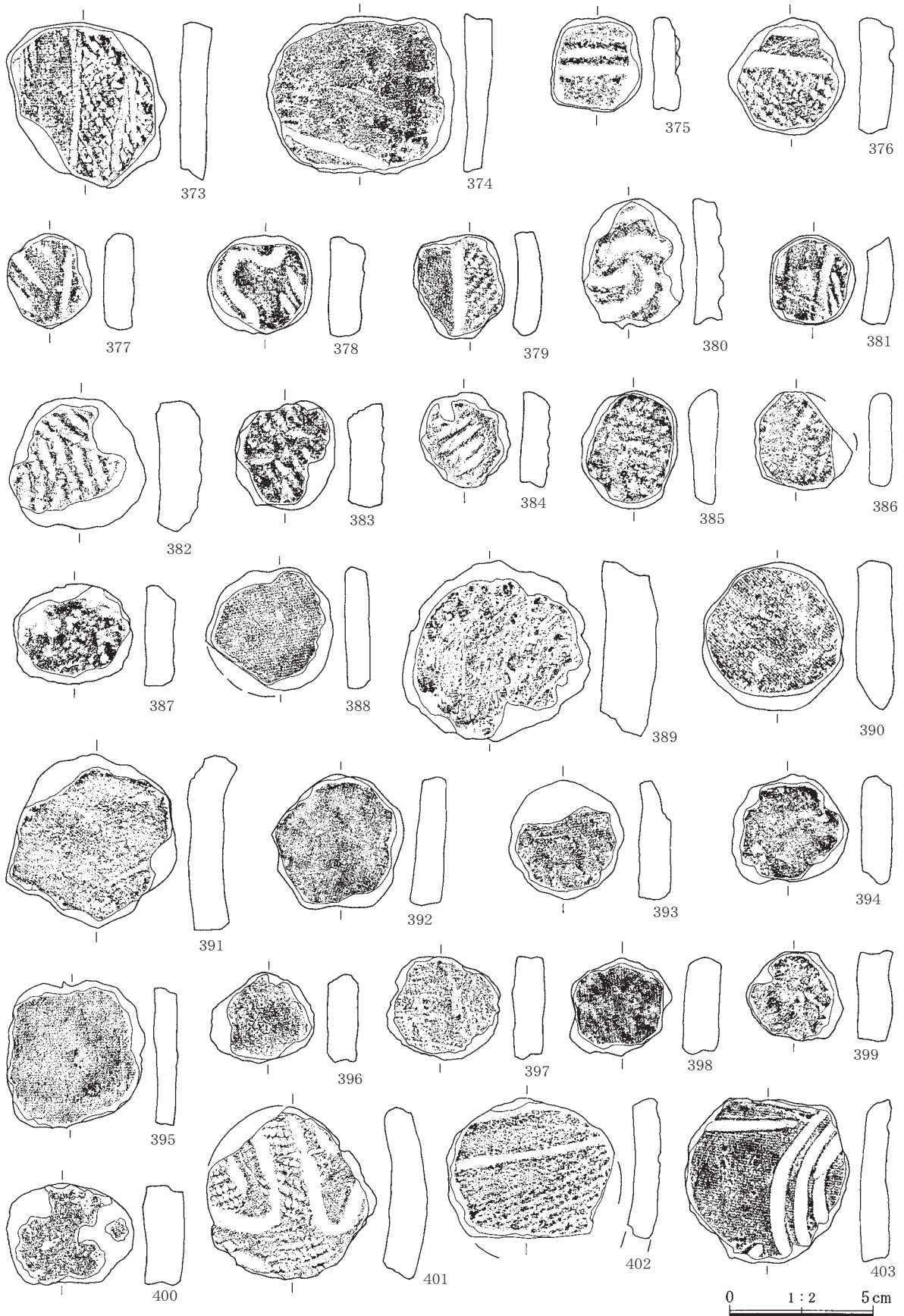
第499図 95区遺構外出土土器(13)



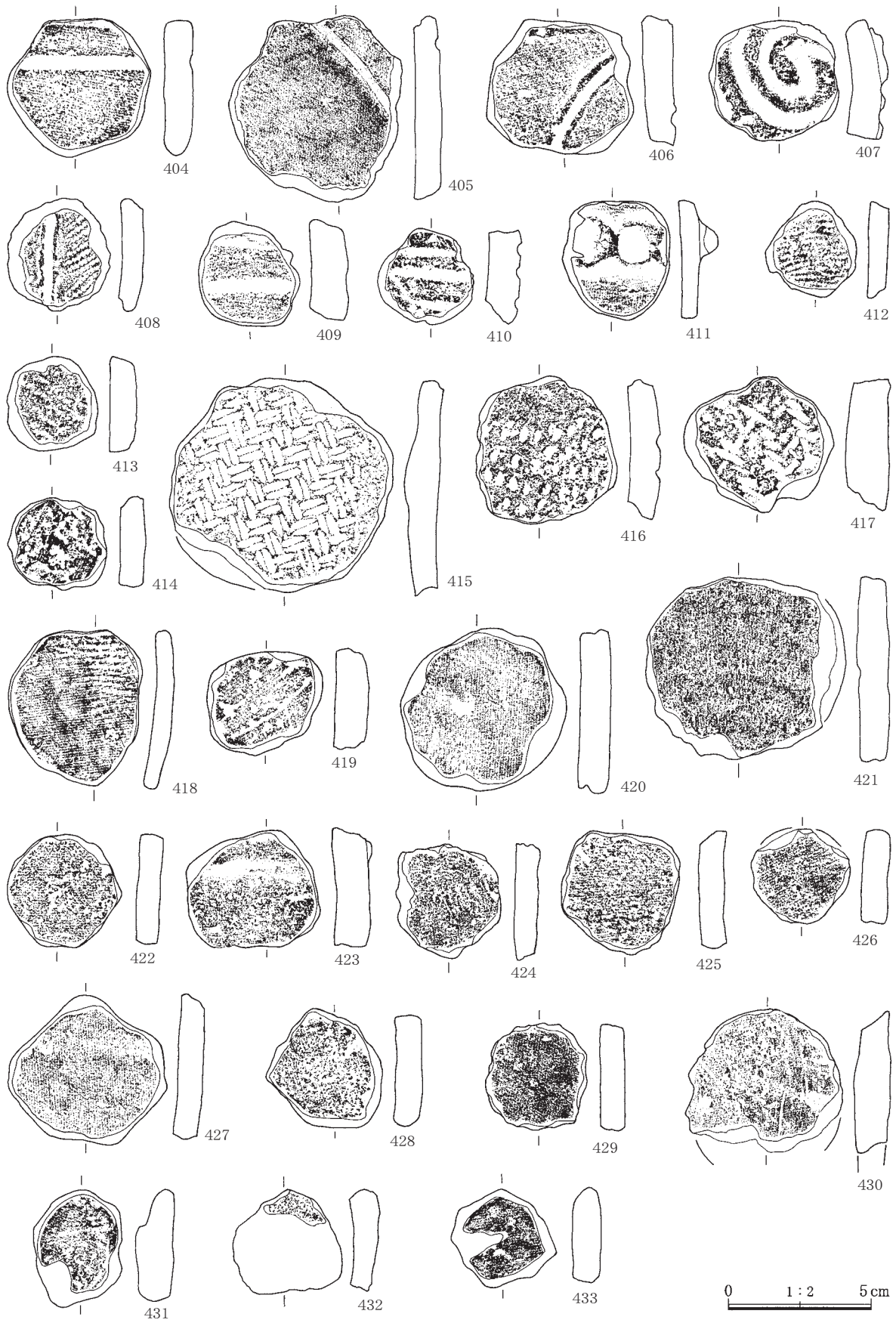
第500図 95区遺構外出土土器(14)



第501図 95区遺構外出土土器(15)

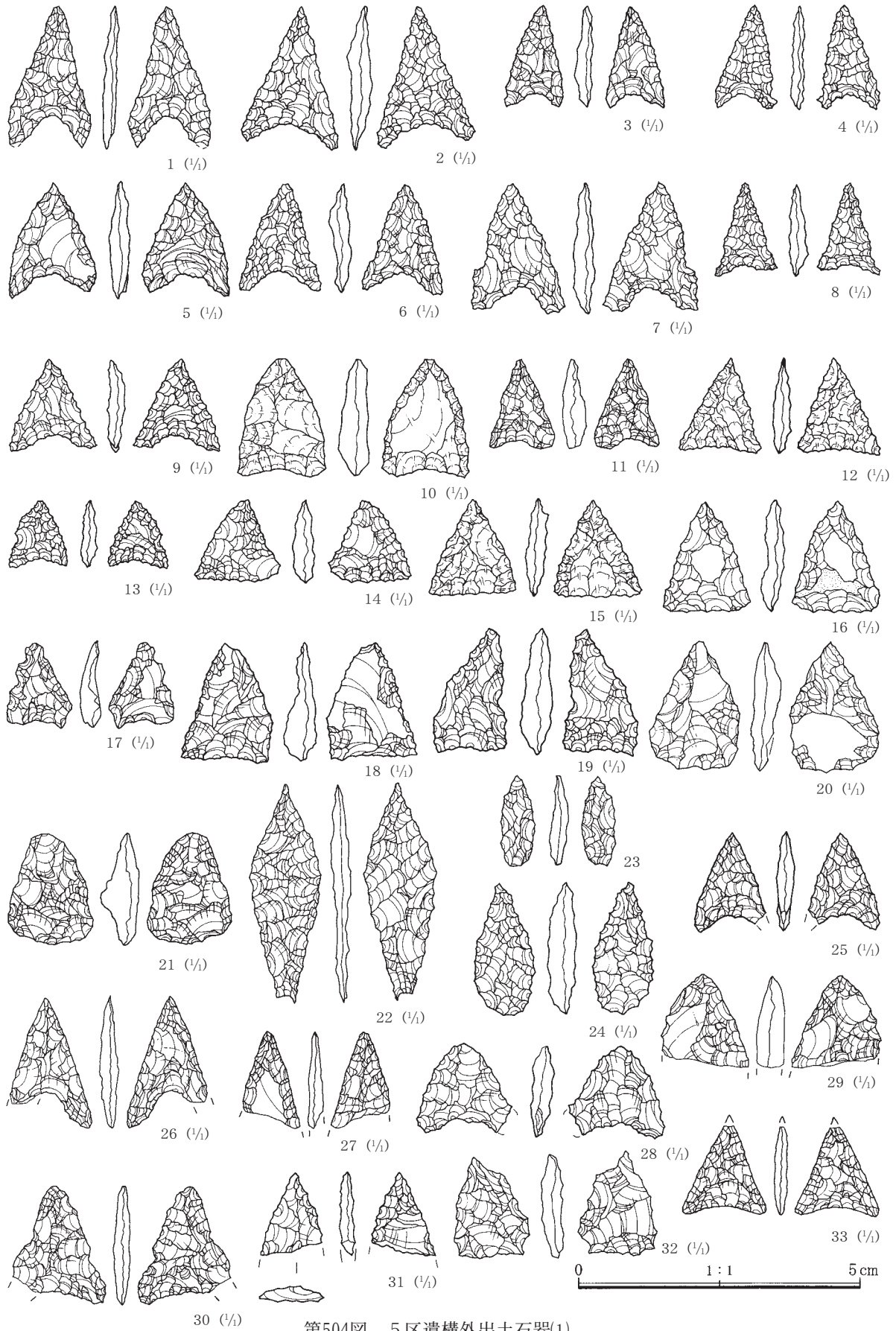


第502図 95区遺構外出土土器(16)

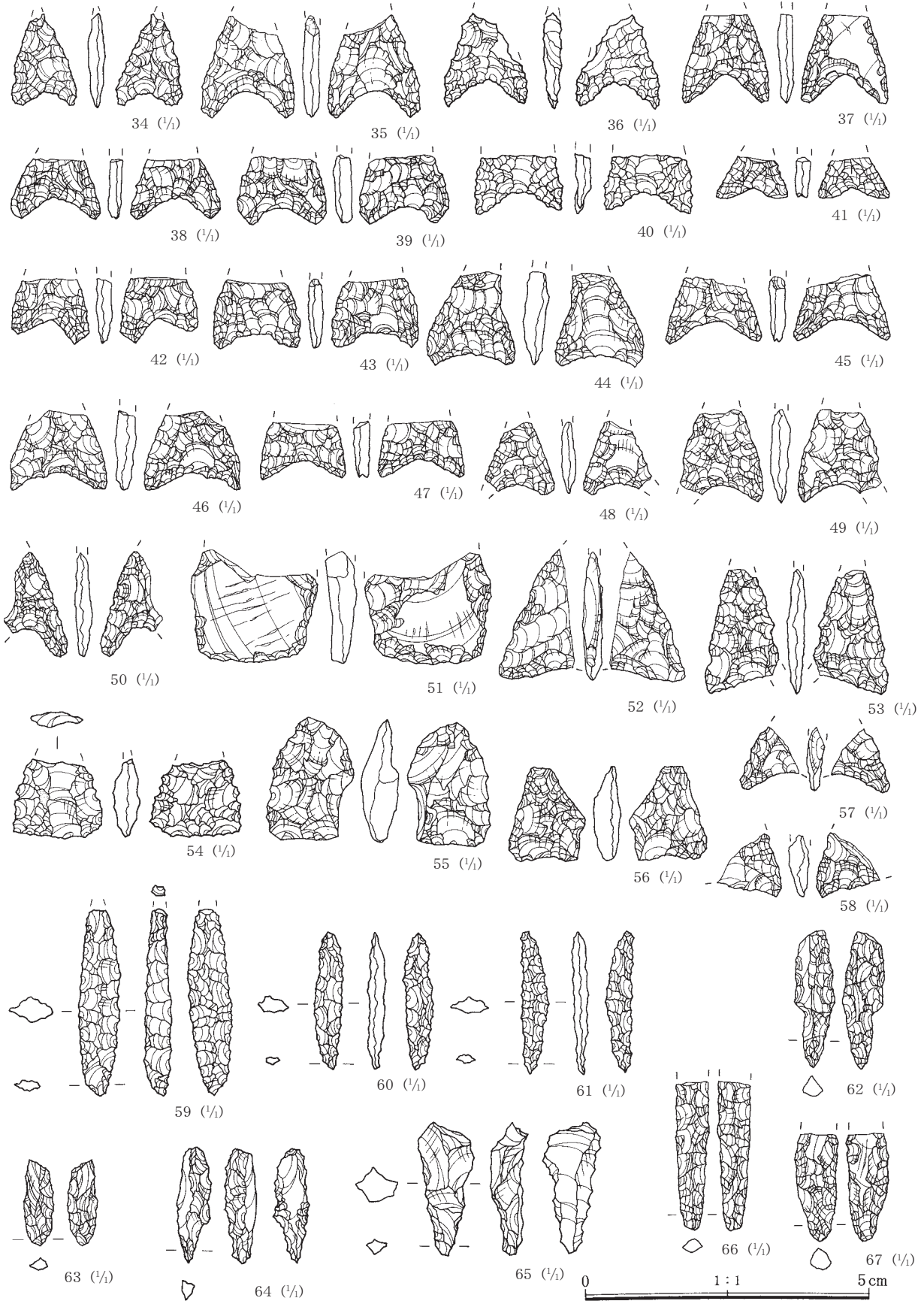


第503図 95区遺構外出土土器(17)

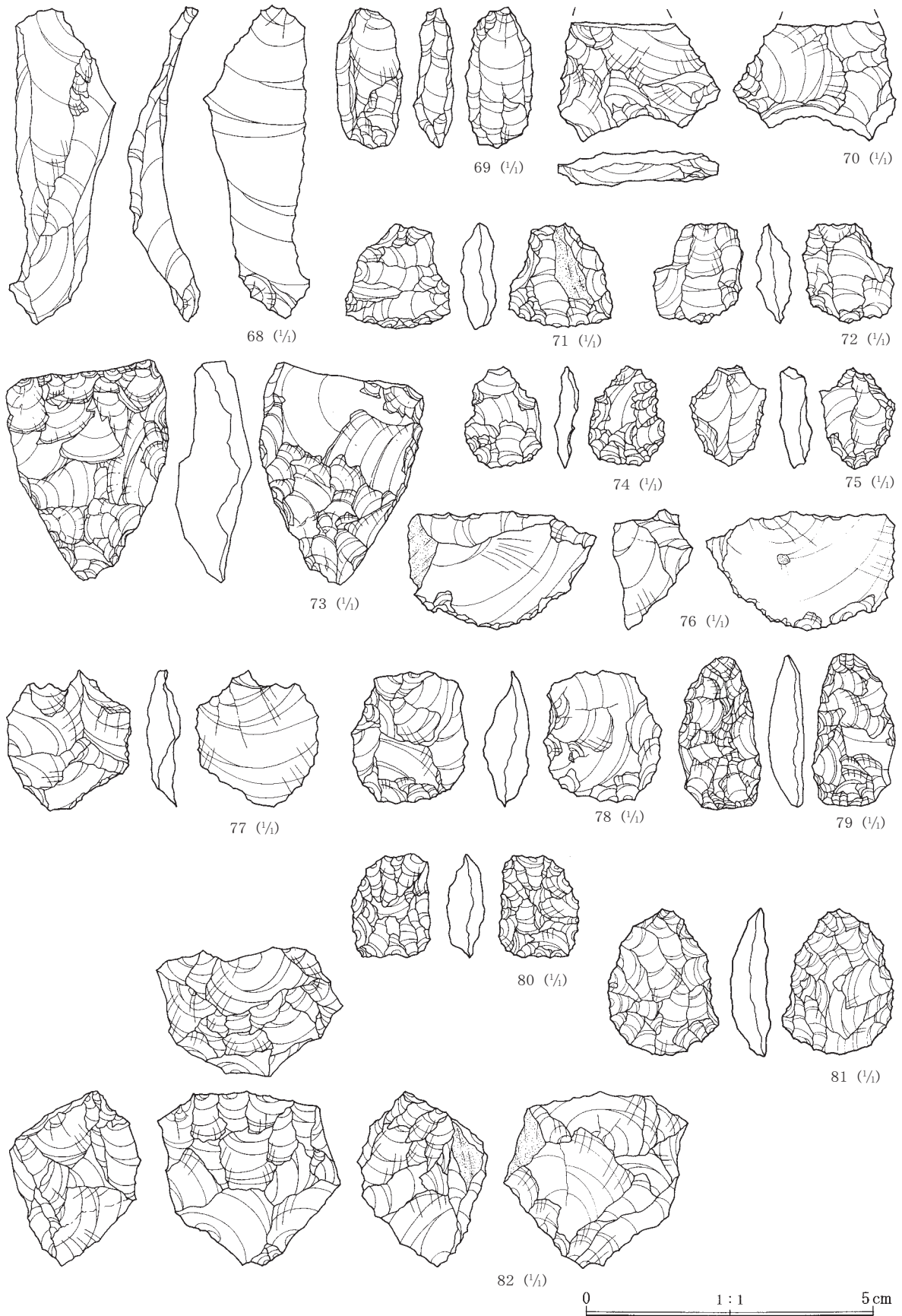




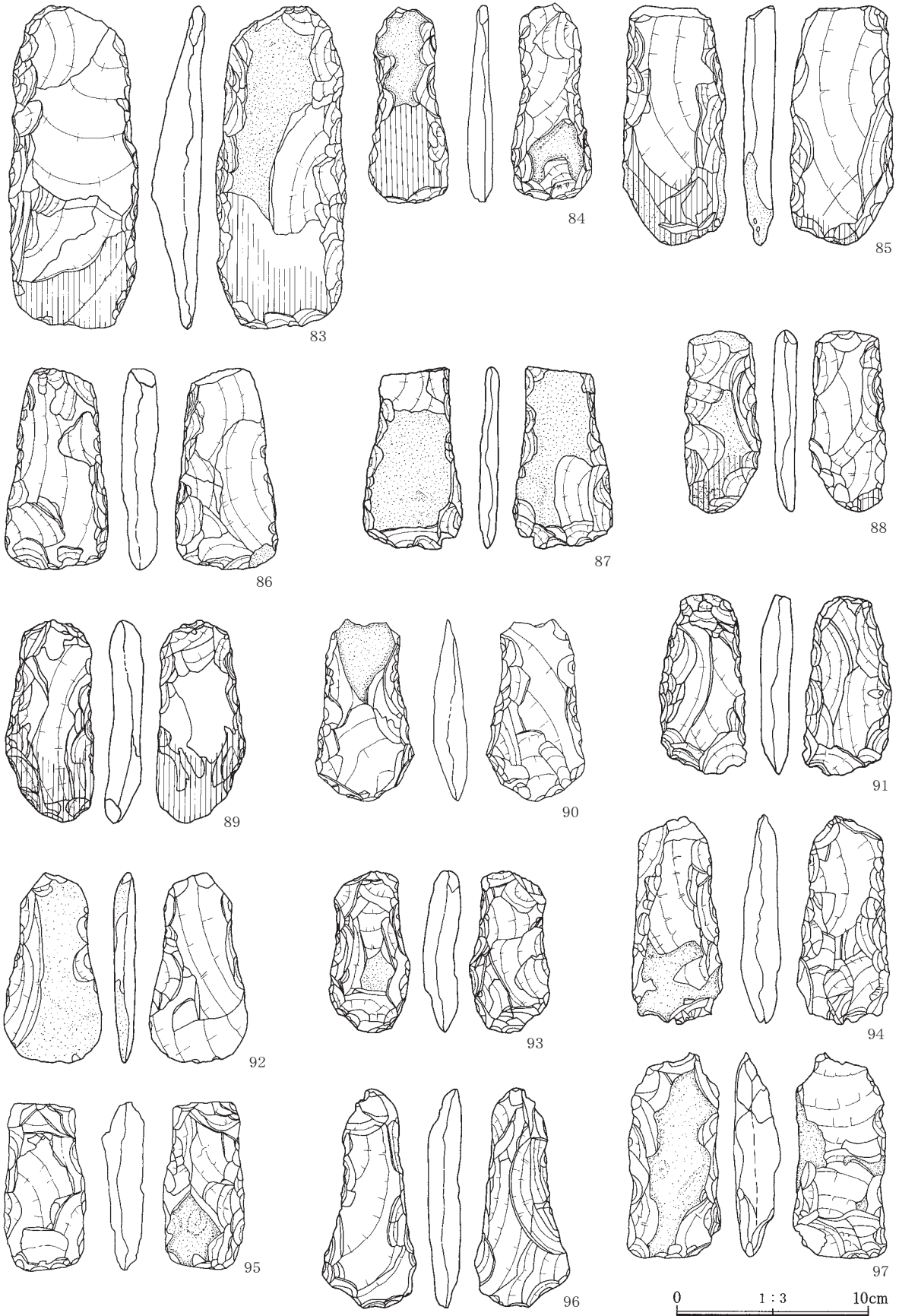
第504図 5区遺構外出土石器(1)



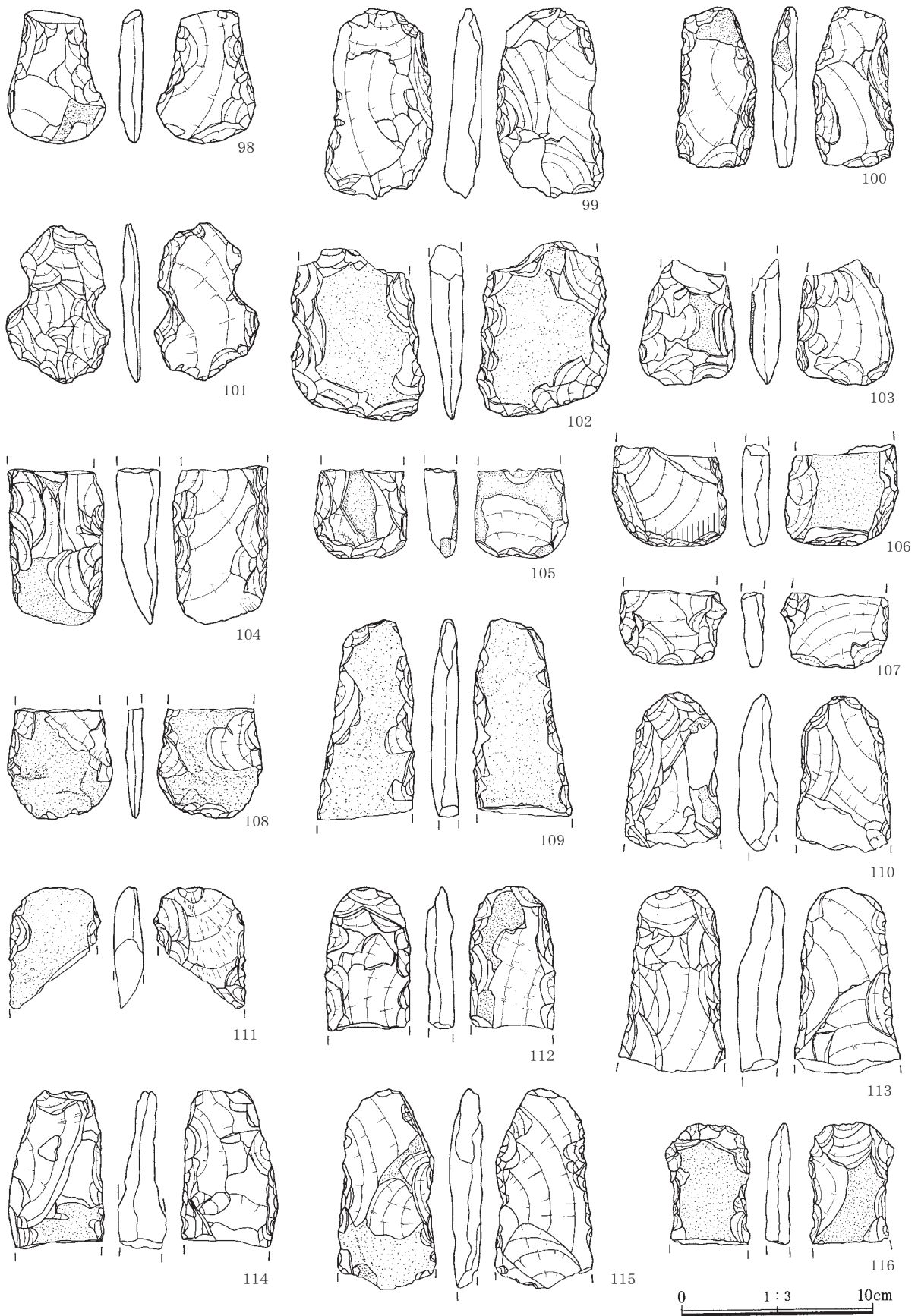
第505図 5区遺構外出土石器(2)



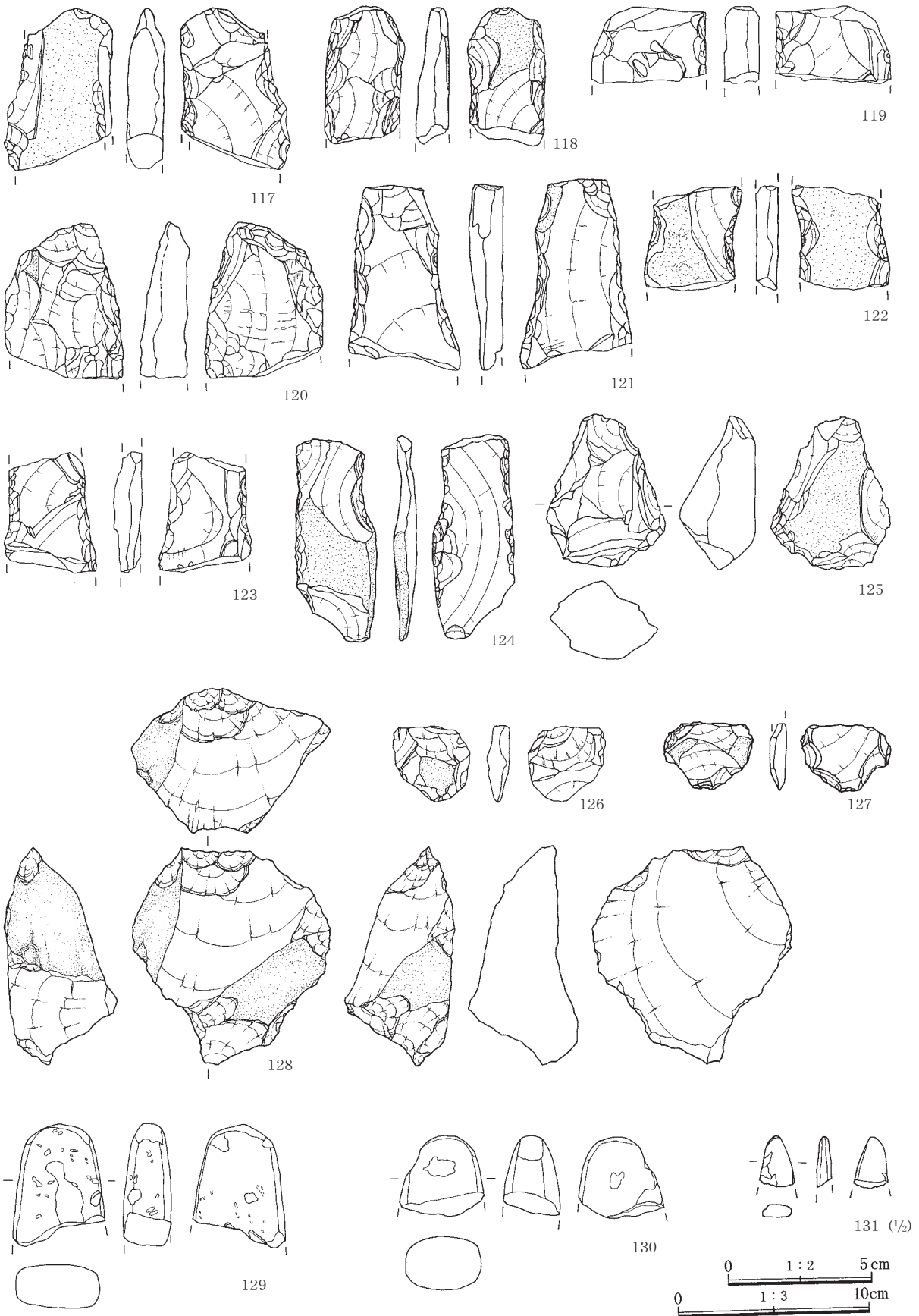
第506図 5区遺構外出土石器(3)



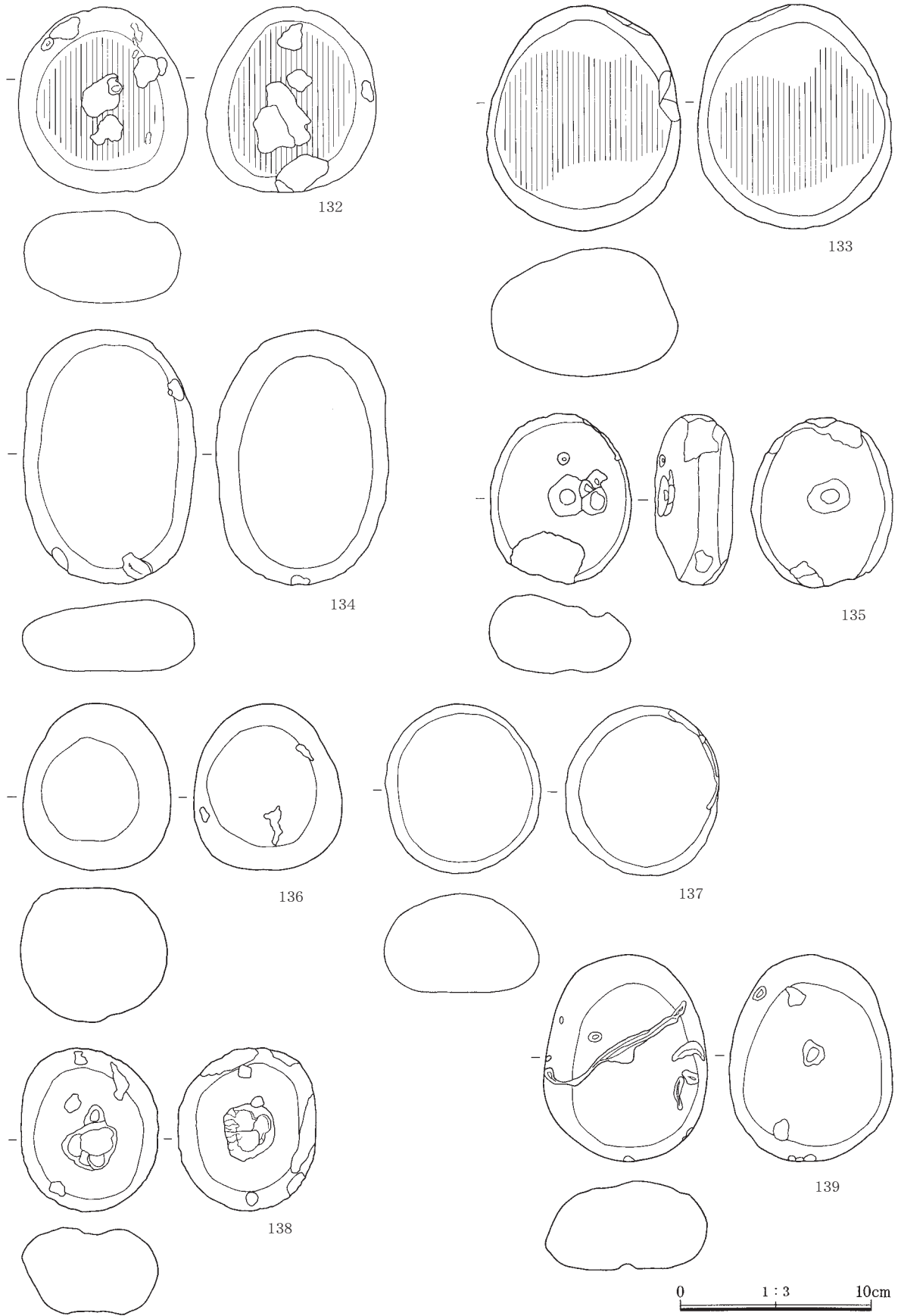
第507図 5区遺構外出土石器(4)



第508図 5区遺構外出土石器(5)



第509図 5区遺構外出土石器(6)



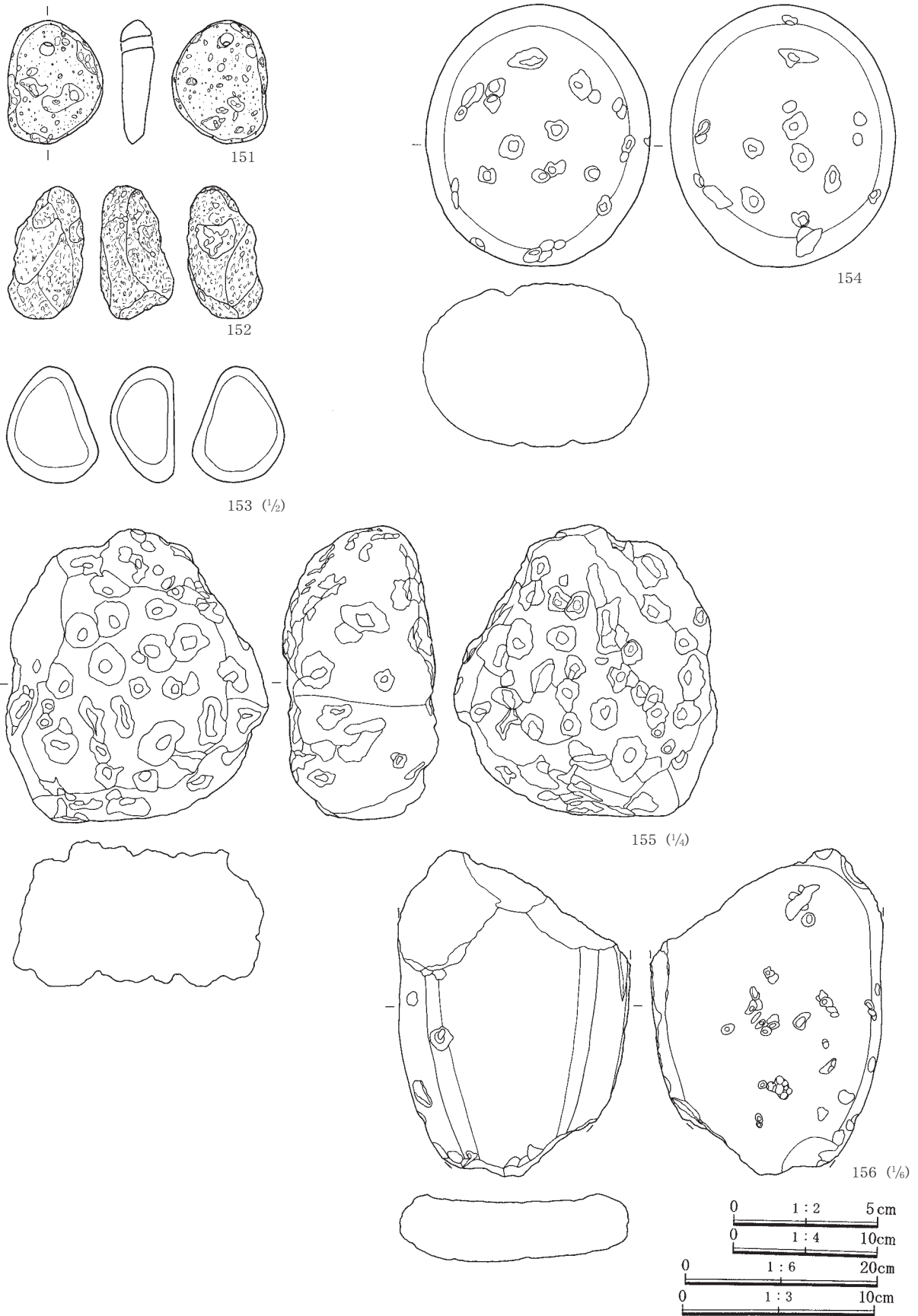
第510図 5区遺構外出土石器(7)



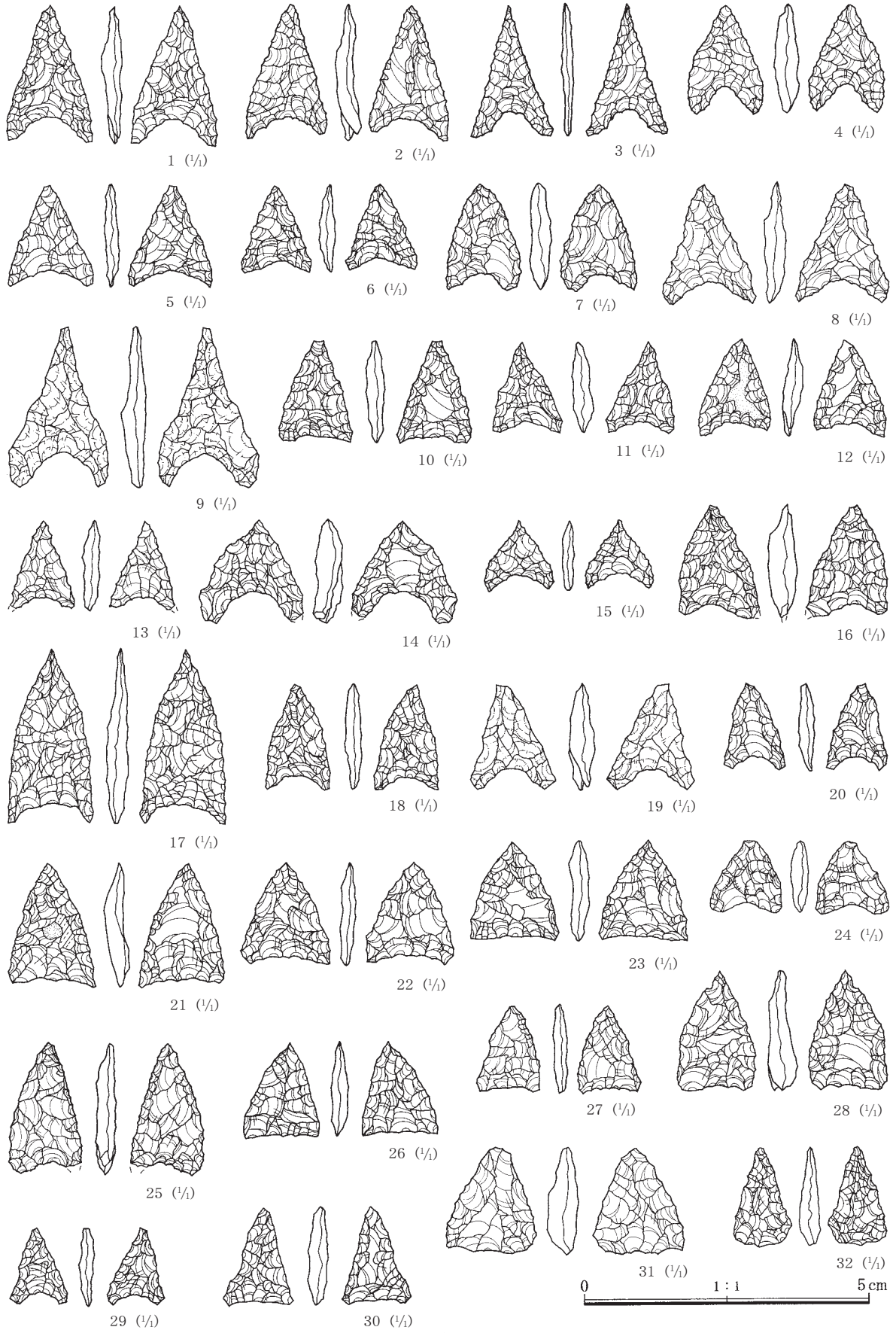
第511図 5区遺構外出土石器(8)



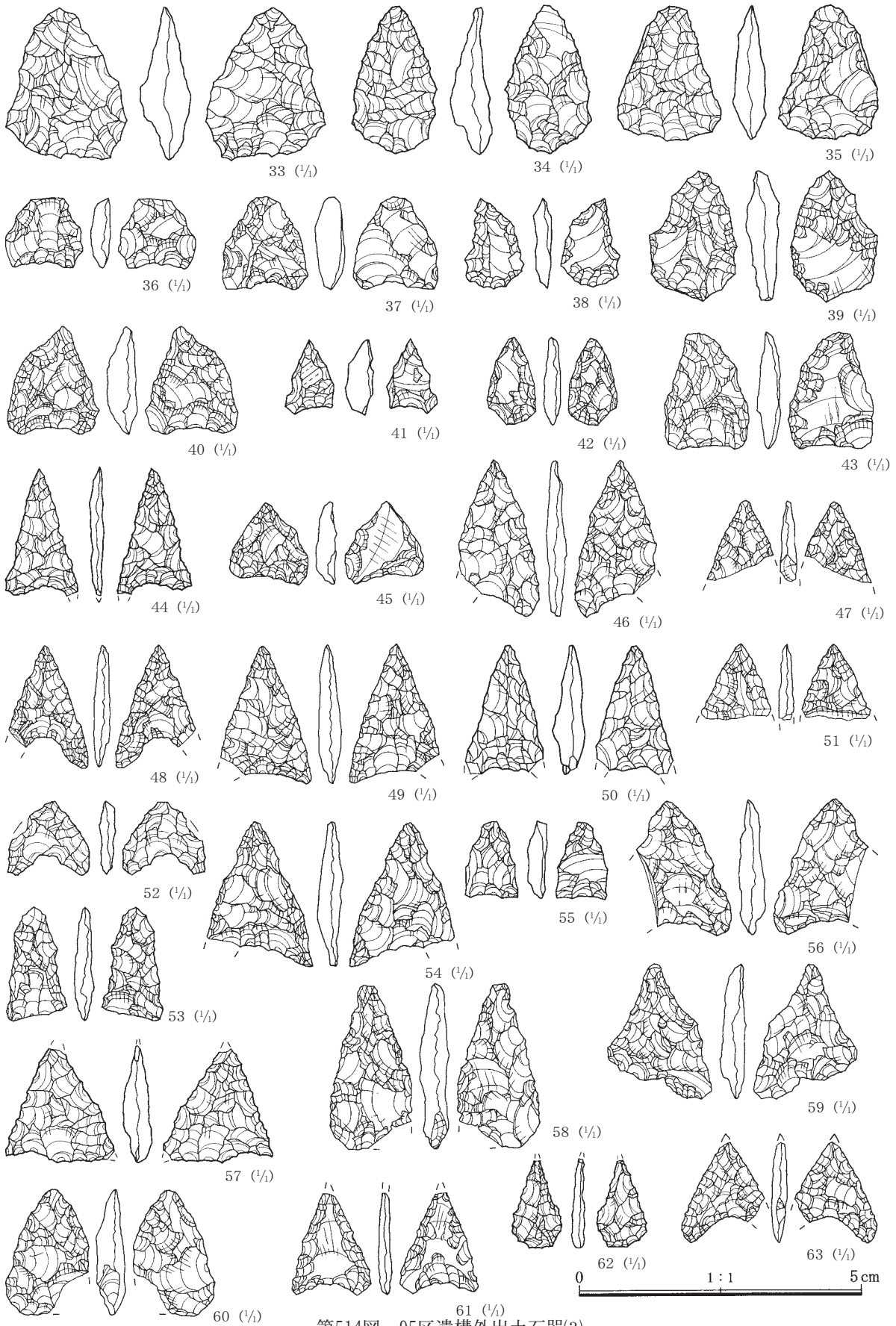
第3章 検出された遺構と遺物



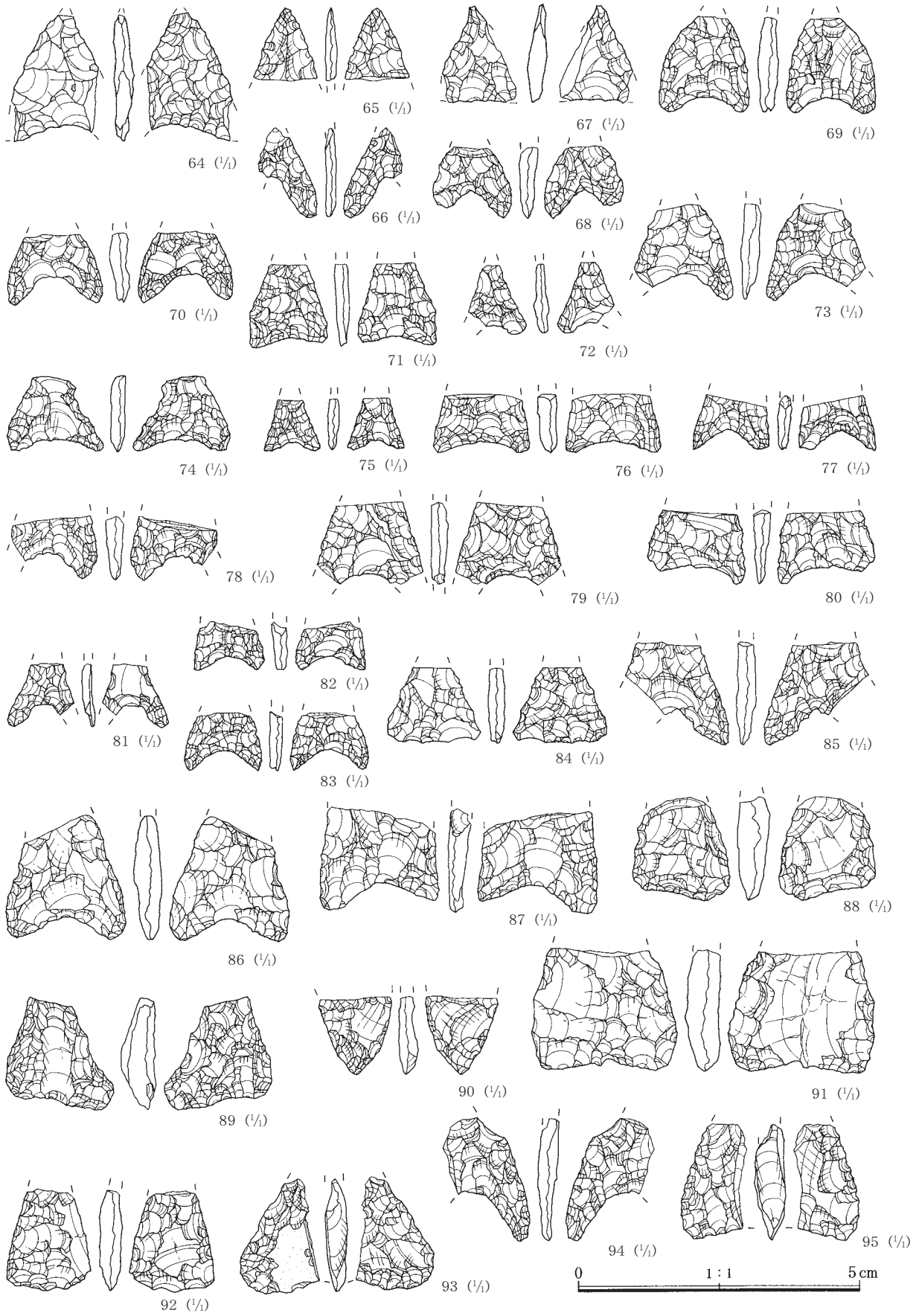
第512図 5区遺構外出土石器(9)



第513図 95区遺構外出土石器(1)

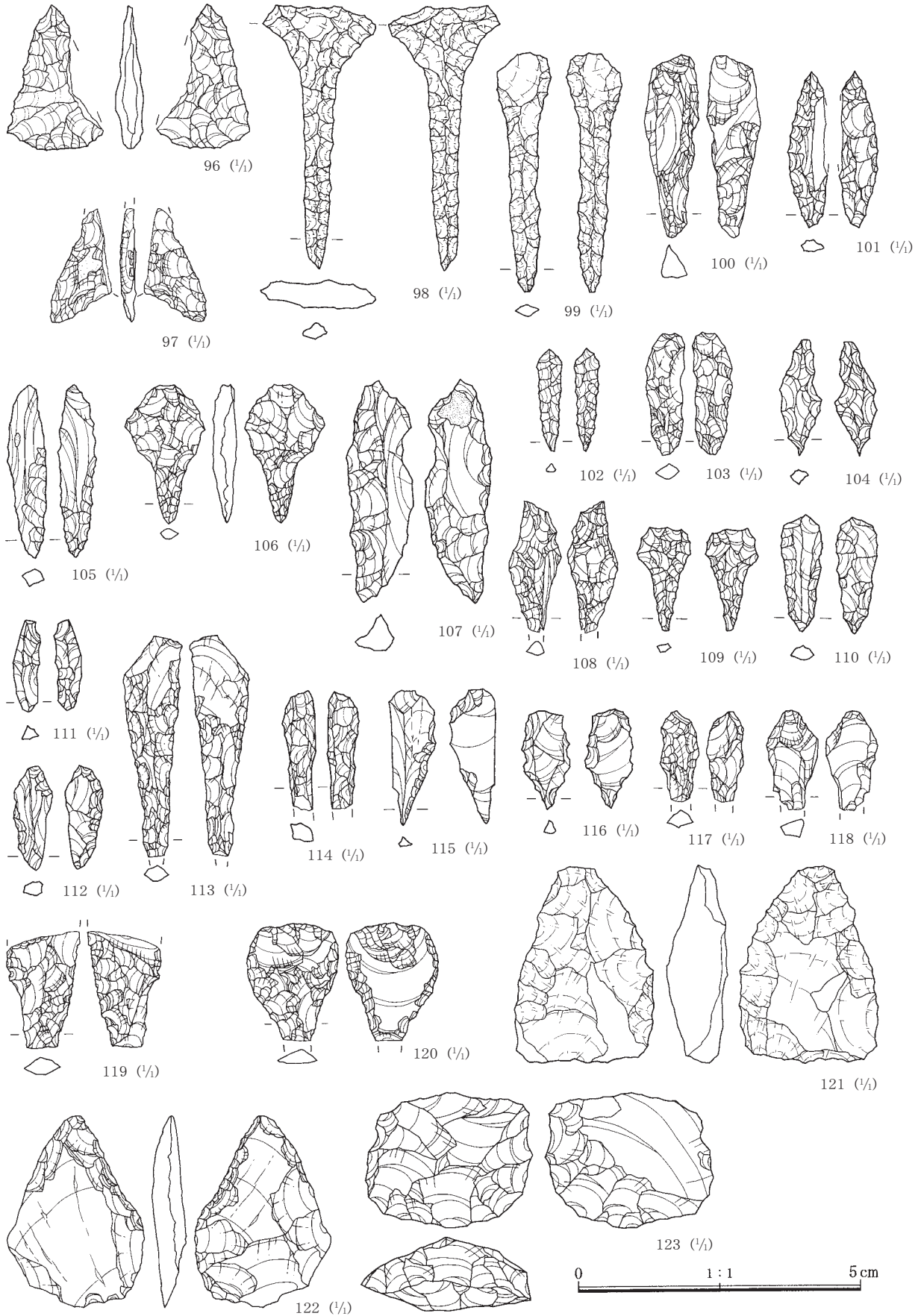


第514図 95区遺構外出土石器(2)

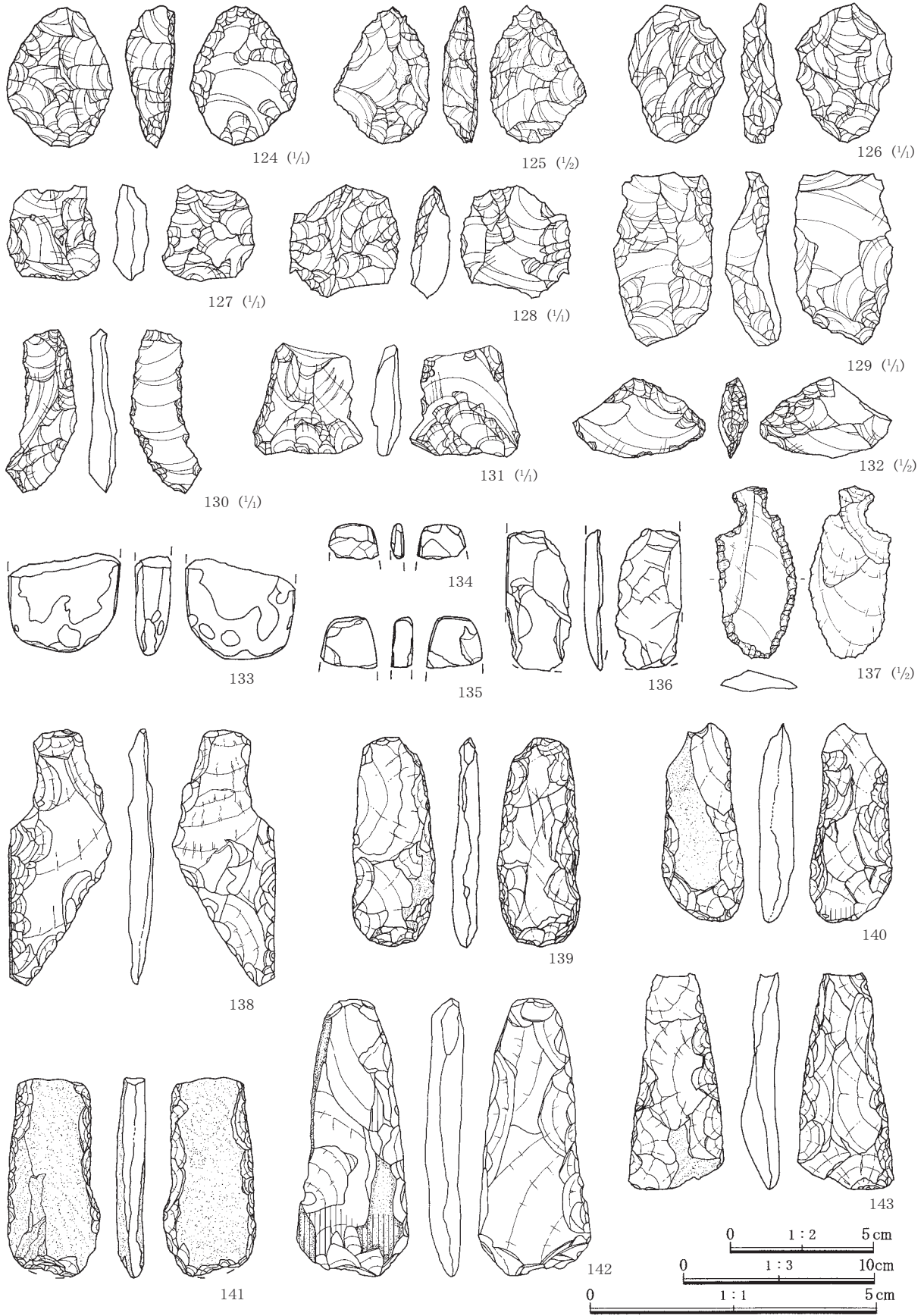


第515図 95区遺構外出土石器(3)

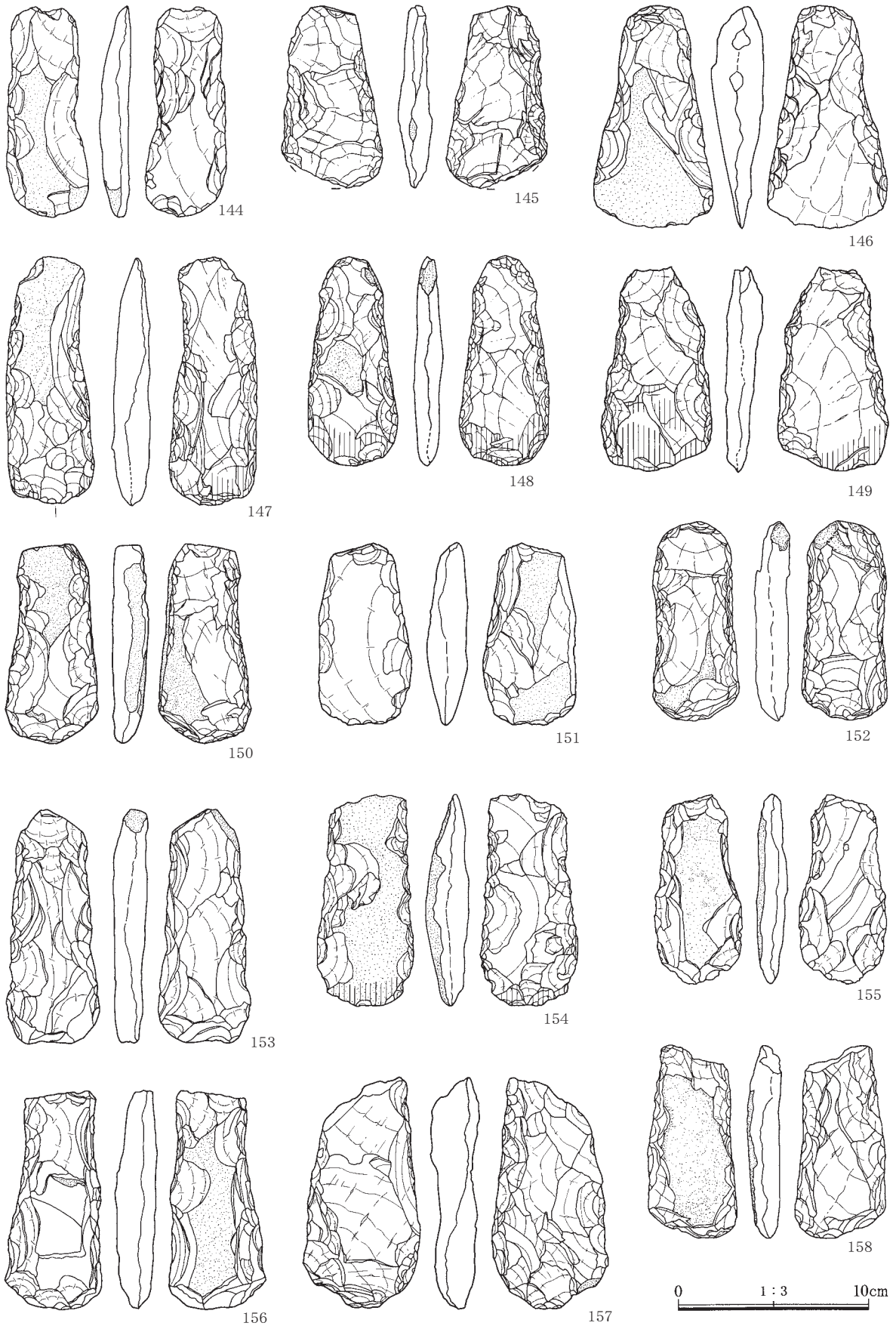
第3章 検出された遺構と遺物



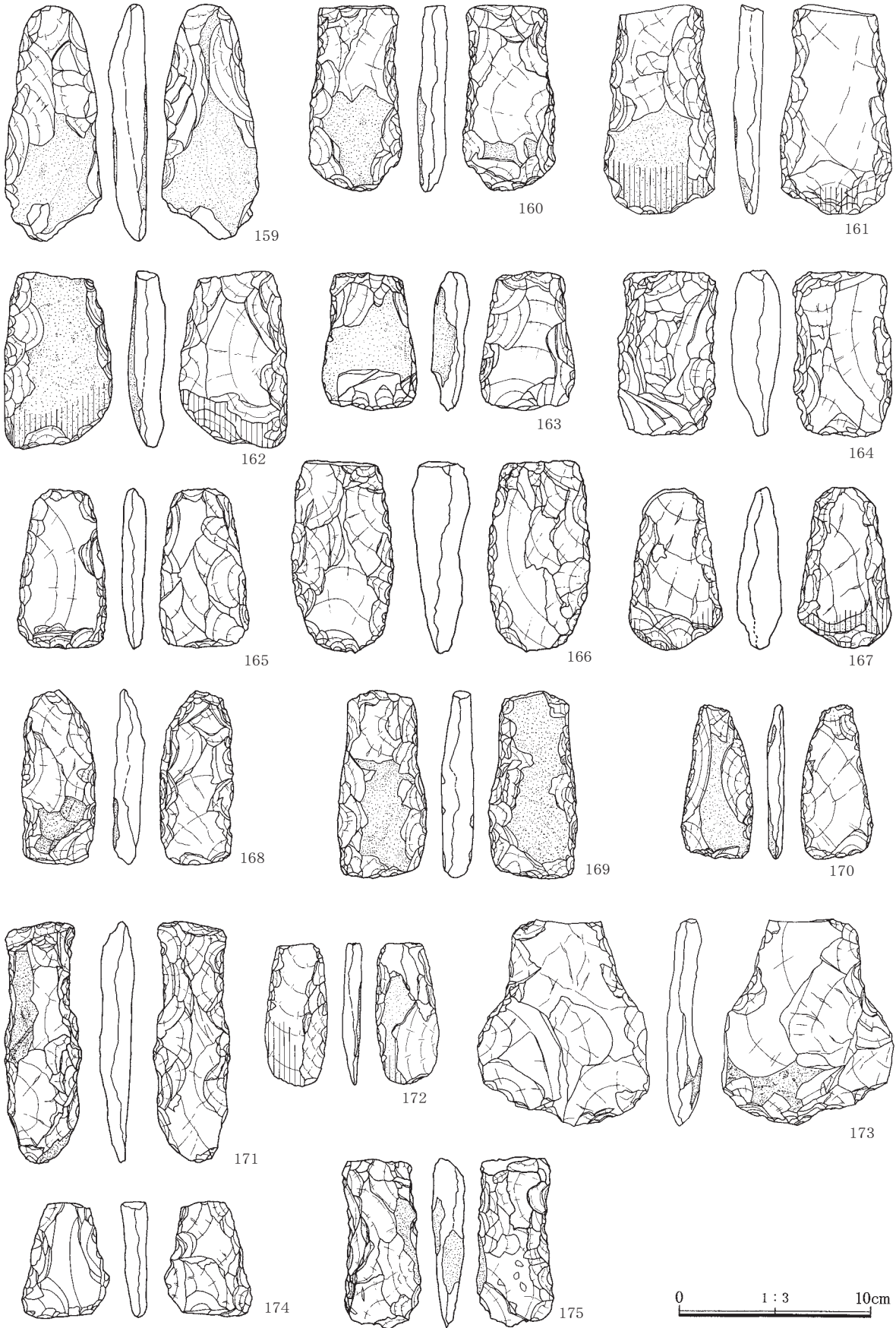
第516図 95区遺構外出土石器(4)



第517図 95区遺構外出土石器(5)

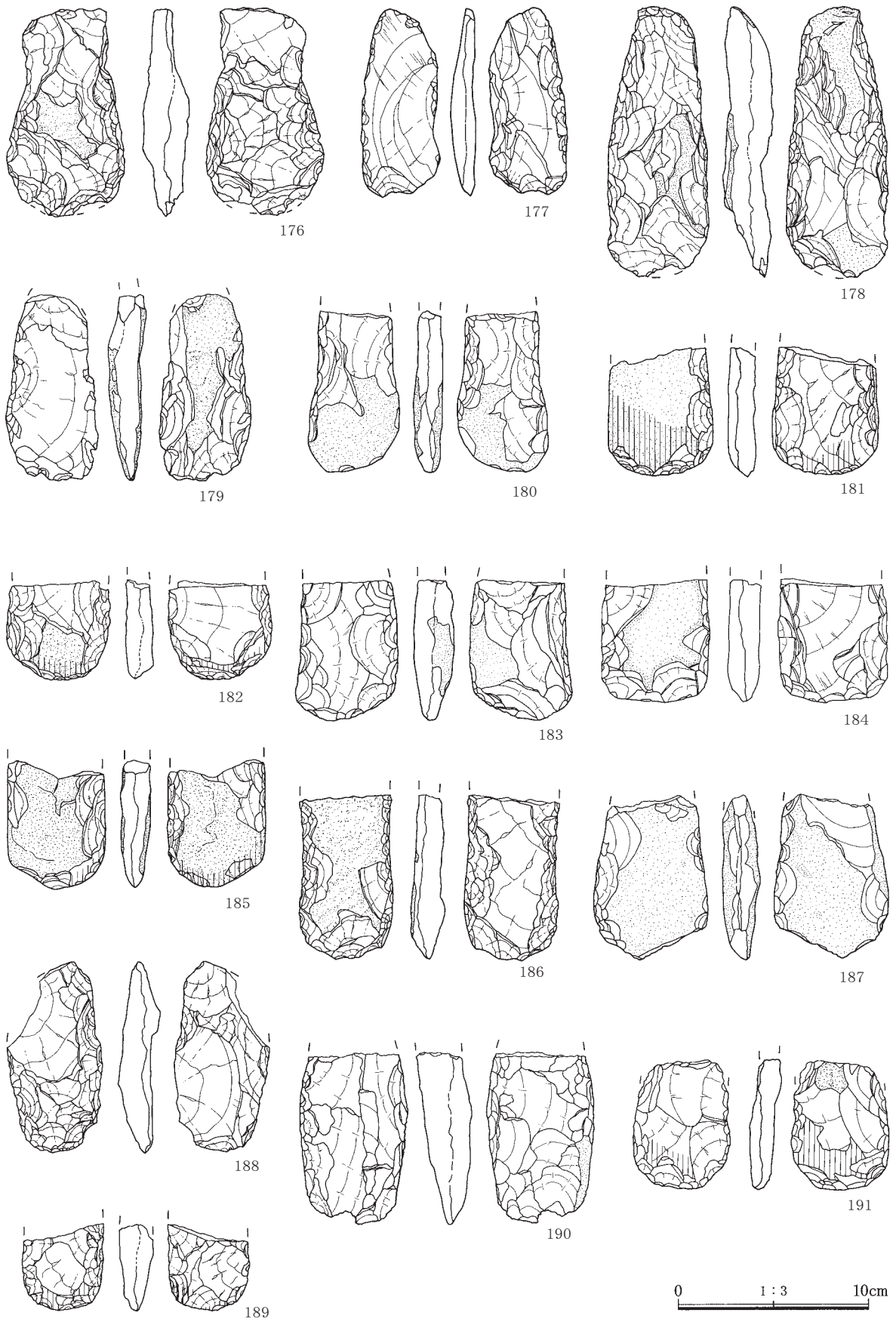


第518図 95区遺構外出土石器(6)

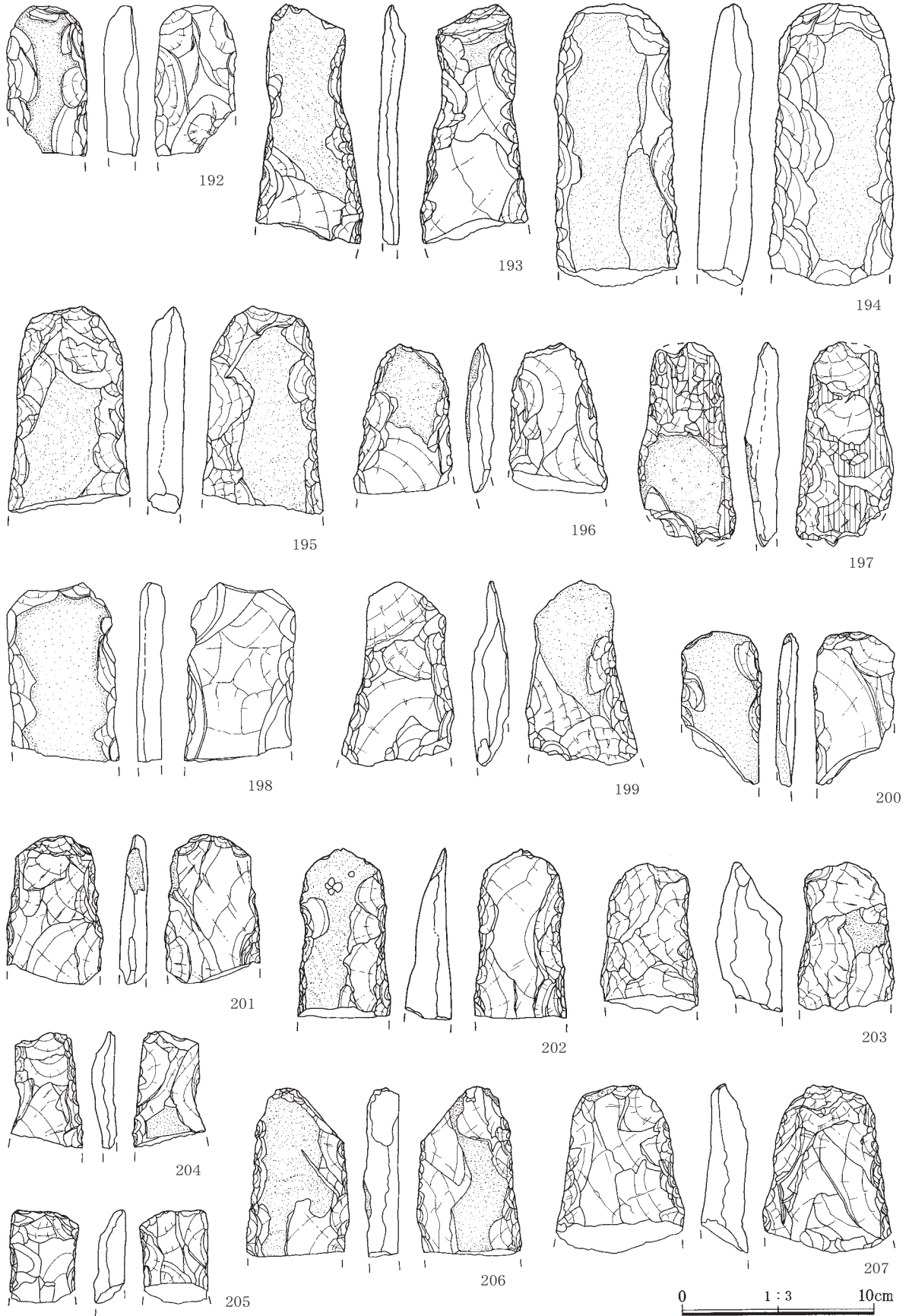


第519図 95区遺構外出土石器(7)



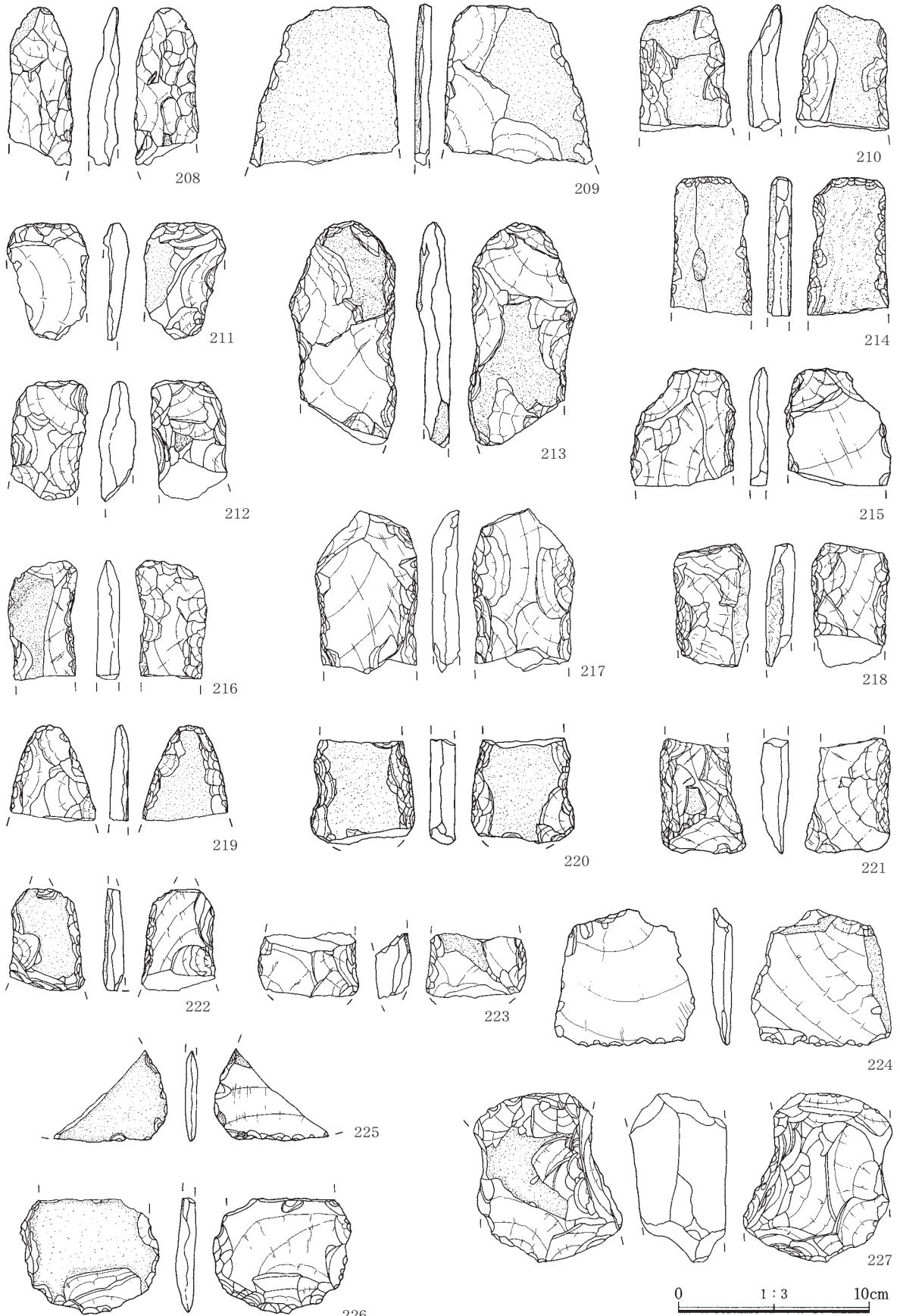


第520図 95区遺構外出土石器(8)

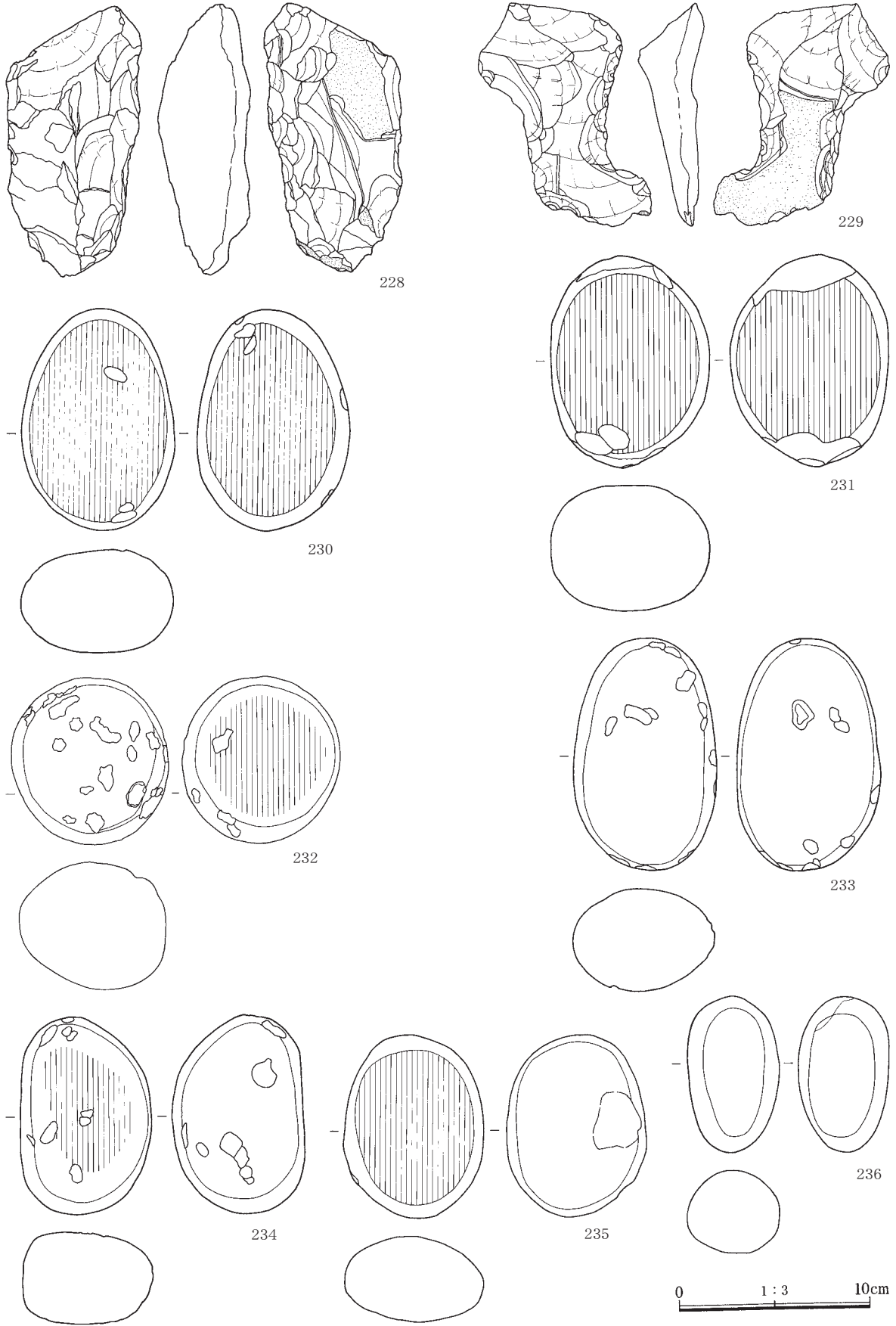


第521図 95区遺構外出土石器(9)

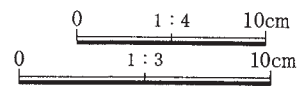
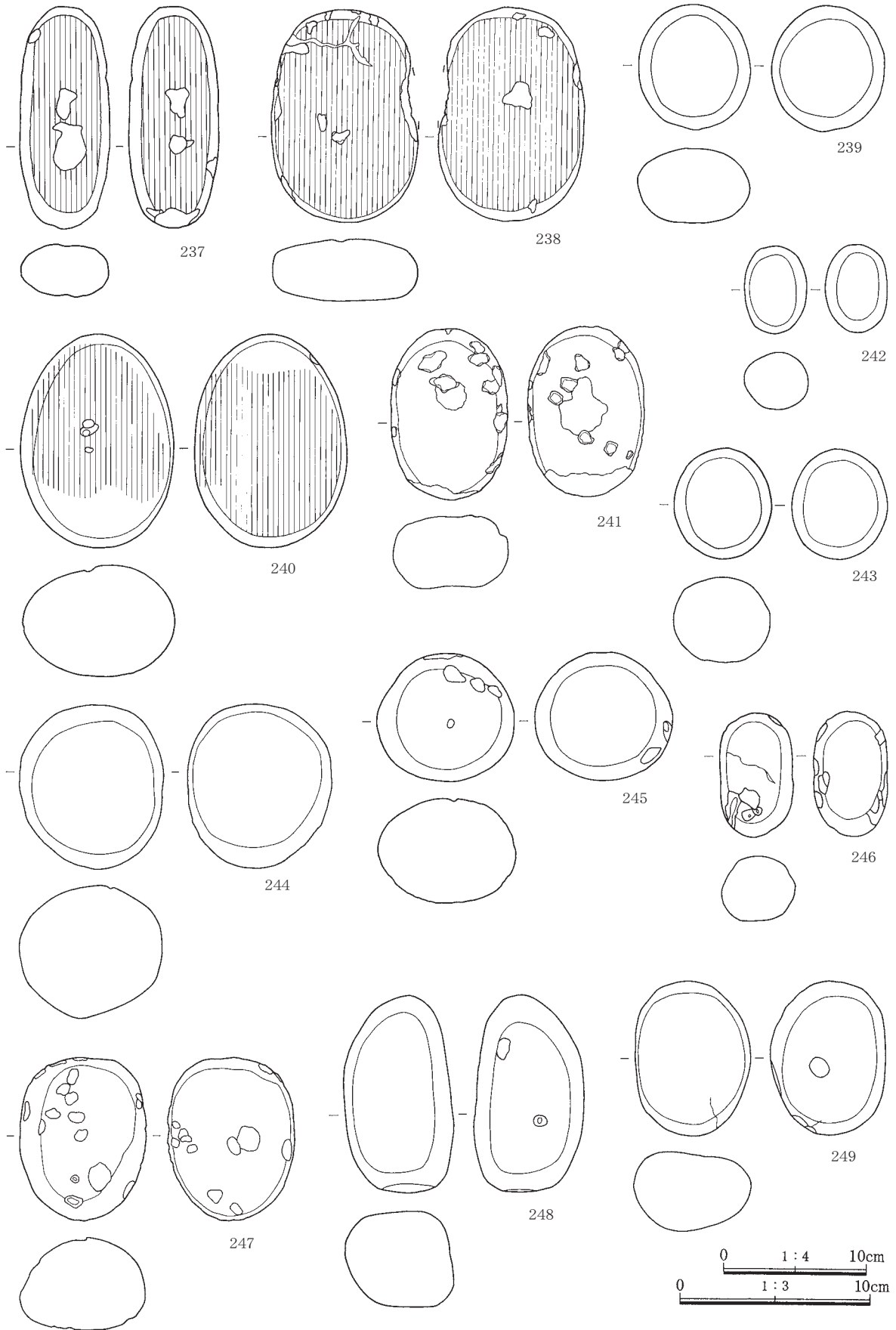
第3章 検出された遺構と遺物



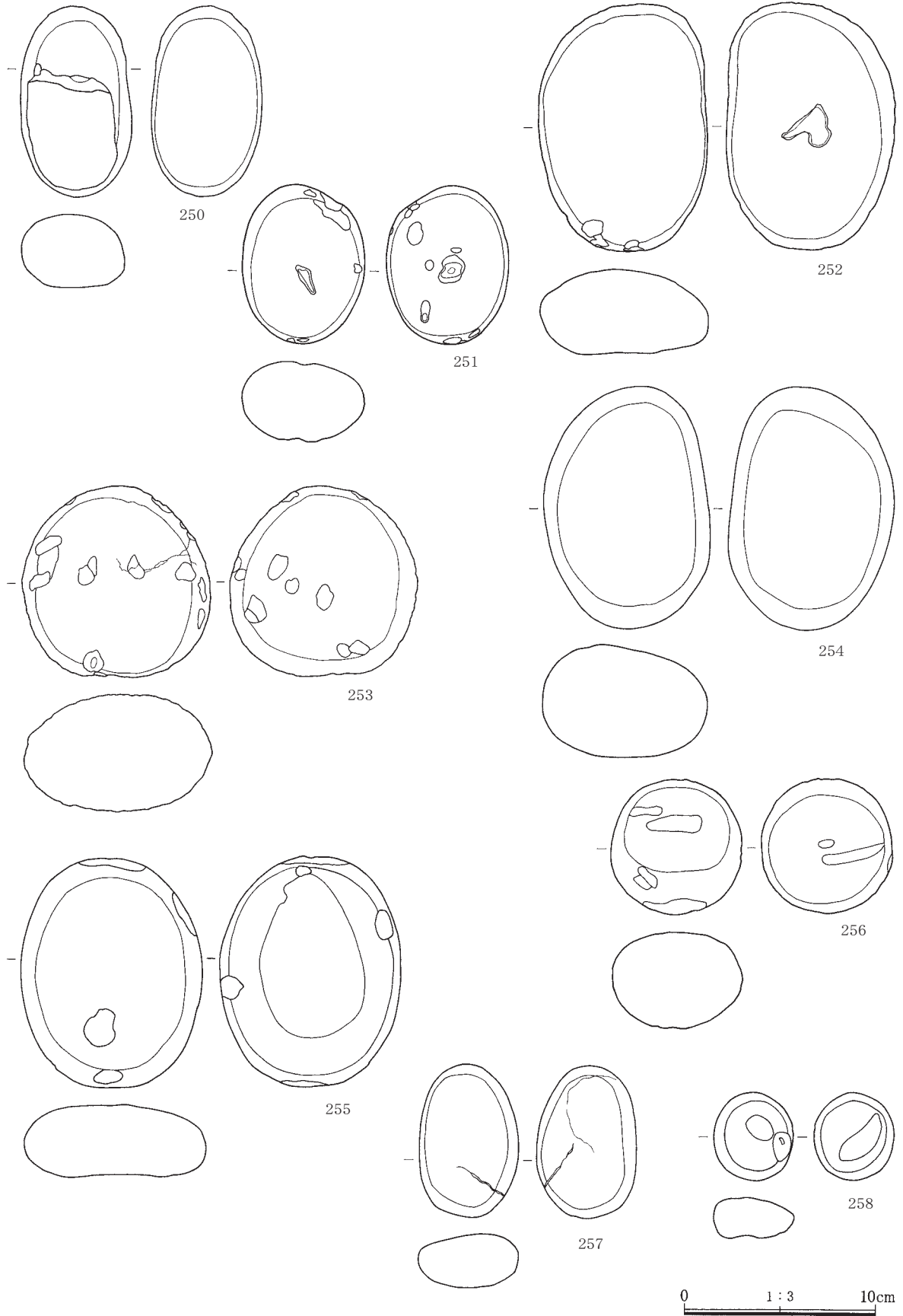
第522図 95区遺構外出土石器(10)



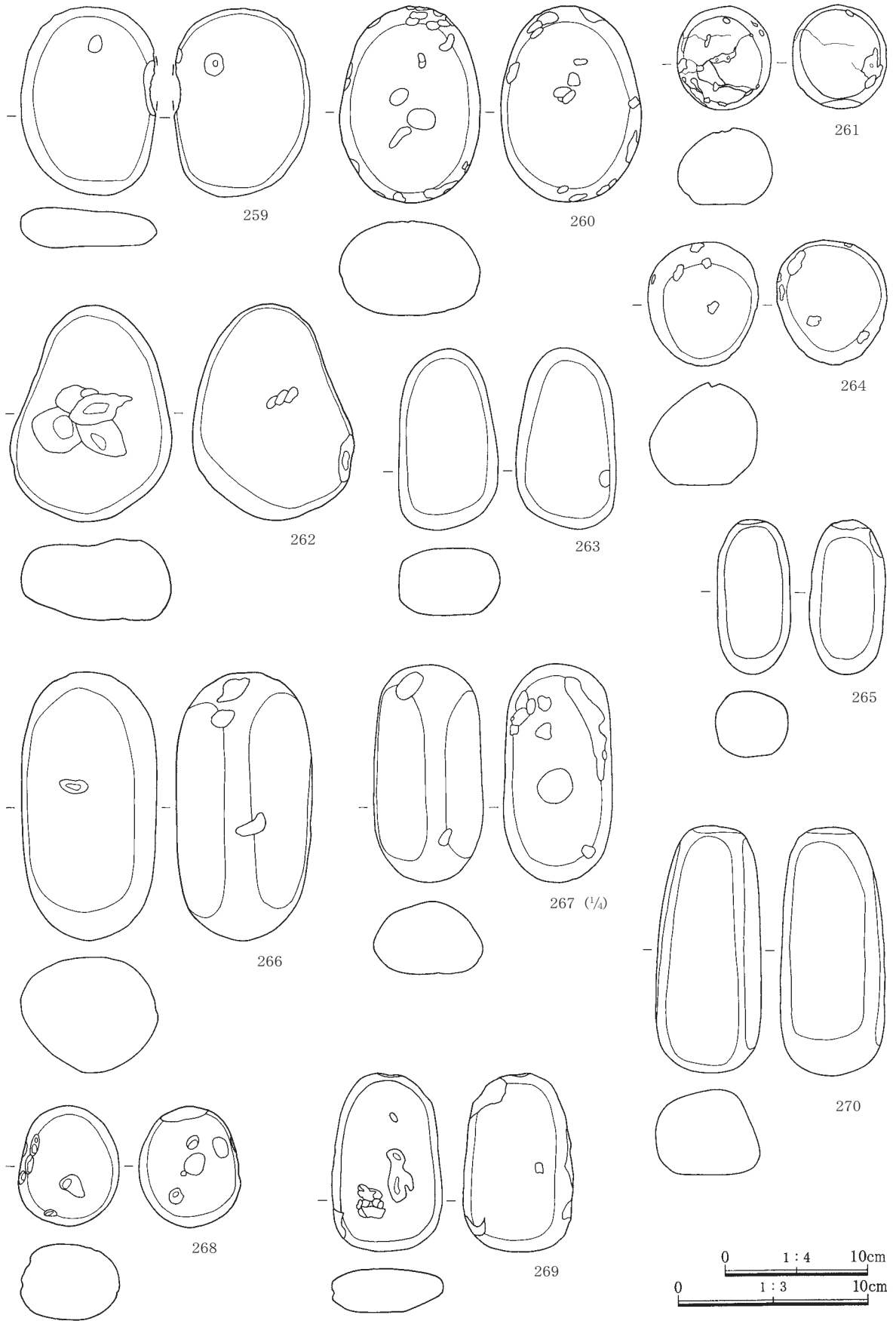
第523図 95区遺構外出土石器(II)



第524図 95区遺構外出土石器(12)



第525図 95区遺構外出土石器(13)

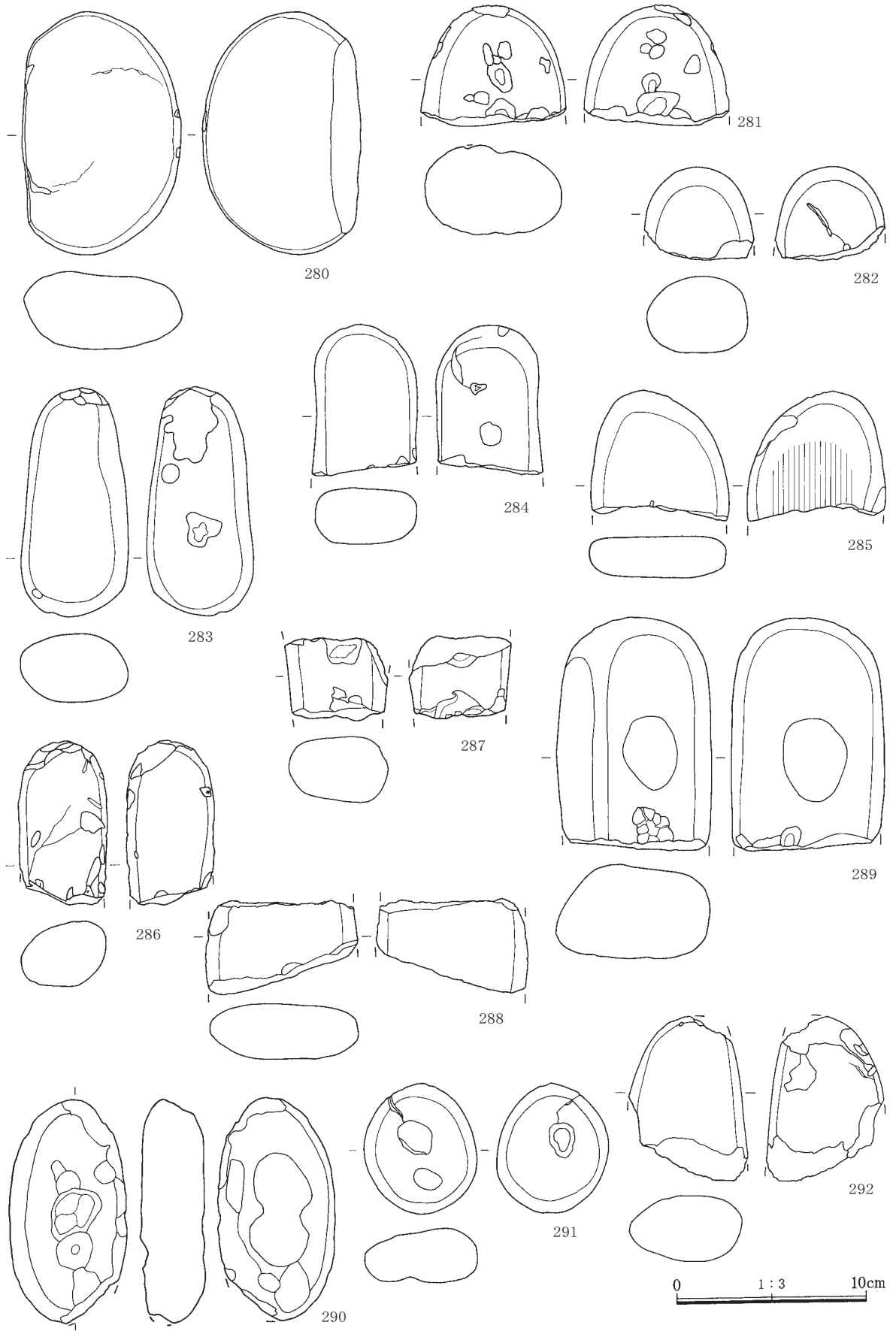


第526図 95区遺構外出土石器(14)

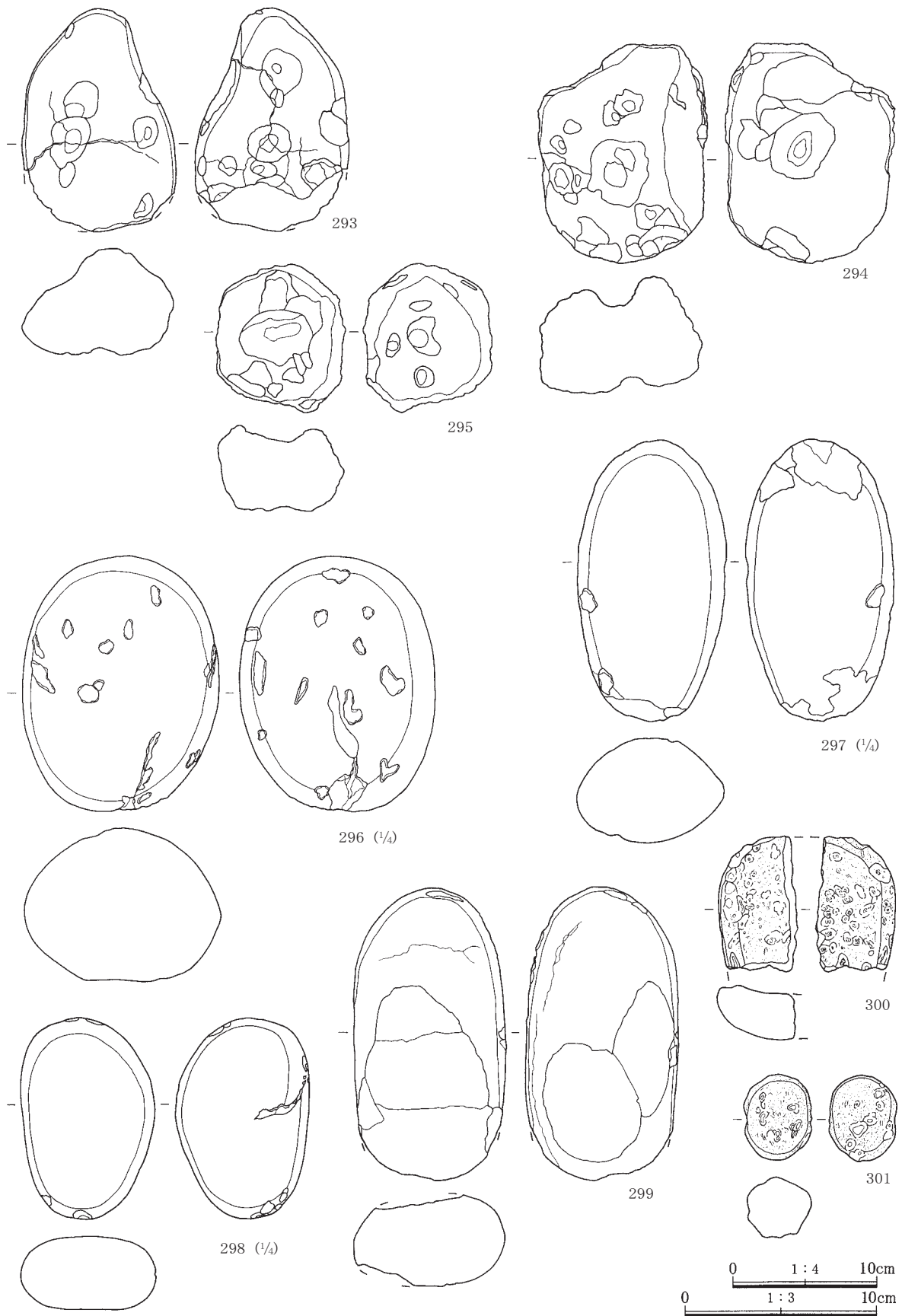


第527図 95区遺構外出土石器(15)





第528図 95区遺構外出土石器(16)



第529図 95区遺構外出土石器(17)



第530図 95区遺構外出土石器(18)

表3 出土遺物観察表(縄文時代)

5-8号住居跡(第9~12図: PL.126・127)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第9図 PL.126	1	深鉢 埋裏 口縁~体下部 口: 37.4	① 石英、長石 ② 黄褐色	口縁部に無紋部設け、隆帯によるS状文、楕円文交互に配す、楕円文内には縦位集合沈線充填。体部は沈線により内向きの重弧文で渦巻き文様を描出、そこから波状懸垂文、斜位の沈線文が両側に充填される。これらの文様間には、両端が閉じた平行懸垂文が上下2段に描かれる。	中期後葉信州系
第9図 PL.126	2	深鉢 +17 口縁~体部 口: (31.0)	① 粗: 白色粒・雲母 ② 暗褐色	口縁部の無文帯下に連続凹圧文を配した隆帯が廻る、隆帯から断面三角の隆帯で渦巻き文、さらに連続する懸垂文が下がり下位に渦巻き文が描かれ中には斜位の集合沈線。下位にY状隆帯が見られる。左右には波状懸垂文が見られる。地文には斜位の集合沈線が方向を違えて充填施文される。口唇上端部に浅い凹線。	中期後葉信州系
第9図 PL.126	3	深鉢 +19 口縁~体部中位 残存 口: (28.6)	① 細: 白色粒(少)・角閃石安山岩(少) ② 黒褐色	口縁部緩やかな4単位の波状、波頂下に隆帯による渦巻き文を上下対に配す。体部は2条の垂下沈線による磨り消し懸垂文、縄文はRL縦位充填施文。	中期後葉
第10図 PL.126	4	深鉢 +17 口縁~体部	① 粗: 白色粒・褐色粒・石英 ② 明褐色	口縁部は外傾し無文で幅広、横位隆帯で文様帯を画す。突起した隆帯による渦巻き文から接続する区画文様を描く、隆帯側線は沈線、渦巻き文間に沈線による楕円文描き短沈線文が配される。体部には両端がU状閉塞した沈線による並行懸垂文。	中期後葉信州系 5と同一個体
第10図 PL.126	5	深鉢 +17 体部破片	① 粗: 白色粒・石英少 ② 褐色	隆帯による渦巻き文、楕円文描き短沈線文施文。	中期後葉信州系 4と同一個体
第10図 PL.126	6	深鉢 +19 口縁~体部破片	① 石英、長石雲母 ② 黒褐色	口唇部内側に折り返され肥厚、口縁下隆帯による弧状文が描かれ、縦、波状の懸垂隆帯文。弧状文内には縦位集合沈線充填、体部には異方向斜位の集合沈線文充填。	中期後葉信州系
第10図 PL.126	7	深鉢 +19 口縁~体部破片	① 粗: 白色粒多 ② 暗褐色	口縁部はやや肥厚し横位沈線が廻る、隆帯によるU状懸垂文見られ、地文には横位並行沈線による区画内に斜位、縦位の集合沈線文が充填施文。外面に煤。	中期後葉信州系
第10図 PL.126	8	深鉢 +8 口縁~体部破片	① 石英・雲母粒 ② 暗褐色	突起状の小波状を呈す、波頂下から隆帯が垂下、頸部の横位隆帯に繋がる。隆帯には連続円形凹圧文。隆帯区画内には縦位集合細条線充填。	中期後葉
第10図 PL.126	9	深鉢 覆土 体部破片	① 石英・雲母粒 ② 暗褐色	波頂下から隆帯が垂下、頸部の横位隆帯に繋がる。隆帯には連続円形凹圧文。隆帯区画内には縦位集合細条線充填。	中期後葉
第10図 PL.126	10	深鉢 +18 口縁~体部破片	① 石英粒・雲母少 ② 黒褐色	口縁部隆帯による渦巻き文と下位に連続する楕円文、側線は凹線。楕円文内には縦位集合沈線が左右弧状に描かれる。体部には並行懸垂沈線文、縦位矢羽根集合沈線文。	中期後葉信州系 11・12と同個体
第10図 PL.126	11	深鉢 +27 体部破片	① 石英・雲母粒 ② 黒褐色	渦巻き隆帯下に縦位集合沈線文。	中期後葉信州系
第10図 PL.126	12	深鉢 床 口縁~体部破片	① 石英・雲母粒 ② 黒褐色	口縁部隆帯による渦巻き文と下位に連続する楕円文、楕円文内には縦位集合沈線が左右弧状に描かれる。	中期後葉信州系
第10図 PL.126	13	深鉢 +21 口縁~体部破片	① 石英粒少 ② 暗褐色	小波状口縁、波頂下に隆帯による渦巻き文、口縁に沿って横に続く隆帯から下位に楕円文文様が形成される。縦位集合沈線充填、体部には平行懸垂文、無文帯と交互に描出されるか。	中期後葉信州系
第10図 PL.126	14	深鉢 +20 口縁部破片	① 白色流・石英粒 ② 褐色	やや幅広の無紋帯下に渦巻き文様か。	中期後葉信州系
第10図 PL.127	15	深鉢 覆土 口縁~体部破片	① 石英粒少 ② 明褐色	小波状口縁、やや幅広の無紋帯下に隆帯により、連続する渦巻き文様、これら文様内にも沈線で渦巻き文が配されている。以下体部には並行懸垂沈線、間にLR縄文縦位施文か。	中期後葉 14・16と同一個体
第10図 PL.127	16	深鉢 覆土 体部破片	① 石英・雲母粒 ② 明褐色	隆帯により連続する渦巻き文様配されている。以下体部には並行懸垂沈線、間にLR縄文縦位施文か。	中期後葉信州系
第11図 PL.127	17	深鉢 +26 口縁部破片	① 石英、長石 ② 暗褐色	口縁部に無紋部設け、横位隆帯が廻り、これに接して垂下隆帯が2本見られる。区画文内には斜位の集合沈線文。	中期後葉信州系
第11図 PL.127	18	深鉢 覆土 口縁部破片	① 長石・石英 ② 褐色	口縁部僅かに内傾、隆帯による渦巻き文構成の文様構成か区画文内には縄文施文。	中期後葉
第11図 PL.127	19	深鉢 +20 体部破片	① 石英粒 ② 明褐色	LR縄文縦位施文後、平行竹管文による平行懸垂文。	中期後葉
第11図 PL.127	20	深鉢 +17 体部破片	① 石英・雲母粒 ② 明赤褐色	体部に並行沈線による縦位磨り消し区画文、区画内には縦位LR縄文充填。	中期後葉
第11図 PL.127	21	深鉢 +17 体部破片	① 石英・雲母粒 ② 褐色	縦位波状隆帯垂下、地文には斜位集合沈線。	中期後葉信州系 2と同一個体
第11図 PL.127	22	深鉢 +17 体部破片	① 石英・雲母粒 ② 褐色	斜位集合沈線文。	中期後葉信州系 2と同一個体

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			①胎土 ②色調			文様の特徴等		備考	
第11図 PL.127	23	深鉢 +14	体部破片		① 石英・雲母粒 ② 褐色			集合沈線文。		中期後葉信州系 2と同一個体	
第11図 PL.127	24	深鉢 +18	体部		① 石英・長石粒 ② 明赤褐色			体部に並行沈線による縦位、横位の磨り消し区画文、区画内には縦位LR縄文充填。		中期後葉	
第11図 PL.127	25	深鉢 +18	体部破片		① 石英・雲母粒 ② 明赤褐色			縦位の磨り消し区画文、縦位LR縄文充填。		中期後葉	
第11図 PL.127	26	深鉢 +18	体部破片		① 石英・片岩 ② 褐色			下端U状の隆帯文が並ぶ、文様内は沈線充填か。		中期後葉古	
第11図 PL.127	27	深鉢 +2	体部～底部 底：4.8		① 長石・石英 ② 赤褐色			小型深鉢の底部欠損品を二次利用か、断面端部に研磨痕。縄文LR縦位施文。		中期後葉	
第11図 PL.127	28	浅鉢 +17	底部破片		① 石英粒 ② 黒色			無文底部片、浅鉢。内外面研磨痕顕著。		中期後葉	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第11図 PL.127	29	石鎌	Pit 7	完形	2.1	1.5	0.4	0.6	凹基無茎、やや小型の製品で扱いは三角形。	黒曜石	
第11図 PL.127	30	石鎌	覆土	欠損	(1.6)	(1.4)	0.6	(1.0)	未製品か、厚手で斑晶を有し、側縁部に粗い剥離が見られる。	黒曜石	
第11図 PL.127	31	石鎌	覆土	欠損	(1.5)	1.2	0.4	(0.5)	基部、先端部を欠く、未製品か	黒曜石	
第11図 PL.127	32	石錐	覆土	完形	2.7	0.8	0.5	0.9	棒状錐、やや曲がっている。	黒曜石	
第11図 PL.127	33	二次加工片	覆土	完形	1.1	2.2	0.3	0.7	小型木葉型石片の弧状下辺に細かな調整刃部作出。	黒曜石	
第11図 PL.127	34	使用痕剥片	覆土	完形	3.5	2.0	0.7	5.1	縦型剥片の片側縁部に使用による刃こぼれ見られる。	黒曜石	
第11図 PL.127	35	打製石斧	+34	完形	(10.6)	5.1	1.6	(101)	撥形、刃部摩耗し偏刃。	粗粒輝石安山岩	
第12図 PL.127	36	打製石斧	+27	欠損	(11.1)	5.3	1.5	(105)	撥形、刃刃で基部僅かに欠損か。	黒色安山岩	
第12図 PL.127	37	打製石斧	+21	欠損	(9.2)	5.6	1.9	(106)	撥形、刃刃で基部僅かに欠損、粗い作り。	粗粒輝石安山岩	
第12図 PL.127	38	打製石斧	+13	欠損	(8.2)	3.8	2.1	(75)	撥形の基部片、細身で肥厚する。刃部欠損。	黒色安山岩	
第12図 PL.127	39	礫器	+14	完形	16.2	8.1	3.8	819	扁平でなすび形を呈す。平坦面を使用か。	粗粒輝石安山岩	
第12図 PL.127	40	敲石	+20	完形	14.9	6	4.5	644	棒状礫、両端やや細くなり弱い打痕あり、一端には煤付着。	粗粒輝石安山岩	
第12図 PL.127	41	磨石	覆土	完形	8.3	7.5	6.4	503	拳大の丸石。表面に僅かに打痕が見られる。	粗粒輝石安山岩	

5-146号住居跡(第14・15図：PL.127・128)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			①胎土 ②色調			文様の特徴等		備考	
第14図 PL.127	1	深鉢 埋喪	体部		① 石英・長石粒 ② にぶい黄褐色			2本垂下沈線による磨り消し懸垂文、および波状懸垂文。体部地文はLR縄文縦位施文。		中期後葉	
第14図 PL.127	2	深鉢 炉	口縁部破片		① 石英粒・雲母粒少 ② 明褐色			波状口縁部片、波頂下に円形押圧文か、隆帯による渦巻き楕円文、楕円文内はRL縄文充填施文。		中期後葉	
第14図 PL.127	3	深鉢 覆土	口縁部破片		① 長石粒 ② 黒褐色			太沈線による楕円文を描くか、縄文充填施文。		中期後葉	
第14図 PL.127	4	深鉢 炉	体部破片		① 長石粒 ② 褐色			縦位RL縄文施文後沈線による平行懸垂文。		中期後葉	
第14図 PL.127	5	深鉢 覆土	体部破片		① 石英・長石粒多 ② 赤褐色			縦位集合沈線文。		中期後葉信州系	
第14図 PL.127	6	深鉢 炉	体部下部破片		① 微砂粒 ② 褐灰色			底部接合部より欠損、懸垂沈線文の下端部見える。外面研磨、軟質。		中期後葉 炉体土器	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第14図 PL.128	7	石錐	埋喪内	欠損	(1.5)	(0.6)	0.5	(0.4)	錐部片か、断面三角で先端部に簡単な調整が見られる。	黒曜石	
第14図 PL.128	8	スクレイパー	埋喪内	完形	3.9	1.6	0.6	1.7	薄い剥片でナイフ形を呈す、刃部に微細な調整痕見られる。	黒曜石	
第14図 PL.128	9	打製石斧	床	ほぼ完形	12.0	5.6	1.7	166	撥形、片側側面は厚く無調整、未製品か。	粗粒輝石安山岩	
第14図 PL.128	10	磨石	+6	完形	10.1	7.4	5.9	620	円礫利用、磨り面平滑で側縁部に打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第14図 PL.128	11	磨石	+3	完形	7.9	7.1	4.8	412	やや扁平な円礫利用、両面平滑な使用面。	粗粒輝石安山岩	
第15図 PL.128	12	多孔石	+2	完形	18.2	11.6	11.3	2,050	不定形な礫、多孔石と思われるが凹み穴は不明瞭。	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

5-147号住居跡(第17図: PL.128)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考	
第17図 PL.128	1	深鉢 +33	口縁部破片	① 微砂粒 ② 黒褐色			口縁下に隆帯による横S状文が連結か、以下無節L縄文を縦位施文。			中期後葉	
第17図 PL.128	2	深鉢 +20	口縁部破片	① 微砂粒 ② 褐色			波状を呈す口縁に隆帯画す無文部を作る、波頂下より3本の隆帯による懸垂文、地文には縦位LR細縄文施文。			中期後葉	
第17図 PL.128	3	深鉢 +14	口縁部破片	① 石英・微長石粒 ② 暗赤褐色			外反する無紋口縁部片。内外面研磨。			中期後葉	
第17図 PL.128	4	深鉢 +7	口縁部破片	① 微長石粒少 ② 橙色			無紋口縁部片。内外面研磨。			中期後葉	
第17図 PL.128	5	深鉢 +20	体部破片	① 砂粒、石英粒 ② 暗褐色			LR細縄文施文後に沈線による磨り消し渦巻き文描く。			後期前葉古	
第17図 PL.128	6	深鉢 +35	体部破片	① 砂粒 ② 橙色			浅い横位凹線下に集合沈線文。			中期後葉	
第17図 PL.128	7	深鉢 +11	体部～底部破片 底:(7.6)	① 石英・微長石粒 ② にぶい赤褐色			複数の懸垂沈線文下端部、縦位RL縄文施文、表面荒れ、器面剥離あり。			中期後葉	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第17図 PL.128	8	打製石 斧	+14	欠損	(6.8)	4.9	1.5	(61)	撥形、基、刃部を欠損。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第17図 PL.128	9	多孔石	+12	欠損	20.6	15.8	7.5	2,490	扁平な礫の両面に複数の凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	

5-148号住居跡(第20図: PL.128)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考	
第20図 PL.128	1	深鉢 埋裏	口縁～体下部 口:33.4	① 石英・長石 ② にぶい黄褐色			4単位の小波状口縁、波頂下には隆帯による渦巻き文、これに接して楕円区画文が描かれる。楕円区内は横位RLが充填施文。体部には2本平行磨り消し沈線による懸垂文、間は縦位RL縄文を充填施文。			中期後葉古	
第20図 PL.128	2	深鉢 +9	口縁部破片	① 長石粒 ② 褐色			外反する幅広無文口縁、横位隆帯下に沈線による曲線文が連続する。			中期後葉	
第20図 PL.128	3	深鉢 +4	口縁部破片	① 長石粒 ② 暗褐色			無文口縁部片。			2と同一個体	
第20図 PL.128	4	深鉢 +3	口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 黒褐色			隆帯による楕円文を構成か、内外面研磨痕。			中期後葉	
第20図 PL.128	5	深鉢 +4	口縁部破片	① 微石英・長石粒 ② 橙色			口唇端部が内傾する無文口縁部片。			中期後葉	
第20図 PL.128	6	深鉢 +3	体部破片	① 長石、片岩、雲母 ② 暗赤褐色			波状懸垂文、地文はLR縄文縦位施文。			中期後葉古 7と同一個体	
第20図 PL.128	7	深鉢 床	体部破片	① 長石、片岩、雲母 ② 極暗赤褐色			波状懸垂文、地文は縦位LR縄文施文。			中期後葉古	
第20図 PL.128	8	深鉢 炉	体部破片	① 石英・長石粒 ② 赤褐色			2本の垂下沈線による懸垂文、地文は無節縄文Lを縦位施文。			中期後葉	
第20図 PL.128	9	深鉢 +8	体部破片	① 微石英粒少 ② にぶい黄褐色			縦位の波状懸垂沈線および斜位集合沈線。			中期後葉信州系	
第20図 PL.128	10	深鉢 +6	体部破片	① 微砂粒 ② 橙色			垂下隆帯、横位に集合沈線文。			中期後葉	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第20図 PL.128	11	石鎌	覆土	欠損	(1.2)	(1.3)	0.2	(0.3)	凹基無茎、先端部および片脚部分を欠く、小型でやや薄手。	黒曜石	
第20図 PL.128	12	スクレイパー	+17	完形	4.4	6.2	0.8	19	不定形剥片、下辺に弧状の刃部を持つ。	黒色安山岩	
第20図 PL.128	13	打製石 斧	床	完形	(11.7)	4.3	1.6	(108)	細身の撥形、刃部の広がり弱い。	細粒輝石安山岩	
第20図 PL.128	14	凹石	+3	完形	15.0	7.5	3.0	421	扁平でなすび形を呈す自然礫、両面に一対ずつの浅い凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第20図 PL.128	15	磨石	床	完形	11.5	7.5	4.0	517	扁平な長円礫、片面僅かに円く肥厚し、表面に弱い複数の打痕が見られる。	粗粒輝石安山岩	

5-149号住居跡(第23～25図: PL.129・130)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考
第23図 PL.129	1	深鉢 +14	口縁～体部 口:(43.4)	① 細:白色粒多 ② 極暗赤褐色			口縁部横位隆帯が廻り無文部を作る、体部には隆帯による幅広の磨り消し懸垂文と縦位LR縄文施文帯が交互に描出。口縁無文部、無文帯は研磨。			中期末葉
第23図 PL.129	2	深鉢 +30	口縁部破片	① 細:白色粒多 ② 極暗赤褐色			口縁部横位隆帯が廻り無文部を作る、体部には隆帯による幅広の磨り消し懸垂文と縦位LR縄文施文。			中期末葉 1と同一個体

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第23図 PL.129	3	深鉢 床 口縁～底部 口：(16.2) 高：27.7 底：7.4	①細：白色粒 ②褐色	4単位小波状口縁の一つに橋状取っ手を有す上端腕状に浅く開いた突起が付される。口縁部には波頂を繋ぐ弧状沈線が連続して描かれる。以下沈線でV字状、紡錘状文を交互に連続して描き、中を縄文LRで充填施文。下位には対となる逆U字状文が連続して描かれ、縄文LRが縦位充填施文される。外面口縁煤付着。	中期末葉古
第23図 PL.129	4	深鉢 床 口縁～体部 口：22.2	①細：白色粒・石英(少) ②褐色	4単位の小波状口縁、波頂を繋ぐ弧状沈線が描かれ、無文部を作る。以下連続するU状垂下文を連続して描き、縄文LRが縦位充填施文。下部にも対文様となる縄文充填された逆U字状文が連続して描かれる。	中期末葉古
第23図 PL.129	5	深鉢 床 体部～底部	①粗：白色粒 ②暗赤褐色	外反する幅広の無文口縁、横位隆帯で画され、一对の幅広橋状取っ手が付く。体部および取っ手表面には縦位RL縄文が充填施文される。底部内面煤付着。	中期後葉新 両耳壺
第23図 PL.129	6	深鉢 +8 口縁部破片	①石英粒 ②灰黄褐色	やや肥厚した口唇下に横位沈線、以下縄文LR縦位施文。	中期後新
第23図 PL.129	7	深鉢 +23 口縁部破片	①石英・長石粒 ②にぶい橙色	口縁部無文部を画す横位隆帯、そこから1本の隆帯が懸垂し、両側にはRL縄文縦位施文。	中期後葉新
第23図 PL.129	8	深鉢 +10 口縁～体部破片	①粗：白色粒 ②暗褐色	外反する幅広の無文口縁、横位隆帯で画され、体部には縦位RL縄文が充填施文される。	中期後葉新 5と同一個体
第24図 PL.129	9	深鉢 覆土 口縁部破片	①石英・角閃石安山岩 ②にぶい褐色	波状口縁、幅広の無文部を持ち、以下縄文LR縦位施文。	中期後葉新
第24図 PL.129	10	深鉢 床 体部破片	①石英・長石粒 ②にぶい褐色	無文部を横位隆帯で画し、以下RL多条縄文を縦位施文。	中期後葉新
第24図 PL.129	11	深鉢 +15 体部破片	①微石英粒少 ②暗赤褐色	沈線により磨り消し曲線文を描く、地文は縦位LR縄文が充填施文される。内面研磨痕顕著。	中期後葉新
第24図 PL.129	12	深鉢 +15 体部破片	①長石・片岩粒 ②にぶい橙色	沈線による磨り消し懸垂文か、縦位LR縄文施文後、沈線によりS字状懸垂文描く。	中期後葉
第24図 PL.129	13	深鉢 +19 体部破片	①長石粒 ②にぶい黄橙色	沈線による磨り消し幅広の懸垂文、および波状文、地文は縦位LR縄文施文。	中期後葉 14と同一個体
第24図 PL.129	14	深鉢 +11 体部破片	①長石粒 ②橙色	沈線による磨り消し懸垂文、縦位LR縄文施文。	中期後葉新 15と同一個体
第24図 PL.129	15	深鉢 +30 体部破片	①石英・長石・片岩粒 ②明黄褐色	沈線による幅広の磨り消し懸垂文、縄文RL縦位施文。器面やや風化。	中期後葉新
第24図 PL.129	16	深鉢 +20 体部～頸部片	①長石粒少 ②にぶい黄褐色	無文口縁部を画す横位隆帯、以下無節縄文Lを縦位施文。隆帯下に幅広の撫で消し。	中期後葉新
第24図 PL.129	17	深鉢 +9 口縁部破片	①石英・長石 ②にぶい黄色	隆線による口縁部区画文を構成、区画内に縦位の集合沈線施文か。内面研磨。	中期後葉
第24図 PL.129	18	深鉢 +6 口縁部破片	①微砂粒 ②にぶい褐色	やや外反、無文口縁部片。内外面研磨。	中期後葉
第24図 PL.129	19	深鉢 +16 口縁部破片	①微石英粒 ②浅黄褐色	大きく外傾、口縁部内側に折り返されて肥厚した面に縦位3本の短沈線、両側に沈線による端部渦巻き平行線文、間を連続する短沈線で埋める。	後期前葉
第24図 PL.129	20	深鉢 覆土 口縁部破片	①石英・長石・片岩・雲母粒 ②灰黄褐色	口縁部内湾、外面無文で口縁下に浅い横位沈線廻る。口縁端部に煤。	中期後葉
第24図 PL.130	21	深鉢 +3 体部破片	①石英・長石粒 ②にぶい赤褐色	刻みを有す隆帯とこれに沿って1条または2条の沈線が併走し、曲線文を描く、地文には縦位燃糸文R施文。	中期後葉古
第24図 PL.130	22	深鉢 +16 体部破片	①石英・長石粒少 ②にぶい赤褐色	横位平行沈線が多段施文され、以下燃糸文R縦位施文。	中期後葉古
第24図 PL.130	23	深鉢 +4 体部破片	①石英・角閃石安山岩 ②にぶい橙色	縦位燃糸文L施文。	中期中葉新
第24図 PL.130	24	深鉢 +16 体部破片	①石英・長石粒 ②黒褐色	沈線により三角形を基調とした幾何学文様描き、縄文RLを充填する。	後期前葉新
第24図 PL.130	25	深鉢 +16 体部破片	①細：白色粒 ②褐色	くの字に内屈、突起した横位隆帯に沿って端部渦巻き文描き、上位区画内には集合短沈線。	中期後葉
第24図 PL.130	26	深鉢 +6 体部破片	①微石英少・片岩粒 ②にぶい赤褐色	隆帯による渦巻き曲線文描く。側線は撫で。	中期後葉
第24図 PL.130	27	深鉢 覆土 底部破片	①石英・長石粒 ②にぶい褐色	隆帯懸垂文下端部、および斜位集合沈線文。	中期後葉信州系
第24図 PL.130	28	深鉢 覆土 体部破片	①石英・雲母粒 ②にぶい赤褐色	2本の隆帯懸垂文下端部、および縦位集合沈線文。	中期後葉
第24図 PL.130	29	深鉢 覆土 底部破片	①長石・石英粒 ②にぶい褐色	鉢の底部片、無文、内外面研磨。	後期前葉

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調				文様の特徴等		備考	
第24図 PL.130	30	深鉢 +13	体部～底部破片 底：8.4	①細：白色粒・石英粒少 ②にぶい褐色				縄文充填された逆U縄文が連続する。		中期末葉古 4と同一個体	
第25図 PL.130	31	注口土器 +21	注口破片	①石英粒 ②灰褐色				無文で基部に向かって僅かに太くなり、器肉も厚くなる。		後期前葉	
第25図 PL.130	32	土製円盤 +10	完形	①長石粒 ②明褐色				RL縄文施文。		中期後葉	
第25図 PL.130	33	土製円盤 +7	完形	①石英粒 ②にぶい褐色				LR縄文施文。		中期後葉？	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第25図 PL.130	34	石鏃	床	完形	2.3	1.7	0.4	1.2	凹基無茎、挟りは浅い弧状を呈し両側縁がやや膨らみを有す。	黒色安山岩	
第25図 PL.130	35	石鏃	覆土	欠損	(2.1)	(1.7)	0.5	0.9	石鏃の先端部片と見られる、両面中央縁に稜を持つ。	黒色安山岩	
第25図 PL.130	36	石鏃	覆土	欠損	(1.6)	(1.2)	0.3	(0.5)	基部、先端部分を欠く、片面に剥離面を大きく残し平らな面を有す。	黒曜石	
第25図 PL.130	37	スクレイパー	覆土	完形	3.1	2.5	0.6	2.9	台形を呈し弧状部分および一側縁部に調整痕。石鏃の未成品か。	黒曜石	
第25図 PL.130	38	二次加工片	覆土	欠損	3.2	2.5	0.8	6.4	肥厚する扇形の小剥片、小型の石匙か。	黒色安山岩	
第25図 PL.130	39	打製石斧	覆土	欠損	(3.8)	5.8	1.3	(35)	刃部片、片面に自然面。	細粒輝石安山岩	
第25図 PL.130	40	打製石斧	覆土	欠損	(8.3)	4.6	3.5	(155)	極めて厚手の基部片。	細粒輝石安山岩	
第25図 PL.130	41	敲石	覆土	ほぼ完形	8.0	7.4	4.3	372	やや扁平な礫のほぼ全面に打痕による剥離痕。	石英閃緑岩	
第25図 PL.130	42	凹石	覆土	完形	8.8	7.8	6.2	520	立方体形の礫を利用、両面に浅い凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第25図 PL.130	43	台石	床	欠損	(17.5)	(17.0)	7.1	(3,240)	両面を使用か、表面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第25図 PL.130	44	石皿	覆土	欠損	(14.1)	(8.6)	3.9	(332)	発泡質の石材を用いた石皿、やや角に丸みを有す長方形か、薄手。	粗粒輝石安山岩	

5-150号住居跡(第30～41図：PL.130～137)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調				文様の特徴等		備考
第30図 PL.130	1	深鉢	口縁～体部2点 口：(38.8)	①細：白色粒・角閃石安山岩 ②明赤褐色				平行沈線による磨消し懸垂文。文様間に波状の磨り消し懸垂文。地文には縦位RL縄文施文。		中期後葉
第30図 PL.130	2	深鉢 +32	口縁～体部 口：(23.0)	①細：白色粒・石英(少) ②赤褐色				口縁部文様は隆帯による渦巻き文、これに接して楕円区画文が描かれる。楕円区内には横位無節状文Rが横位充填施文。体部には2本平行磨り消し沈線による懸垂文、波状垂下文、地文は縦位LR縄文を施文。		中期後葉
第30図 PL.130	3	深鉢 +26	口縁～底部2点 口：(43.4)	①粗：白色粒・角閃石安山岩 ②にぶい褐色				大型品。底部小さく体部上位に向かって大きく開く。幅広の口縁部は外傾し無文、肩部に横位平行する2本の隆帯が廻り、隆帯間にはLR複節縄文が横位施文。体部には斜位方向のLR複節縄文を全面施文。肩部に煤付着。		中期後葉新
第30図 PL.131	4	深鉢 +26	口縁部片	①粗：白色粒・角閃石安山岩 ②にぶい褐色				幅広の口縁部は外傾し無文、肩部に横位平行する2本の隆帯が廻り、隆帯間にはLR複節縄文が横位施文。体部には斜位方向のLR複節縄文を全面施文。		3と同一個体
第31図 PL.131	5	深鉢 +27	口縁～体部 口：(52.6)	①粗：白色粒・小礫 ②褐色				大型品。幅広の口縁部は外傾し無文、断面三角の太い横位隆帯から渦巻き文と接続する楕円文が描かれる。楕円区内には縄文RL縦位充填施文。内面研磨。		中期後葉 6・7・8は同 個体
第31図 PL.131	6	深鉢 +27	口縁部片	①粗：白色粒・小礫 ②褐色				幅広の口縁部は外傾し無文、断面三角の太い横位隆帯から渦巻き文と接続する楕円文が描かれる。楕円区内には縄文RL縦位充填施文。内面研磨。		中期後葉
第31図 PL.131	7	深鉢 +27	体部片	①粗：白色粒・小礫 ②褐色				断面三角の太い横位隆帯から渦巻き文と接続する楕円文が描かれる。楕円区内には縄文RL縦位充填施文。内面研磨。		中期後葉
第31図 PL.131	8	深鉢 +27	体部片	①粗：白色粒・小礫 ②褐色				断面三角の太い横位隆帯から渦巻き文描かれる。内面研磨。		中期後葉
第31図 PL.131	9	深鉢 床	口縁～体部	①細：白色粒多 ②黒褐色				波状口縁の波頂部に中空の橋状把手、複数の円窓有し隆帯によるS状文で飾られる。さらに口縁部、胴部にも隆帯による円形文、渦巻き文様が連続して描かれる。部分的に隆帯間を磨り消している。さらに円形文内には縄文RLが充填施文されている。把手部煤付着。		中期後葉大木系



第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第31図 PL.131	10	深鉢 床 体部片	① 細：白色粒多 ② 黒褐色	取っ手下部分、隆帯による円形文、渦巻き文様が連続して描かれる。部分的に隆帯間を磨り消している。さらに円形文内には縄文 RL が充填施文されている。	中期後葉大木系 9と同一個体
第31図 PL.131	11	深鉢 +23 口縁～体部破片	① 細：白色粒少 ② 暗褐色	口縁部に隆帯による楕円、渦巻き文、楕円文内は RL 縄文が施文される。文様帯下部には平行沈線による磨消懸垂文、地文は RL 縄文縦位施文。	中期後葉 15と同一個体か
第32図 PL.131	12	深鉢 +31 口縁～体部	① 細：白色粒 ② 灰褐色	小波状を呈す、隆帯による渦巻き楕円文構成の文様帯、楕円文内には横位 RL 縄文施文。渦巻き文状に円形押圧文、体部は磨消懸垂文、波状の沈線垂下文、地文には縦位 RL 状文施文。	中期後葉古
第32図 PL.131	13	深鉢 覆土 体部片	① 細：白色粒 ② 灰褐色	12の体部片、磨消懸垂文、波状の沈線垂下文、地文には縦位 RL 状文施文。	中期後葉古
第32図 PL.131	14	深鉢 +36 口縁部破片	① 細：石英粒 ② 黒褐色	波状口縁か、沈線による磨消文様描く。地文には LR 細縄文施文。	後期初頭
第32図 PL.131	15	深鉢 覆土 口縁部破片	① 細：白色粒 ② 明褐色	口縁部に隆帯による楕円、渦巻き文、楕円文内は RL 縄文が施文される。文様帯下部には平行沈線による磨消懸垂文、地文は RL 縄文縦位施文。	中期後葉 11と同一個体か
第32図 PL.131	16	深鉢 +36 体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 赤褐色	平行沈線による磨消し懸垂文。地文には縦位 RL 縄文施文。	中期後葉
第32図 PL.132	17	深鉢 +36 体部破片 2点	① 粗：石英粒 ② にぶい赤褐色	2本の平行垂下沈線による磨消懸垂文、地文は縄文 LR を縦位施文。体部下部は器面風化。	中期後葉
第32図 PL.132	18	深鉢 +10 体部破片	① 細：石英粒 ② にぶい赤褐色	横位隆帯から磨消平行懸垂文。地文は LR 細縄文縦位施文。	中期後葉
第32図 PL.132	19	深鉢 +33 体部破片	① 細：石英粒 ② 黄褐色	隆帯による磨消文様。地文には RL 縄文充填施文。	中期後葉新
第32図 PL.132	20	深鉢 +44 体部破片	① 石英粒・白色粒 ② にぶい黄褐色	2本の平行垂下沈線による磨消懸垂文、地文は縄文 LR を縦位施文。器面風化。煤付着。	中期後葉 17と同一個体か
第33図 PL.132	21	深鉢 +7 体部	① 粗：小礫(少) ② 明赤褐色	体部全面に無節 R を縦位施文後、2本の平行沈線による懸垂文を描き、間を磨り消しているが部分的に地文が残る。	中期後葉
第33図 PL.132	22	深鉢 +36 口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 暗褐色	口縁端部内屈、横位沈線により無文帯画し、以下沈線による磨消文様描く。地文は LR 細縄文施文。	後期初頭
第33図 PL.132	23	深鉢 +28 口縁部破片	① 粗：石英・長石粒 ② 黒褐色	円筒形で口縁下に横位沈線廻る。以下平行沈線による磨消懸垂文。地文には縦位 RL 縄文施文。	中期後葉新
第33図 PL.132	24	深鉢 +13 口縁部破片	① 粗：白色粒・石英・雲母多 ② 黒褐色	口縁部肥厚、隆帯による渦巻き楕円文様。楕円文内には斜位の集合沈線、以下体部には渦巻き文から2本の沈線垂下。	中期後葉
第33図 PL.132	25	深鉢 床 口縁～体部 口：(13.6)	① 細：白色粒 ② 明赤褐色	口縁部に隆帯による渦巻き文と連続する楕円文様を描き、楕円文内には縦位連続短沈線文充填。以下体部は口縁部文様間から2本の平行沈線懸垂文、間を重弧状の沈線文様で埋める。	中期後葉信州系
第33図 PL.132	26	深鉢 床 口縁～体部 口：30.6	① 粗：白色粒・角閃石安山岩 ② 暗褐色	口縁部に横位の隆帯巡り、無文部を画す。この隆帯から延びたU状文が横に連続し、波頂部一つ置きに渦巻き文を描く。その下位には隆帯による蕨手懸垂文が付される。地文には斜位、縦位を組み合わせた集合沈線文。	中期後葉信州系
第33図 PL.132	27	深鉢 +9 口縁～体部 口：(35.2)	① 粗：白色粒・雲母多 ② 黒褐色	口縁部下に2本の隆帯による蕨手渦巻き文を描き、そこから2本の隆帯懸垂文。同じく隆帯により、中央が渦巻きとなる懸垂文が描かれる。地文および隆帯文様内には斜位集合沈線が充填される。口縁部に隆帯文様を繋ぎ交互刺突文帯が廻る。	中期後葉信州系
第33図 PL.133	28	深鉢 +20 口縁～体部 口：(22.0)	① 細：白色粒・褐色粒 ② 黒褐色	隆帯による連続U字状文を描く、隆帯波頂部は口縁上僅かに突出。地文は縦位集合沈線施文後、横位平行沈線で矩形区画を描出する。	中期後葉信州系
第33図 PL.133	29	深鉢 床 口縁～体部	① 細：白色粒(少)・角閃石安山岩(少) ② 暗褐色	4単位の波状口縁、口縁部下内外面に隆帯が廻る、波頂下に隆帯による渦巻き文と連続する懸垂文が描かれる。懸垂文間にも幅狭の逆U字状隆帯懸垂文。地文には斜位の集合沈線文。	中期後葉信州系
第33図 PL.133	30	深鉢 +6 口縁～体部破片	① 粗：石英・長石粒 ② 黒褐色	隆帯による渦巻き懸垂文、口縁部に沿って波状沈線文、以下矢羽根状、重弧状沈線文が縦位施文。	中期後葉信州系
第34図 PL.133	31	深鉢 +27 口縁～体部	① 粗：白色粒 ② にぶい赤褐色	波状口縁、口縁部は横位沈線により無文部を画す、波頂下から隆帯による渦巻き懸垂文、波底部からは隆帯による逆U字状懸垂文。懸垂文間には斜位、縦位に粗い集合沈線が見られる。所々に隆帯文を繋ぎ、横位弧状平行沈線文が描かれる。	中期後葉信州系

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第34図 PL.133	32	深鉢 +45 口縁～体部	①粗：白色粒・小礫・角閃石安山岩 ②にぶい赤褐色	口縁部に浅い凹線が廻り、2本の平行隆帯による磨消懸垂文。地文は縦位矢羽根状沈線文を充填施文。	中期後葉信州系 重量がある
第34図 PL.133	33	深鉢 +36 口縁部破片	①細：微石英粒 ②灰白色	やや内湾する口縁部、縄文LRを多方向施文し縄文により波状文様を意匠か。内面研磨、口縁部に煤附着。	中期後葉
第34図 PL.133	34	深鉢 床 口縁部破片	①石英・長石粒 ②黒褐色	隆帯による渦巻き楕円文様。縦位集合沈線施文。	中期後葉
第34図 PL.133	35	深鉢 床 口縁部破片	①白色粒 ②褐色	隆帯による渦巻き文、楕円文様か。下位に平行懸垂文か。煤附着。	中期後葉
第34図 PL.133	36	深鉢 +4 口縁部破片	①石英粒・白色粒 ②暗赤褐色	小波頂下に隆帯による渦巻き文と連接する楕円文。文様内には縦位集合沈線文。	中期後葉
第34図 PL.133	37	深鉢 +5 口縁部破片	①粗：石英・白色粒 ②褐色	口縁部に隆帯による楕円、渦巻き文。楕円文内には横位矢羽根状沈線文か。	中期後葉信州系
第34図 PL.133	38	深鉢 +22 口縁部片	①細：白色粒・雲母粒 ②暗赤褐色	口縁部に隆帯による渦巻き文と連続する楕円文様を描き、楕円文内には縦位連続短沈線文充填。	中期後葉信州系
第34図 PL.133	39	深鉢 +22 口縁部片	①細：白色粒・雲母粒 ②暗赤褐色	口縁部に隆帯による渦巻き文と連続する楕円文様を描く。	中期後葉信州系
第34図 PL.133	40	深鉢 +27 口縁部破片	①石英粒・白色粒 ②褐色	隆帯による渦巻き戸連接する楕円文様か。文様内には斜位の集合沈線文、以下体部には縦位の集合条線文。	中期後葉
第34図 PL.133	41	深鉢 +26 口縁部破片	①粗：白色粒・角閃石安山岩 ②暗褐色	小波状口縁、隆帯による横渦巻き文様。区画内には横位矢羽根状沈線文施文。煤少量附着。	中期後葉信州系
第35図 PL.133	42	深鉢 +28 口縁～体部破片	①石英・雲母粒 ②褐色	口縁内側に隆帯が廻る、U字状連続文が隆帯により描かれ、隆帯幅狭部には縦位刺突文、両側には横位集合沈線文。	中期後葉信州系
第35図 PL.133	43	深鉢 床 口縁部破片	①細：白色粒・角閃石安山岩 ②暗褐色	幅狭の逆U字状隆帯文が口縁から垂下、口縁下両側に延びた平行沈線文内交互連続刺突文。以下縦位集合沈線で埋められる。煤附着。	中期後葉信州系
第35図 PL.133	44	深鉢 +36 口縁～体部破片	①粗：白色粒多 ②暗褐色	隆帯による渦巻き楕円文様か、文様内には横位矢羽根状沈線で埋める。体部には沈線による平行磨消懸垂文と重弧状沈線を矢羽根状に縦位施文。	中期後葉信州系 46と同一個体
第35図 PL.133	45	深鉢 +34 口縁部破片	①粗：石英粒・長石粒 ②灰褐色	横位平行沈線間に弧状の連続沈線文、間に縦位波状文が描かれる。	中期後葉
第35図 PL.133	46	深鉢 +31 口縁部破片	①粗：白色粒多 ②にぶい黄橙色・黒褐色	横位矢羽根状沈線で埋める。	中期後葉信州系 44と同一個体
第35図 PL.133	47	深鉢 +25 体部破片	①石英・長石粒 ②極暗褐色	弧状の隆帯文、の波頂下に逆U字状の沈線懸垂文。斜位の集合沈線で埋められる。	中期後葉信州系
第35図 PL.133	48	深鉢 床 口縁部破片	①石英粒・白色粒 ②黒褐色	沈線による楕円文様か、中は斜位の羽根状沈線文で埋める。	中期後葉
第35図 PL.133	49	深鉢 +25 口縁～体部破片 3点	①細：砂粒 ②褐色	口縁に横位沈線廻る、以下縦位の集合沈線文。煤附着。体部には隆帯により日状の懸垂文、地文に縦位の集合沈線。	中期後葉
第35図 PL.133	50	深鉢 床 口縁部破片	①細：石英粒 ②暗赤褐色	波状を呈す、口縁部内側に沿って隆帯が廻る。口縁下に隆帯により横位連続波状文および渦巻き文が見られる。波状文内には交互刺突文、斜位の短沈線文施文。隆帯文、部分的に剥がれ有り。薄手で焼きは堅緻。	中期後葉信州系
第35図 PL.134	51	深鉢 床 体部破片	①粗：白色粒・角閃石安山岩 ②にぶい赤褐色	口縁部に2本単位の連続弧状文、縦位集合沈線文描き、以下斜位の集合沈線、渦巻き文、曲線文が描かれる。器面摩滅。	中期後葉信州系
第35図 PL.134	52	深鉢 +38 体部	①粗：白色粒多 ②赤褐色	沈線による懸垂文を連続して描き、無文帯と斜位沈線文交互に配す。	中期後葉信州系
第35図 PL.134	53	深鉢 +9 口縁～体部2点	①粗：白色粒・角閃石安山岩 ②にぶい赤褐色	波頂部に肥厚する突起有す。突起は肉厚で隆帯による曲線文で飾られる。波頂下から隆帯による渦巻き懸垂文、波底部からは隆帯による幅狭逆U字状懸垂文が見られる。懸垂文間には斜位矢羽根状の粗い集合沈線が見られる。	中期後葉信州系
第36図 PL.134	54	深鉢 +19 体部破片	①粗：白色粒多・角閃石安山岩 ②にぶい赤褐色	隆帯による曲線文様の懸垂文、地文には斜位、横位の集合沈線文。	中期後葉信州系
第36図 PL.134	55	深鉢 床 体部破片	①白色粒 ②にぶい赤褐色	4本単位の沈線による懸垂文および斜位の集合沈線文。	中期後葉信州系
第36図 PL.134	56	深鉢 床 体部破片	①白色粒 ②にぶい赤褐色	平行沈線による懸垂文、縦位矢羽根状沈線文施文。	中期後葉信州系

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第36図 PL.134	57	深鉢 +38	体部破片	① 白色粒 ② 灰褐色	平行沈線による懸垂文、縦位矢羽根状沈線文施文。	中期後葉信州系
第36図 PL.134	58	深鉢 +47	体部破片	① 白色粒 ② にぶい赤褐色	平行沈線による懸垂文、矢羽根状、重弧状沈線文が縦位施文。	中期後葉信州系
第36図 PL.134	59	深鉢 +10	体部破片	① 石英・雲母粒 ② 黒褐色	隆帯による懸垂文、縦位矢羽根状の沈線文。	中期後葉信州系
第36図 PL.134	60	深鉢 +36	体部破片	① 白色粒 ② にぶい黄褐色	2本の平行垂下沈線による懸垂文、地文は斜位の縦位集合沈線。器面風化。	中期後葉
第36図 PL.134	61	深鉢 +29	体部破片	① 石英粒・白色粒 ② にぶい橙色	隆帯による懸垂文、縦位矢羽根状沈線文施文。	中期後葉信州系
第36図 PL.134	62	深鉢 +47	体部破片	① 白色粒 ② 橙色	平行沈線による懸垂文、矢羽根状、重弧状沈線文が縦位施文。	中期後葉信州系
第36図 PL.134	63	深鉢 覆土	体部破片	① 石英粒・白色粒 ② にぶい橙色	隆帯による懸垂文、斜位の集合沈線文施文。	中期後葉信州系
第36図 PL.134	64	深鉢 +28	体部破片	① 石英粒・白色粒 ② にぶい赤橙色	平行沈線による懸垂文、矢羽根状、重弧状沈線文施文。	中期後葉信州系
第37図 PL.135	65	深鉢 +16	体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 黒褐色	隆帯による波状懸垂文、縦位矢羽根状沈線文施文。	中期後葉信州系
第37図 PL.135	66	深鉢 床	体部破片	① 白色粒・石英粒 ② 黒褐色	隆帯による平行懸垂文、矢羽根状の集合沈線文。	中期後葉信州系
第37図 PL.135	67	深鉢 +6	体部破片	① 粗：白色粒 ② 暗赤褐色	隆帯によるU字状懸垂文か。文様内には平行沈線懸垂文、そこから延びた斜位の集合沈線文が配される。	中期後葉信州系
第37図 PL.135	68	深鉢 +30	体部破片	① 細：石英粒 ② 黒褐色	隆帯による平行、波状文様の懸垂文、地文には矢羽根状の集合沈線文。	中期後葉信州系
第37図 PL.135	69	深鉢 +5	体部破片	① 粗：白色粒 ② にぶい橙色	縦位重弧状の集合沈線文。	中期後葉信州系
第37図 PL.135	70	深鉢 +3	体部破片	① 石英粒・白色粒 ② にぶい橙色	隆帯による懸垂文、矢羽根状沈線文施文。	中期後葉信州系
第37図 PL.135	71	深鉢 +4	体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 灰褐色	隆帯による懸垂文、縦位矢羽根状沈線文施文。	中期後葉信州系
第37図 PL.135	72	深鉢 +4	体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 灰褐色	隆線による縦位並行懸垂文、間隙には縦位条線文充填。	中期後葉信州系
第37図 PL.135	73	深鉢 +4	体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 灰褐色	隆線による縦位H状懸垂文、間隙には縦位条線文充填。	中期後葉信州系
第37図 PL.135	74	深鉢 床	体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 暗赤褐色	頸部に2本の横位隆帯巡り、間に連続刻み。	中期後葉
第37図 PL.135	75	深鉢 +28	体部破片	① 石英・長石粒 ② にぶい橙色	隆帯によるU字状懸垂文横位連続。文様内には縦位集合沈線文。	中期後葉
第37図 PL.135	76	深鉢 +30	体部	① 粗：白色粒・褐色粒 ② 明褐色	口縁部欠損、隆帯による渦巻き文と連続する楕円文様、楕円文内には縦位集合沈線充填、文様下部にも縦位集合沈線。	中期後葉 78と同一個体
第38図 PL.135	77	深鉢 +5	体部～底部	① 粗：白色粒多 ② 褐色	3本の隆帯で弧状懸垂文を横位連続させ中には矢羽根状?の沈線文、懸垂文間には斜位の集合沈線が見える。	中期後葉信州系
第38図 PL.135	78	鉢 床	体部破片	① 粗：白色粒・褐色粒 ② にぶい褐色	縦位の集合沈線文。	中期後葉 76と同一個体
第38図 PL.135	79	深鉢 口	口縁部破片 口：(28.0)	① 細：白色粒・褐色粒・雲母 ② 褐色	肩部鏝状を呈し上下からの円孔が見られる。口縁がほぼ直立する。器面研磨、内外面赤彩。	中期後葉
第38図 PL.136	80	深鉢 +33	口縁～体部破片	① 粗：白色粒・角閃石安山岩少 ② 褐色	口縁部直立し無文。体部上半に強い内湾を持たせ、頸部に横位隆線2条と小型橋状把手を設ける。体部は低位隆線による弧状意匠や円文を配す。赤彩痕認められる。	中期後葉古
第38図 PL.136	81	深鉢 +16	突起	① 細：白色粒・角閃石安山岩 ② 黒褐色	突起部、上部がY字に開き、表裏に隆帯による渦巻き文が見られる。	中期後葉
第38図 PL.136	82	深鉢 覆土	突起	① 細：白色粒 ② 黒褐色	内外面に隆帯による渦巻き垂下文。	中期後葉
第38図 PL.136	83	深鉢 +50	口縁部破片	① 長石・石英粒 ② 明赤褐色	無文口縁部片。器面研磨。	中期後葉?
第38図 PL.136	84	深鉢 床	体部～底部 高：(18.9) 底：(9.6)	① 細：石英粒 ② 明褐色	底部から体部へやや外反して立ち上がる。無文、縦位方向の研磨痕。体部下位に煤付着。	中期後葉

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)				①胎土 ②色調				文様の特徴等	備考
第39図 PL.136	85	深鉢 床	底部 高：(6.0) 底：7.0						①粗：石英・長石粒 ②赤褐色	無文の底部片。外面研磨、内側底部に煤付着。	中期後葉
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第39図 PL.136	86	石鏃	+28	完形	2.2	1.3	0.4	0.8	凹基無茎、やや細身で扱れは小さい。	黒曜石	
第39図 PL.136	87	石鏃	覆土	完形	1.6	1.0	0.2	0.2	凹基無茎、扱りは僅かで平基に近い。小型品。	黒曜石	
第39図 PL.136	88	石鏃	覆土	完形	1.4	1.4	0.2	0.4	凹基無茎、扱り深く脚が開くハート形鏃。	黒曜石	
第39図 PL.136	89	石鏃	覆土	欠損	2.5	(1.3)	0.4	(1.1)	凹基無茎だが扱りは浅い、先端部は細く尖る。片側縁部分を僅かに欠く。	黑色安山岩	
第39図 PL.136	90	石鏃	覆土	欠損	(1.8)	0.9	0.2	(0.4)	先端部が丸みを持つ。基部を欠く。	黒曜石	
第39図 PL.136	91	石鏃	覆土	完形	2.5	1.5	0.5	1.2	平基無茎、作りは粗くやや反りを持つ、下辺を刃部とする彫器か。94と似る。	黒曜石	
第39図 PL.136	92	石鏃	覆土	完形	1.6	1.1	0.2	0.3	凹基無茎、板状の小片から全体に簡単な調整のみで作られている。	黒曜石	
第39図 PL.136	93	石鏃	覆土	完形	1.8	1.5	0.5	1.1	凸基無茎、中央部分が膨らみ鋭利さは見られない。	黒曜石	
第39図 PL.136	94	石鏃	+31	ほぼ 完形	2.6	1.7	0.5	1.7	平基無茎、作りは粗くやや反りを持つ、下辺を刃部とする彫器か。	黒曜石	
第39図 PL.136	95	石鏃	+10	欠損	(2.2)	(1.5)	0.4	(0.7)	凹基無茎、先端部および片脚を欠く。	黒曜石	
第39図 PL.136	96	石鏃	覆土	完形	2.3	1.2	0.6	0.9	細長い三角形の剥片利用、側縁に簡単な調整痕。	黒曜石	
第39図 PL.136	97	二次加工片	覆土	完形	2.7	1.0	0.3	0.6	縦長小剥片の側縁に使用痕。	黒曜石	
第39図 PL.136	98	スクレイパー	覆土	完形	2.8	2.8	0.6	3.2	扇形の剥片、弧状の刃部を作出。	黒曜石	
第39図 PL.136	99	石核	+9	完形	4.0	6.5	5.5	113	一部に風化自然面を有す石核(原石)	黒曜石	
第39図 PL.136	100	石鏃	覆土	欠損	2.0	2.9	1.0	4.9	中央部が肥厚する三角形の剥片、肥厚部に複数の剥離。石鏃未製品か。	黑色安山岩	
第39図 PL.136	101	石匙	床	完形	7.2	3.0	1.1	17	縦型、刃部は凹く、つまみ部を作り出す扱りと、その下位にも扱りを有す。	黒曜石	
第39図 PL.136	102	打製石斧	+36	完形	11.3	4.7	2.0	139	撥形、片面に自然面、基部やや厚みを有す。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第39図 PL.136	103	打製石斧	覆土	完形	9.5	5.4	1.4	89	撥形、刃部、側縁ともに粗い作り。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第40図 PL.136	104	打製石斧	+30	欠損	(11.3)	6.0	2.0	197	撥形、刃部やや厚手で摩耗顕著。基部の一部を欠損。	粗粒輝石安山岩	
第40図 PL.136	105	打製石斧	+31	欠損	(4.8)	5.2	1.6	(53)	撥形の刃部部片である。摩耗顕著。	細粒輝石安山岩	
第40図 PL.136	106	打製石斧	床	欠損	(4.0)	5.0	1.0	(30)	薄手で両面に自然面見られる。側縁に浅い扱れを持つ、刃部を欠損。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第40図 PL.136	107	打製石斧	+2	欠損	(4.7)	3.5	1.6	(28)	撥形の基部片と思われる。細身であるがやや厚み有り。	黑色頁岩	
第40図 PL.136	108	打製石斧	+50	欠損	(4.8)	4.8	1.3	(44)	基部片、側縁は薄く鋭利に処理されている。	粗粒輝石安山岩	
第40図 PL.136	109	打製石斧	床	欠損	(7.4)	5.1	1.2	(83)	板状で両面に自然面残る。側縁部がわずかに狭くなる。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第40図 PL.136	110	打製石斧	覆土	欠損	(7.5)	4.0	1.0	(49)	薄手で片面に自然面、刃部欠く。	細粒輝石安山岩	
第40図 PL.136	111	打製石斧	+36	欠損	(5.4)	4.9	2.2	(66)	基部、刃部を欠く、厚手の作り。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第40図 PL.136	112	打製石斧	+54	欠損	(7.1)	5.1	0.9	(43)	薄手で両側縁に浅い扱れを持つ、刃部を欠損。	細粒輝石安山岩	
第40図 PL.136	113	打製石斧	+30	欠損	4.5	5.9	1.6	40	打製石斧の刃部片か。	黑色安山岩	
第40図 PL.136	114	二次加工片	覆土	完形	3.5	3.3	0.9	11	円形剥片片面に複数の剥離面見られる、縁辺部に刃部作出見られず。	黑色安山岩	
第40図 PL.136	115	スクレイパー	+23	完形	7.8	8.4	2.5	144	大振り不定形な剥片、一側縁に粗く刃部を作出。	細粒輝石安山岩	
第40図 PL.136	116	磨製石斧	覆土	欠損	(3.3)	3.0	1.4	(27.4)	端部には一部敲打整形痕見られる。基部片。	蛇紋岩	
第40図 PL.136	117	磨製石斧	+25	欠損	(4.0)	4.9	2.8	(98)	比較的大型品で厚みを有す基部部片。被熱か。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第40図 PL.136	118	磨石	+4	ほぼ 完形	(8.4)	7.0	4.2	(381)	扁平な川原石利用、両面平滑で側縁に打痕による欠損見られる。	粗粒輝石安山岩	
第40図 PL.136	119	敲石	+3	完形	12.2	6.4	3.0	337	扁平な長円形の礫、片側縁部に顕著な打痕による挟り有り。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第40図 PL.136	120	磨石	+4	完形	11.6	7.4	4.8	612	やや扁平な礫、表面に顕著な使用痕は見られないが、比較的平滑。	石英閃緑岩	
第40図 PL.136	121	磨石	+9	完形	7.5	6.3	6.2	446	円礫、一部打痕か。	石英閃緑岩	
第41図 PL.136	122	礫器	+6	ほぼ 完形	(12.6)	5.5	4.0	(316)	棒状礫、片方の段歩欠損、表面に僅かな打痕有り。表面に鉄分沈着層。	粗粒輝石安山岩	
第41図 PL.136	123	磨石	+8	ほぼ 完形	17.3	7.4	6.3	1,251	やや細長い俵状の礫、両端部に弱い打痕、ひび割れ顕著、被熱か。	粗粒輝石安山岩	
第41図 PL.137	124	礫器	+18	ほぼ 完形	11.2	5.9	3.7	350	長円礫利用、両端及び肥厚する片面には、打痕による凹凸顕著。	デイサイト	
第41図 PL.137	125	礫器	+4	完形	16.6	8.0	4.2	834	扁平な長円形の礫、端部に若干の打痕。	石英閃緑ひん岩	
第41図 PL.137	126	凹石	+18	欠損	(8.0)	(7.4)	2.9	(192)	全体に火を受け欠損顕著、僅かに残る面に浅い凹み穴見られる。	粗粒輝石安山岩	
第41図 PL.137	127	軽石製品	+32	ほぼ 完形	5.0	4.7	1.2	11.8	台形を呈す板状製品。両面、側面ともに研磨による成形。	軽石	
第41図 PL.137	128	多孔石	床	完形	16.7	13.9	7.5	1,620	小さい凹み穴が数個見られる。	粗粒輝石安山岩	

#### 5-151号住居跡(第44図: PL.137)

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第44図 PL.137	1	打製石斧	覆土	欠損	(7.4)	6.3	1.2	(70)	撥形か、刃部は極めて薄く片面は自然面残す。基部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第44図 PL.137	2	凹石	覆土	完形	(11.3)	8.9	5.1	(622)	やや扁平な円礫、両面に浅い凹み穴有す。側縁部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第44図 PL.137	3	台石	覆土	欠損	(15.7)	(10.1)	3.9	(322)	扁平な礫の両面を使用面とする。欠損品。被熱。	粗粒輝石安山岩	

#### 5-152号住居跡(第48~52図: PL.137~139)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②土調	文様の特徴等	備考
第48図 PL.137	1	深鉢 +19 口縁~体部 口: 16.4	①粗: 白色粒・石英・雲母多・ 角閃石安山岩 ②暗赤褐色	口縁部が短く立ち、強く突起した隆帯により渦巻き文、楕円文が交互に構成される。楕円文内には縦位短沈線が付される。体部には口縁部文様帯から2本の隆線による鈎状懸垂文が、また間には隆線による蕨手文が底部に繋がる。地文にはRL縦位縄文施文。	中期後葉古
第48図 PL.137	2	深鉢 +22 口縁~底部 口: (23.9) 底: 7.6	①粗: 白色粒多・石英多 ②暗赤褐色	口縁部波状でX字状の橋状把手が付く、頸部に2条の横位隆帯が廻り隆帯から口縁に向かって橋状把手が付される。上下に対となる形で付くものと見られる。把手間には沈線による弧状文が描かれ、周囲には刺突文が配される。把手下横位隆帯からやはり隆帯による、上端渦巻き文のH字状懸垂文付される。懸垂文間には沈線による懸垂文、矢羽根状の集合沈線文が付される。	中期後葉信州系
第48図 PL.137	3	深鉢 +20 口縁~底部 口: (25.2) 高: 33.4 底: (8.6)	①細: 石英粒・長石粒 ②黒褐色	口縁部に4単位の橋状把手が付く、把手内側は丸みを呈す三角窓となる。口縁部および頸部に隆線巡り、所々に渦巻き文を作る。隆線間には矢羽根状の横位短沈線文。以下無文帯を設け2本単位の横位隆帯、これに連結した隆帯による上端渦巻き文のH字状懸垂文4単位。懸垂文間は縦位沈線により3分割され、それぞれに縦位矢羽根状沈線文が充填施文。	中期後葉信州系
第48図 PL.137	4	深鉢 +8 口縁~体部 口: (16.0)	①石英粒・雲母多 ②褐色	口縁部に隆帯、以下無文帯を設け、横位2本隆帯が巡り、4単位の先端が渦巻きとなるS字状懸垂隆帯文が繋がる。体部には縦位矢羽根状沈線文が充填。	中期後葉信州系
第48図 PL.137	5	深鉢 +18 口縁~体部 口: 16.4	①細: 白色粒少 ②暗褐色	口縁部くの字に内屈、無文で口縁部から隆帯による鈎状の懸垂文が一対付される。器内外面研磨。	中期後葉
第48図 PL.137	6	深鉢 +34 口縁部破片	①石英、長石粒 ②浅黄褐色	口縁部に隆帯による連続渦巻き文。連結部分に円形押圧文、文様下体部にはLR縄文が見られる。	中期後葉
第48図 PL.137	7	深鉢 +25 口縁部破片	①細: 白色粒 ②黒褐色	波状口縁、波頂部に幅広の隆帯でC字状の突起を内外面に構成、口縁部渦巻き文から口縁に沿って隆線と渦巻き文から垂下し、左右に分かれて延びた隆線によりLR縄文施文帯を作る。口縁側の隆線には円形刺突文が治う。	後期初頭
第48図 PL.137	8	深鉢 +27 口縁部破片	①粗: 白色粒・石英 ②にぶい褐色	幅広の環状把手、RL縄文、沈線文。	後期初頭

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			① 胎 土 ② 色 調				文 様 の 特 徴 等			備 考	
第48図 PL.137	9	深鉢 +20	口縁～体部破片 3点		① 粗：石英粒・片岩粒 ② 黒褐色				口縁部内屈、沈線により口縁から不規則間隔に懸垂文、さらに横位沈線、縦位逆U字状の懸垂文。地文には縄文RLを縦位施文。施文は雑。			中期後葉	
第48図 PL.137	10	深鉢 +43	口縁部破片		① 粗：石英・長石・雲母粒 ② 灰褐色				肥厚する口縁下に凹線巡り、以下縄文RL施文。			中期後葉古	
第49図 PL.137	11	深鉢 +24	体部破片		① 石英・長石粒 ② にぶい赤褐色				2本の横位隆帯巡り、以下RL縄文縦位施文後、沈線による波状懸垂文描く。			中期後葉	
第49図 PL.137	12	深鉢 +21	体部破片		① 粗：石英粒・長石粒 ② 橙色				隆線による平行渦巻き懸垂文。地文はRL縄文縦位施文。器面風化。			中期後葉信州系	
第49図 PL.137	13	深鉢 +19	体部破片		① 石英・長石粒 ② 灰褐色				隆帯による懸垂文。地文にはRL縄文縦位施文。			中期後葉	
第49図 PL.138	14	深鉢 +18	口縁部破片		① 粗：白色粒・角閃石安山岩 ② 暗赤褐色				隆帯による渦巻き楕円文様構成、楕円文内には縦短沈線、文様下体部には縦位矢羽根状沈線文。煤付着。			後期後葉信州系	
第49図 PL.138	15	深鉢 +35	口縁部破片		① 微石英・雲母粒 ② 暗赤褐色				小波状部に隆帯による隆起曲線文。文様間に斜位の短沈線文。			中期後葉	
第49図 PL.138	16	深鉢 +32	口縁部破片		① 細：石英粒・白色粒 ② にぶい褐色				横位、縦位の隆線による矩形文、中に縦位沈線文。文様下渦巻き状の突起文か。			中期後葉	
第49図 PL.138	17	深鉢 +18	口縁部破片		① 粗：白色粒・角閃石安山岩 ② 褐色				波頂部にX橋状把手。ここから2本隆帯による懸垂文、斜位沈線文が見られる。煤付着。			中期後葉信州系	
第49図 PL.138	18	深鉢 +21	体部破片		① 粗：白色粒・片岩粒・小礫 ② 暗赤褐色				大型土器、隆帯による渦巻き文、上位横位隆帯に沿って沈線横送、下位には格子状に隆帯が見られる。文様帯下くの字に折れ、体部は無文。器面研磨。赤彩痕残る。			中期後葉	
第49図 PL.138	19	深鉢 +19	体部破片		① 石英粒・白色粒 ② 暗褐色				横位隆帯から繋がるY字状の懸垂文構成。沈線によるU状文、斜位の沈線文施文。			中期後葉信州系	
第49図 PL.138	20	深鉢 +29	体部破片		① 石英・長石粒 ② 赤褐色				3本隆帯による懸垂文、縦位の矢羽根状沈線文施文。			中期後葉信州系	
第49図 PL.138	21	深鉢 床	体部破片		① 石英粒・白色粒 ② 黒色				3本の横位隆帯、以下縦位矢羽根状沈線充填施文後、波状沈線懸垂文付す。煤付着。			中期後葉	
第49図 PL.138	22	深鉢 +20	体部破片		① 石英・白色粒・長石粒 ② 暗褐色				磨消懸垂帯、重弧状沈線文施文後、幅広の沈線により波状懸垂文描く。			中期後葉	
第49図 PL.138	23	深鉢 +5	体部破片		① 石英・白色粒多 ② 暗赤褐色				縦位矢羽根状沈線文。			中期後葉信州系	
第49図 PL.138	24	深鉢 +22	体部破片		① 粗：長石・片岩粒 ② にぶい赤褐色				縦位矢羽根状沈線文。			中期後葉信州系	
第49図 PL.138	25	深鉢	体部破片		① 粗：長石・片岩粒 ② にぶい赤褐色				縦位の2本隆線による懸垂文、体部には横位の平行線文配し、以下縦位矢羽根状沈線文充填。			中期後葉 24・26・27は同一	
第49図 PL.138	26	深鉢 +30	体部破片		① 長石粒 ② 赤褐色				上位に横位の平行線文配し、以下縦位矢羽根状沈線文充填。			中期後葉	
第49図 PL.138	27	深鉢 +30	体部破片		① 長石粒 ② 赤褐色				縦位矢羽根状沈線文。			中期後葉	
第50図 PL.138	28	深鉢 +16	体部破片		① 微石英・白色粒 ② 明赤褐色				平行磨消懸垂文、櫛状工具による波状懸垂条線文。内面、煤付着。			中期後葉	
第50図 PL.138	29	深鉢 +25	体部破片		① 石英粒・白色粒 ② 暗褐色				多沈線文、斜位沈線文。			中期後葉	
第50図 PL.138	30	深鉢 +24	口縁部破片		① 細：石英粒・白色粒 ② 黒色・暗赤褐色				口縁部やや肥厚し内面に凹線巡る。内外面研磨顕著、赤彩。			中期後葉	
第50図 PL.138	31	深鉢 +17	体部破片		① 白色粒・石英・長石粒 ② 明褐色				大型土器。無文の体部片。煤付着。			中期後葉	
第50図 PL.138	32	深鉢 床	体部～底部 高：(9.7) 底：6.0		① 粗：石英粒・片岩粒 ② 赤褐色				平行沈線による懸垂文、縄文LR縦位施文。内面煤少量。			中期後葉	
第50図 PL.138	33	浅鉢 +15	体部～底部破片 底：(13.0)		① 石英、雲母粒 ② 暗赤褐色				無紋底部片、内外面研磨、内面に赤彩痕。			中期後葉	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況			石 材	備 考
第50図 PL.138	34	石鎌	+5	完形	3.3	1.9	0.4	1.3	凹基無茎、扱りは深く扁平な作り。			チャート	
第50図 PL.138	35	石錐	+13	完形	3.0	0.6	0.4	0.5	両端が尖った棒状錐、やや扁平で精緻な作り。			黒曜石	
第50図 PL.138	36	石錐	覆土	欠損	2.7	1.0	0.6	1.6	先端部を欠く石錐と思われる。つまみ部は縦長方形。			黒曜石	
第50図 PL.138	37	石錐	覆土	欠損	(1.6)	0.6	0.2	(0.2)	扁平の棒状品、基部を欠損している。			黒曜石	
第50図 PL.138	38	石錐か	覆土	未製品	4.0	1.8	0.5	2.2	縦長剥片、一端が細く、両側縁に細かい剥離。石錐の未製品か。			黒曜石	
第50図 PL.139	39	石匙	+25	完形	8.9	3.3	1.3	36.2	縦型石匙、つまみ端部の膨らみ見られず。中央部に厚み。両側縁に刃部を作り出す。先端部は切断されたような形状を持つ。			黒色安山岩	

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第50図 PL.139	40	二次加工片	覆土	完形	3.2	1.8	0.7	2.9	縦長剥片の側縁に使用痕。	黒曜石	
第51図 PL.139	41	打製石斧	覆土	ほぼ完形	14.8	5.8	1.9	189	撥形、片面ほぼ全面が自然面、側縁に僅かな整形のみの雑な作り。	粗粒輝石安山岩	
第51図 PL.139	42	打製石斧	+20	完形	12.4	5.6	2.3	242	短冊形、やや厚手で、片面自然面残り丸みあり、鋭利さは見られない。	粗粒輝石安山岩	
第51図 PL.139	43	打製石斧	+25	完形	11.3	4.9	1.3	108	短冊形、片面に大きく自然面が残りやや反りを持つ。粗い作り。	粗粒輝石安山岩	
第51図 PL.139	44	打製石斧	+29	完形	9.3	5.3	1.3	91	撥形、刃部は比較的薄手で偏刃。刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第51図 PL.139	45	打製石斧	+7	欠損	(5.8)	4.3	1.5	(57)	基部片。	細粒輝石安山岩	
第51図 PL.139	46	打製石斧	+12	欠損	(8.3)	5.0	1.8	(100)	先端が薄区なる基部片。片面に自然面。	粗粒輝石安山岩	
第51図 PL.139	47	打製石斧	+14	欠損	(5.5)	3.7	0.7	(19)	薄手の基部片か。	粗粒輝石安山岩	
第51図 PL.139	48	打製石斧	+14	欠損	(10.3)	4.8	2.4	(173)	短冊形、基部が厚く刃部に向かってやや薄く作られる。刃部欠損。	粗粒輝石安山岩	
第51図 PL.139	49	打製石斧	覆土	欠損	(6.3)	4.9	1.3	(45)	基部片と思われる。剥離したものか。	粗粒輝石安山岩	
第51図 PL.139	50	スクレイパー	+31	完形	3.2	7.0	0.7	18	横長剥片の下辺部に刃部を作出。	黒色頁岩	
第51図 PL.139	51	スクレイパー	+20	完形	7.4	3.6	1.4	38	半月形で僅かに弧状を呈す下辺部にやや粗い刃部を作出。	黒色安山岩	
第51図 PL.139	52	楔形石器	+17	欠損	4.2	2.8	0.7	11	薄い板状片の両側縁に、弱い抉り状の剥離が見られる。	細粒輝石安山岩	
第51図 PL.139	53	スクレイパー	+31	完形	6.5	3.3	0.9	13.5	ほぼ菱形を呈す剥片の一边に刃部作出。	流紋岩	
第51図 PL.139	54	磨製石斧	+8	欠損	(5.5)	(4.0)	1.9	(41)	側縁の部分片。成形面は丁寧な研磨見られる。	蛇紋岩	
第51図 PL.139	55	礫器	床	完形	7.8	3.6	2.2	117	小型棒状礫、両端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第51図 PL.139	56	磨石	+18	完形	8.8	7.8	4.2	396	やや扁平な円礫、両面に平滑な使用面。	粗粒輝石安山岩	
第51図 PL.139	57	磨石	覆土	完形	5.9	5.5	4.6	198	小型の円礫、顕著な使用痕見られず。	粗粒輝石安山岩	
第51図 PL.139	58	磨石	+17	完形	12.0	6.2	3.9	467	扁平な長円礫、両面平滑な使用面、端部に打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第51図 PL.139	59	礫器	+20	完形	6.5	5.2	3.6	157	小円礫、側縁部に打痕か。	粗粒輝石安山岩	
第52図 PL.139	60	礫器	+10	完形	14.3	7.3	5.5	916	棒状礫、両端部に弱い打痕。	石英閃緑岩	
第52図 PL.139	61	礫器	+3	完形	9.1	3.0	3.0	138	小型棒状礫、両端部に弱い打痕。	石英閃緑岩	
第52図 PL.139	62	磨石	+25	完形	13.0	9.8	4.1	723	扁平な円礫、片面やや丸みを帯び、中央部に打痕状の凹み有す。	粗粒輝石安山岩	
第52図 PL.139	63	台石	+18	完形	24.5	20.6	7.5	6,200	台石、使用面は平滑。側縁に打痕あり。	石英閃緑岩	
第52図 PL.139	64	石皿	+15	完形	20.6	13.4	5.8	2,310	不定形な扁平礫利用、使用面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第52図 PL.139	65	多孔石	+19	欠損	16.8	12.5	9.3	2,370	数個の凹み穴が見られる、裏面は剥落顕著。	粗粒輝石安山岩	
第52図 PL.139	66	片岩	+19	欠損	(5.5)	3.8	2.4	(41)	石皿の小破片か。	結晶片岩	

5-153号住居跡(第56~60図: PL.139~142)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考
第56図 PL.139	1	深鉢 口縁~体部 口: 21.2	① 細: 白色粒・角閃石安山岩 ② 褐色	隆帯により渦巻き楕円文を描く、側縁は沈線、楕円文内は重弧状の沈線文。体部は、沈線による平行懸垂文で分割し、縦位矢羽根状沈線文で埋める。口縁部に1対の補修孔有り。	中期後葉信州系
第56図 PL.139	2	深鉢 +14 口縁~体部 口: (17.2)	① 細: 白色粒・角閃石安山岩 ② 赤褐色	4単位の波状を呈し、口縁内側には隆帯が廻る。波頂部に隆帯による渦巻き文配をし、これらは接続した弧状文で繋がる。弧状文で画された無文部波底部には沈線による平行垂下沈線、端には渦巻き文が描かれる。体部には渦巻き文から下がる2本の隆帯懸垂文、懸垂文間には平行沈線による懸垂文と両側には斜位集合沈線が見られる。	中期後葉信州系

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第56図 PL.139	3	深鉢 +10 口縁～体部 口：23.6	①粗：白色粒(多)・角閃石安山岩 ②暗赤褐色	4単位の小波状を呈す、波頂部に隆帯による渦巻き文、また口縁下に付された隆帯は1対の渦巻き文から体部に延びる懸垂文を構成する。口縁部隆帯に沿って連続刺突文。体部には平行線文、渦巻き文、蛇行懸垂文、斜位沈線文が付される。	中期後葉信州系
第56図 PL.140	4	深鉢 +13 口縁～体部 口：16.0	①粗：大粒白色粒多 ②赤褐色	口縁部に右端部が渦巻き状の隆帯による連続弧状文付し、弧状文内には横位短沈線文。体部には弧状文から隆帯による蛇行懸垂文(4)本。間を斜位沈線で埋める。	中期後葉
第56図 PL.140	5	深鉢埋襲 口縁～体部 口：15.0	①粗：白色粒多 ②にぶい褐色	口縁対となる位置に捻り隆帯これから左右に連続して波状隆帯文が廻り、波頂部には渦巻き文が附加。以下体部には、隆帯による平行懸垂文、波状文が付され、空隙を斜位、矢羽根状の集合沈線文で埋める。被熱による剥落。	中期後葉信州系 炉体土器
第56図 PL.140	6	深鉢 +16 口縁部破片	①細：石英・長石粒 ②黒褐色	口縁部折り返され肥厚、口縁から隆帯によるS字状懸垂文。これに接して左右に、2本の刻みを有す横位隆帯が延びる。体部には異方向の斜位集合沈線が組み合わされる。	中期後葉信州系
第56図 PL.140	7	深鉢 +18 口縁部破片	①石英粒・長石粒 ②暗褐色	口縁部に隆帯による端部渦巻き連丸文様、区画内には縦位の集合沈線充填。体部には平行沈線、蛇行懸垂文が見られる。	中期後葉信州系
第56図 PL.140	8	深鉢 +17 口縁部破片	①粗：石英多・雲母多 ②極暗赤褐色	口縁部に円孔を有す突起が付く。表面は隆帯による楕円の渦巻き文が付き突起上面の渦巻き文に繋がる。突起下位から口縁部に沿って隆帯が左右に延び、さらに下位にも延びる。隆帯で画された口縁部には渦巻き文、交互刺突文が描かれ、周囲を縦位沈線で埋める。また体部は懸垂隆帯間を斜位の集合沈線で充填する。	中期後葉信州系
第56図 PL.140	9	深鉢 +5 口縁部破片	①石英・長石・雲母粒 ②暗赤褐色	隆帯による弧状渦巻き文様構成。隆帯に沿って連続刺突文施文、また渦巻き文下、隆帯に繋がる垂下隆帯文。地文には斜位集合沈線文。	中期後葉信州系
第56図 PL.140	10	深鉢 +20 口縁部破片	①微石英・雲母粒 ②にぶい褐色	口縁内側肥厚、隆帯による渦巻き楕円文構成か。文様内斜位の短沈線文。	中期後葉信州系
第56図 PL.140	11	深鉢 +10 口縁部破片	①細：石英粒、雲母粒少 ②暗褐色	隆帯による弧状文意匠、口縁部に文様を画す横位沈線、文様内には斜位沈線、以下体部には蛇行懸垂文。地文にはLR細縄文縦位施文。	中期後葉
第56図 PL.140	12	深鉢 +9 口縁部破片	①微石英粒 ②褐色	口縁部に隆帯による弧状渦巻き文。中には斜位の集合沈線施文。	中期後葉信州系
第56図 PL.140	13	深鉢 +11 口縁部破片	①石英・長石粒多 ②黒褐色	隆帯による渦巻き楕円文構成。楕円文内には斜位の集合沈線文。	中期後葉信州系
第56図 PL.140	14	深鉢 +16 口縁部破片	①白色粒少 ②黒褐色	隆帯による渦巻き楕円文構成か。楕円文上位は沈線により描かれ、中は上下2段位斜位の短沈線文充填。以下体部は斜位集合沈線文か。	中期後葉信州系
第56図 PL.140	15	深鉢 +4 口縁部破片	①粗：石英多・雲母多 ②暗赤褐色	突起した隆帯による渦巻き懸垂文、および押圧文有す懸垂文見られる。口縁部内側に肥厚。	中期後葉信州系
第57図 PL.140	16	深鉢 +13 体部破片	①粗：白色粒多・雲母多 ②にぶい赤褐色	口縁部隆帯による矩形文描き、中に2本の横位沈線、波状文、沈線文を重層に描く。矩形文間には振り隆帯が付され、その下部は横位隆帯に繋がる。下位には沈線による重弧状文。器面風化。	中期後葉
第57図 PL.140	17	深鉢 +13 口縁部破片	①細：石英粒、白色粒 ②浅黄褐色	内湾しやや肥厚した口唇端部は僅かに内屈、口縁下横位、以下縦位に細縄文LR全面に施文。	中期後葉
第57図 PL.140	18	深鉢 +7 口縁部破片	①砂粒・長石粒 ②明赤褐色	隆帯による渦巻き文か。直上口縁が三角に突起し口縁上端面には沈線が付される。渦巻き文様内には燃糸文しが横位施文。	中期後葉古
第57図 PL.140	19	深鉢 +17 口縁～体部破片	①石英粒多 ②暗赤褐色	口縁に横位2条沈線、上位に渦巻き文、渦巻き文間および下位に逆U字状文描く。地文には集合条線が横位、縦位に描かれる。	中期後葉 20と同一個体
第57図 PL.140	20	深鉢 炉 体部破片	①石英粒多 ②暗赤褐色	沈線による垂下文様、地文には集合条線が横位、縦位に描かれる。	中期後葉
第57図 PL.140	21	深鉢 +24 体部破片	①石英粒多 ②明褐色	横位2本の隆帯から、やはり2本の隆帯による上端部渦巻き懸垂文。地文は縦位矢羽根状沈線文、外面煤付着。	中期後葉信州系
第57図 PL.140	22	深鉢 +10 体部破片	①石英・長石粒 ②明褐色	2本の隆帯による懸垂文。地文には縦位矢羽根状沈線文。外面煤付着。	中期後葉信州系
第57図 PL.140	23	深鉢 +23 体部破片	①石英・長石・雲母粒 ②褐色	隆帯により渦巻き懸垂文、弧状文を描き、斜位、矢羽根状の集合沈線で埋める。	中期後葉信州系
第57図 PL.140	24	深鉢 +16 体部破片	①石英・角閃石安山岩 ②赤褐色	沈線による平行、蛇行懸垂文。地文には斜位、横位に集合沈線文施文。	中期後葉信州系
第57図 PL.141	25	深鉢 +21 体部破片	①細：石英・長石粒 ②黒褐色	沈線による平行、蛇行懸垂文様。地文には縦位LR縄文がまばらに看取される。	中期後葉信州系
第57図 PL.141	26	深鉢 +24 体部破片	①粗：白色粒・片岩粒・小礫 ②にぶい褐色	口縁文様帯部分くの字に内傾、隆帯による文構成か、小矩形に画された文様内に縦位の短沈線文施文。器面研磨。	中期後葉古



第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			①胎 土 ②色 調			文 様 の 特 徴 等			備 考		
第57図 PL.141	27	深鉢 +20	体部破片		① 石英・白色粒 ② 橙色			複数沈線による懸垂文、間は矢羽根状集合沈線を施す。			中期後葉信州系		
第57図 PL.141	28	深鉢 +20	体部破片		① 石英・長石粒 ② 明褐色			隆線による渦巻き文、曲線文様懸垂文。文様内を斜位集合沈線で埋める。			中期後葉信州系		
第58図 PL.141	29	深鉢 +16	体部破片		① 石英・角閃石安山岩 ② 黒褐色			隆線による曲線文様、地文には斜位の集合沈線。器面の荒れ目立つ。			中期後葉信州系		
第58図 PL.141	30	深鉢 +7	体部破片		① 石英・雲母少 ② 黒褐色			平行隆線による懸垂文、地文は縦位の条線文充填後、中に横位沈線を持つ幅狭横楕円文描く。内面煤付着。			中期後葉信州系		
第58図 PL.141	31	深鉢 +10	体部破片		① 細：石英・長石粒 ② にぶい赤褐色			隆線によるU状懸垂文を横位連続。文様内は異方向斜位の集合沈線で埋める。			中期後葉信州系		
第58図 PL.141	32	深鉢 +13	体部破片		① 石英・長石粒多 ② 暗赤褐色			隆線による曲線懸垂文様、地文には斜位の集合沈線。			中期後葉信州系		
第58図 PL.141	33	深鉢 +10	体部破片		① 石英・長石・雲母粒 ② 褐色			隆線により渦巻き懸垂文、弧状文を描き、斜位、矢羽根状の集合沈線で埋める。			中期後葉信州系		
第58図 PL.141	34	深鉢 +20	体部破片		① 石英・白色粒 ② 褐色			沈線による渦巻き文、複数の懸垂紡錘文が描かれ、内部に斜位沈線文。			中期後葉信州系		
第58図 PL.141	35	深鉢 覆土	体部破片		① 石英・白色粒 ② 褐色			沈線による渦巻き文、内部に斜位沈線文。			中期後葉信州系		
第58図 PL.141	36	深鉢 +17	体部破片		① 石英・白色粒 ② 褐色			沈線による渦巻き文、複数の懸垂紡錘文が描かれ、内部に斜位沈線文。			中期後葉信州系		
第58図 PL.141	37	深鉢 +17	体部破片		① 石英・長石粒 ② 赤褐色			沈線によるU字状文、逆U字状文を上下に描き、縦位の粗い沈線施す。沈線の描きは浅く雑な描出。			中期後葉		
第58図 PL.141	38	深鉢 +11	口縁部破片		① 微石英粒・酸化粒 ② 橙色			口縁部くの字に外傾、僅かに内湾する。無文で外面研磨。			中期後葉		
第58図 PL.141	39	深鉢 +13	口縁部破片		① 細：石英・長石粒 ② 灰褐色			口縁部厚し凹線巡る。無文で研磨痕顕著。赤彩痕。			中期後葉		
第58図 PL.141	40	深鉢 +16	口縁部破片		① 微石英・長石粒 ② 褐色			口縁部内面に隆線廻る、外面無文。			中期後葉		
第58図 PL.141	41	深鉢 +7	底部 底：7.4		① 細：石英粒 ② 橙色			無文底部片。外面研磨。			中期後葉		
第58図 PL.141	42	深鉢 +10	底部 底：8.6		① 砂粒多 ② 赤褐色			無文底部片。			中期後葉？		
第58図 PL.141	43	深鉢 +18	底部 底：7.2		① 細：石英・長石粒多 ② にぶい赤褐色			無文底部片。底端部分剥落。			中期後葉		
第58図 PL.141	44	深鉢 +3	底部 底：6.8		① 細：長石粒少 ② 灰褐色			無文底部片。内外面研磨。			中期後葉？		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況			石 材	備 考
第58図 PL.141	45	石鉢	覆土	欠損	2.0	1.4	0.4	0.9	凹基無茎、挟り浅い、片脚を僅かに欠く。			黒曜石	
第58図 PL.141	46	石鉢	覆土	完形	1.8	1.4	0.3	0.6	凹基無茎、挟りが浅い小型品。			黒曜石	
第58図 PL.141	47	石鉢	覆土	欠損	(1.9)	(1.2)	0.4	(0.4)	凹基無茎、両脚を欠く。			珪質変質岩 (流紋岩質凝灰岩)	
第58図 PL.141	48	石鉢	覆土	欠損	(1.4)	1.5	0.3	(0.4)	凹基無茎、挟りはU状を呈し先端部を欠く。			黒曜石	
第58図 PL.141	49	石鉢	炉	欠損	(2.1)	1.9	1.6	(1.4)	凹基無茎、やや厚みを持有し、先端部を欠く。			黒曜石	
第58図 PL.141	50	石鉢	+16	欠損	(2.0)	1.6	0.3	(0.8)	凹基無茎、挟り浅い、やや細長く先端部を欠く。			黒曜石	
第59図 PL.141	51	石錐？	覆土	完形	3.5	1.2	0.6	1.4	扁平な三角錐、先端部分の調整は僅か。			黒曜石	
第59図 PL.141	52	スクレイパー	覆土	完形	3.1	1.5	1.0	2.5	中央が盛り上がったなすび状を呈す、片面は平ら。彫器か。			黒曜石	
第59図 PL.141	53	石錐	覆土	完形	1.8	0.7	0.3	0.3	小型の棒状錐、板状片の両側縁を調整剥離。			黒曜石	
第59図 PL.141	54	二次加工片	覆土	完形	2.5	2.1	0.8	3.2	基部が厚い三角形の剥片側縁に使用痕。			黒曜石	
第59図 PL.141	55	スクレイパー	覆土	欠損	1.9	(1.0)	0.3	(0.8)	半月状の剥片利用、弧状の縁部に刃部作出。			黒曜石	
第59図 PL.141	56	二次加工片	覆土	完形	2.5	2.1	0.7	2.3	やや丸みを呈す剥片の側縁に使用痕。			黒曜石	
第59図 PL.141	57	二次加工片	覆土	完形	2.9	2.1	0.3	1.3	不定形の薄型剥片、側縁部僅かに使用痕。			黒曜石	
第59図 PL.142	58	水晶	覆土	完形	2.5	0.9	0.7	2.0	角棒状の水晶片。下端にV字の切れ込み。			水晶	
第59図 PL.142	59	打製石斧	+9	完形	10.6	4.7	1.9	97	撥形、片面に膨らみ有す。刃部摩耗。			細粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第59図 PL.142	60	打製石斧	+13	完形	10.7	5.3	1.8	125	撥形、基部先端が尖る、刃部厚く、自然面残り摩耗顕著。	安山岩	
第59図 PL.142	61	打製石斧	+11	欠損	(8.0)	5.0	2.2	(122)	比較的厚みがある。刃部片、粗い作り。	黒色頁岩	
第59図 PL.142	62	打製石斧	+15	欠損	5.6	4.4	1.2	27	刃部片と見られる。	黒色頁岩	
第59図 PL.142	63	打製石斧	+17	欠損	(7.3)	5.1	1.9	(83)	撥形の基部片。	黒色頁岩	
第59図 PL.142	64	打製石斧	+17	欠損	(8.9)	4.9	1.3	(100)	板状、両面に自然面が残る。刃部を欠く。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第59図 PL.142	65	打製石斧	+14	欠損	(8.6)	4.8	1.7	(97)	撥形か、刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第59図 PL.142	66	打製石斧	+10	欠損	(7.0)	4.3	1.9	(61)	やや肥厚する基部片。	黒色頁岩	
第59図 PL.142	67	打製石斧	+10	欠損	(6.3)	4.9	1.5	(36)	基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	
第59図 PL.142	68	磨製石斧	+14	完形	10.7	5.0	2.3	225	刃部欠損後、刃部を敲打具として再利用か、側縁部打痕顕著。	蛇紋岩	
第60図 PL.142	69	磨石	覆土	完形	11.2	9.9	5.6	904	やや扁平な円礫、両面磨り面として使用、片面やや膨らむ。	粗粒輝石安山岩	
第60図 PL.142	70	礫器	+19	完形	7.8	6.4	2.4	183	扁平な小円礫、側縁に打痕、鉄分層付着。	粗粒輝石安山岩	
第60図 PL.142	71	磨石	覆土	完形	7.6	7.0	6.1	438	円礫、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第60図 PL.142	72	礫器	床	完形	13.3	6.5	4.0	499	棒状、やや扁平で顕著な使用痕は見られず。僅かに煤付着か。	粗粒輝石安山岩	
第60図 PL.142	73	軽石製品	+17	完形	5.4	4.8	3.8	29	やや楕円形の短い柱状を呈す。側面、下面に平らな複数の磨り面、砥石として使用か、上面中央に小さな浅い円形の凹み。煤付着。	軽石	
第60図 PL.142	74	石皿	+27	欠損	(15.9)	(11.6)	5.5	(1,258)	石皿の手前側部分の破片か、縁の高まりは弱い。被熱。	粗粒輝石安山岩	

5-154号住居跡(第63・64図：PL.142・143)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第63図 PL.142	1	深鉢 +15 口縁～体部 口：(18.0)	① 雲母粒 ② 黒褐色	口縁部折り返され肥厚、口縁から隆線による横位連続弧状文、弧状文間から繋がる幅狭H字状平行懸垂文。弧状文内、縦位集合沈線充填、体部懸垂文間は縦位矢羽根状集合沈線文充填。	中期後葉信州系
第63図 PL.142	2	深鉢 炉 口縁～体部 口：12.3	① 細：白色粒 ② 明赤褐色	4単位の波状呈す。隆線による渦巻き楕円文を4単位施文。楕円文内縦位短沈線、体部には2本沈線によるU字状懸垂文を6単位、間には平行懸垂文、さらにその下位に渦巻き文が描かれる。U字状文内は矢羽根状沈線文で埋める。器壁剥落著しい。	中期後葉 炉体土器
第63図 PL.142	3	深鉢 床 口縁～体部	① 細：石英・長石粒 ② 暗褐色	口縁部折り返されやや肥厚、横位隆線に接して渦巻き？蛇行懸垂文。地文は斜位の集合沈線文。器面荒れる。	中期後葉信州系 7と同一個体
第63図 PL.142	4	深鉢 炉 口縁部破片	① 石英・雲母粒 ② 赤褐色	口縁横位隆帯間に隆線によるS字状文、縦位連続短沈線文、隆帯下には波状、縦位の沈線施文。器面荒れる。	中期後葉
第63図 PL.142	5	深鉢 +6 口縁部破片	① 石英・白色粒 ② 赤褐色	口縁部内側隆帯が廻り肥厚、口縁横位隆帯間に縦位連続短沈線文、隆帯下には波状、縦位の沈線施文。器面荒れる。文様構成4と似る。	中期後葉
第63図 PL.142	6	深鉢 +22 口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 赤褐色	口縁部平坦に整えられ、端部が短く立ち上がる。斜位の集合沈線施文。	中期後葉
第63図 PL.142	7	深鉢 床 体部破片	① 石英・長石粒多 ② 明褐色	隆線による曲線文様、地文には斜位の集合沈線。器面の荒れ目立つ。	中期後葉信州系 3と同一個体
第63図 PL.142	8	深鉢 +18 体部破片	① 石英粒・白色粒多 ② 灰黄褐色	3本の隆線による懸垂文。地文には縦位矢羽根状集合沈線。器面の荒れ目立つ。	中期後葉信州系
第63図 PL.142	9	深鉢 +10 体部破片	① 石英粒・白色粒多 ② 灰黄褐色	隆線による懸垂文、これに繋がり斜位隆線文。地文には斜位の集合沈線。器面の荒れ目立つ。	中期後葉信州系
第63図 PL.142	10	深鉢 +19 体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 灰黄褐色	横位沈線文から、突起した渦巻き隆線文を伴う平行懸垂文。下位には縦位集合沈線。2次被熱。	中期後葉
第63図 PL.142	11	深鉢 床 体部破片	① 石英・長石粒・雲母粒 ② 黒褐色	隆線による曲線文様描く、側縁は沈線。文様間には縦位集合沈線文。	中期後葉
第63図 PL.142	12	深鉢 +9 体部破片	① 石英・長石粒 ② にぶい黄褐色	平行沈線による磨消懸垂文。地文はRL縄文施文。	中期後葉
第63図 PL.142	13	深鉢 床 体部破片	① 細：石英粒 ② 赤褐色	沈線による懸垂文、地文にはLR細縄文縦位施文。	中期後葉
第63図 PL.142	14	深鉢 床 底部 底：5.2	① 細：石英粒 ② 明褐色	縦位の細沈線懸垂文下端部が見える。	中期後葉

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第63図 PL.142	15	石鏃	覆土	未製品	3.0	2.1	0.6	2.5	側縁部分調整痕見られるが、全体に厚みを残す。	黒曜石	
第63図 PL.142	16	二次加工片	覆土	完形	3.5	2.8	0.9	4.8	やや大振りの剥片側縁に使用痕。	黒曜石	
第63図 PL.142	17	石鏃	覆土	未製品	1.9	1.2	0.4	0.8	角が丸みを持つ三角形を呈す、部分的に調整剥離が見られる。	黒曜石	
第63図 PL.142	18	二次加工片	覆土	完形	3.5	2.1	0.6	2.5	方形剥片の両側縁に使用痕。	黒曜石	
第63図 PL.143	19	二次加工片	覆土	完形	2.2	2.1	0.6	1.9	未製品の破断片か、側縁に調整痕。	黒曜石	
第63図 PL.143	20	二次加工片	覆土	完形	3.0	1.5	0.6	1.8	紡錘形剥片の弧状辺部分に使用痕。	黒曜石	
第63図 PL.143	21	打製石斧	+13	完形	8.6	3.2	1.8	26	細身の小型打製石斧か、薄手で基部、刃部がやや細くなる。	黒色安山岩	
第64図 PL.143	22	打製石斧	+18	欠損	(7.7)	5.3	1.8	(102)	基部片、粗い作り。基部から両面に自然面が残る。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第64図 PL.143	23	礫器	+9	完形	13.4	7.2	4.2	606	なすび形の扁平礫、顕著な使用痕は見られず。	石英閃緑岩	
第64図 PL.143	24	礫器	床	完形	14.0	11.8	10.9	2,220	やや大型の円礫、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	

#### 5-155号住居跡(第68~77図: PL.143~148)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第68図 PL.143	1	深鉢 床 口縁~体部 口:(36.0)	①粗:白色粒・角閃石安山岩(少) ②暗赤褐色	口縁部文様は、隆線による渦巻き楕円文構成。楕円文内には斜位の集合沈線文。体部は2条沈線による磨消懸垂文。RL 縄文縦位施文。	中期後葉古
第68図 PL.143	2	深鉢 +20 口縁~体部 口:(27.0)	①粗:白色粒・角閃石安山岩 ②暗褐色	4単位の波状口縁、口縁下やや幅広の無文帯を画し、隆帯による横位渦巻き楕円文様を描出する。区画文内には連弧状の短沈線文を充填するが、渦巻き部分狭隆部は刺突文状となる。文様帯下部には、平行磨消懸垂文で8分割し、縦位LRが充填施文。	中期後葉
第68図 PL.143	3	深鉢 +10 口縁~体部 口:(15.6)	①粗:白色粒・角閃石安山岩 ②褐色	隆線による横渦巻き文様、渦巻きから続く2本の隆線が垂下し体部を4分割。隆線には連続押圧文。地文には縦位RL充填施文。煤付着。	中期後葉
第68図 PL.143	4	深鉢 +4 口縁~体部	①細:白色粒 ②褐色	上端に面を持つ渦巻状小突起を口縁部に付し、円孔有す。突起下端より垂下する沈線により体部を4単位の区画文構成。区画文内にはLR細縄文を横位、縦位に充填施文。内面底部に煤付着。	中期後葉新
第68図 PL.143	5	深鉢 +8 口縁~体部	①石英・長石粒 ②黒褐色	口縁部4単位波状、突起か。波頂部および波底部に隆線による渦巻き文。ここから繋がる懸垂文が下方に延び、体部中位にも渦巻き文構成を為す。中位の渦巻き文には刺突文が付される。地文には縦位LR施文。	中期後葉
第68図 PL.143	6	深鉢 +21 体部	①粗:白色粒・褐色粒 ②暗褐色	上部に鋭く走る横位沈線文、全周せず途中で細くなって途切れる。体部は燃糸文Lを縦位全面に施文。	中期後葉
第69図 PL.143	7	深鉢 +34 口縁~体部2点 口:(35.6)	①粗:白色粒多・褐色粒 ②暗褐色	口縁部は外傾し無文、以下隆帯による渦巻き楕円文描出。文様下位部分のは隆帯が突起状に肥厚し半渦巻き文、横楕円文状を呈す。区画文内には重弧状の沈線を組み合わせ充填施文。体部は無文。	中期後葉
第69図 PL.143	8	深鉢 炉 口縁~体部 口:14.5	①細:白色粒・雲母 ②赤褐色	口縁部対になる部分が突起、そこに隆線で描いた両端部渦巻きとなるS字状文配す。上の渦巻きから横に延びた隆線端部も渦巻き文となる。この隆帯下側に沿って2段連続刺突文が配される。下の渦巻き文から出た2本の懸垂隆線は左右に連続するU字状文を描き、中を斜位の集合沈線で埋める。熱による白化見られる。	中期後葉信州系 炉体土器
第69図 PL.144	9	深鉢 炉 口縁~体部 口:(27.0)	①粗:白色粒(多)・角閃石安山岩 ②暗褐色	口縁部には2本隆線による楕円渦巻き文、楕円文側縁は沈線枠線。渦巻き文下から繋がる隆線による幅狭H字状、蛇行懸垂文。文様間には異方向の斜位集合沈線で充填施文。内面体部下半煤付着。	中期後葉信州系
第69図 PL.144	10	深鉢 +14 口縁~体部 口:(18.4)	①細:白色粒多・角閃石安山岩 ②にぶい赤褐色	口縁はやや内湾、無文部有し、2本の横位隆線で連結された縦S字状文、楕円文が描かれる。文様内は縦位集合短沈線で埋める。体部、S字状文から連なる2本の隆線による懸垂文。懸垂文間は異方向斜位沈線を施文。	中期後葉
第69図 PL.144	11	深鉢 埋喪 体部	①粗:白色粒 ②黒褐色	口縁部上端を欠く。横位の隆線が巡り、これに接して隆線による曲線懸垂文様を描かれる。文様間には粗く斜位の沈線文が見られる。	中期後葉信州系
第69図 PL.144	12	深鉢 +3 口縁~体部 口:(39.2)	①粗:白色粒多・角閃石安山岩 ②褐色	口縁はやや内湾、2本の横位隆線で連結された縦S字状文、楕円文が描かれ、これらから連結して1又は2本の隆線による懸垂文。懸垂文間は斜位沈線を交互矢羽根状に縦位施文。	中期後葉信州系

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第69図 PL.144	13	深鉢 +10 口縁～体部 口：16.0	① 細：白色粒多・角閃石安山岩 ② 黒褐色	隆線による渦巻き楕円文構成。楕円文内には斜位の集合沈線文。体部は縦集合条線文施文。	中期後葉
第69図 PL.144	14	深鉢 +10 口縁部破片	① 細：白色粒・角閃石安山岩少 ② にぶい赤褐色	口縁部に隆線によるS字状渦巻き文と懸垂文。口縁に沿って2本の沈線文が廻る。隆帯間には斜位の集合沈線。	中期後葉信州系
第70図 PL.144	15	深鉢 +11 口縁～体部 口：(42.0)	① 石英・長石粒・酸化粒 ② 明赤褐色	口縁部無文で大きく外傾し、端部は僅かに内屈、文様帯は下側低隆帯により渦巻き楕円文様を描出。文様間に突起を有す。文様内は縦集合沈線で埋める。	中期後葉新
第70図 PL.144	16	深鉢 +18 体部	① 粗：白色粒多・角閃石安山岩 ② 褐色	不問間隔に隆線による懸垂文。2本平行内磨消、また刻みをもつものも複数本見られる。隆線間には斜位の集合沈線文。	中期後葉
第70図 PL.144	17	深鉢 +14 体部	① 粗：白色粒・石英・雲母 ② 暗褐色	2本の隆線による逆U字状文描く、4単位か。頂部外側の隆線が太く肥厚し右側に連接する渦巻き文を描く。文様内には縦集合沈線文、文様間には斜位の集合沈線が充填される。	中期後葉信州系
第70図 PL.144	18	深鉢 +22 口縁～体部2点	① 粗：白色粒・雲母 ② 暗赤褐色	口縁から隆線による縦長のY状懸垂文を横に連続させる。上端部肥厚。側線は沈線、地文には斜位の集合沈線文施文。口縁端部摩滅。底断面面取りされ丸み有り。	中期後葉信州系
第70図 PL.144	19	深鉢 +10 体部～底部 底：8.0	① 細砂粒：白色粒・角閃石安山岩 ② 橙色	2条沈線により逆U字状懸垂文を横位に描き、体部を4分割か、区画文内中央に沈線で蛇行懸垂文を描き、両側を上下逆の重弧状文で埋めている。	中期後葉信州系
第70図 PL.144	20	深鉢 +20 口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 暗赤褐色	口縁下に横位沈線、隆線による渦巻き文。下位に細沈線による曲線文様か。地文にはLR縄文施文。煤付着。	中期後葉
第70図 PL.144	21	深鉢 +10 体部破片	① 微：石英粒・酸化粒 ② 赤褐色	平行磨消懸垂文、文様間には状文LR縦位施文後、蛇行懸垂沈線文。煤付着。器内面剥落。	中期後葉 22・23と同一個体
第70図 PL.144	22	深鉢 +10 体部破片	① 微：石英粒・酸化粒 ② 赤褐色	平行磨消懸垂文、文様間には状文LR縦位施文後、蛇行懸垂沈線文。煤付着。器内面剥落。	中期後葉
第70図 PL.144	23	深鉢 +10 体部破片	① 微：石英粒・酸化粒 ② 赤褐色	平行磨消懸垂文、文様間には状文LR縦位施文後、蛇行懸垂沈線文。煤付着。器内面剥落。	中期後葉
第70図 PL.145	24	深鉢 +21 体部破片	① 微石英粒・酸化粒 ② 褐色	体部片、RL縄文全面に施文。	中期後葉 25と同一個体
第70図 PL.145	25	深鉢 +21 体部破片	① 微石英粒・酸化粒 ② 褐色	体部片、RL縄文全面に施文。	中期後葉
第71図 PL.145	26	深鉢 +20 口縁部破片	① 粗：白色粒 ② 赤褐色+黒褐色	隆線による渦巻き楕円文構成。楕円内には縦集合沈線文見られる。口唇部内側に隆帯。	中期後葉
第71図 PL.145	27	深鉢 +24 口縁部破片	① 石英・白色粒 ② 暗赤褐色	隆線による口縁部隆線と渦巻き懸垂文。斜位の集合沈線文付される。	中期後葉信州系
第71図 PL.145	28	深鉢 +23 口縁部破片	① 粗：石英・長石粒多 ② 暗赤褐色	口縁部内側に折り返され肥厚、口縁下に横位隆帯で無文部を画す。以下2本沈線懸垂文、斜位の集合沈線施文。	中期後葉
第71図 PL.145	29	深鉢 +36 口縁部破片	① 白色粒少 ② にぶい褐色	口縁部横走する隆線から下方に延び口縁部文様を構成か。横位矢羽根状短沈線文。	中期後葉
第71図 PL.145	30	深鉢 +20 口縁部破片	① 石英・長石 ② 黒褐色	渦巻き楕円文か。	中期後葉
第71図 PL.145	31	深鉢 +28 口縁部破片	① 石英粒・角閃石安山岩 ② 褐色	口縁部内側に肥厚、隆帯による渦巻き楕円文構成か。煤付着。	中期後葉
第71図 PL.145	32	深鉢 +10 口縁部破片	① 粗：白色粒・片岩粒(少) ② 黒褐色	口縁部に高く付きだした突起が付く、側縁から続く隆線は上端で渦巻き文作るか、突起下位から隆線により渦巻き文から延びる懸垂文見られる。地文には斜位短沈線、波状沈線文見られる。	中期後葉信州系
第71図 PL.145	33	深鉢 床 口縁部破片	① 細：石英(多)・雲母 ② 暗褐色	隆線が付されたアーチ状把手。	中期後葉
第71図 PL.145	34	深鉢 +19 口縁部破片	① 粗：白色粒・石英 ② 暗褐色	口縁部内側に隆線、外面口縁に沿って2本隆帯とやや突起した渦巻き文付す。渦巻き文から下方に複数の隆線延びる。	中期後葉 37と同一個体か
第71図 PL.145	35	深鉢 取っ手	① 粗：白色粒 ② 暗褐色	波状口縁部、橋状取っ手、隆線による渦巻き文様意匠。	中期後半 40と同一個体
第71図 PL.145	36	深鉢 床 口縁部破片	① 粗：白色粒・石英・雲母 ② 極暗赤褐色	三脚の橋状把手、隆線で縁取られ、それぞれに沈線による渦巻き文様描く。	中期後葉
第71図 PL.145	37	深鉢 +31 口縁部破片	① 粗：白色粒・(大粒)石英 ② 暗褐色	口縁から続く隆線が突起部で渦巻き文を構成、さらに下位にも延び渦巻き文を作る。また内側にも突起し隆線が付く。	中期後葉信州系 34と同一個体か
第71図	38	深鉢 体部破片	① 細：白色粒 ② 暗褐色	口縁下に沈潜による横位楕円文描き、中を重弧状沈線文で埋める。以下隆帯による楕円文か。	中期後半 7と同一個体
第71図 PL.145	39	深鉢 +22 体部破片	① 石英粒・角閃石安山岩 ② 黒褐色	隆線による渦巻き、曲線懸垂文様、さらに平行2本沈線による弧状文描き、文様間に縦集合沈線を施文。	中期後葉信州系

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎 ②色 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第71図 PL.145	40	深鉢 +10 体部破片	① 石英・長石粒 ② にぶい赤褐色	弧状隆線間に隆線による中に渦巻き文を持つ平行懸垂文。地文は斜位沈線文。煤付着。	中期後葉 35と同一個体
第71図 PL.145	41	深鉢 床 口縁部破片	① 粗：石英粒・雲母粒少 ② 暗赤褐色	波状部の突起欠損、突起下位に隆線による渦巻き文、さらに左右対称の渦巻き懸垂文見られる。地文には斜位の集合沈線。	中期後葉信州系
第71図 PL.145	42	深鉢 +25 体部破片	① 石英・長石・角閃石安山岩 ② 橙色	隆線による横位渦巻き文見られ、文様下位には縦位の沈線文。器面風化。	中期後葉
第71図 PL.145	43	深鉢 +28 体部破片	① 石英・長石粒 ② 褐色	隆線による懸垂曲線文様描く。斜位の集合沈線で埋める。	中期後葉信州系
第71図 PL.145	44	深鉢 +8 体部破片	① 細：石英粒 ② 赤褐色	隆線による曲線文、側線は沈線。斜位の集合沈線。	中期後葉信州系
第71図 PL.145	45	深鉢 +36 体部破片	① 細：石英粒・長石粒 ② 黒褐色	隆線による蕨手錠懸垂文および接続する曲線文様描く。蕨手文内無文、他には縦位、斜位の集合沈線文。	中期後葉信州系
第72図 PL.145	46	深鉢 炉 体部破片	① 白色粒少 ② 暗褐色	沈線による縦位、横位の集合沈線文、下位には連続刺突文有す横位隆線。	中期後葉
第72図 PL.145	47	深鉢 +21 体部破片	① 石英・長石粒 ② 黒褐色	隆線による横楕円文、中には横位矢羽根状沈線文。	中期後葉
第72図 PL.145	48	深鉢 +10 体部破片	① 白色粒・石英粒石英粒 ② 暗褐色	刻みを付す垂下隆線、左右には斜位異方向集合沈線。	中期後葉
第72図 PL.146	49	深鉢 +29 体部破片	① 白色粒・石英粒 ② 暗褐色	2本隆線による懸垂文、横走文、地文には矢羽根状細沈線文。	中期後葉
第72図 PL.146	50	深鉢 +26 体部破片	① 石英・長石粒多 ② 黒褐色	隆線による懸垂文、斜位集合沈線。内面剥落。	中期後葉
第72図 PL.146	51	深鉢 +20 体部破片	① 石英粒・雲母粒 ② にぶい赤褐色	隆線による蛇行懸垂文、地文は斜位の集合沈線文。煤付着。	中期後葉信州系
第72図 PL.146	52	深鉢 +7 体部破片	① 細：石英・長石粒 ② にぶい赤褐色	隆線による曲線文様、斜位の集合沈線文。	中期後葉信州系
第72図 PL.146	53	深鉢 +17 体部破片	① 石英粒・雲母粒 ② 黒褐色	垂下隆線、地文は異方向の集合沈線文。	中期後葉信州系
第72図 PL.146	54	深鉢 +23 体部破片	① 石英・長石粒 ② にぶい赤褐色	横位隆線と接続する2本の磨消懸垂文、沈線懸垂文。地文には斜位の沈線文縦位。	中期後葉 40と同一個体
第72図 PL.146	55	深鉢 +32 体部破片	① 石英・長石粒 ② 暗褐色	隆線による曲線文、側線は沈線。斜位の集合沈線。	中期後葉信州系
第72図 PL.146	56	深鉢 +20 体部破片	① 細：石英粒 ② 暗褐色	隆線による懸垂文、縦位集合沈線で埋め、2本の沈線で隆線を繋ぐ弧状文描く。	中期後葉信州系
第72図 PL.146	57	深鉢 +6 体部破片	① 石英・雲母粒 ② にぶい赤褐色	2本隆線による懸垂文。縦位異方向集合沈線文。	中期後葉信州系
第72図 PL.146	58	深鉢 +19 体部破片	① 石英粒少 ② 黒褐色	隆線による懸垂文、縦位集合沈線。	中期後葉
第72図 PL.146	59	深鉢 +2 体部破片	① 石英・長石粒多 ② 暗褐色	2本の隆線による磨消懸垂文、地文には斜位の集合沈線施文。器内面剥落多。	中期後葉
第72図 PL.146	60	深鉢 +10 体部破片	① 石英・長石粒多 ② 黒褐色	2本の隆線による懸垂文が見られ、器面は無文。器内面剥落多。	中期後葉新 62と同一個体
第72図 PL.146	61	深鉢 +21 口縁部破片	① 細：石英粒少 ② にぶい黄橙色	口縁端部やや内削ぎ状を呈す、無文口縁部片、研磨。微量赤彩。	中期後葉
第72図 PL.146	62	深鉢 +20 体部破片	① 石英・長石粒多 ② 暗褐色	隆線による懸垂文が見られ、器面は無文。器内面剥落多。	中期後葉新 60と同一個体
第73図 PL.146	63	深鉢 +10 体部～底部 底：7.8	① 粗：白色粒・石英多・角閃石 安山岩 ② 赤褐色	隆線による曲線文様、描き斜位集合沈線を埋める。器面の剥落顕著。	中期後葉
第73図 PL.146	64	深鉢 炉 体部～底部 底：6.8	① 石英・長石粒 ② 赤褐色	底部片、底端部に丸み、施文されたLR縄文の下端部見える。	中期後葉
第73図 PL.146	65	深鉢 +12 体部～底部 底：8.8	① 細：石英・雲母粒 ② 赤褐色	沈線による懸垂文の下端部分が僅かに見える。内面に煤付着。底面に網代痕僅かに残る。	中期後葉
第73図 PL.146	66	深鉢 +34 底部 底：11.0	① 粗：石英・長石粒 ② 明黄褐色	厚手の底部片。器面の剥落顕著。底面に網代痕。	中期後葉
第73図 PL.146	67	深鉢 +12 体部～底部 底：(9.0)	① 石英・白色粒多 ② 褐色	無文底部片。	中期後葉
第73図 PL.146	68	深鉢 +27 体部	① 石英・長石粒 ② 赤褐色	無文の底部片、内面に煤付着。	中期後葉
第73図 PL.146	69	深鉢 +19 体部～底部 底：6.6	① 石英・長石粒少 ② 赤褐色	無文の底部片、内面に煤付着。	中期後葉
第73図 PL.146	70	深鉢 覆土 底部 底：(7.0)	① 石英粒・長石粒 ② 赤褐色	隆線による懸垂文の下端部残る。底面に白色の付着物。	中期後葉
第73図 PL.146	71	深鉢 覆土 底部 底：6.4	① 粗：石英・長石粒 ② 橙色	無文底部片。内面剥落。	中期後葉
第73図 PL.146	72	深鉢 +21 体部～底部 底：9.6	① 石英粒・長石粒 ② 明赤褐色	小さめの底部から体部が大きく開いて立ち上がる。無文で研磨見られる。内面に煤付着。	中期後葉

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第73図 PL.146	73	石鏃	覆土	完形	2.3	1.5	0.2	0.6	凹基無茎、扱りは三角、薄手で丁寧な作り。	黒曜石	
第73図 PL.146	74	石鏃	覆土	完形	(2.8)	1.7	0.3	(0.9)	凹基無茎、扱りはV状で比較的深い、薄手で作りは丁寧。	黒曜石	
第73図 PL.146	75	石鏃	床	欠損	2.3	(1.1)	0.4	0.6	凹基無茎、扱りは浅く片脚部を欠く。	黒曜石	
第73図 PL.146	76	石鏃	+30	完形	(1.3)	(1.1)	0.3	(0.3)	凹基無茎、小型品で先端部分がやや肥厚。	黒曜石	
第73図 PL.146	77	石鏃	覆土	欠損	(2.1)	1.6	0.3	0.9	凹基無茎、比較的深い扱りを持つ、先端部を欠く。	黒曜石	
第73図 PL.146	78	石鏃	床	ほぼ 完形	(2.0)	1.7	0.4	(0.9)	凹基無茎、扱りはU状で両側縁部はやや丸みを呈す。	黒曜石	
第73図 PL.147	79	石鏃	覆土	未製品	2.1	(1.4)	0.4	(1.2)	側縁部分に粗い調整、厚みを残す。	黒曜石	
第73図 PL.147	80	石鏃	覆土	欠損	1.8	(1.0)	0.3	(0.4)	凹基無茎、粗い作り、片脚部分欠。	黒曜石	
第73図 PL.147	81	石鏃	覆土	欠損	1.4	(1.1)	0.3	(0.4)	凹基無茎、扱りに浅く脚が大きく開く形で片脚を欠く。	黒曜石	
第73図 PL.147	82	石鏃	覆土	欠損	(2.1)	(1.6)	0.6	(1.6)	平基無茎、ほぼ三角形で角が丸みを帯びる、一部欠く。	黒曜石	
第73図 PL.147	83	石錐	覆土	完形	(1.9)	0.6	0.3	(0.3)	小型棒状錐、つまみ部欠損か。	黒曜石	
第74図 PL.147	84	石錐	覆土	完形	2.8	1.2	0.9	1.5	錐部は三角錐形を呈し調整は粗い。	黒曜石	
第74図 PL.147	85	二次加工片	覆土	完形	1.8	1.5	0.6	1.4	やや厚手の剥片側縁に調整痕。	黒曜石	
第74図 PL.147	86	二次加工片	覆土	完形	2.6	2.5	0.6	4.3	片面に大きく水和面、側縁に刃部調整。	黒曜石	
第74図 PL.147	87	二次加工片	覆土	完形	2.9	2.9	1.1	7.6	不定形な剥片の一侧辺に刃部作出。	黒曜石	
第74図 PL.147	88	楔形石器	覆土	完形	2.1	2.6	0.7	3.0	楕円形の対となる縁辺部に細かな刃部を作出。	黒曜石	
第74図 PL.147	89	二次加工片	覆土	完形	3.2	2.0	0.5	4.1	台形を呈す剥片の側縁に使用痕。	黒曜石	
第74図 PL.147	90	二次加工片	覆土	完形	1.5	2.3	0.4	1.1	石鏃の未製品か、片側縁に剥離痕。	黒曜石	
第74図 PL.147	91	打製石斧	炉内	完形	10.8	5.0	1.3	95	撥形、刃部摩耗し丸みを呈す。	細粒輝石安山岩	
第74図 PL.147	92	打製石斧	+29	欠損	14.8	5.0	1.8	194	短冊形、やや細身で長い。軟質の石材利用。	粗粒輝石安山岩	
第74図 PL.147	93	打製石斧	+21	完形	12.9	5.1	1.7	131	撥形、円刃でやや薄手である。	細粒輝石安山岩	
第74図 PL.147	94	打製石斧	+26	完形	10.6	5.3	1.9	130	撥形、基部はやや厚く刃部は薄くなる。	粗粒輝石安山岩	
第74図 PL.147	95	打製石斧	+22	完形	10.1	4.3	1.5	88	短冊形、基部はやや薄く丸みを呈す。	黒色安山岩	
第74図 PL.147	96	打製石斧	覆土	完形	10.7	5.1	1.5	117	撥形、片面に大きく自然面。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第74図 PL.147	97	打製石斧	+19	完形	7.3	3.3	1.1	35	小型品、撥形であるが刃部の開きは弱い。やや厚み有り。	黒色安山岩	
第74図 PL.147	98	打製石斧	+22	完形	9.2	5.6	1.4	85	撥形、やや短身で刃は薄手である。	黒色頁岩	
第74図 PL.147	99	打製石斧	+17	完形	9.1	5.2	1.0	75	扁平で片面に自然面大きく残る、鋭利さ見られず簡単な作り。	細粒輝石安山岩	
第75図 PL.147	100	打製石斧	+16	欠損	(3.5)	6.0	1.5	(28)	刃部片。片面は自然面。	黒色頁岩	
第75図 PL.147	101	打製石斧	+26	欠損	(8.3)	5.1	1.6	(97)	短冊形、基部および刃部先端を僅かに欠くか。	細粒輝石安山岩	
第75図 PL.147	102	打製石斧	覆土	完形	(11.0)	5.3	1.1	(116)	板状礫利用、両面に自然面薄手の作り。	粗粒輝石安山岩	
第75図 PL.147	103	打製石斧	+21	完形	(15.6)	8.3	1.4	(286)	大型の板状礫利用、幅広く薄手の作り。	粗粒輝石安山岩	
第75図 PL.147	104	打製石斧	+18	完形	(10.9)	5.2	2.0	(123)	短冊形、基部がやや薄く作られる。	黒色頁岩	
第75図 PL.147	105	打製石斧	+19	欠損	(5.7)	3.8	1.0	(34)	弱い括りが見られる基部片。	細粒輝石安山岩	
第75図 PL.147	106	打製石斧	+18	欠損	(9.0)	5.2	1.6	(93)	撥形、刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第75図 PL.147	107	打製石斧	+13	欠損	(9.6)	4.9	1.0	(67)	板状礫利用した撥形、薄手で両面に自然面。刃部欠損。	細粒輝石安山岩	

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第75図 PL.147	108	打製石 斧	+18	欠損	(10.3)	4.9	1.8	(115)	撥形、刃部の開き方は弱い。刃部を欠損。	細粒輝石安山岩	
第75図 PL.147	109	打製石 斧	+16	欠損	(7.9)	5.4	1.6	(97)	基部片、両面に自然面。片側縁部は自然面が残りほとんど無調整。	粗粒輝石安山岩	
第75図 PL.147	110	打製石 斧	床	欠損	(7.2)	4.4	1.4	(67)	基部片と思われる。割れ口は新しい。	砂岩	
第75図 PL.147	111	打製石 斧	覆土	欠損	(10.0)	6.6	1.9	109	比較的大型品の基部片、斜めに割れている。	細粒輝石安山岩	
第75図 PL.147	112	打製石 斧	+23	欠損	(8.2)	5.0	1.0	(52)	中央部が弱く括れる。薄手で両面に自然面を残す、刃部を欠損。	細粒輝石安山岩	
第75図 PL.147	113	打製石 斧	+42	欠損	(6.7)	4.0	1.1	(42)	基部片、端部上面に自然面。	黒色頁岩	
第75図 PL.147	114	打製石 斧	+23	欠損	(9.1)	5.1	2.0	(79)	基部を剥離、刃部欠損。	黒色頁岩	
第75図 PL.147	115	打製石 斧	+18	欠損	(7.7)	4.4	1.5	(63)	基部片、端は斜めで上面は自然面。刃部を欠く。	黒色頁岩	
第75図 PL.147	116	打製石 斧	+24	欠損	(6.8)	4.4	2.2	(73)	厚手の基部片。	黒色頁岩	
第75図 PL.147	117	打製石 斧	+17	欠損	(5.9)	3.7	1.6	(34)	基部片と思われる。	黒色安山岩	
第76図 PL.147	118	打製石 斧	+22	欠損	(7.5)	5.8	1.1	(78)	薄手で基部および刃部先端を欠損か。	細粒輝石安山岩	
第76図 PL.147	119	打製石 斧	+29	欠損	(7.1)	7.9	1.1	(91)	大型の板状礫利用、幅広で薄手の作り。刃部欠く。14と近似。	粗粒輝石安山岩	
第76図 PL.147	120	石匙	+17	完形	6.3	3.6	0.6	17.5	縦型で刃部は丸く、つまみ部分やや大きく作られる。全体に薄手の作り。	黒色頁岩	
第76図 PL.147	121	石匙	+11	完形	9.1	5.5	0.6	38	一次剥片から作出された横型。片面に自然面大きく残す。上部は中央に四角いつまみが作られる。挟りはほとんど見られず、刃は簡単な作り。	黒色安山岩	
第76図 PL.147	122	スクレ イパー	床	完形	7.0	3.7	1.0	32	曲がりを持った剥片の弧状下辺部に刃部を作出。	黒色頁岩	
第76図 PL.148	123	スクレ イパー	+6	完形	8.3	4.6	0.7	48	板状でほぼ四角形を呈す。下辺部分に刃部を作出。	黒色頁岩	
第76図 PL.148	124	打製石 斧	+27	完形	11.9	3.2	1.0	57	細身の打製石斧か、上部に両側から浅い挟り、刃部は僅かに細くなる。	黒色頁岩	一部に煤
第76図 PL.148	125	磨製石 斧	+13	欠損	(1.9)	1.5	0.8	(4.5)	小型定角式の基部片、やや厚みを有す。	蛇紋岩	
第76図 PL.148	126	磨石	+13	完形	12.1	9.8	6.5	1,110	やや大型の円礫、両面使用。比較的平滑。	粗粒輝石安山岩	
第76図 PL.148	127	磨石	床	完形	10.5	7.8	6.4	792	卵形の円礫、表面平滑。端部に打撃による剥離有り。すす付着。	粗粒輝石安山岩	
第76図 PL.148	128	磨石	+12	完形	4.2	4.1	3.3	78	小円礫。	粗粒輝石安山岩	
第76図 PL.148	129	磨石	+25	完形	11.8	10.0	7.9	1,231	やや大型の円礫、両面使用。比較的平滑。	粗粒輝石安山岩	
第76図 PL.148	130	磨石	+9	完形	13.4	7.9	5.7	942	やや細長い礫、一端が平坦で敲打具として使用か。表面にも浅い打痕。	粗粒輝石安山岩	
第77図 PL.148	131	礫器	+22	欠損	(7.7)	5.4	4.5	(302)	棒状礫片、表面に浅い打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第77図 PL.148	132	礫器	床	欠損	(6.4)	6.1	4.9	(401)	角柱状の礫片。	粗粒輝石安山岩	
第77図 PL.148	133	凹石	+16	欠損	(10.2)	(4.2)	4.0	(209)	扁平な礫の両面に凹み穴。また側縁部にも打痕による剥離。半分欠。	安山岩	
第77図 PL.148	134	台石	炉	完形	31.2	9.5	7.7	4,100	断面隅丸方形の大型棒状礫、平らな対面に顕著な研磨痕。炉縁に埋設。	石英閃緑岩	
第77図 PL.148	135	石棒	炉	欠損	(21.8)	11.9	10.9	(4,060)	有頭、大型で頭部の一部を欠損。被熱。炉の南東隅に直立。	デイサイト	
第77図 PL.148	136	石棒	+16	欠損	(29.4)	(10.5)	10.3	(3,850)	大型石棒、頭部に向かってやや細くなり頭部は丸みを有す。被熱。	緑色片岩	
第77図 PL.148	137	軽石製 品	+13	完形	6.1	3.9	1.7	14	板状で撥形を呈す。研磨による成形。	軽石	
第77図 PL.148	138	装身具	+38	完形	6.6	2.4	0.8	27	丸みを持った板状の長楕円形を呈す。中央に2孔を有し、片側縁の両端側に3本と4本づつの細い切れ込みを持つ。表面は平滑に磨かれる。	滑石	

5-156号住居跡(第81~85図: PL.148~150)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考	
第81図 PL.148	1	深鉢 覆土	口縁~体部 口: 14.6	① 細: 白色粒 ② 暗褐色	キャリパー型の小型品。RL 縄文を口縁部には横位、以下体部は縦位方向全面施文。内面研磨。	中期後葉
第81図 PL.148	2	深鉢 覆土	口縁~体部 口: 24.0	① 粗: 白色粒・石英・角閃石安山岩 ② 暗褐色	口縁部には隆線による渦巻き弧状文、弧状文内には沈線により楕円文、渦巻き文様が描かれ、楕円文内には重弧状文渦、巻き文が描かれる。体部には縦位条線施文後、2本の沈線による懸垂文。	中期後葉信州系
第81図 PL.148	3	深鉢 覆土	体部~底部 底: 6.8	① 粗: 白色粒多・石英多・角閃石安山岩 ② 暗赤褐色	隆線により横位5単位のU字状懸垂文描く。文様内は弧状の短沈線文を連弧状に充填施文。1カ所中央に2本沈線による懸垂文。U字状文間は磨消し部と斜位沈線が見られる部分がある。	中期後葉信州系

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土調 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第81図 PL.148	4	深鉢 覆土 口縁～体部 口：(24.0)	①粗：白色粒・石英 ②褐色	隆線による横位渦巻き文から繋がる垂下文。口縁部には隆線文に沿い、沈線による偏平な楕円文様が描かれ、中を縦位短沈線で埋める。体部は斜位異方向集合沈線で樺状に施文。口縁部に補修孔2、1つは未貫通。	中期後葉信州系
第81図 PL.148	5	深鉢 覆土 口縁～体部	①粗：白色粒(多)・石英 ②褐色	口縁部下、横位連続して突起した渦巻き文、S字状文を描き、対となる位置には渦巻き文から連続する環状突起を有すと思われる。体部には隆線から繋がる横位連続U状文を描く。文様内を斜位の集合沈線で埋める。口縁部には横位短沈線がまた交互刺突文がそれぞれの渦巻き文を繋ぐように配される。	中期後葉信州系
第81図 PL.149	6	深鉢 覆土 体部	①粗：石英多・雲母多 ②赤褐色	2本隆線による渦巻き意匠と平行懸垂文交互に描出。縦位矢羽根状集合沈線やや乱雑に施文。	中期後葉信州系
第81図 PL.149	7	深鉢 +28 口縁部破片	①石英・白色粒多 ②極暗赤褐色	隆線による渦巻き楕円文構成か。楕円文内、RL縄文施文。3本沈線による懸垂文。	中期後葉
第81図 PL.149	8	深鉢 床 口縁～体部破片	①石英粒・雲母粒 ②赤褐色・暗赤褐色	口縁に隆線による弧状文描き、中を縦位沈線で埋める。弧状文連結部からは上端渦巻き文の蛇行沈線文が垂下、また弧底部からは3本の沈線の垂下文。地文はLR縄文縦位か。内外面煤付着。	中期後葉
第81図 PL.149	9	深鉢 +22 口縁部破片	①細：石英・雲母粒少 ②暗褐色	隆帯による渦巻き楕円文構成か。LR横位。	中期後葉
第81図 PL.149	10	深鉢 +34 口縁部破片	①細：石英・長石粒 ②黒褐色	隆線による渦巻き楕円文構成か。側線は沈線。楕円内にはLR細縄文施文。内面研磨。	中期後葉
第81図 PL.149	11	深鉢 +34 体部破片	①粗：白色粒 ②褐色	隆線による渦巻き懸垂文、地には縦位LR縄文施文後、沈線による渦巻き文様などが描かれる。	中期後葉
第81図 PL.149	12	深鉢 +28 体部破片	①石英粒・白色粒 ②黒褐色	2本沈線による渦巻き文?蛇行、幅狭U字状懸垂文。地文縄文は縦位LR施文。煤付着。	中期後葉
第82図 PL.149	13	深鉢 +3 体部破片	①長石粒・角閃石安山岩 ②明褐色	沈線による渦巻き文?描き、下位に4本沈線で垂下文。縄文LR縦位施文後、沈線により、蛇行懸垂文描く。雑な施文。器面摩滅。	中期後葉
第82図 PL.149	14	深鉢 +30 口縁部破片	①石英粒・白色粒 ②にぶい褐色	低隆帯による渦巻き楕円文を構成か。楕円文内、2段の交互刺突文。煤付着。	中期後葉信州系
第82図 PL.149	15	深鉢 +13 口縁部破片	①石英・雲母粒・長石粒多 ②にぶい褐色	口縁部に端部渦巻き状のS字状文が配され、繋がる横位隆線間には斜位の短沈線文。	中期後葉信州系
第82図 PL.149	16	深鉢 +27 口縁～体部破片	①細：白色粒少 ②明黄褐色	口縁部横位隆帯で画された文様帯内に、端部が渦巻き状のS字状文が配される。左右は縦位沈線文。体部は沈線による重弧状文、縦位文、弧状文が描かれる。	中期後葉
第82図 PL.149	17	深鉢 +29 体部破片	①細：石英粒・長石粒 ②褐灰色	鋭く押された刺突文有す横位隆帯、下位に縦位RL縄文見える。	中期後葉
第82図 PL.149	18	深鉢 +9 体部破片	①石英・長石粒多 ②橙色	横位沈線文、地文には細縄文LRを縦位施文。	中期後葉
第82図 PL.149	19	深鉢 +29 口縁部破片	①石英粒・雲母粒 ②極暗赤褐色	口唇部内側に肥厚。隆線による楕円文描くか、重弧状沈線文描く。	中期後葉信州系
第82図 PL.149	20	深鉢 +36 口縁～体部破片	①石英粒・雲母粒 ②暗赤褐色	隆線による弧状文、弧状文間からは隆線による垂下文。異方向斜位の沈線文が充填施文される。	中期後葉信州系
第82図 PL.149	21	深鉢 覆土 口縁～体部破片 2点	①粗：石英・雲母 ②暗褐色	口縁部肥厚、隆線によるS字状渦巻き文と上下の渦巻き文から連続して左右に2本隆線が伸び、隣接する渦巻き文を結ぶ。隆線上位に沈線による2条の平行帯が描かれ、ここに交互刺突文が2段施文される。体部隆線文様外には斜位の集合沈線文。	中期後葉信州系
第82図 PL.149	22	深鉢 +5 口縁部破片	①細：微石粒少 ②にぶい黄橙色	隆帯による渦巻き楕円文構成か。縦位沈線充填。	中期後葉
第82図 PL.149	23	深鉢 床 口縁部破片	①石英粒・雲母粒 ②暗赤褐色	口縁部横位隆線上に横楕円文、下位には蛇行懸垂文。楕円文内、体部には斜位集合沈線文。	中期後葉信州系 25と同一個体
第82図 PL.149	24	深鉢 +31 口縁部破片	①石英・長石・雲母粒 ②赤褐色	隆帯による連弧文か、弧状文内斜位の沈線施文。体部は斜位、弧状の沈線文。	中期後葉信州系
第82図 PL.149	25	深鉢 +3 口縁部破片	①粗：石英・雲母 ②黒褐色	口縁部に隆線による渦巻き懸垂文。連接する横位隆線上に斜位の短沈線文、隆線下位にも斜位集合沈線文。	中期後葉信州系 23と同一個体
第82図 PL.149	26	深鉢 +19 突起	①石英・長石・白色粒多 ②褐色	三角形を呈す突起片、上部にも円窓、三脚で隆線、沈線で飾られる。	中期後葉
第82図 PL.149	27	深鉢 +40 体部破片	①石英・白色粒 ②暗褐色	隆帯による縦S字状文、これから横にも複数の隆線が延びる。隆線上位に刺突文。	中期後葉信州系
第82図 PL.149	28	深鉢 +49 体部破片	①石英・長石粒多 ②にぶい褐色	隆線による蛇行、平行の懸垂文。地文は斜位の沈線。	中期後葉信州系
第82図 PL.149	29	深鉢 +16 体部破片	①石英粒・雲母粒少 ②黒褐色	上位に連続刺突文を有す横位隆線、下位には縦位矢羽根状沈線文。	中期後葉信州系
第82図 PL.149	30	深鉢 +37 体部破片	①石英粒・長石粒 ②にぶい赤褐色	2本隆線による曲線文か。地文には沈線による平行線文、斜位集合沈線文見える。	中期後葉信州系
第82図 PL.149	31	深鉢 +34 体部破片	①石英・白色粒 ②にぶい褐色	垂下隆線、側線に沈線。矢羽根状沈線文。煤付着。	中期後葉信州系
第83図 PL.149	32	深鉢 +4 体部破片	①細：石英・雲母粒少 ②赤褐色	3本の垂下隆線による縦区画、間には縦位矢羽根状沈線文。	中期後葉信州系
第83図 PL.149	33	深鉢 床 体部破片	①石英・長石・雲母粒少 ②黒褐色	隆線懸垂文、縦位重弧状の沈線文。	中期後葉信州系
第83図 PL.150	34	深鉢 +4 体部破片	①雲母粒 ②黒褐色	間を磨り消した2本隆線の懸垂文。地文は斜位の集合沈線文。	中期後葉信州系
第83図 PL.150	35	深鉢 +28 体部破片	①石英・白色粒 ②にぶい褐色	異方向の斜位集合沈線文。	中期後葉



第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			①胎土 ②色調				文様の特徴等	備考	
第83図 PL.150	36	深鉢 床	体部破片						①細：微石英粒 ②黒色	2本の隆線による曲線文描くか。煤付着。	中期後葉
第83図 PL.150	37	深鉢 +24	体部破片						①石英・長石粒多 ②にぶい赤褐色	隆線による渦巻き文から左右に3本の横位隆線が延びる。下位には横位重弧状沈線文。器内面剥離。	中期後葉信州系
第83図 PL.150	38	深鉢 +32	口縁部破片						①石英粒・白色粒 ②にぶい赤褐色	口縁部外側断面三角に肥厚。内外面丁寧な研磨。	中期後葉
第83図 PL.150	39	深鉢 +20	体部～底部 底：5.4						①細：石英・長石粒少 ②赤褐色	小型土器、無文。外面研磨、内面に煤付着。	中期後葉
第83図 PL.150	40	深鉢 +32	体部～底部 底：10.0						①長石粒・雲母粒 ②赤褐色	隆線懸垂文、斜位沈線文。器面剥落。	中期後葉
第83図 PL.150	41	深鉢 +25	把手破片						①粗：白色粒・雲母少 ②にぶい赤褐色	大ぶりの橋状把手、弧状を呈す丸棒状のものに沿って、三本の隆線を断面三角になるように貼り付ける。	中期後葉
第83図 PL.150	42	耳栓 覆土	完形 長：2.25 幅：2.3						①細：夾雑物少 ②にぶい褐色	鼓状、両面に沈線による組み合わせ渦巻き文。研磨。	中期後葉？
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第83図 PL.150	43	石鎌	覆土	ほぼ 完形	(1.6)	2.0	0.3	(0.8)	凹基無茎、短鎌で脚が大きく開く。先端部分を僅かに欠く。	黒曜石	
第83図 PL.150	44	石鎌	床	完形	2.0	1.3	0.4	0.7	小型の平基無茎、二等辺三角形を呈す。	黒曜石	
第83図 PL.150	45	石鎌？	覆土	欠損	(1.4)	1.5	0.4	(0.8)	未製品か、欠損品。	黒曜石	
第83図 PL.150	46	石鎌	覆土	欠損	(1.6)	1.7	0.4	(1.0)	平基無茎、先端部分を欠く。	黒曜石	
第83図 PL.150	47	二次加工片	覆土	欠損	1.4	1.4	0.5	0.8	小型台形の剥片、破断品か、側縁に刃部作出。	黒曜石	
第83図 PL.150	48	石鎌？	覆土	欠損	(1.6)	1.1	0.3	(0.5)	片面に自然面残る、側縁部分に剥離見られるが部分的。	黒曜石	
第83図 PL.150	49	石錐	覆土	欠損	(1.9)	0.6	0.5	(0.5)	棒状錐の欠損品。	黒曜石	
第83図 PL.150	50	石匙	床	完形	2.4	1.9	0.5	1.6	一見石鎌に見えるが小型横型石匙の可能性が高い。	黒曜石	
第83図 PL.150	51	打製石 斧	覆土	完形	9.9	4.9	1.7	97	撥形、刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第83図 PL.150	52	打製石 斧	覆土	完形	10.0	5.2	1.5	95	撥形、比較的薄手で作りは粗い。	細粒輝石安山岩	
第84図 PL.150	53	打製石 斧	覆土	完形	12.6	5.8	2.8	266	片面に大きく自然面、基部および片側側縁が厚い形。未製品か。	粗粒輝石安山岩	
第84図 PL.150	54	打製石 斧	覆土	欠損	(4.3)	4.7	1.5	(36)	刃部片、刃先部分は薄く尖る。	細粒輝石安山岩	
第84図 PL.150	55	打製石 斧	覆土	欠損	(5.5)	4.6	1.8	(48)	基部片と思われる、端は円形を呈す。	細粒輝石安山岩	
第84図 PL.150	56	打製石 斧	床	欠損	(10.4)	4.6	2.2	(150)	撥形、厚手で側縁部は平らで角張る。反りを持ち、刃部を欠損する。	黒色頁岩	
第84図 PL.150	57	打製石 斧	覆土	欠損	(7.3)	4.7	1.7	(84)	撥形か、片面に自然面残る、刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第84図 PL.150	58	打製石 斧	覆土	完形	11.1	5.3	1.5	99	片面に大きく自然面、基部がやや折れた形。成形剥離は僅かで粗い。	細粒輝石安山岩	
第84図 PL.150	59	スクレイパー	覆土	完形	7.3	5.6	1.2	59	片面自然面のハマグリ形剥片利用、下辺部に簡単な刃部作出。	黒色安山岩	
第84図 PL.150	60	磨石	覆土	完形	11.4	10.1	8.7	1450	円礫、表面比較的平滑。	粗粒輝石安山岩	
第84図 PL.150	61	礫器	覆土	完形	12.8	4.2	3.4	268	棒状礫、表面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第84図 PL.150	62	丸石	覆土	完形	7.5	6.9	6.0	449	大型の円礫。	石英閃緑岩	
第84図 PL.150	63	磨石	炉	欠損	(10.3)	7.9	4.7	449	やや扁平な礫、一部欠損。両面使用し浅い凹み穴、端部に打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第84図 PL.150	64	磨石	覆土	完形	13.7	8.2	5.0	923	扁平で俵形の礫利用、両面を使用面とし、浅い打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第85図 PL.150	65	礫器	床	完形	13.4	8.7	4.2	585	角の丸い三角形を呈す礫、上部が肥厚する、顕著な使用痕は見られず。	石英閃緑岩	
第85図 PL.150	66	礫器	覆土	完形	10.3	9.7	2.8	452	扁平な円盤状を呈す。顕著な使用痕は見られず。	石英閃緑岩	
第85図 PL.150	67	礫器	覆土	欠損	(10.7)	5.2	3.9	(330)	棒状礫、表面平滑、端部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第85図 PL.150	68	軽石製品	覆土	完形	5.7	5.4	2.8	36	円盤状で厚みあり。研磨成形。両面中央に未貫通の穿孔。未製品か。	軽石	
第85図 PL.150	69	台石	床	欠損	(11.4)	(15.3)	7.4	(2,020)	両面を使用面とする。使用面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第85図 PL.150	70	台石	覆土	欠損	(18.3)	(14.6)	7.1	(2,480)	扁平な礫利用、平滑面有り、被熱。	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-5号住居跡(第89~94図: PL.151~153)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第89図 PL.151	1	深鉢 +13 口縁~体部中位 残存 口: 16.2	①粗: 石英・雲母 ②暗赤褐色	口縁部渦巻状小突起と2条隆線による弧状区画文構成。6単位。区画内は沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。頸部は横位沈線と波状沈線2条を設ける。体部は2条隆線による腕骨状意匠と縦位波状沈線を配す。縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第89図 PL.151	2	深鉢 +16 口縁部1/3残存 口: (15.0)	①細: 石英・雲母少 ②暗褐色	双波状突起が強く突出する。1単位か。他は渦巻状小突起を配す。双波状突起両下端には渦巻文を配し横位弧状隆線と振りを加えた縦位隆線により口縁部を区画する。区画内は、交互刺突文を多段に充填する。隆線側線は沈線と刺突文が加わる。体部は縦位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第89図 PL.151	3	深鉢 +21 体部上半1/2残存	①粗: 輝石 ②鈍い黄褐色~灰黄褐色	低位隆線による口縁部区画文。体部は垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。施文部縄文はLR縦位充填施文。	中期後葉新
第89図 PL.151	4	深鉢 +3 口縁~体部中位 1/3残存 口: (28.0)	①粗: 輝石 ②鈍い褐色~鈍い赤褐色	薄手の器厚を呈す。口縁部は無文で、体部は縦位波状条線が間隔を保ち施される。分帯線は無く、器面の凹凸が著しい。	後期前葉
第89図 PL.151	5	深鉢 覆土 口縁部破片	①細: 輝石少 ②褐色	口縁部内湾。隆線による楕円状区画文構成。区画内は沈線を側線とし横位RLを施す。	中期後葉古
第89図 PL.151	6	深鉢 +30 体部中位~下半 1/3残存	①粗: 石英・輝石 ②褐色	内湾する体部器形。縦位RLが器面を覆う。	中期後葉
第89図 PL.151	7	深鉢 覆土 体部破片	①細: 石英・輝石 ②褐色	内皮沈線による垂下沈線と縦位波状沈線。縄文は縦位RL。	中期後葉古
第89図 PL.151	8	深鉢 覆土 体部破片	①細: 輝石 ②オリーブ黒色	垂下沈線と縦位波状沈線による懸垂文構成。縄文は縦位RL。	中期後葉古
第89図 PL.151	9	深鉢 +6 口縁部破片	①粗: 石英・雲母少 ②褐色	2条隆線による口縁部区画文。区画内側線は沈線、浅い縦位・斜位平行沈線を充填する。体部は斜位平行沈線・縦位波状沈線を施す。縦位LRを地文とする。	中期後葉新 古段階併行
第89図 PL.151	10	深鉢 覆土 体部破片	①粗: 石英 ②オリーブ黒色	垂下沈線3条による懸垂文構成か。波状沈線端部も看取される。地文は縦位LR。	中期後葉古
第89図 PL.151	11	深鉢 +16 体部中位破片	①粗: 輝石 ②黒褐色	沈線で画された施文部U・逆U字状意匠。磨消部は研磨、施文部は細縄文RL充填施文。	後期初頭
第89図 PL.151	12	深鉢 覆土 体部破片	①粗: 石英多 ②黒色	2条の沈線で画された磨消部意匠文が配される。施文部は無節L充填施文。	後期初頭
第89図 PL.151	13	深鉢? +4 口縁部破片	①粗: チャート・石英・輝石 ②鈍い橙色	波状縁か。口縁部沈線2条の間を細かな刻みが充填する。下位には2条沈線による弧状意匠が施される。	後期前葉 ?
第89図 PL.151	14	深鉢 +30 口縁部破片	①粗: 白色粒多 ②黒褐色	口唇部は尖る・渦巻文と2条隆線による区画文構成。区画内側線は沈線、縦位短沈線を充填する。体部は無文か。凹凸が顕著。	中期後葉信州系
第89図 PL.151	15	深鉢 +31 口縁部破片	①粗: 石英 ②暗褐色	口縁部は沈線で画された幅狭文様帯に交互刺突文を埋める。以下隆線と沈線で画された区画文が配され、斜位短沈線や矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第89図 PL.151	16	深鉢 +29 口縁部破片	①粗: 石英 ②暗褐色	弧状隆線による口縁部区画文構成。区画内は上位が幅狭文様帯で交互刺突文の充填、下位が斜位短沈線を埋める。体部は縦位波状沈線が配され斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系 15と同一個体
第89図 PL.151	17	深鉢 覆土 頸部破片	①粗: 雲母多 ②赤褐色	頸部屈曲部に渦巻状小突起を付し弧状・垂下隆線を派生する。側線は刺突文。体部は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第89図 PL.151	18	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗: 白色粒 ②黄褐色	口縁部は緩やかに内湾。沈線による同心円状意匠を中核に縦位短沈線や矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第89図 PL.151	19	深鉢 +6 口縁部破片	①粗: 雲母多 ②灰褐色	口縁部は強く内湾し無文。頸部屈曲部に渦巻状小突起を付し弧状・垂下隆線を派生する。側線は沈線と刺突文。体部は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第90図 PL.151	20	深鉢 床 口縁部1/6残存 口: (43.0)	①粗: 輝石・雲母 ②黒褐色	あるいは浅鉢か。口縁部は強く開き、頸部に屈曲する。頸部隆線を設ける。内外面とも丁寧な研磨を施し、赤彩を加える。弧状意匠であろうか。	中期後葉
第90図 PL.151	21	深鉢 +17 口縁部破片	①粗: 石英・輝石 ②黒褐色	口縁部外反し、縦位沈線を充填する。頸部に隆帯による環状意匠を配す。隆帯には沈線が重なる。	中期後葉信州系
第90図 PL.151	22	浅鉢 覆土 口頸部破片	①粗: 石英・片岩 ②暗褐色	隆線による頸部三角区画文。区画内側線は沈線、縦位短沈線を充填する。内外面とも丁寧研磨を施す。	中期後葉 40と同一個体
第90図 PL.151	23	深鉢 +16 口縁部突起片	①細: 石英・輝石 ②褐色	捻転状突起。両下端より2条隆線が弧状に派生し、刺突文を充填する。下端より隆線が垂下する。内外面研磨。	後期初頭
第90図 PL.151	24	浅鉢 覆土 口頸部破片	①粗: 石英 ②明褐色	屈曲部に棒状刺突文を加えた隆線を付し、口縁部文様帯は沈線による円形区画文を多段に配す。弧状短沈線を充填する。	中期後葉
第90図 PL.151	25	深鉢 覆土 体部上半破片	①粗: 石英多・輝石 ②赤褐色	頸部屈曲部より蛇行隆線が懸垂する。地文状に沈線による同心円状意匠が配される。	中期後葉信州系

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			① 胎 土 ② 色 調				文 様 の 特 徴 等	備 考	
					①	②	③	④			
第90図 PL.151	26	深鉢 +4	体部中位破片	①粗：石英多 ②暗褐色					3条の沈線が重なる隆帯による大柄渦巻文。下端より隆帯が垂下する。空白部は弧状短沈線が密に充填される。厚手の器厚で大型の深鉢と思われる。	中期後葉信州系	
第90図 PL.151	27	深鉢 +33	体部破片	①粗：石英多 ②黒褐色					2条隆線による渦巻文構成。上位に横位隆線、下端に垂下隆線を繋ぐ。空白部は横位沈線で分割され、縦位・斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系	
第90図 PL.151	28	深鉢 +23	体部破片	①粗：石英・雲母 ②暗褐色					幅広隆帯による蛇行状意匠。側線は沈線・連続爪形文。縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系	
第90図 PL.151	29	深鉢 覆土	体部中位破片	①粗：石英・雲母多 ②明褐色					2条隆線による懸垂文構成。側線を沈線とし、空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系	
第90図 PL.152	30	深鉢 覆土	体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②赤褐色					横位隆線以下鎖状隆線による逆U字状意匠を配す。懸垂文構成か。縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系	
第90図 PL.152	31	深鉢 +38	体部中位 2/3 残存	①粗：石英多 ②鈍い赤褐色～赤褐色					垂下隆線2条による懸垂文構成。空白部は縦位沈線充填後横位沈線を加え区画化する。	中期後葉信州系	
第90図 PL.152	32	深鉢 覆土	体部破片	①粗：石英・輝石 ②明褐色					沈線による横位長楕円状意匠を配す。上半は斜位、下半は縦位短沈線を施す。	中期後葉信州系	
第90図 PL.152	33	深鉢 覆土	体部破片	①粗：石英多 ②黄褐色					外反する体部。内皮沈線2条による横位波状文か。	中期後葉	
第91図 PL.152	34	深鉢 +20	口縁部破片	①粗：石英・輝石少 ②灰褐色					押圧を加えた口縁部隆線を設ける。口唇部内面は僅かに突出。内外面とも雑な研磨を施す。	後期初頭	
第91図 PL.152	35	深鉢 +11	口縁部破片	①粗：白色粒 ②黒褐色					波状縁。屈曲する口縁部に横位沈線2条を施す。頸部は無文。	後期初頭?	
第91図 PL.152	36	深鉢 +34	口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②暗褐色					口縁部横位沈線を設け以下垂下沈線による懸垂文構成を呈す。空白部に弧状沈線を見るが意匠は不明。	後期初頭	
第91図 PL.152	37	浅鉢 +20	口縁～体部中位 破片	①粗：石英 ②黒褐色					口唇部に面を持ち、体部上半に僅かな湾曲を持たせる。内外面丁寧な研磨を施す。体部外面に黒色付着物。	中期後葉	
第91図 PL.152	38	浅鉢 +21	口縁部破片	①細：石英少 ②鈍い黄橙色					鉢か。無文で体部上半に湾曲を持たせる。内外面研磨を施し外面口縁部に赤彩を加える。	中期後葉	
第91図 PL.152	39	鉢 覆土	体部破片	①細：白色粒 ②黒色					屈曲する体部。横位細沈線3条を施す。内外面丁寧な研磨を加える。	後期前葉	
第91図 PL.152	40	浅鉢 +19	体部下半破片	①粗：石英・片岩 ②褐色					体部上半に湾曲を持たせる。内外面とも丁寧な研磨を施す。外面中位に黒色付着物。	中期後葉	
第91図 PL.152	41	深鉢 +18	体部中位～下半 破片	①粗：石英 ②褐色					隆線による縦位波状懸垂文。隆線の起点・屈曲点に円形貼付文を配す。他は無文。下半に煤が付着する。	後期初頭	
第91図 PL.152	42	深鉢 +23	体部破片	①細：石英・輝石 ②褐色					内湾する体部器形。横位沈線と斜位沈線上に刻みを施した貼付文を配す。外面丁寧に研磨を施す。	後期末葉?	
第91図 PL.152	43	深鉢 +20	体部中位～底部 1/4 残存 底：8.0	①粗：輝石・雲母少 ②明褐色					小型深鉢か。体部中位で外反し、下半で緩やかに湾曲する。無文で内外面撫で調整を施す。	中期後葉	
第92図 PL.152	44	浅鉢 +13	体部下半～底部 1/3 残存 底：(11.0)	①粗：石英 ②橙色					体部は緩やかに外反する。内外面とも器面摩滅する。	中期後葉	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第92図 PL.152	45	石鉢	+35	完形	1.6	1.5	0.3	0.4	凹基無茎、挟り浅く薄手の作り。	黒曜石	
第92図 PL.152	46	石鉢	+18	完形	1.5	1.4	0.4	0.6	凹基無茎、挟り浅く、やや厚みを有す。	黒曜石	
第92図 PL.152	47	石鉢	覆土	完形	(1.1)	1.3	0.3	(0.2)	平基無茎、ほぼ正三角形の小型品で基部、先端部の判別が難しい。	黒曜石	
第92図 PL.152	48	石鉢	覆土	完形	1.4	1.0	0.2	0.2	凹基無茎、小型品で片面肥厚し、先端及び脚部が尖る。左右非対称。	黒曜石	
第92図 PL.152	49	石鉢	覆土	欠損	1.4	(1.2)	0.3	(0.4)	凹基無茎、挟りは浅い、厚手の作りで片脚を欠く。	黒曜石	
第92図 PL.152	50	石鉢	覆土	欠損	(1.1)	1.8	0.2	(0.5)	凹基無茎、挟り浅い。比較的薄手で、先端部を欠く。	黒曜石	
第92図 PL.152	51	石鉢	覆土	欠損	(1.6)	2.1	0.3	(0.9)	凹基無茎、脚が大きく開く、先端部を欠く。	黒曜石	
第92図 PL.152	52	石鉢	覆土	欠損	(1.3)	1.9	0.2	(0.7)	凹基無茎、挟り浅く脚も短い。薄手の作り、先端部を欠く。	黒曜石	
第92図 PL.152	53	石鉢	覆土	欠損	(1.6)	(1.1)	0.2	(0.3)	凹基無茎、脚が外に張り出す器形か、片側約半分を欠く。	黒曜石	
第92図 PL.152	54	石鉢	覆土	完形	(2.0)	1.4	0.4	(1.0)	未製品か。	黒曜石	
第92図 PL.152	55	石鉢	覆土	欠損	(1.8)	0.7	0.5	(0.6)	断面三角の鉢部片。	黒曜石	
第92図 PL.152	56	石鉢	覆土	完形	2.5	1.8	0.6	2.1	つまみ部が大きく鉢部は短く付く。	黒曜石	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第92図 PL.152	57	石錐	覆土	完形	3.9	1.9	1.0	4.2	つまみ部が大きく、粗い作りで錐部も端部に簡単な調整のみ。	黒曜石	
第92図 PL.152	58	スクレイパー	覆土	完形	2.5	2.1	0.8	2.8	円形で片面中央が肥厚する。縁辺部に刃部作出。	黒曜石	
第92図 PL.153	59	石匙	覆土	完形	4.5	1.9	0.6	4.7	小型の縦型、つまみ部はやや小さく作られ、刃部は木の葉型。	黒色頁岩	
第92図 PL.153	60	打製石斧	+34	完形	14.9	6.2	2.4	273	撥形、刃部が極端に薄く作られる。片面に大きく自然面残る。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第92図 PL.153	61	打製石斧	覆土	完形	9.8	4.9	1.5	90	撥形、刃部は凹く、器面全体が風化。	黒色安山岩	
第92図 PL.153	62	打製石斧	床	完形	7.6	4.5	1.7	83	短冊形であるが短い。刃部やや薄くなる。両面に自然面、刃部摩耗顕著。	細粒輝石安山岩	
第92図 PL.153	63	打製石斧	+8	欠損	9.4	(5.8)	1.9	(124)	短冊形、刃部片、両面に自然面残り刃部薄く摩耗。	細粒輝石安山岩	
第92図 PL.153	64	打製石斧	覆土	完形	8.5	5.3	1.6	98	短冊形であるがやや短い。作りはやや粗い。	黒色安山岩	
第93図 PL.153	65	打製石斧	+11	欠損	(9.0)	6.0	2.6	(183)	撥形、基部片、厚みを有し片面に大きく自然面残る。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第93図 PL.153	66	打製石斧	覆土	欠損	4.0	3.4	0.9	15	打製石斧の基部片か。	黒色頁岩	
第93図 PL.153	67	スクレイパー	+17	完形	6.8	2.8	1.0	17	横長剥片利用、直刃で細かな刃部調整見られる。	黒色頁岩	
第93図 PL.153	68	スクレイパー	+31	完形	6.7	4.1	1.3	54	横長剥片利用、刃部は弧状で片面から上縁辺に自然面。	黒色安山岩	
第93図 PL.153	69	スクレイパー	+20	完形	6.9	5.0	1.1	46	長方形を呈し、直線的な一側縁に刃部を作出。	黒色頁岩	
第93図 PL.153	70	スクレイパー	+32	完形	7.5	7.3	1.5	83	扇形の剥片利用、粗く刃部作出。	黒色安山岩	
第93図 PL.153	71	軽石	+20	完形	7.0	6.3	4.3	130	不定形で黒色の火山成礫、明瞭な磨り面、打痕等は見られない。	軽石	やや重みあり
第93図 PL.153	72	磨石	+20	完形	6.7	5.9	3.8	214	小型の扁平礫利用、表面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第93図 PL.153	73	磨石	+23	完形	9.2	6.4	4.7	390	長円礫利用、顕著な使用痕、打痕は見られず、被熱か。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第93図 PL.153	74	敲石	覆土	完形	7.2	6.3	5.8	367	比熱しており全面に煤付着、打痕顕著、大きさのわりに重量がある。	安山岩	
第93図 PL.153	75	磨石	+3	完形	14.6	11.3	9.6	2,290	大型の長円礫を利用。	粗粒輝石安山岩	
第93図 PL.153	76	敲石	+10	完形	8.2	6.9	3.0	264	扁平な円礫を利用、表面は鉄分付着し褐色、側縁に打痕見られる。	石英閃緑岩	
第94図 PL.153	77	磨石	+33	完形	12.0	10.2	9.6	1,461	やや目の粗い大型の円礫利用。	粗粒輝石安山岩	
第94図 PL.153	78	磨石	炉	欠損	(13.4)	6.7	5.0	(707)	折れた棒状礫、表面に若干の打痕、被熱あり。	粗粒輝石安山岩	
第94図 PL.153	79	軽石	覆土	完形	5.5	5.6	3.5	30	軽石の表面に複数の溝状のすり切り痕見られる。	軽石	
第94図 PL.153	80	軽石製品	+38	完形	8.6	7.3	6.0	108	不定形な軽石の一面を平らにし中央に凹みを作る。一部ベンガラ痕か。	軽石	
第94図 PL.153	81	石皿	+7	欠損	(14.0)	(8.6)	3.9	(683)	使用面僅かに凹み極めて平滑。石皿片か。	緑色片岩	
第94図 PL.153	82	垂飾品	+34	完形	3.5	1.3	0.4	3.1	扁平な芋虫形を呈す。上部部に径2mm程の穿孔、片側縁部分に5カ所の切れ込みを有す。このうち中央の切れ込みはほぼ全周する。	蛇紋岩	

95-12号住居跡(第97~101図: PL.153~155)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土調 ②色	文様の特徴等	備考
第97図 PL.153	1	深鉢 +4 底部1/4欠損 口: 19.8 高: 26.6 底: 8.2	①粗: 石英・輝石 ②明黄褐色	口縁部文様帯は2条隆線による渦巻文と区画文構成。渦巻文は6単位を数えるが等間隔ではない。区画内側縁は沈線で、横位LRを施す。頸部屈曲部に沈線による長楕円状意匠を連ねる。体部は沈線による剣先状意匠文を3単位配し、中位に縦位波状懸垂文を配す。横位LRを地文とする。体部下内面煤付着。	中期後葉古
第97図 PL.153	2	深鉢 Pit 1 突起・体部下 欠損 口: 19.6	①粗: 石英・雲母多 ②褐色	突起・体部下は意図的な欠損か。突起下は橋状把手の可能性もある。口唇部に沈線を設け、口縁部は幅広で無文。頸部隆帯に3条の沈線を重ね、2単位の双渦巻状突起と腕骨文を配す。腕骨文は体部中位にも置かれ、空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第97図 PL.153	3	浅鉢 +19 口縁部1/4残存 口: (27.0)	①粗: 石英 ②褐色	口縁部は肥厚し鋭く内傾する。体部上半に湾曲を持たせる。内外面とも丁寧な研磨を施し、内面に赤彩痕が顕著。円形あるいは渦巻状の意匠が配される。	中期後葉
第97図 PL.153	4	浅鉢 +14 口縁部~体部1/4残存 口: (33.8)	①粗: 石英 ②暗褐色	口唇部肥厚し、鋭く内傾する。口縁部内面に浅い稜を持つ。内外面丁寧な研磨を施し、口縁部内外面に赤彩痕を見る。口縁部外面には煤が付着する。	中期後葉

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			①胎土 ②色調			文 様 の 特 徴 等	備 考		
		器種	部位	残存	①	②	色調				
第97図 PL.153	5	浅鉢 床	口縁1/4残存 口:(50.0)		①粗:輝石少 ②鈍い褐色		あるいは、大型深鉢口縁部か。口縁部内面肥厚し外面は外反する。内外面丁寧な研磨を施し、赤彩を加える。意匠文の把握には至らない。	中期後葉			
第97図 PL.153	6	深鉢 +13	口縁部破片		①粗:白色粒多・石英大 ②褐色		2条隆線による口縁部区画文。区画内側線は沈線、縦位LRを地文とする。	中期後葉古			
第97図 PL.154	7	深鉢 覆土	口縁部破片		①粗:石英・輝石 ②褐色・暗褐色		波状縁か。口縁部に円形刺突文と横位沈線を設ける。体部は沈線による逆U字状懸垂文と蔵手状懸垂文が配される。施文部は縦位RL充填施文。	中期後葉新 8と同一個体			
第97図 PL.154	8	深鉢 覆土	口縁部破片		①粗:石英・輝石 ②褐色・暗褐色		波状縁か。口縁部に円形刺突文と横位沈線を設ける。体部は沈線による逆U字状懸垂文と蔵手状懸垂文が配される。施文部は縦位RL充填施文。	中期後葉新			
第97図 PL.154	9	深鉢 覆土	口縁部破片		①粗:石英・輝石 ②暗赤褐色		口唇部尖り気味。口縁部に横位隆線を設け、縦位刻みを連続する。体部は縦位LRが覆う。	中期後葉古			
第97図 PL.154	10	浅鉢 覆土	口縁部破片		①粗:石英少 ②鈍い黄褐色		外面は無文。内面肥厚部に面を持ち、太い沈線2条間に無節しを充填する。	後期初頭 ?			
第97図 PL.154	11	深鉢 +7	頸部破片		①細:輝石 ②鈍い赤褐色		屈曲する頸部。体部上半に隆線による半槽円状区画文と渦巻文を配す。区画内側線は沈線、横位LRを施す。頸部無文部及び隆線上に赤彩を加える。	中期後葉古			
第97図 PL.154	12	深鉢 覆土	体部下半破片		①粗:石英 ②鈍い赤褐色		2条沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文はRLR縦位充填施文。	中期後葉新古			
第97図 PL.154	13	深鉢 覆土	体部破片		①細:輝石 ②赤褐色		内皮沈線による環状意匠より沈線が垂下する。RL縦位充填施文。	中期後葉最古新 ?			
第97図 PL.154	14	深鉢 覆土	体部破片		①粗:輝石 ②赤褐色		捺斜し斜位施文。	中期後葉最古新 ?			
第97図 PL.154	15	深鉢 覆土	体部破片		①細:石英・輝石 ②灰黄褐色		2条沈線に画された磨消部弧状意匠。施文部はLR充填施文。薄手の器厚。	後期初頭			
第98図 PL.154	16	深鉢 +4	体部中位破片		①粗:石英少・輝石 ②鈍い赤褐色		体部中位に横位内皮沈線を4条設け、上位には縦位沈線による方形区画文が配される。地文は捺斜L。	中期後葉古			
第98図 PL.154	17	深鉢 +26	体部中位破片		①粗:石英・雲母多 ②黒褐色		3条の隆線による懸垂文構成。渦巻文と剣先状意匠も配される。空白部は矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系			
第98図 PL.154	18	深鉢 +2	体部破片		①粗:白色粒多 ②黒褐色		横位蛇行細隆線を設け、斜位平行沈線と浮線による斜格子文を配す。	中期後葉信州系			
第98図 PL.154	19	深鉢 +20	体部上半破片		①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色		2条の横位隆線に渦巻状突起を付し下端より刻みを付す垂下隆線が懸垂する。横位隆線上半は斜位沈線と浮線による斜格子文。下位は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系			
第98図 PL.154	20	深鉢 +10	体部破片		①粗:石英・輝石 ②赤褐色		縦位沈線を見る。懸垂文構成か。空白部は矢羽状短沈線を充填する。施文は深い。	中期後葉信州系			
第98図 PL.154	21	深鉢 覆土	体部下半破片		①粗:石英多・輝石 ②明褐色		縦位沈線群の下端部を見る。懸垂文構成。	中期後葉信州系 ?			
第98図 PL.154	22	深鉢 +26	口縁部突起片		①粗:輝石 ②鈍い黄褐色		横位橋状の形態で、中位に孔を設ける。上端環状で沈線による渦巻文を施す。両側面に隆線を付し沈線が沿う。	中期後葉古			
第98図 PL.154	23	深鉢 +20	口縁部把手片		①粗:石英・雲母 ②赤黒色		口縁部に付される縦位2連の橋状把手。両側に隆線を付し、左右の側面には沈線による渦巻文が施される。	中期後葉信州系			
第98図 PL.154	24	浅鉢 +13	口縁部破片		①粗:石英 ②鈍い黄褐色		口縁部強く内屈し、幅広の面を持ち3条の沈線を施す。長槽円状の意匠か。内外面とも研磨を施し、赤彩を加える。軟質な印象を得る。	中期後葉			
第98図 PL.154	25	深鉢 覆土	口縁部破片		①粗:石英・雲母多 ②黒褐色		口唇部内面肥厚。口縁部は幅広の無文部を設ける。	中期後葉信州系			
第98図 PL.154	26	浅鉢 +8	口縁部破片		①粗:石英・輝石 ②褐色		口縁部は肥厚し鋭く内傾する。体部上半に緩やかな湾曲を持たせる。内外面丁寧な研磨。内面赤彩が顕著。	中期後葉			
第98図 PL.154	27	浅鉢 覆土	口縁部破片		①石英・輝石 ②暗褐色		口唇部内面大きく肥厚。内外面研磨を施し赤彩を加える。	中期後葉			
第98図 PL.154	28	浅鉢 床	口縁~体部1/5残存 口:(43.0)		①細:白色粒・石英少 ②赤褐色		大型の浅鉢。口唇端部に面を持ち、内面突出する。頸部は強く屈曲する。内外面丁寧な研磨を加え、入念な赤彩痕を見る。	中期後葉			
第98図 PL.154	29	浅鉢 覆土	口縁部破片		①粗:輝石 ②鈍い黄褐色		口縁部僅かに肥厚する。内外面研磨、赤彩を加える。	中期後葉			
第98図 PL.154	30	浅鉢 覆土	口縁部破片		①粗:石英 ②黒褐色		口縁部僅かに肥厚。体部上半に強い湾曲を持たせる。内外面研磨を施し、赤彩を加える。	中期後葉			
第98図 PL.154	31	浅鉢 床	体部破片		①細:輝石 ②鈍い褐色		内面に赤彩痕が良好に残る。内外面研磨。	中期後葉			
第98図 PL.154	32	深鉢 覆土	底部1/3残存 底:(7.0)		①粗:白色粒多・石英多 ②褐色		垂下隆線下端部を見る。懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系			
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第99図 PL.154	33	石鎌	覆土	欠損	(1.3)	0.9	0.3	(0.2)	先端部片と思われる。	黒曜石	
第99図 PL.154	34	石錐	覆土	完形	2.6	0.9	0.4	1.3	断面三角の棒状錐、作りは粗く、欠損品の可能性もある。	黒曜石	
第99図 PL.154	35	石錐	覆土	欠損	3.7	(1.3)	0.4	(1.0)	いわゆるT字型、錐部は長く真っ直ぐに作られる。つまみ部片側を欠く。	黒色頁岩	
第99図 PL.154	36	石核	+19	完形	8.7	4.0	2.9	115.5	やや細長い角柱状を呈す、複数面に風化面残る。	黒曜石	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第99図 PL.154	37	石核	+3	完形	7.4	6.8	3.7	162.2	ほぼ五角形を呈し、中央部が肥厚。	黒曜石	
第99図 PL.155	38	石核	+14	完形	8.3	4.2	2.3	104.9	台形の厚い板状で、両面はほぼ平ら。	黒曜石	
第99図 PL.155	39	石核	+32	完形	8.7	5.3	2.4	95.5	板状の不正台形を呈す。	黒曜石	
第99図 PL.155	40	石核	+4	完形	7.0	4.0	2.7	80.8	片側が薄くなる角錐状で、一面に風化面残る。	黒曜石	
第99図 PL.155	41	石核	+25	完形	10.2	4.1	2.1	87.8	やや細長い紡錘状を呈す。	黒曜石	
第99図 PL.155	42	石核	+30	完形	6.9	5.4	1.9	80.8	四角形の板状を呈す。	黒曜石	
第99図 PL.155	43	石核	+14	完形	6.5	5.5	2.5	99.3	ほぼ四角形を呈し、一側縁が刃部状に薄くなり、粗い剥離が見られる。	黒曜石	
第100図 PL.155	44	磨製石斧	炉	欠損	(8.5)	4.9	3.2	(150)	基部片、稜はやや丸みを持つ、基端部および側縁に弱い打痕有り。	蛇紋岩	
第100図 PL.155	45	打製石斧	炉	完形	10.6	4.2	1.2	59	短冊形、刃部薄く剥がれている。刃部摩耗。	黑色頁岩	
第100図 PL.155	46	打製石斧	覆土	完形	13.7	5.0	1.6	129	短冊形、刃部僅かに広がり刃は斜めとなる。	黑色安山岩	
第100図 PL.155	47	打製石斧	+3	ほぼ完形	10.1	4.3	1.8	99	短冊形、片面に丸みを有す自然面。	黑色安山岩	
第100図 PL.155	48	打製石斧	+15	ほぼ完形	9.2	4.9	1.3	77	撥形、一面に大きく自然面残る。刃部摩耗。基端部を欠損。	黑色頁岩	
第100図 PL.155	49	打製石斧	覆土	欠損	(6.4)	4.2	1.1	(30)	撥形、両側縁部分薄くなる。基部片。	黑色安山岩	
第100図 PL.155	50	打製石斧	覆土	欠損	(6.8)	6.7	2.5	(117)	比較的大型品の基部片と思われる。	黑色安山岩	
第100図 PL.155	51	打製石斧	覆土	欠損	(6.2)	3.5	0.5	(17)	短冊形、かなり薄手に作られる。刃部を欠く。	黑色安山岩	
第100図 PL.155	52	打製石斧	覆土	欠損	(3.7)	3.7	0.9	(14)	基部片と見られる、片面に自然面。	黑色頁岩	
第100図 PL.155	53	敲石	覆土	欠損	(5.5)	(3.5)	3.8	(81)	棒状礫の破片、磨製石斧の基部の可能性も、断面は精円形を呈す。	粗粒輝石安山岩	
第100図 PL.155	54	磨石	覆土	完形	6.8	6.3	5.0	292	やや扁平な小円礫利用、両面を使用。	粗粒輝石安山岩	
第100図 PL.155	55	凹石	床	完形	13.5	11.0	6.2	1,045	やや扁平な礫を利用、両面に浅い凹み穴を有し、磨石としても利用か。	粗粒輝石安山岩	
第100図 PL.155	56	磨石	覆土	欠損	(9.3)	(5.9)	3.7	(233)	長円礫利用、欠損品、煤付着。	粗粒輝石安山岩	
第101図 PL.155	57	磨石	+22	完形	16.3	8.2	4.6	975	扁平な長円礫、両面使用面とし側縁、両端部に打痕が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第101図 PL.155	58	磨石	+18	ほぼ完形	22.3	8.5	6.5	1,613	やや大型の棒状礫、端部、側縁に若干の打痕、被熱有り。	粗粒輝石安山岩	
第101図 PL.155	59	丸石	+4	完形	27.9	26.8	22.3	23,450	大型の円礫。	粗粒輝石安山岩	

95-13号住居跡(第105~112図: PL.155~158)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土調 ②色	文様の特徴等	備考
第105図 PL.155	1	深鉢 +3 頭部1/3・体 部破片多数 頸: 38.0	①粗: 石英多・輝石 ②鈍い赤褐色~褐灰色	頭部は半楕円状隆線により画される。横位蛇行隆線 を付し斜位沈線と浮線による斜格子文を配す。体部 は刻みを付す垂下隆線と縦位蛇行隆線による懸垂文 構成。空白部は斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系
第105図 PL.155	2	深鉢 +4 口縁1/6・体 部上半残存 口(22.0)	①粗: 白色粒多・石英 ②明赤褐色	口縁部は無文。頭部に横位蛇行隆線を付し、斜位沈 線と斜位浮線による斜格子文を配す。2条の横位隆 線以下体部は刻みを付す垂下隆線5単位による懸垂 文構成。空白部は縦位平行沈線を充填する。	中期後葉信州系
第105図 PL.156	3	深鉢 +40 口縁部破片	①粗: 石英・片岩 ②暗褐色	波状突起頂部に渦巻文を施す。頂部より派生した隆 線が頸部渦巻文に繋ぐ。口縁部区画文は2条隆線 で画され、沈線を側線とし横位LRを施す。頭部は無 文。	中期後葉古
第105図 PL.156	4	深鉢 +46 口縁部破片	①粗: 白色粒多・輝石 ②褐色	やや大型の渦巻状突起を上方に付す。2条隆線が派 生し口縁部区画文を構成する。区画内は沈線を側線 とする。地文は縦位・斜位LRで突起貼付前施文を 見る。	中期後葉古
第105図 PL.156	5	深鉢 +16 口縁部破片	①粗: 石英・雲母少 ②暗褐色	2条隆線による渦巻状意匠を頭部に付す。口縁部区 画内は沈線を側線とし縦位LRを充填する。	中期後葉古
第105図 PL.156	6	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗: 石英・雲母 ②暗褐色	隆線による口縁部区画文。区画内側線は沈線、縦位 LRを地文とする。	中期後葉古
第105図 PL.156	7	深鉢 炉 口縁部破片	①細: 白色粒 ②明褐色	口縁部隆線を設け、鋭い刺突文を施す。体部は斜位 RLを施す。	後期初頭

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第105図 PL.156	8	深鉢 +3 口縁部突起	①粗：石英・輝石 ②暗赤褐色	小型の橋状把手と一体化した柱状突起。内面中央に孔を穿ち、隆線による内稜を付す。口唇部に沈線、突起上端、把手両側面に渦巻文を配す。体部は縦位LRを施す。	中期後葉東北系
第105図 PL.156	9	深鉢 +33 口縁部破片	①粗：石英 ②暗褐色	2条隆線による口縁部区画文構成。区画内側線は沈線。地文は横位RL。	中期後葉古
第105図 PL.156	10	深鉢 +30 体部破片	①粗：石英・輝石 ②明褐色	2条の垂下沈線と蛇行沈線による懸垂文構成。地文は縦位RLR。	中期後葉古
第105図 PL.156	11	深鉢 覆土	①粗：石英少 ②赤褐色	縦位蛇行隆線による懸垂文構成。地文は縦位LR。	中期後葉古
第105図 PL.156	12	深鉢 +10 体部中位破片	①粗：白色粒 ②鈍い黄褐色	隆線による渦巻状突起下端より2条隆線が懸垂する。沈線による渦巻文も施される。縄文は縦位LR。	中期後葉古
第106図 PL.156	13	深鉢 +31 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	小型深鉢か。隆線による渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線、縦位短沈線を充填する。	中期後葉古 14と同一個体
第106図 PL.156	14	深鉢 +31 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	口縁部屈曲気味に立つ、隆線による渦巻文と区画文。構成。幅狭区画内側線には、縦位短沈線を充填する。	中期後葉古
第106図 PL.156	15	深鉢 +10 口縁部 1/4 残存 口：(23.2)	①粗：石英・輝石・雲母少 ②暗赤褐色	頸部は外反し、口縁部に横位隆線と沈線を設け円形刺突文を重ねる。頸部は広く無文。	中期後葉信州系
第106図 PL.156	16	深鉢 +57 口縁部破片	①粗：石英 ②黒褐色	口唇部欠損。3条の横位隆線を設け、渦巻状小突起を付す。体部は蕨手状沈線による懸垂文構成か、空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第106図 PL.156	17	深鉢 +23 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	口唇部内屈し、無文の口縁部を広く設ける。頸部に横位蛇行隆線を設け、以下斜位沈線と浮線による斜格子文を配す。	中期後葉信州系 ?
第106図 PL.156	18	深鉢 +34 口縁部破片	①粗：白色粒 ②褐色	幅狭の口縁部文様帯。2条隆線で画され、側線沈線を施文するのみである。頸部は無文か。	中期後葉古
第106図 PL.156	19	深鉢 覆土	①粗：石英 ②鈍い赤褐色	突出する口縁部突起。隆線による渦巻文を配す。隆線による内稜も付す。	中期後葉古 ?
第106図 PL.156	20	浅鉢 覆土	①粗：石英 ②黒褐色	頸部隆線上位に沈線による区画文を配す。区画内は細かな横位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第106図 PL.156	21	浅鉢 床	①粗：石英大 ②褐色	頸部隆線突出。低位隆線による環状意匠と区画文を多段に配す。環状意匠下端は3条の短沈線を垂下する。頸部隆線及び区画内は刻み状の短沈線を施す。	中期後葉信州系
第106図 PL.156	22	深鉢 +26 口縁部破片	①粗：石英大多 ②黒褐色	2条隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。区画内は斜位短沈線を充填する。施文は深い。	中期後葉古 ?
第106図 PL.156	23	深鉢 +18 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②暗褐色	口縁部直下に環状突起を付し、3条の隆線を横位・縦位に派生させる。横位条線を地文とする。	中期後葉古
第106図 PL.156	24	深鉢 +9 口縁部把手	①粗：石英・輝石 ②暗褐色	口縁部突起より縦位に配された3連の把手。内面中央に孔を配す。把手縁辺、口唇部に沈線が治う。	中期後葉信州系 ?
第106図 PL.156	25	深鉢 +43 口縁部突起	①粗：石英多・輝石 ②褐色	橋状把手を下端に配した嘴状突起。突起・把手側縁に沈線による渦巻文を配す。内面に隆線による内稜を付す。	中期後葉東北系
第106図 PL.156	26	深鉢 覆土	①粗：石英・雲母 ②黒褐色	外面四方孔、内面中央孔を設けた中空状突起。各孔を隆線が縁取り、渦巻状沈線が重なる。内面も渦巻文が施される。	中期後葉信州系 ?
第106図 PL.156	27	深鉢 +32 口縁部突起	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	橋状把手を下端に配した嘴状突起。内面中央に孔を配す。突起側縁に把手両下端、などに沈線による渦巻文、内面に蕨手状沈線文を施す。体部は縦位沈線上端を見る。縄文は縦位・斜位RL。	中期後葉東北系
第106図 PL.156	28	浅鉢 +42 口頸部破片	①粗：石英 ②鈍い黄褐色	頸部屈曲部に隆帯による大柄の渦巻状突起を配し、太い沈線が重なる。突起上面と内面に赤彩を加える。内面赤彩は弧状意匠か。	中期後葉
第106図 PL.156	29	深鉢 +8 口縁部突起	①粗：石英・雲母 ②黒褐色	板状の突起で中央に孔を配す。上端は隆線による渦巻文と蛇行文が付される。	中期後葉信州系 ?
第107図 PL.156	30	深鉢 +3 口縁部破片	①粗：輝石 ②褐色	幅狭の口縁部区画文。2条隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。区画内側線は沈線、縦位短沈線を充填する。	中期後葉古
第107図 PL.157	31	深鉢 床	①粗：輝石 ②鈍い赤褐色	横位隆線を配し、隆線による渦巻文下端より2条隆線が懸垂する。弧状意匠も配される。隆線間は刻みを加える。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第107図 PL.157	32	深鉢 +27 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	波頂部欠損。波底部に弧状・渦巻状の突起を設ける。波頂部より2条隆線が垂下し、口縁部を画す。区画内は沈線を側線とし縦位細沈線を充填する。頸部は広く無文。	中期後葉信州系 ?
第107図 PL.157	33	深鉢 炉	①粗：石英・雲母多 ②明褐色	2条隆線による懸垂文構成。隆線上剥落痕跡から対弧状小突起が想起される。沈線を側線とし空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第107図 PL.157	34	深鉢 +14 体部破片	①粗：輝石 ②赤褐色	2条細隆線による剣先状意匠下端より隆線が懸垂する。剣先状意匠には刻みを加える。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第107図 PL.157	35	深鉢 +18 体部上半破片	①粗：石英・雲母多 ②赤褐色	2条隆線以下渦巻文を配し、下端より垂下隆線が派生する。空白部は縦位沈線を充填する。	中期後葉信州系
第107図 PL.157	36	深鉢 +19 体部破片	①粗：石英 ②赤褐色	2条隆線による懸垂文構成と渦巻状意匠。空白部は斜位平行沈線を充填する。	中期後葉信州系

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調			文様の特徴等		備考		
第107図 PL.157	37	深鉢 床	口頸部破片	①粗：石英 ②明赤褐色			2条の横位隆線で画された文様帯内に隆線による渦巻文を配す。斜位短沈線を充填し2条隆線間は刺突文を施す。		中期後葉信州系		
第107図 PL.157	38	深鉢 覆土	体部破片	①粗：石英 ②褐色			縦位蛇行隆線による懸垂文構成。地文は縦位沈線。		中期後葉信州系		
第107図 PL.157	39	深鉢 +40	体部上半破片	①粗：石英多・輝石 ②赤褐色			横位蛇行隆線と2条隆線間に挟まれた文様帯内を斜位沈線と斜位浮線による斜格子文が埋める。以下縦位平行沈線が施される。		中期後葉信州系		
第107図 PL.157	40	深鉢 +17	体部上半破片	①粗：石英 ②赤褐色			頸部外反。横位隆線以下2条細隆線による弧状区画が配され下端より隆線が垂下する。側線は無く縦位短沈線を密に充填する。内面煤付着。		中期後葉信州系		
第107図 PL.157	41	深鉢 覆土	体部破片	①粗：石英・雲母 ②鈍い褐色			縦位沈線間に楕円状意匠を配す。細かな矢羽状短沈線を充填する。		中期後葉信州系		
第107図 PL.157	42	深鉢 +13	体部破片	①粗：石英・輝石 ②褐色			縦位蛇行隆線による懸垂文構成。縄文は縦位LRを施す。		中期後葉古		
第107図 PL.157	43	深鉢 +26	体部下半～底部 1/2残存 底：8.0	①細：白色粒 ②褐色			2条隆線による懸垂文構成。隆線間には刺突文を重ねる。空白部は2条沈線により3分割され、縦位矢羽状短沈線を充填する。		中期後葉信州系		
第107図 PL.157	44	浅鉢 +25	口縁～底部1/ 2残存 口：45.0 高：16.2 底：8.8	①細：白色粒 ②褐色			大型の浅鉢。口縁部は肥厚し、体部上半に湾曲を持たせる。体部が強く開くため、身浅の印象を得る。内外面とも丁寧な横位研磨を施し、赤彩を加える。内外面とも波状意匠を基調とした痕跡を見る。口唇部の赤彩遺存は良好である。		中期後葉		
第108図 PL.157	45	浅鉢 炉	口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色			口縁部肥厚し強く開く。体部上半に湾曲を持つ。内外面研磨後赤彩。赤彩意匠は不明。		中期後葉		
第108図 PL.157	46	浅鉢 +26	口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い赤褐色			口縁部肥厚。体部上半に湾曲を持つ。内外面研磨後赤彩。赤彩意匠は内面波状か。		中期後葉		
第108図 PL.157	47	浅鉢 +12	口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い褐色			口縁部肥厚し直立気味。体部上半に湾曲を持つ。内外面研磨後赤彩。赤彩意匠は不明。		中期後葉		
第108図 PL.157	48	浅鉢 +14	口縁部破片	①粗：輝石 ②褐灰色			口縁部は強く肥厚し、体部上半に湾曲を持たせる。内外面研磨。赤彩は内外面に見られ、内面が顕著。弧状ないしは渦巻状の意匠か。		中期後葉		
第108図 PL.157	49	深鉢 +31	口縁部1/4残 存 口：(25.0)	①粗：石英多・輝石 ②暗褐色			口唇部に横位隆線と沈線を設け、口頸部に縦位平行沈線2条をスリット状に配す。4単位か。頸部隆線を付す。		中期後葉信州系		
第108図 PL.157	50	深鉢 床	口縁部破片	①粗：石英 ②明褐色			口唇部内屈し、無文の口縁部を広く設ける。器面摩滅。		中期後葉信州系		
第108図 PL.157	51	深鉢 +40	口縁部破片	①細：白色粒 ②黒褐色			口縁部横位隆線と沈線を設ける。以下は無文。		中期後葉信州系		
第108図 PL.157	52	深鉢 覆土	口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②暗褐色			口唇部に横位隆線を付す。以下は無文。		中期後葉信州系		
第108図 PL.157	53	深鉢 +24	口頸部破片	①粗：白色粒 ②黒褐色			頸部外反。下端の2条隆線による楕円状意匠。接点突起となる。		中期後葉信州系		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第109図 PL.157	54	石鎌	覆土	欠損	3.4	(1.8)	0.3	(1.8)	凹基無茎、やや大型の鎌で脚部分を欠く。	黒色安山岩	
第109図 PL.157	55	石鎌	床	完形	2.8	0.8	0.4	0.8	有茎、槍形鎌。	黒曜石	
第109図 PL.157	56	石錐	覆土	完形	3.2	1.3	0.9	3.2	断面三角の紡錘形を呈す、ためて作りは粗い。	黒曜石	
第109図 PL.157	57	打製石 斧	+14	完形	18.5	7.5	2.8	523	基部および片側縁に自然面残り未調整である。未製品か。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第109図 PL.158	58	打製石 斧	覆土	完形	11.7	5.6	2.4	232	厚手で片面に大きく自然面見られ片側縁のみ調整、未製品と思われる。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第109図 PL.158	59	打製石 斧	床	完形	10.9	4.5	1.2	70	撥形、全体に薄手であるが、刃部は極めて薄くなる。	黒色安山岩	
第109図 PL.158	60	打製石 斧	+20	完形	8.8	4.6	1.1	66	撥形、小型品で全体に薄手である、刃部は円く摩耗している。	細粒輝石安山岩	
第109図 PL.158	61	打製石 斧	+39	完形	10.6	5.8	2.7	135	撥形、基部は厚く作られ、横広の刃部は薄くなる。	細粒輝石安山岩	
第109図 PL.158	62	打製石 斧	覆土	完形	8.2	4.9	0.9	38	薄手ので、粗い作り。	黒色安山岩	
第109図 PL.158	63	打製石 斧	+20	欠損	(8.0)	5.0	2.7	(117)	片側が肥厚した刃部片、全体に粗い作りである。	黒色安山岩	
第109図 PL.158	64	打製石 斧	覆土	欠損	(9.2)	5.0	1.6	(76)	撥形、基部を欠く、刃部は斜めで摩耗見られる。	黒色安山岩	
第109図 PL.158	65	打製石 斧	覆土	欠損	(6.4)	5.6	2.8	(129)	厚手で粗い作りの刃部片。	黒色安山岩	
第109図 PL.158	66	スクレ イパー	覆土	完形	8.2	4.0	1.4	42	一端が尖る横長剥片の下縁に刃部を作出。	黒色安山岩	
第109図 PL.158	67	打製石 斧	+43	欠損	(11.3)	5.3	2.9	(200)	角柱状の石材利用、側縁部に若干の調整見られる。刃部欠く、被熱。	細粒輝石安山岩	
第110図 PL.158	68	打製石 斧	覆土	欠損	(8.4)	6.3	2.5	(183)	やや大型の撥形、基部片で端部が角張る。	黒色安山岩	



第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第110図 PL.158	69	打製石斧	覆土	欠損	(6.5)	5.5	2.4	(97)	やや粗い作りの基部片。	黒色安山岩	
第110図 PL.158	70	打製石斧	覆土	欠損	(7.2)	4.6	1.1	(41)	薄手の基部片、片面に大きく自然面残す。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第110図 PL.158	71	打製石斧	覆土	欠損	(5.8)	4.5	1.6	(58)	基部片。	黒色安山岩	
第110図 PL.158	72	打製石斧	覆土	欠損	(6.5)	4.5	1.6	(70)	片面に自然面残す、基部片と見られるが、刃部の可能性もある。	細粒輝石安山岩	
第110図 PL.158	73	スクレイパー	覆土	完形	6.5	4.7	1.3	47	半月状を呈し下縁に粗く刃部作出。片面に自然面。	黒色安山岩	
第110図 PL.158	74	磨石	+5	完形	12.3	6.2	3.8	471	扁平な長円礫、使用面平滑で一部に打痕あり。	粗粒輝石安山岩	
第110図 PL.158	75	磨石	床	完形	(8.5)	4.2	2.5	(151)	小型長円礫利用、表裏の平坦面を使用面とし、端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第110図 PL.158	76	磨石	+10	完形	10.4	6.1	4.1	381	長円礫利用、表裏の平坦面を使用面とする。被熱。	石英閃緑岩	
第110図 PL.158	77	凹石	床	完形	12.8	8.0	4.2	537	なすび形の礫の両面に浅い複数の凹み穴見られる。煤(鉄分か)附着。	不明	
第110図 PL.158	78	砥石	床	完形	21.5	7.0	5.1	1,522	角柱状の棒状礫、やや内反する面を使用面とする、使用面は極めて平滑。	粗粒輝石安山岩	
第110図 PL.158	79	磨石	床	完形	17.0	8.1	4.2	852	やや細長い不定形の礫、端部に打痕見られる。	石英閃緑岩	
第110図 PL.158	80	磨石	+3	完形	17.6	5.0	4.0	659	角棒状礫、明瞭な使用痕は認められず、表面鉄分の附着か。	安山岩	
第111図 PL.158	81	凹石	覆土	欠損	9.4	8.4	6.1	782	角礫、平坦な面を使用面とし、浅い凹みが見られる。	粗粒輝石安山岩	
第111図 PL.158	82	敲石	炉内	完形	11.7	7.0	4.0	518	U字型の扁平礫、下端平坦部分及び片側縁部を敲き面として使用か。	流紋岩	炉石に転用
第111図 PL.158	83	磨石	覆土	欠損	(4.8)	7.4	5.4	(260)	円礫利用使用面は平滑で浅い凹みが見られる。欠損品。被熱あり。	粗粒輝石安山岩	
第111図 PL.158	84	磨石	+31	欠損	(4.6)	8.9	5.2	(326)	扁平な円礫、両面使用面とする、被熱か。欠損品。	粗粒輝石安山岩	
第111図 PL.158	85	磨石	覆土	欠損	(7.3)	5.5	4.3	(257)	断面方形を呈す、表裏の平坦面を使用面とすし、浅い凹みが見られる。	粗粒輝石安山岩	
第111図 PL.158	86	台石	+42	欠損	(14.5)	(9.5)	(2.7)	(362)	やや大きな扁平礫、平らな面を使用、破損品で被熱あり。	粗粒輝石安山岩	
第111図 PL.158	87	台石	炉	完形	22.6	20.9	6.3	4,355	やや扁平な円礫。平坦な両面使用、浅い凹み穴が見られる。	粗粒輝石安山岩	炉石に転用
第112図 PL.158	88	丸石	床	完形	40.2	23.9	17.1	25,400	卵形の大形礫、片面に使用による平滑面が認められる。	粗粒輝石安山岩	
第112図 PL.158	89	石皿	炉	欠損	(21.0)	(15.9)	8.6	(4,520)	大型品、手前側部分の欠損品。	粗粒輝石安山岩	炉石に転用

95-14号住居跡(第117~121図: PL.159~161)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第117図 PL.159	1	深鉢+39 口縁~体部上半 残存 口: 25.0	①粗: 輝石 ②黒褐色	波状突起4単位。波頂下に沈線による渦巻文を配し、下端を横位弧状沈線が繋ぐ。体部は2条沈線による方形状意匠と蕨手状沈線を配す。地文は縦位LR。	中期後葉古
第117図 PL.159	2	深鉢(壺)+12 口縁部小破片・ 体部1/4残存 口: (15.0)	①細: 輝石 ②黄灰色	口縁部片は接合していない。口縁部は外反し無文。肩部は強く膨らみ小型の橋状把手を4単位配す。体部施文は沈線で、逆U字状意匠による懸垂文構成を主に渦巻文と蕨手状沈線を配す。縄文は縦位RL充填施文。	中期後葉新
第117図 PL.159	3	深鉢 炉 体部のみ残存	①粗: 石英・雲母多 ②鈍い黄褐色~明褐色	体部上半に渦巻状突起と双環状突起を2単位掛け横位隆線2条を繋ぐ。隆線間に円形刺突文を施す。体部は沈線による施文で、渦巻文や弧状意匠を配し、下半は垂下沈線による懸垂文構成で斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第117図 PL.159	4	深鉢+22 口縁~体部上半 残存 口: 10.6	①粗: 石英・輝石 ②暗赤褐色	小型深鉢。欠損するが口縁突起1単位を配す。突起下に隆線による渦巻文を配し2条隆線が懸垂し体部を2単位に分割する。空白部は沈線による施文で渦巻文と垂下沈線が配される。頸部隆線の側線に円形刺突文を施す。地文は縦位LR。	中期後葉信州系
第117図 PL.159	5	深鉢+25 体部下半1/2 残存	①粗: 石英 ②赤褐色~鈍い赤褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。1・2単位。垂下沈線2条も分割線とすると4単位。沈線による横位弧状意匠、逆U字状意匠を密接に配す。地文は無節し縦位施文。	中期後葉古
第117図 PL.159	6	深鉢+26 口縁~体部上半 破片	①粗: 石英・雲母 ②褐色	低位隆帯による口縁部渦巻文と楕円状区画文構成。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。口縁部は無節し縦位充填施文、体部はRL縦位充填施文。	中期後葉新
第117図 PL.159	7	深鉢+36 口縁部破片	①粗: 石英・輝石 ②鈍い赤褐色~黒褐色	低位隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。区画内側線は沈線、縦位RLを施す。	中期後葉新

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第117図 PL.159	8	深鉢 +26 口縁部破片	① 細：輝石 ② 鈍い黄褐色～黒褐色	波状口縁。低位隆帯による口縁部楕円状区画文構成。波頂部は渦巻文か。体部は2条隆線による幅狭の磨消部懸垂文構成。縄文は縦位RL充填施文。	中期後葉新						
第117図 PL.159	9	深鉢 +9 口縁部突起	① 粗：輝石 ② 赤褐色	波状突起。波頂下に隆線による渦巻文を配す。側線は幅広の沈線で縦位RLを充填施文する。	中期後葉新						
第117図 PL.159	10	深鉢 +22 口縁部破片	① 粗：石英少・雲母少 ② 黒褐色	隆線による口縁部区画文構成。区画内・隆線側線は幅広の沈線。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。口縁部は横位、体部は縦位RL充填施文。	中期後葉新						
第117図 PL.159	11	深鉢 K-24 口縁～体部上半 1/4残存	① 粗：石英 ② 橙色	波状縁。低位隆帯による口縁部渦巻文と楕円状区画文構成。下端の分帯線は不明瞭。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。縄文はRL縦位充填施文。	中期後葉新						
第118図 PL.159	12	深鉢 +16 口縁部破片	① 粗：白色粒 ② 黒褐色	2条隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。区画内は斜位短沈線を充填する。体部は2条沈線による蛇行懸垂文か。地文は無節L縦位施文。	中期後葉古						
第118図 PL.159	13	深鉢 +17 口縁部破片	① 粗：石英・雲母 ② 灰黄褐色	隆帯による口縁部区画文構成か。口唇部に凹線を設ける。区画内側線は沈線、無節Lを縦位施文する。	中期後葉新						
第118図 PL.159	14	深鉢 +36 口頸部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	隆線による口縁部渦巻状意匠。側線は無で。横位凹線以下体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。口縁部横位、体部縦位RL充填施文。	中期後葉新						
第118図 PL.159	15	深鉢 +26 体部破片	① 細：輝石 ② 鈍い赤褐色	2条の弧状沈線間とU字状意匠間を円形刺突文が充填される。斜位・縦位RL充填施文。	中期後葉新						
第118図 PL.159	16	深鉢 +33 頸部～体部上半 破片	① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色	頸部外反し無文。体部上半に円形刺突文を重ねる横位隆線を設け以下隆線による楕円状区画文を横位に連続する。区画内側線は無で、横位RLを充填する。	中期後葉新						
第118図 PL.159	17	深鉢 +34 口頸部～体部上 半破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色	波状縁か。口頸部は隆線で画される。頸部は無文で外反する。体部は横位沈線2条間を円形刺突文が連続し、以下沈線による逆U字状意匠と蕨手状沈線文が配される。RL縦位充填施文。	中期後葉新						
第118図 PL.159	18	深鉢 +36 頸部破片	① 粗：輝石 ② 褐色	隆線による分帯。上位は口縁部区画文か。沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。体部は縦位波状沈線による懸垂文構成。地文は斜位LR。	中期後葉古						
第118図 PL.159	19	深鉢 +13 頸部～体部上半 破片	① 粗：石英 ② 明赤褐色～鈍い赤褐色	体部上半に2条の横位隆帯を配し、以下縦位密接条線を施す。	中期後葉新						
第118図 PL.159	20	深鉢 +13 口頸部～体部上 半破片	① 粗：石英・片岩 ② 明赤褐色	幅広隆帯による口縁部区画文構成。側線は沈線で区画内は横位LRLを充填する。体部は縦位密接条線を施す。	中期後葉新						
第118図 PL.159	21	深鉢 床 頸部破片	① 粗：石英・輝石 ② 橙色・鈍い赤褐色	低位隆帯による分帯。上位は口縁部区画文か、沈線を側線とし弧状沈線・条線を施す。体部は2条区画文による磨消部懸垂文構成。施文部は縦位密接条線を施す。	中期後葉新 ?						
第118図 PL.159	22	深鉢 +17 口縁部破片	① 粗：石英 ② 鈍い赤褐色	強く開く口縁部。口唇部に2条の横位隆線を付し、以下縦位沈線施文後、横位沈線を重ね多段区画の印象を与える。口唇部内面は隆線貼付により突出する。	中期後葉信州系						
第118図 PL.160	23	深鉢 +17 口縁～体部上半 1/4残存	① 粗：石英・輝石・雲母 ② 黒褐色	隆線による口縁部半楕円状区画文構成。区画接点に瘤状小突起を付す。区画内側線は沈線、斜位短沈線を充填する。頸部は外反し無文。	中期後葉信州系						
第118図 PL.160	24	深鉢 +41 口縁部突起	① 粗：石英 ② 赤黒色	上端渦巻文を付し3方の橋状把手を付す中空状突起。下端より細隆線が派生する。渦巻状突起と把手の欠損著しい。	中期後葉信州系 ?						
第118図 PL.160	25	深鉢 +36 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	外反する無文の口縁部。径38cm前後か。頸部屈曲は緩やか。	中期後葉信州系						
第118図 PL.160	26	注口土器 外 注口部破片	① 細：輝石 ② 鈍い黄褐色	外面丁寧に研磨される。先端部欠損し、基部近くの器表面も薄く剥落する。	後期前葉新か						
第119図 PL.160	27	ミニチュア 深鉢 底：4.0	① 粗：輝石 ② 褐色	体部無文。底面に環状の凹みを設けるため中央部が僅かに突出。内面に黒色付着物。あるいは漆か。	中期後葉						
第119図 PL.160	28	鉢 +22 底部1/3残存 底：(6.0)	① 細：輝石 ② 鈍い赤褐色～黒褐色	緩やかに湾曲する体部下。外面は無で、内面は丁寧な縦位研磨を施す。底面器厚薄手。	後期前葉新か						
第119図 PL.160	29	ミニチュア 器 脚部1/2残存 底：4.5	① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	径1.0cm程の孔を脚部中位に穿つ。おそらく4単位か。不揃いな縦位沈線を施す。	中期後葉信州系						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第119図 PL.160	30	石鏃	覆土	完形	(2.5)	1.4	0.6	(1.6)	凸基無茎、木の葉形を呈し基部に厚みがある。	黒曜石	
第119図 PL.160	31	石鏃	覆土	欠損	(1.6)	1.3	0.4	(0.6)	平基無茎、比較的薄手の作り。先端部分を欠く。	珪質変質岩(流紋岩質凝灰岩)	
第119図 PL.160	32	石鏃	覆土	完形	1.7	0.5	0.3	0.2	有茎槍形鏃、小型品、鏃の部分は小さく、茎が長く作られる。	黒曜石	
第119図 PL.160	33	石鏃	覆土	完形	2.8	0.7	0.4	0.6	基部が太く先端部が細く尖った棒状鏃。	黒曜石	
第119図 PL.160	34	石鏃	覆土	欠損	(3.2)	1.9	0.6	(4.1)	やや扁平な縦長剥片、つまみ部やや広がり鏃部先端を欠損か。	黒色安山岩	
第119図 PL.160	35	打製石斧	+40	ほぼ完形	11.2	7.0	1.8	154	撥形、刃部は円く広がるが、左右非対称、片面に大きく自然面残す。	黒色安山岩	
第119図 PL.160	36	打製石斧	覆土	完形	(9.3)	5.9	1.5	(100)	撥形、刃部は円く摩耗見られる。	細粒輝石安山岩	
第119図 PL.160	37	スクレイパー	+21	欠損	(8.4)	4.9	1.5	(56)	剥離した刃部片。	黒色安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第119図 PL.160	38	打製石斧	覆土	欠損	(4.3)	5.5	1.4	(44)	刃部片。両面に自然面。	細粒輝石安山岩	
第119図 PL.160	39	打製石斧	+3	欠損	(6.6)	4.1	1.4	(45)	撥形の基部片か、側縁片側は未調整で厚くなる。	黒色頁岩	
第119図 PL.160	40	打製石斧	+13	欠損	(9.2)	5.3	2.2	(132)	短冊形、基部やや薄く作られる。刃部欠く。	黒色安山岩	
第119図 PL.160	41	打製石斧	覆土	欠損	(9.6)	5.1	1.8	(104)	短冊形、両側縁に浅く抉れが見られる。	細粒輝石安山岩	
第119図 PL.160	42	打製石斧	+3	欠損	(6.0)	4.4	1.6	(60)	短冊形の基部片か。	黒色安山岩	
第119図 PL.160	43	打製石斧	+17	欠損	(4.2)	3.7	1.5	(56)	基部片。	黒色頁岩	
第119図 PL.160	44	打製石斧	覆土	欠損	(3.1)	4.3	1.0	(18)	基部片。	細粒輝石安山岩	
第119図 PL.160	45	磨製石斧	床	欠損	9.1	3.2	1.6	66	磨製石斧基部側面部の破損品と見られる、側縁に調整痕、再利用品か。	蛇紋岩	
第119図 PL.160	46	スクレイパー	覆土	完形	8.1	5.2	1.5	67	なすび形の剥片利用、一側縁に粗い刃部を作出。	黒色安山岩	
第119図 PL.160	47	磨石	覆土	完形	5.8	3.9	2.7	88	小円礫利用。	粗粒輝石安山岩	
第119図 PL.160	48	磨石	覆土	完形	6.3	5.1	3.7	162	小円礫利用。	粗粒輝石安山岩	
第120図 PL.160	49	磨石	+8	完形	12.0	6.6	3.9	548	扁平な俵型、2面使用し片面は平坦でもう片面はやや膨らみ有し平滑。	粗粒輝石安山岩	
第120図 PL.160	50	磨石	+19	完形	12.5	7.5	6.6	960	俵型の礫、端部に打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第120図 PL.160	51	磨石	+6	完形	6.8	6.3	3.2	206	扁平な円礫、両面に使用面。	粗粒輝石安山岩	
第120図 PL.160	52	凹石	+13	完形	11.2	8.3	5.7	774	両面に浅い凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第120図 PL.160	53	磨石	+7	完形	11.0	7.6	5.0	568	やや扁平な長円礫、両面使用面、浅い凹みが見られる。	粗粒輝石安山岩	
第120図 PL.160	54	磨石	Pit 5	完形	7.6	5.6	3.0	168	小型扁平礫、被熱。	粗粒輝石安山岩	
第120図 PL.160	55	磨石	+13	完形	11.0	9.8	9.0	1,469	やや大型の円礫、比較的平坦な部分を使用か。	粗粒輝石安山岩	
第120図 PL.160	56	凹石	覆土	欠損	(7.0)	5.7	3.4	(179)	扁平な長円礫、両面に複数の凹みが見られる。端部には打痕。	粗粒輝石安山岩	
第120図 PL.160	57	磨石	炉	欠損	(11.3)	6.4	4.0	(473)	扁平な棒状礫、端部に打痕、表面に鉄分沈着層。欠損品。	不明	
第121図 PL.160	58	磨石	覆土	欠損	(7.9)	(8.2)	5.2	(415)	やや扁平な礫利用、両面使用面、極めて平滑である。欠損品。	安山岩	
第121図 PL.160	59	台石	+26	欠損	16.5	8.9	3.2	738	扁平礫利用、使用面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第121図 PL.161	60	丸石	+15	完形	24.0	16.0	13.9	7,300	大型の長円礫。	粗粒輝石安山岩	
第121図 PL.161	61	台石	+4	完形	15.0	9.4	3.5	969	板状の川原石、表裏の平坦面利用。	粗粒輝石安山岩	
第121図 PL.161	62	台石	床	完形	22.0	17.1	7.9	4,650	やや扁平な不定形を呈す。両面使用面とし、平滑。	粗粒輝石安山岩	
第121図 PL.161	63	丸石	+5	完形	27.2	21.2	17.4	14,900	大型の円礫。	黒色安山岩	
第121図 PL.161	64	軽石製品	覆土	完形	3.4	3.3	1.0	3	板状で台形を呈す、欠損品か。	軽石	

#### 95-15号住居跡(第125~132図: PL.161~165)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第125図 PL.161	1	深鉢 覆土 口縁~体部中位 1/3 残存 口: (29.0)	①粗: 輝石 ②黒褐色	緩やかな波状縁。あるいは5単位か。低位隆帯と沈線による口縁部渦巻文と区画文構成。横位 RL を充填する。体部は2帯に分帯され、上位は沈線によるU字状意匠を下位は逆U字状懸垂文と蕨手状懸垂文を配す。磨消部は研磨を加える。縄文はRL 縦位充填施文。	中期後葉新
第125図 PL.161	2	深鉢 覆土 口縁~体部中位 1/2 残存 口: 13.4	①細: 白色粒 ②褐色	頸部で括れる小型の深鉢。口縁部に2条の横位沈線を設け、以下2・3条の垂下沈線による懸垂文構成。縄文は縦位・斜位 RL 充填施文。原体部端部圧痕を見る。	中期後葉新
第125図 PL.161	3	深鉢 覆土 口縁~体部中位 1/3 残存 口: 26.2	①粗: 石英・輝石・褐色粒 ②褐色	波状突起4単位を配す。低位隆帯と沈線による口縁部渦巻文と区画文構成。頸部は幅広の無文部を設け体部は横位沈線で画す。体部は沈線による方形意匠と中位に蕨手状沈線文を埋める。縄文は縦位 RL 充填施文。	中期後葉新
第125図 PL.161	4	深鉢 炉理設 体部のみ残存	①粗: 白色粒多・石英 ②鈍い黄褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。4単位構成ながら配置は不規則。体部湾曲部に渦巻文を配し、側縁の沈線を上端で剣先状に変化させる。縄文は、RL 縦位充填施文。内外器面加熱により器壁剥落。	中期後葉東北系

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第125図 PL.161	5	深鉢床 口縁部中部位1/4残存 口：(52.0)	①粗：輝石 ②褐色～黒褐色	大型の深鉢。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線と凹形刺突文。縦位・斜位短沈線を充填する。体部は沈線施文。中位に渦巻文を配し連弧状沈線で繋ぎ、下端は懸垂文構成。地文は縦位LR。	中期後葉新
第125図 PL.161	6	深鉢覆土 口縁～体部中位残存 口：13.6	①細：石英少・雲母少 ②褐色～黒褐色	小型の筒状深鉢。2条隆線による逆U字状懸垂文。5単位を配す。他は沈線施文で、口縁部横位平行沈線を設け、体部は縦位波状沈線を充てる。	中期後葉新
第125図 PL.161	7	深鉢埋喪 口縁～体部中位4/5残存 口：21.0	①粗：石英多・輝石 ②暗赤褐色	隆線による渦巻文と区画文が連繋化した口縁部文様構成。5単位。沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。体部は垂下沈線2条を配すが、体部中位の横位沈線で区画化する。対弧状意匠や矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第125図 PL.161	8	鉢+18 口頸部～体部上半1/3残存	①粗：石英・雲母少・褐色粒 ②鈍い黄褐色	口縁部は直立し無文。肩部に横位隆線を設け小型の橋状把手を付す。体部は太い沈線による施文で、渦巻文や弧状意匠を配す。体部の一部に赤彩が残る。	中期後葉新
第126図 PL.162	9	浅鉢+9 口縁～体部1/4残存 口：(53.2)	①粗：褐色粒・石英多 ②褐色・赤褐色	口縁部は強く開き口頸部で屈曲する。口頸部は隆線による渦巻文と弧状突起を隆線が繋ぎ上下に区画文を配す。区画内は縦位・斜位短沈線を充填する。	中期後葉新
第126図 PL.162	10	深鉢+10 口縁部破片	①粗：石英・輝石多 ②オリーブ黒色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線、横位RLを充填する。体部は頸部隆線で画され、沈線による逆U字状意匠を配す。意匠内は縦位条線を充填する。	中期後葉新
第126図 PL.162	11	深鉢+31 口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い褐色	波状突起下に隆線による渦巻状意匠を配し口縁部区画文と連繋する体部は2条の垂下沈線と蕨手状沈線による懸垂文構成。縄文は横位・縦位RL充填施文。	中期後葉新
第126図 PL.162	12	深鉢+25 口縁～体部中位1/3残存 口：(14.6)	①細：石英・輝石 ②暗褐色	小型深鉢。口縁部波状突起を設け、隆線による渦巻文と幅狭の区画文を配す。体部は2条の垂下沈線による懸垂文構成か。縄文は縦位・斜位RLR充填施文。	中期後葉新
第126図 PL.162	13	深鉢床 口縁部破片	①粗：石英多 ②鈍い赤褐色	隆線による口縁部渦巻文と横長区画文構成。頸部隆線は2縄文は条を設ける。体部は垂下沈線による懸垂文構成か。縄文は縦位LR充填施文。	中期後葉新
第126図 PL.162	14	深鉢+21 口縁部破片	①細：輝石 ②黒褐色	波状突起。上端に半渦巻状意匠。波頂下に隆線と沈線による渦巻文を配す。凹文も施す。RL充填施文。	中期後葉新
第126図 PL.162	15	深鉢床 体部上半破片	①細：石英・輝石 ②褐色	強く内湾する体部上半。横位隆線間に小型の橋状把手が繋ぐ。以下沈線による逆U字状懸垂文が配される。状文は縦位LR充填施文。	中期後葉新
第126図 PL.162	16	鉢+2 口縁～体部上半1/4残存 口：(6.0)	①粗：石英・輝石・雲母少 ②鈍い黄褐色	口縁部直立し肩部の2条隆線に小型の橋状把手を付す。体部は隆線による渦巻文や大柄の弧線文を配す。外面赤彩残る。	中期後葉新
第126図 PL.162	17	鉢+12 口縁部破片	①粗：石英・輝石少 ②鈍い黄褐色	口縁部直立し肩部の2条隆線に小型の橋状把手を付す。	中期後葉新
第127図 PL.162	18	深鉢+2 口縁部破片	①粗：輝石 ②黒褐色	内湾する口縁部。口縁部はRL縦位・斜位施文。体部は条線による渦巻状意匠や弧状意匠が配される。地文は縦位条線。	中期後葉新
第127図 PL.162	19	深鉢床 体部破片	①粗：石英・輝石 ②褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部中位に縦位沈線を施す。縄文は縦位LR充填施文。	中期後葉新
第127図 PL.162	20	深鉢+21 体部中位破片	①粗：石英 ②鈍い赤褐色	緩やかな湾曲を持つ体部。2条の垂下沈線による懸垂文構成。空白部は6・7条単位の櫛歯状工具による縦位矢羽状文を施す。	中期後葉信州系
第127図 PL.162	21	深鉢+19 体部下半～底部1/4残存 底：(9.0)	①粗：輝石 ②赤褐色	浅い垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。磨消部には縦位沈線が加わり、入念な研磨を重ねる。施文部縄文はRL縦位充填施文。	中期後葉新
第127図 PL.162	22	深鉢+13 体部下半～底部1/4残存 底：(6.0)	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色	垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。底面研磨は丁寧。	中期後葉新
第127図 PL.162	23	深鉢+17 体部下半～底部1/3残存 底：(7.0)	①細：輝石 ②褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。中位に縦位沈線を加える。施文部縄文はRL縦位充填施文。内面は丁寧な縦位研磨を施す。白色付着物を見る。	中期後葉新
第127図 PL.162	24	深鉢+29 体部下半4/5残存	①粗：石英 ②褐色	垂下隆線下端部を見る。懸垂文構成。施文部縄文は無節L縦位充填施文。無文部との交互配列は乱れる。	中期後葉新
第127図 PL.162	25	深鉢+10 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	3方に瘤状小突起を付した隆線渦巻文を配し、下端より2条の隆線が懸垂する。2条のU字状沈線を設け、上端に横位蛇行沈線を施し、斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第127図 PL.162	26	深鉢+16 口縁部破片	①粗：石英多 ②暗褐色	隆線による一体化した渦巻文と区画文構成。区画内は横位矢羽状短沈線を充填する。体部は2条沈線による懸垂文構成か。斜位沈線や渦巻文を施す。	中期後葉信州系
第127図 PL.162	27	深鉢+11 口縁部破片	①粗：石英 ②暗褐色	隆線による口縁部渦巻文。側線は沈線で弧状短沈線を充填する。体部は縦位沈線による懸垂文構成か。魚鱗状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第127図 PL.163	28	深鉢+8 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	波状突起。波頂下に隆線による大柄の渦巻文を配す。側線は沈線。	中期後葉信州系
第127図 PL.163	29	深鉢+24 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②暗褐色	口縁部隆線を設け、縦位S字状意匠を付す。下端より2条の隆線が懸垂する。隆線側線は沈線、空白部は弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			①胎土 ②色調			文 様 の 特 徴 等	備 考		
		器種	部位	残存	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)				
第128図 PL.163	30	深鉢 床	口縁部破片					隆線による口縁部渦巻文と区画文が連繋する。区画内側線は沈線、縦位短沈線を充填する。体部は2条沈線が懸垂し、斜位沈線を施す。	中期後葉信州系		
第128図 PL.163	31	深鉢 +14	体部上半破片					隆線による渦巻文より垂下隆線が懸垂する。上半に沈線による横位蛇行沈線を配し、斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系 25と同一個体か		
第128図 PL.163	32	深鉢 +34	口縁部破片					口縁部隆線を設け、縦位蛇行隆線を懸垂する。側線は沈線、空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系		
第128図 PL.163	33	深鉢 +9	口縁部～体部上半破片					波状突起を設け隆線による横長の区画文と渦巻文を配す。区画内は縦位短沈線を充填する体部は垂下隆線による懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系		
第128図 PL.163	34	深鉢 +24	体部上半破片					刻みを付す瘤状小突起より隆線が懸垂する。沈線による小型の楕円区画文を配し、横位蛇行沈線を充填する。以下斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系		
第128図 PL.163	35	深鉢 +17	口頸部破片					低位隆帯による口縁部渦巻文と連繋化する区画文構成。側線は幅広の沈線、弧状条線を充填する。	中期後葉新		
第128図 PL.163	36	深鉢 覆土	口縁部破片					口縁部小突起下端より2条隆線が垂下し体部中位でU字状に懸架区画する。区画内は2条の横位沈線で小区画され縦位沈線を充填する。	中期後葉信州系		
第128図 PL.163	37	深鉢 +17	口縁部破片					口縁部下に2条の横位隆線を設け、円形刺突文を連続させる。地文は斜位・縦位 RL	中期後葉 ?		
第128図 PL.163	38	深鉢 +40	口縁部破片					波状縁か。波頂下に隆線による渦巻文を配し、区画文が接す。体部は刻みを付す隆線が弧状垂下する。縦位・斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系		
第128図 PL.163	39	深鉢 +38	口縁部破片					口縁部区画は沈線か。2列の円形刺突文が弧状に区画し、区画内は縦位短沈線を充填する。施文は深い。	中期後葉信州系		
第128図 PL.163	40	深鉢 +25	口縁部突起					突出する環状突起か。裏面の大半を逸する。外面上端に沈線による渦巻文を施す。下端より隆線が派生する。	中期後葉信州系		
第128図 PL.163	41	深鉢 +19	口頸部破片					頸部隆線上位は沈線を側線とし横位交互刺突文を配す。下位は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系		
第128図 PL.163	42	深鉢 +11	頸部～体部上半破片					隆線による口縁部区画文。縦位沈線を充填する。体部は2条沈線による方形区画文構成。下半は懸垂文か。区画内は縦位波状沈線と縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系		
第128図 PL.163	43	深鉢 床	体部破片					2条の沈線によるU字状区画。区画接点には渦巻文を配す。区画内は縦位蛇行文を配し、縦位矢羽状短沈線を埋める。	中期後葉信州系		
第128図 PL.163	44	深鉢 床	体部中位 1/3 残存					体部中位に湾曲を持つ。沈線施文である。対向するU字状意匠と縦位蛇行文による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系		
第129図 PL.163	45	深鉢 +6	体部上半破片					頸部隆線上位は沈線による区画文構成か。体部は縦位波状隆線による懸垂文構成。空白部は魚鱗状短沈線を施す。	中期後葉信州系		
第129図 PL.163	46	深鉢 +18	体部破片					外反する体部器形。平行沈線による縦位波状条線が密に配される。雑な施文。	中期後葉新		
第129図 PL.163	47	深鉢 +30	体部破片					2条の垂下隆線による懸垂文構成。側線は沈線及び撫で。空白部は縦位矢羽状短沈線を施す。やや雑な施文。	中期後葉信州系		
第129図 PL.164	48	深鉢 床	体部下半 1/3 残存					大型の深鉢。2条の垂下沈線と縦位波状沈線による懸垂文構成。地文は細かな縦位条線。全体に雑な施文。	中期後葉新		
第129図 PL.164	49	深鉢 +40	体部下半破片					沈線施文のみ。体部中位に2条沈線による横位連弧状意匠を配し、対向する波状意匠や垂下沈線が懸垂する。地文は細かな縦位条線。	中期後葉新		
第129図 PL.164	50	深鉢 +8	体部下半～底部 1/3 残存 底：10.0					垂下隆線による懸垂文構成。おそらく4単位。空白部斜位短沈線を施す。底面に網代痕が残る。	中期後葉信州系		
第129図 PL.164	51	深鉢 +11	体部下半 1/2 残存					大型の深鉢。厚手で外反する体部器形。垂下沈線2条による懸垂文構成。空白部は斜位・横位・縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系		
第129図 PL.164	52	深鉢 +10	体部下半～底部 1/4 残存 底：5.4					垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。おそらく4単位。施文部は幅広く縦位波状条線が充てられる。	中期後葉新		
第129図 PL.164	53	深鉢 +13	口縁部破片					口縁部は幅広の無文。頸部は屈曲し隆線を設ける。以下斜位沈線を施す。	中期後葉信州系		
第129図 PL.164	54	深鉢 +17	口縁部破片					口縁部は外反し幅広の無文部を設ける。内外面とも丁寧な研磨を施す。	中期後葉新		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第130図 PL.164	55	石鐮	覆土	完形	1.9	1.8	0.3	0.8	凹基無茎、片側縁が折れ、左右非対称。片面中央部が肥厚。	黒曜石	
第130図 PL.164	56	石鐮	覆土	欠損	3.3	1.3	0.4	1.0	凹基無茎、挟り深く先端部、脚部とも尖る。薄手で丁寧な作り、片脚欠。	黒曜石	
第130図 PL.164	57	石鐮	覆土	完形	1.5	1.2	0.3	0.8	ほぼ三角形で一部を欠く、石鐮の未製品か。	黒曜石	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第130図 PL.164	58	石鏃	覆土	欠損	(1.8)	1.2	0.3	(0.5)	先端部片か。	黒曜石	
第130図 PL.164	59	石鏃	覆土	欠損	(1.8)	(1.2)	0.2	(0.6)	凹基無茎か、挟り浅く脚を僅かに欠。	黒曜石	
第130図 PL.164	60	石鏃	覆土	欠損	(1.4)	(1.0)	0.2	(0.3)	先端部片。	黒曜石	
第130図 PL.164	61	石鏃	覆土	欠損	2.6	(0.9)	0.2	(0.6)	縦半分に割れた石鏃か、未製品の可能性もある。	黒曜石	
第130図 PL.164	62	石錐	覆土	完形	3.5	0.5	0.4	0.9	棒状錐、基部の端が僅かに曲がる。	黒曜石	
第130図 PL.164	63	打製石 斧	覆土	完形	10.8	5.8	1.7	151	撥形だが刃部の広がり僅か、作りは粗く板状礫から作出。	細粒輝石安山岩	
第130図 PL.164	64	打製石 斧	覆土	完形	13.0	5.9	2.0	169	片面に自然面残す、極めて粗い作り。	紫蘇輝石普通輝 石安山岩	
第130図 PL.164	65	打製石 斧	覆土	完形	9.1	4.7	1.3	86	短冊形、基上端部に自然面。刃部摩耗。	黒色頁岩	
第130図 PL.164	66	打製石 斧	覆土	欠損	13.3	5.8	1.6	146	撥形、板状の礫を利用、基部は細身に両面に自然面、刃先部分を欠損。	細粒輝石安山岩	
第130図 PL.164	67	打製石 斧	覆土	完形	11.0	4.8	1.9	109	撥形、刃部は薄手。基底部、裏面僅かに自然面残る。	黒色安山岩	
第130図 PL.164	68	打製石 斧	覆土	完形	10.7	4.5	1.3	112	短冊形、板状礫利用、両面自然面残る。刃部は薄手の作り。	細粒輝石安山岩	
第130図 PL.164	69	打製石 斧	床	完形	11.2	5.2	1.6	101	短冊形、片面に高まり残る。刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第130図 PL.164	70	打製石 斧	覆土	欠損	(7.8)	5.8	2.2	(147)	撥形、刃部片、厚手で刃部の摩耗顕著。	細粒輝石安山岩	
第130図 PL.164	71	打製石 斧	覆土	欠損	(4.3)	4.3	1.3	(29)	撥形か、刃部片。	黒色頁岩	
第130図 PL.164	72	打製石 斧	覆土	欠損	(8.0)	4.4	1.8	(105)	短冊形の基部片、片面に自然面残る。	紫蘇輝石普通輝 石安山岩	
第130図 PL.164	73	打製石 斧	覆土	欠損	(6.7)	5.2	2.1	(107)	撥形、比較的厚手で、両側縁に浅い挟り有す。刃部欠損。	黒色頁岩	
第130図 PL.164	74	打製石 斧	覆土	欠損	(5.0)	5.0	0.8	(33)	薄手の刃部片。	黒色安山岩	
第130図 PL.164	75	打製石 斧	覆土	欠損	(7.2)	4.5	1.0	(47)	基部片か。	細粒輝石安山岩	
第130図 PL.164	76	打製石 斧	覆土	欠損	(9.9)	5.5	1.1	(62)	極めて薄手の板状礫を利用、側縁に簡単な整形痕。刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第131図 PL.164	77	打製石 斧	覆土	欠損	(5.1)	3.0	0.7	(22)	基部片、両面に自然面。	細粒輝石安山岩	
第131図 PL.164	78	スクレ イパー	覆土	完形	(7.6)	5.0	0.8	(44)	長方形の長辺部分に粗い刃部作出。	細粒輝石安山岩	
第131図 PL.164	79	スクレ イパー	覆土	完形	10.6	6.8	1.8	141	大型の一次剥片。下辺に粗い刃部を作出。	黒色安山岩	
第131図 PL.164	80	打製石 斧	覆土	欠損	(5.8)	4.0	1.1	(26)	撥形、両側縁に浅い挟り有す。刃部欠損。	黒色頁岩	
第131図 PL.164	81	磨製石 斧	覆土	欠損	(6.3)	3.3	2.2	(102)	刃部片、U字状を呈す。	蛇紋岩	
第131図 PL.164	82	磨石	覆土	完形	15.1	9.1	5.2	1,201	扁平な俵形の礫、被熱し煤付着。	石英閃緑岩	
第131図 PL.164	83	磨石	覆土	完形	6.5	5.6	5.5	270	卵大の小円礫、表面使用により平滑。	安山岩	
第131図 PL.164	84	磨石	覆土	完形	11.4	8.4	5.8	819	やや扁平な礫利用、使用面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第131図 PL.164	85	磨石	覆土	完形	4.9	3.9	2.9	35	やや軽量の小礫。表面鉄分沈着層。	流紋岩	
第131図 PL.165	86	磨石	覆土	完形	13.4	5.8	4.0	432	棒状礫。	安山岩	
第131図 PL.165	87	磨石	床	欠損	(6.2)	7.2	5.5	(250)	円礫利用、礫表面やや粗い。やや平坦な部分を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	
第131図 PL.165	88	台石	覆土	完形	18.6	9.3	7.2	2,145	やや大型の礫利用、平坦な両面を使用面とする、表面鉄分沈着。	粗粒輝石安山岩	
第131図 PL.165	89	磨石	覆土	欠損	(5.0)	6.4	4.4	(176)	磨石の端部片、鉄分沈着。	粗粒輝石安山岩	
第132図 PL.165	90	台石	覆土	完形	17.0	15.6	5.4	2,518	扁平な大型礫利用、平坦な両面を使用面とする。	石英閃緑岩	
第132図 PL.165	91	石棒	覆土	欠損	(42.6)	13.7	11.8	(13,000)	大型で頭部に向かってやや細くなる。頭頂部は比較的平坦となる。被熱。	緑泥片岩	
第132図 PL.165	92	石皿	床	完形	40.1	31.5	11.0	13,150	大型品、表面は2面、裏面は3面の作業面が稜線で分けられている。	粗粒輝石安山岩(燻燻岩) 1~3cmの安山岩礫含む	炉手前に据えられる

第3章 検出された遺構と遺物

95-16号住居跡(第135図: PL.165)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考		
第135図 PL.165	1	深鉢 炉	口縁部破片	①細:石英・輝石 ②褐色			波状縁波頂部に垂下する隆線下端に渦巻文を配す。区画文は縦位短沈線を充填する。器厚薄手。			中期後葉信州系	
第135図 PL.165	2	深鉢 覆土	口縁部破片	①細:白色粒 ②極暗褐色			緩やかな波状突起か、隆線による逆U字状懸垂文か。口縁部に横位平行沈線、体部は弧状沈線を施す。			中期後葉信州系	
第135図 PL.165	3	深鉢 +3	口頸部破片	①粗:輝石少 ②暗オリーブ褐色			突起剥落か。沈線による口縁部区画線。斜位RLを充填する。			中期後葉新	
第135図 PL.165	4	深鉢 +18	体部破片	①粗:石英 ②明褐色			斜位RLが器面を覆う。			中期後葉新	
第135図 PL.165	5	深鉢 +17	体部下半~底部 1/3残存 底:5.0	①細:輝石 ②暗褐色			垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。磨消部中位に垂下沈線を加える。施文部縄文はRLR縦位充填施文。磨消部には研磨を加える。			中期後葉新	
第135図 PL.165	6	ミニチュア 覆土	底部1/2残存 底:3.4	①細:石英少 ②明黄褐色			深鉢ミニチュアか。体部は湾曲気味に立ち上がり、底面は薄手。垂下沈線下端部を見る。器面摩滅。			中期後葉新	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第135図 PL.165	7	石鎌	覆土	ほぼ 完形	1.8	(1.2)	0.3	(0.4)	凹基無茎、小型品で扱いは浅い。	黒曜石	
第135図 PL.165	8	石鎌	炉内	欠損	(1.8)	1.2	0.3	(0.4)	凹基無茎、小型品で片脚を欠く、左右非対称。	黒曜石	
第135図 PL.165	9	打製石 斧	覆土	欠損	(4.5)	5.2	1.20	(32)	基部片、比較的薄手の作り、刃部が大きく開く形状か。	細粒輝石安山岩	
第135図 PL.165	10	磨石	床	ほぼ 完形	6.7	5.5	4.2	214	小型円礫利用、やや平坦な部分を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	
第135図 PL.165	11	石皿	炉	欠損	(26.5)	18.0	6.3	(4,390)	使用面は平滑で縁は低い、裏面に複数の凹み穴を有す。被熱。	粗粒輝石安山岩	

95-17号住居跡(第138・139図: PL.165・166)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考		
第138図 PL.165	1	深鉢 覆土	口縁部破片	①細:輝石 ②黒色			口縁部は内湾。縄文はLR横位施文。器厚薄手。			中期後葉新	
第138図 PL.165	2	深鉢 覆土	口縁部破片	①細:石英・輝石 ②橙色			波頂部に円形刺突文を施し、口縁部に沈線を配す。頸部隆線には刺突文を加える。			後期前葉	
第138図 PL.165	3	深鉢 覆土	口頸部破片	①粗:輝石 ②オリーブ褐色			2条隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。側線は幅広の沈線。縄文はRLR縦位充填施文。			中期後葉新	
第138図 PL.165	4	鉢 +40	口縁部破片	①粗:石英 ②鈍い褐色~黒褐色			口縁部は直立し体部は強く張る。頸部隆線2条に小型の橋状把手を付す。体部は把手より派生した低位隆線による弧状・渦巻状意匠が配される。			中期後葉新	
第138図 PL.165	5	深鉢 +23	体部破片	①細:輝石 ②赤褐色			垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文はLR縦位充填施文。			中期後葉新	
第138図 PL.166	6	深鉢 覆土	体部破片	①粗:石英・輝石 ②暗褐色			垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文はLR縦位充填施文。外面の煤付着著しい。			中期後葉新	
第138図 PL.166	7	注口土器 覆土	体部破片	①微細:白色粒 ②暗オリーブ褐色			円形刺突文を中核に同心円状意匠を配す。横位沈線も加わる。細縄文LRを充填する。			後期前葉	
第138図 PL.166	8	深鉢 +18	体部破片	①粗:石英・輝石 ②橙色			3条の垂下隆線、あるいは弧状意匠か。空白部は横位沈線以下に縦位短沈線を施す。			中期後葉信州系	
第138図 PL.166	9	深鉢 +13	体部破片	①粗:石英多 ②赤褐色			1条沈線による楕円状区画か。区画内外に縦位弧状短沈線を施す。			中期後葉信州系	
第138図 PL.166	10	深鉢 覆土	体部破片	①粗:石英・輝石・褐色粒 ②橙色			2条沈線による縦位蛇行懸垂文。空白部は弧状短沈線を埋める。			中期後葉信州系	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第138図 PL.166	11	石鎌	+3	完形	1.7	1.5	0.3	0.4	凹基無茎、扱いは弧状で浅い、小振りで側縁は細かい鋸歯状を呈す。	黒曜石	
第138図 PL.166	12	石鎌	覆土	欠損	(1.0)	1.3	0.2	(0.4)	凹基無茎、扱いは弧状で浅い、薄手作り、先端部を欠く。	黒曜石	
第138図 PL.166	13	石鎌	覆土	欠損	(1.4)	2.2	0.7	(2.0)	平基無茎、やや大型品、基部に厚みがある。先端部分を欠く。	黒曜石	
第138図 PL.166	14	打製石 斧	覆土	欠損	(4.8)	4.4	1.3	(39)	基部片。	細粒輝石安山岩	
第138図 PL.166	15	打製石 斧	+38	欠損	(6.8)	5.2	2.2	(107)	基部片厚手で片面に自然面が残る。	粗粒輝石安山岩	
第138図 PL.166	16	石匙	+16	完形	6.1	4.4	0.6	19	薄手の横型、中央につまみ有すが扱いは見られない。刃部は厚み有り。	黒色頁岩	
第138図 PL.166	17	磨石	+28	完形	13.7	8.1	4.4	829	扁平な礫を利用、両平坦面を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	
第138図 PL.166	18	磨石	炉	欠損	13.5	7.9	3.4	547	扁平な礫を利用、両平坦面を使用面とし、中央部が僅かに凹む。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第138図 PL.166	19	磨石	+30	完形	8.1	7.7	3.6	322	扁平な円礫、両面使用し平滑。	粗粒輝石安山岩	
第139図 PL.166	20	磨石	+25	完形	8.5	6.9	5.7	415	卵形の礫利用、明瞭な使用痕は見られず。被熱か。	粗粒輝石安山岩	
第139図 PL.166	21	礫器	+5	完形	14.4	5.5	4.0	338	棒状礫、端部に弱い打痕。	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第139図 PL.166	22	礫器	床	完形	20.4	5.2	4.5	811	丸みを持った角棒状の礫。敲石としても利用か。	粗粒輝石安山岩	
第139図 PL.166	23	礫器	+20	完形	35.6	16.7	13.2	11,450	大型の棒状礫。	石英閃緑岩	
第139図 PL.166	24	台石	+23	完形	33.0	21.5	10.5	12,900	大型の礫、平坦部分を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	

95-18号住居跡(第147~155図: PL.166~170)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第147図 PL.166	1	深鉢 覆土 口縁~体部上半 4/5残存 口: 22.4	①粗: 石英 ②極暗褐色	平縁。口縁部は大きく開き、無文部を幅広く設ける。頸部括れ部に渦巻状小突起を設け、下端より2条隆線が垂下する懸垂文構成を示す。5単位を数える。地文は無節L斜位施文。	中期後葉古
第147図 PL.166	2	深鉢 床 口縁~頸部1/ 3残存 口: 40.4	①粗: 石英・輝石・雲母 ②褐色	口縁部は幅広く無文。頸部に横位蛇行細隆線を設け、以下斜位沈線と斜位浮線による斜格子文を配す。体部は横位隆線2条で画され、垂下隆線3条が派生する。空白部は平行沈線による縦位条線が施される。	中期後葉信州系
第147図 PL.166	3	深鉢 +6 体部上半~中位 1/2残存	①粗: 石英・雲母 ②鈍い赤褐色~暗赤灰色	2条横位隆線による体部分帯。上端渦巻状の連鎖状隆線による懸垂文構成。4単位であろう。1条の垂下隆線による小区画文を設ける。地文縄文は縦位LR。縄文施文後隆帯貼付、沈線施文。	中期後葉古
第147図 PL.166	4	深鉢 +18 口縁~体部1/ 3残存・2点 口: (16.0)	①細: 輝石 ②褐色	口縁部は内湾気味で幅広い無文部を設ける。1条の頸部隆線以下、斜位沈線と斜位浮線による斜格子文を配す。	中期後葉信州系
第147図 PL.166	5	深鉢 +18 口縁部破片	①細: 輝石 ②褐色	2条隆線による口縁部渦巻文と区画文。区画内側線は沈線、縄文は直前段反燃RRL横位施文か。	中期後葉古
第147図 PL.166	6	深鉢 +3 口頸部破片	①粗: 石英・輝石 ②灰褐色	口唇部欠損。口縁部隆線を付し、頸部下端に横位沈線2条を配す。地文は縦位RL。	中期後葉古
第147図 PL.166	7	深鉢 +14 口頸部破片	①粗: 石英 ②鈍い黄褐色	2条隆線による口縁部渦巻状突起と区画文。2帯構成か。区画内側線は沈線、弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第147図 PL.166	8	深鉢 +21 体部中位破片	①粗: 石英・輝石 ②赤褐色	内湾する体部。2条隆線による渦巻状意匠を配す。沈線を側線とし縦位LRを充填する。	中期後葉古
第147図 PL.167	9	深鉢 +11 体部中位破片	①粗: 石英・輝石 ②極暗褐色	垂下沈線による懸垂文構成。逆U字状意匠を配す。地文はLR縦位施文。	中期後葉古
第147図 PL.167	10	深鉢 +13 体部破片	①粗: 石英 ②灰褐色	3条の垂下沈線と縦位波状沈線による懸垂文構成。地文はRL縦位施文。	中期後葉古
第147図 PL.167	11	深鉢 +16 体部上半~底部 1/4残存 底: (6.0)	①粗: 石英・輝石 ②鈍い赤褐色	小型深鉢か。体部下半に湾曲を持ち、上半は強く開く。器面を縦位LRが覆う。	中期後葉古
第148図 PL.167	12	深鉢 Pit 7 口縁部破片	①粗: 石英・輝石 ②鈍い黄褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内沈線は側線で円形刺突文を充填する。	中期後葉古
第148図 PL.167	13	深鉢 +38 口縁部破片	①粗: 石英・輝石 ②暗赤褐色	半渦巻状小突起両端より鎖状隆線が派生し、口縁部区画文を画す。2段の区画構成で、区画描線は沈線で縦位短沈線を充填する。内稜を付す。	中期後葉信州系
第148図 PL.167	14	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗: 石英多・輝石 ②褐色	口縁部隆線を設け以下縦位沈線を充填する。頸部に2条隆線を付し、上端渦巻文を付した2条隆線が懸垂する。2条隆線間に円形刺突文を重ねる。	中期後葉信州系
第148図 PL.167	15	深鉢 +17 口縁部破片	①粗: 輝石少 ②褐色	厚手で内湾する口縁部。沈線のみ施文で、弧線文を重ねる。	中期後葉信州系
第148図 PL.167	16	深鉢 +15 口縁部破片	①細: 雲母・輝石 ②褐灰色	波状突起下の隆線渦巻文か。口縁部は2条隆線による区画文と渦巻文を配す。区画内側線は沈線、横位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第148図 PL.167	17	深鉢 炉 口縁部破片	①粗: 石英・雲母 ②褐色~褐灰色	半渦巻状小突起両端より隆線が派生し、口縁部区画文を画す。区画描線は沈線で縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第148図 PL.167	18	深鉢 +14 体部破片	①粗: 石英・輝石 ②赤褐色	隆線による重渦巻状意匠。意匠内縁より内皮平行沈線を横位に施す。	中期中葉
第148図 PL.167	19	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗: 砂礫・石英 ②明赤褐色	口縁部に2条の隆線が突出する。おそらく横長区画文か。側線は沈線で細かな刺突文が重なる。	中期後葉信州系
第148図 PL.167	20	深鉢 床 口縁部破片	①細: 輝石・雲母少 ②暗褐色	口縁部隆線は突出し、内稜を付す。口縁部は幅狭で刺突文を連続する。頸部は無文。	中期後葉信州系
第148図 PL.167	21	深鉢 +20 口縁部破片	①粗: 石英・輝石 ②暗褐色	口縁部は幅狭で低位隆線で画される。縦位短沈線を充填する。頸部は無文。	中期後葉信州系
第148図 PL.167	22	深鉢 Pit 7 口縁部破片	①粗: 雲母多 ②黒褐色	小型深鉢か。口縁部は肥厚し内稜を付す。幅狭で円形刺突文を連ねる。頸部は無文。	中期後葉古
第148図 PL.167	23	深鉢 +13 口縁部破片	①粗: 石英・輝石 ②暗褐色	口縁部隆線及び内稜が突出する。幅狭の口縁部に刺突文を連続させる。	中期後葉信州系
第148図 PL.167	24	深鉢 +18 口縁部破片	①細: 輝石 ②暗褐色	口縁部内湾し幅広い無文部を設ける。頸部隆線3条を配すが弧状に接続し長楕円状の印象を加える	中期後葉信州系
第148図 PL.167	25	深鉢 Pit 1 口縁部破片	①粗: 石英・輝石 ②褐色	あるいは鉢か。口縁~体部一体化し内湾する。口縁部に横位隆線を設け、沈線を側線とする。体部は無文。	中期後葉
第148図 PL.167	26	浅鉢 +48 口頸部破片	①粗: 石英大 ②赤黒色	屈曲部に横位隆線2条を付し体部は太い沈線による楕円状区画文を配す。外面一部に赤彩を残す。	中期後葉



第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎 土 ②色 調				文 様 の 特 徴 等		備 考	
第148図 PL.167	27	深鉢 +30	頸部～体部1 3残存	①粗：石英多・輝石 ②明褐色				頸部は外反し無文。2条の横位隆線で体部を画し、2・3条の垂下隆線が派生する。おそらく4単位。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。		中期後葉信州系	
第148図 PL.167	28	深鉢 +2	口縁部破片	①粗：石英・雲母 ②褐色				2条沈線を描線とする口縁部弧状区画文。あるいは渦巻状意匠か。刺突文が截痕列状に沿い。横位短沈線を充填する。		中期後葉信州系	
第148図 PL.167	29	深鉢 +8	体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②褐色				横位蛇行隆線以下斜位平行平行沈線と斜位浮線による格子目文を配す。体部は2条の横位隆線で画され、縦位平行沈線による条線が施される。平行沈線は内皮施文。		中期後葉信州系	
第148図 PL.167	30	深鉢 +18	体部上半破片	①粗：雲母 ②鈍い赤褐色				横位隆線3条を配し、渦巻状意匠下端より垂下隆線3条が懸垂する。空白部は2条の垂下沈線が配され、矢羽状短沈線を充填する。		中期後葉信州系	
第149図 PL.167	31	深鉢 +10	体部上半破片	①粗：石英多 ②褐色				頸部の2条隆線接点より垂下する隆線による懸垂文構成。側線は沈線。空白部は縦位平行沈線を密に施す。		中期後葉信州系	
第149図 PL.167	32	深鉢 +33	口縁部突起	①粗：雲母 ②黒色				細隆線を巻いた螺旋状突起下端に橋状把手を設ける。内面孔も設け中空状となる。把手上端及び両側面に渦巻文を施す		中期後葉信州系	
第149図 PL.167	33	深鉢 +16	口縁部突起	①粗：輝石多 ②極暗褐色				上端に沈線による渦巻文を施す柱状突起。下端にも渦巻文を配す。		中期後葉信州系	
第149図 PL.167	34	深鉢 +6	口縁部突起	①粗：輝石 ②暗褐色				縦位環状突起下に橋状把手を付す。内面孔も設け中空状となる。突起・把手縁辺に沈線が沿う。		中期後葉信州系	
第149図 PL.167	35	深鉢 +16	口縁部突起	①粗：石英多 ②橙色				沈線による渦巻文を配した双環状突起。おそらく、下端は橋状把手が付す。器面磨滅。		中期後葉信州系	
第149図 PL.167	36	深鉢 +14	把手破片	①細：輝石・雲母少 ②黒褐色				大型の橋状把手。両側面とも沈線が施される。		中期後葉信州系	
第149図 PL.167	37	深鉢 +5	口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色				口唇部内面突出し、口縁部は強く開く。無文。		中期後葉信州系	
第149図 PL.167	38	浅鉢 +5	口縁部破片	①細：輝石 ②鈍い黄褐色				口唇部鋭く突出し、体部上半で湾曲する。内外面とも横位研磨を入念に施し、赤彩を加える。変色部分から波状・弧状意匠か。		中期後葉	
第149図 PL.168	39	台付深鉢 床	脚部破片	①粗：輝石 ②鈍い褐色				脚部上位に2孔一対の円孔を3単位配す。体部下半は垂下隆線下端部を見る。		中期後葉	
第149図 PL.168	40	台付深鉢 床	脚部破片2点 底：(13.6)	①細：輝石 ②褐色				外反気味に広がる脚部。中位に径1.5cm程の円孔を配す。単位は不明。		中期後葉	
第149図 PL.168	41	浅鉢 +23	体部下半～底部 1/3残存 底：(6.0)	①粗：石英多 ②オリーブ褐色				強く外反気味に開く体部。外面は丁寧な研磨を施す。内面下半は器壁剥落。外面に赤彩痕を僅かにみる。		中期後葉	
第149図 PL.168	42	浅鉢 床	体部下半～底部 1/3残存 底：(7.4)	①細：輝石 ②鈍い黄褐色～暗褐色				体部は強く開く。内外面とも横位方向の研磨を丁寧に施し、赤彩を加える。赤彩意匠は不明。		中期後葉	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第149図 PL.168	43	石鎌	覆土	完形	3.7	1.9	0.4	2.1	凹基無茎、扱りは弧状、大型品で丁寧な作り。	黒色安山岩	
第149図 PL.168	44	石鎌	覆土	完形	1.6	1.5	0.3	0.4	凹基無茎、扱り浅い。小型ではほぼ正三角形を呈す。	黒曜石	
第149図 PL.168	45	石鎌	覆土	完形	2.6	1.9	0.3	0.9	凹基無茎、片脚がやや長い、作りは丁寧。	黒色頁岩	
第149図 PL.168	46	石鎌	覆土	完形	2.5	1.7	0.4	1.8	平基無茎、先端部分厚みがあり、鋭利さは見られない。	黒色頁岩	
第150図 PL.168	47	石鎌	覆土	欠損	2.9	(1.6)	0.5	(1.1)	凹基無茎、扱りは比較的深い。片脚を欠く。片面に小瘤状の高まり残る。	珪質変質岩 (流紋岩質凝灰岩)	
第150図 PL.168	48	石鎌	覆土	ほぼ 完形	(1.5)	1.5	0.2	(0.6)	平基無茎、ほぼ正三角形を呈す、先端部分僅かに欠く。	黒曜石	
第150図 PL.168	49	石鎌	覆土	欠損	(2.1)	1.4	0.5	(1.3)	平基無茎、両側縁がやや弧状を呈す。先端部を僅かに欠く。	黒曜石	
第150図 PL.168	50	石錐	覆土	完形	2.4	0.6	0.5	0.6	小型の棒状錐、錐部は側縁部分僅かに刃部調整が見られるのみ。	黒曜石	
第150図 PL.168	51	石錐	床	完形	3.4	1.1	0.2	1.3	棒状錐、細長い二等辺三角形を呈しつつまみ部は薄く、先端部細く尖る。	チャート	
第150図 PL.168	52	石錐	覆土	完形	2.6	0.7	0.3	0.4	やや扁平な棒状錐、つまみ部分は薄い。全体にやや反っている。	黒曜石	
第150図 PL.168	53	石錐	覆土	ほぼ 完形	(5.0)	0.8	0.7	(2.4)	細長い棒状錐、断面三角で角が取れている。先端部僅かに欠損。	黒曜石	
第150図 PL.168	54	石錐	覆土	欠損	(2.8)	1.1	0.5	(1.5)	つまみ部やや膨らむ棒状錐、先端部を欠く。	黒曜石	
第150図 PL.168	55	打製石 斧	覆土	完形	9.0	4.9	2.2	133	短冊形、短身で基部が厚い。片面に自然面残り、刃部は摩耗。	黒色頁岩	
第150図 PL.168	56	打製石 斧	覆土	完形	10.3	5.4	1.9	102	撥形、基部は細く一部に自然面、刃部は広がり、摩耗頭著。	細粒輝石安山岩	
第150図 PL.168	57	打製石 斧	覆土	完形	11.0	5.0	1.2	86	撥形、やや薄手、刃部は摩耗。	細粒輝石安山岩	
第150図 PL.168	58	打製石 斧	覆土	完形	10.3	4.4	1.1	78	短冊形、片面に自然面、刃部丸く全体に粗い作り。	細粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第150図 PL.168	59	打製石斧	覆土	欠損	12.4	6.6	2.5	216	撥形、やや大型で基部が厚手で刃部はやや薄くなる。2片が接合。	粗粒輝石安山岩	
第150図 PL.168	60	打製石斧	覆土	完形	11.7	4.0	2.0	125	短冊形、やや細身で厚み有り。刃部刃先は粗い作り。	細粒輝石安山岩	
第150図 PL.168	61	打製石斧	床	ほぼ完形	8.4	4.8	1.7	95	短冊形、短身でやや厚手、刃部僅かに欠損か。	黒色安山岩	
第150図 PL.168	62	打製石斧	覆土	完形	7.0	4.3	0.9	39	小型撥形、なすび形を呈す。片面に自然面、刃部は円刃で摩耗顕著。	細粒輝石安山岩	
第150図 PL.168	63	打製石斧	覆土	完形	9.2	5.2	1.7	102	撥形、短身で基部やや厚く、刃部は薄くなる。	細粒輝石安山岩	
第150図 PL.168	64	打製石斧	覆土	完形	10.2	5.5	2.2	147	撥形、基部厚く上端部に自然面、刃先が薄くなる。	粗粒輝石安山岩	
第151図 PL.168	65	打製石斧	覆土	完形	10.9	6.2	2.1	176	撥形、片面に大きく自然面。刃部刃先が薄くなる。	細粒輝石安山岩	
第151図 PL.168	66	打製石斧	覆土	完形	8.6	4.0	1.1	78	小型撥形、基部は先端部分が尖る。刃部円刃で摩耗見られる。	黒色安山岩	
第151図 PL.168	67	打製石斧	覆土	ほぼ完形	10.5	5.4	2.0	146	撥形、片面に大きく自然面。偏刃で鋭利さは見られない。	細粒輝石安山岩	
第151図 PL.168	68	打製石斧	覆土	完形	7.8	4.2	1.3	16	短冊形、やや短身で基部は薄い。刃部は厚く刃先は粗い作り。	細粒輝石安山岩	
第151図 PL.168	69	打製石斧	覆土	欠損	6.6	4.4	1.6	43	撥形の基部片と見られる。側縁に弱い抉り見られる。	黒色安山岩	
第151図 PL.168	70	打製石斧	覆土	欠損	(10.9)	7.4	2.1	(185)	幅広の打製石斧刃部片と思われる。片面に大きく自然面残る。	細粒輝石安山岩	
第151図 PL.168	71	打製石斧	覆土	完形	(8.5)	5.0	2.1	(110)	撥形、短身でやや厚みもある。	黒色安山岩	
第151図 PL.168	72	打製石斧	覆土	欠損	(4.9)	4.1	0.9	(25)	薄手の刃部片と思われる。	黒色頁岩	
第151図 PL.168	73	打製石斧	覆土	欠損	(4.9)	4.6	1.4	(45)	円刃、刃部片と見られる。	細粒輝石安山岩	
第151図 PL.168	74	打製石斧	覆土	欠損	(10.2)	7.0	2.0	(195)	撥形、大型品で板状を呈す。刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第151図 PL.168	75	打製石斧	覆土	欠損	(15.8)	6.0	1.9	(201)	撥形、片面部分的に自然面残る。刃部僅かに欠損。	細粒輝石安山岩	
第151図 PL.168	76	打製石斧	覆土	欠損	(6.2)	4.5	2.0	(81)	撥形、片面に自然面残る基部片。	細粒輝石安山岩	
第151図 PL.168	77	打製石斧	覆土	欠損	(8.3)	5.1	1.6	(107)	撥形、片面に自然面。刃部欠く。	細粒輝石安山岩	
第151図 PL.168	78	打製石斧	覆土	欠損	(9.1)	6.1	2.2	(177)	撥形、片面に大きく自然面残る。刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第151図 PL.168	79	打製石斧	覆土	欠損	(7.5)	5.5	1.9	(125)	撥形か、片面に自然面大きく残す。刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第151図 PL.168	80	打製石斧	覆土	欠損	(6.3)	5.1	1.7	(65)	撥形の基部片、自然面残し、端部に丸み。	細粒輝石安山岩	
第151図 PL.168	81	打製石斧	覆土	欠損	(6.5)	4.7	1.4	(60)	撥形、基部片。	黒色安山岩	
第152図 PL.168	82	打製石斧	覆土	欠損	(6.5)	4.5	1.1	(53)	基部片、角はやや丸み呈す。端部に自然面。	細粒輝石安山岩	
第152図 PL.168	83	打製石斧	覆土	欠損	(6.3)	5.1	1.7	(65)	撥形の基部片と思われる、やや厚み有り。	粗粒輝石安山岩	
第152図 PL.168	84	打製石斧	覆土	欠損	(8.5)	5.5	2.2	(101)	撥形、基部外面に自然面が残り、丸みを有す。刃部を僅かに欠く。被熱。	細粒輝石安山岩	
第152図 PL.169	85	打製石斧	覆土	欠損	(4.8)	4.3	1.4	(34)	基部片。	細粒輝石安山岩	
第152図 PL.169	86	打製石斧	覆土	欠損	(4.8)	4.0	2.8	(62)	極めて厚手の基部片と思われる。一部に自然面が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第152図 PL.169	87	打製石斧	覆土	完形	11.1	4.8	1.1	57	剥片から作り出される。基部が曲がり片面に自然面。刃部は三角。	細粒輝石安山岩	
第152図 PL.169	88	スクレイパー	覆土	完形	4.3	3.8	1.0	15	三角形の剥片下辺部に刃部を作出。	珪質頁岩	
第152図 PL.169	89	磨製石斧	覆土	欠損	(5.4)	4.9	2.8	(128)	基部片、角はやや丸み呈す。	蛇紋岩	
第152図 PL.169	90	磨製石斧	覆土	欠損	(2.3)	(3.1)	(0.6)	(6.3)	磨製石斧の刃部片。	蛇紋岩	
第152図 PL.169	91	磨石	床	ほぼ完形	12.1	7.3	4.2	595	扁平な長円礫、両面、側面共に平滑な使用面が認められる。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第152図 PL.169	92	磨石	覆土	完形	10.6	8.1	4.7	631	やや扁平な礫、両面使用し平滑。浅い打痕状の凹みが見られる。	粗粒輝石安山岩	
第152図 PL.169	93	磨石	床	完形	12.3	7.8	4.8	743	扁平な長円礫利用、使用面は極めて平滑で滑らか。	粗粒輝石安山岩	
第152図 PL.169	94	磨石	覆土	完形	11.7	9.1	4.5	600	扁平な円礫、やや発泡質の石を利用。顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第152図 PL.169	95	磨石	覆土	ほぼ完形	7.1	6.2	3.9	237	やや扁平な礫、顕著な使用痕見られず、僅かにヒビ、剥落が見られる。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第153図 PL.169	96	敲石	床	完形	(13.7)	7.7	4.3	660	扁平な長円礫、一端の平坦面を打面としたものと思われる。	粗粒輝石安山岩	
第153図 PL.169	97	磨石	覆土	完形	12.2	9.3	5.5	911	やや扁平な礫利用。両面平滑で側縁部わずかに打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第153図 PL.169	98	凹石	覆土	完形	14.8	8.2	3.4	593	扁平でなすび形を呈す。両面に複数の凹み穴が縦位に見られる。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第153図 PL.169	99	磨石	覆土	ほぼ完形	9.2	8.8	4.7	525	やや扁平な円礫、側縁部打撃によるものか剥落が顕著。	安山岩	
第153図 PL.169	100	礫器	覆土	ほぼ完形	20.7	10.8	5.7	1,775	扁平でなすび形のやや大型礫。側縁部に打痕見られる。表面鉄分沈着。	安山岩?	
第153図 PL.169	101	磨石	覆土	完形	18.0	7.4	4.0	834	扁平な腸炎礫、平坦面に浅い打痕状の凹み見られる。	粗粒輝石安山岩	
第153図 PL.169	102	磨石	覆土	ほぼ完形	(10.4)	6.0	5.4	(552)	角を有す俵形の礫、表面に打痕状の剥落多い。鉄分沈着。	不明	
第154図 PL.169	103	磨石	覆土	完形	13.0	8.6	3.6	623	小判形の扁平礫、両面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第154図 PL.169	104	磨石	覆土	完形	5.7	5.0	3.8	120	小円礫、鉄分沈着。	粗粒輝石安山岩	
第154図 PL.169	105	磨石	覆土	完形	9.3	7.1	4.9	472	一端が平らな礫。丸い端部部分に打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第154図 PL.169	106	礫器	床	完形	14.8	8.0	5.5	1,170	不定形な自然礫。一部僅かに打痕観察される。	安山岩	
第154図 PL.169	107	礫器	床	ほぼ完形	14.5	7.6	(6.4)	(813)	やや細長い礫、端部に打痕か、鉄分沈着顕著。	安山岩?	
第154図 PL.169	108	磨石	覆土	完形	11.6	6.6	4.9	661	やや扁平な俵形で両面、側縁部使用し平滑。浅い打痕状の凹み有り。	粗粒輝石安山岩	
第154図 PL.169	109	磨石	床	欠損	(9.3)	(4.2)	2.2	(108)	扁平礫。使用面はやや凹み平滑。半分を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第154図 PL.169	110	磨石	覆土	欠損	(6.8)	7.2	7.2	(478)	礫の端部片、表面粗い石質。端部に打痕見られる。	安山岩	
第154図 PL.169	111	磨石	覆土	欠損	(4.9)	(5.3)	(3.2)	(104)	磨石の端部片か。	安山岩	
第154図 PL.169	112	磨石	覆土	欠損	(8.3)	(7.1)	(4.3)	(196)	長円礫、表面は平滑で一部に打痕見られる欠損品。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第154図 PL.169	113	礫器	床	完形	29.2	6.5	6.6	2,265	両端が丸い角棒状礫。全面滑らかだが、顕著な使用痕は見られない。	粗粒輝石安山岩	
第155図 PL.169	114	多孔石	覆土	完形	22.3	15.3	9.8	2,560	やや扁平な礫の両面に複数の凹み穴が穿たれる。いわゆる浅間石。	安山岩質熔岩	
第155図 PL.170	115	敲石	覆土	完形	17.2	4.9	4.0	436	船底型を呈す棒状礫。側面やや端に打痕顕著。表面に鉄分沈着。	粗粒輝石安山岩	
第155図 PL.170	116	台石	覆土	欠損	(19.1)	(20.4)	8.8	(3,670)	大型の扁平礫、平らな面を使用、端に凹み穴有す。被熱、片面に煤。	粗粒輝石安山岩	
第155図 PL.170	117	台石	覆土	欠損	(20.4)	19.8	7.7	(3,990)	扁平な大型礫、両面使用面とする。	粗粒輝石安山岩	
第155図 PL.170	118	石棒	覆土	欠損	(19.4)	(13.2)	(5.4)	(1,497)	緑色片岩製の大型石棒片と見られる、側面は丸く滑らかに整形、被熱。	緑色片岩	

#### 95-19号住居跡(第163~167図: PL.170~172)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第163図 PL.170	1	深鉢 覆土 口縁部1/4欠損 口: 19.2 高: 21.0 底: 7.0	①粗: 石英多 ②黒褐色	小型深鉢。器面磨滅し体部が著しい。小型の橋状把手4単位を付す波状縁。把手は縦位S字状意匠を付し口縁部は無文である。頸部に波状隆線を配し斜位RLを充填する。体部は隆線による渦巻状意匠を設けるが、磨滅のため判然としない。口縁部に煤が付着する。	後期初頭
第163図 PL.170	2	鉢 覆土 口縁部破片・体部1/2残存 口: (33.6)	①粗: 石英・輝石 ②褐色	口縁部は直立気味で、頸部隆線以下体部は強く湾曲し、球胴状をなす。口縁部は無文で、細身の頸部隆線を付す。体部は2条隆線による大柄の渦巻状意匠が配される。側線は撫で、縄文はLR充填施文。	中期末葉
第163図 PL.170	3	深鉢 覆土 体部残存。底部欠損	①粗: 石英・輝石 ②暗赤褐色	体部上半で括れ中位に湾曲を持つ。沈線のみ施文で3条の垂下沈線による8分割を数える。横位沈線を加え小区画し、縦位波状沈線を充てる。	中期中葉
第163図 PL.170	4	深鉢 覆土 体部下半~底部残存 底: 9.6	①粗: 石英多 ②褐色	大型の深鉢。体部中位で湾曲を持たせる。隆線による波状懸垂文構成か。4単位を数える。隆線の屈折点には円形貼付文を付す。	後期初頭
第163図 PL.170	5	深鉢 覆土 口縁部突起破片	①細: 輝石 ②黒褐色~暗赤褐色	隆帯を相互に配した縦位橋状突起。口縁部は沈線と細隆線で画され、円形刺突文を側線とする。体部は斜位沈線を施す。内面煤付着。	後期初頭
第163図 PL.170	6	深鉢 覆土 口縁~体部上半破片3点 口: (24.0)	①粗: 輝石 ②橙色	波状縁を呈す。口縁部には円形刺突文が沿う。口縁部隆線は頂部で突出する。体部中位で横位細沈線で画され沈線は無文帯で画され、上位は沈線で画された磨消部渦巻状意匠が配される。縄文はLR充填施文。	後期初頭
第164図 PL.170	7	深鉢 覆土 口縁部破片	①細: 輝石 ②黒褐色	波状縁。波頂部に環状突起を付し、上端は面を持つ。突起中位は貫孔し裏面は弧状沈線を施す。口縁部は細隆線と沈線で画され円形刺突文を側線とする。体部上半は弧状沈線で画しLRを充填する。	後期初頭

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)				①胎土 ②色調			文 様 の 特 徴 等	備 考	
		器種	部位	残存	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)			重さ (g)
第164図 PL.170	8	深鉢 +38	口縁部破片						口縁部内傾部に沈線による渦巻文と横矢羽文を配す。体部は垂下沈線3条による懸垂文構成か。LRを充填する。	後期前葉	
第164図 PL.170	9	深鉢 +29	口縁部破片						橋状把手を配し両下端より派生する隆線が口縁部を画す。口縁部は無文。縄文はLR充填施文。	中期末葉	
第164図 PL.170	10	深鉢 +46	口縁部破片						低位隆帯による渦巻状意匠を配す。口唇部内面も隆帯を加える。外面の一部に赤彩痕残る。煤付着。	後期初頭	
第164図 PL.170	11	深鉢 覆土	口縁部破片						直立気味の口縁部。横位細隆線を設ける。体部は縦位RLを施す。	中期末葉 ?	
第164図 PL.170	12	深鉢 覆土	口縁部破片						全体に歪みを見る。直立気味の口縁部。横位隆線を設け体部は縦位LRを施す。	中期末葉 ?	
第164図 PL.170	13	深鉢 覆土	口縁部破片						波状縁。口縁部下に微隆線を設け、体部は横位RLを施す。器厚は薄手。	中期末葉 ?	
第164図 PL.171	14	鉢 覆土	口縁部破片						強く内湾する。口縁部横位沈線を重ね、弧状に区切る箇所を設ける。施文部を交互に配し、LR細縄文を充填する。	後期か	
第164図 PL.171	15	深鉢 +24	口縁部破片						口縁部細隆線以下2条沈線に画された磨消部弧状意匠。縄文はLR充填施文。外面煤付着。	後期初頭	
第164図 PL.171	16	深鉢 +39	口縁部破片						口縁部内傾し細隆線を設ける。体部は沈線で画された磨消部弧状意匠か。LR充填施文。	中期末葉	
第164図 PL.171	17	深鉢 覆土	口縁部破片						口唇部は鋭く外傾する。口縁部沈線を施し、弧状隆帯を付す。	中期中葉 ?	
第164図 PL.171	18	深鉢 +29	体部把手						頸部隆線に付される大型の橋状把手。上端は短く外反する。縄文はLR充填施文。	中期後葉新	
第164図 PL.171	19	深鉢 覆土	体部上半破片						頸部外反し、体部内湾する。頸部隆線2条を小型の橋状把手が繋ぐ。体部は縦位LRを施す。	中期末葉	
第164図 PL.171	20	深鉢 +23	体部上半破片						口縁部外反し無文。頸部隆線は波状で、体部は垂下沈線による懸垂文構成か。縄文は縦位LR充填施文。	中期末葉	
第164図 PL.171	21	深鉢 +3	頸部破片						口縁部外反し無文。頸部に8字状意匠を配し、横位沈線2条を繋ぐ。破片下位には斜位に沈線を見る。細縄文LRを横位充填施文する。	後期前葉	
第164図 PL.171	22	深鉢 +10	体部中位破片						2条の沈線で画された磨消部弧状意匠。逆U字状意匠か。縄文はLR縦位充填施文。	中期末葉	
第164図 PL.171	23	深鉢 +45	体部破片						沈線による同心円状意匠か。施文部は交互配置で、細縄文LRを充填する。	後期初頭	
第164図 PL.171	24	深鉢 覆土	体部破片						押圧を加える垂下隆線による懸垂文構成か。沈線で画された波状・弧状意匠を配す。縄文はLR縦位充填施文。	後期初頭	
第164図 PL.171	25	深鉢 +7	体部破片						薄手の器厚。縦位LRが器面を覆う。	後期 ?	
第165図 PL.171	26	深鉢 覆土	体部上半破片						横位沈線2条以下2・3条沈線による樽状の弧線意匠が配される。	後期前葉	
第165図 PL.171	27	深鉢 覆土	体部破片						複列の刺突文による対弧状意匠が配される。	後期初頭 ?	
第165図 PL.171	28	深鉢 +9	体部中位破片						上半2条の沈線によるU字状意匠を配し、縦位羽状短沈線を充填する。下半は蕨手状懸垂文上端を見る。	中期後葉信州系	
第165図 PL.171	29	深鉢 覆土	口縁部破片						直立気味の口縁部。横位細隆線を設ける。器厚は薄手。	後期初頭 ?	
第165図 PL.171	30	深鉢 +4	口縁部 1/3 残存 口: 26.4						平縁で無文の深鉢。体部中位で緩やかな内湾を示唆する。外器面磨滅。	後期初頭 ?	
第165図 PL.171	31	深鉢 +22	口縁部破片						浅鉢か。口縁部内面は強く突出。外面は無文で頸部に横位沈線を配し交互刺突文を加える。内外面研磨。	中期後葉	
第165図 PL.171	32	深鉢 +35	口縁部突起						強く突出する双環状突起。両側面に意匠する。突起下端は環状突起を配し中央が貫孔する。	中期末葉	
第165図 PL.171	33	深鉢 +37	口縁部突起						突起中位を貫孔し、下端より派生した隆線が口縁部を画す。各所に円文と沈線を施す。内面左側面は縦位環状小突起を付し右側面は横位小突起を付す。	後期初頭	
第165図 PL.171	34	台付深鉢 覆土	脚部破片						脚部から体部は大きく開く、無文で器面研磨。脚部は二次的な研磨ですり減る。	中期後葉 ?	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第165図 PL.171	35	石鉢	覆土	完形	2.7	2.1	0.3	1.3	凹基無茎、やや大型品、薄手で丁寧な作り。	黒曜石	
第165図 PL.171	36	石鉢	覆土	欠損	(3.0)	(1.3)	0.3	(0.8)	凹基無茎、先端部は鋭く尖り、丁寧な作り。片脚を欠く。	黒曜石	
第165図 PL.171	37	石鉢	覆土	完形	2.1	1.7	0.3	0.8	凹基無茎、扱りは弧状に深く、丁寧な作り。	黒曜石	
第165図 PL.171	38	石鉢	覆土	完形	1.8	1.7	0.3	0.6	凹基無茎、扱りは弧状で浅い。全面に黒色の付着物見られる。	黒曜石	
第165図 PL.171	39	石鉢	覆土	完形	1.8	1.5	0.3	0.7	凹基無茎、扱りは浅い。	黒曜石	
第165図 PL.171	40	石鉢	覆土	完形	2.0	1.2	0.4	0.7	凹基無茎、基部の扱りは浅く、細身で両側縁部に僅かな扱ひ見られる。	黒曜石	

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第165図 PL.171	41	石鏃	覆土	完形	1.1	1.0	0.2	0.3	平基無茎、小型品でやや厚みを持つ。	黒曜石	
第165図 PL.171	42	石鏃	覆土	欠損	2.5	(1.1)	0.2	(0.7)	凹基無茎、挟りV状で深い。薄手で作りは丁寧。片脚を欠く。	黒曜石	
第165図 PL.171	43	石鏃	覆土	欠損	(2.0)	(1.4)	0.2	(0.4)	凹基無茎、挟りは深く長脚。片脚を欠く。	黒曜石	
第165図 PL.171	44	石鏃	覆土	欠損	(1.9)	(1.4)	0.3	(0.6)	凹基無茎、挟り浅く薄手の作り、片側縁部分を欠損か。	黒曜石	
第165図 PL.171	45	石鏃	床	欠損	(1.5)	(1.3)	0.3	(0.8)	先が細く尖る先端部片。	黒曜石	
第165図 PL.171	46	石鏃	覆土	欠損	(1.9)	2.0	0.4	(1.1)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第165図 PL.171	47	石鏃	Pit14	欠損	1.5	(1.4)	0.4	(0.6)	凹基無茎、挟りは極浅い、片脚を欠く。	黒曜石	
第165図 PL.171	48	石鏃	覆土	欠損	1.4	(1.1)	0.2	(0.4)	凹基無茎、挟り浅く脚部分丸みを有し、鋭利さはない。片脚を欠く。	黒曜石	
第165図 PL.171	49	石鏃	覆土	欠損	(1.2)	(0.9)	0.3	(0.2)	先端部片。	黒曜石	
第166図 PL.171	50	石鏃	覆土	欠損	(1.1)	(0.8)	0.3	(0.2)	凹基無茎、小型品、脚および先端部僅かに欠く。	黒曜石	
第166図 PL.171	51	石鏃	覆土	欠損	(1.2)	1.8	0.3	(0.8)	凹基無茎、挟り小さく、先端部を欠く。	黒曜石	
第166図 PL.171	52	石鏃	床	欠損	(1.6)	(1.2)	0.4	(0.6)	凹基無茎、挟り深い。片脚部分。	黒曜石	
第166図 PL.171	53	石鏃	覆土	欠損	(1.4)	(0.8)	0.3	(0.3)	側縁部片か。	黒曜石	
第166図 PL.171	54	石錐	覆土	完形	2.9	0.9	0.5	1.3	やや捻れた角棒状の棒状錐。	黒曜石	
第166図 PL.171	55	石錐	覆土	欠損	(2.1)	1.3	0.5	(1.3)	扇形をつまみ部を有す、錐部は先端を欠く。全体の作りは粗い。	黒曜石	
第166図 PL.171	56	石錐	床	完形	(2.6)	1.5	0.5	(1.3)	菱形をつまみを持ち、錐部は先端が細く尖る。	黒色安山岩	
第166図 PL.171	57	石鏃	覆土	欠損	(2.2)	(1.9)	0.4	(1.3)	大型鏃の先端部片か。珪晶見られる。	黒曜石	
第166図 PL.171	58	石鏃	覆土	欠損	(2.2)	2.4	0.6	(2.7)	平基無茎、作りは粗く先端部を欠く。	黒曜石	
第166図 PL.171	59	石匙	床	完形	5.4	4.0	0.5	11.7	横型でつまみはほぼ中央に付く、本体部分は木の葉形で下辺に刃部。	安山岩	
第166図 PL.171	60	打製石斧	覆土	ほぼ完形	(10.0)	4.5	1.6	(81)	撥形、基部は斜めに作られやや薄手、刃部先端部僅かに欠損か。	黒色頁岩	
第166図 PL.171	61	打製石斧	床	ほぼ完形	9.8	5.3	1.6	107	撥形、刃部偏刃で摩耗見られる。	細粒輝石安山岩	
第166図 PL.171	62	打製石斧	覆土	完形	(8.6)	4.5	1.3	(71)	小型撥形、基部は僅かに細く刃部摩耗。	黒色頁岩	
第166図 PL.171	63	打製石斧	床	完形	9.1	4.2	1.0	44	撥形、小型品、円刃で若干の使用痕。	黒色頁岩	
第166図 PL.171	64	打製石斧	覆土	完形	9.3	5.8	1.4	95	撥形、短身、円刃で若干の使用痕。	黒色頁岩	
第166図 PL.171	65	打製石斧	覆土	欠損	(9.5)	4.9	1.8	(115)	短冊形か、刃部を欠く。	黒色安山岩	
第166図 PL.171	66	打製石斧	覆土	欠損	(8.2)	5.2	1.5	(101)	基部片と思われる。剥がれるように刃部が欠損。	黒色頁岩	
第166図 PL.171	67	打製石斧	覆土	欠損	(7.9)	4.7	2.0	(98)	基部片と見られる。厚手で粗い剥離。片面に自然面残る。	細粒輝石安山岩	
第166図 PL.171	68	打製石斧	覆土	欠損	(6.8)	3.9	1.5	(50)	撥形の基部片か、細くなっており片面一部に自然面。	細粒輝石安山岩	
第166図 PL.172	69	打製石斧	床	欠損	(6.3)	4.9	0.9	(45)	板状の基部片。両面に自然面が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第166図 PL.172	70	打製石斧	床	欠損	(5.8)	5.0	1.0	(47)	板状の基部片。	細粒輝石安山岩	
第166図 PL.172	71	スクレイパー	覆土	完形	(5.1)	5.8	1.6	(62)	台形を呈す。上部やや肥厚し端部に自然面、側縁、下辺に刃部を作出。	黒色頁岩	
第167図 PL.172	72	打製石斧	覆土	欠損	(5.8)	3.3	1.5	(36)	細身の基部片。	細粒輝石安山岩	
第167図 PL.172	73	打製石斧	覆土	欠損	(8.8)	5.9	3.2	(182)	基部片と見られる。厚手で粗い剥離。	黒色頁岩	
第167図 PL.172	74	小型磨製石斧	覆土	完形	3.5	2.1	0.6	9.1	やや薄手の定角式磨製石斧、全面丁寧な研磨が施されている。	蛇紋岩	
第167図 PL.172	75	小型磨製石斧	床	完形	2.8	1.6	0.5	4.4	定角式小型磨製石斧、稜は明瞭で全面良く研磨されている。	蛇紋岩	
第167図 PL.172	76	磨石	覆土	完形	6.3	6.2	3.6	219	饅頭形の礫、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第167図 PL.172	77	磨石	覆土	欠損	(6.0)	7.9	7.7	(412)	球形の礫、表面は比較的平滑、部分的に剥落。半分を欠き被熱。	粗粒輝石安山岩	
第167図 PL.172	78	凹石	覆土	完形	9.7	7.8	5.4	422	不定形な礫の両面に凹み穴を有す。礫表面は粗い。	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第167図 PL.172	79	磨石	覆土	完形	12.5	8.1	5.8	915	やや扁平な長円礫。全面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第167図 PL.172	80	軽石製品	覆土	完形	7.5	6.0	2.2	69	楕円形を呈し厚手。研磨成形。表裏面は平らで平滑。	軽石	
第167図 PL.172	81	石皿	床	欠損	(12.2)	(14.5)	8.7	(1,457)	大型欠損品、縁部分は手前が低くなる。裏面平らで多くの凹み穴穿つ。	粗粒輝石安山岩	
第167図 PL.172	82	多孔石	覆土	欠損	(13.3)	(18.0)	7.9	(1,778)	大型礫の表裏に凹み穴が点在。穴は比較的小振りである。被熱。	粗粒輝石安山岩	

95-20号住居跡(第172~187図: PL.172~180)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第172図 PL.172	1	深鉢 床 口縁~体部中位 残存 口: 29.4	①粗: 石英・輝石 ②暗赤褐色	平縁のキャリバー状深鉢。口縁部文様帯は、隆線による連続した渦巻文と区画文構成。5単位。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。9単位を数える。縄文はRL充填施文。	中期後葉新
第172図 PL.172	2	深鉢 床 口縁~底部1/ 3残存 口: (34.2) 高: 48.2 底: 7.2	①粗: 石英・輝石 ②褐色	大型のキャリバー状深鉢。平縁と考えたが、あるいは波状突起を付すか。口縁部の内湾はやや弱い。口唇部は肥厚し、隆線による連続した渦巻文と区画文を口縁部に配す。4単位か。体部は2条の垂下沈線に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RLR充填施文。	中期後葉新
第172図 PL.172	3	深鉢 覆土 口縁~体部中位 4/5残存 口: 19.0	①細: 石英・輝石 ②鈍い黄褐色	平縁でキャリバー状を呈す。沈線施文で上半に連弧状意匠を配し、弧状波頂部より蕨手状沈線が懸垂し、下半は3条の垂下沈線による懸垂文構成を配す。7単位を数える。地文は口縁部横位、体部は縦位RLを施す。	中期後葉新
第172図 PL.172	4	深鉢 覆土 口縁~体部下 3/4残存 口: 24.6	①粗: 石英・輝石 ②褐色	大きく開く口縁部、体部中位で僅かに内湾する。沈線による方形状懸垂文を配す。9単位か。施文部はLR縦位充填施文。口縁部文様帯の省略か。内面下半煤付着。	中期後葉新
第173図 PL.173	5	深鉢 床 口縁~体部中位 4/5残存 口: 53.0	①粗: 石英・輝石 ②鈍い黄褐色	大型の深鉢。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。渦巻文単位は8単位ながら、配置は不規則。区画文も下端を開放する箇所がある。体部は2条垂下沈線による磨消部懸垂文構成。縄文はLR充填施文。器面1/3の器壁剥落著しい。	中期後葉新
第173図 PL.173	6	深鉢 覆土 口縁~体部中位 1/2残存 口: 34.0	①細: 輝石 ②鈍い赤褐色	波状縁。口縁部は低位隆線による連続した半渦巻状意匠と区画文構成。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。LR縦位充填施文。下半は無筋状となる。隆帯剥落か所に接合痕跡を見る。	中期後葉新
第173図 PL.173	7	深鉢 覆土 口縁~体部上 1/3残存 口: (16.0)	①細: 石英 ②暗褐色	口縁部沈線を設け以下2条沈線による連弧状意匠を配す。体部は横位沈線以下U字状懸垂文が配される。地文は横位・斜位RL。内面研磨。	中期後葉新
第173図 PL.173	8	深鉢 +25 口縁~体部1/ 2残存 口: 21.8	①細: 輝石 ②褐色	平縁。口縁部に円形刺突文と横位沈線を設け、以下沈線による方形意匠を体部上半に配す。横位沈線以下の下半は2条沈線による磨消部懸垂文構成か。上半及び横位沈線に円形刺突文が加わる。地文は横位・縦位RL。	中期後葉新 ?
第173図 PL.173	9	深鉢 +13 口縁~体部上 1/4残存 口: (42.0)	①粗: 石英・輝石 ②黒褐色	隆線による口縁部半渦巻文と区画文構成。口唇部には凹文を配す。体部は2条沈線に画された磨消部懸垂文構成。縄文はRL充填施文。	中期後葉新
第174図 PL.173	10	鉢 +22 頸部~体部中位 1/3残存	①粗: 石英・輝石・雲母少 ②明褐色	刻みを付す頸部隆線に大型の眼鏡状把手を付す。おそらく1・2単位。体部は沈線による渦巻状意匠や弧状意匠が配される。無筋Lを施す。	後期初頭 中期末葉 ?
第174図 PL.173	11	深鉢 床 口縁~体部中位 残存 口: 23.6	①細: 輝石 ②褐色	小型深鉢。波状突起と上端渦巻状突起を付す。2単位である。口縁部は隆線による連続した渦巻文と区画文構成。区画側線は沈線。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。8単位を数える。施文部は縦位RL施文後縦位波状沈線を施す。内面丁寧な研磨。外面に煤付着。	中期後葉新
第174図 PL.173	12	深鉢 床 口縁~体部下 1/3残存 口: (18.6)	①細: 輝石少 ②鈍い赤褐色	上端に面を持つ渦巻状小突起を口縁部に付す。単位は不明。突起下端より垂下する刻みを付す隆線と下半の横位隆線で体部を画す。体部は3条の沈線による縦位小区画文を交互に配す。区画内は弧状小意匠を連続する。縄文はLR縦位充填施文。体部下、内面に縦位研磨を施す。外面に煤付着。	後期前葉
第174図 PL.174	13	深鉢 床 口縁~体部中位 残存/突起欠損 口: 16.5	①粗: 石英多・雲母多 ②橙色	橋状把手と渦巻状突起からなる2単位。把手両下端には環状意匠が配され、上位に弧状沈線を見る。おそらくS字状意匠か。把手・突起下端より体部2条隆線が垂下し、下半で連続する区画文構成。区画内は横位短沈線を充填する。内面下半は加熱により器面磨滅。	中期後葉信州系
第174図 PL.174	14	深鉢 覆土 口縁~体部1/ 2残存 口: 26.0	①粗: 石英・輝石 ②極暗褐色	口縁部沈線以下X字状隆線貼付による楕円状区画文を配す区画内は沈線を側線とし、弧状短沈線を充填する。体部は、上端U字状の垂下沈線3条による懸垂文構成。空白部は魚鱗状短沈線を埋める。	中期後葉信州系
第174図 PL.174	15	深鉢 床 口縁~体部上 残存 口: 46.5	①粗: 輝石 ②褐色	波状縁。5単位を数えるが、不規則な配置を示す。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成でやや扁平な印象。区画内は沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。体部は垂下沈線と波状沈線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第175図 PL.174	16	浅鉢 覆土 口縁～頸部1 3残存 口:(56.0)	①細:石英少・雲母少 ②黒褐色	口縁部は強く開き無文。口頸部に区画線を設けず、 隆線による突出した渦巻状意匠と楕円状区画文が配 され、下半は小渦巻文と接続した区画文が連なる。 楕円区画内は縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第175図 PL.175	17	浅鉢 覆土 口縁部欠損・頸 部4/5欠損 底:14.0	①粗:石英・輝石 ②褐色	大型の浅鉢。頸部で強く屈曲し口頸部に文様帯を持 つ。隆線による渦巻文と区画文を組み合わせた構成 で、6単位と思われる。一部変則の組み合わせを見 る。区画内は弧状短沈線を充填する。頸部屈曲部 には横位蕨手状沈線を施した横長の区画文を配す。内 外面煤付着。	中期後葉信州系
第175図 PL.174	18	深鉢 覆土 口縁部～体部上 半破片	①細:石英 ②黄褐色	低位隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は 沈線及び撫で。体部は2条沈線による磨消部懸垂文 構成。縄文はRL縦位充填施文。器面磨滅。口縁部 に煤付着。	中期後葉新
第176図 PL.174	19	深鉢 +22 口縁部～体部上半 破片	①粗:石英・輝石 ②褐色	波状突起を付し、隆線による口縁部渦巻文と区画文 構成を示す。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構 成。縦位RLを充填する施文部に縦位波状沈線が加 わる。口縁部縄文は横位RL。	中期後葉新
第176図 PL.174	20	深鉢 +10 口縁部～体部上半 破片	①粗:石英少・輝石 ②褐色	波状縁。やや扁平な口縁部。隆線による半渦巻状意 匠と区画文の連続。側線は撫で。体部は2条沈線に よる磨消部懸垂文構成。縄文は縦位RL。	中期後葉新
第176図 PL.174	21	深鉢 +20 口縁部～体部上半 破片	①粗:石英・輝石・雲母 ②暗褐色	大型の深鉢。隆線による口縁部渦巻文と区画文構 成。区画下端は沈線。口唇部に凹文を施す。体部は 2条沈線による磨消部懸垂文構成。縄文はRL充填 施文。	中期後葉新
第176図 PL.175	22	深鉢 +25 口縁部破片	①粗:小礫・石英 ②暗赤褐色	平縁か。太い隆帯による渦巻文と区画文構成。側線 は沈線で無節Lを縦位充填施文する。	中期後葉新
第176図 PL.175	23	深鉢 +14 口縁部～体部上半 破片	①細:石英少 ②黄灰色	波状縁。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。 区画下端線は沈線。体部は2条沈線による磨消部懸 垂文構成。施文部縄文はRL充填施文。	中期後葉新
第176図 PL.175	24	深鉢 +30 口縁部破片	①粗:小礫・輝石 ②黒褐色	2条隆線による口縁部区画文構成か。区画内は幅広 の沈線を側線とし、無節Lを縦位充填施文する。	中期後葉新
第176図 PL.175	25	深鉢 +4 口縁部破片	①粗:石英・輝石・雲母 ②暗褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は撫 で。口唇部や区画接点に凹文を施す。縄文は横位 RL充填施文。補修孔を見る。	中期後葉新 21と同一個体か
第177図 PL.175	26	鉢 床 口縁部～体部上半 破片	①細:石英・輝石 ②鈍い褐色	口縁部は外反し無文。頸部隆線以下連続する渦巻文 と区画文が配される。区画内側線は沈線、横位RL を充填する。内外面とも研磨を施し、丁寧な作りを 呈す。	中期後葉新
第177図 PL.175	27	深鉢 +16 口縁部破片	①細:石英・輝石 ②暗褐色	波状突起を付し、口縁部渦巻文と区画文構成。区画 内側線は幅広の沈線。体部は磨消部懸垂文構成か、 縦位LRを充填する施文部に縦位波状沈線上端を見 る。	中期後葉新
第177図 PL.175	28	深鉢 +20 口縁部～体部上半 破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い黄褐色	波状突起を付し、波頂下に隆線による渦巻文を配す。 内面も沈線による渦巻文を施す。口縁部は区画 文構成。横位RLを充填する。体部は2条沈線による 磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL、蕨手 状沈線上端を見る。	中期後葉新
第177図 PL.175	29	深鉢 +32 口縁部～体部上半 破片	①粗:石英 ②赤褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は撫 で。体部は2条沈線による幅狭の磨消部懸垂文構 成。縄文は縦位RL充填施文。	中期後葉新
第177図 PL.175	30	深鉢 +30 口縁部破片	①粗:小礫・石英 ②赤黒色	太い隆帯による口縁部渦巻文構成。渦巻も上端はや や突出する。側線は撫で。体部は垂下沈線上端を見 る。	中期後葉新
第177図 PL.175	31	深鉢 +31 口縁部～体部上半 破片	①粗:石英多・輝石 ②褐色	波状突起を付し、波頂下に隆線による渦巻文を配す。 区画文は多段化し無文である。体部は2条沈線 が垂下し、縦位LRを充填する。	中期後葉新
第177図 PL.175	32	深鉢 +30 口縁部破片	①粗:輝石 ②暗赤灰色	平縁。2条隆線による口縁部区画文。区画内側線は 沈線、横位RLを充填する。	中期後葉古
第177図 PL.175	33	深鉢 +18 口縁部破片	①細:石英・輝石 ②黒褐色	隆線による区画文構成。側線は沈線、充填状文は縦 位LR。体部に垂下沈線上端を見る。	中期後葉新
第177図 PL.175	34	深鉢 +29 口縁部破片	①細:輝石 ②黒褐色	波状突起内面に沈線による渦巻文を配す。外面は隆 線による渦巻文と区画文。外面は2条沈線による磨 消部懸垂文構成か。区画内・体部施文部は縦位波状 条線を充填する。薄手の器厚で内外面研磨を施す。	中期後葉新
第178図 PL.176	35	深鉢 +37 口縁部破片	①粗:輝石 ②鈍い黄褐色	口縁部内湾。隆線による渦巻文が口唇部より懸架し 下端より区画隆線が派生する。区画上位は沈線で縦 位LRを施す。器面磨滅著しい。	中期後葉古
第178図 PL.176	36	深鉢 +38 口縁部破片	①粗:輝石 ②暗褐色	波状縁か。上端が半渦巻状の突起を設け、隆線による 渦巻文と区画文を配す。区画内は横位RL充填施 文。	中期後葉新
第178図 PL.176	37	深鉢 +29 口縁部破片	①粗:小礫・石英 ②灰黄褐色	おそらく波底部の大型の渦巻状意匠。区画文が接す るが充填文は不明。沈線を側線とする。	中期後葉東北系
第178図 PL.176	38	深鉢 +12 口縁部～体部破片	①粗:輝石 ②暗褐色	2条の沈線による口縁部連弧状意匠。沈線間には円 形刺突文を施す。体部は逆U字状懸垂文が配され、 列点状刺突文を埋める。縄文は口縁部は斜位、体部 は縦位RLを施す。体部は間隔施文を示す。	中期後葉新
第178図 PL.176	39	深鉢 +20 頸部～体部破片	①粗:石英・輝石・雲母 ②鈍い赤褐色	扁平な低位隆帯による口縁部区画文。沈線を側線と し横位RLを充填する。体部は2条沈線による磨消 部懸垂文構成。縄文はRL縦位充填施文。	中期後葉新

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第178図 PL.176	40	深鉢 +26 口縁部破片	①粗：石英 ②鈍い赤褐色	2条の口縁部横位沈線間に刺突文を加える。体部は垂下沈線と波状沈線による懸垂文構成。地文は斜位RL。	中期後葉古
第178図 PL.176	41	深鉢 床 口縁部破片	①粗：石英多 ②極暗褐色	直立気味の器形か。口縁部隆線が突出し沈線が沿う。以下縦位RLを施す。	中期後葉新
第178図 PL.176	42	深鉢 +25 頸部～体部上半 破片	①粗：輝石 ②暗褐色	隆線による口縁部区画文構成。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。縄文はRL縦位充填施文。体部上半に煤付着。	中期後葉新
第178図 PL.176	43	深鉢 覆土 体部上半破片	①粗：石英多・雲母 ②鈍い黄褐色	横位隆線剥落か。以下沈線施文で内皮平行沈線による。縦位沈線3条による懸垂文か。弧状意匠も配される。縄文は縦位RL充填施文。	中期後葉 異系統?
第178図 PL.176	44	深鉢 +19 体部上半破片	①粗：輝石 ②赤褐色	沈線による施文。横位沈線以下逆U字状意匠と縦位S字状意匠を交互に配す。施文部は縦位RL充填後敷手状沈線を加える。	中期後葉新
第178図 PL.176	45	深鉢 +24 体部中位破片	①粗：輝石 ②褐色	大型の深鉢。垂下沈線2条による幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。	中期後葉新
第179図 PL.176	46	深鉢 +27 体部中位破片	①粗：石英多 ②鈍い褐色	大型の深鉢体部下半の内湾部。2条沈線による磨消部懸垂文構成。施文部縄文はRL縦位充填施文。	中期後葉新
第179図 PL.176	47	深鉢 +17 体部中位破片	①粗：輝石 ②黄褐色	大型の深鉢。垂下沈線3条による懸垂文構成。施文部縄文はLR縦位充填施文。	中期後葉新
第179図 PL.177	48	深鉢 +12 体部中位破片	①粗：石英 ②黄褐色	外反気味の体部形態。2条沈線による磨消部懸垂文構成。縄文はRL縦位充填施文。	中期後葉新
第179図 PL.177	49	深鉢 +2 体部破片	①粗：石英 ②褐色	2条沈線に画された磨消部懸垂文構成・施文部縄文はRL縦位充填施文で、縦位波状沈線文を加える。	中期後葉新 50と同一個体
第179図 PL.177	50	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英 ②褐色	2条沈線に画された磨消部懸垂文構成・施文部縄文はRL縦位充填施文で、縦位波状沈線文を加える。	中期後葉新
第180図 PL.177	51	深鉢 覆土 体部中位～底部 残存 底：6.5	①粗：石英・輝石 ②褐色	底面はやや不安定。2条沈線に画された磨消部懸垂文構成。9単位を数える。施文部縄文はRL斜位・縦位充填施文。	中期後葉新
第180図 PL.177	52	深鉢 覆土 底部1/2残存 底：4.8	①粗：石英 ②褐色	強く開く体部下半。3条の沈線による懸垂文構成。施文部と磨消部の交互配列だが、磨消部は幅広く、あるいは4単位か。施文部は無節L縦位充填施文。	中期後葉新
第180図 PL.177	53	深鉢 +20 底部 底：6.0	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	小型深鉢底部か。薄手で端正な作り。垂下沈線下端部を見る。縄文は縦位RL充填施文。	中期後葉新
第180図 PL.177	54	深鉢 覆土 体部1/4残存	①粗：小礫・石英・輝石 ②赤褐色	大型の深鉢。上半は外反し、下半に内湾を持たせる体部器形。2条の垂下沈線に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部縄文はRL縦位充填施文。	中期後葉新
第180図 PL.177	55	深鉢 覆土 体部下半～底部 1/3残存 底：(5.0)	①細：石英・輝石 ②赤褐色	小型深鉢か。内湾気味の体部下半。3条の垂下沈線による懸垂文構成。施文部縄文はRL縦位充填施文。中位に垂下沈線1条が重なる。内面煤付着。	中期後葉新
第180図 PL.177	56	深鉢 +26 体部破片	①粗：小礫・輝石 ②オリーブ褐色	隆線による渦巻状意匠を各所に配す。下半は逆U字状懸垂文か。側線は撫で・沈線、縦位RLを施す。	中期後葉東北系
第180図 PL.177	57	深鉢 +24 口縁部突起	①粗：小礫 ②黒褐色	袋状の中空突起。上位が4方、下位が3方からの孔。突起頂部よりS字状意匠が垂下し両下端の環状意匠へ繋がる。体部区画内は縦位RLを施す。口唇部内面内稜状。	中期後葉東北系
第180図 PL.177	58	深鉢 +32 口縁部破片	①粗：小礫・石英 ②灰黄褐色	波頂部に袋状突起、波底部に環状突起を付す。突起上位は4方、下位は3方からの中空状をなす。突起下端に環状意匠を配し、頂部へ連繋する。体部は隆線による不定形区画文で、縦位RLを施す。	中期後葉東北系
第180図 PL.177	59	深鉢 +24 口縁部突起	①粗：小礫・輝石 ②黒褐色	波頂部袋状突起。3方向の孔により中空をなす。突起下端の円形区画に頂部が連繋する。頂部側面には不定形区画。体部は隆線による区画文構成か。	中期後葉東北系
第180図 PL.177	60	深鉢 +25 口縁部破片	①粗：小礫・石英 ②黒褐色	波状縁。波頂部に袋状突起、波底部に渦巻文を配す。袋状突起は中空で上位が4方、下位が3方からの孔が繋がる。隆線による環状意匠が配され、下端の体部は渦巻文や弧状意匠が充てられる。縄文は縦位RL。	中期後葉東北系
第181図 PL.177	61	深鉢 +16 口縁部1/5残存	①粗：石英多 ②鈍い赤褐色	波状縁。波頂部に橋状把手、波底部に弧状突起を付す。口縁部は2条隆線による区画文構成で、横位矢羽状短沈線を充填する。頸部は無文。	中期後葉信州系
第181図 PL.177	62	深鉢 +27 口頸部～体部上 半破片	①粗：石英・輝石 ②褐色	緩やかな波状縁か。口唇部欠損。隆線による渦巻文と区画文構成。区画内は無文。体部は3条の沈線による懸垂文構成。空白部は垂下沈線1条を縦軸にした矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第181図 PL.177	63	深鉢 +19 口縁部～体部上 半破片	①粗：石英・輝石多 ②黒褐色	口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線、横位矢羽状短沈線を充填する。体部は垂下沈線2条による懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第181図 PL.177	64	深鉢 +33 口縁部破片	①粗：石英多・輝石 ②極暗褐色	隆線による渦巻文を配し、下位に区画文を配す。区画内側線は沈線、縦位・斜位短沈線を充填する。体部は沈線による逆U字状懸垂文か。斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第181図 PL.178	65	深鉢 +26 口縁部破片	①粗：小礫・石英 ②黒褐色	波状縁。波頂部に隆線による渦巻文を配し、下端より渦巻文が懸架する。波底部渦巻文と隆線で連繋するが区画文化しない。空白部は弧状短沈線を埋める。	中期後葉信州系
第181図 PL.178	66	深鉢 +32 口縁部破片	①粗：小礫・石英 ②暗褐色	波状縁か。波頂部に隆線による縦位S字状意匠を配す。上位より横位隆線が派生するが、区画文ではない。波頂部上端、空白部には短沈線を施す。	中期後葉信州系 65と同一個体か



第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第181図 PL.178	67	深鉢 +28 口縁部破片	① 細：石英 ② 暗褐色	渦巻状突起下端より2条隆線が派生し、口縁部区画文を画す。区画内は横位矢羽状短沈線を充填する。頸部に深い横位沈線を施す。	中期後葉古
第181図 PL.178	68	深鉢 +13 口縁部破片	① 粗：石英・輝石少 ② 褐色	口縁部に隆線による渦巻文を配す。側線は沈線。弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第181図 PL.178	69	深鉢 +4 口縁部破片	① 粗：白色粒多・輝石 ② 鈍い褐色	波状縁か。沈線を加えた2条隆線による渦巻文を配す。沈線を側線とし、斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系 異質?
第181図 PL.178	70	深鉢 +5 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 褐灰色	平縁。口縁部に横位隆線2条を設け渦巻文と区画文を配す。区画内側線は沈線。無節しを充填する。	中期後葉古
第181図 PL.178	71	深鉢 +38 口縁部破片	① 粗：石英多 ② 鈍い赤褐色	口縁部無文。体部は隆線による渦巻状突起を配し、内皮沈線を施す。	中期後葉最古 古段階
第182図 PL.178	72	深鉢 +24 口縁部破片	① 粗：石英・雲母少 ② 鈍い赤褐色	低位隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。やや扁平な印象。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。体部は逆U字状沈線による懸垂文構成か。	中期後葉信州系
第182図 PL.178	73	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗：雲母多 ② 暗褐色	口縁部内湾。円形刺突文と横位隆線を設け、以下隆線による区画文を配す。区画内は横位沈線を多段に重ね、交互刺突文が加わる。	中期後葉古
第182図 PL.178	74	深鉢 +24 口縁～体部上半 破片	① 粗：石英多・輝石 ② 黒褐色	口縁部肥厚し無文。隆線が垂下し、体部中位で分岐する。上半は区画文構成か。区画内は縦位U字状沈線で小区画し斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第182図 PL.178	75	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	口縁部肥厚し無文。2条隆線による逆U字状懸垂文を配す。隆線間は横位短沈線、空白部は斜位短沈線を充填し、縦位波状沈線が加わる。	中期後葉信州系
第182図 PL.178	76	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗：石英多・雲母 ② 赤褐色	口縁部隆線以下突出する隆帯による口縁部区画文構成か。側線は沈線。区画内は縦位短沈線を充填し中位に横位沈線を施す。	中期後葉信州系
第182図 PL.178	77	深鉢 +7 口縁部破片	① 粗：輝石多 ② 褐灰色	平縁。口縁部に横位隆線1条を設け、以下平行沈線と交互刺突文を重ねる。	中期後葉最古
第182図 PL.178	78	深鉢 +27 口頸部破片	① 粗：雲母 ② 褐色	器形変換を見ない。2条隆線による口縁部渦巻文と区画文か。斜位短沈線を埋める。体部は波状隆線上端を見る	中期後葉信州系
第182図 PL.178	79	深鉢 +22 口縁部破片	① 粗：石英・雲母 ② 黒褐色	隆線による区画文構成。区画接点は振り状突起を付す。区画内は斜位短沈線を充填する。頸部無文。太い内縁を付す。	中期後葉古
第182図 PL.178	80	深鉢 +41 口頸部破片	① 粗：輝石少 ② 褐灰色	鉢か。口縁部は外反し下位に横位隆線を設ける。以下隆線による楕円状区画文を配す。区画接点上位は波状に突出。区画内は円形刺突文を充填する。体部は縦位条線を施す。	中期後葉新
第182図 PL.178	81	深鉢 床 体部破片	① 粗：白色粒・石英 ② 鈍い褐色	口縁部の内湾か?。横位短沈線を多段に重ねる。施文は深い。内面横位研磨を施す。	中期後葉 異系統?
第182図 PL.178	82	深鉢 覆土 突起破片	① 粗：石英 ② 灰黄褐色	体部上半か。小型の双環状突起を付し、下端に隆線による渦巻文を配す。空白部は横位沈線を重ね、浅い刻みを加える。	中期後葉 異系統?
第182図 PL.178	83	浅鉢 +17 口頸部破片	① 細：輝石 ② 鈍い橙色	頸部に横位隆線を設け、以下隆線による渦巻文と区画文を配す。区画内側線は幅広の沈線、斜位条線を充填する。内外面とも研磨を施す。	中期後葉新
第182図 PL.178	84	深鉢 +16 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗赤褐色	3条の垂下沈線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線が施される。	中期後葉信州系
第182図 PL.178	85	深鉢 +16 体部破片	① 粗：石英多 ② 鈍い赤褐色	沈線のみを施す。上半の渦巻文以下2条沈線による逆U字状意匠が配される。斜位沈線を充填する。全体的に乱雑な施文。	中期後葉信州系
第182図 PL.178	86	深鉢 +21 体部片	① 粗：小礫・石英・輝石 ② 褐色	隆線剥落箇所多い。隆線による縦位波状懸垂文を配す。空白部は縦位矢羽状短沈線を施すが施文はやや乱雑。	中期後葉信州系 87と同一個体
第183図 PL.178	87	深鉢 覆土 体部～底部1/ 2残存 底：9.2	① 粗：小礫・石英・輝石 ② 褐色	大型の深鉢。隆線剥落箇所多い。隆線による縦位波状懸垂文を配す。空白部は縦位矢羽状短沈線を施すが施文はやや乱雑。	中期後葉信州系
第183図 PL.179	88	深鉢 覆土 体部下半～底部 残存 底：6.7	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	小型深鉢か。垂下沈線3条による懸垂文構成。6単位を数える。空白部は縦位矢羽状短沈線や斜位短沈線を埋める。内面煤付着。	中期後葉信州系
第183図 PL.179	89	深鉢 +18 口縁部破片	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	口唇部は強く内折する。口縁部は幅広の無文部を設け、横位隆線以下斜位平行沈線を施す。	中期後葉信州系
第183図 PL.179	90	深鉢 +17 体部破片	① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色	横位隆帯を配し上下に分帯する。平行沈線による対向斜位施文。	中期後葉 越後系か
第183図 PL.179	91	浅鉢 床 口縁部破片	① 細：石英・片岩 ② 褐色	口縁部肥厚し体部は内湾する。内外面とも丁寧な研磨を施し赤彩を加える。赤彩意匠は不明。	中期後葉
第183図 PL.179	92	深鉢 覆土 口縁部小破片	① 細：石英少 ② 鈍い黄褐色	口縁部は僅かに外反し無文。赤彩痕跡を見るが意匠は不明。	中期後葉
第183図 PL.179	93	深鉢 +25 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色	口唇部内面肥厚。無文の口縁部で縦位研磨を施す。	中期後葉
第183図 PL.179	94	深鉢 +27 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 褐灰色	口縁部外反し頸部屈曲強い。無文で、内外面とも横位研磨を丁寧に施す。	中期後葉
第183図 PL.179	95	深鉢 54 口縁部破片	① 粗：石英・輝石・雲母 ② 鈍い褐色	口縁部内湾し体部と一体化する。横位沈線を設けるが他は無文である。	中期後葉新
第183図 PL.179	96	深鉢 +33 口縁部突起	① 細：雲母少 ② 黒褐色	強く突出する柱状突起。下端で中空状となす。突起縁辺を隆線が縁取り、中位に縦位S字状意匠を配す。空白部は横位短沈線を充填し隆線上には円形刺突文を加える。	中期後葉信州系

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調				文様の特徴等		備考	
第183図 PL.179	97	深鉢 +36	体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②暗赤褐色				頸部は屈曲し、内湾する体部器形。頸部沈線以下斜位沈線3条による懸垂文構成か。弧線意匠も加わる。内外面雑な横位研磨を施す。		後期前葉	
第183図 PL.179	98	深鉢 床	底部1/3残存 底：(12.0)	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色				大型の深鉢底部。3条の垂下隆線による懸垂文構成。縄文は縦位RLか。強い加熱による変色を見る。		中期後葉新	
第183図 PL.179	99	深鉢 +18	底部 底：8.8	①粗：石英・輝石 ②明赤褐色				大型の深鉢。内湾気味に強く開く。無文で丁寧な撫で調整を加える。		中期後葉	
第183図 PL.179	100	深鉢 +25	底部 底：8.0	①粗：石英・輝石 ②赤褐色				大型の深鉢底部か。厚手でしっかりした作り。外面は縦位削り調整痕が残る。		中期後葉	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第184図 PL.179	101	石鎌	覆土	欠損	(1.8)	(1.3)	0.3	(0.5)	凹基無茎、扱りは深く長脚。片脚部を欠く。	チャート	
第184図 PL.179	102	石鎌	床	ほぼ 完形	(1.9)	1.7	0.5	(1.3)	平基無茎、やや厚手で作りは粗い。	黒曜石	
第184図 PL.179	103	石鎌	覆土	完形	1.9	1.3	0.4	0.9	平基無茎、片面がやや膨らむ。	黒曜石	
第184図 PL.179	104	石鎌	覆土	欠損	(1.2)	(1.2)	0.3	(0.3)	凹基無茎、小型品、両脚を欠く。	黒曜石	
第184図 PL.179	105	石鎌	床	欠損	(1.7)	(1.2)	0.4	(0.6)	先端部片。	黒曜石	
第184図 PL.179	106	石鎌	覆土	欠損	1.7	(1.2)	0.3	(0.7)	凹基無茎、薄手の作り、脚部および先端部を欠く。先端部に丸み。	黒曜石	
第184図 PL.179	107	石鎌	覆土	欠損	(1.5)	(1.5)	0.3	(0.7)	凹基無茎、両脚および先端部を欠く。	黒曜石	
第184図 PL.179	108	石鎌	覆土	欠損	(1.7)	(1.6)	0.3	(0.9)	凹基無茎、浅い扱り有す、先端部僅かに欠く。	黒曜石	
第184図 PL.179	109	石鎌	覆土	完形	(1.3)	1.0	0.3	(0.3)	凹基無茎、小型品。	黒曜石	
第184図 PL.179	110	石鎌	覆土	欠損	(1.6)	(0.8)	0.4	(0.3)	側縁部片か。	黒曜石	
第184図 PL.179	111	石鎌	覆土	完形	1.7	0.9	0.2	0.2	凹基無茎の小型品、紡錘状で先端部が尖る。特異な器形。	チャート	
第184図 PL.179	112	剥片	床	完形	2.9	1.7	0.2	0.4	小型縦長剥片を利用した刃器、先端片縁に刃部。	黒曜石	
第184図 PL.179	113	スクレイパー	覆土	完形	6.6	4.5	1.1	28.1	やや大きな剥片の長辺部分に刃部作出。	黒曜石	
第184図 PL.179	114	石匙	覆土	完形	7.9	5.3	1.1	55	縦型、つまみ部やや斜めに付き、大きく幅広、片面自然面。粗い刃部。	細粒輝石安山岩	
第184図 PL.179	115	打製石 斧	覆土	完形	16.5	6.1	2.4	292	撥形、長身で刃部の開き方は弱い、側縁部丁寧な刃潰し、刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第184図 PL.179	116	打製石 斧	覆土	完形	10.2	5.3	1.7	94	撥形だが、両側縁部僅かにはらむ、刃部やや狭く、細かい刃部作出。	黒色頁岩	
第184図 PL.179	117	打製石 斧	床	完形	9.4	4.9	1.5	68	撥形、極めて粗い作り、片側縁は無調整、刃は斜めになる。	細粒輝石安山岩	
第184図 PL.179	118	打製石 斧	覆土	ほぼ 完形	11.1	5.4	1.3	89	撥形、刃部は薄く作られる。摩耗。	細粒輝石安山岩	
第184図 PL.179	119	打製石 斧	床	完形	11.2	5.0	1.3	103	撥形、刃部はやや丸みを持つ。	細粒輝石安山岩	
第184図 PL.179	120	打製石 斧	覆土	完形	11.0	5.3	2.6	181	撥形、基部が厚く刃部に向かって薄く作られる。	黒色安山岩	
第185図 PL.179	121	打製石 斧	覆土	欠損	11.4	7.2	1.4	152	撥形、板状礫利用、杓文字形で薄手の作り。基部を欠損か。	細粒輝石安山岩	
第185図 PL.179	122	打製石 斧	覆土	欠損	(5.8)	5.2	1.8	(68)	刃部片、若干の摩耗。	黒色安山岩	
第185図 PL.179	123	打製石 斧	覆土	完形	(8.1)	4.5	1.0	(38)	短冊形、短身で刃は円刃、極めて薄手の作り、若干の摩耗見られる。	黒色頁岩	
第185図 PL.179	124	打製石 斧	床	欠損	(5.0)	5.3	2.1	(112)	刃部片、使用痕顕著。	細粒輝石安山岩	
第185図 PL.179	125	打製石 斧	覆土	欠損	(9.5)	6.6	2.0	(174)	撥形、基部を欠く、やや厚手の作り。	細粒輝石安山岩	
第185図 PL.179	126	打製石 斧	覆土	欠損	(5.1)	3.7	1.5	(32)	基部片。	黒色頁岩	
第185図 PL.179	127	打製石 斧	床	欠損	(10.1)	5.7	2.1	(112)	撥形、中央部が肥厚し刃部は薄く作られる。刃先部分を欠く。	細粒輝石安山岩	
第185図 PL.180	128	打製石 斧	覆土	欠損	(6.5)	5.2	1.8	(92)	基部片と思われる。比較的厚手である。被熱。	黒色安山岩	
第185図 PL.180	129	打製石 斧	床	欠損	(8.6)	4.2	1.0	(57)	短冊形の基部片、細身でやや厚手の作り、両面に自然面見られる。	細粒輝石安山岩	

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第185図 PL.180	130	打製石 斧	覆土	欠損	(5.9)	6.2	1.7	(63)	撥形基部片、片面に自然面残す、刃部が大きく開く形か。	黒色頁岩	
第185図 PL.180	131	打製石 斧	覆土	欠損	(10.0)	5.8	1.0	(88)	板状礫利用、基部および刃部を欠損。	粗粒輝石安山岩	
第185図 PL.180	132	スクレ イパー	覆土	完形	8.5	5.2	1.2	56	上端に平坦な打面を持つV字形剥片。上面に自然面、側縁に刃部作出。	黒色頁岩	
第185図 PL.180	133	スクレ イパー	床	完形	9.4	8.1	1.7	127	大型剥片利用、薄い側縁に細かい剥離による刃部作出。	黒色安山岩	
第185図 PL.180	134	砥石か	覆土	完形	6.5	5.0	4.5	91	軟質の角礫、一部に溝状の研磨痕。	凝灰岩(流質岩質)	
第185図 PL.180	135	磨石	覆土	ほぼ 完形	9.0	8.4	4.1	478	饅頭形呈す、端部打撃により剥落か。	安山岩	
第185図 PL.180	136	磨石	覆土	ほぼ 完形	11.7	7.5	5.8	753	依形礫、使用面平滑で浅い打痕による凹み、端部に欠けあり、被熱。	粗粒輝石安山岩	
第186図 PL.180	137	磨石	覆土	完形	8.4	7.2	3.3	297	扁平な円礫利用、両面平滑。	安山岩	
第186図 PL.180	138	磨石	覆土	完形	8.9	7.4	4.7	459	饅頭形呈す、両面使用により平滑な面を為す。	粗粒輝石安山岩	
第186図 PL.180	139	礫器	覆土	完形	14.7	5.0	4.0	497	棒状礫、端部に弱い打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第186図 PL.180	140	磨石	覆土	完形	12.2	7.4	5.2	669	やや不定形な礫、顕著な使用痕は見られず。	石英閃緑岩	
第186図 PL.180	141	磨石	覆土	完形	11.0	6.9	4.0	465	扁平な小判形を呈す、両面磨り面とし平滑、浅い凹みを有す。	粗粒輝石安山岩	
第186図 PL.180	142	磨石	覆土	欠損	(5.7)	8.3	4.4	(251)	扁平な円礫利用、半分欠損。使用面平滑で小さな凹みを有す。被熱。	安山岩	
第186図 PL.180	143	磨石	覆土	ほぼ 完形	15.3	8.7	5.0	881	扁平な長円礫、片面及び側縁部分に顕著な剥落。	流紋岩	
第186図 PL.180	144	敲石	炉	ほぼ 完形	25.9	7.0	6.3	1,811	大型の棒状礫、端部および側縁部に打痕顕著。	粗粒輝石安山岩	
第187図 PL.180	145	砥石	床	欠損	(10.9)	12.2	10.6	(2,130)	大型片、砥石として利用、研磨による溝が対面に見られる。	デイサイト	
第187図 PL.180	146	台石	覆土	欠損	(11.1)	(10.8)	8.7	(2,130)	大型の礫を利用した台石片と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第187図 PL.180	147	台石	床	完形	41.3	38.9	11.8	32,000	大型の礫、一部平坦面を使用面としている。	多孔質粗粒輝石安山岩	

95-21号住居跡(第189~192図: PL.180)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調				文様の特徴等	備考			
第189図 PL.180	1	深鉢 堀方	口縁部破片				①粗:白色粒多 ②暗褐色	隆線による渦巻文が配され、2条隆線が派生し区画文を画す。口唇部に斜位平行沈線が施される。	中期後葉古		
第189図 PL.180	2	深鉢 床	口縁部突起				①細:輝石少 ②鈍い褐色	内外面とも渦巻状意匠を配した環状突起。下位は3方からの中空状となす。突起下端及び側面も隆線による渦巻文を施す。	中期後葉信州系		
第189図 PL.180	3	深鉢 床	体部破片				①細:石英・輝石多 ②鈍い褐色	2条の細沈線に画された磨消部懸垂文構成か。縄文はRL斜位充填施文。	中期末葉		
第189図 PL.180	4	深鉢 覆土	体部破片				①細:石英・輝石 ②褐色	沈線に画された磨消部弧状意匠。施文部は無節L充填施文。	後期初頭		
第189図 PL.180	5	深鉢 覆土	体部破片				①粗:石英多・輝石 ②鈍い赤褐色	2条隆線による弧状・渦巻状意匠。隆線間は刻みを加え、空白部は短沈線を施す。	中期後葉信州系		
第189図 PL.180	6	深鉢 +14	体部破片				①粗:石英多 ②鈍い赤褐色	隆線による渦巻状意匠。側線は沈線か。器面剥落著しい。	中期後葉信州系		
第189図 PL.180	7	浅鉢 +7	頸部破片				①粗:石英少 ②鈍い赤褐色	頸部屈曲する。隆線による弧状意匠か。縦位条線を充填する。	中期後葉信州系		
第189図 PL.180	8	深鉢 +5	体部破片				①細:輝石少 ②鈍い褐色	外反する体部。細沈線による弧線が描かれる。他は無文。	中期末葉 後期初頭		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第189図 PL.180	9	打製石 斧	+8	欠損	(6.6)	8.2	1.2	107	刃部片、幅広で比較的薄手の作りである。	粗粒輝石安山岩	
第189図 PL.180	10	礫器	床	完形	16.9	6.0	3.5	418	やや不定形な棒状、顕著な使用痕は見られず。	安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-22号住居跡(第192図: PL.180)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第192図 PL.180	1	深鉢 +7 口縁～体部1/ 4 口:16.4	①粗:石英 ②黒褐色	筒状の器形。口縁部隆線上位に刺突文が沿う。下位には縦位S字状意匠が配され下端より弧状隆線が派生し区画文を画す。区画内は魚鱗状短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第192図 PL.180	2	深鉢 炉 体部 最大:14.8	①粗:白色粒多 ②鈍い橙色	緩やかに内湾する体部中位。縦位波状沈線による懸垂文構成。5単位を数える。地文はLR縦位施文。あるいは燃り戻りか。個体下端は意図的な欠損後研磨を加える。上端は加熱による剥落が内外面に及ぶ。	中期後葉新						
第192図 PL.180	3	深鉢 炉 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②暗赤褐色	口縁部隆線以下、縦位波状沈線と斜位沈線が施される。垂下隆線も看取される。	中期後葉信州系						
第192図 PL.180	4	深鉢 Pit11 頸部破片	①粗:石英少 ②褐灰色	小破片のため判然としない。屈曲部下に低位隆線を設け、沈線を測線とする。内外面研磨。	中期後葉						
第192図 PL.180	5	深鉢 Pit7 頸部破片	①粗:石英・輝石少 ②鈍い赤褐色	小破片のため判然としない。屈曲部下に隆線を設け、沈線を測線とする。内外面研磨。	中期後葉						
第192図 PL.180	6	深鉢 Pit7 口縁部破片	①細:輝石 ②鈍い赤褐色	頸部で強く屈曲し内湾気味に開く口縁部。無文で外面は丁寧な研磨を施す。	中期後葉						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第192図 PL.180	7	石錐	炉内	欠損	(2.1)	1.0	0.5	(1.0)	先端部を欠く。	黒曜石	

95-23号住居跡(第195～199図: PL.181・182)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第195図 PL.181	1	深鉢 +7 口縁～体部1/ 3 口:(40.0) 残高:48.1	①粗:石英・輝石 ②赤褐色	平縁。口縁部は隆線による渦巻文と楕円状区画文構成。区画内は沈線を測線とし縦位短沈線を充填。体部は上下2帯に分帯され、上位文様は2条沈線による区画文を配す。区画内は弧状短沈線と縦位蛇行沈線を充填する。下位文様は下端を開放する懸垂文構成。	中期後葉信州系
第195図 PL.181	2	深鉢 +19 口縁～体部下 半3/4 口:30.0	①粗:石英・輝石 ②鈍い黄褐色	キャリバー状深鉢。4単位波状縁。口縁部文様帯は低位隆帯で画され渦巻文と区画文構成。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。充填縄文は無節L。	中期後葉新
第196図 PL.181	3	浅鉢 +29 口頸部～体部1/ 4 頸部径:(48.0) 残高:10.0	①細:雲母・輝石 ②鈍い褐色	口縁部は強く開く。頸部は渦巻文と楕円状区画文の4単位構成。短沈線を充填する。屈曲部の横位沈線には円形刺突文が加わる。内外面研磨。	中期後葉信州系
第196図 PL.181	4	深鉢 +14 口縁部破片	①粗:石英・雲母 ②鈍い褐色	波状縁。波頂下降線による渦巻文と楕円状区画文。測線は強い撫で。体部は縦位波状沈線か。縄文はRL充填。	中期後葉新
第196図 PL.181	5	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗:輝石 ②鈍い橙色	隆線による口縁部楕円状区画文。区画内は撫で調整のみ。体部は弧状沈線を看取する。	中期後葉新
第196図 PL.181	6	深鉢 +18 体部上半破片	①粗:白色粒多 ②黒褐色	小型土器。体部は強く内湾する。頸部隆線以下沈線による逆U字状懸垂文か。斜位RLを充填する。	中期後葉新
第196図 PL.181	7	深鉢 +35 口縁部破片	①粗:輝石 ②黒褐色	口縁部は横位、体部は縦位RLを施す。体部逆U字状・蕨手状沈線端部を見る。口唇部に煤付着。	中期後葉新
第196図 PL.181	8	深鉢 +14 口縁部破片	①粗:大粒石英 ②黒褐色	口縁部内湾。2条の横位沈線が2段に施される。地文は燃糸R縦位施文。	中期後葉古
第196図 PL.181	9	深鉢 +15 体部上半破片	①粗:石英 ②橙色	小型土器。キャリバー状を呈す。縦位RLRが器面を覆う。	中期後葉新
第196図 PL.181	10	深鉢 +10 体部下～底部 1/2	①粗:白色粒・輝石 ②鈍い褐色	垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。施文部縄文は無節L縦位充填施文。縦位波状沈線も加わる。	中期後葉新
第196図 PL.181	11	深鉢 +17 口縁～体部破片	①粗:石英・輝石 ②黒褐色・鈍い赤褐色	平縁か。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内は縦位短沈線を充填。測線沈線。体部は沈線によるU字状意匠を配し矢印状意匠も加わる。懸垂文構成か。	中期後葉信州系
第197図 PL.181	12	深鉢 +24 口縁～体部上半 1/6	①細:石英・輝石 ②灰褐色	口縁部隆線以下沈線による弧状意匠文が乱雑に配される。器厚薄手。	後期初頭
第197図 PL.181	13	鉢 +30 口縁部破片	①細:雲母少・輝石 ②灰黄褐色	平縁。口縁部は外反し、体部は強く張る。頸部隆線を配す。内外面丁寧な研磨を施し、赤彩も加わる。	中期後葉
第197図 PL.181	14	深鉢 +5 口縁部破片	①粗:石英多・輝石 ②褐灰色	平縁。器面剥落著しい。隆線による口縁部区画文構成か。区画内は魚鱗状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第197図 PL.182	15	鉢? +10 突起破片	①細:石英・輝石 ②赤褐色	双環状突起。沈線で縁取られ、接点に蕨手状沈線を施す。突起両脇には沈線による楕円状意匠や円形刺突文を施す。内面丁寧な研磨。	中期後葉新
第197図 PL.182	16	深鉢 炉 体部上半破片	①粗:石英 ②褐色	両耳壺か。強く内湾する体部。橋状把手を設け上端に渦巻文を配す。隆線と沈線による区画文を設け縦位波状条線を充填する。	中期後葉新
第197図 PL.182	17	深鉢 +7 突起破片	①粗:石英・雲母 ②鈍い褐色	中空状突起。縁辺を2条隆線が縁取り、中位に腕骨状意匠を配す。沈線を測線とし、短沈線を充填する。	中期後葉信州系

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調				文様の特徴等		備考	
第197図 PL.182	18	深鉢 +31	突起破片	①粗：石英・輝石 ②橙色				上端環状の口縁部突起。隆線がたすき状に交差し、 横位沈線に凹形刺突文が加わる。		後期初頭	
第197図 PL.182	19	貝輪状土製品？ 覆土	破片	①細：輝石 ②鈍い橙色				あるいは吊り手土器把手か。内外面縁辺に凹形刺 突文が連続する。		後期初頭？	
第197図 PL.182	20	深鉢 床	底部 底：6.6/残：3.6	①粗：石英・輝石 ②黒褐色				外反気味に立ち上がる。2条の沈線による懸垂文構 成。斜位短沈線を充填する。		中期後葉信州系	
第197図 PL.182	21	深鉢 +9	底部	①粗：石英・雲母 ②鈍い褐色				小型の深鉢。条線状の垂下沈線下端部を見る。		中期後葉新	
第197図 PL.182	22	深鉢 +12	底部	①石英多・輝石 ②鈍い赤褐色				僅かに上げ底。外反気味に立ち上がる。無文で縦位 撫で調整を施す。器厚薄手。		中期後葉	
第197図 PL.182	23	台付深鉢 覆土	台部破片	①粗：白色粒多 ②鈍い褐色				円孔を4単位配す脚部。底部に横位隆線を設け、脚 部は円孔両端に沈線による棘状区画文を配す。区画 内は斜位沈線や渦巻文を充填する。		中期後葉信州 系？	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第197図 PL.182	24	石鉢	+17	完形	3.1	1.5	0.3	1.1	凹基無茎、薄手で細身、作りは丁寧。	チャート	
第197図 PL.182	25	石鉢	+14	完形	1.9	1.4	0.2	0.6	凹基無茎、挟りやや深い。	黒曜石	
第197図 PL.182	26	石鉢	床	欠損	2.0	1.3	0.3	0.6	凹基無茎、反りを持つ。片脚を欠く。	黒曜石	
第197図 PL.182	27	石鉢	掘り方	欠損	(1.8)	(1.5)	0.4	(0.8)	平基無茎、やや厚みを持つ。	黒曜石	
第197図 PL.182	28	石鉢	覆土	ほぼ 完形	(1.7)	0.8	0.3	(0.4)	凹基無茎、小型で細身の作り。	黒曜石	
第197図 PL.182	29	石鉢	覆土	ほぼ 完形	2.2	1.6	0.4	1.2	平基無茎、作りは粗い。	黒曜石	
第197図 PL.182	30	石鉢	覆土	欠損	(1.9)	(1.8)	0.4	(0.9)	平基無茎、脚および先端部を僅かに欠く。	黒曜石	
第197図 PL.182	31	石鉢	+7	欠損	(3.3)	1.6	0.4	(1.7)	凹基無茎、挟りは浅く薄手で細身、作りは丁寧。先端 部を欠く。	黒色頁岩	
第198図 PL.182	32	石鉢	覆土	完形	2.1	1.6	0.6	1.3	先端部はほぼ作り出されているが、基部は厚く未作出 か。	チャート	
第198図 PL.182	33	石鉢	床	欠損	(1.5)	1.5	0.4	(0.6)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第198図 PL.182	34	石鉢	床	完形	3.0	0.7	0.5	1.1	棒状鉢、円棒状に角を丁寧に落としている。	黒曜石	
第198図 PL.182	35	石鉢	覆土	完形	2.6	1.7	0.5	1.0	棒状鉢、両端が尖る。	黒曜石	
第198図 PL.182	36	石鉢	覆土	欠損	(2.6)	0.9	0.5	(1.3)	棒状鉢、鉢部先端部僅かに欠く。やや粗い作り。	黒曜石	
第198図 PL.182	37	石鉢	覆土	欠損	2.0	0.8	0.4	0.7	小型の棒状鉢、鉢部先端部僅かに欠損か。	黒曜石	
第198図 PL.182	38	剥片	Pit14	欠損	2.7	4.3	0.8	7.4	U字状の剥片側縁部分に刃部作出。	黒曜石	
第198図 PL.182	39	スクレ イパー	覆土	完形	2.4	2.1	0.9	2.7	不定形で、縁部分剥離見られる。	黒曜石	
第198図 PL.182	40	打製石 斧	覆土	完形	9.8	5.5	2.0	113	撥形、上部両側に弱い挟りを持つ。刃部に鋭利さは見 られない。	細粒輝石安山岩	
第198図 PL.182	41	打製石 斧	+39	完形	9.8	5.0	1.8	74	撥形、なすび形を呈し、基部厚く刃は円刃で摩耗見ら れる。	黒色頁岩	
第198図 PL.182	42	打製石 斧	+20	欠損	(6.7)	4.7	1.3	(54)	両側縁がわずかに括れる形状、基部を欠く。	黒色頁岩	
第198図 PL.182	43	打製石 斧	+3	欠損	(5.5)	4.5	1.2	(44)	比較的薄手の基部片、両面に自然面が残る。	細粒輝石安山岩	
第198図 PL.182	44	打製石 斧	+17	欠損	(7.2)	6.0	2.0	(126)	基部片と思われる、比較的厚く、上端面は平らであ る。	黒色頁岩	
第198図 PL.182	45	打製石 斧	+30	欠損	(4.8)	3.8	1.2	(30)	基部片。	黒色頁岩	
第198図 PL.182	46	磨石	+31	完形	7.3	7.0	3.8	244	やや小振りの扁平な円礫、両面に使用面、中央部に打 痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第198図 PL.182	47	磨石	+9	完形	13.7	7.4	6.4	1,000	俵形の礫、表面比較的平滑、下端部に打痕が見られ る。	粗粒輝石安山岩	
第199図 PL.182	48	磨石	+24	欠損	(8.5)	8.8	5.5	(494)	円礫利用、両面に使用面、中央部分に打痕見られる。	石英閃緑岩	
第199図 PL.182	49	凹石	+21	ほぼ 完形	11.3	9.8	4.6	620	やや扁平な円礫。両面に凹み穴を持つ、被熱によるひ び割れ顕著。	粗粒輝石安山岩	
第199図 PL.182	50	軽石製 品	床	ほぼ 完形	7.8	3.9	1.1	14	短冊形の板状を呈し下部がやや薄く作られる。上部に やや大きな円孔。	軽石	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第199図 PL.182	51	石棒	+17	欠損	(17.4)	14.9	14.3	(6,250)	大型石棒の破片、上部の欠け口は角が丸く整形、再利用が想定される。	デイスait	

95-24号住居跡(第203・204図：PL.182~183)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第203図 PL.182	1	浅鉢 床 口縁部破片	①粗：石英 ②暗赤褐色	口唇部外面突出。体部上半に内湾を持たせる。内外面研磨を施し、赤彩を加える。赤彩範囲・意匠は不明。	中期後葉
第203図 PL.182	2	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	口縁部は幅広い無文部を設け以下隆線による区画文構成か。縄文はRL充填施文。	中期後葉新
第203図 PL.182	3	深鉢 +5 頸部破片	①粗：輝石 ②橙色	2条隆線を横位に付す。下位隆線には沈線が沿う。以下縦位捺糸し施す。	中期後葉古
第203図 PL.182	4	深鉢 +6 体部破片	①粗：石英・輝石 ②褐色	垂下沈線と縦位波状沈線による懸垂文構成。地文は縦位RL。	中期後葉古
第203図 PL.182	5	深鉢 覆土 体部破片	①細：石英・輝石 ②褐色	横位沈線2条を配す。沈線間は無文。以下無節L縦位施文。	後期前葉
第203図 PL.182	6	深鉢 Pit13 体部破片	①粗：石英・輝石 ②暗褐色	外反する体部。2条隆線による懸垂文構成。空白部は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系
第203図 PL.183	7	深鉢 +7 頸部破片	①細：輝石 ②暗赤褐色	横位隆線に深い鋸歯状沈線を加える。体部は刻みを付す垂下隆線による懸垂文構成か。空白部は横位沈線や弧状沈線を施す。	中期後葉信州系
第203図 PL.183	8	深鉢 炉 体部破片	①粗：石英・雲母 ②赤褐色	2条沈線による懸垂文構成。空白部は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系
第203図 PL.183	9	深鉢 炉 体部破片	①粗：石英・雲母 ②赤褐色	地文状に斜位条線を施し、斜位沈線を格子目状に加える。	中期後葉信州系
第203図 PL.183	10	深鉢 +7 体部破片	①粗：石英・輝石 ②褐色	幅広隆線を弧状に配し沈線2条を重ねる。側線も沈線。空白部は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系
第203図 PL.183	11	深鉢 炉 底部 底：7.3	①粗：石英 ②鈍い褐色	緩やかに外反気味立ち上がる体部下半。無文。器厚は薄手。底面器面磨滅。	中期後葉

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第203図 PL.183	12	石鎌	炉内	完形	1.7	1.6	0.2	0.6	凹基無茎、挟り浅い、薄手で作りは丁寧。	黒曜石	
第203図 PL.183	13	石鎌	床	欠損	(2.2)	1.3	0.3	(0.5)	凹基無茎、挟り浅くやや細身作りは丁寧。片脚を僅かに欠く。	黒曜石	
第203図 PL.183	14	石鎌	覆土	ほぼ完形	1.9	1.6	0.5	1.2	平基無茎、調整は側縁部のみ粗い作り。	黒曜石	
第203図 PL.183	15	石鎌	覆土	欠損	(2.1)	1.3	0.3	(0.5)	凹基無茎、挟り小さく薄手の作り。	黒曜石	
第203図 PL.183	16	石鎌	Pit15	欠損	(2.4)	(1.4)	0.3	(0.9)	凹基無茎、片脚および先端を欠く。	黒曜石	
第203図 PL.183	17	石鎌	覆土	欠損	1.5	(1.6)	0.2	(0.3)	凹基無茎、小型品、脚を欠く。	黒曜石	
第203図 PL.183	18	石鎌	覆土	欠損	(1.3)	1.5	0.3	(0.7)	凹基無茎、挟り浅く先端部を欠く。	黒曜石	
第203図 PL.183	19	石鎌	覆土	欠損	(1.4)	(1.6)	0.2	(0.6)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第203図 PL.183	20	石鎌	覆土	欠損	(2.1)	1.3	0.4	(1.0)	基部、先端部を欠く、錐のつまみ部の可能性も有り。	黒曜石	
第203図 PL.183	21	打製石 斧	+12	完形	8.4	5.6	1.5	91	撥形、短身で器面風化。	黒色頁岩	
第203図 PL.183	22	凹石	+7	完形	11.1	7.9	4.7	680	扁平礫で両面磨り面で、凹みを有し、両側面も平坦な磨り面としている。	粗粒輝石安山岩	
第204図 PL.183	23	凹石	炉	完形	12.8	8.6	4.9	760	扁平な長円礫、両面に浅い凹みを有す。	粗粒輝石安山岩	
第204図 PL.183	24	凹石	床	完形	11.7	8.4	4.3	620	やや扁平な礫、両面に複数の打痕状の凹みを有す。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第204図 PL.183	25	磨石	炉	完形	7.5	6.3	3.8	272	扁平な小円礫、使用面平坦できわめて平滑。	粗粒輝石安山岩	
第204図 PL.183	26	磨石	床	完形	14.0	11.5	9.0	1,700	比較的大きな円礫、顕著な使用痕は見られない。	デイスait	
第204図 PL.183	27	台石	炉	完形	19.3	16.8	7.3	3,580	扁平な大型礫、平坦面を使用面とする。片面に数個の小い凹み穴。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

95-25号住居跡(第207・208図：PL.183・184)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)				①胎土 ②色調				文 様 の 特 徴 等	備 考	
		器種	部位	残存	出土位置	胎土	色調	色調	色調			
第207図 PL.183	1	深鉢 床	口縁部破片			① 細：輝石 ② 黒褐色				突起を付す。口縁部は隆線による区画文と渦巻文構成。縄文は地文LR。頸部は無文で下端に横位沈線を設ける。	中期後葉古	
第207図 PL.183	2	深鉢 +4	体部下半～底部 1/2 残存 底：8.6			① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色				縦位波状隆線と垂下沈線2条による懸垂文構成。4単位か。地文縄文はLR縦位施文で隆線貼付まへの施文。底面に網代痕を見る。	中期後葉古	
第207図 PL.183	3	深鉢 +7	体部破片			① 粗：石英 ② 黄褐色				垂下沈線3条による懸垂文構成。RL縦位施文後縦位波状沈線を施す。	中期後葉古	
第207図 PL.183	4	深鉢 +2	体部破片			① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色				垂下沈線数条による懸垂文構成。沈線間の磨り消しはやや弱い。縄文は縦位RL、縦位波状沈線が加わる。	中期後葉古	
第207図 PL.183	5	深鉢 床	体部破片			① 粗：輝石・褐色粒 ② 鈍い黄褐色				2条隆線による懸垂文構成か。隆線中位は連鎖状とする。縄文は縦位RL。	中期後葉古	
第207図 PL.183	6	深鉢 +12	体部上半破片			① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色				横位隆線以下2条の沈線を側線とし、緩やかな横位波状沈線を配す。地文は縦位RL。	中期後葉古	
第207図 PL.183	7	深鉢 +4	体部破片			① 細：輝石少 ② 黒褐色				2条の沈線に画された横位磨消部と下位に弧状意匠を配す。縄文はLR充填施文。内面研磨。	後期前葉新	
第207図 PL.183	8	深鉢 +6	口縁部破片			① 粗：石英 ② 黒褐色				口縁部文様帯は狭く、隆線による渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線、横位矢羽状刺突文を充填する。頸部は無文。	中期後葉古	
第207図 PL.183	9	深鉢 炉	体部上半破片			① 粗：石英少 ② 黒褐色				横位隆線2条より上端渦巻とした2条隆線が懸垂する。体部空白部は縦位沈線2条で小区画され縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系	
第207図 PL.183	10	深鉢 炉	体部破片			① 粗：石英・輝石 ② 明褐色				中位に蛇行意匠を配す垂下隆線2条による懸垂文構成。空白部は内皮細沈線を縦位に施し、縦位結節文を加える。	中期後葉信州系	
第207図 PL.183	11	深鉢 +8	体部中位破片			① 粗：石英・雲母多 ② 鈍い赤褐色				隆線による環状意匠を配し下端より2条隆線による分岐懸垂文が派生する。意匠内は沈線による渦巻文。空白部は矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系	
第207図 PL.183	12	深鉢 +9	体部破片			① 粗：石英 ② 褐色				刻みを付す横位隆線上位に沈線2条が沿う。下位は浅い沈線による弧線文が施される。	中期後葉信州系	
第207図 PL.183	13	深鉢 炉	体部破片			① 粗：石英・雲母多 ② 明赤褐色				垂下隆線による懸垂文構成。空白部は斜位沈線を施す。施文は内皮使用。	中期後葉信州系	
第207図 PL.183	14	深鉢 炉	体部破片			① 粗：石英・輝石 ② 明褐色				垂下隆線2条による懸垂文構成。空白部は内皮細沈線を縦位に施し、縦位結節文を加える。	中期後葉信州系	
第207図 PL.183	15	深鉢 +8	体部破片			① 細：輝石 ② 明褐色				垂下沈線2条による懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系	
第207図 PL.183	16	深鉢 炉	体部破片			① 粗：雲母多 ② 赤褐色				数条の平行沈線による懸垂文構成。無節L縦位施文後コンパス状の波状沈線を垂下させる。	中期後葉古	
第207図 PL.183	17	深鉢 Pit 6	体部破片			① 粗：石英少 ② 暗褐色				垂下隆線による懸垂文構成。2条沈線で小区画され、無文部と施文部は縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系	
第207図 PL.183	18	深鉢 炉	体部破片			① 粗：石英・雲母 ② 暗赤褐色				垂下隆線の痕跡を見る。縦位矢羽状短沈線を充填する。施文は丁寧。	中期後葉信州系	
第207図 PL.184	19	浅鉢 床	口縁部破片			① 細：白色粒 ② 暗赤褐色				口唇部外面突出。体部上半は強い内湾を呈す。内外面研磨を施し、赤彩を加える。赤彩範囲・意匠は不明。	中期後葉	
第207図 PL.184	20	浅鉢 床	口縁部破片			① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色				口唇部内面突出。直線的に体部と一体化する。内外面丁寧な撫で調整を施す。赤彩痕残る。	中期後葉	
第207図 PL.184	21	深鉢 床	口縁～体部上半 破片			① 粗：輝石 ② 鈍い褐色				口唇部内面幅広に肥厚する。外面は無文。	中期後葉	
第207図 PL.184	22	深鉢 +7	口縁部破片			① 粗：石英・雲母 ② 暗赤褐色				口唇部内面に隆線貼付による内稜を付す。外面は無文。	中期後葉信州系？	
第208図 PL.184	23	深鉢 +10	口縁部破片			① 細：白色粒 ② 黒褐色				外反する口縁部。口唇部内面に隆線貼付による内稜を付す。外面は無文。	中期後葉信州系？	
第208図 PL.184	24	浅鉢 炉	口縁部破片			① 粗：石英 ② 暗褐色				口唇部外面肥厚。体部上半の内湾か。内外面研磨を施し、赤彩を加える。赤彩範囲・意匠は不明。	中期後葉	
第208図 PL.184	25	深鉢 炉	口頸部破片			① 細：輝石 ② 褐色				頸部外反。下位に横位隆線を付す。内外面とも研磨を施す。	中期後葉	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況		石 材	備 考
第208図 PL.184	26	石鐮	床	完形	1.3	1.4	0.3	0.4	凹基無茎、小型品、中央部分が肥厚。		黒曜石	
第208図 PL.184	27	石鐮	覆土	欠損	2.2	1.3	0.6	1.4	石鐮の基部欠損品か。		黒曜石	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-26号住居跡(第210・211図:PL.184・185)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調			文 様 の 特 徴 等			備 考	
第210図 PL.184	1	深鉢 +26	体部中位のみ残	①粗:石英多 ②暗赤褐色	内湾する体部形態。腕骨状の2条隆線による渦巻文を配し、下端より隆線が垂下する懸垂文構成。空白部は、短沈線及び縦位沈線を充填する。器面摩滅著しい。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	2	深鉢 +37	口縁部破片	①粗:石英 ②黒褐色	渦巻状突起を付し下端に2条隆線による渦巻文と短沈線を施す。突起両脇には沈線による渦巻文を配す。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	3	深鉢 +20	口縁部破片	①粗:白色粒 ②明褐色	口縁部は隆線による区画文構成。区画内測線は沈線。斜位短沈線を充填する。体部は縦位条線を施す。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	4	深鉢 +32	口縁部破片	①粗:石英多 ②黒褐色	沈線による口縁部渦巻文と区画文。区画内は縦位短沈線。下位に横位交互刺突文を施す。体部は斜位短沈線。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	5	深鉢 +27	口縁部破片	①粗:石英多 ②暗褐色	口縁部肥厚気味で無文。横位沈線を施し、以下弧状隆線と縦位・斜位短沈線を埋める。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	6	深鉢 +16	口縁部破片	①粗:石英多 ②褐色	口縁部肥厚し無文。以下隆線で画される区画文構成。沈線を測線とし、斜位短沈線を充填する。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	7	深鉢 +30	口縁部破片	①粗:石英多・輝石 ②黒褐色	口唇部内稜を設ける。口縁部は隆線による区画文。測線は沈線、充填文は短沈線。体部は斜位短沈線を施す。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	8	深鉢 +31	口縁部破片	①粗:石英 ②黒褐色	口縁部に渦巻文と横位隆線を配す。体部は浅い弧状沈線か。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	9	深鉢 炉	口縁部破片	①粗:白色粒多 ②暗褐色	内稜を付す。口縁部は隆線による反転する渦巻文を配す。上位に連続刺突文を施す。体部は斜位短沈線か。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	10	深鉢 +36	口縁部突起片	①粗:雲母多 ②黒褐色	環状突起。表裏面とも渦巻状意匠を配す。内外面とも環状の粘土帯を貼付した製作。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	11	深鉢 +30	口縁部突起片	①粗:白色粒 ②暗褐色	隆線による渦巻状意匠を正面・上面に配す。正面中央に孔を設け、中空状となす。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	12	深鉢 +38	口縁部突起片	①粗:石英・輝石 ②赤褐色	渦巻文を基調とした中空状突起。正面・上面及び右側面に渦巻状意匠を配す。孔は正面左より下位に貫通する。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	13	深鉢 +40	口縁部突起片	①石英・雲母少 ②黒褐色	円柱状突起。正面・上面に渦巻状意匠を配す。左右側面及び裏面より孔を穿ち中空状となす。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	14	深鉢 +18	体部破片	①粗:石英・輝石 ②褐灰色・赤褐色	加熱により大きく歪む。隆線によるS字状意匠より2条隆線が派生する。空白部は短沈線を充てる。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	15	深鉢 +10	頸部破片	①粗:石英多 ②褐灰色	頸部に2条隆線を巡らし、口縁部は区画文、体部は弧状沈線や魚鱗状短沈線を施す。2条隆線間は刺突文を加える。口縁部区画内は短沈線を充填する。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	16	深鉢 +32	体部上半破片	①粗:石英・雲母 ②極暗褐色	隆線による渦巻文を対称に配し、下端より2条隆線が弧状に派生する。小渦巻文も沈線で描かれる。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	17	深鉢 +30	体部破片	①粗:石英・輝石 ②暗褐色	2条隆線による不定形区画文。区画内測線は沈線、充填文は短沈線を充てる。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	18	深鉢 +31	体部上半破片	①粗:石英・雲母 ②赤褐色	隆線による渦巻文より横位2条隆線が派生する。上位には隆線と交互刺突文による区画文を配す。区画内は短沈線を密に充填する。突起剥落痕跡を見る。			中期後葉信州系			
第210図 PL.184	19	深鉢 +16	体部破片	①粗:石英 ②褐灰色	加熱により著しく歪む。沈線による渦巻文や弧線文が配される。短沈線を充填する。			中期後葉信州系			
第211図 PL.184	20	深鉢 +35	体部破片	①粗:白色粒多・石英多 ②褐灰色	加熱により著しく歪む。隆線による弧線により不定形区画文が画される。区画内は短沈線を充填する。			中期後葉信州系			
第211図 PL.184	21	深鉢 +31	体部下半のみ残	①粗:石英多 ②鈍い赤褐色	隆線によるU字状区画文。区画中に垂下隆線が分割する。区画内は斜位短沈線を充填する。			中期後葉信州系			
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第211図 PL.184	22	石鏃	+25	完形	3.2	1.4	0.4	0.9	凹基無茎、やや細身で端正な作り。	チャート	
第211図 PL.185	23	石鏃	+31	欠損	2.0	(1.2)	0.4	(0.5)	凹基無茎、挟り深い、片脚を欠く。	黒曜石	
第211図 PL.185	24	石鏃	+31	完形	2.2	1.5	0.3	1.6	凸基無茎、表面に平坦な自然面残す。作りは粗い。	チャート	
第211図 PL.185	25	石鏃	覆土	欠損	(1.7)	(1.1)	0.3	(0.4)	先端部片。	黒曜石	
第211図 PL.185	26	石鏃	覆土	欠損	2.2	1.5	0.3	1.6	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第211図 PL.185	27	石鏃	覆土	欠損	(1.4)	(1.0)	0.2	(0.2)	両脚が開いた凹基無茎、脚部片。	黒曜石	
第211図 PL.185	28	スクレイパー	+31	欠損	8.0	4.9	1.2	48	半月形を呈し下辺に刃部を作出。上部に自然面、端を欠く。	黒色安山岩	
第211図 PL.185	29	打製石斧	+37	完形	10.7	4.5	10.8	113	撥形、刃部の開きは弱い、片面に自然面のこり全体に内湾する。	細粒輝石安山岩	



### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第211図 PL.185	30	打製石 斧	+31	欠損	(5.7)	4.8	1.5	(48)	基部片か。	黒色頁岩	
第211図 PL.185	31	磨石	+34	完形	10.5	7.7	5.5	640	やや不定形な円礫、表面平滑な使用面有す。	粗粒輝石安山岩	
第211図 PL.185	32	磨石	炉	完形	13.4	8.3	4.2	800	扁平な小判形の礫、両平坦面を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-27号住居跡(第213・214図: PL.185)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第213図 PL.185	1	深鉢 +17 口縁部破片	①粗:輝石 ②暗赤褐色	波状突起。波頂下に隆線による渦巻文を配す。測線は沈線で、斜位RLを充填する。薄手の器厚。	中期後葉新
第213図 PL.185	2	深鉢 +17 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②褐色	口唇部内面突出。口縁部隆線による渦巻文と区画文構成。区画内測線は沈線、縦位短沈線を充填する。体部は2条沈線による懸垂文構成か。斜位短沈線を埋める。	中期後葉信州系
第213図 PL.185	3	深鉢 +22 口縁部破片	①細:輝石 ②鈍い赤褐色	波状縁。口唇部に刻みを付す。横位沈線を多段に重ね、交互刺突文を重ねる。以下燃糸Lを縦位施文する。	中期後葉最古
第213図 PL.185	4	浅鉢 +38 口縁部破片	①細:石英・輝石 ②鈍い橙色	頸部で強く屈曲し、口縁部は大きく開く。内外面丁寧な研磨を施す。	中期後葉
第213図 PL.185	5	深鉢 +10 体部下半破片	①粗:石英多・雲母多 ②鈍い赤褐色	縦位LRが器面を覆う。	中期後葉
第213図 PL.185	6	深鉢 +5 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色	沈線を測線とし、斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第213図 PL.185	7	深鉢 +5 体部破片	①粗:石英・輝石 ②灰褐色	平行沈線群による縦位・斜位施文。	中期後葉信州系
第213図 PL.185	8	深鉢 +10 体部破片	①粗:石英・輝石 ②暗赤褐色	2条の弧状沈線による区画文か。斜位平行沈線群を充填する。	中期後葉信州系
第213図 PL.185	9	深鉢 床 底部破片 底:(10.0)	①粗:輝石 ②鈍い赤褐色	大型の深鉢底部。体部下半に垂下沈線の下端部を見る。懸垂文構成。	中期後葉新

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第213図 PL.185	10	石錐	覆土	完形	3.4	0.8	0.6	1.2	棒状錐、基部は段を持ってやや膨らみ端部が尖る。錐部は丁寧に作出。	黒曜石	
第213図 PL.185	11	磨石	床	完形	12.3	8.3	6.7	1,040	俵形の礫、両面および側面を使用し、端部に打痕あり。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第213図 PL.185	12	敲石	+15	完形	12.3	6.3	4.5	520	棒状礫、下端部に打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第213図 PL.185	13	磨石	+29	欠損	(6.9)	7.5	4.7	(380)	やや扁平な小円礫、両使用面は平滑。一部欠損。	粗粒輝石安山岩	
第213図 PL.185	14	凹石	+35	欠損	13.2	6.8	4.8	570	俵形の礫の両面に2つの凹み穴を有し。端部に打痕見られる。	安山岩	
第214図 PL.185	15	多孔石	炉	完形	24.5	18.0	10.8	4,800	大型自然礫の表面に大小複数の凹み穴を穿つ。	粗粒輝石安山岩	炉石に転用
第214図 PL.185	16	多孔石	+17	完形	16.5	12.0	6.4	1,380	不定形な自然礫利用、両面に大小2、3個の凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-28号住居跡(第216図: PL.185)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第216図 PL.185	1	深鉢 Pit 3 口縁部破片	①細:石英 ②黒褐色	口縁部内湾し、内外面とも丁寧な横位研磨を施す。無文。	中期後葉
第216図 PL.185	2	深鉢 床 体部破片	①粗:石英多 ②褐色	垂下隆線による磨消部懸垂文構成。施文部は縦位LR充填施文。	中期末葉
第216図 PL.185	3	深鉢 +3 体部破片	①粗:石英・輝石 ②暗赤褐色	垂下沈線と縦位波状沈線による懸垂文構成。縦位RLを施す。	中期後葉新
第216図 PL.185	4	深鉢 床 体部破片	①粗:石英 ②褐色	縦位LRが器面を覆う。	中期後葉
第216図 PL.185	5	深鉢 Pit 5 体部破片	①細:輝石・雲母少 ②黒褐色	押圧を加えた縦位鎖状隆線による懸垂文構成。他は無文。	中期後葉

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第216図 PL.185	6	打製石 斧	覆土	完形	9.2	4.4	1.7	78	撥形、糧面に自然面見られ、基部がやや薄くなる。刃部摩耗。	黒色頁岩	
第216図 PL.185	7	磨石	Pit 5	完形	8.0	7.7	6.6	530	拳大の球形礫利用、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第216図 PL.185	8	磨石	Pit 5	完形	12.2	9.0	6.1	940	やや扁平な礫で側縁を中心に打痕による剥落が見られる。	石英閃緑岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-29号住居跡(第218~220図: PL.186・187)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第218図 PL.186	1	深鉢 +4 口縁~体部上半 1/4 口:(45.0)	①粗:石英・輝石 ②鈍い黄褐色	大型の深鉢。平縁で長胴状の器形。口縁部隆線以下隆線による梯子状懸垂文を配す。隆線の交点には円形刺突文を付す。平行沈線による縦位条線も垂下する。	後期初頭新
第218図 PL.186	2	深鉢 床	①粗:石英 ②灰褐色	口縁部は無文。下位に横位沈線を巡らし、2条沈線と波状沈線が垂下する。地文は縦位RL。	中期後葉古
第218図 PL.186	3	深鉢 床	①粗:輝石 ②灰褐色	口縁部楕円状区画間に沈線による縦位S字文を施す。区画内測線は沈線。体部は垂下沈線による懸垂文構成か。斜位RLを充填する。	中期後葉新
第218図 PL.186	4	深鉢 覆土	①粗:石英・輝石 ②鈍い黄褐色	口唇部内屈。横位の2条沈線間を横位LRが充填する。	後期前葉新
第218図 PL.186	5	鉢 床	①粗:輝石 ②灰褐色	口唇部内面に環状貼付文と弧状沈線を施す。外面口縁部に弧状沈線、体部上半に横位沈線を配す。地文は横位LR。	後期前葉
第218図 PL.186	6	深鉢 床	①粗:石英 ②橙色	頸部屈曲部下に環状貼付文を付し弧状隆線が繋ぐ。体部中位は大柄の弧状意匠か。縄文はLR充填施文。	後期前葉古
第218図 PL.186	7	深鉢 +6	①粗:石英・輝石 ②褐灰色	2条の沈線で画された弧状意匠。無節しを充填する。磨削部は研磨を加える。	後期初頭
第218図 PL.186	8	深鉢 床	①粗:石英・輝石 ②赤褐色	口縁部横位隆線より斜位隆線が派生する。交点に円形刺突文を施す。	後期初頭
第218図 PL.186	9	深鉢 床	①粗:白色粒 ②浅黄色	突起上端部に面を持ち沈線を施す。下位は横位沈線と円形刺突文を交互に重ね、無節しを施す。隆線貼付痕も見られる。	後期初頭
第218図 PL.186	10	深鉢 +16	①粗:石英・輝石 ②暗赤褐色	口縁部横位隆線に円形刺突文を加える。下端より隆線が派生する。	後期初頭
第218図 PL.186	11	深鉢 +4	①粗:石英 ②鈍い黄褐色	中位に孔を穿つ口縁部環状突起。内面孔両脇に円形刺突文を配す。	後期前葉
第218図 PL.186	12	深鉢 床	①粗:石英 ②鈍い黄褐色	口縁部無文。横位隆帯に強い押圧を加える。	後期初頭
第218図 PL.186	13	深鉢 床	①細:石英 ②褐灰色	口縁部環状小突起を付す。内面は渦巻状意匠を配す。体部は沈線で画された意匠文上端を見る。	後期初頭
第218図 PL.186	14	鉢 +6	①粗:石英 ②褐灰色	口縁部内傾。屈曲部に低位隆線を付す。口縁部と頸部屈曲部を8字状貼付文が繋ぐ。	後期前葉古
第218図 PL.186	15	深鉢 +12	①粗:石英・輝石 ②鈍い橙色	口縁部無文。横位隆帯に強い押圧を加える。器厚薄手。	後期初頭
第218図 PL.186	16	深鉢 119	①粗:石英・輝石 ②橙色	口縁部内外面に小型の環状貼付文を付し、横位沈線を施す。頸部下端に横位沈線を巡らす。	後期前葉古
第218図 PL.186	17	深鉢 +4	①粗:白色粒・輝石 ②褐灰色	口縁部環状小突起に弧状短沈線と刺突文を配す。口縁部は横位沈線を施す。体部は斜位沈線2条の間を刺突文が充填する。	後期前葉
第218図 PL.186	18	深鉢 +4	①粗:石英大 ②黒褐色	波頂部に環状突起を配し中位に円孔を設ける。体部は沈線による弧状意匠を施す。内外面研磨により平滑。	後期初頭新
第219図 PL.186	19	深鉢 床	①粗:石英・片岩 ②灰褐色	口唇部に柱状小突起と小波状意匠を設ける。口縁部細隆線に8字状貼付文を付す。体部は弧状沈線文を施す。	後期前葉新
第219図 PL.186	20	深鉢 +7	①粗:輝石・褐色粒 ②鈍い黄褐色	口縁部に2条の横位隆線を設ける。隆線には刻みを付す。口唇部内面に浅い沈線。	後期前葉新
第219図 PL.186	21	深鉢 覆土	①細:白色粒 ②鈍い黄褐色	口縁部横位細隆線を2条設け、体部に2条の横位沈線を施す。充填縄文は不明。LRか。	後期前葉新
第219図 PL.186	22	深鉢 +4	①粗:石英 ②赤褐色	口縁部横位隆線を設ける。口縁部は無文。	後期初頭
第219図 PL.186	23	注口土器 床	①細:輝石 ②鈍い褐色	背面の橋状把手。口縁部は肥厚し、浅い沈線を施す。体部は横位沈線と斜位沈線を施すが区画・意匠は不明。	後期初頭
第219図 PL.186	24	深鉢 床	①細:輝石少 ②黒褐色	上端部に渦巻文を配す突起。小型の橋状把手を頸部隆線と繋ぐ。内面突起下端に小型の円形刺突文を施す。	後期前葉
第219図 PL.186	25	深鉢 床	①粗:石英 ②鈍い黄褐色	口縁部は外反しする。頸部に2条の横位沈線を設け、大柄の8字状貼付文を配す。	後期前葉
第219図 PL.186	26	深鉢 床	①粗:石英 ②鈍い黄褐色	あるいは浅鉢か。口縁部及び屈曲部隆線は波状で、円孔を付す。あるいは中空状突起か。体部は2条の隆線が垂下する。補修孔2を見るが対応しない配置である。	後期前葉古
第219図 PL.186	27	深鉢 覆土	①粗:白色粒・輝石少 ②鈍い黄褐色	横位沈線2条の間を列点状刺突文が充填される。	後期初頭
第219図 PL.186	28	深鉢 +7	①粗:白色粒・輝石少 ②橙色	沈線による不定形意匠が配され、列点状刺突文を充填する。	後期初頭
第219図 PL.186	29	深鉢 床	①粗:輝石 ②鈍い橙色	内面器壁剥落。縦位矢羽状刺突文を施す。	後期初頭

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第219図 PL.186	30	深鉢 体部破片	①粗：白色粒 ②褐色	2条の垂下沈線による懸垂文構成。施文部は滴状の小型刺突文を充填する。	後期初頭
第219図 PL.186	31	深鉢 +6 体部上半破片	①細：石英・輝石 ②褐灰色	内湾する体部。頸部に横位沈線を設け、以下斜位沈線2条が派生する。沈線による環状・渦巻状意匠を配す。	後期前葉
第219図 PL.186	32	鉢 頸部破片	①細：石英・輝石 ②褐灰色	頸部屈曲し数条の横位沈線を重ねる。以下沈線で画された反する弧状意匠を配す・外面研磨を加える。	後期前葉
第219図 PL.186	33	深鉢 体部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い褐色	斜位沈線2条と環状・渦巻状意匠を施す。	後期前葉
第219図 PL.186	34	深鉢 体部破片	①粗：石英多 ②鈍い褐色	深い押圧状の横位刺突文が器面を密に覆う。	後期前葉越後系
第219図 PL.186	35	注口土器 体部下半～底部 1/3 底：(4.0)	①粗：石英多 ②褐灰色	底部は上げ底で体部は内湾する。無文で内外面とも丁寧な撫で調整を施す。	後期前葉

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第219図 PL.186	36	石鉢	覆土	完形	1.7	1.2	0.3	0.4	凹基無茎、片面は平らで作りは丁寧。	黒曜石	
第219図 PL.186	37	石鉢	覆土	ほぼ 完形	1.1	1.5	0.3	0.3	凹基無茎、小型品、脚が開き短身。	黒曜石	
第219図 PL.186	38	石鉢	覆土	欠損	(1.3)	(1.4)	0.3	(0.4)	先端部片。	黒曜石	
第219図 PL.186	39	石鉢	覆土	欠損	(1.6)	(1.3)	0.3	(0.3)	凹基無茎、両脚を欠損品か。	黒曜石	
第219図 PL.186	40	石鉢	覆土	欠損	(1.4)	(2.4)	0.4	(1.2)	凹基無茎、大型鉢の基部。	黒曜石	
第219図 PL.186	41	石鉢	覆土	欠損	(1.2)	(1.4)	0.4	(0.7)	平基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第219図 PL.186	42	石鉢	覆土	欠損	(1.3)	(0.9)	0.3	(0.3)	凹基無茎、小型品、脚および先端部欠く。	黒曜石	
第219図 PL.186	43	石錐	覆土	完形	3.8	2.4	0.8	4.6	五角形の大きなつまみ部を持ち、上部には自然面が残る。	チャート	
第219図 PL.187	44	石錐	覆土	欠損	(1.3)	(1.1)	0.2	(0.4)	やや扁平で錐部を欠く、石鉢の可能性も。	チャート	
第219図 PL.187	45	石錐	覆土	欠損	1.6	0.5	0.3	0.3	棒状錐先端部片。	黒曜石	
第219図 PL.187	46	石錐	覆土	欠損	(1.1)	(0.5)	0.3	(0.3)	石錐の先端部片。	黒曜石	
第219図 PL.187	47	打製石 斧	床	欠損	(5.1)	6.8	0.5	(29)	幅広く極めて薄手の刃部片。	粗粒輝石安山岩	
第220図 PL.187	48	磨石	+5	完形	6.5	5.7	4.6	214	小型の円礫、表面は比較的平滑で一部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第220図 PL.187	49	磨石	床	完形	9.6	9.2	5.6	700	やや扁平な礫、側縁一部に若干の打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第220図 PL.187	50	磨石	床	完形	5.0	4.6	4.3	136	小型の円礫、表面は比較的平滑。	粗粒輝石安山岩	
第220図 PL.187	51	磨石	覆土	完形	5.5	5.4	2.6	99	扁平な小円礫、両面比較的平滑。	粗粒輝石安山岩	
第220図 PL.187	52	凹石	覆土	欠損	(9.1)	6.1	4.2	(396)	棒状を呈す、平坦面に浅い凹穴を有し、端部に打痕。欠損し煤付着。	粗粒輝石安山岩	
第220図 PL.187	53	磨石	覆土	ほぼ 完形	8.8	8.5	3.5	416	扁平な円礫、側縁の一部に打痕。	石英閃緑岩	
第220図 PL.187	54	磨石	+12	欠損	(7.7)	6.2	3.5	(254)	やや扁平な長円礫か、平坦面を使用面とする。打痕による凹み有り。	粗粒輝石安山岩	
第220図 PL.187	55	磨石	覆土	完形	9.3	5.9	4.0	292	やや扁平な長円礫、平坦面を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	
第220図 PL.187	56	台石	床	完形	15.3	12.3	4.7	1,220	扁平礫、比較的平らな面を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	
第220図 PL.187	57	軽石製 品	覆土	完形	6.3	5.7	1.4	12	板状で扇形を呈す、表面側縁共に研磨成形され端部は丸みを持つ。	軽石	

95-30号住居跡(第226~234図：PL.187~191)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第226図 PL.187	1	深鉢 覆土 口縁～体部中位 1/4 残存 口：(23.0) 残：15.6	①粗：石英 ②黒褐色	口縁部渦巻文と区画文構成。区画内測線は幅広の沈線。体部は2条の沈線に画された磨消部懸垂文構成。口縁部区画内及び体部施文部は縦位LRL充填施文。薄手でしっかりした作り。	中期後葉新
第226図 PL.187	2	深鉢 +25 口縁～体部上半 1/3 残存 口：(16.6)	①粗：石英・輝石 ②暗赤褐色	口縁部は隆線渦巻文と区画文構成。区画内は側線沈線で弧状・縦位短沈線を充填する。体部は沈線による逆U字状懸垂文構成か。無節L縦位充填施文。	中期後葉信州系

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第226図 PL.187	3	深鉢 覆土 口縁～体部下 底部欠損 口：12.2 残：19.0	①粗：石英 ②鈍い赤褐色	大型の渦巻状突起を一对配す。頸部隆線に円形刺突文と渦巻状小突起を付し下端より渦巻文を中に置く3条の隆線が懸垂する。波底部域に蛇行隆線が垂下する。空白部は矢羽状短沈線を充填。	中期後葉信州系
第226図 PL.187	4	深鉢 覆土 口縁部～体部下 1/3 口：44.0 残：44.7	①粗：石英多・雲母多 ②暗褐色	大型の深鉢。口縁部は無文で開く。頸部隆線には押圧を加え、体部中位に隆線による渦巻文を接続した懸垂文を配す。横位楕円沈線文を空白部に充填し、地文に縦位条線を施す。	中期後葉信州系
第226図 PL.187	5	深鉢 覆土 口縁～体部中位 1/3 残存 口：(14.0) 残：13.0	①粗：石英・輝石 ②赤褐色	口縁部折り返し状。体部は沈線のみを施文。上半に渦巻文と楕円状意匠を配す。下半は2条沈線による懸垂文構成。地文はRL縦位施文。	中期後葉信州系？
第226図 PL.187	6	深鉢 覆土 口縁～体部下 1/3 残存 残：22.3	①粗：輝石 ②褐色	口唇部欠損。2条隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。区画内測線は沈線、斜位短沈線を充填する。体部は3条の垂下沈線による懸垂文構成。湾曲部で横位沈線を連携し上半を区画する。中位に縦位波状沈線を充てる。LR縦位充填施文。	中期後葉信州系
第226図 PL.187	7	深鉢 覆土 口縁～体部中位 1/4 残存 口：(23.0) 残：18.0	①粗：白色粒 ②黒褐色	口唇部折り返し状、幅狭の口縁部文様帯は斜位短沈線を充填する。頸部隆線は刺突文が加わる。体部は縦位S字状意匠と蛇行隆線による懸垂文構成。矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第226図 PL.187	8	深鉢 覆土 口縁部～体部上 半破片 口：22.2 残：13.3	①粗：石英・輝石・雲母 ②黒褐色	口縁部文様帯は沈線のみを施文。渦巻文と横位短沈線を施す。頸部隆線以下沈線による渦巻文下端より垂下隆線が懸垂する。隆線による波状懸垂文も配される。横位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第227図 PL.187	9	深鉢 覆土 口縁～体部上 半 口：18.4 残：7.7	①粗：白色粒多 ②黒褐色	2条隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内測線は沈線で、縦位短沈線を充填する。体部は垂下隆線と縦位波状隆線による懸垂文構成か。斜位隆線も加わる。充填文は斜位短沈線。	中期後葉信州系
第227図 PL.187	10	深鉢 +22 口縁部～体部上 半破片 口：(26.0) 残：9.0	①粗：砂礫 ②黒褐色	下端隆線、上端沈線による口縁部区画文。沈線を測線とし縦位短沈線を充填する。体部は2条隆線及び蛇行隆線による懸垂文構成。空白部は矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第227図 PL.188	11	深鉢 覆土 口縁～頸部1/ 2 残存 口：18.0 残7.5	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	口縁部は幅狭で渦巻文と楕円状区画文を配し、斜位短沈線を充填する。頸部は無文。	中期後葉信州系
第227図 PL.188	12	深鉢 +41 口縁部破片	①粗：石英・輝石少 ②鈍い黄褐色	振りを加えた垂下隆線と頸部隆線による口縁部区画文構成。沈線を測線とし横位矢羽状短沈線を充填する。地文は縦位LR。体部も縦位LRが覆う。	中期後葉信州系
第227図 PL.188	13	深鉢 +34 口縁部破片	①粗：石英多 ②暗赤褐色	振りを加えた突起を付した幅狭口縁部文様帯。隆線による楕円状区画文を設け横位交互刺突文を埋める。体部は2条隆線による渦巻文を配し、斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第227図 PL.188	14	深鉢 +39 口縁部破片	①粗：石英多・雲母多 ②暗赤褐色	振りを加えた小突起に横位短沈線を側線とする。隆線楕円状区画文を配し横位交互刺突文を施す。体部は頸部隆線より2条隆線が懸垂し、斜位短沈線が施される。	中期後葉信州系
第227図 PL.188	15	深鉢 +31 口縁部破片	①粗：輝石 ②暗赤褐色	口縁部文様帯内に横位交互刺突文を充填する。体部は頸部隆線より派生した弧状隆線が中位の渦巻文に繋がる。空白部は斜位短沈線と小渦巻文を施す。	中期後葉信州系
第227図 PL.188	16	深鉢 +14 口縁部破片	①粗：石英・雲母少 ②黒褐色	口縁部突起剥落。下端に隆線渦巻文を配し、口縁部区画内を横位沈線と交互刺突文が充填される。体部垂下隆線には刻みを施す。	中期後葉信州系
第227図 PL.188	17	深鉢 +21 口縁部破片	①粗：白色粒多・輝石 ②暗赤褐色	小型深鉢。細隆線による渦巻文と区画文。区画上端は沈線を測線とする。弧状短沈線を充填し、体部は縦位沈線後横位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第227図 PL.188	18	深鉢 +27 口縁部破片	①粗：輝石 ②黒褐色	口縁部文様帯は横位交互刺突文を充填する。頸部隆線より弧状隆線が派生し交互刺突文・短沈線を施す。	中期後葉信州系
第227図 PL.188	19	深鉢 +36 口縁部破片	①粗：石英・輝石・雲母 ②暗赤褐色	幅広の無文口縁部。横位隆線に画された文様帯内に渦巻文を配す。側線は円形刺突文。上位隆線に突起剥落痕を見る。	中期後葉信州系
第227図 PL.188	20	深鉢 +28 口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い赤褐色	隆線による口縁部区画文か。上位に幅広沈線が沿う。区画内は横位RL充填施文。	中期後葉新
第227図 PL.188	21	深鉢 +24 口縁部破片	①粗：雲母多 ②暗赤褐色	口唇部内稜を付す。隆線による口縁部区画文。区画内測線は沈線、沈線による渦巻文を配し、横位短沈線を充填する。体部は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第227図 PL.188	22	深鉢 +37 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②暗赤褐色	口唇部内稜を付す。隆線による渦巻文と2条隆線による区画文か。隆線間に円形刺突文を重ねる。	中期後葉信州系
第227図 PL.188	23	深鉢 +32 口縁部破片	①粗：砂礫 ②暗褐色	口唇部内稜を付す。隆線による縦位渦巻文を配し弧状隆線が派生する。上位を刺突文が、下位は斜位沈線を施す。器面摩滅する。	中期後葉信州系
第227図 PL.188	24	深鉢 床 口縁部破片	①細：石英少・輝石少 ②灰褐色	口唇部に2条の横位隆線。口縁部文様帯内は隆帯による剣先状意匠を配す。縦位細沈線を密に充填する。	中期後葉古東北系
第227図 PL.188	25	深鉢 +21 口縁～体部中位 1/5 残存 口：(44.8) 残：23.7	①粗：小礫・輝石 ②暗褐色	大型の深鉢。体部中位で緩やかに括れる。口縁部隆線による渦巻文と区画文構成。区画内測線は沈線、斜位短沈線を充填する。体部は7・8条単位の条線が間隔をもって縦位施文される。	中期後葉信州系

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			①胎土 ②色調			文様の特徴等	備考		
		器種	部位	残存	①	②					
第227図 PL.188	26	深鉢 +5	口縁部破片		①粗：石英・雲母 ②明赤褐色 脆弱		2条隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。区画内は縦位短沈線を充填する。体部は刺突文が弧状に施される	中期後葉信州系			
第227図 PL.188	27	深鉢 +15	口縁部破片		①粗：石英・輝石 ②黒褐色		波頂部に隆線による渦巻文を充て区画文を配す。区画内測線は沈線。斜位短沈線を充填する。	中期後葉新			
第228図 PL.188	28	深鉢 +27	頸部～体部中位 1/4 残存		①粗：雲母多 ②褐色		口縁部区画文構成。区画内は刺突文を測線、縦位短沈線充填。体部は渦巻文を配した3条の垂下降線と蕨手状隆線による懸垂文構成。斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系			
第228図 PL.188	29	深鉢 +24	頸部～体部中位 1/3 残存		①粗：輝石 ②黒褐色		口縁～頸部外反し無文。頸部隆線は幅広く低い。体部は無節Lを縦位施文する。器形に歪み有り。	中期後葉信州系			
第228図 PL.188	30	深鉢 +24	頸部～体部中位 破片3点		①粗：輝石多 ②極暗褐色		口縁部は無文か。頸部隆線下に縦位S字状あるいは蕨手状隆線を設ける懸垂文構成。測線は沈線。斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系			
第228図 PL.188	31	深鉢 +38	体部上半破片		①粗：石英・輝石 ②黒褐色		大型の深鉢。頸部隆線は低位。沈線を測線とし、体部は3条隆線を弧状に配す。縦位短沈線を充填し、縦位蕨手状沈線文を加える。	中期後葉信州系			
第228図 PL.188	32	深鉢 +12	体部上半～下半 破片		①粗：石英・輝石 ②極暗褐色		大型の深鉢。内湾する体部器形。縦位蕨手状隆線と2条隆線による大柄の渦巻文を配す。渦巻文下端より隆線が懸垂する。空白部は魚鱗状短沈線を充填する。	中期後葉信州系			
第228図 PL.188	33	深鉢 +29	体部中位破片		①粗：輝石・雲母少 ②極暗褐色		大型の深鉢。隆線による大柄の渦巻文と垂下沈線による軒水門構成。空白部は魚鱗状短沈線を充填する。	中期後葉信州系			
第228図 PL.188	34	深鉢 +25	口縁部突起片		①粗：雲母多 ②黒褐色		頂部が双波状となる大型の突起。頂部は沈線による方形状意匠か。中位に孔を設ける。突起下端より2条隆線が垂下する懸垂文構成か。縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系			
第228図 PL.189	35	深鉢 +30	口縁部突起		①粗：石英・輝石 ②黒褐色		頂部双波状となる大型突起。頂部及び側面は下端両脇は隆線・沈線による渦巻文を配す。突起下端よりU字状隆線が懸垂し下位へ伸びる。	中期後葉信州系			
第228図 PL.189	36	深鉢 +25	口縁部突起片		①粗：雲母多 ②黒褐色		隆線による縦位S字状突起意匠。上端と下端に渦巻文を配し、口縁部区画内・空白部に交互刺突文を充填する。	中期後葉信州系			
第228図 PL.189	37	深鉢 +25	口縁部突起片		①粗：石英・雲母 ②黒褐色		双波状突起下端に橋状把手を設ける。把手両下端に隆線による渦巻文を配す。空白部は横位沈線・交互刺突文を充填する。	中期後葉信州系			
第229図 PL.189	38	深鉢 +21	口縁部破片		①粗：雲母・片岩 ②鈍い黄褐色		口縁部に渦巻文を施した環状突起を設け、下位にも隆線による渦巻文を配す。口縁部文様帯は隆線による区画文で連続刺突文を測線とし交互刺突文を充填する。体部は垂下降線を見る。	中期後葉信州系			
第229図 PL.189	39	深鉢 +18	口縁部突起片		①粗：石英・雲母多 ②黒褐色		上端渦巻文を施した縦位S字状意匠。空白部は交互刺突文を埋める。	中期後葉信州系			
第229図 PL.189	40	深鉢 +32	体部上半破片		①粗：石英 ②暗赤褐色		隆線による横位S字状突起を配す。突起下端より隆線が垂下し、弧状隆線を配す。測線は沈線と円形刺突文。縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系			
第229図 PL.189	41	浅鉢 +25	口縁部破片		①粗：石英大粒 ②暗褐色・黒褐色		口縁部外反し口唇部に幅狭の面を持つ。内外面丁寧な研磨を施す。赤彩痕は内面に顕著。	中期後葉			
第229図 PL.189	42	深鉢 +40	口縁部破片		①細：微砂・白色粒 ②灰褐色		無文の口縁部、径11.5cm前後の小型器種か。外傾し頸部で緩やかに湾曲する。内外面研磨を施し赤彩を加える。	中期後葉			
第229図 PL.189	43	浅鉢 +3	口縁部破片		①粗：石英大粒・輝石 ②黒褐色		口縁部外反し口唇部に面を持つ。内外面丁寧な研磨を加え一部に赤彩痕を見る。外面に焼成後の横位沈線、補修孔を穿つ。	中期後葉			
第229図 PL.189	44	浅鉢 +9	口縁部破片		①粗：石英・輝石 ②黒褐色		口縁部外反し体部は緩やかな湾曲を呈す。内外面に丁寧な研磨を施す。口唇部・内面に赤彩痕顕著。	中期後葉			
第229図 PL.189	45	浅鉢 覆土	口縁部破片		①粗：石英大 ②黒褐色		直線的な体部形態。口唇部に幅狭の面を持つ。内外面研磨。赤彩痕は不明瞭。	中期後葉			
第229図 PL.189	46	浅鉢 +44	口縁部破片		①粗：白色粒 ②黒褐色		口縁～体部緩やかに湾曲する。内外面丁寧な研磨を施す。内面赤彩顕著。	中期後葉			
第229図 PL.189	47	浅鉢 +5	口縁部破片		①粗：石英 ②黒褐色		口縁部外反し体部は緩やかな湾曲。口唇部に幅狭の面を持つ。内外面研磨を施し外面に赤彩痕を僅かに見る。	中期後葉			
第229図 PL.189	48	器台・ミニチュア? +32	下半部欠損 径：3.2		①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色		深鉢ミニチュア底部の可能性もある。内面に煤付着、補修孔を見るが欠損部対応ではない。	中期後葉			
第229図 PL.189	49	深鉢 +42	底部1/3 残存 底：7.6 残：5.3		①粗：輝石 ②鈍い赤褐色		4条の垂下沈線下端部を見る。懸垂文構成。斜位短沈線を施す。底面に網代痕。	中期後葉信州系			
第229図 PL.189	50	土製円盤 +29	完形 6.5×6.7×1.1		①細：石英・輝石 ②黒褐色		浅鉢体部の再利用か。無文で内面の研磨が顕著。周辺は乱雑に打ち欠き整形している。	中期後葉			
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第229図 PL.189	51	石鉢	覆土	完形	2.5	1.4	0.4	1.1	凹基無茎、やや細身の作り。	珪質変質岩 (流紋岩質凝灰岩)	
第229図 PL.189	52	石鉢	覆土	完形	1.7	1.5	0.4	0.6	凹基無茎、小型品だがやや厚みを有す。	黒曜石	
第229図 PL.189	53	石鉢	覆土	完形	1.3	1.5	0.4	0.5	凹基無茎、脚が開く短身小型品。やや厚みがある。	黒曜石	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第229図 PL.189	54	石鏃	覆土	完形	1.9	1.2	0.3	0.4	凹基無茎、挟り浅い小型品。	黒曜石	
第229図 PL.189	55	石鏃	覆土	欠損	1.5	1.4	0.3	0.5	凹基無茎、挟りは浅い、先端部僅かに欠く。	黒曜石	
第229図 PL.189	56	石鏃	覆土	完形	2.2	1.6	0.7	2.1	凹基無茎、挟り極めて浅く、基部大きく膨らむみ鋭利さは見られない。	黒色頁岩	
第229図 PL.189	57	石鏃	覆土	ほぼ完形	(1.9)	(1.2)	0.2	(0.4)	凹基無茎、挟り深い。	細粒輝石安山岩	
第229図 PL.189	58	石鏃	覆土	完形	1.3	(1.2)	0.3	(0.2)	凹基無茎、小型品。	黒曜石	
第230図 PL.189	59	石鏃	覆土	完形	3.8	2.1	0.6	4.1	凸基無茎、やや大型品。	黒色安山岩	
第230図 PL.189	60	石鏃	覆土	完形	2.3	1.6	0.5	1.5	平基無茎、側縁がやや膨らむ器形。	黒曜石	
第230図 PL.189	61	石鏃	覆土	欠損	(2.6)	(1.3)	0.4	(0.8)	細身で丁寧な作り、基部を欠く。	黒曜石	
第230図 PL.189	62	石鏃	覆土	欠損	(2.4)	(1.4)	0.3	(0.8)	細身で丁寧な作り、基部を欠く。	黒曜石	
第230図 PL.189	63	石鏃	覆土	欠損	(1.4)	(0.8)	0.2	0.2	先端部片。	黒曜石	
第230図 PL.189	64	石鏃	覆土	欠損	(2.0)	(1.4)	0.3	(0.7)	凹基無茎、先端部から側縁部分欠く。斑晶含む。	黒曜石	
第230図 PL.189	65	石鏃	覆土	欠損	(1.3)	(1.6)	0.3	(0.6)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第230図 PL.189	66	石鏃	覆土	欠損	(1.2)	(1.7)	0.3	(0.6)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第230図 PL.189	67	石鏃	覆土	欠損	(2.5)	(2.0)	0.5	(1.6)	凹基無茎、大型品、先端部を欠く。	黒色安山岩	
第230図 PL.189	68	石鏃	覆土	欠損	(1.7)	(1.5)	0.3	(0.5)	凹基無茎、挟りやや深い、脚、先端部を欠く。	黒曜石	
第230図 PL.189	69	石鏃	覆土	欠損	(0.8)	1.4	0.2	(0.3)	凹基無茎、挟りは浅い、先端部欠く。	黒曜石	
第230図 PL.189	70	石鏃	覆土	欠損	(1.6)	(0.8)	0.2	(0.3)	脚部片。	黒曜石	
第230図 PL.189	71	石錐	覆土	完形	2.5	0.9	0.5	1.0	やや作りの粗い棒状錐。	黒曜石	
第230図 PL.189	72	石錐	覆土	完形	2.9	0.6	0.5	0.5	細身の棒状錐、中央部分やや太く先端部分は細く尖る。	黒曜石	
第230図 PL.189	73	石錐	覆土	完形	3.0	1.2	0.9	2.5	断面三角の縦長剥片、基部厚く先端薄い。側縁に調整剥離、未製品か。	黒曜石	
第230図 PL.189	74	石錐	Pit11	完形	1.8	0.5	0.2	0.2	極めて小型の紡錘状を呈す。	黒曜石	
第230図 PL.189	75	石錐	覆土	完形	(2.1)	(0.5)	0.5	(0.6)	小型紡錘状を呈す、	黒曜石	
第230図 PL.189	76	石錐	覆土	欠損	(1.9)	(0.6)	0.5	(0.6)	錐先端部片。	黒曜石	
第230図 PL.189	77	石錐	覆土	欠損	(1.5)	0.5	0.4	(0.4)	両端を欠く。	黒曜石	
第230図 PL.189	78	石錐	覆土	欠損	(3.6)	1.6	0.8	(3.3)	つまみを持つ棒状錐、先端部を欠く。	黒色安山岩	
第230図 PL.189	79	石鏃	覆土	未製品	2.2	1.9	0.5	1.3	側縁部の一部に調整痕、厚みあり。	黒曜石	
第230図 PL.189	80	石鏃	覆土	未製品	2.6	1.7	0.4	1.5	石鏃の未成品か。	黒曜石	
第230図 PL.190	81	打製石斧	覆土	完形	17.0	6.0	1.9	234	やや刃部が広がる撥形、先端部がやや薄くなっている。	黒色安山岩	
第231図 PL.190	82	打製石斧	覆土	完形	12.6	5.7	1.2	125	撥形、板状礫利用、両面に自然面、上部両側縁に僅かな挟り有り。	細粒輝石安山岩	
第231図 PL.190	83	打製石斧	覆土	完形	11.2	4.6	1.3	88	短冊形、片面に大きく自然面が残る。粗い作り。	黒色頁岩	
第231図 PL.190	84	打製石斧	覆土	完形	10.6	5.2	1.4	106	撥形、片面に一部自然面が残る。刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第231図 PL.190	85	打製石斧	覆土	完形	10.1	5.7	1.4	104	撥形、作りは粗い。刃部は剥離欠損か。	黒色安山岩	
第231図 PL.190	86	打製石斧	覆土	完形	12.0	4.7	1.5	99	撥形、裏面の自然面は平らで平滑、上部に僅かな挟り、刃部摩耗。	黒色頁岩	
第231図 PL.190	87	打製石斧	覆土	完形	10.1	5.2	1.6	107	撥形、やや小型品で基部が細くなる。片面には自然面残る。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第231図 PL.190	88	打製石斧	覆土	完形	10.4	5.9	2.5	146	撥形、基部厚く刃部が薄く作られる。直刃。	黒色安山岩	
第231図 PL.190	89	打製石斧	覆土	完形	9.7	4.5	1.7	96	撥形、小型品で基部がやや細く作られる。刃部摩耗。	黒色安山岩	
第231図 PL.190	90	打製石斧	覆土	完形	13.3	5.3	2.1	179	撥形、片面に大きく自然面が残る丸みを有す。刃は円刃で摩耗顕著。	細粒輝石安山岩	

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第231図 PL.190	91	打製石斧	覆土	欠損	(10.8)	6.0	3.2	(201)	刃部片、身の中央が瘤状に肥厚し、刃部に向かって極端に薄くなる。	黒色安山岩	
第231図 PL.190	92	打製石斧	覆土	欠損	(7.8)	6.5	1.2	(85)	撥形の刃部片、円刃で摩耗顕著。	黒色安山岩	
第231図 PL.190	93	打製石斧	覆土	欠損	(5.8)	5.8	1.4	(59)	刃部片、片面に自然面残す。使用による摩耗痕顕著。	細粒輝石安山岩	
第231図 PL.190	94	打製石斧	覆土	欠損	(7.4)	4.5	2.0	(75)	基部片、先端部分が三角を呈す。	黒色安山岩	
第231図 PL.190	95	打製石斧	覆土	欠損	(9.7)	5.0	2.0	(114)	基部を欠損か、刃部は厚く被熱している。	黒色安山岩	
第231図 PL.190	96	打製石斧	覆土	欠損	(6.7)	5.3	1.2	(69)	刃部片と思われる。	黒色安山岩	
第231図 PL.190	97	打製石斧	覆土	欠損	8.3	5.0	1.6	93	基部片と思われる。粗い剥離面。側縁部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第232図 PL.190	98	打製石斧	覆土	欠損	(10.5)	6.0	2.2	(192)	基部片と思われる。側縁摩耗。	細粒輝石安山岩	
第232図 PL.190	99	打製石斧	覆土	欠損	(4.9)	5.2	0.8	(34)	基部片か、薄手で片側縁に僅かに抉り見られる。	黒色頁岩	
第232図 PL.190	100	打製石斧	覆土	欠損	(5.7)	4.7	2.2	(68)	厚手作りの基部片。	細粒輝石安山岩	
第232図 PL.190	101	打製石斧	覆土	欠損	(6.0)	4.2	1.7	(49)	基部片と思われる。やや肥厚。	黒色頁岩	
第232図 PL.190	102	打製石斧	覆土	欠損	(10.4)	6.2	2.2	(232)	厚手作りの基部片、上端部分が丸くなっている。	細粒輝石安山岩	
第232図 PL.190	103	打製石斧	床	欠損	(7.3)	4.8	1.3	(50)	基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	
第232図 PL.190	104	打製石斧	覆土	欠損	(9.4)	5.6	1.2	(94)	撥形、薄手の作りで刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第232図 PL.190	105	打製石斧	覆土	欠損	(3.2)	5.2	0.9	(21)	基部、刃部を欠いた打製石斧片の小片。	黒色安山岩？	
第232図 PL.190	106	打製石斧	覆土	欠損	(10.6)	6.0	2.2	(145)	基部片と思われる。上部は薄く刃部に向かって厚くなる。	細粒輝石安山岩	
第232図 PL.190	107	打製石斧	覆土	欠損	(7.3)	5.4	1.3	(89)	基部、および刃部先端部分を欠く。	細粒輝石安山岩	
第232図 PL.190	108	打製石斧	覆土	完形	7.8	5.0	0.6	33	刃部の剥離片と思われる。先端部に摩耗痕。	黒色頁岩	
第232図 PL.190	109	スクレイパー	覆土	完形	7.5	3.0	0.6	19	縦長剥片、先端部が尖り側縁に刃部作出。	黒色安山岩	
第232図 PL.190	110	打製石斧	覆土	欠損	(6.7)	5.3	1.2	(50)	基部片と思われる、両側縁に抉り見られる。	黒色頁岩	
第232図 PL.190	111	小型磨製石斧	床	完形	5.8	2.7	1.0	32	小型定角式、両側縁がわずかに膨らみを持つ。基端部が薄くなる。	蛇紋岩	
第232図 PL.190	112	磨製石斧	覆土	ほぼ完形	10.1	4.7	2.3	220	基端部を僅かに欠損か、刃部やや開き先端部僅かに欠損。稜は丸味。	蛇紋岩	
第232図 PL.190	113	磨製石斧	覆土	欠損	(8.3)	(5.7)	2.7	(270)	基部片、角は丸く、器面の研磨は丁寧。	蛇紋岩	
第232図 PL.190	114	磨製石斧	覆土	欠損	(7.6)	4.3	2.2	(136)	基部片、角はほぼ直角に仕上げられる。器面の研磨丁寧。基部打痕。	蛇紋岩	
第232図 PL.190	115	磨石	覆土	完形	7.0	5.8	3.0	186	扁平な小円礫、顕著な使用痕は見られず。	安山岩	
第232図 PL.190	116	磨石	床	ほぼ完形	7.7	5.2	4.5	226	卵形の礫、表面鉄分層。	粗粒輝石安山岩	
第233図 PL.191	117	磨石	床	ほぼ完形	11.3	(7.2)	4.0	(468)	やや扁平な長円礫、両面磨り面として使用し、凹み穴も有す。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第233図 PL.191	118	磨石	覆土	完形	8.4	6.9	3.7	298	扁平な円礫、平坦面は平滑。	安山岩	
第233図 PL.191	119	磨石	床	完形	10.0	6.5	2.9	258	扁平な長円礫、平らな面を使用か、全面平滑。	細粒輝石安山岩	
第233図 PL.191	120	磨石	覆土	完形	13.2	9.5	5.6	980	やや扁平な礫利用、片面がやや丸く膨れ中央部に打痕が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第233図 PL.191	121	磨石	覆土	完形	5.5	4.8	4.4	156	小円礫、石質なのか表面部分的にざらつく部分が見られる。	細粒輝石安山岩	
第233図 PL.191	122	磨石	覆土	欠損	(6.2)	5.3	3.3	(140)	小円礫、両端部分打痕か、剥落顕著。表面は鉄分沈着。	不明	
第233図 PL.191	123	磨石	床	完形	13.2	9.0	7.2	1,230	やや大きな礫を利用、両面、側面は使用により平坦を為す。被熱か。	粗粒輝石安山岩	
第233図 PL.191	124	磨石	床	完形	13.5	6.7	4.7	770	扁平な長円礫両面、片側面に使用面。	粗粒輝石安山岩	
第233図 PL.191	125	磨石	覆土	完形	11.7	7.8	4.3	510	扁平な長円礫、両面磨り面で浅い凹み穴見られる。	粗粒輝石安山岩	
第233図 PL.191	126	礫器	覆土	完形	11.4	4.4	3.1	269	棒状礫、端部僅かに打痕。	粗粒輝石安山岩	
第233図 PL.191	127	磨石	覆土	ほぼ完形	14.9	7.4	4.2	720	扁平な長円礫、両面使用面とし浅い凹み有す。側面にも使用面。	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第234図 PL.191	128	磨石	覆土	完形	17.3	8.4	5.3	1,420	扁平で丸みを持った角柱状の礫、端部に弱い打痕か。	石英閃緑岩	
第234図 PL.191	129	礫器	床	完形	20.9	5.4	4.3	660	バナナ形の礫、一端部に弱い打痕の他には顕著な使用痕見られず。	粗粒輝石安山岩	
第234図 PL.191	130	軽石製品	覆土	ほぼ完形	6.8	4.7	1.2	18	長円形で中が大きく窪む。石皿のミニチュアか。	軽石(輝石安山岩質)	
第234図 PL.191	131	軽石製品	床	欠損	(7.5)	(6.0)	2.0	(35)	碗形を呈し、下部は低い高台状を呈す。縁部分は平らに磨られる。	軽石(輝石安山岩質)	
第234図 PL.191	132	多孔石	覆土	欠損	(13.5)	(6.9)	(3.9)	(380)	自然礫に複数の凹み穴が見られる。欠損品か。	粗粒輝石安山岩	
第234図 PL.191	133	凹石	覆土	完形	13.0	9.5	5.6	840	不定形な自然礫利用、表に1、裏面に2個の凹み穴。	粗粒輝石安山岩	
第234図 PL.191	134	石皿	床	欠損	(16.4)	(12.8)	(4.3)	(1,040)	不定形な石皿の破片か。使用面は平滑で縁は緩やかに高まる。	粗粒輝石安山岩	

95-31号住居跡(第237図: PL.191)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第237図 PL.191	1	深鉢 炉 口縁部破片	①細:白色粒 ②褐色	内湾する波状縁か。口唇部外面僅かに肥厚し無文。以下横位波状沈線を施す。	中期後葉
第237図 PL.191	2	深鉢 炉 体部破片	①細:輝石 ②鈍い褐色	無節L縦位施文。	中期後葉

95-33号住居跡(第237図: PL.191)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第237図 PL.191	1	深鉢 炉 体部中位のみ残存	①細:石英・雲母 ②暗赤褐色	外反する体部器形。2・3条の垂下隆線と逆U字状隆線による懸垂文構成。4単位を数える。空白部は斜位・縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系

95-34号住居跡(第242図: PL.191)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第242図 PL.191	1	深鉢 床 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②褐色	口唇部欠損。緩やかに外反する口縁部。頸部屈曲も弱い。縦位波状条線を施す。	中期後葉古
第242図 PL.191	2	深鉢 +4 頸部破片	①細:輝石 ②暗赤褐色	頸部屈曲部に横位隆線2条と沈線を設け、渦巻文を付す。下端より3条の隆線が垂下する。体部区画には縦位波状沈線を配し、LRを充填する。	中期後葉古
第242図 PL.191	3	深鉢 +4 体部破片	①粗:石英・雲母 ②明褐色	隆線による横位楕円状意匠や弧状意匠を配す。楕円中位に横位沈線を配す。地文は縦位LR。	中期後葉古
第242図 PL.191	4	深鉢 +10 体部破片	①粗:石英 ②赤褐色	刻みを付す垂下隆線による懸垂文構成。空白部には縦位沈線を挟み矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第242図 PL.191	5	深鉢 +8 体部破片	①粗:石英・輝石 ②暗赤褐色	垂下沈線による懸垂文構成か。空白部は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第242図 PL.191	6	深鉢 +4 体部破片	①粗:石英多 ②赤褐色	隆線による波状区画文か。側線は沈線。区画内は4・5条単位の条線を斜位・横位密接に施す。	中期後葉信州系
第242図 PL.191	7	深鉢 床 頸部破片	①細:石英・雲母少 ②灰褐色	頸部に横位隆線を付す。他は無文。	中期後葉
第242図 PL.191	8	浅鉢 床 口唇部破片	①粗:輝石 ②黒褐色	口唇部上端部に赤彩痕を残す。	中期後葉

95-35号住居跡(第245・246図: PL.192)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第245図 PL.192	1	深鉢 炉 口縁~体部下 残存 口縁部1 /4欠損 口:(31.4)	①細:石英・輝石 ②鈍い黄褐色	波状突起下位に橋状把手を付す。2単位。波頂部は小孔を開ける。口縁部は無文で頸部屈曲部に1条の沈線を設ける。体部は帯構成で沈線で画された施文部と磨消部による縦位菱形や弧状意匠を配す。沈線下端は開放する。縄文はLR充填施文。	後期初頭



### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第246図 PL.192	2	深鉢 口縁～体部1/2 残存 口：(34.2)	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	器厚薄手。口縁部に歪みあり。口縁部に横位隆線を配す粗製深鉢。斜位刻みは深く、施文時の工具先端が工具下位に残る。体部内外面とも撫で調整。内面下半には凹凸が顕著。	後期初頭						
第246図 PL.192	3	深鉢 床	①粗：白色粒・輝石 ②黒褐色	口縁部に2条の横位沈線を設け、細縄文LRを横位充填する。	後期初頭						
第246図 PL.192	4	深鉢 +6	①細：輝石 ②黒褐色	太い沈線による弧状意匠か。施文部と磨削部の交互配列を呈す。器厚は極めて薄手。	後期後葉						
第246図 PL.192	5	深鉢 床	①粗：石英・輝石 ②褐色	垂下隆線下端部を見る。懸垂文構成。外面は縦位研磨を施す。	後期初頭						
第246図 PL.192	6	深鉢 床	①細：石英少 ②鈍い黄褐色	器厚薄手。直線的に開く体部下半。沈線による弧線文下端部を見る。	後期初頭						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第246図 PL.192	7	石鉢	床	欠損	(2.6)	(1.4)	0.4	(1.1)	凹基無茎、片側脚から側縁を欠損。	チャート	
第246図 PL.192	8	石鉢	覆土	欠損	(1.0)	(1.6)	0.3	(0.3)	凹基無茎、脚が大きく開く、先端部を欠く。	黒曜石	
第246図 PL.192	9	磨石	+5	欠損	13.7	7.4	4.3	670	断面丸みを持つ三角形の棒状礫。使用面に弱い打痕見られる。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第246図 PL.192	10	磨石	床	完形	11.2	9.8	5.0	800	扁平な円礫利用、使用平坦部分に弱い打痕有り。被熱。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-36号住居跡(第249図：PL.192)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第249図 PL.192	1	深鉢 +11	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	縦位波状隆線による懸垂文構成。弧状隆線の痕跡も見る。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系

#### 95-37号住居跡(第249図：PL.192)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第249図 PL.192	1	深鉢 床	①粗：輝石少 ②鈍い黄褐色	波状縁波頂部。太い沈線による渦巻状意匠が配される。縄文はRL縦位充填施文。	中期後葉新
第249図 PL.192	2	深鉢 覆土	①粗：輝石・雲母 ②黒褐色	口唇部内面は折り返し状に肥厚する。口縁部は内湾し、斜位沈線群を施す。	中期後葉信州系
第249図 PL.192	3	深鉢 +13	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	垂下隆線による懸垂文構成。空白部は斜位沈線を施す。器面磨滅。	中期後葉信州系
第249図 PL.192	4	深鉢 +10	①細：輝石 ②褐灰色	2条沈線による弧状・斜位意匠を配す。沈線間はやや平滑。施文部を見ない。	後期前葉
第249図 PL.192	5	深鉢 覆土	①粗：石英・輝石 ②明黄褐色	低位垂下隆線による懸垂文下端部を見る。縄文は斜位RL充填施文。	中期後葉新

#### 95-38号住居跡(第251～253図：PL.192～194)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第251図 PL.192	1	深鉢 +30	①粗：石英多・輝石・雲母 ②にぶい赤褐色	小型深鉢。口縁部は無文で頸部で屈曲する。頸部に沈線による長楕円状意匠を配し区画線とする。体部は、2条隆線による横位S字状意匠を3単位配す。空白部は縦位矢羽状短沈線を施し、蛇行沈線文を懸垂する。	中期後葉信州系
第251図 PL.192	2	深鉢 +34	①細：輝石 ②褐色	小型深鉢。口縁部は内湾し斜位短沈線を施す。頸部に隆帯を設け横位波状沈線を重ねる。体部は2条隆線による懸垂文構成で、中に横位S字状意匠を配す。縦位波状隆線も加わる。空白部は縦位短沈線を施す。器面の1/2は強い加熱のためか外面を大きく剥落する。	中期後葉信州系
第251図 PL.193	3	深鉢 +29	①細：輝石 ②暗褐色	口縁部は2条隆線による渦巻文と区画文構成。おそらく4・5単位か。区画内側線は沈線、縦位短沈線を充填する。頸部は無文で、体部上半に数条の横位沈線を設ける。施文が鋭利であり未使用のままの破損・廃棄か。	中期後葉古
第251図 PL.193	4	深鉢 +44	①粗：輝石 ②黒褐色	独立した2条隆線による口縁部半楕円状区画文。側線は無く、LRを縦位充填施文する。	中期後葉古
第251図 PL.193	5	深鉢 +6	①粗：輝石 ②褐色	上位は太い弧状隆帯による口縁部区画文。体部は沈線3条による弧状意匠。連弧状意匠か。縦位波状沈線が重なる。地文は縦位LR。	中期後葉古
第251図 PL.193	6	深鉢 +39	①粗：石英 ②黄褐色	外反気味の体部形態。縦位沈線群による懸垂文構成。2条沈線による渦巻文が懸架する。地文は縦位LR。	中期後葉古
第251図 PL.193	7	深鉢 +42	①細：石英・輝石 ②黒褐色	2条隆線による口縁部区画文。沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。体部は3条の垂下沈線による懸垂文構成か。縦位波状沈線と弧状沈線も配される。地文は縦位RL。	中期後葉古

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土調 ②色			文様の特徴等		備考		
第251図 PL.193	8	深鉢 炉	口縁～体部破片 2点 口：(19.0)	①粗：石英・雲母多 ②赤褐色			口唇部内面突出し、口縁部は無文。頸部は横位沈線と刺突文列によって画され縦位短沈線を充填する。横位隆線以下体部は渦巻状突起より2条隆線が弧状に派生する。連弧状の意匠か。空白部は縦位短沈線を施す。		中期後葉信州系		
第251図 PL.193	9	深鉢 +20	体部上半～下半 破片	①粗：石英・雲母 ②褐色			上端渦巻突起を配した2条隆線による懸垂文構成。空白部は横位・弧状沈線3条により多段分割され縦位沈線群を施す。		中期後葉信州系		
第251図 PL.193	10	深鉢 182	体部破片	①粗：石英・輝石 ②明赤褐色			刻みを付す垂下隆線による懸垂文構成か。側線は沈線。空白部は斜位沈線を施す。施文は深いV		中期後葉信州系		
第251図 PL.193	11	深鉢 +31	体部上半破片	①粗：石英・輝石多 ②暗褐色			横位隆線以下隆線による逆U字状懸垂文構成か。縦位内皮平行沈線による施文部も垂下し中に強い連続刺突文を充填する。弧状意匠も配す。		中期後葉信州系		
第251図 PL.193	12	浅鉢 +25	頸部破片	①粗：石英 ②褐色			頸部屈曲。横位隆線と沈線を配し、縦位隆線が加わる。屈曲部には爪形状刻みを施す。体部は反外気味に開く。		中期後葉古		
第251図 PL.193	13	深鉢 +25	口頸部破片	①粗：石英多・輝石 ②暗褐色			2条隆線による口縁部渦巻文。多段構成か。縦位短沈線を充填する。		中期後葉信州系		
第252図 PL.193	14	深鉢 +22	体部上半破片	①粗：石英・輝石・褐色粒 ②鈍い黄褐色			頸部屈曲し体部上半に強い内湾を設ける。屈曲部に横位沈線2条を設け沈線間に刺突文を施す。体部は数条の沈線群による逆U字状意匠が配される。		中期後葉		
第252図 PL.193	15	深鉢 +25	突起破片	①粗：石英 ②褐色			突起上半部欠損。3方からの橋状把手で、内面突起は強く突出し面を持つ。やや軟質な印象。		中期後葉信州系		
第252図 PL.193	16	浅鉢 +27	口縁部破片	①粗：石英・片岩 ②暗褐色・黒褐色			口唇部肥厚し、体部上半に内湾を持たせる。無文で内外面に丁寧な研磨を施す。赤彩痕を僅かに見る。内面色調は黒褐色。口縁部に補修孔を穿つ。		中期後葉		
第252図 PL.193	17	浅鉢 +25	口縁部破片	①粗：石英多 ②灰黄褐色			口唇部内面強く突出する。内外面とも無文で、丁寧な横位研磨を施す。		中期後葉		
第252図 PL.193	18	深鉢 +21	口縁部破片	①細：輝石 ②鈍い赤褐色			口縁部は内湾し頸部は外反する。無文で内外面とも横位撫で調整を施す。		中期後葉 中期後葉古		
第252図 PL.193	19	深鉢 +34	口縁部破片	①粗：石英・雲母 ②暗褐色			口唇部内面強く突出する。口縁部は強く開き無文。内外面とも撫で調整。		中期後葉信州系		
第252図 PL.193	20	深鉢 +12	体部下半～底部 底：9.2	①粗：小礫 ②明赤褐色			大型の深鉢か。器厚薄手で軟質な印象。斜位LRが覆う。		中期後葉 ?		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第252図 PL.193	21	石鎌	+31	ほぼ 完形	1.9	1.3	0.4	0.6	凹基無茎、小型品で挟り浅く側縁下位の両側に僅かな挟りが見られる。	黒曜石	
第252図 PL.193	22	石鎌	+24	完形	2.0	1.5	0.4	1.0	平基無茎、片面が肥厚し鋭利さは無い。	黒曜石	
第252図 PL.193	23	石鎌	覆土	ほぼ 完形	2.0	1.6	0.5	1.3	平基無茎、基部が厚くなっており、未製品か。	黒曜石	
第252図 PL.193	24	石鎌	+30	欠損	(2.1)	(1.2)	0.4	(0.8)	平基無茎。	黒曜石	
第252図 PL.193	25	石鎌	覆土	欠損	(1.9)	(1.4)	0.5	(0.9)	凹基無茎、ほぼ縦半分に割れている。	黒曜石	
第252図 PL.193	26	石鎌	+49	欠損	(1.5)	(1.6)	0.4	0.6	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第252図 PL.193	27	石錐	+32	完形	(2.9)	1.0	0.8	(2.0)	中央部が太い紡錘状錐。	黒曜石	
第252図 PL.193	28	石錐	+48	完形	3.3	1.0	0.8	2.4	棒状錐、基部から先端に向かって細くなる。先端部は摩耗。	黒色安山岩	
第252図 PL.193	29	石錐	覆土	欠損	(1.8)	1.9	0.7	(2.5)	錐部を欠くつまみ部と思われる。	黒曜石	
第252図 PL.193	30	打製石 斧	+46	完形	11.7	4.9	1.4	95	撥形、刃部はやや薄手に作られた円刃、使用による摩耗が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第252図 PL.193	31	打製石 斧	+17	完形	10.8	5.2	1.7	115	撥形、刃部はやや薄手に作られた円刃、使用による摩耗が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第253図 PL.193	32	打製石 斧	+24	欠損	(7.3)	5.6	1.5	(70)	撥形打製石斧の刃部片と思われる。粗い作り。	粗粒輝石安山岩	
第253図 PL.193	33	打製石 斧	+19	欠損	(8.7)	4.7	5.2	(128)	撥形、刃部を欠く、基部の端部は丸くなり片面に自然面残る。	黒色安山岩	
第253図 PL.193	34	打製石 斧	+32	欠損	(8.1)	5.6	1.4	(94)	板状の基部片と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第253図 PL.193	35	打製石 斧	+52	欠損	(8.9)	5.0	1.3	(77)	板状の基部片と思われる。片面に自然面残る。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第253図 PL.193	36	スクレ イパー	+24	完形	6.7	6.5	1.0	53	三角形を呈す剥片。両側縁に刃部作出。	黒色安山岩	
第253図 PL.193	37	磨製石 斧	+31	欠損	(5.2)	5.2	2.2	(77)	刃部片、片側中央部分が僅かに窪む。刃部使用による片減りが見られる。	蛇紋岩	
第253図 PL.193	38	磨石	+38	完形	5.1	5.4	5.0	94	小円礫、被熱によるひび割れ顕著。	粗粒輝石安山岩	
第253図 PL.194	39	磨石	床	完形	14.0	6.0	4.8	650	やや扁平な棒状礫、鉄分沈着層で覆われる。	石英閃緑岩	
第253図 PL.194	40	凹石	+36	完形	11.4	6.7	4.4	510	扁平な俵形を呈す。両面に浅い凹み穴見られる。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第253図 PL.194	41	磨石	+48	完形	11.1	9.7	9.0	1,270	拳大の円礫、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第253図 PL.194	42	凹石	+3	完形	14.3	6.8	5.3	670	棒状礫、両面および側縁部に2つずつの凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第253図 PL.194	43	磨石	+13	完形	17.4	9.1	7.1	1,620	やや大きな長円礫、顕著な使用面は見られず。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-39号住居跡(第255図: PL.194)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考		
第255図 PL.194	1	深鉢+3 口縁部破片	①粗:石英 ②鈍い黄褐色			小型深鉢か。口縁部外面肥厚し、以下は無文か。薄手の器厚を呈す。			不明		
第255図 PL.194	2	深鉢+11 体部破片	①粗:石英・輝石 ②灰黄褐色			器厚薄手。斜位短沈線を密に施す。			中期後葉信州系		
第255図 PL.194	3	深鉢+7 頸部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い黄褐色			2条隆線による口縁部区画文と体部懸垂文構成か。側線は浅い沈線。体部は縦位矢羽状短沈線を施す。			中期後葉信州系		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第255図 PL.194	4	石鏃	覆土	欠損	(1.0)	(1.5)	0.3	(0.3)	凹基無茎、挟り浅く先端部を欠く。	黒曜石	
第255図 PL.194	5	石錐	覆土	欠損	(2.4)	1.4	0.4	(1.2)	三角のつまみ部は薄く、錐部の先端を欠く。	チャート	
第255図 PL.194	6	磨石	+7	欠損	(11.3)	(4.6)	(2.7)	(151)	欠損品、扁平な礫を利用、使用平坦面に浅い打痕有り。被熱。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-40号住居跡(第259図: PL.194)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考		
第259図 PL.194	1	深鉢+10 口縁部破片	①粗:輝石・雲母少 ②褐色			口縁部は薄手でやや扁平。低位隆線による口縁部区画文。区画内は沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。			中期後葉信州系		
第259図 PL.194	2	深鉢+5 口縁部破片	①粗:石英・雲母 ②明褐色			口唇部内面強く突出。外面は横位隆帯の剥落痕跡を見る。			中期後葉		
第259図 PL.194	3	浅鉢+11 口縁部破片	①細:石英・輝石 ②鈍い褐色			口縁部内面肥厚し弱い内稜を持つ。内外面とも丁寧な研磨を施す。			中期後葉		
第259図 PL.194	4	深鉢 覆土	①粗:石英多・輝石 ②鈍い褐色			口唇部内面肥厚する。外面は無文。			中期後葉		
第259図 PL.194	5	深鉢 炉	①粗:石英多・輝石・雲母 ②褐色			2条隆線による横位弧状区画文か。縦位短沈線を施す			中期後葉信州系		
第259図 PL.194	6	深鉢 覆土	①粗:石英・雲母 ②鈍い赤褐色			押圧を加えた垂下降線による懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を施す。			中期後葉信州系		
第259図 PL.194	7	深鉢 覆土	①粗:石英 ②赤褐色			沈線による区画文か。円形刺突文を施す。施文は深い。			中期後葉信州系?		
第259図 PL.194	8	深鉢+8 体部上半破片	①粗:石英・輝石・雲母少 ②鈍い褐色			隆線による口縁部区画文か。横位沈線を充填する。体部は垂下降線による懸垂文構成。斜位短沈線を施す。			中期後葉信州系		
第259図 PL.194	9	深鉢+3 体部上半破片	①細:輝石 ②橙色			刻みを付す横位隆線を設ける。側線は沈線。以下重弧状沈線を充填する。			中期後葉信州系?		
第259図 PL.194	10	深鉢+11 体部破片	①粗:輝石 ②鈍い褐色			横位沈線3条以下横位矢羽状短沈線を施す。施文は深い。			中期後葉信州系?		
第259図 PL.194	11	深鉢 炉	①粗:石英・輝石 ②明褐色			沈線による渦巻文を配す。			中期後葉信州系		
第259図 PL.194	12	深鉢+3 体部破片	①粗:石英・輝石 ②明赤褐色			内皮平行沈線による重環状意匠を配す。地文は燃糸Rによる縦位施文。			中期後葉最古		
第259図 PL.194	13	深鉢 覆土	①粗:石英 ②褐色			横位隆線による口縁部区画文。側線は沈線、縦位短沈線を充填する。			中期後葉信州系		
第259図 PL.194	14	深鉢 覆土	①粗:石英 ②鈍い赤褐色			無文で、縦位削り調整後浅い条痕状条線を加える。内面は撫で調整。			弥生?		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第259図 PL.194	15	石鏃	覆土	欠損	(1.2)	1.5	0.4	0.6	凹基無茎、挟り浅く先端部を欠く。	黒曜石	
第259図 PL.194	16	石鏃	覆土	完形	2.9	2.1	1.0	4.6	凸基無茎、丸みを有し先端部が尖る。極めて厚みがある。	黒曜石	
第259図 PL.194	17	礫器	覆土	完形	(10.5)	(19.1)	(4.4)	(1,120)	大型の剥片礫器、半月状を呈し弧状部分に粗い剥離を施す。	粗粒輝石安山岩	
第259図 PL.194	18	礫器	炉内	完形	(13.1)	(11.9)	4.7	(790)	ハート形の大型剥片、一側縁に使用痕。	粗粒輝石安山岩	
第259図 PL.194	19	磨石	炉内	欠損	(8.9)	8.5	5.4	(380)	扁平な長円礫、挟れるように半分以上を欠く。被熱。	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-41号住居跡(第262~264図: PL.194・195)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調		文 様 の 特 徴 等			備 考		
		器種	部位	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)			
第262図 PL.194	1	深鉢 +31	口縁~体部1/ 2残存 口:19.4	①粗:石英多・輝石 ②褐灰色				口縁部沈線と横位隆線による幅狭の口縁部文様帯。強く区画線を設けず、小渦巻文を下位に配す。おそらく4単位。口縁部は縦位、体部は斜位魚鱗状短沈線を施す。	中期後葉信州系		
第262図 PL.194	2	深鉢 +26	口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②灰黄褐色				口唇部内外面肥厚。隆線による渦巻文を口縁部に配す。側線は沈線。焼成やや軟質な印象を受ける。	中期後葉信州系		
第262図 PL.194	3	深鉢 +18	口縁部破片	①粗:石英・輝石・雲母 ②暗赤褐色				口唇部内面強く突出する。口縁部は隆線による区画文構成か。円形刺突文を充填する。	中期後葉信州系		
第262図 PL.194	4	深鉢 +56	口縁部破片	①粗:石英多・雲母 ②黒褐色				口唇部内面僅かに肥厚。外面は沈線による渦巻状意匠を配す。中位で連接する箇所を設けている。	中期後葉信州系?		
第262図 PL.194	5	深鉢 +16	口縁部破片	①粗:石英 ②褐色				口縁部に横位・弧状の内皮平行沈線を施す。地文は縦位LR。	中期後葉古		
第262図 PL.194	6	深鉢 +12	口縁部破片	①粗:石英多 ②黒褐色				口縁部内湾。縦位沈線5条を配し、横位短沈線を充填する。	中期後葉信州系?		
第262図 PL.194	7	深鉢 +18	体部破片	①粗:石英多・輝石・雲母 ②橙色				2条隆線による体部弧状区画文。下端より隆線が垂下する懸垂文構成。斜位短沈線を充填する。軟質で器面磨滅。	中期後葉信州系		
第262図 PL.194	8	深鉢 +6	口縁部破片	①粗:石英・雲母 ②黒褐色				柱状突起上端より隆線が派生し口縁部区画文を画す。区画内は交互刺突文と円形刺突文を充填する。突起下端は隆線によるS字状意匠を配し。弧状短沈線を施す。	中期後葉信州系		
第262図 PL.194	9	深鉢 +20	頸部破片	①粗:石英・輝石 ②黒褐色				隆線による口縁部区画文。区画内側線は沈線、横位矢羽状短沈線を充填する。体部は縦位波状沈線を配し、縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系		
第262図 PL.194	10	深鉢 +24	体部上半破片	①粗:石英多・雲母 ②暗赤褐色				薄手の器厚。横位波状隆線を設け、上位に円形刺突文を施す。下位は波状隆線が懸垂する。斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系		
第262図 PL.195	11	深鉢 +28	体部中位破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色				中位で括れ下半で内湾する体部。2条隆線による懸垂文構成。空白部は魚鱗状短沈線を充填する。	中期後葉信州系		
第262図 PL.195	12	深鉢 炉	体部上半破片	①粗:石英・雲母 ②黒褐色				隆帯による区画文構成。区画内側線は沈線、縦位短沈線を充填する。隆帯上、沈線に沿って円形刺突文を施す。	中期後葉信州系		
第262図 PL.195	13	深鉢 +22	体部破片	①細:輝石 ②黒褐色				強い刺突文が器面を覆う。	後期前葉越後系		
第262図 PL.195	14	深鉢 +36	体部~底部残存 底:7.0	①細:輝石 ②赤褐色				2条隆線と縦位波状隆線による懸垂文構成。7単位を数える。空白部は縦位沈線を密に充填する。	中期後葉信州系?		
第262図 PL.195	15	深鉢 +28	体部下半1/3 残存	①粗:石英・輝石 ②赤褐色				直線的に開く体部下半。2条隆線による懸垂文構成。空白部は魚鱗状短沈線を充填する。	中期後葉信州系		
第262図 PL.195	16	深鉢 +4	口縁部破片	①細:石英・輝石 ②褐色				口縁部内屈。無文で内外面とも撫で調整を施す。	中期後葉		
第262図 PL.195	17	浅鉢 +22	頸部破片	①細:石英・輝石 ②鈍い褐色				破片上端は擬口縁。頸部屈曲は強く、以下半肉彫状手法による小区画文を配す。沈線を側線とする。	中期後葉		
第262図 PL.195	18	浅鉢 床	底部残存 底:9.2	①粗:石英・輝石 ②灰褐色				大型の浅鉢。外面は削り調整後撫で、内面は撫で調整後研磨。	中期後葉		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第262図 PL.195	19	石鏃	+23	完形	2.2	1.6	0.4	0.8	凹基無茎、扱りは弧状で側縁基部がやや膨らむ。	黒曜石	
第262図 PL.195	20	石鏃	覆土	ほぼ 完形	(1.4)	1.4	0.4	(0.4)	凹基無茎、小型で扱りに深く長脚、先端部分も細身に作られる。	黒曜石	
第262図 PL.195	21	石鏃	+19	欠損	1.7	(1.1)	0.4	(0.4)	凹基無茎、小型品。局部磨製(片面)。	黒曜石	
第262図 PL.195	22	石鏃	覆土	欠損	(1.8)	(1.3)	0.4	(0.5)	先端部片。	黒曜石	
第263図 PL.195	23	石鏃	覆土	欠損	(2.8)	(1.6)	0.3	(1.4)	凹基無茎、やや細身で丁寧な作り、先端部を欠く。	黒曜石	
第263図 PL.195	24	石鏃	覆土	欠損	(1.7)	(1.3)	0.4	(0.8)	凹基無茎、扱りに浅く先端部を僅かに欠く。形状が左右非対称。	黒曜石	
第263図 PL.195	25	打製石 斧	+28	完形	9.5	4.8	1.7	(84)	小型で長さの短い撥形、基部が厚く刃部は薄手である。	黒色頁岩	
第263図 PL.195	26	打製石 斧	+16	欠損	(7.2)	6.1	2.4	(152)	大型品の基部と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第263図 PL.195	27	打製石 斧	+22	欠損	(5.7)	4.8	0.7	(25)	極めて薄い板状を呈す、基部片と思われる。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第263図 PL.195	28	磨製石 斧	+40	欠損	(4.0)	5.0	2.2	(44)	刃部小片、円刃。	蛇紋岩	
第263図 PL.195	29	スクレイ パー	+9	完形	10.3	6.9	2.4	182	厚手の剥片利用。下縁部分に粗く刃部作出。片面大きく自然面。	粗粒輝石安山岩	
第263図 PL.195	30	磨石	+9	完形	7.2	5.8	5.3	262	卵形の小礫、顕著な使用痕見られず。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第263図 PL.195	31	磨石	+16	完形	8.6	7.4	5.7	460	拳大の礫、顕著な使用痕見られず。	粗粒輝石安山岩	
第263図 PL.195	32	磨石	+38	完形	7.5	5.1	4.6	173	卵形の小礫、顕著な使用痕見られず。表面ざらついた石質の礫。	粗粒輝石安山岩	
第263図 PL.195	33	磨石	+11	完形	8.0	8.1	5.9	550	不定形な礫、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第263図 PL.195	34	凹石	+21	完形	10.9	7.5	4.4	550	扁平な長円礫、両面に2カ所ずつの凹み穴、側面には打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第263図 PL.195	35	磨石	床	完形	16.6	8.8	6.4	1,350	やや大きく細長い礫、平坦面を使用する。	粗粒輝石安山岩	
第263図 PL.195	36	磨石	+23	完形	8.7	4.7	2.2	116	扁平な長円礫、両側に小さな挟り見られる。鉄分沈着層に覆われる。	流紋岩	
第264図 PL.195	37	軽石製品	+31	完形	6.4	7.2	1.4	27	やや楕円盤状に成形、上部に一对の穿孔を持つ。片面中央に凹み穴。	軽石	
第264図 PL.195	38	多孔石	+15	完形	16.5	16.4	11	3,500	台形状の自然礫を利用、上面と下面に複数の凹み穴。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-42号住居跡(第266図: PL.195)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第266図 PL.195	1	深鉢 +19 口縁部破片	①粗:石英 ②明褐色	口縁部に沈線による環状・弧状意匠を配し、口唇部は幅広い沈線が巡る。頸部は無文か。	後期前葉
第266図 PL.195	2	深鉢 +27 口縁部破片	①粗:輝石・石英少 ②暗褐色	口唇部内屈。外面は無文だが、破片下端に僅かに横位隆線の痕跡を見る。	後期前葉新
第266図 PL.195	3	深鉢 +30 頸部破片	①粗:石英・輝石 ②赤褐色	頸部外反する。体部上半に刻みを付す横位隆線を設ける。	後期前葉?
第266図 PL.195	4	鉢 +29 体部上半破片	①細:白色粒 ②鈍い赤褐色	内湾する体部。横位沈線2条以下弧線文を配す。縄文は横位RL。	後期前葉
第266図 PL.195	5	注口土器 +29 体部上半破片	①細:白色粒 ②赤褐色	おそらく沈線による環状意匠を配す。横位沈線と斜位沈線による幾何学状区画文。区画内は無文。	後期前葉
第266図 PL.195	6	深鉢 +30 体部上半破片	①粗:石英・褐色粒 ②赤褐色	数条の縦位弧状沈線による環状意匠か。内面器面磨減。	後期前葉
第266図 PL.195	7	深鉢 +30 体部上半破片	①粗:石英・輝石 ②灰褐色	3条の弧状沈線。おそらく上位は環状意匠か。縦位LRを充填する。	後期前葉
第266図 PL.195	8	深鉢 +30 体部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色	縦位弧状沈線による懸垂文構成か。	後期前葉

#### 95-43号住居跡(第268図: PL.196)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考						
第268図 PL.196	1	深鉢 +2 口縁部1/4残存 口:(16.8)	①粗:石英・雲母 ②黒褐色	2条隆線で渦巻状突起を繋ぎ上位を区画化する。区画内側線は沈線で斜位短沈線を充填する。頸部は縦位沈線と弧線を組み合わせた意匠文や沈線による渦巻文を施す。	中期後葉信州系						
第268図 PL.196	2	深鉢 床	①粗:石英・雲母 ②鈍い赤褐色	体部上半に横位隆線3条を設け、2条の沈線を重ね、交互刺突文を施す。隆線による渦巻文を配下端より体部に4条の隆線が懸垂する。体部は沈線による渦巻文を配し、縦位沈線を地文とする。	中期後葉信州系3・4と同一個体						
第268図 PL.196	3	深鉢 C-23 体部破片	①粗:石英・雲母 ②鈍い赤褐色	2条の沈線を重ね、交互刺突文を施す。隆線による渦巻文を配下端より体部に4条の隆線が懸垂する。体部は沈線による渦巻文を配し、縦位沈線を地文とする。	中期後葉信州系						
第268図 PL.196	4	深鉢 床	①粗:石英・雲母 ②鈍い赤褐色	2条の隆線が懸垂する。体部は沈線による渦巻文を配し、縦位沈線を地文とする。	中期後葉信州系						
第268図 PL.196	5	深鉢 +2 体部破片	①粗:石英・雲母 ②鈍い赤褐色	縦位沈線3条を施し、横位弧状沈線群を重ねる。下半は無文か。	中期後葉信州系						
第268図 PL.196	6	深鉢 +2 体部破片	①粗:輝石 ②暗赤褐色	内湾する体部。縦位波状沈線と垂下沈線を施す。	中期後葉信州系						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第268図 PL.196	7	スクレイパー	+3	完形	9.7	8.2	1.4	107	台形を呈す剥片の下縁部分に刃部作出。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	

#### 95-44号住居跡(第273~278図: PL.196~198)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第273図 PL.196	1	深鉢 炉 口縁~体部上半 残存 口:20.6	①粗:石英多 ②赤褐色	隆線による連続した渦巻文と区画文構成。8単位を数える。区画内側線は沈線、縦位短沈線を充填する。体部は2条沈線によるU字状意匠を配し、縦位矢羽状短沈線を埋める。口縁部内外面加熱のため器面磨減。	中期後葉信州系
第273図 PL.196	2	深鉢 +36 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色	波状突起。外面は隆線で、内面は沈線による渦巻文を配す。外面はやや扁平な印象。	中期後葉新
第273図 PL.196	3	深鉢 +50 口縁部破片	①粗:石英・輝石・褐色粒 ②橙色	6点が同一個体と思われる。波状縁で波頂部に楕円状の孔を設ける。口縁部は内外面とも肥厚し無文。口唇部には深い沈線を施す。波頂下より斜位弧状隆線が派生する。隆線側線は沈線で空白部には無節Lを縦位充填する。体部は押圧を加えた横位鎖状隆帯で画され沈線を側線とし、以下無節Lを縦位に施す。口縁部内外面とも丁寧な研磨を施し、口唇部沈線には黒色の彩色痕跡を見る。	中期後葉
第273図 PL.196	4	深鉢 +34 口縁部破片	①粗:石英・輝石・褐色粒 ②鈍い橙色		

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調		文様の特徴等		備考			
		器種	部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)				
第273図 PL.196	5	深鉢 +28	体部上半破片	①粗：石英・褐色粒 ②橙色	3と同一個体		中期後葉				
第273図 PL.196	6	深鉢 +8	体部上半破片	①粗：石英・褐色粒 ②橙色							
第273図 PL.196	7	深鉢 +18	体部上半破片	①粗：石英・褐色粒 ②橙色							
第273図 PL.196	8	深鉢 覆土	口縁部破片	①粗：石英・輝石・褐色粒 ②橙色							
第273図 PL.196	9	深鉢 +42	体部上半破片	①細：石英・輝石 ②灰黄褐色	小型器種。頸部は外販する。円形貼付文を付し、2条隆線による渦巻状意匠を配す。沈線を側線とし施文部は無節しを充填する。器厚薄手。		後期前葉				
第273図 PL.196	10	深鉢 +51	口縁部破片	①粗：石英少 ②灰褐色	緩やかな波状縁。2条の沈線に画された弧状意匠を配す。意匠内は列点状刺突文を充填する。器厚は薄手で口唇部は圧延状に歪む。		後期初頭 異系統?				
第273図 PL.196	11	鉢 +29	頸部破片	①粗：石英 ②灰褐色	頸部に弧状隆線を付し、下端より3条の沈線が垂下する。頸部横位沈線、体部斜位沈線も施される。内面器壁剥落。		後期前葉				
第273図 PL.196	12	深鉢 +53	頸部破片	①細：輝石 ②赤褐色	強く外反する頸部。2条沈線に画されたJ字状意匠か。区画内は無文。		後期初頭				
第273図 PL.196	13	深鉢 +29	体部中位破片	①細：輝石少 ②鈍い黄褐色	体部内湾。小型器種か。2条沈線による斜位禰状意匠か。沈線間には列点状刺突文を埋める。体部下半には浅い沈線を見る。		後期前葉				
第273図 PL.196	14	深鉢 +32	体部上半破片	①粗：石英 ②黒褐色	刻みを付す横位隆帯を頸部に付す。以下体部は刺突文が覆う。		後期前葉越後系				
第273図 PL.196	15	鉢 +33	体部上半破片	①微細：雲母少 ②褐灰色	体部は内湾する。横位方向の強い刺突文を密に施す。器厚薄手、内面調整はやや弱く、煤が付着する。		後期前葉越後系?				
第273図 PL.196	16	深鉢 +33	口縁部破片	①粗：輝石 ②明褐色	緩やかな波状縁か。口縁部に横位隆線が突出する。他は無文。内面研磨により平滑。		中期後葉				
第273図 PL.196	17	深鉢 +7	口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②褐色	緩やかな波状縁。波頂下に隆線による突出した渦巻文を配す。側線は沈線。区画内斜位沈線も施される。		中期後葉信州系				
第273図 PL.196	18	深鉢 +10	口縁部破片	①粗：石英 ②暗褐色	隆線による独立した渦巻文と区画文。突出気味に付せられる。区画内側線は沈線、縦位短沈線を充填する。		中期後葉信州系 古段階				
第273図 PL.196	19	深鉢 +32	口縁～体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②明赤褐色	波状縁。波頂下に隆線による渦巻文を配す。口縁部は無文で横位沈線で画される。体部は渦巻文下端より垂下する蛇形隆線と2条沈線による懸垂文構成。沈線間には円形刺突文を充填する。空白部は斜位短沈線を施す。		中期後葉信州系				
第274図 PL.196	20	浅鉢 床	口縁部・体部破片2点	①細：石英・輝石 ②鈍い褐色	口縁部は外傾し体部で強く屈曲する。口縁部は無文で口頸部は横位隆線で画す。沈線による渦巻文と弧状隆線が配され、あるいは人体状意匠か。隆線には刻みを施す。内外面丁寧な研磨を加える。		中期後葉				
第274図 PL.196	21	深鉢 +36	口縁部破片	①粗：石英・雲母 ②暗褐色	平縁。無文の幅狭口縁部。横位沈線2条を設け、体部に隆線による逆U字状懸垂文を配す。斜位沈線を施す。		中期後葉信州系				
第274図 PL.196	22	深鉢 +34	体部中位破片	①粗：石英・輝石 ②暗赤褐色	隆線によるU字状区画文。区画内は横位沈線で小区画され縦位短沈線を充填する。隆線間は無文と斜位短沈線を施す。		中期後葉信州系				
第274図 PL.196	23	深鉢 +13	体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②暗褐色	2条隆線による懸垂文構成。上端はクランク状に屈曲するか。隆線間は無文。側線は沈線で、空白部には3条一組の条線が斜位弧状に施される。		中期後葉信州系?				
第274図 PL.196	24	深鉢 +34	体部下半破片	①粗：石英・輝石 ②赤褐色	隆線によるU字状区画文。区画内側線は沈線、下位に横位沈線2条を加え、縦位短沈線を充填する。		中期後葉信州系				
第274図 PL.196	25	釣手土器 +47	釣手部破片	①粗：石英 ②鈍い褐色	釣手部基部と思われる。外側の側縁を突出させ、小型の端状把手を付す。両側面は沈線による渦巻文と方形状意匠を配す。		中期後葉信州系				
第274図 PL.197	26	深鉢 +18	体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②赤褐色	内湾する体部形態か。やや歪みがあり判然としない。3条の隆線による弧状渦巻意匠。空白部は沈線を施文する。		中期後葉信州系				
第274図 PL.197	27	深鉢 +26	口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②暗赤褐色	強く内湾する無文の口縁部。内面に多量の煤が付着する。		中期後葉				
第274図 PL.197	28	深鉢 +42	口縁部破片	①粗：石英大 ②灰褐色	強く外反する口縁部。頸部に横位沈線を見る。外面に煤付着。		後期?				
第274図 PL.197	29	深鉢 +39	体部破片	①細：輝石少 ②橙色	薄手で無文。器面の凹凸も多い。粗製土器か。		後期後葉 土師器?				
第274図 PL.197	30	深鉢 +25	体部下半～底部底：(5.4)	①粗：石英 ②鈍い赤褐色	体部はやや外反気味に開く。縦位沈線・斜位沈線を施す。やや乱雑な施文。		中期後葉				
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第274図 PL.197	31	石鉢	覆土	完形	2.2	1.2	0.5	0.8	凹基無茎、細身でやや厚み有り。	黒曜石	
第274図 PL.197	32	石鉢	覆土	完形	2.2	1.2	0.5	0.8	凹基無茎、扱りは深い、細身で丁寧な作り。	チャート	
第274図 PL.197	33	石鉢	覆土	ほぼ完形	(2.7)	(1.4)	0.4	(0.8)	凹基無茎、やや薄手で細身。	黒曜石	
第274図 PL.197	34	石鉢	覆土	欠損	(2.1)	(1.3)	0.3	(0.5)	先端部片、薄手で作りは丁寧。	黒曜石	

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第274図 PL.197	35	石鏃	覆土	ほぼ 完形	(1.5)	1.4	0.4	(0.5)	凹基無茎、扱りは浅い、先端部を僅かに欠く。	黒曜石	
第274図 PL.197	36	石鏃	覆土	ほぼ 完形	2.6	1.7	0.6	2.1	平基無茎、やや厚手で全体に粗い作り。	黒曜石	
第274図 PL.197	37	石鏃	覆土	欠損	2.1	1.5	0.4	0.7	凹基無茎、扱りに深い、先端部を僅かに欠く。	黒曜石	
第274図 PL.197	38	石鏃	覆土	欠損	(1.4)	(0.9)	0.3	(0.4)	先端部片か。	黒曜石	
第275図 PL.197	39	石鏃	覆土	欠損	(1.4)	(1.6)	0.4	(0.7)	凹基無茎、扱りに浅くやや幅広、先端部を欠く。	黒曜石	
第275図 PL.197	40	石鏃	覆土	欠損	(1.3)	1.4	0.3	(0.4)	凹基無茎、扱りに浅く先端部を欠く。	黒曜石	
第275図 PL.197	41	石鏃	覆土	欠損	(0.9)	1.3	0.2	(0.2)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第275図 PL.197	42	石鏃	覆土	ほぼ 完形	(1.0)	(0.9)	0.3	(0.5)	平基無茎、極めて小型品、先端部僅かに欠く。石鏃基部の可能性も。	黒曜石	
第275図 PL.197	43	石鏃	覆土	ほぼ 完形	1.9	1.4	0.4	0.4	凹基無茎、なすび形で片面がやや肥厚、先端部僅かに欠損か。	チャート	
第275図 PL.197	44	石鏃	覆土	欠損	(1.3)	(1.2)	0.6	(1.1)	凹基無茎、側縁に丸みを有し厚手、片側約半分を欠く。	黒曜石	
第275図 PL.197	45	石鏃	覆土	欠損	(1.2)	1.8	0.3	(0.7)	凹基無茎、扱りに浅く幅広で薄手の作り、先端部を欠く。	黒曜石	
第275図 PL.197	46	石鏃	覆土	ほぼ 完形	1.8	1.7	0.5	1.5	平基無茎、片面が凹む。作りは粗い。	黒曜石	
第275図 PL.197	47	石鏃	覆土	欠損	(1.5)	2.2	0.4	(1.6)	凸基無茎の基部片か。半月状を呈し縁辺部に剥離調整。	黒曜石	
第275図 PL.197	48	石鏃	覆土	完形	(2.0)	0.7	0.3	(0.4)	小型紡錘状。	黒曜石	
第275図 PL.197	49	石鏃	覆土	完形	2.2	0.6	0.4	0.4	小型の棒状鏃、基部から先端に向かってやや太くなり端部が尖る。	チャート	
第275図 PL.197	50	スクレイパー	覆土	完形	2.7	1.8	0.6	2.7	片面が肥厚する長円形剥片、縁辺部に刃部作出。	黒曜石	
第275図 PL.197	51	打製石斧	覆土	完形	13.1	4.7	2	151	短冊形、やや細手で僅かに刃部が広がる。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第275図 PL.197	52	打製石斧	覆土	完形	10.8	5.2	2.1	124	片面に大きく自然面残る。基部厚く、刃部を欠損しているものと見られる。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第275図 PL.197	53	打製石斧	覆土	完形	11.9	4.5	1	76	短冊形、薄手で基部、刃部やや円くなる。	黒色頁岩	
第275図 PL.197	54	打製石斧	覆土	完形	9.4	5.0	1.7	85	撥形、両側縁に浅く扱りを有す。刃部は薄く作られている。	安山岩	
第275図 PL.197	55	打製石斧	覆土	完形	10.5	4.8	1.9	103	短冊形であるが両側縁に小さく扱りが入る。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第275図 PL.197	56	打製石斧	覆土	完形	9.1	4.3	1.6	82	小型品で両端が小さくなる木の葉形を呈す。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第275図 PL.197	57	打製石斧	覆土	完形	7.3	4.3	1.0	37	小型の板状で、極めて粗い作り。	黒色頁岩	
第275図 PL.197	58	打製石斧	覆土	欠損	(8.9)	3.8	1.8	(78)	短冊形、やや基部、刃部が広がる。刃部を僅かに欠損か。	黒色安山岩	
第275図 PL.197	59	打製石斧	覆土	完形	8.5	4.9	1.2	55	小型の撥形であるがやや不定形な作り、刃部は薄くなっている。	黒色頁岩	
第276図 PL.197	60	打製石斧	覆土	欠損	(8.2)	5.4	1.2	(66)	刃部片、板状で作りは粗い。	細粒輝石安山岩	
第276図 PL.197	61	打製石斧	覆土	完形	10.2	4.7	2.1	122	撥形、片面に一部自然面残る。作りは粗い。	粗粒輝石安山岩	
第276図 PL.197	62	打製石斧	覆土	欠損	(8.4)	5.1	1.7	(101)	撥形、基部、刃部欠損している。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第276図 PL.197	63	打製石斧	覆土	欠損	(7.3)	5.1	2	(88)	基部片であるが上端部分が極めて薄くなっている。	細粒輝石安山岩	
第276図 PL.197	64	打製石斧	覆土	欠損	(5.6)	5.3	1.2	(57)	基部片か。板状を呈す。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第276図 PL.197	65	打製石斧	覆土	欠損	(7.8)	4.3	1.8	(73)	撥形の基部片と思われる。	黒色頁岩	
第276図 PL.197	66	石匙	覆土	完形	7.7	3.2	0.9	28	縦型石匙、先端部斜めで両側縁に刃部を持つ、つまみ部の扱りは浅い。	細粒輝石安山岩	
第276図 PL.197	67	石核	覆土	完形	5.3	4.6	4.4	102	小石核、全面に多くの剥離面が見られる。	チャート	
第276図 PL.197	68	小型磨製石斧	覆土	完形	5.0	2.0	0.7	13.5	定角式小型磨製石斧、細手で全体に丁寧な研磨。	蛇紋岩	
第276図 PL.197	69	磨製石斧	覆土	欠損	(3.3)	3.2	0.7	(16.0)	定角式磨製石斧、薄手で稜は明瞭。全体に丁寧な研磨。基部を欠く。	蛇紋岩	
第276図 PL.197	70	磨製石斧	覆土	欠損	(4.9)	5.0	2.6	(86)	刃部片、円刃で使用痕顕著。	蛇紋岩	
第276図 PL.197	71	小型磨製石斧	覆土	欠損	(2.8)	1.8	1.0	(8.5)	定角式小型磨製石斧、やや厚手で稜は明瞭に作られている。基部片。	蛇紋岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第276図 PL.197	72	磨石	覆土	完形	8.7	5.6	5.1	480	断面丸みを持った三角形である。顕著な使用痕は見られず。	石英閃緑岩	
第276図 PL.197	73	磨石	覆土	ほぼ 完形	(9.6)	5.5	1.8	129	かなり扁平で小判形を呈す。	粗粒輝石安山岩	
第276図 PL.197	74	磨石	覆土	完形	5.5	4.7	4.4	148	小円礫利用、ほぼ全面使用。	粗粒輝石安山岩	
第276図 PL.197	75	磨石	炉	完形	11.8	7.3	3.2	388	扁平な礫を利用、両面に浅い打痕あり。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第276図 PL.197	76	磨石	覆土	完形	7.5	5.6	3.1	152	やや扁平な小判形礫、発泡質の石。	粗粒輝石安山岩	
第276図 PL.197	77	磨石	覆土	完形	6.2	5.4	3.2	172	やや扁平な小礫、両面使用。	粗粒輝石安山岩	
第277図 PL.197	78	磨石	覆土	完形	12.3	7.1	5.8	750	俵形の礫、全面平滑。	石英閃緑岩	
第277図 PL.197	79	凹石	床	完形	12.6	(7.2)	5.4	500	やや扁平な長円礫、両面に凹み穴を有し、側面には浅い打痕か。	粗粒輝石安山岩	
第277図 PL.197	80	凹石	覆土	完形	11.8	8.5	5.1	830	扁平な長円礫、両面に浅い凹み穴一対を有し、両端部に打痕か。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第277図 PL.198	81	凹石	覆土	欠損	(13.9)	7.8	3.3	470	扁平な長円礫、両面に凹み穴が縦方向に連続して溝状を呈す。	粗粒輝石安山岩	
第277図 PL.198	82	磨石	覆土	完形	9.4	8.4	5.8	570	やや扁平な円礫、片面に浅い凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第277図 PL.198	83	磨石	覆土	欠損	(11.2)	7.5	4.8	600	長円礫、顕著な使用痕は見られず。風化によるものか端部剥離顕著。	石英閃緑岩	
第277図 PL.198	84	磨石	覆土	完形	7.9	6.1	5.6	335	不定形な円礫利用、表面にやや粗さが目立つ石。	粗粒輝石安山岩	
第277図 PL.198	85	磨石	覆土	欠損	(9.0)	6.7	4.5	326	扁平な長円礫を利用、両面に使用面か。半分を欠く。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第277図 PL.198	86	磨石	覆土	欠損	(5.1)	(5.8)	(2.2)	(96)	磨石の破片と見られる、被熱有り。	粗粒輝石安山岩	
第278図 PL.198	87	磨石	覆土	欠損	(6.1)	4.7	3.7	176	棒状礫の端部片、被熱有り。	安山岩	
第278図 PL.198	88	多孔石	覆土	完形	18.6	13.8	11.8	3,390	不定形な自然礫に10個程の凹み穴が穿たれている。	粗粒輝石安山岩	
第278図 PL.198	89	石皿	覆土	欠損	(14.3)	19.5	5.0	(1,730)	上部を欠く、発泡質の石材を利用、裏面に凹み穴が見られる。被熱。	粗粒輝石安山岩	

95-45号住居跡(第280図: PL.198)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考						
第280図 PL.198	1	深鉢 床 体部破片	①粗:石英少 ②褐色	2条隆線による弧状意匠。大柄の渦巻文か。空白部は縦位・斜位沈線を施す。	中期後葉信州系						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第280図 PL.198	2	打製石 斧	床	完形	11.2	4.2	0.8	52	撥形、極めて薄い作りである。	細粒輝石安山岩	
第280図 PL.198	3	磨石	床	ほぼ 完形	11.4	6.5	4.8	510	丸みを持ったなすび形を呈す、両面に浅い打痕あり。	粗粒輝石安山岩	
第280図 PL.198	4	磨石	床	完形	8.1	5.9	4.6	288	小円礫利用、顕著な使用面は見られず。	粗粒輝石安山岩	

95-46号住居跡(第282~284図: PL.198・199)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第282図 PL.198	1	深鉢 +16 口縁1/4・底 部欠損 口: 28.6	①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色	口縁部外反し無文。体部は強く内湾し球胴状をなす。体部上半は隆線による連続した渦巻文と区画文構成。変則6単位か。縦位密接条線を充填する。下半は縦位RLを施す。	中期後葉新
第282図 PL.198	2	深鉢 炉 口縁1/3・体 部上半残存 口: 12.6	①粗:石英・輝石 ②赤褐色	波状縁の小型深鉢。2・3単位か。隆線による崩れた渦巻文や斜位S字状意匠・区画文を配す。規則性を看取できない。体部は2・3条の垂下沈線による懸垂文構成。沈線間に円形刺突文を施す箇所もある。縄文はRL縦位充填施文。口縁部内外面器面剥落。	中期後葉新
第282図 PL.198	3	深鉢 +41 口縁~体部上半 1/3残存 口: (19.6)	①粗:輝石 ②暗赤褐色	小型深鉢。4単位波状縁か。口縁部無文部はやや幅広く、波頂下に隆線による渦巻文を配し、区画文を接続する。区画内側縁は沈線、縦位短沈線を充填する。体部は沈線施文で逆U字状意匠や重丸状意匠を配す。	中期後葉信州系
第282図 PL.198	4	鉢 +16 口縁~底部1/ 2残存 口: 12.2 底: 8.0 高: 16.2	①粗:石英多・雲母多 ②鈍い赤褐色	口縁部は短く直立し無文。体部は強く内湾し球胴状をなす。頸部に隆線に画された橋状把手を接続する。体部は低位隆線による大柄の渦巻文を配し、小渦巻文や円文を埋める。	中期後葉新
第282図 PL.198	5	鉢 +5 口縁~体部上半 破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い黄褐色	口縁部直立し無文。頸部に横位隆線を繋ぐ小型橋状把手を接続する。体部上半に沈線による楕円意匠、以下弧状沈線を施す。	中期後葉新



第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等		備 考		
第282図 PL.198	6	深鉢 覆土	口縁～体部上半 破片	① 粗：輝石 ② 橙色			波状縁。隆線による渦巻文と多段区画文構成。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。RL充填施文。		中期後葉新		
第282図 PL.198	7	深鉢 +25	口縁部破片	① 粗：石英・雲母 ② 黒褐色			口縁部内湾。隆線による渦巻文と区画文構成。体部は垂下沈線上端を見る。施文は深い。縄文は縦位LRL。		中期後葉古		
第282図 PL.199	8	深鉢 +29	口縁部破片	① 粗：石英 ② 鈍い橙色			口唇部より2条沈線が弧状に派生する。連弧状意匠か。沈線間には円形刺突文。縄文は横位RL充填施文。		中期後葉新		
第282図 PL.199	9	深鉢 +23	口縁部破片	① 粗：石英・片岩・褐色粒 ② 鈍い橙色			隆線と下端沈線による口縁部区画文。側線は沈線。縄文は縦位RL。体部は垂下沈線上端とRLを見る。器面磨滅。		中期後葉古		
第282図 PL.199	10	深鉢 +27	体部上半破片	① 粗：石英 ② 褐色			外反する体部。横位沈線以下2条沈線による横位波状意匠が配される。縄文は縦位RL充填施文。		中期後葉新		
第282図 PL.199	11	深鉢 +16	体部中位破片	① 粗：石英・輝石 ② 赤褐色			垂下沈線2条と縦位波状沈線による懸垂文構成。縄文はLR縦位充填施文。		中期後葉古		
第282図 PL.199	12	深鉢 +28	体部上半破片	① 粗：石英 ② 鈍い褐色			隆線による口縁部区画文下端。側線に沈線。体部は2条沈線に画された幅広の磨消部懸垂文構成。縄文は斜位・縦位RL充填施文。		中期後葉新		
第283図 PL.199	13	深鉢 +34	体部破片	① 粗：石英・雲母 ② 暗赤褐色			垂下沈線2条と縦位波状沈線による懸垂文構成。横位沈線2条も施される。地文は縦位LR。		中期後葉古		
第283図 PL.199	14	深鉢 +4	体部下半～底部 残存 底：5.6	① 粗：石英 ② 鈍い赤褐色			内湾気味に開く体部下半。2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。9単位を数える。施文部は縦位LRを充填し縦位蛇行沈線を加える。		中期後葉新		
第283図 PL.199	15	深鉢 +27	体部中位 1/4 残存	① 粗：石英・輝石・雲母少 ② 鈍い褐色			垂下沈線4条による懸垂文構成。沈線間は磨消す。施文部縄文はLRL縦位充填施文。		中期後葉新		
第283図 PL.199	16	深鉢 +20	口縁部破片	① 粗：輝石・雲母少 ② 暗褐色			波状縁。波頂下に隆線による渦巻文を配す。区画内は斜位短沈線・横位矢羽状短沈線を充填する。体部は垂下沈線上端を見る。		中期後葉信州系		
第283図 PL.199	17	深鉢 +28	口縁部突起	① 粗：石英 ② 黒褐色			波状突起。隆線による渦巻文を配し、2条隆線が垂下する側線は沈線、斜位短沈線を施す。		中期後葉信州系		
第283図 PL.199	18	深鉢 +13	口縁部破片	① 粗：輝石 ② 黒褐色			口唇部に隆帯を貼りし肥厚する。円形刺突文を加える。以下縦位・斜位密接条線を施す。		中期後葉古		
第283図 PL.199	19	深鉢 +18	体部上半破片	① 粗：石英・雲母 ② 赤褐色			隆線による渦巻文下端より2条隆線が懸垂する。空白部は縦位沈線を地文状とし横位沈線2条で小区画する。		中期後葉信州系		
第283図 PL.199	20	深鉢 +31	体部破片	① 粗：石英 ② 橙色			沈線による渦巻状意匠を配す。		中期後葉信州系		
第283図 PL.199	21	深鉢 +24	体部破片	① 粗：石英・雲母 ② 鈍い褐色			内皮横位沈線を多段に重ね、縦位短沈線を充填する。下端に弧状沈線上端を見る。		中期後葉信州系		
第283図 PL.199	22	深鉢 +20	体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗赤褐色			垂下隆線と縦位波状隆線による懸垂文構成。空白部は横位沈線群で小区画し、斜位短沈線を充填する。		中期後葉信州系		
第283図 PL.199	23	深鉢 +19	体部破片	① 粗：石英多 ② 鈍い褐色			隆線による弧状意匠を配す。空白部は斜位・縦位短沈線を施す。		中期後葉信州系		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第283図 PL.199	24	石鎌	+37	完形	1.5	1.5	0.3	0.4	凹基無茎、弧状の袈取りで脚が開く。短身で丁寧な作り。	黒曜石	
第283図 PL.199	25	石鎌	+7	完形	1.5	1.1	0.3	0.3	凹基無茎、小型品。	黒曜石	
第283図 PL.199	26	石鎌	覆土	完形	1.3	1.1	0.3	0.3	凹基無茎、小型品で袈取りは極僅か。	黒曜石	
第283図 PL.199	27	石鎌	覆土	欠損	(1.3)	(1.2)	0.4	(0.5)	先端部片か。	黒曜石	
第283図 PL.199	28	石鎌	+18	欠損	(2.1)	1.5	0.5	(0.7)	凹基無茎、袈取り深く本体および脚は棒状で逆Y字状を呈す。先端部欠く。	黒曜石	
第283図 PL.199	29	打製石斧	+11	完形	(11.6)	5.0	2.7	(188)	短冊形、中央部分が肥厚する。	粗粒輝石安山岩	
第283図 PL.199	30	打製石斧	+9	欠損	(11.0)	5.8	1.8	(157)	撥形、片面部分的に自然面残す、刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第283図 PL.199	31	石匙	覆土	欠損	(8.8)	3.2	0.7	(27)	摘み部欠損か、片面に自然面残す縦長剥片の両側縁部に刃部を作出。	細粒輝石安山岩	
第283図 PL.199	32	打製石斧	床	欠損	(4.2)	5.8	1.7	(57)	刃部片、円刃で若干の摩耗あり。	細粒輝石安山岩	
第283図 PL.199	33	打製石斧	+29	欠損	(7.6)	4.8	1.1	(59)	撥形か、刃部を欠く。薄手で基部部に自然面が残る。	黒色頁岩	
第283図 PL.199	34	磨製石斧	+27	欠損	(9.5)	2.4	0.6	(10.0)	薄手で器面に研磨残しの凹凸顕著、刃部を欠く。	蛇紋岩	
第284図 PL.199	35	磨石	床	完形	11.7	8.4	5.6	840	扁平な小判形礫、両面使用極めて平滑、側縁に打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第284図 PL.199	36	磨石	+2	完形	11.1	8.0	4.1	570	扁平な小判形礫、両面使用極めて平滑である。被熱。	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-47号住居跡(第289~296図: PL.199~203)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第289図 PL.199	1	深鉢 +16 口縁~体部 3/ 4 残存 口: 40.8	① 細: 輝石 ② 赤褐色	大型の深鉢。口縁部は連続した隆線による渦巻文と区画文構成。おそらく8単位。下端区画が2条沈線もある。体部は垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。2条の横位沈線を加えて小区画する。縄文はRL充填施文。	中期後葉新
第289図 PL.199	2	深鉢 +12 口縁~体部上半 破片	① 粗: 石英少 ② 褐灰色	口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。側線は沈線。体部は2条沈線に画された磨消部懸垂文構成。縄文はLR縦位充填施文。	中期後葉新
第289図 PL.200	3	深鉢 +14 口縁~体部上半 破片 3点 口: (40.6)	① 粗: 石英・輝石 ② 暗赤褐色	大型の深鉢。口唇部肥厚し、口縁部内湾する。隆線による口縁部楕円状区画文構成。区画内は幅広の沈線を側線とし横位RLを充填する。口唇部には凹文を施す。体部は垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成で蕨手状沈線が加わる。縄文施文部には縦位波状沈線が施される。施文部縄文は上位に横位、下位に縦位RLを充填する。	中期後葉新
第289図 PL.200	4	深鉢 +19 口縁~体部上半 破片	① 粗: 石英・輝石 ② 暗褐色	波状突起を付し、口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線、横位RLを充填する。頸部は無文で、体部は横位隆線に画され蕨手状垂下隆線による懸垂文構成か。縦位RLを施す。	中期後葉新
第289図 PL.200	5	深鉢 +9 口縁部破片	① 粗: 石英・輝石 ② 暗赤褐色	内湾する口縁部に隆線による渦巻文を配す。側線は撫で。区画内は縦位・斜位RLを施す。	中期後葉新 ?
第289図 PL.200	6	深鉢 覆土	① 粗: 小礫・石英 ② 黒褐色	口唇部肥厚。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。側線は沈線、横位RLを充填する。体部は垂下沈線上端と縦位RLを見る。	中期後葉新
第289図 PL.200	7	深鉢 +21 口縁~頸部破片	① 粗: 石英・輝石 ② 黒褐色	口縁部広く外反し無文。横位隆線を設け以下渦巻文と区画文を配す。縦位RLを施す。黒色付着物を見る。	中期後葉古
第290図 PL.200	8	深鉢 +9 体部上半破片	① 粗: 輝石・雲母 ② 明褐色	口縁部は隆線による区画文構成。側線は沈線、横位RLを充填する。体部は蕨手状沈線・垂下沈線・縦位波状沈線による懸垂文構成。縄文は横位・縦位RL充填施文。	中期後葉新
第290図 PL.200	9	深鉢 +10 体部上半破片	① 粗: 輝石・雲母少 ② 褐色	頸部横位沈線以下波状沈線を施す。横位・縦位RLを施す。	中期後葉新
第290図 PL.200	10	深鉢 +43 口縁部破片	① 粗: 片岩粒 ② 灰褐色	口唇部欠損。口縁部内傾し無文。沈線を側線とし体部は2条沈線に画された磨消部弧状意匠。あるいは渦巻文か。縄文は上位に横位、以下縦位RLを施す。	後期初頭
第290図 PL.200	11	深鉢 +4 体部中位破片	① 粗: 輝石 ② 褐色	3条の沈線による磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。	中期後葉新
第290図 PL.200	12	深鉢 覆土	① 粗: 輝石 ② 鈍い赤褐色	2条沈線に画された磨消部懸垂文構成。磨消部は研磨、施文部は縦位RL充填施文。	中期後葉新
第290図 PL.200	13	深鉢 +21 体部上半破片	① 粗: 石英・輝石 ② 褐色	口縁部を画す弧状沈線か。体部は縦位波状沈線による懸垂文構成。縦位RLを施す。	中期後葉新
第290図 PL.200	14	深鉢 +10 体部中位破片	① 粗: 輝石 ② 赤褐色	2・3条の垂下沈線による磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文後縦位波状沈線を加える。	中期後葉新
第290図 PL.200	15	深鉢 +18 体部破片	① 粗: 石英・輝石 ② 明褐色	垂下沈線2条に画された幅広の磨消部懸垂文構成。施文部縄文はRL縦位充填施文。	中期後葉新
第290図 PL.200	16	深鉢 床	① 粗: 白色粒 ② 橙色	垂下隆線3条による懸垂文構成。側線は撫で、細縄文LRを縦位充填施文する。	中期後葉古
第290図 PL.200	17	深鉢 覆土	① 粗: 輝石 ② 明褐色	3条の沈線による磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文、縦位波状沈線が加わる。	中期後葉新
第290図 PL.200	18	深鉢 +39 体部下半~底部 残存 底: 8.4	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い褐色	垂下沈線2・3条による磨消部懸垂文構成。縄文は縦位・斜位RL充填施文。沈線の施文に乱れもある。	中期後葉新
第290図 PL.200	19	深鉢 +10 体部下半~底部 残存 底: 7.4	① 粗: 石英・雲母少 ② 赤褐色	2条沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文。内面輪状に煤付着。	中期後葉新
第290図 PL.200	20	深鉢 床	① 粗: 石英・輝石 ② 明赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成。側線は内皮沈線。地文は燃系R縦位施文。	中期後葉古
第290図 PL.200	21	深鉢 +29 体部破片	① 粗: 小礫・輝石 ② 鈍い褐色	垂下沈線による懸垂文構成か。燃系Lを縦位施文する、原体末端をみる。	中期後葉古
第290図 PL.200	22	深鉢 床	① 粗: 輝石少 ② 鈍い赤褐色	燃系L縦位施文。	中期後葉古
第290図 PL.200	23	深鉢 +27 把手破片	① 粗: 輝石 ② 鈍い褐色	体部上半の横位隆線に橋状把手を付す。把手には沈線による弧線文・渦巻文を施す。体部は横位RLを施す。	中期後葉古
第290図 PL.200	24	浅鉢 +26 頸部破片	① 細: 輝石 ② 灰黄褐色	頸部隆線強く突出する。口縁部は沈線による弧状・渦巻状意匠を配し、円形刺突文を縦位帯状に施す。外面に赤彩痕を見る。	中期後葉古
第291図 PL.200	25	鉢 +8 口縁~体部上半 1/4 残存 口: (19.0)	① 細: 輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部直立し無文。体部上半に強い内湾を持たせ、頸部に横位隆線2条と小型橋状把手を設ける。体部は低位隆線による弧状意匠や凹文を配す。赤彩痕は僅かに認められる。	中期後葉古
第291図 PL.200	26	鉢 +12 口縁~体部上半 1/3 残存 口: (21.0)	① 粗: 石英・雲母 ② 極暗褐色	口縁部は直立し体部は強く内湾する。頸部に横位隆線と小型の橋状把手を設け、体部は低位隆線による弧状・渦巻状意匠、凹文を配す。内外面に赤彩痕跡を見る。	中期後葉新
第291図 PL.200	27	鉢 +24 口縁~体部上半 破片	① 細: 石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部直立。頸部に横位隆線2条と小型の橋状把手を設ける。体部は低位隆線による弧状意匠や沈線による楕円文を施す。赤彩は判然としない。	中期後葉新

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第291図 PL.201	28	深鉢 +16 把手破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	体部上半に付す橋状把手。隆線と太い沈線で縁取り 下端は小渦巻文を配す。	中期後葉新
第291図 PL.201	29	深鉢 +5 頸部～体部上半 1/3 残存	①粗：石英・輝石 ②橙色	頸部外反。体部上半に隆線による渦巻文を突出さ せ、下に楕円状区画文を配す。区画内は沈線を側 線とし横位矢羽状短沈線や縦位短沈線を充填する。 体部は浅い縦位密接条線を施すが、空白部もあり、 単位が窺われよう。	中期後葉新
第291図 PL.201	30	深鉢 +13 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	頸部隆線は突出し、口縁部渦巻文に派生する。区画 内は沈線を側線とし斜位短沈線を施す。	中期後葉古
第291図 PL.201	31	深鉢 +10 口縁部破片	①細：輝石 ②褐色	隆線による大柄な渦巻文を配す。沈線を側線とし る。口唇部及び内面は研磨を施す。	中期後葉古
第291図 PL.201	32	深鉢 +22 口縁～体部上半 破片	①粗：石英・輝石 ②暗褐色	口縁部は無文。横位隆線以下縦位S字状意匠下端より 2条隆線が懸垂する。空白部は魚鱗状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第291図 PL.201	33	深鉢 +9 口縁部破片	①粗：石英 ②暗褐色	大型深鉢か。隆線による渦巻文と区画文構成。側線は 幅広の沈線。区画内及び体部は縦位密接条線を施す。	中期後葉新
第291図 PL.201	34	深鉢 +3 口縁部破片	①粗：石英少 ②鈍い赤褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文。側線は撫で、区 画内は縦位密接条線を施す。	中期後葉新
第291図 PL.201	35	浅鉢 床 口縁部破片	①粗：石英多 ②赤褐色	口縁部直立気味で無文。研磨を施す。横位隆線以下 斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第291図 PL.201	36	深鉢 +15 口縁～体部上半 破片	①粗：石英・雲母 ②暗褐色	隆線による渦巻文を配し下端より隆線が垂下する。 垂下隆線は対となる。空白部は横位沈線2条により 小区画され、縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第292図 PL.201	37	深鉢 +22 口縁～体部上半 1/4 残存 口：(26.2)	①粗：石英・輝石少 ②黒褐色	口縁部は沈線による楕円状区画文、縦位短沈線を充 填する。隆線による渦巻文下端より懸垂する垂下隆 線2条、縦位波状隆線と逆U字状垂下隆線も配され る。空白部は縦位沈線を地文状とし横位弧状短沈線 で小区画する。	中期後葉信州系
第292図 PL.201	38	深鉢 炉 体部のみ残存	①粗：石英 ②鈍い褐色	被熱のため器面剥落著しい。隆線による体部懸垂文 構成か。渦巻文を中位に配す懸垂文は2条隆線か。 空白部は縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第292図 PL.201	39	深鉢 +3 口縁部～体部上 半破片	①粗：石英 ②暗赤褐色	口唇部に横位沈線を設ける。欠損する突起より隆線 が弧状に派生し体部の逆U字状隆線や縦位弧状隆線 に連繋する。空白部は縦位矢羽状短沈線を施す。内 稜突出。	中期後葉信州系
第292図 PL.201	40	深鉢 +17 口縁～体部上半 破片	①粗：輝石 ②赤褐色	波状突起付す。口縁部は無文で体部は押圧を施す隆 線による逆U字状懸垂文を配す。波頂下に垂下沈線 と列点状刺突文を施す。空白部は斜位短沈線を充填 する。	中期後葉信州系
第292図 PL.201	41	深鉢 +5 体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②灰褐色	渦巻文を配した2条隆線と縦位波状隆線による懸垂 文構成。空白部は魚鱗状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第292図 PL.201	42	深鉢 +22 体部下半破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	隆線によるU字状区画文。区画内を沈線によるU 字状意匠が配され、斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第292図 PL.201	43	深鉢 床 体部中位破片	①粗：石英・輝石 ②明赤褐色	縦位波状隆線による懸垂文構成。横位沈線2条で小 区画し縦位沈線を充填する。	中期後葉信州系
第292図 PL.201	44	深鉢 +15 体部上半破片	①細：輝石少 ②鈍い黄褐色	内湾する体部。沈線による逆U字状意匠を配し、地 文状に縦位斜位密接条線を施す。	中期後葉古
第292図 PL.201	45	深鉢 Pit 1・2 頸部破片	①粗：石英 ②褐色	刻みを付す横位隆線より同隆線が懸垂する。空白部 は縦位沈線で細分割され、弧状・斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第292図 PL.201	46	深鉢 +34 頸部～体部上半 破片	①粗：石英・片岩 ②明褐色	口縁部隆線剥落。渦巻文意匠か。区画内は縦位短沈 線を充填する。頸部隆線以下は縦位条線を施す。	中期後葉新 ?
第292図 PL.202	47	深鉢 +14 体部破片	①粗：石英多 ②明褐色	渦巻文を配した垂下隆線による懸垂文構成。空白部 は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第292図 PL.202	48	深鉢 床 体部上半破片	①粗：輝石 ②鈍い赤褐色	口縁部隆線による区画文構成か。体部は2条沈線に よる懸垂文構成。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第292図 PL.202	49	深鉢 +8 体部破片	①粗：石英多 ②明赤褐色	隆線による懸垂文構成。空白部は横位沈線2条で小 区画され、縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第293図 PL.202	50	深鉢 +23 体部下半破片	①粗：石英・輝石 ②灰褐色	横位・縦位隆線による区画文構成。区画内は細かな 縦位矢羽状短沈線を埋める。	中期後葉信州系
第293図 PL.202	51	浅鉢 +9 口縁部破片	①粗：石英 ②明褐色	口縁部外傾し、体部は内湾する。内稜は鋭い。無文 で内外面とも丁寧な研磨を施す。	中期後葉
第293図 PL.202	52	浅鉢 +12 口縁部破片	①粗：石英少 ②黒褐色	口縁部肥厚し体部上半に僅かな内湾を持たせる。内 外面とも丁寧な研磨を施す。赤彩痕残る。	中期後葉
第293図 PL.202	53	浅鉢 +11 口縁～頸部破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	口縁～頸部強く外反し体部上半に内湾を持たせる。 口縁部は無文で赤彩痕を僅かに見る。体部器面剥 落。	中期後葉新
第293図 PL.202	54	深鉢 +27 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②明赤褐色	側面に沈線による渦巻文を配した突起を配す。口唇 部は沈線による楕円状意匠と渦巻文を施す。突起下 端より太い隆線が垂下する。	中期後葉古
第293図 PL.202	55	深鉢 床 体部下半～底部 2/3 残存 底：7.8	①粗：輝石 ②赤褐色	燃系L斜位施文。内面煤付着。	中期後葉古
第293図 PL.202	56	深鉢 +31 体部下半のみ残 存	①粗：石英 ②鈍い黄褐色	小型深鉢。あるいはミニチュアか。体部は外反気味 に立ち上がり、縦位研磨を施す。	中期後葉新
第293図 PL.202	57	深鉢 +9 体部下半～底部 1/2 残存 底：6.6	①粗：石英 ②赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成。あるいは2条一組か。 空白部は縦位沈線を施す。やや雑な施文。	中期後葉古 ?
第293図 PL.202	58	鉢 +9 体部下半～底部 1/4 残存 底：7.0	①粗：石英 ②鈍い黄褐色	沈線による弧状意匠下端を見る。渦巻文か。内外面 丁寧な研磨を施す。内底面に赤彩が残る。	中期後葉新

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第293図 PL.202	59	石鏃	覆土	欠損	1.0	1.8	0.2	(0.5)	凹基無茎、小型品、先端部を欠く。	黒曜石	
第293図 PL.202	60	石鏃	覆土	完形	1.9	1.3	0.3	0.5	凹基無茎、小型品、扱いはV字状。	チャート	
第293図 PL.202	61	石鏃	床	完形	1.9	1.4	0.4	0.7	凹基無茎、小型品でやや厚手の作り。	チャート	
第293図 PL.202	62	石鏃	+3	完形	1.7	1.3	0.3	0.4	凹基無茎、小型品。	黒曜石	
第293図 PL.202	63	石鏃	+5	完形	1.4	1.1	0.3	0.4	凹基無茎、小型品。	黒曜石	
第293図 PL.202	64	石鏃	覆土	欠損	(3.1)	(1.7)	0.3	(1.1)	凹基無茎、大型品で、薄手の作り、先端部は細く尖り丁寧な作り。	黒曜石	
第293図 PL.202	65	石鏃	覆土	欠損	(1.6)	(1.7)	0.6	(0.5)	凹基無茎、扱ひ浅く、先端部を欠く。	黒曜石	
第293図 PL.202	66	石鏃	覆土	欠損	(1.5)	1.7	0.2	(0.5)	凹基無茎、扱ひやや深い。先端部欠く。	黒曜石	
第293図 PL.202	67	石鏃	覆土	欠損	(1.8)	1.9	0.6	(1.0)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第293図 PL.202	68	石鏃	覆土	欠損	(0.8)	1.7	0.2	(0.3)	凹基無茎、扱ひ浅い、先端部を欠く。	黒曜石	
第293図 PL.202	69	石鏃	覆土	ほぼ 完形	(2.2)	2.0	0.5	(2.0)	凹基無茎、片面がやや肥厚し縁辺部剥離調整見られるが丸みを有す。	黒曜石	
第293図 PL.202	70	石鏃	覆土	欠損	(2.1)	1.6	0.3	(1.1)	平基無茎、先端部欠損か。錐のつまみ部の可能性もある。	黒曜石	
第294図 PL.202	71	石鏃	覆土	欠損	(1.8)	1.4	0.4	(0.8)	凹基無茎、片脚および先端部を欠く。	黒曜石	
第294図 PL.202	72	石鏃	炉内	欠損	(1.6)	1.4	1.3	(0.5)	基部および先端部を欠く。	黒曜石	
第294図 PL.202	73	石鏃	覆土	完形	(2.2)	1.7	0.6	(1.5)	平基無茎、中央が肥厚し左右非対称の形状、鋭利さは無い。	チャート	
第294図 PL.202	74	石鏃	覆土	欠損	(1.9)	1.6	0.6	(1.6)	平基無茎、やや厚手で先端部を欠く。	黒曜石	
第294図 PL.202	75	石鏃	覆土	ほぼ 完形	2.2	1.7	0.6	2.2	平基無茎、厚みを有し鋭利さは見られない。	黒曜石	
第294図 PL.202	76	スクレイパー	覆土	完形	1.8	1.4	0.6	0.9	小型楕円形を呈す、中央厚く縁辺部に剥離調整。石鏃の未成品か。	黒曜石	
第294図 PL.202	77	石錐	+16	完形	3.0	0.5	0.4	0.5	細身の棒状錐、やや曲がりを持つ。	黒曜石	
第294図 PL.202	78	石錐	覆土	完形	3.1	1.1	0.7	2.1	断面三角の棒状錐、先端部は稜線部に剥離調整。	黒曜石	
第294図 PL.202	79	石錐	覆土	完形	1.5	0.6	0.3	0.2	極めて小型の棒状錐か、断面は蒲鉾状。	黒曜石	
第294図 PL.202	80	スクレイパー	+8	完形	6.4	5.0	1.4	40.7	不定形な大型で厚手の剥片利用。一辺に細かな刃部作出。	黒曜石	
第294図 PL.202	81	打製石斧	+13	完形	13.1	5.0	1.9	162	撥形、全体にやや厚手の作り、刃部摩耗。	黒色安山岩	
第294図 PL.202	82	打製石斧	覆土	完形	11.0	4.1	1.6	89	短冊形、中央部分が肥厚し刃部に向かって薄くなる。円刃。	黒色安山岩	
第294図 PL.202	83	打製石斧	+19	完形	11.8	6.1	1.7	144	撥形であるが、刃部は丸く広がる。使用痕有り。	細粒輝石安山岩	
第294図 PL.202	84	打製石斧	+6	完形	10.9	6.6	3.1	267	長さが無く極めて厚手で、鋭利さは見られない。未製品か。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第294図 PL.202	85	打製石斧	+19	完形	10.4	5.5	1.2	88	撥形、やや刃部が薄くなる。	粗粒輝石安山岩	
第294図 PL.202	86	打製石斧	+23	欠損	9.7	4.4	1.3	66	基部片か、粗い作り。	細粒輝石安山岩	
第294図 PL.202	87	打製石斧	+15	完形	9.1	3.2	0.8	29	木の葉形の縦型薄手剥片、側縁部に刃部作出。スクレイパーか。	黒色安山岩	
第294図 PL.202	88	打製石斧	+18	欠損	(9.4)	7.2	1.2	(177)	撥形、基部を欠く、幅広で薄手の作り。自然面残る。刃部摩耗。	粗粒輝石安山岩	
第294図 PL.202	89	スクレイパー	+13	完形	8.3	4.6	0.8	37	幅広の刀形を呈す。板状片で片面に自然面、刃部片縁から先端部。	黒色安山岩	
第295図 PL.202	90	打製石斧	+14	欠損	(5.9)	3.8	1.7	(41)	基部片。	細粒輝石安山岩	
第295図 PL.202	91	打製石斧	+34	欠損	(7.0)	4.5	2.2	(93)	基部片、端部に自然面が残る。やや厚手の作り。	粗粒輝石安山岩	
第295図 PL.202	92	打製石斧	+7	欠損	(6.4)	4.7	0.8	(31)	基部片か、薄い板状で片側縁にのみ調整見られる。スクレイパーか。	黒色頁岩	
第295図 PL.203	93	打製石斧	炉	欠損	(7.8)	4.9	1.2	(67)	板状で両面に自然面、撥形の基部片か。	粗粒輝石安山岩	
第295図 PL.203	94	打製石斧	+9	欠損	(6.2)	4.3	1.8	(53)	基部片か、粗い作り。	細粒輝石安山岩	
第295図 PL.203	95	磨石	+16	完形	8.9	5.9	3.3	222	やや扁平な長円礫利用、顕著な使用痕は見られず。	流紋岩	

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第295図 PL.203	96	磨石	+12	完形	6.5	5.4	3.7	178	円礫利用、側縁部に打痕か。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第295図 PL.203	97	磨石	+10	完形	6.5	5.0	3.8	168	円礫利用、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第295図 PL.203	98	磨石	+15	完形	6.2	5.0	3.3	150	やや扁平な小円礫利用、顕著な使用痕は見られず。	石英閃緑岩	
第295図 PL.203	99	磨石	+27	完形	8.2	7.4	3.0	227	円盤形の礫、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第295図 PL.203	100	凹石	+17	完形	8.5	6.7	5.0	234	卵形で両面に凹みを有す。側縁部にも打痕状の凹みが見られる。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第295図 PL.203	101	磨石	+11	欠損	(6.6)	6.3	4.0	(270)	やや扁平な長円礫利用、破損品。使用面極めて平滑で石質は緻密。	砂岩	
第295図 PL.203	102	磨石	+13	完形	14.2	6.2	4.2	575	棒状礫、両面に2カ所ずつの浅い凹みが見られる。端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第295図 PL.203	103	磨石	覆土	完形	6.0	5.4	3.7	180	小円礫利用、顕著な使用痕見られず。	石英閃緑岩	
第295図 PL.203	104	磨石	+7	欠損	(5.8)	(3.5)	4.0	(98)	磨石の破片、側縁部に打痕。	安山岩	
第295図 PL.203	105	敲石	覆土	完形	18.1	5.2	3.9	480	断面が菱形の棒状礫。両端に若干の打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第296図 PL.203	106	丸石	+5	完形	25.1	17.4	11.2	7,500	大型の長円礫、鉄分沈着有り、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第296図 PL.203	107	軽石製品	床	欠損	(8.1)	5.1	2.7	37	厚手の長方形を呈し、角は丸く整形される。上部に穿孔有す。一部欠損。	軽石	

95-48号住居跡(第300~304図: PL.203~205)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第300図 PL.203	1	深鉢 覆土 波頂部3欠損 口:16.2 高:19.9 底:5.2	①細:石英・輝石 ②暗褐色	S字状突起と波状突起による2単位。口縁部沈線と円形刺突文を設け、頸部は隆線による弧状区画を配す。体部は隆線で画された反J字状意匠を4単位配し、下半は横位隆線で区画する。区画内は沈線を側線とし、LRを充填する。内面に煤付着。	後期初頭
第300図 PL.203	2	深鉢 覆土 口縁部1/2欠損 口:(20.8) 高:(23.8) 底:8.6	①粗:石英・雲母 ②褐色	おそらく2単位波状縁。波頂部を欠損する。2条沈線に画された磨消部による紡錘状意匠2段を配す。4単位。横位弧状沈線で各単位を連繋する。施文部は縦位LR充填施文。体部上半は施文後に削り調整を加え文様を消失させた箇所を見る。やや脆弱な焼成。	後期初頭
第300図 PL.203	3	深鉢 覆土 波頂部1欠損 体部1/2欠損 口:20.6 高:33.6 底:6.0	①粗:石英・雲母 ②鈍い黄褐色	上端環状突起と捻転状突起による2単位波状口縁。体部は上下2帯に分かれるが、波底部意匠と下半の意匠を沈線で繋ぐ箇所を見る。上下とも2条沈線による磨消部渦巻状意匠やS字状意匠を配し、施文部はLRを充填する。交互施文は保たれる。焼成は脆弱で器面は磨滅する。	後期初頭
第300図 PL.203	4	深鉢 床 口縁~体部上半 1/4残存 口:(26.0)	①粗:石英・輝石 ②暗赤褐色	外反する幅広無文口縁。頸部隆線には斜位刻みを重ね、小型のJ字状意匠が懸架する。隆線による意匠は別種があるが全容は把握できない。無節Lを縦位充填施文する。	後期初頭
第300図 PL.203	5	深鉢 +15 口縁部1/3残存 口:(13.0)	①粗:石英少 ②黒褐色	小型深鉢か。口縁部隆線を設け縦位S字状意匠や垂下隆線が派生する。側線は浅い沈線。地文は縦位LR。	中期後葉古
第300図 PL.203	6	深鉢 +10 口縁部破片	①細:石英少 ②黒褐色	薄手の器厚で端正な作り。沈線で画された磨消部渦巻状意匠。磨消部には研磨、施文部にはLRを充填する。	後期初頭
第301図 PL.204	7	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②明黄褐色	口縁部沈線以下沈線で画された磨消部弧状意匠が配される。施文部は無節L充填施文。	後期初頭
第301図 PL.204	8	深鉢 炉 口縁部破片	①細:石英・輝石 ②鈍い黄褐色	口唇部肥厚し内屈する。2条沈線に画されたJ字状意匠上端か。施文部は無節L縦位充填施文。磨消部は研磨を加える。	後期初頭
第301図 PL.204	9	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗:石英 ②明褐色	口唇部内屈。横位沈線が多段に配され、施文部と磨消部の交互配列。横位LRを充填する。	後期初頭
第301図 PL.204	10	深鉢 +14 口縁部破片	①細:石英・雲母 ②黒褐色	口唇部内面肥厚。口縁部沈線を設け、沈線で画された磨消部弧状意匠を配す。斜位LRを充填する。	後期初頭
第301図 PL.204	11	深鉢 +13 口縁部破片	①細:輝石 ②黒褐色	緩やかな波状縁か。口唇部内面は肥厚し内稜を持つ。外面は沈線で画された渦巻状意匠か。磨消部研磨、施文部はLR充填施文。	後期初頭
第301図 PL.204	12	深鉢 覆土 口縁部破片	①細:輝石 ②灰黄褐色	口唇部僅かに内屈。口縁部沈線以下磨消部弧状意匠が配される。無節L横位充填施文。	後期初頭
第301図 PL.204	13	深鉢 +14 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②灰黄褐色	波状縁か。口唇端部に面を持つ。沈線で画された弧状区画意匠が配される。施文部縄文はLR充填施文。	後期初頭
第301図 PL.204	14	深鉢 覆土 口縁部破片	①細:石英少 ②褐灰色	磨消部渦巻状意匠と弧状区画一端を見る。施文部縄文はLR充填施文。	後期初頭 6と同一個体か
第301図 PL.204	15	深鉢 +3 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②明赤褐色	緩やかな波状縁か。弧状沈線を施し。斜位沈線を乱雑に充填する。	後期初頭
第301図 PL.204	16	深鉢 +12 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②赤褐色	口唇部内面肥厚。口縁部沈線を設け、2条沈線で画された磨消部が垂下する。弧状意匠の一端も看取される。縄文はLR充填施文。	後期初頭

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第301図 PL.204	17	深鉢床 口縁部破片	① 細：石英 ② 褐色	波状縁。口縁部細隆線を設け以下無節Lを充填施文する。	後期初頭 中期末葉か？
第301図 PL.204	18	深鉢+10 口縁部破片	① 細：輝石 ② 黒褐色	小型深鉢か。口縁部は無文で、横位隆線は強く突出する。円形刺突文が加わる。体部は弧状沈線上端を見る。地文は横位LR。	後期初頭？
第301図 PL.204	19	深鉢+17 口縁部破片	① 細：石英 ② 黒褐色	波状縁。口縁部肥厚部は無文で、弧状隆線が派生する。渦巻状意匠か。縄文は横位LR。	後期初頭
第301図 PL.204	20	深鉢+27 口縁部破片	① 粗：石英 ② 灰黄褐色	波状縁か。口縁部隆線と円形刺突文を設け、以下隆線による弧状意匠を施す。磨消部は研磨、施文部は無節L横位充填施文。	後期初頭
第301図 PL.204	21	深鉢+16 口縁部突起	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色	大型の環状突起。下端の剥落痕跡から橋状把手あるいは別突起を付すと思われる。無節Lを施す。	後期初頭
第301図 PL.204	22	深鉢+11 口縁部突起	① 細：輝石 ② 黒褐色	大きく突出する。外面は縦位S字、上端は横位S字状隆帯を配す。口縁部は有段で無文。体部は縦位LRを施す。	後期初頭
第301図 PL.204	23	深鉢+10 口縁部突起	① 細：石英少 ② 黒褐色	縦位環状突起を強く突出させる。両側面とも無文で丁寧な撫で調整を施す。体部下半に無節L上端を見る。	後期初頭
第301図 PL.204	24	深鉢床 口縁部突起	① 細：石英 ② 黒褐色	裏面縦位双環状突起か。側面は沈線を施す。体部は沈線で画された区画内をLRが充填される。内外面とも丁寧な研磨を施す。	後期初頭
第301図 PL.204	25	深鉢覆土 体部破片	① 細：輝石 ② 褐色	沈線で画された磨消部渦巻状意匠。磨消部は研磨、施文部はRLを充填する。交互構成を保つ。薄手の器厚。	後期初頭
第301図 PL.204	26	深鉢+22 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	沈線で画された施文部弧状意匠。あるいは渦巻状意匠か。磨消部は研磨、施文部はLR充填施文。	後期初頭
第301図 PL.204	27	深鉢覆土 体部破片	① 細：石英 ② 暗褐色	沈線で画された弧状意匠。施文部は無節Lを充填施文する。内面煤付着が顕著。	後期初頭
第301図 PL.204	28	深鉢+31 体部下半破片	① 粗：石英・輝石 ② 赤褐色	沈線で画された施文部弧状意匠。下端区画する。LRを充填する。無文部は研磨を施す。	後期初頭
第301図 PL.204	29	深鉢+8 体部破片	① 粗：石英・雲母 ② 黒褐色	沈線で画された磨消部渦巻状意匠。磨消部は研磨、施文部はRLを充填する。	後期初頭
第301図 PL.204	30	深鉢覆土 体部破片	① 粗：石英 ② 黒褐色	2条の沈線で画された施文部弧状意匠。あるいは懸垂文構成か。縦位LRを充填する。	後期初頭
第301図 PL.204	31	深鉢覆土 体部破片	① 細：石英 ② 鈍い橙色	沈線で画された施文部による大柄な弧状意匠。無節Lを縦位充填施文する。	後期初頭
第301図 PL.204	32	深鉢覆土 体部上半破片	① 細：輝石 ② 暗褐色	細沈線で画された幾何学状意匠。施文部は無節L横位施文。	後期前葉新
第301図 PL.204	33	深鉢+32 体部上半破片	① 細：石英・輝石 ② 黒褐色	頸部外反し体部内湾する。頸部隆線に円形貼付を付し2条隆線が弧状派生する。細縄文LRを充填する。	後期初頭
第301図 PL.204	34	深鉢+34 体部破片	① 細：石英少 ② 鈍い黄褐色	細隆線による弧状意匠。施文部は無く丁寧な研磨が施される。	後期初頭
第301図 PL.204	35	深鉢覆土 体部中位破片	① 粗：石英 ② 鈍い赤褐色	内湾する体部。細隆線による渦巻状意匠か。側線は浅い沈線、縄文はLR充填施文。	後期初頭
第302図 PL.204	36	深鉢+29 体部下半破片	① 粗：石英・輝石 ② 赤褐色	細沈線で画された弧状意匠。下端を区画する。無節Lを充填する。	後期初頭
第302図 PL.204	37	深鉢+7 体部破片	① 粗：石英・雲母 ② 褐色	2条沈線による弧状意匠以下、逆U字状沈線文が配される。縦位LRを施す。	後期前葉
第302図 PL.204	38	深鉢+22 体部中位破片	① 細：輝石 ② 鈍い黄褐色	内湾する体部。刺突を施す円形貼付文外縁を沈線が同心円状に施される。	後期初頭
第302図 PL.204	39	深鉢+22 体部上半破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	横位隆線以下、円形貼付文を中核として、弧状隆線・横位隆線が派生する。LRを充填する。	後期初頭
第302図 PL.204	40	深鉢+7 口縁～体部破片4点	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色・鈍い褐色	口唇部磨滅。口縁部は無文。横位細隆線を設け、以下無節Lを縦位施文する。比較的薄手の器厚を呈す。	後期初頭
第302図 PL.204	41	深鉢+14 口縁部破片	① 粗：石英大 ② 鈍い黄褐色	口縁部は無文で下位に横位隆線を設け、2条隆線が斜位に派生する。施文部縄文は斜位LRを充填する。	後期初頭
第302図 PL.204	42	深鉢+23 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗赤灰色	幅広の無文口縁部。横位隆線を設け体部は無節Lを充填する。	後期初頭
第302図 PL.204	43	浅鉢+11 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	口唇部肥厚し突出する。体部は緩やかな内湾を呈す。内面は研磨を施し、赤彩痕を見る。	中期後葉
第302図 PL.204	44	深鉢+16 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部は無文で下位に横位細隆線を設ける。体部も無文か。比較的堅緻な印象を得る。	後期初頭
第302図 PL.204	45	深鉢+19 口縁部破片	① 粗：石英 ② 鈍い褐色	口縁部は無文で下位に横位隆線を設ける。体部は弧状沈線上端を見る。無節L縦位充填施文か。	後期初頭
第302図 PL.204	46	深鉢+19 口縁部破片	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	口縁部無文。横位隆線はやや太い。体部は無文か。	後期初頭
第302図 PL.204	47	浅鉢+38 口縁部破片	① 細：白色粒 ② 鈍い褐色	外面は無文。内面は4条の横位沈線を配す。	後期初頭
第302図 PL.204	48	深鉢+23 口縁部突起	① 粗：石英 ② 黒褐色	小型の波状突起。上端は環状で弱い螺旋状を呈すか。内外面煤付着。	後期初頭
第302図 PL.204	49	鉢+7 口縁部破片	① 粗：雲母 ② 暗褐色	口縁部は短く、頸部で屈曲する。内外面とも丁寧な研磨を施す。	後期初頭？
第302図 PL.204	50	深鉢+21 頸部把手	① 粗：輝石 ② 褐色	横位隆線に付せられた橋状把手。沈線による縦位S字状意匠を配す。体部は沈線を施文する。	後期初頭
第302図 PL.204	51	深鉢覆土 体部中位～下半1/3残存	① 粗：石英多・輝石 ② 褐色	細身の体部器形。縦位波状沈線による懸垂文構成。地文は無節L縦位施文。	後期初頭
第302図 PL.205	52	深鉢覆土 底部底：5.4	① 粗：石英 ② 褐色	小型器種。あるいは注口土器か。端部は張り出し、体部は強く張る。無文。	後期

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			①胎土 ②色調				文様の特徴等	備考	
第302図 PL.205	53	貝輪状土製品 +10			①細:石英・輝石 ②明褐色				細身で角度が高い。無文で丁寧な撫で調整を施す。付着物は見られない。	後期初頭	
第302図 PL.205	54	貝輪状土製品 +35			①粗:石英 ②褐色				厚手で、角度も深い。無文で内外面研磨を加える。付着物は見られない。	後期初頭	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第303図 PL.205	55	石鎌	+35	完形	2.1	1.5	0.4	0.7	凹基無茎、扱りはあまり深くない。	黒曜石	
第303図 PL.205	56	石鎌	+19	完形	1.7	1.7	0.5	1.3	凹基無茎、扱りに浅く脚が開く短身鎌、かなり厚手の作り。	黒曜石	
第303図 PL.205	57	石鎌	+8	ほぼ完形	1.2	1.7	0.7	1.7	凹基無茎、極めて厚手。未製品か。	黒曜石	
第303図 PL.205	58	石鎌	+18	完形	2.4	1.5	0.6	1.2	凹基無茎、扱りに浅く幅広く脚は短く小さい、作りは粗く鋭利さは無い。	チャート	
第303図 PL.205	59	石鎌	+15	ほぼ完形	(1.9)	2.0	0.4	(1.0)	凹基無茎、脚が大きく開く短身鎌、先端部を僅かに欠損。	黒曜石	
第303図 PL.205	60	石鎌	+7	欠損	(3.4)	(1.8)	0.5	(1.7)	凹基無茎か、比較的大型品、基部を斜めに欠く。	チャート	
第303図 PL.205	61	石鎌	+3	欠損	2.2	1.4	0.4	0.8	凹基無茎、扱りに浅く片脚の端部欠く。器面の風化が顕著。	チャート	
第303図 PL.205	62	石鎌	床	欠損	(2.0)	(1.6)	0.5	(0.7)	凹基無茎、片脚を欠き、器面風化。	チャート	
第303図 PL.205	63	石鎌	覆土	欠損	(2.0)	(1.5)	0.4	(0.9)	先端部片、基部を斜めに欠く。	黒曜石	
第303図 PL.205	64	石鎌	覆土	欠損	2.2	1.2	0.3	0.7	凹基無茎、片側の脚を欠く。	黒曜石	
第303図 PL.205	65	石鎌	+27	欠損	(1.4)	(1.0)	0.5	(0.3)	先端部片か。	チャート	
第303図 PL.205	66	石鎌	覆土	欠損	(1.4)	1.4	0.3	(0.5)	凹基無茎、比較的扱りに深い。先端部を欠く。	黒曜石	
第303図 PL.205	67	石鎌	覆土	欠損	(2.0)	(1.5)	0.3	(0.7)	片面は剥離面を大きく残す。基部を欠く。	黒曜石	
第303図 PL.205	68	スクレイパー	+6	完形	(2.6)	(1.4)	0.7	(2.4)	縦長剥片の片側縁部に刃部作出。	黒曜石	
第303図 PL.205	69	石鎌	床	欠損	(2.0)	2.0	0.5	(1.5)	凹基無茎、先端部を欠き、作りは粗い。	黒曜石	
第303図 PL.205	70	石鎌	覆土	欠損	(1.2)	(1.5)	0.3	(0.5)	凹基無茎、脚は開かずむしろすばまる形、先端部を欠く。	黒曜石	
第303図 PL.205	71	石鎌	覆土	欠損	(1.4)	(1.8)	0.3	(0.5)	凹基無茎、脚は大きく開き長い。片脚および先端部を欠く。	黒曜石	
第303図 PL.205	72	石錐	覆土	欠損	(1.2)	(0.9)	0.3	(0.2)	脚部片か。	黒曜石	
第303図 PL.205	73	石鎌	床	完形	2.8	1.2	0.9	2.3	紡錘状を呈す、基部が厚く先端部分は薄くなる。未製品か。	黒曜石	
第303図 PL.205	74	石錐	覆土	完形	2.1	0.9	0.6	0.8	基部が厚手の小型紡錘状を呈す。	黒曜石	
第303図 PL.205	75	石錐	覆土	完形	1.8	0.7	0.4	0.4	小型の板状で紡錘形を呈す。先端部にかへ側縁部に簡単な刃部調整。	黒曜石	
第303図 PL.205	76	石錐	+17	完形	3.1	0.7	0.5	0.7	断面三角の棒状剥片、未製品か。	黒曜石	
第303図 PL.205	77	石鎌	+14	完形	2.5	2.1	1.1	4.2	平基無茎、中央部分が膨らみ、全体に丸みを持つ。	チャート	
第303図 PL.205	78	楔型石器	覆土	完形	1.3	2.1	1.0	3.5	中央部分は山形に肥厚、両側縁部に刃部作出。	黒曜石	
第304図 PL.205	79	打製石斧	+19	欠損	(7.0)	3.9	1.4	(54)	やや小型の短冊形か、基部を欠く。刃部摩耗。	黒色安山岩	
第304図 PL.205	80	打製石斧	+19	欠損	(5.4)	4.9	1.2	(37)	横に広がる刃部片である。使用痕顕著。	細粒輝石安山岩	
第304図 PL.205	81	打製石斧	+20	欠損	(4.7)	5.5	1.2	(36)	刃部片と思われるが、作りが雑である。	黒色安山岩	
第304図 PL.205	82	打製石斧	+5	欠損	(6.7)	4.7	0.9	(41)	基部片、やや薄手の作り。	黒色安山岩	
第304図 PL.205	83	打製石斧	+20	欠損	(4.3)	4.0	1.2	(27)	基部片、片面丸く自然面が残る。	黒色安山岩	
第304図 PL.205	84	スクレイパー	+13	完形	10.6	6.9	1.6	118	木の葉形の大型剥片利用、片側に弧状の刃部作出。	細粒輝石安山岩	
第304図 PL.205	85	礫器	覆土	完形	13.7	7.1	4.0	440	半月形の大型剥離片。下縁部に顕著な打撃痕。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第304図 PL.205	86	磨石	+12	完形	7.1	6.0	3.5	310	小円礫利用、ほぼ全面に使用痕。一部に打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第304図 PL.205	87	磨石	+17	完形	7.8	7.2	6.2	494	拳大の円礫。全面に使用痕。	粗粒輝石安山岩	
第304図 PL.205	88	凹石	覆土	完形	10.3	6.0	3.5	310	やや扁平な長円礫利用、両面に浅い凹みが見られる。被熱か。	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第304図 PL.205	89	軽石製品	+16	完形	5.4	6.1	1.3	29	ほぼ円形で両面平らに整形され、側縁も面取りされている。黒色。	軽石	
第304図 PL.205	90	石棒	炉	完形	32.5	9.3	9.0	4,690	円柱状で頭部は平らに成形される。炉の南西隅に埋設。	デイサイト	炉の隅に埋設

95-49号住居跡(第306図: PL.205)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考		
第306図 PL.205	1	深鉢+20	口縁部破片	①粗:石英 ②黒褐色	口唇部は尖り、内稜を付す。外面は無文。			中期後葉?			
第306図 PL.205	2	深鉢+8	口縁部破片	①粗:石英 ②褐色	被熱のため器面磨滅。口唇部内面は肥厚する。外面は無文か。			中期後葉?			
第306図 PL.205	3	浅鉢+5	口縁部破片	①粗:石英・雲母 ②暗褐色	口唇部内面に面を持ち、円形刺突文や弧状沈線を施す。			後期初頭?			
第306図 PL.205	4	深鉢+3	体部破片	①粗:石英 ②明黄褐色	沈線による逆U字状懸垂文の上端か。地文は無筋L横位施文。			中期後葉古			
第306図 PL.205	5	深鉢+10	体部中位破片	①粗:石英 ②褐色	2条隆線による懸垂文構成。隆線中位は半渦巻状突起を付す。空白部は斜位沈線を施す。			中期後葉信州系			
第306図 PL.205	6	深鉢+31	頸部破片	①粗:石英多 ②黒褐色	横位細隆線を付す。側線は浅い沈線が施される。			中期末葉			
第306図 PL.205	7	深鉢+3	体部破片	①粗:石英多 ②黒褐色	沈線に画された弧状意匠上端か。			後期初頭			
第306図 PL.205	8	深鉢床	体部破片	①粗:輝石 ②暗褐色	内皮平行沈線による懸垂文構成。地文は縦位RL。			中期後葉古			
第306図 PL.205	9	深鉢+24	体部破片	①粗:石英・輝石 ②黒褐色	横位矢羽状短沈線を施す。			中期後葉信州系			
第306図 PL.205	10	深鉢+13	底部破片 底:(11.0)	①粗:石英多 ②褐色	大型の深鉢か。直立気味に開く体部下半。無文。			中期後葉?			
第306図 PL.205	11	深鉢+16	体部下半破片	①粗:石英・輝石 ②明赤褐色	無文で強く開く体部下半。研磨調整を見ないことから深鉢とした。			中期後葉?			
第306図 PL.205	12	深鉢+13	底部破片 底:(6.0)	①粗:石英多・輝石 ②赤褐色	僅かに外反気味に開く体部下半。無文。			中期後葉?			
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第306図 PL.205	13	石鉢	+17	完形	1.9	1.5	0.6	1.0	平基無茎、片面肥厚、作りは粗く未製品か。	黒曜石	

95-50号住居跡(第308図: PL.205・206)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考		
第308図 PL.205	1	深鉢覆土	体部破片	①細:輝石 ②鈍い黄褐色	沈線で画された磨消部弧状意匠。縄文はLR充填施文。			後期初頭			
第308図 PL.205	2	深鉢覆土	体部中位破片	①粗:石英 ②鈍い黄褐色	沈線で画された施文部逆U字状懸垂文構成か。縦位LR充填施文。			後期初頭			
第308図 PL.205	3	深鉢外	体部上半破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色	横位沈線3条を設ける。上位2条は弧状に連結する。地文状に縦位沈線が施される。			中期後葉古			
第308図 PL.205	4	深鉢覆土	体部中位破片	①粗:石英・輝石 ②明褐色	細隆線による懸垂文構成。側線は沈線。空白部は縦位矢羽状短沈線を施す。			中期後葉信州系			
第308図 PL.205	5	深鉢覆土	体部中位破片	①粗:石英・輝石 ②褐色	沈線で画された施文部による区画意匠。縄文はLR充填施文。			後期初頭?			
第308図 PL.205	6	深鉢+8	体部破片	①細:石英少・輝石 ②鈍い黄褐色	体部下半か。無文で薄手の器厚を呈す。			後期前葉新?			
第308図 PL.205	7	ミニチュア土器	体部上半破片 +16	①細:白色粒 ②黒褐色	深鉢ミニチュアか。頸部は屈曲し体部は内湾を呈す。無文で極めて薄手の器厚を呈す。			時期不明			
第308図 PL.206	8	土製円盤外	一部欠損	①粗:石英・輝石 ②明黄褐色	深鉢体部下半を再利用か。楕円状の平面形で無文である。周縁は打ち欠きによる整形。			時期不明			
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第308図 PL.206	9	打製石斧	覆土	欠損	(6.0)	4.3	1.7	(64)	基部片か、片面丸みを残し自然面も見られる。	粗粒輝石安山岩	
第308図 PL.206	10	凹石	覆土	完形	10.6	8.7	5.7	660	やや扁平な円礫の片面に凹み穴、穴の周囲にベンガラ痕か。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第308図 PL.206	11	磨石	+28	完形	13.0	6.3	2.7	354	撥形の礫、両端に僅かな打痕。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第308図 PL.206	12	多孔石	+14	完形	20.7	17.2	11.1	4,980	大型の円礫、浅い凹み穴が2、3個見られる。多孔質の礫。	粗粒輝石安山岩	

95-51号住居跡(第310図: PL.206)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考
第310図 PL.206	1	深鉢+37	口縁部破片	①粗:石英 ②赤褐色	口縁部内湾。隆線による渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線、横位RLを充填する。体部は沈線施文で渦巻状意匠、弧状意匠が配される。縦位RLを地文とする。			中期後葉古	



### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等		備 考			
第310図 PL.206	2	深鉢 +37 体部破片 1	① 粗：石英 ② 赤褐色			沈線施文で渦巻状意匠、縦位、弧状意匠が配される。縦位 RL を地文とする。		中期後葉古			
第310図 PL.206	3	深鉢 +29 口縁部破片	① 粗：石英多・輝石 ② 鈍い黄褐色			隆線による口縁部区画文。区画内側線は沈線、横位 RL を施す。器面磨滅。		中期後葉古			
第310図 PL.206	4	浅鉢 +8 体部破片	① 細：輝石 ② 鈍い赤褐色			頸部屈曲し緩やかに内湾する体部。隆線による環状区画文が配され、沈線による渦巻文が充填される。意匠外縁は弧状沈線が重なる。隆線上、沈線間に斜位刻みを施す。		中期後葉古			
第310図 PL.206	5	深鉢 +9 体部中位破片	① 粗：輝石 ② 褐色			縦位燃系 L が器面を覆う。		中期後葉最古 中期後葉古			
第310図 PL.206	6	深鉢 +40 体部中位破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色			外反する体部。垂下沈線 3 条による懸垂文構成。中位で棘状の弧線文に変化する。地文は縦位 RL を施す。		中期後葉古			
第310図 PL.206	7	深鉢 +25 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 褐色			内皮沈線による懸垂文構成。地文は細縄文 RL を縦位施文する。		中期後葉古			
第310図 PL.206	8	深鉢 外 体部上半破片	① 粗：石英少 ② 褐色			上半で内湾する。2 条の沈線による懸垂文構成。地文は縦位 LR を施文する。		中期後葉古			
第310図 PL.206	9	深鉢 +66 体部上半破片	① 粗：石英多 ② 鈍い黄褐色			横位沈線 3 条を設け以下縦位 RL を施す。		中期後葉古			
第310図 PL.206	10	浅鉢 +41 体部下半破片	① 粗：輝石少 ② 鈍い黄褐色			厚手の器厚を呈す。大型の浅鉢か。内外面とも丁寧な研磨を施す。底部輪積み痕顕著。		中期後葉			
第310図 PL.206	11	浅鉢 +36 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色			強く内湾する体部上半。頸部も強く屈曲する。内外面とも丁寧な横位研磨を施し、赤彩を加える。		中期後葉			
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第310図 PL.206	12	石鎌	覆土	欠損	(1.5)	(1.0)	0.6	(0.3)	凹基無茎、小型品、挟り浅い、片面やや肥厚、作り粗く先端僅かに欠く。	黒曜石	
第310図 PL.206	13	打製石斧	外	欠損	(10.1)	5.8	1.5	(131)	短冊形、基部を欠く。板状で両面に自然面残す。円刃で摩耗顕著。	粗粒輝石安山岩	
第310図 PL.206	14	打製石斧	外	欠損	(5.8)	5.2	2.1	(87)	厚手の基部片と見られる。	細粒輝石安山岩	
第310図 PL.206	15	スクレイパー	外	完形	5.7	7.6	0.8	27	台形を呈す剥片の下縁部に細かく刃部作出。	黒色安山岩	
第310図 PL.206	16	石棒	覆土	完形	29.8	13.4	12.2	7,900	大型の円柱状、両端は丸く成形されている。底面はかなり平滑。	デイサイト	

#### 95-52号住居跡(第313図：PL.206)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等		備 考			
第313図 PL.206	1	鉢 +7 1/2 残存 口：13.0 高：16.7 底：7.4	① 細：輝石 ② 鈍い褐色			口縁部は短く、直立気味に内傾する。肩部は陥没し体部上半は強く内湾する。肩部に 2 条隆線を付し、縦位 S 字状突起を 2 単位配す。突起間は小型の橋状把手を連ねる。体部は低位隆線による大柄の渦巻状意匠を配し、各所に円文を施す。赤彩は微量を見るが全容は判然としない。		中期後葉新			
第313図 PL.206	2	深鉢 +9 把手破片	① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色			両耳壺把手か。隆線により上端を強く突出させ、縦位 S 字状意匠を施す。蕨手状沈線も加わる。		中期後葉新			
第313図 PL.206	3	鉢 +3 底部破片 底：(5.0)	① 褐灰色 ② 細：白色粒			強く開く体部下半。円形刺突と弧状沈線を施す。		後期初頭か？			
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第313図 PL.206	4	石鎌	床	完形	3.1	1.6	0.4	1.2	凹基無茎、挟り浅くやや細身、作りは丁寧。	黒曜石	
第313図 PL.206	5	打製石斧	+12	欠損	(10.0)	6.1	1.6	(122)	撥形、板状礫を利用、両面に自然面。	細粒輝石安山岩	

#### 95-53号住居跡(第315～317図：PL.206・207)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等		備 考
第315図 PL.206	1	深鉢 覆土 口縁～体部上半 1/2 残存 口：(14.2)	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色			縦位円形突起を配し下位には橋状把手を付す。突起内外面は沈線による渦巻文、把手両下端には隆線による渦巻文を配す。波底部には円形小突起を付し、渦巻文を施す。口縁部は横位 2 条隆線で多段に分帯され、交互刺突文を充填する。体部は正面に隆線による渦巻文を配し、斜位沈線を充填する。		中期後葉信州系
第315図 PL.206	2	深鉢 +10 口縁～体部上半 1/3 残存 口：(12.0)	① 粗：輝石 ② 褐色			小型深鉢。隆線による半楕円状区画文を口縁部に配す。区画内側線は沈線及び撫で、縦位短沈線を充填する。体部は無文。内面煤付着。		中期後葉信州系
第315図 PL.206	3	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗：石英・雲母 ② 鈍い黄褐色			口縁部に縦位環状突起を付し、2 条隆線で画される区画文構成。区画内は斜位短沈線を充填する。		中期後葉信州系
第315図 PL.206	4	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗赤褐色			口縁部は 2 条隆線による幅狭の区画文構成。縦位短沈線を充填する。頸部は無文で下位に横位蛇行隆線を付す。		中期後葉信州系
第315図 PL.206	5	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 黒褐色			2 条隆線による口縁部区画文構成。接点が波状突起となる。区画内は縦位短沈線を充填する。		中期後葉信州系

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第315図 PL.206	6	深鉢 覆土 口縁部突起	①粗：石英・雲母 ②明赤褐色	上端に横位S字状意匠を配し、下位は細身の橋状把手を付す。把手縁辺に渦巻文を配し、中に縦位波状沈線を施す。区画内は縦位短沈線を充填する。強く突出する内稜を付す。	中期後葉信州系						
第315図 PL.207	7	深鉢 +15 口縁～体部中位 破片	①粗：石英・雲母多 ②黒色	口縁部肥厚する。頭部で僅かに括れ、体部上半は緩やかな内湾を持つ。口縁部は無文、体部は無節L縦位施文。	中期後葉古 ?						
第315図 PL.207	8	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：輝石 ②黒褐色	隆線貼付により口唇部突出。以下弧状隆線が派生し、刺突文を充填する。	中期中葉						
第315図 PL.207	9	深鉢 +25 口縁～体部上半 破片	①粗：輝石・雲母 ②極暗褐色	口縁部に隆線による渦巻文を配す、斜位短沈線を施す。体部は弧状沈線3条を配し、刺突文を截痕状に施す。	中期後葉信州系						
第315図 PL.207	10	深鉢 覆土 頸部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	2条隆線による弧状意匠か。頸部屈曲部に横位波状沈線を配す。	中期中葉						
第315図 PL.207	11	深鉢 覆土 頸部破片	①粗：雲母 ②明赤褐色	頸部屈曲部に横位波状沈線を配す。体部は斜位沈線を施す。	中期中葉						
第315図 PL.207	12	深鉢 +15 体部中位破片	①粗：石英多・雲母多 ②赤褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。縦位条線を地文状とし、横位楕円状沈線を加える。	中期後葉信州系						
第315図 PL.207	13	深鉢 床 体部中位破片	①粗：石英多・輝石 ②暗褐色	縦位波状沈線による懸垂文構成か、渦巻文と逆U字状懸垂文も配される。地文は縦位LR。	中期後葉古						
第315図 PL.207	14	深鉢 覆土 頸部破片	①粗：輝石 ②黒褐色	頸部屈曲部に横位波状沈線・横位沈線を配す。体部に弧状隆線と弧状短沈線を施す。	中期中葉						
第315図 PL.207	15	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英 ②黒色	細隆線による弧状・渦巻状意匠より横位隆線が派生する。不定形区画文か。沈線・撫でを側線とし縦位短沈線や刺突文を充填する。	中期後葉信州系						
第315図 PL.207	16	深鉢 覆土 体部中位破片	①粗：石英・輝石 ②明赤褐色	2条隆線による懸垂文構成。縦位沈線を地文状とし、横位弧状沈線2条を加える。	中期後葉信州系						
第315図 PL.207	17	浅鉢 +17 口縁部破片	①粗：小礫・輝石 ②赤褐色	口唇部内外面僅かに突出する。外面は斜位研磨が顕著。口縁部内外面に赤彩痕を見る。	中期後葉						
第315図 PL.207	18	深鉢 +2 口縁部破片	①粗：輝石 ②極暗褐色	口唇部丸みを帯び、体部は無文。やや歪みを持つ。	中期後葉						
第315図 PL.207	19	深鉢 覆土 体部下～底部 底：7.0	①粗：石英・雲母 ②暗赤褐色	直立気味に開く体部下。無節Lが縦位・斜位施文される。内面煤付着。	中期後葉古						
第315図 PL.207	20	不明土製品 +2 破片	①粗：石英・雲母 ②赤黒色	緩やかな湾曲を呈す柱状土製品。注口土器把手部ではなく、突起等的一端であろうか。	中期						
第315図 PL.207	21	土製円盤 覆土 完形 径：3.5	①細：輝石 ②暗灰黄色	深鉢体部を利用か。周縁を丁寧に整形する。LRを施す。	中期後葉古						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第315図 PL.207	22	石鎌	+31	完形	1.6	1.4	0.3	0.4	凹基無茎、小型品、やや厚手の作り。	黒曜石	
第315図 PL.207	23	石鎌	覆土	欠損	(1.6)	(1.2)	0.4	(0.4)	凹基無茎、小型品、やや厚手の作り。	黒曜石	
第316図 PL.207	24	石鎌	+5	欠損	2.6	(1.2)	0.3	(0.6)	薄手で作りは丁寧、基部を欠く。	黒曜石	
第316図 PL.207	25	石鎌	覆土	欠損	(1.5)	(1.4)	0.4	(0.4)	先端部片か。	黒曜石	
第316図 PL.207	26	石鎌	覆土	欠損	(1.3)	(1.4)	0.3	(0.4)	凹基無茎鎌の基部破片。	黒曜石	
第316図 PL.207	27	石錐	覆土	完形	2.1	0.8	0.5	0.5	基部太く先端に向かって細くなる。小型棒状錐。	黒曜石	
第316図 PL.207	28	石錐	覆土	完形	(1.9)	1.7	0.5	(0.7)	小型T字状の錐か、錐部は短く扁平、側縁部分調整。	黒曜石	
第316図 PL.207	29	打製石 斧	床	欠損	8.9	5.2	2.1	123	基部を欠く、撥形か、作りはやや粗い。	黒色安山岩	
第316図 PL.207	30	打製石 斧	+38	完形	12.8	5.9	2.4	242	短冊形、やや肉厚で刃部の片面に自然面が残る。刃部摩耗。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第316図 PL.207	31	打製石 斧	覆土	完形	10.3	4.4	0.7	53	小型板状の撥形、刃部片面に自然面残す。	粗粒輝石安山岩	
第316図 PL.207	32	打製石 斧	床	完形	(10.8)	5.6	1.3	(91)	撥形、側縁、刃部共に直線的に作られる。薄手の作り。	細粒輝石安山岩	
第316図 PL.207	33	打製石 斧	覆土	欠損	13.5	5.9	3.0	282	厚手の大型品、刃部を欠いている。粗い作り。	細粒輝石安山岩	
第316図 PL.207	34	打製石 斧	覆土	欠損	(11.7)	7.3	2.5	(231)	撥形、やや大振りの作りで基部を欠く、刃部は薄手の作り。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第316図 PL.207	35	スクレイパー	覆土	完形	10.0	4.5	1.6	7.0	縦長の剥片利用、薄く直線的な片側縁に刃部作出。	黒色安山岩	
第316図 PL.207	36	スクレイパー	覆土	完形	7.9	6.9	0.9	36	薄く剥かれた不定形な剥片の片側縁部に刃部作出。	黒色安山岩	
第316図 PL.207	37	台石か	覆土	完形	13.7	12.7	1.5	389	平らな大型剥片利用、自然面を使用面とする。摩耗顕著。側縁刃潰し。	粗粒輝石安山岩	
第316図 PL.207	38	磨石	床	完形	10.9	8.9	5.9	840	やや扁平な円礫利用、両面使用し平滑。	粗粒輝石安山岩	
第317図 PL.207	39	磨石	+5	欠損	(8.4)	7.9	5.1	520	やや扁平な依形を呈す、両使用面は平滑で使用痕顕著、側縁に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第317図 PL.207	40	台石	+11	欠損	(13.5)	11.5	4.7	1,700	扁平礫を利用、平らな両面を使用面とする。半分程を欠損している。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第317図 PL.207	41	磨石	+9	完形	10.5	10.0	8.8	1,230	やや大型の礫利用、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第317図 PL.207	42	敲石	+2	完形	13.1	6.2	4.2	500	棒状で、断面は丸みを持つ三角形。やや細くなった端部が打面。	粗粒輝石安山岩	
第317図 PL.207	43	石皿	床	欠損	(13.1)	(20.1)	7.1	(2,899)	稜は明瞭に作られる。やや大型品か厚みのある製品である。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-54号住居跡(第322~326図: PL.208~210)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第322図 PL.208	1	深鉢 覆土 体部1/4欠損 口: 12.0 高: 15.8 底: 6.7	①細: 輝石 ②灰黄褐色	4単位波状縁。頸部に1単位の橋状把手を付す。口唇部に沈線を施す。頸部は無文で把手下端に横位隆線2条を設け下位隆線には交互刺突文が加わる。体部沈線施文で渦巻状意匠や剣先状意匠を配し下半は懸垂文構成となる。地文は縦位RL。外面頸部及び内面煤付着。	中期後葉古
第322図 PL.208	2	深鉢 覆土 口縁~体部中位 1/4残存 口: (20.8)	①粗: 石英・輝石 ②褐色	波状突起を付す。口縁部隆線を設け、細沈線2条に画された磨消部逆U字状懸垂文が配される。無節Lが充填施文される。	中期末葉
第322図 PL.208	3	深鉢 覆土 口縁~体部中位 3/4残存 口: 11.6	①細: 輝石 ②褐色	小型深鉢。口縁部は外反し無文。頸部の弱い括れに4条の横位沈線を設け以下体部は縦位沈線が覆う。	中期後葉信州系
第322図 PL.208	4	深鉢 床 口縁~体部中位 1/3残存 口: (25.0)	①粗: 石英大 ②赤褐色	大型の深鉢。無文の内湾口縁部。頸部に隆帯を付し、太い短沈線を加える。頸部突起より派生する2条隆線による懸垂構成と、弧状隆線による単位文が配される。地文は縦位密接条線が施される。	中期後葉信州系
第322図 PL.208	5	ミニチュア土器 覆土 口縁~底部1/4残存 口: (7.2) 高: 8.6 底: 4.9	①細: 輝石 ②鈍い褐色	深鉢ミニチュア。口縁部は内湾し体部は直立する。頸部括れ部に1・2条の横位沈線を施す。他は無文で指頭圧痕が顕著。	中期後葉
第322図 PL.208	6	深鉢 床 口縁部1/3残存 口: (41.8)	①粗: 輝石多 ②暗赤褐色	大型の深鉢。口縁部内湾し、波状突起4単位を配す。波頂部には2条隆線による渦巻文、波底部には渦巻状突起を配す。2条隆線が口縁部意匠を繋ぐ。口縁部下端の隆線には深い刻みを施す。地文は横位燃系L。頸部無文帯は幅広。	中期後葉古 6・7は同一個体
第322図 PL.208	7	深鉢 口縁部片	①粗: 輝石多 ②暗赤褐色		
第323図 PL.208	8	深鉢 +15 口縁部破片	①粗: 石英・輝石 ②灰褐色	細隆線による口縁部渦巻文と楕円状区画構成。頸部隆線は太く、屈曲する。側線は沈線で縄文は横位RL。	中期後葉古
第323図 PL.208	9	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗: 石英 ②暗灰黄色	2条の横位沈線に画された施文部。破片下端にも沈線を見る。無節L横位充填施文。	後期初頭
第323図 PL.208	10	深鉢 床 口縁~体部上半 1/4残存 口: (32.0)	①粗: 石英・輝石 ②褐色	キャリバー状深鉢。口縁部は2条隆線による区画構成。剣先状意匠も配される。区画内側線は沈線、縦位短沈線を充填する。頸部は無文で体部上半の横位2条隆線以下は縦位RLが覆う。	中期後葉古
第323図 PL.208	11	深鉢 +47 口縁部破片	①粗: 雲母多 ②暗赤褐色	口縁部内湾。隆線による渦巻文と区画文を配す。側線は無文。	中期後葉新?
第323図 PL.208	12	深鉢 +28 口縁部破片	①粗: 石英多・雲母 ②暗褐色	隆線による区画文と渦巻文を配し上端は突出する。以下縦位LRを施す。	中期後葉古
第323図 PL.208	13	深鉢 +17 頸部~体部上半 破片	①粗: 石英・輝石多 ②灰黄褐色	外反する頸部に2条隆線を付す。体部上半に横位沈線3条を設け、以下縦位波状沈線や弧状沈線2条を配す。地文は横位LR。	中期後葉古
第323図 PL.208	14	深鉢 +11 口縁部突起	①細: 輝石 ②黒褐色	環状突起と小型の橋状把手が突出する。突起内面に円文を配す。把手より細流線が派生し、口縁部隆線となる。体部は細沈線による分岐状懸垂文か。無節Lを充填施文する。内面煤付着。	後期初頭
第323図 PL.208	15	深鉢 Pit 2 頸部~体部上半 破片	①細: 輝石 ②黒褐色	体部上半に鎖状隆帯を横位に設ける。以下縦位燃系Lが器面を覆う。	中期後葉古
第323図 PL.208	16	深鉢 +4 体部中位破片	①粗: 石英 ②明赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成。側線は内皮沈線を充てる。地文は燃系R縦位施文。	中期後葉古
第323図 PL.208	17	深鉢 +20 体部破片	①粗: 石英 ②鈍い赤褐色	刻みを付す垂下隆線2条による懸垂文構成。側線は内皮沈線。地文は縦位燃系Lが器面。	中期後葉古
第323図 PL.208	18	深鉢 Pit 2 頸部破片	①細: 輝石 ②黒褐色	頸部無文。体部上半に刺突文を加える横位隆帯を設け、以下横位沈線2条を施す。地文は縦位燃系L。	中期後葉古
第323図 PL.209	19	深鉢 床 体部破片	①粗: 輝石多 ②赤褐色	縦位燃系Rを施す。	中期後葉古
第323図 PL.209	20	深鉢 覆土 体部上半破片	①粗: 輝石 ②黒褐色	楕円状の横位隆線か。2条隆線による弧状意匠が懸架する。地文は縦位燃系Lを施す。	中期後葉古
第323図 PL.209	21	深鉢 覆土 体部破片	①粗: 輝石 ②鈍い黄褐色	体部上半か。横位沈線以下燃系Lを縦位・斜位施文する。	中期後葉古

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			①胎土 ②色調				文様の特徴等	備考	
第323図 PL.209	22	深鉢 覆土	底部1/3残存 底：(7.6)	①粗：石英 ②黄褐色					縦位燃糸Lを施す。	中期後葉古	
第323図 PL.209	23	深鉢 Pit 2	体部下半～底部 底：9.0	①粗：石英 ②鈍い褐色					大型の深鉢か。緩やかな内湾気味に開く体部下半。縦位燃糸Lが器面を覆う。内面煤付着。	中期後葉古	
第324図 PL.209	24	深鉢 覆土	体部中位破片	①粗：輝石 ②褐色					垂下隆線2条による懸垂文構成。中位で突起状となる。地文は縦位LRで、3条の縦位沈線を施す。中位で小渦巻文を配す。	中期後葉古	
第324図 PL.209	25	深鉢 +33	体部下半破片	①細：石英・輝石 ②鈍い赤褐色					内湾気味の体部下半。2条沈線で弧状意匠を描く。地文は縦位LR。器壁剥落多い。内面煤付着。	中期後葉古	
第324図 PL.209	26	深鉢 +36	体部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い黄褐色					体部中位か。沈線に画された施文部逆U字状意匠が配される。上下2帯構成であろうか。LR縦位充填施文。	中期末葉	
第324図 PL.209	27	深鉢 覆土	体部中位破片	①細：輝石多 ②褐色					体部中位の括れ部か。縦位LRが器面を覆う。	中期後葉古	
第324図 PL.209	28	深鉢 +41	口縁部破片	①粗：輝石多 ②黒褐色					口唇部肥厚。2条隆線による口縁部区画文と渦巻状小突起。突起下端より2条隆線が懸垂する。区画内及び体部は縦位短沈線を施す。	中期後葉古	
第324図 PL.209	29	深鉢 +46	口縁部破片	①粗：石英 ②暗赤褐色					緩やかな波状縁か。口縁部に横位沈線を設け以下斜位沈線を施す。	中期後葉信州系	
第324図 PL.209	30	深鉢 +14	口縁部破片	①粗：輝石 ②赤褐色					口縁部に横位沈線4条を設け、中位2条に交互刺突文を加える。	中期後葉古	
第324図 PL.209	31	深鉢 Pit 2	口頸部破片	①粗：石英・雲母 ②鈍い黄褐色					渦巻状小突起を配し、2条隆線で区画文と繋ぐ。区画内は沈線を側線とし、縦位短沈線を充填する。内面煤付着。	中期後葉古	
第324図 PL.209	32	浅鉢 +35	口頸部破片	①粗：石英・輝石 ②明褐色					2条の細隆線による環状意匠・区画文が配される。沈線を側線とし短沈線や小渦巻文が充てられる。	中期後葉古	
第324図 PL.209	33	深鉢 覆土	体部上半破片	①粗：輝石少 ②褐色					沈線を側線とする横位隆線を設ける。以下体部は縦位内皮沈線を充填する。	中期後葉古	
第324図 PL.209	34	深鉢 覆土	体部破片	①粗：石英・輝石 ②褐色					垂下沈線による懸垂文構成か。縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系	
第324図 PL.209	35	深鉢 覆土	体部破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色					縦位内皮沈線による懸垂文構成か。2条沈線による弧状意匠や剣先状意匠が配される。地文は縦位LR。	中期後葉古	
第324図 PL.209	36	深鉢 覆土	体部破片	①細：輝石 ②暗褐色					単列の連続刺突文による横位波状文上端か。	中期中葉	
第324図 PL.209	37	浅鉢 +33	口縁部破片	①細：輝石 ②鈍い黄褐色					口唇部肥厚し体部上半に内湾を持たせる。内外面とも丁寧な研磨を施し赤彩を加える。黒色部を併せて何らかの意匠が配されるのであろう。	中期後葉	
第324図 PL.209	38	有孔鏝付土器 +25	口縁部破片	①粗：石英 ②鈍い黄褐色					口縁部外反し、頸部に太い隆線を付す。隆線上位に小孔を穿つ。内外面赤彩を見る。	中期後葉	
第324図 PL.209	39	深鉢 床	口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色					強く内湾する無文の口縁部。頸部括れ部に横位隆線を設ける。外面煤付着。	中期後葉古	
第324図 PL.209	40	深鉢 Pit 2	口縁部破片	①細：輝石 ②褐灰色					口唇端部に面を持ち内面に突出する。口縁部は外反し頸部隆線には交互刺突文を施す。内外面弱い研磨。	中期後葉古	
第324図 PL.209	41	深鉢 +51	口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色					口唇部内面突出する。口縁部は無文。	中期後葉	
第324図 PL.209	42	深鉢 床	口縁部破片 口(19.0)	①細：石英・輝石 ②灰褐色					口唇部内傾し鋭い。無文で外面は縦位撫で調整を加える。	早期 ?	
第324図 PL.209	43	深鉢 +40	底部 底：8.8	①粗：石英・輝石 ②赤褐色					強く開く体部下半。無文で、内外面とも丁寧な撫で調整を施す。	中期後葉	
第324図 PL.209	44	台付き深鉢 +34	脚部破片 裾：(10.0)	①粗：石英多 ②褐色					器面磨減。脚部上位に径1.0cm程の円孔を穿つ。	中期後葉	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第325図 PL.209	45	石鏝	覆土	完形	2.7	1.7	0.3	0.8	凹基無茎、やや長身で端正な作り。	黒曜石	
第325図 PL.209	46	石鏝	覆土	欠損	(1.3)	(1.0)	0.4	(0.3)	凹基無茎、小型品、やや厚手の作り。	黒曜石	
第325図 PL.209	47	石鏝	覆土	欠損	(0.9)	(1.0)	0.2	(0.1)	脚部片か。	黒曜石	
第325図 PL.209	48	石錐	覆土	欠損	(1.6)	(0.5)	0.3	(0.2)	細身の棒状錐、基部が欠けたものか。	黒曜石	
第325図 PL.209	49	石鏝	覆土	欠損	1.9	1.1	0.4	0.7	凹基無茎、片脚を欠損か。先端部やや丸みを呈す。	黒曜石	
第325図 PL.209	50	打製石 斧	覆土	欠損	(8.3)	4.9	2.4	(127)	撥形、中央部分が瘤状に所々肥厚、基部を欠き煤の付着有り。	細粒輝石安山岩	
第325図 PL.209	51	打製石 斧	覆土	欠損	(3.5)	2.6	0.7	(8.0)	小型打製石斧の基部片か。	黒色安山岩	
第325図 PL.209	52	スクレイパー	覆土	完形	7.9	7.5	1.6	76	厚手で三角形の剥片利用、直線部に刃部を作出。	細粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第325図 PL.209	53	スクレイパー	覆土	完形	9.8	9.3	2.6	189	厚手で三角形の剥片利用、弧状の縁辺に刃部を作出。	粗粒輝石安山岩	
第325図 PL.209	54	スクレイパー	覆土	完形	9.7	4.9	0.6	35	不定形な板状剥片、2辺に刃部を作出。	粗粒輝石安山岩	
第325図 PL.209	55	磨石	覆土	完形	12.0	6.5	4.1	510	やや扁平な長円礫。使用面平滑。側縁部に弱い打痕。	粗粒輝石安山岩	
第325図 PL.209	56	磨石	床	完形	6.9	5.2	4.8	228	卵形の円礫、表面に鉄分層沈着。	安山岩	
第325図 PL.209	57	磨石	覆土	完形	6.0	6.0	5.7	183	小円礫、対面部分がやや平らとなっており敲石としても利用か。発泡質。	多孔質粗粒輝石安山岩	
第325図 PL.209	58	磨石	覆土	完形	12.1	11.0	4.6	970	やや扁平な円礫利用、両面使用僅かな打痕状の凹み有り。	粗粒輝石安山岩	
第325図 PL.210	59	磨石	覆土	完形	13.6	9.4	4.2	770	扁平な長円礫、部分的に煤付着。	粗粒輝石安山岩	
第326図 PL.210	60	磨石	覆土	完形	13.4	7.4	3.0	413	扁平ななすび形を呈す。全面平滑だが自然によるものと見られる。被熱か。	粗粒輝石安山岩	
第326図 PL.210	61	磨石	覆土	完形	14.1	6.2	3.5	490	扁平な棒状礫、両端に弱い打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第326図 PL.210	62	敲石	覆土	完形	12.5	5.0	3.8	363	断面隅丸方形の棒状礫。やや太くなる端部を主に打面としている。	粗粒輝石安山岩	
第326図 PL.210	63	磨石	覆土	欠損	13.7	(7.3)	1.8	235	扁平礫、半分を欠く。被熱か。	粗粒輝石安山岩	
第326図 PL.210	64	敲石	覆土	完形	(12.9)	6.0	4.1	510	扁平な棒状礫の両端を打面とする。使用により剥落顕著。	石英閃緑岩	

#### 95-55号住居跡(第328図：PL.210)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考	
第328図 PL.210	1	深鉢 覆土	口縁部破片	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	口唇部肥厚し内湾する。外面は無文。やや軟質な印象。	後期前葉
第328図 PL.210	2	深鉢 +20	体部下半破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	中位で外反するか。縦位LRを施す。	中期後葉
第328図 PL.210	3	深鉢 床	口頸部破片	① 粗：石英 ② 明褐色	細隆線による渦巻文を配す。空白部は矢羽状短沈線や放射状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第328図 PL.210	4	深鉢 覆土	体部破片	① 粗：石英・雲母 ② 赤褐色	外反する体部中位か。刻みを付す垂下隆線による懸垂文構成。斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第328図 PL.210	5	深鉢 覆土	体部破片	① 粗：雲母 ② 褐色	縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第328図 PL.210	6	深鉢 +12	体部破片	① 粗：雲母 ② 赤褐色	浅い沈線による矢羽状文。	中期後葉信州系
第328図 PL.210	7	深鉢 +16	体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色	縦位沈線による懸垂文構成か。弧状短沈線を埋める。	中期後葉信州系
第328図 PL.210	8	土製円盤 +3	完形 径：4.7×4.9	① 粗：輝石 ② 黒褐色	深鉢体部破片を利用。周辺は剥離のみの整形。磨消部と施文部を見る。縦位RLを施す。	中期後葉新

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第328図 PL.210	9	磨石	+7	完形	10.5	6.4	4.4	378	やや扁平な長円礫利用、浅い凹み穴見られ、端部に打痕有り。被熱か。	粗粒輝石安山岩	
第328図 PL.210	10	磨石	床	完形	9.9	5.8	5.2	451	俵形の小礫、全面平滑であるが顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-56号住居跡(第335～347図：PL.210～216)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考	
第335図 PL.210	1	深鉢 覆土	口縁～体部中位 4/5 残存 口：40.5	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	口縁部は幅広く無文。内湾気味に開く。体部は中位に強い内湾を持たせる。上半は連節する2条隆線による大柄の渦巻文を主意匠とし、弧状隆線で各意匠を繋ぐ。おそらく4単位であろう。弧状隆線上位には剣先状意匠を付設する。下半も、弧状・渦巻状意匠を配す。	中期後葉信州系
第335図 PL.210	2	深鉢 床	口縁～体部中位 1/3 残存 口：(18.0)	① 粗：雲母多 ② 暗褐色	平縁で体部中位に内湾を持たせる。口縁部隆線より垂下隆線と縦位S字状意匠が派生する。下端は2条隆線が懸垂する。垂下隆線には刻みを施す。側線は沈線、空白部は斜位短沈線を充填する。体部中位に補修孔を見る。内面体部下半に煤付着。	中期後葉信州系
第335図 PL.210	3	深鉢 覆土	口縁～体部上半 1/3 残存 口：(28.6)	① 粗：輝石多 ② 黒褐色	樽状の深鉢。隆線による渦巻文と接続した区画文が対象に配される。区画内は縦位短沈線と横位交互刺突文を充填する。体部は2条隆線による大柄の渦巻文を配す。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第335図 PL.210	4	深鉢 覆土	口縁～体部中位 3/4 残存 口：22.6	① 粗：石英・雲母 ② 暗褐色	口縁部は無文。有段による分帯で、体部上半は隆線による逆U字状区画文を配す。区画中に2条の縦位沈線を施し斜位短沈線を充填する。下半は弧状短沈線を施す。	中期後葉信州系

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第335図 PL.210	5	深鉢 覆土 口縁～体部上半 1/3 残存 口：(16.0)	①粗：石英・輝石・雲母 ②明赤褐色	口縁部は僅かに内湾し幅広の無文部を設ける。体部は横位隆線で画され、2条隆線による弧状懸垂文と縦位腕手状意匠が配される。側線は沈線で、空白部は斜位短沈線を充填する。体部内面に煤付着。	中期後葉信州系
第335図 PL.211	6	深鉢 床 口縁～体部下半 破片2点 口：(16.0)	①粗：輝石 ②赤褐色	口縁部は幅狭で無文。横位隆線より2条隆線による渦巻状意匠が懸垂する。横位隆線下位の2条沈線間を交互刺突文が重なる。以下横位2条沈線が多段に配され、体部を区画化する。区画内は縦位密接条線を充填する。	中期後葉信州系
第335図 PL.211	7	深鉢 +16 口縁～体部上半 残存 口：13.2	①粗：輝石・雲母 ②黒褐色	平縁の小型深鉢。口縁部隆線を設け、2条隆線による半渦巻状意匠が懸垂する。配置が変則的だが5単位を数える。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第336図 PL.211	8	深鉢 覆土 口縁～体部中位 1/2 残存 口：16.0	①粗：石英・輝石 ②鈍い橙色	突起欠損。口縁～体部内湾する。突起は隆線による渦巻文を配した板状突起か。振りを加えた柱状突起を配し、突起間を隆線で繋ぎ区画文を画する。区画内は沈線を側線とし、縦位短沈線を充填する。体部は上端渦巻文の懸垂文、縦位蛇行隆線、縦位楕円状連接文が配される。空白部は弧状沈線を施す。沈線は細く深い施文である。	中期後葉信州系
第336図 PL.211	9	深鉢 +19 体部上半 1/3 残存	①細：輝石 ②暗赤褐色	体部上位に弧状隆線。口縁部区画下端か。縦位波状隆線と連接する縦位楕円状意匠による懸垂文構成。空白部は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系
第336図 PL.211	10	浅鉢 +14 口頸部 1/2 残 存	①細：石英・雲母少 ②鈍い橙色	口縁部は無文。頸部と体部の屈曲は強い。低位隆線による区画文と渦巻文を交互に配する。渦巻文側線は沈線。区画内は縦位短沈線を充填する。下位には弧状突起を付し幅狭の楕円状意匠を配し刺突文を重ねる。	中期後葉信州系
第336図 PL.211	11	浅鉢 +15 口頸部 1/3 残 存	①粗：石英・輝石 ②橙色	口縁部は無文か。頸部と体部の屈曲は強い。低位隆線による接続した渦巻文と区画文構成。側線は沈線で横位矢羽状短沈線・放射状短沈線を充填する。下位に弧状意匠を付す幅狭楕円状意匠を配し、刺突文を重ねる。	中期後葉信州系 54住14が接合
第336図 PL.211	12	浅鉢 床 口頸部 1/3 残 存	①粗：石英・輝石 ②橙色	口縁部外反し無文。頸部は接続した渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線で短沈線を充填する。下位には弧状突起を付す幅狭楕円状意匠を配し刺突文を重ねる。	中期後葉信州系
第336図 PL.211	13	深鉢 床 体部中位のみ残 存	①粗：石英・雲母多 ②鈍い赤褐色	2条隆線と縦位波状隆線による懸垂文構成。おそらく4単位か。空白部には斜位・縦位矢羽状短沈線を充填する。内面上半に被熱痕を見る。	中期後葉信州系
第336図 PL.211	14	深鉢 +40 口縁～体部上半 1/5 残存 口：(18.8)	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	波底部に配される隆線による渦巻文。上端が突出する。区画文と連結するが、波頂部意匠は不明。体部は2条隆線による懸垂文構成。無節Lを充填施文するか。体部は疎らな施文。	中期後葉古
第336図 PL.211	15	深鉢 覆土 体部中位 1/3 残存	①粗：小礫・輝石 ②橙色	内湾する体部中位。隆線による渦巻文を配し、2・3条の垂下隆線による懸垂文構成を呈す。縦位LRを充填する。	中期後葉東北系
第336図 PL.211	16	深鉢 覆土 1/2 残存 口：10.0 高：14.1 底：4.6	①粗：石英少・輝石少 ②赤褐色	小型深鉢。あるいは深鉢ミニチュアか。口縁部は緩やかに内湾する。幅広の無文部で、頸部隆線はやや太い。体部は無節L縦位施文が覆う。内面口唇部及び底部に煤が付着する。	中期後葉古
第336図 PL.211	17	深鉢 覆土 口縁～体部下半 2/3 残存 口：10.0	①粗：石英・輝石 ②明赤褐色	小型深鉢。あるいは深鉢ミニチュアか。筒状の器形を呈す。口縁部沈線は深く深い施文。体部は縦位RLが覆う。乱雑な施文。内面煤付着。	中期後葉古
第337図 PL.211	18	深鉢 +4 口縁部・体部破 片6点 口：(41.6)	①粗：石英・雲母大多 ②暗褐色	大型深鉢か。口縁部内面は肥厚。体部は薄手の器厚で、押圧を加えた口縁部隆線より2条隆線がクランク状に派生し、渦巻文や弧線文に連接する。縄文は上半が横位、下半が縦位LRを施す。	中期後葉古
第337図 PL.211	19	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②暗褐色	口縁部は緩やかに内湾する。3条の沈線による連弧状意匠か。沈線間は深い刺突文が重なる。地文は斜位LR。	中期後葉古
第337図 PL.211	20	ミニチュア +56 口縁～体部上半 破片 口：(11.6)	①細：石英 ②黒褐色	深鉢ミニチュアか。口縁～体部内湾し、口唇部内面は折り返し状に肥厚する。外面は無文。内外面とも煤が付着。	中期後葉
第337図 PL.211	21	深鉢 +41 頸部破片	①粗：石英・輝石 ②褐色	横位隆線に交互刺突文を加える。下位は沈線に沿う。縄文は縦位RLを施す。	中期後葉古
第337図 PL.211	22	深鉢 +50 口頸部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い橙色	横位2条隆線で画し、渦巻文と縦位隆線による区画文を配す。区画内は沈線を側線としRLを施す。	中期後葉古
第337図 PL.211	23	深鉢 +47 体部中位破片	①粗：白色粒・輝石 ②鈍い褐色	細隆線による不整形区画文を配す。区画内側線は撫で、縦位LRを施す。	中期後葉東北系
第337図 PL.211	24	深鉢 +39 口縁部～体部上 半破片	①粗：石英多 ②暗赤褐色	隆線による縦位S字状意匠と区画文構成。S字状意匠下端より垂下隆線が派生するか。区画内は縦位短沈線の充填。体部は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系
第337図 PL.211	25	深鉢 +55 口縁部破片	①細：輝石 ②褐色	波状縁。口唇部内面肥厚。波頂部に隆線による渦巻状意匠を縦位に配し、口縁部は区画文が連接するが、区画内は無文である。体部は渦巻状意匠下端より派生する3条の垂下隆線による懸垂文構成か。	中期後葉東北系
第337図 PL.212	26	深鉢 +39 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②暗褐色	平縁で小径の深鉢。隆線による接続した渦巻文と区画文構成。側線は沈線、斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第337図 PL.212	27	深鉢 +29 口縁部破片	①粗：輝石・雲母少 ②黒褐色	波状縁波頂部に配された隆線による渦巻文。下端が突出し、両脇に区画文を配す。区画内は沈線を側線とし、縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第337図 PL.212	28	ミニチュア 口縁部破片 +14	①粗：白色粒 ②鈍い赤褐色	深鉢ミニチュア。隆線による渦巻文を配し、下端より横位弧状隆線が派生する。縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第337図 PL.212	29	深鉢 +48	①粗：輝石少 ②褐色	口唇部は内傾気味に肥厚。以下隆線による斜位蕨手状意匠や渦巻文を配す。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第337図 PL.212	30	深鉢 +35	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	口縁部は隆線による接続した区画文と渦巻文構成。渦巻文はやや低位。区画内は斜位短沈線を充填する。体部は垂下隆線を配し空白部は短沈線2条で小区画する。地文状に縦位沈線を施す。	中期後葉信州系
第338図 PL.212	31	深鉢 +23	①粗：石英・輝石 ②暗褐色	口唇部内面肥厚。隆線による渦巻文を配し、2条隆線を弧状に派生する。側線は沈線、縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第338図 PL.212	32	深鉢 +59	①粗：小礫・輝石 ②鈍い褐色	波底部か。口唇部沈線を設ける。渦巻状突起を配し隆線が派生する。円形状区画文か。	中期後葉東北系
第338図 PL.212	33	深鉢 +44	①粗：石英 ②赤褐色	隆線による口縁部渦巻文と接続した区画文構成。区画内側線は沈線で、横位矢羽状沈線を充填する。体部は2条垂下沈線の上端を見る。	中期後葉信州系
第338図 PL.212	34	深鉢 +19	①粗：石英・輝石 ②褐色	隆線による縦位S字状突起を付す。口縁部は横位隆線により多段に分帯され、上位は突起脇の渦巻文、下位は横位沈線を配し、交互刺突文と刻みを加える。突起下端より垂下隆線が派生する。	中期後葉信州系
第338図 PL.212	35	深鉢 +6	①粗：小礫・輝石 ②暗赤褐色	波底部か。振りを加えた小突起下に2条隆線による渦巻文を配す。口縁部区画内は沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。縦位交互刺突文を加える。	中期後葉信州系
第338図 PL.212	36	深鉢 +49	①粗：石英・雲母 ②橙色	波状縁。波頂下に配される隆線による渦巻文と接続した区画文構成。側線は沈線で短沈線を放射状に施す。	中期後葉信州系
第338図 PL.212	37	深鉢 +66	①粗：石英・褐色粒 ②鈍い褐色	波状縁波頂部に隆線による渦巻文2連を縦位に配す。口唇部隆線を設け、内面は面状に肥厚する。	中期後葉東北系
第338図 PL.212	38	深鉢 +15	①粗：石英・輝石 ②褐色	内湾する口縁部。2条の沈線による口縁部連弧状意匠か。以下は無文である。	中期後葉古
第338図 PL.212	39	深鉢 +23	①粗：輝石 ②黒褐色	厚手の器厚。口唇部は内傾する。以下沈線による区画文と縦位蛇行沈線を配す。区画内は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第338図 PL.212	40	深鉢 +35	①粗：石英・雲母 ②明赤褐色	沈線による口縁部区画文構成。区画内は弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第338図 PL.212	41	深鉢 +44	①粗：石英・輝石・雲母 ②赤褐色	外反する幅広の無文口縁部。頸部に横位隆線を設け、2条隆線が懸垂する。側線は沈線。体部は弧状短沈線による縦位矢羽状文を充てる。	中期後葉信州系
第338図 PL.212	42	ミニチュア +12	①細：白色粒・石英少 ②鈍い赤褐色・暗赤褐色	破片2点を同一個体と判断した。深鉢ミニチュア。2条の垂下沈線を設け、空白部は斜位沈線を施し、矢羽状の効果を見せる。乱雑な施文。	中期後葉信州系 42・43は同一個体
第338図 PL.212	43	ミニチュア +18	①細：白色粒・石英少 ②鈍い赤褐色・暗赤褐色		
第338図 PL.212	44	浅鉢 Pit 1	①細：石英・輝石 ②褐色	屈曲部に隆線による幅狭の楕円状意匠を配す。弧状突起を付し円形刺突文を充填する。上位区画内は縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第338図 PL.212	45	深鉢 +65	①粗：輝石 ②赤褐色	側面・内面からの貫孔による中空状突起。上端内外面に隆線による渦巻文を設け、橋状把手が垂下する。把手脇に渦巻文を配し、区画内は縦位短沈線を充填する。	中期後葉東北系
第338図 PL.212	46	深鉢 +5	①粗：石英・雲母 ②黒褐色	中位で貫孔する。上端内外面に隆線による渦巻文を配し、孔外縁を隆線で縁取る。下端より2条隆線が垂下する。空白部は斜位短沈線を施す。	中期後葉東北系
第338図 PL.212	47	深鉢 +50	①粗：小礫・輝石 ②黒褐色	3方から開く中空状突起。突起本体を欠損するため全容は把握できない。下端に隆線による弧線状意匠を配す。	中期後葉東北系
第339図 PL.212	48	深鉢 +21	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	口縁部は肥厚し無文。長胴状の器形を呈す。体部は5～7条の密接条線による縦位対弧状文を施す。	中期後葉古
第339図 PL.212	49	深鉢 +56	①粗：石英・雲母 ②鈍い赤褐色	内湾する体部形態。連節2条隆線による渦巻状意匠が配される。隆線間に円形刺突文を充填する箇所もある。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第339図 PL.212	50	深鉢 +28	①粗：石英・雲母 ②黒褐色	隆線による渦巻文を配し、下端に2条隆線による逆U字状意匠が連繫する。空白部は縦位・斜位沈線を施す。	中期後葉信州系
第339図 PL.213	51	深鉢 +45	①粗：石英・雲母 ②暗赤褐色	上半は隆線によるU字状区画を配し、中位の渦巻文と連繫する。区画中位の沈線による縦位幅狭楕円文で小区画し、斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第339図 PL.213	52	深鉢 +14	①粗：石英・雲母 ②鈍い赤褐色	2条隆線による渦巻文と弧線文によるU字状区画文構成。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第339図 PL.213	53	深鉢 +11	①粗：石英・雲母多 ②暗赤褐色	2条隆線による縦長の渦巻状意匠。沈線を側線とし、斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第339図 PL.213	54	深鉢 +49	①粗：石英・雲母 ②橙色	隆線による区画文内に渦巻文が配される。区画内側線は沈線、縦位短沈線を充填する。器面磨滅。	中期後葉信州系
第339図 PL.213	55	深鉢 覆土	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色	渦巻文を付帯する2条隆線による懸垂文構成。側線は沈線。空白部には縦位・斜位密接条線を施す。	中期後葉古
第339図 PL.213	56	深鉢 +7	①細：石英 ②鈍い赤褐色	沈線による体部施文。渦巻文を中位に置いた垂下沈線による懸垂文構成。横位弧状沈線2条が繋ぐ。地文は縦位密接条線を施す。	中期後葉信州系

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調				文様の特徴等			備考		
第339図 PL.213	57	深鉢 覆土	体部破片	①粗：石英・輝石 ②赤褐色				横位沈線と隆線より、矢羽状刺突文を加えた垂下隆線2条が派生する。縦位波状沈線を施す。			中期後葉信州系	
第339図 PL.213	58	深鉢 +47	体部中位 1/2 残存	①細：石英 ②褐色				2条沈線による懸垂文構成。地文は無節L縦位・斜位施文。			中期後葉古	
第340図 PL.213	59	深鉢 +61	体部下半破片	①細：輝石 ②赤褐色				垂下沈線2・3条による懸垂文構成。斜位・弧状沈線を施す。内面に煤付着。器面磨滅。			中期後葉信州系	
第340図 PL.213	60	深鉢 +46	体部中位破片	①粗：石英・雲母 ②赤褐色				垂下沈線2条による懸垂文構成。沈線間は無文。4・5条単位の縦位密接条線を施す。			中期後葉古	
第340図 PL.213	61	鉢 +10	体部下半 1/4 ～底部残存 底：7.6	①粗：輝石 ②黒褐色				体部は2条隆線による弧状意匠あるいは大柄な渦巻状意匠が配される。内外面丁寧な研磨を施し赤彩を加える。内面赤彩は顕著。			中期後葉古	
第340図 PL.213	62	浅鉢 +18	口縁部破片	①細：石英 ②赤褐色				内湾気味に開く口縁部。内外面横位研磨を施し、赤彩を加える。			中期後葉	
第340図 PL.213	63	深鉢 +22	口縁部破片	①粗：石英 ②褐色				厚手の器厚。外傾する無文の口縁部。頸部屈曲はやや弱い。			中期後葉	
第340図 PL.213	64	深鉢 +46	口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②赤褐色				外反する無文の口縁部。頸部で強い屈曲を呈す。			中期後葉	
第340図 PL.213	65	深鉢 炉	体部下半～底部 残存 底：9.4	①粗：石英 ②褐色				刻みを付す垂下隆線と2条隆線による懸垂文構成。空白部に横位沈線2条を配す。地文は縦位密接条線を施す。			中期後葉信州系	
第340図 PL.213	66	深鉢 +16	体部下半～底部 1/3 残存 底：(9.0)	①粗：石英・輝石 ②橙色				垂下沈線2条の下端部を見る。懸垂文構成。縄文は縦位LRか。器面磨滅する			中期後葉古	
第340図 PL.213	67	深鉢 床	体部下半～底部 残存 底：6.0	①粗：石英・雲母 ②暗赤褐色				連接する2条隆線による懸垂文構成。無節L縦位施文。底部は小径。			中期後葉古	
第340図 PL.213	68	深鉢 +13	体部下半 1/4 ～底部残存 底：7.2	①粗：輝石 ②橙色				直線的に開く体部下半。垂下隆線下端部と縦位矢羽状短沈線を見る。			中期後葉信州系	
第340図 PL.213	69	深鉢 +5	底部4/5 残存 底：6.8	①細：輝石 ②明赤褐色				直立気味の体部下半。垂下沈線下端部を見る。懸垂文構成。			中期後葉古	
第340図 PL.213	70	深鉢 +20	体部下半～底部 残存 底：13.0	①粗：石英多・輝石 ②鈍い赤褐色				大型の深鉢。厚手の器厚を呈す。体部下半は無文。底面に網代痕が残る。			中期後葉	
第340図 PL.213	71	深鉢 床	体部下半～底部 残存 底：10.4	①粗：石英多・輝石 ②赤褐色				厚手の器厚を呈す大型の深鉢。内湾気味に開く体部下半。無文で底面に網代痕を残す。			中期後葉	
第340図 PL.213	72	深鉢 床	体部下半～底部 残存 底：6.2	①粗：輝石 ②橙色				器面磨滅。垂下沈線下端部を見る。			中期後葉古	
第340図 PL.213	73	深鉢 床	体部下半～底部 残存 底：6.6	①粗：石英・輝石 ②褐色				無文で直線的に開く体部下半。底面は僅かに網代痕が残る。			中期後葉	
第340図 PL.213	74	浅鉢 +28	底部1/3 残存 底：(8.0)	①粗：輝石 ②赤褐色				体部下半は内湾気味に強く開く。無文で内面は丁寧な研磨を施す。			中期後葉	
第340図 PL.213	75	深鉢 +51	体部下半1部、 底部4/5 残存 底：7.0	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色				内湾気味に強く開く体部下半。2条の垂下沈線下端部と充填文を見る。横位削り調整が顕著。			中期後葉東北系	
第340図 PL.213	76	台付き深鉢 +29	脚部破片	①粗：小礫・石英 ②暗赤褐色				ミニチュアか。脚部中位に2孔を配し、2条隆線が波状に配される。器面磨滅。			中期後葉 異系統か	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況		石材	備考
第341図 PL.213	77	石鉢	覆土	完形	2.6	1.7	0.3	0.9	凹基無茎、作りは丁寧。		黒曜石	
第341図 PL.213	78	石鉢	床	欠損	(2.7)	(1.5)	0.3	(0.7)	凹基無茎、やや細身の作り。		黒曜石	
第341図 PL.213	79	石鉢	覆土	完形	2.1	1.5	0.5	0.6	凹基無茎、片面に剥離面大きく残す。		黒曜石	
第341図 PL.213	80	石鉢	覆土	完形	1.3	1.2	0.4	0.4	凹基無茎、小型でやや厚手。		黒曜石	
第341図 PL.213	81	石鉢	覆土	完形	2.6	1.3	0.3	0.8	凹基無茎、挟り浅く弧状を呈す。やや長手で薄手の作り。		黒曜石	
第341図 PL.213	82	石鉢	覆土	欠損	1.6	1.2	0.4	0.6	先端部片。		黒曜石	
第341図 PL.214	83	石鉢	床	ほぼ 完形	1.8	1.3	0.4	0.7	凹基無茎、挟り浅く作りは粗い。		黒曜石	
第341図 PL.214	84	石鉢	覆土	欠損	(2.1)	(1.2)	0.4	(0.8)	脚の一部を欠く。		黒曜石	
第341図 PL.214	85	石鉢	覆土	完形	3.0	1.9	0.8	3.3	平基無茎、基部厚く先端部が薄く作られる。未製品か。石錐の可能性も。		黒曜石	
第341図 PL.214	86	石鉢	覆土	欠損	(3.0)	(1.9)	0.5	(1.7)	凹基無茎、挟りやや浅い、大型品で両脚を欠く。		黒曜石	
第341図 PL.214	87	石鉢	覆土	完形	2.9	1.7	0.6	2.3	片側側縁部は未調整、未製品か。		黒曜石	
第341図 PL.214	88	石鉢	覆土	完形	2.0	1.7	0.5	1.3	平基無茎、片面に大きく剥離面残す。基部に厚み有り。		黒曜石	



### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第341図 PL.214	89	石鏃	覆土	欠損	(2.1)	(1.0)	0.3	(0.5)	先端部片、両脚を欠く。作りは丁寧。	黒曜石	
第341図 PL.214	90	石鏃	覆土	欠損	(1.5)	(1.0)	0.4	(0.4)	先端部片か。	黒曜石	
第341図 PL.214	91	石鏃	覆土	欠損	(1.7)	(1.0)	0.5	(0.6)	やや細身の先端部片、やや厚手の作り。	黒曜石	
第341図 PL.214	92	石鏃	覆土	欠損	(1.1)	(1.1)	0.5	(0.4)	先端部片。	黒曜石	
第341図 PL.214	93	石鏃	覆土	欠損	(2.0)	(1.2)	0.3	(0.6)	凹基無茎、挟り深く片脚および先端部を欠く。	黒曜石	
第341図 PL.214	94	石鏃	覆土	欠損	(2.9)	(1.9)	0.3	(1.4)	凹基無茎、挟り深い。片脚および先端部を欠く。	黒色頁岩	
第341図 PL.214	95	石鏃	覆土	欠損	(1.2)	1.5	0.3	(0.5)	凹基無茎、挟り浅く脚が開く、先端部を欠く。	黒曜石	
第341図 PL.214	96	石鏃	覆土	欠損	(1.8)	1.9	0.3	(1.4)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒色安山岩	
第341図 PL.214	97	石鏃	覆土	欠損	(1.0)	(1.1)	0.2	(0.2)	平基無茎の小型品か。	黒曜石	
第341図 PL.214	98	石鏃	覆土	欠損	(1.0)	(1.1)	0.2	(0.1)	脚部片。	黒曜石	
第341図 PL.214	99	石鏃	覆土	欠損	(1.1)	(1.3)	0.3	(0.4)	平基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第341図 PL.214	100	石鏃	覆土	欠損	(2.0)	1.5	0.4	(1.1)	平基無茎、作り粗く、先端部を欠く。	黒曜石	
第341図 PL.214	101	石鏃	覆土	欠損	(2.6)	(1.3)	0.4	(1.1)	板状剥片を素材とする、縁辺部に剥離調整。縦に破損か。	黒曜石	
第341図 PL.214	102	石鏃	床	欠損	(2.2)	(1.8)	0.4	(1.3)	平基無茎か。	黒曜石	
第341図 PL.214	103	石鏃	覆土	欠損	(1.2)	(1.9)	0.3	(0.6)	凹基無茎、挟り浅く薄手である。先端部を欠く。	黒曜石	
第342図 PL.214	104	石錐	覆土	完形	2.8	0.6	0.4	0.4	小型で細身の棒状錐。	黒曜石	
第342図 PL.214	105	石錐	覆土	完形	4.1	2.0	0.8	2.4	つまみ有す。錐部は真っ直ぐで丁寧に剥離調整。	珪質変質岩 (流紋岩質凝灰岩)	
第342図 PL.214	106	打製石 斧	覆土	完形	10.7	4.4	1.5	84	短冊形、僅かに刃部広がりを持つ。使用痕有り。	黒色安山岩	
第342図 PL.214	107	打製石 斧	覆土	完形	11.5	4.3	1.7	106	短冊形、僅かに刃部広がりを持つ。基部両側縁に浅い挟り見られる。	黒色頁岩	
第342図 PL.214	108	打製石 斧	覆土	完形	16.9	6.2	2.8	286	撥形、厚手で、作りは粗い。	細粒輝石安山岩	
第342図 PL.214	109	打製石 斧	覆土	完形	10.9	4.1	1.8	83	短冊形、中央部がわずかに肥厚、刃部は薄くなる。	黒色安山岩	
第342図 PL.214	110	打製石 斧	覆土	完形	11.8	5.2	1.9	139	撥形、基部側面に自然面残る。刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第342図 PL.214	111	打製石 斧	覆土	完形	10.0	4.6	2.0	103	撥形、基部は瘤状に肥厚、刃部摩耗し偏刃である。	細粒輝石安山岩	
第342図 PL.214	112	打製石 斧	覆土	完形	14.3	5.7	2.4	216	撥形、片面に自然面残る。刃部は薄手。	紫蘇輝石普通輝 石安山岩	
第342図 PL.214	113	打製石 斧	覆土	完形	12.1	5.0	2.1	157	短冊形、片面に大きく自然面を持つ。粗い作り。	紫蘇輝石普通輝 石安山岩	
第342図 PL.214	114	打製石 斧	覆土	完形	13.4	5.2	2.1	158	撥形、基部やや厚く刃部は薄くなる。	黒色安山岩	
第342図 PL.214	115	打製石 斧	覆土	完形	10.8	5.8	1.2	98	撥形、薄刃で円く広がる。	紫蘇輝石普通輝 石安山岩	
第342図 PL.214	116	打製石 斧	覆土	完形	11.6	5.6	1.8	112	撥形、刃部丸みを呈し摩耗顕著。	黒色安山岩	
第343図 PL.214	117	打製石 斧	覆土	完形	9.9	4.4	1.5	95	撥形、基部分に自然面、片側縁は厚く未調整。刃部摩耗。	黒色安山岩	
第343図 PL.214	118	打製石 斧	覆土	完形	10.8	4.9	1.6	103	撥形、刃部の摩耗顕著。	黒色安山岩	
第343図 PL.214	119	打製石 斧	覆土	ほぼ 完形	10.1	4.6	1.4	103	短冊形、基部両側に僅かに挟りが見られる。刃部一部を欠く。	黒色安山岩	
第343図 PL.214	120	打製石 斧	覆土	完形	9.2	4.7	1.4	77	撥形、やや小型で片面に自然面残す。	細粒輝石安山岩	
第343図 PL.214	121	打製石 斧	覆土	完形	12.0	4.9	1.4	93	撥形、刃部が尖りやや雑な作り。	粗粒輝石安山岩	
第343図 PL.214	122	打製石 斧	覆土	欠損	8.3	4.1	0.7	28	小型板状、刃部を欠く。	黒色安山岩	
第343図 PL.214	123	打製石 斧	覆土	完形	6.9	4.7	1.9	63	小型で短い撥形、基部厚く刃部は薄く作られる。	黒色安山岩	
第343図 PL.214	124	打製石 斧	覆土	完形	9.2	4.4	1.3	72	短冊形、僅かに刃部が広い。	細粒輝石安山岩	
第343図 PL.214	125	打製石 斧	覆土	ほぼ 完形	(10.3)	5.9	1.6	(121)	撥形、片面に大きく自然面、刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第343図 PL.214	126	打製石斧	覆土	完形	9.7	4.3	1.3	69	短冊形だがやや不定形、刃部摩耗。	黒色安山岩	
第343図 PL.214	127	打製石斧	覆土	ほぼ完形	(12.3)	5.1	2.2	(165)	撥形、基部は厚く刃部に向かって薄くなる。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第343図 PL.214	128	打製石斧	覆土	欠損	(6.7)	5.4	1.0	(59)	薄刃の撥形刃部片、自然面残る。刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第343図 PL.214	129	打製石斧	覆土	完形	(10.0)	5.1	1.5	(111)	短冊形、板状で刃部摩耗。基部を僅かに欠損か。	細粒輝石安山岩	
第343図 PL.214	130	打製石斧	覆土	欠損	(4.9)	5.1	1.2	(37)	刃部片、摩耗見られ、煤付着。	細粒輝石安山岩	
第343図 PL.214	131	打製石斧	覆土	欠損	(6.8)	5.7	2.0	(94)	刃部片、やや厚手で鋭利さは見られず。全体にやや風化。	細粒輝石安山岩	
第343図 PL.214	132	打製石斧	覆土	欠損	(8.8)	4.5	1.5	(74)	基部片と思われる、片面が自然面で断面カマボコ状である。	細粒輝石安山岩	
第343図 PL.215	133	打製石斧	覆土	欠損	(7.5)	4.5	1.8	(81)	基部片、片面に自然面。	細粒輝石安山岩	
第344図 PL.215	134	打製石斧	覆土	欠損	(11.8)	4.8	1.8	(139)	撥形、片側縁は無調整、刃部を欠く。	黒色安山岩	
第344図 PL.215	135	打製石斧	覆土	欠損	(9.6)	5.5	1.6	(116)	撥形、板状の礫から作り出す。両面に自然面残る。刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第344図 PL.215	136	打製石斧	覆土	欠損	(8.0)	5.4	1.9	(59)	撥形か、基部両側縁に浅い抉り、刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第344図 PL.215	137	打製石斧	覆土	欠損	(14.2)	6.1	2.3	(257)	やや大型の撥形か、刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第344図 PL.215	138	打製石斧	覆土	欠損	(6.5)	3.3	0.9	(25)	細身で基部に抉りを持つ形状の打製石斧か。	黒色安山岩	
第344図 PL.215	139	打製石斧	覆土	欠損	(10.1)	6.0	2.5	(215)	やや大型で厚手の基部片か。	粗粒輝石安山岩	
第344図 PL.215	140	打製石斧	覆土	欠損	(11.2)	5.1	2.3	(166)	撥形、厚手で、作りは粗い。刃部欠損。被熱。	細粒輝石安山岩	
第344図 PL.215	141	打製石斧	床	欠損	(8.6)	5.3	2.5	(105)	粗い作りの基部片。	細粒輝石安山岩	
第344図 PL.215	142	打製石斧	覆土	欠損	(5.8)	5.2	1.2	(53)	刃部片と思われる、薄手の作り。	黒色安山岩	
第344図 PL.215	143	打製石斧	覆土	欠損	(8.2)	4.8	0.8	(34)	板状で極めて薄い、剥離したものか。基部片。	黒色安山岩	
第344図 PL.215	144	打製石斧	覆土	欠損	(5.7)	5.1	1.2	(58)	板状で両面に自然面残る。刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第344図 PL.215	145	打製石斧	覆土	欠損	(6.3)	4.9	1.4	(55)	やや薄手の基部片か。	黒色安山岩	
第344図 PL.215	146	打製石斧	覆土	欠損	(8.5)	4.7	1.0	(42)	撥形か、薄手で刃部を欠く。また基部側縁部に浅く抉り。	黒色安山岩	
第344図 PL.215	147	打製石斧	覆土	欠損	(3.6)	4.2	0.8	(18)	薄手の破損品。	黒色安山岩	
第344図 PL.215	148	打製石斧	覆土	欠損	(8.4)	4.9	1.3	(95)	板状で自然面残す。刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第344図 PL.215	149	打製石斧	覆土	欠損	(5.1)	5.3	1.2	(39)	基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	
第344図 PL.215	150	打製石斧	覆土	欠損	(6.5)	4.5	1.3	(48)	先端が尖る、刃部と思われるが基部の可能性もある。	黒色頁岩	
第344図 PL.215	151	小型磨製石斧	覆土	完形	4.1	2.0	0.7	10.9	小型定角式磨製石斧、ほぼ全面丁寧な研磨。基・刃部敲打による成形。	蛇紋岩	
第345図 PL.215	152	磨製石斧	覆土	欠損	9.9	5.4	2.3	210	やや幅広の作り、刃部欠損後再利用か。	蛇紋岩	
第345図 PL.215	153	磨石	覆土	完形	5.7	5.5	5.4	90	小球で白色を呈す。やや軟質で若干の整形痕見られる。	安山岩	
第345図 PL.215	154	磨石	覆土	完形	7.3	6.5	5.4	342	小円礫利用、黒色の付着物(煤か)。	粗粒輝石安山岩	
第345図 PL.215	155	磨石	覆土	完形	7.8	6.3	6.2	436	卵形の小円礫利用。	粗粒輝石安山岩	
第345図 PL.215	156	磨石	覆土	完形	6.1	5.2	4.0	172	小型の円礫利用、表面に若干の使用痕。	粗粒輝石安山岩	
第345図 PL.215	157	磨石	覆土	完形	4.3	3.9	3.3	74	小円礫、顕著な使用痕は見られず。	安山岩	
第345図 PL.215	158	磨石	覆土	完形	6.8	6.4	5.0	332	丸く厚みを持ったおむすび形を呈す、平坦な下面を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	
第345図 PL.215	159	磨石	覆土	完形	7.0	5.7	5.5	302	小円礫利用、ほぼ全面使用。	粗粒輝石安山岩	
第345図 PL.215	160	磨石	覆土	完形	6.2	4.1	3.1	117	卵形の小礫利用。	粗粒輝石安山岩	
第345図 PL.215	161	磨石	覆土	完形	4.9	4.9	4.4	156	小円礫であるが、平坦部を有し使用面としたものか。	粗粒輝石安山岩	
第345図 PL.215	162	磨石	覆土	完形	9.7	5.5	3.5	312	やや細長い扁平な円礫利用、方面平滑で側縁に打痕。	粗粒輝石安山岩	

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第345図 PL.215	163	磨石	覆土	完形	10.3	5.6	3.5	376	厚手の小判形を呈す、両面、側面を使用、使用面平滑で被熱。	粗粒輝石安山岩	
第345図 PL.215	164	磨石	覆土	完形	8.0	5.5	4.3	308	平坦な下面を使用面とし、端部を敲打面としている。	粗粒輝石安山岩	
第345図 PL.215	165	磨石	覆土	完形	8.5	5.4	3.0	206	平坦な小円礫、両面使用面とし、浅い打痕が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第345図 PL.215	166	磨石	覆土	完形	11.9	6.9	5.0	670	やや扁平な長円礫利用、両面使用で平滑、両端部に打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第346図 PL.215	167	磨石	覆土	完形	14.4	7.5	3.4	670	扁平な礫で片面が浅く凹む、浅い打痕が表裏および端部に見られる。	粗粒輝石安山岩	
第346図 PL.215	168	磨石	覆土	完形	11.2	5.4	4.3	428	細長い礫を利用、両端部に打痕。表面鉄分沈着層に覆われる。	石英閃緑岩	炉内石棒
第346図 PL.215	169	磨石	炉	完形	17.2	6.1	4.3	670	やや扁平な棒状で、両面に浅い打痕が連続し、端部にも打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第346図 PL.215	170	磨石	覆土	完形	10.1	7.3	5.8	540	やや細長い円礫利用、一面に浅い凹みを有す。	粗粒輝石安山岩	
第346図 PL.215	171	凹石	覆土	完形	11.5	7.9	4.9	530	やや扁平な長円礫、両面に浅い凹み穴(2穴)見られる。	粗粒輝石安山岩	
第346図 PL.215	172	磨石	覆土	完形	9.5	5.3	1.9	158	扁平な川原石利用。表面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第346図 PL.215	173	凹石	床	完形	12.0	9.1	4.1	600	不定形な扁平礫、発泡質でざらついた石質で両面に浅い打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第346図 PL.215	174	磨石	覆土	欠損	(5.9)	(3.6)	4.2	(114)	小破片、片面平坦である。	粗粒輝石安山岩	
第346図 PL.215	175	磨石	床	欠損	(9.9)	5.8	5.7	(379)	やや扁平な棒状か、顕著な使用痕は見られない。	粗粒輝石安山岩	
第346図 PL.216	176	磨石	覆土	欠損	(4.5)	(5.2)	4.1	(138)	端部片で、側縁部に抉れ見られる。	粗粒輝石安山岩	
第346図 PL.216	177	磨石	覆土	欠損	(8.0)	5.6	3.5	(274)	やや扁平な棒状、端部に僅かに打痕。	石英閃緑岩	
第346図 PL.216	178	凹石	覆土	欠損	(7.8)	5.0	2.9	(200)	扁平な棒状で片面に大きく凹みを有す、半分に分れて	粗粒輝石安山岩	
第347図 PL.216	179	磨石	覆土	欠損	(8.2)	6.9	4.8	(392)	側縁に稜を有す定形で両面、側面使用により平滑、被熱見られる。	粗粒輝石安山岩	
第347図 PL.216	180	磨石	覆土	欠損	(6.9)	5.5	4.4	(262)	断面三角の棒状を呈すか、端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第347図 PL.216	181	凹石	覆土	完形	12.7	11.4	4.4	600	不定形で発泡質の礫の両面に凹み穴が見られる。被熱。	軽石(輝石安山岩質)	
第347図 PL.216	182	台石	覆土	完形	28.0	15.4	5.7	3,540	板状の自然礫を利用、平坦な両面を利用か、鉄分沈着見られる。	粗粒輝石安山岩	
第347図 PL.216	183	石皿	覆土	欠損	(22.4)	(5.3)	3.6	(1,170)	縦半分に割れた片岩利用の石皿で手前側がやや薄くなる。被熱あり。	緑色片岩	

95-57号住居跡(第353~358図: PL.216~218)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②土調	文様の特徴等	備考
第353図 PL.216	1	深鉢 床 口縁~体部上半 4/5残存 口: 24.2	①粗: 石英・雲母 ②黒褐色	肥厚する口縁部は無文。体部上半は2条隆線による渦巻文と弧状意匠が接続する区画文構成。8単位か。区画内は横位矢羽状短沈線を充填する。下半は沈線によるU字状区画文が配される。区画内は縦位波状沈線が小区画し斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第353図 PL.216	2	深鉢 床 口縁~体部上半 1/3残存 口: (24.0)	①粗: 石英・雲母 ②暗褐色	隆線による接続した渦巻文と区画文構成。沈線を側線とし、斜位短沈線を充填する。体部は2条沈線が垂下する懸垂文構成。逆U字状懸垂文も配される。他は無文。	中期後葉古
第353図 PL.216	3	深鉢 +30 口縁~体部中位 1/3残存 口: (20.0)	①粗: 石英・輝石 ②暗褐色	内湾する口縁部に沈線による連弧状意匠を配す。頸部隆線を配し縦位S字状意匠を配す。下端より垂下する2条は分岐隆線と接続しU字状意匠となる。区画内は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第353図 PL.216	4	深鉢 +11 口縁~体部中位 3/4残存 口: 17.8	①粗: 石英・雲母 ②黒褐色	隆線による渦巻文を口縁部上位に配し下端を2条隆線が繋ぐ区画文。区画内は沈線を側線とし、縦位短沈線を充填する。体部は渦巻文直下より2条隆線が懸垂し中位に渦巻文を設ける。波底部対応域に1条の垂下降線を付す。空白部は斜位短沈線を充填する。5単位構成か。	中期後葉信州系
第353図 PL.216	5	深鉢 炉 体部中位のみ残存	①粗: 石英・雲母 ②明赤褐色	2条隆線による大柄の渦巻文を配し上端に剣先状意匠を接続する。4単位構成である。上半には弧状隆線が接し円形刺突文が沿う。空白部は3条の横位短沈線で小区画され、斜位・縦位短沈線を充填する。内面上半に被熱痕跡を見る。	中期後葉信州系
第353図 PL.216	6	深鉢 +26 口縁~体部上半 破片	①粗: 輝石 ②黒褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内側縁は沈線と刺突文。横位RLを充填する。体部は2条沈線で画された磨消部懸垂文構成。縦位RLを充填する。	中期後葉新

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第353図 PL.216	7	深鉢 覆土 口縁～頸部破片	①粗：石英・輝石 ②灰褐色	口縁部波状突起。波頂部に渦巻文を配し、口縁部は隆線による区画文を構成する。側線は沈線で無節Rを充填する。頸部隆線より体部に弧状隆線が派生し、弧状沈線を施す。蕨手状懸垂文か。	中期後葉新
第353図 PL.216	8	深鉢 +29 口縁部破片	①粗：石英 ②灰褐色	口縁部内湾。2条の横位沈線を設け、沈線間を円形刺突文が充填される。以下縦位RLを施す。	中期後葉新
第353図 PL.216	9	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色	隆線による渦巻き文、楕円文構成か、楕円文部刺突文が巡る。縄文施文。隆線下部、垂下沈線上端部見える。	中期後葉
第353図 PL.216	10	深鉢 +30 口縁～体部中位 破片	①粗：石英・褐色粒 ②橙色	小型深鉢。口縁部内湾し体部中位で括れるキャリパー状を呈する。縦位RLRが器面を覆う。	中期後葉新
第353図 PL.216	11	鉢 炬 体部破片	①細：石英(少)・輝石(少) ②灰黄褐色	あるいは浅鉢か。内外面赤彩。外面は斜位RLが覆う。	後期中葉以降
第353図 PL.216	12	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い赤褐色	口唇部に凹線と横位隆線を設ける。以下環状意匠を配し下端より派生した隆線が区画文を画す。区画内側線は沈線、斜位短沈線を充填する。やや乱雑な施文。	中期後葉信州系
第353図 PL.216	13	深鉢 覆土 口縁～体部上半 破片	①粗：石英少・輝石 ②赤褐色	口唇部内外面肥厚。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。渦巻文下端は開放され、垂下隆線2条が垂下する。区画内は沈線と刺突文を側線とし斜位短沈線を充填する。体部は弧状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第353図 PL.216	14	深鉢 +31 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②明赤褐色	口唇部内稜を設ける。口唇部直下に隆線による渦巻文を配し垂下隆線が派生し区画文を構成する。区画内は沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第354図 PL.216	15	深鉢 +27 口縁部破片	①粗：石英・輝石・雲母 ②褐色	波状縁。波頂部に大柄の隆線渦巻文を設け区画文を配す。区画内は沈線を側線とし弧状短沈線を充填する。頸部隆線に波状突起を付す。体部は縦位・弧状沈線を施す。	中期後葉信州系
第354図 PL.217	16	深鉢 +31 口縁部破片	①粗：石英・輝石・雲母少 ②橙色	口縁部は扁平で隆線による連続した渦巻文と区画文を配す。縦位弧状短沈線を充填する。体部も短沈線施文か。	中期後葉信州系
第354図 PL.217	17	深鉢 +27 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②黒褐色	波状縁。低位隆線による渦巻文を波頂部に配す。側線は沈線で、隆線上にまで施文。沈線で画された区画内は弧状短沈線を充填する。頸部隆線に波状突起を付し、体部は沈線による小渦巻文や短沈線を施す。	中期後葉信州系
第354図 PL.217	18	深鉢 +24 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②褐色	内湾する無文口縁部。頸部に2条隆線を設け、渦巻状突起を付し、突起両下端より隆線が体部へ垂下する。体部は縦位沈線群を施す。	中期後葉信州系
第354図 PL.217	19	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②灰褐色	隆線による口縁部区画文。区画内側線は沈線で横位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第354図 PL.217	20	深鉢 床 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②黒褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線で縦位短沈線を充填する。渦巻文下端より垂下隆線が派生する。やや軟質な感を受ける。	中期後葉信州系
第354図 PL.217	21	深鉢 +25 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②暗赤褐色	隆線による渦巻文を配す。上位は縦位刺突文を側線とする。隆線が派生し区画文を画するか。斜位沈線を施す。	中期後葉信州系
第354図 PL.217	22	深鉢 +32 口縁部破片	①粗：石英・雲母 ②黒褐色	振りを加えた縦位突起を設け、隆線で画された方形区画文を配す。区画内は横位沈線を充填し、細隆線による渦巻文や沈線による横位波状文を加える。	中期後葉信州系
第354図 PL.217	23	深鉢 +7 体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②暗赤褐色	上半に隆線によるS字状意匠と区画文を配す。区画内は隆線で重区画され、円形刺突文や横位波状沈線を充填する。S字状意匠下端より垂下隆線2条が派生する。体部に隆線渦巻文を配す。空白部は縦位・横位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第354図 PL.217	24	深鉢 覆土 体部中位破片	①粗：石英・輝石 ②褐色	2条隆線による大柄の渦巻文を配す。下端より2条隆線が2組垂下する。側線は沈線で、短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第355図 PL.217	25	深鉢 +25 口頸部～体部上 半破片	①粗：石英・雲母 ②暗赤褐色	隆線によるS字状懸垂文、接続して左右にも延びる。空隙部には斜位の集合沈線。	中期後葉信州系
第355図 PL.217	26	深鉢 +30 口頸部～体部上 半破片	①粗：石英・雲母 ②暗赤褐色	内湾する口縁部に沈線を施す。頸部隆線を配し縦位S字状意匠を配す。隆線側線は沈線、縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第355図 PL.217	27	深鉢 +23 体部上半破片	①粗：輝石 ②赤褐色	隆線による大柄の渦巻文と弧状意匠か。隆線側線は沈線で弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第355図 PL.217	28	深鉢 覆土 口頸部～体部上 半破片	①粗：石英・輝石 ②暗赤褐色	2条の垂下隆線と横位隆線で画される区画文。区画内は斜位短沈線と横位沈線・交互刺突文を充填する。横位隆線下端は円形刺突文を側線とし、縦位交互刺突文が垂下する。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第355図 PL.217	29	深鉢 覆土 体部中位破片	①粗：石英・輝石 ②褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調				文様の特徴等		備考	
第355図 PL.217	30	深鉢 覆土	体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②明赤褐色				沈線のみの施文か。横位沈線2条が弧状に垂下し区画文を配す。区画間に小渦巻文を設ける。上半の区画内は横位沈線を見る。下半区画は縦位波状沈線を中位に設け、縦位矢羽状短沈線を充填する。		中期後葉信州系	
第355図 PL.217	31	覆土	体部下半破片	①粗：石英・輝石 ②明赤褐色				沈線による縦位重弧文施文後、沈線による蛇行懸垂文。		中期後葉信州系	
第355図 PL.217	32	深鉢 +40	口縁部破片	①粗：石英・輝石・雲母 ②鈍い赤褐色				口縁部区画文。頸部に2条隆線を設ける。区画内は横位矢羽状短沈線を充填する。体部は弧状隆線が派生する。		中期後葉信州系	
第355図 PL.217	33	浅鉢 +4	口縁部破片	①細：輝石多 ②明赤褐色				口縁部外面は僅かに肥厚し、内面は突出する。外面は横位研磨を施し、内面は撫で調整に止まる。		中期後葉	
第355図 PL.217	34	深鉢 覆土	口縁部突起片	①粗：石英・雲母 ②暗赤褐色				縦位橋状把手。上端は内外面とも渦巻文を配す。上端より垂下した隆線が両下端で渦巻状意匠となる。側線は沈線で縦位渦巻状意匠や縦位交互刺突文が埋められる。内面孔も設けられ3方からの貫孔となる。		中期後葉信州系	
第355図 PL.217	35	深鉢 +29	口縁部突起片	①粗：石英多 ②黒褐色				橋状把手。上端に隆線による渦巻状意匠を配す。		中期後葉古	
第355図 PL.217	36	深鉢 +10	体部下半～底部 底：6.7	①粗：石英・輝石 ②赤褐色				垂下沈線下端部を見る。あるいは低位隆線側線か。縦位LRを充填する施文部懸垂文構成。4単位か。		中期後葉新	
第355図 PL.217	37	浅鉢 床	体部～底部 底：9.4	①粗：石英 ②浅黄褐色				あるいは深鉢か。無文で強く開く体部形態。内外面とも研磨を施す。器面磨滅。		中期後葉	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第355図 PL.217	38	石鉢	覆土	欠損	(1.2)	1.7	0.4	(0.5)	平基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第355図 PL.217	39	石鉢	Pit 3	ほぼ 完形	(1.9)	(1.4)	0.3	(0.7)	凹基無茎、小型品。	黒曜石	
第355図 PL.217	40	石鉢	+41	完形	1.6	1.3	0.4	0.5	凹基無茎、小型品、やや雑な作り。	黒曜石	
第355図 PL.218	41	石鉢	覆土	完形	2.3	0.8	0.2	0.3	やや曲がった細い板状の剥片利用、先端部に若干の刃部調整。	黒曜石	
第356図 PL.218	42	打製石 斧	+20	完形	(11.4)	5.6	1.6	(132)	撥形、刃部の広がり弱い、やや薄手で作りは粗い。	細粒輝石安山岩	
第356図 PL.218	43	打製石 斧	+35	欠損	(11.0)	4.6	2.0	(133)	短冊形、刃部は剥離したものかやや薄手で丸みを有す。	黒色安山岩	
第356図 PL.218	44	打製石 斧	+23	欠損	(5.6)	4.1	2.1	(57)	厚みのある基部片。	細粒輝石安山岩	
第356図 PL.218	45	打製石 斧	+39	欠損	(5.1)	5.0	1.2	(38)	撥形の刃部片、刃部は使用による摩耗痕顕著。	黒色安山岩	
第356図 PL.218	46	打製石 斧	+23	完形	5.0	3.8	1.0	19	小型で短身、刃部直線的に開き、細かい調整剥離はほとんど見られず。	細粒輝石安山岩	
第356図 PL.218	47	打製石 斧	+38	欠損	(6.5)	5.9	1.7	(65)	刃部片、片面に大きく自然面が残る。刃部の作出は粗い。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第356図 PL.218	48	打製石 斧	+29	欠損	(9.1)	5.6	1.8	(109)	撥形、刃部を欠く。基端部は薄く、全体にやや作りが粗い。	細粒輝石安山岩	
第356図 PL.218	49	打製石 斧	+15	欠損	(10.4)	4.5	1.8	(89)	撥形か、刃部の広がり弱い、刃部欠損。	黒色安山岩	
第356図 PL.218	50	磨製石 斧	床	欠損	(12.8)	5.4	3.0	(401)	刃部を欠き、稜にやや丸みを有す形状、側縁下部から片面に敲打痕。	蛇紋岩	
第356図 PL.218	51	小型磨 製石斧	床	欠損	(5.1)	2.9	1.7	(43)	やや小型の定角式磨製石斧の基部片。	蛇紋岩	
第356図 PL.218	52	磨製石 斧	+13	欠損	(3.8)	(4.8)	(1.0)	(24)	磨製石斧の側面部剥離片、研磨面は平滑で光沢あり。	蛇紋岩	
第356図 PL.218	53	磨石	床	完形	6.3	4.9	2.8	136	小型の扁平円礫利用、全面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第356図 PL.218	54	磨石	床	完形	9.6	8.5	7.7	900	拳大の円礫。全面比較的平滑である。	粗粒輝石安山岩	
第356図 PL.218	55	磨石	炉	完形	13.1	7.5	5.2	710	扁平な長円礫利用、顕著な使用痕見られず面はあまり平滑ではない。	粗粒輝石安山岩	
第356図 PL.218	56	磨石	炉	完形	12.5	6.2	4.3	540	やや細長い川原石を利用、両面使用。炉内出土。	粗粒輝石安山岩	
第356図 PL.218	57	磨石	床	完形	12.9	5.8	4.2	510	やや細長い扁平な川原石を使用、一面使用し平滑、一部に煤付着。	粗粒輝石安山岩	
第357図 PL.218	58	磨石	床	完形	10.7	9.9	4.0	520	不定形で扁平な円礫利用、比較的平らな一面を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	
第357図 PL.218	59	磨石	+6	完形	13.0	10.2	3.6	620	やや発泡質の扁平礫、両面は比較的平滑。	石英閃緑岩	
第357図 PL.218	60	磨石	+26	欠損	11.0	9.5	5.4	800	扁平な円礫利用、両面使用し平滑、被熱見られる。	石英閃緑岩	
第357図 PL.218	61	磨石	+13	完形	10.0	7.9	4.3	488	不定形で扁平な円礫利用、やや膨らむ面を使用面とする。	石英閃緑岩	
第357図 PL.218	62	磨石	+22	完形	12.4	5.7	3.9	422	やや扁平な棒状礫利用、表面平滑で打痕等は見られない。	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第357図 PL.218	63	磨石	+8	完形	12.2	6.8	4.7	510	やや細長い川原石利用、比較的平らな一面を磨り面とする。	粗粒輝石安山岩	
第357図 PL.218	64	磨石	炉	完形	13.3	6.3	5.0	590	断面三角の棒状礫利用、平坦部および端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第358図 PL.218	65	磨石	床	完形	13.7	5.2	4.0	490	やや扁平な棒状礫利用、あまり顕著な使用面は見られない。	粗粒輝石安山岩	
第358図 PL.218	66	台石	+6	完形	15.1	7.8	3.8	790	半月形の平らな礫利用、平坦な一面を作業面とする。	石英閃緑岩	
第358図 PL.218	67	礫器	+42	ほぼ 完形	10.6	8.1	1.8	198	楕円形の剥離片を利用、周辺部を刃部状に整形。被熱見られる。	粗粒輝石安山岩	
第358図 PL.218	68	台石	+4	完形	22.5	8.1	5.7	1,170	やや細長い大型扁平礫の両面を使用、平滑で平坦である。	粗粒輝石安山岩	
第358図 PL.218	69	敲石	+7	完形	16.3	5.4	4.2	500	棒状礫利用、両端部および側面部分に複数の打痕。表面に鉄分沈着。	安山岩?	
第358図 PL.218	70	凹石	炉	完形	12.7	11.5	4.2	850	ほぼ円形で扁平な自然礫利用、表面中央に凹みを有す。	粗粒輝石安山岩	
第358図 PL.218	71	凹石	+26	完形	12.6	10.3	4.2	680	発泡質で不定形な礫を利用、一面に凹みを有す。	粗粒輝石安山岩	

95-58号住居跡(第361・362図：PL219)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第361図 PL.219	1	深鉢 +14 口縁～体部上半 1/3 残存 口：(38.0)	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	波状縁。おそらく6単位か。波頂部下に隆線による渦巻文を配す。連接した口縁部区画文構成。側線は沈線でRL及び無節Lを充填施文する。体部は沈線による逆U字状懸垂文か。	中期後葉新
第361図 PL.219	2	深鉢 +29 口縁部破片	① 粗：石英・雲母少 ② 鈍い橙色	波状縁。波頂部を双波状にする。渦巻状突起両端に配し、2条隆線で弧状区画を設ける。側線は沈線。口唇端部にも沈線を施す。地文はLR。	中期後葉東北系
第361図 PL.219	3	深鉢 +17 口縁部破片	① 粗：輝石・雲母 ② 褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。頸部は無文。	中期後葉信州系
第361図 PL.219	4	深鉢 +11 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 暗褐色	口縁部沈線を設け、隆線による渦巻文を配す。弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第361図 PL.219	5	深鉢 +9 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	口縁部突起を欠する。口縁部沈線を設け突起下に隆線による縦位S字状意匠を配す。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第361図 PL.219	6	深鉢 外 頸部～体部上半 破片	① 粗：石英・輝石多 ② 鈍い黄褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は沈線で縦位短沈線を充填する。体部は2条の垂下沈線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第361図 PL.219	7	炉 体部中位 1/4 残存	① 粗：石英・雲母 ② 明褐色	器形歪みがあり、体部径は不明。横位隆線による体部分帯。上位は縦位S字状意匠、下位は2条隆線による逆U字状懸垂文を配す斜位短沈線を充填する。上半は加熱による器面剥落が内外面に見られる。	中期後葉信州系
第361図 PL.219	8	深鉢 +4 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	押圧を加える垂下隆線による懸垂文構成。空白部には垂下する2条沈線間を刺突文が施される。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第361図 PL.219	9	深鉢 +17 体部中位破片	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	大型深鉢体部。2条隆線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第361図 PL.219	10	深鉢 +4 体部破片	① 細：石英・褐色粒 ② 灰黄褐色	6・7条一組の条線による縦位波状懸垂文を施す。下半には無節Lを横位施文する。	中期後葉新
第361図 PL.219	11	深鉢 +12 口縁部破片	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	強く内湾する無文の口縁部。内外面とも撫で調整を施す。器面磨滅。	中期後葉信州系
第361図 PL.219	12	鉢 +29 頸部～体部上半 破片	① 細：石英・輝石 ② 明褐色	口縁部外反か。頸部に横位隆線2条を設け小型の橋状把手を付す。体部は低位隆線による弧状・渦巻状意匠か。	中期後葉新
第361図 PL.219	13	深鉢 炉 体部下半 1/3 残存	① 細：輝石 ② 赤褐色	4・5条一組の条線による斜位・弧状意匠が配される。主幹意匠が見出せず文様構成は不明。	中期後葉信州系
第361図 PL.219	14	深鉢 +13 体部下半～底部 1/2 残存 底：8.6	① 粗：石英・輝石 ② 暗赤褐色	2条隆線による懸垂文構成下端。斜位意匠であるいは分岐懸垂文や波状懸垂文か。単位は不明。空白部は浅い縦位条線を施す。	中期後葉新

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第362図 PL.219	15	打製石 斧	+18	ほぼ 完形	10.7	6.5	3.0	137	撥形、基部は厚く刃部は薄く作られる。全体に粗い作り。	黒色安山岩	
第362図 PL.219	16	打製石 斧	+18	欠損	(4.5)	4.7	1.5	(42)	撥形の刃部片、やや厚手で若干の摩耗有り。	黒色安山岩	
第362図 PL.219	17	磨石	+7	完形	9.4	6.1	4.4	366	扁平な俵形を呈す。やや表面が多孔質の礫を利用。	粗粒輝石安山岩	
第362図 PL.219	18	石皿	+22	欠損	(13.0)	(12.9)	(7.0)	(1,590)	石皿破片、作業面の湾曲強く摩耗顕著。裏面に複数の凹み穴。被熱。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

95-59号住居跡(第364図: PL.219)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調		文様の特徴等			備考			
第364図 PL.219	1	深鉢 +16	口縁~体部上半 破片		①粗:輝石 ②橙色	口縁部緩やかに内湾する。横位隆線4条を設け、渦巻状小突起を重ねる。体部は無節Lを縦位施文する。口唇部外面、体部内面に煤付着。			中期後葉古		
第364図 PL.219	2	深鉢 +17	口縁部破片		①粗:石英 ②橙色	波状縁波頂部。口唇部沈線を設け、波頂下より隆線が分岐派生する。縦位短沈線を充填する。			中期後葉信州系		
第364図 PL.219	3	深鉢 +18	口縁部破片		①粗:石英 ②黒褐色	内湾する口縁部。横位隆線2条による区画文構成か。沈線を側線とする。地文は縦位RL。			中期後葉古		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第364図 PL.219	4	石鏃	+6	欠損	(1.9)	(1.5)	0.4	(0.8)	平基無茎、板状剥片の側縁部分のみ剥離調整を施す。片脚僅かに欠く。	黒曜石	
第364図 PL.219	5	磨石	+3	ほぼ 完形	14.9	7.0	5.0	760	細長い礫を利用、ほぼ全体に敲打によるものか剥落が著しい。	石英閃緑岩	

95-60号住居跡(第366図: PL.219)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調		文様の特徴等			備考			
第366図 PL.219	1	深鉢 覆土	体部破片		①粗:石英・雲母 ②赤褐色	2条隆線による懸垂文構成か。沈線を側線とし、空白部には斜位沈線を充填する。			中期後葉信州系		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第366図 PL.219	2	磨石	覆土	完形	9.0	7.5	5.9	575	拳大の円礫、使用により表面極めて平滑。	粗粒輝石安山岩	

5-2号掘立(第371図: PL.220)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調		文様の特徴等			備考			
第371図 PL.220	1	深鉢 pit 9	体部		①細:白色粒・石英 ②黒褐色	頸部横位縄文帯から連続する懸垂磨消曲線文。文様内LR細縄文充填施文。器面研磨、外面煤付着。			後期前葉新		
第371図 PL.220	2	深鉢 Pit 9	口縁部破片		①石英・角閃石安山岩 ②黒褐色	口縁内横位沈線、三角意匠の幾何学磨消文様。縄文はLR細縄文充填施文。器面研磨。			後期前葉新		
第371図 PL.220	3	深鉢 Pit 7	口縁部破片		①石英・長石粒 ②褐色	口縁内横位沈線、沈線による横位縄文帯。			後期前葉新		
第371図 PL.220	4	深鉢 Pit 3	口縁部破片		①石英・長石粒 ②にぶい黄褐色	口縁内横位沈線、口縁無文下に横位隆線。			後期前葉		
第371図 PL.220	5	深鉢 Pit 5	口縁部破片		①石英粒・白色粒 ②暗褐色	無文口縁部片。内面研磨。			後期前葉		
第371図 PL.220	6	深鉢 Pit 4	体部破片		①石英・長石粒 ②暗褐色	三角意匠の幾何学磨消文様。縄文はLR細縄文充填施文。器内面研磨。			後期前葉		
第371図 PL.220	7	深鉢 Pit 5	体部破片		①細:白色粒・石英粒少 ②明黄褐色	複数の沈線による斜位文。器面研磨。			後期前葉		
第371図 PL.220	8	深鉢 Pit 9	体部破片		①細:白色粒 ②暗褐色	複節縄文RL横位施文。内面研磨。			中期後葉		
第371図 PL.220	9	深鉢 Pit 3・4	体部~底部 高:(6.2) 底:10.2		①石英・長石粒 ②にぶい黄褐色	無文薄手作り、内外面研磨。底部に網状痕残る。			後期前葉		
第371図 PL.220	10	深鉢 Pit 6	底部破片		①石英・長石粒 ②褐色	無文底部片、外面研磨。			後期前葉		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第371図 PL.220	11	打製石 斧	Pit 9	完形	8.7	4.0	1.4	69	小型の撥形、やや厚手作り。	黒色頁岩	
第371図 PL.220	12	打製石 斧	Pit 9	欠損	(5.5)	5.0	1.7	(74)	基部片、片面に自然面のこる。	細粒輝石安山岩	
第371図 PL.220	13	打製石 斧	Pit 9	完形	9.5	5.4	1.6	109	撥形で側面から片面に大きく自然面、直刃部のみ若干の刃部調整。	細粒輝石安山岩	
第371図 PL.220	14	磨石	Pit 9	完形	5.3	5.4	3.6	132	小円礫。被熱によりひび割れ顕著。	粗粒輝石安山岩	
第371図 PL.220	15	磨石	Pit 9	完形	4.1	3.9	2.6	58	小円礫。	粗粒輝石安山岩	
第371図 PL.220	16	凹石	Pit 9	完形	9.5	8.4	6.0	423	不定形な礫の両面に大きめの凹み穴が見られる。粗粒質の石材。	安山岩質熔岩	

5-3号掘立(第371図: PL.220)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調		文様の特徴等			備考	
第371図 PL.220	1	深鉢 P-2	口縁部破片		①石英・長石・雲母粒 ②黒褐色	口縁端部短く内屈。口縁部外面横位の刻み隆線文。			後期前葉新 1127号土坑
第371図 PL.220	2	深鉢 P-2	体部破片		①細:石英・白色粒 ②にぶい黄褐色	沈線による渦巻き文。			後期前葉 1127号土坑

第2節 縄文時代の遺構と遺物

5-4号掘立(第374・375図：PL.220・221)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第374図 PL.220	1	深鉢 16号埋甕 体部～底部 底：9.6	①粗：白色粒・石英 ②明褐色	15単位の平行沈線による磨消懸垂文。間には縦位RL縄文縦位施文。器外面摩滅、内面縦位の研磨痕。	中期後葉						
第374図 PL.220	2	深鉢 P-6 口縁部破片	①細：石英粒・白色粒 ②暗赤褐色	波状口縁、やや幅広の無文部分に横位の円文、楕円を基調とする文様構成か。	中期後葉 1145号土坑						
第374図 PL.220	3	深鉢 P-2 体部破片	①長石・白色粒 ②暗赤褐色	地文にRL縄文縦位施文、隆線による懸垂文。	中期後葉 1146号土坑						
第374図 PL.220	4	深鉢 P-1 体部破片	①石英・長石粒 ②明赤褐色	2本沈線により磨消懸垂文、地文には細い燃糸文L縦位方向施文。	中期後葉 1141号土坑						
第374図 PL.220	5	深鉢 P-3 体部破片	①石英粒・長石粒 ②赤褐色	縦位磨消縄文。縄文はRL縦位。	中期後葉 1147号土坑						
第374図 PL.220	6	深鉢 P-6 体部破片	①石英・長石・雲母粒 ②暗褐色	全面にRL縦位施文。	中期後葉 1145号土坑						
第374図 PL.220	7	深鉢 16号埋甕 口縁～体部破片	①長石粒・石英粒 ②黒褐色	口唇部丸く肥厚し、横位沈線が廻る。低い隆帯による渦巻き楕円文描か、楕円文は沈線で画され、縦位短沈線で埋める。体部には矢羽根状の集合沈線文。	中期後葉						
第374図 PL.220	8	深鉢 P-2 体部破片	①粗：白色粒・雲母多 ②赤褐色	内屈する肩部に上端突起した隆帯で蕨手状懸垂文。地文には斜位の沈線文。	中期後葉 1146号土坑						
第374図 PL.220	9	深鉢 7号焼土 体部破片	①粗：白色粒多 ②明褐色	口縁部に横位隆帯廻り、これに繋がる渦巻き懸垂文か。渦巻き文夾んだ両区画文内には縦位波状の条線文が見える。	中期後葉信州系						
第374図 PL.220	10	深鉢 P-5 体部破片	①石英・白色粒多 ②にぶい赤褐色	隆線による渦巻き懸垂文と連結して横位方向の隆線文。	中期後葉 1149号土坑						
第374図 PL.220	11	深鉢 8号焼土 体部破片	①石英粒・雲母粒 ②黄褐色	隆線による曲線文意匠。文様内に横位沈線文見える。	中期後葉信州系						
第374図 PL.220	12	深鉢 P-6 体部破片	①石英粒・長石粒 ②明赤褐色	縦位集合沈線、隆線による上端渦巻きとなる懸垂文。	中期後葉 1145号土坑						
第374図 PL.220	13	深鉢 16号埋甕 体部破片	①石英・長石粒 ②橙色	2本の沈線による横波状文様、縦位の集合条線及び刺突文？僅かに見える。	中期後葉						
第374図 PL.220	14	深鉢 7号焼土 体部破片	①石英粒・白色粒 ②明赤褐色	縦位矢羽根状沈線文。	中期後葉信州系						
第374図 PL.220	15	深鉢 P-5 体部破片	①石英・白色粒多 ②赤褐色	斜位集合沈線文。	中期後葉 1149号土坑						
第374図 PL.220	16	深鉢 P-6 体部破片	①石英粒・長石粒 ②赤褐色	縦位集合沈線施文後、縦位蛇行懸垂文。	中期後葉 1145号土坑						
第374図 PL.220	17	深鉢 P-2 体部破片	①石英・長石粒 ②にぶい橙色	縦位集合沈線文。内面研磨。	中期後葉 1146号土坑						
第374図 PL.220	18	深鉢 P-6 口縁部破片	①粗：白色粒 ②暗褐色	波頂部分に低位隆帯による8字状文。上位には円孔、文様下部には縄文LRが僅かに看取される。器面研磨。23と同一個体か。	後期初頭 1145号土坑						
第374図 PL.221	19	深鉢 8号焼土 突起	①細：石英・雲母少 ②黒褐色	口縁部山形の突起上面に一對の渦巻き文。橋状把手が付くと見られるが、欠損している。内面に隆線廻る。	中期後葉						
第374図 PL.221	20	深鉢 P-3 突起	①粗：白色粒・小礫 ②暗褐色	上面半渦巻き文、内側に張り出す。研磨。	中期後葉 1147号土坑						
第374図 PL.221	21	深鉢 7号焼土 口縁部破片	①石英・長石粒 ②黒褐色	口縁上端部平らに成形、器面研磨。口縁および内面赤彩。	中期後葉						
第374図 PL.221	22	深鉢 8号焼土 口縁部破片	①石英・長石・片岩粒 ②明赤褐色	無文口縁部片、器面研磨。	中期後葉						
第374図 PL.221	23	深鉢 P-6 口縁部破片	①細：石英粒・長石粒 ②暗赤褐色	口縁部内側に肥厚、無文部分下に縄文LR施文。	後期初頭 1145号土坑						
第374図 PL.221	24	深鉢 P-5 口縁部破片	①石英・長石粒 ②褐色	口縁端部内側に肥厚、器外面無文。研磨。	中期後葉 1149号土坑						
第374図 PL.221	25	深鉢 P-5 体部破片	①粗：石英粒 ②暗赤褐色	頸部横位沈線、無文部分上位に斜沈線か。器内外面研磨。	中期後葉 1149号土坑						
第374図 PL.221	26	深鉢 8号焼土 底部破片	①石英粒多 ②明赤褐色	厚手の底部片。	中期後葉						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第375図 PL.221	27	石鎌	8号焼土	ほぼ 完形	1.7	1.9	0.3	0.6	凹基無茎、脚がやや開き鋭利さは見られない。先端部僅かに欠く。	黒曜石	
第375図 PL.221	28	石核	P4	完形	3.3	3.6	2.1	21.2	小石核。	黒曜石	1148号土坑
第375図 PL.221	29	打製石 斧	7号焼土	欠損	(4.4)	4.0	1.6	(31)	基部片。	細粒輝石安山岩	
第375図 PL.221	30	打製石 斧	P1	欠損	(11.4)	5.9	2.0	(141)	撥形、刃部はやや薄く開く形と思われるが欠損している。	細粒輝石安山岩	1141号土坑
第375図 PL.221	31	磨製石 斧	P5	欠損	(4.5)	6.1	1.5	(58)	刃部片、比較的薄刃の大型品か、丁寧な研磨成形。	蛇紋岩	1149号土坑



### 第3章 検出された遺構と遺物

5-5号掘立(第378図: PL.221)

挿入番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第378図 PL.221	1	深鉢 P-2 口縁部破片	①石英・長石粒 ②黄褐色	口縁部に隆線による連続渦巻き弧状文。口縁部には縦位の集合沈線文。二次被熱か、器面風化顕著。	中期後葉信州系 1215号土坑
第378図 PL.221	2	深鉢 P-2 口縁部破片	①石英・長石粒 ②赤褐色	口縁部に隆線による横位弧状文、弧状文内には縦位の集合沈線文。	中期後葉信州系 1215号土坑
第378図 PL.221	3	深鉢 P-8 体部破片	①細:微石英粒 ②橙色	隆線による蛇行懸垂文か、地文は縦位集合沈線。	中期後葉 1144号土坑
第378図 PL.221	4	深鉢 P-7 体部破片	①石英粒・長石粒多 ②褐色	横位沈線下に縦位斜位の集合沈線文。	中期後葉 1219号土坑
第378図 PL.221	5	深鉢 P-1 体部破片	①細:長石粒・雲母粒 ②にぶい赤褐色	磨消懸垂文、縄文RL縦位施文。	中期後葉 1140号土坑
第378図 PL.221	6	深鉢 P-1 体部破片	①石英、角閃石安山岩 ②にぶい赤褐色	縦位複数の隆線文。	中期後葉 1140号土坑

95-3号掘立(第384~389図: PL.221~224)

挿入番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第384図 PL.221	1	深鉢 1号列石 口縁~体部上半 1/3残存 体部下半~底部 1/2残存 体部破片3点 口:(40.8) 底:11.2 高:57.0	①粗:石英・輝石 ②鈍い黄褐色	平縁で口縁~体部一帯構成。口縁部に隆線による渦巻文を配し、隣り合う逆U字状意匠と連接して3条の隆線が垂下する。5単位か。体部中位の渦巻状意匠を中継して下半は2条隆線が懸垂する。隆線は下端で閉じる。空白部は縦位短沈線を地文状に施し、横位沈線3条が多段に配す。上半には横位矢羽状短沈線を充填する。体部下半の加熱のため器面磨滅し煤が付着する。	中期後葉信州系
第384図 PL.221	2	深鉢 1号列石 口縁~体部上半 1/4残存 口:(27.6)	①粗:石英・輝石 ②灰褐色	隆線による渦巻文を下端に配す突起を設ける。口縁部区画文は横位弧状沈線と円形刺突文を充填する。体部は突起下端より垂下する2条隆線と縦位波状隆線による懸垂文構成。弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第384図 PL.221	3	深鉢 P-3 口縁~体部上半 4/5残存 口:15.5	①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色	小型深鉢。無文の口唇部下に隆線による渦巻文を配す。渦巻文間を弧状隆線が上下に繋ぎ区画文を構成する。5単位を数える。区画内は短沈線を充填する。体部は沈線による逆U字状懸垂文か。弧状短沈線が施される。	中期後葉信州系
第384図 PL.221	4	深鉢 1号列石 口縁~体部上半 1/4残存 口:(34.0)	①粗:石英多・輝石 ②灰褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は沈線、横位LRを充填する。体部は2条の垂下沈線上端を見る。斜位LRを地文とする。	中期後葉古
第385図 PL.221	5	深鉢 1号列石 口縁~体部上半 1/4残存 口:(44.0)	①粗:石英・雲母 ②赤褐色	口唇部内面肥厚。口縁部は連接した渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線、短沈線を充填する。体部は垂下沈線2条による無文部懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第385図 PL.221	6	深鉢 1号列石 口縁部破片	①粗:輝石少 ②暗赤褐色	口唇部端部面を持ち凹線を施す。口縁部に横位沈線2条を設け、沈線間に刺突文を充填する。体部は隆線による分岐懸垂文上端か。斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第385図 PL.222	7	深鉢 P-1 口縁部破片	①細:石英・輝石 ②黒褐色	2条隆線による口縁部区画文構成か。沈線を側線とし縦位RLを地文とする。	中期後葉古
第385図 PL.222	8	深鉢 P-6 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②褐灰色	口縁部に幅広い横位沈線を設け、以下縦位LRを施す。	中期後葉古
第385図 PL.222	9	深鉢 P-3 口縁部破片	①粗:輝石多 ②鈍い黄褐色	口縁部区画文構成か。区画内側線は沈線、縦位条線を充填する。	中期後葉信州系
第385図 PL.222	10	深鉢 1号列石 口縁部破片	①細:石英・輝石 ②灰褐色	口唇部僅かに内屈。沈線で画された弧状・J字状意匠か。器厚薄手。	後期初頭
第385図 PL.222	11	深鉢 1号列石 口縁部破片	①細:石英・輝石 ②黄褐色	口唇部内屈。沈線で画された施文部と磨消部の交互配列。おそらくJ字状意匠か。無節Rを充填施文する。	後期初頭 20と同一個体
第385図 PL.222	12	浅鉢 P-3 口縁部破片	①細:石英・雲母 ②鈍い赤褐色	口縁部内外面とも肥厚する。体部は内湾する。無文で撫で調整を施す。	中期後葉
第385図 PL.222	13	深鉢 3号掘立 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②褐灰色	口縁部上に円形小突起を付す。以下弧状沈線を施す。施文は深い。	後期初頭
第385図 PL.222	14	深鉢 1号列石 口縁部破片	①細:石英少 ②黒褐色	口縁部に環状小突起を配す。突起下端にも小突起を付す。口縁部は横位細隆線3条を設け、8字状貼付文を重ねる。内外面とも丁寧な研磨を施し光沢を持つ。	後期前葉新
第385図 PL.222	15	深鉢 1号列石 口縁~体部上半 破片	①細:輝石 ②暗赤褐色	器厚薄手。小型のキャリバー状を呈する。口縁部に2・3条の横位沈線を設け、体部は垂下沈線2条による懸垂文構成。地文は横位・斜位RLを施す。	中期後葉古
第385図 PL.222	16	深鉢 2号埋甕 口縁部1/4残存 口:(34.0)	①粗:石英・輝石・雲母少 ②鈍い赤褐色	口唇部内面僅かに肥厚。無文の口縁部下に横位隆線を設け、小突起を付す。体部は横位LRを充填する。	中期末葉 2号埋甕
第385図 PL.222	17	深鉢 P-3 口縁部破片	①粗:石英 ②明赤褐色	口縁部緩やかに屈曲し幅狭に画す。凹線を施す。	後期前葉
第385図 PL.222	18	深鉢 P-6 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色	口唇部尖る。口縁部横位沈線1条を設け、弧状沈線が分岐懸垂する。縄文は縦位LR。	中期末葉
第385図 PL.222	19	深鉢 3号掘立 体部中位破片	①粗:石英 ②橙色	2条の垂下沈線に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部はLRL縦位充填施文、縦位波状沈線が加わる。	中期後葉古
第385図 PL.222	20	深鉢 1号列石 体部中位破片	①細:輝石 ②鈍い赤褐色	沈線で画された磨消部J字状意匠下端。施文部は縦位LR充填施文。	後期初頭 11と同一個体

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			①胎土 ②色調			文様の特徴等		備考		
第385図 PL.222	21	深鉢 1号列石	口縁～体部上半 破片	①粗：石英多 ②鈍い橙色			口縁部外面肥厚。体部は隆線による渦巻文を配し下端に垂下隆線を付す。口縁部下に横位蛇行沈線を施し、以下弧状短沈線を充填する。		中期後葉信州系			
第385図 PL.222	22	深鉢 P-8	体部破片	①細：輝石 ②鈍い黄褐色			沈線で画された施文部弧状意匠。J字状意匠か。細縄文LRを充填する。		後期初頭			
第385図 PL.222	23	深鉢 P-3	体部破片	①細：輝石少 ②鈍い赤褐色			細沈線で画された施文部と磨消部。施文部はLRを充填する。		後期初頭			
第385図 PL.222	24	深鉢 2号埋裏	体部上半～中位 残存	①粗：石英 ②鈍い橙色			大型の深鉢。体部中位で僅かに外反し、下半に内湾を持たせる。縦位LRが器面を覆う。		中期末葉			
第386図 PL.222	25	深鉢 P-3	体部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色			垂下隆線2条による懸垂文構成。隆線による弧状意匠も連繫する。空白部は2条沈線による剣先状意匠を施す。地文は縦位LR。		中期後葉古			
第386図 PL.222	26	深鉢 P-7	体部破片	①粗：輝石 ②鈍い赤褐色			垂下隆線による懸垂文構成。側線は強い撫で。他は無文。		後期初頭			
第386図 PL.222	27	深鉢 1号列石	体部中位破片	①粗：深鉢・雲母少 ②橙色			垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。無節し縦位充填施文。		中期後葉新			
第386図 PL.222	28	深鉢 P-2	口縁～体部上半 破片	①細：輝石 ②淡黄色			口縁部緩やかに内湾し無節しを横位・斜位施文する。体部は5・6条の条線による縦位波状文が配される。波状文上端は渦巻状とする。		中期後葉新 29と同一個体			
第386図 PL.222	29	深鉢 1号列石	体部破片	①細：輝石 ②淡黄色			5・6条の条線による縦位波状文が配される。波状文上端は渦巻状とする。		中期後葉新			
第386図 PL.222	30	深鉢 3号掘立	口頸部？破片	①粗：石英少 ②橙色			横位沈線を多段に設け交互刺突文を重ねる。		中期後葉古			
第386図 PL.222	31	深鉢 P-6	頸部破片	①粗：石英・輝石・雲母 ②鈍い黄褐色			頸部隆線上位は縦位沈線を施す。体部は交互の刺突文を加えた蛇行隆線が垂下する。斜位短沈線を充填する。		中期後葉信州系			
第386図 PL.222	32	深鉢 1号列石	体部中位破片	①粗：輝石多 ②黒褐色			垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位条線が施され、波状沈線が加わる。磨消部は研磨を施す。		中期後葉新			
第386図 PL.222	33	深鉢 3号掘立	体部中位破片	①粗：石英・雲母 ②赤褐色			隆線による渦巻状意匠を配し、下端より隆線が懸垂する。側線は沈線。空白部は斜位短沈線を充填する。		中期後葉信州系			
第386図 PL.222	34	深鉢 3号掘立	頸部～体部上半 破片	①粗：石英 ②橙色			隆線による口縁部区画文。区画内は沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。体部は先端小渦巻文とした縦位波状沈線を配す。斜位短沈線を施す。		中期後葉信州系			
第386図 PL.222	35	深鉢 P-4	頸部破片	①粗：輝石多 ②黒褐色			横位隆線で画された頸部の無文部。隆線下端に側線の沈線を施す。外面に煤付着。		中期後葉信州系			
第386図 PL.222	36	注口土器 1号列石	把手破片	①細：石英・輝石 ②鈍い褐色			頸部屈曲部を跨ぐ橋状把手。上端に隆線による渦巻文を配す。下位に沈線による弧線文を施す。側面は円形刺突文を上下に置き沈線が繋ぐ。		後期前葉			
第386図 PL.222	37	深鉢 1号列石	体部下半～底部 残存 底：9.8	①粗：輝石少 ②鈍い褐色			直線的に開く体部下半。体部外面は無文で削り調整を施す。内面は撫で調整。底面網代痕が残る。内面煤付着。		後期			
第386図 PL.222	38	土製腕輪 2号埋裏	小破片	①細：石英・輝石 ②赤褐色			上端部は削り調整により比較的丁寧だが、下端部は凹凸を見る。外面はLRを施す。		後期初頭か			
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況		石材	備考
第386図 PL.223	39	石鎌	1号列石	欠損	(2.9)	(1.4)	0.4	(0.9)	凹基無茎、細手で扱いはV字状に深い。片脚の端部を欠く。		黒曜石	
第386図 PL.223	40	石匙	2号埋裏	欠損	(1.7)	(2.1)	0.5	(1.5)	石匙の制作中断片か。		黒曜石	
第386図 PL.223	41	打製石 斧	1号列石	完形	10.3	5.0	2.0	134	撥形、基部両側縁部に弱い扱ひ有す。		細粒輝石安山岩	
第386図 PL.223	42	打製石 斧	1号列石	完形	15.2	6.0	1.4	168	短冊形、薄手で両面に自然面、側縁中央部が僅かに狭くなる、刃部摩耗。		粗粒輝石安山岩	
第387図 PL.223	43	打製石 斧	1号列石	完形	13.0	5.9	1.3	164	撥形、片面丸みを有す自然面大きく残す。		紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第387図 PL.223	44	打製石 斧	1号列石	完形	10.9	4.6	1.3	83	撥形、作りは粗い、片面半分に自然面残る。		黒色安山岩	
第387図 PL.223	45	打製石 斧	1号列石	欠損	(10.3)	5.0	1.9	(129)	撥形か、やや細身の基部片と思われる。		黒色安山岩	
第387図 PL.223	46	打製石 斧	1号列石	ほぼ 完形	(9.9)	4.7	1.9	(103)	撥形、やや小振りで刃部摩耗。		紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第387図 PL.223	47	打製石 斧	1号列石	欠損	(9.8)	5.4	1.4	(133)	短冊形、やや扁平な基部片か。		細粒輝石安山岩	
第387図 PL.223	48	打製石 斧	1号列石	欠損	(10.0)	5.8	1.8	(149)	短冊形、薄手で両面に自然面、基部を欠く。		粗粒輝石安山岩	
第387図 PL.223	49	打製石 斧	P4	欠損	(9.4)	4.8	1.8	(84)	撥形、基部が薄く作られる。刃部を欠く。		細粒輝石安山岩	103号土坑
第387図 PL.223	50	打製石 斧	103号土坑	完形	12.2	4.8	1.2	79	木の葉状を呈す、薄手で両面に自然面。		粗粒輝石安山岩	
第387図 PL.223	51	礫器	1号列石	完形	10.4	5.5	4.5	340	厚手の礫片で弧状に刃部を持つ。片面に自然面残る。		黒色安山岩	
第387図 PL.223	52	石核	1号列石	完形	13.7	8.3	4.1	662	一部に自然面残す石核。		黒色安山岩	
第387図 PL.223	53	スクレイパー	P9	完形	11.9	4.6	1.1	58	三角形の剥片利用、下辺部分に刃部作出。		ガラス質安山岩	105号土坑

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第387図 PL.223	54	磨製石斧	103号土坑	欠損	(8.6)	5.9	2.4	(240)	幅広の刃部片、側縁の稜はほぼ直角に作り出され、表面良く研磨される。	蛇紋岩	
第387図 PL.223	55	砥石か	1号列石	完形	5.6	5.6	4.3	74	極めて軟質の石材、砥石として使用か。	凝灰岩	
第388図 PL.223	56	石冠か	1号列石	完形	6.2	3.8	5.0	152	不定形で4面が平らで平滑、使用面か。石冠。線刻あり。	流紋岩	
第388図 PL.223	57	磨石	104号土坑	完形	11.0	7.8	4.6	640	扁平な円礫、両面使用面とし、平滑。端部に打痕。	石英閃緑岩	
第388図 PL.223	58	敲石	1号列石	完形	13.6	4.6	4.0	384	棒状礫、側縁、端部に打痕見られる。	デイサイト	
第388図 PL.223	59	磨石	103号土坑	完形	(10.6)	8.1	4.3	(540)	扁平な円礫、被熱によるものか、表面剥落。	デイサイト	
第388図 PL.223	60	磨石	1号列石	完形	9.0	7.9	4.6	426	やや扁平な円礫、やや粗粒の石質。	粗粒輝石安山岩	
第388図 PL.223	61	磨石	1号列石	完形	8.9	7.4	4.4	370	やや扁平な礫を利用、両面使用か、粗粒の石質で滑らかさは見られない。	粗粒輝石安山岩	
第388図 PL.223	62	磨石	1号列石	欠損	(11.7)	6.6	5.7	(590)	やや不定形な川原石を利用。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第388図 PL.223	63	磨石	1号列石	完形	10.0	6.6	5.0	500	やや扁平な長円礫、片側が比較的平らで浅い凹み穴が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第388図 PL.223	64	磨石	1号列石	完形	10.6	8.3	4.5	600	扁平な円礫、両面使用面か、僅かに打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第388図 PL.223	65	磨石	1号列石	ほぼ完形	11.1	10.3	6.4	1,000	やや大型の扁平礫、粗粒で滑らかさは無い。	粗粒輝石安山岩	
第389図 PL.223	66	磨石	P 3	完形	10.3	9.1	4.7	570	扁平な円礫、両面使用面、被熱によるひび割れ顕著。	粗粒輝石安山岩	104号土坑
第389図 PL.223	67	磨石	103号土坑	完形	9.8	8.2	5.2	580	やや扁平な円礫、平滑な使用面は一面、端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第389図 PL.223	68	磨石	1号列石	完形	8.9	7.2	6.2	490	拳大の円礫、やや粗粒の石質で滑らかさは無い。	粗粒輝石安山岩	
第389図 PL.223	69	磨石	1号列石	完形	8.1	7.2	5.2	252	円礫利用、表裏面に浅い凹みを有す。発泡質の石。	軽石	
第389図 PL.224	70	磨石	1号列石	欠損	(12.6)	(6.4)	4.5	(442)	やや扁平な俵形を呈す、被熱によるひび割れ顕著。	粗粒輝石安山岩	
第389図 PL.224	71	砥石	1号列石	完形	12.1	7.7	2.1	324	扁平礫、長方形を呈す。両面使用面か。	砂岩	
第389図 PL.224	72	石棒	1号列石	欠損	(9.1)	(6.3)	(2.9)	(264)	大型石棒の破片か。被熱。	緑色片岩	
第389図 PL.224	73	石皿	1号列石	欠損	(19.3)	(9.2)	6.2	(880)	石皿の縁部片。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第389図 PL.224	74	石皿	1号列石	完形	37.0	34.0	12.5	17,200	大型でハート形を呈す、使用面は浅く平らに作られている。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-4号掘立(第391図: PL.224)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徵等	備考	
第391図 PL.224	1	深鉢 P-1	口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い黄橙色	口唇部内面弱く肥厚する。口縁部細隆線を設け、体部は弧状沈線を配し、LRを施す。	中期末葉
第391図 PL.224	2	深鉢 P-2	口縁部破片	①細:輝石 ②鈍い褐色	隆線による口縁部区画文構成。区画内側縁は沈線、縦位短沈線を充填する。体部は縦位条線を施す。	中期後葉信州系
第391図 PL.224	3	深鉢 P-1	体部中位破片	①粗:石英 ②鈍い黄橙色	太い沈線による弧状意匠下端部。無節Rを施す。外面煤付着。	後期前葉
第391図 PL.224	4	深鉢 P-2	口頸部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い橙色	隆線による口縁部区画文下端。沈線を側線としRLを充填する。体部は垂下沈線上端を見る。	中期後葉新
第391図 PL.224	5	深鉢 P-1	体部中位破片	①細:石英・輝石 ②鈍い赤褐色	2条沈線で画された横位施文部。LRを充填する。	後期前葉
第391図 PL.224	6	深鉢 P-4	体部破片	①粗:輝石 ②明褐色	外反する体部中位。2条沈線による懸垂文構成。地文は無節R縦位・斜位施文。	中期後葉古 5-150住-21 と同一個体
第391図 PL.224	7	深鉢 P-1	体部破片	①粗:石英・輝石 ②赤褐色	垂下隆線2条に画された磨消部懸垂文構成。磨消部には研磨を加える。施文部はLRと無節Rを縦位に充填する。	中期末葉
第391図 PL.224	8	深鉢 P-4	体部上半破片	①粗:石英・輝石 ②灰褐色	細隆線と太い沈線による口縁部区画文か。体部は2条沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縦文は縦位LR。外面煤付着。	中期後葉新
第391図 PL.224	9	深鉢 P-2	体部破片	①粗:石英多・輝石 ②橙色	垂下隆線に画された磨消部懸垂文構成か。施文部は斜位短沈線を充填する。器面磨滅。	中期後葉信州系
第391図 PL.224	10	深鉢 P-2	体部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い黄褐色	沈線による弧状意匠。あるいは渦巻文か。無節Rを施す。	後期前葉
第391図 PL.224	11	深鉢 P-1	体部破片	①細:石英・輝石 ②橙色	薄手の器厚。沈線で画された弧状意匠か。無節Lを充填施文する。やや軟質。	後期初頭

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第391図 PL.224	12	石鏃	P 2	欠損	(1.9)	(0.9)	0.4	(0.4)	先端部片、先は鋭く尖る。	黒曜石	109号土坑
第391図 PL.224	13	打製石斧	109号土坑	完形	9.8	4.5	1.1	64	撥形、やや小型で薄手の作り、片面に自然面見られる。	黒色安山岩	
第391図 PL.224	14	打製石斧	P 1	欠損	(5.0)	4.3	1.8	(50)	基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	98号土坑

5-15号埋甕(第393図: PL.224)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第393図 PL.224	1	深鉢 15号埋甕	① 細: 白色粒少・角閃石安山岩 ② 赤褐色	沈線による横位連続、紡錘状懸垂文。文様内には縄文LRを縦位充填施文。	中期後葉末
第393図 PL.224	2	深鉢 15号埋甕	① 白色粒 ② 黒色(口縁・にぶい赤褐色)	口縁部内屈し無文、以下無節縄文Lを横位、縦位に施文。	中期後葉新
第393図 PL.224	3	深鉢 15号埋甕	① 石英粒・長石粒 ② 赤褐色	口縁部内屈し無文。以下RL縄文施文後、沈線による逆U字状、平行垂下文描く。	中期後葉新

95-1号埋甕(第394図: PL.224)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第394図 PL.224	1	深鉢 1号埋甕	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い褐色	大型深鉢。頸部は隆線による区画文構成。側線は沈線と刺突文。体部上半に渦巻文と横位隆線2条を設ける。5単位を数える。体部は渦巻文下端より2条隆線が垂下し主分割線とする。中位の渦巻文で縦位区画され縦位矢羽状短沈線を充填する。副分割線は垂下隆線1条が充てられ、区画内は縦位沈線を充填し横位弧状短沈線2・3条を多段に重ねる。縦位区画下端より2条隆線が懸垂する。	中期後葉信州系

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第394図 PL.224	2	石鏃	覆土	完形	2.9	1.9	0.5	2.4	凸基無茎、木の葉形を呈し先端部分は薄く尖る、反りを持ち作りは粗い。	珪質変質岩 (流紋岩質凝灰岩)	

95-3号埋甕(第394図: PL.225)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第394図 PL.225	1	深鉢 3号埋甕	① 粗: 石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	口唇部内折。幅広の無文口縁部を設ける。頸部は内湾し振り状突起を4単位付し、隆線による楕円形区画文を2帯配す。上位区画内は斜位隆線と斜位平行沈線による斜格子文が充てられ、下位幅狭区画内は刺突文を充填する。体部は振り状突起下端より派生した2条隆線による半渦巻状意匠が配される。隆線間には刻みを充填する。空白部は縦位沈線を施す。	中期後葉信州系

95-1号焼土(第397図: PL.225)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第397図 PL.225	1	深鉢 覆土	① 粗: 石英・雲母少 ② 鈍い赤褐色	大型深鉢。口縁部～体部上半一体化して内湾する。口縁部は無文。下位に押圧を加えた鎖状隆線を横位に配す。体部も無文で撫で調整を施す。	後期初頭
第397図 PL.225	2	深鉢 覆土	① 細: 石英少 ② 鈍い赤褐色	内湾する体部。沈線で画された磨消部弧状意匠。LRを充填施文する。	後期初頭
第397図 PL.225	3	深鉢 覆土	① 粗: 石英・輝石 ② 褐色	横位隆線と側線沈線以下斜位沈線が派生する。充填文様は無く無文。	後期前葉
第397図 PL.225	4	深鉢 覆土	① 粗: 石英 ② 浅黄褐色	強い刺突文を疎らに施す。	後期前葉越後系
第397図 PL.225	5	深鉢 覆土	① 粗: 輝石 ② 鈍い黄褐色	あるいは鉢底部か。器厚は薄手で体部下半は強く開く。無文で外面は研磨調整を施す。	後期前葉
第397図 PL.225	6	蓋 覆土	① 粗: 輝石 ② 明褐色	底面・体部ともに扁平で、上面に橋状把手を付す。把手は3方の設定と見た。上面及び把手部に放射状の刺突文を施す。底面は研磨調整を加え平滑である。	後期前葉

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第397図 PL.225	7	磨石	覆土	完形	10.9	7.5	5.0	670	やや扁平な自然礫利用平坦な両面使用し平滑、端部に打痕。	石英閃緑岩	
第397図 PL.225	8	磨石	覆土	完形	14.4	8.3	5.5	1,140	やや扁平な自然礫利用、使用面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第397図 PL.225	9	磨石	覆土	完形	11.3	9.4	5.4	880	やや扁平な自然礫利用、使用面平滑。端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 95-7号焼土(第397図: PL.225)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第397図 PL.225	1	深鉢 覆土 体部下半1/3 残存	①粗:石英・輝石 ②暗赤褐色	2条隆線による懸垂文構成。施文部は数条単位の密接条線を縦位に施文する。	中期後葉古

#### 95-10号焼土(第398図: PL.225)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第398図 PL.225	1	深鉢 覆土 口縁部～頸部破 片	①細:輝石 ②鈍い橙色	頸部屈曲部を跨ぐ橋状把手。凹文を縦位に連ね8字状意匠を表す。把手両下端より鎖状隆線が横位に派生する。口唇部は横位沈線と円形刺突文。頸部屈曲部は沈線による楕円状区画文を配す。横位LRを充填する。	後期前葉
第398図 PL.225	2	深鉢 覆土 体部破片	①細:石英・輝石 ②褐灰色	沈線で画された弧状意匠。斜位LRを充填する。	後期初頭
第398図 PL.225	3	深鉢 覆土 体部破片	①粗:輝石 ②鈍い橙色	縦位沈線と列点状刺突文の縦位密接施文。	後期初頭

#### 95-11号焼土(第398図: PL.225)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考						
第398図 PL.225	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①細:輝石 ②黒褐色	外反する波状突起。浅い横位沈線を施す。内面は研磨調整を施す。	中期末葉						
第398図 PL.225	2	深鉢 覆土 体部破片	①細:石英・輝石 ②鈍い黄橙色	横位沈線を多段に設ける。以下沈線による横位波状文を配す。縄文は横位LR。横位沈線部は研磨を施す。	後期前葉新						
第398図 PL.225	3	深鉢 覆土 体部破片	①粗:輝石 ②鈍い黄橙色	2条沈線による施文部懸垂文構成か。斜位・縦位列点状刺突文を充填する。	後期初頭						
第398図 PL.225	4	深鉢 覆土 口頸部破片	①細:輝石少 ②黒褐色	頸部外反部に隆線・突起による区画文を配す。隆線剥落。区画内は側線沈線で横位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第398図 PL.225	5	凹石	覆土	欠損	(7.0)	(7.0)	2.9	(132)	扁平な饅の両面に凹み穴を有す。端部には打痕。欠損品。	流紋岩	

#### 95-13号焼土(第398図: PL.225)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第398図 PL.225	1	深鉢 覆土 体部破片	①細:石英・輝石 ②黒褐色	横位沈線以下沈線で画された幅狭磨消部による弧状意匠。LR充填施文。	後期前葉
第398図 PL.225	2	深鉢 覆土 体部破片	①細:石英・輝石 ②鈍い褐色	薄手の器厚。隆線による舌状小突起。弧状沈線を施し斜位LRを充填する。	後期前葉

#### 95-14号焼土(第398図: PL.226)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考						
第398図 PL.226	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①細:石英 ②鈍い赤褐色	口縁部内湾、口唇部内面肥厚する。口唇部は横位、体部は縦位LRを施す。	中期後葉						
第398図 PL.226	2	深鉢 覆土 口縁部破片	①細:石英・輝石 ②鈍い黄橙色	口縁部は無文。以下横位沈線を設ける。	後期前葉						
第398図 PL.226	3	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英 ②鈍い橙色	垂下隆線による懸垂文構成。外面は研磨を施す。	中期末葉						
第398図 PL.226	4	深鉢 覆土 体部上半破片	①粗:石英 ②褐灰色	横位隆線上位に大柄な刺突文が沿う。弧状隆線が派生し、斜位LRを充填する。	後期前葉						
第398図 PL.226	5	深鉢 覆土 体部下半～底部 残存 底:9.0	①粗:石英 ②橙色	底部は直立気味で、体部は緩やかに開く。無文で縦位・斜位削り調整後撫で調整を加える。内面体部中に環状煤付着。	後期初頭～前葉						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第398図 PL.226	6	打製石 斧	覆土	欠損	(7.2)	5.3	1.4	(81)	基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	

#### 95-15号焼土(第398図: PL.226)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第398図 PL.226	1	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英 ②明褐色	低い垂下隆線による懸垂文構成。弱い縦位研磨を加える。	中期末葉
第398図 PL.226	2	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英多 ②褐灰色	浅い押圧を加える垂下隆線による懸垂文構成。弱い縦位研磨調整を加える。	中期末葉

第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-16号焼土(第398図: PL.226)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考		
第398図 PL.226	1	深鉢 覆土	口縁部破片			①細:石英 ②明赤褐色			無文で横位研磨を施す。	後期初頭~前葉	
第398図 PL.226	2	深鉢 覆土	体部上半破片			①細:石英 ②鈍い黄褐色			強い押圧を加えた横位隆線。連鎖状隆線。器厚は薄手。	後期前葉	
第398図 PL.226	3	深鉢 覆土	体部破片			①粗:石英 ②黒褐色			沈線で画された施文部意匠文。縦位LRを充填する。あるいは4と同一個体か。	後期初頭	
第398図 PL.226	4	深鉢 覆土	体部中位破片			①粗:石英 ②鈍い黄褐色			沈線で画された施文部・磨消部による鋸先・スベード状意匠か。施文部縄文は横位LR充填施文。磨消部は研磨を加える。	後期初頭	
第398図 PL.226	5	深鉢 覆土	体部下半破片			①粗:石英 ②鈍い黄褐色			沈線による分岐懸垂文下半か。	後期初頭	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第398図 PL.226	6	磨石	覆土	完形	7.0	6.3	3.7	245	小型の扁平礫利用、両面使用し平滑。	粗粒輝石安山岩	

95-17号炉(第400図: PL.226)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考		
第400図 PL.226	1	深鉢 覆土	体部中位1/5 残存			①細:輝石 ②浅黄褐色			垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RLを充填し、縦位波状沈線を重ねる。	中期後葉新	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第400図 PL.226	2	礫器	覆土	完形	14.6	10.4	5.0	1,050	大型の礫器、片面に自然面大きく残す、一辺に粗い刃部を作出。	黒色安山岩	

95-1号配石(第401図: PL.226)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考		
第401図 PL.226	1	浅鉢 覆土	口縁部破片			①粗:石英・輝石 ②褐灰色			口唇部面を持ち内面突出する。直線的に開く体部。内外面とも丁寧な研磨を施す。赤彩痕は内面に僅かに見える。	中期後葉	
第401図 PL.226	2	浅鉢 覆土	頸部破片			①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色			屈曲部に刻みを加える。口縁部は外反気味で沈線による縦位S字状意匠下半を見る。赤彩痕は見られない。	中期後葉	
第401図 PL.226	3	深鉢 覆土	底部 底:5.6			①粗:石英・輝石 ②鈍い橙色			小型深鉢。器面磨滅し判然としない。おそらく体部下半は無文で撫で調整か。	中期後葉	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第401図 PL.226	4	多孔石	覆土	完形	21.3	17.4	9.2	4,400	大型の扁平な礫の両面に凹み穴を有す。被熱によるひび割れ顕著。	粗粒輝石安山岩	

95-2号配石(第401図: PL.226)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考		
第401図 PL.226	1	深鉢 覆土	口縁部破片			①細:輝石 ②褐灰色			口縁部内屈。口唇部内稜も鋭い。口縁部は無文で頸部に横位隆線と8字状貼付文を付す。内外面研磨。	後期前葉新	
第401図 PL.226	2	深鉢 覆土	体部破片			①粗:石英・雲母 ②明赤褐色			2条隆線が垂下する懸垂文構成。空白部は細かな縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系	
第401図 PL.226	3	深鉢 覆土	体部下半破片			①粗:石英多・輝石 ②鈍い黄褐色			強く開く体部下半。斜位RLを施す。外面煤付着。	中期後葉新	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第401図 PL.226	4	磨石	覆土	完形	12.2	7.0	4.9	620	長円形の川原石利用、一部風化によるものか、穴が見られる。	石英閃緑岩	
第401図 PL.226	5	凹石	覆土	完形	8.8	9.3	6.1	530	不定形な自然角礫の両面にやや大きい凹み穴が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第401図 PL.226	6	磨石	覆土	完形	17.2	6.3	5.9	940	棒状礫利用、端部を打面とする敲石としても利用か。	粗粒輝石安山岩	

5-99号土坑(第438図: PL.227)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考		
第438図 PL.227	1	深鉢 覆土	体部破片			①細:微石英粒 ②黒褐色			縄文LR縦位施文後、磨消懸垂帯。内面研磨。	中期後葉新	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第438図 PL.227	2	打製石 斧	覆土	欠損	(7.0)	4.1	1.0	(31)	薄手の基部片と見られる。両側縁に僅かに抉り見られる。	細粒輝石安山岩	

5-1120号土坑(第438図: PL.227)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考	
第438図 PL.227	1	深鉢 覆土	口縁部破片			①微細粒 ②褐色			口縁部に横位隆線。	後期?

### 第3章 検出された遺構と遺物

5-1128号土坑(第438図: PL.227)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第438図 PL.227	1	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒 ②灰黄褐色	縦位集合沈線。	中期後葉 縄文陥し穴

5-1129号土坑(第438図: PL.227)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第438図 PL.227	1	深鉢 覆土 底部破片	①石英粒少 ②にぶい赤褐色	底面に網代痕?。白色付着物。外面研磨。	後期前葉
第438図 PL.227	2	深鉢 覆土 底部破片	①石英・長石・角閃石安山岩 ②赤褐色	底面に網代痕、白色付着物。	後期前葉?

5-1130号土坑(第438図: PL.227)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第438図 PL.227	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①石英粒、白色粒少 ②にぶい黄橙色・灰白色	口縁端部内傾、横位沈線、刻み有す隆帯廻る。以下、沈線による三角意匠の磨消文様。LR縄文充填。	後期初頭新 2と同一個体
第438図 PL.227	2	深鉢 覆土 口縁部破片	①石英粒、白色粒少 ②にぶい黄橙色・灰白色	口縁端部内傾、横位沈線、刻み有す隆帯廻る。以下、沈線による三角意匠の磨消文様。LR縄文充填。	後期初頭新
第438図 PL.227	3	深鉢 覆土 口縁部破片	①石英、角閃石安山岩 ②黒褐色・灰黄褐色	口縁部内傾し山状突起有す。突起下には重弧文、左右に太沈線が延びる。重弧文から刻み有す隆帯垂下。器面研磨痕顕著。煤付着。	後期前葉古
第438図 PL.227	4	深鉢 覆土 口縁部破片	①石英、角閃石安山岩 ②黒褐色・灰黄褐色	口縁に太沈線が延び、沈潜下側が突起する。以下無文。器面研磨痕顕著。煤付着。	後期前葉古
第438図 PL.227	5	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒、白色粒少 ②にぶい黄橙色・灰白色	V字状の沈線文、中にはLR縄文充填。	後期初頭新 1・2と同一個体か
第438図 PL.227	6	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石・酸化粒 ②にぶい褐色	縄文RL施文後、3本の沈線による磨消曲線文。器面研磨。	後期前葉古 7と同一個体
第438図 PL.227	7	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石・酸化粒 ②にぶい褐色	縄文RL施文後、3本の沈線による磨消曲線文。器面研磨。	後期前葉古
第438図 PL.227	8	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②褐色	上位に垂下沈線文の下端部が見える。以下無文、外面縦方向の研磨痕。	後期前葉
第438図 PL.227	9	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②褐色	無文、外面縦方向の研磨。	後期前葉 8と同一個体

5-1142号土坑(第438図: PL.227)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第438図 PL.227	1	深鉢 覆土 体部破片2点	①石英・長石粒多 ②にぶい赤褐色・暗褐色	口縁無文部下位に2本の横位隆線巡り、これに接して沈線による懸垂文、間を縦位矢羽根状の沈線文で埋める。	中期後葉						
第438図 PL.227	2	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒多 ②にぶい赤褐色	2本隆線による懸垂文、地文には縦位矢羽根状沈線。	中期後葉						
第438図 PL.227	3	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②赤褐色	2本隆線による斜位懸垂文、縦位、斜位の沈線。	中期後葉						
第438図 PL.227	4	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石・白色粒 ②にぶい赤褐色	斜位集合沈線文上に斜位の隆線を斜格子状に貼り付ける。以下重集合沈線文。	中期後葉古						
第438図 PL.227	5	深鉢 覆土 脚台部	①粗:白色粒(大粒)・角閃石安山岩(少) ②暗赤褐色	上位に縦位集合沈線上に垂下隆線文の下端部が見える。脚台部は器面無文で良く研磨されている。下部が開き、4方向に円孔を有すものと思われる。内面煤付着。	中期後葉						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第438図 PL.227	6	打製石 斧	覆土	欠損	7.4	5.2	2.0	(104)	片面に自然面、やや厚手の刃部片。	紫蘇輝石普通輝 石安山岩	
第438図 PL.227	7	磨石	覆土	完形	7.9	7.0	5.4	430	円礫、顕著な磨り面は見られず、側縁部に打痕。鉄分沈着。	デイスait?	

5-1151号土坑(第439図: PL.227)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第439図 PL.227	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①石英隆多 ②暗褐色	波状口縁、頂端部肥厚、横位沈線廻らし、以下縄文LR横位施文。	中期後葉						
第439図 PL.227	2	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②明赤褐色	燃糸文L縦位方向施文。	中期後葉古						
第439図 PL.227	3	土製円盤 覆土 完形	①石英、角閃石安山岩 ②暗褐色	無文、外面研磨痕。小型品。	中期後葉?						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第439図 PL.227	4	二次加 工片	覆土	完形	3.0	2.4	0.8	2.7	対辺に弧状の刃部を有す剥片。	黒曜石	
第439図 PL.227	5	石皿	覆土	欠損	(12.0)	(21.0)	(9.2)	(2,210)	両面に使用面を有す石皿の縁部分片。被熱。	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

5-1152号土坑(第439図: PL.227)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第439図 PL.227	1	深鉢 覆土 口縁~体部破片	①石英粒・長石粒・白色粒 ②明赤褐色	無文で器肉はやや薄手である。	後期前葉
第439図 PL.227	2	深鉢 覆土 口縁部破片	①細:石英粒 ②にぶい黄褐色	口縁内側に凹線、無文で内外面研磨。煤付着。	後期前葉
第439図 PL.227	3	深鉢 覆土 口縁部破片	①石英・長石・片岩粒 ②橙色	口縁内側に凹線、内外面無文。二次被熱。	後期前葉

5-1154号土坑(第439図: PL.228)

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第439図 PL.228	1	石核	覆土	完形	5.8	3.3	2.3	32.3	やや縦長の小石核。	黒曜石	

5-1172号土坑(第439図: PL.228)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第439図 PL.228	1	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②橙色	沈線による磨消懸垂文、RL複節縦位施文。	中期後葉

5-1174号土坑(第439図: PL.228)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第439図 PL.228	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①細:微石英・長石粒 ②暗赤褐色	口縁部横位隆線下に縦位区画の縄文懸垂文。縄文LR縦位施文。	中期末葉

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第439図 PL.228	2	石鏃	覆土	欠損	(1.9)	1.3	0.4	(0.6)	先端部片、破損面に珪晶見られる。	黒曜石	

5-1189号土坑(第439図: PL.228)

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第439図 PL.228	1	スクレイパー	覆土	完形	2.2	1.6	0.8	2.1	弧状の刃部を有す。	黒曜石	

5-1190号土坑(第440図: PL.228)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第440図 PL.228	1	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・長石粒 ②にぶい赤褐色	磨消懸垂文下端部か、研磨痕見える。器面剥離。	中期後葉

5-1194号土坑(第440図: PL.228)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第440図 PL.228	1	深鉢 覆土 体部破片	①長石粒・角閃石安山岩 ②明褐色	横位隆帯。隆帯上は無文。	中期後葉
第440図 PL.228	2	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・雲母粒 ②暗赤褐色	隆線による懸垂文、縦位集合沈線文。	中期後葉
第440図 PL.228	3	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・長石粒多 ②明赤褐色	撚糸文L縦位方向施文。	中期後葉
第440図 PL.228	4	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・長石粒多 ②明褐色	撚糸文L縦位方向施文。内面剥離顕著。	中期後葉
第440図 PL.228	5	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・長石粒多 ②明褐色	撚糸文L縦位方向施文。	中期後葉
第440図 PL.228	6	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・長石粒多 ②明赤褐色	撚糸文L縦位方向施文。	中期後葉
第440図 PL.228	7	深鉢 覆土 底部 高:(1.9) 底:9.2	①石英・長石粒・白色粒 ②褐色	無文底部片。内面研磨。	中期後葉

5-1195号土坑(第440図: PL.228)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第440図 PL.228	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①細:石英・長石粒 ②橙色	口縁部、内湾。横位沈線による磨消縄文。横位LRか。	中期後葉
第440図 PL.228	2	深鉢 覆土 体部破片	①細:微砂粒少 ②明赤褐色	体部下位片か。縄文LR縦位施文。	中期後葉

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第440図 PL.228	3	礫器	覆土	完形	6.8	4.8	1.7	75	小扁平礫、側縁に打痕か。	安山岩	



### 第3章 検出された遺構と遺物

5-1200号土坑(第440図: PL.228)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考	
第440図 PL.228	1	深鉢 覆土	口縁部破片	①微砂粒 ②暗褐色	内屈する口縁端部内側に隆線付され肥厚。外面無文で研磨。煤付着。	中期後葉
第440図	2	深鉢 覆土	体部破片	①石英・長石粒多 ②明褐色	横位隆線、下位には沈線による垂下文、曲線文か。	中期後葉
第440図 PL.228	3	深鉢 覆土	口縁部片	①粗:白色粒多・石英多 ②赤褐色	口縁部に大きく突起した橋状把手が付く。橋状部は隆線沈線で飾られ、把手上面より1段高く突き出る。上面は三角を呈し、器内面側に楕円の円窓、上部にも穴を有す。橋状把手下部から、左右に分かれた隆線とこれに伴う沈線で弧状文様を構成。下側隆線は突出する。弧状文内には横位矢羽根状短沈線文充填。	中期後葉

5-1203号土坑(第440図: PL.228)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考	
第440図 PL.228	1	深鉢 覆土	体部破片	①微砂粒 ②暗赤褐色	細燃糸文R縦位施文。内外面煤付着。	中期後葉

5-1208号土坑(第440図: PL.228)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第440図 PL.228	1	深鉢 覆土	口縁部破片	①粗:白色粒・石英 ②暗褐色	波状口縁、波頂部斜めに橋状突起が付く、円孔有り。以下体部には沈線による磨り消曲線文。LR縄文施文。	中期末葉					
第440図 PL.228	2	深鉢 覆土	口縁部破片	①石英粒・長石粒 ②にぶい黄褐色	口縁部横位隆線下に縦位区画の縄文懸垂文。区画上位縄文LR斜位方向、以下縦位方向施文。	中期末葉					
第440図 PL.228	3	深鉢 覆土	口縁部破片	①石英粒・砂粒 ②明赤褐色	口縁部に隆線による横位弧状文。弧状文内は縦位集合沈線で埋める。	中期後葉信州系					
第440図 PL.228	4	深鉢 覆土	体部破片	①石英粒・長石粒・雲母粒 ②褐色	沈線による縦位磨消縄文。縄文はRL縦位。	中期後葉					
第440図 PL.228	5	深鉢 覆土	体部破片	①細:石英粒少 ②暗褐色	沈線による幅広縦位磨消縄文。縄文はLR縦位。	中期後葉					
第440図 PL.228	6	深鉢 覆土	体部破片	①石英・白色粒多 ②にぶい黄色	縦位集合条線文。二次被熱。	中期後葉					
第440図 PL.228	7	深鉢 覆土	突起	①細:白色粒多 ②暗赤褐色	波頂部分に低位隆帯による8字状文。上位には円孔有り。器面研磨。	後期初頭					
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第440図 PL.228	8	石鏃	覆土	完形	2.2	1.6	0.5	0.8	凹基無茎、扱りは円く、やや厚みを有す。	黒曜石	
第440図 PL.228	9	打製石斧	覆土	完形	8.0	5.5	1.5	73	撥形、短身で刃先に向かって薄く作られている。基部両側に小さく扱ひ。	黒色頁岩	

5-1209号土坑(第441図: PL.228・229)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第441図 PL.228	1	深鉢 覆土	口縁~体部破片	①石英・長石粒 ②灰黄褐色	口縁部横位隆帯で無文部を画す。以下隆線に接して逆U字状の磨消無文懸垂文。縄文LR縄文斜位、縦位施文。	中期末葉 1・2は同一個体					
第441図 PL.228	2	深鉢 覆土	口縁部破片	①石英・長石粒 ②灰黄褐色							
第441図 PL.228	3	深鉢 覆土	口縁~体部破片 2点	①石英粒・長石粒 ②明黄褐色	無文口縁下に沈線による紡錘状文描く。縄文LR縦位施文。器面の風化顕著。	中期末葉					
第441図 PL.228	4	深鉢 覆土	口縁部破片	①石英・長石粒 ②明褐色	口縁部肥厚、口唇部は薄くなる。縦位の沈線文施文。横位隆線で区画文様構成か、隆線下に沈線による波状文か。	中期後葉信州系					
第441図 PL.228	5	深鉢 覆土	口縁部破片	①微砂粒 ②暗褐色	口縁端部短く外傾、横位隆線巡り、これから2本隆線の懸垂文。縄文LR縦位施文。	中期後葉					
第441図 PL.229	6	深鉢 覆土	体部破片	①石英粒・長石粒 ②明黄褐色	沈線による紡錘状文か。縄文LR縦位施文。器面の風化顕著。	中期後葉 3と同一個体					
第441図 PL.229	7	深鉢 覆土	体部破片	①石英粒・白色粒 ②明赤褐色	隆線によるU字状懸垂文、中には斜位短沈線文。	中期後葉信州系					
第441図 PL.229	8	深鉢 覆土	底部 底:7.6	①石英・長石粒 ②橙色	底部片、接合部で剥がれる。底面、内面研磨。	後期前葉?					
第441図 PL.229	9	深鉢 覆土	底部破片	①微石英粒 ②赤褐色	浅鉢底部片、細縄文LR横位施文。内面研磨。	後期前葉					
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第441図 PL.229	10	石皿	覆土	欠損	(15.5)	(11.9)	13.4	(3,775)	極めて厚手である。欠損品で裏面に凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第441図 PL.229	11	石皿	覆土	欠損	(22.2)	(25.8)	6.7	(5,350)	使用面は大きく窪み使用による摩耗顕著。また裏面は平坦で平滑。	緑色片岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

5-1210号土坑(第441図: PL.229)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第441図 PL.229	1	深鉢 覆土 体部破片	①細:石英・角閃石安山岩 ②褐色	LR縄文縦位。	中期後葉

5-1211号土坑(第441図: PL.229)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第441図 PL.229	1	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・長石粒・雲母粒 ②暗褐色	隆帯による渦巻き楕円文構成、LR施文。	中期後葉

5-1220号土坑(第441図: PL.229)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第441図 PL.229	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①細:胎土精製 ②にぶい褐色	口縁部隆帯による突起が付き、下に円形文、渦巻き文様描くか。	中期後葉

5-1223号土坑(第442図: PL.229)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第442図 PL.229	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①細:石英粒・長石粒・雲母粒 ②暗赤褐色	隆帯による渦巻き楕円文構成、楕円文内LR縦位施文、円形押圧文有す。以下体部には浅い凹線により磨消懸垂文、蛇行文見られる。地文はLR縦位施文。器面研磨。	中期後葉古						
第442図 PL.229	2	深鉢 覆土 体部破片	①粗:白色粒・角閃石安山岩 ②黒褐色	口縁下に突出した隆帯による円形文、渦巻き文構成、体部には沈線によって画した円形文を組み合わせた文様構成で、中にはLR縄文を充填施文。	中期後葉						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第442図 PL.229	3	磨石	覆土	完形	9.4	8.3	6.3	680	円礫利用、顕著な磨り面は見られ無いが端部に打痕。被熱。	粗粒輝石安山岩	

5-1224号土坑(第442図: PL.229)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第442図 PL.229	1	深鉢 覆土 口縁~底部 口:18.0 底:7.8	①細:白色粒 ②明褐色	口縁小波状を呈しその一つに突起が付くものと思われるが欠損している。口縁に沿って無文部設ける。体部文様は沈線により横位連続にV字状懸垂文(6単位)描き文様内には縄文LRを充填施文する。内面煤付着。	中期末葉						
第442図 PL.229	2	深鉢 覆土 口縁~底部3点 口:12.0 底:6.6	①細:白色粒・石英 ②明黄褐色・にぶい黄褐色	口縁部は短く内屈、横位隆線巡り突起を有ものと思われるが欠損している。体部は隆線による逆U字状懸垂文(4単位)描く、文様内は無文で他は細縄文LRを多方向施文。器面の風化顕著。	中期末葉						
第442図 PL.229	3	深鉢 7 体部破片	①細:石英粒 ②褐色	隆線による磨消懸垂文、U字状文様構成。LR縄文施文。煤付着。	中期後葉新						
第442図 PL.229	4	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②褐色	縦位集合沈線、施文乱雑。	中期後葉						
第442図 PL.229	5	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②黒褐色	縦位集合条線。	中期後葉						
第442図 PL.229	6	深鉢 覆土 体部~底部 底:9.8	①石英・長石粒 ②にぶい褐色	文様不明。器面摩滅。	中期後葉?						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第442図 PL.229	7	礫器	覆土	完形	(7.7)	6.5	4.1	(309)	断面が丸みを持つ三角形を呈す棒状礫。平坦部および端部に打痕。	石英閃緑岩	

5-1225号土坑(第442図: PL.229)

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第442図 PL.229	1	石皿	覆土	欠損	(22.8)	(18.9)	6.9	(3,325)	不定形で使用面は浅い、裏面には複数の凹み穴。上半部を欠損。	粗粒輝石安山岩	

5-1226号土坑(第442図: PL.229)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第442図 PL.229	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①石英粒・長石粒・雲母粒 ②明褐色	口縁部内側肥厚、沈線で無文帯画し刺突文見られる。	後期初頭						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第442図 PL.229	2	打製石斧	覆土	欠損	12.2	4.8	2.1	141	短冊形、片面に自然面残る平坦面。基部を僅かに欠く。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 5-1227号土坑(第443図: PL.229)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第443図 PL.229	1	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・白色粒 ②褐色	横位低隆帯。	中期後葉
第443図 PL.229	2	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・雲母粒 ②褐色	沈線による磨消懸垂文、蛇行文を取られる。地文縦位の集合条線文。	中期後葉
第443図 PL.229	3	深鉢 覆土 体部破片	①細：石英・酸化粒 ②黄褐色	沈線による曲線文。	中期後葉

#### 5-1228号土坑(第443図: PL.229)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第443図 PL.229	1	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②黄褐色	刻み有す隆線懸垂文、沈線による磨消文様描く。LR縄文見られる。器面研磨、内面に煤付着。	後期初頭
第443図 PL.229	2	深鉢 覆土 体部破片	①石英・白色粒 ②橙色	沈線による磨消懸垂文、地文縦位RL施文。	中期後葉
第443図 PL.229	3	深鉢 覆土 体部破片	①石英・潮汐・白色粒 ②褐色	複節RL縄文施文。	中期後葉

#### 5-1229号土坑(第443図: PL.229)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考						
第443図 PL.229	1	深鉢 覆土 体部破片	①石英・白色粒 ②にぶい赤褐色	縦位の複数沈線。	中期後葉 2と同一個体						
第443図 PL.229	2	深鉢 覆土 体部破片	①石英・白色粒 ②にぶい赤褐色	縦位の複数沈線。	中期後葉 1と同一個体						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第443図 PL.229	3	台石	覆土	完形	21.0	17.7	5.5	2,705	扁平な礫を利用、表裏に平滑な使用面。	石英閃緑岩	

#### 5-1230号土坑(第443図: PL.230)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第443図 PL.230	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①石英粒・長石粒 ②暗赤褐色	口縁部横位隆線無文帯画す。隆線下位には沈線による曲線垂下文描く。器面研磨痕。外面煤付着。	中期末葉
第443図 PL.230	2	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒少 ②にぶい黄褐色・橙色	隆帯突起し下位に凹線が沿い、文様区画か。無節L縄文施文。	中期末葉
第443図 PL.230	3	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②黒褐色	横位隆帯下、RL縦位施文。	中期後葉
第443図 PL.230	4	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・白色粒 ②橙色・黄橙色	沈線によりS状、J字状の磨消懸垂文様。縄文部は無節Lを充填施文。	後期初頭 5・6は同一個体
第443図 PL.230	5	深鉢 覆土 体部破片3点	①石英粒・白色粒 ②橙色・黄橙色	沈線により磨消懸垂文様。縄文部は無節Lを充填施文。	後期初頭
第443図 PL.230	6	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・白色粒 ②橙色・黄橙色	沈線によりS状、J字状の磨消懸垂文様。縄文部は無節Lを充填施文。	後期初頭
第443図 PL.230	7	深鉢 覆土 突起	①細：白色粒 ②暗褐色	眼鏡状突起、両面に沈線によるC状文、円形文有す。3方向に凹孔。器面研磨。	後期前葉
第443図 PL.230	8	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②褐灰色	無節L横位施文。施文が浅い。焼成堅緻。	中期後葉

#### 5-1231号土坑(第443図: PL.230)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考						
第443図 PL.230	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①石英粒・長石粒・雲母粒 ②赤褐色	波状口縁、沈線による曲線文か。	中期後葉						
第443図 PL.230	2	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・長石粒 ②にぶい赤褐色	低隆帯による渦巻き文を描くか。器面研磨。	中期後葉						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第443図 PL.230	3	磨製石斧	覆土	欠損	(9.9)	(5.2)	2.3	(248)	比較的厚手の定角式磨製石斧、研磨面は平滑。刃部を欠く。	蛇紋岩	

#### 5-1232号土坑(第443図: PL.230)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第443図 PL.230	1	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒 ②にぶい橙色	沈線による磨消懸垂文、縄文LR縦位施文。	中期後葉
第443図 PL.230	2	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒 ②暗赤褐色	状文RL縦位施文。内面研磨。	中期後葉

第2節 縄文時代の遺構と遺物

5-1234号土坑(第444図: PL.230)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第444図 PL.230	1	深鉢 覆土 口縁～体部破片	①粗:白色粒・小礫 ②暗褐色	波状口縁、口縁下渦巻き文から繋がる隆線で楕円渦巻き文を連続して描出。楕円文内には斜位、矢羽根状の沈線文を埋める。文様帯下部には隆線垂下し側線沈線で文様を区画し、縦位矢羽根状の沈線文を充填する。	中期後葉信州系
第444図 PL.230	2	深鉢 覆土 口縁～体部	①粗:白色粒・角閃石安山岩 ②にぶい黄褐色	口縁部文様は隆帯による楕円渦巻き文横位連続。楕円文内は縦位集合沈線で埋める。体部には2本沈線による懸垂文および蛇行懸垂文。地文は縦位集合沈線全面施文。	中期後葉

5-1235号土坑(第444図: PL.230)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第444図 PL.230	1	深鉢 覆土 体部破片	①石英・白色微小粒 ②橙色	内湾する、沈線による磨消曲線文様か。状文はLR施文。	後期初頭						
第444図 PL.230	2	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・長石粒少 ②橙色	体下部片、文様不鮮明、僅かに懸垂沈線の下端部か。内面煤付着。	中期後半						
第444図 PL.230	3	深鉢 覆土 体部破片	①長石粒 ②にぶい赤褐色	沈線による磨消懸垂帯、縄文LR縦位施文か。	中期後半						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第444図 PL.230	4	打製石 斧	覆土	欠損	(8.7)	5.0	1.3	(76)	撥形、やや薄手の作りで刃部を欠く。	黒色頁岩	

5-1236号土坑(第444図: PL.230)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第444図 PL.230	1	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②橙色	沈線による磨消懸垂帯、縄文LR縦位施文。内面横研磨。	中期後葉

5-1237号土坑(第445図: PL.230)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第445図 PL.230	1	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・長石粒 ②赤褐色	無文、器面研磨。	中期後葉						
第445図 PL.230	2	深鉢 覆土 底部破片	①長石粒 ②橙色	無文底部片。	中期後葉						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第445図 PL.230	3	多孔石	覆土	完形	19.8	12.6	10.6	2,280	大型の円礫、表裏面に数個の凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	

5-1238号土坑(第445図: PL.230)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第445図 PL.230	1	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒 ②黒褐色	隆帯による渦巻き楕円文構成か。LR縄文横位施文。	中期後葉						
第445図 PL.230	2	深鉢 覆土 底部破片 底:(8.0)	①長石粒 ②暗赤褐色	無文底部片、外面研磨。内面に煤付着。	中期後葉						
第445図 PL.230	3	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・長石粒 ②にぶい褐色	上位に横位沈線見える。以下無文で器面研磨。	中期後葉						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第445図 PL.230	4	打製石 斧	覆土	欠損	11.2	5.1	1.4	105	撥形、刃部は丸く摩耗顕著、作りは雑で、基部を欠く。	細粒輝石安山岩	

5-1239号土坑(第445図: PL.230)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第445図 PL.230	1	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・長石粒 ②にぶい赤褐色	低い隆線により無文部と縄文部分ける。	中期後葉						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第445図 PL.230	2	打製石 斧	覆土	欠損	(4.3)	5.5	1.2	(47)	撥形、比較的薄手作り、基、刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	

5-1240号土坑(第445・446図: PL.231)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第445図 PL.231	1	深鉢 覆土 底部 底:11.0	①石英粒・白色粒 ②明黄褐色	底部片、接合部で剥がれる。底面に網状痕。	後期前葉
第445図 PL.231	2	土製円盤 覆土 完形	①石英・長石粒 ②橙色	体部片、器面風化。	不明

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第445図 PL.231	3	磨石	覆土	完形	11.2	9.3	7.4	1,116	大型円礫利用、使用面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第446図 PL.231	4	磨石	覆土	完形	12.7	8.1	4.5	705	やや扁平な礫利用、両面に浅い打痕状の凹みを有す。端部にも打痕。	安山岩	
第446図 PL.231	5	礫器	覆土	欠損	(11.0)	5.5	3.6	(292)	断面丸みを持った三角形の棒状礫、対になった平坦面に打痕状の凹み。	安山岩	
第446図 PL.231	6	磨石	覆土	完形	10.6	5.8	3.6	367	扁平な長円礫、平滑な両面に浅い打痕。	粗粒輝石安山岩	
第446図 PL.231	7	石皿	覆土	欠損	(4.0)	(4.8)	4.2	(65)	L字型を呈す側縁部片。縁は高く側面、底部は平らに成形される。	安山岩質熔岩	

#### 5-1241号土坑(第446図: PL.231)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考	
第446図 PL.231	1	深鉢 覆土	口縁部破片	①細:石英粒少 ②暗褐色	口縁部短く内屈、横位刻み隆帯廻る。以下三角意匠の磨消文様。LR細縄文施文。器面研磨。	後期前葉
第446図 PL.231	2	深鉢 覆土	口縁部破片	①石英・長石粒 ②明黄褐色	口縁やや内湾、横位沈線巡り以下以下縄文LRか。器面風化。	後期初頭
第446図 PL.231	3	注口土器 覆土	体部破片	①細:白色粒・角閃石安山岩少 ②にぶい黄褐色	頸部から張り出した体部中位にかけ、低位隆帯による渦巻き文、矩形文位を組み合わせた意匠文様描く。隆線文間には沈線により弧状文、矩形文様を描き、細縄文LRで埋める。また隆線上にも縄文施文。器面良く研磨。	後期前葉新 3・4は同一個体
第446図 PL.231	4	注口土器 覆土	体部破片	①細:白色粒・角閃石安山岩少 ②にぶい黄褐色		
第446図 PL.231	5	深鉢 覆土	体部破片	①石英粒・長石粒多 ②橙色	沈線で磨消縄文文様。	後期初頭
第446図 PL.231	6	深鉢 覆土	体部破片	①細:微砂粒 ②黄褐色	隆線で文様画す。縄文はLR。	中期後葉

#### 5-1242号土坑(第446・447図: PL.231)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考	
第446図 PL.231	1	深鉢 覆土	口縁~体部 口:(26.4)	①細:白色粒 ②黒褐色	口縁部に刻み隆帯巡り8字状貼付文見られる。また口縁部内側に指による折り込み有り。体部には沈線による三角、渦巻き意匠の磨消文様描く。縄文はLR。器面研磨。一部に煤付着。	後期前葉新
第446図 PL.231	2	深鉢 覆土	体部破片	①石英粒・長石粒 ②褐色	沈線による三角意匠文。	後期前葉
第446図 PL.231	3	深鉢 覆土	体部破片	①石英・長石粒 ②明褐色	沈線による三角意匠の磨消文様。	後期前葉 4・5と同一個体
第447図 PL.231	4	深鉢 覆土	体部破片	①石英・長石粒 ②暗褐色	沈線による三角意匠の磨消文様。	後期前葉 3・5と同一個体
第447図 PL.231	5	深鉢 覆土	体部破片	①石英・長石粒 ②褐色	沈線による三角意匠の磨消文様。	後期前葉 3・4と同一個体
第447図 PL.231	6	深鉢 覆土	体部破片	①石英粒・長石粒多 ②褐色	隆線による楕円文か。	中期後葉
第447図 PL.231	7	深鉢 覆土	底部破片 底:11.6	①石英粒 ②褐色	端部が張る器形、外面の研磨痕顕著、内面、断面に煤。底面に網代痕。	後期前葉
第447図 PL.231	8	深鉢 覆土	底部破片	①長石粒 ②褐色	鉢の底部片、無文で内外面研磨。内面黒色。	後期前葉
第447図 PL.231	9	深鉢 覆土	体部~底部 高:(9.8) 底:9.0	①長石、石英粒 ②褐色	無文、外面研磨、底面に網代痕残り、外周を研磨。	後期前葉

#### 5-1243号土坑(第447図: PL.231)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考	
第447図 PL.231	1	深鉢 覆土	体部破片	①石英・長石粒 ②褐色	突起した横位隆帯文様構成、刺突文見られる。	中期後葉
第447図 PL.231	2	深鉢 覆土	体部破片	①石英・長石粒 ②褐色	垂下隆線、縦位LR縄文。	中期後葉

#### 5-1247号土坑(第447図: PL.231)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考	
第447図 PL.231	1	深鉢 覆土	口縁部破片	①石英・長石粒・角閃石安山岩 ②明褐色	波状口縁、口縁部に沿って隆帯。	後期初頭
第447図 PL.231	2	深鉢 覆土	体部破片	①石英・長石粒 ②にぶい黄褐色	無節L横位施文。施文が浅い。焼成堅緻、外面煤付着。	中期後葉

第2節 縄文時代の遺構と遺物

5-1248号土坑(第447図: PL.231)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色 調					文 様 の 特 徴 等	備 考		
第447図 PL.231	1	深鉢 覆土	口縁部破片		① 粗:褐色粒・小礫多 ② 黒色					隆帯による渦巻き楕円文構成。	中期後葉
第447図 PL.231	2	深鉢 覆土	体部破片		① 石英・長石粒・雲母粒 ② 褐色					縦位集合条線施文後、沈線による渦巻き文、曲線文描く。	中期後葉
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第447図 PL.231	3	打製石 斧	覆土	完形	11.7	5.7	1.7	156	片側側面から刃部部分に自然面、粗い作りで鋭利さは見られず。	粗粒輝石安山岩	
第447図 PL.231	4	磨石	覆土	完形	11.0	5.5	4.1	397	長円礫、側面、端部に若干の打痕。	粗粒輝石安山岩	

5-1251号土坑(第447図: PL.231)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色 調					文 様 の 特 徴 等	備 考		
第447図 PL.231	1	深鉢 覆土	口縁部破片		① 石英粒・長石粒多 ② にぶい黄褐色					口縁部内屈し小波状を呈し、貼付文?か。縄文 RL 全面に施文。口縁端部に煤付着。	前期末葉
第447図 PL.231	2	深鉢 覆土	体部破片		① 石英・長石 ② 暗褐色					LR 横位全面施文。	前期後葉
第447図 PL.231	3	深鉢 覆土	体部破片		① 石英・長石 ② 赤褐色					刻み有す隆線で蛇行懸垂文。	前期末葉

5-1253号土坑(第447図: PL.231)

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第447図 PL.231	1	打製石 斧	覆土	欠損	(7.0)	4.6	2.0	(69)	端部が肥厚した基部片。	安山岩	

5-1256号土坑(第447図: PL.231)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色 調					文 様 の 特 徴 等	備 考		
第447図 PL.231	1	深鉢 覆土	体部破片		① 石英・長石粒 ② 赤褐色					隆線による平行懸垂文、斜位の集合沈線。	中期後葉

5-1257号土坑(第447図: PL.232)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色 調					文 様 の 特 徴 等	備 考		
第447図 PL.232	1	深鉢 覆土	体部破片		① 細:石英粒 ② 明黄褐色					隆線による楕円区画文、縄文 LR 施文。	中期後葉
第447図 PL.232	2	深鉢 覆土	体部破片		① 石英・長石粒 ② 明褐色					縄文 LR 施文。	中期後葉

5-1259号土坑(第448図: PL.232)

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第448図 PL.232	1	磨石	覆土	完形	11.2	8.4	5.8	781	やや扁平な円礫、帳面使用か。	粗粒輝石安山岩	
第448図 PL.232	2	磨石	覆土	ほぼ 完形	7.6	7.1	6.0	368	被熱によるひび割れ見られる、一部欠く。	粗粒輝石安山岩	
第448図 PL.232	3	礫器	覆土	完形	11.4	7.1	4.9	529	顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	

5-1271号土坑(第448図: PL.232)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色 調					文 様 の 特 徴 等	備 考		
第448図 PL.232	1	深鉢 覆土	体部破片		① 石英・長石粒 ② 明褐色					隆線区画文内に縦位集合沈線。	中期後葉

95-28号土坑(第449図: PL.232)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色 調					文 様 の 特 徴 等	備 考		
第449図 PL.232	1	深鉢 覆土	口縁～頸部 1/ 4 残存 口: (32.0)		① 細:輝石 ② 鈍い黄褐色					既報告資料に接合。口唇部に横位沈線を設ける。頸部に横位沈線2条を配し、沈線間に刺突文を充填する。体部は横位 LR を施す。	後期前葉新 433集118図2
第449図 PL.232	2	深鉢	体部中位破片		① 粗:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色					2条隆線による縦位連鎖状懸垂文。側線沈線は波状意匠へ変化する。縦位 RL を施す。	中期後葉古

95-93号土坑(第449図: PL.232)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色 調					文 様 の 特 徴 等	備 考		
第449図 PL.232	1	深鉢 覆土	口縁部突起片		① 粗:石英・褐色粒 ② 鈍い褐色					波状突起。内面肥厚。外面は沈線による渦巻文を配す。	後期前葉

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			①胎土 ②色調			文様の特徴等		備考	
第449図 PL.232	2	深鉢 覆土	体部上半破片			①細：石英・輝石多 ②褐灰色			沈線で画された施文部区画文構成。三角形区画か。 横位LRを充填する。	後期前葉新	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第449図 PL.232	3	多孔石	覆土	完形	28.7	17.7	16.9	7,700	大型の自然礫、両面にやや浅い凹み穴有すが数は少ない。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-102号土坑(第449図：PL.232)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			①胎土 ②色調			文様の特徴等		備考	
第449図 PL.232	1	深鉢 覆土	口縁部突起片			①粗：石英 ②鈍い褐色			薄手の波状突起。外面は隆線による渦巻文を配す。 内面も沈線による渦巻文を施す。	中期後葉新	
第449図 PL.232	2	深鉢 覆土	口縁部破片			①細：石英 ②浅黄色			小波状突起。幅狭口縁部に円文を配し横位沈線と弧 線を施す。屈曲部下より横位・縦位沈線を施す。	後期前葉	
第449図 PL.232	3	深鉢 覆土	口縁部破片			①粗：石英・輝石 ②黒褐色			口縁部区画文か。側線沈線で横位RLを充填する。	中期後葉新	
第449図 PL.232	4	深鉢 覆土	口頸部～体部上 半破片			①粗：石英・輝石 ②褐灰色			隆線による渦巻文を配し下端より2条隆線が懸垂す る。渦巻文上位に孔を設ける。口縁部は区画文構成 か。体部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系	
第449図 PL.232	5	深鉢 覆土	体部中位破片			①細：石英・輝石 ②橙色			垂下沈線2条に画された施文部懸垂文構成。逆U字 状意匠も配される。上半はU字状意匠や縦位S字状 意匠か。縦位RL充填施文。	中期後葉新	
第449図 PL.232	6	深鉢 覆土	頸部破片			①細：輝石 ②褐灰色			2条の横位沈線間を刺突文が施される。体部は沈線 による弧線文・渦巻文上端を見る。	中期後葉古	
第449図 PL.232	7	深鉢 覆土	体部破片			①細：輝石 ②鈍い黄橙色			小刺突文が複列横位に施される。他は無文。	後期前葉	
第449図 PL.232	8	深鉢 覆土	体部破片			①粗：石英・輝石 ②鈍い黄橙色			4・5条単位の条線を斜位に対向状に充填する。	中期後葉新	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第449図 PL.232	9	磨石	覆土	完形	15.7	8.2	5.8	1,230	長円礫利用、表面やや粗く、両端部に打痕あり。	粗粒輝石安山岩	
第449図 PL.232	10	磨石	覆土	完形	8.5	7.4	5.1	490	円礫利用、片面にやや丸みを持つ、使用面は平滑。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-106号土坑(第449図：PL.232)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			①胎土 ②色調			文様の特徴等		備考
第449図 PL.232	1	深鉢 覆土	口縁部破片			①粗：輝石 ②鈍い橙色			口唇部内面肥厚。口唇部隆線以下2条隆線による渦 巻文を配す。側線は沈線及び撫で、斜位LRを充填 する。	中期後葉新

#### 95-107号土坑(第449図：PL.232)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			①胎土 ②色調			文様の特徴等		備考
第449図 PL.232	1	深鉢 覆土	頸部破片			①細：石英 ②黒褐色			頸部隆線か。上位は区画文で斜位短沈線を充填す る。下位は無文。	中期後葉信州系

#### 95-108号土坑(第449・450図：PL.232)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)			①胎土 ②色調			文様の特徴等		備考
第449図 PL.232	1	深鉢 覆土	口縁部破片			①粗：輝石 ②黒褐色			隆線による口縁部区画文構成。側線は沈線で横位 RLを充填する。	中期後葉新
第449図 PL.232	2	深鉢 覆土	口縁部破片			①粗：石英 ②暗赤褐色			低位隆線による口縁部渦巻文構成。側線は沈線で、 渦巻文内に乱雑な短沈線の充填を見る。	中期後葉信州系
第449図 PL.232	3	深鉢 覆土	口縁部破片			①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色			口唇部下に幅広の沈線を設ける。おそらく口縁部区 画文。縦位RLを充填する。	中期後葉新
第449図 PL.232	4	深鉢 覆土	口縁部破片			①細：石英少 ②褐灰色			口唇部より派生する弧状隆線。非対称であり別種意 匠を配する。弧状意匠と渦巻状意匠か。	中期後葉
第449図 PL.232	5	深鉢 覆土	口縁部破片			①粗：石英・雲母 ②鈍い赤褐色			口唇部に横位沈線2条を設ける。以下密接した縦位 条線を施す。	中期後葉新
第449図 PL.232	6	深鉢 覆土	体部破片			①粗：輝石・雲母多 ②黒褐色			内皮沈線による懸垂文と弧状意匠。施文は深い。地 文は横位LR。	中期後葉古
第449図 PL.232	7	深鉢 覆土	体部破片			①細：輝石 ②鈍い赤褐色			垂下沈線2条に画された幅狭磨削部による懸垂文構 成。無節Lを縦位に施し垂下沈線と縦位波状沈線 を加える。	中期後葉古
第449図 PL.232	8	深鉢 覆土	頸部破片			①粗：石英多・輝石 ②鈍い褐色			隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は沈 線、区画内は縦位LR充填。体部は2条沈線に画さ れた施文部懸垂文構成。縦位LRを充填する。	中期後葉新
第450図 PL.232	9	深鉢 覆土	体部中位破片			①粗：輝石 ②橙色			鎖状隆線による懸垂文構成。沈線による区画状意 匠・弧状意匠が配される。施文部を見ない。	後期初葉
第450図 PL.232	10	深鉢 覆土	体部破片			①粗：石英・輝石 ②橙色			低位隆線による渦巻状意匠と弧状区画か。側線は沈 線。	中期後葉新
第450図 PL.232	11	深鉢 覆土	口頸部破片			①粗：輝石 ②黒褐色			隆線による口縁部区画文。区画内は無文で横位撫 で調整を施す。	中期後葉新

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第450図 PL.232	12	深鉢 覆土 体部破片	① 細：輝石少 ② 鈍い黄褐色	2条の沈線に画された磨消部弧状意匠。施文部縄文は縦位LR充填施文。	後期初頭
第450図 PL.232	13	深鉢 覆土 体部下半破片	① 細：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	内湾気味に開く体部下半。横位沈線の一部を見る。やや軟質な感。	後期初頭

95-111号土坑(第450図：PL.232)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第450図 PL.232	1	深鉢 覆土 体部下半 2/3 残存	① 粗：石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	2条の隆線による懸垂文構成。空白部は縦位条線施文後横位沈線2条を重ねる。隆線剥落箇所多い。内面体部中位が加熱ため器壁剥落、煤付着。	中期後葉信州系

95-112号土坑(第450図：PL.232)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第450図 PL.232	1	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 淡黄色	無文の口縁部。破片下端に横位沈線を見る。	後期初頭か
第450図 PL.232	2	深鉢 覆土 口縁部破片	① 細：石英・輝石 ② 橙色	口唇部外面突出し端部に面を持つ。横位沈線を設ける。突起を付すか。	後期初頭か
第450図 PL.232	3	鉢 覆土 口縁部破片	① 粗：石英 ② 鈍い橙色	口縁部隆線を設け、隆線による弧状意匠を付す。体部は弧状・渦巻状意匠を配す。薄手で内外面研磨。	中期末葉
第450図 PL.232	4	深鉢 覆土 体部破片	① 粗：輝石・雲母少 ② 鈍い褐色	2条隆線による懸垂文構成。横位隆線を派生する。区画内は沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第450図 PL.232	5	深鉢 覆土 体部破片	① 細：輝石 ② 黒褐色	2条沈線による弧状意匠。やや乱雑な施文。薄手の器厚を呈す。	後期初頭

95-113号土坑(第450図：PL.233)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第450図 PL.233	1	深鉢 覆土 口縁部 1/3 欠 損 口：(22.0) 高：28.0 底：7.8	① 粗：石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	口縁部は緩やかに内湾し、口唇部内面強い内稜を持つ。口縁部外面は肥厚し無文。以下横位沈線を設け、体部は垂下沈線による懸垂文構成を呈す。垂下沈線は2条の例と3条があり、4単位配置であるが、1単位欠落する。地文は縦位・斜位LR。体部下半は撫で調整が重なる。	中期後葉古						
第450図 PL.233	2	深鉢 覆土 口縁～体部上半 破片	① 粗：小礫・輝石 ② 褐灰色	隆線による横長の口縁部区画文か。縦位区画線を見ない。頸部隆線側線は幅広い凹線。体部は2条沈線に画された縦位条線施文部による懸垂文構成。研磨調整のみの磨消部も見られる。縄文は口縁部・体部とも斜位RL充填施文。	中期後葉新						
第450図 PL.233	3	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗：石英・雲母 ② 黒褐色	口唇部内面肥厚。隆線による口縁部区画文構成。区画内側線は沈線で斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第450図 PL.233	4	深鉢 覆土 体部破片	① 粗：石英多・輝石 ② 鈍い橙色	垂下隆線1条による懸垂文構成か。沈線を側線とし斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系						
第450図 PL.233	5	深鉢 覆土 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色	垂下隆線1条による懸垂文構成か。斜位短沈線・魚鱗状短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第450図 PL.233	6	深鉢 覆土 体部上半破片	① 粗：石英・輝石 ② 橙色	横位隆線より垂下派生する2条隆線下端で区画化する。区画内は縦位矢羽状短沈線を充填する。空白部は斜位短沈線の対向施文による充填文。横位隆線上位に区画文を配するか。	中期後葉信州系						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第450図 PL.233	7	磨石	覆土	完形	11.0	7.5	5.2	600	やや扁平な長円礫、使用面は平滑。	粗粒輝石安山岩	

95-114号土坑(第451図：PL.233)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第451図 PL.233	1	深鉢 覆土 体部上半破片	① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色	横位隆線に刻みを加える。側線は沈線。以下体部は弧状沈線内縁をRLが充填される。内面器壁剥落。	後期初頭
第451図 PL.233	2	深鉢 覆土 体部破片	① 細：輝石 ② 明赤褐色	垂下沈線と磨消部を見る。懸垂文構成か。縦位LR充填施文。	中期後葉古
第451図 PL.233	3	深鉢 覆土 口頸部破片	① 粗：石英・輝石 ② 明赤褐色	隆線による口縁部区画文下端。沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第451図 PL.233	4	深鉢 覆土 体部破片	① 細：石英・輝石 ② 鈍い橙色	垂下隆線2条による懸垂文構成。側線は沈線。斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系
第451図 PL.233	5	深鉢 覆土 体部破片	① 細：輝石 ② 黒褐色	隆線による渦巻文と弧状区画か。側線は撫で、RLを施す。外面丁寧に研磨を施す。	中期後葉東北系
第451図 PL.233	6	深鉢 覆土 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 灰褐色	斜位隆線を配す。空白部は斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系

95-115号土坑(第451図：PL.233)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第451図 PL.233	1	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	口唇部内面強く突出。外面は無文で大きく開く。内外面とも弱い研磨を施す。	中期後葉信州系



### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 95-117号土坑(第451図: PL.233)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第451図 PL.233	1	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色	幅広い沈線に画された施文部逆J字状懸垂文。磨消部は研磨、施文部は縦位RLを充填する。	中期後葉新

#### 95-118号土坑(第451図: PL.233)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第451図 PL.233	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②褐灰色	隆線による口縁部区画文構成か。沈線を側線とし縦位条線を充填する。体部は2条沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位条線を施す。	中期後葉新 2は同一個体
第451図	2	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・輝石 ②褐灰色	2条沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位条線を施す。	中期後葉新

#### 95-119号土坑(第451図: PL.233)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第451図 PL.233	1	深鉢 覆土 口頸部破片	①粗:石英・輝石少 ②橙色	隆線による口縁部区画文。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系

#### 95-121号土坑(第451図: PL.233)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第451図 PL.233	1	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・雲母 ②明赤褐色	隆線剥落箇所有り。隆線による渦巻文と垂下隆線による懸垂文構成。魚鱗状短沈線と縦位沈線を施す。破片下端部研磨を加える。	中期後葉信州系						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第451図 PL.233	2	打製石 斧	覆土	完形	10.5	4.7	1.5	92	短冊形か、刃部はやや斜めで作りは粗い。	黒色頁岩	

#### 95-122号土坑(第451図: PL.233)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第451図 PL.233	1	深鉢 覆土 体部破片	①細:輝石 ②橙色	内湾する体部。沈線による渦巻文を見る。端部は強い施文。地文は横位LR。	中期後葉						
第451図 PL.233	2	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色	無節L縦位施文。	中期後葉						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第451図 PL.233	3	磨石	覆土	完形	10.8	8.0	4.9	630	扁平な円礫利用、両面使用面とし、中央に浅い打痕有り。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-123号土坑(第451図: PL.233)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第451図 PL.233	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗:石英 ②鈍い褐色	無文の口縁部。内外面撫で調整を施す。	中期後葉						
第451図 PL.233	2	深鉢 覆土 頸部破片	①粗:石英・褐色粒 ②鈍い褐色	横位沈線以下体部上半は緩やかに屈曲し、数条単位の条線を縦位・斜位密接施文する。	中期後葉新						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第451図 PL.233	3	打製石 斧	覆土	欠損	(5.2)	4.3	1.0	(34)	刃部片。刃先は不定形。	黒色頁岩	

#### 95-124号土坑(第451図: PL.233)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第451図 PL.233	1	深鉢 覆土 体部上半破片	①細:輝石 ②鈍い褐色	沈線で画された施文部意匠文。横位・斜位LRを充填する。内面煤付着。	後期前葉新						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第451図 PL.233	2	磨石	覆土	完形	10.0	8.0	4.7	458	扁平な円礫、両面使用。	粗粒輝石安山岩	
第451図 PL.233	3	石皿	覆土	欠損	(10.6)	(12.0)	(6.1)	(1,030)	小破片、縁部分も欠損。裏面は比較的平ら。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-126号土坑(第452図: PL.233)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第452図 PL.233	1	深鉢 覆土 頸部破片	①粗:石英・輝石 ②褐灰色	外反する頸部。2条の隆線が垂下する。他は無文。	中期後葉信州系

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第452図 PL.233	2	深鉢 覆土 底部破片 底:(9.0)	①粗:輝石・褐色粒 ②鈍い橙色	体部下半は無文。底面に網代痕残る。	後期

95-127号土坑(第452図:PL.233)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第452図 PL.233	1	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・輝石 ②橙色	緩やかに外反する無文の体部。弱い撫で調整を施す。	後期前葉

95-129号土坑(第452図:PL.233)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第452図 PL.233	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②橙色	波状縁か。口縁部隆線を設け以下無節Lを縦位・斜位施文する。	中期末葉						
第452図 PL.233	2	深鉢 覆土 体部破片	①細:石英・輝石 ②鈍い橙色	垂下沈線で画された施文部と磨消部の懸垂文構成。縦位LRを充填する。	中期後葉新						
第452図 PL.233	3	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い橙色	緩やかに内湾する体部下半か。無節Lが縦位施文される。	中期末葉						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第452図 PL.233	4	打製石 斧	覆土	完形	11.4	4.3	1.7	96	細身の撥形、刃部が薄くなる。	細粒輝石安山岩	
第452図 PL.233	5	打製石 斧	覆土	欠損	(6.5)	5.6	1.2	(65)	刃部片、薄手の円刃。	黒色安山岩	

95-130号土坑(第452図:PL.234)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第452図 PL.234	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗:石英多・輝石・雲母少 ②黒褐色	曲隆線文。外皮沈線と細隆線による口縁部重弧状意匠。口唇部内面内縁が突出する。	中期中葉末						
第452図 PL.234	2	深鉢 覆土 頸部破片	①粗:石英・雲母 ②褐色	頸部に横位隆線2条を設ける。体部は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系						
第452図 PL.234	3	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・輝石 ②褐色	縦位矢羽状短沈線。施文は深い。	中期後葉信州系						
第452図 PL.234	4	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・輝石 ②明褐色	内皮沈線による縦位密接条線。	中期後葉新						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第452図 PL.234	5	石棒か	S-1	欠損	(4.2)	(5.2)	(2.8)	(56)	石棒または石皿の破片と思われる。	緑色片岩	

95-131号土坑(第452・453図:PL.234)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第452図 PL.234	1	深鉢 覆土 口縁部・体部下 半欠損	①粗:石英・輝石 ②明黄褐色	頸部屈曲部を跨ぐ橋状把手。4単位構成。8字状意匠を配し上下孔とも貫孔する。体部上半に横位隆線を設け体部は2条沈線に画された施文部と磨消部による渦巻文を配す。施文部は無節L充填施文。内面に黒色の吹き溢れ状の付着物を見る。	後期前葉						
第452図 PL.234	2	深鉢 覆土 口縁~体部上半 1/3残存 口:(30.0)	①粗:石英・輝石 ②褐色	無文の口縁部以下体部上半に横位隆線を設け、円形貼付文を加える。貼付文下端より縦位波状隆線が派生し、波状屈折部にも円形貼付文を付す。他は無文。器厚薄手。	後期前葉						
第452図 PL.234	3	深鉢 覆土 口縁~体部上半 破片	①粗:石英・雲母少 ②鈍い黄褐色	やや幅広の無文口縁部。以下に横位隆線を設け、円形貼付文を付す。貼付文下端より縦位弧状隆線が派生する。	後期前葉						
第452図 PL.234	4	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗:石英 ②黒褐色	無文の口縁部以下横位隆線を設ける。口縁部外面弱い研磨調整を加える。	後期前葉						
第452図 PL.234	5	深鉢 覆土 体部破片	①細:石英少 ②鈍い黄褐色	器厚薄手。無文の体部。内外面とも撫で調整に止まる。外面に煤付着。	後期前葉						
第453図 PL.234	6	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・輝石・雲母少 ②褐色	無文の体部。外面に弱い研磨調整を加える。内面煤付着。	後期前葉						
第453図 PL.234	7	土製円盤 覆土 3.5×3.2×1.0	①粗:石英 ②黒褐色	深鉢体部破片を利用。沈線による弧線文。LRを充填。周縁は研磨調整で丁寧に整形する。	後期前葉						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第453図 PL.234	8	打製石 斧	覆土	完形	10.5	4.3	1.4	65	撥形、やや小型で刃部摩耗。	黒色安山岩	
第453図 PL.234	9	磨石	覆土	完形	12.4	7.8	5.0	770	扁平な楕円形の川原石、両磨り面に一對の浅い凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第453図 PL.234	10	多孔石	覆土	完形	24.2	16.6	13.4	5,300	大型の長円礫の両面に複数の凹み穴が集中して穿たれる。被熱。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

95-133号土坑(第453図: PL.234)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第453図 PL.234	1	深鉢 覆土 底部 底: 5.0	①粗: 石英 ②鈍い赤褐色	小型深鉢。垂下隆線下端部を見る。5単位か。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系

95-136号土坑(第453図: PL.234)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第453図 PL.234	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①細: 石英 ②鈍い黄褐色	無文の口縁部以下横位隆線を設ける。	後期初頭						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第453図 PL.234	2	磨石	覆土	完形	14.6	5.5	4.2	845	扁平で長方形を呈す、両面を磨り面として使用か。	安山岩	

95-137号土坑(第453図: PL.234)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第453図 PL.234	1	深鉢 覆土 体部破片	①粗: 石英・雲母 ②黒褐色	2条隆線による弧状意匠。沈線を側線とし斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第453図 PL.234	2	深鉢 覆土 体部下半	①粗: 石英 ②鈍い褐色	大型深鉢。強く開く体部下半。縦位・斜位 RL を施す。内面丁寧な研磨を加え平滑。	中期前葉か
第453図 PL.234	3	深鉢 覆土 口頸部破片	①粗: 石英・輝石 ②黒褐色	横位隆線を設け、体部は無文。内面上半に弱い研磨調整を加える。	後期初頭

95-138号土坑(第454図: PL.234)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第454図 PL.234	1	深鉢 覆土 体部中位破片	①粗: 石英・輝石 ②鈍い橙色	2条沈線に画された施文部・磨消部による弧状意匠。あるいは縦位レンズ状意匠か。縄文は縦位 LR 充填施文。	後期初頭
第454図 PL.234	2	深鉢 覆土 底部破片 底: (11.2)	①細: 輝石少 ②鈍い黄褐色	大型深鉢。やや軟質な感。厚手で無文。弱い縦位研磨調整を加える。	中期後葉新

95-139号土坑(第454図: PL.234)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第454図 PL.234	1	深鉢 覆土 底部破片 底: (9.0)	①粗: 小礫・輝石 ②鈍い褐色	底部器厚が著しい。端部突出し、内湾気味に開く体部下半。無文。	後期前葉

95-142号土坑(第454・455図: PL.235)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第454図 PL.235	1	深鉢 覆土 体部中位破片	①細: 輝石少 ②黒褐色	外反する体部。沈線で画された施文部・磨消部懸垂文構成。施文部は縦位波状密接条線を施す。内外面とも丁寧な研磨を加える。	中期後葉新						
第454図 PL.235	2	深鉢 覆土 体部破片	①粗: 石英・輝石 ②鈍い褐色	平行沈線による縦位U字状意匠か。地文状に縦位条線が施される。	中期後葉古						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第454図 PL.235	3	石鎌	覆土	完形	1.5	1.2	0.3	0.3	小型の凹基無茎。	黒曜石	
第454図 PL.235	4	打製石 斧	覆土	完形	(10.2)	4.6	1.4	(87)	撥形、基部に浅く括れを有す。刃部摩耗。	黒色安山岩	
第454図 PL.235	5	打製石 斧	覆土	欠損	(6.6)	4.8	1.0	(36)	剥がれた刃部片と思われる。	細粒輝石安山岩	
第454図 PL.235	6	打製石 斧	覆土	ほぼ 完形	14.8	9.7	2.4	484	幅広で、片面に自然面残る。両側縁に浅い抉りを有す。石鎌。	粗粒輝石安山岩	
第454図 PL.235	7	磨石	覆土	完形	10.8	9.4	6.4	920	やや扁平な円礫、両面に平滑な使用面。	粗粒輝石安山岩	
第454図 PL.235	8	磨石	覆土	完形	11.6	9.4	6.9	1,110	大振りの円礫、やや扁平で全面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第454図 PL.235	9	磨石	覆土	完形	9.2	5.3	3.9	270	俵状の礫、一面に浅い凹みを有す。	粗粒輝石安山岩	
第454図 PL.235	10	磨石	覆土	完形	12.8	6.6	5.3	650	棒状礫、平坦な一面には浅い打痕有り。被熱か。	粗粒輝石安山岩	
第454図 PL.235	11	磨石	覆土	完形	10.7	5.1	3.5	336	やや扁平な棒状礫、表面は比較的平滑。	粗粒輝石安山岩	
第455図 PL.235	12	磨石	覆土	完形	18.9	6.1	4.5	1,060	角棒状の礫、敲石としても利用か。	粗粒輝石安山岩	
第455図 PL.235	13	石皿	覆土	完形	26.5	21.1	4.7	3,950	扁平な自然礫を利用、使用面は僅かに窪む。	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-147号土坑(第455図: PL.235)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第455図 PL.235	1	深鉢 覆土 体部破片	①粗:輝石 ②鈍い褐色	無節L斜位施文。	後期前葉

95-148号土坑(第455図: PL.235)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第455図 PL.235	1	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・雲母 ②鈍い赤褐色	隆線による弧状意匠。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。薄手の器厚を呈す。	中期後葉信州系
第455図 PL.235	2	深鉢 覆土 体部破片	①粗:輝石 ②褐色	2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。	中期後葉新

95-151号土坑(第455図: PL.235)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第455図 PL.235	1	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色	縦位LRを施す。比較的疎らな施文。内面研磨。	後期前葉

95-154号土坑(第455図: PL.235)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第455図 PL.235	1	浅鉢 覆土 口縁部破片	①粗:石英多 ②鈍い赤褐色	口縁部外傾し体部も強く内湾する。無文で内外面赤彩痕を見る。内面は全面、外面は弧状意匠を推定できる。	中期後葉

95-155号土坑(第455図: PL.235)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第455図 PL.235	1	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・雲母 ②鈍い褐色	接続する2条隆線による懸垂文構成。沈線を側線とし縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系

95-156号土坑(第455図: PL.235)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考						
第455図 PL.235	1	深鉢 覆土 体部上半破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い黄褐色	頸部外反部に横位沈線群を配す。地文は燃糸L縦位施文。	中期後葉最古						
第455図 PL.235	2	深鉢 覆土 体部上半破片	①粗:石英 ②褐色	垂下沈線による懸垂文構成か。地文は横位LRを施す。	中期後葉古						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第455図 PL.235	3	石鏃	覆土	欠損	(1.5)	(1.4)	0.4	(0.8)	先端部分と思われるが円味を有し鋭利さが無い、基部の可能性もある。	黒曜石	
第455図 PL.235	4	多孔石	覆土	完形	17.1	12.1	10.3	1,860	不定形な自然礫の稜部分に数個の凹み穴が見られる。	安山岩質熔岩	

95-157号土坑(第455図: PL.235)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第455図 PL.235	1	深鉢 覆土 体部上半破片	①粗:石英多・輝石 ②鈍い赤褐色	横位沈線以下縦位・斜位LRを施す。	中期後葉古

95-159号土坑(第455図: PL.235)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第455図 PL.235	1	深鉢 覆土 体部破片	①粗:輝石 ②明赤褐色	刻みを付す隆線による弧状意匠。側線は沈線、斜位沈線を施す。	中期後葉信州系

95-161号土坑(第455図: PL.235)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第455図 PL.235	1	深鉢 覆土 体部破片	①細:輝石少 ②鈍い赤褐色	2条の沈線に画された磨消部弧状意匠。あるいは渦巻文か。縄文はRL充填施文。	後期初頭
第455図 PL.235	2	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・輝石 ②暗赤灰色	垂下隆線による懸垂文構成か。縦位沈線を施す。	中期後葉信州系

95-163号土坑(第455図: PL.235)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第455図 PL.235	1	深鉢 覆土 体部下半破片	①粗:石英・輝石 ②橙色	垂下隆線1条による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を施す。器面剥落。	中期後葉信州系

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第455図 PL.235	2	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	2条隆線による懸垂文構成。空白部には斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系
第455図 PL.235	3	深鉢 覆土 体部上半破片	①粗：石英・雲母多 ②黒褐色	横位隆線に瘤状小突起を付し下端より垂下隆線が派生する懸垂文構成。縦位LRを充填する。	中期後葉古 新

#### 95-164号土坑(第456図：PL.235)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第456図 PL.235	1	深鉢 覆土 体部上半破片	①細：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	横位沈線2条間に列点状刺突文を充填する。体部は3条の沈線による弧状意匠を配す。LR充填施文。	後期前葉

#### 95-166号土坑(第456図：PL.235)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第456図 PL.235	1	深鉢 覆土 口縁～体部中位 1/3 残存 口：(12.8)	①粗：石英・輝石 ②灰黄褐色	口縁部は短く無文。頸部で緩やかに屈曲し、体部は内湾する。頸部隆線には刻みを施し、把手状突起を付す。体部は強い刺突文を横位に密接して施す。器厚薄手。	後期前葉越後系
第456図 PL.235	2	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英・雲母 ②暗赤褐色	口唇部内面肥厚。口縁部区画文か。口唇部に横位沈線が沿い、斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第456図 PL.235	3	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：輝石 ②明赤褐色	口唇部内面僅かに肥厚する。口縁部は内湾し無文。横位研磨を内外面に施す。	中期後葉新
第456図 PL.235	4	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英・輝石多 ②橙色	2条の細沈線で画された施文部懸垂文構成。縦位LRを充填する。磨消部は弱い研磨を施す。	中期末葉
第456図 PL.235	5	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英・輝石・雲母 ②鈍い赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成。沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系

#### 95-167号土坑(第456図：PL.235)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第456図 PL.235	1	深鉢 覆土 口縁部突起	①粗：石英・輝石 ②暗赤褐色	上端渦巻文を配した橋状把手。両下縁は環状意匠を置き2条隆線を頸部隆線とする。口縁部区画は幅狭で斜位短沈線を疎らに充填する。頸部は無文か。	中期後葉信州系
第456図 PL.235	2	深鉢 覆土 体部破片	①細：輝石 ②浅黄褐色	体部中位に2条の横位沈線を設ける。他は縄文施文のみで横位LRを充填施文する。	後期前葉

#### 95-168号土坑(第456・457図：PL.236)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第456図 PL.236	1	深鉢 覆土 口縁～体部下 1/2 残存 口：33.6	①粗：石英・輝石 ②鈍褐色	3単位突起を付す。低位の扁平な非対称突起で3孔を穿つ。突起両下端より隆線が垂下し、片方が体部懸垂文構成を示す。幅狭の口縁部は凹文と横位沈線を配す。頸部は無文で、屈曲部に2条沈線と円形工具による刺突文を設ける。体部は3・4条の垂下沈線・弧状沈線による懸垂文構成。縦位・斜位LRを充填する。	後期前葉
第456図 PL.236	2	深鉢 覆土 口縁～体部上 1/2 残存 口：28.5	①粗：石英・輝石 ②褐色	頸部屈曲する甕状の深鉢。波状突起を付すが双波状突起と思われる。3単位構成か。波頂部に弧状意匠を配し、口縁部は無文。頸部屈曲部に横位沈線を設け、体部は沈線による渦巻状意匠を配し2条の弧状沈線が連接する。地文は反襷RRI横位充填施文。	後期前葉
第456図 PL.236	3	深鉢 覆土 口縁～頸部破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	口縁部屈曲し波状突起を付す。波頂部には縦位弧状沈線を施し、口縁部に横位沈線3条を設ける。頸部は無文。	後期前葉
第456図 PL.236	4	深鉢 覆土 頸部～体部中位 1/3 残存	①細：石英多 ②鈍い黄褐色	体部は内湾し球胴状を呈す。頸部下位に横位沈線を設け、凹文を起点とし沈線による渦巻文と弧線文を配す。下端の渦巻文にも連繋する。外面煤付着。	後期前葉
第456図 PL.236	5	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：白色粒 ②橙色	口唇部僅かに肥厚。波状突起を付し、弧線文を配す。口縁部は幅狭で横位沈線を設ける。体部は2条の沈線による縦位・斜位懸垂文構成。LRを充填する。口縁部と内面に丁寧な研磨を施す。	後期前葉
第456図 PL.236	6	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②明褐色	口縁部内屈し口唇部内面肥厚。幅狭の口縁部に横位沈線を設け、屈曲部に刻みを施す。体部は垂下沈線3条による懸垂文構成。横位・縦位LRを地文とする。	後期前葉
第456図 PL.236	7	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：石英 ②暗褐色	波状縁か。太い沈線に画された施文部と磨消部による渦巻状意匠。LRを充填施文する。	後期前葉
第456図 PL.236	8	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：石英・輝石・雲母少 ②黒褐色	口唇部内面肥厚。幅狭の口縁部に横位沈線を施す。体部は太い沈線3条による懸垂文構成か。縦位LRを充填。	後期前葉
第456図 PL.236	9	深鉢 覆土 体部上半破片	①細：輝石 ②灰黄褐色	内湾する体部。横位沈線以下沈線による渦巻文と弧線文を配す。無節Rを充填する。	後期前葉
第457図 PL.236	10	深鉢？ 覆土 口縁～体部上 半破片	①細：石英・輝石 ②黒褐色	波状縁か。口唇部隆線を付し外削ぎ状の口縁部形態を呈す。頸部に押圧を加えた鎖状隆線を設ける。他は無文で、外面は丁寧な研磨、内面は撫で調整に止まる。	後期前葉

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第457図 PL.236	11	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英 ②黒褐色	口縁部内湾。口唇部内面内稜を付し沈線を施す。口縁部は無文で、頸部隆線以下縦位条線を施文する。	後期前葉						
第457図 PL.236	12	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	口縁部内屈。幅狭の口縁部に横位沈線2条を施す。屈曲部以下は無文。	後期前葉						
第457図 PL.236	13	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英多・輝石 ②黒色	口縁部内面肥厚。肥厚部は不均一で施文の可能性もある。口唇部に沈線を設ける。内外面研磨。外面煤付着。	後期前葉						
第457図 PL.236	14	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い橙色	無文の口縁部。頸部隆線に強い斜位刻みを加える。	後期前葉						
第457図 PL.236	15	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②黄褐色	口唇部内面肥厚し、凹線を設ける。外面は無文で撫で調整を施す。	後期前葉						
第457図 PL.236	16	深鉢 覆土 体部中位～下半破片	①粗：石英多 ②黒褐色	斜位沈線より派生した渦巻状意匠が懸架する。斜位・縦位LRを充填施文する。	後期前葉						
第457図 PL.236	17	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	2条沈線による大柄の渦巻状意匠を配する。LRを充填。	後期前葉						
第457図 PL.236	18	深鉢 覆土 体部上半破片	①細：石英・輝石 ②黒褐色	頸部屈曲し体部内湾する。横位沈線2条以下斜位沈線による区画意匠を配す。LRを充填する。	後期前葉						
第457図 PL.236	19	深鉢 覆土 体部中位破片	①細：輝石 ②褐色	内湾する体部。2条沈線による弧状意匠。縦位LRを充填する。	後期前葉						
第457図 PL.236	20	深鉢 覆土 体部上半破片	①細：石英 ②鈍い黄褐色	頸部屈曲部を跨ぎ小型の橋状把手を付す。横位沈線に画された体部上半を横位RLが充填される。	後期前葉						
第457図 PL.236	21	有孔鏝付土器 覆土 頸部破片	①細：石英 ②鈍い黄褐色	薄手の器厚。鏝は外反気味に付され上下に貫孔する。外面は丁寧な研磨を施し、赤彩を加える。意匠は不明。	中期後葉						
第457図 PL.236	22	深鉢 覆土 体部上半破片	①粗：石英・雲母 ②褐色	斜位平行沈線と斜位隆線による斜格子目文以下2条の横位隆線間を連続刺突が充填する。体部は垂下隆線と弧状隆線を配し、連続刺突文3条が小区画する。側線は沈線で横位平行沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第457図 PL.236	23	土製円盤 覆土 完形 4.8×4.7×1.3	①粗：石英 ②鈍い赤褐色	深鉢体部破片を利用。無文で研磨を施す。周縁は剥離調整で整形する。	後期前葉						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第457図 PL.236	24	石鏝	覆土	完形	1.2	1.0	0.3	0.1	凹基無茎、極めて小型である。石材も柔らかく、非実用品か。	珪質変質岩 (流紋岩質凝灰岩)	
第457図 PL.236	25	石鏝	覆土	ほぼ完形	(3.1)	(1.5)	0.3	(1.3)	凹基無茎、細身でやや薄手の作り。挟り深く長脚で、片脚を欠く。	黒色頁岩	
第457図 PL.236	26	石錐	覆土	欠損	(2.5)	(1.5)	0.5	(1.4)	錐部は細く薄手である、つまみ部にやや斜めに付く。先端部を欠く。	玉髓	
第457図 PL.236	27	石鏝	覆土	完形	3.5	2.5	1.0	8.2	大型の鏝に見えるが彫器の可能性も。中央部分肥厚。	黒色安山岩	
第457図 PL.236	28	スクレイパー	覆土	完形	5.0	4.0	1.5	39	縁辺に粗く刃部を作出した小型品、やや厚手。	黒色頁岩	
第457図 PL.236	29	磨製石斧	覆土	欠損	(3.3)	(3.4)	1.3	(20)	磨製石斧作成時の剥片か。	蛇紋岩	
第457図 PL.236	30	磨石	覆土	欠損	(9.0)	5.1	2.8	(202)	扁平な長円礫、両面使用面とし平滑。一部欠損。	粗粒輝石安山岩	
第457図 PL.236	31	多孔石	覆土	完形	16.8	17.1	7.5	2,230	やや扁平な自然礫の両面に浅い凹み穴を有す。	安山岩質熔岩	

95-170号土坑(第458図：PL.236)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第458図 PL.236	1	深鉢 覆土 頸部～体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②暗褐色	頸部屈曲し体部中位に内湾を持たせる。無文で内外面撫でを施す。外面煤付着。	中期後葉
第458図 PL.236	2	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英 ②暗褐色	無節L縦位施文。	後期前葉

95-171号土坑(第458図：PL.237)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第458図 PL.237	1	深鉢 覆土 体部上半破片	①粗：石英 ②鈍い橙色	横位沈線3条を上半に設ける。体部は2条沈線に画された無文部による区画意匠と重環状意匠が配される。縦位・斜位LRを充填する。	後期前葉

95-173号土坑(第458図：PL.237)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第458図 PL.237	1	深鉢 覆土 体部破片	①細：輝石 ②褐色	2条沈線による弧線文。縦位無節Lを充填施文する。	後期前葉
第458図 PL.237	2	鉢 覆土 体部下半破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い橙色	2条の沈線が垂下し、弧状沈線が施される。器面磨滅。	中期後葉

### 第3章 検出された遺構と遺物

95-174号土坑(第458図: PL.237)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等		備 考			
第458図 PL.237	1	鉢 覆土	口縁部破片			① 細: 石英 ② 黒褐色		内湾する口縁部。無文で内外面とも横位研磨を施す。	中期後葉		
第458図 PL.237	2	深鉢 覆土	体部破片			① 粗: 石英 ② 明褐色		縦位条線が密に施文される。	中期後葉新		
第458図 PL.237	3	深鉢 覆土	体部破片			① 粗: 石英・輝石 ② 褐色		2条の縦位平行沈線を配す懸垂文構成。地文は縦位RL。内器面剥落多い。	中期後葉古		
第458図 PL.237	4	深鉢 覆土	把手破片			① 粗: 石英 ② 鈍い赤褐色		大型の橋状把手。中位に垂下凹線を配す。無節し充填施文。	中期後葉新		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第458図 PL.237	5	磨石	覆土	完形	5.6	5.6	3.0	124	扁平な小円礫、被熱によるひび割れあり。	粗粒輝石安山岩	

95-175号土坑(第458図: PL.237)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等		備 考	
第458図 PL.237	1	深鉢 覆土	口縁部破片			① 粗: 石英・輝石・雲母少 ② 褐色		口唇部内面肥厚。口縁部に大型の渦巻状突起と区画文を配す。区画内は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第458図 PL.237	2	深鉢 覆土	口縁部破片			① 粗: 輝石多 ② 褐色		口唇部欠損。隆線による渦巻文を配す。側線は沈線、横位・斜位LRを充填する。	中期後葉古
第458図 PL.237	3	深鉢 覆土	口縁部破片			① 細: 石英・輝石 ② 鈍い橙色		波状縁。口縁部内屈し円形刺突文と沈線を施す。頸部に横位沈線を見る。	後期前葉
第458図 PL.237	4	深鉢 覆土	口縁部破片			① 粗: 石英 ② 暗赤褐色		内湾する口縁部。無文で撫で調整を施す。厚手の器厚を呈する。	中期後葉
第458図 PL.237	5	深鉢 覆土	口縁部破片			① 細: 輝石少 ② 黒褐色		口唇部内面肥厚。沈線で画された区画意匠か。施文部はLR充填施文。磨消部及び内面は丁寧な研磨を施す。	後期初頭
第458図 PL.237	6	覆土	体部破片			① 粗: 石英・輝石 ② 黒褐色		口縁部は無文で強く屈曲する。以下隆線による区画文を配す。区画内は幅広の沈線を側線とし縦位RLを地文とする。区画接点には円文も施す。外面少量の煤付着。	中期後葉古 6・7同一個体
第458図 PL.237	7	深鉢 覆土	体部破片			① 粗: 石英・輝石 ② 黒褐色			
第458図 PL.237	8	深鉢 覆土	体部破片			① 粗: 石英・輝石 ② 橙色		沈線で画された施文部横位・弧状意匠か。LRを充填する。器面磨滅。	後期初頭
第458図 PL.237	9	深鉢 覆土	体部下半破片			① 粗: 石英多 ② 褐色		細沈線で画された磨消部弧状意匠下端か。開放する構成か。無節しを充填施文する。	後期初頭
第458図 PL.237	10	深鉢 覆土	体部破片			① 粗: 石英・輝石 ② 黒褐色		斜位沈線・弧状沈線が乱雑に施される。文様構成は不明。施文は深い。	後期前葉

95-176号土坑(第458図: PL.237)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等		備 考	
第458図 PL.237	1	深鉢 覆土	口縁部破片			① 粗: 石英多 ② 黒褐色		口唇部欠損か。内稜を突出する。外面に弧状沈線と刺突文を施す。	中期後葉信州系

95-178号土坑(第458・459図: PL.237)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等		備 考	
第458図 PL.237	1	深鉢 覆土	口縁～体部上半破片			① 粗: 石英 ② 褐色		幅広の無文口縁部。横位隆線以下垂下隆線で画された磨消部と施文部懸垂文構成。縦位LR充填施文。	中期末葉
第458図 PL.237	2	深鉢 覆土	口縁～体部破片 2点 口: (19.8)			① 粗: 石英多・輝石 ② 暗褐色		幅狭の口縁部文様帯内を斜位短沈線が充填する。区画線を見ない。頸部隆線以下垂下隆線による体部懸垂文構成だが、弧状沈線による小区画文が配される。区画内は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第458図 PL.237	3	深鉢 覆土	口縁部破片			① 粗: 石英・雲母 ② 黒褐色		隆線による口縁部区画文構成。区画内は横位沈線を多段に配し交互刺突文を重ねる。	中期後葉信州系
第459図 PL.237	4	深鉢 覆土	口縁部破片			① 細: 石英少 ② 黒褐色		口縁部内湾。隆線による小型の渦巻文を配す。側線は撫で。	中期後葉信州系
第459図 PL.237	5	深鉢 覆土	口縁部破片			① 粗: 石英少 ② 暗褐色		口唇部内面肥厚。口縁部に沈線による重弧状意匠を配す。施文は深い。	中期後葉信州系
第459図 PL.237	6	深鉢 覆土	口縁部破片			① 粗: 石英・雲母多 ② 褐色		緩やかな波状縁。口唇部に沿って円形刺突文を施す。地文はLR。	中期後葉
第459図 PL.237	7	深鉢 覆土	体部上半破片			① 粗: 石英多・輝石 ② 黒褐色		横位沈線以下沈線による弧状意匠を重ねる。空白部には横位弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系 8と同一個体
第459図	8	深鉢 覆土	体部上半破片			① 粗: 石英多・輝石 ② 黒褐色		横位沈線以下沈線による弧状意匠を重ねる。空白部には横位弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第459図 PL.237	9	深鉢 覆土	体部破片			① 粗: 石英・雲母少 ② 褐色		斜位・弧状沈線を密に施す。魚鱗状の施文ではなく、比較的密接した施文。	中期後葉信州系
第459図 PL.237	10	深鉢 覆土	口頸部破片			① 粗: 石英・雲母 ② 褐色		2条の横位隆線に画された幅狭に口縁。部文様帯。横位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第459図 PL.237	11	深鉢 覆土	口頸部破片			① 粗: 石英多 ② 黒褐色		隆線による口縁部区画文か。横位沈線を多段に充填し、斜位刺突文を加える。	中期後葉信州系

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等		備 考			
第459図 PL.237	12	深鉢 覆土	頸部破片		① 粗：輝石 ② 黒褐色	屈曲する頸部。横位沈線以下波状沈線文を多段に配す。		中期後葉			
第459図 PL.237	13	深鉢 覆土	体部破片		① 粗：輝石少 ② 褐色	横位隆線剥落か。6・7条単位の縦位波状条線を配す。弧状沈線の痕跡を見るが判然としない。		中期後葉新			
第459図 PL.237	14	深鉢 覆土	体部上半破片		① 粗：石英・輝石少 ② 明褐色	横位・弧状隆線を付す。浅い円形刺突文を横位複列に施文する。		中期後葉古			
第459図 PL.237	15	有孔鏝付土器 覆土	頸部～体部上半 破片		① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	口縁部外反し、体部は内湾する。鏝は強く突出する。鏝上下から小孔を貫孔するが間隔は不明。体部は低位隆帯と沈線による弧状意匠を配す。内外面に赤彩痕を見るが意匠は不明。		中期後葉			
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第459図 PL.237	16	打製石 斧	覆土	欠損	(6.5)	4.8	2.0	(74)	撥形の基部片でやや厚手。	紫蘇輝石普通輝 石安山岩	
第459図 PL.237	17	礫器	覆土	完形	11.4	9.9	4.2	598	厚手の大型で不定形剥片の下辺部に粗く刃部を作出。	黒色安山岩	

95-180号土坑(第459図：PL.237)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等		備 考
第459図 PL.237	1	深鉢 覆土	口縁部～体部1 /3 残存 口：(21.6)		① 細：輝石 ② 黒褐色	刻みを付す口縁部隆線を設け、小型の8字状貼付文を付す。体部は下半で横帯区画される区画文構成。施文部と磨消部によるレンズ状意匠を配す。縄文はLR充填施文。		後期前葉新
第459図 PL.237	2	深鉢 覆土	体部破片		① 粗：石英 ② 橙色	沈線で画された施文部による斜位・弧状意匠。無節L充填施文。		後期前葉新
第459図 PL.237	3	深鉢 覆土	底部破片 底：(8.0)		① 粗：石英少 ② 明褐色	端部は僅かに張り出す。体部下半は外反気味に直立する。無文で縦位研磨を施す。内外面に煤が付着するが、破損後の付着と思われる。		後期前葉新
第459図 PL.237	4	深鉢 覆土	体部下半～底部 残存 底：9.6		① 粗：石英・輝石 ② 褐色	強く開く体部下半。無文で削り調整後撫でを加える。内面撫で調整。底面に網代痕が残る。内面に環状に煤付着を見る。周辺は加熱のため器壁剥落。		後期前葉
第459図 PL.237	5	深鉢 覆土	底部破片		① 細：石英 ② 明赤褐色	底面破片。網代痕が残る。		後期前葉

95-183号土坑(第459図：PL.237)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等		備 考
第459図 PL.237	1	深鉢 覆土	口縁～体部上半 1/3 残存		① 細：輝石 ② 黒褐色	緩やかな波状縁。口縁部は内湾し無文。横位隆線を設け2条の隆線が斜位・弧状に派生する。隆線間は磨消部。側線は沈線で縦位LRを充填する。外面少量の煤付着。		中期末葉
第459図 PL.237	2	鉢 覆土	口縁～体部中位 破片		① 細：小礫少 ② 鈍い赤褐色	口縁～体部強く内湾する。口縁部隆線を設け、横位橋状把手を付す。把手両下端より垂下隆線が派生する。赤彩痕は口縁部に集中する。煤の付着も顕著。		中期後葉

95-184号土坑(第459図：PL.238)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等		備 考
第459図 PL.238	1	深鉢 覆土	体部破片		① 細：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	垂下隆線で画された施文部と磨消部懸垂文構成。磨消部は研磨、施文部は無節L縦位充填施文。		中期末葉

95-185号土坑(第460図：PL.238)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等		備 考
第460図 PL.238	1	深鉢 覆土	口縁～体部上半 1/2 残存 口：(24.0)		① 粗：石英多 ② 褐色	口縁部は幅広で無文。強く外反する。体部は内湾し上半に横位隆線を設け、大型橋状把手と小型の波状突起を付す。橋状把手両下端及び波状突起より隆線による分岐懸垂文が派生する。縄文はLR充填施文。内面頸部及び体部中位に煤付着。		中期末葉
第460図 PL.238	2	深鉢 覆土	体部破片		① 細：輝石 ② 鈍い褐色	斜位LRを施す。		中期末葉
第460図 PL.238	3	深鉢 覆土	体部破片		① 細：石英 ② 明赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成。地文に縦位密接条線を施し縦位波状沈線を重ねる。		中期後葉信州系

95-186号土坑(第460図：PL.238)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等		備 考
第460図 PL.238	1	深鉢 覆土	口縁～頸部破片		① 細：輝石 ② 黒褐色	鋭角な印象を得る。口縁部内屈し内稜も鋭い。頸部屈曲部に横位沈線を設ける。口縁～屈曲部に橋状把手を付す。V字状の把手か。外面丁寧な研磨。口縁内屈部に煤付着。		後期前葉
第460図 PL.238	2	深鉢 覆土	口縁部破片		① 細：石英 ② 鈍い黄褐色	口唇部内面僅かに肥厚。横位弧状沈線を多段に配す。		後期前葉



### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等			備 考		
第460図 PL.238	3	深鉢 覆土	体部破片		① 細：石英・輝石 ② 橙色	体部中位の屈曲部か。沈線で画された磨消部弧状意匠。施文部は無節R獣医充填施文。			後期初頭		
第460図 PL.238	4	深鉢 覆土	体部破片		① 粗：石英 ② 褐灰色	内湾する体部。強い刺突文を横位密接施文する。			後期前葉越後系		
第460図 PL.238	5	深鉢 覆土	体部破片		① 粗：石英 ② 褐色	内湾する体部。強い刺突文を横位・斜位密接施文する。			後期前葉越後系		
第460図 PL.238	6	深鉢 覆土	体部破片		① 粗：石英 ② 灰黄褐色	強い刺突文を横位・斜位密接施文する。			後期前葉越後系		
第460図 PL.238	7	深鉢 覆土	体部破片		① 粗：輝石 ② 黒褐色	棒状工具による強い刺突文を施す。器面の盛りあがりには少ない。破片上端断面部に孔あり。製作時接合具の剥落痕跡か。			後期前葉越後系		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第460図 PL.238	8	磨石	覆土	完形	7.8	5.2	4.1	259	卵形の礫、表面平滑。	石英閃緑岩	

#### 95-189号土坑(第460図：PL.238)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等			備 考		
第460図 PL.238	1	深鉢 覆土	口縁部破片		① 粗：石英・雲母多 ② 鈍い赤褐色	渦巻状突起を上位に配した2条隆線による口縁部区画文構成。区画内は重弧状沈線を充填する。頸部は無文か。			中期後葉古		
第460図 PL.238	2	深鉢 覆土	口縁～体部上半 破片		① 粗：石英少 ② 鈍い黄褐色	薄手の器厚。押圧を加えた横位鎖状隆線を設ける。他は無文だが、外面は丁寧な横位研磨を施す。			後期初頭		
第460図 PL.238	3	深鉢 覆土	口縁部破片		① 粗：小礫・石英 ② 鈍い黄褐色	器厚薄手。幅狭の無文口縁部下に押圧を加えた横位隆線を設ける。			後期初頭		
第460図 PL.238	4	深鉢 覆土	口縁～頸部破片		① 細：輝石 ② 鈍い褐色	口縁部内屈し波状突起を付す。渦巻状意匠を配し、円文と横位沈線を設ける。頸部は無文で屈曲部隆線に8字状貼付文を付す。内外面とも横位研磨を施す。口縁部内外面に煤付着。			後期前葉		
第460図 PL.238	5	深鉢 覆土	体部破片		① 粗：石英・輝石 ② 灰黄褐色	垂下沈線による懸垂文構成か。地文は燃系R縦位施文。			中期後葉古		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第460図 PL.238	6	石皿	覆土	欠損	(13.5)	(7.5)	4.8	(620)	破損品、縁は高く作られる。内側に煤付着。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-191号土坑(第460図：PL.238)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等			備 考
第460図 PL.238	1	深鉢 覆土	体部破片		① 粗：石英 ② 鈍い褐色	垂下隆線による懸垂文構成。施文部は無節L縦位充填施文。			中期末葉
第460図 PL.238	2	鉢？ 覆土	体部上半破片		① 粗：石英 ② 鈍い褐色	細隆線による弧状意匠。おそらく大柄の渦巻文。器体の歪みが見られる。			中期末葉 後期初頭？

#### 95-194号土坑(第460図：PL.238)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等			備 考		
第460図 PL.238	1	深鉢 覆土	口縁部破片		① 細：輝石 ② 黒褐色	波状縁頂部。僅かに肥厚する。無節L縦位施文。口唇部に煤付着。			中期末葉		
第460図 PL.238	2	深鉢 覆土	体部中位破片		① 細：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	外反する体部。細沈線に画された施文部逆U字状意匠と下半は分岐懸垂文か。縄文は縦位RL充填施文。			中期末葉		
第460図 PL.238	3	深鉢 覆土	体部破片		① 粗：石英多・輝石 ② 鈍い赤褐色	縦位沈線と無文部。縦位研磨を施す。内面は丁寧な研磨で平滑。			後期初頭		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第460図 PL.238	4	石鏃	覆土	完形	2.3	1.9	0.5	1.5	凹基無茎、いわゆるハート形を呈す。作りは丁寧。	チャート	
第460図 PL.238	5	石鏃	覆土	完形	1.7	1.0	0.4	0.3	凹基無茎、小型品で扱いはU字状に深い。やや厚みがある。	黒曜石	
第460図 PL.238	6	石鏃	覆土	欠損	(2.0)	(1.5)	0.4	(0.8)	脚部を欠く。	黒曜石	

#### 95-196号土坑(第461図：PL.238)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等			備 考
第461図 PL.238	1	深鉢 覆土	体部中位破片		① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	大型土器か。3条の沈線による大柄の渦巻状意匠を配す。縄文は縦位RL。			中期後葉新
第461図 PL.238	2	深鉢 覆土	頸部破片		① 粗：石英 ② 黒褐色	横位隆線2条による頸部区画線。側線は沈線。横位LRを施す。			中期後葉古
第461図 PL.238	3	深鉢 覆土	体部中位破片		① 粗：石英・輝石多 ② 鈍い褐色	垂下隆線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。			中期後葉信州系

第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-197号土坑(第461図: PL.238)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調		文様の特徴等				備考		
第461図 PL.238	1	深鉢 内ビット	口縁部破片		①粗:輝石・褐色粒 ②鈍い橙色				口唇部欠損。斜位隆線が派生し、口縁下に2条沈線に画された横位弧状意匠を配す。無節L縦位施文。	後期初頭	
第461図 PL.238	2	深鉢 覆土	体部破片		①粗:石英 ②鈍い赤褐色				細沈線で画された磨消部懸垂文構成か。LR縦位充填施文。	中期末葉	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第461図 PL.238	3	石鉢	覆土	ほぼ 完形	1.8	1.4	0.3	0.5	凹基無茎、片面に剥離面大きく残る。先端部を僅かに欠く。	黒曜石	

95-198号土坑(第461図: PL.238)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調		文様の特徴等				備考	
第461図 PL.238	1	深鉢 覆土	口縁部破片		①粗:石英多 ②褐灰色				口唇部内面隆線を剥落。口縁部は隆線による渦巻文を配す。側線は撫で。	中期後葉信州系

95-200号土坑(第461図: PL.238)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調		文様の特徴等				備考	
第461図 PL.238	1	深鉢 覆土	口縁~体部下 1/4残存 口:(37.0)		①粗:輝石 ②黒褐色				口縁部隆線に8字状貼付文。下位に弧線文を配し、横位沈線2条を設ける。体部は横位沈線による楕円意匠を多段に設けるが、明瞭な区画ではなく、上下に接続する箇所もある。横位無節Lを充填する。突起内面に円形刺突文を施す。	後期前葉新
第461図 PL.238	2	深鉢 覆土	口縁部破片		①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色				大型土器。口唇部肥厚。口縁部は隆帯による区画文構成。側線は凹線、横位LRを充填する。	中期後葉新
第461図 PL.238	3	深鉢 覆土	口縁部破片		①細:輝石 ②鈍い褐色				口唇部内屈。外面は横位LRが覆う。	後期前葉新
第461図 PL.238	4	深鉢 覆土	体部上半破片		①粗:石英多 ②黒褐色				頸部屈曲。太い沈線が体部を垂下し、空白部は弧線文を配す。	後期前葉
第461図 PL.238	5	深鉢 覆土	体部破片		①細:輝石 ②灰 白色				横位沈線以下横位LRを充填する。	後期前葉新
第461図 PL.238	6	深鉢 覆土	口頸部破片		①粗:輝石 ②鈍い赤褐色				隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は沈線、区画内は横位沈線と交互刺突文を充填する。	中期後葉古
第461図 PL.238	7	深鉢 覆土	体部破片		①粗:輝石少 ②明赤褐色				細沈線で画された施文部を列点状刺突文が充填される。	後期初頭
第461図 PL.238	8	鉢 覆土	頸部~底部破片		①細:輝石 ②黒褐色				小型品。頸部に横位沈線1条を設け、体部は沈線による弧状意匠を配す。上位を無節R横位充填施文する。	後期前葉新
第461図 PL.238	9	深鉢 覆土	体部下半破片		①粗:石英・輝石 ②鈍い橙色				直線的な開きで無文の体部。内外面とも研磨を施す。	後期前葉新

95-201号土坑(第461図: PL.238)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調		文様の特徴等				備考	
第461図 PL.238	1	深鉢 覆土	体部破片		①細:輝石 ②明赤褐色				横位隆線以下横位LRを施す。	後期前葉

95-202号土坑(第461・462図: PL.239)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調		文様の特徴等				備考		
第461図 PL.239	1	深鉢 覆土	口縁~体部1/ 3残存 口:(31.0)		①粗:石英・輝石 ②黒褐色				口縁部下に強い押圧を加えた横位隆帯を設ける。体部は無文だが、斜位撫で調整痕跡が顕著。外面下半に吹きこぼれ状に煤付着。	後期初頭	
第461図 PL.239	2	深鉢 覆土	口縁部破片		①粗:輝石 ②灰黄褐色				口唇部尖る。口縁部細隆線を設ける。	後期初頭	
第461図 PL.239	3	深鉢 覆土	体部破片		①粗:石英・輝石 ②鈍い黄褐色				2条の横位隆線。縦位RLを充填施文する。	後期初頭	
第462図 PL.239	4	深鉢 覆土	体部上半破片		①粗:石英・雲母 ②鈍い黄褐色				頸部外反する。2条沈線で画された施文部弧状意匠・J字状意匠が配される。無節Lを充填する。	後期初頭	
第462図 PL.239	5	深鉢 覆土	体部破片		①粗:輝石 ②灰黄褐色				2条沈線で画された横位施文部による分帯。上位は弧状意匠、下位はJ字状意匠が配される。施文部は列点状刺突文を充填する。	後期初頭	
第462図 PL.239	6	鉢? 覆土	体部破片		①細:石英・輝石 ②鈍い黄褐色				細沈線による渦巻状意匠が配される。あるいは注口土器か。	後期初頭	
第462図 PL.239	7	深鉢 覆土	体部上半破片		①粗:石英多 ②鈍い黄褐色				円形貼付文を起点に隆線がクランク状に懸垂する。他は無文。	後期初頭	
第462図 PL.239	8	深鉢 覆土	体部上半破片		①粗:石英・輝石 ②黒褐色				横位隆線以下、斜位隆線が派生する。隆線接点に円形刺突を加える。	後期初頭	
第462図 PL.239	9	深鉢 覆土	体部破片		①粗:石英・雲母 ②鈍い橙色				細隆線による弧状意匠・分岐懸垂文か。他は無文。	後期初頭	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第462図 PL.239	10	打製石 斧	覆土	完形	(10.3)	4.9	1.8	(115)	撥形、刃部やや厚みを持つ。	黒色頁岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

95-207号土坑(第462図: PL.239)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等			備 考		
第462図 PL.239	1	深鉢 覆土	口縁部破片		① 粗:輝石 ② 褐色	緩やかな波状縁。隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。区画内は沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。体部は2条沈線による懸垂文構成か。斜位短沈線を施す。			中期後葉信州系		
第462図 PL.239	2	深鉢 覆土	口縁~体部上半 破片		① 細:石英少・輝石少 ② 褐色	波状縁。波頂部は隆線による渦巻文か。隆線による口縁部区画文が配され、横位沈線・円形刺突文を充填する。波頂部より2条隆線が懸垂し、体部は弧状短沈線を施す。			中期後葉信州系		
第462図 PL.239	3	深鉢 覆土	体部破片		① 粗:石英・雲母 ② 橙色	横位隆線で画され隆線による弧状・渦巻状意匠が配される。空白部は斜位短沈線を充填する。			中期後葉信州系		
第462図 PL.239	4	深鉢 覆土	口縁部破片		① 粗:雲母多 ② 褐色	無文の口縁部。内稜は鋭く突出する。			中期後葉信州系		
第462図 PL.239	5	浅鉢 覆土	口縁部破片		① 粗:石英(大) ② 暗褐色	口唇部肥厚する無文浅鉢。内外面丁寧な研磨、赤彩痕跡は見られない。			中期後葉		
第462図 PL.239	6	深鉢 覆土	口縁部破片		① 粗:輝石 ② 灰褐色	口唇部欠損。口縁部細隆線3条に細かな刻みを加える。			後期前葉新		
第462図 PL.239	7	浅鉢 覆土	口頸部破片		① 粗:石英(大) ② 橙色	屈曲部隆線で画す。体部は無文。口頸部は隆線による渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線で縦位短沈線を充填する。			中期後葉		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第462図 PL.239	8	磨石	覆土	完形	12.6	6.8	4.5	680	扁平礫、両面平らで平滑。	粗粒輝石安山岩	

95-208号土坑(第462図: PL.239)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等			備 考		
第462図 PL.239	1	浅鉢 覆土	口縁部破片		① 細:輝石 ② 鈍い黄橙色	僅かに外反する無文の口縁部。内外面研磨。			中期後葉		
第462図 PL.239	2	深鉢 覆土	体部下半破片		① 粗:石英・輝石 ② 鈍い褐色	2条隆線による懸垂文構成。空白部は縦位条線を充填する。			中期後葉信州系		
第462図 PL.239	3	深鉢 覆土	突起破片		① 粗:石英 ② 灰褐色	隆線による半渦巻状小突起。強く突出する。上端より隆線が派生するが小破片のため判然とししない。			中期後葉		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第462図 PL.239	4	打製石 斧	覆土	欠損	9.5	4.4	1.7	85	短冊形、刃部を欠く。	黒色頁岩	
第462図 PL.239	5	打製石 斧	覆土	欠損	(9.6)	7.2	1.1	(81)	楕形、極めて薄手で中央部分に抉れあり、刃部摩耗。被熱。	安山岩	

95-209号土坑(第463図: PL.239)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等			備 考
第463図 PL.239	1	深鉢 覆土	口縁~頸部破片		① 粗:石英・輝石・雲母 ② 黒褐色	口唇部は尖る。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線、斜位短沈線を充填する。頸部は無文。内面は僅かに肥厚し稜を見る。			中期後葉古

95-211号土坑(第463図: PL.239)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等			備 考
第463図 PL.239	1	深鉢 覆土	口縁部破片		① 細:輝石 ② 鈍い黄橙色	口唇部内屈する。外面は無文か、器面剥落する。			後期前葉新
第463図 PL.239	2	深鉢 覆土	体部上半破片		① 粗:石英・輝石 ② 黒褐色	横位内皮平行沈線間を交互刺突文が埋める。体部は内皮沈線による弧状意匠が配され、1条の横位弧線が加わる。地文は燃糸し縦位施文。			中期後葉古

95-212号土坑(第463図: PL.239)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等			備 考
第463図 PL.239	1	深鉢 3	口縁部破片		① 粗:石英 ② 橙色	幅広い口縁部低位隆線に強い押圧を加える。横位隆線は途切れる。体部は無文。			後期初頭
第463図 PL.239	2	鉢 覆土	口縁部と体部破 片からなる		① 粗:石英 ② 黄橙色	口縁部は内屈し円文を施す。体部は2条の横位沈線以下沈線に画された磨消部による半渦巻状意匠が配される。区画内は細かな櫛歯状工具による刺突文を充填する。内外面とも丁寧な研磨を加える。			後期前葉
第463図 PL.239	3	深鉢 覆土	口縁部破片		① 粗:石英 ② 明褐色	口縁部は無文で内屈する。内外面とも弱い研磨を施す。			中期末葉
第463図 PL.239	4	深鉢 覆土	体部上半破片		① 粗:石英 ② 鈍い橙色	横位細隆線に円形貼付文を付し、垂下隆線が派生する。内面研磨。			後期前葉
第463図 PL.239	5	鉢 覆土	体部破片		① 細:石英 ② 橙色	横位8字状貼付文を中核に2条隆線が弧状に派生し区画文を画す。区画内は沈線を側線としLRを充填する。			後期前葉
第463図 PL.239	6	深鉢 覆土	体部破片		① 粗:石英・輝石 ② 明褐色	横位沈線を幅広く多段に施す。以下横位LRを充填する。			後期前葉

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調				文様の特徴等	備考		
第463図 PL.239	7	深鉢 覆土	体部破片	①粗：石英 ②明褐色				2条の横位沈線を配す。他は無文。	後期前葉		
第463図 PL.239	8	深鉢 覆土	体部破片	①粗：輝石少 ②褐灰色				5・6条の櫛歯状工具条線による大柄の弧状意匠を配す。外面縦位撫で調整、内面横位削り調整が顕著。	後期前葉		
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第463図 PL.239	9	多孔石	覆土	完形	19.0	12.0	11.7	3,220	不定形な角礫の一面に数個の凹み穴が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第463図 PL.239	10	多孔石	覆土	完形	15.0	12.6	7.6	1,280	やや小振りの自然礫、表裏面に10個程の凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	

95-214号土坑(第463図：PL.240)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調				文様の特徴等	備考
第463図 PL.240	1	深鉢 覆土	口縁部破片	①細：輝石 ②褐色				無文の口縁部。頸部で外反する。内外面とも研磨を施し、内面は平滑。	後期前葉
第463図 PL.240	2	深鉢 覆土	口縁部破片	①細：石英・輝石 ②褐色				無文の口縁部。口唇部内面隆帯剥落痕跡を見る。	中期後葉

95-215号土坑(第463・464図：PL.240)

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第463図 PL.240	1	打製石 斧	覆土	完形	13.4	6.0	2.1	186	撥形、表面の凹凸顕著で粗い作り。	細粒輝石安山岩	
第463図 PL.240	2	石皿	覆土	欠損	(20.5)	(10.1)	9.0	(2,220)	使用面深く、縁が高く作られる。	粗粒輝石安山岩	
第464図 PL.240	3	石皿	覆土	欠損	(24.8)	20.7	8.6	4,740	左右の縁の高さが異なり、磨り面が斜めである。	粗粒輝石安山岩	

95-216号土坑(第464図：PL.240)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調				文様の特徴等	備考
第464図 PL.240	1	浅鉢 覆土	口縁部破片	①粗：石英少 ②鈍い黄褐色				口唇部強く屈曲し施文面を設ける。沈線による渦卷文を配す。内外面とも赤彩が見られる。	中期後葉
第464図 PL.240	2	深鉢 覆土	口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色				強く外反する口縁部。無文で内面に赤彩痕跡残る。	中期後葉
第464図 PL.240	3	深鉢 覆土	口縁部破片	①粗：石英 ②鈍い黄褐色				直立気味の口縁部。縦位RLを施す。	中期後葉
第464図 PL.240	4	深鉢 覆土	体部上半破片	①粗：石英・雲母 ②鈍い褐色				横位隆線3条より弧状隆線が派生する。体部は弧状沈線が対弧状に施される。	中期後葉信州系
第464図 PL.240	5	深鉢 覆土	体部破片	①細：白色粒 ②褐灰色				円形刺突文が縦位に配される。他は無文。	前期後葉か
第464図 PL.240	6	浅鉢 覆土	口頸部～体部破片	①細：輝石 ②明褐色				屈曲部は隆線と沈線。口頸部は沈線と低位隆線による区画文か。内面研磨。	中期後葉

95-217号土坑(第464図：PL.240)

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第464図 PL.240	1	石棒	覆土	欠損	(21.2)	12.6	12.3	(4,230)	有頭と思われるが欠損している。欠損部好打により調整、被熱見られる。	デイサイト	

95-218号土坑(第464図：PL.240)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		①胎土 ②色調				文様の特徴等	備考
第464図 PL.240	1	深鉢 覆土	体部上半破片	①粗：石英 ②鈍い黄褐色				横位隆線以下体部は無文。外面撫で調整、内面横位削り調整を施す。	後期前葉
第464図 PL.240	2	深鉢 覆土	体部破片	①細：石英・輝石 ②明褐色				無文の体部。外面は丁寧な撫で調整。内面は煤が多量に付着する。	後期前葉
第464図 PL.240	3	深鉢 覆土	体部破片	①粗：石英(大) ②鈍い褐色				厚手の器厚。無節Rを施す。	後期前葉

95-220号土坑(第465図：PL.240)

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第465図 PL.240	1	石皿	覆土	完形	33.7	26.9	11.4	10,500	厚手で楕円形を呈す、磨り面は平坦で平滑に仕上げられる。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

95-222号土坑(第465図: PL.240)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考		
第465図 PL.240	1	深鉢 覆土	体部中位破片			①粗:輝石 ②褐色			緩やかな屈曲を呈す。垂下隆線1・2条の懸垂文構成か。縄文は縦位LR。	中期後葉古	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第465図 PL.240	2	スクレイパー	覆土	欠損	6.9	4.9	1.0	33	基部に抉れ状の欠損あり、一側縁に粗い刃部を作出。	黒色安山岩	

95-223号土坑(第465図: PL.240)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考	
第465図 PL.240	1	深鉢 覆土	口縁部破片			①細:石英 ②橙色			口縁部内湾し横位波状沈線2条を設ける。以下斜位LRを施す。	中期後葉古
第465図 PL.240	2	深鉢 覆土	頸部破片			①粗:輝石 ②鈍い黄褐色			横位隆線に深い刺突文を加える。	後期前葉
第465図 PL.240	3	深鉢 覆土	体部破片			①細:輝石 ②鈍い黄褐色			横位隆線を設け、深い刺突文が沿う。体部は無節Rを施す。	後期前葉

95-224号土坑(第465図: PL.240)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考	
第465図 PL.240	1	深鉢 覆土	口縁部破片			①細:輝石 ②黒褐色			口唇部波状に内屈する。内面に1条の横位沈線を施す。外面は無文。	後期前葉新

95-228号土坑(第465図: PL.240)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考	
第465図 PL.240	1	深鉢 覆土	頸部破片			①粗:石英 ②橙色			薄手の器厚。横位細隆線を設け上位は無文、下位は横位LRを施す。	後期前葉

95-230号土坑(第465図: PL.240)

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第465図 PL.240	1	磨石	覆土	完形	10.6	8.0	5.8	800	やや扁平な礫を利用、両面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第465図 PL.240	2	磨石	覆土	完形	12.0	7.3	4.4	700	やや扁平な礫を利用、両面平滑で極浅い凹みが見られる。	粗粒輝石安山岩	
第465図 PL.240	3	石皿	覆土	完形	30.4	25.6	7.6	5,080	使用面は深く作られる。裏面浅く凹み、複数の凹み穴が見られる。	粗粒輝石安山岩	

95-232号土坑(第465・466図: PL.240)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考		
第465図 PL.240	1	深鉢 覆土	体部上半破片			①細:石英・輝石 ②暗赤褐色			強く外反する。2条沈線で画された磨消部渦巻状意匠か。細縄文LRを充填する。内外面煤付着。	後期初頭	
第465図 PL.240	2	深鉢 覆土	体部破片			①粗:石英多・輝石 ②明黄褐色			2条の沈線に画された磨消部弧状意匠。あるいは渦巻文か。縄文はLR充填施文。内外面煤付着。	後期初頭	
第465図 PL.240	3	深鉢 覆土	体部破片			①粗:石英・輝石 ②鈍い黄褐色			内湾気味の体部。器面磨滅するため判然としないが、無節R斜位施文を見る。	後期	
第465図 PL.240	4	深鉢 覆土	体部破片			①細:輝石 ②黒褐色			無節L斜位施文。	後期前葉	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第466図 PL.240	5	石鏃	覆土	欠損	(2.6)	(1.5)	0.3	(1.0)	凹基無茎、挟りは深い。脚の先端部分尖り、丁寧に作られる。片脚欠く。	チャート	

95-233号土坑(第466図: PL.240)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考	
第466図 PL.240	1	深鉢 覆土	頸部破片			①粗:輝石 ②明褐色			頸部は無文。横位隆線以下2条隆線が懸垂する。側縁は沈線、横位LRを地文とする。	中期後葉古
第466図 PL.240	2	深鉢 覆土	口頸部破片			①粗:石英・雲母 ②鈍い褐色			横位隆線2条上位に渦巻状意匠。側縁は沈線で短沈線を施す。	中期後葉信州系

95-235号土坑(第466図: PL.240)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調			文様の特徴等			備考	
第466図 PL.240	1	深鉢 覆土	体部破片			①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色			縦位沈線による懸垂文構成か。地文は捺糸L縦位施文。	中期後葉最古

第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-236号土坑(第466図: PL.241)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調						文様の特徴等	備考	
第466図 PL.241	1	深鉢 覆土	体部破片			①粗:輝石 ②鈍い褐色			内湾する体部。2条沈線で画された磨消部懸垂文構成。無節し縦位充填施文。	中期後葉新	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第466図 PL.241	2	打製石 斧	覆土	完形	15.3	8.0	2.5	428	両面に自然面、片面には縦に稜が見られる。未製品と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第466図 PL.241	3	磨石	覆土	完形	11.1	7.0	5.1	540	やや不定形な長円礫、端部には打痕。	粗粒輝石安山岩	
第466図 PL.241	4	磨石	覆土	完形	10.6	8.9	4.7	550	扁平な円礫、両磨り面に浅い凹みが見られる。被熱によるひび割れ顕著。	粗粒輝石安山岩	
第466図 PL.241	5	石皿	覆土	欠損	(12.7)	16.6	6.8	(1,430)	半分に欠ける。手前部分片。裏面は平らになっている。	安山岩	
第466図 PL.241	6	石皿	覆土	欠損	(7.5)	(10.5)	5.2	(535)	磨り面部分片、裏面には凹み穴が見られる。被熱。	粗粒輝石安山岩	

95-237号土坑(第466図: PL.241)

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第466図 PL.241	1	打製石 斧	覆土	完形	12.6	4.9	1.8	137	撥形、細身で基部の片側縁に抉り、刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第466図 PL.241	2	磨石	覆土	完形	12.6	6.5	3.2	380	扁平な自然礫、端部に弱い打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第466図 PL.241	3	敲石	覆土	ほぼ 完形	(15.3)	7.6	4.8	(830)	やや扁平な棒状の礫利用、端部に打面有り。	粗粒輝石安山岩	

95-238号土坑(第467図: PL.241)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調						文様の特徴等	備考	
第467図 PL.241	1	深鉢 覆土	口縁部破片			①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色			口縁部内湾し肥厚する。隆線による口縁部渦巻文構成。他は無文。外面煤付着。	中期後葉信州系	
第467図 PL.241	2	深鉢 覆土	口縁部破片			①細:石英少 ②褐灰色			あるいは浅鉢か。内外面とも丁寧な研磨を施す。	中期後葉	
第467図 PL.241	3	深鉢 覆土	体部中位破片			①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色			隆線による弧状・渦巻状意匠、側線は沈線。空白部は斜位・弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系	
第467図 PL.241	4	深鉢 覆土	体部破片			①粗:石英少 ②鈍い赤褐色			細身の内皮沈線を横位多段に施文後、縦位内皮沈線を重ねる。	中期	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第467図 PL.241	5	打製石 斧	覆土	完形	(10.0)	5.4	1.7	(128)	撥形、基部側縁部に浅い抉り有り、刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第467図 PL.241	6	打製石 斧	覆土	欠損	(8.1)	5.8	1.2	(87)	撥形、薄手で両面に自然面。基部を欠くものと見られる。	細粒輝石安山岩	
第467図 PL.241	7	磨石	覆土	完形	9.8	6.7	4.3	334	扁平な長円礫、両面使用面とし平滑、被熱によるものかひび割れ有り。	デイサイト?	

95-239号土坑(第467図: PL.241)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調						文様の特徴等	備考
第467図 PL.241	1	深鉢 覆土	口縁~体部下 残存 口:19.2			①細:輝石 ②暗褐色			4単位波状口縁。口縁部沈線・頸部沈線3条を設け、弧状沈線3条を基調とした意匠文を配す。体部は垂下沈線3条による懸垂文構成。細沈線を密接に充填施文する。	中期後葉新
第467図 PL.241	2	深鉢 覆土	口縁~体部下 3/4残存 口:14.2			①粗:石英・雲母 ②黒褐色			口縁部内湾し下端に横位隆線1条を設ける。斜位短沈線を充填する。体部上半に2条隆線を付し、渦巻文下端より垂下隆線3条が懸垂する。おそらく4単位。空白部は縦位沈線施文後横位弧状沈線で小区画する。	中期後葉信州系
第467図 PL.241	3	深鉢 覆土	口頸部破片			①粗:石英 ②鈍い褐色			あるいは口縁部か。器面磨滅するため判然としにくい。横位隆線に強い押圧を加える。	後期初頭

95-240号土坑(第467図: PL.241)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調						文様の特徴等	備考
第467図 PL.241	1	深鉢 覆土	口頸部破片?			①粗:輝石 ②灰褐色			頸部隆線か。下位に沈線による弧線文や斜位沈線を見る。	中期後葉信州系

95-243号土坑(第467図: PL.241)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調						文様の特徴等	備考
第467図 PL.241	1	深鉢 覆土	口縁部破片			①粗:輝石 ②明赤褐色			小波状突起を付す。突起下に隆線による渦巻文を配し、下端より2条隆線が垂下する。口唇部には刻みを施す。	中期後葉信州系

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第467図 PL.241	2	深鉢 覆土 体部破片	① 粗：石英少・輝石 ② 鈍い褐色	沈線による重弧状意匠。あるいは渦巻状意匠か。施文は深い。	後期初頭
第467図 PL.241	3	深鉢 覆土 体部破片	① 細：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	3条の垂下沈線による磨消部懸垂文構成。施文部はRL縦位充填施文。	中期後葉新
第467図 PL.241	4	深鉢 覆土 体部破片	① 粗：石英・雲母 ② 黒褐色	湾曲ある体部。垂下隆線1条による懸垂文構成か。縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系

#### 95-244号土坑(第467図：PL.241)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第467図 PL.241	1	深鉢 覆土 体部上半破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	刻みを付す隆線による区画文構成。2・3条の平行沈線を側線とし交互刺突を加える。区画内は沈線による弧状・波状意匠か。地文はLR。	中期中葉末
第467図 PL.241	2	深鉢 覆土 体部下半破片	① 粗：石英少 ② 鈍い赤褐色	強い内皮刺突を加えた垂下隆線による懸垂文構成。縦位内皮沈線を充填する。	中期中葉末
第467図 PL.241	3	深鉢 覆土 体部下半破片	① 粗：輝石少 ② 鈍い赤褐色	縦位平行沈線による懸垂文構成。同工具による縦位刺突文を充填する。	中期中葉末
第467図 PL.241	4	深鉢 覆土 体部中位破片	① 細：石英少 ② 鈍い赤褐色	2・3条の垂下沈線に3条の横位沈線を加える。地文縄文はRL縦位施文。	中期後葉古

#### 95-246号土坑(第467・468図：PL.241)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第467図 PL.241	1	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗：石英 ② 暗褐色	口縁部内湾し、小径。隆線による渦巻状意匠を対称に設け、口縁部区画文を配す。区画中位には横位沈線2条に交互刺突文を加え、斜位短沈線を充填する。体部は渦巻文下端より隆線が派生し、空白部を短沈線が埋める。	中期後葉信州系
第467図 PL.241	2	深鉢 覆土 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。隆線1条には刻みを加える。空白部は縦位波状隆線を配し、横位矢羽状短沈線を多段に施す。	中期後葉信州系
第467図 PL.241	3	深鉢 覆土 体部破片	① 粗：石英多 ② 鈍い橙色	3条一組の垂下沈線による懸垂文構成。地文は横位LR。	中期後葉古
第467図 PL.241	4	深鉢 覆土 体部破片	① 細：石英少 ② 鈍い橙色	隆線による小区画文構成か。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。やや軟質。	中期後葉信州系
第467図 PL.241	5	深鉢 覆土 体部破片	① 粗：石英 ② 鈍い橙色	円形刺突文を斜位に施す。おそらく隆線の側線か。地文は縦位LR。器面磨滅する。	中期後葉古
第468図 PL.241	6	深鉢 覆土 体部上半破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	頸部外反部に付せられるV字状貼付文か。他は無文。	中期中葉末

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第468図 PL.241	7	磨石	覆土	完形	10.0	7.4	5.0	468	やや扁平で両面に極浅い凹みを有す。粗粒の石質。	粗粒輝石安山岩	
第468図 PL.241	8	磨石	覆土	完形	(10.5)	8.1	4.0	(386)	扁平な円礫、使用平坦面に浅い凹み有す、端部に打痕。ひび割れ顕著。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-247号土坑(第468図：PL.241)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第468図 PL.241	1	深鉢 覆土 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	垂下隆線2条に画された磨消部懸垂文構成。無節Lを施す。	中期末葉

#### 95-248号土坑(第468図：PL.241)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第468図 PL.241	1	深鉢 覆土 口頸部破片	① 粗：石英・雲母 ② 黒褐色	隆線による口縁部区画文。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系

#### 95-251号土坑(第468図：PL.241)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第468図 PL.241	1	深鉢 覆土 体部破片	① 粗：輝石少 ② 鈍い赤褐色	平行沈線による弧状意匠か。細沈線を乱雑に充填する。	中期後葉古

#### 95-252号土坑(第468図：PL.242)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第468図 PL.242	1	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗：石英多 ② 黒褐色	口唇部内面肥厚。隆線1条による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線で斜位短沈線を充填する。頸部は無文。	中期後葉信州系
第468図 PL.242	2	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗：石英 ② 鈍い褐色	厚手の器厚。口縁部隆線を設ける。側線は撫でか。	中期後葉新

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第468図 PL.242	3	深鉢 覆土 体部上半破片	①粗：石英・輝石・褐色粒 ②鈍い褐色	横位隆線以下2条隆線による大柄な弧状・渦巻状意匠。側線は撫で。横位LRを充填する。	中期後葉新
第468図 PL.242	4	深鉢 覆土 体部破片	①粗：輝石少 ②褐色	2条沈線による弧状意匠。あるいは渦巻文か。弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第468図 PL.242	5	深鉢 覆土 底部1/5残存 底：(10.0)	①粗：石英・片岩 ②鈍い褐色	無文部を半肉彫状とし内皮沈線で画されたクランク状区画文を強調する。区画内は格子目状沈線を充填する。	前期末葉～中期 初頭

95-255号土坑(第468図：PL.242)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第468図	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英・輝石多 ②鈍い赤褐色・黒褐色	隆線による渦巻文と区画文構成。隆線には沈線が重なる。区画内は縦位短沈線を充填する。頸部は無文で、体部に横位沈線2条を画す。地文は縦位RL。	後期後葉古 2・3は同一個 体
第468図	2	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英・輝石多 ②鈍い赤褐色・黒褐色	隆線による渦巻文と区画文構成。隆線には沈線が重なる。区画内は縦位短沈線を充填する。頸部は無文で、体部に横位沈線2条を画す。地文は縦位RL。	後期後葉古
第468図 PL.242	3	深鉢 覆土 口縁部破片 口：(26.0)	①粗：石英・輝石多 ②鈍い赤褐色・黒褐色	隆線による渦巻文と区画文構成。隆線には沈線が重なる。区画内は縦位短沈線を充填する。頸部は無文で、体部に横位沈線2条を画す。地文は縦位RL。	中期後葉古
第468図 PL.242	4	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英・雲母 ②鈍い褐色	口縁部弱く内湾し隆線による渦巻文を配す。細かな刺突文を側線とする。口唇部内稜強く突出。	中期後葉信州系
第468図 PL.242	5	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英・雲母 ②鈍い褐色	幅広の無文口縁部。口唇部内面肥厚する。内外面とも丁寧な撫で調整を施す。	中期後葉信州系
第468図 PL.242	6	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	縦位RLが器面を覆う。	中期後葉

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第468図 PL.242	7	磨石	覆土	完形	17.2	8.1	5.9	1,400	丸みを持った角棒状の礫、やや大型で表面平滑、敲石としても使用か。	粗粒輝石安山岩	
第468図 PL.242	8	磨石	覆土	完形	7.3	3.4	2.3	73	棒状の小礫。	安山岩	

95-257号土坑(第469図：PL.242)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第469図 PL.242	1	深鉢 覆土 頸部～体部上半 1/3残存	①粗：石英・輝石 ②明赤褐色	頸部に横位隆線による半楕円文を多段に配す。体部は弧状隆線と分岐隆線が配され、空白部は内皮連続刺突文やを縦位に施す。	中期後葉信州系
第469図 PL.242	2	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②灰褐色	隆線による口縁部区画文。小渦巻文を区画下端に配す。隆線には細沈線を重ねる。区画内は沈線で小区画され、横位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第469図 PL.242	3	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英・輝石 ②暗褐色	垂下隆線3条。おそらくU字状意匠か。隆線一端より突出意匠が付される。空白部は縦位内皮沈線が充填される。	中期後葉信州系
第469図 PL.242	4	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英 ②褐色	横位内皮沈線を多段に配す。地文は横位RL。	中期後葉
第469図 PL.242	5	深鉢 覆土 体部破片	①粗：輝石 ②黒褐色	幅狭の斜位内皮沈線群に斜位隆線を貼付した斜格子目文。	中期後葉信州系
第469図 PL.242	6	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	斜位沈線群を交互に配す。	中期後葉信州系
第469図 PL.242	7	深鉢 覆土 口頸部破片	①粗：石英・雲母 ②黒褐色	幅広の無文口縁部。内外面とも撫で調整を施す。	中期後葉信州系

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第469図 PL.242	8	磨石	覆土	完形	7.6	5.2	3.0	178	扁平な小楕円礫、両面平滑で、側縁に打痕。	閃緑岩	

95-258号土坑(第469図：PL.242)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第469図 PL.242	1	鉢? 覆土 頸部破片	①粗：輝石 ②橙色	横位隆線を設ける。内外面とも丁寧な研磨を施す。赤彩が隆線に残る。	中期後葉
第469図 PL.242	2	鉢? 覆土 体部破片	①粗：輝石 ②鈍い橙色	体部に緩やかな屈曲を持つ。内外面研磨、赤彩を見る。	中期後葉

95-261号土坑(第469図：PL.242)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第469図 PL.242	1	深鉢 口縁～体部上半 1/4残存 口：(46.0)	①粗：石英・輝石・褐色粒 ②鈍い赤褐色	波状突起波頂部を意図的に欠損した擬口縁。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。体部は3・4条の垂下沈線による懸垂文構成。斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系



### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 95-263号土坑(第469図: PL.242)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第469図 PL.242	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗:石英多 ②暗褐色	口唇部肥厚部以下無節Lを縦位に施す。	中期後葉

#### 95-267号土坑(第469図: PL.242)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第469図 PL.242	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗:石英 ②黒褐色	口唇部直下に横位隆線を設ける。以下刺突文の痕跡を見るが器面磨滅のため判然としない。	後期初頭
第469図 PL.242	2	深鉢 覆土 口頸部破片	①細:石英 ②鈍い橙色	屈曲する口縁部。隆線による口縁部区画文構成。側線は沈線、縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系

#### 95-268号土坑(第469図: PL.242)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第469図 PL.242	1	深鉢 覆土 口縁~体部上半 1/5残存 口:(29.0)	①粗:石英 ②鈍い橙色	口縁部隆線は低く、刻みを施す。体部は無文で縦位研磨痕を見る。外面煤付着。	後期初頭
第469図 PL.242	2	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い橙色	波状縁か。口縁下に弧状隆線を付し、円形刺突文を施す。	後期初頭
第469図 PL.242	3	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗:石英多・輝石 ②黒褐色	口縁部隆線を付す。器厚は薄手で内外面とも雑な研磨を施す。外面煤付着。	後期初頭

#### 95-269号土坑(第469図: PL.242)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第469図 PL.242	1	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色	隆線による渦巻文を配し、短沈線を施す。	中期後葉信州系
第469図 PL.242	2	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・輝石少 ②鈍い赤褐色	内皮沈線重複施文による懸架する弧状意匠。地文は捺糸R。	中期後葉古

#### 95-270号土坑(第470図: PL.242)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第470図 PL.242	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①細:輝石 ②橙色	口縁部隆線を設ける。他は無文。内外面に煤付着。	中期末葉
第470図 PL.242	2	深鉢 覆土 頸部破片	①粗:石英 ②褐色	低位の横位隆線を付す。他は無文。	中期末葉

#### 95-275号土坑(第470図: PL.242)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第470図 PL.242	1	鉢? 覆土 体部中位~下半 1/3残存	①粗:石英 ②鈍い橙色	3条の沈線による渦巻状意匠を配し、横位・弧状沈線で繋ぐ。無節Lを横位充填施文する。体部下半は無文。	後期前葉
第470図 PL.242	2	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗:輝石 ②鈍い橙色	波状突起頂部より2条隆線による湾曲状意匠が配される。口縁部区画内は沈線を側線とし矢羽状短沈線を横位多段に施す。内稜を設ける。	中期後葉信州系

#### 95-278号土坑(第470図: PL.242)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第470図 PL.242	1	深鉢 覆土 体部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い橙色	強い刻みを加えた2条隆線による弧状・渦巻状意匠。地文は捺糸L縦位施文。	中期後葉古

#### 95-279号土坑(第470図: PL.242)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第470図 PL.242	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗:輝石 ②褐色	波状縁か。口縁部内湾し口唇部内湾突出する。外面2条沈線が横位に施される。	中期後葉信州系
第470図 PL.242	2	深鉢 覆土 口頸部破片	①粗:石英・雲母多 ②黒褐色	口縁部区画文か。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系

#### 95-280号土坑(第470図: PL.242)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第470図 PL.242	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗:雲母少 ②黒褐色	無文の口縁部。口唇部内面僅かに突出する。	中期後葉
第470図 PL.242	2	深鉢 覆土 体部上半破片	①粗:輝石 ②鈍い褐色	内皮使用の横位平行沈線以下捺糸Lが縦位施文される。	中期後葉最古

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第470図 PL.242	3	深鉢 覆土	①粗・輝石 ②褐色	縦位RLが器面を覆う。	中期後葉

95-282号土坑(第470図: PL.243)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考						
第470図 PL.243	1	深鉢 覆土	①粗:輝石 ②鈍い黄褐色	地文RL。弧状沈線が施される。	中期後葉古						
第470図 PL.243	2	深鉢 覆土	①粗:輝石少 ②鈍い黄褐色	2条沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位波状条線が密に施される。	中期後葉新						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第470図 PL.243	3	打製石 斧	覆土	欠損	(9.8)	6.7	1.4	(141)	刃部片が粗い刃部を作り出す。	細粒輝石安山岩	

95-283号土坑(第470図: PL.243)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考						
第470図 PL.243	1	深鉢 覆土	①粗:石英少 ②鈍い褐色	磨消部を画す垂下沈線に小弧線が加わる。あるいは剣先状意匠か。縄文は縦位LR。	中期後葉古						
第470図 PL.243	2	深鉢 覆土	①粗:輝石 ②明褐色	強い押圧を加えた垂下隆線と横位隆線による区画文。区画側線は沈線、縦位短沈線を充填する。体部の垂下沈線上端を見る。	中期後葉新						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第470図 PL.243	3	石鏃	覆土	欠損	(1.2)	1.4	0.4	(0.7)	平基無茎、基部がやや薄くなっている。先端部を欠く。	黒曜石	
第470図 PL.243	4	磨石	覆土	完形	9.3	4.0	3.1	144	小型の棒状礫、一端部に打痕あり。敲石として利用か。	粗粒輝石安山岩	

95-285号土坑(第470図: PL.243)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考						
第470図 PL.243	1	深鉢 覆土	①細:石英・輝石 ②灰褐色	外反する頸部。1本描き沈線による渦巻文上端か。無筋L縦位施文。	中期後葉古						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第470図 PL.243	2	多孔石	覆土	完形	14.8	13.3	12.6	3,710	角礫利用、やや膨らんだ上面に複数の凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	

95-286号土坑(第470図: PL.243)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考						
第470図 PL.243	1	深鉢 覆土	①粗:石英・輝石・雲母 ②鈍い橙	隆線による渦巻文を配す小波状突起。頸部隆線以下体部は、剥落するが蛇行隆線が派生する。波状沈線上端を見る。	中期後葉古						
第470図 PL.243	2	深鉢 覆土	①粗:輝石 ②褐色	口縁部隆線以下内皮平行沈線を横位に設ける。以下燃系L斜位施文。	中期後葉最古						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第470図 PL.243	3	打製石 斧	覆土	欠損	(10.8)	5.6	1.7	(127)	基部欠損か、粗く打ち割られている。	細粒輝石安山岩	

95-287号土坑(第471図: PL.243)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第471図 PL.243	1	深鉢 覆土	①細:石英・輝石 ②橙色	無文。外面は横位削り調整、内面は研磨を加える。	中期後葉
第471図 PL.243	2	注口土器? 覆土	①細:輝石・雲母 ②褐灰色	内湾する無文の体部。外面は撫で後弱い研磨、内面は弱い撫で調整に止まる。器厚薄手。	後期前葉

95-288号土坑(第471図: PL.243)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色 土調	文様の特徴等	備考
第471図 PL.243	1	深鉢 覆土	①粗:石英・輝石 ②橙色	口縁部外反。外面は斜位撫で、内面は横位研磨を念に施す。	中期後葉
第471図 PL.243	2	深鉢 覆土	①細:輝石 ②鈍い褐色	体部外反。弧状沈線を施す。縄文はLR充填施文。	後期前葉

### 第3章 検出された遺構と遺物

95-289号土坑(第471図: PL.243)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第471図 PL.243	1	深鉢 口頸部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色	振りを加えた隆線による幅狭の口縁部区画文。区画内は矢羽状の刺突文を充填する。体部は無節L縦位施文。	中期後葉古

95-290号土坑(第471図: PL.243)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第471図 PL.243	1	深鉢 覆土	①粗:石英 ②褐灰色	やや厚手。縦位LRを施す。	中期後葉						
第471図 PL.243	2	深鉢 覆土	①細:雲母 ②鈍い赤褐色	やや薄手。斜位RLを施す。	後期前葉						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第471図 PL.243	3	磨石	覆土	完形	7.7	6.4	3.8	262	やや扁平な小円礫。	粗粒輝石安山岩	

95-293号土坑(第471図: PL.243)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第471図 PL.243	1	深鉢 覆土	①粗:石英・雲母 ②暗赤褐色	2条隆線による懸垂文構成か。沈線を側線とし、縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第471図 PL.243	2	深鉢 覆土	①粗:石英 ②赤褐色	やや厚手、燃糸L縦位施文。	中期後葉最古

95-294号土坑(第471図: PL.243)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第471図 PL.243	1	深鉢 覆土	①粗:石英・雲母多 ②黒褐色	口縁部横位隆線より渦巻文が懸架し下端より隆線が派生する。側線は沈線、斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第471図 PL.243	2	鉢 覆土	①粗:片岩 ②褐色	強く内湾する口縁部。無文で内外面とも横位研磨を施す。	中期後葉						
第471図 PL.243	3	鉢? 覆土	①細:石英・雲母 ②明褐色	薄手の器厚。丁寧な葎手状沈線を施す。地文状に細沈線を斜位に充填する。	中期後葉信州系						
第471図 PL.243	4	深鉢 覆土	①粗:輝石多 ②鈍い褐色	渦巻状小突起より細隆線が垂下する。懸垂文構成か。沈線を側線とし縦位RLを充填施文する。内面煤付着。	中期後葉古東北系						
第471図 PL.243	5	深鉢 覆土	①粗:輝石多 ②明褐色	細隆線と沈線が垂下する。列点状刺突文を縦位に施す。縄文は縦位RL。	中期後葉古東北系						
第471図 PL.243	6	深鉢 覆土	①粗:石英・輝石 ②橙色	突出する滑車状突起。中位を貫孔する。内外面とも隆帯により形成され、端部を僅かに突出させる。外面はLRを充填施文する。	後期初頭						
第471図 PL.243	7	深鉢 覆土	①粗:石英・雲母 ②赤褐色	2条隆線が懸垂する。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第471図 PL.243	8	深鉢 覆土	①粗:石英 ②鈍い褐色	2条隆線による半渦巻文を配す。下端より隆線が垂下する懸垂文構成か。空白部は縦位・斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第471図 PL.243	9	深鉢 覆土	①粗:石英 ②明黄褐色	振りを加えた双環状小突起。磨滅が著しく、詳細は判然としなない。	後期初頭						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第471図 PL.243	10	打製石 斧	覆土	完形	11.1	5.1	2.1	164	撥形だが刃部の開きは弱い、やや厚手の作り、刃部摩耗。	粗粒輝石安山岩	
第471図 PL.243	11	スクレイ パー	覆土	完形	7.3	2.6	0.8	19	箆状を呈す、側縁から先端部にかけて細かい刃部を作出。	黒色安山岩	
第471図 PL.243	12	磨石	覆土	完形	5.7	5.3	4.1	174	小型の円礫利用。	粗粒輝石安山岩	

95-295号土坑(第472図: PL.243)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第472図 PL.243	1	深鉢 覆土	①細:輝石 ②黒褐色	2条隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。区画内側線は沈線で縦位短沈線を充填する。体部は3条の垂下沈線と縦位波状沈線による懸垂文構成。地文は縦位RL。	中期後葉古
第472図 PL.243	2	深鉢 覆土	①粗:石英・雲母 ②褐色	渦巻状小突起より2条隆線が派生し区画文を配す。区画内は縦位短沈線を充填する。体部は細沈線による斜格子文が密に施される。	中期後葉古
第472図 PL.243	3	深鉢 覆土	①粗:石英・雲母少 ②暗赤褐色	隆線による渦巻文と幅狭の区画文を配す。区画内は横位沈線施文後強い交互刺突文を加える。体部は縦位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第472図 PL.243	4	深鉢 覆土	①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色	3条の弧状沈線を縦位対弧状に設け、弧線文が派生する。地文は縦位RL。	中期後葉古
第472図 PL.243	5	深鉢 覆土	①粗:石英 ②暗赤褐色	斜位隆線を配す。空白部は斜位沈線と内皮刺突文を強く施文する。	中期後葉信州系

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第472図 PL.243	6	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英 ②黒褐色	内皮沈線を横位多段に施し、横位交互刺突文を充填する。	中期後葉古
第472図 PL.243	7	浅鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英多・輝石 ②黒褐色	口縁部肥厚する。無文で内外面とも丁寧な研磨を施す。赤彩痕跡は内外面に見るが顕著ではない。	中期後葉
第472図 PL.243	8	浅鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	口唇部肥厚する。無文で内外面横位研磨を施す。赤彩痕跡は外面に見る。	中期後葉

95-296号土坑(第472図：PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第472図 PL.244	1	深鉢 覆土 口縁～体部上半 1/4残存 口：(32.0)	①粗：石英・輝石 ②灰褐色	両耳壺か。幅広の無文口縁部下に横位隆線を設ける。大型の橋状把手を配し両脇を細隆線で画す。縄文は縦位LRを充填施文する。	後期初頭か

95-297号土坑(第472図：PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第472図 PL.244	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：輝石 ②橙色	波頂部に配された半渦巻状突起。口縁部は無文で細隆線を設ける。体部は細沈線で画された磨消部による弧状・渦巻状意匠が配される。施文部はLRを充填する。	後期初頭						
第472図 PL.244	2	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い橙色	やや薄手の器厚。口縁部横位隆線に強い押圧を連続する。他は無文。	後期初頭						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第472図 PL.244	3	磨石	覆土	完形	11.9	7.7	5.2	680	やや扁平な楕円形の礫を利用、表裏に浅い凹みを有す。	火山礫凝灰岩	
第472図 PL.244	4	磨石	覆土	欠損	13.5	9.3	3.9	740	扁平な礫を利用、端部に打痕有り。	不明	

95-298号土坑(第472・473図：PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第472図 PL.244	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英 ②暗褐色	口唇部僅かに肥厚する。無文で内外面とも丁寧な横位研磨を施す。	中期後葉						
第472図 PL.244	2	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英・雲母 ②褐色	縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第473図 PL.244	3	石棒	覆土	欠損	26.7	8.8	7.9	3,210	大型の棒状礫、一部に剥離、両端に打痕見られ、煤の付着あり。炉石か。	粗粒輝石安山岩	

95-299号土坑(第473図：PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第473図 PL.244	1	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	僅かに隆線と側線沈線の痕跡を見る。弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第473図 PL.244	2	磨石	覆土	完形	12.0	9.7	5.6	1,000	やや扁平で比較的大振りの礫利用、使用面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第473図 PL.244	3	磨石	覆土	完形	12.9	8.9	3.5	780	扁平な川原石を利用、両面が平らで比較的平滑。	石英閃緑岩	

95-300号土坑(第473図：PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第473図 PL.244	1	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英多 ②暗赤褐色	短く外傾する口縁部。口唇部細隆線を付し、端部に沈線を施す。	中期後葉信州系						
第473図 PL.244	2	深鉢 覆土 体部破片	①粗：輝石多 ②鈍い褐色	2・3条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位無節Lを施し浅い弧状沈線を加える。渦巻文か。	中期後葉新						
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第473図 PL.244	3	石鏃	覆土	欠損	(1.0)	1.4	0.3	(0.5)	凹基無茎、抉り浅く薄型で幅広の形状か。基部片。	黒曜石	

95-302号土坑(第473図：PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第473図 PL.244	1	深鉢 覆土 体部破片	①細：輝石 ②鈍い褐色	2条の沈線に画された磨消部弧状意匠。薄手の器厚を呈す。	後期初頭

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第473図 PL.244	2	磨石	覆土	完形	8.2	6.4	2.5	217	扁平な小円礫、平らな一面を使用か、中央部に浅い打痕による凹み有り。	デイサイト	
第473図 PL.244	3	磨石	覆土	完形	11.2	5.2	2.4	217	扁平で紡錘形を呈す。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-311号土坑(第473図: PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第473図 PL.244	1	深鉢 覆土	①粗:輝石 ②赤褐色	無節L縦位施文。	中期後葉

#### 95-314号土坑(第473図: PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第473図 PL.244	1	深鉢 覆土	①細:石英 ②暗赤褐色	波状突起。隆線による渦巻文と区画文構成。渦巻文下に弧状小区画を配す。幅広の沈線を側線とし横位RLを充填する。体部は2条沈線による懸垂文構成。施文部中位に縦位蛇行沈線を加える。縄文は縦位RL。	中期後葉新

#### 95-316号土坑(第473図: PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第473図 PL.244	1	打製石 斧	覆土	完形	9.8	4.8	1.5	86	撥形、片面に自然面、極めて作りが粗い。	細粒輝石安山岩	

#### 95-319号土坑(第474図: PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第474図 PL.244	1	深鉢 覆土	①粗:石英多 ②鈍い褐色	2条沈線による大柄の弧状意匠。渦巻文か。縦位波状沈線文を充填する。器面磨減。	中期後葉古
第474図 PL.244	2	深鉢 覆土	①粗:石英・雲母少 ②灰褐色	横位平行沈線を多段に重ねる。重複施文であろう。	中期後葉

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第474図 PL.244	3	スクレイパー	覆土	完形	3.3	1.8	0.6	2.6	三角の剥片、先端を挟む両辺部に刃部作出。	黒曜石	

#### 95-320号土坑(第474図: PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第474図 PL.244	1	深鉢 覆土	①粗:石英多 ②鈍い赤褐色	隆線による口縁部渦巻文構成。縦位短沈線を充填する。口唇部内面肥厚。器面磨減。	中期後葉信州系

#### 95-322号土坑(第474図: PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第474図 PL.244	1	深鉢 覆土	①粗:石英・輝石 ②明赤褐色	沈線で画された施文部弧状意匠か。縦位RLを充填する。器面磨減。	後期初頭

#### 95-323号土坑(第474図: PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第474図 PL.244	1	深鉢 覆土	①粗:石英 ②鈍い褐色	外反する体部。縦位波状沈線による懸垂文構成か。斜位沈線を充填する。器厚薄手。	中期後葉信州系

#### 95-326号土坑(第474図: PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第474図 PL.244	1	深鉢 覆土	①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色	2条沈線に画された磨消部弧状・半渦巻状意匠。施文部との交互構成。LR充填施文。	後期初頭
第474図 PL.244	2	深鉢 覆土	①粗:輝石少 ②黒褐色	2条沈線で画された磨消部弧状・方形意匠。施文部は横位LRを充填する。磨消部は研磨を施す。外面煤付着。	後期初頭
第474図 PL.244	3	深鉢 覆土	①粗:石英・輝石・雲母 ②鈍い褐色	頸部隆線で画された口縁部区画文構成。区画内は沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。区画間に沈線による小渦巻文を配す。	中期後葉信州系
第474図 PL.244	4	深鉢 覆土	①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色	細沈線を斜位に施す。無節Rを斜位充填施文する。	後期初頭
第474図 PL.244	5	深鉢 覆土	①粗:石英 ②鈍い黄褐色	1条の垂下隆線による懸垂文構成か。あるいは大柄の弧状意匠。無文で隆線貼付も雑な印象。	後期初頭

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第474図 PL.244	6	多孔石	覆土	完形	20.4	13.2	9.7	2,910	大型の自然角礫の表裏に数個の凹み穴を穿つ。	安山岩質熔岩	

95-329号土坑(第474図: PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第474図 PL.244	1	石鏃	覆土	欠損	(2.8)	(2.2)	0.6	(2.7)	基部を欠く。大型品。	チャート	

5・95区ビット(第480図: PL.244)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考						
第480図 PL.244	289 ビット1	深鉢 覆土	口縁部破片	① 石英粒少 ② 黒褐色	隆帯による楕円文構成か。	中期後葉					
第480図 PL.244	297 ビット2	深鉢 覆土	体部破片	① 石英・長石・雲母粒 ② 明赤褐色	隆線による渦巻き文、縦位集合沈線。	中期後葉					
第480図 PL.244	315 ビット3	深鉢 覆土	体部破片	① 細: 石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	内湾する無文の体部。外面丁寧な研磨調整。内面に煤が付着する。	中期後葉					
第480図 PL.244	315 ビット4	深鉢 覆土	体部破片	① 細: 石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	無文の体部。外面丁寧な研磨調整。内面に煤が付着する。	中期後葉 3と同一個体					
第480図 PL.244	150 ビット5	深鉢 覆土	体部破片	① 粗: 石英 ② 鈍い黄褐色	沈線による区画内をLRが充填される。	中期後葉新					
第480図 PL.244	160 ビット6	深鉢 覆土	体部破片	① 粗: 石英多 ② 暗褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第480図 PL.244	165 ビット7	深鉢 覆土	頸部破片	① 細: 石英・輝石 ② 灰黄褐色	屈曲部に横位沈線2条を設け、沈線間に円形刺突文を施す。体部は無筋しを充填する。	後期前葉					
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第480図 PL.244	8	台石	覆土	欠損	(15.0)	16.0	9.8	(3,850)	厚手の大型礫、両面の平坦面を使用。欠損品。	粗粒輝石安山岩	

5区 遺構外出土土器(第481~486図: PL.245~248)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考	
第481図 PL.245	1	深鉢 K 1	口縁~体部	① 細: 白色粒 ② 暗赤褐色	口縁部に隆線による横位渦巻き弧状文。渦巻き文は口縁部に突起、また口縁部分は内外面ともに肥厚し外面無文帯を作る。弧状文内は縦位集合沈線で埋める。体部には2本の沈線懸垂文、蛇行沈線文見られる。地文には縦位LR縄文施文。	中期後葉
第481図 PL.245	2	深鉢 覆土	口縁~体部 口: (29.0)	① 粗: 白色粒・角閃石安山岩・褐色粒 ② 褐色	口縁に横位隆帯、渦巻き楕円文、S字状文の連続懸垂文様。楕円文内には縦位集合沈線文充填。煤付着。	中期後葉信州系 51と同一個体 1116号土坑
第481図 PL.245	3	深鉢 覆土	口縁部破片	① 片岩粒・角閃石安山岩 ② 褐色	口縁部隆線による楕円文様構成か、文様内には縄文RL施文される。	中期後葉 182号土坑
第481図 PL.245	4	深鉢 D 3	口縁部破片	① 石英粒・角閃石安山岩 ② 黒褐色	隆線により楕円文描出か、楕円文内、横位LR縄文が施文される。	中期後葉
第481図 PL.245	5	深鉢 C 3	口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② 黒褐色	隆帯による渦巻き弧状文、弧状底部は隆帯2本。弧状文内は斜位の集合短沈線文充填。以下体部は沈線懸垂文、縦位LR縄文施文。	中期後葉
第481図 PL.245	6	深鉢 D 4	口縁部破片	① 石英粒・雲母粒 ② 黒褐色	隆線による渦巻き文、楕円文描出。楕円文内には斜位の短沈線文、隆線下部には、3本沈線の懸垂文、蛇行文。空隙には縦位LR施文。煤付着。	中期後葉
第481図 PL.245	7	深鉢 E 2	口縁部破片	① 石英・長石粒・黒色粒 ② にぶい黄褐色	波状口縁、低位隆帯による渦巻き楕円文様構成か、円形押圧文見え、楕円文内にはRL縄文充填施文。	中期後葉
第481図 PL.245	8	深鉢 E 2	口縁部破片	① 細: 石英粒・長石粒 ② 灰黄褐色	隆線による弧状文様構成、側線沈線、弧状文内はLR縄文横位。	中期後葉
第481図 PL.245	9	深鉢 覆土	口縁部破片	① 細: 石英粒・長石粒 ② 橙色	口縁直下に横位隆線、側線撫で体部には横位RL縄文。	中期後葉新
第481図 PL.245	10	深鉢 覆土	口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② 明褐色	口縁部に横位沈線、以下沈線により、幅狭の逆U字状懸垂文描き、地文にはLR縄文を横位、縦位施文。	中期後葉
第481図 PL.245	11	深鉢 覆土	口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② にぶい褐色	口縁小波状、波頂下に隆線による渦巻き文と、これから繋がる横位隆線が楕円文を構成か。横位隆線上位に沈線による少波状文。以下体部は2本沈線による懸垂文と横位LR縄文が見える。	中期後葉
第481図 PL.245	12	深鉢 G 1	口縁~体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 赤褐色	口縁部に隆線による横位弧状文。弧状文内は縦位集合沈線で埋める。体部には縄文LR縦位施文。	中期後葉
第481図 PL.245	13	深鉢 K 3	口縁部破片	① 石英粒・角閃石安山岩 ② 明褐色	隆線による渦巻き弧状文。弧状文内の施文不明瞭。器面風化。	中期後葉

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第481図 PL.245	14	深鉢 I 2 突起	①粗：白色粒 ②赤褐色	突起上端部が凹む。側縁に走る隆帯は下がり渦巻き文様を描く。体部には沈線による曲線文か、縄文が充填される。	中期後葉
第481図 PL.245	15	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：石英粒・長石粒 ②にぶい黄褐色	口縁内側肥厚、外面縄文LR横位施文。	後期前葉
第481図 PL.245	16	深鉢 覆土 口縁部破片	①石英粒・長石粒 ②黒褐色	低位隆帯による楕円文構成か。	中期後葉 1118号土坑
第481図 PL.245	17	深鉢 G 4 口縁部破片	①石英粒・長石粒 ②暗褐色	横位隆線から繋がる2本隆線による懸垂文。	中期後葉
第481図 PL.245	18	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：石英粒・長石粒 ②褐色	隆帯による楕円文様構成か、文様内縦位沈線文？	中期後葉
第481図 PL.245	19	深鉢 覆土 口縁部破片	①石英粒・雲母粒 ②暗褐色	僅かに内湾、細縄文LR横位。	中期後葉 1213号土坑
第481図 PL.245	20	深鉢 覆土 体部破片	①粗：白色粒多 ②赤褐色	強く突起した2本横位隆帯、下位の隆帯は楕円文様構成か、縄文RL横位施文。	中期後葉 1116号土坑
第481図 PL.245	21	深鉢 H 2 体部破片	①石英粒・長石粒 ②暗褐色	隆帯による渦巻き文構成か、内側に縄文が僅かに看取される。	中期後葉
第481図 PL.245	22	深鉢 K 4 体部破片	①粗：白色粒・石英・片岩(少) ②にぶい黄褐色	くの字に内傾、文様帯は低い隆帯で楕円文構成か、文様内縄文施文。文様下、屈曲部には連続の刺突文。	中期後葉古
第481図 PL.245	23	深鉢 覆土 体部破片	①微石英粒・長石粒 ②にぶい褐色	口縁部無文で横位隆帯で画され、以下体部には縦位RL施文。	中期後葉 1115号土坑
第482図 PL.245	24	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・長石粒 ②明赤褐色	横位隆帯、全面に縦位、横位のRL施文。煤付着。	中期後葉 1115号土坑
第482図 PL.245	25	深鉢 K 1 頸部破片	①粗：石英・輝石 ②にぶい褐色	横位隆線が強く突出する。以下無節L縦位施文。	中期後葉新
第482図 PL.245	26	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②明褐色	沈線による縦位の磨消帯、地文にはRL縦位施文。内面煤付着。	中期後葉 182号土坑
第482図 PL.245	27	深鉢 覆土 体部破片	①細：酸化粒 ②にぶい褐色	磨消懸垂文、縄文LR縦位施文。	中期後葉 1118号土坑
第482図 PL.245	28	深鉢 G 1・I 2 体部破片	①石英粒・長石粒 ②にぶい褐色	2本沈線による磨消懸垂文。地文には縦位RL縄文。29・30は同一個体。	中期後葉
第482図 PL.245	29	深鉢 G 1・I 2 体部破片	①石英粒・長石粒 ②にぶい褐色	2本沈線による磨消懸垂文。地文には縦位RL縄文。	中期後葉
第482図 PL.245	30	深鉢 G 1・I 2 体部破片	①石英粒・長石粒 ②にぶい褐色	2本沈線による磨消懸垂文。地文には縦位RL縄文。	中期後葉
第482図 PL.245	31	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・長石粒 ②にぶい褐色	上端部に文様構成する隆帯の一部残る。以下沈線による磨消懸垂文、縄文は縦位RL施文。	中期後葉 1212号土坑
第482図 PL.245	32	深鉢 J 5 体部破片	①石英・長石粒 ②褐色	太めの隆線による平行文、蛇行懸垂文描く。地文は縦位RL施文。	中期後葉
第482図 PL.245	33	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英粒・角閃石安山岩 ②橙色	沈線による曲線文様。縄文RL見える。	中期後葉 1号石列
第482図 PL.245	34	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②明褐色	沈線による縦位の磨消帯を2本の横位沈線で繋ぎ、地文にはRL縦位施文。内面煤付着。	中期後葉 182号土坑
第482図 PL.245	35	深鉢 C 2 体部破片	①石英粒・長石粒 ②黒褐色	2本隆線による懸垂文、地文は縄文LR縦位施文か。	中期後葉 1号石列
第482図 PL.245	36	深鉢 覆土 体部破片	①細：石英・長石粒 ②暗褐色	磨消懸垂帯、縄文LR縦位施文。	中期後葉 1213号土坑
第482図 PL.245	37	深鉢 K 4 体部破片	①精製：微石英粒少 ②暗赤褐色	地文に細燃糸文Rを縦位施文後、沈線による蛇行懸垂文。	中期後葉
第482図 PL.246	38	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・長石粒 ②明赤褐色	全面に複節RL縄文施文。	中期後葉 1115号土坑
第482図 PL.246	39	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒・白色粒 ②明赤褐色	全面に複節RL縄文施文。	中期後葉 1115号土坑
第482図 PL.246	40	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・長石粒 ②黒褐色	燃糸文R縦位施文後、2本沈線による磨消懸垂文。煤付着。	中期後葉
第482図 PL.246	41	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・長石粒 ②明褐色	LR縦位施文。器面荒れる。	中期後葉 30号土坑
第482図 PL.246	42	深鉢 覆土 底部破片	①長石粒 ②にぶい赤褐色	深鉢底部片、並行する懸垂沈線端部が見える。底面研磨。	中期後葉 66号土坑
第482図 PL.246	43	深鉢 G 3 底部 高：(3.2) 底：6.7	①石英粒・長石粒 ②褐色	無文底部片。底面が僅かに丸みを有す。欠け口部面取りされており、再利用か。	中期後葉
第482図 PL.246	44	深鉢 覆土 口縁部破片	①石英粒・白色粒 ②暗褐色	口唇部内側肥厚、隆帯による渦巻き楕円文構成、縦位沈線施文。	中期後葉 1212号土坑
第482図 PL.246	45	深鉢 F 1 口縁部破片	①石英粒・長石粒 ②暗赤褐色	口縁下に隆線による逆U字状懸垂文、地文に縦位矢羽根状沈線文施文。煤付着。	中期後葉信州系
第482図 PL.246	46	深鉢 D 3 体部破片	①石英粒・長石粒 ②暗赤褐色	隆線による渦巻き、楕円文様構成か、縦位短沈線、横位矢羽根状沈線見える。	中期後葉
第482図 PL.246	47	深鉢 H 1 口縁部破片	①石英粒・白色粒 ②暗褐色	やや肥厚した口縁下に横位沈線、巡る。楕円文様構成か。下位に沈線による波状文見える。	中期後葉
第482図 PL.246	48	深鉢 E 3 体部～底部破片	①粗：白色粒多・角閃石安山岩 ②褐色	隆線による連続U字状懸垂文様。文様内には異方向斜位の集合沈線充填。	中期後葉信州系
第483図 PL.246	49	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②にぶい褐色	屈曲する頸部に交互刺突文を有す横位粒線文。	中期後葉 1118号土坑
第483図 PL.246	50	深鉢 覆土 体部破片	①石英・酸化粒 ②暗赤褐色	隆線による渦巻き懸垂文。	中期後葉 1115号土坑

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第483図 PL.246	51	深鉢 覆土 体部破片	①粗：白色粒・角閃石安山岩 ②にぶい赤褐色	隆線による渦巻き楕円文、楕円文内には縦位集合沈線文充填。2と同一個体。	中期後葉信州系 1116号土坑
第483図 PL.246	52	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②明赤褐色	横位隆帯、上位には縦位の短沈線文、下位には縦位集合条線文。	中期後葉
第483図 PL.246	53	深鉢 L 4 体部破片	①石英粒・長石粒・雲母粒 ②赤褐色	隆線による渦巻き懸垂文、平行線文。間には縦位矢羽根状集合沈線。	中期後葉信州系
第483図 PL.246	54	深鉢 F 1 体部破片	①石英粒・長石粒少 ②褐色	2本隆線による渦巻き懸垂文、地文には、斜位の集合沈線文。	中期後葉信州系
第483図 PL.246	55	深鉢 D 4 体部破片	①石英粒・雲母粒 ②暗褐色	隆線による渦巻き懸垂文、曲線文描出。間には横位、斜位の集合沈線。煤付着。	中期後葉信州系
第483図 PL.246	56	深鉢 G 1 体部破片	①石英粒・長石粒多 ②暗赤褐色	太めの隆線による横位文、曲線の懸垂文。細い隆線による蛇行懸垂文見られ、地文には縦位集合条線文。70と同一個体。	中期後葉
第483図 PL.246	57	深鉢 D 4 体部破片	①石英粒・長石粒 ②褐色	隆線による渦巻き文が繋がる懸垂文様。縦位集合沈線文。	中期後葉信州系
第483図 PL.246	58	深鉢 D 3 体部破片	①長石粒・酸化粒 ②明赤褐色	隆線による渦巻き文、平行懸垂文。空隙には斜位の集合沈線。器面剥落。	中期後葉信州系
第483図 PL.246	59	深鉢 覆土 体部破片	①石英粒・雲母粒 ②黒褐色	隆線による曲線文様、縦位集合沈線および横位2本沈線文。	中期後葉
第483図 PL.246	60	深鉢 覆土 体部破片	①微石英粒・長石粒少 ②にぶい褐色	隆線によるU字状懸垂文を横位連続。中には縦位集合沈線施文後、横位2本沈線文。	中期後葉信州系 1116号土坑
第483図 PL.246	61	深鉢 D 5 体部破片	①石英・長石粒・角閃石安山岩 ②明褐色	垂下隆線文、斜位の集合沈線文。	中期後葉 1号土列
第483図 PL.246	62	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒長石粒 ②にぶい褐色	平行垂下隆線、地文に縦位の集合沈線施文後、隆線を2本沈線による弧状文で繋ぐ。	中期後葉信州系 1115号土坑
第483図 PL.246	63	深鉢 H 1 体部破片	①石英・長石粒・雲母粒 ②黒褐色	横位の隆線から沈線による蛇行懸垂文。地文は斜位の集合沈線。	中期後葉
第483図 PL.246	64	深鉢 D 4 体部破片	①石英粒少 ②赤褐色	複数沈線による懸垂沈線文、2本沈線による蛇行懸垂文。間を斜位の集合沈線で埋める。焼成堅緻。	中期後葉信州系
第483図 PL.246	65	深鉢 E 2 体部破片	①粗：石英粒・長石粒 ②暗褐色	沈線による蛇行懸垂文、斜位の集合沈線で埋める。	中期後葉
第483図 PL.246	66	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石・雲母粒 ②黒褐色	縦位矢羽根状沈線文。	中期後葉 1212号土坑
第483図 PL.246	67	深鉢 覆土 体部破片	①石英・長石粒 ②褐色	縦位隆線、集合沈線施文後、横位弧状沈線文。	中期後葉 1213号土坑
第483図 PL.246	68	深鉢 覆土 体部破片	①微石英・長石粒 ②明赤褐色	異方向の斜位集合沈線文。	中期後葉信州系 1116号土坑
第483図 PL.246	69	深鉢 覆土 体部破片	①細：微石英粒・酸化粒 ②灰白色	櫛状工具による細条線文で蛇行する懸垂文様描く。煤付着。	中期後葉 1116号土坑
第483図 PL.246	70	深鉢 G 1 体部破片	①石英粒・長石粒多 ②にぶい赤褐色	縦位集合条線文。56と同一個体。	中期後葉
第483図 PL.246	71	深鉢 覆土 体部破片	①細：石英 ②暗褐色	縦位集合沈線文。	中期後葉 1213号土坑
第483図 PL.246	72	深鉢 K 2 口縁部破片	①粗：石英 ②灰黄褐色	口唇部内屈。口縁部沈線以下斜位LRを充填する。	後期初頭
第484図 PL.246	73	深鉢 I 4 口縁部破片	①細：輝石 ②にぶい黄褐色	口唇部内屈。横位沈線2条による縄文施文部意匠。横位縄文LRを充填する。	後期前葉新
第484図 PL.246	74	深鉢 H 2 口縁部破片	①細：石英粒・白色粒 ②にぶい黄褐色	沈線による磨消文様描く。縄文はLR。	後期初頭
第484図 PL.246	75	深鉢 F 4 口縁部破片	①石英粒 ②黒褐色	口縁部に刻み隆線、8字状貼付文が付く。沈線による磨消文様。LR細縄文施文。内外面研磨。	後期前葉
第484図 PL.246	76	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：石英・長石微粒 ②にぶい褐色	口縁部に列点文、以下RL細縄文施文。	後期初頭 1212号土坑
第484図 PL.246	77	深鉢 D 2 口縁部破片	①細：微石英粒 ②黒褐色	内屈する口縁部無文部下位に刺突文列巡る。以下、体部には隆線による懸垂文の一部が見え、細縄文LRが横位、縦位に施文。	中期未葉
第484図 PL.246	78	深鉢 I 3 口縁部破片	①石英粒・長石粒 ②にぶい黄褐色	口縁に横位刻み隆線。以下三角意匠の磨消縄文。細縄文LR施文。	後期前葉
第484図 PL.246	79	深鉢 I 4 口縁部破片	①細：輝石 ②明褐色	刻みを付す口縁部細隆線1条以下2条沈線で画された縄文施文部を横位2段に設け、上半の文様帯を画し、環状意匠を連続させる。細縄文LRを充填施文する。	後期前葉新
第484図 PL.247	80	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：石英粒・白色粒 ②黒褐色	口縁部に刻み隆線、8字状貼付文が付く。沈線による磨消文様。LR細縄文施文。煤付着。	後期前葉新
第484図 PL.247	81	深鉢 覆土 口縁部破片	①石英粒少 ②灰白色	口唇部に刻み、器面研磨。	後期前葉新 66号土坑
第484図 PL.247	82	深鉢 K 1 口縁部破片	①細：石英粒・角閃石安山岩 ②にぶい褐色	口縁下に平行する押圧文隆線巡らし、8字状文で繋ぐ。下位には横位沈線が見える。器面研磨。	後期前葉
第484図 PL.247	83	深鉢 L 2 口縁部破片	①石英粒・長石粒 ②明黄褐色	口縁部に横位刻み隆線、以下無文。	後期前葉
第484図 PL.247	84	深鉢 J 2 口縁部破片	①石英粒・長石粒 ②黒褐色	口縁部に横位刻み隆線、以下無文。煤付着。	後期前葉
第484図 PL.247	85	深鉢 F 4 体部	①細：白色粒 ②明褐色	やや外傾して直線的に立ち上がる。文様帯は沈線による三角文、曲線文様描く磨消縄文。細縄文LR施文。器面丁寧な研磨。	後期前葉新
第484図 PL.247	86	深鉢 E 4 口縁部破片	①精製：微石英粒 ②明赤褐色	口縁端部外反し横位沈線文、口縁部から隆線による鎖状懸垂文、直交して横位隆線が走る。器面研磨。	後期前葉



第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第484図 PL.247	87	深鉢 J 4 口縁部破片	① 細：石英粒少 ② 褐灰色	口縁部内側に肥厚、一部が高まり口唇部に短沈線文、ここから刻み隆線が垂下、頸部には横位沈線巡る。研磨、煤付着。	後期前葉
第484図 PL.247	88	深鉢 覆土 口縁部破片	① 細：石英粒 ② 黒褐色	口縁部突起し上端部内側に折れる。外面無文、内面には縦位短沈線、刺突文を鉢み対向する渦巻き文、さらに弧状短沈線、扁平横楕円文様描き横位沈線で文様帯を画す。外面に煤付着。	後期前葉新 1122号土坑
第484図 PL.247	89	深鉢 覆土 口縁部破片	① 微砂粒少 ② 黒褐色	口縁部短く内屈、上端に沈線廻る。内面に横位隆線帯が複数巡り、細沈線による斜位の刻みが一本おきに見られる。内外面研磨、焼きは堅緻。	後期前葉新
第484図 PL.247	90	深鉢 K 5 口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② 黒褐色	口縁下に5本の刻み隆線重層させる。器面研磨。	後期前葉
第484図 PL.247	91	深鉢 覆土 口縁部破片	① 石英・長石粒 ② にぶい黄褐色	口縁部山状突起した部分から1条の隆線垂下。上端部に凹形文。	後期前葉 1119号土坑
第484図 PL.247	92	深鉢 覆土 口縁部破片	① 細：石英粒・長石粒少 ② にぶい黄褐色	口縁に横位沈線廻り、下部が肥厚。以下無文。研磨。	後期前葉
第484図 PL.247	93	深鉢 覆土 口縁部破片	① 細：石英・長石粒 ② 浅黄褐色	口縁部やや肥厚し内傾、横位沈線巡り、途切れた部分に凹形刺突文。	後期前葉古 1118号土坑
第484図 PL.247	94	深鉢 J 3 口縁～体部破片	① 細：石英・角閃石安山岩 ② 暗褐色	無文、器面研磨。煤付着。	後期前葉
第484図 PL.247	95	深鉢 覆土 口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② 褐灰色	口縁部短く内屈、無文、研磨。	後期前葉新 1118号土坑
第484図 PL.247	96	深鉢 I 4 口縁部破片	① 細：輝石 ② にぶい橙色	口唇部弱く内屈。無文。内面丁寧な研磨のため平滑。	後期前葉新
第484図 PL.247	97	深鉢 J 1 口縁部破片	① 細：白色粒・角閃石安山岩(少) ② 褐灰色	口縁部に2つ重なる環状突起文。側縁、上位に沈線、凹形文と刺突文見える。突起から繋がって沈線によるJ字状の磨消懸垂文描く。地文には細縄文LRが施文される。	後期初頭
第484図 PL.247	98	深鉢 覆土 体部破片	① 雲母粒 ② 暗褐色	弧状隆線下に沈線による懸垂文。	後期初頭 1号石列
第484図 PL.247	99	深鉢 覆土 突起	① 細：石英粒・白色粒 ② 明赤褐色	波状口縁頂部に突起を持つが突起上部は欠損。体部には沈線による連続横位V字状文か。地文にはRL縄文施文。	中期末葉
第484図 PL.247	100	深鉢 覆土 体部破片	① 石英・長石粒・雲母粒 ② 橙色	沈線による磨消渦巻き文様。細縄文RL施文。	後期初頭
第484図 PL.247	101	深鉢 覆土 体部破片	① 石英粒・長石粒・酸化粒 ② 明褐色	沈線による磨消渦巻き文様。細縄文RL施文。	後期初頭
第484図 PL.247	102	深鉢 覆土 体部破片	① 細：石英粒・長石粒少 ② 浅黄褐色	横位の隆線、及び斜位の平行沈線間に連続刺突文配す。	後期初頭新
第484図 PL.247	103	深鉢 覆土 体部破片	① 細：石英粒・白色粒 ② にぶい黄褐色	横位肥厚帯部に8字状文貼付。以下沈線による曲線文様看取される。	後期前葉古 1122号土坑
第484図 PL.247	104	深鉢 覆土 体部破片	① 細：白色粒 ② 褐色	沈線による幅狭逆U字状沈線文。地文に刺突文。	後期初頭 15号焼土
第485図 PL.247	105	深鉢 L 1 体部破片	① 石英粒・酸化粒 ② 褐色	3本沈線による曲線文様か。地文にLR縄文。	後期前葉
第485図 PL.247	106	深鉢 H 2 体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 明褐色	2本単位の隆線による曲線文、垂下文様描く。地文には細縄文RL施文。	後期前葉
第485図 PL.247	107	深鉢 覆土 体部破片	① 粗：石英・片岩粒 ② 黒褐色	沈線による菱形文意匠か。縄文帯にはLR充填施文。	後期前葉 1119号土坑
第485図 PL.247	108	深鉢 覆土 体部破片	① 細：石英・長石粒 ② 黒褐色	沈線による磨消曲線文。縄文LR施文。	後期前葉
第485図 PL.247	109	深鉢 K 4 体部上半破片	① 粗：石英 ② 浅黄色	2条の沈線で画された縄文施文部による幾何学文構成。横位LRを施す。無文部・内面は研磨により平滑。	後期前葉新
第485図 PL.247	110	深鉢 覆土 体部破片	① 細：石英・長石粒 ② 黒褐色	磨消縄文による三角意匠文様。器内薄手。	後期前葉新 1119号土坑
第485図 PL.247	111	深鉢 J 3 体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 褐色	体部屈曲、沈線による三角意匠の磨消文様。縄文LR施文。	後期前葉
第485図 PL.247	112	深鉢 覆土 体部破片	① 長石粒・白色粒 ② にぶい赤褐色	沈線により矩形、曲線文様描き、細縄文RL施文。	後期前葉新 1122号土坑
第485図 PL.247	113	深鉢 3 体部破片	① 細：石英 ② にぶい黄褐色	沈線による重矩形磨消文様か。細縄文LR横位施文。	後期前葉 6号焼土
第485図 PL.247	114	深鉢 覆土 体部破片	① 石英・長石粒 ② 黒褐色	横位沈線による縄文帯。LR細縄文横位充填施文。外面煤付着。	後期前葉新 1122号土坑
第485図 PL.247	115	深鉢 K 4 体部上半破片	① 細：輝石少 ② 暗灰黄色	2条沈線で画された縄文施文部による横位入組弧状文。細縄文LRを横位充填する。内外面とも丁寧な研磨により平滑。	後期前葉新
第485図 PL.247	116	深鉢 K 1 体部上半破片	① 粗：石英 ② 黄灰色	2条の沈線に画された横位縄文帯。細縄文LRを横位に施す。	後期前葉新
第485図 PL.247	117	深鉢 K 2 体部上半破片	① 粗：石英多 ② にぶい黄褐色	2条の沈線に画された縄文施文部による三角区画文構成。横位LRを充填する。	後期前葉新
第485図 PL.247	118	深鉢 覆土 体部破片	① 石英・長石粒・雲母粒 ② 赤褐色	磨消縄文。横位LR施文。	後期前葉新 1118号土坑
第485図 PL.247	119	深鉢 I 3 体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 暗赤褐色	沈線による雲状文様描く。文様下には縄文施文見える。	後期前葉
第485図 PL.247	120	深鉢 覆土 体部破片	① 石英・長石粒多 ② にぶい橙色	沈線による磨消矩形、曲線文意匠、斜位細沈線充填か。内面黒色。	後期前葉新 1118号土坑

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第485図 PL.247	121	深鉢 L 1 体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 暗褐色	平行する横位2本の刻み隆線と同じく縦位の刻み隆線で繋ぎ、接する部分に円形文。下位には沈線による横位縄文帯が見られる。細縄文LR。器面研磨。	後期前葉
第485図 PL.247	122	深鉢 覆土 体部破片	① 石英・長石粒 ② にぶい橙色	刻み有す横位隆線に8字状文か、以下横位沈線により磨消縄文帯。LR横位施文。	後期前葉新 66号土坑
第485図 PL.247	123	深鉢 覆土 体部破片	① 細：石英・長石粒 ② にぶい橙色	横位3本の隆線配し、これらを繋ぐ隆線懸垂させ、連続刺突文を配す。研磨。	後期前葉新 1122号土坑
第485図 PL.247	124	深鉢 I 2 口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② 橙色	口縁から刻み隆線2本が垂下。器面研磨。	後期前葉
第485図 PL.247	125	深鉢 I 2 体部破片	① 細：石英粒 ② にぶい黄褐色	横位、縦位に隆線、交点部に8字状文か。	後期前葉
第485図 PL.247	126	深鉢 I 4 体部中位破片	① 細：輝石 ② 黒褐色	外反する体部。刻みを付す縦位細隆線を懸垂する。外面煤付著しい。	後期前葉新
第485図 PL.247	127	深鉢 覆土 体部破片	① 石英・長石・角閃石安山岩 ② にぶい黄褐色	体部との屈曲部に円形の列点文、懸垂隆線に円形刺突文。内面黒色。	後期前葉 1212号土坑
第485図 PL.247	128	深鉢 K 2 体部上半破片	① 粗：石英・片岩 ② 褐灰色	刻みを施す口縁部細隆線を2条設ける。内外面とも丁寧な撫で調整を施す。	後期前葉新
第485図 PL.248	129	深鉢 G 1 体部破片	① 細：石英粒・長石粒 ② 暗褐色	横位鎖状隆線文、位下沈線による扁平な渦巻き懸垂文見られる。	後期前葉
第485図 PL.248	130	深鉢 覆土 体部破片	① 細：石英粒 ② にぶい橙色	3本沈線による波状文様描き、沈線文間に連続する刺突文。	後期前葉新
第485図 PL.248	131	注口土器 覆土 体部破片	① 細：微石英粒・酸化粒少 ② 褐灰色	肩部に複数横位S状沈線文。器面研磨。	後期前葉新
第485図 PL.248	132	深鉢 G 4 体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 明褐色	沈線による横位沈線から懸垂渦巻き文様。	中期後葉
第485図 PL.248	133	深鉢 覆土 体部破片	① 細：微砂粒少 ② 黒褐色	沈線による曲線意匠文、一部に微小刺突文列配される。器面研磨。	後期前葉新 1119号土坑
第485図 PL.248	134	深鉢 D 3 体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 赤褐色	縦位、波状の集合沈線文。	中期後葉
第485図 PL.248	135	覆土 体部破片	① 精製：微石英粒少 ② 黒色	集合沈線による横位S状文、上下には小さな懸垂S状文様。器面黒色で研磨。焼きは堅緻。	後期前葉新
第485図 PL.248	136	深鉢 覆土 体部破片	① 石英・長石粒 ② 黒褐色	磨消矩形文様、斜位細沈線充填か。無節L施文。研磨。	後期前葉新 1118号土坑
第485図 PL.248	137	深鉢 覆土 体部破片	① 微石英粒・酸化粒 ② 明黄褐色	間隔を持つ浅い垂下沈線文。地文は無文。器面研磨。	中期後葉
第485図 PL.248	138	注口土器 覆土 把手破片	① 粗：白色粒・石英・角閃石安山岩 ② 赤褐色	細刺突文有す横位隆線、幅広の橋状把手。把手の両縁端には隆線、また側縁に沿って沈線が配され、把手基部に円形刺突文。	後期前葉新 66号土坑
第485図 PL.248	139	深鉢 D 4 台	① 微石英粒・白色粒 ② 褐色	沈線による曲線文様描く。	後期前葉?
第486図 PL.248	140	深鉢 I 4 底部1/3残存 高：(5.5) 底：(13.0)	① 粗：輝石多 ② 褐色	外反気味に立ち上がる体部下半。無文。底面は僅かに上げ底状で網代痕が残る。	後期前葉新
第486図 PL.248	141	深鉢 J 3 底部破片 高：(3.8) 底：9.0	① 微長石粒 ② 明褐色	内外面研磨、底部に網代痕残る。	後期前葉新
第486図 PL.248	142	深鉢 覆土 底部破片 底：(10.0)	① 石英粒 ② 黒褐色	浅鉢か、底端部に張り出しを持つ。底面に網代痕残る。内外面研磨。	後期 1118号土坑
第486図 PL.248	143	深鉢 K 1 底部破片	① 石英粒・白色粒 ② 黄褐色	底部片、底面に木葉痕。	後期
第486図 PL.248	144	深鉢 D 4 底部破片	① 石英粒・酸化粒 ② 明褐色	底部片、底面に網代痕。	後期前葉 1号石列
第486図 PL.248	145	深鉢 覆土 体部～底部破片	① 微石英粒 ② 黒褐色	並行沈線による幾何学文、下位に細縄文LR多方向施文。底部に縄文。	後期前葉新
第486図 PL.248	146	深鉢 覆土 体部～底部破片	① 石英、雲母粒 ② 明赤褐色	外器面撫でによる起伏、天部に網代痕。	後期前葉
第486図 PL.248	147	深鉢 覆土 底部破片	① 石英・長石粒 ② にぶい褐色	底面に網代痕。内面に煤付着。148と同一個体か。	後期前葉 1122号土坑
第486図 PL.248	148	深鉢 覆土 底部破片	① 石英・長石粒 ② にぶい褐色	底面に網代痕。内面に煤付着。147と同一個体か。	後期前葉 1122号土坑
第486図 PL.248	149	深鉢 覆土 底部破片	① 細石英、雲母片 ② 赤褐色	無文底部片。	後期
第486図 PL.248	150	L 3 飾り突起	① 微細：角閃石安山岩(少) ② 褐灰色	キノコ状を呈す口縁部突起片。上部は平らに作られ渦巻き文を描く。器面研磨丁寧。	後期前葉
第486図 PL.248	151	注口土器 L 1 把手	① 細：輝石少 ② 黒褐色	小型の橋状把手。把手上下端部に双環状突起を付す。丁寧な研磨を施し平滑である。	後期前葉古
第486図 PL.248	152	注口土器 K 2 注口破片	① 石英粒・長石粒 ② にぶい黄褐色	注口部分は比較的短い、側面に沈線。	後期前葉
第486図 PL.248	153	注口土器 K 4 注口破片	① 微石英粒・角閃石安山岩 ② にぶい黄褐色	注口部分、外面研磨。	後期前葉
第486図 PL.248	154	深鉢 I 3 口縁～体部破片	① 石英粒、白色粒 ② 暗褐色	口縁部肥厚、無文で器面の研磨顕著。	中期後葉
第486図 PL.248	155	深鉢 覆土 口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 暗褐色	口縁部外傾、肥厚した端部上面は平らに整形。無文、器内外面研磨。	中期後葉
第486図 PL.248	156	深鉢 覆土 口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 黒褐色	無文口縁部片。	中期後葉 1212号土坑

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第486図 PL.248	157	鉢 G 1 口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② 明黄褐色	口縁端部は幅広くやや丸みを呈す。無文で内外面研磨。赤彩。	中期後葉
第486図 PL.248	158	深鉢 覆土 口縁部～底部	① 細：石英粒・長石粒 ② にぶい橙色	小型深鉢。体部は丸く内湾し口縁部は薄く仕上げられ底部は厚くなる。無文で内外面撫でによる整形。	後期前葉?
第486図 PL.248	159	深鉢 H 1 体部破片	① 石英粒 ② 暗褐色	端部に縦隆線文の一部か、地文は無文。やや荒れた器面。	中期後葉
第486図 PL.248	160	土製円盤 G 4 完形	① 細：石英粒・雲母粒 ② 黒褐色	縦位 LR 縄文施文。	中期後葉
第486図 PL.248	161	土製円盤 K 2 完形	① 石英・長石・角閃石安山岩 ② 黒褐色	沈線による磨消縄文、体部片利用。形はやや丸みを有す矩形を呈す。	中期後葉
第486図 PL.248	162	土製円盤 覆土 完形	① 石英・白色粒 ② 褐色	体部片利用。横位沈線文による曲線文様、地文には縄文施文後、円形文列。	後期前葉
第486図 PL.248	163	土製円盤 K 3 完形	① 石英粒・長石粒 ② 橙色	摩滅した隆線文か。	中期後葉
第486図 PL.248	164	土製円盤 K 1 完形	① 石英粒・長石粒 ② 黒褐色	沈線による渦巻き文か。器面研磨。薄手で、欠け口の仕上げは粗い。	後期前葉
第486図 PL.248	165	土製円盤 K 1 完形	① 細：微石英粒・酸化粒 ② 明赤褐色	縄文施文。小型で丸く整形されている。	中期後葉
第486図 PL.248	166	土製円盤 J 3 完形	① 石英粒・長石粒 ② 褐色	縄文施文か、不明瞭。欠け口丁寧に研磨。	中期後葉
第486図 PL.248	167	耳栓 F 3 高：2.4 径：2.9	① 石英・黒色粒・長石粒少 ② にぶい褐色	鼓型、薄手で無文。全体に丁寧な研磨見られる。	中期後葉?

#### 19区 遺構外出土土器(第486図：PL.248)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第486図 PL.248	1	深鉢 覆土 体部破片	① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色	横位 LR を施す。器面磨滅。	後期前葉 14号土坑

#### 95区 遺構外出土土器(第487～503図：PL.249～258)

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第487図 PL.249	1	深鉢 H22 口縁～体部中位 1/2 残存 口：(22.0)	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁は内湾し無文。横位隆線に渦巻文を付し下端より2条隆線が懸垂する。2条隆線による分岐懸垂文と5・6単位構成を推定する。空白部は魚鱗状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第487図 PL.249	2	深鉢 口縁～体部中位 1/3 残存 口：(14.0)	① 粗：石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	平縁。口縁部内湾し体部で僅かに括れる。無文口縁部を横位沈線で画し、以下隆線によるU字状意匠を接続する。あるいは5単位構成か。空白部は魚鱗状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第487図 PL.249	3	深鉢 口縁～体部中位 2/3 残存 口：18.4	① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	橋状把手を2単位付す。口唇部に波状箇所があるため、大型突起が想定される。幅狭の無文口縁部を2条の横位隆線で画す。以下隆線による大柄の渦巻文や懸垂文が配される。空白部は細身の短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第487図 PL.249	4	深鉢 G 15 口縁～体部上半 1/2 残存 口：13.4	① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色	小型深鉢。口縁部は幅狭で隆線による渦巻文と区画文接続構成。横位波状沈線を充填する。おそらく6単位か。体部は浅い沈線による逆U字状懸垂文か。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第487図 PL.249	5	深鉢 L 16 口縁～体部上半 1/2 残存 口：18.5	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	環状突起を設け、隆線による縦位S字状意匠が派生する。体部は先端半渦巻文の縦位波状隆線文による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を埋める。	中期後葉信州系
第487図 PL.249	6	浅鉢 口頸部～底部 1/4 残存 底：(9.0)	① 粗：輝石・雲母少 ② 明褐色	口頸部隆線渦巻文と区画文構成。区画文は多段で上位楕円状区画内は縦位短沈線を充填する。下位は小型の渦巻文を配す。	中期後葉
第487図 PL.249	7	深鉢 W21 体部中位 1/3 残存	① 粗：石英・雲母多 ② 褐色	2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第487図 PL.249	8	深鉢 H16 頸部～体部中位 1/4 残存	① 粗：輝石 ② 赤褐色	上半に刻みを付す横位隆線を設け渦巻文を付し下端より隆線が懸垂する。頸部は沈線によるU字状意匠と横位弧線文、体部は縦位沈線と横位弧線文を施す。	中期後葉信州系
第488図 PL.249	9	浅鉢 R 23 口縁～底部 1/5 残存 口：(30.0) 高：14.0 底：(11.0)	① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部は短く外傾し、体部上半で湾曲を持たせる。全体に丸みを帯びたやや扁平な印象を得る器形。無文で外面は研磨、内面は撫で調整を施す。赤彩痕跡は見られない。体部器厚やや厚手。	中期後葉
第488図 PL.249	10	ミニチュア土器 H22 口縁部破片 口：(8.0)	① 細：輝石 ② 鈍い褐色	有孔罎付土器ミニチュア。口縁部は内傾気味に外反し、横位隆線を設ける。隆線上下に小孔を貫孔するが未貫孔も見られる。	中期後葉 11は同一個体か
第488図 PL.249	11	ミニチュア土器 H22 口縁部破片 口：(8.0)	① 細：輝石 ② 鈍い褐色	有孔罎付土器ミニチュア。口縁部は内傾気味に外反し、横位隆線を設ける。隆線上下に小孔を貫孔するが未貫孔も見られる。	中期後葉
第488図 PL.249	12	深鉢 I 23 底部 底：8.4	① 粗：石英・雲母 ② 明褐色	幅広の隆帯による区画文下端。弧状隆帯も配す。区画内は沈線を側線とし短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第488図 PL.249	13	深鉢 H23 体部下半～底部 残存 底：9.6	① 粗：石英 ② 鈍い橙色	垂下隆線2条一組による懸垂状意匠か。おそらく波状懸垂文と推定される。4単位を数える。側線はなく、空白部も無文である。底面に網代痕残る。内面器壁剥落。	中期中葉

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第488図 PL.249	14	釣り手形土器 1/2 残存 G 15	①粗：白色粒 ②鈍い赤褐色	口縁部内屈し大型の把手を付す。把手は縁辺を突出させ下端を貫孔する。波底部対応部分は一方が渦巻文を付した波状で、一方は両脇に渦巻文を配した例である。口縁部内屈部を施文域とし把手側面へ繋が。縦位・横位短沈線を充填する。体部は無文。煤の付着は外面は体部、内面は口唇部と底部に集中を見る。また断面への付着も見られるが、二次的な所産であろうか。	中期後葉信州系
第488図 PL.249	15	深鉢 W21 口縁～体部中位 1/5 残存 口：(37.0)	①粗：輝石 ②黒褐色	口縁部外面肥厚。肥厚部に横位沈線を設ける。体部は垂下沈線2条に画された施文部懸垂文構成。縦位波状沈線文を施す。無文部は弱い研磨を加える。内面器壁剥落。	後期前葉古
第488図 PL.249	16	深鉢 H15・16・G 15 体部上半～中位 残存	①粗：石英 ②明褐色	斜位の頸部隆線以下体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。4単位構成。施文部は縦位RL充填施文。1区画のみ縦位沈線を加える。内面下半に煤付着。	中期後葉新
第489図 PL.249	17	深鉢 G 15 口縁部破片	①細：石英 ②鈍い赤褐色	2条隆線で画された口縁部文様帯内中に渦巻文を配す。区画文は沈線を側線とし横位RLを施す。頸部は無文。	中期後葉古
第489図 PL.249	18	深鉢 S 19 口縁部破片	①粗：石英 ②黒褐色	口唇部外面肥厚。隆線による小渦巻文を配す。側線は沈線。地文は横位RL。	中期後葉古
第489図 PL.249	19	深鉢 G 15 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	口縁部沈線を設け、頸部隆線に渦巻文を接す。側線は沈線、地文は縦位RL。	中期後葉古
第489図 PL.249	20	深鉢 I 20 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	2条隆線による口縁部区画文構成。区画内側線は沈線で横位RLを施す。	中期後葉古
第489図 PL.249	21	深鉢 I 21 口縁部破片	①細：輝石 ②暗褐色	内湾する口縁部。低位隆線と沈線による口縁部区画文構成。横位RLを充填する。	中期後葉新
第489図 PL.250	22	深鉢 K 24 口縁部破片	①粗：石英 ②橙色	波状縁か。隆帯による波頂下区画文。沈線を側線とし縦位RLを充填する。	中期後葉新
第489図 PL.250	23	深鉢 L 23 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	小波状突起を付す。隆線による口縁部区画文構成。側線は沈線、縦位RLを充填する。	中期後葉新
第489図 PL.250	24	深鉢 L 21 口縁部破片	①粗：石英 ②褐色	口縁部内湾。沈線による区画文構成。横位RLを充填する。	中期後葉新
第489図 PL.250	25	深鉢 口縁部破片	①粗：輝石 ②灰褐色	口唇部外面肥厚。隆線による口縁部区画文構成。区画接点に円形刺突文。区画内は幅広の沈線を側線とし横位RLを充填する。	中期後葉新
第489図 PL.250	26	深鉢 G 15 口縁部突起	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色	橋状把手。頂部より隆線による渦巻文が配され、両脇から貫孔する。把手側面、口唇部に未端渦巻沈線を施す。把手には縦位LRを充填する。	中期後葉古
第489図 PL.250	27	深鉢 F 16 口縁部突起	①粗：石英 ②褐灰色	上端環状の波状突起。両端から2条隆線が口唇部に沿って派生する。頂部下は浅い沈線で逆U字状意匠が配され、縦位LRを施す。	中期後葉古
第489図 PL.250	28	深鉢 L 20 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	平縁。口唇部に刺突文が沿い以下沈線による逆U字状懸垂文が配される。縄文はRLR縦位充填施文。	中期後葉新
第489図 PL.250	29	深鉢 P 17 口縁部破片	①粗：石英少・輝石 ②褐色	弧状突起を付す。口唇部、突起上端に円形刺突文を施す。口縁部沈線を設け、体部は2条沈線による逆U字状意匠か。RLを充填する。外面煤付着。	中期後葉古
第489図 PL.250	30	深鉢 J 19 口縁部破片	①粗：輝石少 ②褐色	隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。渦巻文は上位に設けられ、下端2条垂下隆線と頸部隆線による区画文が配される。沈線を側線とし、縦位RLを地文とする。内面器壁剥落。	中期後葉古
第489図 PL.250	31	深鉢 I 19 口縁部破片	①粗：輝石少 ②暗褐色	波状縁。小環状突起を波底部に付す。2条隆線が口唇部に沿い、以下垂下沈線2条による懸垂文構成か。縄文は縦位RL。内面煤付着。	中期後葉新東北系
第489図 PL.250	32	深鉢 口縁部突起	①粗：輝石 ②灰褐色	3方からの中空状突起。下端両脇に小環状突起を付し、隆線を垂下する。縄文はLR。	中期後葉新東北系
第489図 PL.250	33	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②灰褐色	波頂部に橋状把手を設け両下端より口縁部隆線が派生する。体部は把手下端より2条沈線に画された磨消部が懸垂する。縄文はLR充填施文。	中期末葉 158号土坑
第489図 PL.250	34	深鉢 F 24 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	幅広の無文口縁部。横位隆線を設け以下無節Lを縦位充填施文する。	中期末葉
第489図 PL.250	35	深鉢 L 24 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い褐色	口縁部強く内湾。波状縁か。口縁部隆線突出し以下無節Lを縦位充填施文する。	中期末葉
第489図 PL.250	36	深鉢 Y 19 口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い褐色	波頂部。口縁部は無文で、屈曲部で画する。体部は斜位LRが施される。	中期末葉
第489図 PL.250	37	深鉢 口縁部破片	①粗：石英 ②明黄褐色	あるいは波状縁か。口縁部隆線を設け、体部は横位・縦位LRを施す。	中期末葉 181号土坑
第489図 PL.250	38	深鉢 L 22 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②黒褐色	口縁部内湾。口唇部に刺突文と幅広沈線が沿う。体部は細縄文RLが覆う。	中期後葉古
第489図 PL.250	39	深鉢 I 22 口縁部破片	①細：輝石・雲母 ②鈍い黄褐色	器厚薄手。直立気味の口縁部は無文で下位に頸部隆線を設ける。体部はLR縦位施文。	後期初頭
第489図 PL.250	40	深鉢 I 21 口縁部破片	①粗：石英・雲母 ②黒褐色	口縁部内面肥厚。口縁部横位沈線を設け以下縦位RLを充填する。	中期末葉
第489図 PL.250	41	深鉢 K 25 口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色	波状縁。口縁部細隆線を設け沈線を側線とする。横位RLを充填する。器厚薄手。	中期末葉
第489図 PL.250	42	深鉢 F 24 口縁部破片	①粗：輝石 ②黒褐色	口唇部内面肥厚する。波状縁か。横位隆線以下細沈線に画された磨消部が斜位に配される。LR充填施文。	中期末葉
第489図 PL.250	43	深鉢 I 19 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	口縁部内湾。口縁部沈線以下無節Lを充填施文する。内面削り調整後研磨。	中期末葉

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第489図 PL.250	44	深鉢 R21 口縁部破片	①細：輝石 ②黒褐色	口縁部内湾。沈線による逆U字状意匠か。地文は口唇部は横位、体部は縦位RLを施す。	中期後葉古
第489図 PL.250	45	深鉢 体部上半破片	①細：石英・輝石 ②鈍い橙色	口縁部は無文か。頸部隆線を設け波状突起を突出させる。LRを充填施文する。	中期末葉 87号土坑
第489図 PL.250	46	深鉢 E25 体部破片	①細：雲母少 ②赤褐色	2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RLR充填施文後縦位沈線を加える。波状沈線か。	中期後葉新
第489図 PL.250	47	深鉢 体部破片	①細：石英・輝石 ②褐色	低位隆線2条による懸垂文構成。側線は凹線。施文部は縦位RL充填施文。	中期後葉新
第490図 PL.250	48	深鉢 体部中位破片	①細：輝石・雲母少 ②黒褐色	外反する体部。2条沈線に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。	中期後葉新
第490図 PL.250	49	深鉢 体部破片	①細：輝石 ②褐色	垂下沈線3条による懸垂文構成。沈線2条による弧状意匠も配される。地文は縦位RL。	中期後葉古
第490図 PL.250	50	深鉢 G15 体部破片	①粗：石英・輝石・雲母少 ②鈍い赤褐色	内皮沈線による縦位波状文を2条配す。地文は縦位RL。	中期後葉古
第490図 PL.250	51	深鉢 D25 体部中位破片	①粗：石英・雲母少 ②黒褐色	沈線で画された磨消部懸垂文構成。縦位RLを充填施文し縦位波状沈線を加える。	中期後葉新
第490図 PL.250	52	深鉢 体部破片	①粗：輝石少 ②鈍い黄褐色	2条の垂下沈線。懸垂文構成か。地文は燃糸L縦位施文。	中期後葉古
第490図 PL.250	53	深鉢 H15 体部破片	①粗：石英多 ②鈍い黄褐色	細隆線が弧状垂下する懸垂文構成。側線は撫で。縦位LRを充填施文する。	中期末葉
第490図 PL.250	54	深鉢 体部中位破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	2条沈線で画された磨消部懸垂文構成。空白部は斜位条線を施文後縦位波状沈線が重なる。	中期後葉古
第490図 PL.250	55	深鉢 F15 体部破片	①粗：石英・雲母 ②鈍い黄褐色	2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。縄文はLR充填施文。磨消部には研磨を施す。	中期末葉
第490図 PL.250	56	深鉢 H20 体部破片	①粗：輝石 ②黒褐色	沈線による重渦巻状意匠を配す。地文は縦位RLを施す。	中期後葉古
第490図 PL.250	57	深鉢 R22 体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	内皮を重ねた2条の横位隆線以下上端渦巻状垂下沈線による体部懸垂文構成。地文は縦位RL。外面煤付着。	中期後葉古 異系統か
第490図 PL.250	58	深鉢 S19 体部上半破片	①細：輝石 ②鈍い赤褐色	頸部に内皮横位沈線群。体部は内皮沈線による懸垂文構成で、半渦巻状意匠が重なる。空白部は1本描き沈線による縦位波状文が配され、縦位LRを地文とする。	中期後葉古
第490図 PL.250	59	深鉢 R22 体部中位破片	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色	外反する体部。沈線による渦巻文や円文を中核に上位は不整形区画文、下位は半弧状区画文が配される。縦位沈線も施され懸垂文構成と思われる。縄文はRL充填施文。	中期後葉古
第490図 PL.250	60	深鉢 H15 体部下半破片	①粗：石英 ②明褐色	沈線による横位連弧状意匠か。下端を横位弧状沈線が接続する。U字状意匠も配される。地文は縦位LR。	中期後葉古
第490図 PL.250	61	深鉢 G20 体部上半破片	①粗：輝石 ②鈍い赤褐色	橋状把手剥落痕跡を見る。把手下端に沈線による弧状意匠が配される。縄文はRL充填施文。破片下端に意図的な磨減調整が加わる。	中期後葉新
第490図 PL.250	62	深鉢 I21 体部破片	①粗：石英 ②鈍い橙色	1条の浅い沈線による渦巻文を配し2条沈線が斜位に派生する。縦位短沈線・弧状沈線も施す。地文は燃糸R縦位施文。	中期後葉古
第490図 PL.250	63	深鉢 K19 体部破片	①粗：石英・雲母 ②褐色	2条沈線による渦巻文。地文は縦位LR。	中期後葉古
第490図 PL.250	64	深鉢 S18 口頸部破片	①細：輝石 ②鈍い赤褐色	横位隆線2条。口縁部は区画文構成か。横位沈線群を施し、交互刺突文を重ねる。下位は細かな連続刺突文を加えている。	中期後葉古
第490図 PL.250	65	深鉢 覆土 体部上半破片	①細：輝石 ②灰褐色	幅広の横位内皮沈線間に横位刺突文を充填する。以下横位LRを施す。	中期後葉古 83号土坑
第490図 PL.250	66	深鉢 G15 口縁部破片	①細：輝石 ②鈍い赤褐色	波状縁。波頂部に橋状把手を付す。把手下端より口縁部隆線が派生し、体部は隆線による逆U字状懸垂文を配す。無筋Lを充填施文する。	中期末葉
第490図 PL.251	67	深鉢 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②褐色	波状縁。波底部に渦巻状小突起を付し、細隆線で不定形区画文を体部に配す。縄文は縦位・斜位LR。	中期後葉新東北系
第490図 PL.251	68	深鉢 体部上半破片	①粗：石英 ②鈍い橙色	口縁部橋状把手を付す。把手両下端より口縁部隆線と体部弧状隆線が派生し、体部は逆U字状懸垂文を把手下に配す。縄文は縦位LR充填施文。	中期末葉
第490図 PL.251	69	深鉢 N16 体部上半破片	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色	両耳壺か。大型の橋状把手より隆線が派生し、把手を画す。体部は縦位LR充填施文で、縦位撫でを加える。	中期後葉新
第490図 PL.251	70	浅鉢 Q20 口頸部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	頸部屈曲部隆線で画す。下位に双環状突起を付し、隆線が派生する。側線は沈線。横位LRが施されるが、隆帯剥落箇所にも看取される。内外面丁寧な研磨。	中期中葉
第490図 PL.251	71	深鉢 覆土 体部破片	①細：輝石 ②灰褐色	横位LRを施す。	中期後葉古 83号土坑
第490図 PL.251	72	鉢 H21 体部上半破片	①粗：石英 ②黒褐色	横位隆線を設け、以下沈線による大柄の渦巻文を配す。赤彩は無文部に交互に配される構成か。	中期後葉新
第490図 PL.251	73	深鉢 覆土 体部破片	①粗：輝石 ②黒褐色	2条隆線による弧状意匠。地文は斜位RL。	中期後葉古 272号土坑
第490図 PL.251	74	鉢？ 覆土 体部破片	①細：石英 ②鈍い黄褐色	低位隆線による大柄の弧状意匠、渦巻状意匠か。内外面とも丁寧な研磨を施す。	中期後葉新 242号土坑
第491図 PL.251	75	深鉢 L23 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②黒褐色	波状突起を付す。隆線による渦巻文を波頂下に配す。区画文側線は沈線。内面は沈線による渦巻状意匠より横位沈線が派生する。	中期後葉新

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第491図 PL.251	76	深鉢 G 15 口縁部破片	①粗：石英・雲母 ②鈍い赤褐色	波状突起。隆線による渦巻文を配す。おそらく相対称の配置か。渦巻文下端より縦位隆線が派生する。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第491図 PL.251	77	深鉢 G 16 口縁部破片	①粗：石英多・輝石 ②鈍い赤褐色	2条隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。渦巻文は上位に設ける。区画内は沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。頸部に垂下沈線上端を見る。地文は縦位LR。	中期後葉古
第491図 PL.251	78	深鉢 口縁部破片	①粗：石英多・輝石 ②明褐色	口縁部外面肥厚。下位に横位隆線を設ける。	中期後葉 3号焼土
第491図 PL.251	79	深鉢 I 19 口縁部破片	①細：輝石 ②黒褐色	口縁部外面肥厚し、頸部に横位隆線を設ける。他は無文で内外面とも横位撫で調整を施す。	中期後葉信州系
第491図 PL.251	80	深鉢 H 22 口縁～体部上半破片	①粗：石英・雲母 ②褐色	波状突起を付すか。口縁部は2条隆線による渦巻文と区画文構成。隆線の一部は押圧状刻みを加える。区画内は縦位短沈線を充填する。体部は2条の縦位波状隆線と垂下隆線による懸垂文構成。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第491図 PL.251	81	深鉢 Q 19 口縁～体部上半 1/4残存 口：(44.0)	①粗：輝石・片岩少 ②黒褐色	平縁か。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内は斜位短沈線を充填する例と無文の区画を見る。体部は2条の垂下沈線による懸垂文構成。空白部は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系
第491図 PL.251	82	深鉢 S 18 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	平縁。口唇部内面肥厚。2条隆線による口縁部区画文構成。区画接点上位に渦巻状突起を付す。	中期後葉古
第491図 PL.251	83	深鉢 I 19 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②褐色	口縁部沈線と頸部隆線で画される。口縁部に瘤状の突起を付し、両側面は沈線による渦巻文を施す。	中期後葉古
第491図 PL.251	84	深鉢 R 23 口縁部破片 口：(23.0)	①粗：石英・雲母 ②灰褐色	2条隆線による口縁部弧状意匠と区画文。側線は沈線。隆線は連鎖状の箇所もある。おそらく口縁部突起を付す。区画内は斜位沈線を充填する。体部はLR縦位施文。	中期後葉古
第491図 PL.251	85	深鉢 口縁～体部上半破片	①粗：輝石少 ②褐色	波状縁。口縁部隆線を設け、波頂部より隆線渦巻文が縦位に接続する。下端より垂下隆線が派生する。空白部は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第491図 PL.251	86	深鉢 J 21 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②暗褐色	口縁部肥厚。隆線による口縁部区画文構成。側線は沈線で縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第491図	87	深鉢 R 23 口縁部破片	①粗：石英・雲母 ②灰褐色	2条隆線による口縁部弧状意匠と区画文。側線は沈線。隆線は連鎖状の箇所もある。おそらく口縁部突起を付す。区画内は斜位沈線を充填する。	中期後葉古 84と同一個体
第491図 PL.251	88	深鉢 H 21 口縁～頸部破片	①粗：石英・雲母 ②鈍い褐色	2条隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。口唇部隆線には縦位刺突文を充填する。区画は半楕円状で沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。頸部は無文。	中期後葉古
第491図 PL.251	89	深鉢 H 16 口縁部破片	①粗：石英 ②鈍い赤褐色	波状縁。隆線による口縁部区画文。区画内側線は沈線で斜位短沈線を充填する。頸部は縦位LRを施す。	中期後葉古
第491図 PL.251	90	深鉢 L 23 口縁部破片	①細：輝石 ②鈍い黄褐色	口縁部は頸部隆線で画される。沈線による区画文と弧状円形刺突文を施すが、おそらく渦巻文の側線であろう。区画内は弧状短沈線を充填する。頸部隆線より縦位波状隆線が派生する。	中期後葉信州系
第492図 PL.251	91	深鉢 J 22 口縁部突起片	①粗：石英・雲母多 ②褐色	上下2連の橋状把手。上位の把手下端より隆線が垂下し、左右環状の把手を設ける。縁辺に沈線を施し末端を小渦巻文とする。	中期後葉信州系
第492図 PL.251	92	深鉢 G 15 口縁部突起	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	波状突起。両脇に渦巻文を配し頂部より垂下した隆線が橋状把手となる。口唇部には沈線が沿う。内面は沈線による渦巻状意匠が施される。外面に煤附着。	中期後葉信州系
第492図 PL.251	93	深鉢 E 25 口縁部突起	①細：白色粒 ②鈍い褐色	突起部に隆線による渦巻文を配し、下端より2条隆線が垂下する。突起中位は貫孔する。上端にも渦巻文。空白部には横位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第492図 PL.251	94	深鉢 F 15 口縁～頸部破片	①粗：石英・雲母多 ②鈍い褐色	口縁部内面肥厚。口縁部に斜位短沈線を充填し、横位隆線以下2条沈線で画された磨消部が垂下する。懸垂文構成か。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第492図 PL.251	95	深鉢 I 19 口縁部破片	①粗：石英・雲母 ②鈍い赤褐色	口縁部は横位隆線で画す。口唇部より垂下する波状隆線が接続する。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第492図 PL.251	96	深鉢 K 25 口縁部破片	①粗：石英・雲母 ②褐色	口唇部尖る。直下に横位隆線を配し、斜位内皮沈線を重ねる。以下縦位内皮沈線を施す。	中期後葉信州系
第492図 PL.251	97	深鉢 口縁～体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	口縁部肥厚し無文、下端に横位沈線を設ける。体部は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第492図 PL.251	98	深鉢 I 21 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②褐色	口縁部内外面とも肥厚。おそらく区画文構成か。沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第492図 PL.251	99	深鉢 H 16 口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い褐色	口縁部内傾し口唇部尖る。口縁部隆線以下縦位弧状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第492図 PL.251	100	深鉢 H 15 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	口縁部に横位蛇行隆線を付す。おそらく渦巻文と接する。横位隆線下位は縦位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第492図 PL.251	101	深鉢 G 15 口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い赤褐色	口縁部区画文。側線は沈線で縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第492図 PL.252	102	深鉢 S 19 口縁～体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	口唇部内面肥厚。頸部隆線で画す。口縁部は沈線による区画文と渦巻文であろうか。浅い斜位沈線を乱雑に施す。体部は横位沈線2条以下上端渦巻状垂下沈線を配す。地文に数条単位の縦位条線が施される。	中期後葉古 異系統か

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎 ②色 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第492図 PL.252	103	深鉢 D24 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	口縁部に沈線による連弧状意匠を配す。下に横位隆線を設け環状意匠・渦巻状意匠を付す。横位隆線以下は沈線による区画文か、充填する短沈線上端を見る。	中期後葉信州系
第492図 PL.252	104	深鉢 K25 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	内外面肥厚。隆線による渦巻文を配し横位隆線が派生する。斜位沈線の充填か。	中期後葉古
第492図 PL.252	105	深鉢 H15 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	口縁部内面肥厚。沈線による渦巻文を配し、弧線文を重ねる。やや薄手の器厚。	中期後葉信州系
第492図 PL.252	106	深鉢 H15 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	口縁部内面肥厚。沈線による渦巻文を配し、弧線文を重ねる。やや薄手の器厚。	中期後葉信州系
第492図 PL.252	107	深鉢 K24 口縁～体部破片 3点	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	口縁部内湾。隆線による口縁部区画構成。区画内側線は沈線、横位沈線を充填後交互刺突文を重ねる。体部は2条隆線による懸垂文と弧状意匠を配す。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第492図 PL.252	108	深鉢 口縁部破片	①粗：輝石 ②黒褐色	口縁部横位沈線群が突起上端に及ぶ。沈線間を交互刺突文が施される。	中期中葉
第492図 PL.252	109	深鉢 K21 口縁部破片	①粗：輝石 ②褐灰色	隆線による口縁部区画文か。横位内皮沈線を充填し、交互刺突文を重ねる。弧状沈線も施されあるいは渦巻文か。	中期後葉古
第492図 PL.252	110	深鉢 K25 口縁部突起	①粗：輝石 ②明赤褐色	扁平な波状突起。波頂部に沈線による渦巻文と円形刺突文を施し、体部は逆U字状意匠を配す。無節しを充填する。やや乱雑な文様構成。	中期後葉古
第492図 PL.252	111	深鉢 K22 口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色	小型深鉢あるいはミニチュアか。口唇部肥厚部に隆線による横位S字状意匠を配す。	中期後葉
第492図 PL.252	112	深鉢 H15 口縁～頸部破片	①細：石英少 ②鈍い橙色	口縁部外反。口唇部隆線を設け、頸部に横位内皮沈線群を配す。口縁部は無文。	中期後葉古
第492図 PL.252	113	深鉢 H23 口縁部破片	①粗：石英・雲母多 ②暗赤褐色	口縁部外面折り返し状に肥厚。内面は内稜状に肥厚する。無文で内外面とも撫で調整を施す。	中期後葉信州系
第493図 PL.252	114	深鉢 X21 口縁部突起	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	円柱状突起。上端に沈線による渦巻文を配す。隆線2条が垂下し沈線文を施すが器面磨滅のため判然としない。	中期後葉古
第493図 PL.252	115	深鉢 Q20 突起破片	①細：輝石 ②灰褐色	突出する波状突起。頂部上端に渦巻文を配す。口唇部には沈線を施す。	中期後葉新
第493図 PL.252	116	深鉢 H24 突起	①粗：石英 ②黒褐色	突出する板状突起。中位より2条隆線が垂下し、両脇に沈線による渦巻文が配される。裏面も渦巻文を施す。	中期後葉信州系
第493図 PL.252	117	深鉢 G15 口縁部突起	①粗：石英・雲母 ②鈍い赤褐色	波状突起。欠損するため判然としない。突起下の屈曲部に把手を連接させる。把手上下両端部に渦巻文を付す。口縁部は区画文構成か、沈線を側線とし縦位条線を地文とする。沈線による弧線文を施す。	中期後葉信州系
第493図 PL.252	118	深鉢 G23 口縁部突起	①粗：石英 ②鈍い黄褐色	波頂部より振りを加えた橋状把手を付す。下端は頸部隆線で円文を配す。頸部隆線には刺突文を施す。内面頂部にも円文を配す。	中期後葉信州系
第493図 PL.252	119	深鉢 G15 口縁部突起	①細：輝石 ②鈍い褐色	両脇に渦巻文を配した尖状突起。下に小型の橋状把手を付す。把手中位には小円孔を穿つ。	中期後葉古
第493図 PL.252	120	浅鉢 H16 口頸部破片	①粗：石英 ②明黄褐色	屈曲部に横位隆線2条を設け下端に渦巻文を配す。外器面は磨滅・剥落が多く判然としない。内面は研磨を施す。	中期後葉古
第493図 PL.252	121	深鉢 G15・H16 口頸部破片	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色	頸部隆線突出し刻みを付す。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。沈線を側線とし、斜位短沈線を充填する。頸部は無文。	中期後葉古
第493図 PL.252	122	深鉢 W21 口頸部破片	①粗：石英 ②鈍い黄褐色	振り状垂下隆線を付し、隆線による口縁部区画文構成。区画内は横位沈線施文後に交互刺突文を重ねる。体部は2条隆線が斜位に派生し、縦位沈線が施される。器厚薄手。	中期後葉古
第493図 PL.252	123	深鉢 I19 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②暗褐色	緩やかな波状縁。波頂部に隆線による渦巻文を配し。口縁部隆線を派生する。下端より2条隆線が垂下する。斜位沈線を施す。	中期後葉信州系
第493図 PL.252	124	深鉢 覆土 頸部～体部上半 破片	①粗：石英・雲母 ②灰褐色	外反する口縁部に橋状把手を付す。把手両下端や口縁部区画に隆線による渦巻文を配し、交互刺突文を区画内に埋める。頸部隆線には刺突文を重ねる。体部は渦巻文より2条隆線が斜位に派生する。空白部には沈線による剣先状意匠が配され横位・縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系 158号土坑
第493図 PL.252	125	深鉢 K18 口頸部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	内湾する口縁部。横位隆線と振り隆線による区画文構成。上位に渦巻文を配す。区画内は沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。頸部に横位沈線と縦位沈線を見る。	中期後葉信州系
第493図 PL.252	126	深鉢 H23 体部中位破片	①粗：石英・輝石 ②褐色	体部中位の内湾部。2条隆線が垂下し、隆線による渦巻文を配す。下位は懸垂文構成か。空白部は矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第493図 PL.252	127	深鉢 G15 体部上半破片	①粗：石英 ②灰黄褐色	屈曲部に矢羽状刻みを付した横位隆線を設ける。体部は低位隆線による弧状区画文か。沈線による渦巻文、弧線区画文を配する。	中期後葉古信州系
第493図 PL.252	128	深鉢 L23 体部上半破片	①粗：石英・雲母 ②黒色	頸部隆線上位側線に刺突文を施す。体部は頸部隆線より懸垂する弧状隆線に沿って沈線による渦巻文を配す。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第493図 PL.252	129	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英・雲母少 ②橙色	隆線1条による懸垂文構成か。弧状隆線を対弧状に配す。側線は沈線、細かな縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系 272号土坑

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第493図 PL.252	130	深鉢 E 25 体部中位破片	①粗：石英・雲母 ②褐色	2条隆線による渦巻文を中核に2条隆線が横位・縦位に派生する。懸垂文構成。空白部は斜位・縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第493図 PL.252	131	深鉢 覆土 体部上半破片	①粗：輝石 ②灰褐色	2条隆線を横位に配し隆線間に刻みを施す。渦巻状意匠を付し下端より隆線が派生する。横位隆線上位は区画文か、側線は沈線。体部は縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系 242号土坑
第493図 PL.252	132	深鉢 E 25 口頸部破片	①細：輝石 ②黒褐色	波状線。波頂部より垂下した隆線下端の渦巻文と口縁部区画文。区画内は縦位・斜位短沈線を充填する。体部は押圧を施した隆線が弧状に派生する。	中期後葉信州系
第494図 PL.252	133	深鉢 G 15・G 16 体部中位破片	①粗：石英・雲母 ②鈍い赤褐色	隆線による弧状区画文か。下端より垂下隆線が派生する懸垂文構成。側線は沈線。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第494図 PL.252	134	深鉢 G 15 口頸部～体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	2条隆線による口縁部下端の渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線、弧状短沈線を充填する。体部は渦巻文直下より垂下隆線、他所から弧状隆線が派生する。懸垂文構成か。空白部は弧状短沈線・横位沈線を施す。	中期後葉信州系
第494図 PL.252	135	深鉢 G 15 体部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	縦位波状隆線による懸垂文構成。空白部は縦位沈線施文後に弧状沈線3条を加える。	中期後葉信州系
第494図 PL.253	136	深鉢 K 24 体部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	横位、垂下隆線と2条隆線、斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第494図 PL.253	137	深鉢 J 22 体部中位破片	①粗：輝石・雲母少 ②暗赤褐色	垂下隆線と2条隆線による弧状区画。沈線を側線とし、斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第494図 PL.253	138	深鉢 覆土 口頸部破片	①粗：石英 ②明赤褐色	頸部隆線に小瘤状突起を付し刺突文を加える。口縁部は区画文か。沈線を側線とし横位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系 272号土坑
第494図 PL.253	139	深鉢 G 15 体部中位破片	①細：輝石 ②鈍い赤褐色	2条隆線による縦位渦巻文「腕骨文」。空白部は縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第494図 PL.253	140	深鉢 F 15 体部破片	①粗：石英・雲母 ②明褐色	垂下隆線上に沈線を重ねる。懸垂文構成で縦位連続刺突文や横位・斜位平行沈線文を充填する。	中期中葉末
第494図 PL.253	141	深鉢 J 25 体部上半 1/3 残存	①粗：石英・雲母 ②黒褐色	体部上半に横位隆線2条を設ける。隆線間は深い刺突文を充填し、低い小突起を付す。体部は横位隆線より派生した2条隆線による弧状意匠か。細身の内皮沈線を斜位に充填し縦位波状内皮沈線を加える。	中期後葉信州系
第494図 PL.253	142	深鉢 L 22 体部中位破片	①粗：石英多・輝石 ②鈍い赤褐色	2条隆線が垂下するが、おそらくU字状懸垂文か。縦位矢羽状短沈線を充填する。外面上半に煤付着。	中期後葉信州系
第494図 PL.253	143	深鉢 I 19 体部中位破片	①粗：石英多・輝石 ②黒褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。弧状隆線も付せられる。側線は沈線。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第494図 PL.253	144	深鉢 15 体部破片	①粗：石英・輝石・雲母少 ②明褐色	垂下隆線2条と縦位波状隆線による懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系 3号焼土
第494図 PL.253	145	深鉢 体部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。側線は沈線、縦位沈線を充填し横位弧状沈線2条を加える。	中期後葉古
第494図 PL.253	146	深鉢 G 15 体部中位破片	①粗：石英・雲母 ②鈍い赤褐色	大型深鉢体部。垂下隆線による懸垂文構成。側線は沈線。空白部は斜位短沈線を充填する。外面上半に少量の煤付着。	中期後葉信州系
第494図 PL.253	147	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英・雲母多 ②赤褐色	2条隆線による懸垂文構成。空白部は横位弧状平行沈線により再区画され縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系 272号土坑
第494図 PL.253	148	深鉢 体部破片	①粗：石英・輝石・雲母 ②褐色	垂下隆線による懸垂文構成か。側線は沈線。空白部は魚鱗状短沈線を埋める。	中期後葉信州系
第494図 PL.253	149	深鉢 W 21 体部上半破片	①粗：石英 ②黒褐色	横位隆線上位に沈線を施す。体部は縦位沈線の施文後横位弧状沈線を加える。	中期後葉信州系
第494図 PL.253	150	深鉢 H 20 体部上半破片	①粗：石英 ②暗赤褐色	頸部隆線上位に斜位隆線が派生する。下位は隆線が垂下し、上端渦巻文の縦位波状沈線文を配す。斜位短沈線を充填する。	中期後葉古
第494図 PL.253	151	浅鉢 G 15 口頸部破片	①細：石英 ②鈍い黄褐色	低位隆線による楕円状区画文構成。区画内側線は沈線、縦位短沈線を充填する。外面無文部研磨が顕著。	中期後葉
第494図 PL.253	152	浅鉢 K 23 口頸部破片	①細：輝石 ②鈍い赤褐色	屈曲部に横位波状沈線を設け以下沈線による多段区画。縦位短沈線を充填し、下位に小渦巻文を配す。	中期後葉
第494図 PL.253	153	深鉢 G 15 体部破片	①粗：輝石少 ②鈍い赤褐色	垂下隆線の痕跡を見る。縦位内皮沈線群を充填する。	中期後葉信州系？
第495図 PL.253	154	深鉢 G 15・G 16 体部中位破片	①細：輝石少 ②鈍い赤褐色	地文状に縦位矢羽状短沈線を施し、縦位波状沈線文を加える。懸垂文構成。	中期後葉信州系
第495図 PL.253	155	深鉢 G 15 体部破片	①細：輝石 ②鈍い赤褐色	縦位矢羽状短沈線を施す。隆線貼付痕を見るが判然としない。	中期後葉信州系
第495図 PL.253	156	深鉢 X 21 体部上半破片	①粗：石英・輝石・雲母少 ②黒褐色	内湾する体部上半。横位沈線以下縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第495図 PL.253	157	深鉢 J 21 体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②褐色	擬口縁か。端部磨減する。2条沈線が垂下する懸垂文構成か。縦位弧状区画が配され横位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第495図 PL.253	158	深鉢 O 17 体部中位破片	①細：輝石 ②鈍い褐色	垂下沈線による懸垂文構成か。櫛歯状工具の回転施文による縦位波状文を配す。	中期後葉新古
第495図 PL.253	159	深鉢 H 17 体部破片	①細：輝石・雲母少 ②褐灰色	縦位矢羽状短沈線を施す。破片下端に弧状沈線の痕跡を見る。焼成堅緻。	中期後葉信州系
第495図 PL.253	160	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	器厚薄手、浅い縦位条線を密に施す。	中期後葉新 83号土坑



第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土調 ②色	文様の特徴等	備考
第495図 PL.253	161	深鉢 体部上半破片	①粗：石英少・輝石少 ②暗褐色	頸部に横位沈線群を配す。地文は捺糸R縦位施文。	中期後葉古
第495図 PL.253	162	深鉢 J 19・J 20 体部破片	①粗：石英・輝石 ②明褐色	上半か。横位隆線4条による分帯。蛇行隆線が乗る。上位は斜位沈線施文後斜位隆線を貼付、下位は隆線による逆U字状懸垂文と弧状意匠を配す。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系 163は同一個体
第495図	163	深鉢 J 19・J 20 体部破片	①粗：石英・輝石 ②明褐色	横位隆線4条による分帯。蛇行隆線が乗る。上位は斜位沈線施文後斜位隆線を貼付、下位は隆線による逆U字状懸垂文と弧状意匠を配す。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第495図 PL.253	164	深鉢 F 24 体部破片	①粗：輝石・褐色粒 ②褐色	横位波状細隆線以下斜位平行沈線に斜位細隆線が重なる斜格子文。	中期後葉信州系
第495図 PL.253	165	深鉢 V 19 頸部破片	①粗：輝石 ②褐色	横位蛇行隆線以下斜位平行沈線と斜位隆線による斜格子文が配される。	中期後葉信州系
第495図 PL.253	166	深鉢 L 21 体部破片	①粗：輝石 ②明褐色	3条の細隆線による弧状・渦巻状意匠か。隆線間は三角連続刺突文を埋める。空白部は短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第495図 PL.253	167	深鉢 覆土 体部上半破片	①粗：石英 ②暗赤褐色	横位蛇行隆線以下斜位沈線と斜位隆線による格子目文。体部は横位蛇行隆線2条に渦巻状小突起を付す。突起下端より2条の波状隆線が垂下する。地文状に縦位沈線を施す。	中期後葉信州系 89号土坑
第495図 PL.253	168	深鉢 頸部破片	①粗：石英少 ②黒褐色	頸部屈曲部に横位隆線3条を設ける。隆線間に刺突文を充填する。体部は斜位沈線と斜位隆線による斜格子文が配される。	中期後葉信州系
第495図 PL.253	169	深鉢 K 23 口頸部破片	①粗：石英少・輝石 ②褐灰色	隆線による口縁部区画接点。縦位波状沈線と渦巻文を施す。隆線上に細かな刻みを加え、区画内側線も刻み・刺突文を施す。体部に強い刺突文を見る。	中期後葉古
第495図 PL.253	170	深鉢 F 22 口縁部突起	①粗：輝石 ②褐灰色	中空状突起。下位で横位橋状に連結し縦位に貫孔する。連結部及び側面、口唇部にS字状沈線文を配す。内外面丁寧に研磨を施す。	中期後葉古
第495図 PL.253	171	深鉢 L 22 口縁部突起	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色	強く突出する方形状突起。下端は孔を設ける。内外面・右側面に沈線による渦巻文を施す。	中期後葉信州系
第495図 PL.253	172	深鉢 J 21 把手破片	①粗：輝石 ②黄褐色	深鉢上に設けられる大型把手か。扁平で内外面とも把手縁辺に円形刺突文を連続させる。	後期初頭
第495図 PL.253	173	深鉢 J 22 体部上半破片	①粗：石英・雲母多 ②黒褐色	あるいは口頸部か。連続刺突文による縦位蕨手状意匠を配す。	中期後葉信州系
第495図 PL.253	174	深鉢 H 16 体部破片	①粗：石英・雲母少 ②鈍い黄褐色	沈線による渦巻文を中核に3条の沈線で円形区画を画す。地文は縦位条線を施す。内面煤付着。	中期後葉古
第495図 PL.253	175	深鉢 J 22 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い褐色	口唇部欠損。円形刺突文が沿い、横位沈線上位は浅い斜位短沈線を施す。体部は蕨手状沈線の先端を見る。	中期後葉古
第495図 PL.253	176	深鉢 頸部破片	①粗：石英少・輝石 ②褐色	屈曲部に横位沈線2条を設け、円形刺突文を連続させる。体部は沈線による弧線文か。地文は無節L横位施文。	中期後葉古
第495図 PL.253	177	深鉢 H 15 口縁部突起	①粗：輝石 ②鈍い赤褐色	波状突起か。先端を欠損。頂部より垂下した隆線3条で区画文を画す。円形刺突文を側線とし縦位S字状意匠を配す。内面も沈線による渦巻文を施す。	中期後葉古信州系
第495図 PL.254	178	深鉢 G 15 体部下半～底部 残存 底：5.8	①粗：石英 ②鈍い赤褐色	小径の底部で直線的に開く体部下半。弧状沈線の下端を見る。地文は斜位RL。	中期後葉古
第495図 PL.254	179	ミニチュア L 19 底部 底：3.8	①粗：石英・輝石 ②明赤褐色	深鉢ミニチュア。隆線による懸垂文を4単位配す。空白部は縦位細沈線を密に充填する。	中期後葉新?
第495図 PL.254	180	台付深鉢 J 22・23 脚部1/2残存	①粗：輝石 ②鈍い赤褐色	脚部中に円孔を設ける。4単位か。体部は2条隆線による懸垂文構成。空白部は細沈線による対弧状意匠や斜位沈線が施される。	中期後葉信州系
第495図 PL.254	181	台付深鉢 G 16 脚部	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	脚部端部は磨滅により平滑。再利用底面として判断した。無文で撫で調整を施す。	中期後葉
第495図 PL.254	182	台付深鉢 L 24 脚部	①粗：輝石 ②橙色	脚部端部は磨滅により平滑。あるいは底面か。無文で、器面磨滅する。	中期後葉
第496図 PL.254	183	深鉢 R 18 口縁部突起	①粗：石英・雲母 ②黒褐色	「捻転状突起」。中位で貫孔する。隆帯中に沈線を施し、縦位LRを充填する。突起下端より斜位隆線が派生し、円形刺突文が沿う。内面は円形刺突文を起点に沈線による対弧状意匠を配す。	後期初頭
第496図 PL.254	184	深鉢 口縁部突起	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	「捻転状突起」。中位で貫孔し隆帯上に沈線を重ねる。口縁部隆線、体部斜位隆線が派生し、口縁部には円形刺突文が沿う。細縄文RLを充填施文する。	後期初頭
第496図 PL.254	185	深鉢 覆土 口縁部突起	①粗：輝石多 ②暗赤褐色	捻転状突起。頂部欠損。突起内縁、口縁部隆線に円形刺突文が沿う。	後期初頭 89号土坑
第496図 PL.254	186	深鉢 M 19 口縁部破片	①粗：石英・輝石・雲母少 ②黒褐色	緩やかな波状縁。口唇部内面肥厚。押圧状の刻みを付す隆線による渦巻文。側縁撫で。	中期後葉信州系
第496図 PL.254	187	深鉢 I 19 口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色	波状縁。内面肥厚。幅狭の口縁部は肥厚し、上下に円形刺突文が沿う。以下縦位LRを充填する。	後期初頭
第496図 PL.254	188	深鉢 I 24 口縁部破片	①細：輝石 ②黄褐色	口縁部内湾。口唇部より2条沈線が弧状に派生する。沈線間は円形刺突文を充填する。縄文施文部はLR充填施文。沈線・刺突文とも深い施文を示す。	後期初頭
第496図 PL.254	189	深鉢 覆土 口縁部突起	①細：石英 ②鈍い黄褐色	中空状の円柱突起。先端は平坦で、上方と側面からの貫孔を推定する。円形刺突文を施す。	後期初頭 90号土坑
第496図 PL.254	190	深鉢 P 17 口縁部破片	①粗：輝石 ②暗褐色	緩やかな波状突起。沈線に画された施文部による渦巻文が突起内外面を跨ぐ。LRを充填する。体部は沈線で画された弧状意匠か。LLRを充填する。内面に煤付着。	後期初頭

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第496図 PL.254	191	深鉢 口縁部破片	①粗：白色粒 ②黒褐色	波状縁。口唇部に沿って刺突文を施す。波頂部より2・3条の沈線が分岐懸垂する。地文は横位RL。	中期後葉古
第496図 PL.254	192	深鉢 Q18 口縁部破片	①粗：石英少 ②鈍い黄褐色	口縁部下に横位隆線2条を設け、沈線間側線として大型の刺突文が沿う。体部は横位LRを施す。	後期初頭
第496図 PL.254	193	深鉢 G15 口縁～体部上半 破片	①粗：石英・輝石 ②明赤褐色	緩やかな波状縁。波頂部に小突起を付し下端より口縁部隆線が派生する。体部は沈線で画された弧状意匠を配す。縄文はRL充填施文。	中期末葉
第496図 PL.254	194	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：輝石 ②鈍い黄褐色	口縁部内屈し無文。屈曲部以下に弧状沈線を設け、無節しを充填施文する。	後期初頭 85号土坑
第496図 PL.254	195	深鉢 D24 口縁～体部上半 破片	①細：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	幅広の無文口縁部。横位隆線を付し弧状隆線が派生する。縦位LRを充填する。	後期初頭
第496図 PL.254	196	深鉢 J21 口縁～体部上半 破片	①粗：輝石 ②鈍い褐色	口唇部に細沈線を設ける。体部は2条沈線に画された施文部渦巻状意匠を配す。LR充填施文。内面煤付着。	後期初頭
第496図 PL.254	197	深鉢 I21 口縁～体部上半 破片	①粗：石英・輝石・雲母少 ②鈍い黄褐色	口唇部内面僅かに突出。体部は2条沈線に画された施文部による渦巻状意匠が配される。細縄文LRを充填する。	後期初頭
第496図 PL.254	198	深鉢 口縁部破片	①粗：輝石 ②暗灰黄色	薄手の器厚。口縁部沈線を設け以下沈線で画された施文部意匠が配される。横位LRを充填する。	後期初頭
第496図 PL.254	199	深鉢 I22 口縁部破片	①粗：石英 ②鈍い黄褐色	2条沈線で画された磨消部弧状意匠。渦巻文か。施文部縄文は無節R充填施文。	後期初頭
第496図 PL.254	200	深鉢 H25 口縁部破片	①細：輝石 ②鈍い黄褐色	口縁部内湾。沈線で画された施文部と磨消部による弧状意匠。LRを充填する。磨消部・内面研磨。	後期初頭
第496図 PL.254	201	深鉢 H14 口縁部破片	①細：輝石 ②灰黄褐色	あるいは鉢か。口唇部内面肥厚。体部は浅い弧状沈線を施す。無節R充填施文。	後期初頭
第496図 PL.254	202	深鉢 X20 口縁部破片	①細：輝石 ②黒褐色	波状縁。口縁部沈線以下弧状沈線で画された施文部と磨消部の交互構成。横位LRを充填する。	後期初頭
第496図 PL.254	203	深鉢 H15 口縁部破片	①細：輝石 ②鈍い黄褐色	口唇部内面肥厚。沈線で画された施文部と磨消部による意匠文。磨消部・内面とも丁寧な研磨で平滑である。	後期初頭
第496図 PL.254	204	深鉢 E25 口縁部破片	①粗：輝石 ②灰褐色	口唇部内屈。沈線で画された施文部と磨消部による弧状意匠。縦位LRを充填する。	後期初頭
第496図 PL.254	205	深鉢 I22 口縁部～体部上 半破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	口縁部内湾。2条沈線で画された施文部による半渦巻状意匠。横位RLを充填する。	後期初頭
第496図 PL.254	206	深鉢 K25 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	波状縁。口縁部内屈し稜線を設ける。口縁部沈線以下弧状沈線を配す。	後期前葉古
第496図 PL.254	207	深鉢 K23 口縁部破片	①粗：石英・褐色粒 ②鈍い黄褐色	波頂部。口縁部内面肥厚。沈線で画された無文部によるJ字状意匠や渦巻状意匠が配される。器面磨滅。	後期初頭
第496図 PL.254	208	深鉢 I20 口縁部破片	①粗：石英 ②鈍い褐色	口唇部横位沈線を設け、2条沈線による弧状意匠を配す。あるいは渦巻文か。	後期初頭
第497図 PL.254	209	深鉢 H15 口縁～体部上半 破片	①粗：石英・輝石 ②明黄褐色	口縁部下位に強い押圧を加える横位隆線を設ける。他は無文。内外面とも撫で調整。外面に少量の煤付着。	後期初頭
第497図 PL.254	210	深鉢 L23 口縁部破片	①粗：石英少・褐色粒 ②明黄褐色	口唇部直下に強い押圧を施す横位隆線を設ける。体部は無文。	後期初頭
第497図 PL.254	211	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：輝石少 ②鈍い黄褐色	押圧を加えた口縁部隆線を設ける。	後期初頭 88号土坑
第497図 PL.254	212	深鉢 H15 口縁～体部上半 破片	①粗：輝石 ②褐灰色	口縁部無文。横位隆線を設け円形貼付文より弧状隆線が派生する。外面煤付着。	後期初頭
第497図 PL.254	213	深鉢 H20 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	口縁部無文部は幅狭。横位隆線に円形貼付文を付し、垂下隆線が派生する。	後期初頭
第497図 PL.254	214	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英 ②褐色	口縁部内屈し小型の環状突起を付す。屈曲部以下横位沈線を施す。	後期前葉 188号土坑
第497図 PL.254	215	深鉢 J19 口縁～体部上半 破片	①粗：石英(大) ②暗褐色	口縁部無文。横位隆線に円形貼付文を付し斜位隆線が派生する。	後期初頭
第497図 PL.254	216	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英 ②鈍い褐色	口縁部僅かに内湾し無文。横位隆線を設け、疎らな刺突を加える。体部は無文。	後期初頭 272号土坑
第497図 PL.254	217	深鉢 I22 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	口縁部は幅狭で下位に横位隆線を設ける。内外面とも横位研磨を施す。外面煤付着。	後期初頭
第497図 PL.254	218	深鉢 H14・15 口縁部破片	①粗：石英多 ②明黄褐色	幅広の無文口縁部。下位に横位隆線を設け、体部に隆帯を派生する。器厚薄手。	後期初頭
第497図 PL.254	219	浅鉢 W20 口縁部破片	①粗：石英 ②灰黄褐色	波状縁。頸部屈曲部に隆線を付し、口縁部は沈線による区画文を配す。区画内は円形刺突文を充填する。	後期初頭
第497図 PL.254	220	深鉢 口縁部突起	①粗：輝石 ②鈍い褐色	突出する「捻転状突起」。貫孔は僅か。突起下端より斜位隆線が派生する。内面上端は嚙状突起、下端は環状意匠を配す。	後期初頭
第497図 PL.254	221	深鉢 K25 突起破片	①粗：石英多・輝石 ②灰褐色	体部に付けられる環状突起か。中位が貫孔する。器面磨滅し炭化物が付着する。	後期初頭?
第497図 PL.254	222	深鉢 口縁部突起	①細：輝石 ②鈍い褐色	側面観が嚙状を呈す。正面は縦位に円孔を配し、裏面は嚙状突起下に捻転状意匠を配す。おそらく下位で橋状把手を付す。側面に煤付着。	後期初頭
第497図 PL.254	223	深鉢 E25 体部中位破片	①粗：石英・雲母 ②赤褐色	沈線で画された施文部と磨消部による渦巻状意匠や弧状意匠。施文部はLR充填施文。	後期初頭
第497図 PL.254	224	深鉢 J19 体部中位破片	①粗：石英 ②明褐色	器厚薄手。内湾気味の体部。沈線で画された半渦巻状意匠。LRを充填する。	後期初頭
第497図 PL.254	225	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英 ②褐色	沈線に画された施文部・磨消部弧状意匠。渦巻状意匠か。施文部は縦位LR充填施文。	後期初頭 92号土坑

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考	
第497図 PL.254	226	注口土器 J 19	頸部～体部上半 破片	①細：白色粒 ②黒褐色	頸部屈曲強い。体部は太い沈線で弧状意匠を描く。 外面研磨、内面は撫で。	後期初頭
第497図 PL.254	227	深鉢 覆土	体部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い橙色	2条沈線で画された磨消部懸垂文構成か。施文部縄文は縦位LR充填施文。磨消部は研磨を加える。	後期初頭 271号土坑
第497図 PL.254	228	深鉢 覆土	体部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	隆線による弧状意匠。おそらく縦位波状文か。横位・縦位LRを充填する。外面に煤付着。	後期初頭 188号土坑
第497図 PL.254	229	深鉢 覆土	体部破片	①粗：石英・雲母 ②鈍い赤褐色	2条沈線で画された磨消部J字状意匠か。施文部縄文はLR充填施文。	後期初頭 271号土坑
第497図 PL.255	230	深鉢 H24	体部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	2条の沈線に画された施文部横帯と渦巻状意匠。縄文は横位LR充填施文。	後期初頭
第497図 PL.255	231	深鉢 J 21	体部上半破片	①粗：輝石 ②褐色	2条の沈線で画された磨消部弧状意匠。施文部縄文は横位LR。内面に煤付着。	後期初頭
第497図 PL.255	232	深鉢 覆土	体部破片	①細：石英 ②明赤褐色	沈線2条に画された磨消部弧状意匠。渦巻状意匠か。施文部縄文はLR充填施文。	後期初頭 92号土坑
第497図 PL.255	233	深鉢 I 24	体部破片	①粗：石英・輝石 ②褐色	2条沈線による渦巻状意匠が配される。	後期初頭
第497図 PL.255	234	深鉢 H14	体部上半破片	①粗：輝石少 ②鈍い赤褐色	頸部は強く屈曲する。あるいは壺形か。横位隆線に刺突文を重ね鎖状とする。以下斜位沈線を施す。沈線下位は研磨する。地文は横位LR。	後期初頭 異系統か
第497図 PL.255	235	深鉢	体部破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	垂下隆線に強い押圧を加える。懸垂文構成。沈線で画された施文部による弧状意匠が配される。円形刺突文を充填する。	後期初頭
第497図 PL.255	236	深鉢 I 19	体部破片	①粗：輝石・褐色粒 ②鈍い褐色	沈線で画された施文部による横帯意匠・弧状意匠。あるいは渦巻状意匠か。列点状刺突文を充填する。	後期初頭
第497図 PL.255	237	深鉢 D24	体部中位破片	①粗：石英多 ②黒褐色	小型の円形貼付文を中核に弧状沈線が派生する。おそらく対波状意匠。	後期初頭
第497図 PL.255	238	深鉢 T 19	体部破片	①粗：石英少 ②鈍い赤褐色	縦位弧状隆線2条を配す。側線は撫で。他は無文。あるいは縦位波状文か。	後期初頭
第498図 PL.255	239	深鉢 Q17	口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色	波頂部に円孔を配し弧状沈線群を施す。下端に円形貼付文を付すが器面剥落する。口縁部内面は環状意匠と縦位短沈線を施す。	後期前葉古
第498図 PL.255	240	深鉢	口縁部破片	①粗：輝石 ②褐色	波状突起を付す。屈曲する口縁部。波頂部に沈線による渦巻文と弧線文を配し、口縁部は円文と横位沈線を施す。	後期前葉古
第498図 PL.255	241	深鉢 K23	口縁部破片	①粗：石英・褐色粒 ②橙色	波状突起。円孔周辺を弧状沈線が充填する。横位沈線も施される。	後期前葉古
第498図 PL.255	242	深鉢	口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い橙色	波頂部に円孔を設け周囲に弧状沈線を施す。幅狭の口縁部は横位沈線を設ける。	後期前葉古
第498図 PL.255	243	鉢 K25	口縁部破片	①粗：石英 ②鈍い黄褐色	波状突起。中位に貫孔する。孔両下端に円文を配し深い弧状沈線で繋ぐ。口唇部に沿って円文と沈線を施す。体部外面に煤付着。	後期前葉古
第498図 PL.255	244	深鉢	口縁～頸部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	小波状突起。波頂部に細隆線による渦巻文を配す。幅狭口縁部には横位沈線。頸部は無文で体部に横位沈線を設ける。以下横位LRを施す。内外面とも丁寧な研磨を施し平滑。	後期前葉古
第498図 PL.255	245	浅鉢 L 22	口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②明赤褐色	双波状突起か。口唇部に面を持ち、沈線による渦巻文を配す。突起間には浅い沈線を施す。	後期前葉古
第498図 PL.255	246	浅鉢？ H15	口縁部破片	①細：輝石少 ②橙色	隆線による口縁部区間文。頂部は半渦巻状意匠を配す。区画内は沈線を側線とする。	後期初頭
第498図 PL.255	247	深鉢 J 19・20	口縁～頸部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	緩やかな歯状突起。波頂部に貫孔する。両脇に円文を配し横位沈線を設ける。頸部は無文。	後期前葉古
第498図 PL.255	248	深鉢	口縁部破片	①粗：石英少・輝石 ②鈍い黄褐色	口縁部内外面とも肥厚。緩やかな波状突起か。刺突文を施す。肥厚部・内面を研磨。内面下半に煤付着。	後期前葉古
第498図 PL.255	249	深鉢 覆土	口縁部破片	①粗：輝石少 ②灰黄褐色	口縁部突起有りか。頸部隆線で屈曲し、口縁部は横位沈線を施す。	後期前葉 272号土坑
第498図 PL.255	250	深鉢 覆土	口縁部破片	①粗：輝石 ②橙色	口縁部内屈し、波状突起を付す。屈曲部に刻みを施し口縁部沈線を設ける。突起縁辺に弧状沈線を施す。	後期前葉 87号土坑
第498図 PL.255	251	深鉢 覆土	頸部破片	①細：輝石 ②浅黄褐色	口縁部隆線に8字状貼付文を付し、斜位刻みを加える。体部は沈線で画された弧状意匠か。RLを充填する。	後期前葉新 271号土坑
第498図 PL.255	252	深鉢	口縁部突起	①細：石英・輝石 ②鈍い褐色	滑車状の環状突起。貫孔し両下端に円文を配す。幅狭の口縁部には横位沈線を設ける。屈曲部隆線以下斜位・垂下隆線が派生する。突起内面は円形刺突文と沈線が施される。	後期初頭
第498図 PL.255	253	深鉢 I 19	口縁部突起	①細：石英 ②褐色	渦巻状小突起を頂部に配し、中位に孔を穿つ。下端に弧状沈線と円形刺突文を施し、円孔を設ける。頸部は隆線による段で画され沈線を側線とする。	後期前葉古
第498図 PL.255	254	深鉢 K25	口縁部突起片	①細：石英少 ②浅黄色	橋状把手を口縁部上に突出する。突起各所に円形貼付文や8字状貼付文を付し、沈線で繋ぐ。外面煤付着。	後期前葉古
第498図 PL.255	255	深鉢 I 20	口縁部破片	①細：輝石 ②褐色	波状縁。波頂部は環状意匠を配し双波状を呈す。環状意匠中位は貫孔する。体部上半は横位弧状沈線を施す。	後期前葉新
第498図 PL.255	256	深鉢	口縁部突起	①細：輝石 ②鈍い褐色	滑車状の環状突起。立体的で4方からの貫孔。突起両下端に円文を配す。幅狭口縁部には沈線を設ける。突起内面には3箇所円文が配される。	後期初頭
第498図 PL.255	257	深鉢 H19	口縁部突起	①細：石英 ②鈍い黄褐色	貫孔する波頂部環状突起。口縁部隆線を設ける。内面は円文を3方に配し、沈線を施す。	後期前葉古

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土調 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第498図 PL.255	258	浅鉢 I 22 口縁部破片	①粗：石英・雲母少 ②黒褐色	緩やかな波状縁か。屈曲部隆線で画す。太い沈線で施文され、円文中位は貫孔する。楕円区画文も配され横位沈線、円文を充填する。内外面丁寧な研磨。	後期前葉古
第498図 PL.255	259	深鉢 J 19 口縁部破片	①細：石英 ②褐灰色	波状縁頂部。円孔を配す。内外面とも丁寧な研磨を施す。	後期前葉古
第498図 PL.255	260	深鉢 O 18 口縁部破片	①細：輝石 ②鈍い橙色	幅狭の口縁部に円文と横位凹線を施す。弧状突起は中位で貫孔する。頸部は隆線が懸垂する。	後期前葉古
第498図 PL.255	261	深鉢 I 22 口縁部突起片	①粗：石英少 ②鈍い橙色	上端に環状意匠を配す。沈線を施し円孔を中位に配す。貫孔ではない。下位は中位に貫孔を設ける。外面は器面剥落のため判然としないが、沈線を施す。	後期前葉古
第498図 PL.255	262	深鉢 I 20 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②明褐色	隆線による螺旋状把手を付す。斜位沈線を施し、横位LRを充填する。	後期前葉古
第498図 PL.255	263	深鉢 K 23 口縁部破片	①粗：輝石 ②灰褐色	隆線による渦巻状突起を付す。下端は横位隆線が付され頸部は無文か。内稜も突出する。	後期前葉古
第499図 PL.255	264	深鉢 N 17 口縁～頸部破片	①粗：石英・輝石少 ②鈍い黄褐色	口縁部内外面肥厚する。縦位沈線は内外面に施文する。外面には横位沈線を設ける。肥厚部より刻みを付す細隆線が斜位に派生する。	後期前葉新
第499図 PL.255	265	深鉢 H 20 口縁部破片	①粗：石英 ②橙色	口縁部外面肥厚。肥厚部中位が凹むが沈線ではない。無文で内外面とも研磨を施す。	後期前葉古
第499図 PL.255	266	深鉢 K 24 口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い赤褐色	口縁部僅かに内屈し横位沈線を設ける。	後期前葉古
第499図 PL.255	267	深鉢 W 19 口縁部破片	①粗：石英・雲母 ②鈍い黄褐色	口縁部僅かに内屈し横位沈線を設ける。体部は無文。	後期前葉古
第499図 PL.255	268	深鉢 J 21 口縁部破片	①細：輝石 ②暗褐色	口縁部内面肥厚する。幅狭の口縁部に横位沈線を設ける。頸部は無文。	後期前葉古
第499図 PL.255	269	深鉢 K 23 口縁部破片	①細：輝石 ②黒褐色	頸部で強く屈曲する。口縁部は無文。体部は横位沈線と垂下沈線先端を見る。内外面研磨により平滑。	後期前葉古
第499図 PL.255	270	深鉢 J 22 口縁～頸部破片	①粗：石英・輝石 ②暗褐色	幅狭の口縁部には横位沈線を設ける。頸部屈曲部に横位沈線を施し、斜位沈線が派生する。横位LRを充填する。	後期前葉古
第499図 PL.255	271	深鉢 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	口縁部内屈し横位沈線を設ける。体部は縦位沈線3条による懸垂文構成か。横位沈線を充填する。	後期前葉古
第499図 PL.255	272	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：石英 ②鈍い黄褐色	口縁部内湾気味。横位沈線を設ける。施文は深い。	後期初頭 88号土坑
第499図 PL.255	273	鉢 口縁部破片	①細：石英少 ②鈍い黄褐色	沈線で画された縄文施文部による弧状意匠。細縄文LRを充填する。沈線施文は深い。	後期前葉新
第499図 PL.255	274	深鉢 C 24 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	横位沈線と横位弧状沈線を施す。	後期前葉古
第499図 PL.255	275	注口土器 口縁～体部上半破片	①細：白色粒 ②黒褐色	口縁部突起を付す。体部上半に短い注口部を付す。横位沈線が派生し、下半には沈線による方形意匠が連続する。内外面丁寧な研磨により平滑。	後期前葉新
第499図 PL.255	276	深鉢 K 20 口縁部突起片	①粗：石英 ②鈍い黄褐色	突出する把手状突起。中位より隆線が垂下し強い刻み加わる。内面は縦位沈線上下に円文が施される。	後期前葉古
第499図 PL.255	277	深鉢 K 23 口縁部破片	①細：輝石 ②鈍い橙色	刻みを付す隆線で画された幅狭の口縁部に円文と横位沈線を配す。頸部は無文。	後期前葉古
第499図 PL.255	278	深鉢 口縁部破片	①粗：輝石少 ②鈍い黄褐色	刻みを付す口縁部細隆線以下2条沈線に画された縄文施文部。横位LRを施す。口唇部内面に横位隆線2条を設ける。上位隆線には斜位刻みを施す。	後期前葉新
第499図 PL.255	279	深鉢 J 21 口縁部破片	①細：輝石 ②暗褐色	刻みを付す口縁部細隆線以下2条沈線で画された施文部による幾何学文構成か。横位LRを充填する。内面煤付着。口唇部内屈部欠損。	後期前葉新
第499図 PL.255	280	深鉢 L 25 口縁部破片	①粗：輝石多 ②鈍い赤褐色	口縁部内屈。横位細隆線を2条設け8字状貼付文で繋ぐ。体部は横位沈線と横位LRを施す。	後期前葉新
第499図 PL.255	281	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：石英・輝石・片岩 ②鈍い黄褐色	口唇部内屈。刻みを付す口縁部隆線を設け、8字状貼付文を付す。体部上半には横位沈線と横位LRを施す。	後期前葉新 87号土坑
第499図 PL.255	282	深鉢 K 25 口縁部破片	①粗：輝石 ②明赤褐色	小型深鉢。口唇部僅かに内屈。刻みを付す口縁部細隆線を設け横位沈線2条に画されたLR施文部を配す。	後期前葉新
第499図 PL.255	283	深鉢 K 23 口縁部破片	①細：輝石 ②灰黄褐色	口唇部強く内屈。刻みを付す口縁部細隆線に8字状貼付文が重なる。	後期前葉新
第499図 PL.256	284	深鉢 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②灰黄褐色	口縁部内屈。口縁部隆線に押圧状の刻みを施す。	後期前葉新
第499図 PL.256	285	深鉢 口縁部破片	①細：輝石 ②褐色	口縁部弱く内屈する。刻みを施す口縁部細隆線を付す。以下は器面剥落のため判然としない。	後期前葉新
第499図 PL.256	286	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：石英・輝石多 ②鈍い褐色	口唇部内屈。口縁部に刻みを付す横位隆線2条を設ける。内外面丁寧な研磨を施す。	後期前葉新 188号土坑
第499図 PL.256	287	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：輝石 ②鈍い橙色	口唇部内屈。口縁部に横位隆線2条を設け、8字状貼付文を重ねる。内外面とも丁寧な研磨を施す。	後期前葉新 188号土坑
第499図 PL.256	288	深鉢 J 3 口縁部破片	①細：輝石 ②暗褐色	口縁部内屈。端部に沈線を設ける。押圧状の刻みを付す細隆線2条を設ける。体部横位沈線も施される。	後期前葉新
第499図 PL.256	289	鉢 I 22 口縁部破片	①細：輝石 ②褐灰色	口唇部隆線剥落。横位隆線を設け、沈線を側線とする。下位沈線は弧線状となる。口唇部内面に横位沈線を施す。内外面とも丁寧な研磨。	後期中葉

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第499図 PL.256	290	深鉢 I 20・J 19・J 20 頸部破片	①粗：輝石 ②黒褐色	屈曲部に横位沈線3条を設け、8字状貼付文を重ねる。体部は沈線による弧状意匠を配す。燃糸L横位施文。291・292は同一個体。	後期前葉古
第499図 PL.256	291	深鉢 I 20・J 19・J 20 頸部破片	①粗：輝石 ②黒褐色	屈曲部に横位沈線3条を設け、8字状貼付文を重ねる。体部は沈線による弧状意匠を配す。燃糸L横位施文。	後期前葉古
第499図 PL.256	292	深鉢 覆土 体部上半破片	①細：輝石 ②鈍い黄褐色	横位弧状沈線を3条配し、円形貼付文を重ねる。	後期前葉 188号土坑
第499図 PL.256	293	深鉢 I 20・J 19・J 20 頸部破片	①細：石英粒 ②黒褐色	頸部屈曲部に横位沈線、以下体部には矩形意匠の磨り消し縄文文様。	後期前葉
第499図 PL.256	294	深鉢 体部破片	①細：輝石 ②黒褐色	斜位沈線3条による懸垂文構成か。空白部は無節Lを充填する。	後期前葉古
第499図 PL.256	295	深鉢 V 20 体部破片	①粗：石英・輝石 ②灰黄褐色	3条の沈線による弧状区画文。無節Lを充填施文する。	後期前葉古
第499図 PL.256	296	深鉢 X 20 体部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	4条の沈線による重方形状区画文。区画内は斜位沈線を施す。横位LR充填施文。	後期前葉古
第499図 PL.256	297	深鉢 K 23 体部上半破片	①細：輝石 ②鈍い黄褐色	4条の斜位沈線で画された区画文構成。縦位LR充填施文。沈線部は研磨を加える。	後期前葉古
第500図 PL.256	298	注口土器 L 25 体部上半破片	①細：白色粒 ②灰褐色	3条の沈線による横位楕円状意匠か。沈線間には細かな刺突文を充填する。	後期前葉新
第500図 PL.256	299	深鉢 I 23 体部中位破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	2条沈線で画された施文部と磨消部による渦巻状意匠。細縄文LRを充填する。	後期前葉新
第500図 PL.256	300	深鉢 覆土 体部上半破片	①細：石英・輝石 ②明褐色	薄手の器厚。沈線による渦巻状意匠と弧状意匠。縦位無節Rを地文とする。	後期前葉 85号土坑
第500図 PL.256	301	注口土器 M 13 体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②灰黄褐色	2条沈線で画された施文部による縦位S字状意匠が連結する。下端は横位沈線で画す。細縄文LRを充填する。無文部は研磨により平滑。内面は凹凸を見る。	後期前葉新
第500図 PL.256	302	深鉢 覆土 体部上半破片	①細：石英 ②橙色	内湾する体部。2条沈線で画された磨消部弧状意匠か。LR縦位充填施文。	後期前葉 86号土坑
第500図 PL.256	303	深鉢 体部破片	①粗：石英・輝石多 ②鈍い黄褐色	低位隆線による弧状区画か。区画内側線は沈線でLRを充填する。	中期後葉新
第500図 PL.256	304	深鉢 体部破片	①粗：石英・輝石 ②暗赤褐色	弧状沈線で画された施文部と磨消部。施文部は細縄文LRを充填する。	後期前葉古
第500図 PL.256	305	深鉢 体部破片	①粗：石英・輝石 ②暗褐色	数条の斜位沈線による懸垂文構成か。中位に列点状刺突文を縦位に施す。	後期前葉古
第500図 PL.256	306	深鉢 体部破片	①粗：石英 ②鈍い黄褐色	2条沈線で画された施文部懸垂文構成。刺突文を充填する。	後期前葉古
第500図 PL.256	307	深鉢 C 25 体部上半破片	①粗：石英 ②鈍い橙色	横位隆線に強い刺突文を加え鎖状とする。下位側線は沈線。無節Rを充填施文する。	後期前葉古
第500図 PL.256	308	壺？ L 25 肩部破片	①粗：輝石多 ②鈍い橙色	頸部屈曲部に横位平行沈線2条を設ける。体部は無文で丁寧な研磨のため平滑。内面は弱い研磨を施す。	後期前葉古
第500図 PL.256	309	深鉢 G 23 体部破片	①細：輝石 ②鈍い橙色	内湾する体部。沈線で画された磨消部横位意匠。以下LR充填施文。	後期初頭
第500図 PL.256	310	深鉢 R 18 体部上半破片	①粗：石英・輝石・片岩 ②鈍い黄褐色	2条沈線で画された縄文施文部による幾何学文構成。LRを充填し、無文部は丁寧な研磨を施す。	後期前葉新
第500図 PL.256	311	深鉢 覆土 体部上半破片	①細：輝石多 ②鈍い褐色	沈線で画された施文部と磨消部の交互配列。おそらく幾何学文構成。LR充填施文。	後期前葉新 188号土坑
第500図 PL.256	312	深鉢 P 17 体部上半破片	①粗：輝石多 ②灰黄褐色	口縁部細隆線に刺突を施す。体部は沈線に画された施文部と磨消部による幾何学文構成。LR充填施文。	後期前葉新
第500図 PL.256	313	深鉢 H 15 体部破片	①細：輝石 ②黒色	2条の沈線に画された施文部弧状意匠。横位RLを充填施文する。	後期前葉古
第500図 PL.256	314	深鉢 体部下半破片	①粗：輝石多 ②暗褐色	体部下半に一次区画線とする沈線を設ける。上位は細沈線2条による施文部幾何学文が配される。LRを充填。	後期前葉新
第500図 PL.256	315	深鉢 覆土 体部破片	①細：石英・雲母少 ②鈍い黄褐色	沈線で画された施文部による幾何学文構成か。横位LRを充填する。器面磨減。	後期前葉新 85号土坑
第500図 PL.256	316	深鉢 覆土 体部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い赤褐色	2条沈線で画された施文部斜位意匠。三角区画文か。細縄文LRを充填する。	後期前葉新 90号土坑
第500図 PL.256	317	深鉢 覆土 体部上半破片	①細：輝石多 ②鈍い橙色	沈線で画された施文部横位意匠。幾何学文か。LR充填施文。磨消部研磨が顕著。	後期前葉新 188号土坑
第500図 PL.256	318	深鉢 覆土 体部破片	①粗：輝石 ②橙色	太い沈線で画された弧状意匠。細縄文LRを充填する。	後期前葉 83号土坑
第500図 PL.256	319	深鉢 体部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	2条の沈線で画された磨消部による横位弧状意匠。施文部は横位LRを充填する。	後期前葉新
第500図 PL.256	320	火鉢 体部破片	①緻密：白色粒 ②暗褐色	横位沈線で体部を画す。上下とも交互の鋸歯文を施す。内面に白色付着物を見る。	近世か
第500図 PL.256	321	深鉢 M 22・23 体部上半破片	①粗：輝石 ②暗赤褐色	刻みを付す横位細隆線以下2条沈線で画された施文部による幾何学文構成か。横位LRを充填する。	後期前葉新
第500図 PL.256	322	深鉢 体部上半破片	①細：石英・輝石 ②暗褐色	刻みを付す口縁部隆線以下細沈線で画された磨消部区画文構成。施文部縄文はLR充填施文。	後期前葉新
第500図 PL.256	323	深鉢 覆土 体部破片	①細：雲母少 ②黒褐色	僅かに内湾気味の体部下半。上半には横位沈線を設け細縄文LRを横位施文する。	後期前葉新 88号土坑
第500図 PL.256	324	深鉢 J 3 体部上半破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	緩やかに内湾する体部上半。刻みを付す横位細隆線を2条設ける。内外面研磨を施す。	後期前葉新
第500図 PL.256	325	鉢 J 22 体部上半破片	①粗：石英 ②灰黄褐色	強い屈曲を呈す。上位に刻みを施す横位細隆線を付す。内外面とも撫で調整。	後期前葉新

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第500図 PL.256	326	深鉢 K25 口縁部破片	①細：輝石 ②褐色	口唇部欠損。刻みを付す口縁部細隆線2条を8字状貼付文が連続して重なる。	後期前葉新
第500図 PL.256	327	深鉢 覆土 頸部破片	①細：輝石 ②鈍い黄褐色	強く外反する口縁部下端に横位沈線を設ける。口縁部は縦位沈線に刺突文が沿う。	後期前葉 85号土坑
第500図 PL.256	328	深鉢 覆土 体部破片	①細：輝石 ②鈍い褐色	刻みを加えた細隆線1条による懸垂文構成。空白部は横位研磨を入念に施す。	後期前葉新 272号土坑
第500図 PL.256	329	注口土器 K25 肩部破片	①粗：石英 ②鈍い褐色	大型品か。屈曲部に2条の沈線を設ける。体部は3条の沈線による横位波状文を配す。沈線間は細かな刺突文を充填する。外面は磨きにより平滑。内面は凹凸が顕著。	後期前葉新
第500図 PL.256	330	注口土器 M25 体部上半破片	①細：白色粒少 ②褐色	器厚薄手。上半の横位沈線以下沈線による重渦巻状意匠を配す。沈線間に細かな刺突文を施す。内面凹凸顕著。	後期前葉新
第500図 PL.256	331	深鉢 覆土 体部破片	①粗：小礫・輝石 ②鈍い黄褐色	緩やかに内湾する体部。列点状刺突文を縦位に施す。横位LRを充填する。	後期前葉 92号土坑
第500図 PL.256	332	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英 ②鈍い黄褐色	厚手の器厚。細縄文LRを横位に施す。	後期前葉 84号土坑
第500図 PL.256	333	深鉢 覆土 体部破片	①細：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	上半は細縄文LRを横位施文し下半は斜位条線を密に施す。	後期前葉新 86号土坑
第500図 PL.256	334	深鉢 W21 体部破片	①細：輝石少 ②鈍い黄褐色	細縄文横位LRが器面を覆う。器厚薄手。	後期前葉新
第500図 PL.256	335	深鉢 I21 体部破片	①粗：石英・片岩少 ②鈍い黄褐色	縦位LRLを施す。	後期前葉古
第500図 PL.256	336	深鉢 覆土 体部破片	①粗：輝石 ②鈍い褐色	縦位RLが器面を覆う。	後期前葉 89号土坑
第500図 PL.256	337	深鉢 覆土 体部破片	①細：輝石 ②黒褐色	無文。外面は丁寧な研磨、内面は撫で調整を施す。	後期前葉新 89号土坑
第500図 PL.256	338	深鉢 D24 体部破片	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色	やや薄手の器厚。無節Lを乱雑に施す。	後期前葉古
第501図 PL.256	339	深鉢 Q17 体部中位破片	①粗：石英・雲母少 ②黒褐色	2条沈線で画された間を列点状刺突文を充填する。空白部も刺突文を乱雑に施文する。	後期前葉越後系？
第501図 PL.256	340	深鉢 H15 頸部破片	①粗：石英 ②黒褐色	頸部が強く屈曲する壺形か。体部は強い爪形状刺突文を横位に施す。	後期前葉越後系
第501図 PL.256	341	深鉢 体部破片	①粗：白色粒 ②鈍い赤褐色	強い横位刺突列が器面を覆う。器厚薄手。	後期前葉越後系
第501図 PL.257	342	深鉢 W20 体部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	斜位に強い刺突文が連続する。器厚薄手。	後期前葉越後系
第501図 PL.257	343	深鉢 体部破片	①粗：白色粒 ②鈍い褐色	先端方形工具の強い刺突文が器面を覆う。	後期前葉越後系
第501図 PL.257	344	深鉢 覆土 体部破片	①粗：石英・輝石 ②明黄褐色	内湾する体部。強い横位刺突文が器面を覆う。あるいは土製円盤か。	後期前葉越後系 177号土坑
第501図 PL.257	345	深鉢 L-? 体部破片	①粗：白色粒 ②鈍い赤褐色	横位刺突文が器面を覆う。施文は強い。	後期前葉越後系
第501図 PL.257	346	深鉢 L-? 体部破片	①粗：白色粒 ②鈍い赤褐色	刺突文を施す。施文は比較的強いが小型で規則性の無い施文。	後期前葉越後系
第501図 PL.257	347	深鉢 口縁部破片	①粗：輝石多 ②褐色	強く内湾する口縁部。無文で内外面とも撫で調整を施す。	中期後葉
第501図 PL.257	348	深鉢 H15 口縁部破片	①細：輝石 ②鈍い黄褐色	口縁部内面肥厚。体部上半に緩やかな内湾を持たせる。内外面研磨を施す。赤彩痕跡は不明。	中期後葉
第501図 PL.257	349	深鉢 I19 口縁部破片	①細：輝石 ②鈍い褐色	大型の深鉢。口縁部は大きく開き、頸部で屈曲する。無文で外面は雑な研磨、内面は丁寧な研磨を施す。	中期後葉信州系
第501図 PL.257	350	浅鉢 G20 口縁部破片	①粗：石英多・輝石 ②褐灰色	口唇部外面強く突出。無文で内外面とも丁寧な横位研磨を施す。明瞭な赤彩痕跡は見られない。	中期後葉
第501図 PL.257	351	浅鉢 G15 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②褐灰色	口唇部内面肥厚。無文で内外面とも丁寧な研磨を施す。赤彩痕が残るが意匠は不明。	中期後葉
第501図 PL.257	352	鉢？ 覆土 口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い褐色	口唇部内面肥厚。緩やかな内湾を示す。口唇部直下に横位凹線を施す。体部は無文。	後期初頭 89号土坑
第501図 PL.257	353	深鉢 口縁部破片	①粗：石英・輝石多 ②褐色	口縁部外面有段状に肥厚する。沈線を側線とする。他は無文。	後期前葉古
第501図 PL.257	354	深鉢？ 口縁部破片	①粗：輝石・褐色粒 ②鈍い黄褐色	口縁部強く屈曲する。無文で撫で調整を施す。	後期前葉 91号土坑
第501図 PL.257	355	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：石英・雲母 ②暗赤褐色	口唇部内屈。外面は無文で撫で調整、内面は弱い研磨を施す。	後期前葉 84号土坑
第501図 PL.257	356	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：輝石 ②鈍い褐色	口縁部強く内屈する。内外面とも丁寧な撫で調整が及ぶ。	中期後葉 3号焼土
第501図 PL.257	357	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②灰黄褐色	口唇部内屈。無文で内外面とも丁寧な撫で調整を施す。	後期前葉 177号土坑
第501図 PL.257	358	鉢？ 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②黒褐色	小径で内湾する口縁部。無文で外面撫で調整、内面研磨調整を施す。	後期前葉古
第501図 PL.257	359	深鉢 M18 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②褐色	口縁部内屈。口縁部2条の横位細隆線を設ける。器面磨滅。	後期前葉古
第501図 PL.257	360	深鉢 H21 口縁部破片	①細：輝石 ②鈍い黄褐色	波状縁。波頂部に強く抉りを入れ双波状効果を見せる。体部は無文。	後期前葉古
第501図 PL.257	361	深鉢 口縁部破片	①粗：石英・輝石 ②暗褐色	口縁部内面僅かに肥厚する。無文で外面は丁寧な研磨を施す。	後期前葉古
第501図 PL.257	362	深鉢 覆土 口縁部破片	①細：石英・輝石 ②灰黄褐色	口端部角頭状をなし、口縁部は無文。やや歪みを見る。	後期前葉新 87号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第501図 PL.257	363	深鉢 口縁部破片	①細：輝石多 ②灰黄褐色	薄手で無文の口縁部。外面に煤が付着する。	後期前葉 91号土坑
第501図 PL.257	364	注口土器 I 21 把手破片	①粗：石英 ②鈍い黄褐色	橋状把手。外縁に沈線が沿い。横位沈線を加える。体部は沈線による幅狭楕円意匠か、細かな刺突文を施す。	後期前葉新
第501図 PL.257	365	注口土器 I 19 注口部破片	①粗：輝石・褐色粒 ②鈍い褐色	やや短い注口部。無文で縦位研磨を施す。基部に沈線文の上端を見るが判然としない。	後期前葉新
第501図 PL.257	366	深鉢 G 15 底部残存 底：8.2	①細：石英 ②黒褐色	強く開く体部下半。内外面とも丁寧な研磨を施し平滑。底面に網代痕残る。	後期前葉
第501図 PL.257	367	深鉢 底部破片 底：(11.0)	①細：白色粒・褐色粒 ②鈍い黄褐色	大型深鉢か。体部下半は強く開く。無文。底面に木葉痕を見る。器面磨滅。やや軟質。	後期か
第501図 PL.257	368	深鉢 K 23 底部破片 底：(16.0)	①粗：輝石・褐色粒 ②明赤褐色	直立気味の体部。燃糸Rを縦位施文する。内底面に煤付着。	中期中葉
第501図 PL.257	369	浅鉢？ 底部破片 底：(10.0)	①細：輝石 ②鈍い黄褐色	薄手の器厚。内外面とも丁寧な研磨のため平滑。底面に網代痕を見る。	後期
第501図 PL.257	370	深鉢 I 22 体部～底部 3/4 残存 底：9.0	①粗：石英・雲母少・褐色粒 ②鈍い褐色	大型深鉢底部。体部下半は大きく開く。外面は雑な撫で調整、内面は丁寧な研磨を施す。	後期前葉古
第501図 PL.257	371	深鉢 覆土 底部 1/3 残存 底：(12.0)	①細：石英少・輝石 ②明褐色	底部僅かに突出し外反気味に開く体部。無文。底面に網代痕を見る。	後期前葉新 87号土坑
第501図 PL.257	372	深鉢 J 19 底部破片	①粗：石英多 ②黄褐色	端部は張り出し、外反気味の体部下半。無文で撫で調整を施す。	後期前葉
第502図 PL.257	373	土製円盤 J 19 完形 5.9×5.2×0.9	①粗：輝石 ②褐灰色	深鉢体部破片を利用。沈線で画された磨消部と縄文施文部。縦位LR。周縁は剥離調整で整形する。	中期後葉新
第502図 PL.257	374	土製円盤 完形 6.5×5.5×0.9	①粗：輝石 ②鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。沈線を施す。周縁は意図的な磨滅で丁寧な整形する。	中期末葉
第502図 PL.257	375	土製円盤 K 20 完形 3.2×3.1×0.9	①粗：輝石 ②明赤褐色	深鉢体部上半を利用。2条隆線を付す。器面磨滅するため周縁調整は不明。	中期後葉
第502図 PL.257	376	土製円盤 K 25 完形 4.1×4.1×1.1	①細：輝石 ②灰黄褐色	深鉢体部破片を利用。沈線で画された磨消部とRLを施す。周縁は意図的な磨滅を丁寧にし円形に仕上げ上げる。	中期後葉古
第502図 PL.257	377	土製円盤 I 20 完形 3.3×2.9×1.1	①粗：石英少 ②鈍い赤褐色	深鉢体部破片を利用。縦位沈線と斜位短沈線を見る。周縁は丁寧な磨滅調整を施し円形に仕上げている。	中期後葉信州系
第502図 PL.257	378	土製円盤 L 24 完形 3.7×3.6×1.1	①粗：輝石 ②明赤褐色	深鉢体部破片を利用。縦位波状沈線と斜位短沈線を見る。周辺は意図的な磨滅で円形に仕上げ上げる。	中期後葉信州系
第502図 PL.257	379	土製円盤 完形 3.6×3.2×0.8	①粗：石英 ②鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。縦位沈線と縦位RLを施す。周縁は一部に意図的な磨滅。剥離調整を主とする。	中期末葉
第502図 PL.257	380	土製円盤 完形 4.5×3.3×0.9	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色	深鉢体部破片を利用。沈線による渦巻状意匠を見る・周縁は意図的な磨滅。	中期後葉
第502図 PL.257	381	土製円盤 J 22 完形 3.1×2.9×0.9	①細：輝石 ②褐色	深鉢体部破片を利用。垂下沈線と縦位LRを施す。周縁は一部に意図的な磨滅調整を加える。	中期後葉新
第502図 PL.257	382	土製円盤 完形 4.7×4.5×1.4	①粗：輝石多 ②灰黄褐色	深鉢体部破片を利用。LRが覆う。周縁は剥離調整による整形。	中期後葉新
第502図 PL.257	383	土製円盤 完形 3.4×3.2×1.1	①粗：石英 ②鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。地文縦位LRで弧状沈線を施す。周縁の磨滅は一部に止まる。	中期後葉古
第502図 PL.257	384	土製円盤 I 22 完形 3.3×3.2×0.9	①細：輝石少 ②鈍い黄褐色	深鉢体部破片を利用。無節Lを施す。周縁は一部に意図的な磨滅調整を加え円形に仕上げ上げる。	中期末葉
第502図 PL.257	385	土製円盤 L 23 完形 4.1×3.3×0.9	①粗：輝石 ②鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。無節Lを施す。周縁は剥離調整で整形する。	中期末葉
第502図 PL.257	386	土製円盤 L 22 一部欠損 3.5×3.4×0.8	①粗：石英・輝石 ②明褐色	深鉢体部破片を利用。縦位RLを施す。周縁は意図的な磨滅で丁寧な整形する。	中期後葉
第502図 PL.257	387	土製円盤 完形 4.2×3.5×1.0	①粗：輝石 ②鈍い黄褐色	深鉢体部破片を利用。外器面磨滅のため判然としない。周縁は意図的な磨滅。	時期不詳 中期か
第502図 PL.257	388	土製円盤 Q 21 一部欠損 4.4×4.2×0.8	①粗：石英・輝石・雲母少 ②黒褐色	深鉢体部破片を利用。無文で撫で調整を施す。周縁は意図的な磨滅調整で仕上げ上げる。	中期後葉
第502図 PL.257	389	土製円盤 J 22 完形 6.4×6.4×1.8	①粗：石英 ②鈍い橙	深鉢体部下半破片を利用。無文で縦位撫で調整を施す。周縁は剥離調整で整形する。	中期後葉新
第502図 PL.257	390	土製円盤 L 23 完形 5.4×5.2×1.3	①粗：石英・雲母 ②鈍い褐色	深鉢底部破片を利用。無文で平坦である。周縁は一部に意図的な磨滅を加える。	中期後葉
第502図 PL.257	391	土製円盤 J 19 完形 6.3×5.4×1.3	①粗：輝石 ②鈍い褐色	深鉢体部上半破片を利用。外反部を残す。無文で撫で調整を施す。周縁は一部に意図的な磨滅を加える。	中期後葉
第502図 PL.258	392	土製円盤 完形 4.6×4.6×1.0	①粗：輝石 ②鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。無文で縦位研磨を見る。磨消部か。周縁は剥離調整で整形する。	中期後葉新
第502図 PL.258	393	土製円盤 外面剥落 4.1×4.1×1.1	①粗：輝石少 ②灰黄褐色	深鉢体部破片を利用。条線を施す。周縁は丁寧な剥離調整で円形に仕上げ上げる。	中期後葉新
第502図 PL.258	394	土製円盤 L 24 完形 4.0×3.7×1.0	①粗：石英・輝石 ②明赤褐色	深鉢体部破片を利用。無文で磨消部か。周縁は剥離調整で整形する。	中期後葉新
第502図 PL.258	395	土製円盤 Q 18 完形 5.0×4.8×0.7	①粗：石英少 ②暗褐色	深鉢体部破片を利用。無文で磨消部か。周縁は剥離調整で方形に仕上げ上げる。	中期後葉新
第502図 PL.258	396	土製円盤 完形 3.5×3.1×1.0	①粗：石英・輝石 ②灰黄褐色	深鉢体部破片を利用。無文でおそらく磨消部と思われる。周縁は剥離整形のみ。	中期後葉新
第502図 PL.258	397	土製円盤 完形 3.9×3.6×1.0	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。無文で削り調整を見る。周縁は剥離調整のみの整形。	中期後葉
第502図 PL.258	398	土製円盤 L 23 完形 3.4×3.0×1.2	①粗：石英 ②褐色	深鉢体部破片を利用。無文で磨消部か。周縁は剥離調整で整形する。	中期後葉新

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土調 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第502図 PL.258	399	土製円盤 I 25 完形 3.4×3.1×1.2	①粗：石英・輝石 ②褐色	深鉢体部破片を利用。斜沈線を施す。周縁は剥離調整で整形する。内面白色付着物。	中期後葉
第502図 PL.258	400	土製円盤 外面剥落 4.4×3.4×1.3	①粗：石英・雲母 ②灰黄褐色	深鉢体部破片を利用。無文で磨消部と思われる。周縁は剥離調整のみの整形。	中期後葉新
第502図 PL.258	401	土製円盤 一部欠損 6.0×5.9×1.2	①粗：輝石 ②明褐色	深鉢体部内湾部破片を利用。沈線による弧状意匠、LRを施す。周縁は剥離調整による整形。	後期前葉古
第502図 PL.258	402	土製円盤 M16 一部欠損 5.9×-×0.9	①粗：石英・輝石少 ②鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。2条の沈線及びLRを施す。周縁は一部意匠的な磨滅で整形する。	後期前葉古
第502図 PL.258	403	土製円盤 S 24 完形 5.6×5.2×0.9	①粗：輝石 ②褐灰色	外反する体部上半破片を使用。横位沈線、弧状沈線を見る。周縁は意匠的な磨滅で丁寧に整形する。	後期前葉古
第503図 PL.258	404	土製円盤 L 22 完形 4.9×4.8×0.9	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	深鉢体部上半破片を利用。横位沈線2条を施す。周縁は意匠的な磨滅で整形する。	後期前葉古
第503図 PL.258	405	土製円盤 Q17 完形 6.4×5.9×1.0	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	深鉢体部破片を利用。弧状沈線を見る。周縁は一部意匠的な磨滅を見るが剥離調整を主とする。	後期前葉古
第503図 PL.258	406	土製円盤 完形 5.0×4.6×1.1	①粗：輝石・雲母少 ②明黄褐色	深鉢体部上半破片を利用。横位沈線と弧状沈線を施す。周縁は剥離調整で整形する。	後期前葉古
第503図 PL.258	407	土製円盤 M20 完形 4.9×4.2×1.2	①粗：石英 ②鈍い黄褐色	深鉢口頸部破片を利用。隆線による渦巻文。周縁は意匠的な磨滅調整で円形に仕上げる。	後期前葉古
第503図 PL.258	408	土製円盤 完形 3.8×3.5×0.8	①粗：輝石 ②灰黄褐色	深鉢体部破片を利用。縦位沈線と縦位RLを施す。周縁は意匠的な磨滅。	後期初頭
第503図 PL.258	409	土製円盤 K 23 完形 3.1×3.5×1.3	①粗：石英・輝石 ②明黄褐色	深鉢体部破片を利用。横位弧状沈線数条を見る。周縁は一部に意匠的な磨滅調整を施す。	後期前葉古
第503図 PL.258	410	土製円盤 Q18 完形 3.3×3.2×1.1	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	深鉢体部破片を利用。横位沈線を数条施す。周縁は剥離調整で整形する。	後期前葉古
第503図 PL.258	411	土製円盤 完形 4.1×3.3×0.5	①細：輝石 ②鈍い赤褐色	深鉢頸部破片を利用。押圧を加えた隆線を施す。周縁は意匠的な磨滅調整で丁寧に仕上げる。	後期前葉古
第503図 PL.258	412	土製円盤 完形 3.3×3.2×1.0	①粗：輝石 ②灰黄褐色	深鉢体部破片を利用。細縄文LRを施す。周縁は一部に意匠的な磨滅。剥離調整を主とする。	後期前葉新
第503図 PL.258	413	土製円盤 完形 3.2×3.2×0.9	①細：石英少 ②鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。無筋L縦位施文。周縁の磨滅は丁寧に円形に仕上げる。	後期か
第503図 PL.258	414	土製円盤 J 19 完形 3.4×3.2×0.9	①粗：石英 ②橙色	深鉢体部破片を利用。無文で器面剥落する。周縁は丁寧に剥離調整で整形する。	後期前葉古
第503図 PL.258	415	土製円盤 K 25 完形 7.7×7.5×1.2	①粗：輝石少 ②灰黄褐色	深鉢底部破片を利用。底面網代痕を見る。周縁は一部に意匠的な磨滅を施し整形する。	後期前葉
第503図 PL.258	416	土製円盤 完形 5.0×4.7×1.0	①粗：石英・輝石 ②橙色	深鉢体部破片を利用。刺突文を施す。周縁は剥離調整を主とするが一部に意匠的な磨滅を見る。	後期前葉越後系
第503図 PL.258	417	土製円盤？ J 20 完形 5.3×4.7×1.5	①粗：石英 ②鈍い褐色	深鉢底部破片を利用。網代痕を見る。周縁は剥離調整による整形。	後期
第503図 PL.258	418	土製円盤 H14 完形 5.4×4.5×0.6	①粗：輝石・褐色粒 ②明赤褐色	深鉢体部下半を利用。斜位LRを施す。周縁は意匠的な磨滅で丁寧に整形する。	後期初頭
第503図 PL.258	419	土製円盤 J 19 完形 3.9×3.6×1.0	①細：石英少 ②明黄褐色	深鉢体部破片を利用。浅い細沈線を施す。周縁は意匠的な磨滅調整で整形する。	後期前葉古
第503図 PL.258	420	土製円盤 L 22 完形 5.7×5.7×1.1	①粗：石英少 ②橙色	深鉢体部破片を利用。無文で撫で調整を施す。周縁は剥離調整による整形。	後期前葉古
第503図 PL.258	421	土製円盤 一部欠損 6.5×6.4×1.1	①細：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	深鉢体部破片を利用。無文で縦位撫で調整が顕著。周縁は意匠的な磨滅で円形に整形する。	後期前葉古
第503図 PL.258	422	土製円盤 K - ? 完形 4.0×3.8×0.9	①細：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	深鉢体部破片を利用。無文で撫で調整を施す。周縁は意匠的な磨滅調整で円形に仕上げる。	後期前葉古
第503図 PL.258	423	土製円盤 J 22 完形 4.6×4.1×1.2	①粗：石英 ②明黄褐色	深鉢体部破片を利用。隆線1条を見る。周縁は意匠的な磨滅調整で整形する。	後期前葉古
第503図 PL.258	424	土製円盤 完形 4.0×3.6×0.9	①粗：石英・輝石 ②橙色	深鉢体部破片を利用。無文。周縁の磨滅は無く、剥離調整のみである。	後期前葉古
第503図 PL.258	425	土製円盤 K 23 完形 4.2×4.1×0.9	①細：石英・輝石 ②鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。無文で横位撫で調整を施す。周縁は剥離調整で整形する。	後期前葉古
第503図 PL.258	426	土製円盤 I 22 一部欠損 3.4×3.3×0.9	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	深鉢体部破片を利用。無文か器面磨滅。周縁は意匠的な磨滅調整で円形に仕上げる。	後期前葉古
第503図 PL.258	427	土製円盤 J 21 完形 5.5×5.1×0.8	①細：輝石 ②鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。無文で丁寧に研磨で平滑。周縁は剥離調整で整形する。	後期前葉古
第503図 PL.258	428	土製円盤 J - ? 完形 4.1×4.1×0.9	①粗：輝石少 ②橙色	深鉢体部破片を利用。無文で弱い撫で調整を施す。周縁は剥離調整による整形。	後期前葉古
第503図 PL.258	429	土製円盤 I 20 完形 3.7×3.5×0.9	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色	深鉢体部破片を利用。無文で撫で調整を施す。周縁は意匠的な磨滅調整で円形に仕上げる。	後期前葉 後期前葉古
第503図 PL.258	430	土製円盤 1/2欠損 5.6×-×1.2	①粗：石英 ②鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。無文で削り調整後雑な研磨を施す。周縁は剥離調整のみの整形。	後期前葉
第503図 PL.258	431	土製円盤 L 24 完形 3.9×2.9×1.2	①粗：輝石 ②鈍い赤褐色	深鉢体部破片を利用。無文で雑な撫で調整。周縁は一部に意匠的な磨滅を見る。	時期不詳
第503図 PL.258	432	土製円盤 外面剥落 (3.8×3.5)×1.0	①粗：輝石 ②黒褐色	深鉢体部破片を利用。無文か。周縁は意匠的な磨滅。	時期不詳
第503図 PL.258	433	土製円盤 L 24 完形 3.4×3.6×1.0	①粗：輝石・褐色粒 ②鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。無文で撫で調整を施す。周縁は剥離調整で整形する。	後記前葉古

5区 遺構外出土石器(第504~512図：PL.259~261)

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第504図 PL.259	1	石鎌	K-3	完形	2.5	1.5	0.2	0.6	凹基無茎、挟りが深く細身の作り。	黒曜石	



第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第504図 PL.259	2	石鎌	5区	完形	2.5	1.7	0.5	0.9	凹基無茎、扱りは弧状となる。	黒曜石	
第504図 PL.259	3	石鎌	I - 3	完形	1.8	1.0	0.3	0.5	凹基無茎、細身の小型品。	黒曜石	
第504図 PL.259	4	石鎌	5区	完形	1.8	1.1	0.3	0.3	凹基無茎、細身の小型品。	チャート	
第504図 PL.259	5	石鎌	L - 2	完形	2.0	1.5	0.4	0.8	凹基無茎、脚は左右非対称。	黒曜石	
第504図 PL.259	6	石鎌	5区	ほぼ 完形	1.9	1.5	0.4	0.5	凹基無茎、先端部にやや厚みがある。	黒曜石	
第504図 PL.259	7	石鎌	5区	ほぼ 完形	2.3	1.7	0.4	0.9	凹基無茎、扱りは深い。	黒曜石	
第504図 PL.259	8	石鎌	5区	完形	1.6	1.2	0.4	0.3	小型の凹基無茎、扱りは浅い。	黒曜石	
第504図 PL.259	9	石鎌	5区	完形	1.6	1.6	0.3	0.5	凹基無茎、ほぼ正三角形で扱ひ浅い。	黒曜石	
第504図 PL.259	10	石鎌	5区	完形	2.1	1.6	0.6	1.5	凹基無茎、片面に盛り上がりあり、縁辺部のみの剥離 整形。	黒色頁岩	
第504図 PL.259	11	石鎌	5区	完形	1.6	1.2	0.4	0.5	凹基無茎、小型品だが厚みを有す。	黒曜石	
第504図 PL.259	12	石鎌	5区	完形	1.7	1.5	0.4	0.5	凹基無茎だが、扱りは極めて浅く平基に近い形状を呈 す、小型品。	黒色安山岩	
第504図 PL.259	13	石鎌	5区	ほぼ 完形	1.2	1.1	0.3	0.2	小型の凹基無茎、扱ひ浅い。	黒曜石	
第504図 PL.259	14	石鎌	5区	完形	1.5	1.6	0.4	0.5	平基無茎、ほぼ正三角形を呈す。	黒曜石	
第504図 PL.259	15	石鎌	5区	完形	1.8	1.6	0.4	0.6	平基無茎、ほぼ正三角形を呈す。	黒色安山岩	
第504図 PL.259	16	石鎌	5区	完形	2.0	1.6	0.5	0.7	平基無茎。	珪質変質岩 (流紋岩質凝灰岩)	
第504図 PL.259	17	石鎌	5区	欠損	1.5	1.2	0.3	0.4	粗い作りの石鎌と思われる。	黒曜石	
第504図 PL.259	18	石鎌	5区	未製 品	2.1	1.7	0.6	1.3	片面は平らに大きく剥離面残る。	黒曜石	
第504図 PL.259	19	石鎌	5区	完形	2.2	1.3	0.6	0.2	平基無茎、厚手で左右不対象。	黒曜石	
第504図 PL.259	20	石鎌	5区	ほぼ 完形	2.3	1.6	0.3	1.7	平基無茎。	黒色頁岩	
第504図 PL.259	21	石鎌	5区	未製 品	2.0	0.5	0.7	1.3	片面肥厚、石鎌未製品と思われるが、25に似ており彫 器の可能性も。	黒曜石	
第504図 PL.259	22	石鎌	L - 5	完形	3.9	6.3	0.2	1.1	紡錘形を呈し先端部は尖り、基部も細く長く作られ る。丁寧な作り。	黒曜石	
第504図 PL.259	23	石鎌	5区	完形	1.6	0.6	0.3	0.3	紡錘形の小型品、石錐か。	黒曜石	
第504図 PL.259	24	石鎌	5区	欠損	2.3	1.1	0.6	(1.1)	紡錘状を呈し厚み有り、先端部欠く、錐の可能性あ り。	黒曜石	
第504図 PL.259	25	石鎌	5区	ほぼ 完形	(1.7)	(1.8)	0.3	0.4	凹基無茎、小型品、片脚の端部を僅かに欠く。	黒曜石	
第504図 PL.259	26	石鎌	5区	欠損	2.3	(1.5)	0.3	(0.6)	凹基無茎、扱ひ深く長脚、片脚を欠く。	黒色安山岩	
第504図 PL.259	27	石鎌	5区	欠損	(1.7)	(1.0)	0.2	(0.3)	基部を欠く。先端部は鋭角な作り。	黒曜石	
第504図 PL.259	28	石鎌	5区	ほぼ 完形	(1.6)	(1.7)	0.4	0.7	凹基無茎、扱ひ浅く、先端部は鈍角。	黒曜石	
第504図 PL.259	29	石鎌	1116号土 坑	欠損	(1.6)	1.6	0.5	(1.0)	先端部片。	黒曜石	
第504図 PL.259	30	石鎌	5区	欠損	(2.1)	(1.7)	0.3	(0.6)	凹基無茎、扱ひは浅い、片脚の端を欠く。	黒曜石	
第504図 PL.259	31	石鎌	66(1120) 号土坑	欠損	(1.5)	1.1	0.3	0.3	先端部片、やや薄手。	黒曜石	
第504図 PL.259	32	石鎌	5区	完形	1.8	1.4	0.3	0.9	平基無茎、片面が肥厚、やや雑な作り。	黒曜石	
第504図 PL.259	33	石鎌	5区	完形	(1.6)	1.5	(0.2)	(0.4)	凹基無茎、扱ひ浅い小型品。	黒曜石	
第505図 PL.259	34	石鎌	5区	欠損	(1.6)	1.2	0.3	0.3	凹基無茎、小型品、先端部を僅かに欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	35	石鎌	5区	欠損	(1.8)	1.6	0.3	(0.7)	凹基無茎、扱ひは深い、先端部を欠く。	黒色安山岩	
第505図 PL.259	36	石鎌	5区	欠損	(1.6)	1.5	0.4	(0.6)	凹基無茎、扱ひやや深く、先端部、側縁部欠損。	黒曜石	
第505図 PL.259	37	石鎌	5区	欠損	(1.5)	1.5	0.3	(0.5)	凹基無茎、扱ひはV字に深い、先端部を欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	38	石鎌	5区	欠損	(1.0)	1.5	0.3	(0.5)	凹基無茎、脚が開く形状、先端部を欠く。やや薄手の 作り。	黒曜石	
第505図 PL.259	39	石鎌	5区	欠損	(1.3)	1.6	0.3	(0.6)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第505図 PL.259	40	石鏃	5区	欠損	(1.0)	1.5	0.3	(0.4)	凹基無茎、先端部を欠く。比較的薄手の作り。	黒曜石	
第505図 PL.259	41	石鏃	5区	欠損	(0.7)	1.3	0.3	(0.2)	小型の凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	42	石鏃	5区	欠損	(1.2)	1.4	0.2	(0.3)	小型の凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	43	石鏃	5区	欠損	(1.2)	1.6	0.2	(0.4)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	44	石鏃	5区	欠損	(1.7)	1.5	0.3	(0.7)	凹基無茎、挟り浅く、先端部を欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	45	石鏃	5区	欠損	(1.2)	1.7	0.3	(0.4)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	46	石鏃	5区	欠損	(1.4)	1.7	0.4	(0.6)	凹基無茎、脚が開く形状、先端部を欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	47	石鏃	5区	欠損	(1.0)	1.5	0.2	(0.4)	凹基無茎、挟りやや浅い。先端部を欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	48	石鏃	5区	欠損	(1.3)	(1.2)	0.2	(0.3)	凹基無茎、小型品で先端部、脚端部を欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	49	石鏃	5区	欠損	(1.6)	(1.5)	0.3	(0.6)	凹基無茎、先端部および片脚端部を欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	50	石鏃	K-1	欠損	(1.8)	(1.2)	0.3	(0.4)	凹基無茎、挟り深い、片側側縁部分を欠損。	チャート	
第505図 PL.259	51	石鏃	5区	欠損	(1.9)	2.3	0.5	(2.0)	平基鏃か、先端部を欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	52	石鏃	5区	欠損	(2.3)	(1.4)	0.3	(0.7)	凹基無茎か、縦半分を欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	53	石鏃	5区	欠損	(2.1)	(1.3)	0.3	(0.7)	凹基無茎、挟り浅く片脚および先端部分を僅かに欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	54	石鏃	5区	欠損	(1.4)	1.6	0.5	(1.0)	平基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	55	石鏃	5区	欠損	2.1	1.5	0.7	1.7	平基無茎、厚みを有す、片側縁部分を欠く。	珪質変質岩 (流紋岩質凝灰岩)	
第505図 PL.259	56	石鏃	5区	完形	1.6	1.4	0.5	0.8	凹基無茎、小型品、中央部分肥厚、片脚および先端を欠く。	黒曜石	
第505図 PL.259	57	石鏃	5区	欠損	(1.1)	(1.0)	0.3	(0.2)	脚部片。	黒曜石	
第505図 PL.259	58	石鏃	5区	欠損	(1.1)	(1.2)	0.3	(0.3)	先端部片、やや厚手か。	黒曜石	
第505図 PL.259	59	石鏃	5区	完形	(3.3)	0.8	0.5	1.0	丁寧な作りの棒状鏃。	黒曜石	
第505図 PL.259	60	石鏃	5区	完形	2.4	0.5	0.3	0.3	細い棒状鏃、丁寧に作られている。	黒曜石	
第505図 PL.259	61	石鏃	5区	完形	2.5	0.5	0.3	0.3	細い棒状鏃、丁寧に作られている。	黒曜石	
第505図 PL.259	62	石鏃	5区	完形	2.4	0.7	0.5	0.7	棒状鏃、つまみ部と鏃部との境に弱い挟りが見られる。	黒曜石	
第505図 PL.259	63	石鏃	5区	ほぼ 完形	1.5	0.5	0.4	0.3	小型の棒状鏃、僅かに反りを有す。	黒曜石	
第505図 PL.259	64	石鏃	5区	完形	2.0	0.7	0.6	0.7	紡錘状を呈す、短身で粗い作り。	黒曜石	
第505図 PL.259	65	石鏃	5区	完形	2.3	1.0	0.6	0.8	棒状鏃であるが鏃部のみ若干の調整が施されている。作りは粗い。	黒曜石	
第505図 PL.259	66	石鏃	5区	完形	(2.6)	0.5	0.4	(0.6)	細身の棒状鏃。	玉髄	
第505図 PL.259	67	石鏃	5区	欠損	(1.9)	1.7	0.3	(0.5)	棒状鏃の先端部片か、僅かに反りを有す。	黒曜石	
第506図 PL.259	68	二次加工片	5区	完形	5.5	1.9	1.2	5.9	縦長剥片の側縁に使用痕。	黒曜石	
第506図 PL.259	69	楔形石器	5区	完形	2.4	1.2	0.7	1.9	やや扁平な角柱状の剥片端部に刃部作出。彫器か。	黒曜石	
第506図 PL.259	70	石鏃	5区	未製品	2.8	2.1	0.6	2.9	大型鏃の未製品か、先端部分欠く。	黒曜石	
第506図 PL.259	71	スクレイパー	5区	欠損	1.8	1.9	0.6	1.5	両面からの剥離あり、石鏃または鏃のつまみ部分か。	黒曜石	
第506図 PL.259	72	二次加工片	5区	欠損	1.7	1.6	0.6	1.4	やや厚みを有す小剥片、側縁に整形剥離見られる。	黒曜石	
第506図 PL.259	73	石鏃?	H-2	完形	3.8	2.9	1.3	11.5	平基無茎、粗い作りで厚み有り。未製品か。	チャート	
第506図 PL.259	74	二次加工片	5区	欠損	1.8	1.4	0.5	0.8	石鏃欠損片か。	黒曜石	
第506図 PL.259	75	二次加工片	5区	完形	1.8	1.4	0.6	0.9	石鏃の未成品か	黒曜石	
第506図 PL.259	76	二次加工片	5区	完形	2.1	3.3	1.4	5.0	半月形の剥片利用、弧状縁辺に使用痕。	黒曜石	
第506図 PL.259	77	スクレイパー	5区	完形	2.4	2.2	0.6	2.4	円形剥片縁辺部に片面剥離により刃部作出。	黒曜石	

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第506図 PL.259	78	スクレイパー	5区	完形	2.3	2.1	0.8	3.6	丸く作出された刃部を有す。	黒曜石	
第506図 PL.259	79	スクレイパー	5区	完形	2.6	1.4	0.6	2.1	なすび状を呈し片側面が高く肥厚、彫器。	黒曜石	
第506図 PL.260	80	搔器	5区	完形	1.8	1.4	0.7	1.6	中央部がやや肥厚、台形を呈す、楔形石器か。	黒曜石	
第506図 PL.260	81	スクレイパー	5区	完形	2.5	1.9	0.7	2.8	幅広のなすび状を呈す、片面が肥厚、縁辺全週に刃部作出。彫器。	黒曜石	
第506図 PL.260	82	石核	5区	完形	3.0	3.2	2.3	16.6	小石核。複数打面。	黒曜石	
第507図 PL.260	83	打製石斧	5区	完形	16.7	6.8	2.7	284	短冊形、大型で中央部が山形に剥離されている。刃部は薄く摩耗顕著。	粗粒輝石安山岩	
第507図 PL.260	84	打製石斧	182号土坑	完形	10.2	4.2	1.3	62	撥形、やや小型で片面に大きく自然面、刃部摩耗。	黒色頁岩	
第507図 PL.260	85	打製石斧	H-2	完形	12.2	5.3	1.5	164	短冊形、刃部は丸みを持つ。使用による摩耗顕著。	細粒輝石安山岩	
第507図 PL.260	86	打製石斧	5区	完形	10.4	5.3	2.0	125	撥形、刃部の広がりには僅か、基部はやや幅を持つ。	細粒輝石安山岩	
第507図 PL.260	87	打製石斧	5区	ほぼ完形	9.4	5.2	1.1	55	撥形、薄い板状礫から作り出す。両面に自然面、刃部薄く僅かに欠損。	粗粒輝石安山岩	
第507図 PL.260	88	打製石斧	I-2	完形	9.4	4.0	1.2	62	小型でやや細身、刃部は細く偏刃である。	黒色頁岩	
第507図 PL.260	89	打製石斧	5区	完形	10.5	5.5	1.6	113	撥形、刃部は細く偏刃、摩耗顕著。全体に風化が見られる。	細粒輝石安山岩	
第507図 PL.260	90	打製石斧	1212号土坑	完形	9.2	5.1	1.8	66	撥形、基部は薄く片面に自然面残る。	黒色頁岩	
第507図 PL.260	91	打製石斧	5区	ほぼ完形	9.3	4.6	1.6	78	撥形、刃部先端を欠損。	黒色頁岩	
第507図 PL.260	92	打製石斧	H-2	完形	9.9	5.1	1.1	72	撥形、小型品で片面に大きく自然面が残る。刃部は薄く凹刃。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第507図 PL.260	93	打製石斧	I-3	完形	8.4	4.2	1.6	75	小型の撥形、やや厚手の作り。	細粒輝石安山岩	
第507図 PL.260	94	打製石斧	1号石列	ほぼ完形	10.8	4.7	2.0	118	撥形、刃部に自然面。先端部を僅かに欠損か。	細粒輝石安山岩	
第507図 PL.260	95	打製石斧	1118号土坑	完形	8.7	4.3	2.2	92	やや小型の短冊形、基部厚く粗い作り。	細粒輝石安山岩	
第507図 PL.260	96	打製石斧	E-2	完形	11.4	4.9	1.6	100	撥形、基部は薄細身で刃部は開く。作りは粗い。	黒色片岩	
第507図 PL.260	97	打製石斧	1号石列	欠損	(10.6)	4.8	2.3	(144)	短冊形、基部は薄くなっており、刃部欠損。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL.260	98	打製石斧	5区	完形	6.8	5.1	1.2	60	撥形、刃部は凹く広がる、器面風化。	黒色頁岩	
第508図 PL.260	99	打製石斧	5区	ほぼ完形	9.9	5.7	2.0	108	打製石斧と見られるが形状は定形でない。刃部の厚さも左右不均一。	黒色頁岩	
第508図 PL.260	100	打製石斧	5区	完形	8.4	4.2	1.3	60	撥形、小型でやや曲がりを持つ、作りは粗い。	黒色頁岩	
第508図 PL.260	101	打製石斧	K-3	ほぼ完形	8.2	5.5	1.0	45	分銅形、薄手で両側縁の中央部に絵線を持つ。	黒色頁岩	
第508図 PL.260	102	打製石斧	H-2	欠損	(9.1)	6.9	1.6	(126)	撥形、刃部片やや薄手で、両面に自然面残る。刃は斜めに付く。	粗粒輝石安山岩	
第508図 PL.260	103	打製石斧	5区	欠損	(6.5)	5.1	1.6	(61)	撥形の刃部片、刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL.260	104	打製石斧	5区	欠損	(8.2)	5.0	2.4	(100)	片面に一部自然面残る、基部片か、粗い作り。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL.260	105	打製石斧	1116号土坑	欠損	(4.6)	4.9	1.7	(50)	刃部片。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第508図 PL.260	106	打製石斧	5区	欠損	(5.3)	5.9	1.4	(65)	刃部片。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL.260	107	打製石斧	5区	欠損	(3.9)	5.6	1.3	(30)	刃部片。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL.260	108	打製石斧	L-3	欠損	(5.7)	5.5	0.8	(34)	撥形、凹刃で薄手、両面に自然面。	粗粒輝石安山岩	
第508図 PL.260	109	打製石斧	K-2	欠損	(10.1)	4.8	1.4	(91)	撥形、両面に自然面残る。刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL.260	110	打製石斧	1号石列	欠損	(8.0)	4.8	2.0	(89)	基部片、片側縁に自然面残る。	黒色頁岩	
第508図 PL.260	111	打製石斧	K-1	欠損	(6.3)	4.7	1.5	(47)	基部片か、片面に自然面残る。	黒色安山岩	
第508図 PL.260	112	打製石斧	5区	欠損	(7.2)	4.5	1.3	(69)	基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL.260	113	打製石斧	G-5	欠損	(9.7)	6.1	2.3	(155)	撥形、やや厚みがあり側縁刃潰し、刃部を欠く	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第508図 PL.260	114	打製石斧	E-17	欠損	(8.2)	5.0	2.5	(93)	基部片、基部は薄く刃部に向かって厚手となる。刃部欠損。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL.260	115	打製石斧	J-1	欠損	(10.4)	5.1	1.7	(92)	撥形、基部は薄くなっている。刃部欠損。	細粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第508図 PL.260	116	打製石斧	5区	欠損	(6.3)	4.5	1.3	(44)	短冊形か、刃部片か、円刃。	細粒輝石安山岩	
第509図 PL.260	117	打製石斧	I - 3	欠損	(7.5)	5.4	1.9	(111)	粗い作りの基部片。	細粒輝石安山岩	
第509図 PL.260	118	打製石斧	5区	欠損	(7.1)	4.1	1.7	(66)	短冊形か、基部片、やや細身の作り。	黒色頁岩	
第509図 PL.260	119	打製石斧	1122号土坑	欠損	(4.0)	6.0	1.8	(89)	基部片か、片側側縁は厚く調整ほとんど見られず。	黒色頁岩	
第509図 PL.260	120	打製石斧	1号石列	欠損	(8.0)	6.0	2.4	(139)	大型品の基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	
第509図 PL.260	121	打製石斧	1号石列	欠損	(9.0)	5.6	1.7	(106)	撥形、刃部を欠損しているが大きく開く形状か。	細粒輝石安山岩	
第509図 PL.260	122	打製石斧	K - 2	欠損	(5.2)	4.7	1.1	(47)	撥形か、両面に自然面残る。刃部、基部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第509図 PL.260	123	打製石斧	1116号土坑	欠損	(6.3)	(4.7)	1.5	(51)	撥形の基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	
第509図 PL.260	124	石匙	5区	完形	10.6	4.3	1.2	54	薄手で片面に自然面残し、基部に弱い挟り見られる。片側縁に刃部作出。	黒色安山岩	
第509図 PL.260	125	礫器	5区	完形	7.8	6.2	2.0	176	撥形で下部が分厚い、下部を打面とした敲石か。	細粒輝石安山岩	
第509図 PL.260	126	スクレイパー	1116号土坑	完形	4.0	4.0	1.2	20	やや丸みを呈す剥片の周囲に粗い刃部を作出。	黒色安山岩	
第509図 PL.260	127	スクレイパー	5区	完形	3.5	4.6	0.8	(19)	不定形な薄片利用、僅かに刃部作出。	黒色安山岩	
第509図 PL.260	128	礫器	1号石列	完形	11.3	10.2	5.0	459	大型の石片、上部が盛り上がり、刃部状の下辺部を打面として使用か。	細粒輝石安山岩	
第509図 PL.261	129	磨製石斧	5区	欠損	(5.4)	4.5	2.5	125	基部片、表面に敲打痕顕著。	蛇紋岩	
第509図 PL.261	130	磨製石斧	5区	欠損	(4.2)	4.3	3.0	79	基部片、上端部分に丸みを持つ、厚手品である。	蛇紋岩	
第509図 PL.261	131	磨製石斧	5区	欠損	(1.8)	1.2	0.4	1.4	小型磨製石斧の基部片、稜はあまり明瞭ではない、端部やや細くなる。	蛇紋岩	
第510図 PL.261	132	磨石	5区	完形	9.6	8.8	4.7	590	やや扁平な円礫、両面使用面で平滑、若干の打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第510図 PL.261	133	磨石	1119号土坑	完形	11.7	10.1	6.7	1,126	やや大きな円礫、両面に顕著な磨り面見られる。	粗粒輝石安山岩	
第510図 PL.261	134	磨石	1号石列	完形	13.2	9.0	4.7	743	扁平な楕円礫利用、平坦面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第510図 PL.261	135	凹石	1119号土坑	完形	8.9	7.3	4.1	318	扁平な円礫の両面に浅い凹み穴を有す。側縁部に打痕。一部欠損。	粗粒輝石安山岩	
第510図 PL.261	136	磨石	1号石列	完形	8.7	7.7	7.7	736	円礫利用顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第510図 PL.261	137	磨石	1213号土坑	完形	8.8	8.1	5.2	484	円礫、片面がやや平坦で使用面か。	粗粒輝石安山岩	
第510図 PL.261	138	凹石	1号石列	完形	8.6	7.1	4.5	377	やや扁平な礫利用、両面に浅い凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第510図 PL.261	139	磨石	1119号土坑	完形	10.7	8.5	4.7	670	やや扁平な礫利用、平坦面に使用痕。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL.261	140	凹石	5区	完形	12.2	6.7	4.5	462	やや扁平な長円礫、両面に浅い凹み穴を有し側縁、端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL.261	141	磨石	1号石列	完形	13.7	7.8	5.8	957	やや扁平な俵形の礫利用、両使用面平滑で側縁部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL.261	142	凹石	1119号土坑	欠損	9.8	7.4	5.2	474	やや扁平な俵形礫、両平坦面に浅い凹み穴。端部に打痕。一部欠損。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL.261	143	磨石	1号石列	欠損	(9.1)	8.9	4.1	(410)	扁平な円礫利用、浅い打痕状の凹みを有す。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL.261	144	礫器	5区	欠損	(6.5)	4.9	3.0	(135)	棒状礫か、端部片。鉄分沈着層。	安山岩	
第511図 PL.261	145	磨石	5区	欠損	(6.8)	6.1	3.7	271	やや扁平な俵形か。平坦部側面部を使用、浅い凹み穴有す。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL.261	146	礫器	1115号土坑	欠損	(7.7)	5.3	4.3	(276)	欠損した棒状礫、端部に僅かに打痕。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL.261	147	礫器	66(1120)号土坑	欠損	12.7	6.0	3.6	542	断面やや三角の礫、平坦部分に使用痕有り、両端を欠損。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL.261	148	磨石	5区	完形	7.5	5.9	1.7	127	扁平な小礫。全面平滑である。	安山岩	
第511図 PL.261	149	磨石	L - 2	欠損	(12.2)	(6.4)	4.3	(441)	扁平で俵形を呈す。両面に2カ所ずつの浅い凹みを有す。一部欠、被熱。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL.261	150	丸石	1号石列	欠損	(9.3)	(12.5)	8.6	(1,175)	半分を欠く、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第512図 PL.261	151	軽石製品	5区	完形	6.4	4.8	1.9	16	板状で、丸みを持つ半円形を呈す。上部に円孔有り。	軽石	
第512図 PL.261	152	軽石製品	1号石列	完形	6.9	3.5	3.6	29	不定形に整形、複数の研磨面、砥石として利用か。	軽石	
第512図 PL.261	153	玉	5区	完形	4.0	3.2	2.2	44	小翡翠礫、穿孔等の加工痕は見られず。95区遺構外304と形状似る。	翡翠	

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第512図 PL.261	154	多孔石	1号石列	完形	18.2	15.7	11.3	4,115	円礫の表面に数個の浅い凹み穴。	粗粒輝石安山岩	
第512図 PL.261	155	多孔石	1号石列	完形	20.2	18.3	10	4,120	不定形な自然礫利用、表裏に2,3個の小さな凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第512図 PL.261	156	石皿	1号石列	欠損	(34.5)	24.3	6.5	(7,350)	磨り面は平らで縁も低い、上部欠損し、被熱。	粗粒輝石安山岩	

#### 95区 遺構外出土石器(第513～530図: PL.262～267)

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第513図 PL.262	1	石鏃	F-25	完形	1.9	1.5	0.4	0.7	凹基無茎、扱りは円く全体に作りは丁寧。	黒曜石	
第513図 PL.262	2	石鏃	G-15	完形	2.4	1.5	0.5	0.7	凹基無茎、扱りは円く全体に作りは丁寧。片面が膨らみを持つ。	黒曜石	
第513図 PL.262	3	石鏃	I-19	完形	2.3	1.4	0.2	0.4	凹基無茎、扱りに深く長脚である。丁寧な作り。	黒曜石	
第513図 PL.262	4	石鏃	H-16	完形	1.9	1.3	0.4	0.7	凹基無茎、小型品で扱りが深い。	黒曜石	
第513図 PL.262	5	石鏃	J-25	完形	1.7	1.5	0.3	0.4	凹基無茎、丁寧な作り。	黒曜石	
第513図 PL.262	6	石鏃	E-25	完形	1.5	1.2	0.3	0.3	やや小型の凹基無茎。	黒曜石	
第513図 PL.262	7	石鏃	E-25	完形	1.4	1.3	0.4	0.7	凹基無茎、中央から先端部にかけてやや厚みを有す。	黒曜石	
第513図 PL.262	8	石鏃	J-20	完形	2.1	1.7	0.4	0.8	凹基無茎、脚はやや開き気味。	チャート	
第513図 PL.262	9	石鏃	I-22	完形	3.8	1.8	0.4	1.5	凹基無茎、扱りに深く円い、先端部は基部に比して細く作られる	チャート	
第513図 PL.262	10	石鏃	G-15	ほぼ完形	1.8	1.3	0.3	0.7	平基無茎、やや厚みを有す。	黒曜石	
第513図 PL.262	11	石鏃	I-21	完形	1.6	1.2	0.3	0.5	凹基無茎、小型品でやや厚みがある。	黒曜石	
第513図 PL.262	12	石鏃	G-23	ほぼ完形	1.7	1.3	0.3	0.6	凹基無茎、やや小型の製品で厚みがあり脚の長さ左右非対称。	黒曜石	
第513図 PL.262	13	石鏃	S-20	完形	1.5	1.1	0.3	0.4	凹基無茎小型族、扱りに浅い。	黒曜石	
第513図 PL.262	14	石鏃	J-21	完形	1.7	1.9	0.5	0.7	凹基無茎、扱りに深いいわゆるハート形を呈す。全体に捻れが見られる。	黒曜石	
第513図 PL.262	15	石鏃	I-20	完形	1.2	1.2	0.2	0.2	凹基無茎、小型でハート形を呈す。	黒曜石	
第513図 PL.262	16	石鏃	C-23	欠損	(1.9)	1.4	0.5	(1.3)	凹基無茎、扱りに浅く中央部分が膨らむ。	黒曜石	
第513図 PL.262	17	石鏃	H-20	完形	3.0	1.5	0.4	1.4	凹基無茎、扱りに幅広く脚は短く細い。先端部が急激に細くなっている。	黒曜石	
第513図 PL.262	18	石鏃	H-20	完形	1.8	1.6	0.3	0.5	凹基無茎、小型品。	黒曜石	
第513図 PL.262	19	石鏃	P-17	ほぼ完形	1.8	1.5	0.4	0.8	凹基無茎、扱りに深くやや厚手。	チャート	
第513図 PL.262	20	石鏃	H-24	ほぼ完形	1.5	1.6	0.3	0.4	凹基無茎、小型品である。	黒曜石	
第513図 PL.262	21	石鏃	89号土坑	完形	2.2	1.6	0.4	0.9	凹基無茎、扱りに弧状で極めて浅い。反りを持つ。	黒曜石	
第513図 PL.262	22	石鏃	H-17	完形	1.7	1.6	0.3	0.6	凹基無茎、扱りに極めて浅い。未製品か。	黒曜石	
第513図 PL.262	23	石鏃	G-15	完形	1.7	1.5	0.3	0.7	平基無茎、ほぼ正三角形を呈す。	黒曜石	
第513図 PL.262	24	石鏃	95区	完形	1.3	1.3	0.3	0.4	凹基無茎、小型品。	黒曜石	
第513図 PL.262	25	石鏃	E-22	完形	(2.3)	(1.3)	0.4	(0.8)	凹基無茎、扱りに浅く片面がやや膨らむ。	黒曜石	
第513図 PL.262	26	石鏃	H-24	完形	1.6	1.3	0.3	0.6	平基無茎、	黒曜石	
第513図 PL.262	27	石鏃	O-17	完形	1.5	1.1	0.3	0.4	凹基無茎、小型で扱りに浅い。	黒曜石	
第513図 PL.262	28	石鏃	J-22	完形	2.1	1.4	0.5	1.3	平基無茎、やや厚みを有す。	珪質頁岩	
第513図 PL.262	29	石鏃	I-19	完形	1.4	1.0	0.2	0.2	凹基無茎、小型品である。	黒曜石	
第513図 PL.262	30	石鏃	L-19	完形	1.7	1.3	0.4	0.5	小型の平基無茎鏃。	黒曜石	
第513図 PL.262	31	石鏃	M-22	ほぼ完形	1.9	1.6	0.5	1.3	平基無茎、片面の中央部が肥厚。	黒曜石	
第513図 PL.262	32	石鏃	J-20	欠損	1.7	1.0	0.4	0.4	細身の先端部分。	黒曜石	
第514図 PL.262	33	石鏃	I-20	完形	2.7	2.1	0.9	2.8	平基無茎、中央部分肥厚。縁辺が薄く鋭利、未製品の可能性も。	黒曜石	
第514図 PL.262	34	石鏃	I-21	完形	2.6	1.6	0.8	1.7	凹基無茎鏃と見られるが、なすび形の小型スクレイパーの可能性も。	黒曜石	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第514図 PL.262	35	石鎌	G-15	未製品	2.4	1.3	0.6	1.8	円基鎌の未製品か、下縁部分は薄く剥離。	黒曜石	
第514図 PL.262	36	石鎌	95区	欠損	1.2	1.4	0.3	0.5	凹基無茎、挟り浅い、小型品で先端部を欠く。	黒曜石	
第514図 PL.262	37	石鎌	95区	完形	1.6	1.5	0.5	1.1	凹基無茎、挟り浅い。片面肥厚し厚手。	黒曜石	
第514図 PL.262	38	石鎌	L-25	完形	1.5	1.0	0.3	0.4	石鎌か、板状で基部が円い。側縁刃部は鋸刃状。	黒曜石	
第514図 PL.262	39	石鎌	F-25	未製品	2.3	1.5	0.6	1.7	凸基鎌、未製品と思われる。	黒曜石	
第514図 PL.262	40	石鎌	K-24	完形	1.9	1.7	0.5	1.4	凹基無茎、挟りは浅い、厚手の作りで先端部短く尖り僅かに曲がる。	黒曜石	
第514図 PL.262	41	石鎌	R-17	完形	1.3	0.9	0.5	0.5	小型品だが極めて厚く、利器としては不向き。未製品か。	黒曜石	
第514図 PL.262	42	石錐	H-21	完形	1.5	0.9	0.3	0.4	鎌と見られるが小型の石錐と判断される。なすび形で短い錐部が付く。	黒曜石	
第514図 PL.262	43	石鎌	95区	完形	2.0	1.5	0.4	1.0	凹基無茎、挟りは極めて僅か、作り粗く未製品か。	黒曜石	
第514図 PL.262	44	石鎌	H-24	完形	(2.2)	1.3	0.2	0.6	凹基無茎、細身で挟りはやや浅い。	黒曜石	
第514図 PL.262	45	石鎌	95区	完形	1.5	1.4	0.3	0.5	凹基無茎、挟り浅い。	黒曜石	
第514図 PL.262	46	石鎌	I-22	欠損	(2.7)	(1.4)	0.3	(1.0)	凹基無茎、片側の脚を欠く。	黒曜石	
第514図 PL.262	47	石鎌	L-19	欠損	(1.4)	(1.2)	0.3	(0.3)	先端部片。	黒曜石	
第514図 PL.262	48	石鎌	M-16	欠損	(2.2)	(1.4)	0.3	(0.6)	凹基無茎、挟り深く長脚。片脚を欠く。	黒曜石	
第514図 PL.262	49	石鎌	J-23	欠損	(2.4)	(1.6)	0.4	(1.0)	凹基無茎、挟りは浅い、片脚端部を欠く	黒曜石	
第514図 PL.262	50	石鎌	K-21	欠損	(2.3)	(1.5)	0.5	(0.9)	平基無茎、挟り極めて浅く脚が短い僅かに欠く。厚み有り。	チャート	
第514図 PL.262	51	石鎌	J-24	欠損	(1.3)	(1.3)	0.3	(0.3)	先端部片。	黒曜石	
第514図 PL.262	52	石鎌	L-22	完形	1.3	1.5	0.3	0.4	凹基無茎、小型で挟り深く脚が開く。	黒曜石	
第514図 PL.262	53	石鎌	J-22	欠損	2.0	1.1	0.3	0.5	基部欠損品か。	黒曜石	
第514図 PL.262	54	石鎌	188号土坑	ほぼ完形	(2.5)	(1.9)	0.4	(1.2)	凹基無茎、片脚を欠く。挟りやや浅く脚は開く。	黒曜石	
第514図 PL.262	55	石鎌	L-23	完形	1.3	1.0	0.3	0.5	凹基無茎だが挟りは極めて浅い、小型で粗い作り。未製品か。	黒曜石	
第514図 PL.262	56	石鎌	I-19	欠損	(2.4)	(1.7)	0.4	(1.5)	凹基無茎、片脚部を欠く。	チャート	
第514図 PL.262	57	石鎌	I-18	ほぼ完形	2.0	1.9	0.5	1.5	平基無茎、やや厚みを有す。	黒曜石	
第514図 PL.262	58	石錐	E-1	ほぼ完形	(2.9)	1.5	0.5	(1.6)	鎌のようにも思えるが、つまみを有す石錐と考えられる。錐部に厚み有り。	黒曜石	
第514図 PL.262	59	石鎌	J-23	完形	2.4	1.9	0.4	1.3	凹基無茎、片脚を欠損か。	黒曜石	
第514図 PL.262	60	石鎌	95区	欠損	(2.2)	(1.5)	0.5	(1.2)	平基無茎か、片側の基部を欠く。厚手である。	黒曜石	
第514図 PL.262	61	石鎌	L-20	完形	(1.8)	1.4	0.2	(0.5)	凹基無茎、極めて薄手の作り。	黒曜石	
第514図 PL.262	62	石鎌	H-14	完形	(2.0)	0.9	0.2	(0.3)	小型の円基無茎鎌か、石錐の可能性もある。	黒曜石	
第514図 PL.262	63	石鎌	D-18	欠損	(1.7)	(1.5)	0.3	(0.4)	凹基無茎、挟り深く脚が開く。片脚を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	64	石鎌	I-25	完形	2.2	1.6	0.4	1.2	凹基無茎、不定形ながら五角形を呈す。	黒曜石	
第515図 PL.262	65	石鎌	M-25	欠損	(1.3)	(1.2)	0.2	(0.2)	先端部片。	黒曜石	
第515図 PL.262	66	石鎌	J-22	欠損	(1.6)	(1.1)	0.2	(0.2)	長脚鎌の破片。	黒曜石	
第515図 PL.262	67	石鎌	X-20	欠損	1.7	(1.3)	0.3	(0.8)	平基無茎、側縁、脚の端部を僅かに欠く。	チャート	
第515図 PL.262	68	石鎌	I-21	欠損	(1.2)	1.4	0.3	(0.4)	凹基無茎、小型で挟り深い。先端部を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	69	石鎌	95区	完形	(1.7)	1.6	0.4	0.9	凹基無茎、挟り部は弧状で側縁部分に丸み、先端部僅かに欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	70	石鎌	L-23	欠損	1.2	1.7	0.3	0.5	凹基無茎、挟りは深い。先端部を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	71	石鎌	G-23	欠損	(1.5)	1.4	0.3	(0.4)	凹基無茎、挟り極めて浅い。先端部を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	72	石鎌	R-18	欠損	(1.2)	(1.0)	0.3	(0.2)	凹基無茎小型鎌、片脚および先端部分を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	73	石鎌	J-19	欠損	(1.7)	(1.8)	0.3	(0.7)	凹基無茎、挟りが深い。片脚および先端部を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	74	石鎌	H-16	欠損	1.3	1.7	0.3	0.4	凹基無茎、挟り浅い。先端部を欠く。	黒曜石	

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第515図 PL.262	75	石鎌	L-25	欠損	(0.9)	1.0	0.2	(0.2)	凹基無茎、極めて小型で脚がやや外に開く。先端部を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	76	石鎌	H-22	欠損	(1.0)	1.7	0.3	(0.5)	凹基無茎、挟り浅く、先端部を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	77	石鎌	89号土坑	欠損	(0.9)	1.3	0.2	(0.2)	凹基無茎、小型品、挟り深く先端部分を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	78	石鎌	K-17	欠損	(1.1)	(1.5)	0.3	(0.4)	凹基無茎、先端部を大きく欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	79	石鎌	I-21	欠損	(1.4)	(1.9)	0.3	(0.8)	凹基無茎、両脚端部および先端部を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	80	石鎌	I-20	欠損	(1.3)	1.8	0.3	(0.6)	凹基無茎、挟り浅い。先端部を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	81	石鎌	G-23	欠損	(1.1)	(1.2)	0.2	(0.2)	凹基無茎、小型で挟り深く脚が長い。	チャート	
第515図 PL.262	82	石鎌	K-4	欠損	(0.9)	1.3	0.2	(0.2)	凹基無茎、小型品、先端部を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	83	石鎌	E-25	欠損	(1.0)	1.4	0.3	(0.2)	凹基無茎、挟りやや深い。先端部を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	84	石鎌	I-23	欠損	(1.3)	1.7	0.3	(0.6)	平基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	85	石鎌	G-23	欠損	(1.8)	(1.8)	0.3	(0.8)	凹基無茎、片脚および先端部を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	86	石鎌	H-20	欠損	(2.2)	2.2	0.5	(2.0)	凹基無茎、先端部が斜めに欠損している。	チャート	
第515図 PL.262	87	石鎌	J-20	欠損	(1.8)	2.2	0.3	(1.4)	凹基無茎、扁平な大型品。先端部を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.262	88	石鎌	M-16	欠損	(1.8)	1.7	0.6	(2.0)	平基無茎か、先端部を欠く。	チャート	
第515図 PL.263	89	石鎌	F-25	欠損	2.0	1.9	0.6	1.7	鎌としては左右非対称である。石錐のつまみ部の可能性がある。	黒曜石	
第515図 PL.263	90	石鎌	K-24	欠損	(1.4)	(1.3)	0.3	(0.4)	側縁端部に節理面、凸基鎌の基部片か。	黒曜石	
第515図 PL.263	91	石鎌	I-20	欠損	(2.1)	2.6	0.6	(3.9)	凹基無茎だが挟りは極めて僅か、大型で幅広。先端部を欠く。	チャート	
第515図 PL.263	92	石鎌	G-14	欠損	(1.1)	1.5	0.4	(1.1)	平基無茎の先端部欠損品と見られるが、スクレイパーの可能性もある。	チャート	
第515図 PL.263	93	石鎌	H-21	欠損	(2.0)	(1.4)	0.4	(0.9)	石鎌の欠損品と見られるがスクレイパーなど他器種の可能性もある。	黒曜石	
第515図 PL.263	94	石鎌	L-18	欠損	(2.2)	(1.6)	0.3	(0.7)	凹基無茎、極めて挟りが深く長脚。片脚、先端部を欠く。	黒曜石	
第515図 PL.263	95	石鎌	W-21	欠損	(2.0)	(1.2)	0.5	(1.1)	平基無茎の基部片か、厚み有り。	黒曜石	
第516図 PL.263	96	石鎌	M-13	欠損	2.5	(1.7)	0.5	(1.4)	凸基鎌、側縁部を欠く。	チャート	
第516図 PL.263	97	石鎌	I-19	欠損	(2.0)	(1.1)	0.3	(0.4)	脚部または先端部にかけて斜めに折れている。	黒曜石	
第516図 PL.263	98	石錐	J-19	完形	4.6	2.0	0.5	2.4	三角形のつまみを有す。錐部は長く真っ直ぐに作られる。	チャート	
第516図 PL.263	99	石錐	H-21	完形	4.2	1.0	0.3	1.6	棒状錐、基部には円く小さなつまみが作られるが極めて薄い。錐部長い。	チャート	
第516図 PL.263	100	石錐	H-18	欠損	3.3	1.0	0.6	1.9	角錐状の剥片先端部に刃部を作っているが、極めて粗い作り。先端欠。	黒曜石	
第516図 PL.263	101	石錐	I-20	完形	2.8	0.7	0.4	0.8	棒状錐、両端が尖る。片側側縁のみ刃部調整。	黒曜石	
第516図 PL.263	102	石錐	J-25	完形	1.8	0.4	0.3	0.3	小型の棒状錐、基部がやや太く丁寧な作られている。	黒色頁岩	
第516図 PL.263	103	石錐	J-20	欠損	2.2	0.7	0.5	0.7	棒状錐、錐部欠損品と見られる。	黒曜石	
第516図 PL.263	104	石錐	N-15	完形	2.0	0.8	0.5	0.6	小型紡錘状を呈す。先端部は短く尖る。	黒曜石	
第516図 PL.263	105	石錐	G-21	ほぼ 完形	3.0	0.7	0.5	1.1	棒状錐、僅かに反りを持ち、先端部分のみの調整、先を僅かに欠く。	黒曜石	
第516図 PL.263	106	石錐	I-23	完形	2.4	1.4	0.4	0.9	やや大きめのつまみを有す石錐。	黒曜石	
第516図 PL.263	107	石錐	H-20	完形	3.9	1.2	1.0	3.2	断面が三角の棒状錐。粗い作り、未製品と思われる。	黒曜石	
第516図 PL.263	108	石錐	F-16	完形	2.3	0.9	0.7	1.1	三角の断面を有す棒状錐、長さに比してやや太めである。	黒曜石	
第516図 PL.263	109	石錐	M-16	完形	1.8	1.0	0.4	0.4	つまみ部が広がる小型錐。	黒曜石	
第516図 PL.263	110	石錐	H-19	完形	2.1	0.7	0.5	0.7	やや短い棒状錐。	黒曜石	
第516図 PL.263	111	石錐	J-25	欠損	(1.6)	0.5	0.5	(0.3)	断面三角の小型錐。未製品。	黒曜石	
第516図 PL.263	112	石錐	I-19	完形	1.8	0.7	0.5	0.5	小型棒状錐。未製品か。	黒曜石	
第516図 PL.263	113	石錐	L-19	欠損	3.9	1.1	0.6	2.2	基部が太い棒状錐、先端部僅かに欠損。	チャート	
第516図 PL.263	114	石錐	P-18	欠損	(2.1)	0.6	0.5	(0.8)	小型の棒状錐、基部がやや太く丁寧に作られている。先端部欠。	黒曜石	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第516図 PL.263	115	石錐	H-21	完形	2.3	0.8	0.5	0.7	断面が三角の棒状錐。基部太く先端部が細くなっている。未製品か。	黒曜石	
第516図 PL.263	116	石錐	I-20	完形	1.7	0.9	0.5	0.5	小型で短い棒状錐、先端部が短く尖る。粗い調整、未製品か。	黒曜石	
第516図 PL.263	117	石錐	H-15	欠損	1.6	0.7	0.4	0.4	小型棒状錐、先端部を欠く。	黒曜石	
第516図 PL.263	118	石錐	95区	完形	1.8	0.9	0.7	0.8	短い棒状錐か。先端部にのみ僅かな調整痕。	黒曜石	
第516図 PL.263	119	石錐	I-19	欠損	(2.0)	1.3	0.5	(1.1)	つまみ部がやや広がる石錐。錐部は扁平で先端部を欠く。	黒曜石	
第516図 PL.263	120	石錐	H-17	欠損	2.1	1.6	0.6	1.5	石錐のつまみ部分と思われる。片側が瘤状に肥厚。錐部は扁平か。	黒曜石	
第516図 PL.263	121	石鏃	I-25	完形	3.5	2.4	1.1	4.0	大型鏃、中央部分肥厚し極めて粗い作り。未製品か。	チャート	
第516図 PL.263	122	石鏃	M-16	完形	3.4	2.4	0.5	4.0	大型の円基鏃か、基部に剥がれた痕跡あり他器種の可能性もある。	黒色安山岩	
第516図 PL.263	123	楔形石器	O-13	完形	2.4	3.0	1.3	8.4	方形で片面が三角に盛り上がる。側縁部は細かい刃部調整。	黒曜石	
第517図 PL.263	124	スクレイパー	J-25	完形	2.4	1.9	0.9	3.0	片面中央部分高く縁辺部分に刃部作出。	黒曜石	
第517図 PL.263	125	スクレイパー	J-21	完形	4.7	3.3	1.2	15.2	長円で中央部部がやや肥厚する剥片、縁辺に粗い刃部を持つ。	チャート	
第517図 PL.263	126	スクレイパー	95区	完形	1.4	1.7	0.7	2.0	楕円形の剥片、表面凹凸が顕著で側縁部の調整は粗い。	黒曜石	
第517図 PL.263	127	スクレイパー	K-24	完形	2.6	1.6	0.6	1.5	器厚の方形剥片、スクレイパーや石匙の最終砕片か。	黒曜石	
第517図 PL.263	128	スクレイパー	H-25	完形	1.9	1.9	0.6	2.2	やや丸みを呈す剥片の一部縁辺部に刃部作出。	黒曜石	
第517図 PL.263	129	スクレイパー	K-23	完形	3.0	1.8	0.7	3.9	ほぼ長方形を呈し片側端部肥厚、両長辺部に粗く刃部作出。	黒曜石	
第517図 PL.263	130	スクレイパー	E-24	完形	2.9	1.2	0.5	0.9	曲がりを有す剥片で弧状の縁辺に細かい刃部を作出。	黒曜石	
第517図 PL.263	131	スクレイパー	2号溝	完形	(1.9)	1.9	0.5	(1.5)	台形を呈し下辺部分に刃部作出。	黒曜石	
第517図 PL.263	132	スクレイパー	R-18	欠損	(4.6)	2.8	1.0	(10.3)	尖頭器状で、弧状の側縁に刃部を作出。上部が肥厚。	チャート	
第517図 PL.263	133	磨製石斧	H-24	欠損	(4.8)	5.7	1.8	(98)	刃部片、刃先は摩耗し丸くなっている。敲打具として再利用か。	蛇紋岩	
第517図 PL.263	134	磨製石斧	95区	欠損	(7.4)	3.4	1.0	(33.1)	やや薄手、基部片。	蛇紋岩	
第517図 PL.263	135	磨製石斧	I-20	欠損	(2.9)	3.1	1.1	(15.2)	やや小型品、基部片。折損面平らに磨られている。	蛇紋岩	
第517図 PL.263	136	磨製石斧	H-12	欠損	(1.9)	2.5	0.7	(47)	定角式、片面が剥離欠損。	蛇紋岩	
第517図 PL.263	137	石匙	K-19	完形	6.0	2.9	0.9	10.7	縦型、つまみはややずれて付けられる。側縁部に刃部作出。	チャート	
第517図 PL.263	138	石匙	B-24	完形	13.3	5.4	1.2	77	菱形の本体に斜めに幅広のつまみ部が付く大型品。作りは粗い。	黒色頁岩	
第517図 PL.263	139	打製石斧	H-25	完形	10.8	4.3	1.3	80	小型でやや細身の作り、刃部にやや厚み有り。	細粒輝石安山岩	
第517図 PL.263	140	打製石斧	K-23	完形	10.3	4.2	1.7	91	撥形、小型で細身の作り、刃部摩耗し斜めに磨り減る。	黒色安山岩	
第517図 PL.263	141	打製石斧	K-23	完形	10.3	4.7	1.4	103	短冊形、両面に自然面、簡単な作り。	粗粒輝石安山岩	
第517図 PL.263	142	打製石斧	88号土坑	完形	14.5	5.8	1.8	188	撥形、やや薄手で細身の形態、刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第517図 PL.263	143	打製石斧	H-25	完形	11.2	4.9	1.8	95	撥形、かなり粗い作りで刃部に自然面見られる。	黒色安山岩	
第518図 PL.263	144	打製石斧	D-24	完形	11.0	4.3	1.6	83	短冊形、刃部は円刃。器面の風化が見られる。	黒色頁岩	
第518図 PL.263	145	打製石斧	H-25	欠損	(9.5)	5.2	1.7	(86)	撥形、刃部がやや斜めに欠損か。	細粒輝石安山岩	
第518図 PL.263	146	打製石斧	K-23	完形	11.6	6.3	2.7	169	撥形、基部厚く刃部は薄刃。片面に大きく自然面が残る。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第518図 PL.263	147	打製石斧	G-16	完形	12.9	4.5	1.8	129	細身で基部が僅かに曲がる。刃部摩耗。	黒色頁岩	有孔虫化石
第518図 PL.264	148	打製石斧	I-17	完形	10.9	4.6	1.4	92	撥形、刃部摩耗顕著。	黒色安山岩	
第518図 PL.264	149	打製石斧	H-23	完形	10.7	5.8	1.8	119	撥形、やや作りは粗い、刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第518図 PL.264	150	打製石斧	J-19	ほぼ完形	10.3	4.9	1.8	125	撥形、両面に自然面残る。片側の側縁は研磨されている。刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第518図 PL.264	151	打製石斧	H-14	完形	9.4	4.9	2.2	125	撥形、やや小型品で片面の刃部および基部に自然面残す。	粗粒輝石安山岩	
第518図 PL.264	152	打製石斧	L-22	完形	10.4	4.5	1.6	117	短冊形だが、摩耗し基部、刃部丸みを有す。	黒色安山岩	
第518図 PL.264	153	打製石斧	G-23	完形	12.2	4.9	1.9	129	撥形だが刃部の開きは弱い。	細粒輝石安山岩	
第518図 PL.264	154	打製石斧	L-21	完形	11.1	5.1	2.2	122	撥形、基部が薄く、中央部分が肥厚、円刃。	不明	



第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第518図 PL.264	155	打製石 斧	E-17	完形	9.9	4.6	1.6	77	小型撥形、刃部は薄い円刃。	黒色安山岩	
第518図 PL.264	156	打製石 斧	G-15	完形	11.4	5.1	2.2	150	細身の撥形、中央部にやや厚み有り。	細粒輝石安山岩	
第518図 PL.264	157	打製石 斧	X-21	欠損	12.1	6.1	2.3	180	撥形、作りは粗く基部にかけ捻れた形状を呈す。	黒色安山岩	
第518図 PL.264	158	打製石 斧	H-15	完形	10.1	4.6	1.6	108	撥形、やや小型。	黒色安山岩	
第519図 PL.264	159	打製石 斧	G-21	ほぼ 完形	(12.2)	5.0	2.0	(139)	撥形、刃部の摩耗顕著。一部欠損か。	細粒輝石安山岩	
第519図 PL.264	160	打製石 斧	M-17	完形	9.6	4.9	1.4	90	短冊形、やや小型品で刃部は丸みを有す。	黒色安山岩	
第519図 PL.264	161	打製石 斧	L-23	完形	10.8	5.8	1.3	121	撥形、やや薄手の作り、刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第519図 PL.264	162	打製石 斧	W-20	欠損	(9.2)	5.6	1.8	(133)	撥形、片面に自然面、基部を欠く。	紫蘇輝石普通輝 石安山岩	
第519図 PL.264	163	打製石 斧	H-16	欠損	(7.2)	5.0	1.9	(74)	短い撥形、片面にまるく自然面残る。	黒色安山岩	
第519図 PL.264	164	打製石 斧	95区	完形	8.6	5.1	2.6	134	基部が厚く短い短冊形。	黒色頁岩	
第519図 PL.264	165	打製石 斧	H-16	完形	8.3	4.7	1.3	58	小型撥形、刃部は薄い直刃。	細粒輝石安山岩	
第519図 PL.264	166	打製石 斧	H-15	完形	10.0	5.3	2.9	145	基部厚く刃部が薄手の作り。	黒色安山岩	
第519図 PL.264	167	打製石 斧	H-16	ほぼ 完形	8.3	4.9	2.3	87	撥形、短く刃部の摩耗顕著。	細粒輝石安山岩	
第519図 PL.264	168	打製石 斧	H-15	完形	9.1	3.8	1.4	65	小型品。	黒色安山岩	
第519図 PL.264	169	打製石 斧	K-25	ほぼ 完形	9.7	4.6	1.7	109	撥形、小型品、両面に自然面。	黒色安山岩	
第519図 PL.264	170	打製石 斧	J-20	完形	7.9	3.7	0.8	33	小型の撥形、片面に自然面、簡単な作り。	黒色安山岩	
第519図 PL.264	171	打製石 斧	J-20	完形	12.5	3.9	1.7	94	細身で基部は厚く両側縁がわずかに抉れる。刃部は薄 手の円刃。	黒色安山岩	
第519図 PL.264	172	打製石 斧	F-22	完形	7.4	3.3	1.1	30	小型品、薄手で刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第519図 PL.264	173	打製石 斧	L-25	完形	10.7	8.8	1.7	175	撥形、刃部は大きく開き石鈿状を呈す。	細粒輝石安山岩	
第519図 PL.264	174	打製石 斧	95区	完形	6.0	4.5	1.4	33	小型の撥形、短い作り。	黒色頁岩	
第519図 PL.264	175	打製石 斧	L-22	ほぼ 完形	8.8	4.0	1.6	63	小型品、刃部薄く片側縁に厚み有り。	黒色安山岩	
第520図 PL.264	176	打製石 斧	H-14	完形	10.8	6.1	2.3	139	撥形、基部はやや薄く幅も狭くなる。	細粒輝石安山岩	
第520図 PL.264	177	打製石 斧	I-21	ほぼ 完形	9.8	4.0	1.3	54	小型でやや不整形、片側縁が刃部状を呈す、スクレイ パーの可能性も。	黒色安山岩	
第520図 PL.264	178	打製石 斧	C-25	ほぼ 完形	14.1	5.3	2.4	196	撥形、基部は厚みがあるが、刃部は剥離したものか薄 くなる。	黒色安山岩	
第520図 PL.264	179	打製石 斧	C-25	完形	(9.7)	4.8	2.0	93	撥形、基部がやや厚く刃部は薄くなる。粗い作り。	細粒輝石安山岩	
第520図 PL.264	180	打製石 斧	G-15	欠損	(8.4)	4.8	1.5	(84)	撥形、刃部は丸みを有す。摩耗顕著。基部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第520図 PL.264	181	打製石 斧	K-22	欠損	(6.6)	5.5	1.4	(78)	片面に自然面残る刃部片。	粗粒輝石安山岩	
第520図 PL.264	182	打製石 斧	H-15	欠損	(5.2)	5.4	1.4	(55)	摩耗した刃部片。やや厚手。	細粒輝石安山岩	
第520図 PL.264	183	打製石 斧	F-24	欠損	(7.3)	5.5	2.1	(112)	刃部片。	黒色頁岩	
第520図 PL.264	184	打製石 斧	89号土坑	欠損	(6.0)	5.7	1.7	(100)	刃部片、直刃で片面に自然面のこる。	細粒輝石安山岩	
第520図 PL.264	185	打製石 斧	X-21	欠損	(6.7)	5.2	1.5	(73)	全体に摩耗した刃部片。	細粒輝石安山岩	
第520図 PL.264	186	打製石 斧	I-21	欠損	(8.6)	4.9	1.7	(92)	片面に自然面、基部片と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第520図 PL.264	187	打製石 斧	G-15	欠損	(8.6)	6.0	2.0	(128)	基部を欠く、やや厚みを有し、両面に自然面。全体的 に風化が顕著。	粗粒輝石安山岩	
第520図 PL.264	188	打製石 斧	I-21	欠損	10.0	(4.9)	1.7	(85)	粗い作り、刃部欠く。	細粒輝石安山岩	
第520図 PL.264	189	打製石 斧	H-15	欠損	(4.5)	4.2	1.7	(35)	刃部片。	細粒輝石安山岩	
第520図 PL.264	190	打製石 斧	N-15	欠損	(9.0)	5.7	2.9	(151)	やや厚みを有す、両側縁の刃潰し顕著。刃部片と思わ れる。	黒色安山岩	
第520図 PL.264	191	打製石 斧	95区	欠損	(6.8)	5.1	1.7	(57)	刃部は丸みを有す、基部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第521図 PL.264	192	打製石 斧	86号土坑	欠損	(7.7)	4.1	1.8	(67)	撥形、片面に自然面残る。基部片。	細粒輝石安山岩	
第521図 PL.264	193	打製石 斧	H-16	欠損	(12.4)	5.5	1.2	(77)	薄手の撥形、基部両側縁に浅く抉りを有す。刃部薄く 先端部欠損。	細粒輝石安山岩	
第521図 PL.264	194	打製石 斧	G-15	欠損	(14.6)	6.5	3.0	(337)	大型の短冊形、両面に自然面残す。刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第521図 PL.264	195	打製石 斧	I -15	欠損	(10.7)	6.2	1.8	(180)	板状の礫利用、両面に自然面、刃部欠損。	粗粒輝石安山岩	
第521図 PL.265	196	打製石 斧	95区	欠損	(7.8)	5.2	1.5	(54)	薄手の撥形、片面に自然面残す基部片。	黒色安山岩	
第521図 PL.265	197	打製石 斧	M -18	欠損	(10.6)	5.0	1.7	(105)	撥形、片面に自然面残る。刃部の一部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第521図 PL.265	198	打製石 斧	272号土坑	欠損	(9.2)	5.5	1.3	(106)	短冊形か、片面は平らな自然面、やや薄手で作りは粗い。刃部欠損。	粗粒輝石安山岩	
第521図 PL.265	199	打製石 斧	95区	欠損	(9.6)	5.8	2.0	(99)	撥形か、刃部を欠く。	黒色安山岩	
第521図 PL.265	200	打製石 斧	W -20	欠損	(7.9)	4.1	0.9	(41)	薄手で片面に大きく自然面が残る。基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	
第521図 PL.265	201	打製石 斧	J -3	欠損	(7.7)	4.9	1.3	(69)	薄手の基部片と思われる。	黒色安山岩	
第521図 PL.265	202	打製石 斧	H -22	欠損	(8.8)	4.8	2.4	(103)	基端部は薄く中央部厚みがある。刃部欠損。	黒色頁岩	
第521図 PL.265	203	打製石 斧	J -21	欠損	(7.7)	5.0	3.3	(161)	極めて厚手の基部片。	粗粒輝石安山岩	
第521図 PL.265	204	打製石 斧	R -17	欠損	(6.0)	3.8	1.1	(26)	基部片と思われるが作りは粗い。	細粒輝石安山岩	
第521図 PL.265	205	打製石 斧	L -22	欠損	(4.9)	3.6	1.7	(57)	基部片と思われる。	黒色安山岩	
第521図 PL.265	206	打製石 斧	M -22	欠損	(8.7)	5.4	1.7	(109)	片面に自然面残る基部片。	細粒輝石安山岩	
第521図 PL.265	207	打製石 斧	I -25	欠損	(8.7)	6.6	2.0	(139)	大型品の基部片と見られる。	黒色安山岩	
第522図 PL.265	208	打製石 斧	K -22	欠損	(8.2)	3.3	1.5	(40)	細身の基部片。	黒色安山岩	
第522図 PL.265	209	打製石 斧	H -16	欠損	(8.4)	6.8	0.9	(67)	薄い幅広の板状で両面に自然面。基部片か。	粗粒輝石安山岩	
第522図 PL.265	210	打製石 斧	L -21	欠損	(6.5)	4.8	1.8	(60)	両面に自然面の残る基部片。	細粒輝石安山岩	
第522図 PL.265	211	打製石 斧	U -18	欠損	(6.1)	4.2	1.3	(27)	大きく剥離欠損した基部片と思われる。	黒色安山岩	
第522図 PL.265	212	打製石 斧	95区	欠損	(6.2)	4.0	1.9	(51)	基部片。	細粒輝石安山岩	
第522図 PL.265	213	打製石 斧	K -25	欠損	(11.6)	5.4	1.8	(115)	中央の側縁部に浅い抉り。刃部摩耗し丸みを呈す。基部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第522図 PL.265	214	打製石 斧	I -21	欠損	(7.1)	4.2	1.1	(54)	両面に自然面、基部片と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第522図 PL.265	215	打製石 斧	K -25	欠損	(6.1)	5.3	0.9	(41)	薄手の基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	
第522図 PL.265	216	打製石 斧	K -20	欠損	(6.2)	3.6	1.1	(34)	片面に自然面残る基部片と思われる。	黒色頁岩	
第522図 PL.265	217	打製石 斧	K -25	欠損	(8.5)	5.4	1.4	(85)	基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	
第522図 PL.265	218	打製石 斧	M -18	欠損	(6.4)	4.0	1.4	(50)	基部片、基部上端および片側縁に自然面。	黒色安山岩	
第522図 PL.265	219	打製石 斧	W -21	欠損	(5.0)	4.4	1.0	(23)	薄手で先端が丸みを帯びたV字状を呈す。縁辺の調整細かい。基部片か、石匙の可能性もある。	黒色安山岩	
第522図 PL.265	220	打製石 斧	H -16	欠損	(5.5)	5.3	1.3	(65)	両面に自然面、基・刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第522図 PL.265	221	打製石 斧	I -19	欠損	(5.9)	4.4	1.7	(85)	基部片と思われる。	黒色安山岩	
第522図 PL.265	222	打製石 斧	95区	欠損	(5.3)	3.9	1.1	(28)	小型薄手の基部片。	黒色頁岩	
第522図 PL.265	223	打製石 斧	I -22	欠損	(3.3)	5.1	1.8	(31)	基部片か。	黒色安山岩	
第522図 PL.265	224	スクレ イパー	N -24	完形	7.1	7.1	1.0	69	薄手の台形を呈す、下辺部に刃部作出。	黒色安山岩	
第522図 PL.265	225	スクレ イパー	O -18	欠損	(5.1)	4.6	0.5	(13)	半月状の薄手剥片の側縁に刃部を作出。	黒色安山岩	
第522図 PL.265	226	スクレ イパー	X -21	完形	6.9	6.0	0.9	62	片面に自然面残す剥片側縁に、粗く刃部を作出。	黒色安山岩	
第522図 PL.265	227	石核	C -25	完形	9.3	7.2	5.0	394	ほぼ全面に剥離面を持つ。	黒色頁岩	
第523図 PL.265	228	礫器	F -18	完形	14.0	7.2	4.9	525	厚手の礫片、側縁部を剥離調整。	黒色安山岩	
第523図 PL.265	229	不定形 石器	M -16	完形	10.8	7.3	3.0	214	頭部は厚手で大きく開き、下部側縁は細く作出されている。未製品か。	黒色安山岩	
第523図 PL.265	230	磨石	J -25	完形	11.6	8.0	5.4	763	やや扁平な長円礫、使用面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第523図 PL.265	231	磨石	90号土坑	完形	11.1	8.4	6.6	920	拳大の円礫利用、使用面平滑で、端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第523図 PL.265	232	磨石	95区	完形	8.7	8.2	6.6	630	拳大の円礫、使用面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第523図 PL.265	233	磨石	K -17	完形	12.1	7.5	5.4	700	長円礫、表面比較的平滑、片面に煤付着、被熱。	粗粒輝石安山岩	
第523図 PL.265	234	磨石	I -16	完形	10.3	6.9	4.8	520	やや扁平な長円礫、表裏の平坦面を使用。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第523図 PL.265	235	磨石	C-25	完形	9.5	7.4	4.5	446	やや扁平な円礫、表面は比較的平滑。	黒色安山岩	
第523図 PL.265	236	磨石	S-18	完形	8.2	4.8	4.4	280	やや長めの卵形を呈す、表面平滑。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第524図 PL.265	237	磨石	90号土坑	完形	15.6	6.3	3.7	560	棒状の扁平礫、端部に僅かな打痕。	粗粒輝石安山岩	
第524図 PL.265	238	磨石	95区	ほぼ 完形	11.2	7.7	3.3	468	扁平な小判形を呈す。両使用面平滑で、僅かに打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第524図 PL.265	239	磨石	G-15	完形	6.6	6.0	3.9	230	やや扁平な小円礫、表面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第524図 PL.265	240	磨石	J-25	完形	11.2	8.0	5.8	750	やや扁平な礫利用、磨り面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第524図 PL.265	241	磨石	C-25	完形	8.9	6.1	3.9	280	やや扁平な楕円形礫、両面使用面とし打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第524図 PL.265	242	磨石	W-22	完形	4.7	3.3	3.0	62	小型の卵形を呈す。	粗粒輝石安山岩	
第524図 PL.265	243	磨石	S-18	完形	5.8	5.1	4.0	64	小円礫。	粗粒輝石安山岩	
第524図 PL.265	244	磨石	95区	完形	8.6	7.6	6.9	620	拳大の円礫、あまり平滑さは見られない。	粗粒輝石安山岩	
第524図 PL.266	245	磨石	Q-19	完形	6.7	7.2	5.5	340	小円礫。	粗粒輝石安山岩	
第524図 PL.266	246	磨石	X-21	完形	6.6	3.9	3.4	136	卵形の小礫、平滑さは見られない。	デイサイト	
第524図 PL.266	247	磨石	G-20	完形	8.5	6.7	4.8	342	片面が丸く肥厚、表面ややざらつきが有る。	粗粒輝石安山岩	
第524図 PL.266	248	磨石	B-20	完形	10.4	5.8	5.0	500	やや角張った長円礫、両端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第524図 PL.266	249	磨石	J-12	完形	8.1	6.1	4.0	380	扁平な楕円礫。	粗粒輝石安山岩	
第525図 PL.266	250	磨石	M-16	欠損	9.9	6.1	3.9	(319)	扁平な小判形の礫、一部に剥離。	粗粒輝石安山岩	
第525図 PL.266	251	磨石	I-24	完形	8.2	6.3	4.2	322	やや扁平な小礫、表裏中央に浅い打痕。	粗粒輝石安山岩	
第525図 PL.266	252	磨石	188号土坑	完形	12.9	8.9	4.5	720	扁平な楕円礫、両面使用。	粗粒輝石安山岩	
第525図 PL.266	253	磨石	G-15	完形	9.9	9.8	6.1	730	やや扁平な円礫発泡質の石材。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第525図 PL.266	254	磨石	H-16	完形	12.6	8.6	5.8	920	やや扁平な長円礫、やや大振り。	粗粒輝石安山岩	
第525図 PL.266	255	磨石	B?-16	完形	12.0	10.0	3.6	680	扁平な楕円形を呈す。一面僅かに窪む。	粗粒輝石安山岩	
第525図 PL.266	256	磨石	86号土坑	完形	7.0	6.8	5.0	306	小円礫、一部に打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第525図 PL.266	257	磨石	H-17	完形	8.0	5.2	2.8	159	扁平な長円礫。	粗粒輝石安山岩	
第525図 PL.266	258	磨石	X-20	完形	4.6	4.2	1.2	55	扁平な小円礫、被熱。	粗粒輝石安山岩	
第526図 PL.266	259	磨石	L-23	完形	9.9	7.1	2.1	190	扁平な楕円形を呈す。	粗粒輝石安山岩	
第526図 PL.266	260	磨石	89号土坑	完形	10.2	7.4	5.0	590	やや扁平な円礫、両面使用面とし、浅い打痕あり。	粗粒輝石安山岩	
第526図 PL.266	261	磨石	W-21	完形	6.0	5.0	4.0	132	小型の円礫。	粗粒輝石安山岩	
第526図 PL.266	262	磨石	271号土坑	完形	11.4	8.5	4.4	620	扁平で不定形、硬質の石材で側縁に打痕見られる。	流紋岩	
第526図 PL.266	263	磨石	G-16	完形	9.5	6.3	3.5	300	やや扁平な長円礫、表面は比較的平滑。	粗粒輝石安山岩	
第526図 PL.266	264	磨石	95区	完形	6.5	5.8	5.4	226	小円礫、表面にざらつきが見られる。	粗粒輝石安山岩	
第526図 PL.266	265	磨石	T-19	完形	8.1	4.9	4.0	170	小型の棒状礫。	粗粒輝石安山岩	
第526図 PL.266	266	磨石	H-24	完形	14.1	7.2	6.0	970	棒状礫、やや大振り。	粗粒輝石安山岩	
第526図 PL.266	267	磨石	G-19	完形	15.3	7.7	5.2	940	棒状礫利用、片面が丸く肥厚。	粗粒輝石安山岩	
第526図 PL.266	268	磨石	G-15	完形	6.4	5.2	4.0	146	小円礫、赤色を呈す。	安山岩	
第526図 PL.266	269	磨石	H-22	完形	9.4	5.8	2.3	190	扁平な礫、丸みを持った長方形を呈す。一面に短く溝状の凹みがある。	安山岩	
第526図 PL.266	270	磨石	K-17	完形	13.0	6.0	4.6	610	角張った棒状礫、表面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第527図 PL.266	271	磨石	K-25	完形	12.1	8.2	4.2	640	扁平な長円礫、両面使用面、中央に浅い打痕見られる。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第527図 PL.266	272	磨石	85号土坑	完形	7.0	5.1	3.8	215	小型の円礫、被熱か。	粗粒輝石安山岩	
第527図 PL.266	273	磨石	H-17	欠損	(7.7)	4.7	3.1	(190)	やや扁平な棒状礫の欠損品。	粗粒輝石安山岩	
第527図 PL.266	274	凹石	O-17	完形	11.4	8.4	4.8	700	やや扁平な長円礫、表裏に一对の浅い凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第527図 PL.266	275	凹石	F-15	完形	11.9	6.8	5.2	670	長円形礫の両面に1対ずつの凹み穴が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第527図 PL.266	276	磨石	I-20	欠損	(11.8)	(7.9)	(3.5)	(550)	扁平で小判形を呈す、片面が剥離、被熱。	粗粒輝石安山岩	
第527図 PL.266	277	凹石	L-22	完形	11.5	7.4	3.5	420	扁平な楕円形を呈す、両面に1対ずつの凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第527図 PL.266	278	凹石	K-3	完形	11.2	8.3	5.9	780	やや扁平な楕円形の礫、両面に浅い凹み穴が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第527図 PL.266	279	凹石	G-25	完形	11.7	8.6	4.5	630	扁平な長円礫、両面使用面、中央に浅い凹みを有す。	粗粒輝石安山岩	
第528図 PL.266	280	磨石	I-24	完形	12.8	8.3	4.1	680	扁平な長円礫、表面は比較的平滑。	砂岩	
第528図 PL.267	281	凹石	I-18	欠損	(6.3)	(7.6)	4.7	(282)	長円形の礫、両面に複数の凹み穴を有す、半分を欠く。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第528図 PL.267	282	磨石	G-16	欠損	(4.9)	5.4	4.0	(152)	欠損品、表面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第528図 PL.267	283	磨石	A-22	完形	12.1	5.7	3.6	360	棒状礫、片面中央および端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第528図 PL.267	284	磨石	B-15	欠損	(7.1)	5.3	3.0	(222)	扁平な棒状礫の欠損品。	粗粒輝石安山岩	
第528図 PL.267	285	磨石	H-14	欠損	(6.1)	7.2	2.2	(182)	扁平な礫を利用、両面平滑、欠損品。	粗粒輝石安山岩	
第528図 PL.267	286	磨石	K-17	欠損	(8.6)	4.5	3.5	(176)	棒状礫の欠損品、端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第528図 PL.267	287	磨石	H-15	欠損	(3.7)	(5.1)	3.5	(96)	棒状か、両面に浅い凹みを有す。両端部を欠く。	流紋岩	
第528図 PL.267	288	磨石	G-22	欠損	(4.7)	7.8	2.9	(133)	扁平な礫を利用、被熱。	粗粒輝石安山岩	
第528図 PL.267	289	敲石	F-4	完形	11.4	7.3	5.0	930	扁平な長円礫、やや大振りて打面はほぼ平ら。	石英閃緑岩	
第528図 PL.267	290	磨石	89号土坑	ほぼ 完形	11.8	6.2	3.4	397	扁平な長円礫、両面に打痕による浅い凹みが見られる。	安山岩	
第528図 PL.267	291	磨石	J-19	完形	6.9	5.9	2.8	158	扁平な小円礫。	粗粒輝石安山岩	
第528図 PL.267	292	磨石	I-21	欠損	(8.1)	5.9	3.4	(260)	扁平な棒状か、欠損品、被熱。	粗粒輝石安山岩	
第529図 PL.267	293	凹石	N-22	欠損	(11.6)	8.0	5.5	(530)	不定形な礫、表裏面に浅い凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第529図 PL.267	294	凹石	B-18	完形	11.5	8.6	6.5	550	不定形な発泡質の石を利用、表裏面に1つずつ凹み穴が穿たれる。	安山岩質熔岩	
第529図 PL.267	295	凹石	J-19	完形	7.4	6.6	4.8	288	不定形な礫の一面にやや大きい凹み穴が見られる。	集塊熔岩	
第529図 PL.267	296	磨石	B-20	完形	17.7	13.7	10.8	3,690	大型の長円礫、端部に打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第529図 PL.267	297	敲石	F-24	ほぼ 完形	19.6	10.3	7.3	(2,000)	大型の棒状礫、両端部に打痕有り。	石英閃緑岩	
第529図 PL.267	298	磨石	L-23	完形	14.0	9.3	5.3	1,080	扁平で比較的大型の礫、平坦面はやや平滑。	安山岩	
第529図 PL.267	299	磨石	I-20	欠損	(15.2)	7.9	4.4	(720)	扁平な長円礫、両面に剥離が見られる。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第529図 PL.267	300	軽石製品	K-25	欠損	(7.1)	(4.2)	2.8	(40)	石皿のミニチュアか。	軽石	
第529図 PL.267	301	軽石製品	K・L・ M?	完形	4.5	3.6	3.1	20	小型の卵状を呈す。	軽石	
第530図 PL.267	302	砥石か	C-25	完形	7.1	4.5	4.6	70	発泡質の火山質岩、砥石として使用か。	軽石	
第530図 PL.267	303	軽石製品	D-18	ほぼ 完形	7.3	6.3	3.9	46	平らに整形された下面を作業面として使用、砥石と思われる。	軽石	
第530図 PL.267	304	大珠	H-15	完形	4.0	3.2	1.9	32	やや小型品、短いなすび形で片面は平ら。上部に両側面からの穿孔あり。	翡翠	
第530図 PL.267	305	石皿	I-21	欠損	(5.3)	(9.9)	5.1	(480)	縁辺部破片。縁の高まりは弱い。裏面に凹み穴有す。	緑色片岩	
第530図 PL.267	306	台石	F-16	欠損	(14.4)	14.3	7.3	(2,000)	比較的厚手の台石破片か、被熱。	粗粒輝石安山岩	
第530図 PL.267	307	石皿	H-19	欠損	(12.0)	(7.0)	5.5	(580)	縁辺部破片。縁の高まりは弱い。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第530図 PL.267	308	石皿	H-16	欠損	(14.5)	(18.4)	11.6	(4,450)	不定形な大型石片の上面を浅く窪めて使用面とする。	粗粒輝石安山岩	
第530図 PL.267	309	石棒	H-15	破片	(16.8)	(4.8)	(4.9)	(630)	大型石棒片、被熱。	緑色片岩	
第530図 PL.267	310	石棒	K-23	欠損	(4.3)	3.0	1.8	(46)	破片、断面は両面が平らな楕円形。	緑色片岩	
第530図 PL.267	311	石棒	N-21	破片	(14.3)	(8.5)	(4.5)	(950)	大型石棒片、被熱。	緑色片岩	
第530図 PL.267	312	石棒	I-19	破片	(7.5)	(4.8)	(1.9)	(72)	石棒片。	緑色片岩	
第530図 PL.267	313	石棒	I-25	破片	(10.0)	(7.9)	(3.0)	(342)	断面半月状の大型石棒片。被熱。	緑色片岩	

### 第3節 平安時代以降の遺構と遺物

本年度調査を実施した長野原一本松遺跡で検出された遺構および遺物については、縄文時代のものが主体をしめていた。該期以降については弥生～古墳時代の遺構は無く、遺物についても確認されていない。

遺構は、基本土層で言えばⅢ層、ないしは上層において検出、または確認されたものである。主な遺構としては焼土、土坑、溝、石列等である。以下、各遺構について概説する。なお、出土遺物については縄文時代に帰属する遺物に関しては、縄文時代の遺構外出土遺物として記載している。

#### 1. 焼土

焼土については総数21基が検出された。このうち切り合いや層位、出土遺物などから12基を平安時代以降のものとした。内訳は5区において7基、95区において5基を検出した。分布状況を見ると、調査区の北側から中央さらには西側にかけて点在する。明らかに近現代の攪乱に伴うものもあるが、層位や出土遺物から明らかに平安期にまで遡るものも存在する。

5-6・10～15号焼土は平安時代以降（近世の可能性が高い）の所産と考えられる。いずれも円形あるいは不定形に広がる焼土が検出されている。縄文住居の覆土最上面に位置するものも見られる。出土遺物はほとんど無く、焼土も比較的薄い。いずれも性格は不明である。

#### 5-6号焼土（第532・534図：PL.113・268）

J-2グリッドに位置する。長径50cmほどの広がりを持つ焼土が確認された。焼土は明るく発色し、西が開く馬蹄形を呈していたことから、住居のカマドを想定して調査を行った。最終的に住居跡であることを明確にできなかったものの、断面に弧状の焼土層および下層に灰層を認めたことや、焼土内および西側において土師器甕の小片、須恵器片が出土していることから、上部を削平されたカマドである可能性が高い。周辺において検出されている、平安時代後期の住居跡の痕跡であると思われる。

#### 5-10号焼土（第532図：PL.113）

5-8号住居内に覆土上層に位置する。径60cm程の円形に広がる焼土を認めた。出土遺物は見られない。

#### 5-11号焼土（第532図：PL.113）

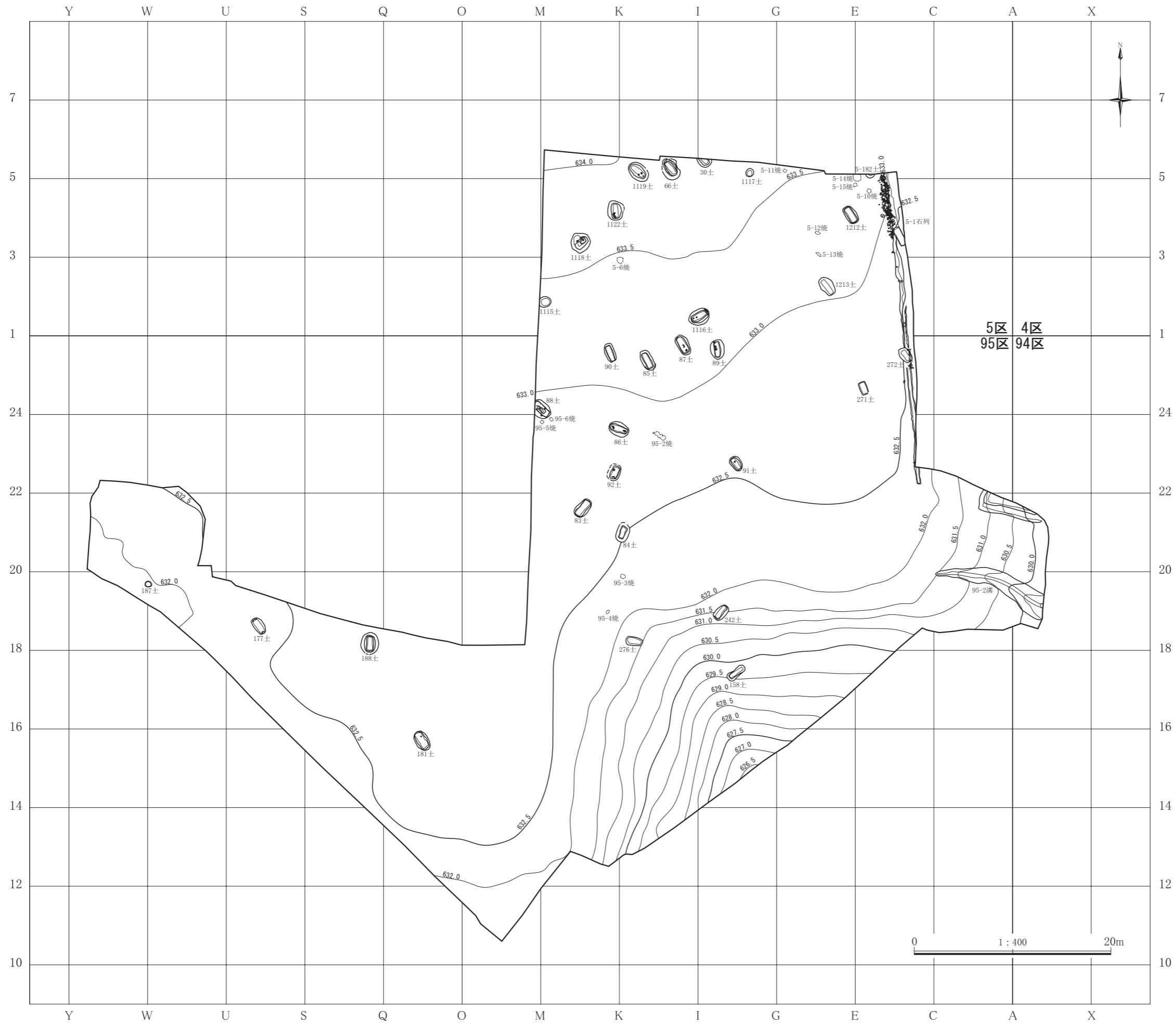
F-5グリッドに位置する。調査区の北端に南側の一部を検出した。不定形に広がる焼土層と長円形の掘方を検出した。出土遺物は見られない。

#### 5-12号焼土（第532図：PL.113）

5-156号住居跡内に位置する。覆土上層に検出された。不定形に広がる焼土が見られた。出土遺物はない。

#### 5-13号焼土（第532図：PL.113）

5-12号焼土とともに、5-156号住居跡内に位置する。覆土上層に検出された。不定形に広がる焼土が見られた。出土遺物はない。



第531図 5・95区全体図（平安時代以降）

5-14号焼土 (第533図：PL.114)

5-8号住居内に覆土上層位置する。北側は調査区外となる。縦横1m程に広がる焼土が検出された。焼土の厚さは約5cmである。出土遺物は見られない。

5-15号焼土 (第533図：PL.114)

5-8号住居内に位置する。径30cm程に広がる焼土を認めた。焼土下に土坑が検出された。焼土はレンズ状に落ち込んでおり、土坑との関連が想起される。住居を切って掘り込まれている。

95-2号焼土 (第533図：PL.114)

長さ約1.5m、最大幅約50cmで不定形に広がる焼土である。焼土はやや攪乱を受けた状況であり明瞭な範囲を示さない。出土遺物も無く時期は平安以降と考えられる。

95-3号焼土 (第533図：PL.114)

J-19グリッドに位置する。95-38号住居の上面に重複。楕円形の焼土範囲を示し、土器片および北西部に火を受けた角礫が出土している。焼土は中央部がやや厚みを持つ。

95-4号焼土 (第533図：PL.114)

K-18グリッドに位置する。範囲は不定形で小さい。焼土は少量で一部ブロック状に検出されている。出土遺物はほとんど見られない。

95-5号焼土 (第533図：PL.114)

L-23グリッドに位置する。95-37号住居内、95-15号住居跡の北壁部分に重複する。若干の焼土ブロックの周囲に焼土粒が広がる。出土遺物は見られなかった。焼土下に深さ30cmの土坑が検出されている。

95-6号焼土 (第533図：PL.114)

95-37号住居内に検出、明るい黄褐色を呈す焼土ブロックが円形に検出された、住居よりは新しいものと判断される。出土遺物は見られない。95-5号焼土の東に近接しており一連のものである可能性が高い。

2. 土坑 (第535～550図：PL.115～124)

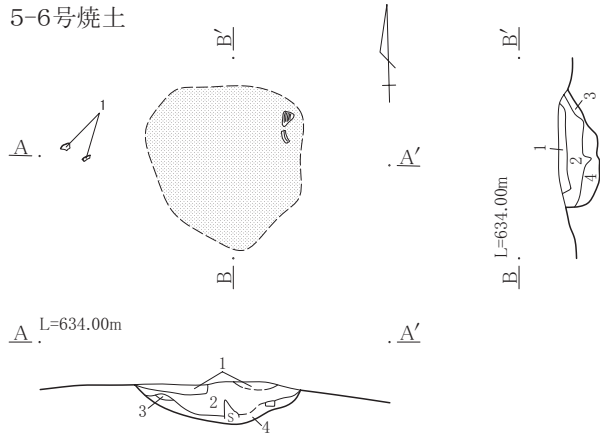
5・95区調査区内でⅢ層遺構確認時に比較的上面において、平安時代以降（近・現代も含む）の所産と考えられる30基を、さらに西側の8・17・18・19区内において11基の総数41基の土坑を検出した。

これらの土坑の内、比較的大型で深さがあり、楕円形または隅丸長方形を呈した、陥し穴と判断されるものが複数基検出されている。こうした土坑については長野原一本松遺跡において、これまでに100基以上が調査されており、今回の調査においても34基（過年度に調査され今回追加調査したものは除く）を調査した。以下各区ごとに概要を記す。

大型で楕円または隅丸長方形を呈し、掘り込み面がⅢ層からで、深さ1m以上の土坑は陥し穴と判断される。覆土は黒味が強く軟質で、その多くは遺構確認時、中央にロームブロックや炭化物、軽石の混土が円形に認められることが多い。一部には焼土を伴うものも見られる。

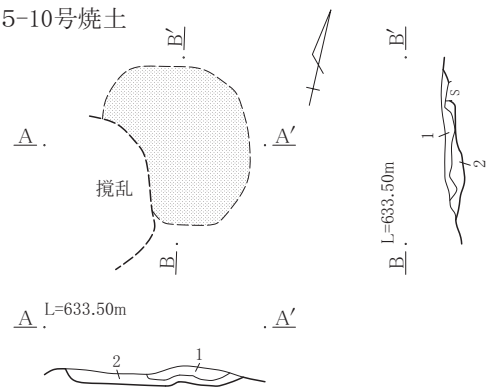
第3章 検出された遺構と遺物

5-6号焼土



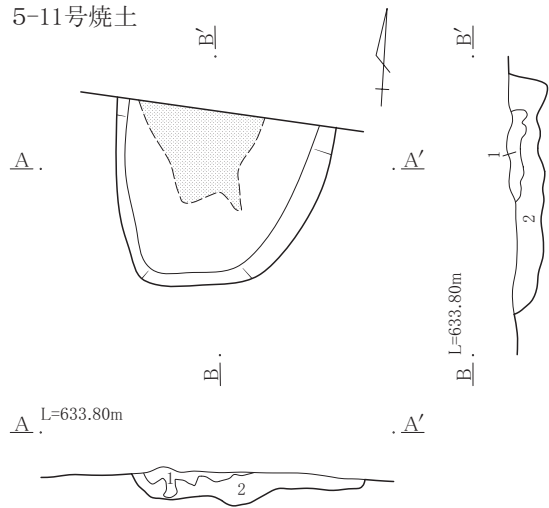
- 5-6号焼土  
 1 暗褐色土 焼土(橙色)細粒、淡黄軽石少量含む。  
 2 暗褐色土 1に焼土(橙色)ブロック多く混入し炭化物僅かに含む。  
 3 暗褐色土 焼土(橙色)および淡黄軽石僅かに含む。  
 4 青灰色土 灰層、シルト質。

5-10号焼土

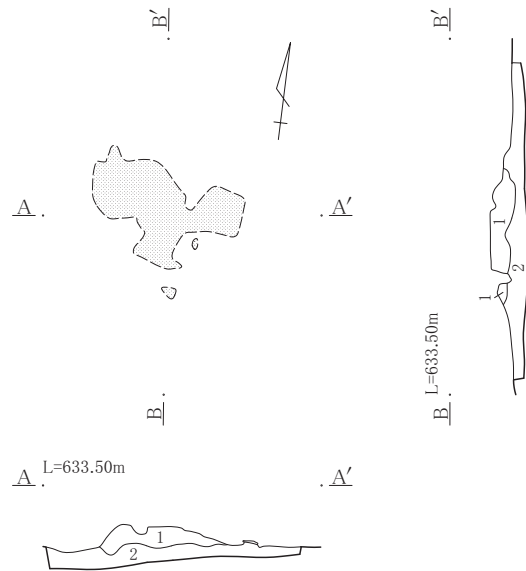


- 5-10号焼土  
 1 橙褐色土 焼土。  
 2 暗褐色土 僅かに焼土粒含む。

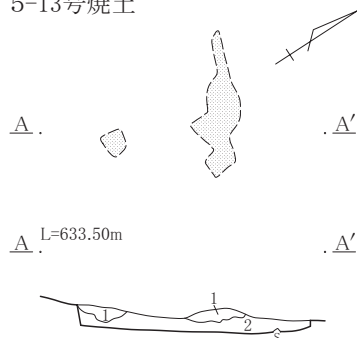
5-11号焼土



5-12号焼土



5-13号焼土



- 5-11~15号焼土  
 1 橙褐色土 焼土主体で若干の軽石粒含む。  
 2 暗褐色土 若干の焼土粒、軽石含みやや縮まる。  
 3 暗褐色土 黒色土に若干の軽石、焼土粒含む。

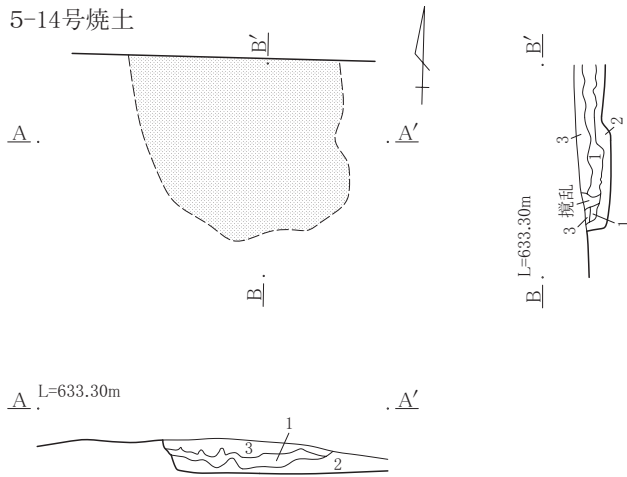
0 1:30 1m

第532図 5区焼土

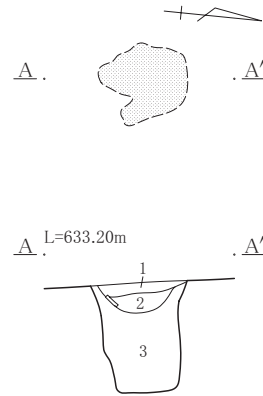


第3節 平安時代以降の遺構と遺物

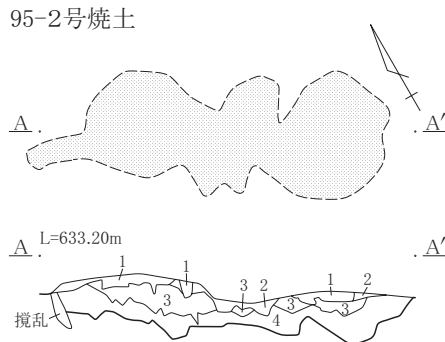
5-14号焼土



5-15号焼土

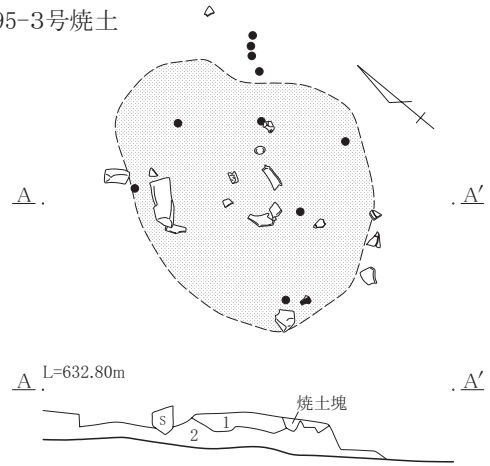


95-2号焼土



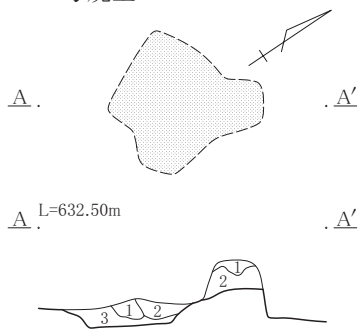
- 95-2号焼土
- 1 暗赤褐色土 ローム小ブロック、焼土粒の混土。
  - 2 黒褐色土 黒色土と焼土小ブロックの混土。
  - 3 黒褐色土 焼土、黒褐色土をブロック状に含み、淡黄褐色軽石若干含む。
  - 4 黒褐色土 焼土僅かに含み、淡黄褐色、白色軽石やや多く含む。

95-3号焼土



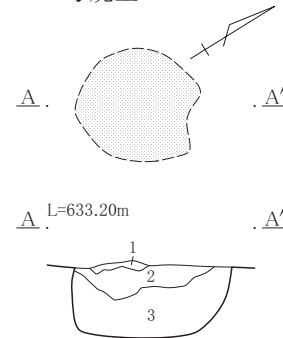
- 95-3号焼土
- 1 橙黄褐色土 焼土ブロック多く含む。
  - 2 暗褐色土 やや焼土化した地山。

95-4号焼土



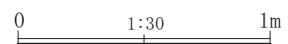
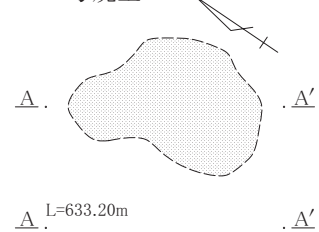
- 95-4号焼土
- 1 暗赤褐色土 焼土を多く含む軟質土。
  - 2 暗褐色土 焼土粒僅かに含む。
  - 3 暗褐色土 僅かの焼土、ローム粒含む。

95-5号焼土



- 95-5, 6号焼土
- 1 黄褐色土 焼土主体の細密土。
  - 2 暗褐色土 焼土ブロック、軽石多く含む。
  - 3 黒褐色土 少量の炭化物含む。

95-6号焼土



第533図 5・95区焼土



第534図 5-6号焼土出土遺物

5区と95区では比較的平坦部から斜面部分にかけて総数26基が検出された。調査区北側のものについては、平成9年度調査時のものと重複するものもある。

5区において検出された土坑は比較的規模が大きく、長軸長は2.2m、短軸幅も1.5mを超え、深さも2.2mにも達するものが見られた。こうした陥し穴と見られる土坑は調査区の谷の縁辺からやや下がった場所に集中して作られている。土坑の配置を詳しく見ると、5-30・66・119・1122・1118はやや主軸方向を変えるものの、等高線に沿うように並び、その南側に約10m程離れて、5-1212・1213・1116、95-89・87・85・90・88がやはり等高線に沿って並ぶように配される。さらに下位にもやや並びは不規則ながら、数基の陥し穴が検出されている。また陥し穴以外の土坑（5-182・1117・1115等）も数基が検出されている。これらはほぼ円形で1mを超える規模のものもあるが、掘り込みは比較的浅い。数は少なく、出土遺物もなく性格は不明である。一部には近世以降のものも含まれていると思われる。

調査区西側丘陵部にあたる、8・17・18・19区については、過年度の調査において比較的遺構の希薄な部分と考えられていたために、ほぼ全面にトレンチを配し、遺構が確認された部分を拡張して調査を行った。住居等は見られず、縄文時代を含め、遺物はほとんど出土していない。陥し穴と考えられる土坑は点在して見つかっている。調査の結果、8区において1基、17区で1基、18区で6基、19区において3基の土坑を検出した。この他に極めて新しい落ち込みや風倒木痕等が確認されている。

検出された土坑はいずれも長円形で深さ1m程である。覆土上層部分にレンズ状にロームブロックや軽石、炭化物等が見られる状況は5区や95区のものと同様である。土坑の多くは壁断面中位に厚く堆積したYPK層が認められ、土坑内下部には軽石の崩落が多く見られ、壁面が抉れた状況を呈すものが多々見受けられ、一部にこうした軽石の崩落を防ぐために粘質土を壁面に貼ったような痕跡も見られた。

### 3. 溝・石列

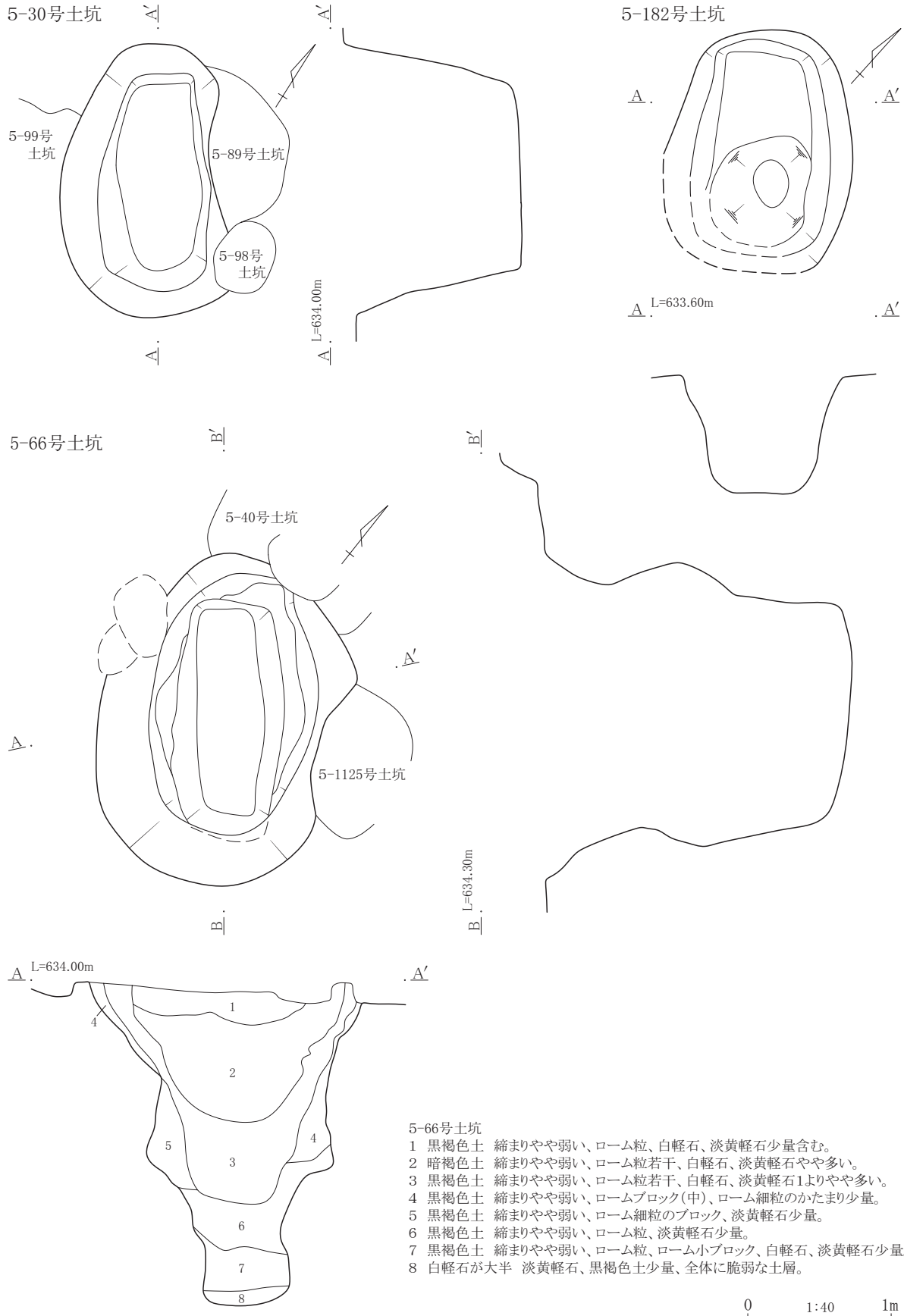
#### 95-2号溝（第552図：PL.124）

調査区の東端部、東に傾斜した地形突端部分に溝の西端部分が検出された。西端は細く調査区端では幅約2.5m、深さ50cmを測る。東に向かって下がっており比高差は約2mで、断面は大きく開くV字状である。自然流路の可能性が高い、出土遺物は僅かに陶磁器片が見られたのみである。時期は近世以降と判断される。

#### 5-1号石列（第552図：PL.124）

調査区の東端部に在り、南北に走る地境の落ち込みである。比較的大型の石が一部直線的に検出されているが、地境に並んでいたものが東側に落ち込んだ状態と考えられる、土はかなり荒れた状態で、縄文土器、石器さらには近・現代の陶磁器などが礫に混じって出土している。地山は人為的に削られ、南側から約20mに渡り、幅50cm程の溝が上端部に走り、その東側は段差を持って落ち込んでいる。近代以降の所産と考えられる。遺構として扱うものの、遺物に関しては遺構外の遺物として掲載する。

第3節 平安時代以降の遺構と遺物

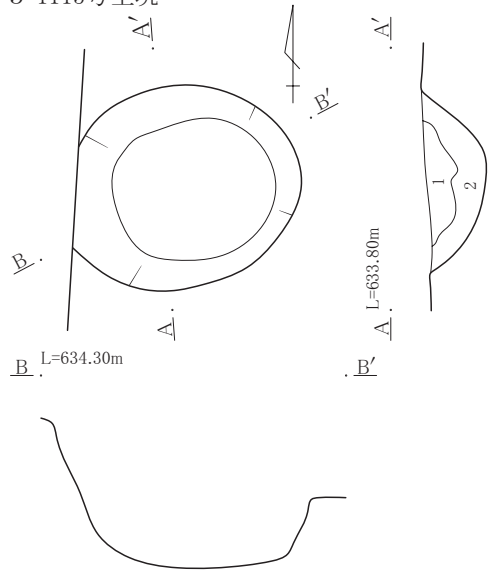


- 5-66号土坑
- 1 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒、白軽石、淡黄軽石少量含む。
  - 2 暗褐色土 締まりやや弱い、ローム粒若干、白軽石、淡黄軽石やや多い。
  - 3 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒若干、白軽石、淡黄軽石1よりやや多い。
  - 4 黒褐色土 締まりやや弱い、ロームブロック(中)、ローム細粒のかたまり少量。
  - 5 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム細粒のブロック、淡黄軽石少量。
  - 6 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒、淡黄軽石少量。
  - 7 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒、ローム小ブロック、白軽石、淡黄軽石少量。
  - 8 白軽石が大半 淡黄軽石、黒褐色土少量、全体に脆弱な土層。

第535図 5区土坑(平安時代以降)(1)

第3章 検出された遺構と遺物

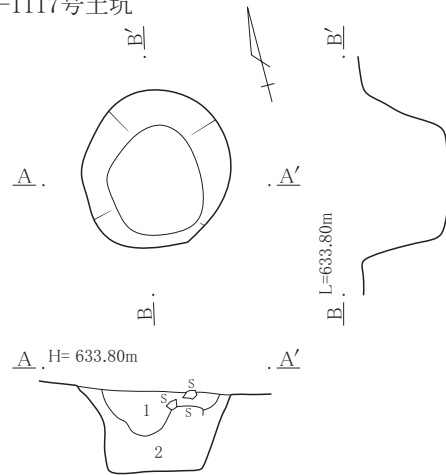
5-1115号土坑



5-1115号土坑

- 1 黒褐色土 締まり弱い、ロームブロック(小)やや多く淡黄軽石、炭化物僅かに含む。
- 2 黒褐色土 締まり弱い、ロームブロック(小)、淡黄軽石僅かに含む。

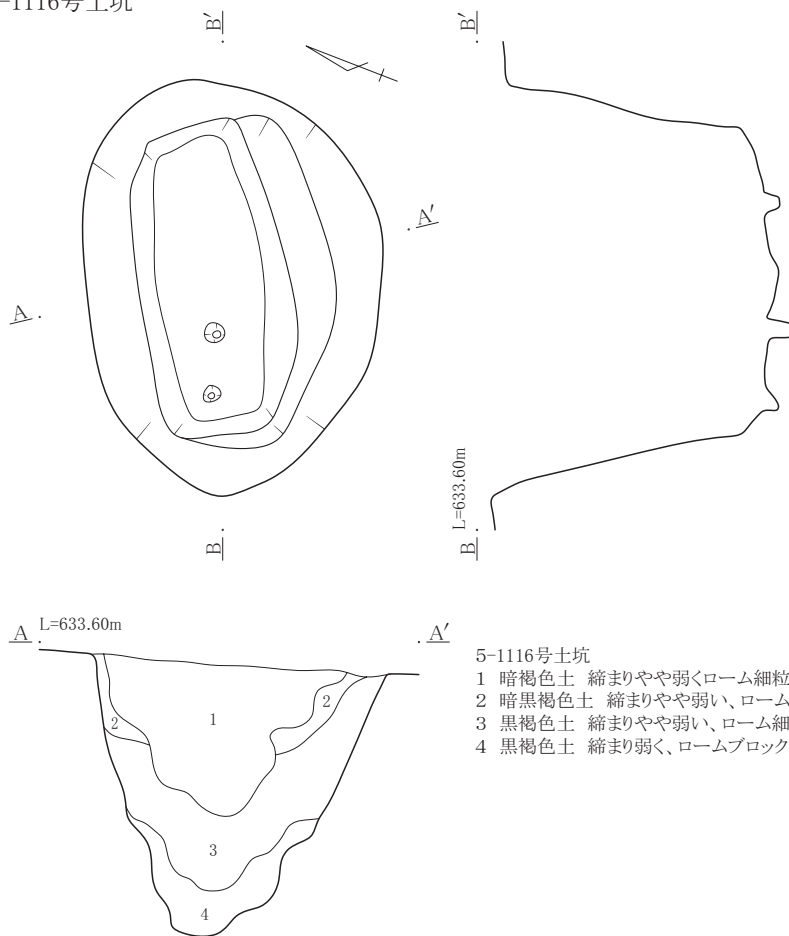
5-1117号土坑



5-1117号土坑

- 1 黒褐色土 締まり弱い、ローム細粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土 締まりやや弱く、ローム細粒、ローム小ブロック少量含む。

5-1116号土坑



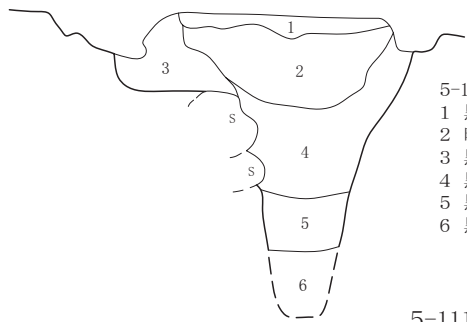
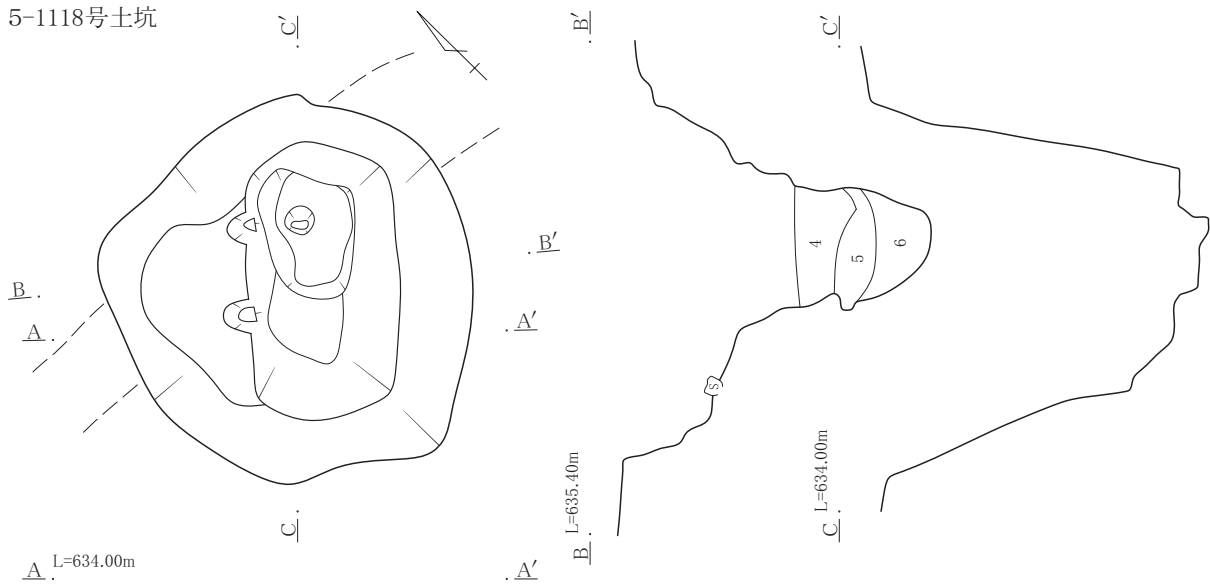
5-1116号土坑

- 1 暗褐色土 締まりやや弱くローム細粒のかたまり、ローム粒少量含む。
- 2 暗黒褐色土 締まりやや弱い、ローム細粒僅かに含む。
- 3 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム細粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 4 黒褐色土 締まり弱く、ロームブロック多く含む。



第536図 5区土坑(平安時代以降)(2)

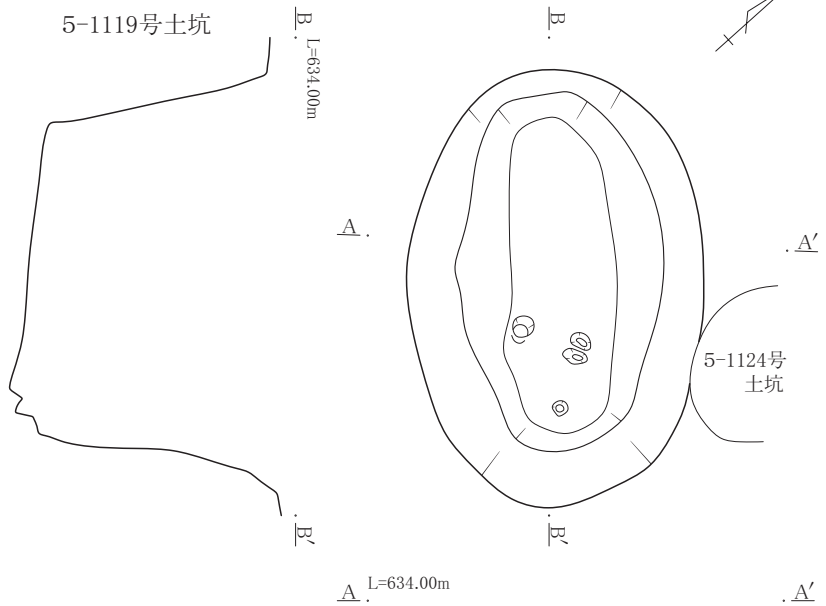
5-1118号土坑



5-1118号土坑

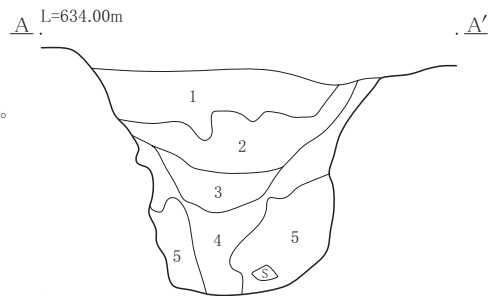
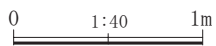
- 1 黒褐色土 締まりやや弱い、淡黄軽石、ローム粒、褐色粒僅かに含む。
- 2 暗褐色土 締まり弱い、淡黄軽石やや多くローム粒、白色粒、褐色粒、炭化物僅かに含む。
- 3 黒褐色土 締まり弱い、淡黄軽石少し、ローム粒やや多く含む。
- 4 黒褐色土 締まり弱い、淡黄軽石少量、ロームブロック(小)、褐色粒少量含む。
- 5 黒褐色土 締まり弱い、硬質のローム粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 6 黒褐色土 締まり弱い、ロームブロック多く、淡黄軽石僅かに含む。

5-1119号土坑



5-1119号土坑

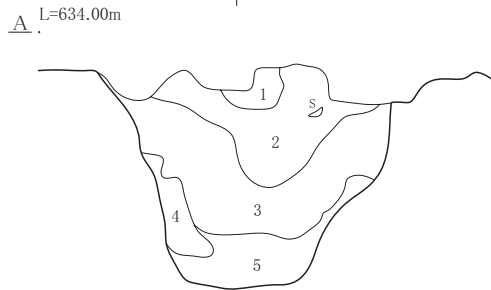
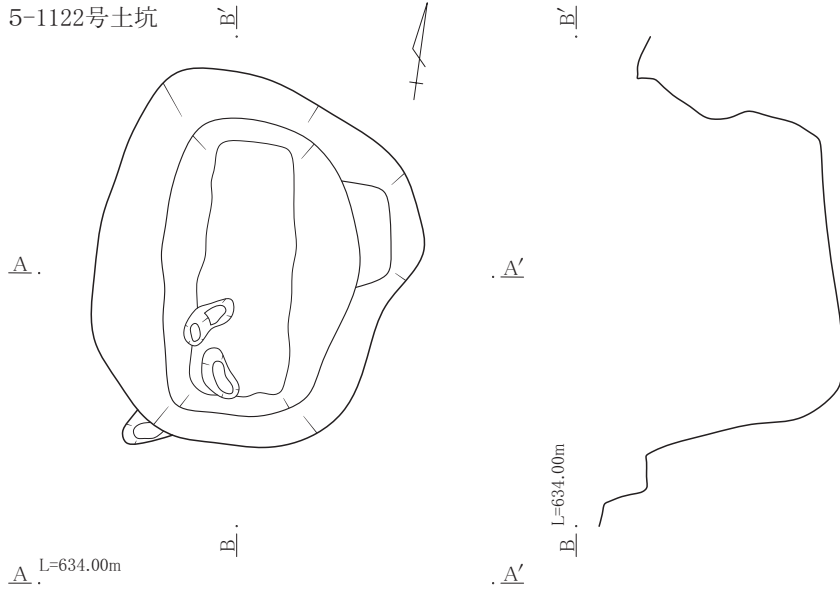
- 1 オリーブ黒色土 締まりなく若干の小礫、ローム細粒含む。
- 2 黒褐色土 締まりなし、ローム小ブロック、黒褐色土とローム細粒ブロック、淡黄軽石少量。
- 3 黒褐色土 締まりなし、ローム粒少量、淡黄軽石僅かに含む。
- 4 黒褐色土 締まりなし、ローム粒とロームブロック(小)多く淡黄軽石少量含む。
- 5 黒褐色土 締まりなし、ロームブロック(大)多く淡黄軽石少量。



第537図 5区土坑(平安時代以降)(3)

第3章 検出された遺構と遺物

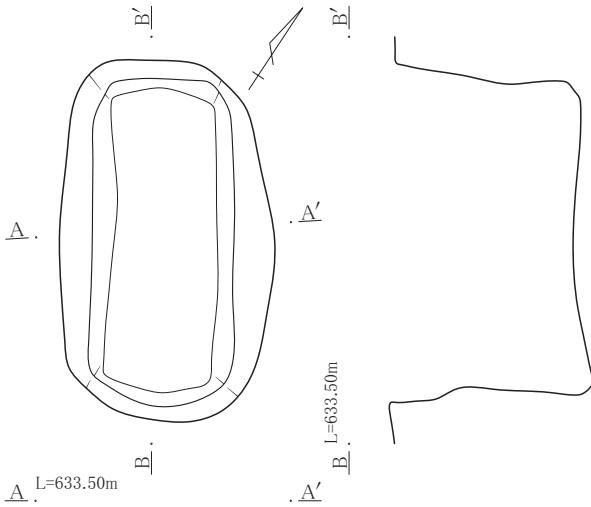
5-1122号土坑



5-1122号土坑

- 1 オリーブ黒 締まりなくパサつく。
- 2 暗褐色土 締まりやや弱くローム粒多い、褐色粒、淡黄軽石、角礫少量含む。
- 3 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒、淡黄軽石少量含む。
- 4 淡黄褐色土 ロームブロック(大)非常に多く、黒褐色土、淡黄軽石少量、締まり弱い。
- 5 黒褐色土 締まり弱くロームブロック、ローム粒やや多い、淡黄軽石少量含む。

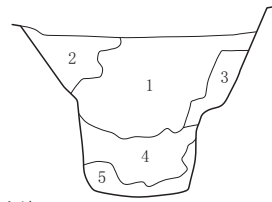
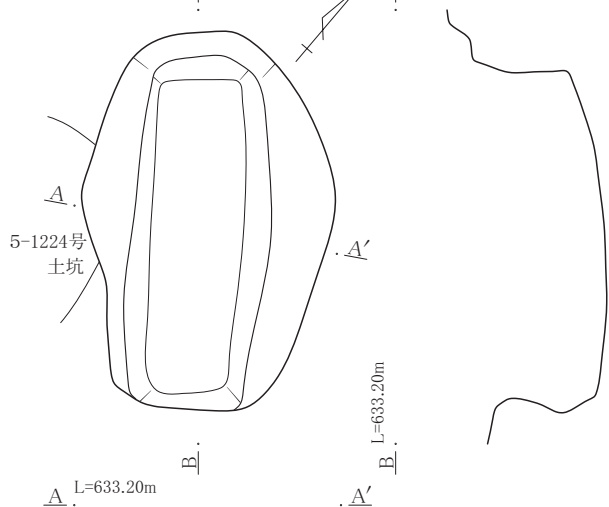
5-1212号土坑



5-1212号土坑

- 1 褐色土 締まり弱い、黒褐色土とローム粒、ロームブロックとの混土。
- 2 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒少々目立ち淡黄軽石少量。
- 3 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒少量、淡黄軽石僅かに含む。
- 4 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒、ロームブロック多く含む。

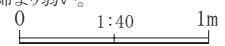
5-1213号土坑



5-1213号土坑

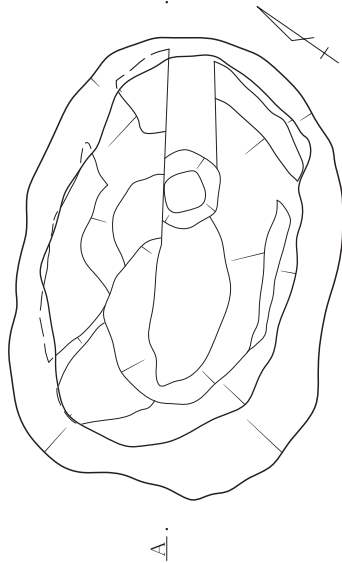
- 1 黒褐色土 締まりなくパサつく、ローム粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土 1より明るい色調、締まり弱く大粒淡黄軽石少量含む。
- 3 黒褐色土 締まり弱い、ロームブロック、ローム粒多く、淡黄軽石僅かに含む。
- 4 暗褐色土 締まり弱い、ローム粒(大、小)やや多く含む。
- 5 黒褐色土とロームブロック、ローム粒との混土、締まり弱い。

第538図 5区土坑(平安時代以降)(4)

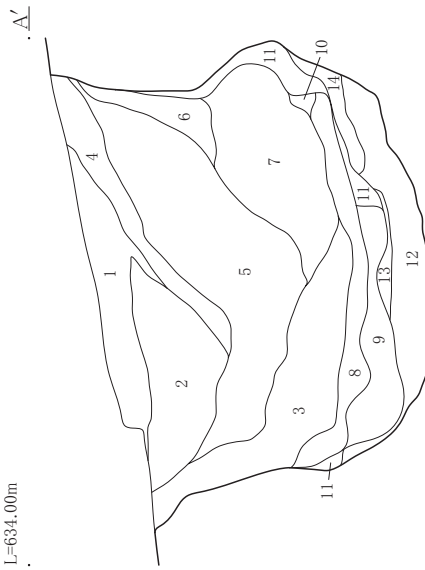


第3節 平安時代以降の遺構と遺物

8-6号土坑 A



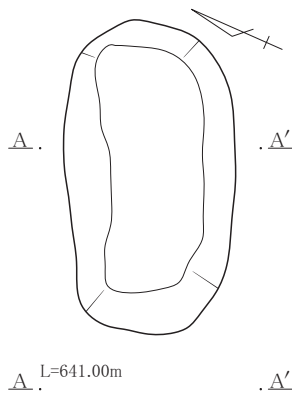
A' L=634.00m



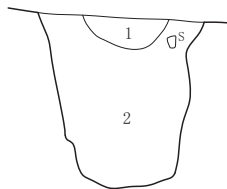
8-6号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 YPK、ローム粒子、黑色細粒土を含む。
- 2 暗黄褐色土 YPK、ロームブロック、黑色細粒土を含む。
- 3 暗褐色土 縮りなし、褐色粒、ローム粒子、YPK粒を黑色細粒土に含む。
- 4 黑色細粒土 ローム粒子を僅かに含む。
- 5 黑色細粒土 4に炭化物を含む。
- 6 黑色細粒土 4にローム粒子を含む。
- 7 黄褐色土 黑色土を含むロームブロック。
- 8 黒褐色土 粘性あり。
- 9 黒褐色土 YPKが褐色化したもの。
- 10 黄褐色土 YPKブロック。
- 11 にぶい黄褐色土 黒褐色粘質土。ローム。
- 12 にぶい黒褐色土 黒褐色粘質土。YPK。
- 13 暗黄褐色土 ぐずれたローム。
- 14 黄褐色土 ぐずれたローム。YPK。

17-35号土坑



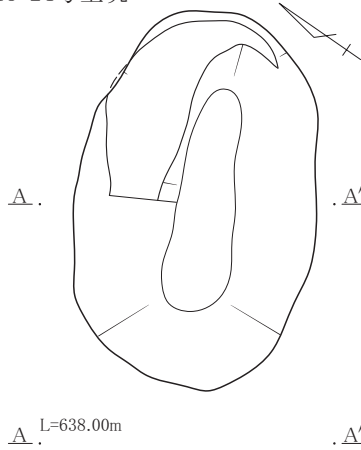
A' L=641.00m



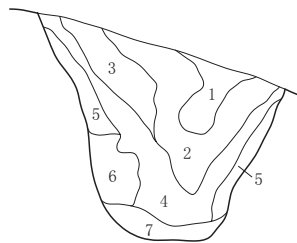
17-35号土坑

- 1 黑色土 大粒な黄白色軽石 (YPK) 多く含む。
- 2 黑色土 大粒な黄白色軽石 (YPK) 少し含む。2~10cm大の礫含む。

18-24号土坑



A' L=638.00m



18-24号土坑

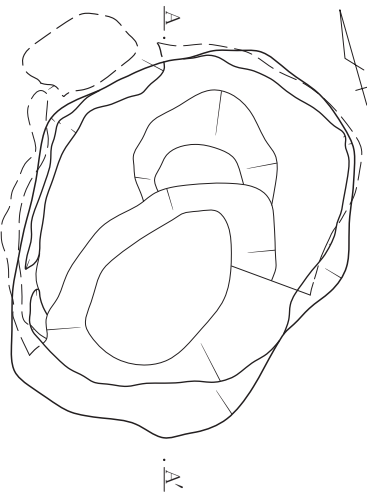
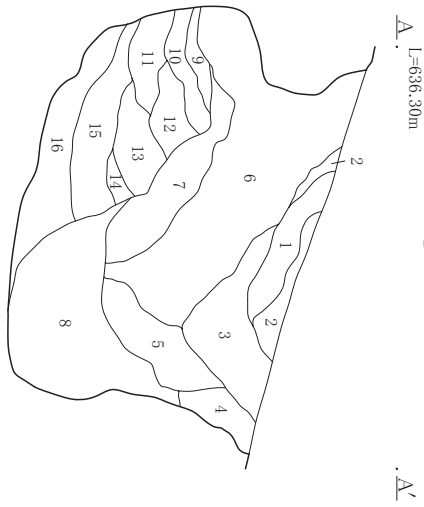
- 1 暗褐色土 YPK粒、褐色粒、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 縮りなし、褐色粒、ローム粒子、YPK粒を含む。
- 3 黑色細粒土 ローム粒子、褐色粒を僅かに含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック粒を含む。
- 5 暗褐色土 ぐずれたロームを均一に含む。
- 6 黄褐色土 黑色土を含むロームブロック。
- 7 暗褐色土 黑色土、粘質土、ローム粒子、YPK含む。

0 1:40 1m

第539図 8・17・18区土坑(平安時代以降)

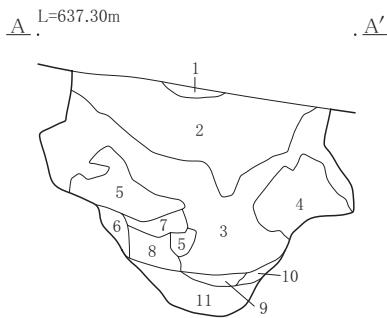
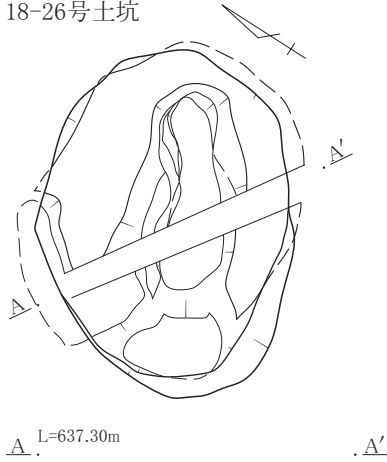
第3章 検出された遺構と遺物

18-25号土坑



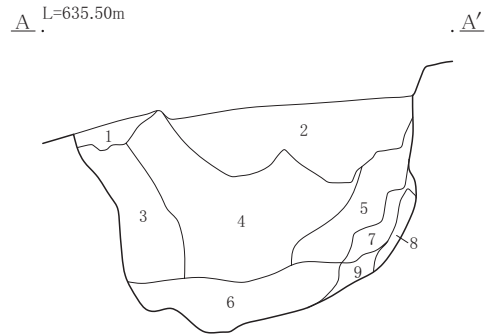
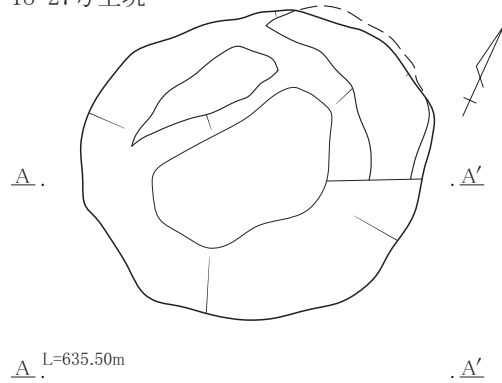
- 18-25号土坑
- 1 黄褐色土 ローム、YPKが主体で黒色細粒土僅かに含む。
  - 2 にぶい黄褐色土 ローム粒子が主体でYPK粒、褐色粒を含む。
  - 3 暗褐色土 締まる。YPK、褐色粒、ローム粒子含む。
  - 4 暗褐色土 3と同じだがローム粒子をほとんど含まず。
  - 5 暗褐色土 3と同じだがローム粒子、YPKともにほとんど含まず。
  - 6 黒色細粒土 ローム粒子、褐色粒、YPK含む。
  - 7 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック粒含む。
  - 8 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック粒、YPKを含む。
  - 9 暗褐色土 YPK、ロームブロック、黒色土の混土。
  - 10 黒褐色土 黒色土、ローム粒子含む。
  - 11 黄褐色土 YPK、ローム粒子、黒色土含む。
  - 12 暗黄褐色土 ロームブロック、黒色土含む。
  - 13 黒褐色土 粘性あり YPK、黒色土の混土。
  - 14 黄褐色土 黒色土を含むロームブロック。
  - 15 暗黄褐色土 ロームブロック。
  - 16 黒褐色土 黒色土、YPK含む。

18-26号土坑

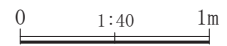


- 18-26号土坑
- 1 褐色土 ローム粒子、YPK粒を含む。
  - 2 黒色細粒土 ローム粒子、褐色粒僅かに含む。
  - 3 暗褐色土 ローム粒子、ローム粒、YPK含む。
  - 4 黄褐色土 黒色土を含むロームブロック。
  - 5 黄褐色土 ロームブロック。
  - 6 黄褐色土 YPK、ローム粒子。
  - 7 黒褐色土 粘性あり。
  - 8 灰褐色土 YPKに黒褐色土入る。
  - 9 暗黄褐色土 くずれたローム、YPK。
  - 10 にぶい黄褐色土 ローム粒子、YPK、黒色土。
  - 11 にぶい灰褐色土 黒色土、YPK粒。

18-27号土坑



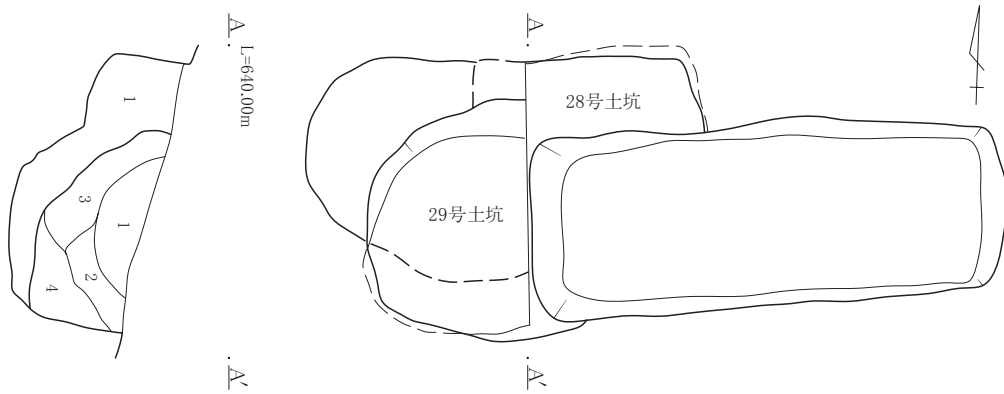
- 18-27号土坑
- 1 褐色土 ローム粒子、YPK粒を含む。
  - 2 黒色細粒土 ローム粒子、褐色粒僅かに含む。
  - 3 暗褐色土 締まりなし。褐色粒、ローム粒子、YPK粒僅かに含む。
  - 4 暗褐色土 3にYPK多く入る。
  - 5 暗褐色土 くずれたロームを均一に含む。
  - 6 黄褐色土 黒色土を含むロームブロック。
  - 7 暗褐色土 ローム粒子、ローム粒、YPK含む。
  - 8 黄褐色土 黒色土を含むロームブロック。
  - 9 黄褐色土 YPKブロック。



第540図 18区土坑(平安時代以降)



18-28・29号土坑



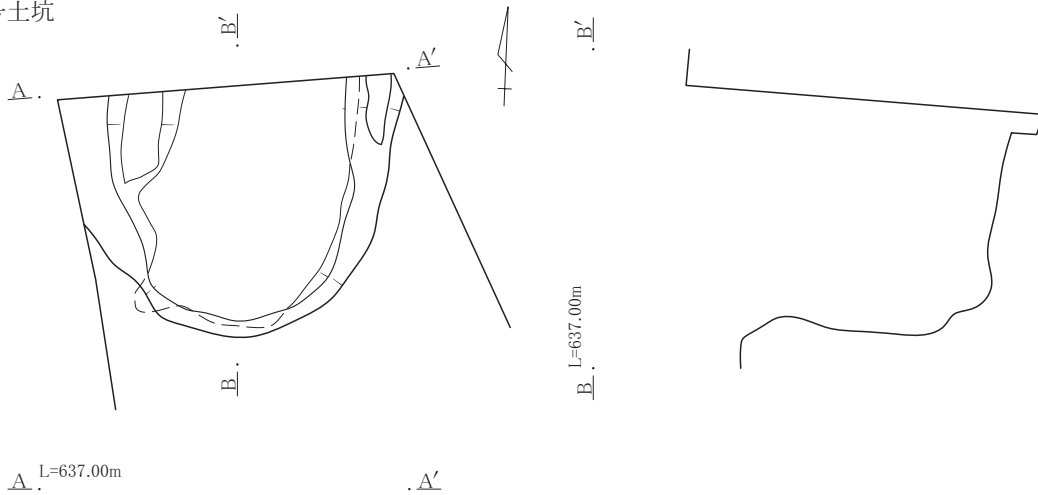
18-28号土坑

1 黒色土 ローム粒少量含む。

18-29号土坑 (新しいものと思われる 28号土坑を切る)

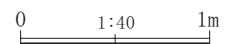
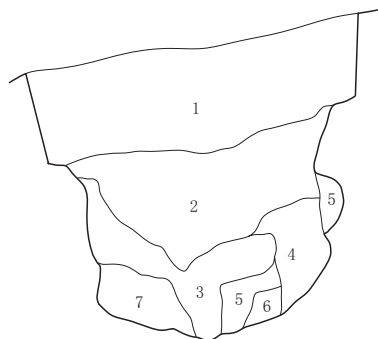
- 1 黄褐色土 ロームブロック含む。
- 2 褐色土 ロームブロック少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 4 黄色土 黄白色軽石(YPK)多く含む。

19-12号土坑



19-12号土坑

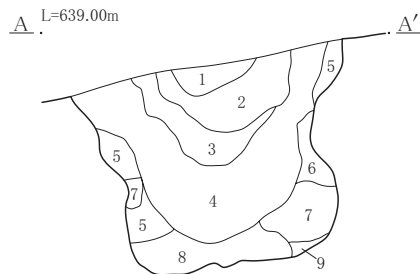
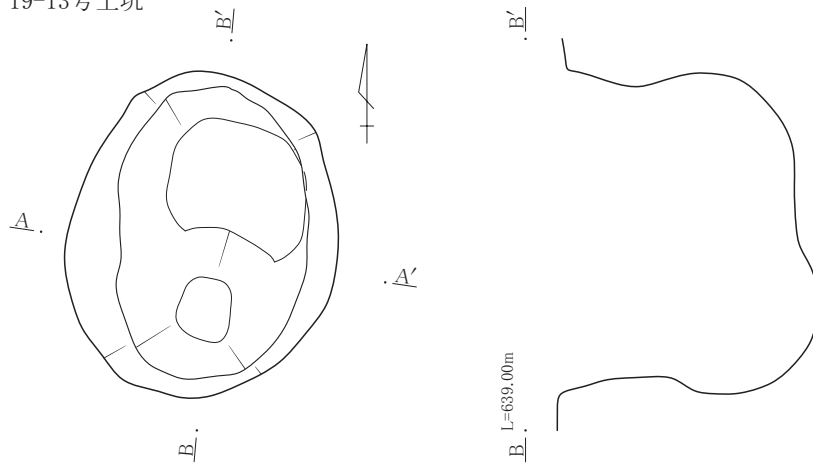
- 1 表土 黒褐色土主体。ロームがマーブリング状に入るような攪乱を受ける。
- 2 暗褐色土 締まりなし。ローム粒子、褐色粒を僅かに含む。
- 3 暗褐色土 くずれたロームを均一に含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック粒を含む。
- 5 黄褐色土 ロームブロック。
- 6 黄褐色土 YPKブロック。
- 7 黄褐色土 ロームブロック。



第541図 18・19区土坑(平安時代以降)

第3章 検出された遺構と遺物

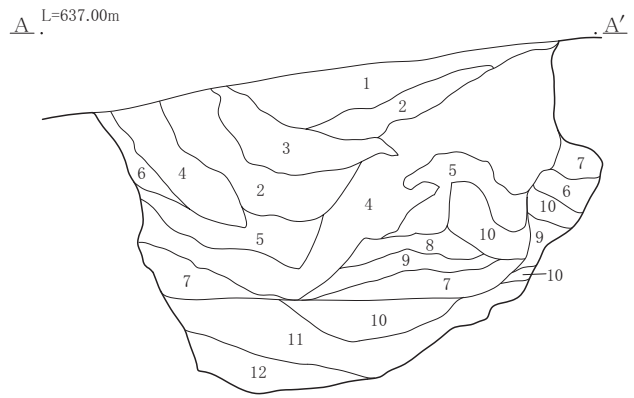
19-13号土坑



19-13号土坑

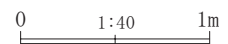
- 1 黒色土 細粒土でYPK粒、褐色粒、ローム粒含む。
- 2 暗褐色土 YPK、ローム粒含む。
- 3 にぶい暗褐色土 固く締まりYPK、ローム粒子多く含む。
- 4 黒褐色土 締まりなく黒色土に褐色粒、ローム粒子、YPK粒含む。
- 5 にぶい黄褐色土 4にくずれたローム多く含む。
- 6 にぶい暗褐色土 崩落ロームに黒色土を含む。
- 7 暗黄褐色土 崩落ロームブロック。
- 8 にぶい暗褐色土 崩落ローム粒子、YPK。
- 9 にぶい灰褐色土 崩落YPKにローム混入。

19-14号土坑



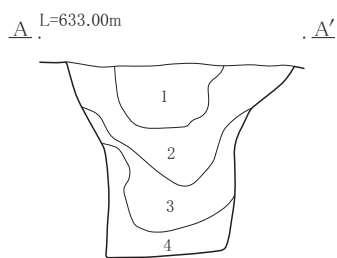
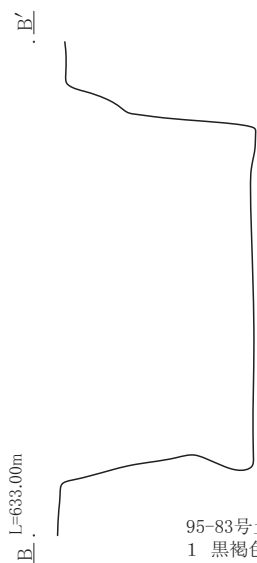
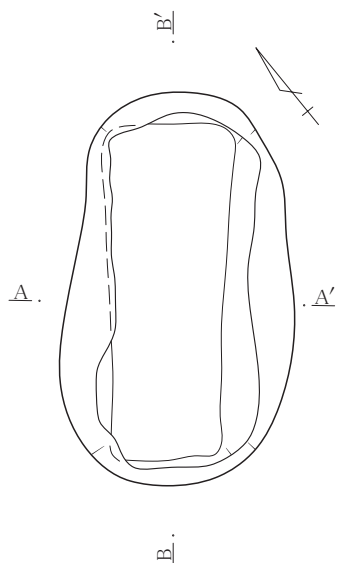
19-14号土坑

- 1 黒色細粒土 僅かにローム含む。
- 2 にぶい褐色土 黒色土にローム粒子、YPK多く含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子、YPK粒含む。
- 4 黒褐色土 くずれたローム粒含む。
- 5 暗黄褐色土 ロームブロック中に黒色土。
- 6 にぶい黒褐色土 黒色土とローム粒子。
- 7 にぶい黒褐色土 黒色土とロームブロック粒。
- 8 暗黄褐色土 崩落ロームブロックと黒褐色土の混土。
- 9 黒褐色土 ローム粒子とYPK混土。
- 10 暗黄褐色土 ロームブロック。
- 11 暗褐色土にYPK、ローム粒。
- 12 黒色土にYPK、ローム粒。



第542図 19区土坑(平安時代以降)

95-83号土坑



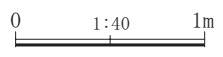
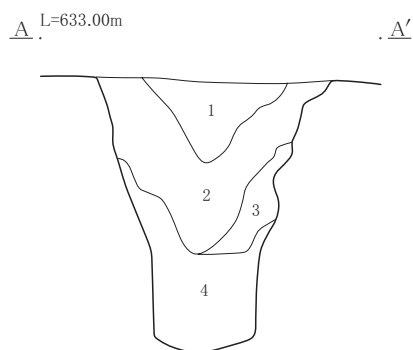
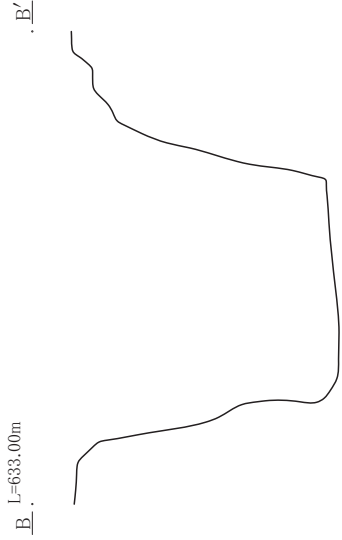
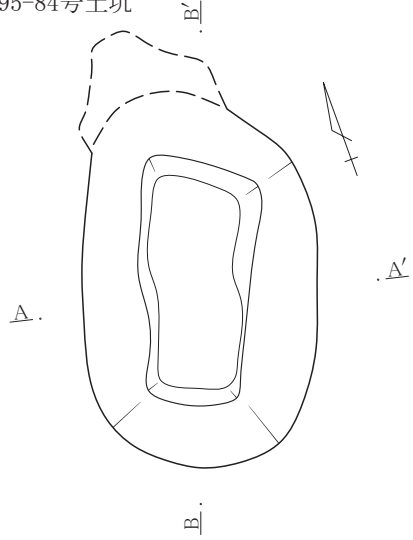
95-83号土坑

- 1 黒褐色土 締まりやや弱い、黄粒やや多く炭化物、淡黄軽石僅かに含む。
- 2 暗黒褐色土 締まりやや弱く黄色粒少量含む。
- 3 黒褐色土 締まり弱く黄色粒、ローム小ブロック僅かに含む。
- 4 黒褐色土 締まり弱くロームブロック多く含む。

95-84号土坑

- 1 黒褐色土 締まり弱く淡黄軽石少量、褐色粒、炭化物僅かに含む。
- 2 暗黒褐色土 締まり弱く淡黄軽石、褐色粒、黄色粒、炭化物僅かに含む。
- 3 暗褐色土 黒褐色土が少量混じる、褐色粒、ローム小ブロック僅かに含む。
- 4 黒褐色土 締まり弱くロームブロック多く含む。

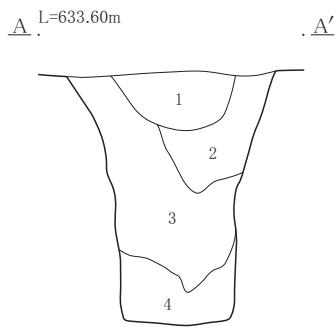
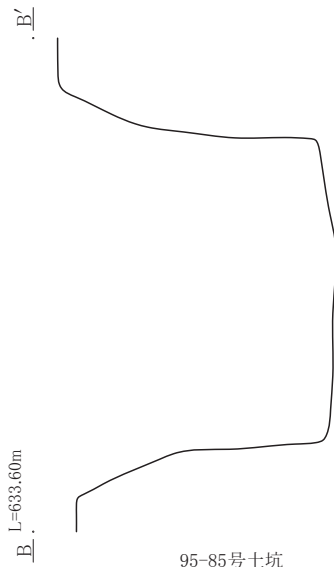
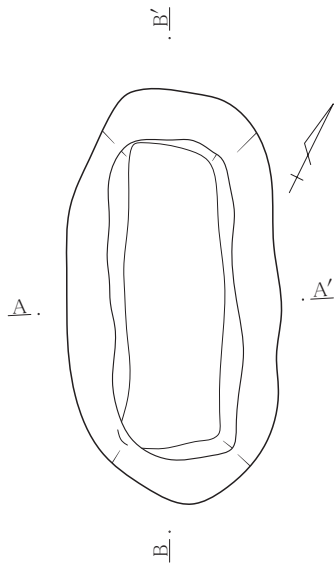
95-84号土坑



第543図 95区土坑(平安時代以降)(1)

第3章 検出された遺構と遺物

95-85号土坑



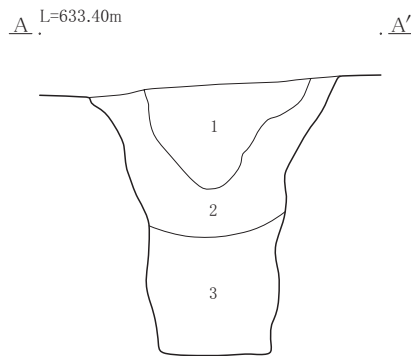
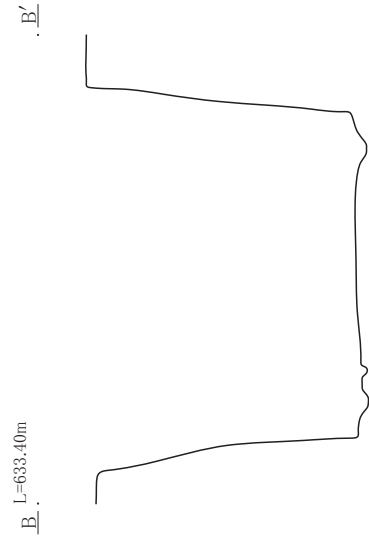
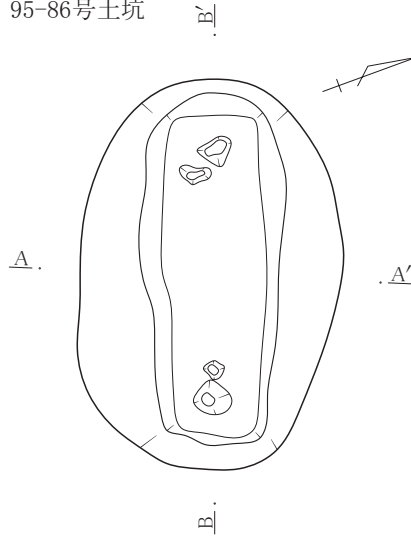
95-85号土坑

- 1 黒褐色土 締まりやや弱く黄色粒やや多い、淡黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土 淡黄軽石少量、褐色粒僅かに含む。
- 3 黒褐色土 締まり弱い、淡黄軽石、褐色粒僅かに含む。
- 4 黒褐色土 締まり弱くロームブロック多く含む。

95-86号土坑

- 1 黒褐色土 締まり弱く細かい黄粒やや多い、褐色粒、淡黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土 締まり弱く褐色粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 3 黒褐色土 締まりやや弱い、ロームブロック多く含む。

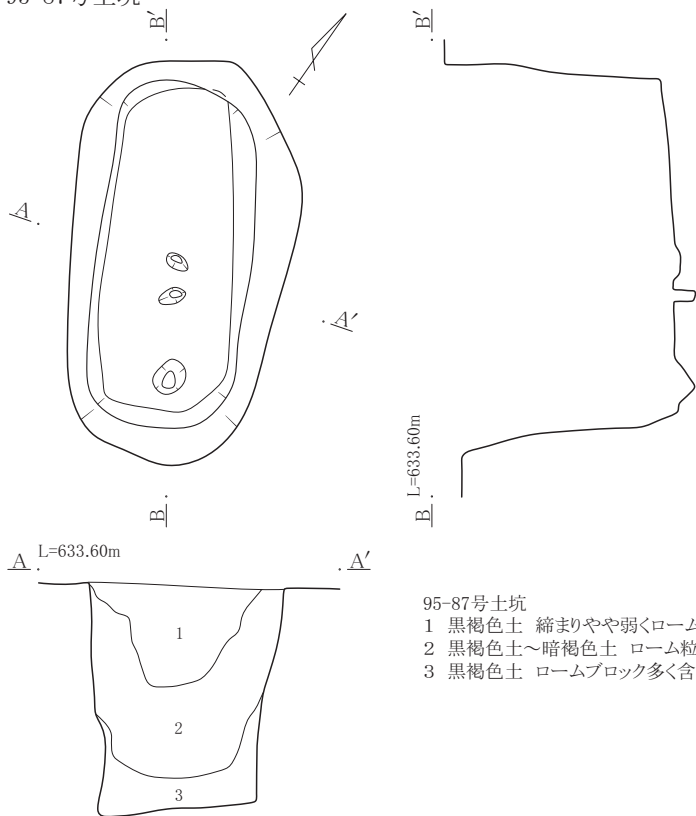
95-86号土坑



0 1:40 1m

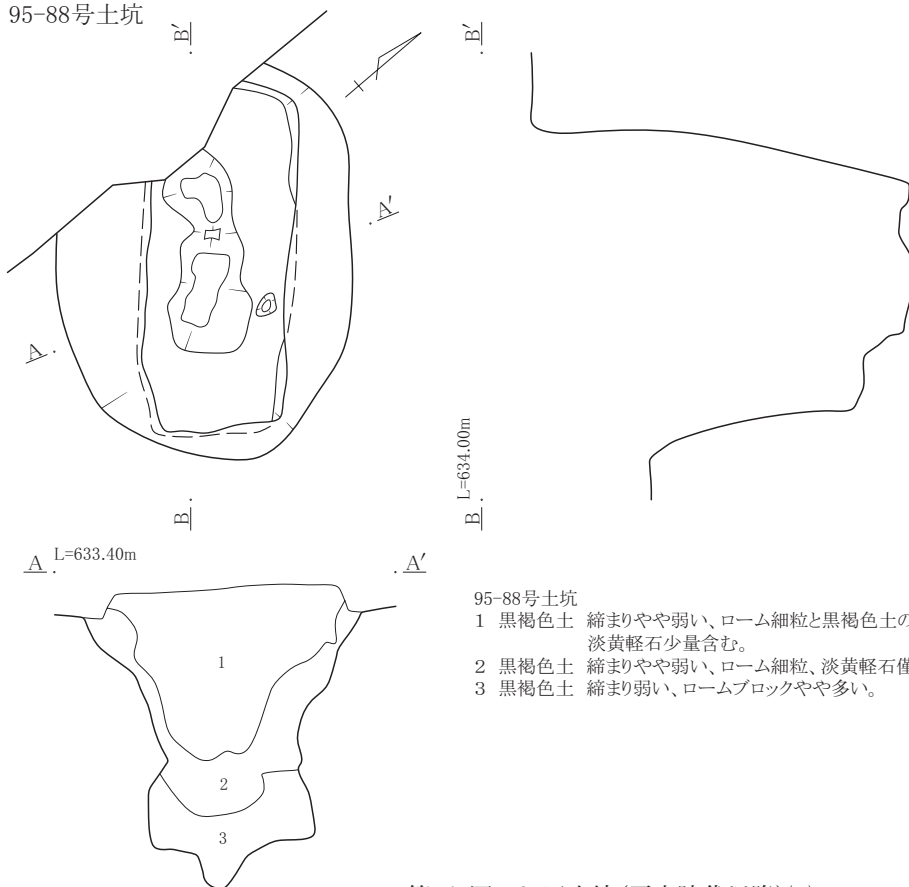
第544図 95区土坑(平安時代以降)(2)

95-87号土坑

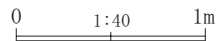


- 95-87号土坑  
 1 黒褐色土 締まりやや弱くロームブロック、ローム粒多い。  
 2 黒褐色土～暗褐色土 ローム粒や細粒少量、淡黄軽石、褐色粒、炭化物僅かに含む。  
 3 黒褐色土 ロームブロック多く含む。

95-88号土坑



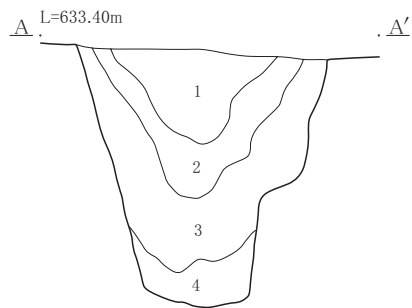
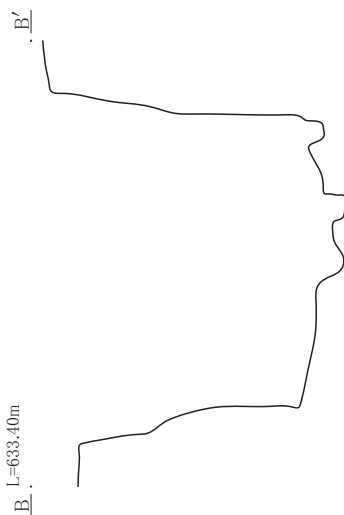
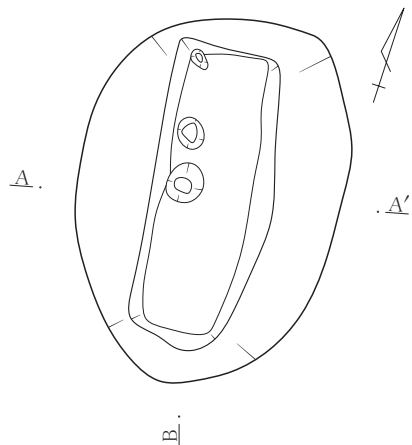
- 95-88号土坑  
 1 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム細粒と黒褐色土の混じったブロックやや多く褐色粒、淡黄軽石少量含む。  
 2 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム細粒、淡黄軽石僅かに含む。  
 3 黒褐色土 締まり弱い、ロームブロックやや多い。



第545図 95区土坑(平安時代以降)(3)

第3章 検出された遺構と遺物

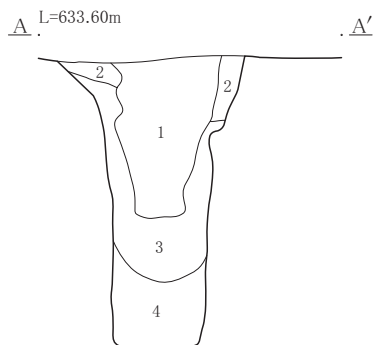
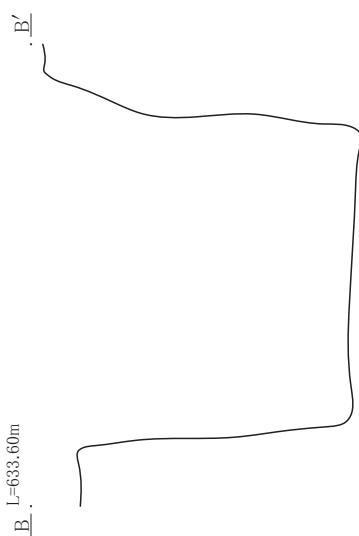
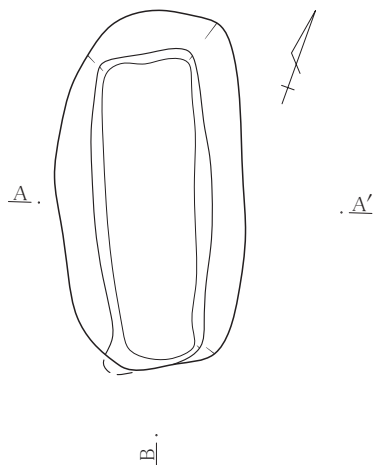
95-89号土坑 B



95-89号土坑

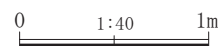
- 1 暗褐色土 縮まりやや弱い、ロームブロック、ローム粒やや多く淡黄軽石、炭化物少量含む。
- 2 黒に近い黒褐色土 縮まり弱い、淡黄軽石僅かに含む。
- 3 黒褐色土 縮まり弱い、ローム細粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 4 黒褐色土 縮まり弱い、ロームブロック(大)多く含む。

95-90号土坑 B



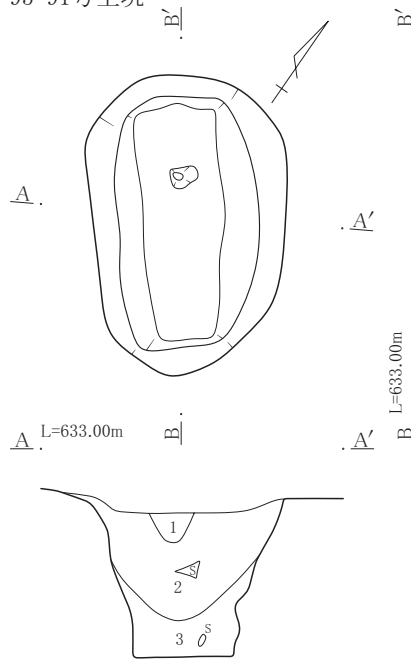
95-90号土坑

- 1 黒褐色土～暗褐色土 縮まり弱い、ロームブロック、淡黄軽石やや多く含む。
- 2 黒褐色土 ローム細粒僅かに含む。
- 3 黒褐色土 縮まりなし、ローム粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 4 黒褐色土 縮まりなし、ロームブロック、淡黄軽石少量含む。



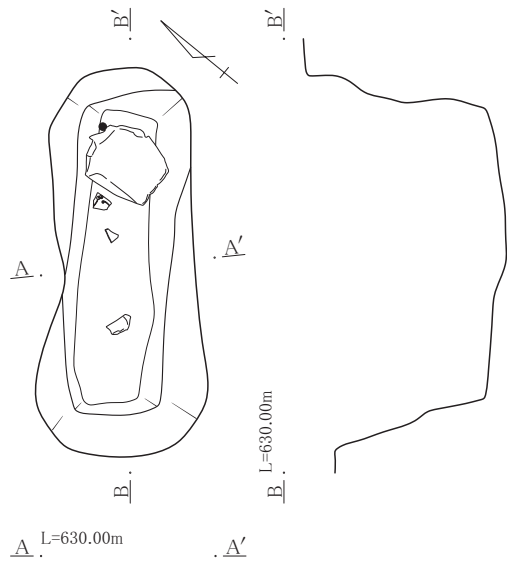
第546図 95区土坑(平安時代以降)(4)

95-91号土坑



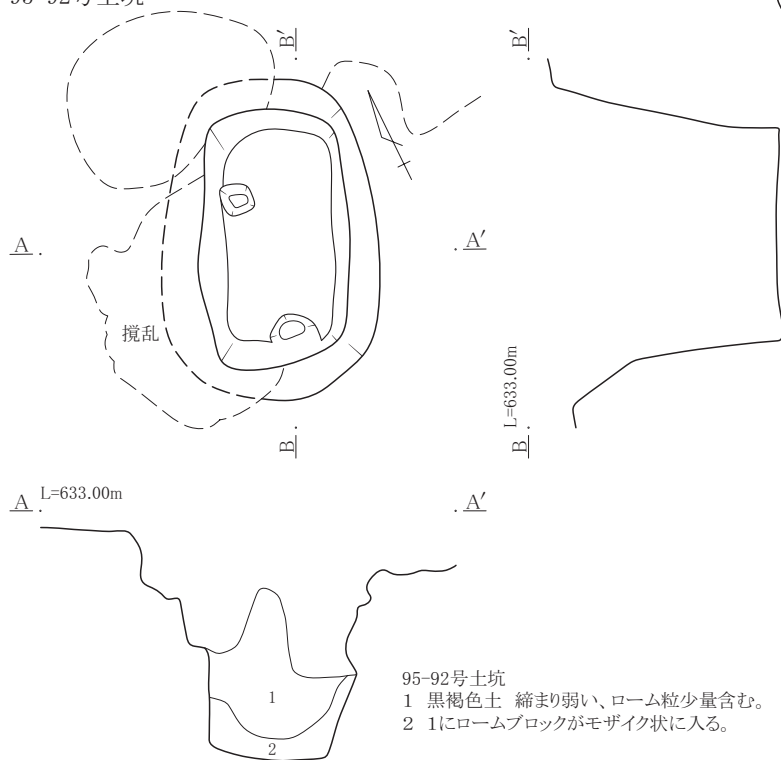
- 95-91号土坑
- 1 黒褐色土 締まり非常に弱い、黄粒、ローム細粒やや多く含む。
  - 2 黒褐色土 締まり弱く褐色粒、ローム細粒、黄粒僅かに含む。
  - 3 黒褐色土 締まり弱い、ローム小ブロック、ローム粒やや多く含む。

95-158号土坑

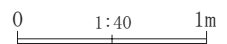


- 95-158号土坑
- 1 黒色土 締まり弱く粘性あり、細粒土。
  - 2 黒色土 締まり粘性強い、細粒土。
  - 3 暗褐色土 締まり強くローム粒含む、粒子やや粗い。

95-92号土坑



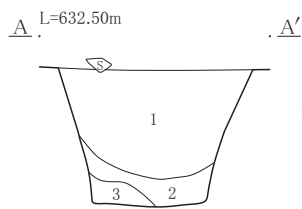
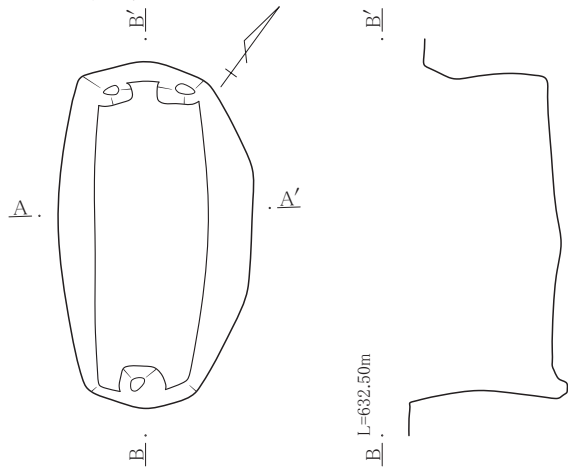
- 95-92号土坑
- 1 黒褐色土 締まり弱い、ローム粒少量含む。
  - 2 1にロームブロックがモザイク状に入る。



第547図 95区土坑(平安時代以降)(5)

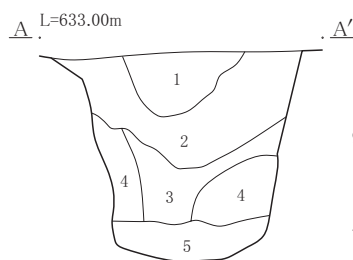
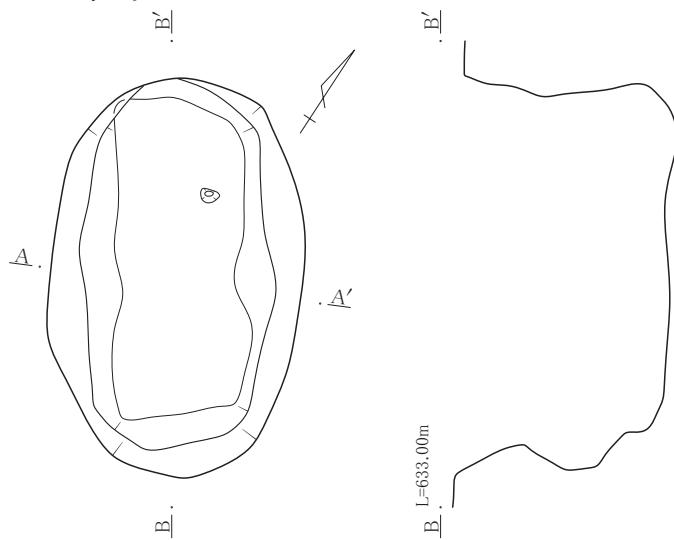
第3章 検出された遺構と遺物

95-177号土坑



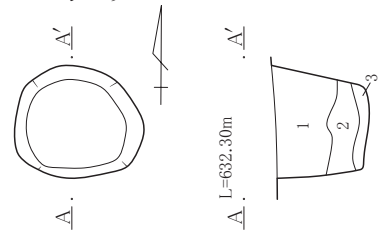
- 95-177号土坑  
 1 暗褐色土 ローム粒少量含みやや粘性あり。  
 2 褐色土 ローム粒1より多く含む、粘性ややあり。  
 3 暗黄褐色土 ローム粒多く含む。

95-181号土坑

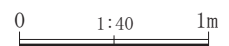


- 95-181号土坑  
 1 明褐色土 ローム粒、黄白色粒多く含む。やや粘性あり。  
 2 黒褐色土 ローム小ブロック少量含む、やや粘性あり。  
 3 暗黄褐色土 ローム粒多く含みやや粘性あり。  
 4 黄褐色土 ローム粒多く含む。  
 5 褐色土 ローム粒多く含む。

95-187号土坑



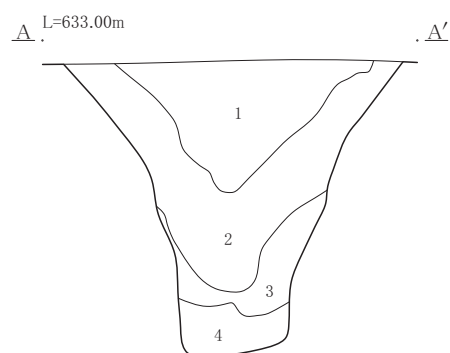
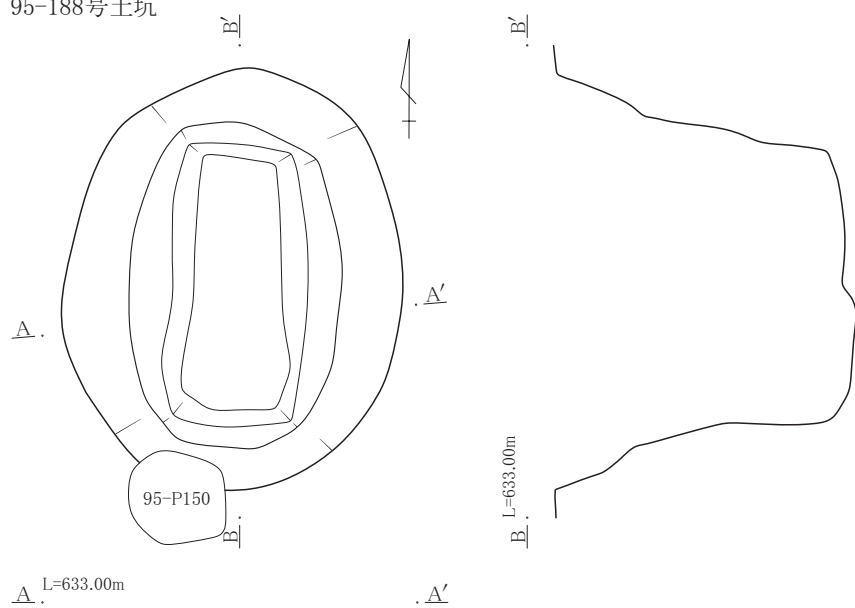
- 95-187号土坑  
 1 暗褐色土 縮まりなし、ローム粒子、軽石粒含む。  
 2 黒色土 白色粒、褐色粒、YPK粒を含む。  
 3 暗褐色土 ローム多く含む。



第548図 95区土坑(平安時代以降)(6)



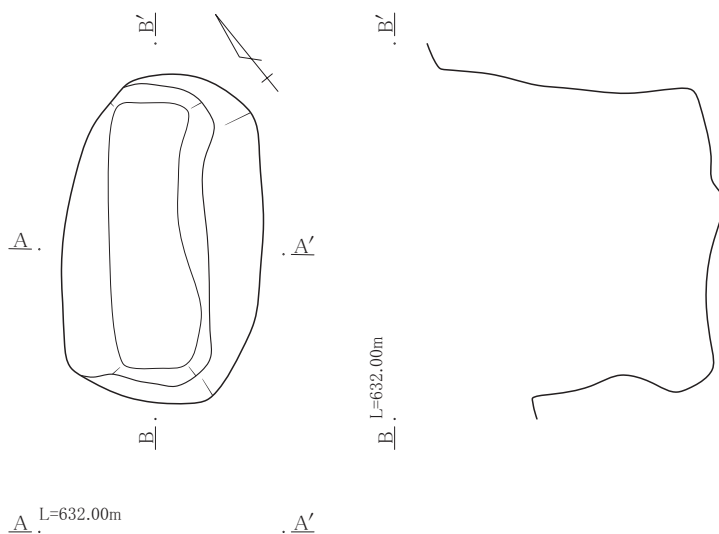
95-188号土坑



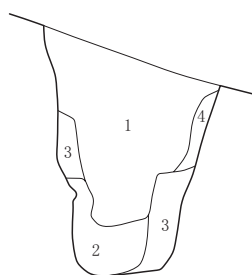
95-188号土坑

- 1 暗褐色土 縮まりなし、ローム粒、軽石粒を含む。
- 2 黒色土 白色粒、褐色粒、YPK粒を含む。
- 3 暗褐色土 崩落ロームを含む。
- 4 暗褐色土 やや粘性あり、ローム粒子、軽石粒を含む。

95-242号土坑

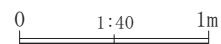


A L=632.00m A'



95-242号土坑

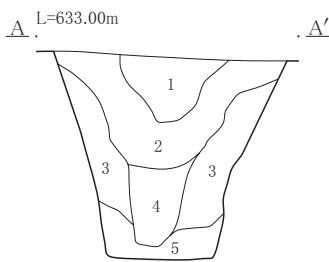
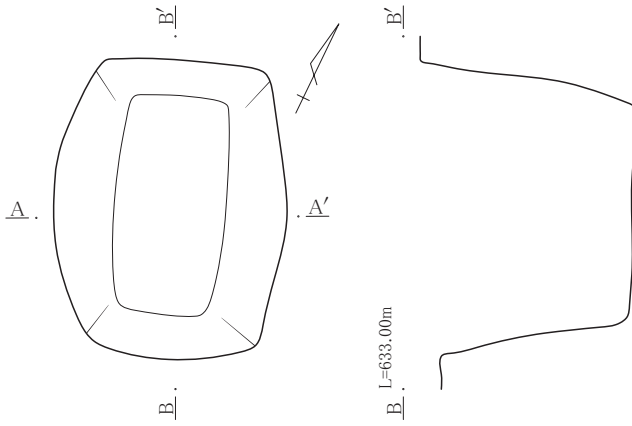
- 1 黒褐色土 ローム粒少し含み縮まり弱い。
- 2 黒褐色土 1よりローム粒多く含む。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒多く含む。
- 4 暗褐色土 やや固く締まる。



第549図 95区土坑(平安時代以降)(7)

第3章 検出された遺構と遺物

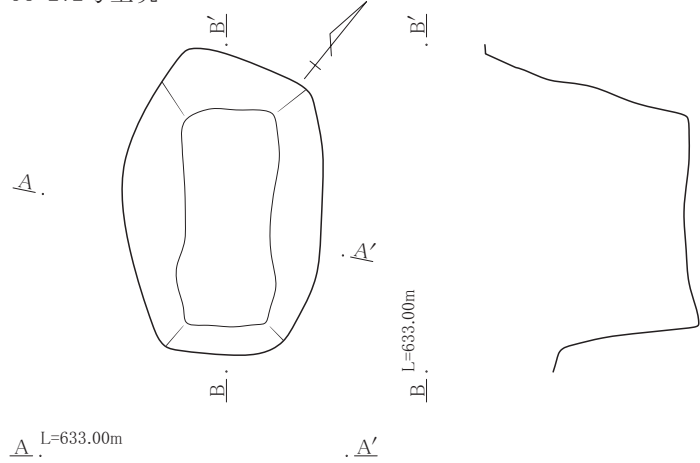
95-271号土坑



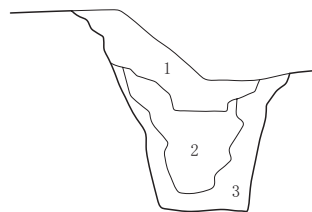
95-271号土坑

- 1 暗褐色土 細粒土、ローム粒を僅かに含む。
- 2 黒色土 ローム粒、褐色粒僅かに含み軟質。
- 3 暗褐色土 炭化物、ローム粒、くずれたローム粒を含む。
- 4 黒色土 2に褐色粒をより多く含み脆弱。
- 5 暗褐色土 崩落ロームがブロック状に混入。

95-272号土坑



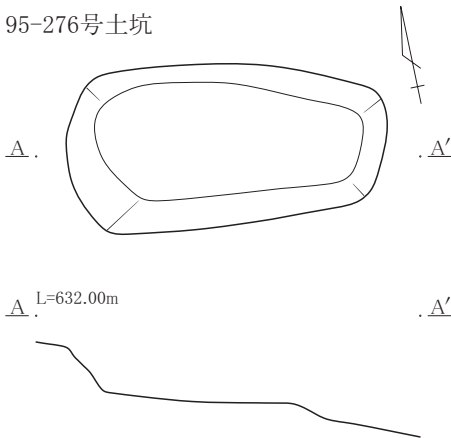
A L=633.00m A'



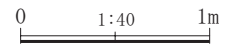
95-272号土坑

- 1 黒色土 若干のローム粒含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒小ブロック含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロック多く含む。

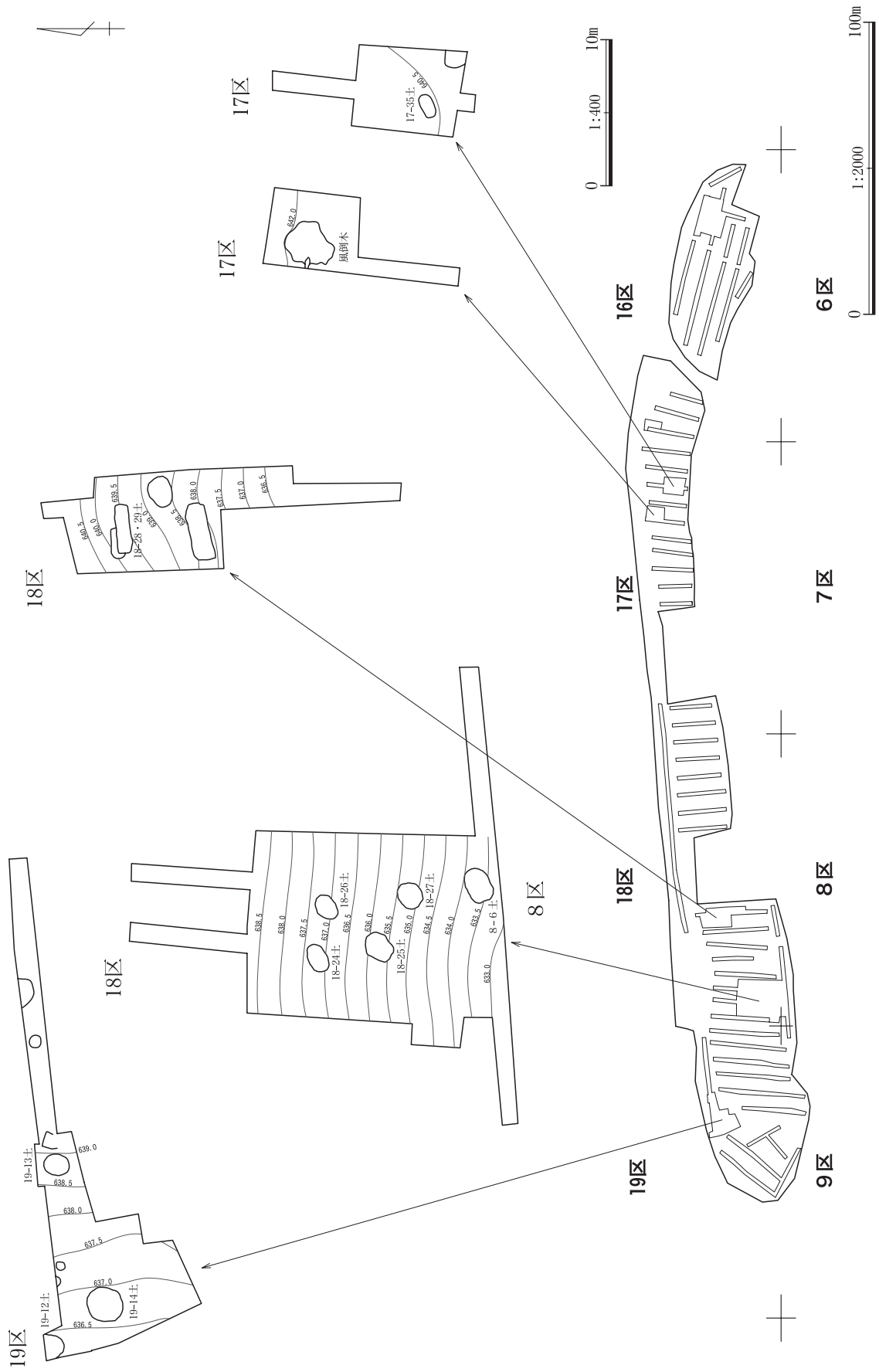
95-276号土坑



A L=632.00m A'

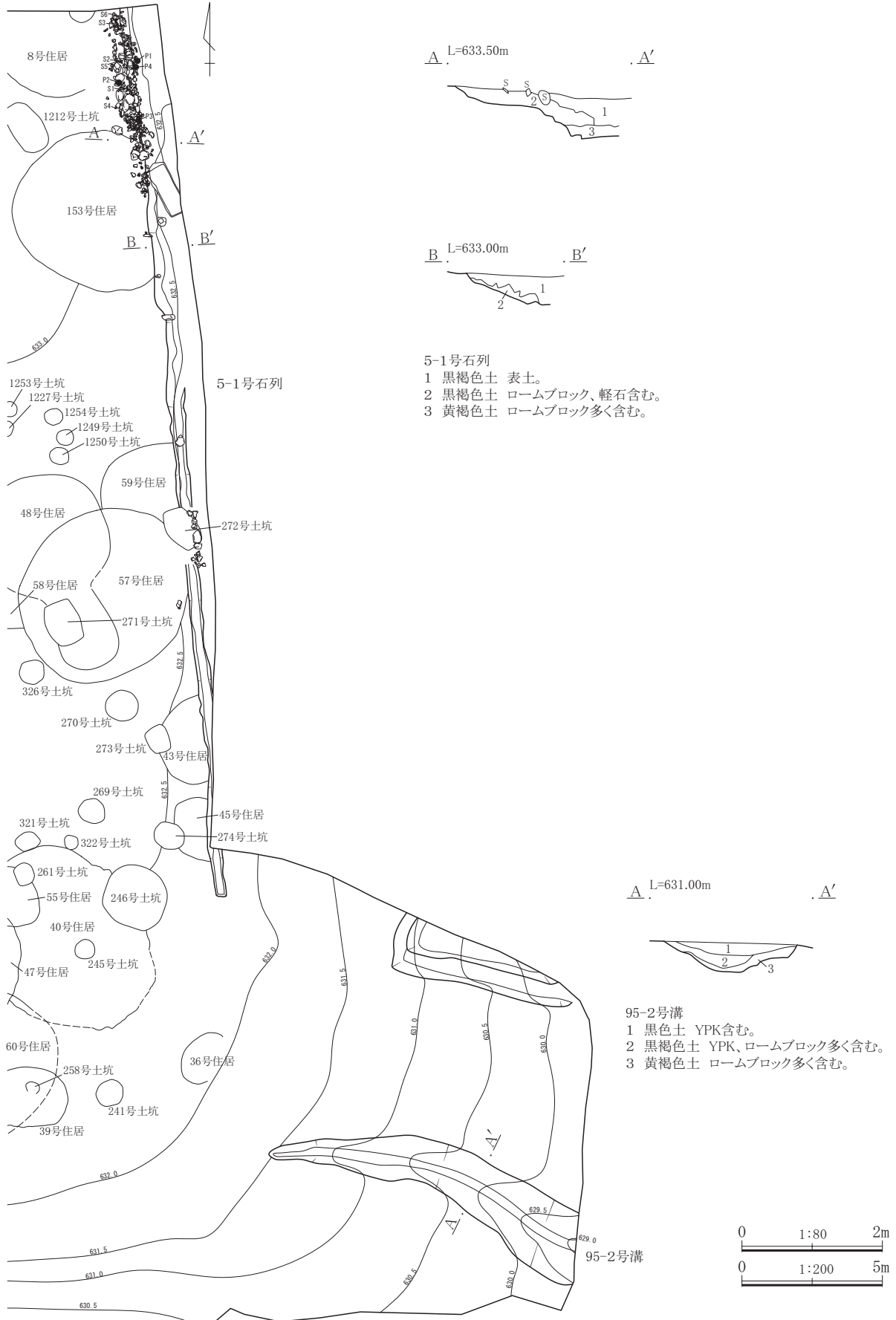


第550図 95区土坑(平安時代以降)(8)



第551図 8・17～19区トレンチ及びび土坑全体図

第3章 検出された遺構と遺物

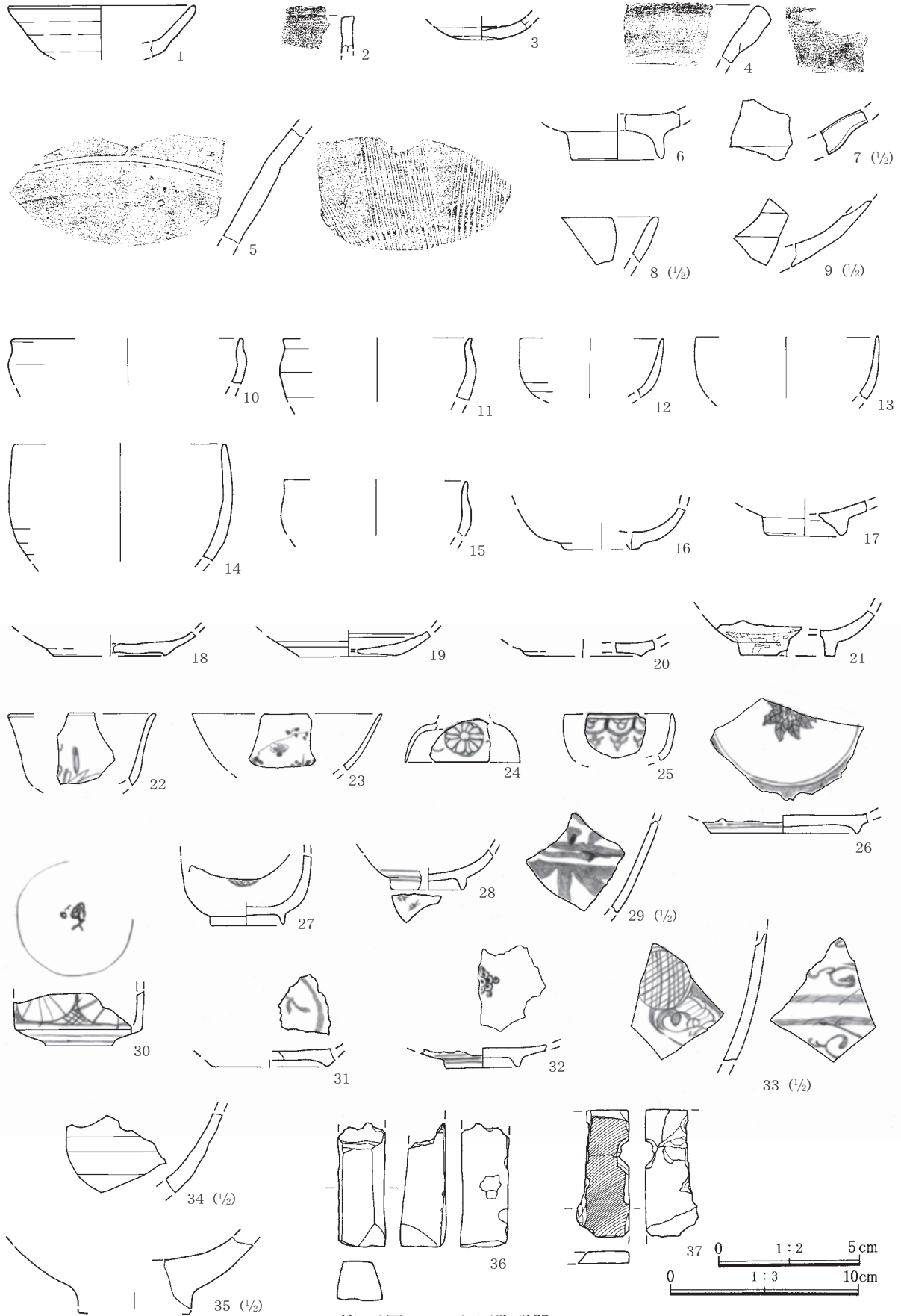


- 5-1号石列  
 1 黒褐色土 表土。  
 2 黒褐色土 ロームブロック、軽石含む。  
 3 黄褐色土 ロームブロック多く含む。

- 95-2号溝  
 1 黒色土 YPK含む。  
 2 黒褐色土 YPK、ロームブロック多く含む。  
 3 黄褐色土 ロームブロック多く含む。

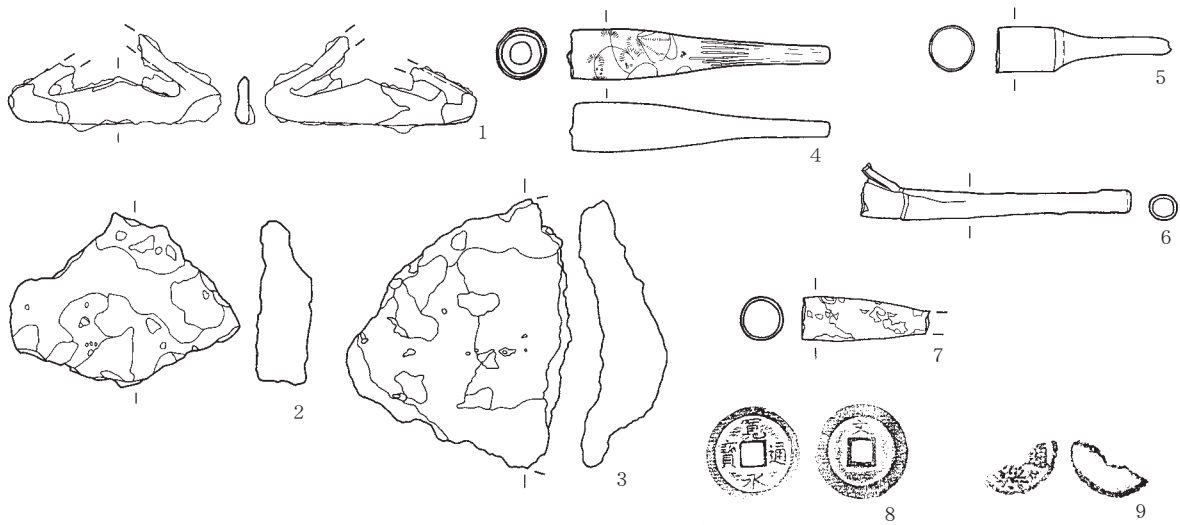
第552図 5-1号石列・95-2号溝

第3節 平安時代以降の遺構と遺物



第553図 5・95区陶磁器

第3章 検出された遺構と遺物



第554図 5・95区金属製品

4. 出土遺物 (第553・554図：PL.268)

遺構に伴うと考えられる平安時代の遺物としては、住居の竈痕跡である可能性が高い、5-6号焼土から僅かに須恵器の小片1点が見られたのみである。

他の遺物に関しては、縄文時代の遺構中に攪乱等で混入したものや、近現代の遺構（攪乱等を含む）中より出土したもの、さらには遺構外から出土したものである。中・近世の陶磁器や火打ち金、銭、キセルなどの金属製品、鉄滓などが出土している。

表4 出土遺物観察表(平安時代以降)

5-6号焼土

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第534図 PL.268	1	杯 覆土 口縁部破片 口：(9.1)	①細：石英 ②黒色	体部やや内湾気味に開き口縁部は僅かに外反。ロク口成型。内黒土器。煤付着。	11c前半

5・95区 陶磁器

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第553図 PL.268	1	須恵器杯 95-57住覆土 口縁部小破片	①細：輝石 ②褐灰色	小径で体部下半で屈曲する。右回転口ロ整形。内外面とも煤付着。	平安時代
第553図 PL.268	2	内耳土器 19-表土 口縁部小破片	①細：石英 ②鈍い褐色	直立気味の口縁部。緩やかな内湾を見る。口唇部平坦でシャープ。内外面横撫で。	中世
第553図 PL.268	3	陶器 灯火皿 95-2溝 底部片 底：(1.8)	①緻密 ②鈍い黄褐色	見込みに目痕1カ所。内外面器壁に剥落多い。京・信楽系か。	近世か
第553図 PL.268	4	陶器 すり鉢 5-1石列 口縁部片	①石英粒 ②明茶褐色	瀬戸。	近世
第553図 PL.268	5	陶器 すり鉢 5-1石列 胴部片	①石英粒点在 ②明茶褐色	14本を単位とするすり目。瀬戸。	近世
第553図 PL.268	6	陶器 碗 95-表土 底部	①精製 ②灰黄色	呉器手碗。高台部の周囲を打ち欠き、円盤状に成形。肥前系。	近世
第553図 PL.268	7	青磁 皿 95-G15 胴部片	①精製 ②青緑色	稜花皿か。中国。	中世
第553図 PL.268	8	青磁 碗 95-H24 口縁部片	①精製 ②灰緑色	蓮弁文碗。中国。	中世
第553図 PL.268	9	青磁 碗 5-J4 胴部片	①精製・微黒色粒 ②灰緑色	蓮弁文碗。中国。	中世
第553図 PL.268	10	陶器 碗 5-表土 口縁部片	①精製 ②黒褐色	天目茶碗。	大窯3
第553図 PL.268	11	陶器 碗 5-表土 口縁～胴部	①精製 ②茶褐色	天目茶碗。	大窯3
第553図 PL.268	12	陶器 碗 95-169土 口縁～胴部	①精製・石英粒少 ②明灰白色	小碗。灰釉。瀬戸・美濃系。	近世
第553図 PL.268	13	陶器 碗 95-1溝 口縁～胴部	①石英粒少 ②明灰白色	灰釉。瀬戸・美濃系。	

第3節 平安時代以降の遺構と遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第553図 PL.268	14	陶器 碗 5-1 石列 口縁~胴部	①精製 ②茶褐色・青灰白色	尾呂茶碗。瀬戸・美濃系。	近世
第553図 PL.268	15	陶器 碗 5-表土 口縁部	①精製 ②黒褐色	天目茶碗。瀬戸・美濃系。	連房1小期
第553図 PL.268	16	陶器 碗? 5-P6 底部	①白色粒少 ②白色	志野。	大窯4後半
第553図 PL.268	17	陶器 皿 95-表土 底部	①精製 ②淡青白色	見込み蛇ノ目釉剥ぎ。波佐見系。	近世
第553図 PL.268	18	陶器 皿 95-5住覆土 底部	①精製 ②淡灰緑色	丸皿。高台内に輪トチン付着。	大窯2か3
第553図 PL.268	19	陶器 灯火皿 5-R6 底部	①精製 ②内:灰白色・外:灰色	見込みに目痕1ヵ所、3本を単位とするすり目状を施す。京・信楽系。	近世か
第553図 PL.268	20	陶器 皿 95-表土 底部片	①精製 ②淡灰緑色	丸皿。高台内に輪トチンの痕跡あり。	大窯2か3
第553図 PL.268	21	陶器 碗 5-表土 底部	①精製 ②暗黒褐色	鉄釉。肥前系。	17c後半
第553図 PL.268	22	染付 碗 95-1溝 口縁~胴部	①精製 ②淡青白色	端反碗。肥前系。	近世
第553図 PL.268	23	染付 碗 5-表土 口縁~胴部	①精製 ②青白色	外面に梅樹文。肥前系。	近世
第553図 PL.268	24	染付 合子? 5-表土 口縁~胴部	①精製 ②白色	合子の蓋か?菊花文。肥前系。	近世
第553図 PL.268	25	染付 小碗 95-24住覆土 口縁~胴部	①精製 ②白色	小碗か仏飯器。肥前系。	近世
第553図 PL.268	26	染付 皿 5-表土 底部	①精製 ②青白色	見込みコンニャク印判による花文。肥前系。	近世
第553図 PL.268	27	染付 碗 95-C25 胴部~底部	①精製 ②青白色	外面に丸文。肥前系。	近世
第553図 PL.268	28	染付 碗 95-E23 底部	①精製 ②青白色	高台内に銘あり。被熱か。肥前系。	近世
第553図 PL.268	29	染付 碗? 5-表土 胴部片	①精製 ②灰白色	被熱。肥前系か。	近世か
第553図 PL.268	30	染付 碗 95-表土 胴部~底部	①精製 ②灰白色	筒形碗。外面に崩れた水裂地に菊花文。見込みに崩れた五弁花。肥前系。	近世
第553図 PL.268	31	陶器 皿 95-R17 底部	①精製:石英粒少 ②灰白色	鉄絵。志野。	大窯4後半
第553図 PL.268	32	染付 碗 5-表土 底部	①精製 ②青白色	筒形碗か。見込みに五弁花。肥前系。	近世
第553図 PL.268	33	染付 皿? 5-表土 胴部片	①精製 ②青白色	肥前系か。	
第553図 PL.268	34	陶器 碗? 95-表土 胴部片	①精製 ②暗黒褐色	鉄釉。瀬戸・美濃系。	近世か
第553図 PL.268	35	陶器 碗 95-24住 底部片	①精製 ②灰緑色	呉器手碗。肥前系。	近世

石器・石製品

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第553図 PL.268	36	砥石	L-17	欠損	(6.3)	2.4	2.4	(53)	断面台形を呈す、4面使用。小型品。	流紋岩	近世
第553図 PL.268	37	滑石製品	K-18	欠損	(6.8)	(2.8)	0.6	(22.8)	板状の滑石製品の角部分片、片面に鋸目(回転)。	滑石	近・現代か

金属製品

挿図番号 図版番号	No.	器種・部位出土位置	計測値(cm)	重さ(g)	特 徴 等	備 考
554図 PL.268	1	火打ち金 95-56号 住(縄文)混入品	5.6×(2.4)×0.5	(11.6)	振り部分欠損	95区 F-24グリッド
554図 PL.268	2	鉄滓 95区 C-24グリッド	4.5×6.1×1.5	49.5	やや厚みを持つ	
554図 PL.268	3	鉄滓 95区 P-13グリッド	(6.0)×6.9×2.2	(90.9)	碗型滓	一部欠損
554図 PL.268	4	煙管 吸い口 5区 表土	6.8×1.3	9.3	竹のラオが残る、表面に毛彫りによる草花文	
554図 PL.268	5	煙管 吸い口 95区 N-17グリッド	4.6×1.2	2.6	吸い口部分が細くなる	
554図 PL.268	6	煙管 吸い口 95区 M-16グリッド	(7.2)×0.7	(7.6)	やや細身	
554図 PL.268	7	煙管 吸い口 95区 C-24グリッド	(3.4)×1.1	(2.3)	吸い口部分を欠く	
554図 PL.268	8	銭貨 19区 11トレンチ	径 2.5cm	3.5	寛永通宝	
554図 PL.268	9	銭貨 95区 表土	径 (2.4) cm	(0.8)	永樂通寶、欠損	表面風化

## 第4章 東中学校進入路（12区）

長野原一本松遺跡の中央を走る道路が屈曲し、北から南に下る谷地を横切っているが、調査区はこの道路の北に見上げる沢地部分が対象地となる。長野原一本松遺跡の東端の12区に位置する。

年度当初に急遽、中学校移転に伴う進入路の工事が行われることとなり、事前の調査を実施した。5・95区の調査と平行して実施した。中央が下がる谷地形で、両側はかなりの急斜面を為しており、調査区内において平坦面は見られない。調査は対象地内に谷を挟んだ場所へ傾斜方向のトレンチ設定し調査を行った。

### 第1節 調査経過と調査方法

4月

事業団、委託者及び、施工業者の立ち会いの下対象地の範囲確認および上物の処理方法等について確認を行った。立木について伐採業者が決まり、プレハブ設置場所等について調整を行う。立木伐採前に再度上物、植物等の調査を行う。

5月

初旬に調査区内伐採開始、中旬に終了。伐採後の木材除去後に、調査区の全景写真撮影を行う。現状はかなり左右に立ち上がる斜面がV字状の谷地を形成、谷部分は南に下る小さな沢となっており、大小の崩落したと思われる礫が所々に露出した状況であった。現況の測量を行う。表面に土器や石器の散布は認められず。かなりの急傾斜地であり、遺構等の存在は薄いものと判断し、左右の斜面部および手前側のやや平坦な部分にトレンチを設定し調査を行うこととした。トレンチ6本（No.1～6）を設定することとし、調査区内の清掃と再度現況の写真撮影を行う。

重機によりトレンチの掘削を開始、1号トレンチを除き表土は浅く、基本層序で言うところのⅡ層の堆積も見られず。茶褐色の地山砕礫土で、大きな地山礫も点在する。トレンチの掘削後写真、図面を採る。

遺構、遺物は検出されなかった。各トレンチの配置図をおよび全景写真撮影を行い調査を終了した。

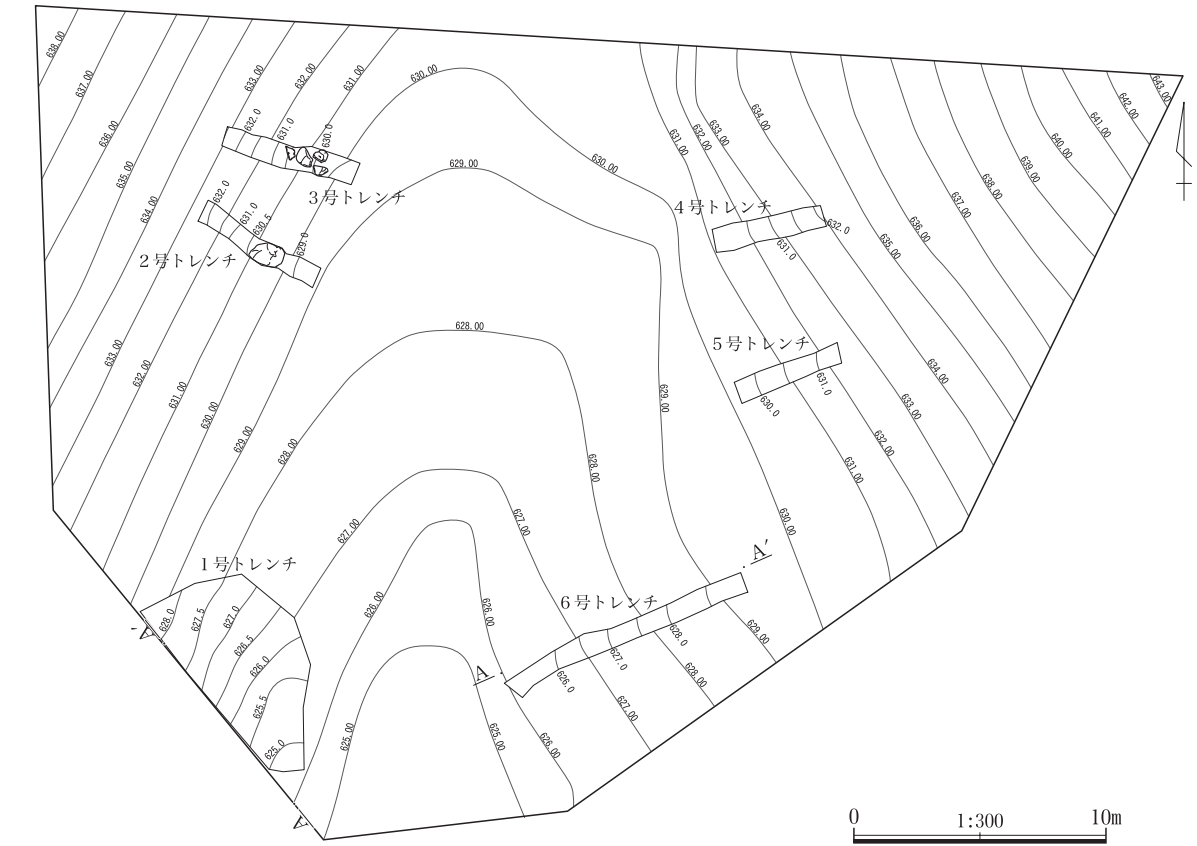
### 第2節 検出された遺構と遺物

設定した6本のトレンチ内において、遺構および遺物の検出は見られなかった。トレンチの表土はかなり浅く、浅いところでは、約20cmで地山が露出。土層の堆積状況は表土下にほとんど黒色土は見られず、ローム地山面に移行している。場所により地山の大型礫が露出する状況であった。

地山は垂角礫を含んだ岩性土である。谷の下部には崩落した岩石が集中して見られた。トレンチ内では遺構、遺物ともに検出されなかった。1号トレンチは調査区の最も下位部分にあたり、黒色土の堆積が厚かった。断面中に灰褐色を呈すAs-KK（浅間粕川火山灰）を確認した。

各トレンチの観察から、遺構の存在は認められず、また、遺物の出土も見られなかったことから、対象地内について遺構の存在は無いものと判断された。

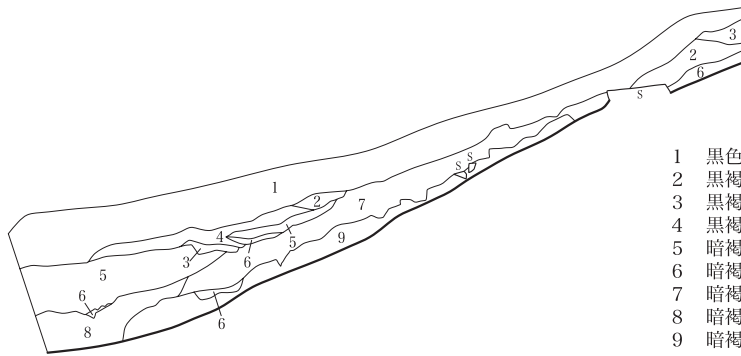




1号トレンチ  
A L=629.00m



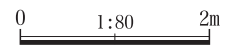
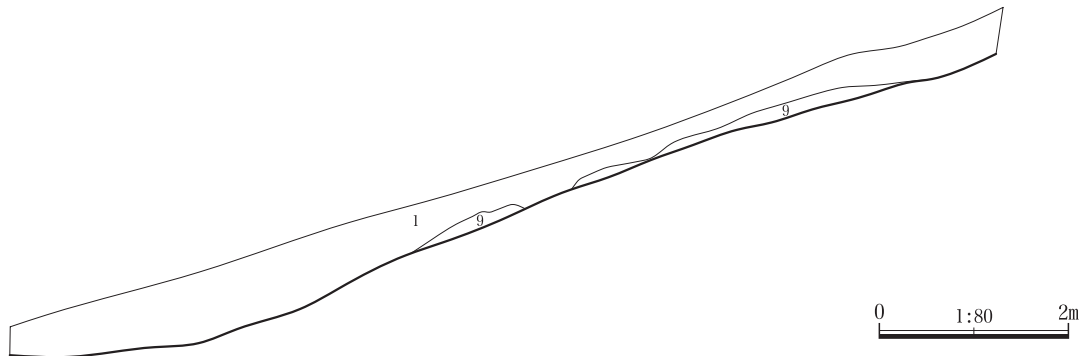
A'



6号トレンチ  
A L=630.00m

- 1 黒色土 表土。
- 2 黒褐色土 粗粒で礫を含む。
- 3 黒褐色土 小礫、若干の軽石含む。
- 4 黒褐色土 礫含みや細粒、軽石含む。
- 5 暗褐色土 小礫、軽石含みや粘性あり。
- 6 暗褐色土 灰層。As-kの二次堆積か。
- 7 暗褐色土 礫、軽石多く含む。
- 8 暗褐色土 軽石含み細粒。
- 9 暗褐色土 地山礫含み、粘性あり。

A'



第555図 12区(東中学校進入路)全体図

第4章 東中学校進入路 (12区)

表5 遺構一覽表

住居跡  
5区

番号	位置	形状	規模	方位	炉	柱穴	床面	出土遺物	時期	備考
8	D・E-5・6	隅丸方形	680×620×30	N-32°-W	石囲い、炉体土器			土器、石器	中期後葉	平成8、16年度調査
146	H・I-3・4	円	(500)×(400)×-	N-13°-E	石囲い、炉体土器	2	埋裏(逆位)	土器、石器	中期後葉	壁は削平、5-8掘立重複
147	L-2・3 M・K-2	円	(480)×(480)×20	-	石囲い	6	削平	土器、石器	中期後葉	南壁は削平、5-148住重複
148	L-2・3	隅丸方形	420×(290)×35	N-11°-W	地床炉、炉石抜き取り痕	4	蓋石と埋裏	土器、石器	中期後葉	西側未調査
149	I・J-2・3	円	400×(380)×28	N-35°-W	石囲い				中期後葉	5-151住と重複
150	5H・I-1・2、95H・I-25	隅丸方形	540×630×40	N-24°-W	石囲い、一部残				中期後葉	中央に後世の陥し穴重複
151	I-2・3	円	460×(460)×20	N-31°-W	石囲い				中期後葉	北東に5-149住が重複
152	G・H-3	円	495×485×30	-	-				中期後葉	炉
153	D-2・3	円	570×(500)×30	N-25°-W	石囲い炉体土器				中期後葉	
154	F・G-2	円	481×470×29	-	炉体土器				中期後葉	
155	F・G-3・4	円	640×580×30	N-18°-W	石囲い、炉体土器		入り口埋裏		中期後葉	入り口部僅かに張り出す
156	E・F-2・3	円	500×480×60	N-15°-E	石囲い				中期後葉	入り口部大型の平石立石

95区

番号	位置	形状	規模	方位	炉	柱穴	床面	出土遺物	時期	備考
5	M・N-17・18	円	660×640×50	N-51°-W	石囲い(1号炉)				不明	
12	L・M-21・22	円	(600)×(570)×50	N-47°-W	石囲い炉		P-1壁に埋裏	黒曜石石核	中期後葉(古)	埋裏、床面に伏裏(完形)
13	J・K-22・23	円	550×540×56	N-25°-E	石囲い				中期後葉	
14	K・L-23~25	円	540×530×50	N-24°-W	石囲い土器1号炉2号炉				中期後葉	
15	L・M-22~23	円	510×(400)×45	N-4°-W	石囲い、炉体土器		埋裏		中期後葉	
16	L-20・21	円	350×(340)×20	N-24°-E	石囲い	4		破片	中期後葉	5-12住に切られる
17	K・L-23・24	円	(400)×380×30	N-6°-E	石囲い				中期後葉	
18	G~I-24・25	円	760×700×60	N-30°-E	地床炉				中期後葉(古)	5-20住に大きく切られる
19	I・J-21・22	柄鏡形敷石	780×510×60	N-18°-E	石囲い、炉体土器	9		深鉢	後期初頭	方形周礫、建て替え(拡張)
20	G・H-23~25	円	720×695×50	N-26°-W	石囲い、炉体土器		埋裏		中期後葉	
21	U・V-18	円	-	-	不明		土坑の重複		中期後葉	南西側調査区外
22	Q~S-16・17	長方形	540×360×-	N-21°-E	石囲い、炉体土器	10			中期後葉	平地式
23	O・P-17・18	円	660×(400)×40	N-5°-W	石囲い				中期後葉	
24	N・O-15・16	楕円	(650)×600×19	N-26°-E	石囲い				中期後葉	
25	K~M-16・17	円	(560)×535×25	-	炉				中期後葉	
26	L・M-19	円	325×(228)×37	N-15°-E	石囲い				中期後葉	
27	I・J-23・24	円	310×300×30	N-15°-W	石囲い				中期後葉	
28	K・L-17・18	円	推定径600	-	-				中期後葉	
29	H・I-20	柄鏡形か	(770)×500×10	N-34°-W	石囲い				後期初頭	
30	I・J-21・22	円	610×610×50	N-32°-W	石囲い				中期後葉	95-19住が重複
31	O・P-13・14	円	(660)×(650)×0	-	炉		周溝一部		中期後葉	
32	M・N-14・15	円	(600)×(550)×0	N-32°-W	炉				中期後葉	
33	L・M-15・16	円	(600)×(600)×0	-	炉 炉体土器		周溝一部		中期後葉	
34	I・J-17・18	円	(430)×(400)×20	N-50°-W	石囲い				中期後葉	
35	E・F-17	円	(430)×380×40	N-31°-W	土器				後期初頭	
36	C-20・21	円	210×(150)×10	N-52°-W	石囲い				中期後葉	
37	L・M-23・24	円	400×290×30	-	-				中期後葉	
38	J・K-19・20	円	315×320×50	N-15°-W	石囲い				中期後葉	
39	D・E-20	楕円	280×210×15	N-2°-E	石囲い				中期後葉	
40	D・E-21・22	円	710×(600)×15	N-37°-W	石囲い				中期後葉	
41	E・F-19・20	円	(600)×605×60	N-35°-W	石囲い				中期後葉	
42	K-23	円	(290)×(290)×25	-	-				後期前葉	
43	C-23	円	(350)×(350)×10	-	-				中期後葉	
44	F・G-19・20	円	(540)×550×60	N-5°-E	石囲い、炉体土器				中期後葉	
45	C-22・23	円	(230)×(170)×10	-	地焼炉				中期後葉	
46	H・I-21	円	(380)×(380)×30	N-12°-W	石囲い、炉体土器				中期後葉	
47	E・F-20~22	円	690×680×30	N-7°-W	石囲い、炉体土器				中期後葉	
48	D・E-24・25	柄鏡形敷石	720×460×50	N-23°-W	石囲い			土器、石器	後期初頭	円形周礫
49	I-19	円	(260)×250×15	N-43°-W	石囲い				中期後葉	
50	G・H-19・20	円	(350)×310×20	-	炉				中期後葉	
51	I・J-19	円	290×280×80	-	-				中期後葉	
52	F・G-22・23	円	(420)×(420)×15	N-0°-W	石囲い				中期後葉	
53	E・F-22・23	円	440×430×30	N-18°-E	地焼炉				中期後葉	
54	E・F-23・24	楕円	(470)×400×50	N-27°-W	石囲い				中期後葉(古)	床面上に多量の軽石
55	E-22	円	240×180×35	N-50°-E	炉				中期後葉	
56	F・G-24・25	円	710×650×45	N-8°-E	石囲い、炉体土器				中期後葉	
57	C・D-24・25	円	580×(640)×40	N-12°-W	石囲い、炉体土器				中期後葉	
58	E-24・25	円	(550)×(440)×20	N-25°-W	石囲い、土器				中期後葉	
59	95C・D-25、5C・D-1	円	-	-	-				中期後葉	
60	D・E-20・21	柄鏡形か	(500)×(500)×0	N-0°	炉掘方				後期か	

掘立柱建物

5区

番号	位置	形状	規模	方位	炉	柱穴	床面	出土遺物	時期	備考
2	K~L-2~4	亀甲形	900×400	N-53°-E		10			後期	
3	K・L-1	長方形	470×240	N-58°-W	焼土有り	6			後期	
4	G・H-2~4	長方形	590×320	N-8°-E	有り(3カ所)	6	埋裏		中期末	5-7、8、9号炉
5	F・G-1~3	亀甲形	770×260	N-19°-E		8			中期末	
8	H・I-4・5	長方形	480×220	N-32°-W	無し	6			後期	南東側半分は5-146住に重複

95区

番号	位置	形状	規模	方位	炉	柱穴	床面	出土遺物	時期	備考
3	I~K-23~24	長方形	610×440	N-16°-W	大型炉有	9	平坦、埋裏	土器、石器	中期末	
4	95H・I-25、5H・I-1	長方形	540×300	N-53°-E		(6)			中期末	北東隅は陥し穴に削平

炉

95区

番号	位置	形状	規模	方位	形態・特徴	時期	備考
17	I-24		70×60×20	-	屋外炉、北側に炉石1つが残存他は抜き取られたか		

第1節 調査経過と調査方法

埋喪

5区

番号	位置	形状	残存	形態・特徴	備考
15	L・M-1	逆位	口縁部2分の1		
16	H-2	正位	底部	5-4号掘立柱建物内、南寄りに位置	

95区

番号	位置	形状	残存	形態・特徴	備考
1	H-25	正位	胴部	95-18号住居内に在り、東側を95-89号土坑により一部壊されている	
2	J-23	逆位	胴部	95-3号掘立柱建物の95号土坑の北側に位置、周辺に礫点在	95-3掘立に付随
3	I-22	正位	胴部	内部に軽石(純層に近い)詰まる。	

焼土

5区

番号	位置	形状	規模	方位	形態・特徴	出土遺物	時期	備考
6	J・K-2	馬蹄形	65×61		住居のカマドか	土師器、須恵器	平安	カマドの痕跡と考えられる
7	H-3	不定形	94×80		中央部に炬石	土器	縄文	5-4掘立の炉
8	H-3	不定形	120×80		南北に長く焼土の広がり		縄文	5-4掘立の炉
9	G-3・4	不定形	104×63		炬石、南北に長い焼土の広がり		縄文	5-4掘立の炉
10	D-4	円形	62×55				平安以降	5-8住内
11	F-5	不定形	(40)×50				平安以降	
12	E-3	不定形	60×40				平安以降	5-156住内
13	E-3	不定形	60×20				平安以降	5-156住内
14	D・E-4・5	不定形	(72)×72				平安以降	5-8住内
15	D・E-4	不定形	38×30				平安以降	5-8住内

95区

番号	位置	形状	規模	方位	形態・特徴	出土遺物	時期	備考
1	I-22	長円形	130×110		焼土下に浅い掘り込み、下位に円形土坑		縄文後期	土坑内に大型土器片、磨石
2	I・J-23	不定形	140×50	N-58°-W	細長い雲形に広がる。焼け方は弱い	土器片少量	平安以降	
3	J-19	不定長円形	115×95		北西部に礫が見られる。	土器片	平安以降	95-38住に重なる
4	K-18	不定形	60×55		焼土は疎らで焼け方は弱い	無し	平安以降	
5	L-23	不定形	50×45		焼け方は弱い	無し	平安以降	95-37住に重なる
6	L-23	不定形	80×50		95-5号焼土の東に近接、焼け方は弱い。	無し	平安以降	95-37住に重なる
7	E-25	長円形	65×40		土器片出土、焼土はブロック状を呈す。	土器片	縄文	
8	欠番							
9	欠番							
10	X-20	不定形	50×35		不定形な掘方	土器片	縄文	
11	W-20	不定形	200×50		焼土が斑に点在	土器片	縄文	平12年度に一部調査
12	T-19	不定形	35×30		焼け方弱い	無し	縄文	
13	R-18	不定形	150×70		大型の川原石伴う		縄文	礫を伴う
14	P-18	不定形	260×130		大きく広がる、土器片、95-23号住に重複	土器片	縄文	焼土大きく広がる
15	N-17	不定形	60×40		焼け方弱い。	土器片	縄文	95-5住に重複、住居より新
16	M-17	不定形	120×90		焼け方弱く焼土は薄い。		縄文	95-5住に重複、住居より新

配石

95区

番号	位置	形状	規模	方位	形態・特徴	時期	備考
1	U-20	円形	50×45	-	8個の礫を円く配置する、内部に焼土はほとんど見られず	縄文	
2	I-16・17	円形か	70×(70)	-	5個の礫が弧状に残る、南側は削られたものと思われる	縄文	

溝

95区

番号	位置	形状	規模	方位	形態・特徴	時期	備考
2	94Y-18・19,95A・B-19-20		現長11m、幅2.5m		谷に向かって深く削れ、幅も広がっている。自然流路か	縄文	陶磁器片出土

土坑

5区

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
30	5	H・I-5	長楕円形	200×100×111	(N-24°-W)		平安以降	陥し穴。平16南部分追加調査
40	5	I-5	(楕円形)	99×(65)×50	(N-48°-W)			平成16年度再調査
66	5	I-4・5	長円形	232×176×212	N-39°-W		陥し穴	5-40土を切る、平成16年度南側調査
99	5	I-5	(楕円形)	120×100×44	(N-83°-W)	土器1・石器1		平成16年度南側半分追加調査
182	5	D-5	楕円形	180×130×80	N-38°-W			陥し穴、5-8住内に在りこれを切る
1115	5	L・M-1	円形	128×116×35			平安以降	陥し穴
1116	5	H・I-1	長円形	220×180×142	N-62°-E		平安以降	陥し穴 5-150住内
1117	5	G-5	円形	84×80×45			平安以降	
1118	5	K・L-3	円形	206×195×125			平安以降	陥し穴
1119	5	J-4・5	長円形	230×156×140	N-51°-W		平安以降	陥し穴
1120	5	L-2	円形	28×26×26		礫 土器1	縄文	礫が詰まる、5-147住に重複
1121	5	K・L-5	長円形	180×64×55	N-67°-E		縄文中期	陥し穴か 蝶ネクタイ型
1122	5	J・K-3・4	長円形	200×172×104	N-2°-W		平安以降	陥し穴 蝶ネクタイ型
1123	5	L-4	円形	113×113×47			縄文	
1124	5	J-5	長円形	130×82×40	N-50°-E		縄文	
1125	5	I-5	長円形	62×44×41			縄文	
1126	5	I-5	長円形	114×90×25			縄文	
1127	5	K・L-1	円形	73×72×56			縄文	5-3掘立P-2
1128	5	J・K-1	長円形	156×78×74	N-88°-W	土器1	縄文中期	陥し穴か 蝶ネクタイ型
1129	5	L-2	長円形	74×66×62		土器2	縄文	
1130	5	K-1	円形	72×60×69		土器9	縄文	5-3掘立内にあり上層に焼土
1131	5	K-2	長円形	170×59×58	N-86°-E		縄文中期	陥し穴か 蝶ネクタイ型
1132	5	L-3・4	円形	70×64×46			縄文	
1133	5	K・L-3・4	長円形	200×76×45	N-88°-E		縄文中期	陥し穴か 蝶ネクタイ型
1134	5	L-4	円形	68×64×22			縄文	
1135	5	L-5	長円形	50×38×32			縄文	
1136	5	K・L-4・5	円形	128×102×20			縄文	
1137	5	L-4	円形	110×92×15			縄文	
1138	5	I・J-5	円形	88×82×39			縄文	

第4章 東中学校進入路 (12区)

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
1139	5	J-2	円形	48×41×26			縄文	
1140	5	G・H-1	円形	74×70×104			縄文	5-5 掘立P-1 柱痕あり
1141	5	H-2	円形	92×88×118		打製石斧	縄文	5-4 掘立P-1 柱痕あり
1142	5	I-2	円形	110×105×60		打製石斧 土器5・石器2	縄文	
1143	5	J・K-2	円形	114×110×34			縄文	
1144	5	G-1	円形	28×68×71			縄文	5-5 掘立P-8
1145	5	G-2	円形	110×103×116			縄文	5-4 掘立P-6
1146	5	H-3	円形	80×80×106			縄文	5-4 掘立P-2 柱痕あり
1147	5	H-4	円形	66×64×84			縄文	5-4 掘立P-3 柱痕あり
1148	5	G-4	円形	76×74×82		石核	縄文	5-4 掘立P-4 柱痕あり
1149	5	G-3	円形	97×97×97		磨製石斧	縄文	5-4 掘立P-5 柱痕あり
1150	5	I-3	円形	82×82×46			縄文	
1151	5	I-3	円形	100×94×75		石皿 土器3・石器2	縄文	
1152	5	J・K-3	長円形	130×98×32		大型土器片 土器3	縄文	
1153	5	J-4	長円形	62×29×22	N-42°-W		縄文	
1154	5	I・J-4・5	円形	80×78×24		石器1	縄文	
1155	5	I-4・5	円形	71×70×11			縄文	
1156	5	I-4	円形	44×42×20			縄文	
1157	5	I-4	長円形	55×50×37			縄文	
1158	5	I-5	円形	49×40×44			縄文	
1159	5	H-4	円形	52×52×41			縄文	5-146住の柱穴(P-4)
1160	5	H-5	長円形	56×43×60			縄文	
1161	5	I-5	不明	-×46×16			縄文	
1162	5	I-5	長円形	33×26×37			縄文	5-8 掘立P-4 柱痕か
1163	5	I-5	長円形	44×33×27			縄文	
1164	5	H-5	円形	36×31×25			縄文	
1165	5	H-5	円形	34×28×36			縄文	
1166	5	I-4・5	長円形	72×50×27	N-15°-E		縄文	5-8 掘立P-3 柱痕か
1167	5	H-4・5	円形	42×40×33			縄文	
1168	5	I-4	円形	38×37×26			縄文	
1169	5	I-4	長円形	62×40×28			縄文	
1170	5	H-4	円形	40×36×16			縄文	
1171	5	H-4	長円形	60×42×46	N-11°-E		縄文	5-8 掘立P-5 柱痕か
1172	5	I-4・5	円形	41×40×29		土器1	縄文	
1173	5	I-4	長円形	42×31×50			縄文	
1174	5	I-3・4	円形	48×45×57		石鏃 土器1・石器1	縄文	
1175	5	I-4	円形	58×50×37			縄文	5-8 掘立P-2 柱痕か
1176	5	H-3	円形	48×45×40			縄文	5-146住の柱穴(P-5)
1177	5	H-3	円形	30×30×36			縄文	
1178	5	H-4	円形	90×87×27			縄文	
1179	5	H-4	円形	40×38×38			縄文	5-146住の柱穴(P-3)
1180	5	H-4	円形	34×34×24			縄文	
1181	5	H-4	円形	28×28×44			縄文	5-8 掘立P-6 柱痕か
1182	5	H-4	円形	34×28×36			縄文	
1183	5	H-4	長円形	44×32×16			縄文	
1184	5	H-4	円形	54×44×37			縄文	
1185	5	H-3・4	長円形	56×48×44			縄文	5-8 掘立P-1 柱痕か
1186	5	I-3	円形	30×26×21			縄文	5-146住の柱穴(P-1)
1187	5	I-4	円形	29×28×46			縄文	
1188	5	I-3	円形	104×100×30			縄文	
1189	5	H・I-3	長円形	70×59×29		石器1	縄文	
1190	5	I-3	円形	56×68×25		土器1	縄文	
1191	5	I-2	円形	38×34×44			縄文	
1192	5	J-2・3	長円形	50×36×40			縄文	
1193	5	J-3	円形	119×104×24			縄文	
1194	5	I・J-3	円形	100×100×34		土器7	縄文	
1195	5	I・J-1・2	長円形	351×94×20	N-31°-E	磨石 土器2・石器1	縄文	
1196	5	L-4	長円形	90×74×30	N-26°-E		縄文	
1197	5	J-1	円形	53×53×17			縄文	
1198	5	I-4	円形	72×60×33			縄文	
1199	5	I-2	円形	59×58×38			縄文	
1200	5	H・I-2	円形	95×85×58		土器3	縄文	
1201	5	I-1	円形	56×44×34			縄文	
1202	5	G-3	円形	110×99×54			縄文	
1203	5	G-3・4	円形	87×85×34		土器1	縄文	
1204	5	H-2	円形	92×90×51			縄文	
1205	5	H-2	円形	60×55×38			縄文	
1206	5	H-2・3	円形	118×110×54			縄文	
1207	5	H-2	長円形	56×46×28			縄文	
1208	5	G-2	長円形	134×112×43		打製石斧、石鏃 土器7・石器2	縄文後期	
1209	5	G・H-2・3	円形	108×108×55		石皿 土器9・石器2	縄文後期	
1210	5	G-2	不明	-×-×39		土器1	縄文中期	
1211	5	G・H-2	円形	72×72×58		土器1	縄文中期	
1212	5	D・E-3・4	長円形	190×113×97	N-33°-W			平安以降 陥し穴
1213	5	E-2	長円形	200×134×84	N-38°-W			平安以降 陥し穴
1214	5	G-1	長円形	97×67×66	N-73°-E			縄文中期
1215	5	G-2	円形	85×80×88				縄文中期
1216	5	G-2・3	円形	80×79×80				縄文中期
1217	5	H・G-2	円形	80×78×93				縄文中期
1218	5	F-2	円形	83×78×74				縄文中期
1219	5	G-1	円形	78×72×82		根巻き石	縄文中期	
1220	5	G-3・4	円形	78×70×33		土器1	縄文中期	
1221	5	H-4	円形	70×79×26			縄文中期	5-146住内
1222	5	G-3	円形	70×66×38			縄文中期	5-5 掘立P-4
1223	5	G・H-4	円形	48×48×45		磨石 土器2・石器1	縄文中期	
1224	5	E・F-1・2	円形	132×132×44		土器 土器6・石器1	縄文中期	底面に礫
1225	5	G・H-1	円形	120×(120)×40		石皿 石器1	縄文中期	5-150住と重複

第1節 調査経過と調査方法

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
1226	5	G・H-1	長円形	110×85×32	N-14°-E	打製石斧 土器1・石器1	縄文後期	
1227	5	E-1	円形	54×52×72		土器3	縄文中期	
1228	5	G-1	長円形	90×70×34		土器3	縄文後期	
1229	5	G-1	円形	70×66×62		土器2・石器1	縄文中期	
1230	5	G・H-1・2	長円形	120×112×28		土器片、磨製石斧 土器8	縄文後期	後期初頭
1231	5	H-2	長円形	80×72×34		磨製石斧 土器2・石器1	縄文中期	
1232	5	F-1	円形	50×50×45		土器2	縄文中期	
1233	5	G-1	円形	38×34×40			縄文中期	
1234	5	E・F-1・2	円形	77×70×70		大型土器片2 土器2	縄文中期	
1235	5	G-1・2	長円形	100×85×43		打製石斧 土器3・石器1	縄文後期	
1236	5	F-1	円形	80×72×27		土器1	縄文中期	
1237	5	F-1	円形	68×64×32		多孔石 土器2・石器1	縄文中期	
1238	5	F-1	円形	68×68×40		打製石斧 土器3・石器1	縄文中期	
1239	5	E-1	長円形	162×128×17	N-75°-E	打製石斧 土器1・石器1	縄文中期	
1240	5	E・F-4・5	円形	114×115×29		石皿片、磨石複数 土器2・石器5	縄文後期	後期前葉
1241	5	E・F-4	円形	112×98×29		土器6	縄文後期	
1242	5	E-4	長円形	150×125×20		土器9	縄文後期	
1243	5	F-1	長円形	172×98×25	N-9°-W	土器2	縄文中期	
1244	5	H-2	円形	80×80×22			縄文中期	
1245	5	G-2	円形	38×38×27			縄文中期	
1246	5	E-3・4	円形	62×56×22			縄文中期	
1247	5	H-1	円形	27×25×21		土器2	縄文後期	
1248	5	E・F-1	円形	90×78×37		打製石斧、磨石 土器2・石器2	縄文中期	
1249	5	D-1	円形	60×55×24			縄文中期	
1250	5	D-1	円形	66×60×24			縄文中期	
1251	5	F・G-1	円形	92×91×48		土器3	縄文中期	
1252	5	F-1	円形	56×43×31			縄文	
1253	5	E-1	円形	52×52×24		打製石斧 石器1	縄文	
1254	5	D-1	円形	62×58×23			縄文	
1255	5	H-2	円形	80×78×18			縄文	
1256	5	G-2・3	円形	50×44×44		土器1	縄文中期	
1257	5	I-1	円形	84×82×12		土器2	縄文中期	
1258	5	G-2	円形	40×40×17			縄文	
1259	5	E・F-1	円形	54×47×11		磨石 石器3	縄文	
1260	5	F-1	円形	56×50×20			縄文中期	
1261	5	F-1	円形	45×43×23			縄文	
1262	5	J-3	円形	40×32×20			縄文	
1263	5	I・J-2	円形	46×30×10	N-61°-E		縄文	
1264	5	J-1	円形	47×47×14			縄文	
1265	5	K-2・3	円形	46×39×22			縄文	
1266	5	H・I-2	円形	48×43×44			縄文	
1267	5	I-2	円形	54×44×48			縄文	
1268	5	G・H-4	円形	75×72×26			縄文	
1269	5	H-4	円形	36×30×26			縄文	
1270	5	H-4	円形	32×30×22			縄文	
1271	5	E-2	円形	45×40×48		土器1	縄文中期	
1272	5	G-5	円形	38×37×30			縄文	
1273	5	H-4	円形	40×36×22			縄文	
1274	5	G-4	円形	40×34×17			縄文	
1275	5	H-4	円形	40×36×18			縄文	

8区

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
6	8	V・W-25	長円形	240×170×200	N-55°-E	中層に炭化材	平安以降	陥し穴

17区

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
35	17	D・E-9	長円	166×90×90	N-65°-E		平安以降	陥し穴

18区

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
24	18	X-3	長円	196×130×120	N-65°-E		平安以降	陥し穴
25	18	W・X-2	長円	215×150×190	N-40°-E		平安以降	陥し穴
26	18	W-3	長円	190×134×150	N-51°-E		平安以降	陥し穴
27	18	W-1・2	長円	190×150×140	N-40°-E		平安以降	陥し穴
28	18	P・Q-6・7	長円	210×(120)×100	N-92°-W		平安以降	陥し穴、28・29は重複
29	18	P・Q-6・7	長円	(110)×130×80	N-95°-W		平安以降	陥し穴

19区

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
12	19	J-6・7	長円	(135)×200×190			平安以降	陥し穴
13	19	G-6・7	長円	180×145×120	N-10°-E		平安以降	陥し穴
14	19	I-5・6	円	240×230×180			平安以降	陥し穴

95区

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
28	95	V-21	円形	85×80×55		土器2		平成12年度一部調査
83	95	K・L-21	長円形	208×120×100	N-42°-E		平安以降	陥し穴
84	95	J・K-20・21	長円形	190×124×143	N-25°-E		平安以降	陥し穴
85	95	J-25	長円形	218×114×133	N-25°-W		平安以降	陥し穴
86	95	J・K-23	長円形	208×140×140	N-70°-W		平安以降	陥し穴
87	95	I-25	長円形	214×120×120	N-30°-W		平安以降	陥し穴
88	95	L・M-24	長円形	206×108×160	N-45°-W		平安以降	陥し穴
89	95	H-25	長円形	198×138×136	N-7°-W		平安以降	陥し穴
90	95	K-25	長円形	188×98×150	N-25°-W		平安以降	陥し穴
91	95	G・H-22	長円形	160×104×75	N-35°-W		平安以降	陥し穴
92	95	K-22	長円形	170×80×120	N-26°-E		平安以降	陥し穴、95-13住内
93	95	L-25	長円形	142×130×40		多孔石 土器2・石器1	縄文後期	
94	95	J-23	円形	104×90×115			縄文	95-3掘立P-1 人為埋土

第4章 東中学校進入路 (12区)

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
95	95	J-23	円形	110×100×126			縄文	95-3 掘立P-8 人為埋土
96	95	I-23	円形	110×110×122			縄文	95-3 掘立P-7 人為埋土
97	95	J・K-23・24	円形	90×90×124			縄文	95-3 掘立P-2 柱痕あり
98	95	I・J-25	円形	96×92×100		打製石斧	縄文	95-4 掘立P-1
99	95	I-25	円形	72×66×90			縄文	95-4 掘立P-6
100	95	I・J-24	円形	104×100×142			縄文	95-3 掘立P-6 柱痕あり
101	95	J-25	長円形	96×72×143	N-72°-W		縄文	95-3 掘立P-5 柱痕あり
102	95	J・K-25	長方形	(206)×104×76	N-75°-E	土器8・石器2	縄文中期	陥し穴か 蝶ネクタイ型
103	95	J-24・25	円形	100×96×145		打製石斧、磨製石斧	縄文	95-3 掘立P-4 柱痕あり
104	95	K-24	長円形	122×96×130	N-85°-E		縄文	95-3 掘立P-3 柱痕あり
105	95	J-24	長円形	82×68×140			縄文	95-3 掘立P-9 柱痕あり
106	95	K-22	長円形	104×88×72		土器1	縄文	
107	95	I-22	長円形	42×38×43		土器1	縄文	
108	95	K-25	長円形	230×202×46	N-40°-W	土器13	縄文	
109	95	5I-1、95I-25	長円形	90×64×81	N-73°-E	打製石斧、石鏃	縄文	95-4 掘立P-2 柱痕有り
110	95	5H-1、95H-25	長円形	84×70×90			縄文	95-4 掘立P-4 柱痕有り
111	95	K-24・25	円形	80×74×44		土器1	縄文	
112	95	I-23	円形	107×97×66		土器5	縄文後期	
113	95	K-24	円形	113×103×37		土器片多数 土器6・石器1	縄文	95-3 号建物西に接する
114	95	I-25	長円形	50×30×59		土器6	縄文後期	
115	95	H・I-23	長円形	100×88×63		土器1	縄文	
116	95	J-25	不整形	104×(64)×49			縄文	
117	95	K-24	円形	45×(20)×32		土器1	縄文	
118	95	J-24	長方形	193×87×70	N-50°-E	土器2	縄文中期	陥し穴か 蝶ネクタイ型
119	95	K-24	円形	(70)×(12)×40		土器1	縄文中期	
120	95	G-22・23	円形	126×120×66			縄文中期	
121	95	J-24	円形	90×90×100		打製石斧 土器1・石器1	縄文中期	
122	95	L-18	円形	108×108×36		磨石 土器2・石器1	縄文中期	
123	95	L-19	円形	114×107×37		打製石斧 土器2・石器1	縄文中期	
124	95	R-15・16	円形	140×136×42		磨製石斧、石鏃 土器1・石器2	縄文後期	
125	95	Q-15	円形	108×104×39			縄文	
126	95	P・Q-15	円形	96×96×54		土器2	縄文後期	
127	95	Q・R-14	円形	106×98×43		土器1	縄文後期	
128	95	P-14	長円形	74×60×36			縄文	95-31住柱穴
129	95	P-14	不整形	122×108×23		打製石斧 土器3・石器2	縄文	
130	95	L-19	円形	85×77×21		土器4・石器1	縄文	
131	95	I-23	円形	140×125×72		打製石斧、多孔石 土器7・石器3	縄文後期	
132	95	O-14	長円形	56×36×55	N-45°-W		縄文中期	95-31住柱穴
133	95	O-14	長円形	130×50×33	N-53°-W	土器1	縄文中期	95-31住柱穴
134	95	O-14	長円形	130×50×29	N-53°-W		縄文中期	95-31住柱穴
135	95	O-13・14	長円形	110×60×40	N-0°		縄文中期	95-31住柱穴
136	95	O-18	円形	150×(70)×27		土器1・石器1	縄文中期	
137	95	O-17・18	円形	122×116×45		土器3	縄文中期	
138	95	L-17・18	円形	106×92×13		土器2	縄文中期	
139	95	P-17	円形	60×60×53		土器1	縄文後期	
140	95	L-16	円形	88×84×16			縄文中期	
141	95	P-14	長円形	72×62×36			縄文中期	95-31住柱穴
142	95	5K-1、95K-25	長円形	114×94×17		打製石斧、磨石、石鏃 土器2・石器1	縄文中期	95-263土を切る
143	95	O-14	円形	74×64×22			縄文中期	95-31住柱穴
144	95	O-14	長円形	98×52×51	N-70°-W		縄文中期	95-31住柱穴
145	95	O-14	円形	64×62×12			縄文中期	
146	95	P-13	長円形	98×60×26	N-40°-W		縄文中期	95-31住柱穴
147	95	P-13	長円形	52×34×29		土器1	縄文後期	95-31住柱穴
148	95	J-24	長円形	87×62×33		土器2	縄文中期	
149	95	O-13	長円形	56×46×18			縄文中期	95-31住柱穴
150	95	P-13	長円形	60×44×20	N-35°-W		縄文中期	95-31住柱穴
151	95	M-15	円形	60×56×18		土器1	縄文後期	
152	95	M・N-15	長円形	80×50×26			縄文中期	
153	95	N-15	長円形	96×62×22	N-65°-W		縄文中期	
154	95	O-17	円形	102×100×16		土器1	縄文中期	
155	95	M-16	円形	94×90×62		土器1	縄文中期	
156	95	M-16	円形	138×(128)×28		石鏃、多孔石 土器2・石器2	縄文中期	
157	95	N-16	長円形	140×120×57		土器1	縄文中期	
158	95	G・H-17	長円形	206×90×86	N-55°-E		平安以降	陥し穴
159	95	L-16	円形	140×134×65		土器1	縄文中期	
160	95	W-20	円形	62×54×19			縄文中期	
161	95	W-21・22	円形	72×67×23		土器2	縄文後期	
162	95	V-21	円形	84×82×26			縄文中期	
163	95	W-21	長円形	157×132×26		土器3	縄文中期	
164	95	V・W-21	円形	56×56×17		土器1	縄文後期	
165	95	V-21	円形	54×54×12			縄文中期	
166	95	W-21	円形	60×56×12		土器 土器5	縄文後期	三十稲場
167	95	W-21	長円形	74×54×31		土器2	縄文後期	
168	95	X-20	長円形	185×160×105		土器、石器 土器23・石器8	縄文後期	覆土上層部に多量の土器片
169	95	W-19	長円形	54×46×50			縄文中期	
170	95	V・W-20	長円形	148×126×73		土器2	縄文後期	
171	95	V-19・20	円形	83×82×72		土器1	縄文後期	
172	95	V-19	円形	60×52×39			縄文中期	
173	95	V-18	半円形	122×54×54		土器2	縄文後期	95-21住と重複
174	95	V-18	長円形	104×92×40		石器 土器4・石器1	縄文中期	
175	95	T-19	長円形	149×123×67		土器10	縄文後期	
176	95	T-19	長円形	120×98×39	N-68°-W	土器1	縄文中期	
177	95	T-18	長円形	184×104×72	N-36°-W		平安以降	陥し穴
178	95	S-18	長円形	160×140×79		石器 土器15・石器2	不明	風倒木か
179	95	S-17	円形	130×124×10			縄文中期	
180	95	Q・R-16	円形	124×122×52		土器 土器5	縄文中期	後期前葉
181	95	O・P-15	長円形	210×132×110	N-30°-W		平安以降	陥し穴

第1節 調査経過と調査方法

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
182	95	U-18	長円形	(74)×106×27			縄文中期	95-21住と重複
183	95	U-18	円形	80×80×18		土器2	縄文中期	95-21住と重複
184	95	R-17・18	円形	160×154×33		土器1	縄文中期	
185	95	R-18	円形	80×72×49		土器3	縄文中期	
186	95	W-19・20	円形	166×160×53		礫 土器7・石器1	縄文後期	複数の大型礫
187	95	V・W-19	円形	68×60×50			近世以降	
188	95	Q-17・18	長円形	224×176×156	N-5°-E		平安以降	陥し穴
189	95	Q-17	円形	110×102×53		石皿 土器5・石器1	縄文後期	
190	95	S-17	長円形	44×40×24			縄文	
191	95	R・S-17・18	長円形	140×120×31		土器2	縄文後期	
192	95	T・U-19	円形	72×70×47			縄文	
193	95	S-17	円形	36×36×32			縄文	
194	95	R-18	長円形	94×80×50	N-15°-W	石礫 土器3・石器3	縄文後期	
195	95	Q・R-18	円形	142×130×78			縄文	
196	95	N-17	円形	100×100×57		土器3	縄文	
197	95	R-17	長円形	174×154×71		石礫 土器2・石器1	縄文後期	
198	95	R-17	長円形	80×74×51		土器1	縄文	
199	95	Q-17	長円形	74×62×47	N-30°-W		縄文	
200	95	Q-17	長円形	114×98×32		土器 土器9	縄文後期	
201	95	R-17	長円形	80×(50)×20		土器1	縄文後期	
202	95	L・M-17	長円形	106×90×69		打製石斧 土器9・石器1	縄文後期	
203	95	Q-16	長円形	70×42×42	N-20°-W		縄文	
204	95	R-16	長円形	76×64×49			縄文	
205	95	S-17	長円形	106×50×46	N-18°-E		縄文	
206	95	O-17	長円形	80×56×28			縄文	
207	95	J-24	円形	360×300×40		石皿 土器7・石器1	縄文後期	215土の石皿が接合
208	95	J-24	円形	85×80×52		打製石斧 土器3・石器2	縄文中期	
209	95	J-24	円形	90×(35)×26		土器1	縄文中期	
210	95	K-25	円形	70×60×30			縄文	
211	95	K・L-22	円形	143×139×36		土器2	縄文後期	
212	95	N-17	円形	110×108×68		多孔石 土器8・石器2	縄文後期	
213	95	O-17	円形	(54)×(54)×24			縄文	
214	95	I-22	長円形	166×78×94	N-65°-E	土器2	縄文中期	陥し穴か 蝶ネクタイ型
215	95	J-24	円形	70×70×35		打製石斧、石皿 石器3	縄文	
216	95	J-17	長円形	160×120×55		土器6	縄文	95-34住内
217	95	O-17	長円形	100×94×70		石棒 石器1	縄文	
218	95	O-17	円形	44×40×28		土器3	縄文	
219	95	P-16	円形	140×138×18			縄文	
220	95	K-20	長円形	42×35×23		石皿 石器1	縄文	石皿が蓋状に出土
221		次番						
222	95	J-16・17	円形	108×100×44		土器1・石器1	縄文	
223	95	P・Q-17	円形	66×54×62		土器3	縄文後期	柱痕か
224	95	M-17	長円形	40×32×18		土器1	縄文後期	
225	95	M-17	長円形	60×40×18	N-71°-E		縄文	
226	95	M-17	長円形	68×56×21			縄文	
227	95	M-17	長円形	54×46×24			縄文	
228	95	N-16・17	円形	58×54×36		土器1	縄文	
229	95	N-17	円形	54×26×32			縄文後期	
230	95	J-24	円形	60×(50)×17		石皿 石器3	縄文	
231	95	Q-18	円形	58×58×44			縄文	
232	95	R-18	円形	108×106×21		石礫 土器4・石器1	縄文後期	
233	95	K-15・16	長円形	130×100×40	N-53°-W	土器2	縄文中期	
234	95	M-17	円形	32×32×5			縄文中期	
235	95	M-17	長円形	(54)×50×18		土器1	縄文中期	
236	95	J-24・25	円形	60×60×35		打製石斧、石皿、磨石 土器1・石器5	縄文中期	
237	95	J・K-24	長円形	70×(34)×28		打製石斧、磨石 石器3	縄文中期	
238	95	I・J-24	円形	80×78×55		打製石斧、磨石 土器4・石器3	縄文中期	
239	95	L-23	円形	64×61×		土器3	縄文後期	セクションなし
240	95	F-16	長円形	78×54×23	N-34°-W	土器1	縄文中期	
241	95	D-20	円形	96×92×27			縄文中期	
242	95	H-18・19	長円形	174×104×120	N-40°-E		平安以降	陥し穴
243	95	G-23	長円形	104×90×67		土器4	縄文後期	
244	95	H・I-23	円形	104×100×77		土器4	縄文中期	
245	95	D-21	円形	70×70×82			縄文	
246	95	C・D-21・22	円形	230×224×63		凹石、磨石 土器6・石器2	縄文中期	上層中央に炉状の石組み遺構、古期
247	95	E-20	長円形	90×42×26	N-8°-W	土器1	縄文中期	末葉
248	95	I・J-24	円形	108×107×35		土器1	縄文中期	
249	95	K-24	長円形	70×56×24			縄文	
250	95	I-22	長円形	148×66×85	N-50°-E		縄文中期	陥し穴か 蝶ネクタイ型
251	95	G・H-23	円形	112×108×60		土器1	縄文中期	
252	95	E-20	長円形	90×66×40	N-23°-E	土器5	縄文中期	
253	95	L-23	長円形	80×74×53			縄文中期	
254	95	L-23	円形	60×(50)×40			縄文中期	
255	95	I-24	円形	145×144×70		土器6・石器2	縄文中期	
256	95	H-21	長円形	150×98×65	N-22°-E		縄文中期	陥し穴か 蝶ネクタイ型
257	95	I-24・25	円形	104×(85)×58		土器7・石器1	縄文中期	
258	95	E-20	円形	50×34×16		土器2	縄文中期	
259	95	I-22	円形	100×98×50			縄文中期	
260	95	J-21	円形	104×100×25			縄文中期	
261	95	E-22	長円形	79×66×28		土器1	縄文中期	
262	95	I-25	円形	88×84×30			縄文中期	
263	95	K-25	円形	110×96×12		土器1	縄文中期	95-142土と重複
264	95	H-23	円形	56×54×31			縄文中期	
265	95	H・I-25	長円形	88×54×73	N-73°-E		縄文中期	95-4掘立P-5 柱痕有り
266	95	J-24	円形	70×(40)×18			縄文中期	
267	95	E-21	円形	116×109×21		土器2	縄文後期	95-47住内
268	95	J-20	不整形	86×75×37		土器3	縄文後期	

第4章 東中学校進入路 (12区)

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
269	95	D-22・23	長円形	98×84×33		土器2	縄文	
270	95	D-23	円形	112×110×33		土器2	縄文	
271	95	D-24	長円形	160×124×107	N-23°-W		平安以降	陥し穴
272	95	C-25	長円形	158×104×82	N-40°-W		平安以降	陥し穴
273	95	C・D-23	長円形	98×88×20	N-28°-W		縄文	
274	95	C-22	長円形	84×70×25			縄文	
275	95	G-19	長円形	58×50×17		土器片多数 土器2	縄文後期	44又は50住の柱穴の可能性あり
276	95	J-18	長円形	168×86×26	N-70°-W		平安以降	陥し穴か
277	95	J-23	長円形	224×80×21	N-15°-E		縄文中期	
278	95	J-23	円形	70×65×32		土器1	縄文中期	
279	95	H-21	円形	74×73×27		土器2	縄文中期	
280	95	H-19・20	長円形	136×90×45	N-55°-E	土器3	縄文中期	
281	95	G-19	円形	116×110×10			縄文中期	95-50住内に重複
282	95	G-21・22	円形	87×86×80		打製石斧 土器2・石器1	縄文中期	
283	95	G-20	長円形	92×77×41		石鏃・磨石 土器2・石器2	縄文中期	
284	95	G-20	半円形	77×58×23			縄文中期	
285	95	G-21	長円形	74×58×24		多孔石 土器1・石器1	縄文中期	
286	95	G・H-21	円形	106×103×54		打製石斧 土器2・石器1	縄文中期	
287	95	G-21	長円形	82×61×28		土器2	縄文後期	
288	95	G-20	円形	50×50×68		土器2	縄文後期	セクションあり。
289	95	F-23	円形	52×50×80		土器1	縄文中期	95-53住内
290	95	G・H-20	不整形	150×135×12		土器2・石器1	縄文後期	
291	95	H-20	長円形	58×52×35			縄文中期	
292	95	H-20	円形	48×48×28			縄文中期	
293	95	G-21・22	長円形	174×84×55	N-16°-E	土器2	縄文中期	蟻ネクタイ型
294	95	G-23	円形	117×112×21		打製石斧・磨石 土器9・石器3	縄文後期	
295	95	H-21	円形	126×111×28		土器8	縄文中期	
296	95	E・F-23	長円形	104×68×45	N-68°-E	土器1	縄文後期	
297	95	F-23	長円形	105×88×28		磨石 土器2・石器2	縄文後期	
298	95	G-23・24	円形	124×118×23		磨石 土器2・石器1	縄文中期	
299	95	G-21	長円形	(96)×82×30		土器1・石器2	縄文中期	
300	95	G-21	長円形	106×79×29		石鏃 土器2・石器1	縄文中期	
301	95	H-20・21	長円形	(45)×40×28			縄文中期	
302	95	H-20・21	長円形	126×(82)×14	N-40°-W	磨石 土器1・石器2	縄文後期	
303	95	G-25	長円形	110×100×21	N-52°-E		縄文	
304	95	G・H-25	不明	122×(46)×31			縄文	
305	95	I-17	円形	94×84×16			縄文	番号を変更(275を変更)
306	95	I-20	円形	60×54×32			縄文	
307	95	X-20	長円形	52×44×22			縄文	
308	95	W-20	円形	90×86×26			縄文	
309	95	W-20	円形	42×40×23			縄文	
310	95	U-19	長円形	52×40×24			縄文	
311	95	S-18	円形	64×62×15		土器1	縄文中期	
312	95	R-17	長円形	80×46×16	N-90°		縄文	
313	95	Q-18	円形	78×72×25			縄文	
314	95	I-21	円形	108×(45)×26		土器1	縄文中期	
315	95	H-25	長円形	50×42×18			縄文	
316	95	L-19	円形	42×36×32		打製石斧 石器1	縄文	
317	95	J-20	長円形	40×30×19			縄文	
318	95	E・F-25	長円形	82×70×28	N-65°-E		縄文	
319	95	E-25	円形	70×65×61		石鏃 土器2・石器1	縄文中期	
320	95	F-20	円形	101×91×27		土器1	縄文中期	
321	95	E-22	円形	90×70×22			縄文	
322	95	D-22	円形	50×47×14		土器1	縄文後期	
323	95	5K-1, 95K-25	円形	66×66×23		土器1	縄文	
324	95	L-25	長円形	54×(40)×22			縄文	
325	95	J-25	円形	42×40×12			縄文	
326	95	D・E-24	円形	94×87×20		多孔石 土器5・石器1	縄文後期	
327	95	G-23	円形	40×34×48			縄文	
328	95	J-23	長円形	44×34×20			縄文	
329	95	K-21	円形	40×38×17		石鏃 石器1	縄文	
330	95	E-18・19	長円形	88×64×28			縄文	
331	95	I-17	長円形	100×90×33			縄文	

ビット

5区

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
285	5	L-1	円形	51×49×48				5-3 掘立柱穴
286	5	L-2	円形	42×38×38				5-3 掘立柱穴
287	5	K-1	長円形	54×44×22				5-3 掘立柱穴
288	5	K-1	円形	56×55×44				5-3 掘立柱穴
289	5	K-1	長円形	29×24×50		土器片		
290	5	K-1	長円形	47×40×30				
291	5	K-3	長円形	62×44×32				
292	5	K-2	円形	42×(32)×38				
293	5	K-2	円形	40×39×42				
294	5	I-4	円形	42×38×38				
295	5	I-2	長円形	(28)×32×42				
296	5	H-5	円形	34×33×42				
297	5	H-2	円形	30×30×30		土器片		
298	5	G-2	長円形	46×36×36				
299	5	H-2	長円形	32×26×23				
300	5	H-3	長円形	56×44×42				
301	5	G-1	円形	57×54×40				
302	5	H-2	円形	22×(14)×16				
303	5	H-3	長円形	50×(34)×30				
304	5	G-1	円形	(38)×36×24				



第1節 調査経過と調査方法

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
305	5	G-1	円形	32×32×24				
306	5	G-1	円形	40×36×14				
307	5	G-1・2	円形	32×31×13				
308	5	H-4	円形	41×37×14				
309	5	F-1	長円形	58×(46)×61				
310	5	H-2	円形	26×24×35				
311	5	J-2	円形	32×31×28				
312	5	J-3	円形	34×33×24				
313	5	K-2	円形	36×32×22				
314	5	K-1	円形	30×28×24				
315	5	L-1	長円形	50×40×38		土器片 台石		
316	5	K-2	長円形	50×39×21				
317	5	K-1	長円形	34×26×40				
318	5	K-3	長円形	47×32×20				
319	5	J-3	円形	32×29×15				
320	5	G-3	円形	42×37×26				
321	5	G-3	長円形	49×36×23				
322	5	I-1	円形	36×35×12				
323	5	G-4	円形	28×26×14				
324	5	H-4	長円形	46×38×24				
325	5	F-2	円形	32×31×32				
326	5	F-1	円形	33×28×34				
327	5	E-1	円形	34×32×30				

95区

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
150	95	Q-17	円形	50×50×60		土器片 礫		
151	95	Q-17	円形	50×50×40				
152	95	P-17	円形	34×30×26				
153	95	P-17	円形	40×38×28				
154	95	P-17	長円形	40×28×34				
155	95	S-18	円形	38×38×34				
156	95	Q-17	円形	46×34×22				
157	95	Q-17	円形	42×40×24				
158	95	O-17	円形	48×40×32				
159	95	E-20	円形	28×26×30				
160	95	J-24	長円形	60×(30)×30		土器片		
161	95	E-20	円形	48×40×16				
162	95	K-24	円形	38×38×26				
163	95	J-25	円形	38×36×32				
164	95	I-25	半円形	(12)×22×40				
165	95	L-25	円形	40×36×42		土器片		
166	95	K-25	円形	40×30×34				
167	95	L-25	円形	36×34×36				
168	95	K-24	長円形	32×26×26				
169	95	K-24	円形	26×24×18				
170	95	K-24	円形	28×24×20				
171	95	J-24	円形	32×30×24				
172	95	J-24	円形	(26)×26×6				
173	95	J-24	円形	26×24×10				
174	95	J・K-24	半円形	(22)×36×16				
175	95	K-20	円形	34×32×36				
176	95	K-20	円形	32×26×16				
177	95	L-22	円形	40×40×24				
178	95	K-24	円形	28×22×16				
179	95	K-24	円形	18×16×16				
180	95	K-21	円形	40×38×20				
181	95	K-21	円形	34×30×24				
182	95	K-20	円形	48×42×22				
183	95	K-21	円形	40×36×26				
184	95	K-21	円形	38×32×18				
185	95	K-19	円形	34×28×14				
186	95	K-20	円形	30×28×12				
187	95	K-23	長円形	32×26×22				
188	95	K-20	円形	46×36×16				
189	95	I-22	長円形	34×22×52				
190	95	I-21	円形	44×38×22				
191	95	I-20	円形	40×40×16				
192	95	I-21	円形	30×28×14				
193	95	K-25	円形	56×47×40				5-3 掘立柱穴

## 第5章 まとめ

### 第1節 縄文時代

#### 1. 住居

今回検出された遺構は、長野原一本松遺跡における集落の一部ではあるが、平成6年度以降継続的に調査され、今次の調査で、長野原一本松遺跡における集落構造がほぼ明らかになった。本頁では、今回の調査区内で検出された遺構について概要、特徴等を記した上で、発見された遺構全体について、若干の考察を行いたい。

住居、掘立柱建物跡に関しては、平成6年度以降、これまでに調査が行われたものも含め、明らかになった部分について、記述を行うこととする。

今後最終的な整理作業が進む過程で、解明をして行かねばならない課題も出現すると考えられるが、ほぼ集落の全容が明らかになった時点での成果をまとめておきたい。

#### 平成16年度調査の遺構について

平成16年度の調査において、検出した縄文時代の住居件数は62軒である。このうち5-8住、95-5住については、平成8年度および平成14年度にそれぞれ一部を調査、報告済みである。

検出された住居の時期を見ると、最も古く位置付けられるのは、中期中葉段階であるが、遺構数は極めて少ない、最もこの遺跡が繁栄したのは中期後葉段階である。この時期の住居は最終的に150軒を超えており、長野原一本松遺跡の主体的な時期と見ることができる。集落が維持されていた時期は中期後葉から後期前葉と考えられる。

第556図に見られるように、遺跡の載った台地は、吾妻川の上位段丘にあたり、西から東にかけて、いくつかの谷や沢が横断している。遺跡の中心はこの台地の中で最も広く比較的平坦なところに構成されている。北側が山地で徐々に傾斜が強くなっている。住居はこの傾斜部分の変換点部を占地の境界としている。

東および西側については、南に谷が入るために台地がやや狭まっている。集落の中心部分は北からの傾斜がなだらかになり、且つ広く舌上に南に張り出す台地となっている。

住居はこの台地ほぼ全体に外径約110~90m、内径約50mの環状を呈す。南に突き出た台地の形状に沿ったものか、全体的に北西、南東方向にやや延びた楕円形を呈している。また、この環状中心部分からやや離れたところに点在する住居は、台地の北側緩斜面部に沿って左右に延びるように構築されていることが判る。

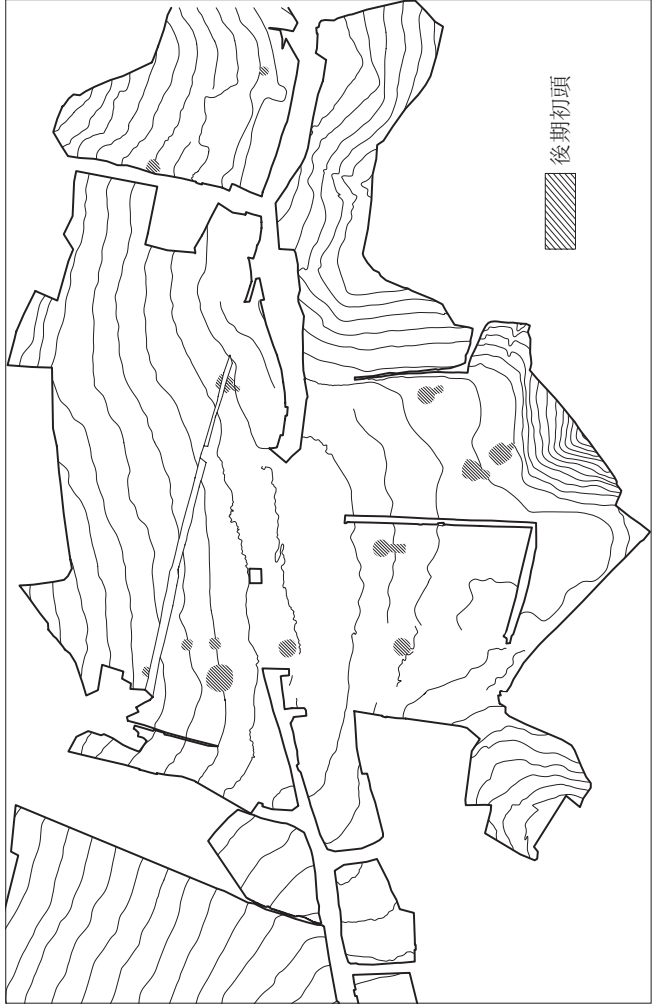
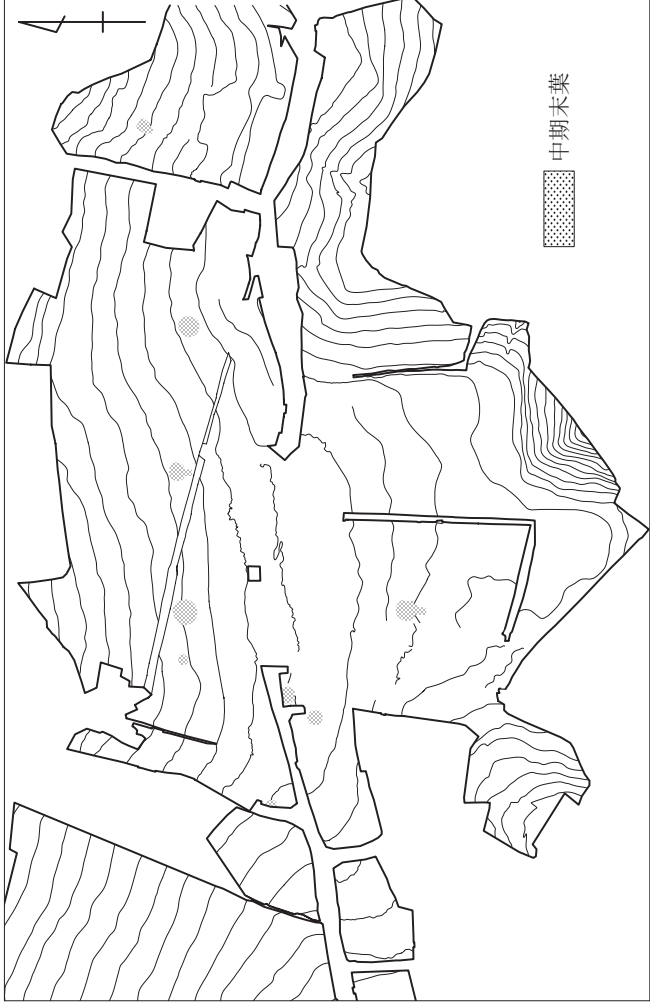
環状に配された住居群の内側円形部分は、遺構の分布密度が極めて薄くなっている状況が伺える。中心部に見られる5-28号住居跡は主体部径が7mを超える大型の住居で、時期は後期前葉と判断されている。南側に対接して5-315号土坑（配石墓）後期前葉が検出されている。また、やはりこの空白域に掛かる5-13・18・46号住居跡も後期に位置付けられるものである。前述した5-315号土坑の他にも5-200・340号土坑は長円形の掘り込みを石で囲った配石墓であり、その存在も注目される。これらの配石墓も時期は、後期前葉~中葉と見られ、中期の遺構は見当たらない。

さらに配石墓の東に5-1号柱穴列（掘立柱建物跡）が存在する。亀甲型で大型の建物である、時期は出土遺物が少ないため確定は難しいが、後期前葉~中葉に比定されている。

住居で囲われた円形の空白部域は、明らかに中期後半期においては、中央広場として存在していたことが



第556図 住居全体図



第557図 時期別全体図



第558図 土坑全体図

## 第5章 まとめ

何え、集落における規制された重要な場所であったことが考えられる。

第556図は集落の遺構全体図で、住居の時期別図である。遺構が濃密に重なっている部分も多く、時期判定が難しい部分もあるが、出土土器、報告されている時期を元に作成したものである。中期後葉、中期末葉、後期初頭、後期前葉の4期に分けている。さらに、分けることも可能であるが、細分については最終報告を待って行いたい。

以下、この図から考えられる集落の変遷を概述してみたい。まず、集落の成立であるが、遺物に関しては遺構外出土の中に早期、前期のものが点在しているものの、遺構について見ると、僅かに3区において早期撚糸文土器を出土した土坑が見られるのみで、今次の調査例では前期後半、前期末から中期初頭に位置付けられるものが、95-216、252号土坑から僅かに破片が出土しているのみで、明確に時期が判明したものは極めて少数である。早期あるいは前期にまで遡るものは無い。住居跡で最も古く位置づけられるのは、中期後葉古段階で、これらについても検出された数は少ない。

土坑に関しては前期後葉段階と考えられるものが数基検出されており、住居もさらに、遡るものも存在していた可能性も否定できないが、確認はされていない。こうしたことから、長野原一本松遺跡において集落の成立を見るのは中期中葉の古段階と考えられる。中央の広場部分を囲うように台地状に住居が築かれたのであろう。これらの住居は建て替えや、拡張などを繰り返し、集落の規模を大きくしていったものと考えられる。やがて、この環状域も台地の大きさから飽和状態を迎え、環状形態という規制のある中で、人々は居住域を求め台地北側の、比較的緩斜面部分さらには左右に広がるようになっていったものと考えられまいか。これら環状構造の枠から、言ってみれば、はみ出した形での集落構成が起こったと考えられる。これらの住居は台地の東西に広がるものの、谷が入り込む狹隘な地勢であるため、谷を囲うように点在している。こうした住居の時期は中期後葉～末のものを中心とするが、これらの中に後期の柄鏡型敷石住居が点在していることも注目される。

さらに、こうした環状に広がる住居群を詳細に観てみると、同時期あるいは近い時期と思われる住居が数軒から10軒ほどの塊(ブロック)状を呈しているように思われる。当然建て替え等による重複もあるわけで、一概には言えないものの、親族あるいは同族による占地の結果と見ることもできるのではないだろうか。

その後、集落としては衰退期へと進むこととなり、後期に入ると遺構数の減少を見る。中期末葉期の敷石住居も点在するようになる。前代からの環状規制は依然維持されるものの、明らかに軒数は少なくなっている。

さらに、後期初頭段階に入り、比較的大きな柄鏡型の敷石住居の出現を迎える。この時期、敷石を持たない住居はほとんど観られず、敷石住居が環状となる部分にある程度の距離において、点在して構築されていることが分かる。

さらに時期が下り、後期前葉段階に入ると、前代から踏襲されていた集落構造の規範が崩れることとなる。

外径約100m程の規格を壊し、規模が縮小していることが読み取れる。約半分ほどの径60m程の環状構造を作ることで集落の再構築とも呼べるような展開が行われたのである。さらに、前代まで住居を作ることを規制していた円形広場的な範囲にも住居が作られているのである。これは、円形構造から列石や、配石などを伴う新たな構造的な変換がおこったものと考えられまいか。

ただ、前述した配石墓もこの中央部分に限って作られていることは、この時期においてもなお、ある意味中央広場的な要素が残っていたものと思われる。さらに、こうした集落構造の変化の中で、掘立柱建物跡の存在を考える必要がある。今回の調査で検出された軒数は7棟である。これまで長野原一本松遺跡において検出された掘立柱建物跡(報告では柱穴列等の名称を使用)は14棟を数える、時期は中期中葉から後期前

半に渡ると思われるが不明のものもある。

中期末葉段階になると柄鏡型敷石住居の出現がある。これらの住居は環状分布内に点在して配置されていることが看取される。いずれも南を中心に南東または南西にやや振れて柄部分が張り出している。

その形態を見ると、張り出し部がU字状を呈し外壁部分には河原石を縦に据え複数段積み上げるもの、平石えを直線上に配すものがある。

また、本書中の95-19号・95-48号住居跡は、部分的に敷石を持つ柄鏡型敷石住居である。主体部の形状が方形、円形と異なっているものの、主体部壁下に小石を盛り上げた周礫が確認されている。使われている礫の大きさは3cmから10cm程でいずれも川原石である。

95-19号住居跡の壁下に検出された周礫は一辺約3.2mのほぼ方形を呈すが、四隅部分は柱穴が位置していたためか、礫が隅丸となり僅かに外側に膨らむ。主体部に敷かれた敷石は少なく、礫の内側に沿って、小ぶりの平石や細長い礫が連なるように検出されている。比較的大きな平石は四隅とその中間の位置、連結部に敷かれている。ほぼ柱穴の位置に相当する。

周礫は壁下に沿ってほぼ直線的に見られ、主体部内側に流れ込んだような状況はほとんど見られない。

対照的にほぼ円形に廻る周礫が検出された95-48号住居跡は、攪乱や、重複により全体像は明確でないものの、主体部の壁下に沿って廻らされた周礫が良好な状況で検出されている。廻らされた礫は幅約30～40cm、径は4m程で、やや盛り上がった状態であった。全体を露呈させた周礫の平面形は、詳細に見ると八角形を意識した形であることが判る。高さ20cm程に盛り上がる断面を見る限りでは、礫は表面部分に多く、内部には少ないことが看取できる。ただ、土の部分については人為的に堅く敲き締めたような状況は認められなかった。小礫に混じってやや大きな礫も所々に点在していた。後に検出された柱穴はこの八角形の角部分に配されている状況が見られ、柱穴が位置する部分には礫が薄いことも確認されている。このことから周礫帯の構築は、柱が立っていた時点で行われたものと判断される。いずれも、時期は後期初頭に比定され、本遺跡においては特異な構造を持つ住居として位置づけられる。

95-19号住居跡は、大型の掘立柱建物跡95-3号掘立柱建物跡と重複関係にあり、掘立柱建物跡が新しいことを確認している。

## 2. 掘立柱建物跡

平成16年度の調査において検出された掘立柱建物跡は、7棟である。規模などの計測値は各頁に記載してあるため、ここでは省略する。検出されたこれらの配置を見ると、南に張り出す台地部分のほぼ中央からやや南東にかけて作られている。最も南に位置する95-3号掘立柱建物跡を除くと、ほぼ円を描くように各掘立柱建物跡が主軸を変えて配置されている。その径はおよそ25m程である。それぞれの平面形は5-2号・5号が両長軸方向に棟持ち柱を持つ亀甲型で、他は長方形である。また、柱穴の数は5-2号が10本（棟持ち柱含む）、5-3・4・95-4号が6本、5-8号が8本、総柱の95-3号が9本である。調査区の南に離れて位置する95-22号住居跡は、住居跡の頁で扱っており、いわゆる平地式住居であると見られる。ここでいう掘立柱建物跡の範疇に含まれないものであろうが、形態的には掘立柱建物跡と考えられることから、全体図中に配した。

これら検出された掘立柱建物跡の中で、平面規模の最も大きいものは5-2号であるが、検出された柱穴の規模を見ると、平均の径が大きいほうから順に、95-3号→5-4号→95-4号→5-5号→5-2号→5-3号→5-8号である。また、深さの深い方から順に、95-3号→5-4号→5-5号・95-4号→5-

## 第5章 まとめ

－8号→5－2号→5－3号である。下がその一覧である。

これを見ると明らかに径、深さに大きいA類（5－4号・5号・95－3号・4号）と小さいB類（5－2号・3号・8号）の2グループに分けられる。遺構の確認面に違いがあるとは言え、この両者の差は明らかである。

掘立番号	径平均 (cm)	深さ平均 (cm)	柱痕の残る柱穴	分類	備考
5－2号掘立	67	46	8本中3本	B	亀甲型
5－3号掘立	52	44	6本中2本	B	
5－4号掘立	88	104	6本中5本	A	
5－5号掘立	82	89	6本中5本	A	亀甲型
5－8号掘立	47	47	6本中2本	B	
95－3号掘立	103	137	9本中6本	A	総柱
95－4号掘立	87	89	6本中3本	A	1本は推定

A類は柱穴径80～100cmを超え、深さも90～100cmを超えている。95－3号に至っては137cmを測る。B類は径47～67cmで、深さは、いずれも50cm以下である。この柱穴の大きさから想定しても、明らかに柱の太さや、建物の高さに違いがあったことは確かである。このことは土層断面に残る柱痕の太さでも確認されている。

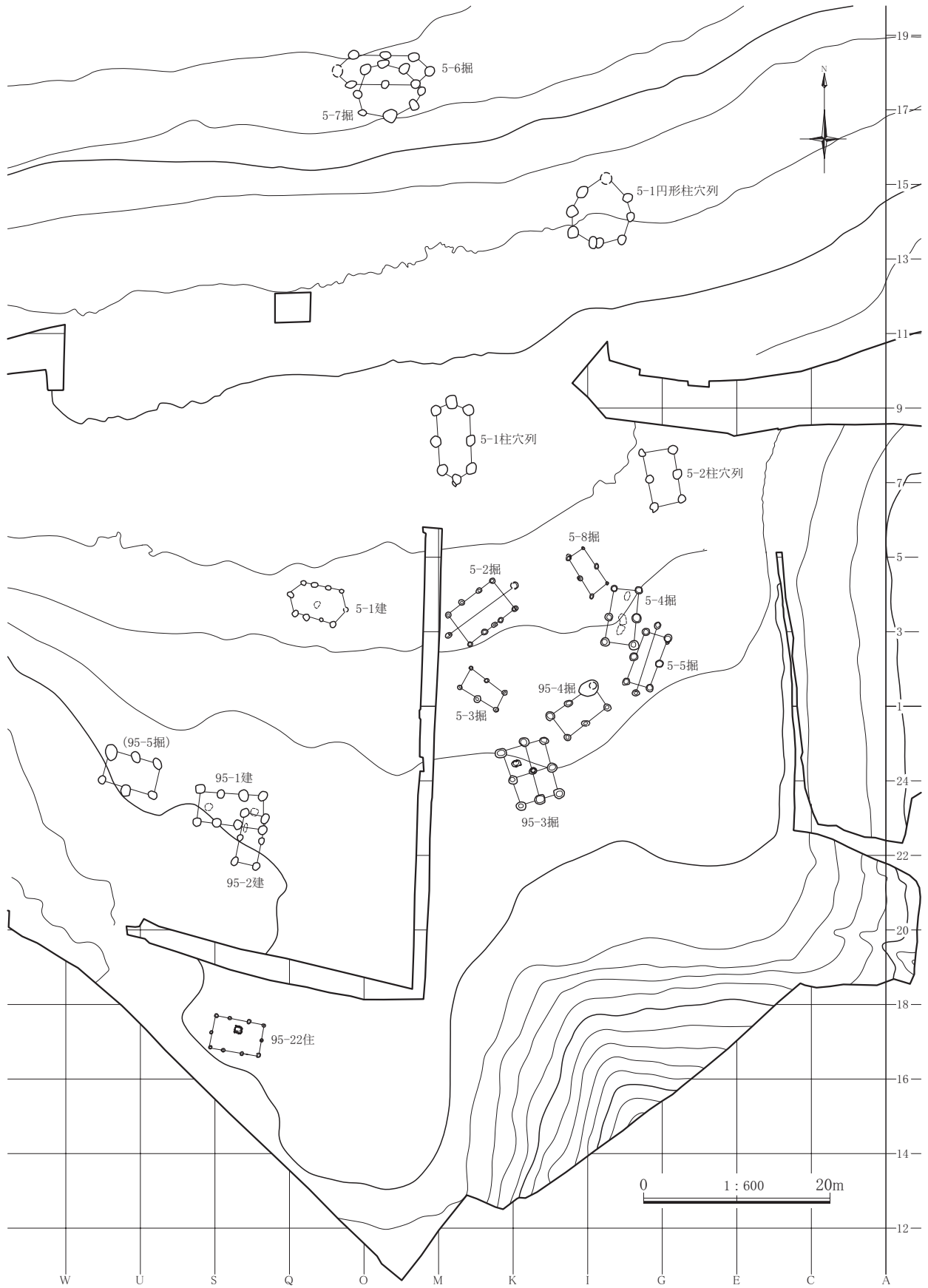
さらに、A類としたものの柱痕径は、5－4号が27～36cm、5－5号が27～34cmである。また、95－3号が33～45cmを測る、いずれも平面での確認径である。5－4号と5－5号は極めて近似値を示している。また95－3号はかなり太い柱が想定される。また、B類については、5－3号で12cm、5－8号で12～15cmを確認している。明らかに立てられていた柱の太さに差があったことが窺える。このA・B類が時期の違い、あるいは用途の違いなのかは、確定できていない。

ここで、これまでの調査で検出された掘立柱建物跡（報告の中では建物跡あるいは柱穴列で報告も含む）についても触れておきたい。これまで長野原一本松遺跡において確認された掘立柱建物と考えられる遺構は、本書で扱った7棟を加え、16棟を数える。これらは報告の中で使用されている名称が不統一な点があり、混乱を生じてしまっている。はなはだ遺憾ながら本頁では、名称についてはそのまま使用して説明することをご容赦願いたい。また、長野原一本松遺跡（3）では、掘立柱建物の可能性を指摘するに留まっていた6基の土坑についても、掘立柱建物跡の可能性が高いと考え、新たに95－5号掘立柱建物跡と付し、あわせて検討を加えることとする。

第559図は、平成8～16年度において確認された掘立柱建物跡の分布である。これらのうち、5－1号円形柱穴列と5－7号掘立柱建物跡については円形（八角形）を呈しており、大型住居の掘方である可能性も排除できない。また、5－7号掘立は中央に炉跡（5－1号焼土）を有している。

5－1号円形柱穴列は、後期前半期の柄鏡型敷石住居が中に収まる形で重複している。これら2棟を除き、その形状を比較すると、5－1号建物、5－2号掘立柱建物跡、5－6号掘立柱建物跡、5－5号掘立柱建物跡がいわゆる亀甲型となる。構造的には5－6号掘立柱建物跡・5－1号柱穴列・5－5号掘立柱建物跡が長方形の6本柱の中央両側に、棟持ち柱穴をもつ計8本柱、5－1号建物・5－2号掘立柱建物跡が、長方形8本柱の中央両側に棟持ち柱を持つ、計10本柱である。その他は長方形で、6本柱が7棟、8本柱が1棟、そして9本総柱の95－3号掘立柱建物跡である。





第559図 掘立柱建物跡全体図

## 第5章 まとめ

長野原一本松遺跡掘立柱建物一覧表（平8～15年度）

掘立番号	径平均 (cm)	深さ平均 (cm)	柱痕の残る柱穴	分類	備 考
5-1号柱穴列	120	119	5本	A	
5-2号柱穴列	89	88	1本	A	
5-1号円形柱穴列	109	108	2本	A	
95-5号掘立柱建物跡	97	50		A	95-8・24～27・14・15土
5-1号建物跡	51	37	1本	B	
95-1号建物跡	96	64		A	
5-2号建物跡	84	70		A	
5-6号掘立柱建物跡	96	76		A	棟持ち柱1本推定
5-7号掘立柱建物跡	103	83			

### 炉を持つ掘立柱建物跡

今回調査が行われた5-4号・95-3号は建物内に炉が検出されている。調査当初は柱穴の確認よりも先に焼土が検出されたために、単独番号を付して調査を進めていたが、柱穴が検出され、建物の全容が明らかになると、建物の柱穴内に収まっていることがわかった。

この時点では、周囲にも焼土の点在があり、掘立柱建物に伴うものか判断しかねていた。その後、95-3号掘立柱建物に伴う炉が確認されたことにより、建物に伴うものと確信するに至った経緯がある。

改めて、これまでに検出されている掘立柱建物について確認を行ったところ、建物内に焼土または炉を確認しているものが、3棟存在していることを確認した。これらは焼土、あるいは炉として報告されており、建物の中央、あるいは左右に2カ所存在している。報告では、建物に伴う可能性のみに留まっている。

今回2棟が追加されたことから、屋内に炉を伴う掘立柱建物が存在していたことが明らかになったものと思われる。他の遺構についても、重複等により、上面が削平されていたものも多く、炉が存在している可能性は十分考えられる。

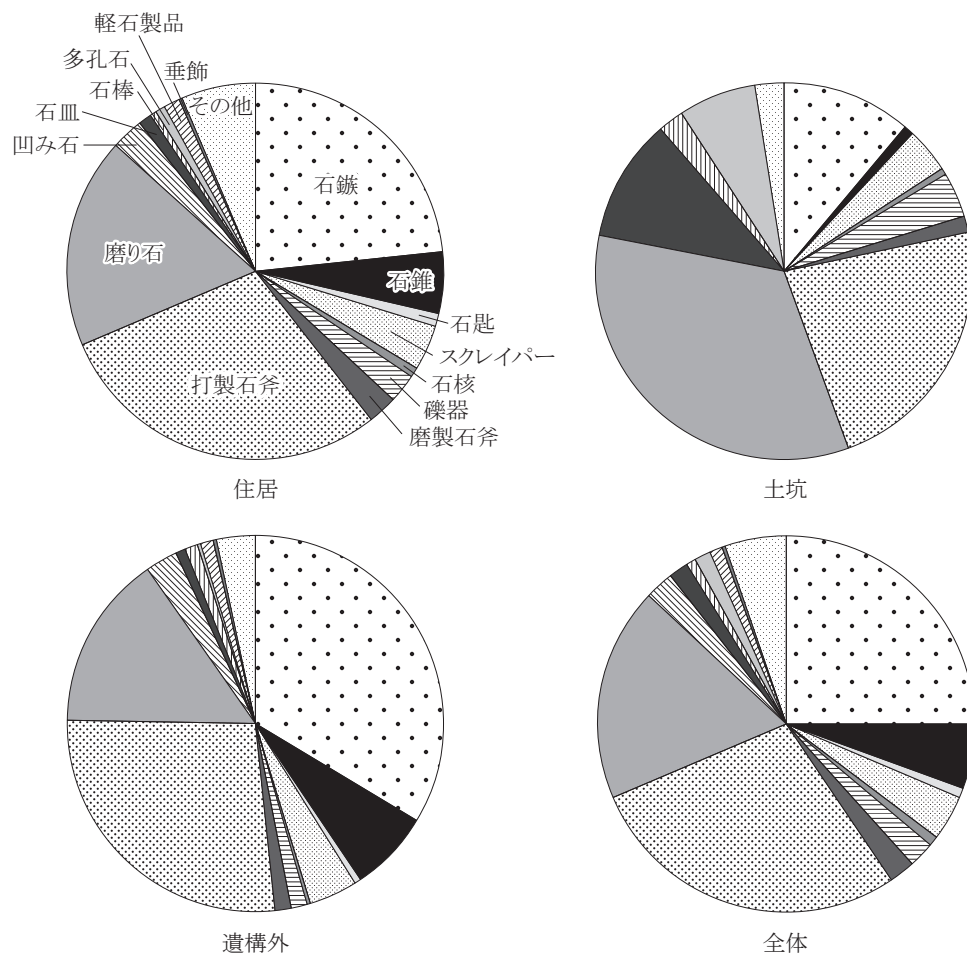
今回、検出した炉を詳細に見ると、5-4号掘立柱建物には中央長軸に沿って3基の焼土が並んでいる。それぞれの焼土は長さ1m、幅が50～70cmの長円形で、浅い落ち込みを有し、長軸方向に延びる焼土範囲を持つ。中央に石を持つものもある。

95-3号掘立柱建物の炉は北側の西寄りに位置、一部石で囲い、炉からはみ出るように東西に長い焼土が確認されている。焼土の堆積は厚く良く焼けた状況であった。また、この2棟についてはそれぞれ中央部南に埋甕も検出されている、おそらく建物に伴うものと考えられる。こうしたことから、すでに調査された建物内の焼土も遺構に伴う炉であった可能性が高い。

### 3. 石器

出土した石器の総点数は1,819点（図示したもの）で、このうち種類毎の点数および組成比率は第560図の通りである。ここでは住居跡出土の石器について、各調査区毎の出土分布と傾向について若干のまとめを行いたい。

それぞれの住居跡より出土した石器遺構の残状況等にもよるが、平均20点程であるが、全く見られないものから、95-56号住のように100点以上が出土している住居もある。このほか、5-155住、95-18住、95-30住などで50点以上の出土がある。第560図の左上円グラフは住居出土石器の組成比率を表したものであ



第560図 石器組成グラフ

る。点数的に少ない住居も多く、必ずしも図示した組成比率が当てはまるものではないが、ほぼ全ての住居から石鏃と打製石斧および磨り石の出土が見られる。狩猟具としての石鏃や採集具、土掘り具としての打製石斧、食物の加工具としての磨り石の在り方は当時の生産、生活形態を表しているものと言える。石鏃はほとんどの住居で出土が見られる。出土石器の23%を占めていることは注目されよう。また、石鏃に関しても周辺の遺跡に比して多くなっている。比率的には数%であるが、多くの住居より出土している。石材は黒曜石製のものが主体を成し、僅かにチャート製のものが含まれる。棒状のもの他つまみを有すものも見られる。

打製石斧は全出土石器の約30%を占めている。やはりこの時期の中心的な器種と言えよう。半分以上が欠損品である、基部あるいは刃部片で使用による破損であると考えられ、刃部については使用痕を持つものが多い。これに対し磨製石斧は2.3%と極めて少ない、非実用品と見られる小型品が半分以上を占めていることも注目される。磨り石は打製石斧について出土比率の高い器種である。表裏に浅い凹み穴をもつものが目立つ。やや扁平で長円形を呈す礫の表裏を使用面とし、使用痕の顕著なものと同礫を利用し、あまり使用痕が見られないものにと大別できる。前者はいわゆる磨り石として機能していたものと考えられるが、後者については明らかに用途を異にするものも含まれているものと考えられる。

住居出土石器の組成比率は、遺構外出土の石器とほぼ同様の組成比率を示しており、長野原一本松遺跡に

## 第5章 まとめ

おける特徴を示すものと考えられる。但し、住居の時期は単一ではないので実際にはそれぞれの時期別についての検討も必要であると考えられるが今回は対象遺構が少ないため、比較検討は行っていない。

土坑から出土した石器の総点数は133点である。組成図を見ると、住居で最も多く見られた打製石斧は2番目であり、磨り石が1番多く出土している。比率的には33%と3分の1を占める。さらに石皿や多孔石・石棒などの比率が高くなっている事に注目される。多くの土坑で欠損した石皿や石棒あるいは多孔石が出土していることは、意図的な行為があったことが考えられる。

第560図右下のグラフは今回の調査において検出された総ての石器についての組成図である。統計を行った器種は石鏃・石錐・石匙・スクレイパー類・石核・礫器・打製石斧・磨製石斧・磨石・凹み石・石皿・石棒、多孔石・軽石製品・垂飾（装身具）・その他である。これを見ると各器種の比率については、土坑を除きほぼ等しくなっているように見える。比率的には打製石斧→石鏃→磨り石→石錐→スクレイパーとなっており、これまで長野原一本松遺跡において出土している石器全体に言えるものである。石器の使用頻度や本来生活するために必要とする石器の定数などを考え、中期後半から後期前半期における石器の在り方を示しているように思われる。

出土した数はそれぞれ多寡が見られ、最も多い打製石斧の512点に比し、最も少ない装身具はわずか3点である。

石鏃の分布を見ると、住居や土坑の集中する場所で多く見られ、各住居よりまんべんなく出土している。

石棒・多孔石については、点数的には多くはない、その分布を見ると2点以上を出土したグリッドは無く、いずれも単一の出土である。その他の石器としては、鈎状を呈す黒曜石製の異形石器や垂飾品等も見られた。

石器に関しては、あまりにも点数も多く、時間の制約などから個々の詳しい検討は行えない状況であった。今後最終報告の中でより具体的な検討を加えるとともに、時期別の器種組成について、検討を行いたいと考えている。

## 自然科学分析編

### 長野原一本松遺跡の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一

Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・藤根 久

#### 1. はじめに

長野原一本松遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字一本松に所在する。調査では、縄文時代中期および平安時代以降の遺構が検出されている。ここでは、縄文時代中期の住居跡および平安時代以降の落とし穴から検出された炭化材について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、平安時代以降の落とし穴から検出された炭化材については、ウィグルマッチングを行った。

#### 2. 試料と方法

測定試料は、縄文時代中期の53号住居跡の床面から検出された炭化材（丸木状）と平安時代以降の落とし穴である53号土坑の覆土中位から検出された炭化材各1点の、計2点である（表1、2）。縄文時代中期の住居跡から検出された炭化材（PLD-21886）は4年輪分を測定した。平安時代以降の落とし穴から検出された炭化材は、1-5年輪、11-15年輪、21-24年輪の3点（PLD-21887～21889）を採取して測定し、ウィグルマッチングを行った。

各試料は、調製した後、加速器質量分析計（コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた<sup>14</sup>C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、<sup>14</sup>C年代、暦年代を算出した。

表1 95区53号住居跡から出土した炭化材および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理データ
PLD-21886	調査区：95区 遺構：53号住居跡 層位：床面 試料No.1	種類：炭化材(クリ) 形状：丸木状 性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N)

表2 7区53号土坑出土炭化材のウィグルマッチング測定試料および処理

測定番号	遺跡・試料データ	採取データ	前処理データ
PLD-21887	調査区：7区 遺構：53号土坑 層位：覆土中位	採取位置：1-5年輪	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N)
PLD-21888	試料No.8 種類：炭化材(スギ) 形状：丸木	採取位置：11-15年輪	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N)
PLD-21889	性状：最終形成年輪有 状態：dry	採取位置：21-24年輪	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N)

#### 3. 結果

表3、4に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した<sup>14</sup>C年代を、表4にはさらにウィグルマッチング結果を、図版1-1bに単体試料の暦年較正結果を、図版1-2bにウィグルマッチング結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後

暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

<sup>14</sup>C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。<sup>14</sup>C年代 (yrBP) の算出には、<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差 (±1σ) は、測定の実験誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の<sup>14</sup>C年代がその<sup>14</sup>C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正、ウィグルマッチング法の詳細は以下のとおりである。

[暦年較正]

暦年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、および半減期の違い (<sup>14</sup>Cの半減期5730±40年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

<sup>14</sup>C年代の暦年較正にはOxCal4.1 (較正曲線データ: IntCal09) を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された<sup>14</sup>C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は<sup>14</sup>C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表3 95区53号住居跡から出土した炭化材の放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	δ <sup>13</sup> C (%)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1σ)	14C年代 (yrBP ± 1σ)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-21886 試料No.1	-27.05±0.21	4130±23	4130±25	2859BC (14.0%)	2832BC
				2820BC (5.0%)	2810BC
				2752BC (15.3%)	2722BC
				2701BC (33.9%)	2632BC
					2868BC (27.2%)
	2778BC (66.6%)	2619BC			
	2607BC (1.0%)	2600BC			
	2593BC (0.7%)	2588BC			

[ウィグルマッチング法]

ウィグルマッチング法とは、複数の試料を測定し、それぞれの試料間の年代差の情報を用いて試料の年代パターンと較正曲線のパターンが最も一致する年代値を算出することによって、高精度で年代値を求める方法である。測定では、得られた年輪数が確認できる木材について、1年毎或いは数年分をまとめた試料を数点用意し、それぞれ年代測定を行う。個々の測定値から暦年較正を行い、得られた確率分布を最外試料と当該試料の中心値の差だけずらしてすべてを掛け合わせるにより最外試料の確率分布を算出し、年代範囲を求める。なお、得られた最外試料の年代範囲は、まとめた試料の中心の年代を表している。そのため試料となった木材の最外年輪年代を得るためには、最外試料としてまとめた年輪数と、さらにその外側にある年輪数を考慮する必要がある。

表4 7区53号土坑覆土出土炭化材の放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	δ <sup>13</sup> C (%)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1σ)	14C年代 (yrBP ± 1σ)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲		
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	
PLD-21887 試料No.8	-24.42±0.12	231±18	230±20	1651AD (42.3%)	1666AD	
				1785AD (25.9%)	1795AD	
					1645AD (53.7%)	1670AD
					1781AD (36.6%)	1800AD
				1945AD (5.0%)	1954AD	
PLD-21888 試料No.8	-26.22±0.16	204±20	205±20	1660AD (18.6%)	1676AD	
				1777AD (32.5%)	1799AD	
				1941AD (17.1%)	1953AD	
					1651AD (26.6%)	1683AD
					1737AD (6.1%)	1756AD
				1761AD (43.1%)	1804AD	
				1936AD (19.7%)	1955AD	
PLD-21889 試料No.8	-26.80±0.13	174±18	175±20	1669AD (14.9%)	1681AD	
				1738AD (19.8%)	1756AD	
				1763AD (22.0%)	1781AD	
				1799AD (3.4%)	1802AD	
				1938AD (8.1%)	1945AD	
					1665AD (18.2%)	1690AD
					1729AD (48.5%)	1785AD
					1793AD (9.6%)	1810AD
	1925AD (19.0%)	1954AD				
最外年輪の年代				1788AD (68.2%)	1796AD	
				1781AD (93.0%)	1800AD	
				1950AD (2.4%)	1953AD	

## 4. 考察

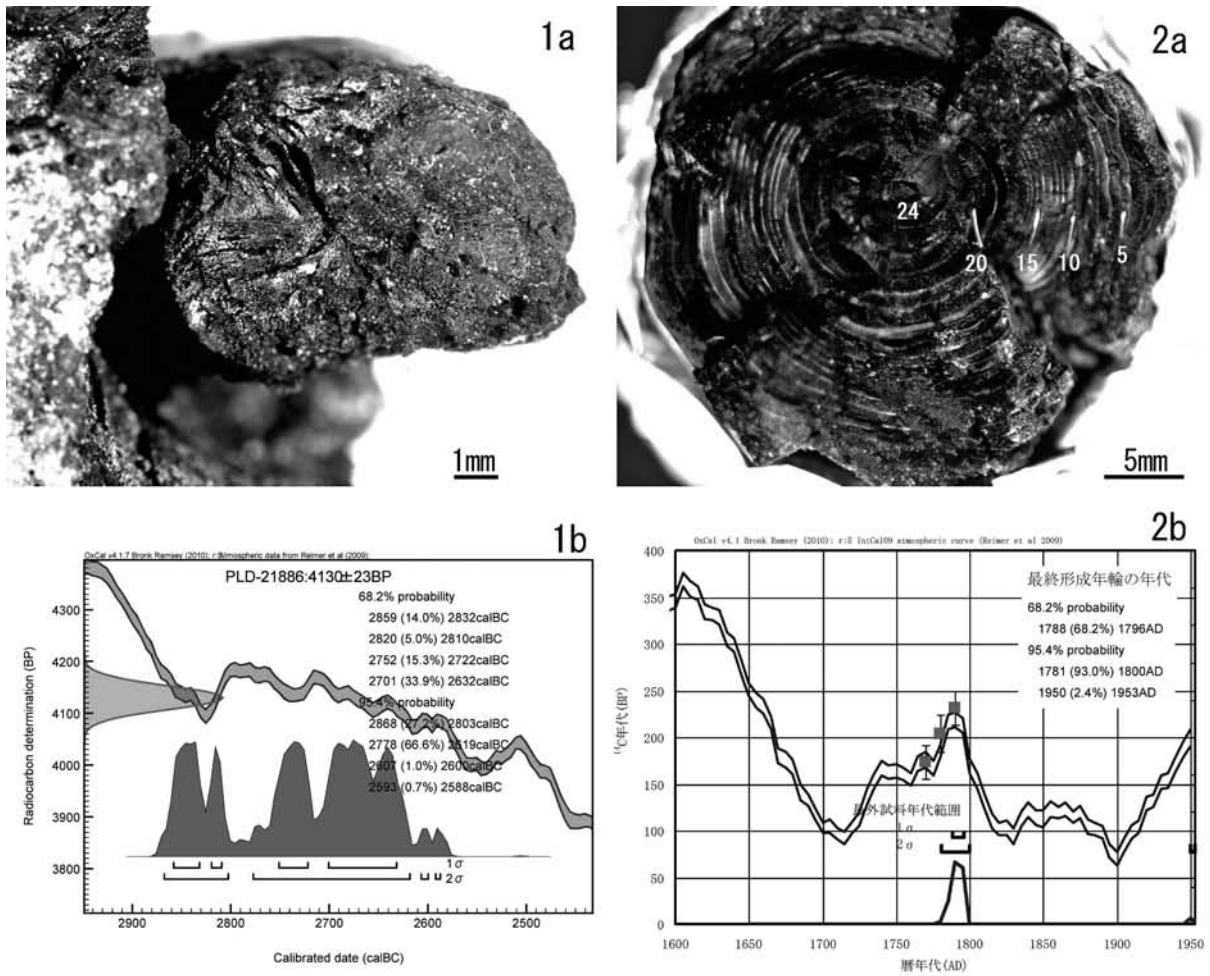
以下に、各遺構から採取された炭化材の年代測定結果について述べる。

95区53号住居跡の床面から出土した炭化材 (PLD-21887) は、 $2\sigma$  暦年代範囲において、2868-2803 cal BC (27.2%)、2778-2619 cal BC (66.6%)、2607-2600 cal BC (1.0%)、2593-2588 cal BC (0.7%) であった (表3)。小林 (2008) を参照すると、確率の高い範囲は、縄文時代中期後半 (加曾利E2~E3式) に相当する。

一方、落とし穴である7区53号土坑の覆土中位から出土した炭化丸木は、ウィグルマッチングを行った結果、 $1\sigma$  暦年代範囲において1790-1798 cal AD (68.2%) であった (表4の最外年輪の年代に2年を加算して最終形成年輪部の年代を示す)。これは18世紀後半~末の年代であり、調査知見による推定時期である平安時代以降と矛盾はない。なお、この年代は浅間火山天明泥流 (1783年) が発生した時期の直後にあたる。

## 参考文献

- Bronk Ramsey, C., van der Plicht, J., and Weninger, B. (2001) 'Wiggle matching' radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 43 (2A), 381-389.
- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51 (1), 337-360.
- 小林謙一 (2008) 縄文時代の暦年代. 小杉 康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学2 歴史のものさし」: 257-269, 同成社.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の<sup>14</sup>C年代編集委員会編「日本先史時代の<sup>14</sup>C年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 51, 1111-1150.



図版1 年代測定試料と暦年較正およびウィグルマッチング結果

1a. 試料No. 1の炭化材（4年輪分を測定）

2a. 試料No. 8の炭化材（1-5y, 11-15y, 21-24yの3点のウィグルマッチング、数字：年輪数）

1b. 試料No. 1の暦年較正結果 2b. 試料No. 8のウィグルマッチング結果



## 遺構中の軽石分析

藤根 久 (パレオ・ラボ)

## 1. はじめに

長野原一本松遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字一本松に所在する、縄文時代中期および平安時代以降の遺跡である。南には吾妻川を臨む上位段丘上に位置する。調査では、平安時代以降の落とし穴と縄文時代中期の埋甕内から軽石が検出された。ここでは、これらの軽石について、軽鉱物と重鉱物組成の分析、火山ガラスと斜方輝石の屈折率測定を行った。

## 2. 試料と分析方法

試料は、平安時代以降の落とし穴である7区53号土坑と縄文時代中期の95区3号埋甕内から検出された軽石の2試料である(表1、図版1-1a, 2a)。

表1 テフラ分析を行った軽石試料

分析No.	試料No.	遺 構	時 期	軽 石 の 色 調 と 特 徴
1	3	7区53号土坑	平安時代以降	淡黄色(2.5Y8/4)～灰白色(5Y8/2)～にぶい黄色(2.5Y6/3)、やや発泡の悪い軽石、最大41mm
2	4	95区3号埋甕	縄文時代中期	淡黄色(2.5Y8/4)～浅黄色(2.5Y7/3)、やや発泡の悪い軽石、最大45mm

分析では、各試料から典型的な色調を呈する軽石2～3個抽出し、アルミナ乳鉢で粉碎した。粉碎した試料は、1φ(0.500mm)、2φ(0.250mm)、3φ(0.125mm)、4φ(0.0063mm)の4枚を重ねた篩で湿式篩分けを行った。4φ篩残渣の一部について、重液(テトラプロモエタン、比重2.96)を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。

重液分離した軽鉱物は、プレパラートを作製し、町田・新井(2003)の分類基準に従って火山ガラスの形態分類を行った。また重鉱物は、プレパラートを作製して単斜輝石(Cpx)、斜方輝石(Opx)、磁鉄鉱(Mag)を同定・計数した。

4φ篩残渣の火山ガラスは、横山ほか(1986)に従って、温度変化型屈折率測定装置を用いて屈折率を測定した。また、重鉱物中の斜方輝石(Opx)は、横山・山下(1986)に従って屈折率を測定した。

## 3. 分析結果

以下に、各軽石試料の火山ガラスの形態的特徴、重鉱物組成、屈折率測定結果について述べる。

表2 軽石の篩分けおよび重液分離の結果

分析No.	試料No.	重量(g)	篩 分 け (g)					重液分離(g)	
			1φ	2φ	3φ	4φ	<4φ	重鉱物	軽鉱物
1	3	11.8	0.0172	0.2858	2.8948	1.8470	6.7552	0.0174	0.1731
2	4	16.2	0.0543	0.6063	1.8418	1.4790	12.2186	0.0228	0.1990

[分析No.1 : 試料No.3 (7区53号土坑中の軽石)]

検出された軽石は、淡黄色(2.5Y8/4)～灰白色(5Y8/2)～にぶい黄色(2.5Y6/3)であり、やや発泡の悪い軽石であった。分析は、淡黄色と灰白色の軽石2個について行った。

重液分離した結果、軽鉱物が0.1731 g、重鉱物が0.0174 gであり、重鉱物の含有量は比較的多かった(表2)。

4φ篩残渣の火山ガラスでは、軽石型スポンジ状ガラス(p2)や軽石型繊維状ガラス(p1)が多く、バブル(泡)型Y字状ガラスも含まれていた。重鉱物は、単斜輝石(Cpx)と斜方輝石(Opx)からなり、磁鉄鉱(Mag)も含まれていた(表3)。

火山ガラスの屈折率測定では、範囲(range):1.4981-1.5032でやや広く、平均値(mean):1.5010であった(図1)。また、斜方輝石(Opx)の屈折率測定では、範囲(range):1.7028-1.7090、平均値(mean):1.7060であった。

表3 軽石のガラスの形態分類と鉱物組成の結果

分類群 試料No.	軽鉱物(粒数)										重鉱物(粒数)							
	雲母 (Bi)	石英 (Qu)	長石 (Pl)	不明 (Opq)	火山ガラス					合計	単斜 輝石 (Cpx)	斜方 輝石 (Opx)	角閃石 (Hor)	磁鉄鉱 (Mag)	カンラン石 (Oli)	不明 (Opq)	合計	
					平板状 (b1)	Y字状 (b2)	繊維状 (p1)	スポンジ状 (p2)	破砕型 (c0)									合計
1	-	-	83	2	-	4	31	81	1	-	202	62	87	-	53	-	1	203
2	-	-	42	1	-	7	14	140	-	-	204	53	88	-	60	-	-	201

[分析No.2:試料No.4(95区3号埋甕中の軽石)]

検出された軽石は、淡黄色(2.5Y8/4)~浅黄色(2.5Y7/3)であり、やや発泡の悪い軽石であった。分析は、淡黄色の軽石3個について行った。

重液分離した結果、軽鉱物が0.1990 g、重鉱物が0.0228 gであり、重鉱物の含有量は比較的多かった(表2)。

4φ篩残渣の火山ガラスでは、軽石型スポンジ状ガラスが最も多く、次いで軽石型繊維状ガラス(p1)やバブル(泡)型Y字状ガラスも含まれていた。重鉱物は、単斜輝石(Cpx)と斜方輝石(Opx)からなり、磁鉄鉱(Mag)も含まれていた(表3)。

火山ガラスの屈折率測定では、範囲(range):1.5029-1.5052、平均値(mean):1.5041であった。また、斜方輝石(Opx)の屈折率測定では、範囲(range):1.7041-1.7111、平均値(mean):1.7086であった(図1)。

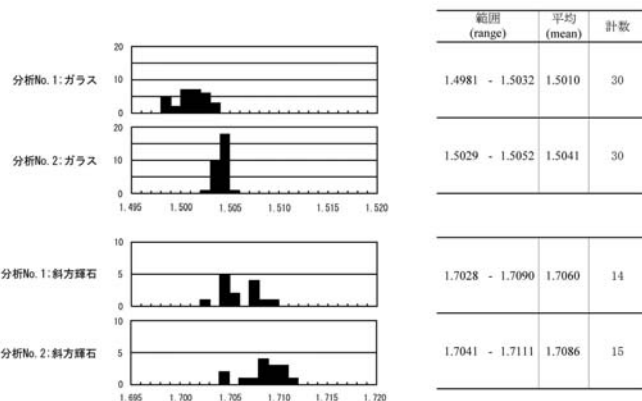


図1 軽石ガラス斜方輝石の屈折率測定結果

#### 4. 考察

2遺構から採取された軽石を分析した結果、火山ガラスの形態分類に違いが見られた。一方、火山ガラスおよび斜方輝石の屈折率も異なっていた。

以下に、各遺構から検出された軽石の特徴と候補のテフラについて詳細を述べる。

分析No.1(7区53号土坑中の軽石)は、重鉱物が単斜輝石(Cpx)と斜方輝石(Opx)からなり、ガラスの屈折率が1.4981-1.5032、斜方輝石の屈折率が1.7028-1.7090であった。これは、浅間火山から噴出した浅間小諸2テフラ(As-Km2;火山ガラスの屈折率1.501-1.503、斜方輝石の屈折率1.708-1.711)、浅間小諸1テフラ(As-Km1;火山ガラスの屈折率1.501-1.503、斜方輝石の屈折率1.708-1.713)、浅間草津テフラ(As-K;火山ガラスの屈折率1.501-1.503、斜方輝石の屈折率1.707-1.712)の更新世の浅間火山テフラの屈折率特性に

近い(町田・新井,2003)。

町田・新井(2003)によれば、浅間小諸2テフラ(As-Km2)と浅間小諸1テフラ(As-Km1)は、火山南側に流れ下った火砕流堆積物である。一方、浅間草津テフラ(As-K)は、1.5~1.65万年前の降下軽石や火砕流堆積物からなり、北(東)方向に200kmまで及んだテフラである。このテフラは、比較的遺跡に近い分布範囲であるため、53号土坑中の軽石の起源テフラは浅間草津テフラ(As-K)である可能性が高い。分析No.2(95区3号埋甕中の軽石)は、重鉱物が単斜輝石(Cpx)と斜方輝石(Opx)からなり、ガラスの屈折率が1.5029-1.5052、斜方輝石の屈折率が1.7041-1.7111であった。したがって、浅間板鼻黄色テフラ(As-YP;火山ガラスの屈折率1.501-1.505、斜方輝石の屈折率1.707-1.712)の可能性もある。このテフラは、1.5~1.65万年前の降下軽石や火砕流堆積物からなり、東(南)東方向70kmまで及んだ。

## 5. おわりに

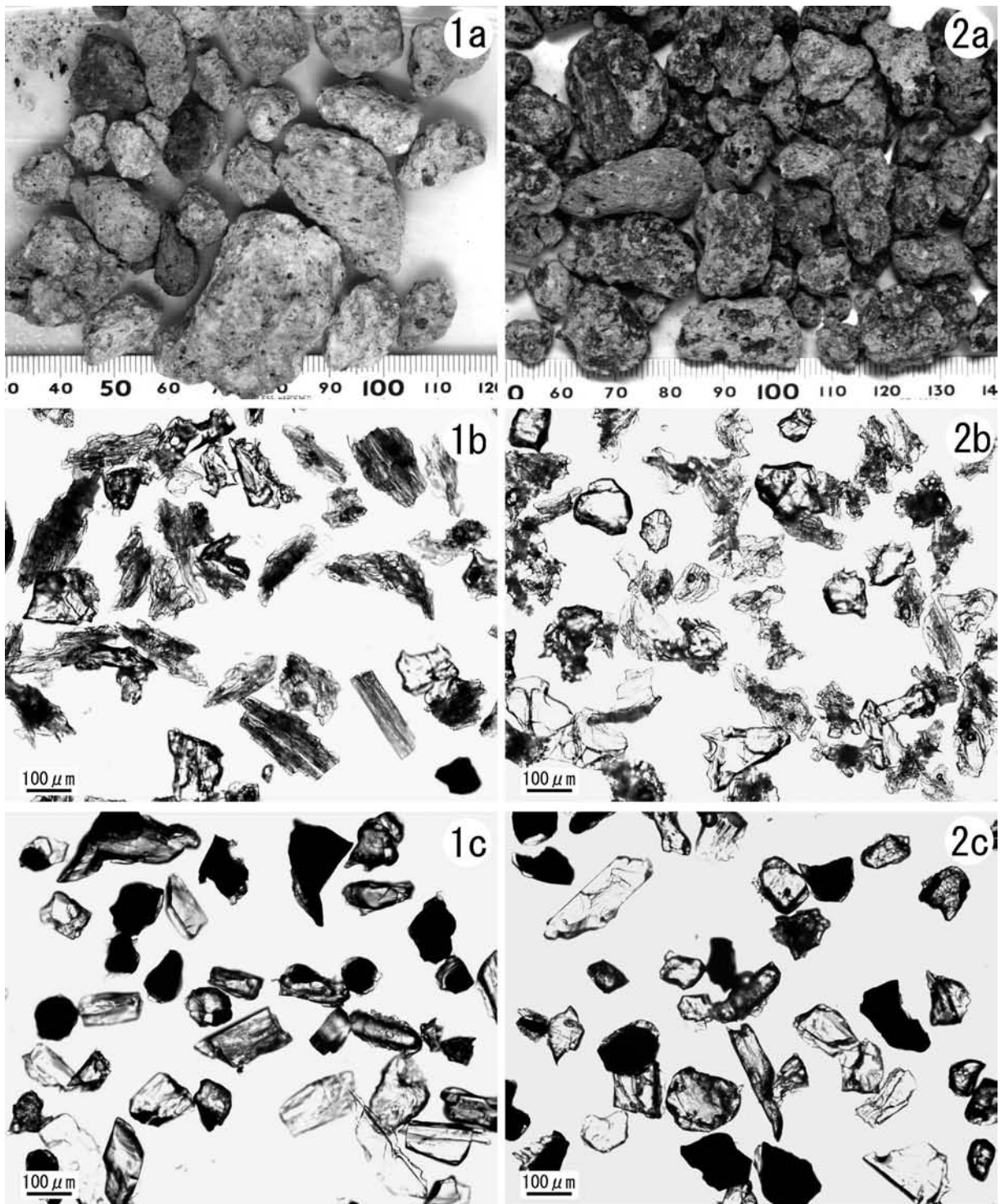
平安時代以降の落とし穴である7区53号土坑と縄文時代中期の95区3号埋甕内から検出された軽石について、鉱物組成および屈折率測定を行った。その結果、分析No.1(7区53号土坑中の軽石)は、重鉱物組成や屈折率測定結果および分布域から、1.5~1.65万年前に噴出した浅間草津テフラ(As-K)の可能性が高いと考えられた。一方、分析No.2(95区3号埋甕中の軽石)は、重鉱物組成と屈折率測定結果から、1.5~1.65万年前に噴出した浅間板鼻黄色テフラ(As-YP)の可能性があると考えられた。

### 参考・引用文献

町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス. 336p, 東京大学出版会.

横山卓雄・檀原 徹・山下 透(1986)温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定. 第四紀研究, 25, 21-30.

横山卓雄・山下 透(1986)温度変化型屈折率測定装置(RIMS-86)による斜方輝石・角閃石の屈折率測定の試み. 京都大学教養部報告(九十九地学), 21, 30-36.



図版1 各遺構から検出された軽石と4φ残渣中の軽鉍物および重鉍物の顕微鏡写真  
1a. 7区53号土坑の軽石(分析No.1) 2a. 95区3号埋甕の軽石(分析No.2)  
1b. 4φ残渣中の軽鉍物(分析No.1) 2b. 4φ残渣中の軽鉍物(分析No.2)  
1c. 4φ残渣中の重鉍物(分析No.1) 2c. 4φ残渣中の重鉍物(分析No.2)

## 長野原一本松遺跡から出土した炭化種実

佐々木由香・バンダリ スダルシャン (パレオ・ラボ)

## 1. はじめに

長野原一本松遺跡は群馬県吾妻郡長野原町に位置し、南に吾妻川を臨む上位段丘上に立地する縄文時代と平安時代の集落遺跡である。ここでは、縄文時代中期後半と平安時代の竪穴住居跡で得られた炭化種実の同定を行い、利用植物について検討した。

## 2. 試料と方法

試料は、発掘調査現場にて目視で取り上げられた10試料である。試料の内訳は、95区13号住居跡の覆土出土が1試料と25号住居跡の床面出土が5試料、1号埋甕の覆土出土が1試料、6区22号住居跡の床面出土が2試料、7区1号住居跡の2号炉出土が1試料である。試料の時期は、7区1号住居跡が平安時代(10世紀後半)の他は、縄文時代中期後半である。住居跡はいずれも焼失住居跡ではない。

計数の方法は完形または一部が破損しても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。試料は、群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

## 3. 結果

同定した結果、木本植物では広葉樹のオニグルミ炭化核とクリ炭化子葉、コナラ属クヌギ節(以下クヌギ節)炭化子葉、コナラ属コナラ節コナラ型(以下コナラ型)炭化子葉、コナラ属コナラ節ミズナラ-ナラガシワ型(以下ミズナラ-ナラガシワ型)炭化子葉、コナラ属炭化子葉、ウメ炭化核の7分類群が見いだされた(表1)。

表1 長野原一本松遺跡から出土した炭化種実(括弧は破片を示す)

分類群	試料No.	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
		区	95						6		7
	遺構名	13住	25住					1号埋甕	22住		1住
	出土位置	覆土	床面					覆土	床面		2号炉
	時期	縄文時代中期後半									平安時代
オニグルミ	炭化核	(5)									
クリ	炭化子葉								(1)	1	
コナラ属クヌギ節	炭化子葉				(1)						
コナラ属コナラ節コナラ型	炭化子葉						1				
コナラ属コナラ節ミズナラ-ナラガシワ型	炭化子葉		(1)	(1)		1					
コナラ属	炭化子葉							(1)			
ウメ	炭化核										1

以下に、炭化種実の出土傾向を遺構別に記載する。

95区13号住居跡：オニグルミ破片が5点得られた。割れる前は完形の2分の1程度の大きさであったと推定される。

95区25号住居跡：クヌギ節破片が1点とコナラ型完形が1点、ミズナラ-ナラガシワ型完形が1点と破片が2点得られた。

95区1号埋甕：コナラ属破片が1点得られた。

6区22号住居跡：クリ完形が1点と破片が1点得られた。

7区1号住居跡：ウメ完形が1点得られた。

次に、炭化種実の記載を行い、写真を示して同定の根拠とする。コナラ属子葉の同定方法については、小

畑 (2011) に基づいて行った。

(1) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino 炭化核 クルミ科  
破片であるが、完形ならば側面観は広卵形。壁は緻密で硬く、ときどき空隙がある。浅い溝と凹凸が不規則に入る。割れている破断面は角が尖るものが多い。最大で残存長26.5mm、残存幅25.2mm、残存厚12.3mm。

(2) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 炭化子葉 ブナ科  
側面観は広卵形。表面にはしわ状の溝が一面にある。しわ以外の面は平坦。やや光沢があり、硬質。長さ13.5mm、幅17.7mm、厚さ9.2mm。

(3) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* 炭化子葉 ブナ科  
半分のみが残存であるが、完形ならば球形に近い円柱形。上下端は平坦。下端中央に浅い窪みがある。突出部は短い円錐状。縦方向に浅い皺がある。破片で臍の形状が観察できずクヌギかアベマキかの識別ができなかったため、クヌギ節の同定に留めた。高さ14.8mm、幅13.4mm。

(4) コナラ属コナラ節コナラ型 *Quercus serrata* Murray type 炭化子葉 ブナ科  
半分のみが残存であるが、完形ならば長卵体。下端部は平坦で、中央に浅い窪みがある。高さのほぼ中央に最大幅がある。縦方向に浅い皺がある。高さ15.6mm、幅10.7mm。

(5) コナラ属コナラ節ミズナラ - ナラガシワ型 *Quercus crispula* Blume - *Quercus aliena* Blume type  
炭化子葉 ブナ科  
下半部が太い広卵形で、高さの中央部よりもやや下方に最大部がある。上下端部はやや平坦で、平坦部の面積がコナラ型よりも広い。下端部の中央に浅い窪みがある。図版1-6は肩が張り、ナラガシワに近いが、全体的に小さくナラガシワ未熟果の可能性もある。図版1-5は高さ16.8mm、幅12.2mm、図版1-6は高さ12.9mm、幅10.2mm。

(6) コナラ属 *Quercus* spp. 炭化子葉 ブナ科  
破片であるが、完形は卵形ないし広卵形、円柱状を呈すると考えられる子葉の破片をコナラ属とした。破片のため、亜属以下の同定ができなかった。

(7) ウメ *Armeniaca mume* (Siebold et Zucc.) de Vriese 炭化核 バラ科  
上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形。表面には不規則で深い小さな孔がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。長さ13.8mm、幅10.9mm、厚さ8.6mm。

#### 4. 考察

縄文時代中期後半の住居跡3軒と埋甕1基、平安時代(10世紀後半)の住居跡1軒から得られた炭化種実を検討したところ、遺構によって異なる種実が得られた。

縄文時代では、95区13号住居跡からオニグルミが得られた。オニグルミの核を食用のために割って子葉を取り出した後、不要な核を燃やした残渣が覆土中に堆積した可能性がある。95区25号住居跡の床面からは、クヌギ節とコナラ型、ミズナラ - ナラガシワ型が得られた。少なくとも3種の異なる食用可能なドングリ類が堆積しており、当時食用にされた種実の情報として重要である。いずれも食用にあたってアク抜きが必要な種である。6区22号住居跡からはクリが得られた。これらの炭化子葉は炉の周辺からまとまって出土しており、貯蔵されていたものまたは加工中のものが何らかの要因で炭化した可能性、あるいは炉にあった炭化子葉が周辺に散った可能性などが考えられる。

95区1号埋甕の土器内の覆土からはコナラ属が得られたが、破片のため亜属以下は不明であった。埋甕と

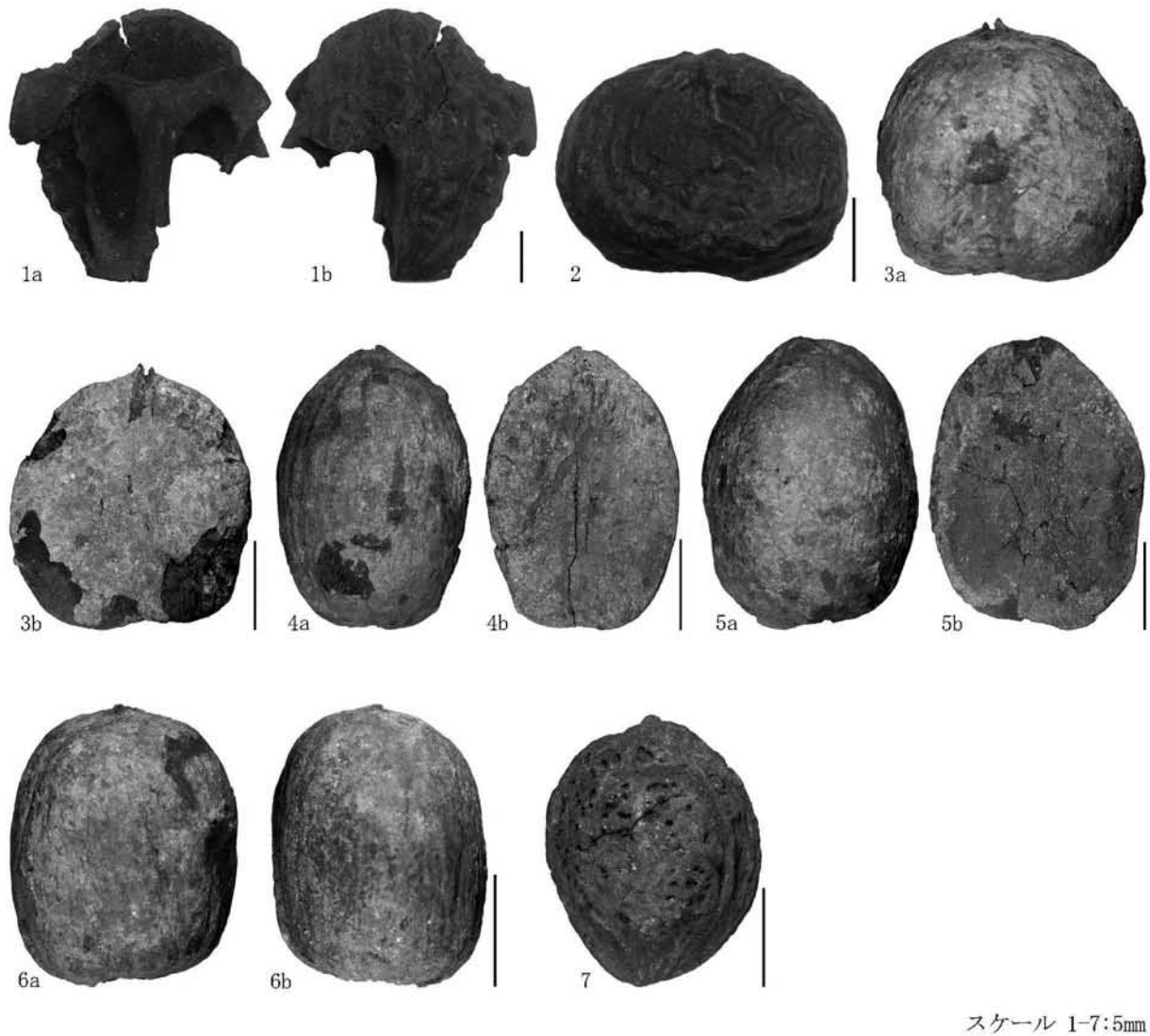
の関係は不明である。

平安時代（10世紀後半）の7区1号住居跡の2号炉からは、栽培植物のウメが得られた。食用後、不要な核を炉に入れて燃やしたと考えられる。

種実はいずれも残存状態が良好であった。今後、土壌中に含まれる微細な種実と合わせて検討すれば、当時の食用植物の詳細がより明らかになると期待される。

引用文献

小畑弘己（2011）東北アジア古民族植物学と縄文農耕. 320p, 同成社.



スケール 1-7:5mm

図版1 長野原一本松遺跡から出土した炭化種実

1. オニグルミ炭化核 (No. 11)、2. クリ炭化子葉 (No. 18)、3. コナラ属クヌギ節炭化子葉 (No. 14)、4. コナラ属コナラ節コナラ型炭化子葉 (No. 16)、5. コナラ属コナラ節ミズナラーナラガシワ型炭化子葉 (No. 12)、6. コナラ属コナラ節ミズナラーナラガシワ型炭化子葉 (No. 15)、7. ウメ炭化核 (No. 20)



## 長野原一本松遺跡出土炭化材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

## 1. はじめに

長野原一本松遺跡で住居跡や陥し穴から出土した炭化材の樹種同定を行なった。なお、試料の一部を用いて、放射性炭素年代測定およびウィグルマッチング法による放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

## 2. 試料と方法

試料は、竪穴住居跡である95区53号住居跡から1点、陥し穴である7区53号土坑から6点、95区108号土坑から1点の、計8点の出土炭化材である。出土遺物から、95区53号住居跡は縄文時代中期、7区53号土坑と95区188号土坑は平安時代以降の遺構と考えられている。なお、放射性炭素年代測定の結果によれば、95区53号住居跡の炭化材は縄文時代中期後葉の年代、7区53号土坑の炭化材は近世の年代を示した。確認できる試料について、残存半径と残存年輪数の計測を行なった。残存半径は、試料で残存する半径を直接計測し、残存年輪数は残存半径内の年輪数を計測した。

炭化材の樹種同定は、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で割断面を作成し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後、イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（日本電子株製 JSM-5900LV）にて検鏡および写真撮影を行った。

## 3. 結果

同定の結果、針葉樹ではスギ1分類群、広葉樹ではクリとカキノキ属の2分類群、単子葉ではイネ科1分類群の、計4分類群が産出した。イネ科が最も多く4点みられ、クリが2点、スギとカキノキ

表1 長野一本松遺跡出土炭化材の樹種同定結果

樹種	時期	平安時代以降		合	計
	遺構	95区53号住居跡	7区53号土坑		
スギ			1		1
クリ		1		1	2
カキノキ属			1		1
イネ科			4		4
	合計	1	6	1	8

属が各1点であった。年輪数の計測では、試料No.5のクリは残存半径1.3cm内に13年輪、試料No.8のスギは残存半径1.8cm内に24年輪、試料No.9のカキノキ属は残存半径0.8cm内に3年輪がみられた。同定結果を表1に、一覧を付表1に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don スギ科 図版1 1a-1c (No.8)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ1～4列となる。分野壁孔は大型のスギ型で、1分野に普通2個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で、切削などの加工が容易な材である。

(2) クリ *Castanea crenata* Siebold. et Zucc. ブナ科 図版1 2a-2c (No.5)

年輪のはじめに大型の道管が1～2列並び、晩材部では径を徐々に減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で単列となる。

クリは北海道の石狩、日高以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

(3) カキノキ属 *Diospyros* カキノキ科 図版1 3a-3c (No.9)

厚壁の中型の道管が単独ないし2～3個複合し、疎らに散在する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1～4列が直立する異性で、1～2列となる。また放射組織は層階状となる。

カキノキ属には栽培種のカキノキや野生種のトキワガキなどがある。日本に自生するトキワガキは関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布するため、この材は栽培種のカキノキの可能性はある。カキノキは落葉の小高木～高木の広葉樹であり、材はやや重硬で靱性がある。

(4) イネ科 Gramineae 図版1 4a (No.6)、5a (No.7)、6a (No.10)

向軸側の原生木部、その左右の2個の後生木部、背軸側の篩部の三つで構成される維管束が散在する、単子葉植物の稈である。維管束の配列は不整中心柱となる。維管束鞘の細胞は比較的薄い。

イネ科はタケ亜科やキビ亜科など、7亜科がみられる単子葉植物であるが、対照標本が少なく、同定に至っていない。

#### 4. 考察

縄文時代中期の竪穴住居跡である95区53号住居跡の炭化材はクリであった。材の用途については、建築材や燃料材の残渣などが考えられるが、詳細は不明である。クリは重硬で強靱な材質で建築材にも適しており、燃料材としても長時間燃焼する（伊東ほか、2011）、有用材である。

長野原一本松遺跡の以前の調査で行われた樹種同定では、縄文時代後期の住居跡5区60号住居跡の61点中60点がクリで、1点がタケ亜科であったと報告されている（植田、2008）。また、長野原一本松遺跡とは離れるが、渋川市の行幸田山遺跡では、縄文時代中期の住居跡出土炭化材からクリが13点、ケンボナシが1点産出している（山田、1993）。このように、群馬県内では縄文時代の中期や後期には建築材にクリを多く利用する傾向がみられる。埼玉県の大宮台地や青森県の青森平野では、縄文時代前期から後期の集落において人為的な植生改変が行われ、クリ林が管理されていたことが示唆されており（鈴木、2002；Noshiro and Suzuki, 2006）、クリが有用材として多く利用されていた。長野原一本松遺跡でも周辺にクリが多く生育していた、または周辺の森林からクリを選んで伐採していた、などの可能性が考えられる。

平安時代以降の陥し穴である7区53号土坑では、イネ科が4点、スギとカキノキ属が各1点、同じく平安時代以降の95区108号土坑ではクリが1点産出した。7区53号土坑の炭化材は土坑の中層から出土しており、陥し穴内の仕掛け、または遺構の埋没過程で廃棄された炭化材などの可能性があるが、詳細は不明である。また、95区108号土坑の炭化材も同様に、材の用途は不明である。

試料No.9のカキノキ属は、前述のように栽培種であるカキノキの可能性はある。カキノキの果実は食用となるため、遺跡周辺では平安時代以降にカキノキが栽培されていた可能性がある。

## 引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂 (2011) 日本有用樹木誌. 238p, 青海社.

Noshiro, S., Suzuki, M. (2006) Utilization of forest resources in the early Jomon period at and around the Sannai-maruyama site in Aomori Prefecture, northern Japan. 辻 誠一郎・能城修一編「植生史研究 特別第2号」: 83-100, 日本植生史学会.

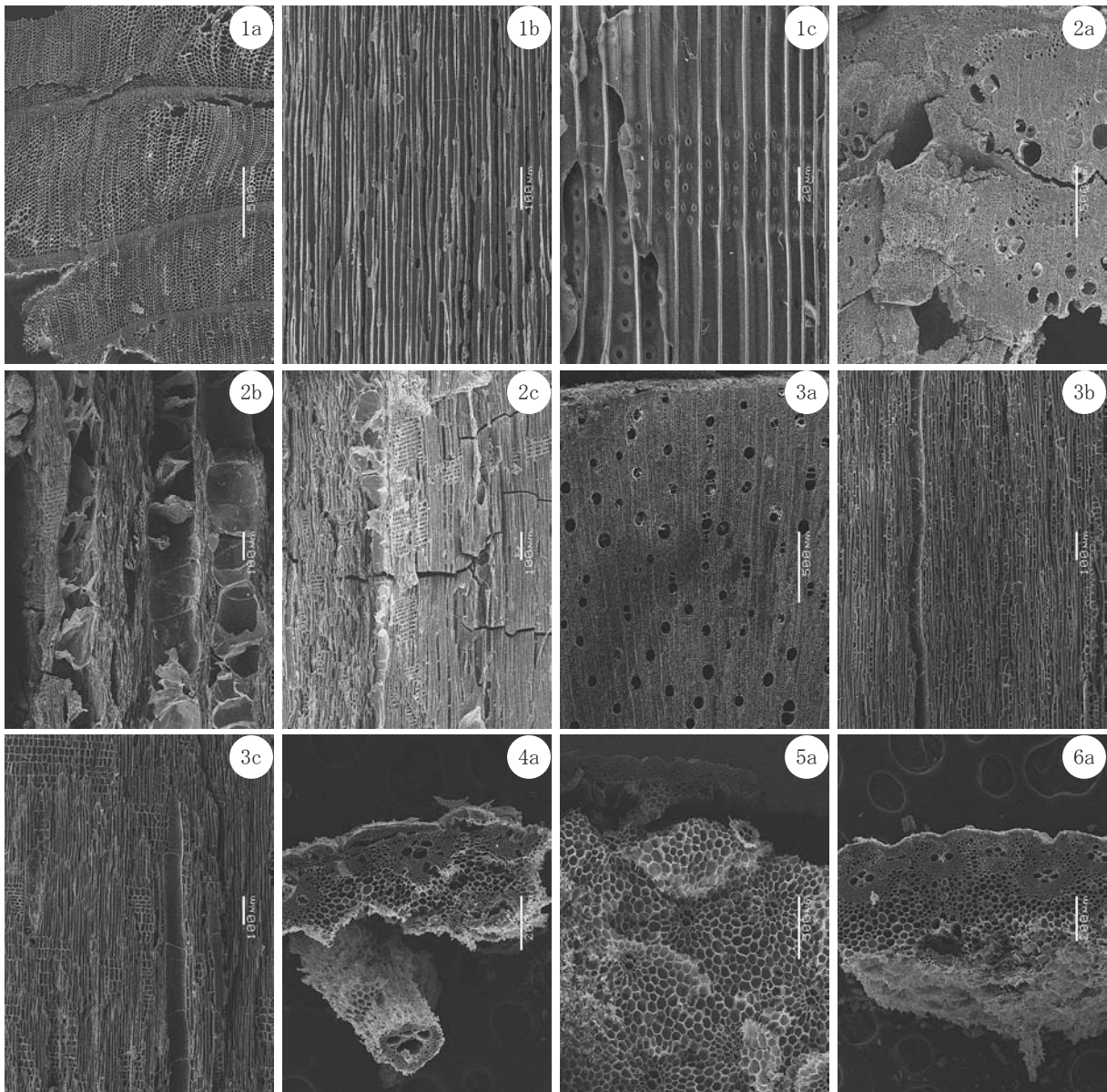
鈴木三男 (2002) 日本人と木の文化. 255p, 八坂書房.

植田弥生 (2008) 長野原一本松遺跡住居跡出土炭化材の樹種同定. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「長野原一本松遺跡(4)」: 269-275, 群馬県埋蔵文化財調査事業団.

山田昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史. 242p, 植生史研究 特別第1号.

付表1 長野一本松遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

試料No.	遺構名	遺構の種類	樹種	残存半径(cm)	残存年輪数	備考	年代測定番号	時期
1	95区53号住居跡	竪穴住居跡	クリ	—	—		PLD-21886	縄文時代中期
2	7区53号土坑	陥し穴	イネ科	—	—	直径0.7cm 中実		平安時代以降
5	95区188号土坑	陥し穴	クリ	1.3	13			
6	7区53号土坑	陥し穴	イネ科	—	—			
7			イネ科	—	—	直径0.9cm 中実		
8			スギ	1.8	24		PLD-21887 ~21889	
9			カキノキ属	0.8	3			
10			イネ科	—	—	直径1.1cm 中実		



図版1 長野原一本松遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c.スギ(No.8)、2a-2c.クリ(No.5)、3a-3c.カキノキ属(No.9)、4a.イネ科(No.6)、5a.イネ科(No.7)、6a.イネ科(No.10)

a:横断面、b:接線断面、c:放射断面

## 報告書抄録

書名ふりがな	ながのはらいっぼんまついせきかっころく
書名	長野原一本松遺跡(6)
副書名	ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	40
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	554
編著者名	小野和之
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20130325
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ながのはらいっぼんまついせき
遺跡名	長野原一本松遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざいっぼんまつ
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字一本松
市町村コード	10424
遺跡番号	0063
北緯(日本測地系)	363241
東経(日本測地系)	1383914
北緯(世界測地系)	363252
東経(世界測地系)	1383902
調査期間	20040410-20041225
調査面積	16,698㎡
調査原因	ダム建設工事に伴う代替地造成工事
種別	集落
主な時代	縄文/平安/中・近世
遺跡概要	集落-縄文-住居62+掘立柱建物跡7+埋甕5+炉1+土坑+配石1-土器+石器/平安-土坑-土器+石器+鉄製品/中世-陶磁器+銭/近世-土坑-陶磁器-鉄製品+銭
特記事項	本書はハツ場ダム建設工事に伴い平成16年度に調査が実施された、長野原一本松遺跡の報告である。検出された遺構・遺物は縄文時代を中心とし、中期後半から後期の大規模集落である。竪穴住居62軒の他、掘立柱建物跡、土坑、埋甕、配石等が多量の遺物を伴い検出された。集落は径約90mの環状を構成しており、群馬県北西部における拠点集落として注目される。また、出土土器は隣接地域との共通性を強く示している。

公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第554集

## 長野原一本松遺跡(6)

ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第40集 一本文編一

---

平成25 (2013) 年 3 月18日 印刷

平成25 (2013) 年 3 月25日 発行

編集・発行／公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784-2

電話 (0279) 52-2511 (代表)

URL <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／朝日印刷工業株式会社

---



# 長野原一本松遺跡(6)

ハッ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第40集

— 写真図版編 —

2013

国 土 交 通 省  
公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団





# 図 版 目 次

PL. 1	5・95区全景（南側上空より） 5・95区全景（西側上空より）	5-156号住居跡遺物出土状態（南より） 5-156号住居跡入り口部立石（南より）
PL. 2	5・95区調査区全景（上空より） 5・95区調査区全景（上空より）	5-156号住居跡全景立石在り（南より） 5-156号住居跡全景（南より）
PL. 3	5・95区調査前風景（北より） 5・95区調査前風景（北より） 5・95区西側部分1面全景（北より） 5・95区西側部分2面全景（北より） 5区・95区西側全景（東より） 95区全景（南より） 5・95区全景（北より） 95区南および谷地部（西より）	5-156号住居跡炉セクション（南より） 5-156号住居跡炉遺物出土状態（南より） 5-156号住居跡掘方全景（南より）
PL. 4	5-8号住居跡遺物出土状態（東より） 5-8号住居跡掘方全景（南東より） 5-8号住居跡埋糞検出状況（南より） 5-8号住居跡埋糞セクション（南より） 5-146号住居跡全景（南より） 5-146号住居跡炉セクション（東より） 5-146号住居跡炉全景（南より） 5-146号住居跡埋糞検出状況（南より）	PL.12 95-5号住居跡遺物出土状態（南より） 95-5号住居跡遺物出土状態（南より） 95-5号住居跡全景（南東より） 95-5号住居跡2号炉セクション（南より） 95-5号住居跡炉全景（南東より） 95-5号住居跡掘方全景（南東より） 95-12号住居跡遺物出土状態（南東より） 95-12号住居跡遺物出土状態（南東より）
PL. 5	5-147号住居跡遺物出土状態（南より） 5-147号住居跡全景（南より） 5-147号住居跡遺物出土状態（南より） 5-147号住居跡炉全景（東より） 5-148号住居跡遺物出土状態（南より） 5-148号住居跡掘方全景（南より） 5-148号住居跡埋糞検出状況（南より） 5-148号住居跡埋糞セクション（東より）	PL.13 95-12号住居跡遺物出土状態（南東より） 95-12号住居跡埋糞セクション（南より） 95-12号住居跡黒曜石出土状態（南東より） 95-12号住居跡全景（南東より） 95-12号住居跡炉全景（南東より） 95-12号住居跡掘方全景（南東より） 95-13号住居跡遺物出土状態（南より） 95-13号住居跡全景（南より）
PL. 6	5-148号住居跡炉セクション（南より） 5-148号住居跡炉全景（南より） 5-149号住居跡遺物出土状態（南東より） 5-149号住居跡遺物出土状態（南東より） 5-149号住居跡遺物出土状態（南より） 5-149号住居跡遺物出土状態（南東より） 5-149号住居跡全景（南東より） 5-149号住居跡炉全景（南東より）	PL.14 95-13号住居跡炉全景（東より） 95-13号住居跡炉掘方（南より） 95-13号住居跡掘方全景（南より） 95-14号住居跡遺物出土状態（南より） 95-14号住居跡遺物出土状態（南より） 95-14号住居跡炉全景（南より） 95-14号住居跡炉体土器（南より）
PL. 7	5-150号住居跡遺物出土状態（東より） 5-150号住居跡遺物出土状態（東より） 5-150号住居跡遺物出土状態（東より） 5-150号住居跡全景（南東より） 5-150号住居跡内土坑セクション（北東より） 5-150号住居跡内土坑全景（北より） 5-150号住居跡炉および土坑全景（南より） 5-150号住居跡炉全景（西より）	PL.15 95-14号住居跡全景（南より） 95-14号住居跡掘方全景（南より） 95-15号住居跡遺物出土状態（南より） 95-15号住居跡全景（南より） 95-15号住居跡炉遺物出土状態（南より） 95-15号住居跡炉全景（南より） 95-15号住居跡埋糞（南西より） 95-15号住居跡掘方全景（南より）
PL. 8	5-151号住居跡全景（南東より） 5-151号住居跡炉全景（南より） 5-151号住居跡炉全景（南より） 5-151号住居跡掘方全景（南より） 5-152号住居跡遺物出土状態（南より） 5-152号住居跡遺物出土状態（南より） 5-152号住居跡全景（南より） 5-152号住居跡炉全景（南より）	PL.16 95-16号住居跡遺物出土状態（南より） 95-16号住居跡全景（南より） 95-16号住居跡炉遺物出土状態（南より） 95-16号住居跡掘方全景（南より） 95-17号住居跡遺物出土状態（南より） 95-17号住居跡全景（南より） 95-17号住居跡炉全景（南より） 95-17号住居跡炉掘方全景（南より）
PL. 9	5-153号住居跡遺物出土状態（南より） 5-153号住居跡全景（南より） 5-153号住居跡炉遺物出土状態（南東より） 5-153号住居跡炉体土器セクション（東より） 5-154号住居跡遺物出土状態（南より） 5-154号住居跡全景（南より） 5-154号住居跡炉全景（南より） 5-154号住居跡炉体土器（東より）	PL.17 95-18号住居跡遺物出土状態（南より） 95-18号住居跡遺物出土状態（南より） 95-18号住居跡遺物出土状態（南より） 95-18号住居跡出入り口部（南西より） 95-18号住居跡全景（南より） PL.18 95-18号住居跡炉遺物出土状態（南西より） 95-18号住居跡炉全景（南より） 95-18号住居跡ピット1セクション（南より） 95-18号住居跡掘方全景（南西より） 95-19号住居跡遺物出土状態（南より） 95-19号住居跡炉遺物出土状態（南より） 95-19号住居跡炉遺物出土状態（南より） 95-19号住居跡炉、石組み遺構敷石除去後（南より）
PL.10	5-155号住居跡遺物出土状態（南より） 5-155号住居跡遺物出土状態（南より） 5-155号住居跡全景（南より） 5-155号住居跡炉全景（南より） 5-155号住居跡炉石棒出土状態（南より） 5-155号住居跡炉体土器（南より） 5-155号住居跡埋糞セクション（南より） 5-155号住居跡掘方全景（南より）	PL.19 95-19号住居跡全景（南より） 95-19号住居跡全景（南より） 95-19号住居跡遺物出土状態（南東より） 95-19号住居跡石組み遺構全景（南より） 95-19号住居跡周礫状態近景（南より）
PL.11	5-156号住居跡遺物出土状態（南より）	PL.20 95-20号住居跡遺物出土状態（南より） 95-20号住居跡遺物出土状態（南より） 95-20号住居跡全景（南より） 95-20号住居跡炉全景（南より） 95-20号住居跡埋糞上部セクション（南より）

	95-20号住居跡埋襲検出状況（南より）	95-41号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-20号住居跡埋襲全景（東より）	95-41号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-20号住居跡埋襲下土器・石棒出土状態（東より）	95-41号住居跡遺物出土状態（南より）
PL.21	95-21号住居跡全景（北より）	95-41号住居跡全景（南より）
	95-22号住居跡炉セクション（東より）	95-41号住居跡炉遺物出土状態（南東より）
	95-22号住居跡炉全景（南より）	95-41号住居跡炉全景（南東より）
	95-22号住居跡炉体土器出土状態（南より）	PL.31
	95-22号住居跡全景（南より）	95-42号住居跡遺物出土状態（南より）
PL.22	95-23号住居跡遺物出土状態（南より）	95-42号住居跡全景（南より）
	95-23号住居跡炉体土器出土状態（南より）	95-43号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-23号住居跡遺物出土状態（南より）	95-43号住居跡全景（南より）
	95-23号住居跡全景（南より）	95-44号住居跡遺物出土状態（東より）
	95-24号住居跡遺物出土状態（南より）	95-44号住居跡全景（南より）
	95-24号住居跡全景（南より）	95-44号住居跡炉全景（南西より）
	95-24号住居跡炉セクション（南より）	95-44号住居跡炉体土器（南より）
	95-24号住居跡炉全景（南より）	PL.32
PL.23	95-25号住居跡遺物出土状態（東より）	95-45号住居跡炉セクション（東より）
	95-25号住居跡全景（東より）	95-45号住居跡全景（南より）
	95-25号住居跡炉遺物出土状態（南より）	95-46号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-25号住居跡炉全景（東より）	95-46号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-26号住居跡遺物出土状態（東より）	95-46号住居跡全景（南より）
	95-26号住居跡遺物出土状態（東より）	95-46号住居跡炉全景（東より）
	95-26号住居跡全景（南より）	95-46号住居跡炉全景（南東より）
	95-26号住居跡炉遺物出土状態（南より）	PL.33
PL.24	95-27号住居跡遺物出土状態（南より）	95-47号住居跡遺物出土状態（南東より）
	95-27号住居跡全景（南より）	95-47号住居跡遺物出土状態（南東より）
	95-27号住居跡炉全景（南より）	95-47号住居跡集石出土状態（南より）
	95-27号住居跡床下土坑セクション（東より）	95-47号住居跡全景（南より）
	95-27号住居跡掘方全景（南より）	PL.34
	95-28号住居跡全景（東より）	95-47号住居跡炉体土器（南より）
	95-29号住居跡遺物出土状態（東より）	95-47号住居跡掘方全景（南より）
	95-29号住居跡全景（南より）	95-48号住居跡遺物出土状態（南より）
PL.25	95-29号住居跡炉全景（東より）	95-48号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-29号住居跡掘方全景（南より）	95-48号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-19号住居跡掘方・30号住居跡遺物出土状態（南より）	95-48号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-30号住居跡遺物出土状態（南より）	PL.35
	95-30号住居跡全景（南より）	95-48号住居跡全景（南より）
PL.26	95-30号住居跡炉遺物出土状態（南より）	95-48号住居跡周礫状況（西より）
	95-30号住居跡2号炉セクション（東より）	95-48号住居跡周礫状況（南より）
	95-30号住居跡炉全景（南より）	95-48号住居跡炉全景（南より）
	95-30号住居跡2号炉掘方（南より）	95-48号住居跡周礫
	95-31号住居跡全景（西より）	PL.36
	95-31号住居跡炉全景（南より）	95-49号住居跡全景（南より）
	95-32号住居跡全景（南より）	95-49号住居跡炉全景（南より）
	95-32号住居跡炉全景（南より）	95-50号住居跡全景（南より）
PL.27	95-33号住居跡全景（東より）	95-50号住居跡炉全景（南より）
	95-33号住居跡炉検出状態（東より）	95-51号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-33号住居跡炉内出土土器セクション（東より）	95-51号住居跡全景（南より）
	95-34号住居跡遺物出土状態（南より）	95-52号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-34号住居跡全景（南より）	95-52号住居跡全景（南より）
	95-34号住居跡炉全景（南より）	PL.37
	95-35号住居跡遺物出土状態（南より）	95-53号住居跡遺物出土状態（南東より）
	95-35号住居跡全景（南より）	95-53号住居跡炭化クルミ出土状態（南東より）
PL.28	95-35号住居跡炉セクション（南より）	95-53号住居跡全景（南より）
	95-35号住居跡炉全景（南より）	95-53号住居跡炉全景（東より）
	95-36号住居跡全景（東より）	95-53号住居跡掘方全景（南西より）
	95-36号住居跡炉全景（南より）	95-54号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-37号住居跡遺物出土状態（北より）	95-54号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-37号住居跡全景（南より）	PL.38
	95-38号住居跡遺物出土状態（南より）	95-54号住居跡出土軽石（南より）
	95-38号住居跡全景（南より）	95-54号住居跡遺物出土状態（南より）
PL.29	95-38号住居跡炉セクション（東より）	95-54号住居跡炉セクション（南より）
	95-38号住居跡炉全景（南より）	95-54号住居跡炉全景（南より）
	95-39号住居跡遺物出土状態（南より）	95-54号住居跡全景（南より）
	95-39号住居跡全景（南より）	PL.39
	95-39号住居跡炉全景（南より）	95-54号住居跡内ピット全景（南より）
	95-39号住居跡掘方全景（南より）	95-54号住居跡掘方全景（南より）
	95-40号住居跡遺物出土状態（南より）	95-55号住居跡遺物出土状態（南東より）
	95-40号住居跡炉遺物出土状態（南より）	95-55号住居跡全景（南東より）
	95-40号住居跡掘方全景（南東より）	95-56号住居跡遺物出土状態（南より）
PL.30	95-40号住居跡炉遺物出土状態（南より）	95-56号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-40号住居跡掘方全景（南東より）	95-56号住居跡遺物出土状態（北より）
		95-56号住居跡立石出土状態（南より）
		PL.40
		95-56号住居跡炉南西部石棒検出状況（南より）

	95-56号住居跡炉遺物出土状態 (南より)		5-5号掘立柱建物跡P-8 (5-1144号土坑) 全景 (南より)
	95-56号住居跡炉全景 (南より)	PL.51	5-8号掘立柱建物跡全景 (北より)
	95-56号住居跡炉掘方全景 (南より)		5-8号掘立柱建物跡P-1 (5-1185号土坑) セクション (南より)
PL.41	95-57号住居跡遺物出土状態 (南より)		5-8号掘立柱建物跡P-1 (5-1185号土坑) 全景 (南より)
	95-57号住居跡遺物出土状態 (南より)		5-8号掘立柱建物跡P-2 (5-1175号土坑) 全景 (南より)
	95-57号住居跡全景 (南より)		5-8号掘立柱建物跡P-3 (5-1166号土坑) 全景 (南より)
	95-57号住居跡入り口部平石出土状態 (西より)		5-8号掘立柱建物跡P-4 (5-1162号土坑) 全景 (南より)
	95-57号住居跡炉全景 (南より)		5-8号掘立柱建物跡P-5 (5-1171号土坑) 全景 (南より)
PL.42	95-57号住居跡炉掘方土坑セクション (東より)		5-8号掘立柱建物跡P-6 (5-1181号土坑) 全景 (南より)
	95-57号住居跡炉掘方全景 (南より)	PL.52	95-3号掘立柱建物跡全景 (南より)
	95-58号住居跡遺物出土状態 (南東より)		95-3号掘立柱建物跡検出前状況 (南より)
	95-58号住居跡炉遺物出土状態 (南より)		95-3号掘立柱建物跡全景 (南より)
	95-58号住居跡炉全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡全景 (東より)
	95-58号住居跡全景 (南東より)		95-3号掘立柱建物跡炉全景 (南より)
	95-59号住居跡遺物出土状態 (南より)	PL.53	95-3号掘立柱建物跡炉セクション (東より)
	95-59号住居跡全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡埋喪 (95-2号埋喪) 全景 (東より)
PL.43	95-60号住居跡全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-1 (95-94号土坑) セクション (南東より)
	95-60号住居跡炉全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-1 (95-94号土坑) 全景 (南より)
	5-2号掘立柱建物跡全景 (南東より)		95-3号掘立柱建物跡P-2 (95-97号土坑) セクション (東より)
	5-2号掘立柱建物跡P-1 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-2 (95-97号土坑) 全景 (北東より)
	5-2号掘立柱建物跡P-2 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-3 (95-104号土坑) 全景 (東より)
PL.44	5-2号掘立柱建物跡P-3 全景 (南より)	PL.54	95-3号掘立柱建物跡P-3 (95-104号土坑) セクション (北より)
	5-2号掘立柱建物跡P-4 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-4 (95-103号土坑) セクション (西より)
	5-2号掘立柱建物跡P-5 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-4 (95-103号土坑) 全景 (南より)
	5-2号掘立柱建物跡P-6 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-5 (95-101号土坑) セクション (東より)
	5-2号掘立柱建物跡P-7 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-5 (95-101号土坑) セクション (東より)
	5-2号掘立柱建物跡P-8 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-5 (95-101号土坑) 全景 (南より)
	5-2号掘立柱建物跡P-9 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-6 (95-100号土坑) 全景 (南西より)
	5-3号掘立柱建物跡全景 (南西より)	PL.55	95-3号掘立柱建物跡P-6 (95-100号土坑) セクション (東より)
PL.45	5-3号掘立柱建物跡P-1 (95-193号ピット) セクション (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-6 (95-100号土坑) 柱痕検出状況 (東より)
	5-3号掘立柱建物跡P-2 (5-1127号土坑) セクション (南西より)		95-3号掘立柱建物跡P-7 (95-96号土坑) セクション (東より)
	5-3号掘立柱建物跡P-2 (5-1127号土坑) 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-7 (95-96号土坑) 全景 (南より)
	5-3号掘立柱建物跡P-3 (5-285号ピット) セクション (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-8 (95-95号土坑) セクション (東より)
	5-3号掘立柱建物跡P-3 (5-285号ピット) 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-8 (95-95号土坑) 全景 (南より)
	5-3号掘立柱建物跡P-4 (5-286号ピット) 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-9 (95-105号土坑) セクション (北より)
	5-3号掘立柱建物跡P-5 (5-287号ピット) 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-9 (95-105号土坑) 全景 (北より)
	5-3号掘立柱建物跡P-6 (5-288号ピット) 全景 (南より)	PL.56	95-4号掘立柱建物跡全景 (東より)
PL.46	5-4号掘立柱建物跡全景 (南より)		95-4号掘立柱建物跡P-1 (95-98号土坑) 全景 (北より)
	5-4号掘立柱建物跡内7・8号焼土 (南より)		95-4号掘立柱建物跡P-2 (95-109号土坑) セクション (西より)
	5-4号掘立柱建物跡炉、埋喪検出状況 (南より)		95-4号掘立柱建物跡P-2 (95-109号土坑) 全景 (南より)
	5-4号掘立柱建物跡全景 (東より)		95-4号掘立柱建物跡P-4 (95-110号土坑) セクション (北東より)
	5-4号掘立柱建物跡埋喪セクション (南東より)		95-4号掘立柱建物跡P-4 (95-110号土坑) 全景 (東より)
	5-4号掘立柱建物跡埋喪全景 (南より)		95-4号掘立柱建物跡P-5 (95-265号土坑) 全景 (西より)
PL.47	5-4号掘立柱建物跡P-1 (5-1141号土坑) セクション (西より)		95-4号掘立柱建物跡P-6 (95-99号土坑) セクション (西より)
	5-4号掘立柱建物跡P-1 (5-1141号土坑) 全景 (南より)	PL.57	5-15号埋喪セクション (南より)
	5-4号掘立柱建物跡P-2 (5-1146号土坑) セクション (南より)		95-1号埋喪セクション (西より)
	5-4号掘立柱建物跡P-2 (5-1146号土坑) 全景 (南より)		95-1号埋喪断面 (南東より)
	5-4号掘立柱建物跡P-3 (5-1147号土坑) セクション (南より)		95-3号埋喪セクション (南より)
	5-4号掘立柱建物跡P-3 (5-1147号土坑) 全景 (南より)		95-3号埋喪出土状況 (南より)
	5-4号掘立柱建物跡P-4 (5-1148号土坑) セクション (南より)		95-4号埋喪セクション (東より)
	5-4号掘立柱建物跡P-4 (5-1148号土坑) 全景 (南より)		95-1号焼土検出状況 (南より)
PL.48	5-4号掘立柱建物跡P-5 (5-1149号土坑) セクション (南より)		95-1号焼土遺物出土状態 (南より)
	5-4号掘立柱建物跡P-5 (5-1149号土坑) 全景 (南より)	PL.58	95-1号焼土全景 (南より)
	5-4号掘立柱建物跡P-6 (5-1145号土坑) セクション (南より)		95-1号焼土セクション (南東より)
	5-4号掘立柱建物跡P-6 (5-1145号土坑) 全景 (南より)		95-1号焼土下セクション (南より)
	5-5号掘立柱建物跡全景 (南より)		95-1号焼土下土坑遺物出土状態 (南より)
PL.49	5-5号掘立柱建物跡P-1 (5-1140号土坑) セクション (南より)	PL.59	95-1号焼土下土坑遺物出土状態 (南より)
	5-5号掘立柱建物跡P-1 (5-1140号土坑) セクション (南より)		95-1号焼土下土坑全景 (東より)
	5-5号掘立柱建物跡P-2 (5-1215号土坑) セクション (南東より)		95-7号焼土全景 (南より)
	5-5号掘立柱建物跡P-2 (5-1215号土坑) 全景 (南より)		95-7号焼土セクション (西より)
	5-5号掘立柱建物跡P-3 (5-1216号土坑) セクション (南東より)		95-10号焼土 (東より)
	5-5号掘立柱建物跡P-3 (5-1216号土坑) 全景 (南東より)		95-11号焼土 (南西より)
	5-5号掘立柱建物跡P-4 (5-1222号土坑) セクション (南東より)		95-12号焼土 (南より)
	5-5号掘立柱建物跡P-4 (5-1222号土坑) 全景 (南より)		95-13号焼土 (南より)
PL.50	5-5号掘立柱建物跡P-5 (5-1218号土坑) セクション (南東より)	PL.60	95-14号焼土 (南より)
	5-5号掘立柱建物跡P-5 (5-1218号土坑) 全景 (南より)		95-14号焼土セクション (東より)
	5-5号掘立柱建物跡P-6 (5-1217号土坑) セクション (南東より)		95-15号焼土 (南より)
	5-5号掘立柱建物跡P-6 (5-1217号土坑) 全景 (南より)		95-16号焼土 (南より)
	5-5号掘立柱建物跡P-7 (5-1219号土坑) 根巻き石 (南東より)		95-17号炉セクション (南より)
	5-5号掘立柱建物跡P-7 (5-1219号土坑) 全景 (南より)		95-17号炉全景 (南より)
	5-5号掘立柱建物跡P-8 (5-1144号土坑) セクション (南より)		95-1号配石全景 (東より)

	95-2号配石セクション(西より)	PL.70	5-1220号土坑全景(南より)
PL.61	5-99号土坑全景(南東より)		5-1221号土坑全景(南より)
	5-1120号土坑全景(南より)		5-1223号土坑遺物出土状態(南より)
	5-1120号土坑全景(南より)		5-1224号土坑セクション(東より)
	5-1121号土坑全景(北東より)		5-1224号土坑遺物出土状態(東より)
	5-1123号土坑全景(東より)		5-1225号土坑全景(西より)
	5-1124号土坑全景(南より)		5-1226号土坑セクション(北より)
	5-1125・1126号土坑全景(南より)		5-1227号土坑全景(東より)
PL.62	5-1128号土坑セクション(西より)	PL.71	5-1228号土坑遺物出土状態(東より)
	5-1128号土坑全景(南より)		5-1228号土坑全景(東より)
	5-1129号土坑全景(南より)		5-1229号土坑全景(東より)
	5-1130号土坑全景(南より)		5-1230号土坑遺物出土状態(東より)
	5-1131号土坑全景(東より)		5-1231号土坑遺物出土状態(東より)
	5-1132号土坑全景(東より)		5-1232号土坑全景(東より)
	5-1133号土坑全景(南より)		5-1233号土坑全景(東より)
PL.63	5-1134号土坑全景(南より)		5-1234号土坑全景(東より)
	5-1135号土坑全景(南より)	PL.72	5-1235号土坑遺物出土状態(東より)
	5-1136号土坑全景(南より)		5-1236号土坑全景(南より)
	5-1137号土坑全景(南より)		5-1237号土坑全景(東より)
	5-1138号土坑遺物出土状態(南より)		5-1238号土坑全景(南より)
	5-1139号土坑全景(南より)		5-1239号土坑遺物出土状態(南より)
	5-1142号土坑全景(南より)		5-1239号土坑全景(南東より)
	5-1143号土坑全景(南より)		5-1240号土坑全景(南より)
PL.64	5-1150号土坑全景(南より)		5-1241号土坑遺物出土状態(南より)
	5-1151号土坑全景(南より)	PL.73	5-1242号土坑遺物出土状態(南より)
	5-1152号土坑遺物出土状態(南より)		5-1243号土坑全景(南より)
	5-1153号土坑全景(南東より)		5-1244号土坑全景(東より)
	5-1154・1155号土坑全景(南より)		5-1245号土坑全景(南より)
	5-1156号土坑全景(南より)		5-1246号土坑全景(南より)
	5-1157号土坑全景(南より)		5-1247号土坑遺物出土状態(東より)
	5-1158・1161・1162・1163号土坑全景(南より)		5-1247号土坑全景(東より)
PL.65	5-1159号土坑全景(南より)		5-1248号土坑遺物出土状態(南より)
	5-1160号土坑全景(南より)	PL.74	5-1248号土坑全景(南より)
	5-1164・1165号土坑全景(南より)		5-1249号土坑全景(南より)
	5-1167号土坑全景(南より)		5-1250号土坑全景(南より)
	5-1168号土坑全景(南より)		5-1251号土坑遺物出土状態(東より)
	5-1169号土坑全景(南西より)		5-1252号土坑全景(南より)
	5-1170号土坑全景(南より)		5-1253号土坑遺物出土状態(南より)
	5-1172号土坑全景(南より)		5-1254号土坑全景(南より)
PL.66	5-1173・1174号土坑全景(北西より)		5-1255号土坑全景(東より)
	5-1176・1177号土坑全景(南東より)	PL.75	5-1256号土坑全景(南より)
	5-1178号土坑全景(南より)		5-1257号土坑遺物出土状態(南東より)
	5-1179号土坑全景(南より)		5-1258号土坑全景(南より)
	5-1180号土坑全景(南より)		5-1259号土坑遺物出土状態(東より)
	5-1182号土坑全景(南より)		5-1260号土坑全景(東より)
	5-1183・1184号土坑全景(南より)		5-1261号土坑全景(南より)
	5-1186号土坑全景(南より)		5-1262号土坑全景(南より)
PL.67	5-1187号土坑全景(南より)		5-1263号土坑全景(南より)
	5-1188号土坑全景(南より)	PL.76	5-1264号土坑全景(南より)
	5-1189号土坑全景(南より)		5-1265号土坑全景(南より)
	5-1190号土坑全景(南より)		5-1266号土坑全景(南より)
	5-1191号土坑全景(南より)		5-1267号土坑全景(南より)
	5-1192号土坑全景(南東より)		5-1268号土坑全景(東より)
	5-1193号土坑全景(南より)		5-1269・1270号土坑全景(東より)
	5-1194号土坑遺物出土状態(東より)		5-1271号土坑全景(南より)
PL.68	5-1194号土坑全景(東より)		5-1272号土坑全景(南より)
	5-1195号土坑全景(南より)	PL.77	5-1273号土坑セクション(東より)
	5-1196号土坑全景(東より)		5-1273号土坑全景(南より)
	5-1197号土坑全景(南より)		5-1274号土坑全景(南より)
	5-1198号土坑全景(南より)		5-1275号土坑全景(東より)
	5-1199号土坑全景(南より)		95-93号土坑全景(南より)
	5-1200号土坑全景(東より)		95-102号土坑全景(東より)
	5-1201号土坑全景(東より)		95-106号土坑全景(北より)
PL.69	5-1149・1202号土坑全景(南より)	PL.78	95-108号土坑全景(南より)
	5-1204・1205号土坑セクション(南より)		95-111号土坑全景(南より)
	5-1206号土坑全景(南より)		95-112号土坑全景(南より)
	5-1207号土坑全景(南より)		95-113号土坑遺物出土状態(南より)
	5-1208号土坑セクション(南より)		95-113号土坑遺物出土状態(南より)
	5-1209号土坑遺物出土状態(東より)		95-114号土坑全景(南より)
	5-1209・1210・1211号土坑全景(南より)		95-115号土坑全景(南より)
	5-1214号土坑全景(南より)		95-116号土坑全景(南より)

- PL.79 95-117・119号土坑全景（南西より）  
95-118号土坑全景（南より）  
95-120号土坑セクション（南より）  
95-121号土坑セクション（東より）  
95-122号土坑全景（南より）  
95-123号土坑遺物出土状態（東より）  
95-123号土坑全景（東より）  
95-124号土坑全景（南より）
- PL.80 95-125号土坑全景（東より）  
95-126号土坑全景（北より）  
95-127号土坑全景（東より）  
95-128号土坑全景（南より）  
95-129号土坑全景（東より）  
95-130号土坑遺物出土状態（南より）  
95-131号土坑遺物出土状態（南より）  
95-131号土坑全景（南より）
- PL.81 95-132号土坑全景（南より）  
95-133・134号土坑全景（南より）  
95-135号土坑全景（東より）  
95-136号土坑全景（南より）  
95-137号土坑遺物出土状態（東より）  
95-137号土坑全景（西より）  
95-138号土坑セクション（東より）  
95-139号土坑全景（南より）
- PL.82 95-140号土坑全景（南より）  
95-141号土坑全景（東より）  
95-142号土坑遺物出土状態（南より）  
95-143号土坑セクション（南より）  
95-144号土坑セクション（南より）  
95-145号土坑セクション（南より）  
95-146号土坑セクション（南より）  
95-147号土坑セクション（南より）
- PL.83 95-148号土坑全景（南より）  
95-149号土坑全景（南より）  
95-150号土坑全景（南より）  
95-151号土坑全景（南より）  
95-152号土坑全景（南より）  
95-153号土坑全景（南より）  
95-154号土坑遺物出土状態（西より）  
95-155・156号土坑全景（南より）
- PL.84 95-157号土坑全景（東より）  
95-159号土坑全景（東より）  
95-160号土坑全景（南より）  
95-161号土坑全景（南より）  
95-162号土坑全景（東より）  
95-163・164号土坑全景（南より）  
95-165号土坑全景（南より）  
95-166号土坑遺物出土状態（南より）
- PL.85 95-166号土坑全景（南より）  
95-167号土坑全景（南より）  
95-168号土坑遺物出土状態（南より）  
95-168号土坑全景（南より）  
95-169号土坑全景（南より）  
95-170号土坑全景（北より）  
95-171号土坑全景（南より）  
95-172号土坑全景（西より）
- PL.86 95-173号土坑セクション（北より）  
95-174号土坑全景（北より）  
95-175号土坑全景（南より）  
95-176号土坑全景（西より）  
95-178号土坑全景（南より）  
95-179号土坑全景（南より）  
95-180号土坑全景（南より）  
95-182号土坑全景（北より）
- PL.87 95-183号土坑全景（北より）  
95-184・185号土坑全景（南より）  
95-186号土坑遺物出土状態（東より）  
95-186号土坑全景（西より）  
95-189号土坑遺物出土状態（北より）  
95-190号土坑全景（南より）  
95-191号土坑全景（南より）
- 95-192号土坑全景（南より）
- PL.88 95-193号土坑全景（南より）  
95-194号土坑全景（南より）  
95-195号土坑全景（南より）  
95-196号土坑全景（南より）  
95-197号土坑全景（南より）  
95-198号土坑全景（南より）  
95-199号土坑全景（南より）  
95-200号土坑遺物出土状態（南西より）
- PL.89 95-201号土坑全景（南より）  
95-202号土坑遺物出土状態（南より）  
95-202号土坑全景（南より）  
95-203号土坑全景（南より）  
95-204号土坑全景（南より）  
95-205号土坑全景（南より）  
95-206号土坑全景（西より）  
95-207・208・209号土坑遺物出土状態（南より）
- PL.90 95-208号土坑全景（南より）  
95-210号土坑セクション（南より）  
95-211号土坑遺物出土状態（南より）  
95-212号土坑遺物出土状態（西より）  
95-212号土坑全景（東より）  
95-213号土坑全景（西より）  
95-214号土坑セクション（西より）  
95-214号土坑全景（南より）
- PL.91 95-215号土坑全景（南より）  
95-216号土坑遺物出土状態（南より）  
95-216号土坑全景（南より）  
95-217号土坑石棒出土状態（東より）  
95-218号土坑全景（南より）  
95-219号土坑全景（南より）  
95-220号土坑全景（南より）  
95-222号土坑全景（東より）
- PL.92 95-223号土坑全景（南より）  
95-224号土坑セクション（東より）  
95-225号土坑セクション（南より）  
95-226号土坑セクション（南より）  
95-227号土坑セクション（南より）  
95-224～227号土坑全景（南より）  
95-228号土坑全景（東より）  
95-229号土坑全景（東より）
- PL.93 95-230号土坑セクション（西より）  
95-230号土坑遺物出土状態（東より）  
95-230号土坑全景（南より）  
95-231号土坑全景（南より）  
95-232号土坑遺物出土状態（南西より）  
95-233号土坑全景（東より）  
95-234号土坑セクション（北より）  
95-234号土坑全景（東より）
- PL.94 95-235号土坑全景（東より）  
95-236号土坑セクション（東より）  
95-237号土坑セクション（東より）  
95-238号土坑全景（東より）  
95-239号土坑遺物出土状態（南より）  
95-239号土坑全景（南より）  
95-240号土坑全景（南より）  
95-241号土坑全景（南より）
- PL.95 95-243号土坑全景（南より）  
95-244号土坑全景（南より）  
95-245号土坑セクション（東より）  
95-246号土坑遺物出土状態（西より）  
95-246号土坑全景（南より）  
95-247号土坑全景（南より）  
95-248号土坑セクション（南より）  
95-249号土坑全景（南より）
- PL.96 95-250号土坑全景（北東より）  
95-250号土坑底面ピット  
95-251号土坑全景（南西より）  
95-252号土坑全景（南より）  
95-253号土坑セクション（東より）  
95-254号土坑セクション（北より）

- 95-255号土坑遺物出土状態 (南より)
- PL.97 95-256号土坑セクション (北東より)  
95-256号土坑全景 (南西より)  
95-256号土坑底面ビットセクション (北東より)  
95-257号土坑遺物出土状態 (東より)  
95-257号土坑全景 (西より)  
95-258号土坑全景 (南より)  
95-259号土坑全景 (南より)
- PL.98 95-260号土坑全景 (南より)  
95-261号土坑全景 (南より)  
95-262号土坑全景 (南より)  
95-263号土坑全景 (南西より)  
95-264号土坑全景 (南より)  
95-266号土坑全景 (南より)  
95-267号土坑遺物出土状態 (南より)  
95-268号土坑遺物出土状態 (南より)
- PL.99 95-269号土坑全景 (南より)  
95-270号土坑全景 (南より)  
95-273号土坑セクション (南より)  
95-274号土坑セクション (南より)  
95-275号土坑セクション (北西より)  
95-275号土坑全景 (北西より)  
95-277号土坑全景 (南より)  
95-278号土坑全景 (南より)
- PL.100 95-279号土坑遺物出土状態 (南より)  
95-280号土坑全景 (南西より)  
95-281号土坑セクション (東より)  
95-282号土坑セクション (南東より)  
95-282号土坑全景 (南より)  
95-283号土坑全景 (西より)  
95-284号土坑全景 (南より)
- PL.101 95-285号土坑全景 (南より)  
95-286号土坑セクション (東より)  
95-286号土坑全景 (南より)  
95-287号土坑全景 (南より)  
95-288号土坑遺物出土状態 (南より)  
95-289号土坑遺物出土状態 (南より)  
95-289号土坑全景 (南より)  
95-290号土坑遺物出土状態 (東より)
- PL.102 95-291号土坑全景 (南より)  
95-292号土坑全景 (南より)  
95-293号土坑セクション (東より)  
95-293号土坑全景 (南より)  
95-294号土坑遺物出土状態 (南より)  
95-294号土坑全景 (南より)  
95-295号土坑全景 (南より)  
95-296号土坑遺物出土状態 (南より)
- PL.103 95-297号土坑全景 (南より)  
95-298号土坑遺物出土状態 (南より)  
95-298号土坑全景 (南より)  
95-299号土坑遺物出土状態 (南より)  
95-300号土坑全景 (南より)  
95-301号土坑全景 (東より)  
95-303号土坑全景 (南西より)  
95-304号土坑全景 (南西より)
- PL.104 95-305号土坑全景 (南より)  
95-306号土坑全景 (東より)  
95-307号土坑全景 (北より)  
95-308・309号土坑全景 (南より)  
95-310号土坑全景 (南より)  
95-311号土坑全景 (南より)  
95-312号土坑全景 (南より)  
95-313号土坑全景 (南より)
- PL.105 95-315号土坑全景 (東より)  
95-316号土坑全景 (南より)  
95-317号土坑全景 (南より)  
95-318号土坑全景 (南より)  
95-319号土坑全景 (東より)  
95-320号土坑遺物出土状態 (南より)  
95-321号土坑全景 (南より)  
95-322号土坑全景 (南より)
- PL.106 95-323号土坑全景 (南より)  
95-324号土坑全景 (南西より)  
95-325号土坑全景 (南西より)  
95-326号土坑遺物出土状態 (南より)  
95-327号土坑全景 (南より)  
95-328号土坑全景 (東より)  
95-329号土坑全景 (南より)  
95-331号土坑全景 (南東より)
- PL.107 95-289号ビット全景 (南より)  
95-290号ビット全景 (南より)  
95-291号ビット全景 (南より)  
95-292号ビット全景 (南より)  
95-293号ビット全景 (南より)  
95-294号ビット全景 (南より)  
95-295号ビット全景 (南より)  
95-296号ビットセクション (南西より)  
95-297号ビット全景 (南より)  
95-298号ビット全景 (南より)  
95-299号ビット全景 (東より)  
95-300号ビット全景 (南より)  
95-301号ビット全景 (南より)  
95-302号ビット全景 (東より)  
95-303号ビット全景 (東より)
- PL.108 95-304号ビット全景 (南西より)  
95-305号ビット全景 (南より)  
95-306号ビット全景 (南より)  
95-307号ビット全景 (南より)  
95-308号ビット全景 (東より)  
95-309号ビット全景 (南より)  
95-310号ビット全景 (東より)  
95-311号ビット全景 (南より)  
95-312号ビット全景 (南より)  
95-313号ビット全景 (南より)  
95-314号ビット全景 (南より)  
95-315号ビット全景 (東より)  
95-316号ビット全景 (南より)  
95-317号ビット全景 (南より)  
95-318号ビット全景 (南西より)
- PL.109 95-319号ビット全景 (南より)  
95-320号ビット全景 (南より)  
95-321号ビット全景 (南より)  
95-322号ビット全景 (南より)  
95-323号ビット全景 (南より)  
95-324号ビット全景 (東より)  
95-325号ビット全景 (南より)  
95-326号ビット全景 (南より)  
95-327号ビット全景 (南より)  
95-150号ビットセクション (東より)  
95-151号ビット全景 (南より)  
95-152号ビットセクション (南より)  
95-158号ビットセクション (南より)  
95-160号ビットセクション (南より)  
95-162号ビットセクション (南より)
- PL.110 95-163号ビットセクション (南より)  
95-164号ビット全景 (南より)  
95-165号ビット全景 (南より)  
95-166号ビット全景 (南より)  
95-167号ビット全景 (南より)  
95-168号ビット全景 (東より)  
95-169号ビット全景 (東より)  
95-170号ビット全景 (南より)  
95-171号ビット全景 (南西より)  
95-172号ビット全景 (北西より)  
95-173号ビット全景 (南より)  
95-174号ビット全景 (南より)  
95-175号ビット全景 (南より)  
95-176号ビット全景 (南より)  
95-177号ビット全景 (東より)
- PL.111 95-178号ビット全景 (南より)  
95-179号ビット全景 (南より)  
95-180号ビット全景 (南より)

- 95-181号ピット全景（南より）  
95-182号ピット全景（南より）  
95-183号ピット全景（南より）  
95-184号ピット全景（南より）  
95-185号ピット全景（南より）  
95-186号ピット全景（南より）  
95-187号ピット全景（南より）  
95-188号ピット全景（南より）  
95-189号ピットセクション（北より）  
95-190号ピット全景（南より）  
95-191号ピット全景（南より）  
95-192号ピット全景（南より）
- PL.112 95-谷地部全景（北より）  
95-谷地部セクション（西より）  
95-谷地部遺物出土状態（北より）  
95-谷地部遺物出土状態（南より）  
95-谷地部遺物（大珠）出土状態（南より）
- PL.113 5-6号焼土セクション（南より）  
5-6号焼土全景（西より）  
5-10号焼土全景（南より）  
5-10号焼土セクション（東より）  
5-11号焼土全景（東より）  
5-11号焼土セクション（東より）  
5-12号焼土全景（東より）  
5-13号焼土全景（東より）
- PL.114 5-14号焼土セクション（東より）  
5-15号焼土セクション（東より）  
5-15号焼土下土坑全景（南より）  
95-2号焼土セクション（南より）  
95-3号焼土セクション（東より）  
95-4号焼土全景（南より）  
95-5号焼土全景（南より）  
95-6号焼土全景（南より）
- PL.115 5-30号土坑セクション（南東より）  
5-66号土坑セクション（北西より）  
5-66号土坑全景（北西より）  
5-182号土坑全景（南より）  
5-1115号土坑全景（南より）  
5-1116号土坑全景（北東より）  
5-1117号土坑全景（南より）
- PL.116 5-1118号土坑全景（北東より）  
5-1119号土坑全景（南東より）  
5-1122号土坑全景（南より）  
5-1212号土坑セクション（南東より）  
5-1212号土坑全景（南東より）
- PL.117 5-1213号土坑セクション（南より）  
5-1213号土坑全景（南東より）  
8・18区全景（東より）  
8-6号土坑セクション（南より）  
8-6号土坑全景（北西より）  
17区西・18区東トレンチ全景（北より）  
17-35号土坑全景（南より）
- PL.118 18区トレンチ全景（北東より）  
18-24号土坑全景（南東より）  
18-25号土坑全景（南東より）  
18-26号土坑全景（南東より）  
18-27号土坑全景（北西より）  
18-28・29号土坑セクション（東より）  
19区全景（東より）  
19-12号土坑セクション（南より）
- PL.119 19-13号土坑全景（南東より）  
19-14号土坑全景（南より）  
95-83号土坑セクション（南西より）  
95-83号土坑全景（南西より）  
95-84号土坑セクション（南より）  
95-84号土坑全景（南より）
- PL.120 95-85号土坑セクション（南東より）  
95-85号土坑全景（南東より）  
95-86号土坑セクション（東より）  
95-86号土坑全景（南東より）  
95-87号土坑セクション（南より）
- 95-87号土坑全景（南東より）
- PL.121 95-88号土坑全景（南東より）  
95-89号土坑セクション（南より）  
95-89号土坑全景（南東より）  
95-90号土坑セクション（南東より）  
95-90号土坑全景（南東より）
- PL.122 95-91号土坑セクション（南東より）  
95-91号土坑全景（南東より）  
95-92号土坑全景（南より）  
95-158号土坑セクション（西より）  
95-158号土坑全景（東より）  
95-177号土坑全景（北より）
- PL.123 95-181号土坑全景（南より）  
95-187号土坑全景（西より）  
95-188号土坑全景（南より）  
95-242号土坑セクション（東より）  
95-242号土坑全景（南より）  
95-271号土坑全景（南より）  
95-272号土坑全景（南東より）
- PL.124 95-276号土坑全景（南東より）  
95-2号溝セクション（東より）  
95-2号溝全景（西より）  
5-1号石列全景（南より）  
5-1号石列（石除去後）全景（南より）
- PL.125 調査前風景（南より）  
第1トレンチ全景（東より）  
第1トレンチセクション（東より）  
第2トレンチ全景（東より）  
第3トレンチ全景（西より）  
第4トレンチ全景（西より）  
第5トレンチ全景（西より）  
第6トレンチ全景（西より）
- PL.126 5-8号住居跡出土遺物
- PL.127 5-8・146号住居跡出土遺物
- PL.128 5-146・147・148号住居跡出土遺物
- PL.129 5-149号住居跡出土遺物
- PL.130 5-149・150号住居跡出土遺物
- PL.131 5-150号住居跡出土遺物
- PL.132 5-150号住居跡出土遺物
- PL.133 5-150号住居跡出土遺物
- PL.134 5-150号住居跡出土遺物
- PL.135 5-150号住居跡出土遺物
- PL.136 5-150号住居跡出土遺物
- PL.137 5-150・151・152号住居跡出土遺物
- PL.138 5-152号住居跡出土遺物
- PL.139 5-152・153号住居跡出土遺物
- PL.140 5-153号住居跡出土遺物
- PL.141 5-153号住居跡出土遺物
- PL.142 5-153・154号住居跡出土遺物
- PL.143 5-154・155号住居跡出土遺物
- PL.144 5-155号住居跡出土遺物
- PL.145 5-155号住居跡出土遺物
- PL.146 5-155号住居跡出土遺物
- PL.147 5-155号住居跡出土遺物
- PL.148 5-155・156号住居跡出土遺物
- PL.149 5-156号住居跡出土遺物
- PL.150 5-156号住居跡出土遺物
- PL.151 95-5号住居跡出土遺物
- PL.152 95-5号住居跡出土遺物
- PL.153 95-5・12号住居跡出土遺物
- PL.154 95-12号住居跡出土遺物
- PL.155 95-12・13号住居跡出土遺物
- PL.156 95-13号住居跡出土遺物
- PL.157 95-13号住居跡出土遺物
- PL.158 95-13号住居跡出土遺物
- PL.159 95-14号住居跡出土遺物
- PL.160 95-14号住居跡出土遺物
- PL.161 95-14・15号住居跡出土遺物
- PL.162 95-15号住居跡出土遺物
- PL.163 95-15号住居跡出土遺物
- PL.164 95-15号住居跡出土遺物



PL.165 95-15・16・17号住居跡出土遺物  
PL.166 95-17・18号住居跡出土遺物  
PL.167 95-18号住居跡出土遺物  
PL.168 95-18号住居跡出土遺物  
PL.169 95-18号住居跡出土遺物  
PL.170 95-18・19号住居跡出土遺物  
PL.171 95-19号住居跡出土遺物  
PL.172 95-19・20号住居跡出土遺物  
PL.173 95-20号住居跡出土遺物  
PL.174 95-20号住居跡出土遺物  
PL.175 95-20号住居跡出土遺物  
PL.176 95-20号住居跡出土遺物  
PL.177 95-20号住居跡出土遺物  
PL.178 95-20号住居跡出土遺物  
PL.179 95-20号住居跡出土遺物  
PL.180 95-20・21・22号住居跡出土遺物  
PL.181 95-23号住居跡出土遺物  
PL.182 95-23・24号住居跡出土遺物  
PL.183 95-24・25号住居跡出土遺物  
PL.184 95-25・26号住居跡出土遺物  
PL.185 95-26・27・28号住居跡出土遺物  
PL.186 95-29号住居跡出土遺物  
PL.187 95-29・30号住居跡出土遺物  
PL.188 95-30号住居跡出土遺物  
PL.189 95-30号住居跡出土遺物  
PL.190 95-30号住居跡出土遺物  
PL.191 95-30・31・33・34号住居跡出土遺物  
PL.192 95-35・36・37・38号住居跡出土遺物  
PL.193 95-38号住居跡出土遺物  
PL.194 95-38・39・40・41号住居跡出土遺物  
PL.195 95-41・42号住居跡出土遺物  
PL.196 95-43・44号住居跡出土遺物  
PL.197 95-44号住居跡出土遺物  
PL.198 95-44・45・46号住居跡出土遺物  
PL.199 95-46・47号住居跡出土遺物  
PL.200 95-47号住居跡出土遺物  
PL.201 95-47号住居跡出土遺物  
PL.202 95-47号住居跡出土遺物  
PL.203 95-47・48号住居跡出土遺物  
PL.204 95-48号住居跡出土遺物  
PL.205 95-48・49・50号住居跡出土遺物  
PL.206 95-50・51・52・53号住居跡出土遺物  
PL.207 95-53号住居跡出土遺物  
PL.208 95-54号住居跡出土遺物  
PL.209 95-54号住居跡出土遺物  
PL.210 95-54・55・56号住居跡出土遺物  
PL.211 95-56号住居跡出土遺物  
PL.212 95-56号住居跡出土遺物  
PL.213 95-56号住居跡出土遺物  
PL.214 95-56号住居跡出土遺物  
PL.215 95-56号住居跡出土遺物  
PL.216 95-56・57号住居跡出土遺物  
PL.217 95-57号住居跡出土遺物  
PL.218 95-57号住居跡出土遺物  
PL.219 95-58・59・60号住居跡出土遺物  
PL.220 5-2・3・4号掘立柱建物跡出土遺物  
PL.221 5-4・5、95-3号掘立柱建物跡出土遺物  
PL.222 95-3号掘立柱建物跡出土遺物  
PL.223 95-3号掘立柱建物跡出土遺物  
PL.224 95-3・4号掘立柱建物跡、5-15、95-1号埋裏出土遺物  
PL.225 95-3号埋裏、95-1・7・10・11・13号焼土出土遺物  
PL.226 95-14・15・16号焼土、95-17号炉、95-1・2号配石出土遺物  
PL.227 5-99～1152号土坑出土遺物  
PL.228 5-1154～1209号土坑出土遺物  
PL.229 5-1209～1229号土坑出土遺物  
PL.230 5-1230～1239号土坑出土遺物  
PL.231 5-1240～1256号土坑出土遺物  
PL.232 5-1257～1271、95-28～112号土坑出土遺物  
PL.233 95-113～129号土坑出土遺物  
PL.234 95-130～139号土坑出土遺物  
PL.235 95-142～167号土坑出土遺物  
PL.236 95-168・170号土坑出土遺物  
PL.237 95-171～183号土坑出土遺物  
PL.238 95-184～201号土坑出土遺物  
PL.239 95-202～212号土坑出土遺物  
PL.240 95-214～235号土坑出土遺物  
PL.241 95-236～251号土坑出土遺物  
PL.242 95-252～280号土坑出土遺物  
PL.243 95-282～295号土坑出土遺物  
PL.244 95-296～329号土坑、5・95区ピット出土遺物  
PL.245 5区遺構外出土土器  
PL.246 5区遺構外出土土器  
PL.247 5区遺構外出土土器  
PL.248 5区遺構外出土土器、19区遺構外出土土器  
PL.249 95区遺構外出土土器  
PL.250 95区遺構外出土土器  
PL.251 95区遺構外出土土器  
PL.252 95区遺構外出土土器  
PL.253 95区遺構外出土土器  
PL.254 95区遺構外出土土器  
PL.255 95区遺構外出土土器  
PL.256 95区遺構外出土土器  
PL.257 95区遺構外出土土器  
PL.258 95区遺構外出土土器  
PL.259 5区遺構外出土石器  
PL.260 5区遺構外出土石器  
PL.261 5区遺構外出土石器  
PL.262 95区遺構外出土石器  
PL.263 95区遺構外出土石器  
PL.264 95区遺構外出土石器  
PL.265 95区遺構外出土石器  
PL.266 95区遺構外出土石器  
PL.267 95区遺構外出土石器  
PL.268 5-6号焼土、5・95区陶磁器・石器類、5・95区金属製品



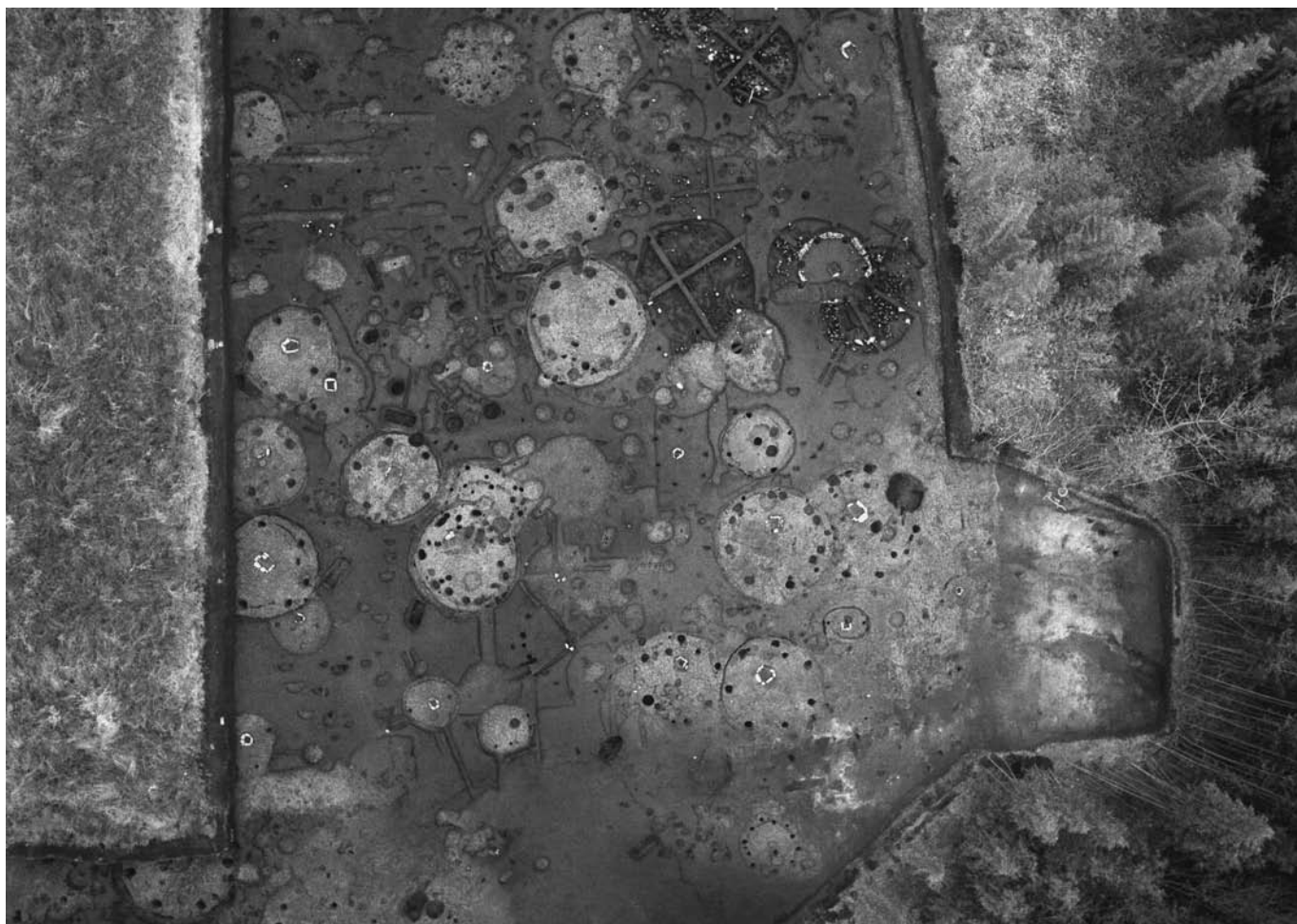
5・95区全景(南側上空より)



5・95区全景(西側上空より)



5・95区調査区全景(上空より)



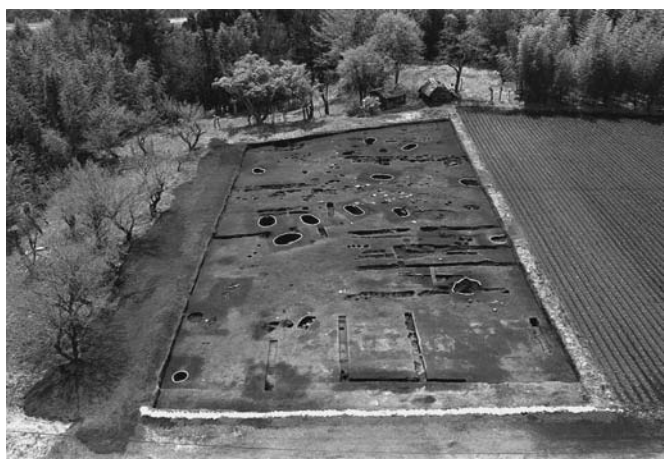
5・95区調査区全景(上空より)



5・95区調査前風景(北より)



5・95区調査前風景(北より)



5・95区西側部分1面全景(北より)



5・95区西側部分2面全景(北より)



5・95区西側全景(東より)



95区全景(南より)



5・95区全景(北より)



95区南および谷地部(西より)



5-8号住居跡遺物出土状態(東より)



5-8号住居跡掘方全景(南東より)



5-8号住居跡埋甕検出状況(南より)



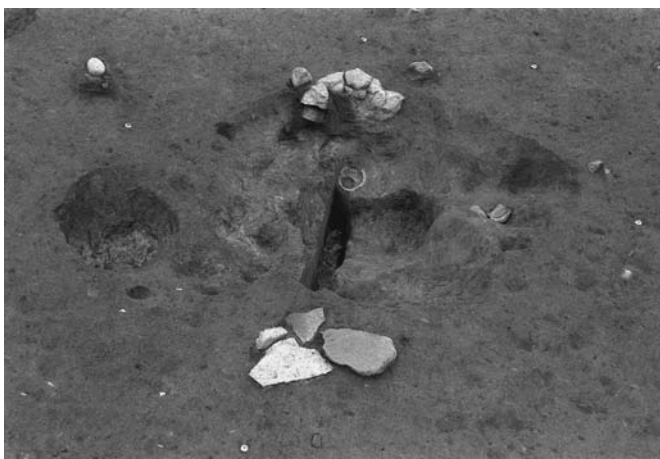
5-8号住居跡埋甕セクション(南より)



5-146号住居跡全景(南より)



5-146号住居跡炉セクション(東より)



5-146号住居跡炉全景(南より)



5-146号住居跡埋甕検出状況(南より)



5-147号住居跡遺物出土状態(南より)



5-147号住居跡全景(南より)



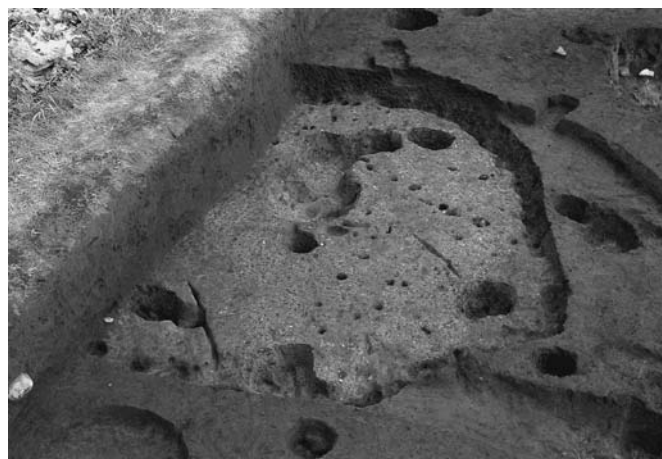
5-147号住居跡遺物出土状態(南より)



5-147号住居跡炉全景(東より)



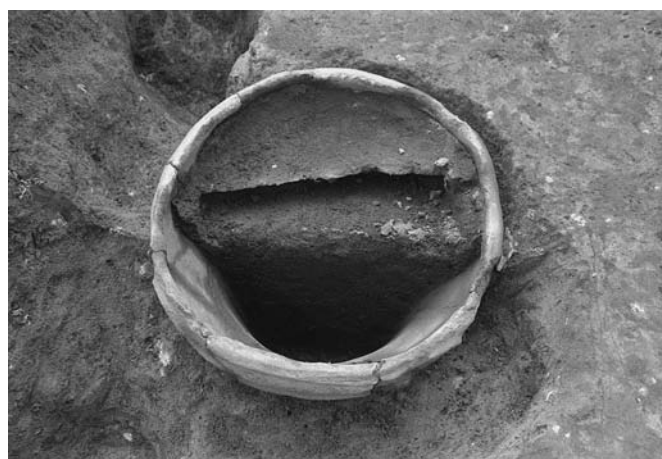
5-148号住居跡遺物出土状態(南より)



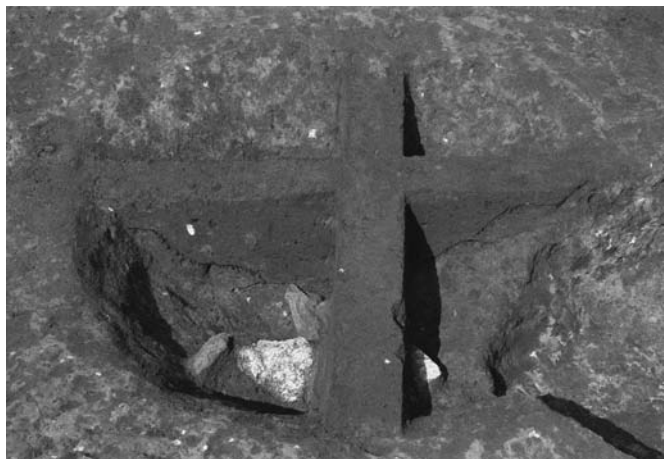
5-148号住居跡掘方全景(南より)



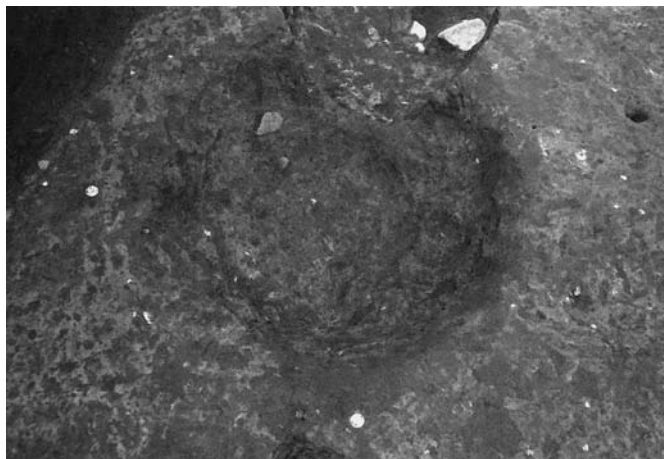
5-148号住居跡埋甕検出状況(南より)



5-148号住居跡埋甕セクション(東より)



5-148号住居跡炉セクション(南より)



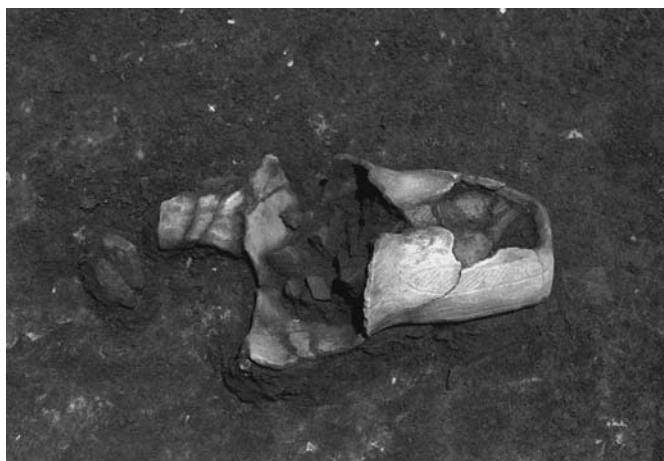
5-148号住居跡炉全景(南より)



5-149号住居跡遺物出土状態(南東より)



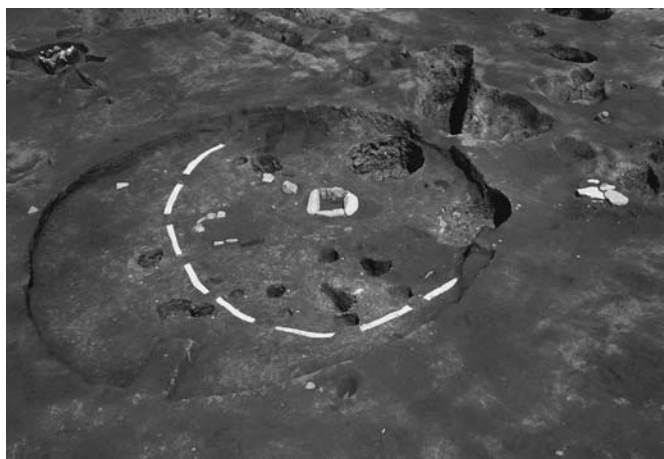
5-149号住居跡遺物出土状態(南東より)



5-149号住居跡遺物出土状態(南より)



5-149号住居跡遺物出土状態(南東より)



5-149号住居跡全景(南東より)



5-149号住居跡炉全景(南東より)



5-150号住居跡遺物出土状態(東より)



5-150号住居跡遺物出土状態(東より)



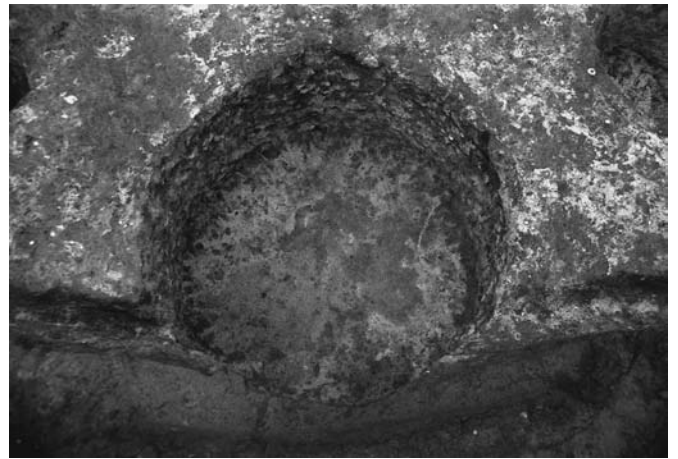
5-150号住居跡遺物出土状態(東より)



5-150号住居跡全景(南東より)



5-150号住居跡内土坑セクション(北東より)



5-150号住居跡内土坑全景(北より)



5-150号住居跡炉および土坑全景(南より)



5-150号住居跡炉全景(西より)





5-151号住居跡全景(南東より)



5-151号住居跡炉全景(南より)



5-151号住居跡炉全景(南より)



5-151号住居跡掘方全景(南より)



5-152号住居跡遺物出土状態(南より)



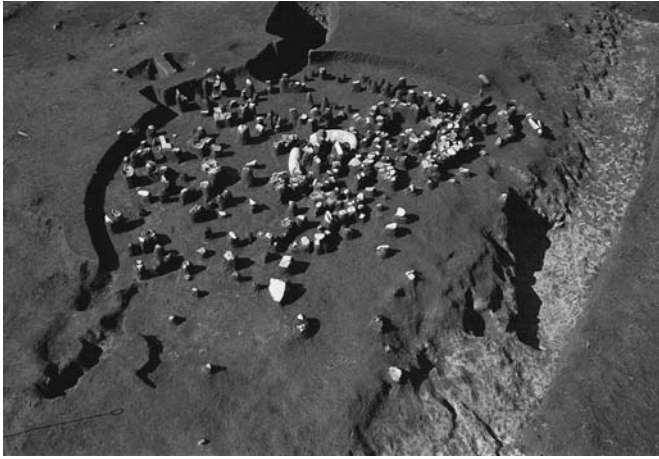
5-152号住居跡遺物出土状態(南より)



5-152号住居跡全景(南より)



5-152号住居跡炉全景(南より)



5-153号住居跡遺物出土状態(南より)



5-153号住居跡全景(南より)



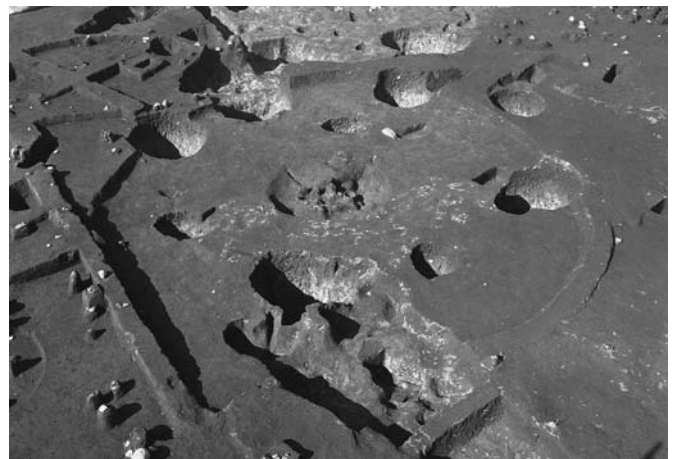
5-153号住居跡炉遺物出土状態(南東より)



5-153号住居跡炉体土器セクション(東より)



5-154号住居跡遺物出土状態(南より)



5-154号住居跡全景(南より)



5-154号住居跡炉全景(南より)



5-154号住居跡炉体土器(東より)



5-155号住居跡遺物出土状態(南より)



5-155号住居跡遺物出土状態(南より)



5-155号住居跡全景(南より)



5-155号住居跡炉全景(南より)



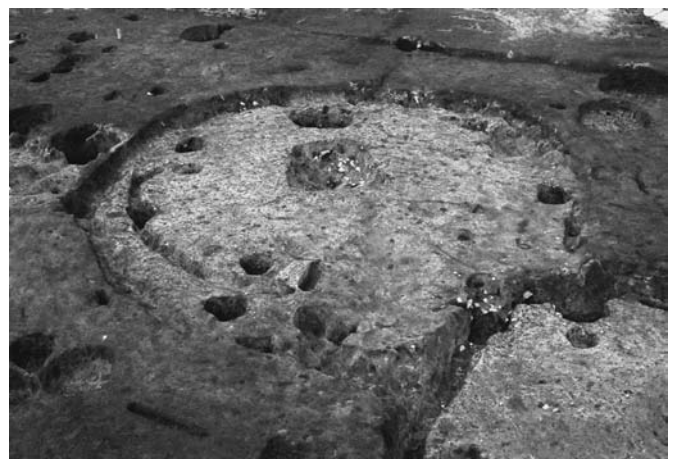
5-155号住居跡炉石棒出土状態(南より)



5-155号住居跡炉体土器(南より)



5-155号住居跡埋甕セクション(南より)



5-155号住居跡掘方全景(南より)



5-156号住居跡遺物出土状態(南より)



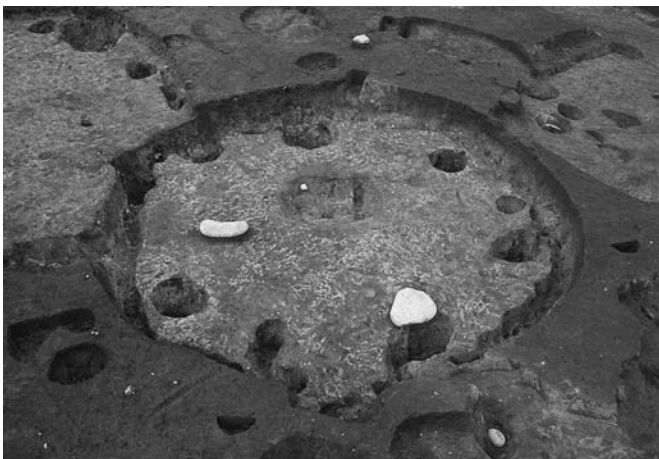
5-156号住居跡遺物出土状態(南より)



5-156号住居跡入り口部立石(南より)



5-156号住居跡全景立石在り(南より)



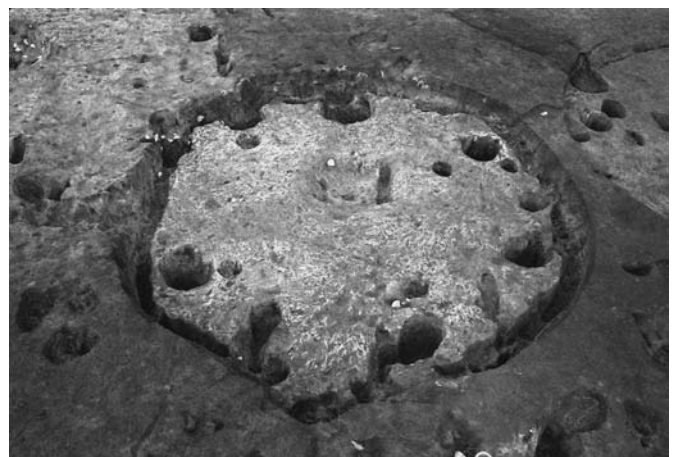
5-156号住居跡全景(南より)



5-156号住居跡炉セクション(南より)



5-156号住居跡炉遺物出土状態(南より)



5-156号住居跡掘方全景(南より)



95-5号住居跡遺物出土状態(南より)



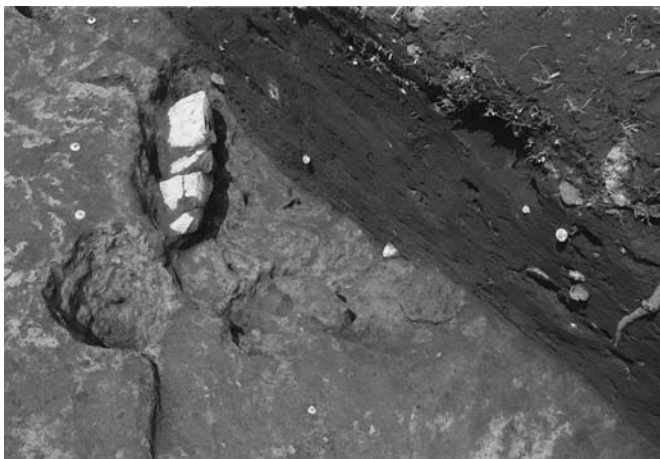
95-5号住居跡遺物出土状態(南より)



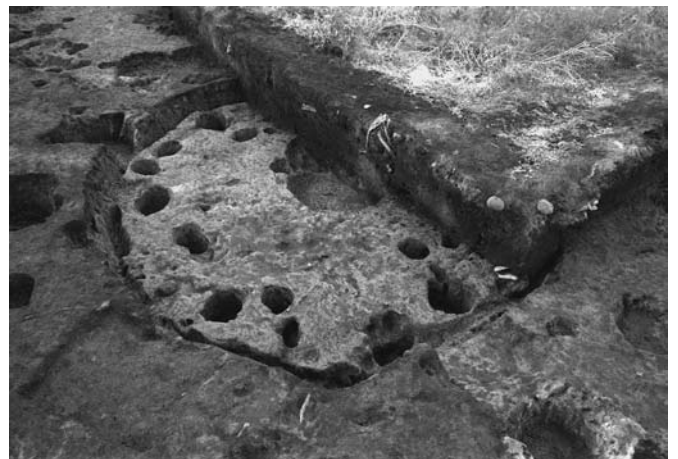
95-5号住居跡全景(南東より)



95-5号住居跡2号炉セクション(南より)



95-5号住居跡炉全景(南東より)



95-5号住居跡掘方全景(南東より)



95-12号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-12号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-12号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-12号住居跡埋葬セクション(南より)



95-12号住居跡黒曜石出土状態(南東より)



95-12号住居跡全景(南東より)



95-12号住居跡炉全景(南東より)



95-12号住居跡掘方全景(南東より)



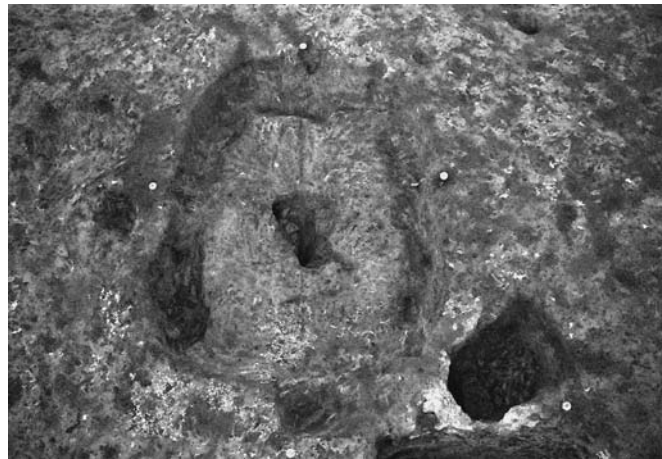
95-13号住居跡遺物出土状態(南より)



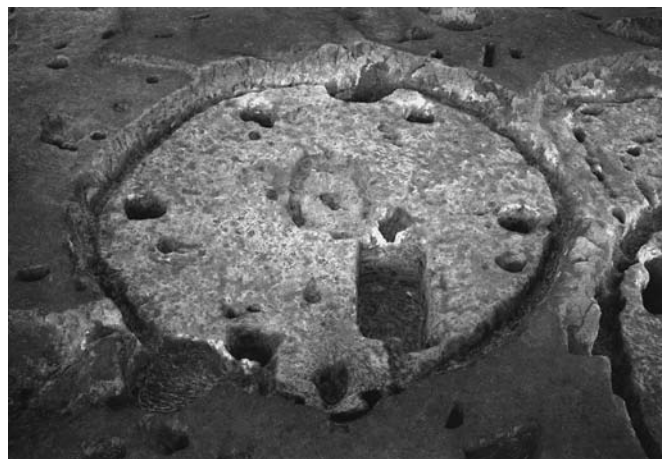
95-13号住居跡全景(南より)



95-13号住居跡炉全景(東より)



95-13号住居跡炉掘方(南より)



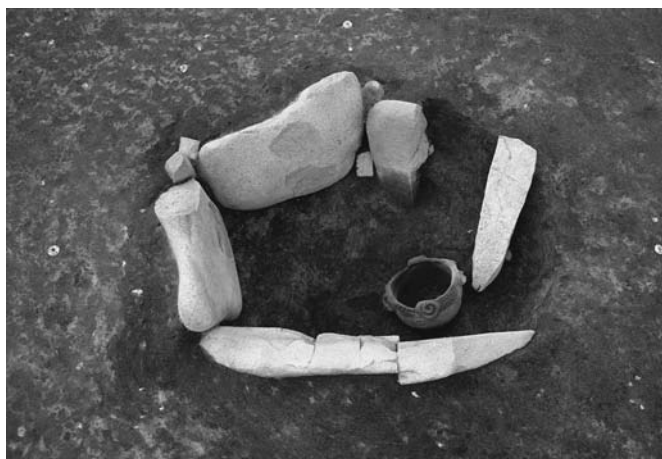
95-13号住居跡掘方全景(南より)



95-14号住居跡遺物出土状態(南より)



95-14号住居跡遺物出土状態(南より)



95-14号住居跡炉全景(南より)



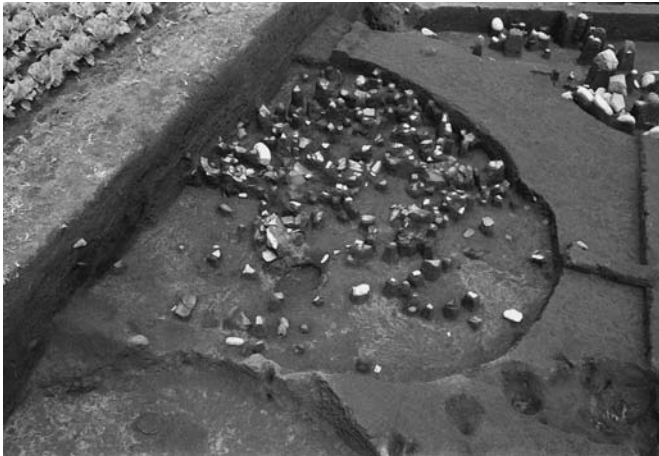
95-14号住居跡炉体土器(南より)



95-14号住居跡全景(南より)



95-14号住居跡掘方全景(南より)



95-15号住居跡遺物出土状態(南より)



95-15号住居跡全景(南より)



95-15号住居跡炉遺物出土状態(南より)



95-15号住居跡炉全景(南より)



95-15号住居跡埋甕(南西より)

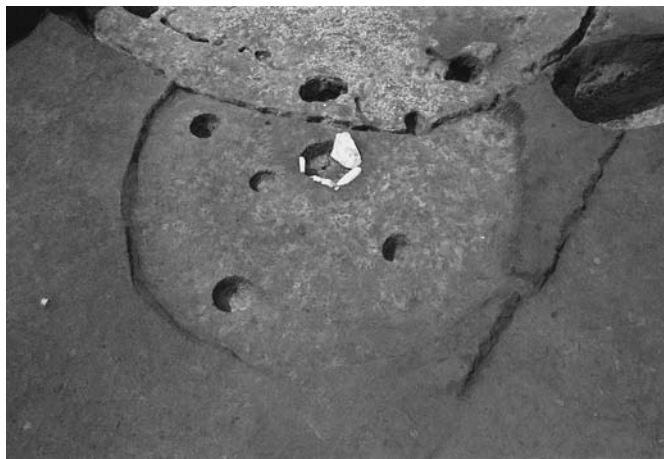


95-15号住居跡掘方全景(南より)





95-16号住居跡遺物出土状態(南より)



95-16号住居跡全景(南より)



95-16号住居跡炉遺物出土状態(南より)



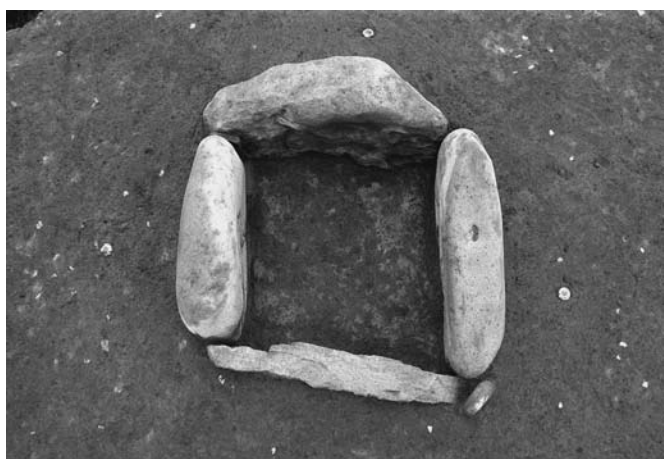
95-16号住居跡掘方全景(南より)



95-17号住居跡遺物出土状態(南より)



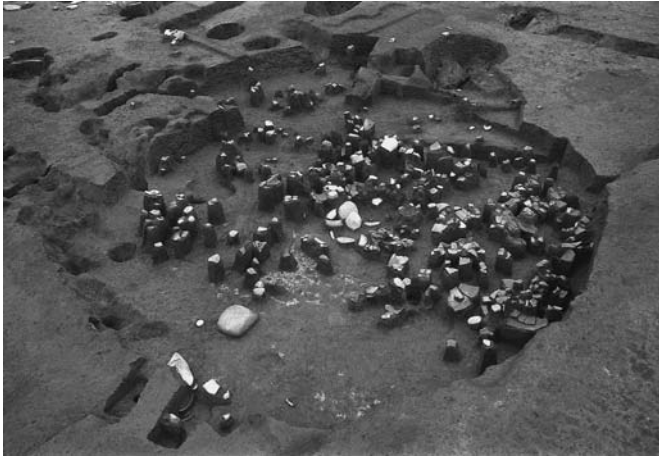
95-17号住居跡全景(南より)



95-17号住居跡炉全景(南より)



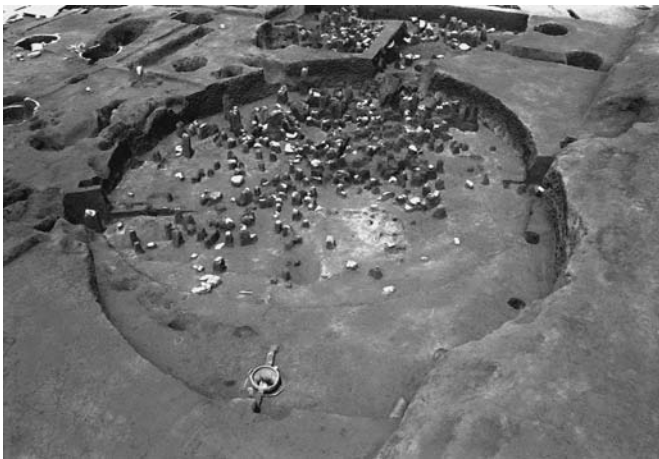
95-17号住居跡炉掘方全景(南より)



95-18号住居跡遺物出土状態(南より)



95-18号住居跡遺物出土状態(南より)



95-18号住居跡遺物出土状態(南より)



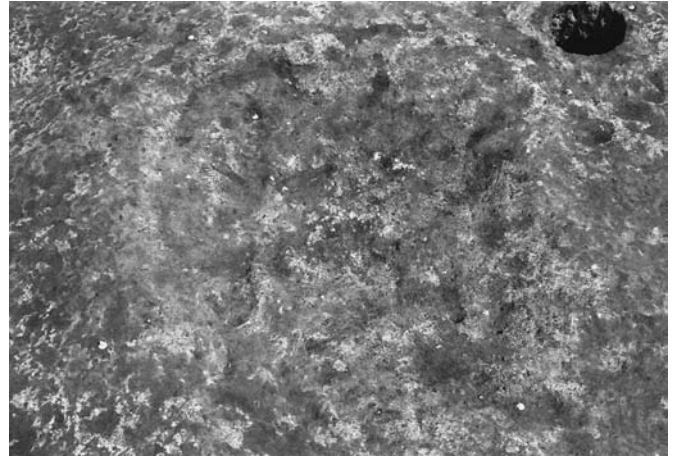
95-18号住居跡出入り口部(南西より)



95-18号住居跡全景(南より)



95-18号住居跡炉遺物出土状態(南西より)



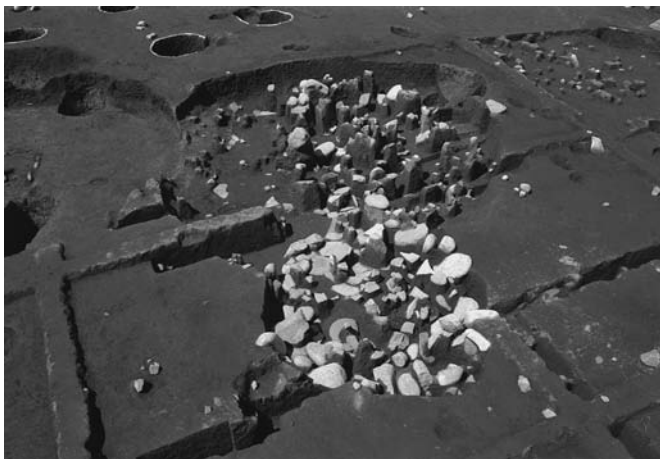
95-18号住居跡炉全景(南より)



95-18号住居跡ピット1セクション(南より)



95-18号住居跡掘方全景(南西より)



95-19号住居跡遺物出土状態(南より)



95-19号住居跡炉遺物出土状態(南より)



95-19号住居跡炉遺物出土状態(南より)



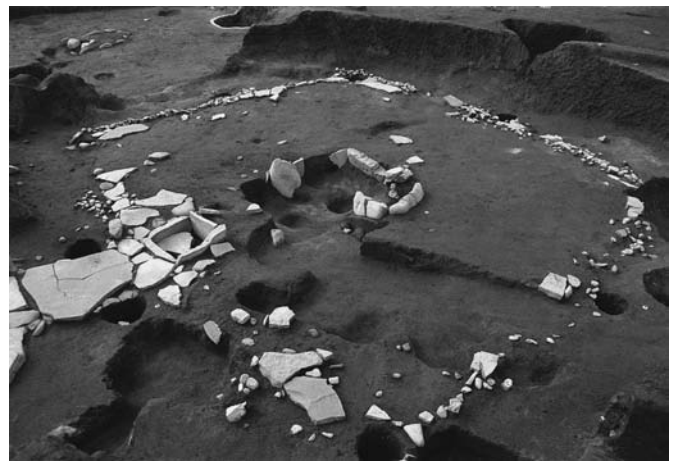
95-19号住居跡炉、石組み遺構敷石除去後(南より)



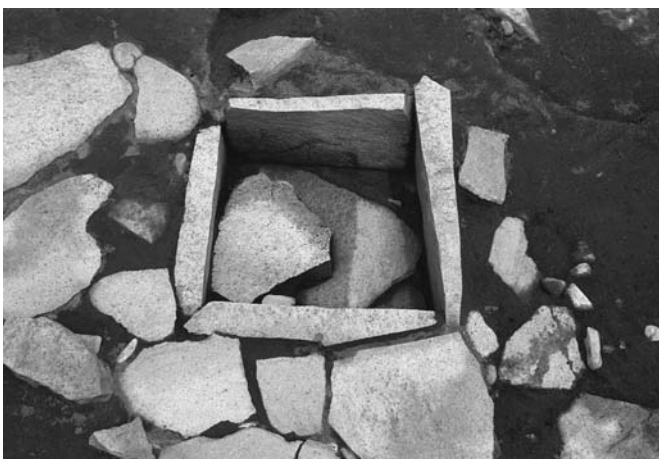
95-19号住居跡全景(南より)



95-19号住居跡全景(南より)



95-19号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-19号住居跡石組み遺構全景(南より)



95-19号住居跡周礫状態近景(南より)



95-20号住居跡遺物出土状態(南より)



95-20号住居跡遺物出土状態(南より)



95-20号住居跡全景(南より)



95-20号住居跡炉全景(南より)



95-20号住居跡埋葬上部セクション(南より)



95-20号住居跡埋葬検出状況(南より)



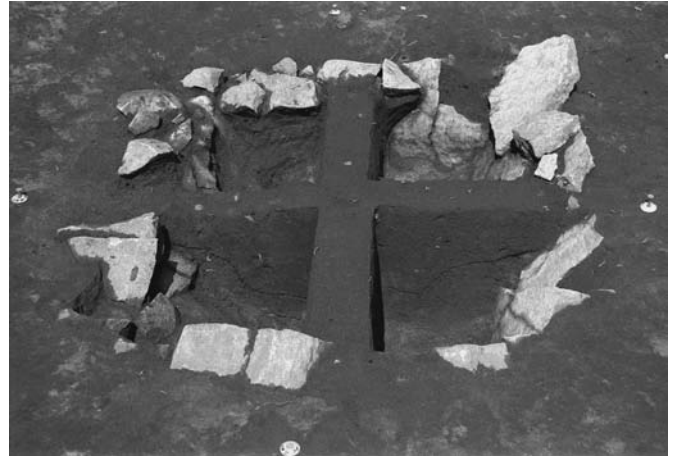
95-20号住居跡埋葬全景(東より)



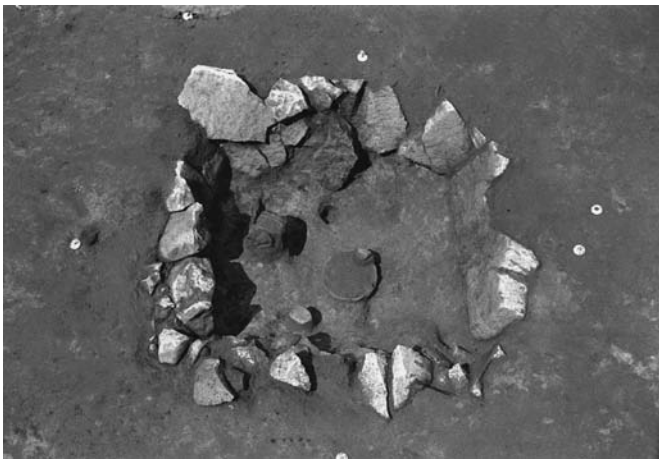
95-20号住居跡埋葬下土器・石棒出土状態(東より)



95-21号住居跡全景(北より)



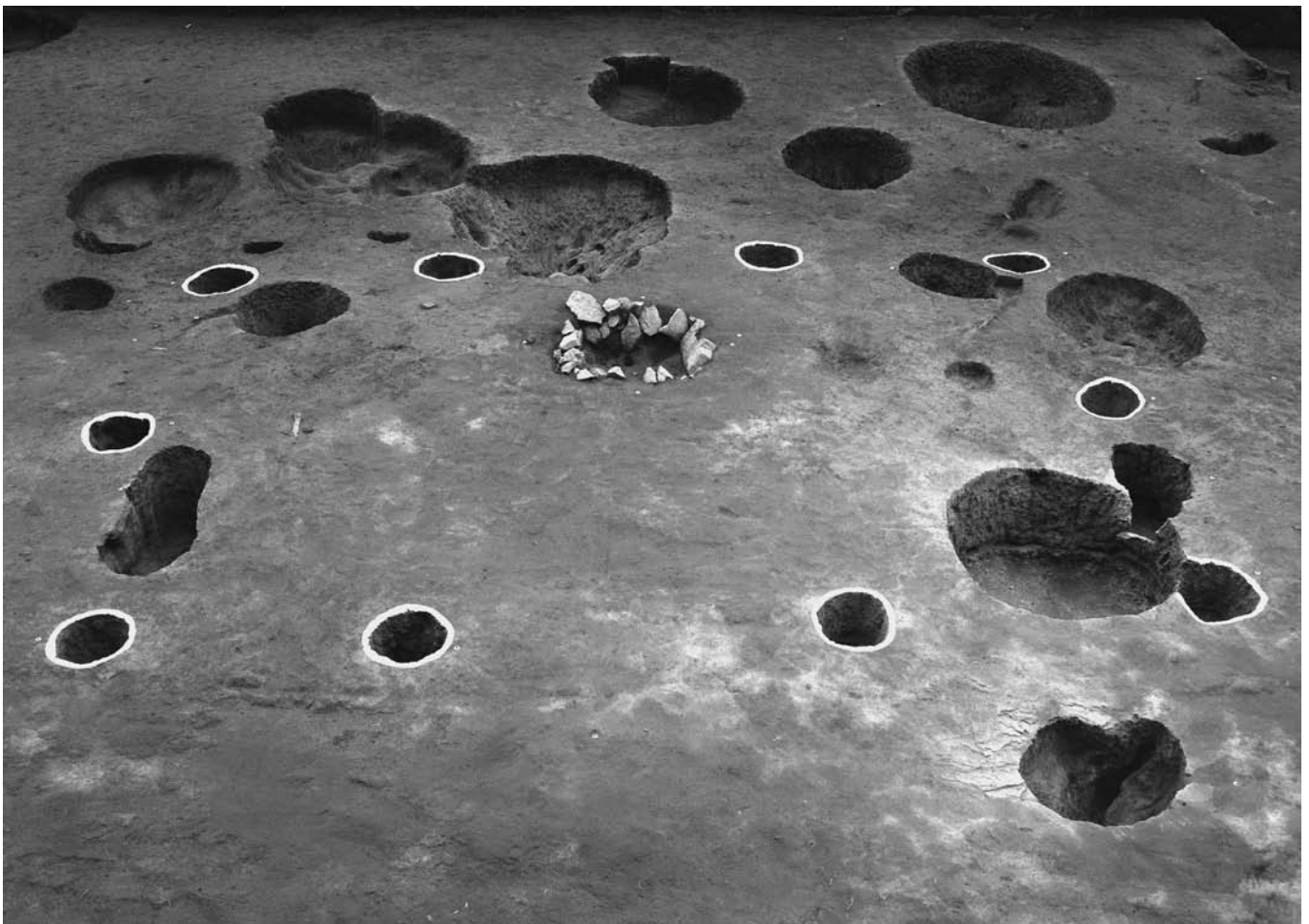
95-22号住居跡炉セクション(東より)



95-22号住居跡炉全景(南より)



95-22号住居跡炉体土器出土状態(南より)



95-22号住居跡全景(南より)



95-23号住居跡遺物出土状態(南より)



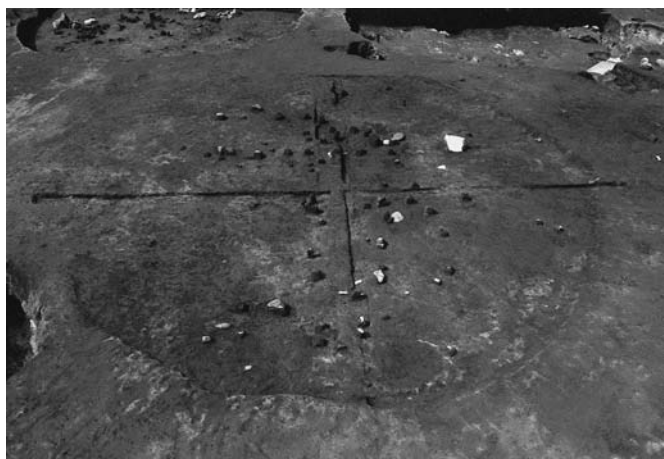
95-23号住居跡炉体土器出土状態(南より)



95-23号住居跡遺物出土状態(南より)



95-23号住居跡全景(南より)



95-24号住居跡遺物出土状態(南より)



95-24号住居跡全景(南より)



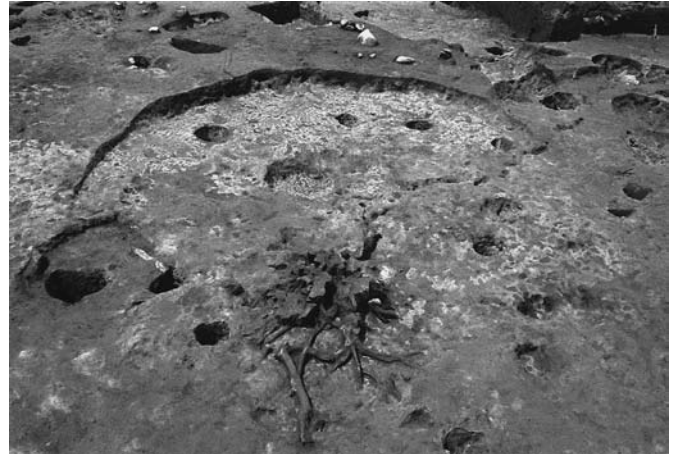
95-24号住居跡炉セクション(南より)



95-24号住居跡炉全景(南より)



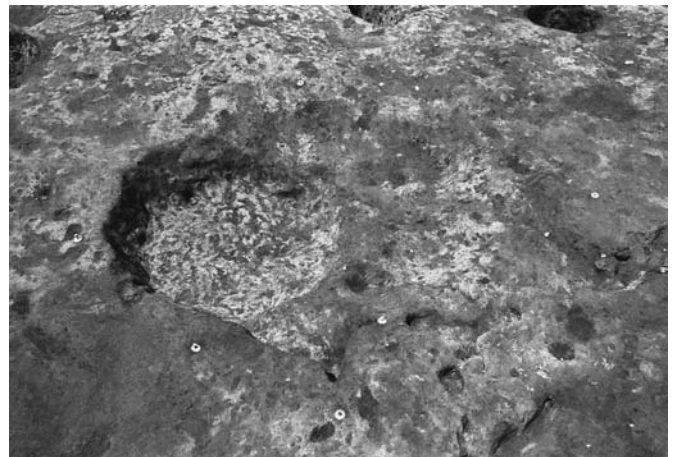
95-25号住居跡遺物出土状態(東より)



95-25号住居跡全景(東より)



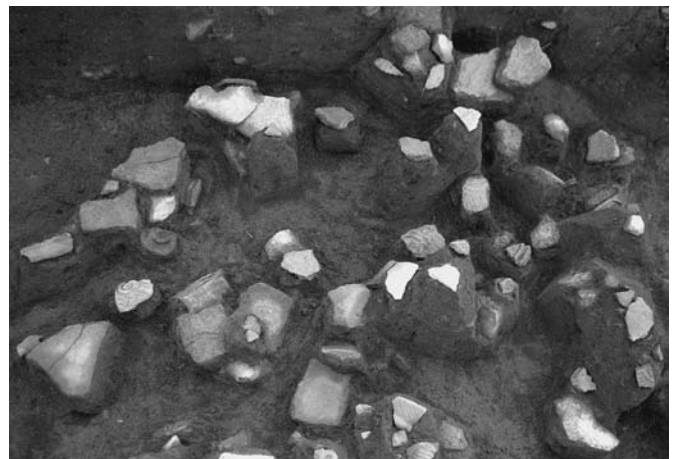
95-25号住居跡炉遺物出土状態(南より)



95-25号住居跡炉全景(東より)



95-26号住居跡遺物出土状態(東より)



95-26号住居跡遺物出土状態(東より)

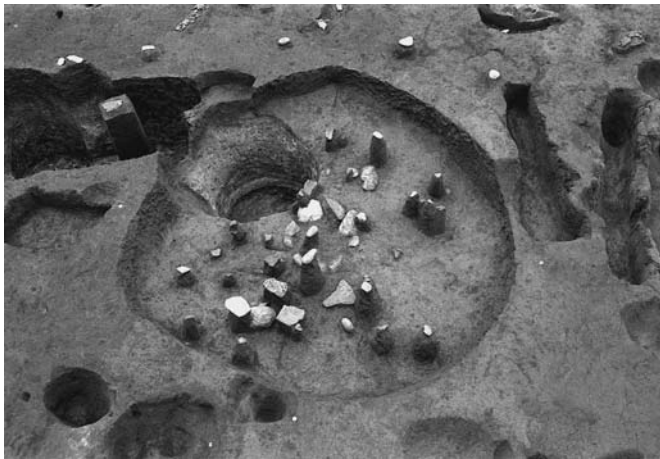


95-26号住居跡全景(南より)



95-26号住居跡炉遺物出土状態(南より)





95-27号住居跡遺物出土状態(南より)



95-27号住居跡全景(南より)



95-27号住居跡炉全景(南より)



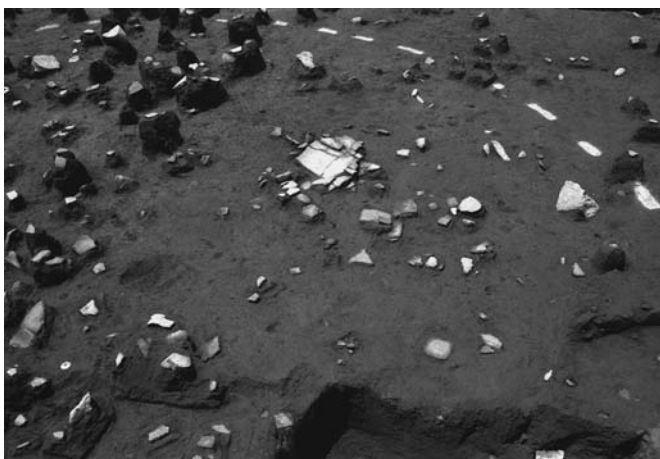
95-27号住居跡床下土坑セクション(東より)



95-27号住居跡掘方全景(南より)



95-28号住居跡全景(東より)



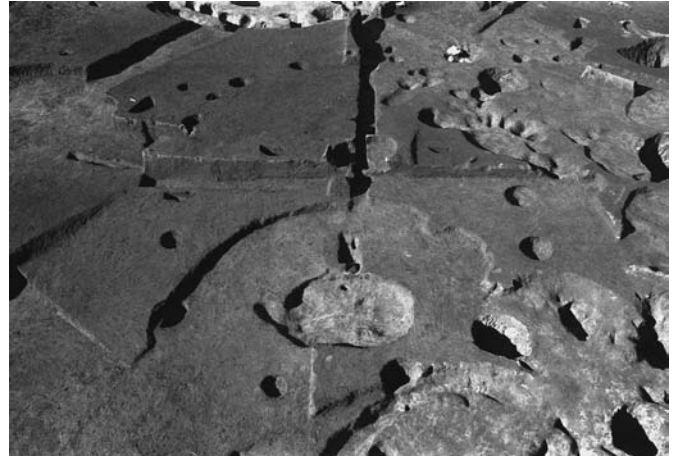
95-29号住居跡遺物出土状態(東より)



95-29号住居跡全景(南より)



95-29号住居跡炉全景(東より)



95-29号住居跡掘方全景(南より)



95-19号住居跡掘方・30号住居跡遺物出土状態(南より)



95-30号住居跡遺物出土状態(南より)



95-30号住居跡全景(南より)



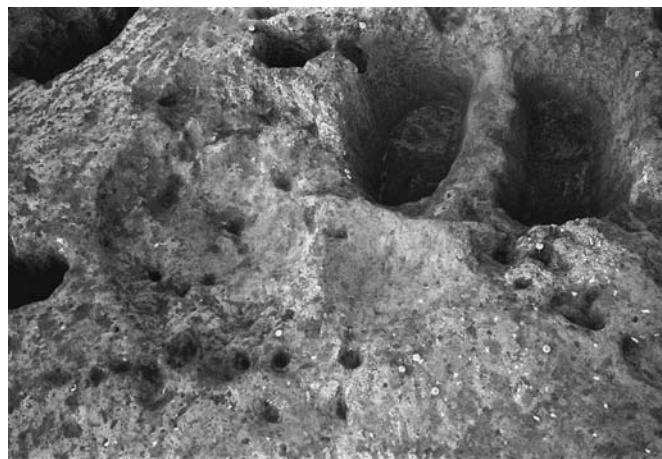
95-30号住居跡炉遺物出土状態(南より)



95-30号住居跡2号炉セクション(東より)



95-30号住居跡炉全景(南より)



95-30号住居跡2号炉掘方(南より)



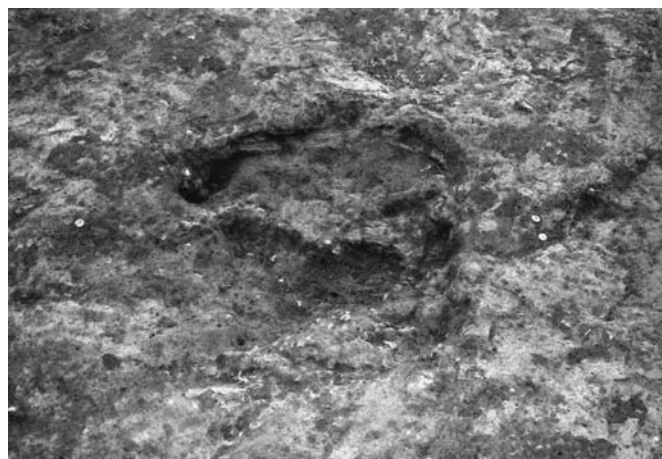
95-31号住居跡全景(西より)



95-31号住居跡炉全景(南より)



95-32号住居跡全景(南より)



95-32号住居跡炉全景(南より)



95-33号住居跡全景(東より)



95-33号住居跡炉検出状態(東より)



95-33号住居跡炉内出土土器セクション(東より)



95-34号住居跡遺物出土状態(南より)



95-34号住居跡全景(南より)



95-34号住居跡炉全景(南より)



95-35号住居跡遺物出土状態(南より)



95-35号住居跡全景(南より)



95-35号住居跡炉セクション(南より)



95-35号住居跡炉全景(南より)



95-36号住居跡全景(東より)



95-36号住居跡炉全景(南より)



95-37号住居跡遺物出土状態(北より)



95-37号住居跡全景(南より)



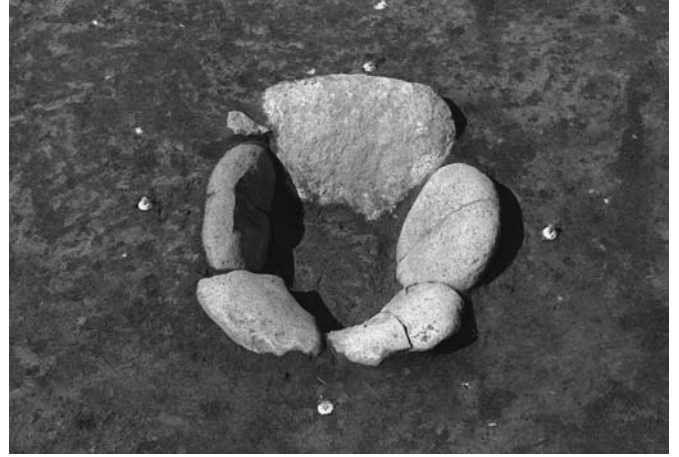
95-38号住居跡遺物出土状態(南より)



95-38号住居跡全景(南より)



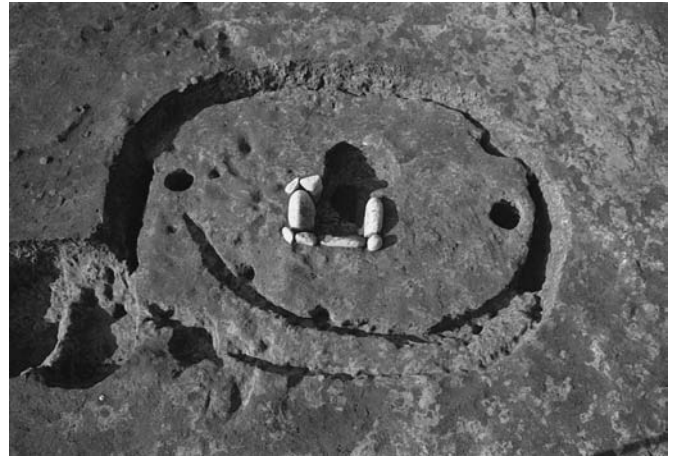
95-38号住居跡炉セクション(東より)



95-38号住居跡炉全景(南より)



95-39号住居跡遺物出土状態(南より)



95-39号住居跡全景(南より)



95-39号住居跡炉全景(南より)



95-39号住居跡掘方全景(南より)



95-40号住居跡遺物出土状態(南より)



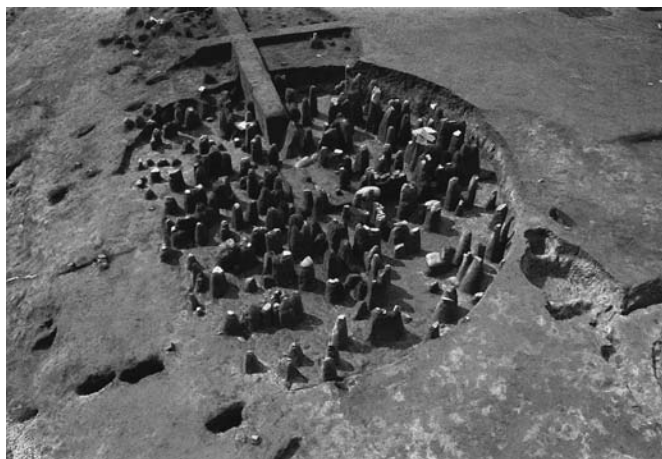
95-40号住居跡全景(南より)



95-40号住居跡炉遺物出土状態(南より)



95-40号住居跡掘方全景(南東より)



95-41号住居跡遺物出土状態(南より)



95-41号住居跡遺物出土状態(南より)



95-41号住居跡遺物出土状態(南より)



95-41号住居跡全景(南より)



95-41号住居跡炉遺物出土状態(南東より)



95-41号住居跡炉全景(南東より)



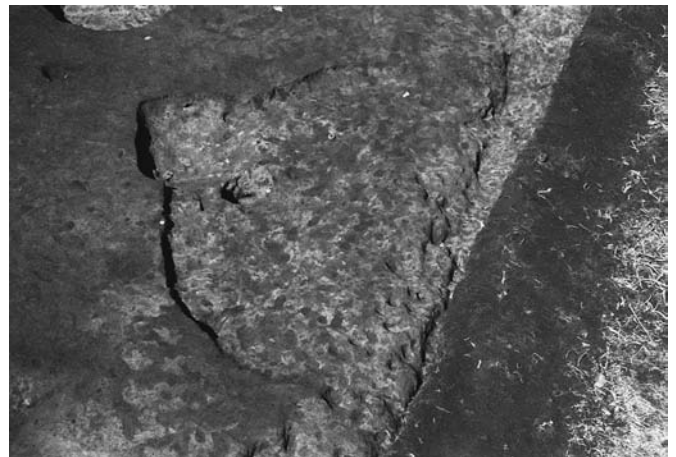
95-42号住居跡遺物出土状態(南より)



95-42号住居跡全景(南より)



95-43号住居跡遺物出土状態(南より)



95-43号住居跡全景(南より)



95-44号住居跡遺物出土状態(東より)



95-44号住居跡全景(南より)



95-44号住居跡炉全景(南西より)



95-44号住居跡炉体土器(南より)





95-45号住居跡炉セクション(東より)



95-45号住居跡全景(南より)



95-46号住居跡遺物出土状態(南より)



95-46号住居跡遺物出土状態(南より)



95-46号住居跡遺物出土状態(南より)



95-46号住居跡全景(南より)



95-46号住居跡炉全景(東より)



95-46号住居跡炉全景(南東より)



95-47号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-47号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-47号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-47号住居跡集石出土状態(南より)



95-47号住居跡全景(南より)



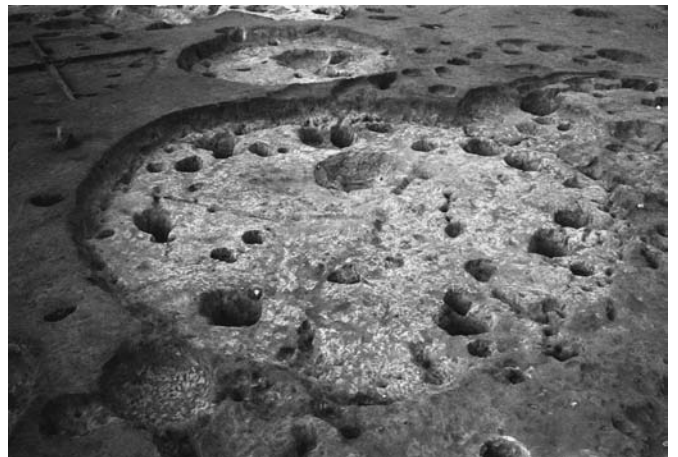
95-47号住居跡遺物出土状態(東より)



95-47号住居跡炉全景(南より)



95-47号住居跡炉体土器(南より)



95-47号住居跡掘方全景(南より)



95-48号住居跡遺物出土状態(南より)



95-48号住居跡遺物出土状態(南より)



95-48号住居跡遺物出土状態(南より)



95-48号住居跡遺物出土状態(南より)



95-48号住居跡全景(南より)



95-48号住居跡周礫状況(西より)



95-48号住居跡周礫状況(南より)



95-48号住居跡炉全景(南より)



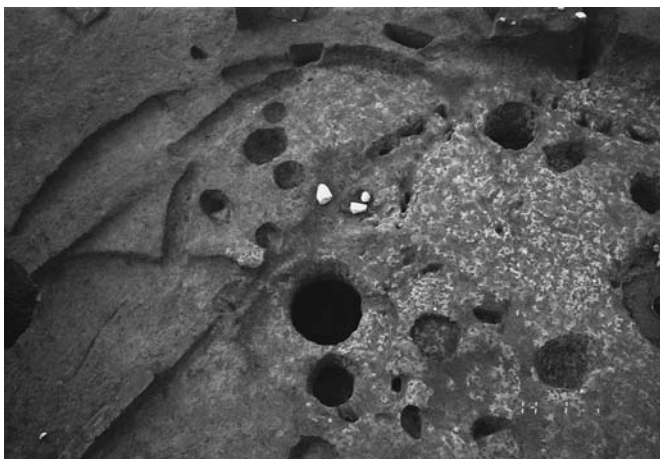
95-48号住居跡周礫



95-49号住居跡全景(南より)



95-49号住居跡炉全景(南より)



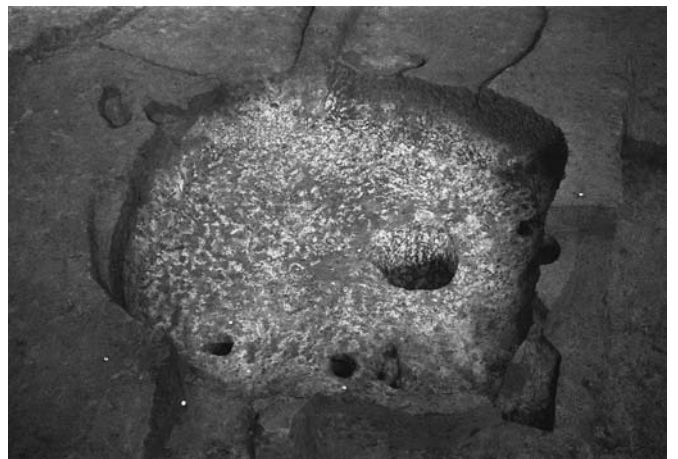
95-50号住居跡全景(南より)



95-50号住居跡炉全景(南より)



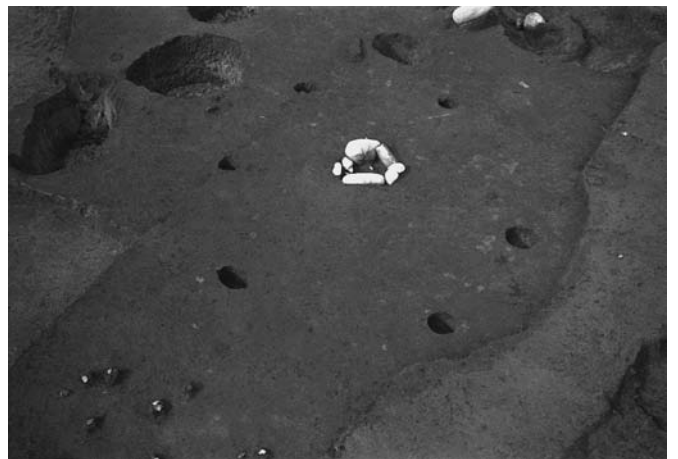
95-51号住居跡遺物出土状態(南より)



95-51号住居跡全景(南より)



95-52号住居跡遺物出土状態(南より)



95-52号住居跡全景(南より)



95-53号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-53号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-53号住居跡炭化クルミ出土状態(南東より)



95-53号住居跡全景(南より)



95-53号住居跡炉全景(東より)



95-53号住居跡掘方全景(南西より)



95-54号住居跡遺物出土状態(南より)



95-54号住居跡遺物出土状態(南より)



95-54号住居跡出土軽石(南より)



95-54号住居跡遺物出土状態(南より)



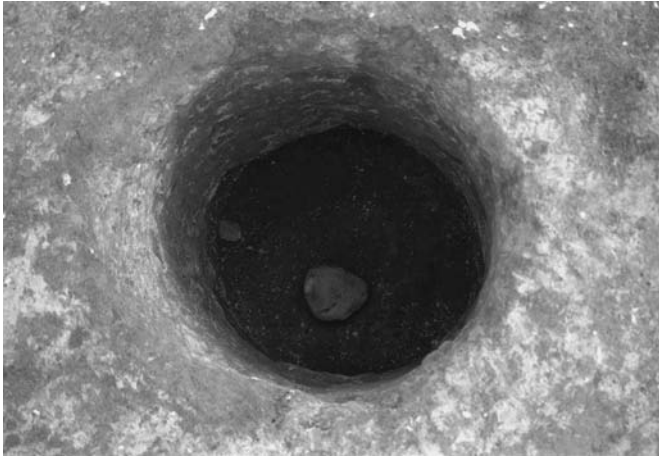
95-54号住居跡炉セクション(南より)



95-54号住居跡炉全景(南より)



95-54号住居跡全景(南より)



95-54号住居跡内ピット全景(南より)



95-54号住居跡掘方全景(南より)



95-55号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-55号住居跡全景(南東より)



95-56号住居跡遺物出土状態(南より)



95-56号住居跡遺物出土状態(南より)



95-56号住居跡遺物出土状態(北より)



95-56号住居跡立石出土状態(南より)





95-56号住居跡全景(南より)



95-56号住居跡炉南西部石棒検出状況(南より)



95-56号住居跡炉遺物出土状態(南より)



95-56号住居跡炉全景(南より)



95-56号住居跡炉掘方全景(南より)



95-57号住居跡遺物出土状態(南より)



95-57号住居跡遺物出土状態(南より)



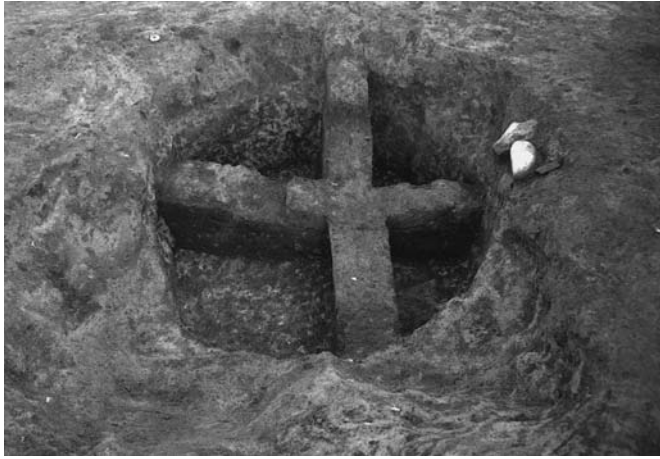
95-57号住居跡全景(南より)



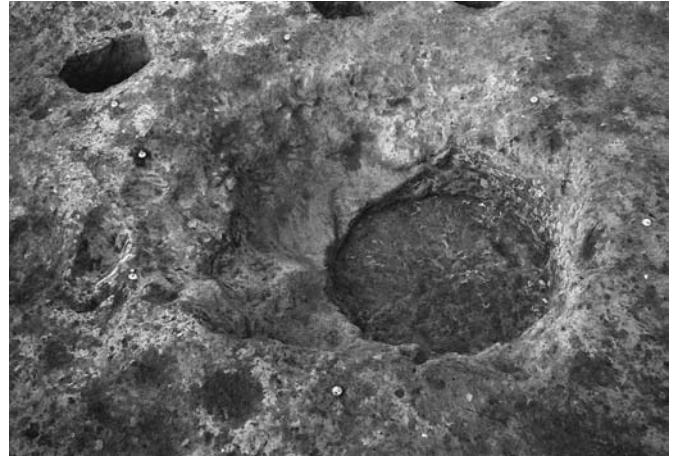
95-57号住居跡入り口部平石出土状態(西より)



95-57号住居跡炉全景(南より)



95-57号住居跡炉掘方土坑セクション(東より)



95-57号住居跡炉掘方全景(南より)



95-58号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-58号住居跡炉遺物出土状態(南より)



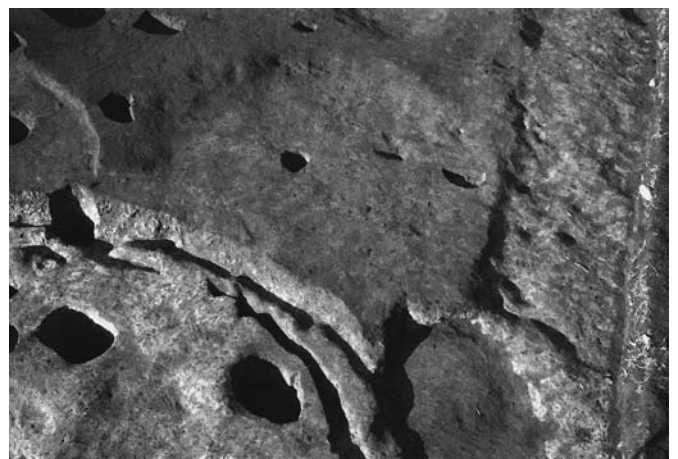
95-58号住居跡炉全景(南より)



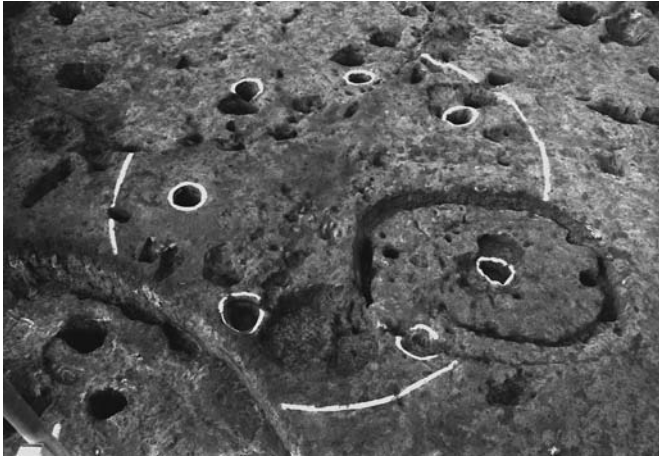
95-58号住居跡全景(南東より)



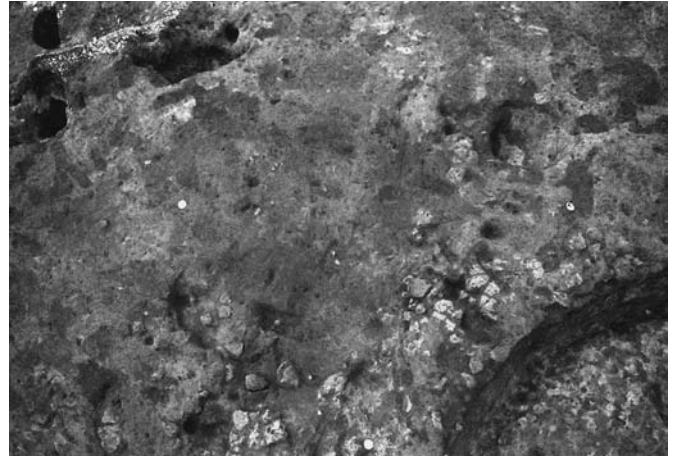
95-59号住居跡遺物出土状態(南より)



95-59号住居跡全景(南より)



95-60号住居跡全景(南より)



95-60号住居跡炉全景(南より)



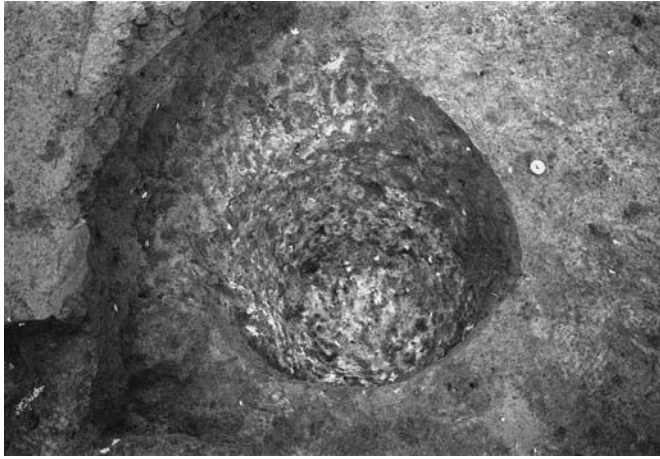
5-2号掘立柱建物跡全景(南東より)



5-2号掘立柱建物跡P-1全景(南より)



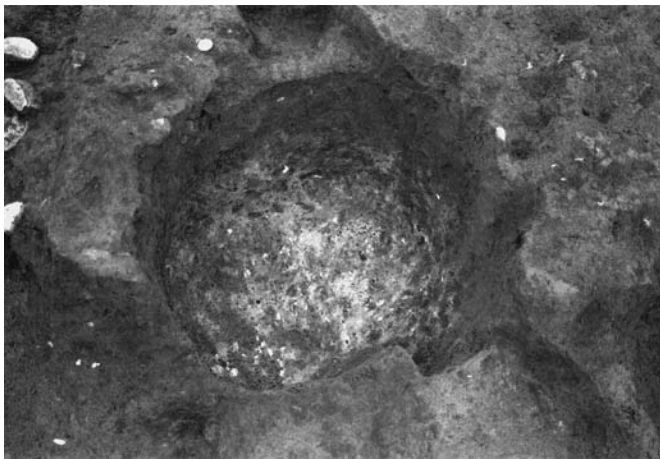
5-2号掘立柱建物跡P-2全景(南より)



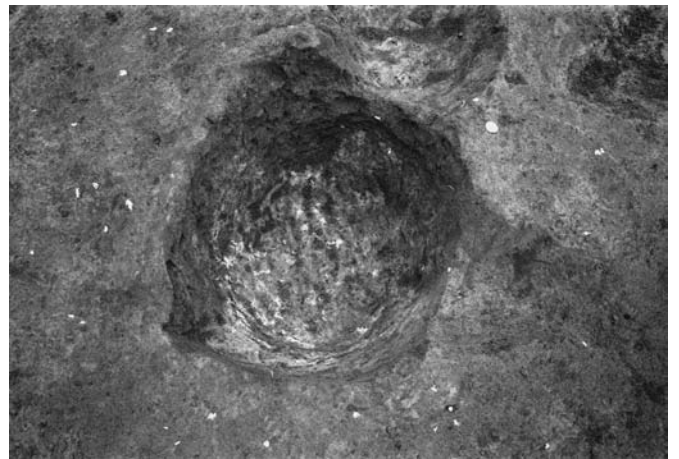
5-2号掘立柱建物跡P-3全景(南より)



5-2号掘立柱建物跡P-4全景(南より)



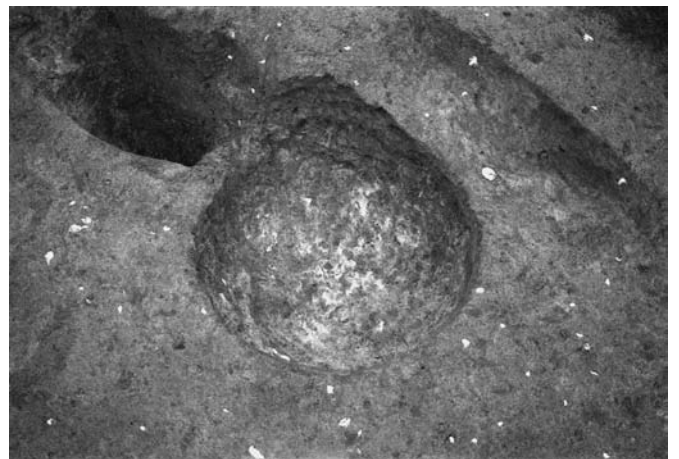
5-2号掘立柱建物跡P-5全景(南より)



5-2号掘立柱建物跡P-6全景(南より)



5-2号掘立柱建物跡P-7全景(南より)



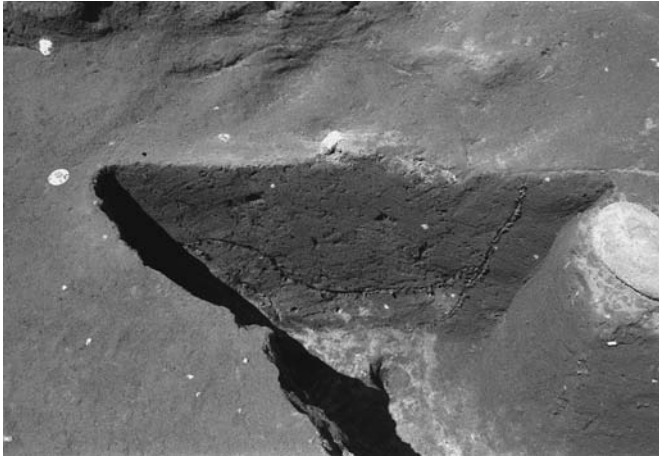
5-2号掘立柱建物跡P-8全景(南より)



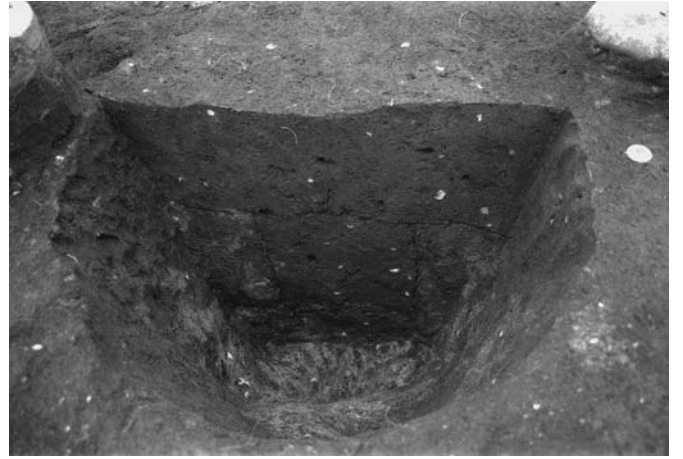
5-2号掘立柱建物跡P-9全景(南より)



5-3号掘立柱建物跡全景(南西より)



5-3号掘立柱建物跡P-1(95-193号ピット)セクション(南より)



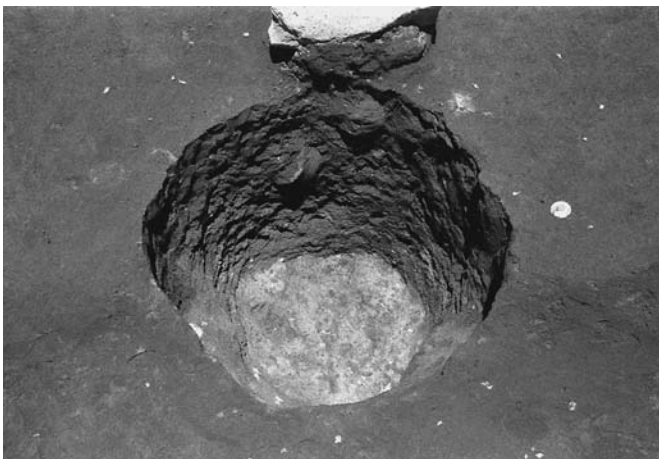
5-3号掘立柱建物跡P-2(5-1127号土坑)セクション(南西より)



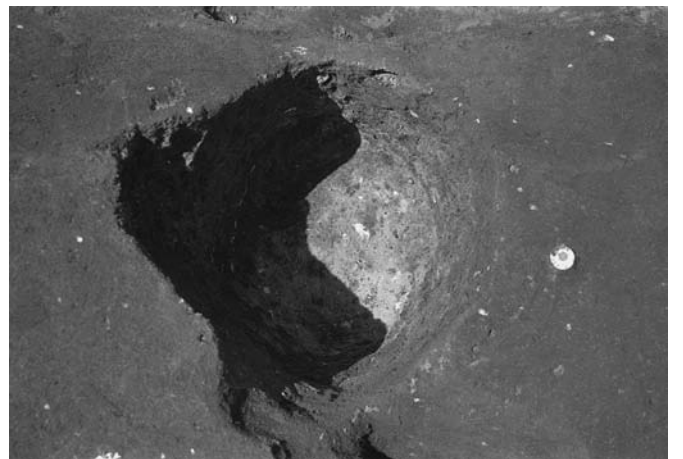
5-3号掘立柱建物跡P-2(5-1127号土坑)全景(南より)



5-3号掘立柱建物跡P-3(5-285号ピット)セクション(南より)



5-3号掘立柱建物跡P-3(5-285号ピット)全景(南より)



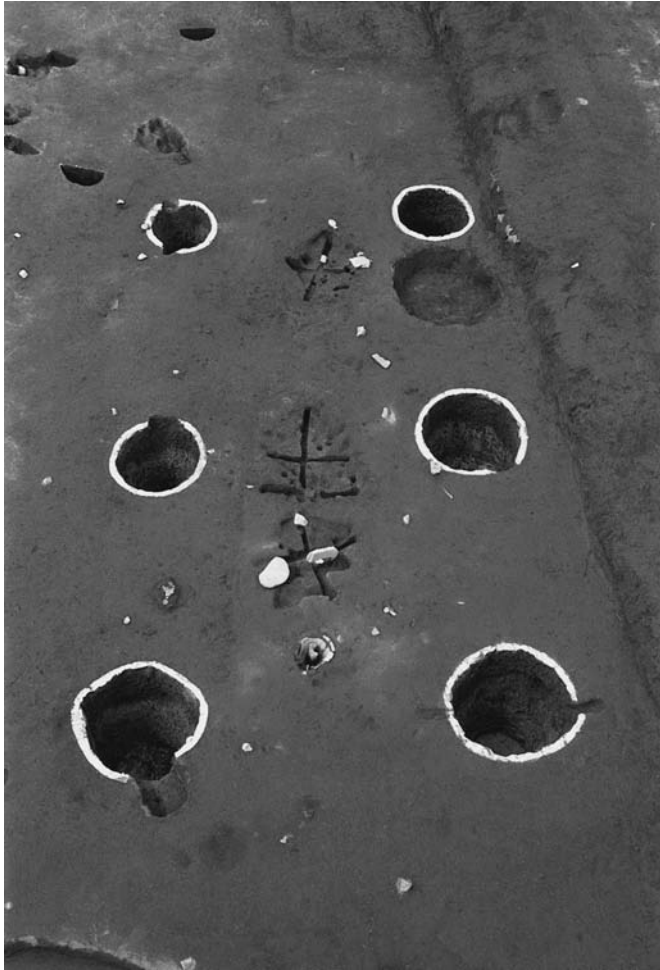
5-3号掘立柱建物跡P-4(5-286号ピット)全景(南より)



5-3号掘立柱建物跡P-5(5-287号ピット)全景(南より)



5-3号掘立柱建物跡P-6(5-288号ピット)全景(南より)



5-4号掘立柱建物跡全景(南より)



5-4号掘立柱建物跡内7・8号焼土(南より)



5-4号掘立柱建物跡炉、埋甕検出状況(南より)



5-4号掘立柱建物跡全景(東より)



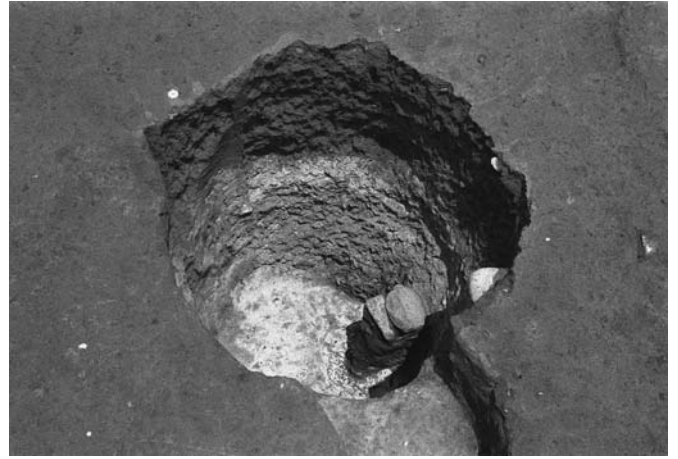
5-4号掘立柱建物跡埋甕セクション(南東より)



5-4号掘立柱建物跡埋甕全景(南より)



5-4号掘立柱建物跡P-1(5-1141号土坑)セクション(西より)



5-4号掘立柱建物跡P-1(5-1141号土坑)全景(南より)



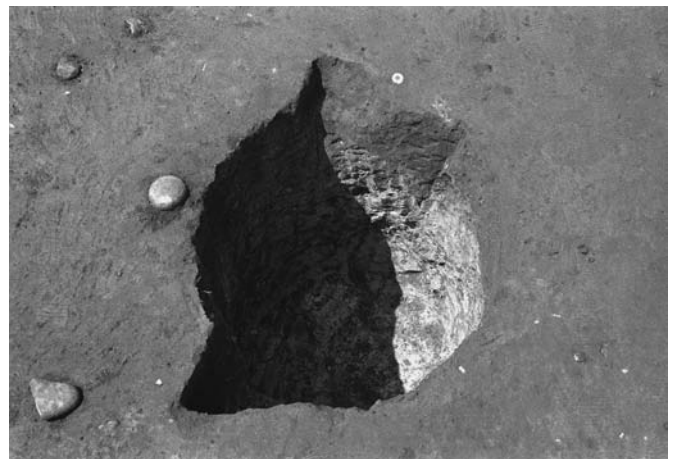
5-4号掘立柱建物跡P-2(5-1146号土坑)セクション(南より)



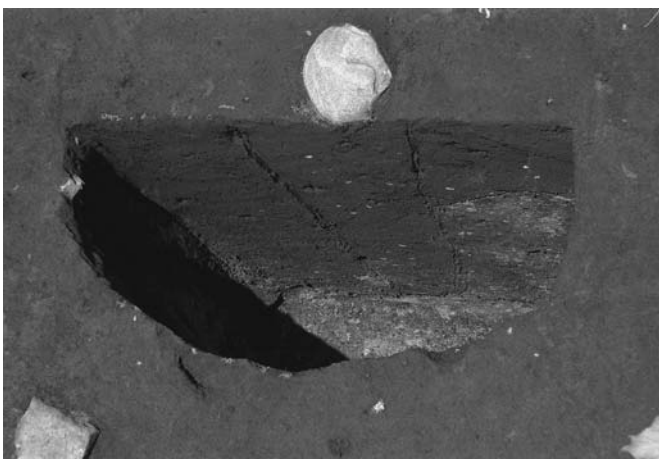
5-4号掘立柱建物跡P-2(5-1146号土坑)全景(南より)



5-4号掘立柱建物跡P-3(5-1147号土坑)セクション(南より)



5-4号掘立柱建物跡P-3(5-1147号土坑)全景(南より)

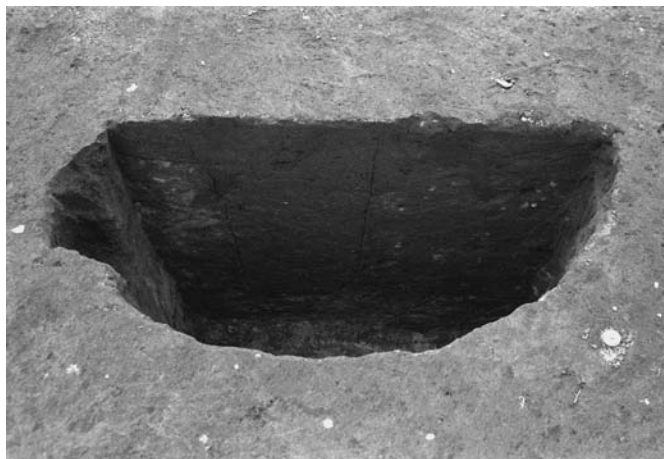


5-4号掘立柱建物跡P-4(5-1148号土坑)セクション(南より)

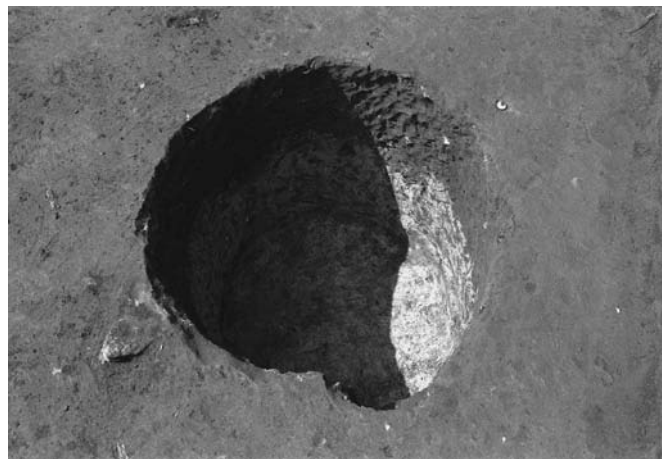


5-4号掘立柱建物跡P-4(5-1148号土坑)全景(南より)

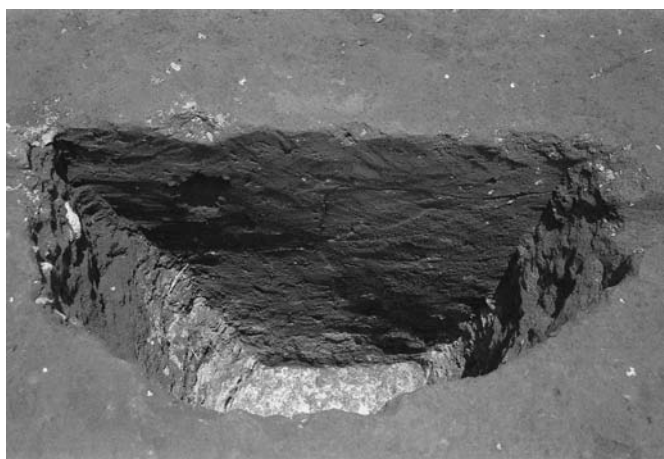




5-4号掘立柱建物跡P-5(5-1149号土坑)セクション(南より)



5-4号掘立柱建物跡P-5(5-1149号土坑)全景(南より)



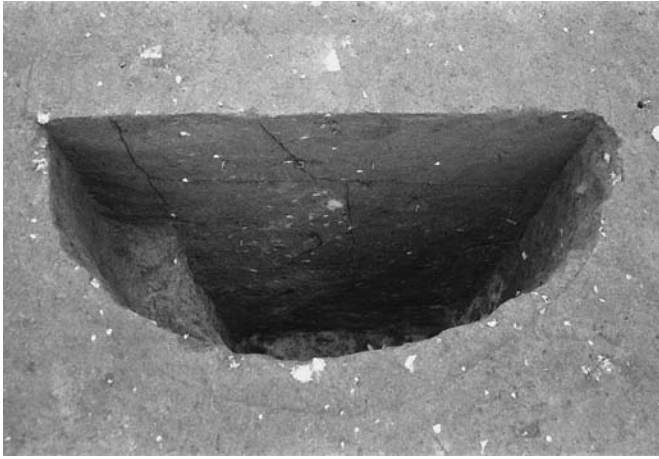
5-4号掘立柱建物跡P-6(5-1145号土坑)セクション(南より)



5-4号掘立柱建物跡P-6(5-1145号土坑)全景(南より)



5-5号掘立柱建物跡全景(南より)



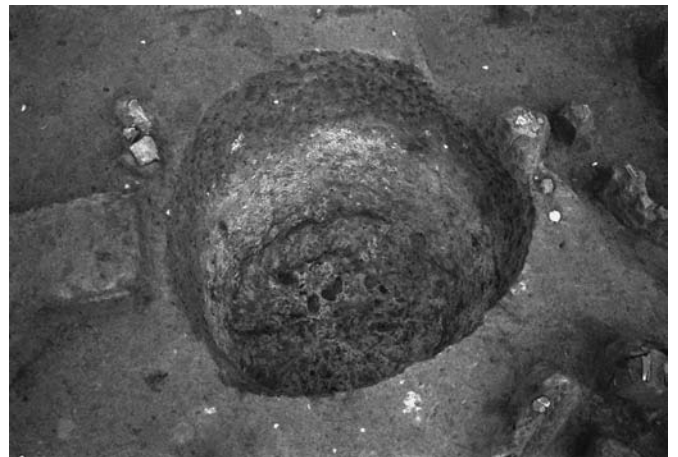
5-5号掘立柱建物跡P-1(5-1140号土坑)セクション(南より)



5-5号掘立柱建物跡P-1(5-1140号土坑)全景(南より)



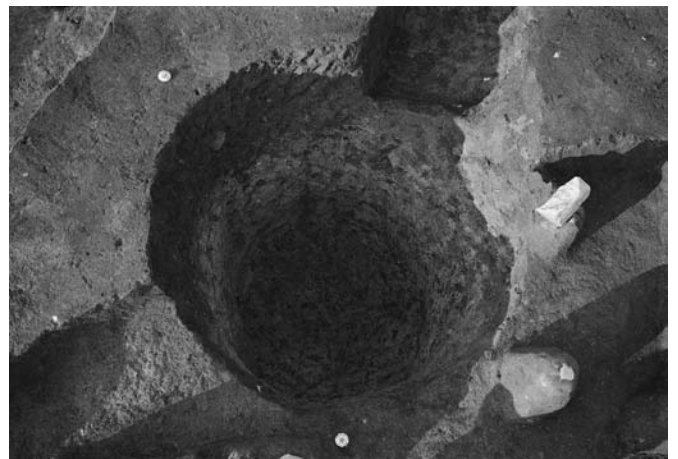
5-5号掘立柱建物跡P-2(5-1215号土坑)セクション(南東より)



5-5号掘立柱建物跡P-2(5-1215号土坑)全景(南より)



5-5号掘立柱建物跡P-3(5-1216号土坑)セクション(南東より)



5-5号掘立柱建物跡P-3(5-1216号土坑)全景(南東より)



5-5号掘立柱建物跡P-4(5-1222号土坑)セクション(南東より)



5-5号掘立柱建物跡P-4(5-1222号土坑)全景(南より)



5-5号掘立柱建物跡P-5(5-1218号土坑)セクション(南東より)



5-5号掘立柱建物跡P-5(5-1218号土坑)全景(南より)



5-5号掘立柱建物跡P-6(5-1217号土坑)セクション(南東より)



5-5号掘立柱建物跡P-6(5-1217号土坑)全景(南より)



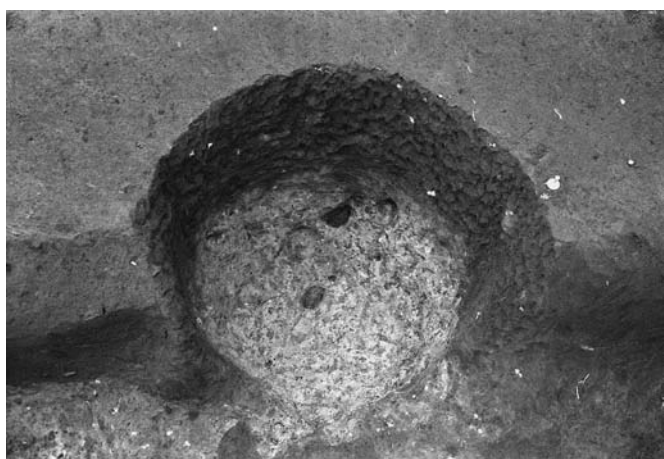
5-5号掘立柱建物跡P-7(5-1219号土坑)根巻き石(南東より)



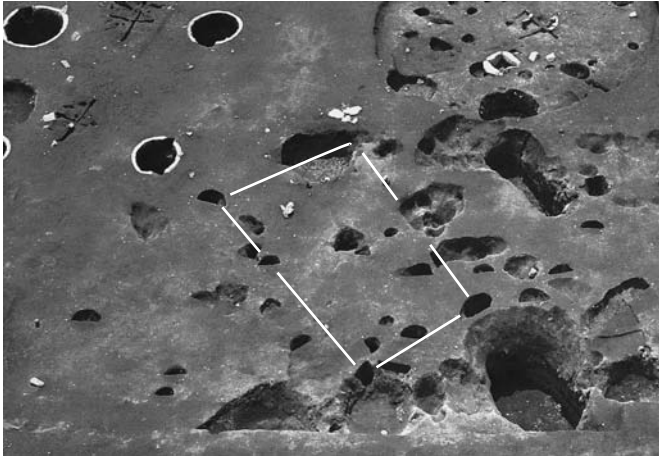
5-5号掘立柱建物跡P-7(5-1219号土坑)全景(南より)



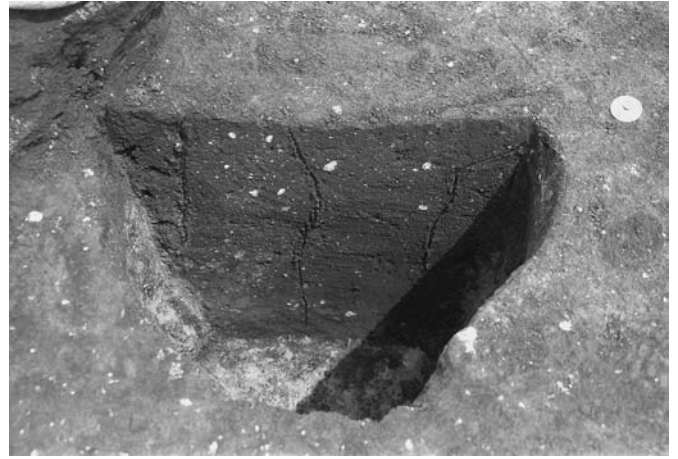
5-5号掘立柱建物跡P-8(5-1144号土坑)セクション(南より)



5-5号掘立柱建物跡P-8(5-1144号土坑)全景(南より)



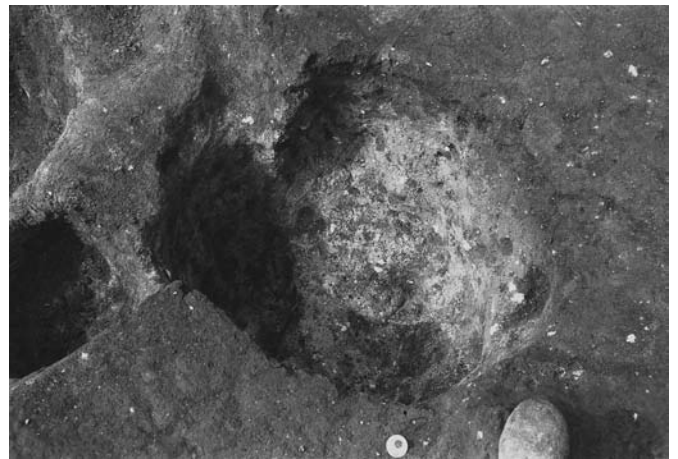
5-8号掘立柱建物跡全景(北より)



5-8号掘立柱建物跡P-1(5-1185号土坑)セクション(南より)



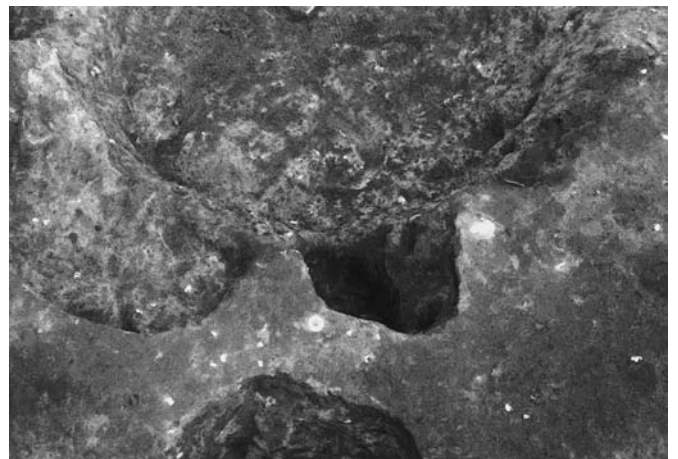
5-8号掘立柱建物跡P-1(5-1185号土坑)全景(南より)



5-8号掘立柱建物跡P-2(5-1175号土坑)全景(南より)



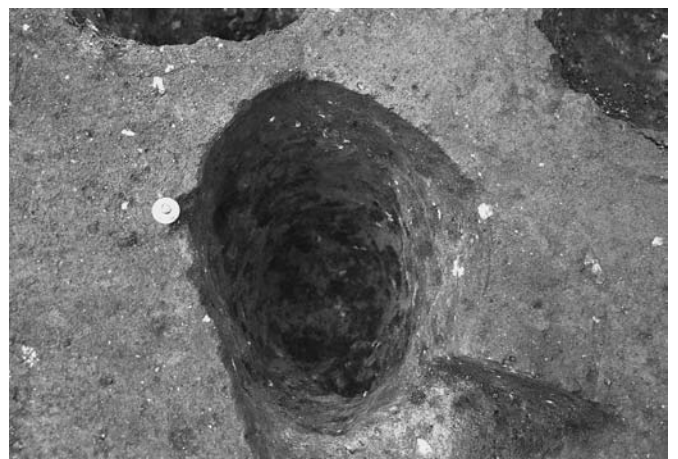
5-8号掘立柱建物跡P-3(5-1166号土坑)全景(南より)



5-8号掘立柱建物跡P-4(5-1162号土坑)全景(南より)



5-8号掘立柱建物跡P-5(5-1171号土坑)全景(南より)



5-8号掘立柱建物跡P-6(5-1181号土坑)全景(南より)



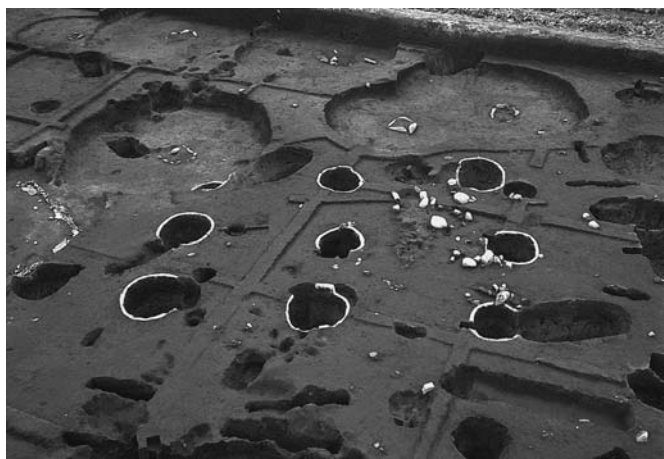
95-3号掘立柱建物跡全景(南より)



95-3号掘立柱建物跡検出前状況(南より)



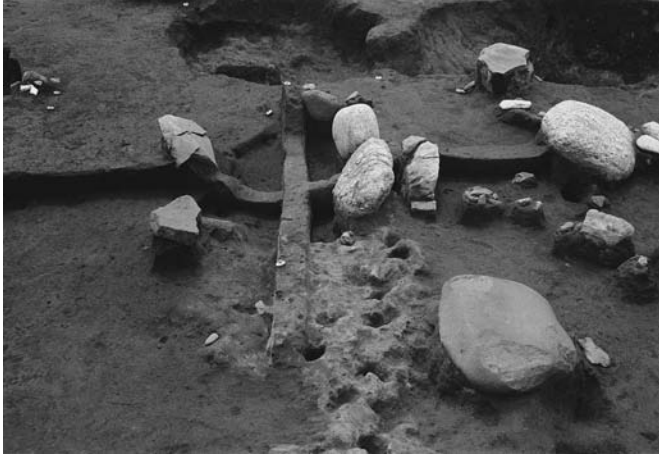
95-3号掘立柱建物跡全景(南より)



95-3号掘立柱建物跡全景(東より)



95-3号掘立柱建物跡炉全景(南より)



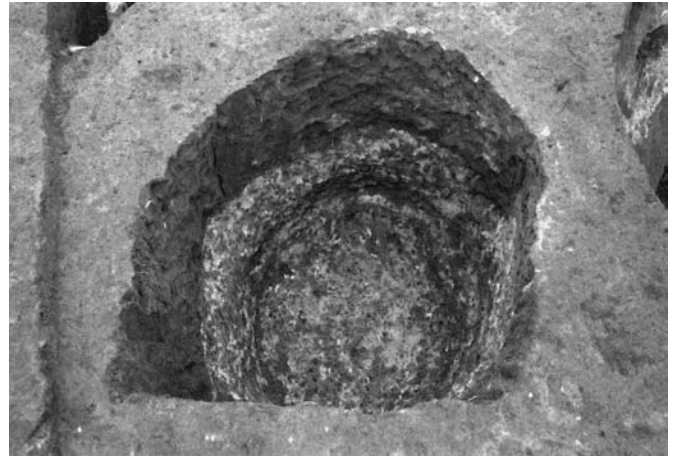
95-3号掘立柱建物跡炉セクション(東より)



95-3号掘立柱建物跡埋甕(95-2号埋甕)全景(東より)



95-3号掘立柱建物跡P-1(95-94号土坑)セクション(南東より)



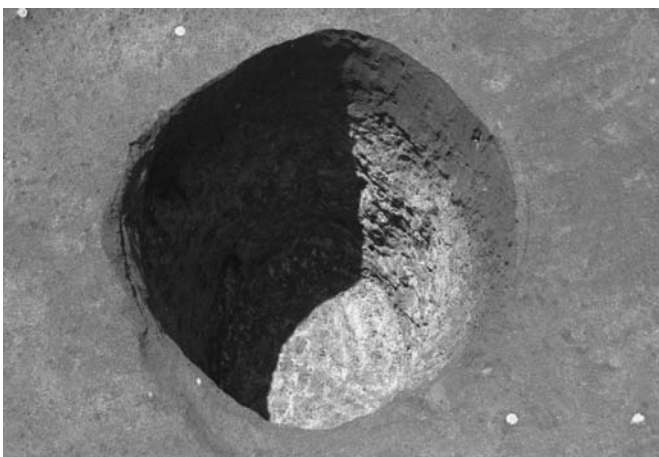
95-3号掘立柱建物跡P-1(95-94号土坑)全景(南より)



95-3号掘立柱建物跡P-2(95-97号土坑)セクション(東より)



95-3号掘立柱建物跡P-3(95-104号土坑)全景(東より)



95-3号掘立柱建物跡P-2(95-97号土坑)全景(北東より)



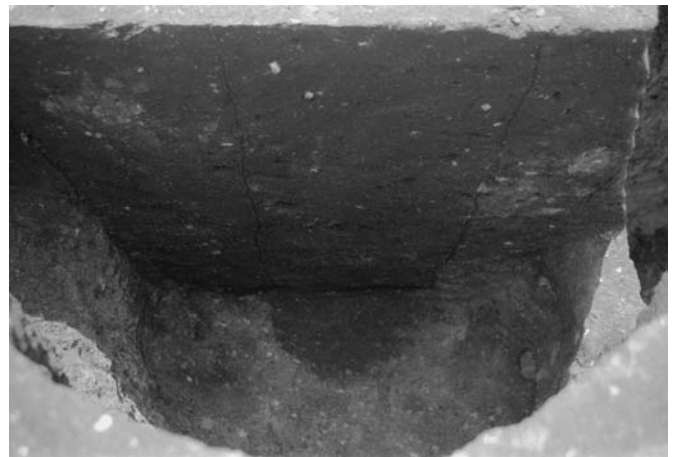
95-3号掘立柱建物跡P-3(95-104号土坑)セクション(北より)



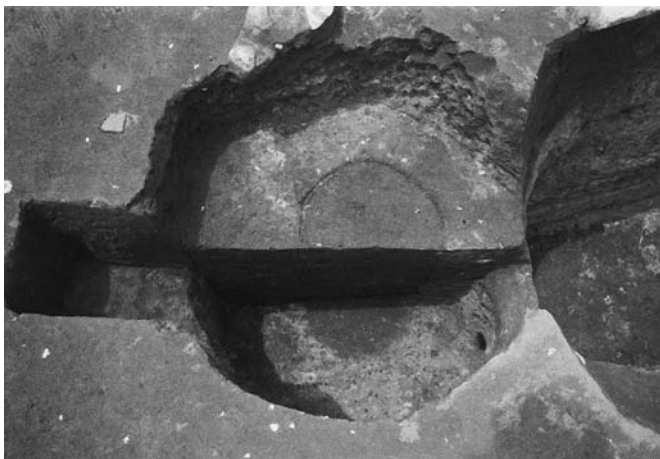
95-3号掘立柱建物跡P-4(95-103号土坑)セクション(西より)



95-3号掘立柱建物跡P-4(95-103号土坑)全景(南より)



95-3号掘立柱建物跡P-5(95-101号土坑)セクション(東より)



95-3号掘立柱建物跡P-5(95-101号土坑)セクション(東より)



95-3号掘立柱建物跡P-5(95-101号土坑)全景(南より)



95-3号掘立柱建物跡P-6(95-100号土坑)全景(南西より)



95-3号掘立柱建物跡P-6(95-100号土坑)セクション(東より)



95-3号掘立柱建物跡P-6(95-100号土坑)柱痕検出状況(東より)



95-3号掘立柱建物跡P-7(95-96号土坑)セクション(東より)



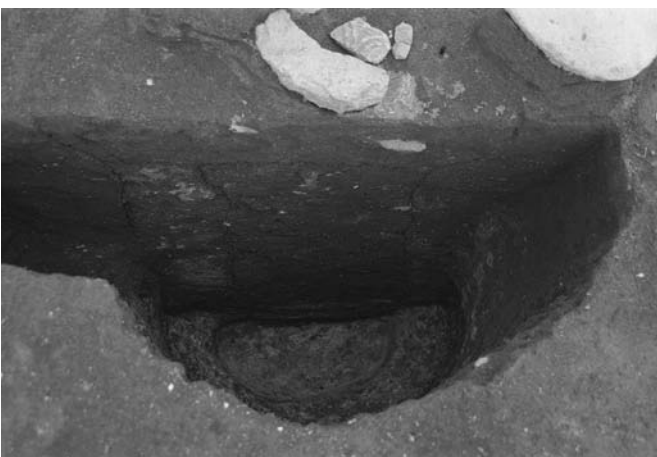
95-3号掘立柱建物跡P-7(95-96号土坑)全景(南より)



95-3号掘立柱建物跡P-8(95-95号土坑)セクション(東より)



95-3号掘立柱建物跡P-8(95-95号土坑)全景(南より)



95-3号掘立柱建物跡P-9(95-105号土坑)セクション(北より)

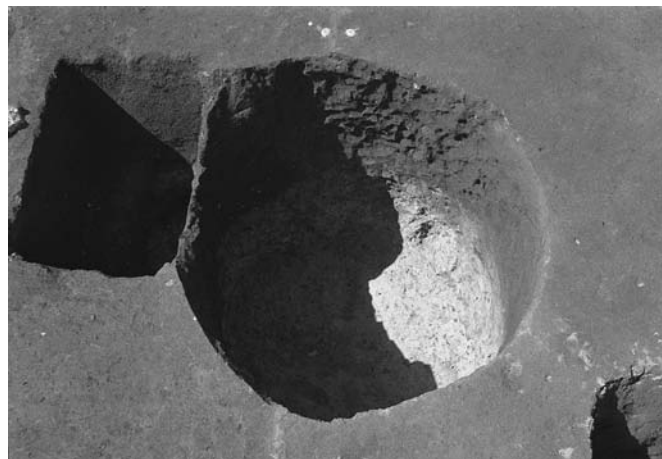


95-3号掘立柱建物跡P-9(95-105号土坑)全景(北より)

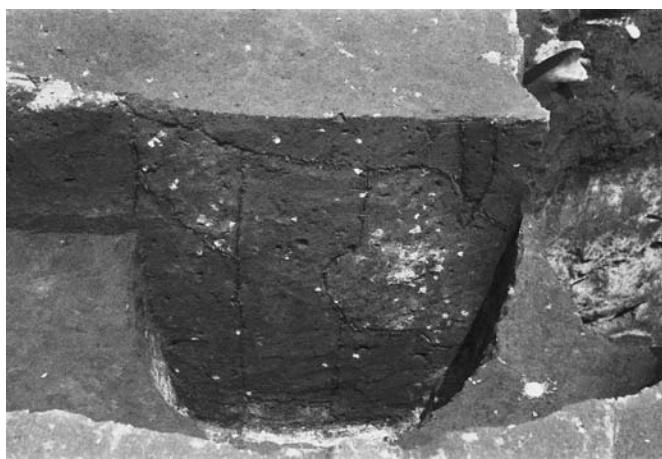




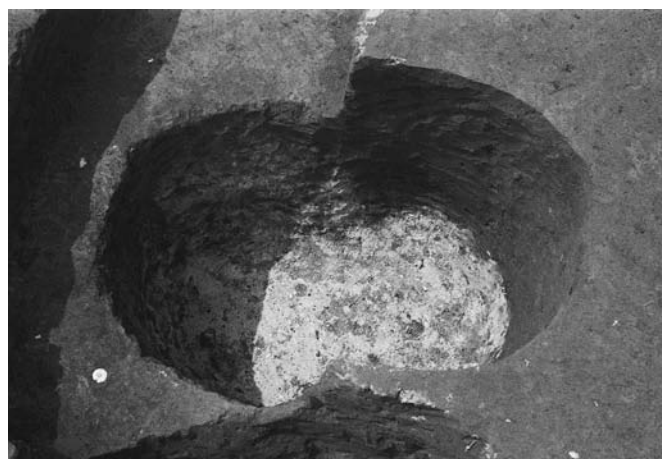
95-4号掘立柱建物跡全景(東より)



95-4号掘立柱建物跡P-1(95-98号土坑)全景(北より)



95-4号掘立柱建物跡P-2(95-109号土坑)セクション(西より)



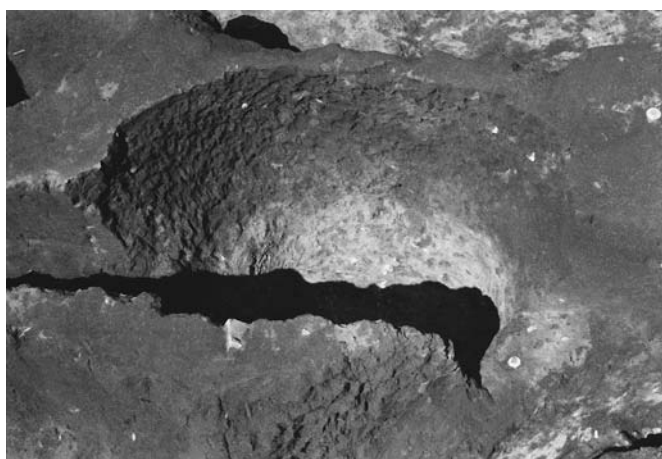
95-4号掘立柱建物跡P-2(95-109号土坑)全景(南より)



95-4号掘立柱建物跡P-4(95-110号土坑)セクション(北東より)



95-4号掘立柱建物跡P-4(95-110号土坑)全景(東より)



95-4号掘立柱建物跡P-5(95-265号土坑)全景(西より)



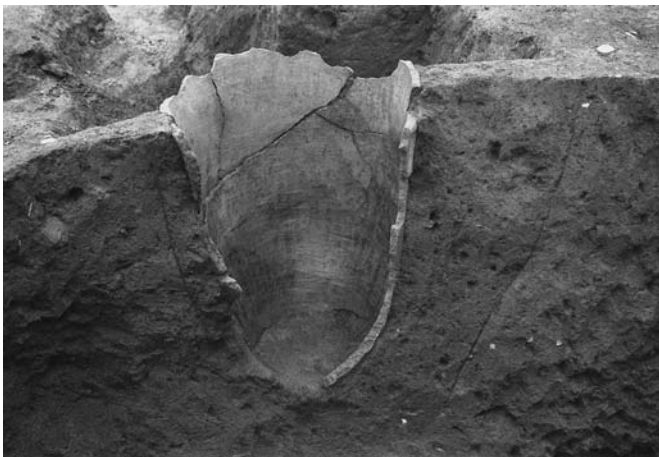
95-4号掘立柱建物跡P-6(95-99号土坑)セクション(西より)



5-15号埋甕セクション(南より)



95-1号埋甕セクション(西より)



95-1号埋甕断面(南東より)



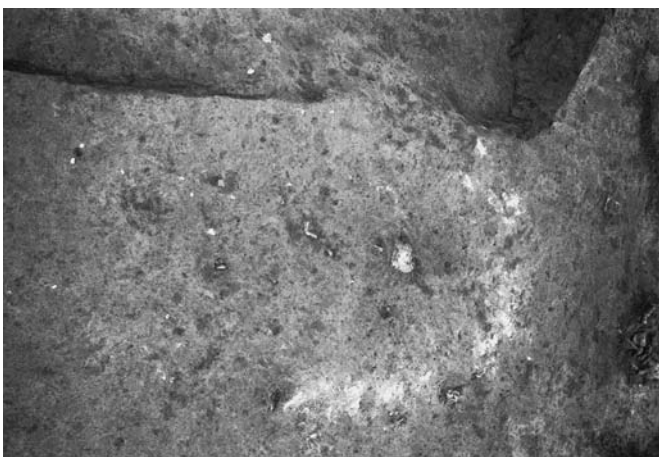
95-3号埋甕セクション(南より)



95-3号埋甕出土状況(南より)



95-4号埋甕セクション(東より)



95-1号焼土検出状況(南より)



95-1号焼土遺物出土状態(南より)



95-1号焼土全景(南より)



95-1号焼土セクション(南東より)



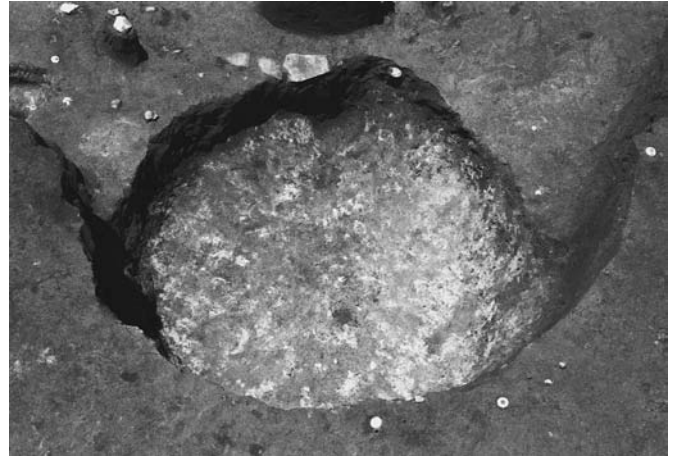
95-1号焼土下セクション(南より)



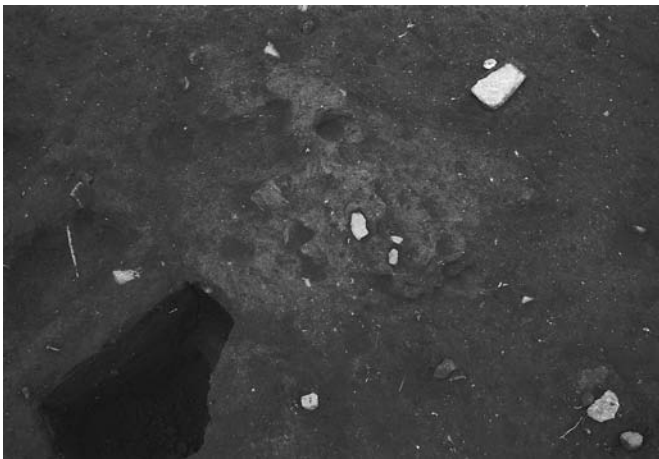
95-1号焼土下土坑遺物出土状態(南より)



95-1号焼土下土坑遺物出土状態(南より)



95-1号焼土下土坑全景(東より)



95-7号焼土全景(南より)



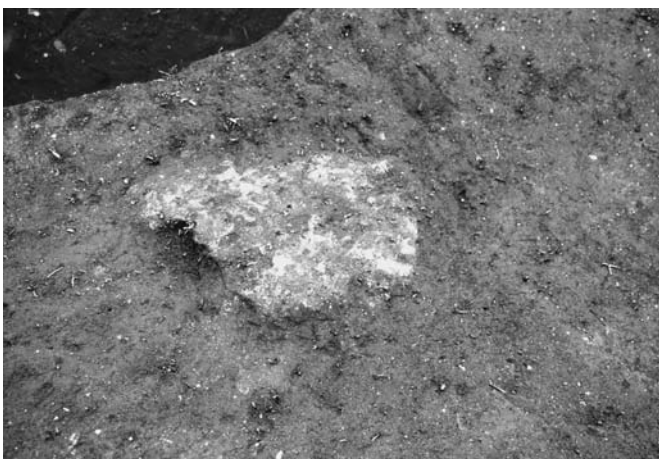
95-7号焼土セクション(西より)



95-10号焼土(東より)



95-11号焼土(南西より)



95-12号焼土(南より)



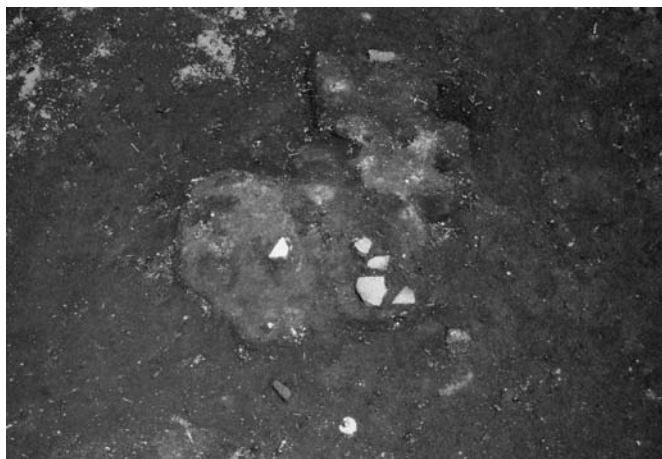
95-13号焼土(南より)



95-14号焼土(南より)



95-14号焼土セクション(東より)



95-15号焼土(南より)



95-16号焼土(南より)



95-17号炉セクション(南より)



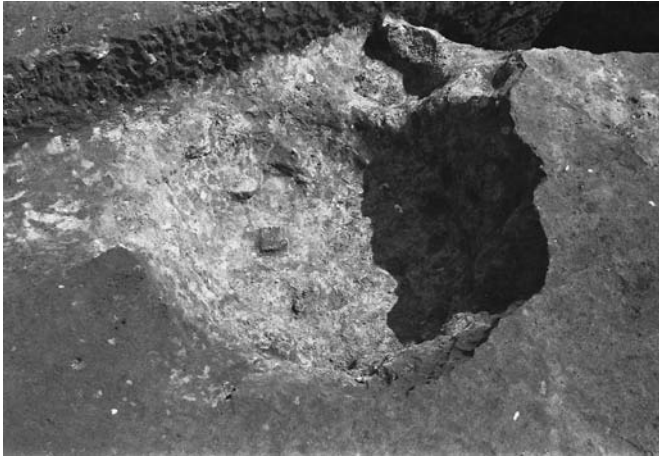
95-17号炉全景(南より)



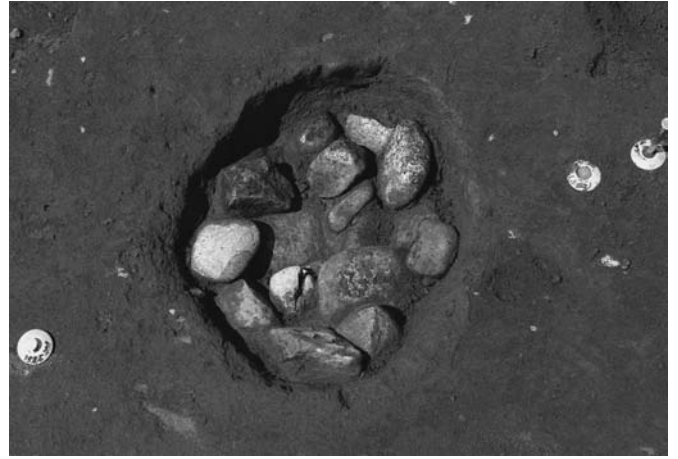
95-1号配石全景(東より)



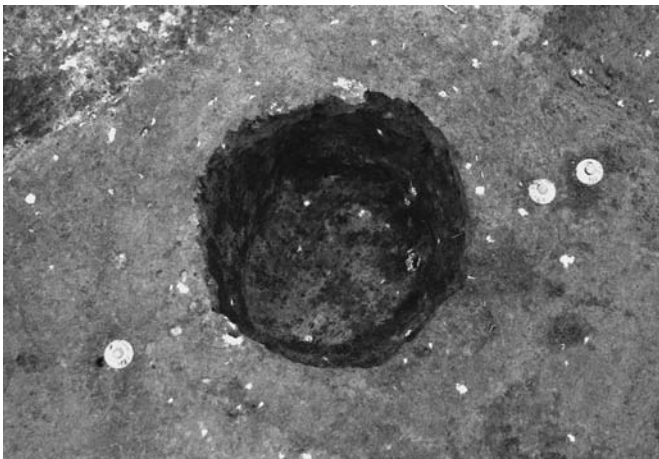
95-2号配石セクション(西より)



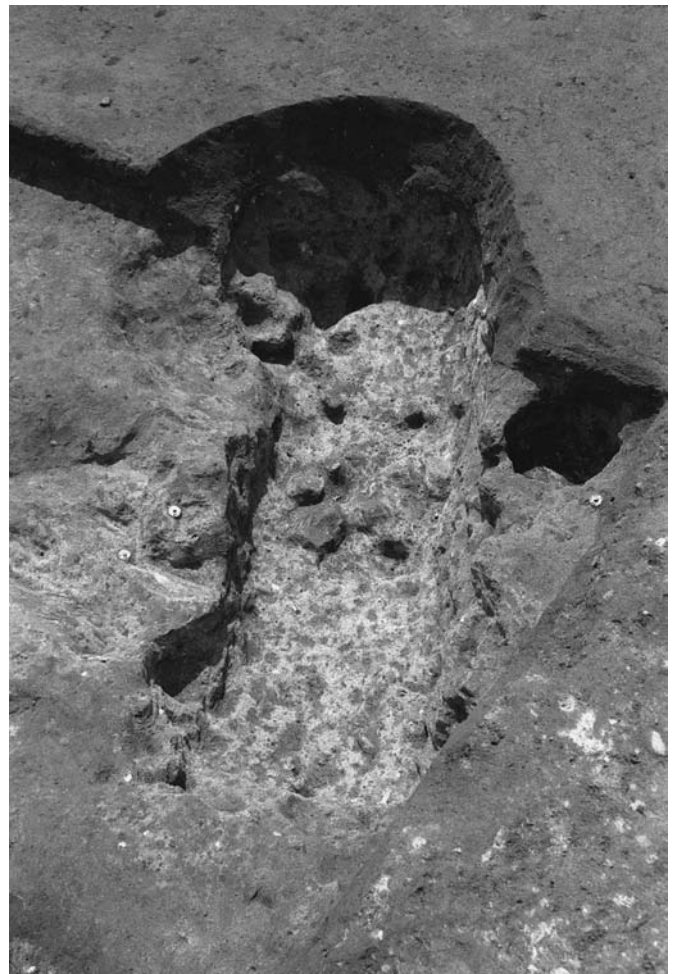
5-99号土坑全景(南東より)



5-1120号土坑全景(南より)



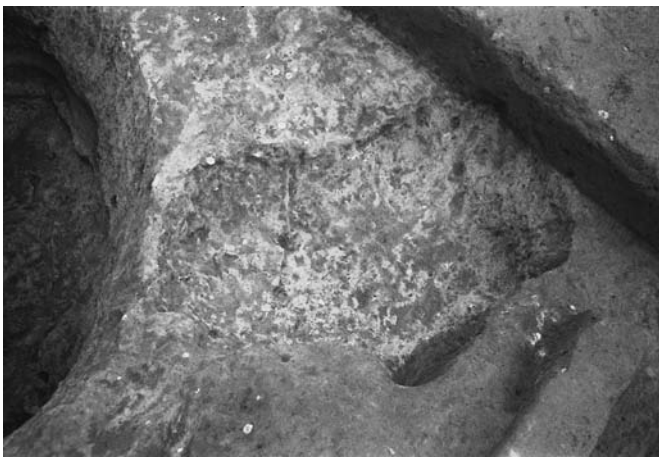
5-1120号土坑全景(南より)



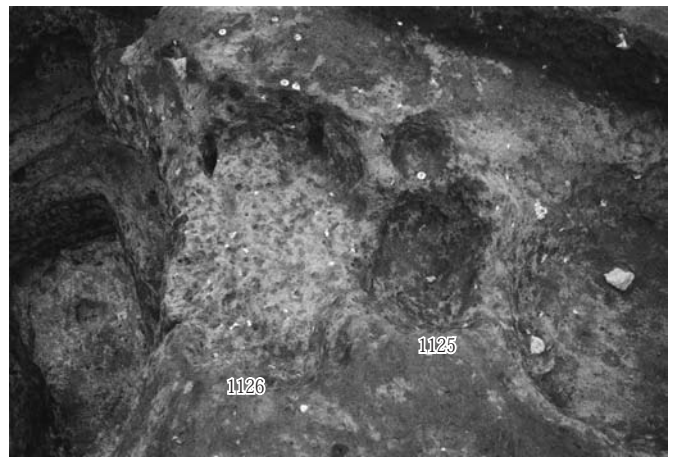
5-1121号土坑全景(北東より)



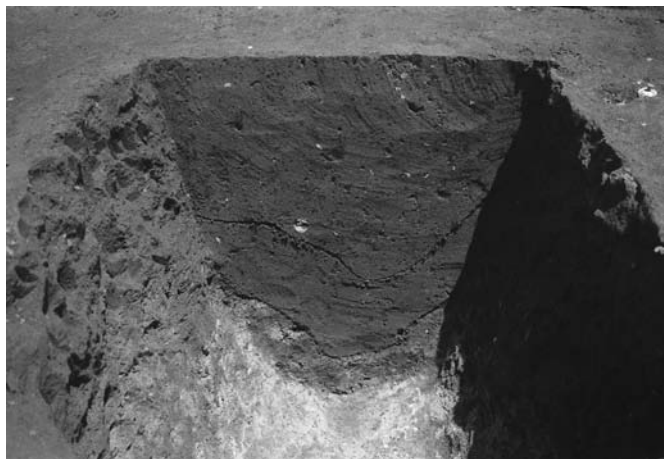
5-1123号土坑全景(東より)



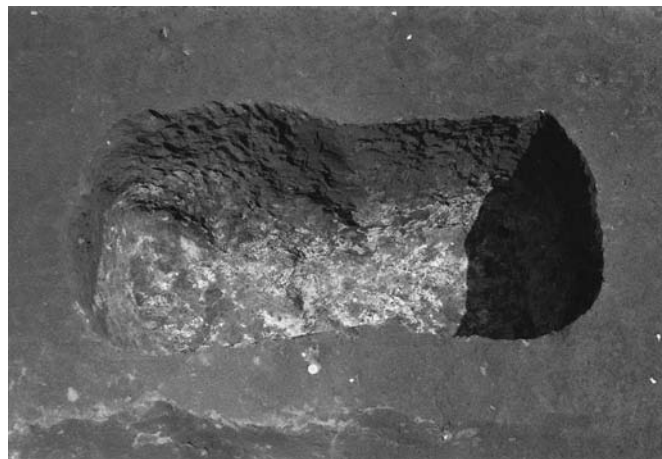
5-1124号土坑全景(南より)



5-1125・1126号土坑全景(南より)



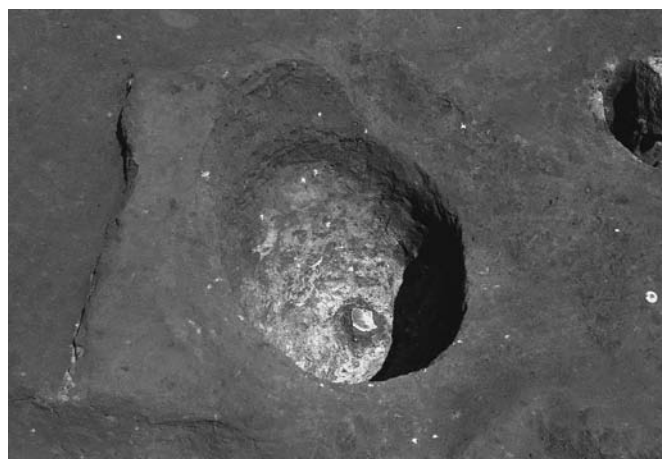
5-1128号土坑セクション(西より)



5-1128号土坑全景(南より)



5-1129号土坑全景(南より)



5-1130号土坑全景(南より)



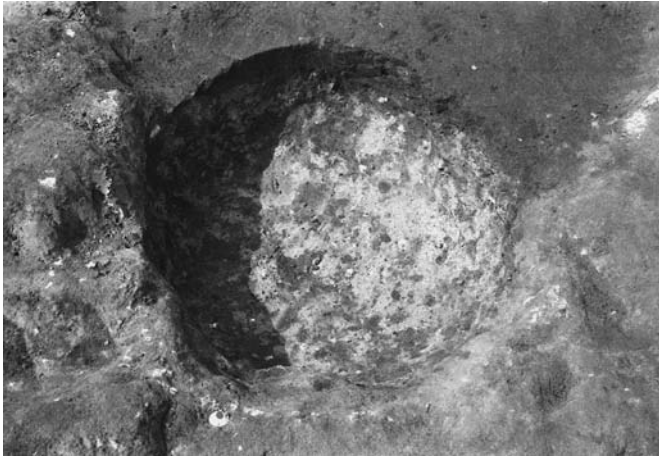
5-1131号土坑全景(東より)



5-1132号土坑全景(東より)



5-1133号土坑全景(南より)



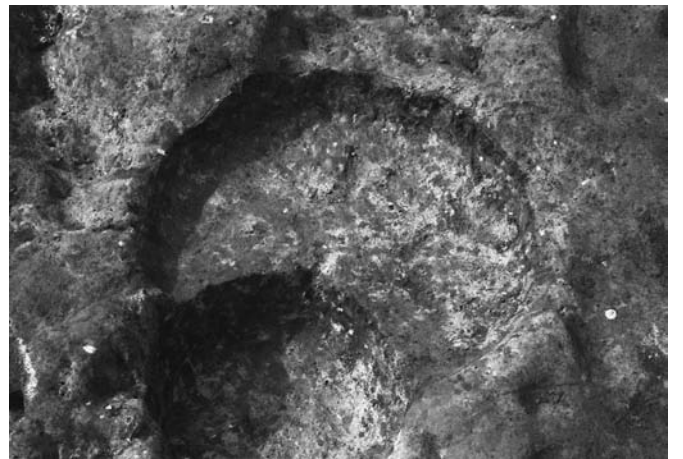
5-1134号土坑全景(南より)



5-1135号土坑全景(南より)



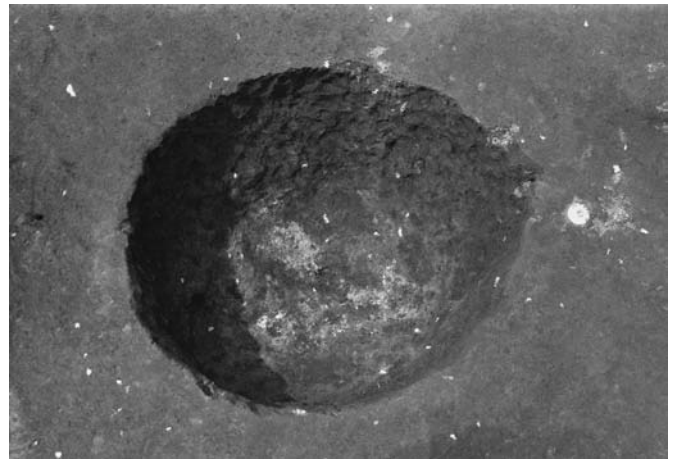
5-1136号土坑全景(南より)



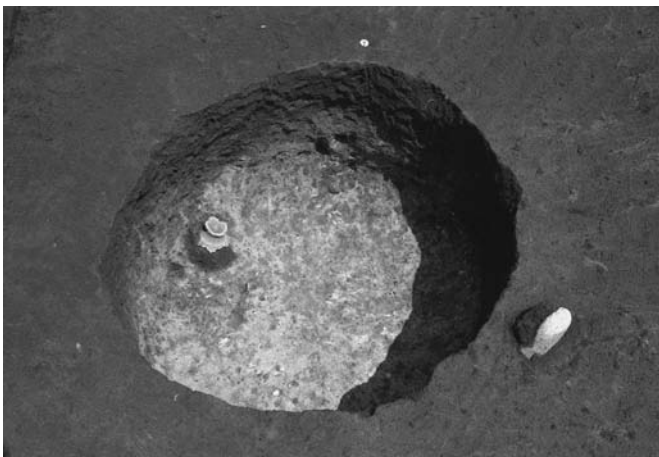
5-1137号土坑全景(南より)



5-1138号土坑遺物出土状態(南より)



5-1139号土坑全景(南より)

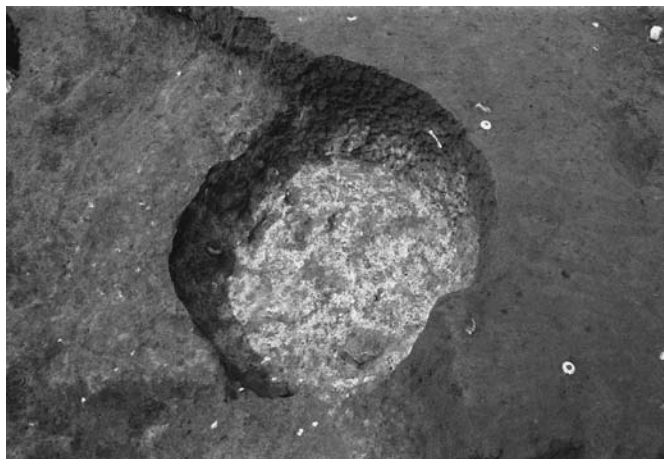


5-1142号土坑全景(南より)



5-1143号土坑全景(南より)





5-1150号土坑全景(南より)



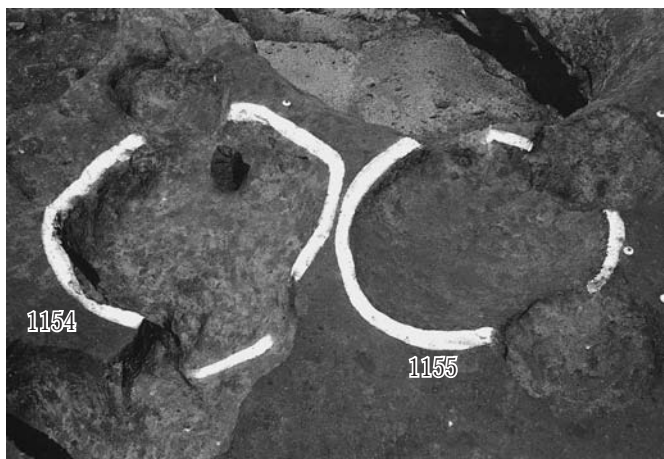
5-1151号土坑全景(南より)



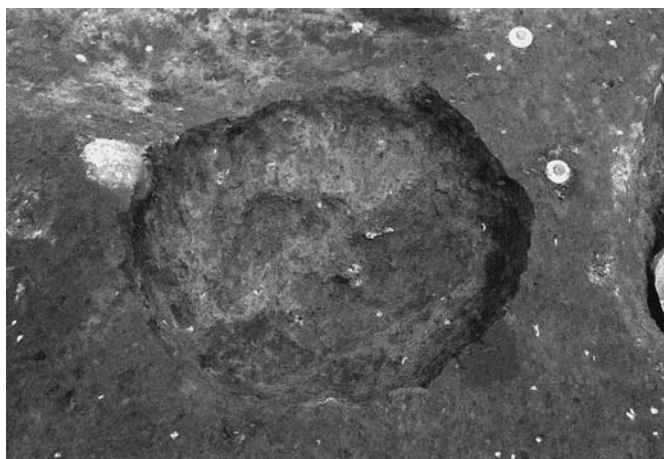
5-1152号土坑遺物出土状態(南より)



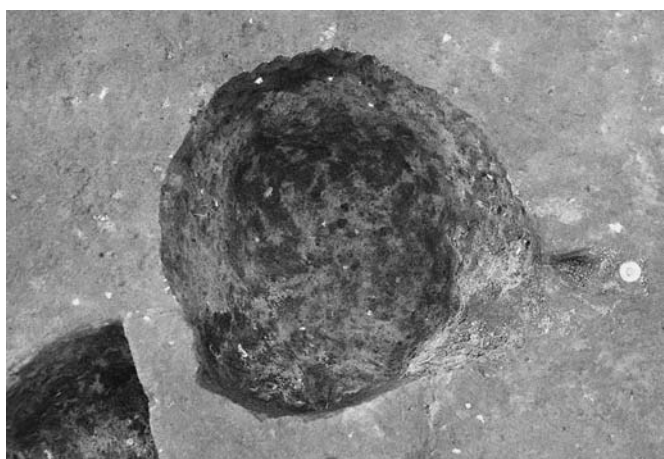
5-1153号土坑全景(南東より)



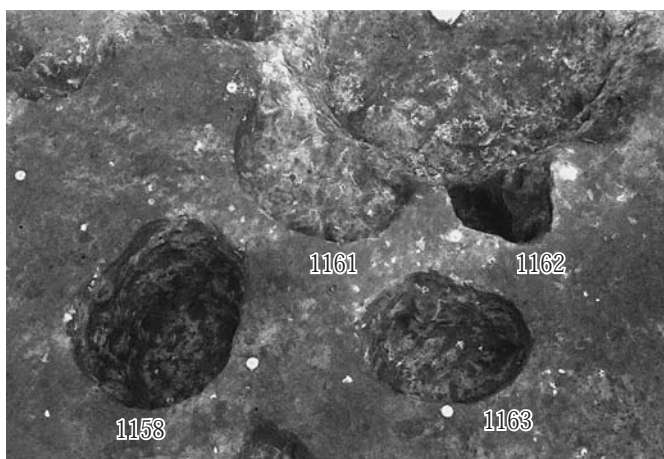
5-1154・1155号土坑全景(南より)



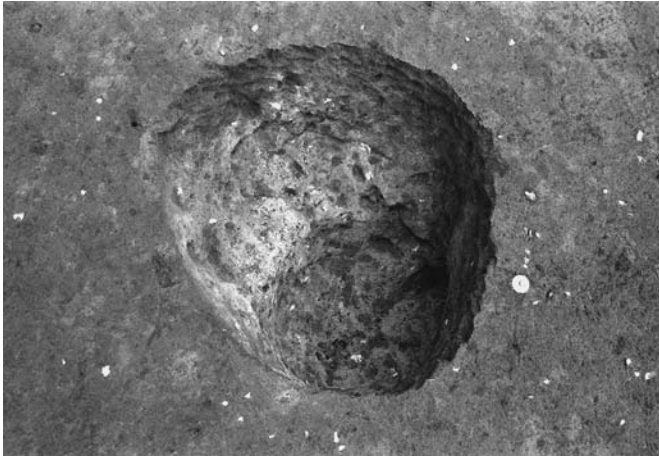
5-1156号土坑全景(南より)



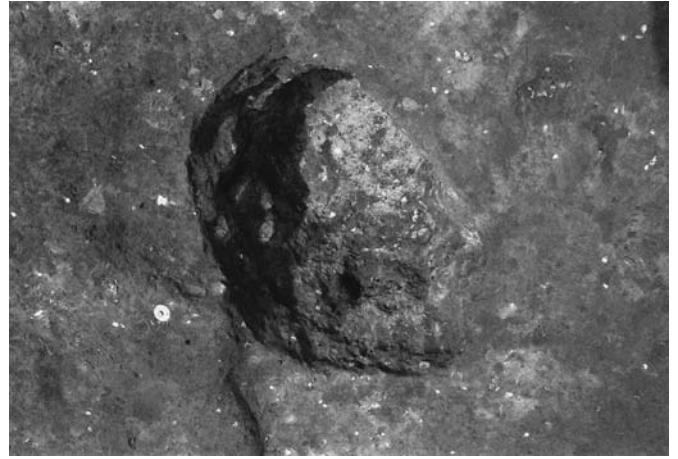
5-1157号土坑全景(南より)



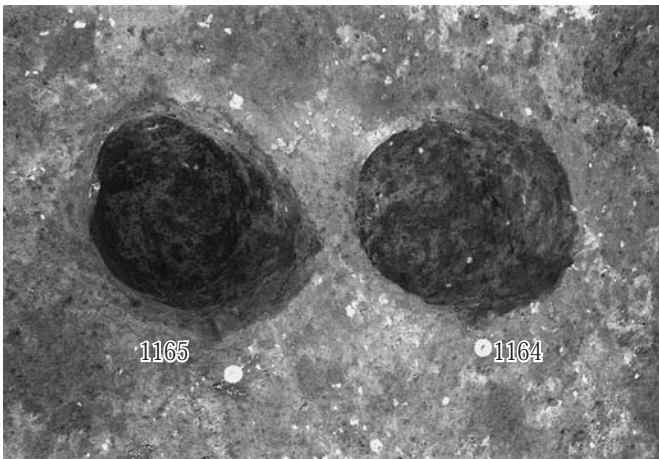
5-1158・1161・1162・1163号土坑全景(南より)



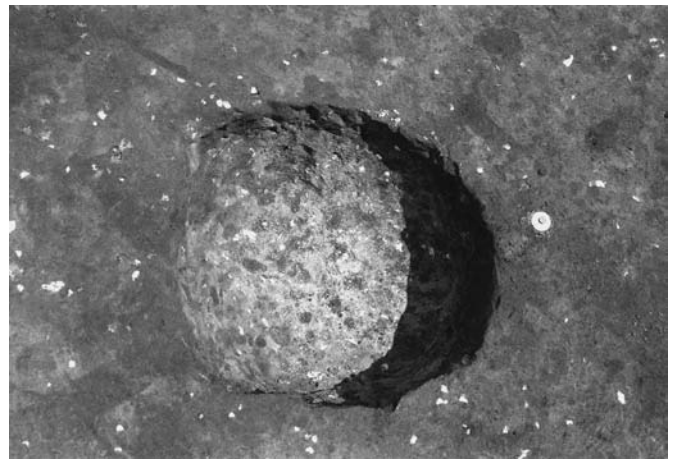
5-1159号土坑全景(南より)



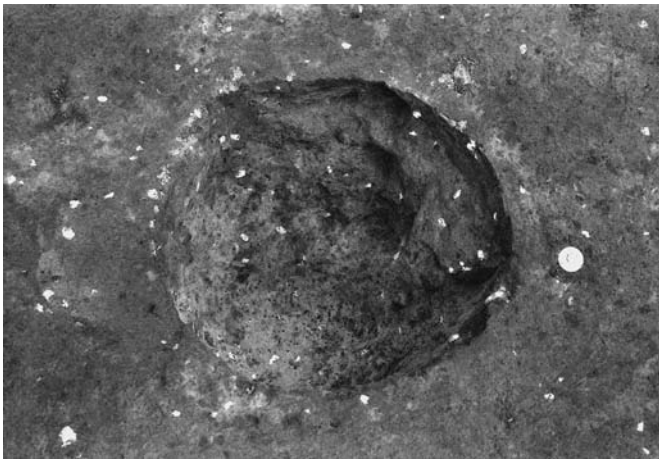
5-1160号土坑全景(南より)



5-1164・1165号土坑全景(南より)



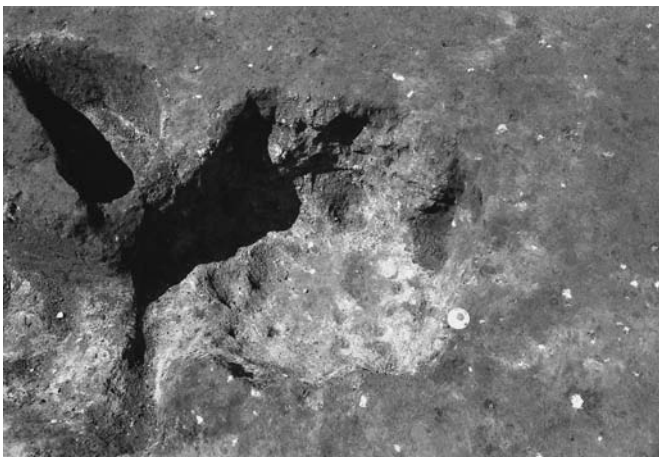
5-1167号土坑全景(南より)



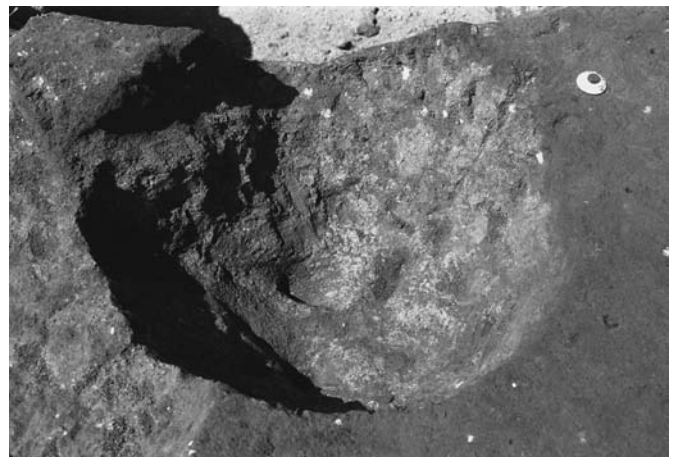
5-1168号土坑全景(南より)



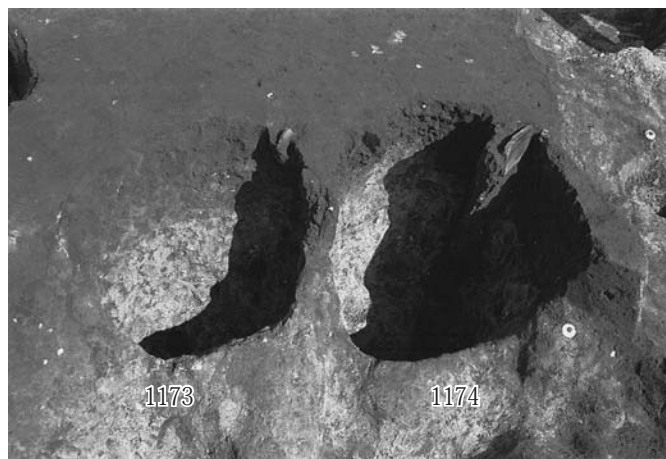
5-1169号土坑全景(南西より)



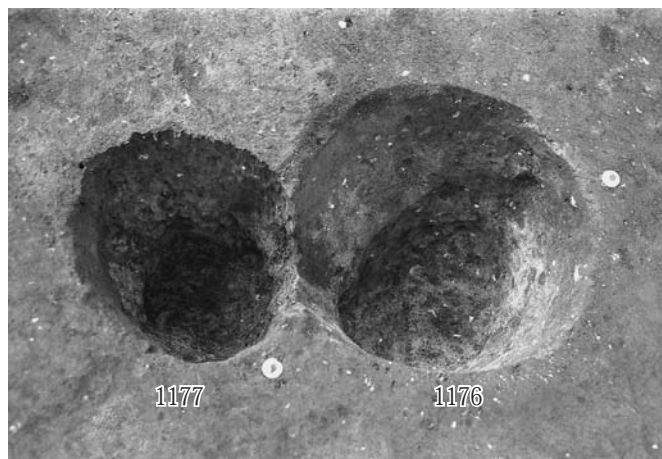
5-1170号土坑全景(南より)



5-1172号土坑全景(南より)



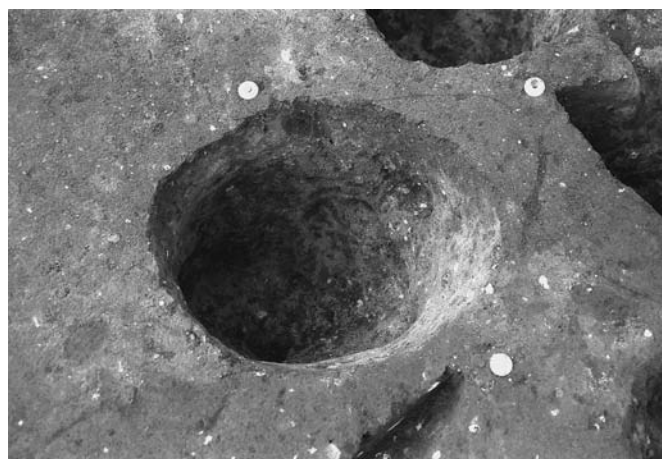
5-1173・1174号土坑全景(北西より)



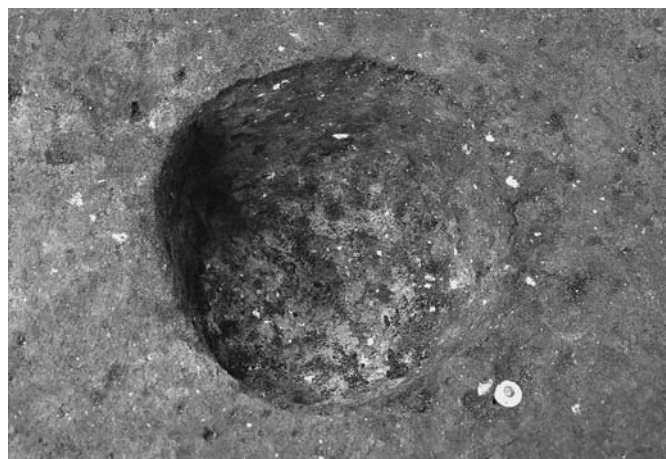
5-1176・1177号土坑全景(南東より)



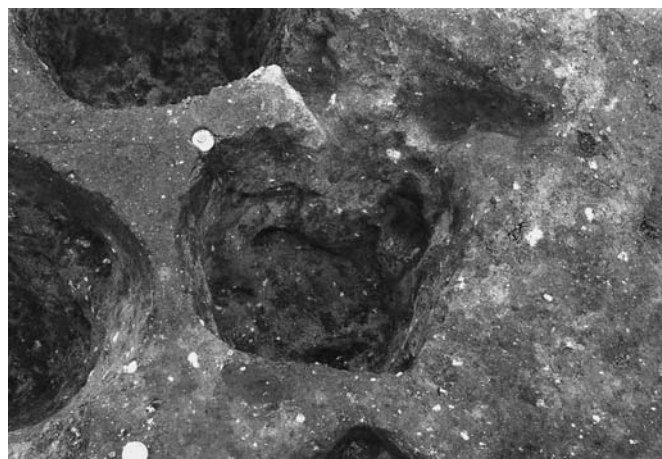
5-1178号土坑全景(南より)



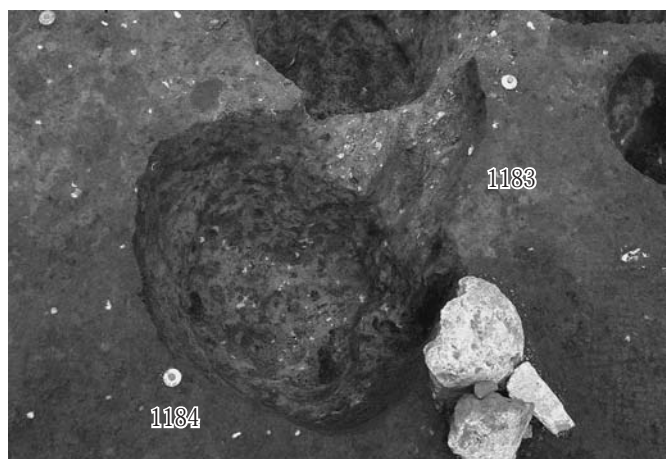
5-1179号土坑全景(南より)



5-1180号土坑全景(南より)



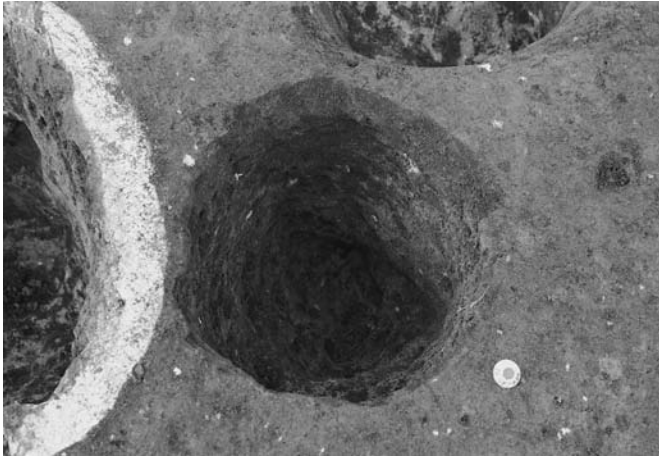
5-1182号土坑全景(南より)



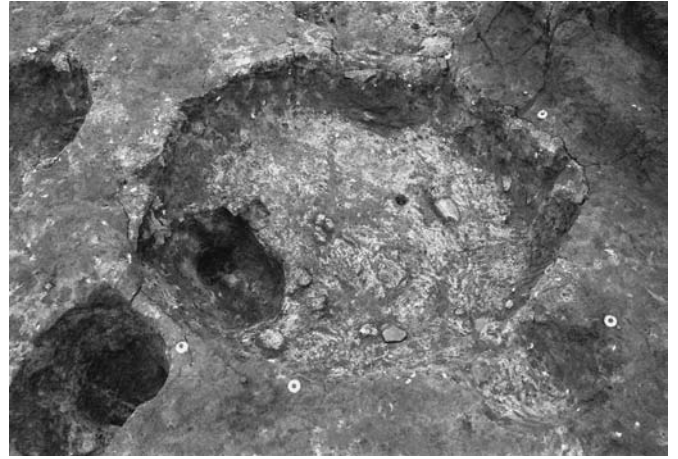
5-1183・1184号土坑全景(南より)



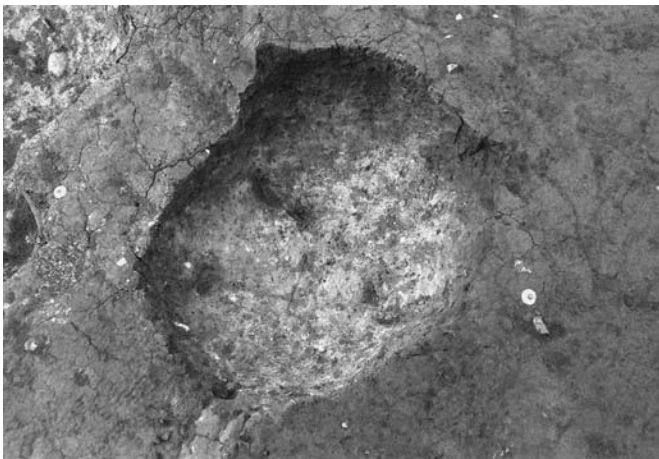
5-1186号土坑全景(南より)



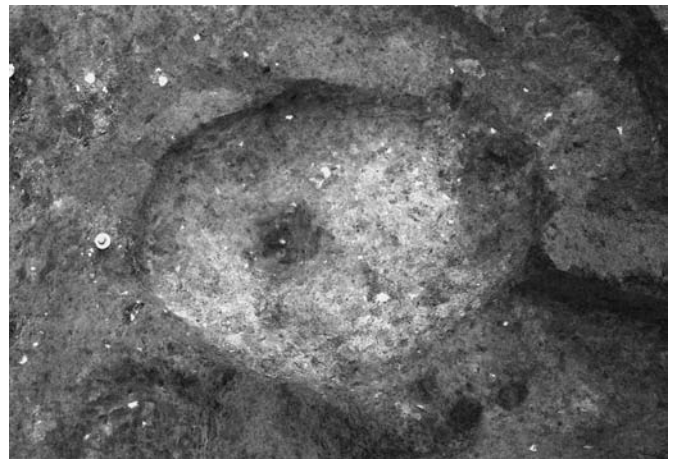
5-1187号土坑全景(南より)



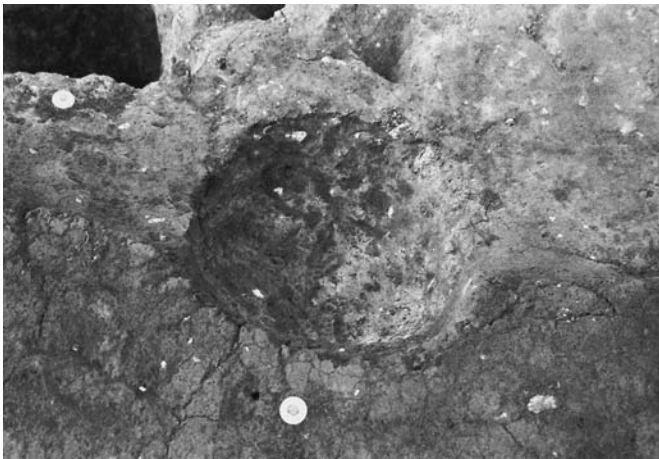
5-1188号土坑全景(南より)



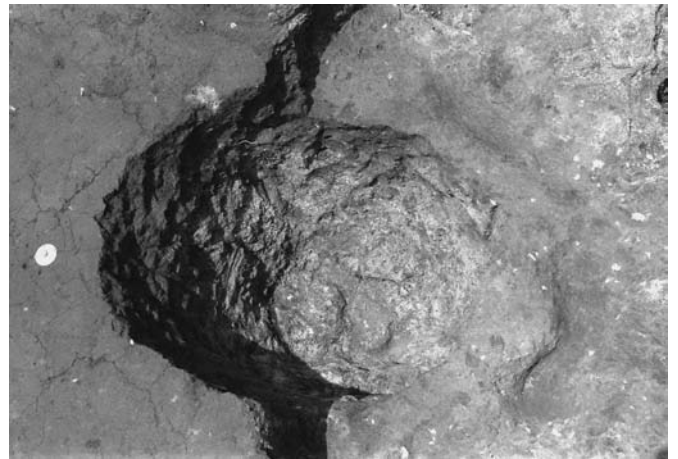
5-1189号土坑全景(南より)



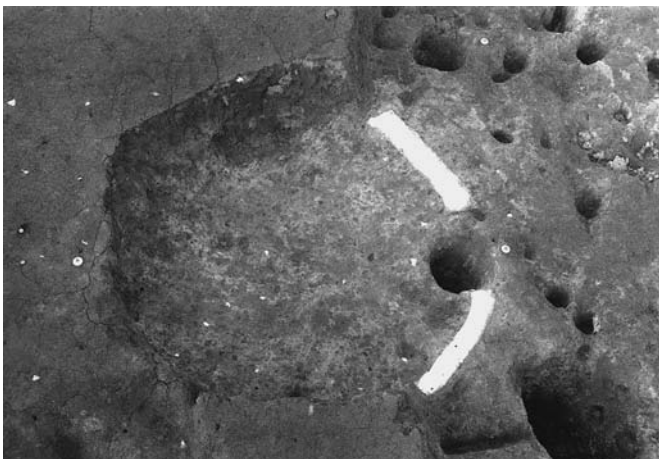
5-1190号土坑全景(南より)



5-1191号土坑全景(南より)



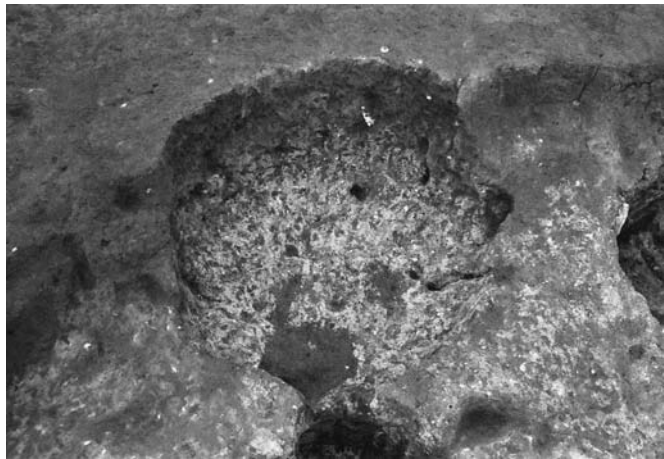
5-1192号土坑全景(南東より)



5-1193号土坑全景(南より)



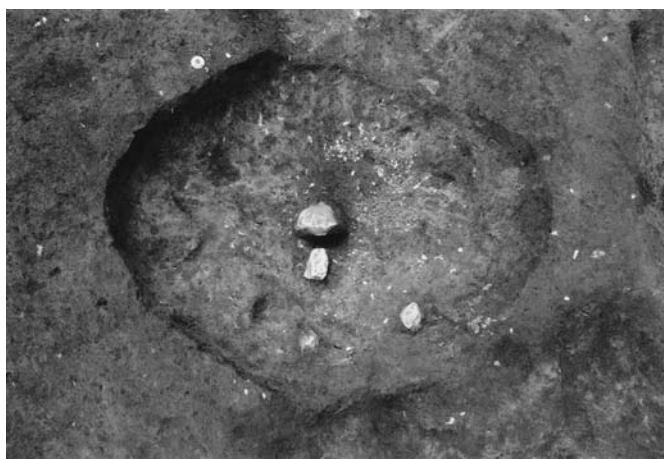
5-1194号土坑遺物出土状態(東より)



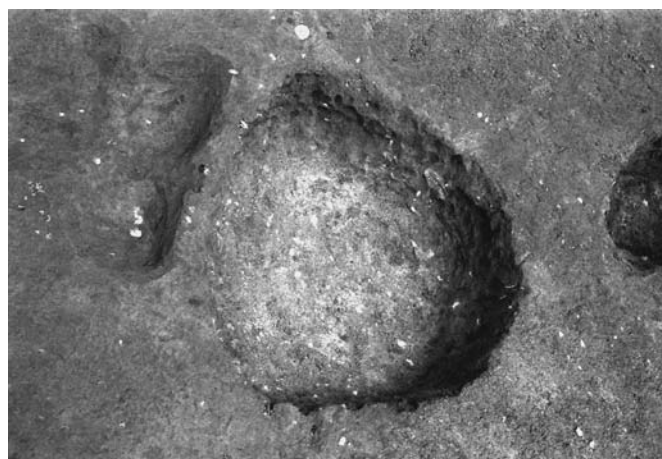
5-1194号土坑全景(東より)



5-1195号土坑全景(南より)



5-1196号土坑全景(東より)



5-1197号土坑全景(南より)



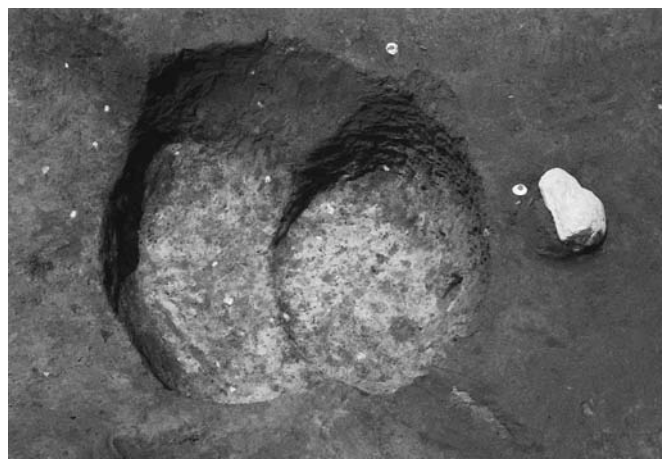
5-1198号土坑全景(南より)



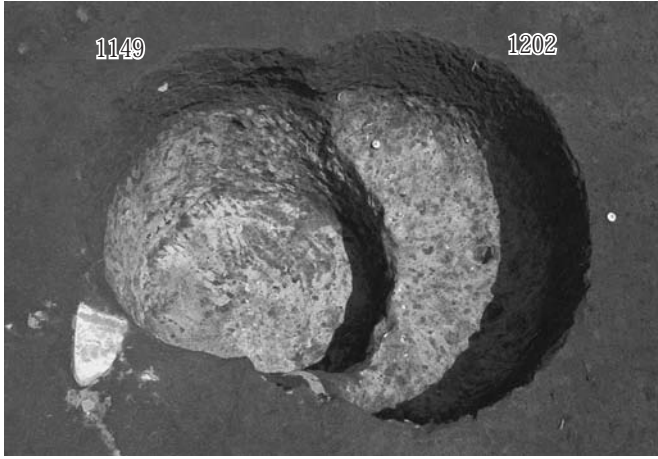
5-1199号土坑全景(南より)



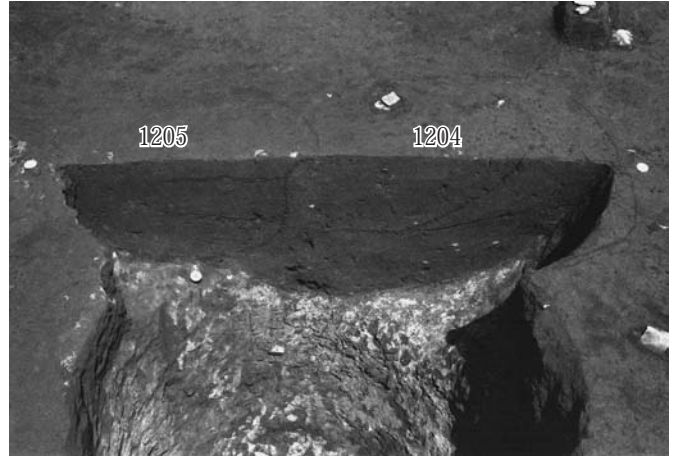
5-1200号土坑全景(東より)



5-1201号土坑全景(東より)



5-1149・1202号土坑全景(南より)



5-1204・1205号土坑セクション(南より)



5-1206号土坑全景(南より)



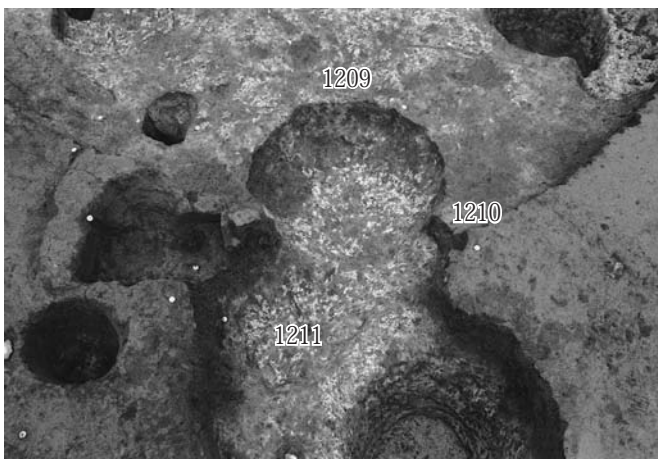
5-1207号土坑全景(南より)



5-1208号土坑セクション(南より)



5-1209号土坑遺物出土状態(東より)



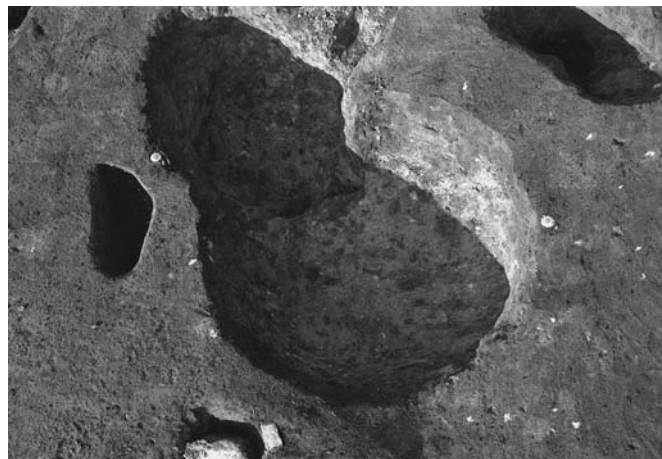
5-1209・1210・1211号土坑全景(南より)



5-1214号土坑全景(南より)



5-1220号土坑全景(南より)



5-1221号土坑全景(南より)



5-1223号土坑遺物出土状態(南より)



5-1224号土坑セクション(東より)



5-1224号土坑遺物出土状態(東より)



5-1225号土坑全景(西より)



5-1226号土坑セクション(北より)



5-1227号土坑全景(東より)



5-1228号土坑遺物出土状態(東より)



5-1228号土坑全景(東より)



5-1229号土坑全景(東より)



5-1230号土坑遺物出土状態(東より)



5-1231号土坑遺物出土状態(東より)



5-1232号土坑全景(東より)



5-1233号土坑全景(東より)



5-1234号土坑全景(東より)

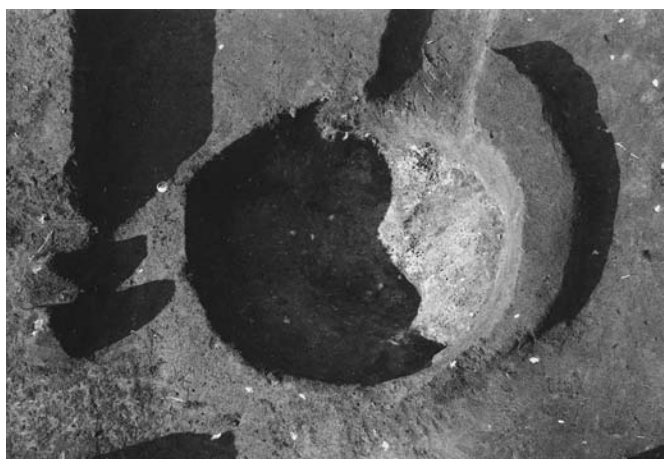




5-1235号土坑遺物出土状態(東より)



5-1236号土坑全景(南より)



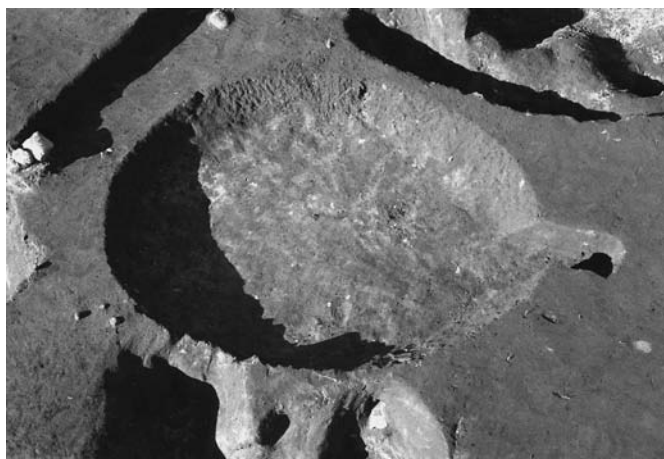
5-1237号土坑全景(東より)



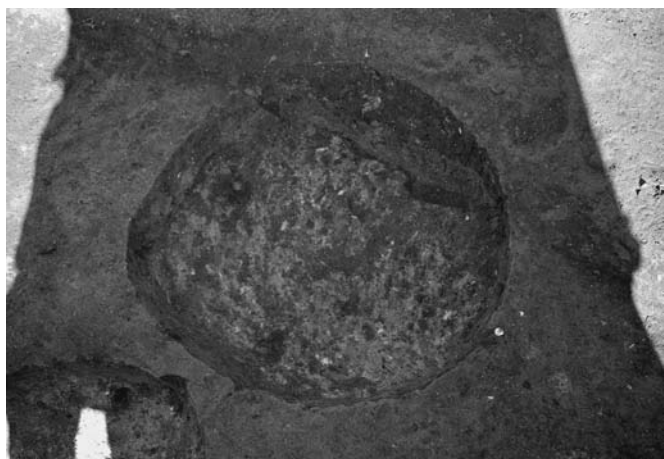
5-1238号土坑全景(南より)



5-1239号土坑遺物出土状態(南より)



5-1239号土坑全景(南東より)



5-1240号土坑全景(南より)



5-1241号土坑遺物出土状態(南より)



5-1242号土坑遺物出土状態(南より)



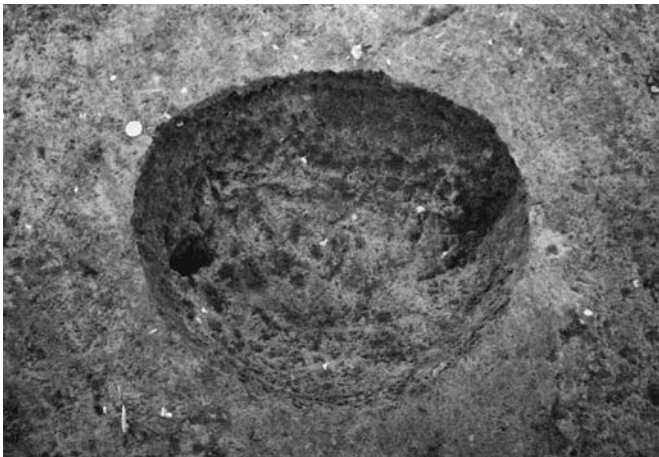
5-1243号土坑全景(南より)



5-1244号土坑全景(東より)



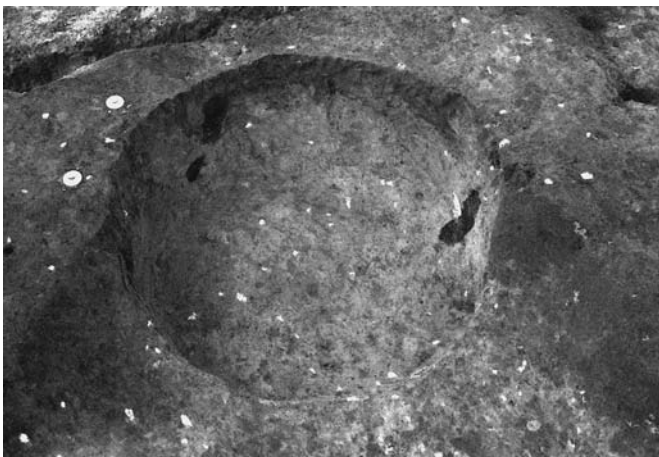
5-1245号土坑全景(南より)



5-1246号土坑全景(南より)



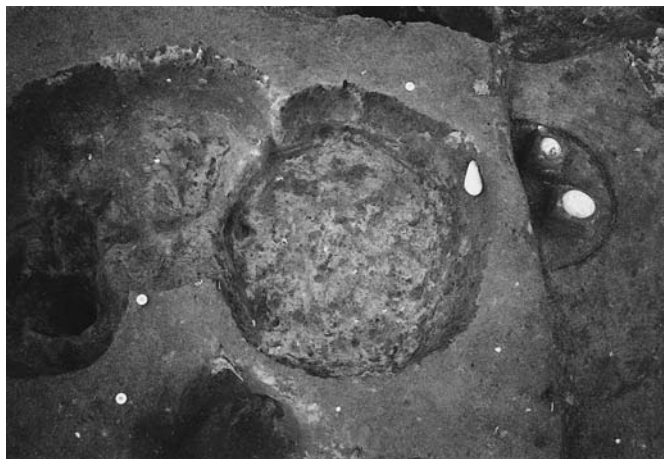
5-1247号土坑遺物出土状態(東より)



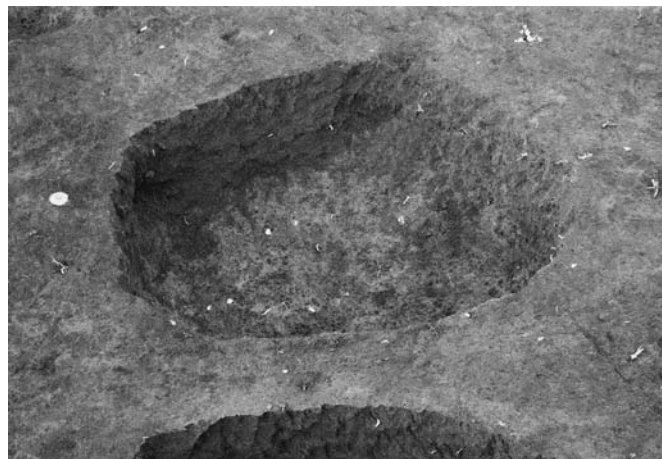
5-1247号土坑全景(東より)



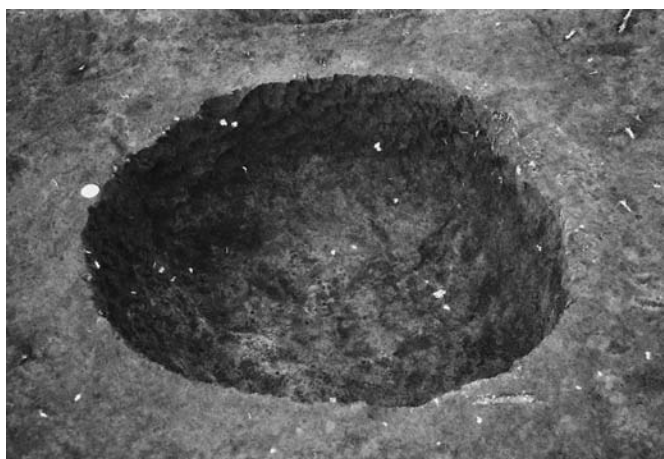
5-1248号土坑遺物出土状態(南より)



5-1248号土坑全景(南より)



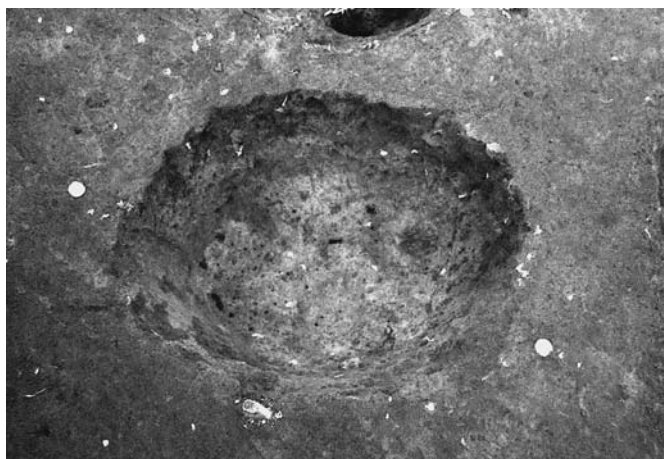
5-1249号土坑全景(南より)



5-1250号土坑全景(南より)



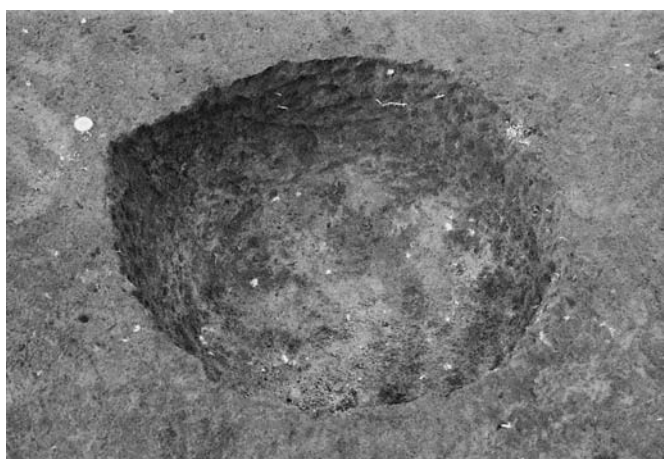
5-1251号土坑遺物出土状態(東より)



5-1252号土坑全景(南より)



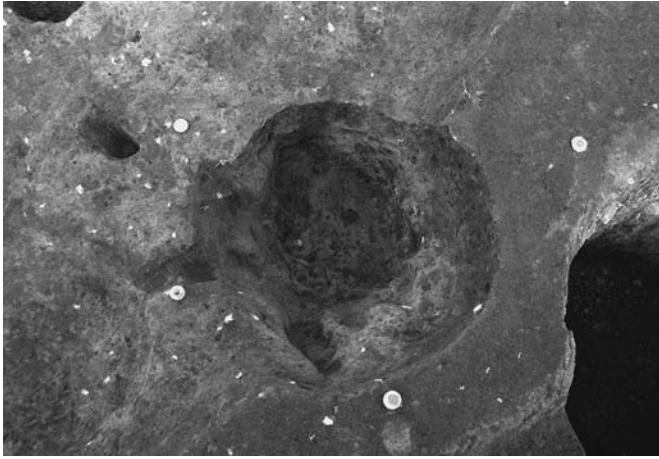
5-1253号土坑遺物出土状態(南より)



5-1254号土坑全景(南より)



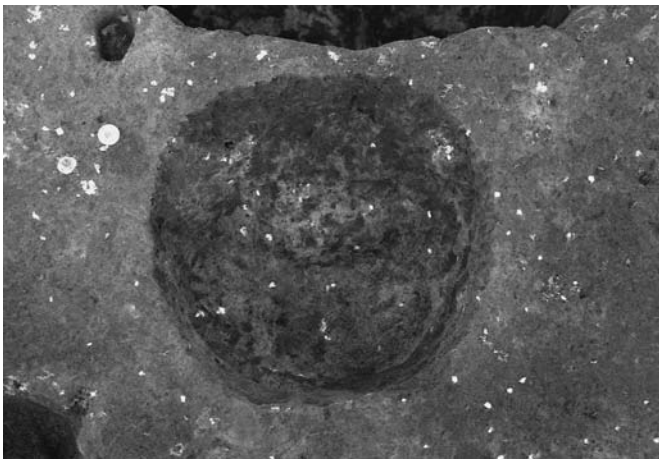
5-1255号土坑全景(東より)



5-1256号土坑全景(南より)



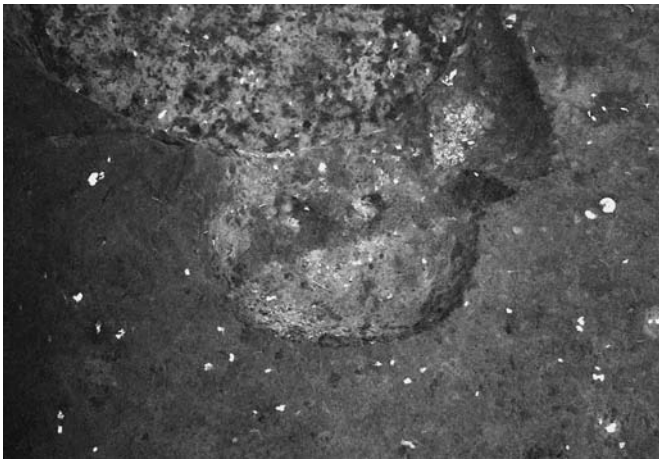
5-1257号土坑遺物出土状態(南東より)



5-1258号土坑全景(南より)



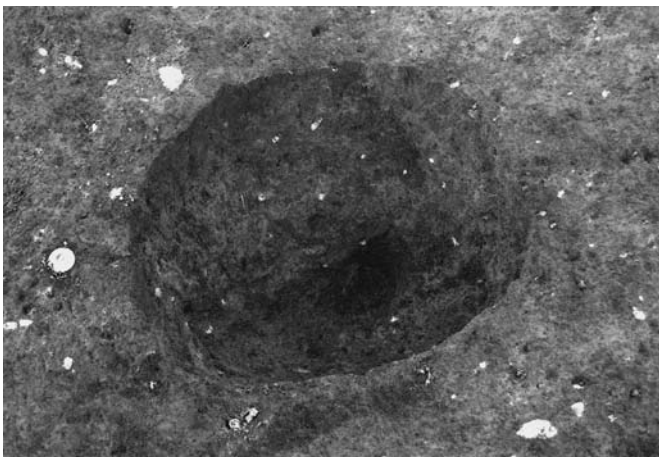
5-1259号土坑遺物出土状態(東より)



5-1260号土坑全景(東より)



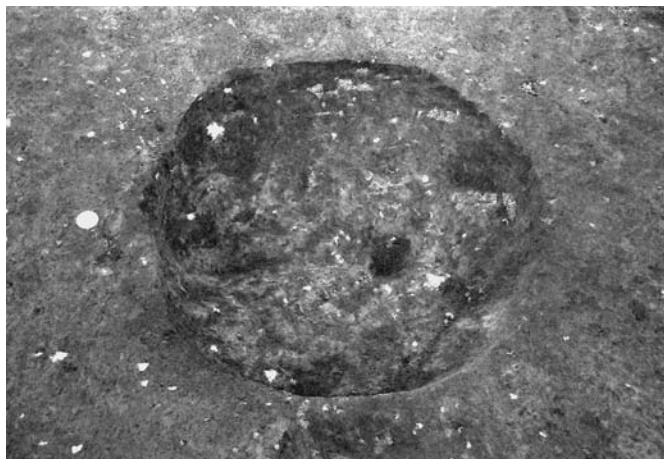
5-1261号土坑全景(南より)



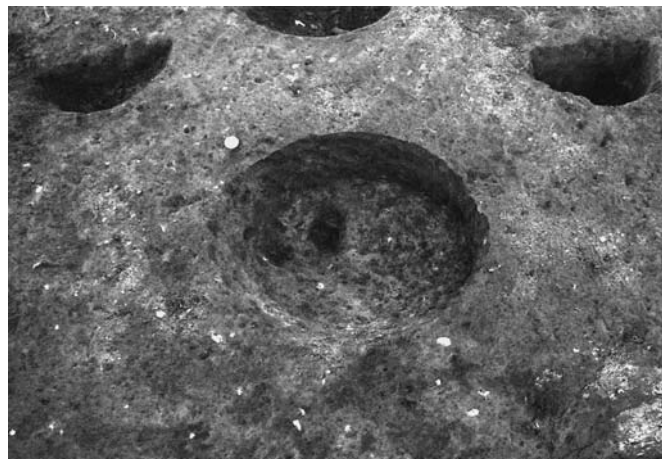
5-1262号土坑全景(南より)



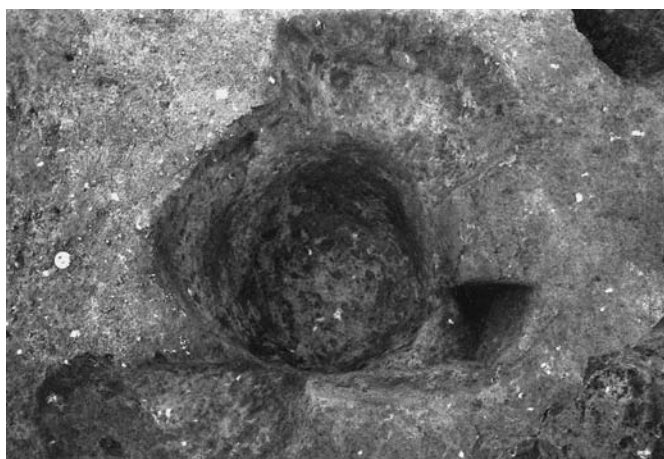
5-1263号土坑全景(南より)



5-1264号土坑全景(南より)



5-1265号土坑全景(南より)



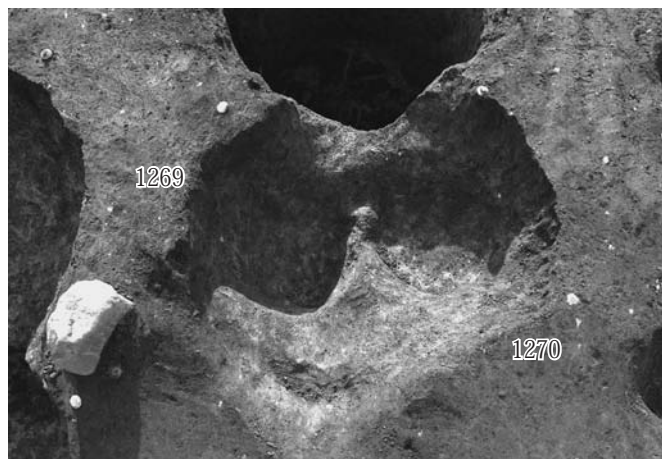
5-1266号土坑全景(南より)



5-1267号土坑全景(南より)



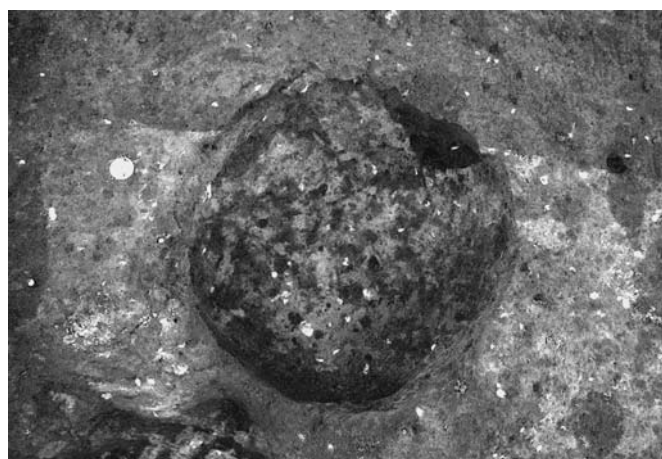
5-1268号土坑全景(東より)



5-1269・1270号土坑全景(東より)



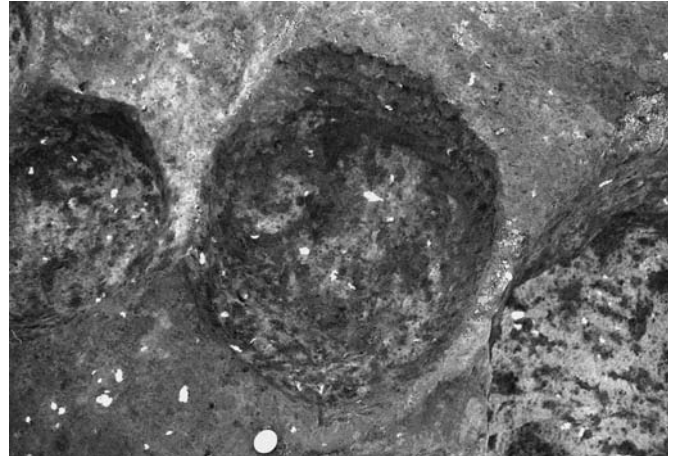
5-1271号土坑全景(南より)



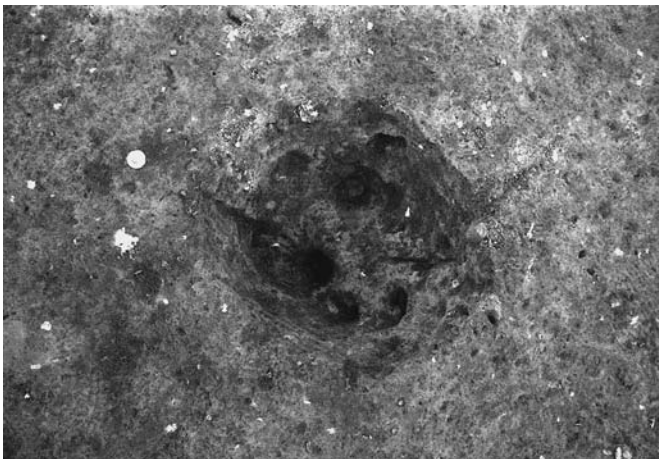
5-1272号土坑全景(南より)



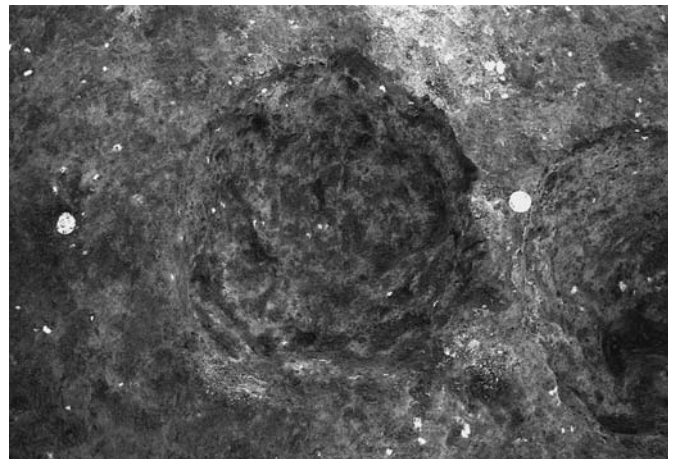
5-1273号土坑セクション(東より)



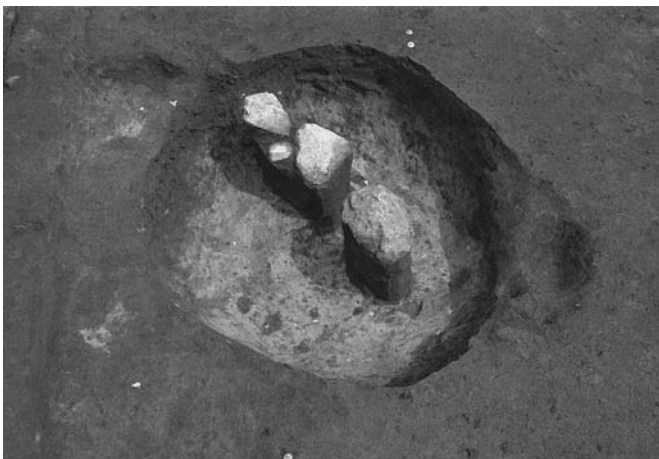
5-1273号土坑全景(南より)



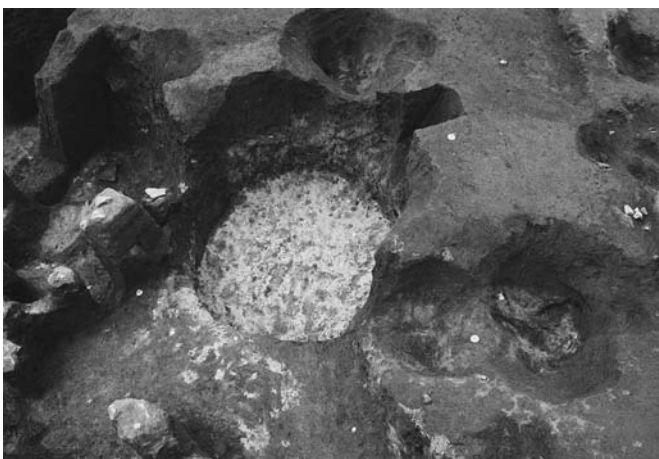
5-1274号土坑全景(南より)



5-1275号土坑全景(東より)



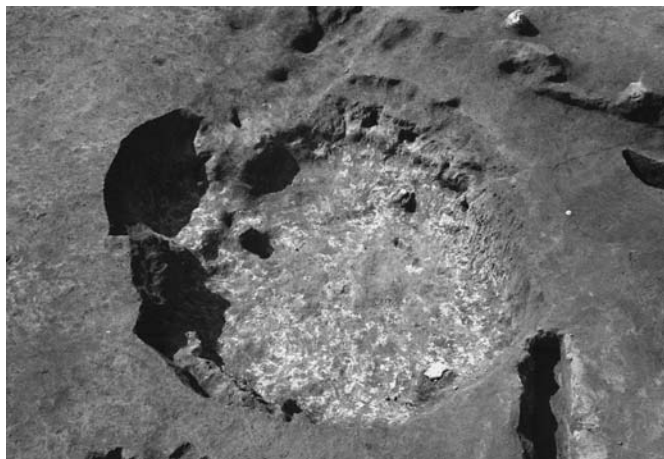
95-93号土坑全景(南より)



95-106号土坑全景(北より)



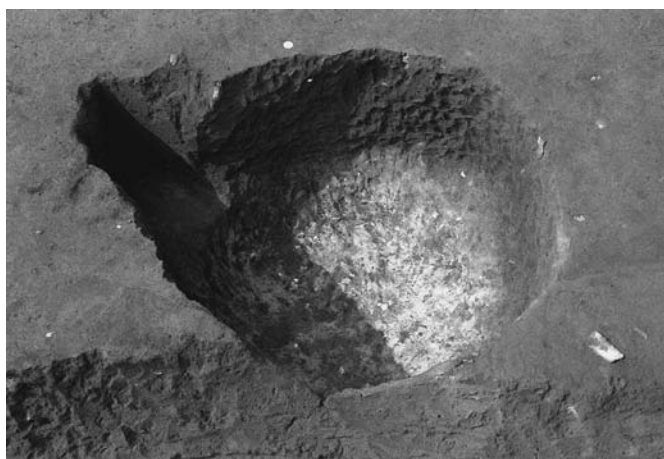
95-102号土坑全景(東より)



95-108号土坑全景(南より)



95-111号土坑全景(南より)



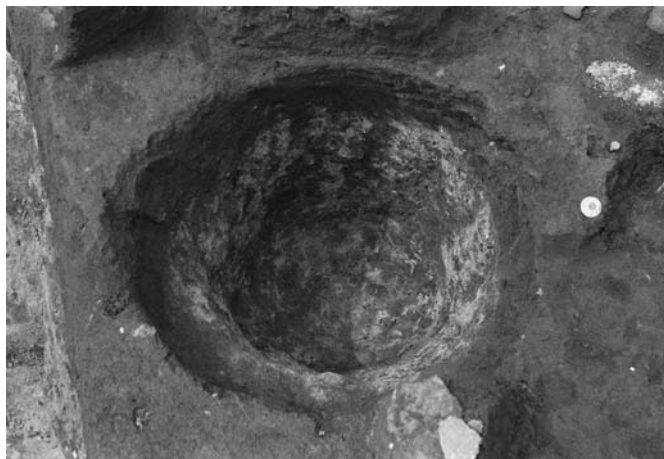
95-112号土坑全景(南より)



95-113号土坑遺物出土状態(南より)



95-113号土坑遺物出土状態(南より)



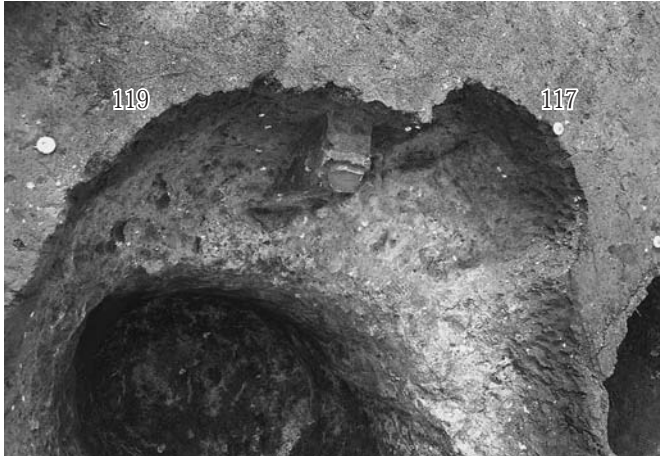
95-114号土坑全景(南より)



95-115号土坑全景(南より)



95-116号土坑全景(南より)



95-117・119号土坑全景(南西より)



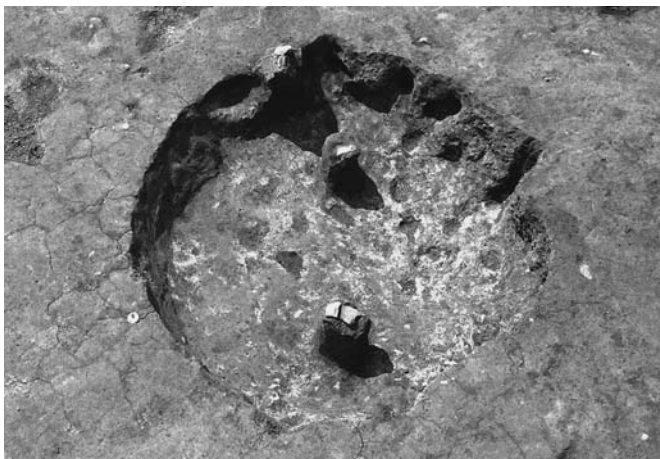
95-118号土坑全景(南より)



95-120号土坑セクション(南より)



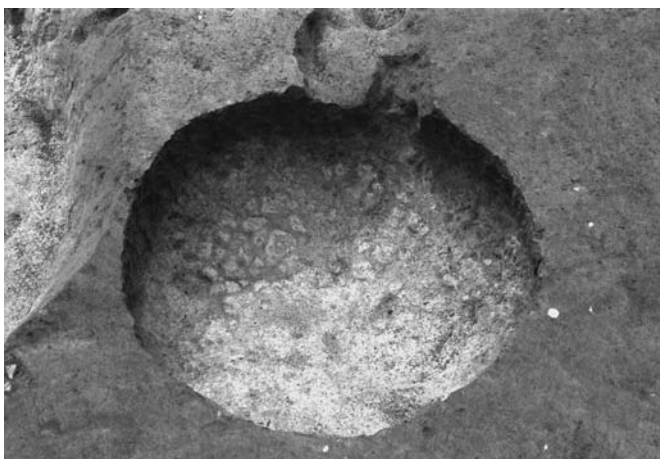
95-121号土坑セクション(東より)



95-122号土坑全景(南より)



95-123号土坑遺物出土状態(東より)

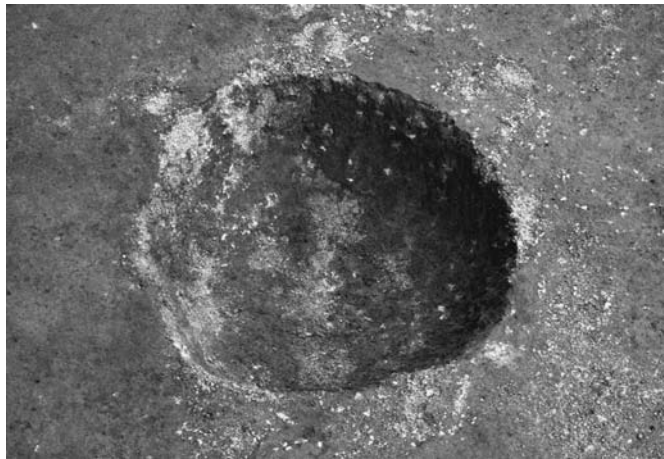


95-123号土坑全景(東より)

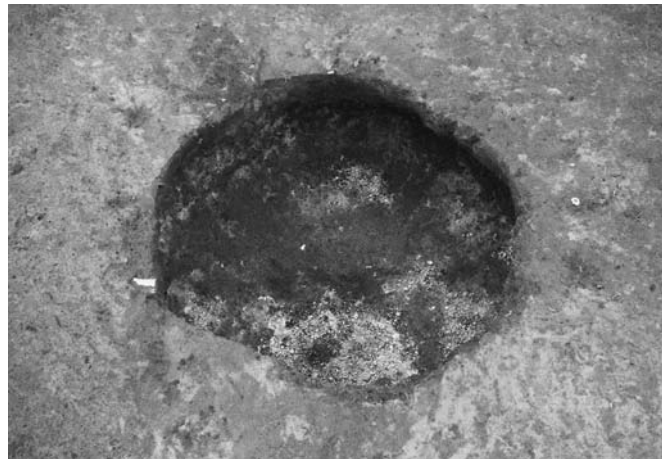


95-124号土坑全景(南より)





95-125号土坑全景(東より)



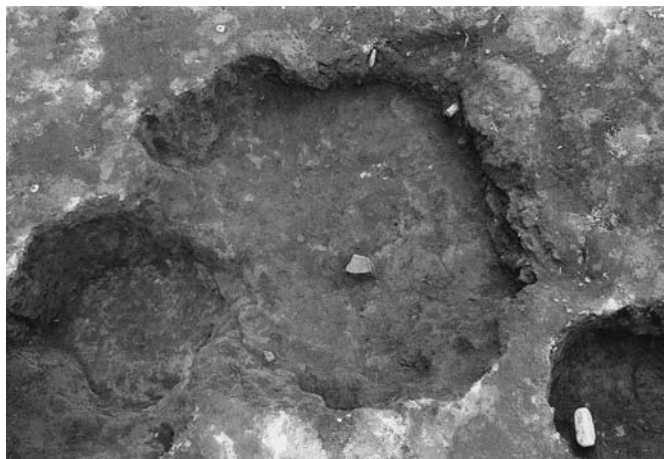
95-126号土坑全景(北より)



95-127号土坑全景(東より)



95-128号土坑全景(南より)



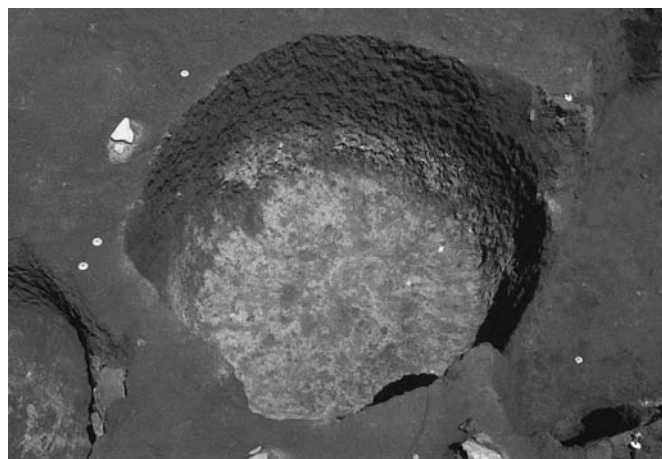
95-129号土坑全景(東より)



95-130号土坑遺物出土状態(南より)



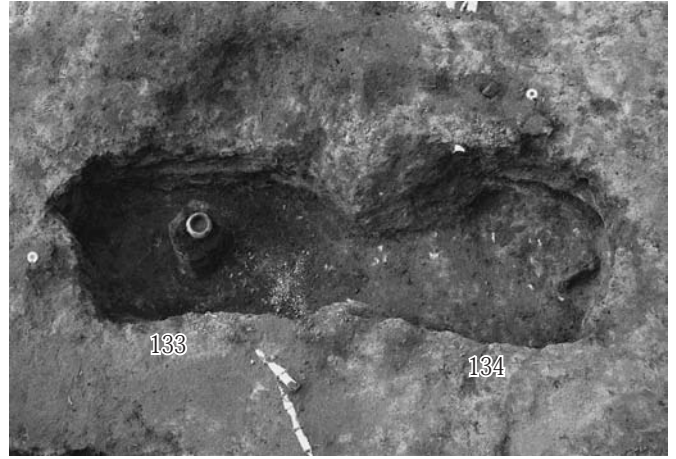
95-131号土坑遺物出土状態(南より)



95-131号土坑全景(南より)



95-132号土坑全景(南より)



95-133・134号土坑全景(南より)



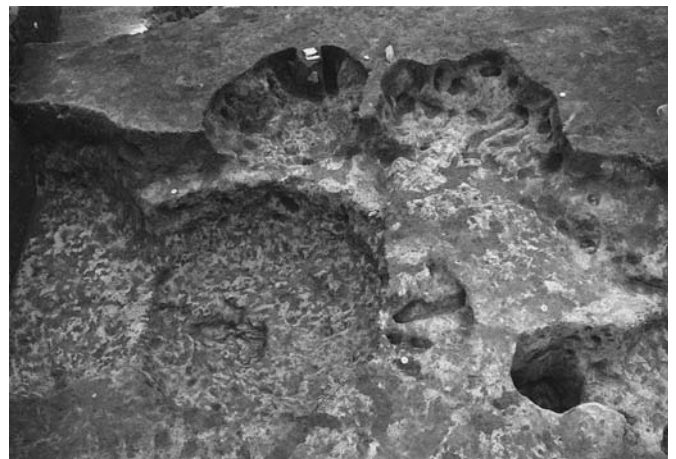
95-135号土坑全景(東より)



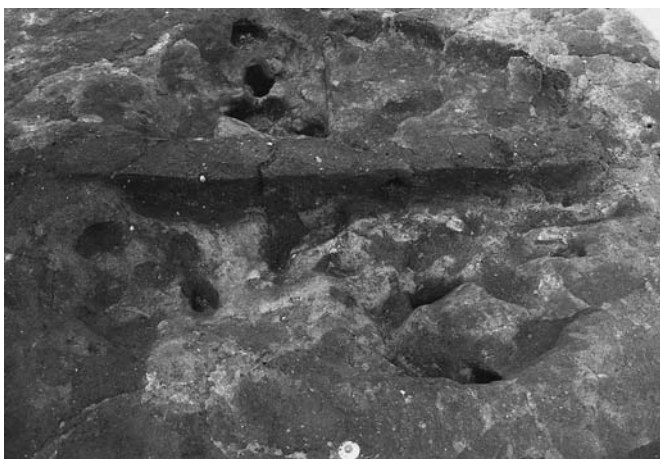
95-136号土坑全景(南より)



95-137号土坑遺物出土状態(東より)



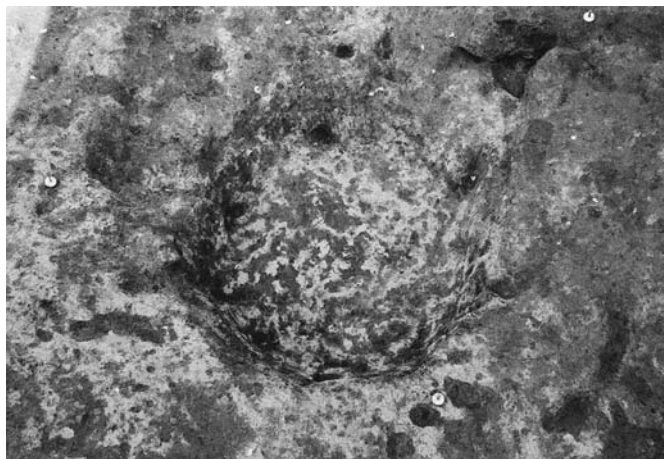
95-137号土坑全景(西より)



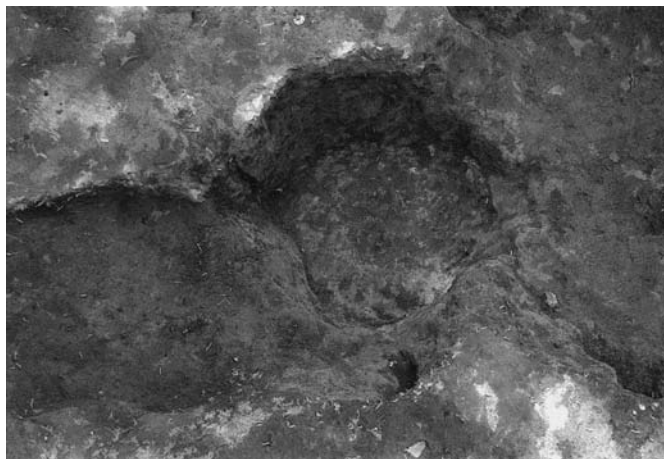
95-138号土坑セクション(東より)



95-139号土坑全景(南より)



95-140号土坑全景(南より)



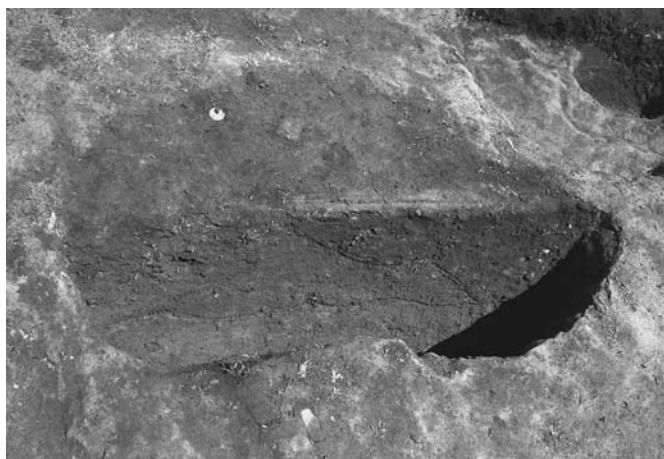
95-141号土坑全景(東より)



95-142号土坑遺物出土状態(南より)



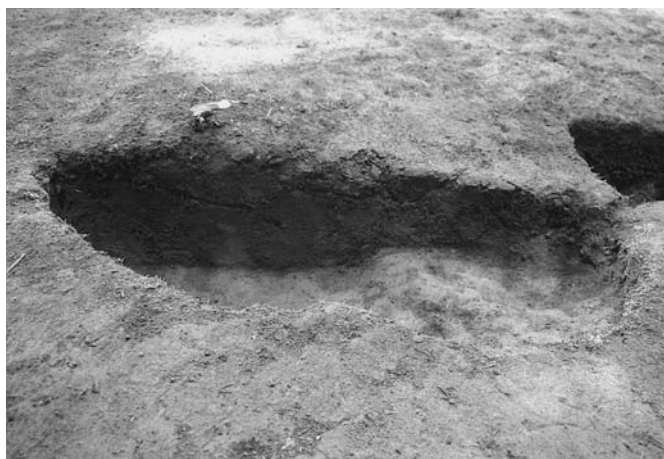
95-143号土坑セクション(南より)



95-144号土坑セクション(南より)



95-145号土坑セクション(南より)



95-146号土坑セクション(南より)



95-147号土坑セクション(南より)



95-148号土坑全景(南より)



95-149号土坑全景(南より)



95-150号土坑全景(南より)



95-151号土坑全景(南より)



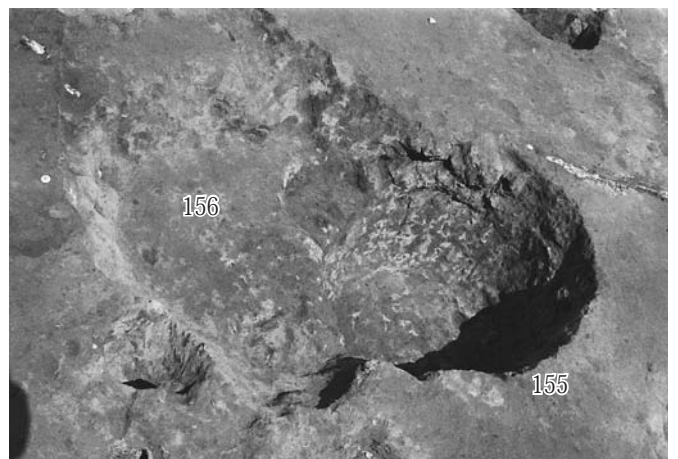
95-152号土坑全景(南より)



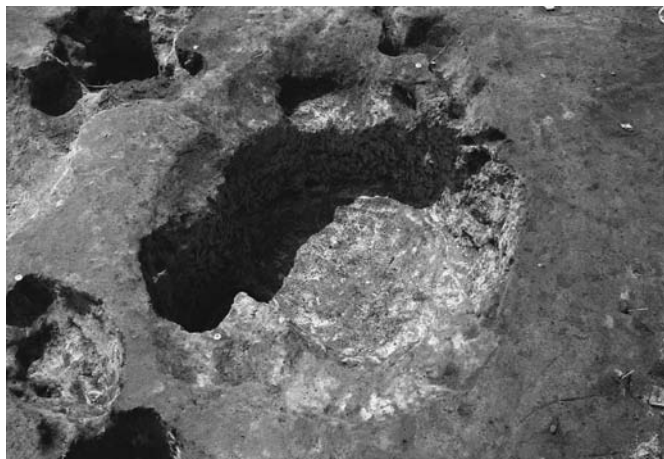
95-153号土坑全景(南より)



95-154号土坑遺物出土状態(西より)



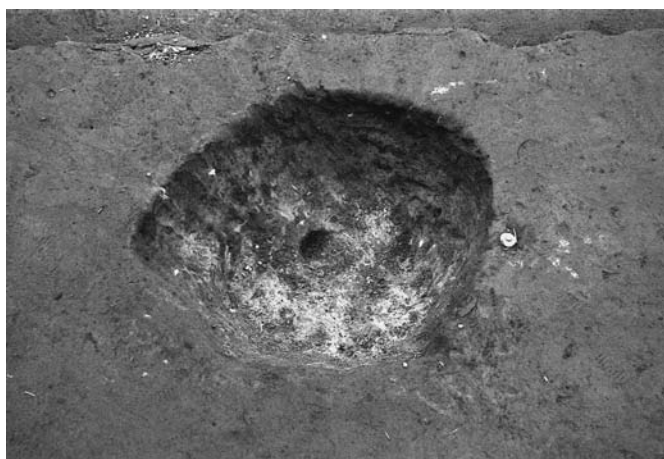
95-155・156号土坑全景(南より)



95-157号土坑全景(東より)



95-159号土坑全景(東より)



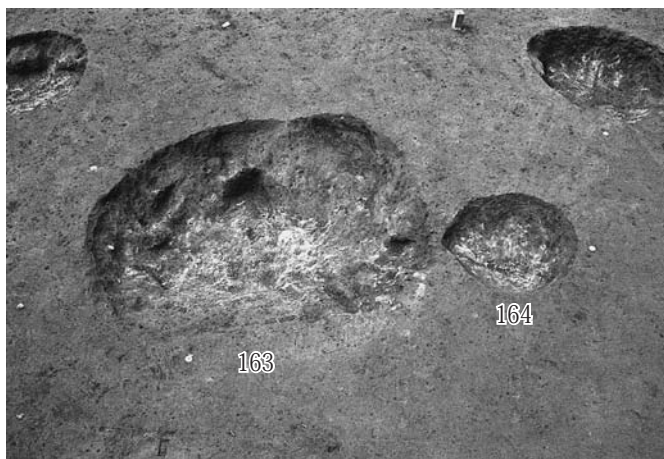
95-160号土坑全景(南より)



95-161号土坑全景(南より)



95-162号土坑全景(東より)



95-163・164号土坑全景(南より)



95-165号土坑全景(南より)



95-166号土坑遺物出土状態(南より)



95-166号土坑全景(南より)



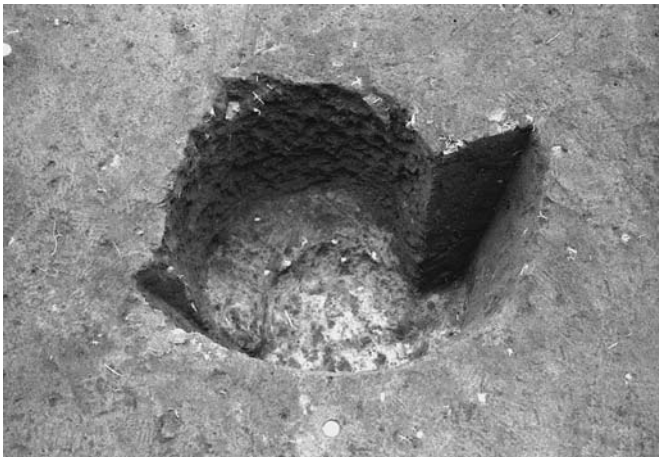
95-167号土坑全景(南より)



95-168号土坑遺物出土状態(南より)



95-168号土坑全景(南より)



95-169号土坑全景(南より)



95-170号土坑全景(北より)



95-171号土坑全景(南より)



95-172号土坑全景(西より)



95-173号土坑セクション(北より)



95-174号土坑全景(北より)



95-175号土坑全景(南より)



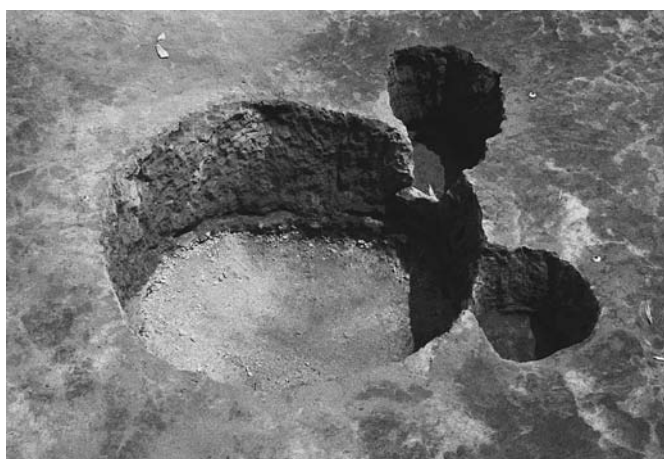
95-176号土坑全景(西より)



95-178号土坑全景(南より)



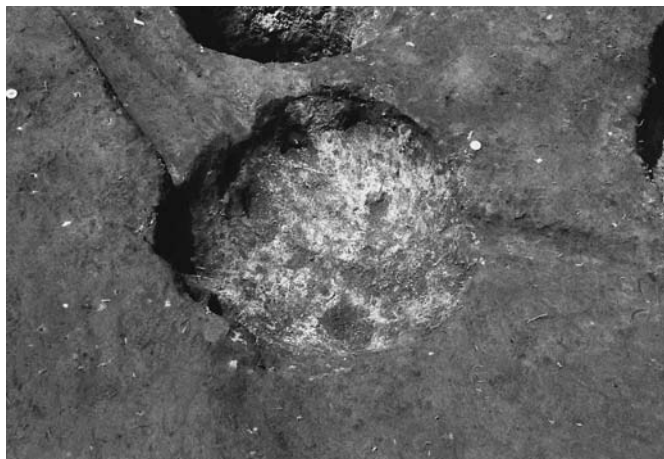
95-179号土坑全景(南より)



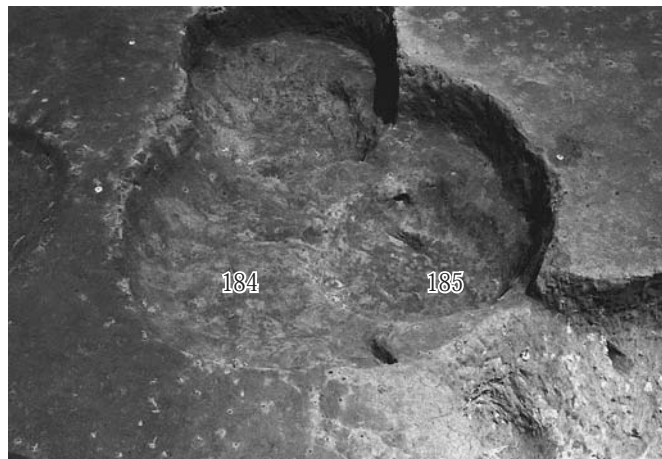
95-180号土坑全景(南より)



95-182号土坑全景(北より)



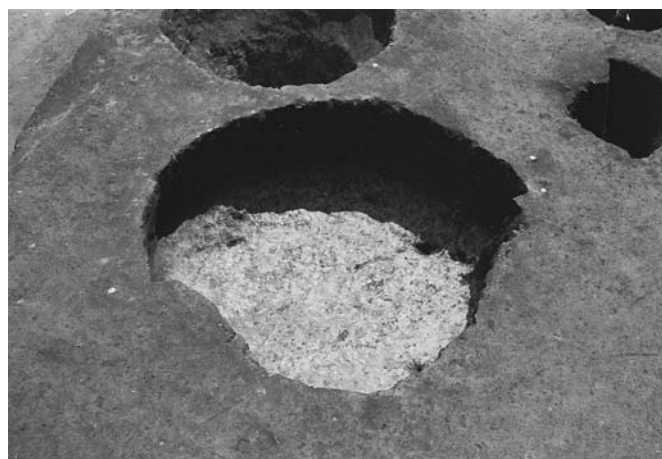
95-183号土坑全景(北より)



95-184・185号土坑全景(南より)



95-186号土坑遺物出土状態(東より)



95-186号土坑全景(西より)



95-189号土坑遺物出土状態(北より)



95-190号土坑全景(南より)



95-191号土坑全景(南より)

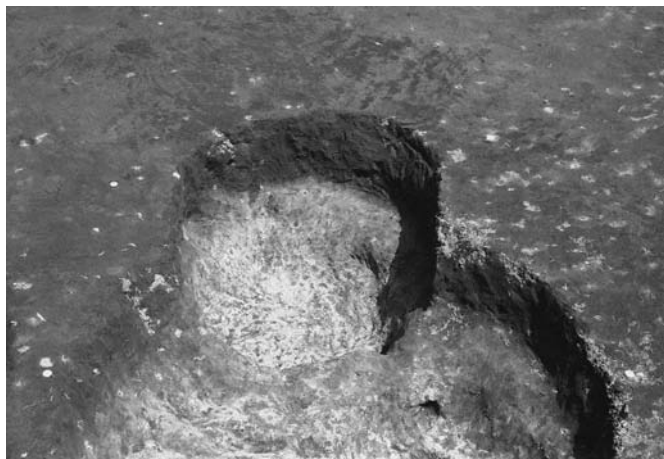


95-192号土坑全景(南より)





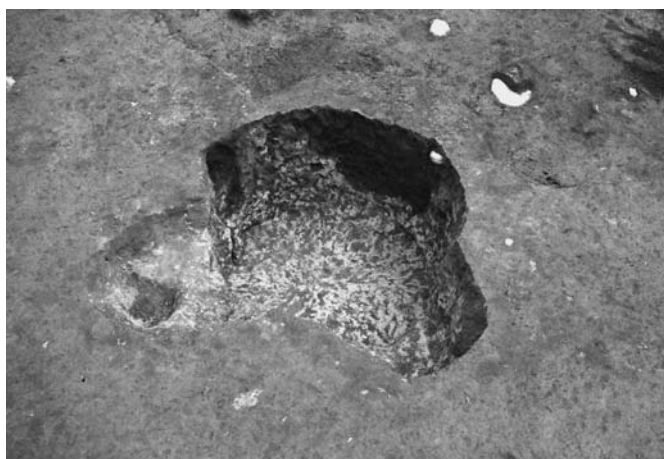
95-193号土坑全景(南より)



95-194号土坑全景(南より)



95-195号土坑全景(南より)



95-196号土坑全景(南より)



95-197号土坑全景(南より)



95-198号土坑全景(南より)



95-199号土坑全景(南より)



95-200号土坑遺物出土状態(南西より)



95-201号土坑全景(南より)



95-202号土坑遺物出土状態(南より)



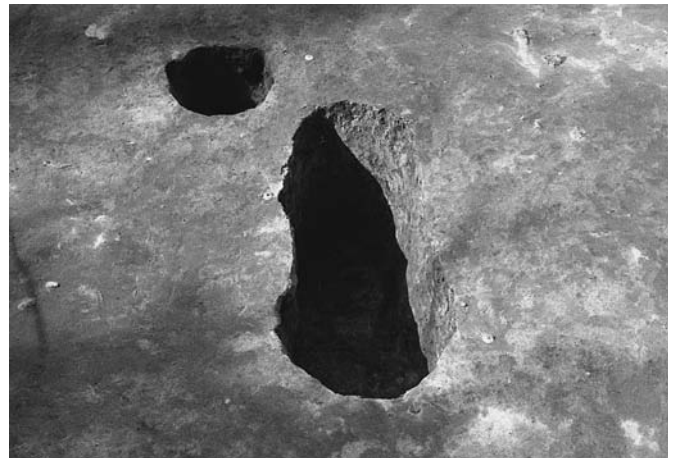
95-202号土坑全景(南より)



95-203号土坑全景(南より)



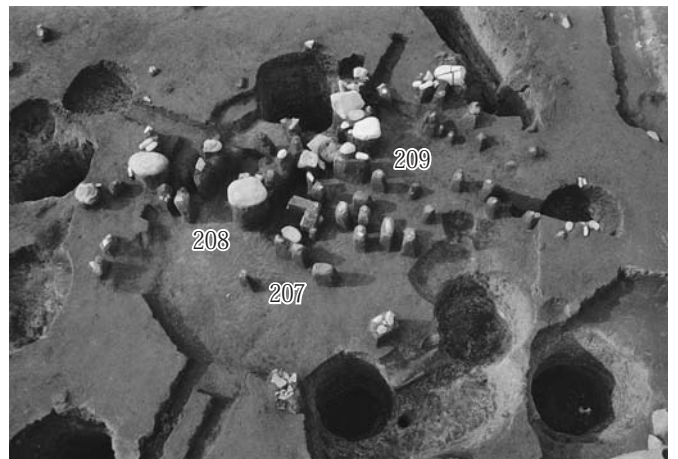
95-204号土坑全景(南より)



95-205号土坑全景(南より)



95-206号土坑全景(西より)



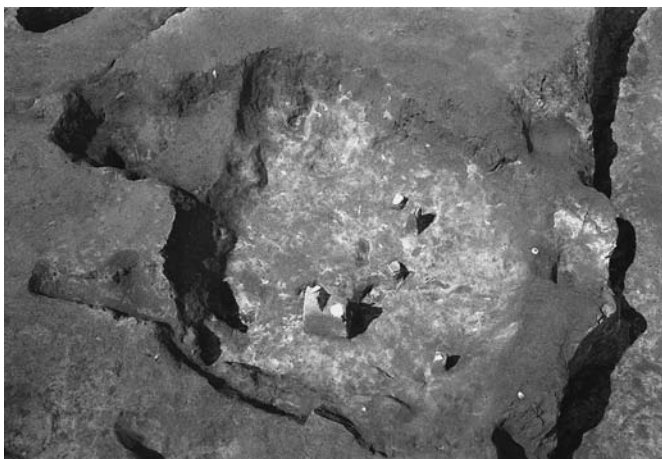
95-207・208・209号土坑遺物出土状態(南より)



95-208号土坑全景(南より)



95-210号土坑セクション(南より)



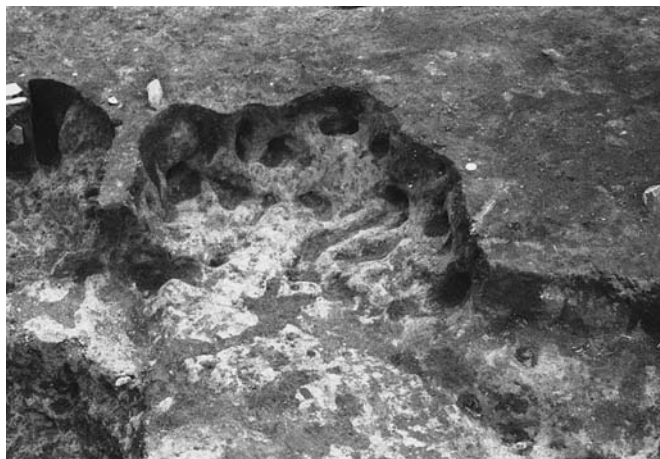
95-211号土坑遺物出土状態(南より)



95-212号土坑遺物出土状態(西より)



95-212号土坑全景(東より)



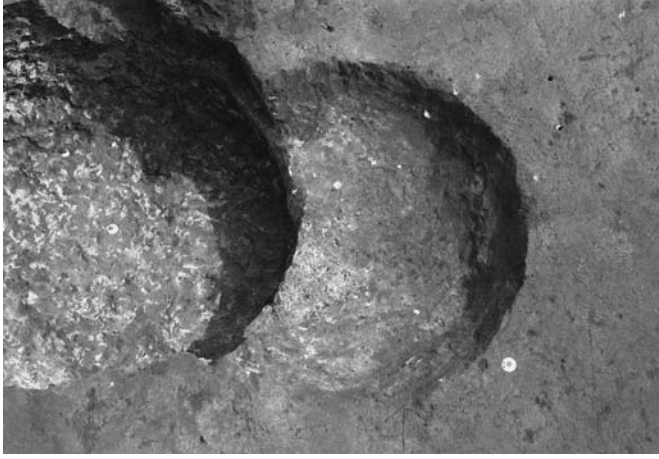
95-213号土坑全景(西より)



95-214号土坑セクション(西より)



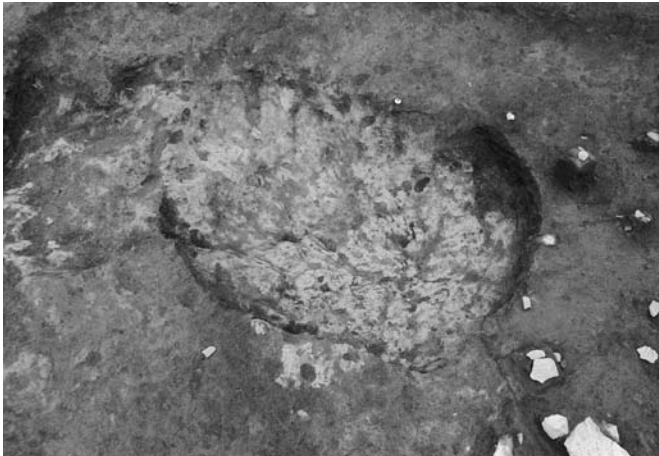
95-214号土坑全景(南より)



95-215号土坑全景(南より)



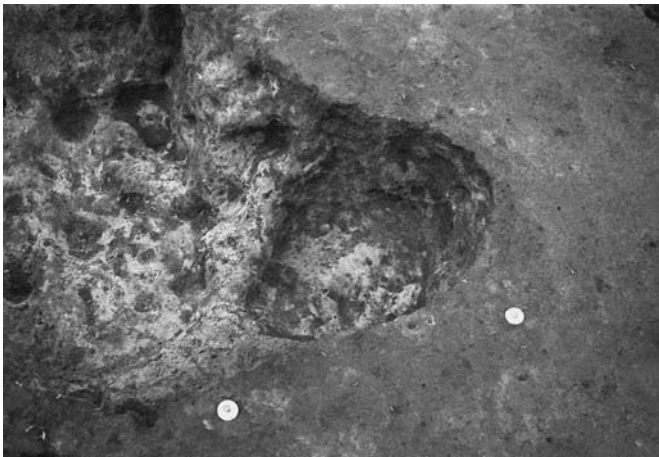
95-216号土坑遺物出土状態(南より)



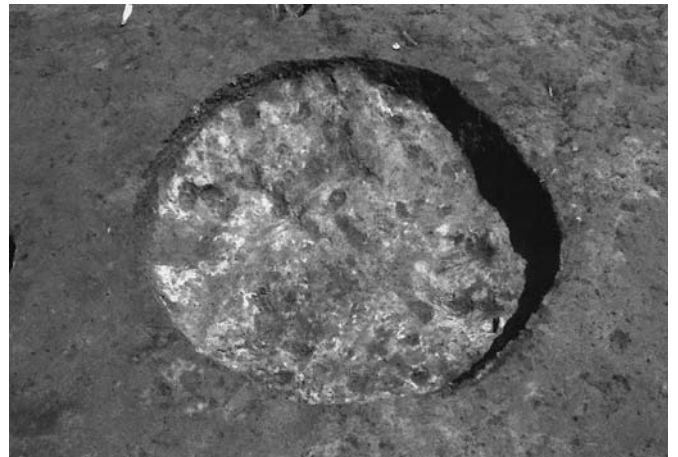
95-216号土坑全景(南より)



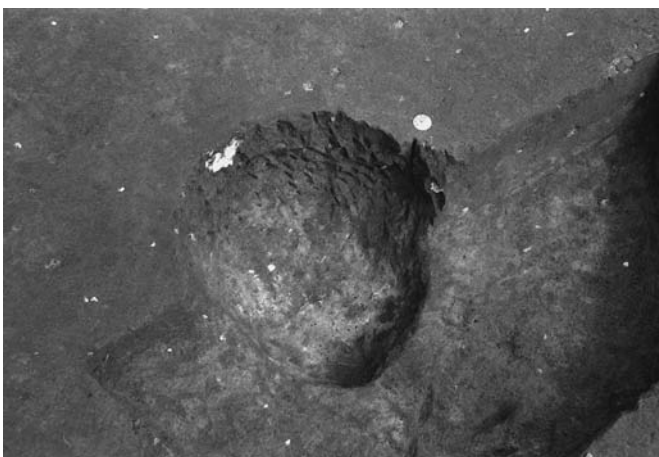
95-217号土坑石棒出土状態(東より)



95-218号土坑全景(南より)



95-219号土坑全景(南より)



95-220号土坑全景(南より)



95-222号土坑全景(東より)



95-223号土坑全景(南より)



95-224号土坑セクション(東より)



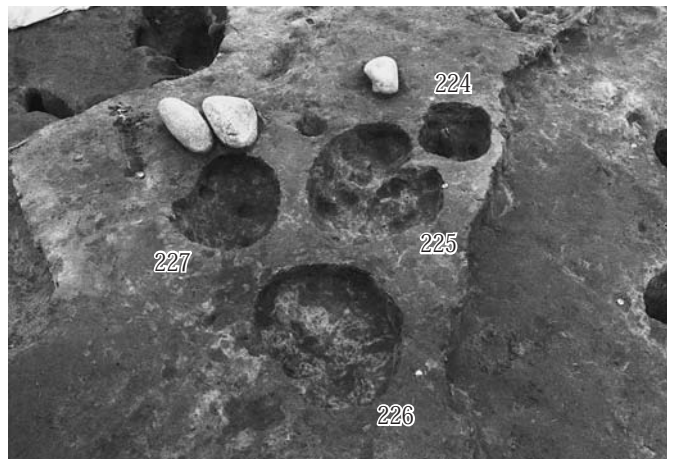
95-225号土坑セクション(南より)



95-226号土坑セクション(南より)



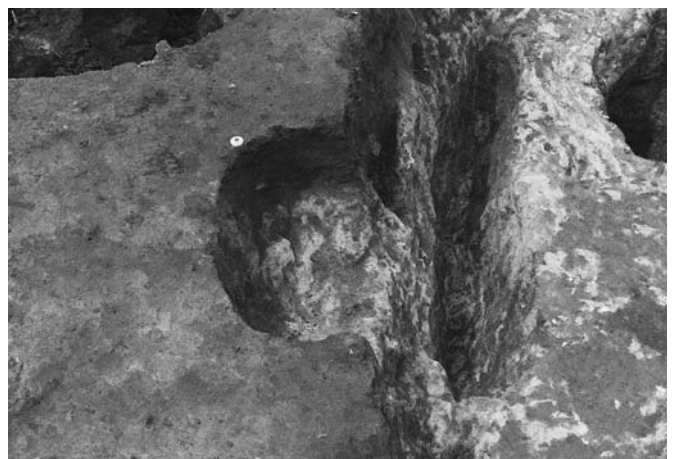
95-227号土坑セクション(南より)



95-224 ~ 227号土坑全景(南より)



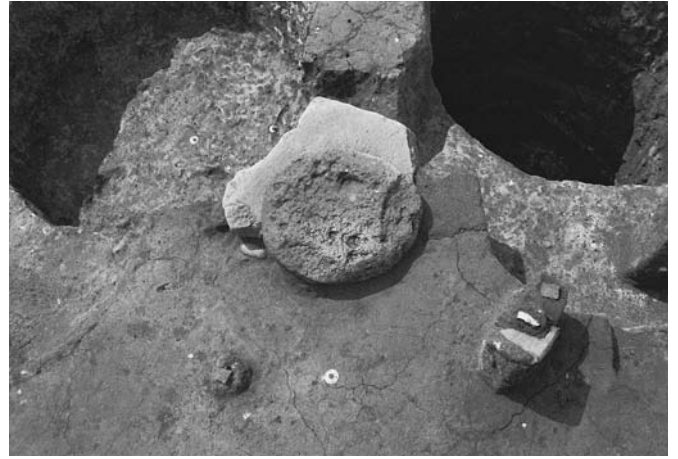
95-228号土坑全景(東より)



95-229号土坑全景(東より)



95-230号土坑セクション(西より)



95-230号土坑遺物出土状態(東より)



95-230号土坑全景(南より)



95-231号土坑全景(南より)



95-232号土坑遺物出土状態(南西より)



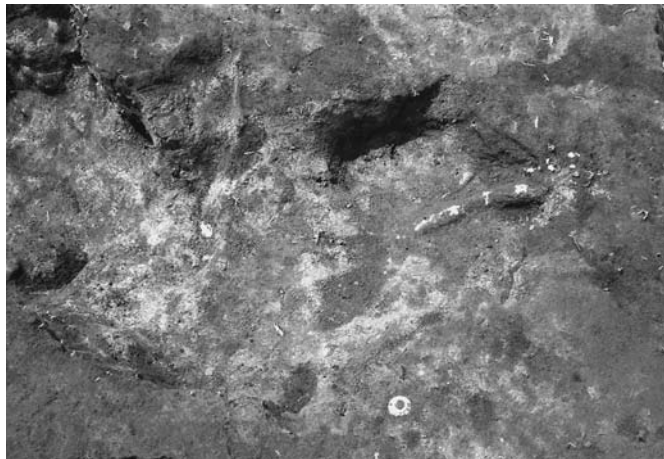
95-233号土坑全景(東より)



95-234号土坑セクション(北より)



95-234号土坑全景(東より)



95-235号土坑全景(東より)



95-236号土坑セクション(東より)



95-237号土坑セクション(東より)



95-238号土坑全景(東より)



95-239号土坑遺物出土状態(南より)



95-239号土坑全景(南より)



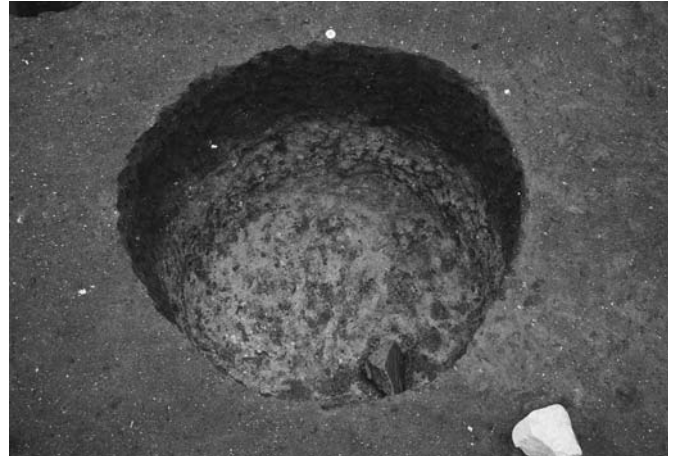
95-240号土坑全景(南より)



95-241号土坑全景(南より)



95-243号土坑全景(南より)



95-244号土坑全景(南より)



95-245号土坑セクション(東より)



95-246号土坑遺物出土状態(西より)



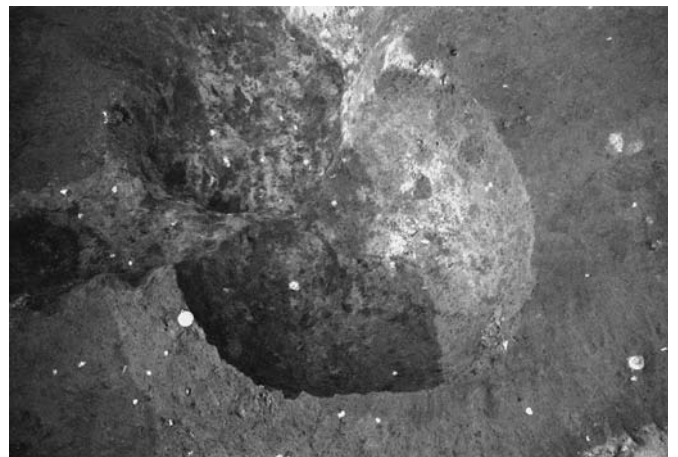
95-246号土坑全景(南より)



95-247号土坑全景(南より)



95-248号土坑セクション(南より)

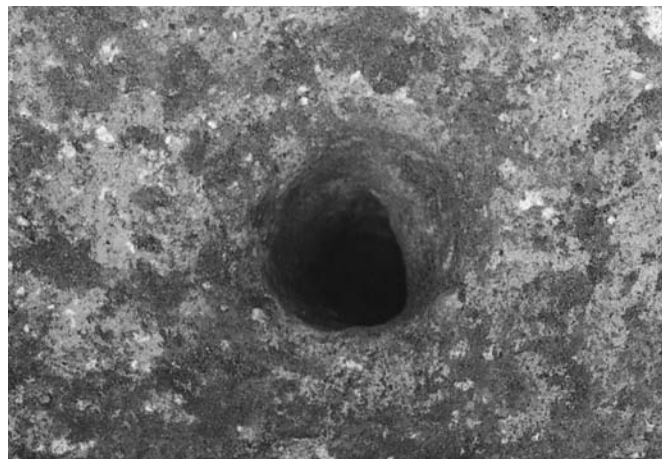


95-249号土坑全景(南より)





95-250号土坑全景(北東より)



95-250号土坑底面ピット



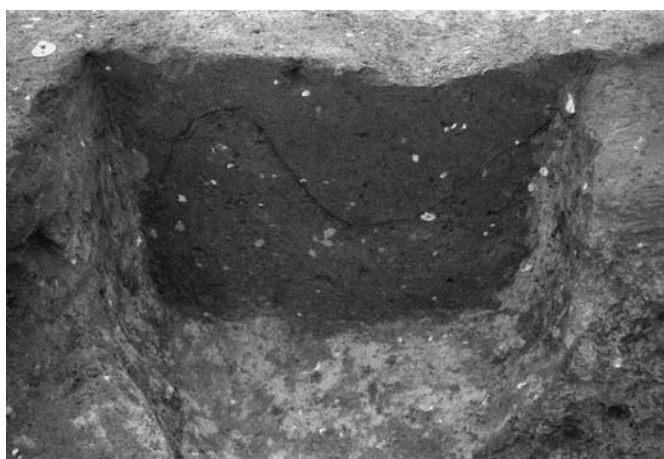
95-251号土坑全景(南西より)



95-252号土坑全景(南より)



95-253号土坑セクション(東より)



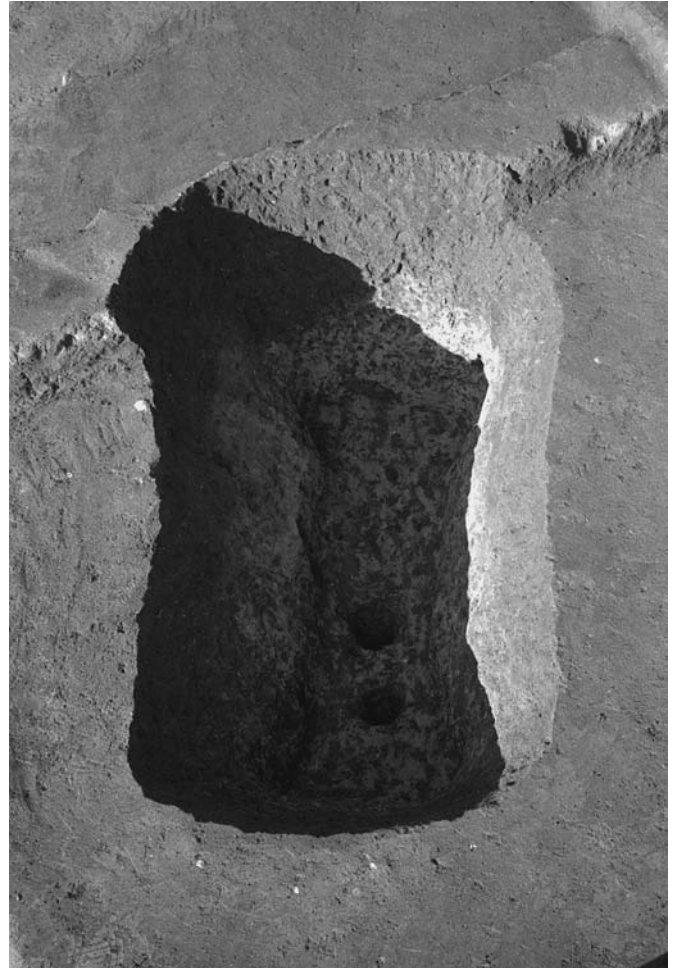
95-254号土坑セクション(北より)



95-255号土坑遺物出土状態(南より)



95-256号土坑セクション(北東より)



95-256号土坑全景(南西より)



95-256号土坑底面ピットセクション(北東より)



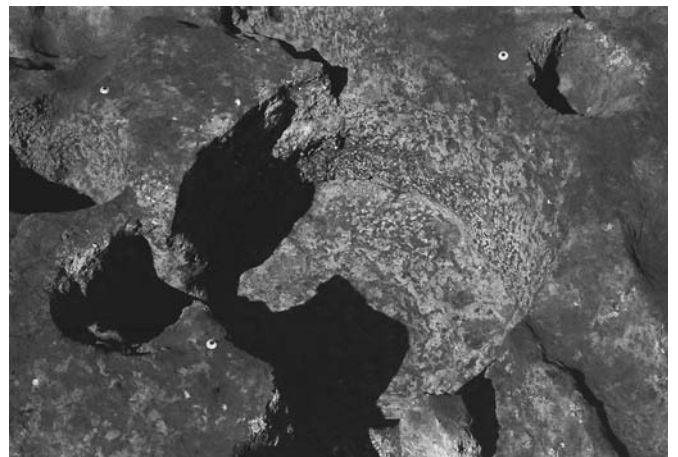
95-257号土坑遺物出土状態(東より)



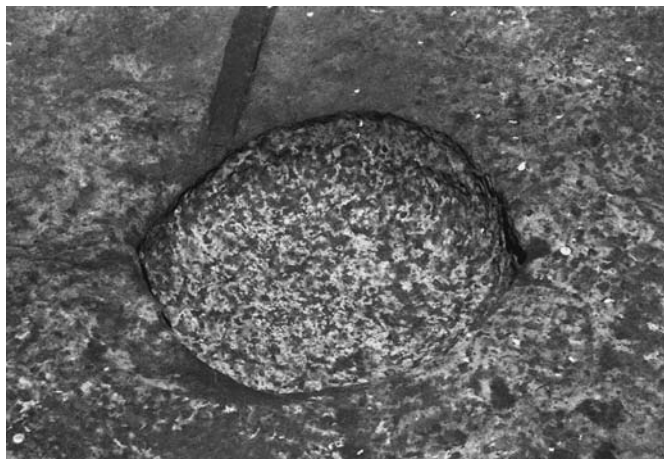
95-257号土坑全景(西より)



95-258号土坑全景(南より)



95-259号土坑全景(南より)



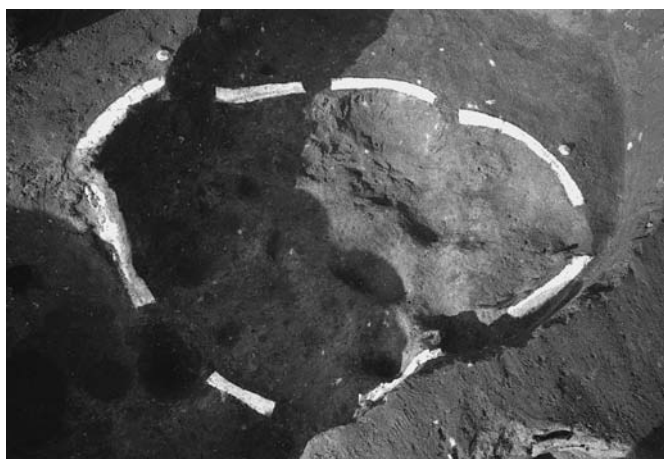
95-260号土坑全景(南より)



95-261号土坑全景(南より)



95-262号土坑全景(南より)



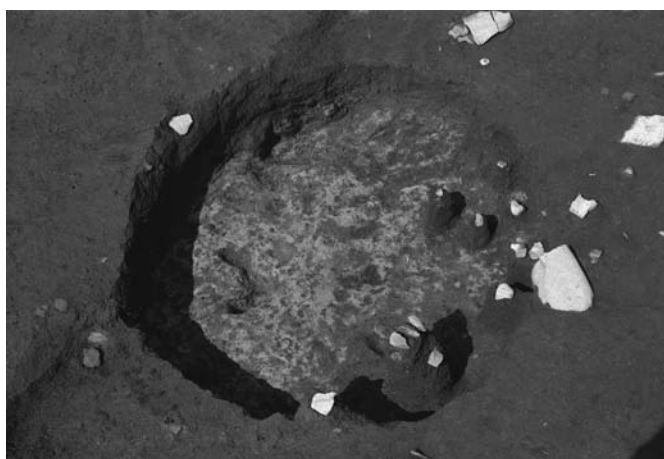
95-263号土坑全景(南西より)



95-264号土坑全景(南より)



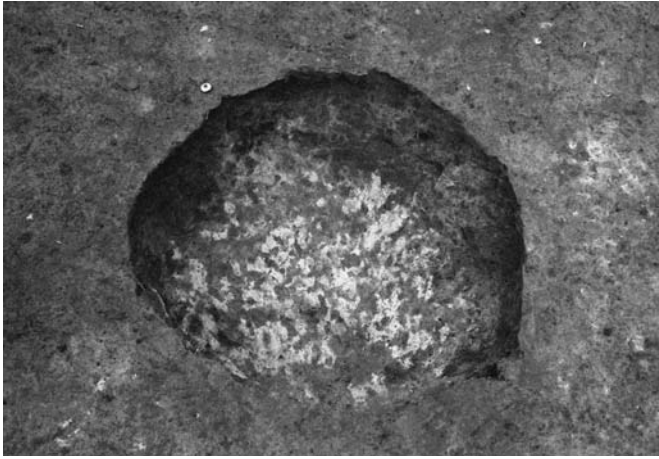
95-266号土坑全景(南より)



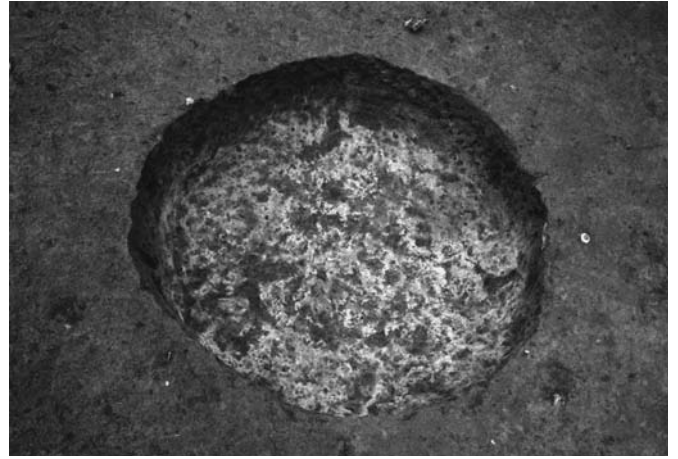
95-267号土坑遺物出土状態(南より)



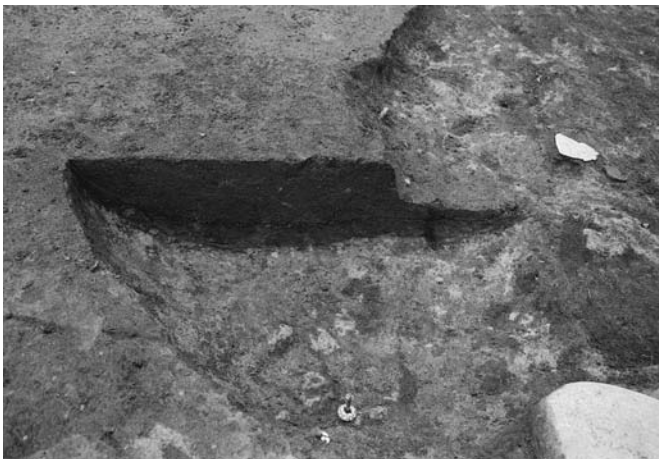
95-268号土坑遺物出土状態(南より)



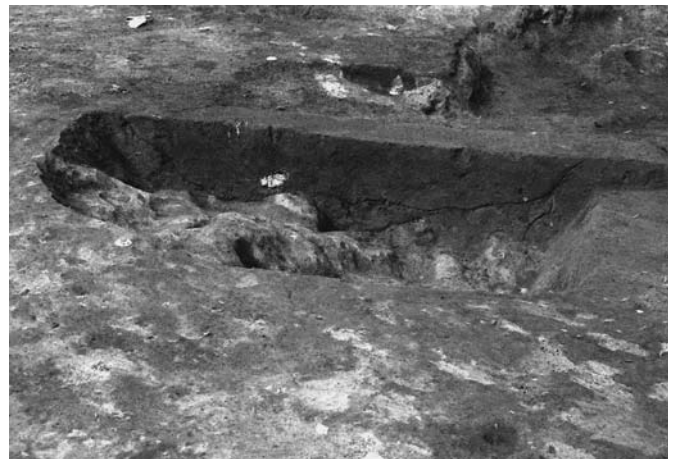
95-269号土坑全景(南より)



95-270号土坑全景(南より)



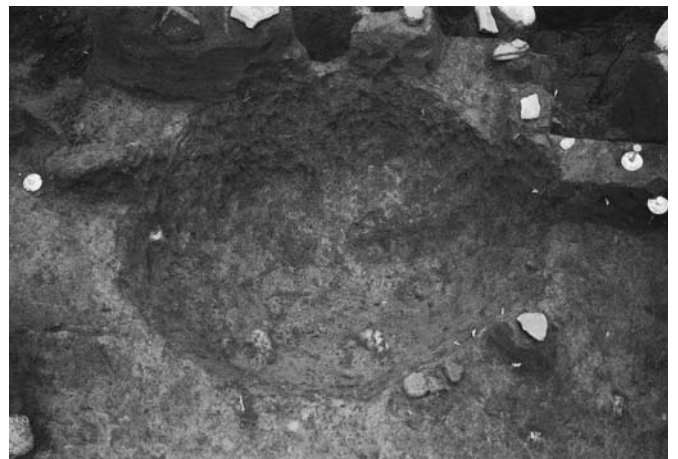
95-273号土坑セクション(南より)



95-274号土坑セクション(南より)



95-275号土坑セクション(北西より)



95-275号土坑全景(北西より)



95-277号土坑全景(南より)



95-278号土坑全景(南より)



95-279号土坑遺物出土状態(南より)



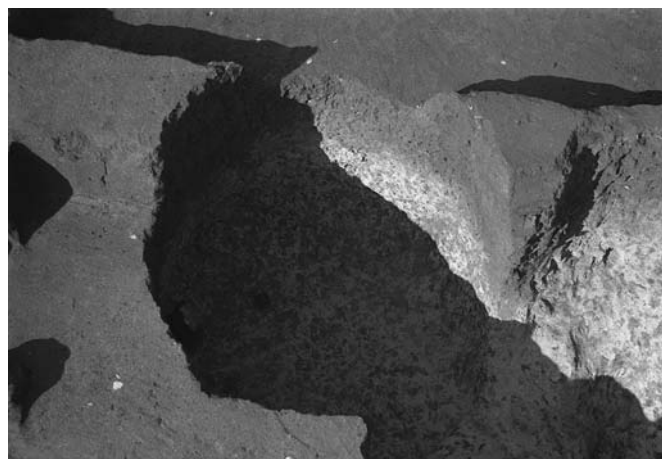
95-281号土坑セクション(東より)



95-280号土坑全景(南西より)



95-282号土坑セクション(南東より)



95-282号土坑全景(南より)



95-283号土坑全景(西より)



95-284号土坑全景(南より)



95-285号土坑全景(南より)



95-286号土坑セクション(東より)



95-286号土坑全景(南より)



95-287号土坑全景(南より)



95-288号土坑遺物出土状態(南より)



95-289号土坑遺物出土状態(南より)



95-289号土坑全景(南より)



95-290号土坑遺物出土状態(東より)



95-291号土坑全景(南より)



95-292号土坑全景(南より)



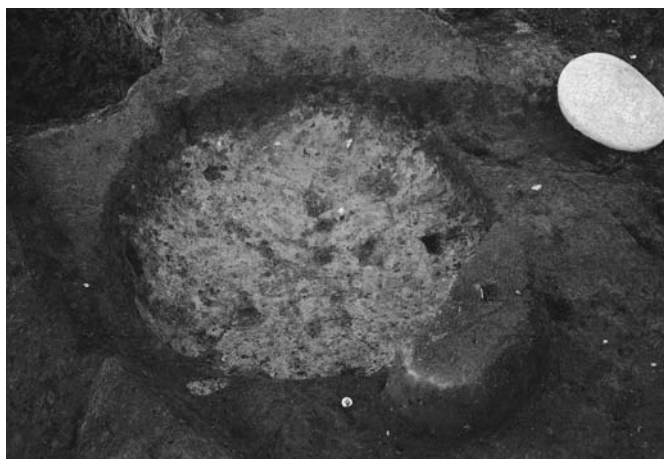
95-293号土坑セクション(東より)



95-293号土坑全景(南より)



95-294号土坑遺物出土状態(南より)



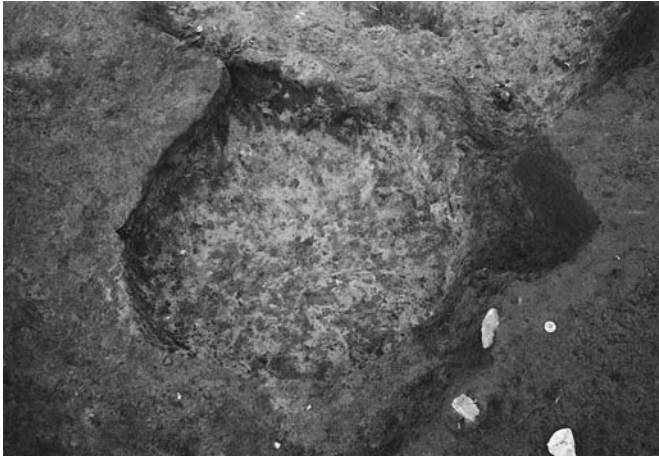
95-294号土坑全景(南より)



95-295号土坑全景(南より)



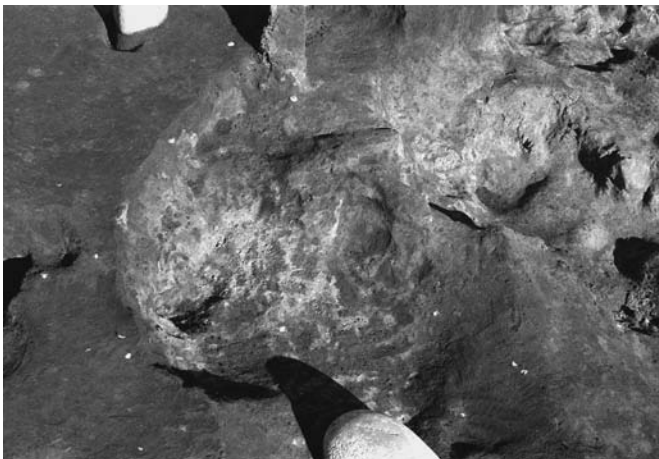
95-296号土坑遺物出土状態(南より)



95-297号土坑全景(南より)



95-298号土坑遺物出土状態(南より)



95-298号土坑全景(南より)



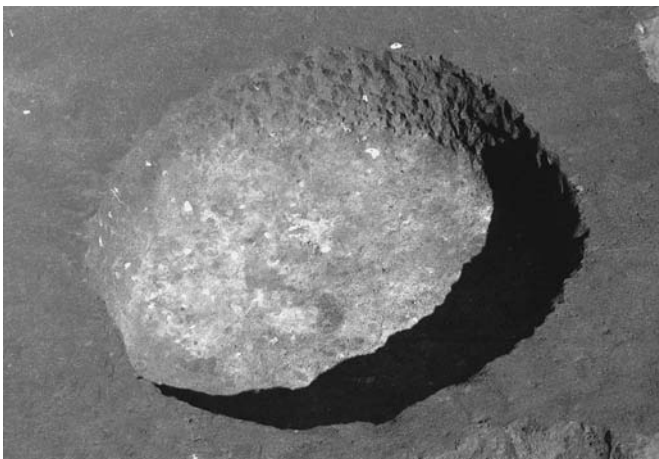
95-299号土坑遺物出土状態(南より)



95-300号土坑全景(南より)



95-301号土坑全景(東より)



95-303号土坑全景(南西より)



95-304号土坑全景(南西より)

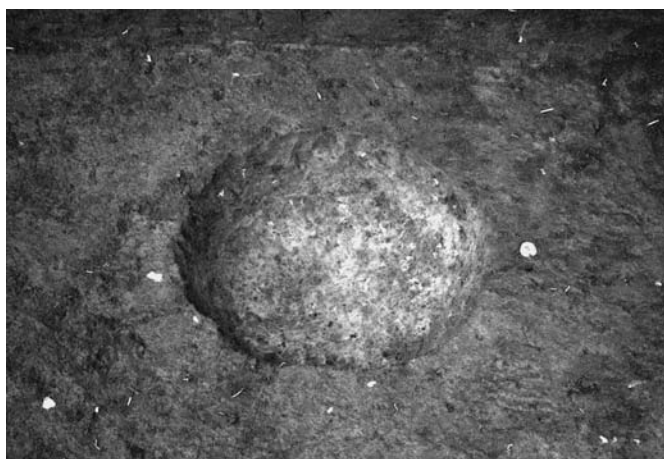




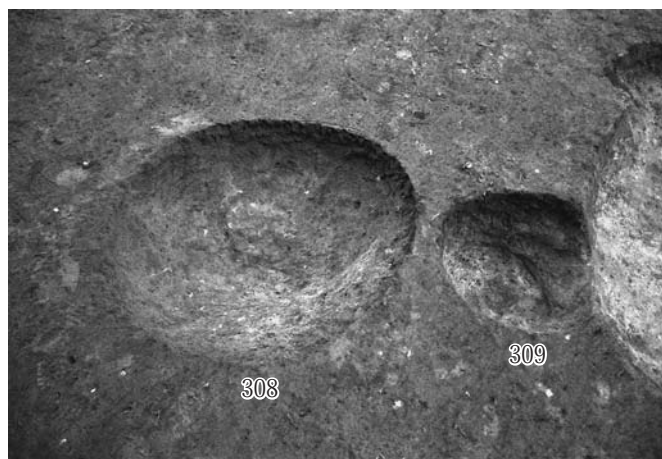
95-305号土坑全景(南より)



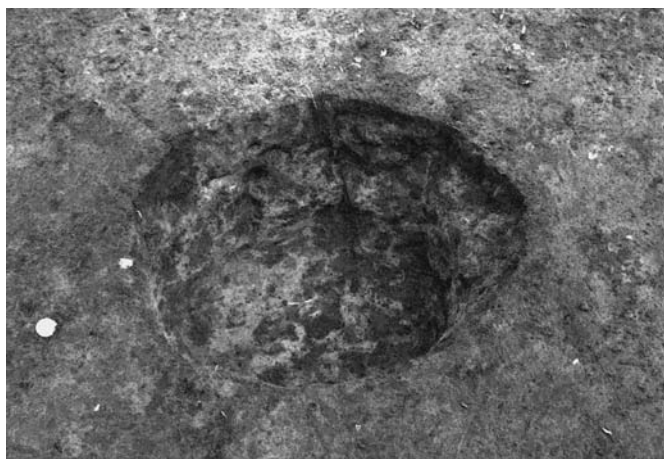
95-306号土坑全景(東より)



95-307号土坑全景(北より)



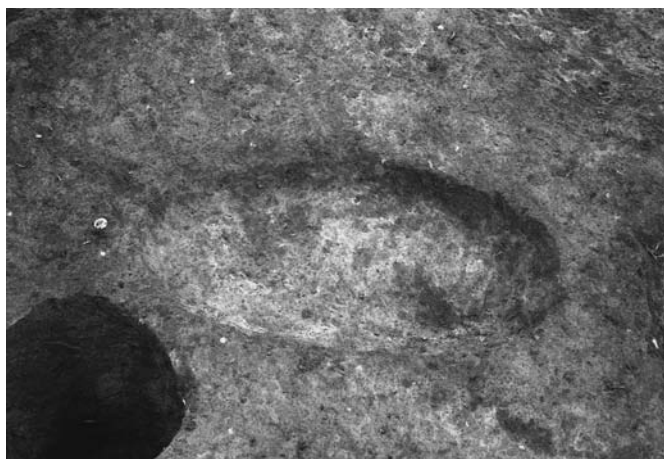
95-308・309号土坑全景(南より)



95-310号土坑全景(南より)



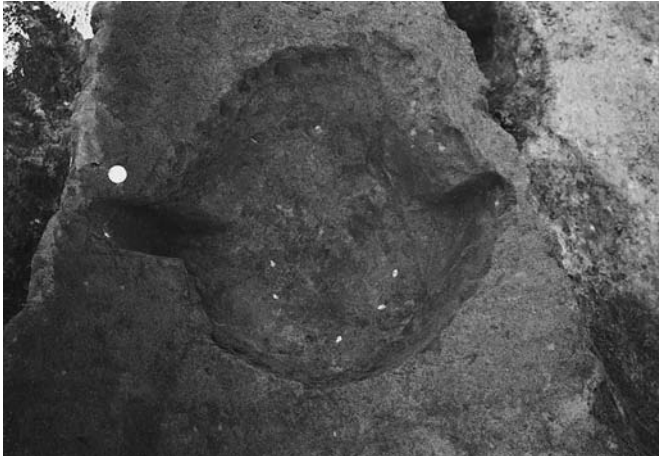
95-311号土坑全景(南より)



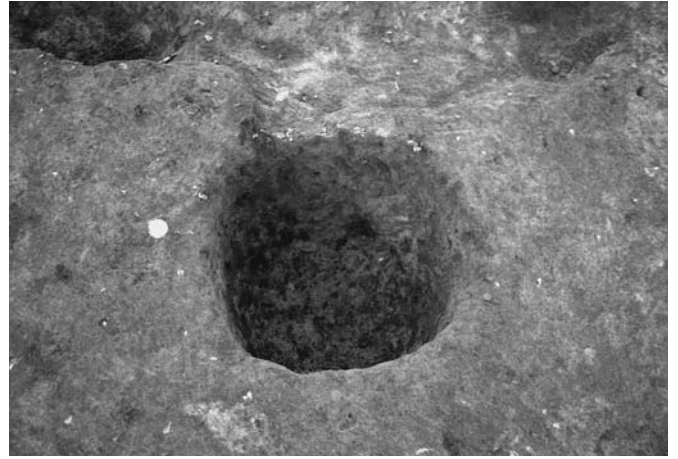
95-312号土坑全景(南より)



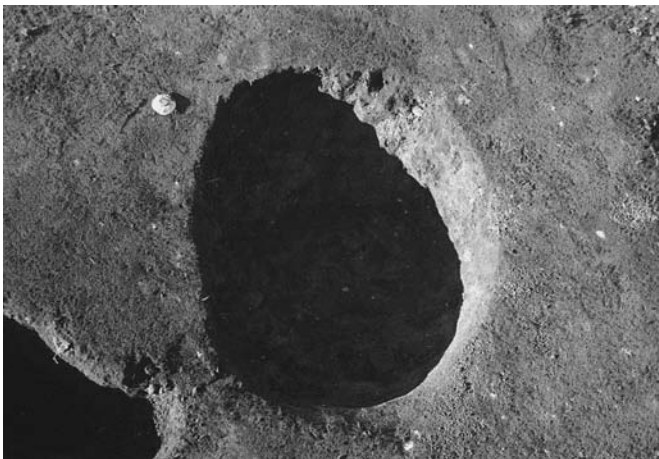
95-313号土坑全景(南より)



95-315号土坑全景(東より)



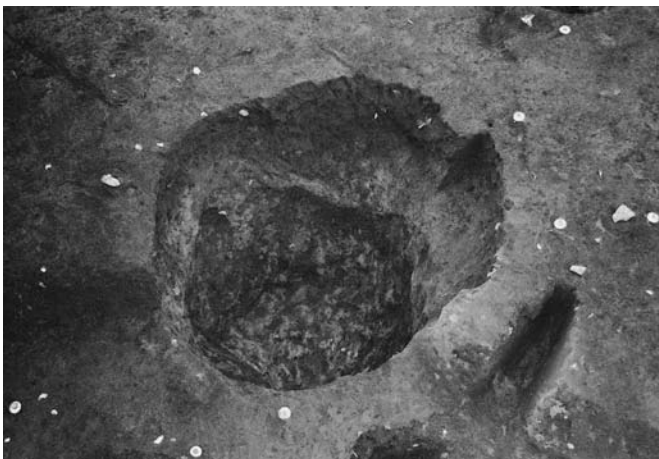
95-316号土坑全景(南より)



95-317号土坑全景(南より)



95-318号土坑全景(南より)



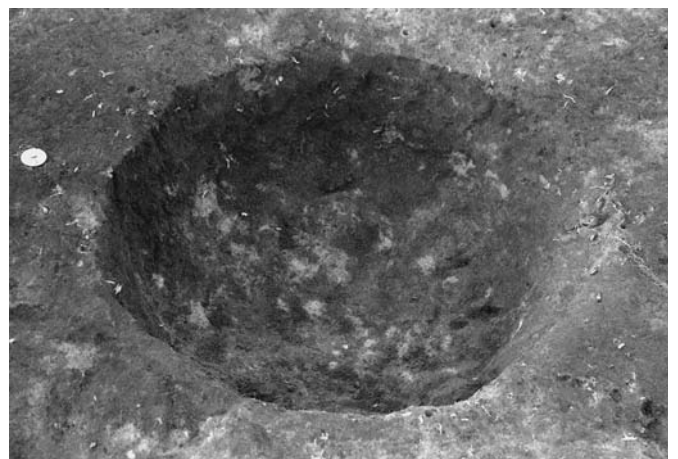
95-319号土坑全景(東より)



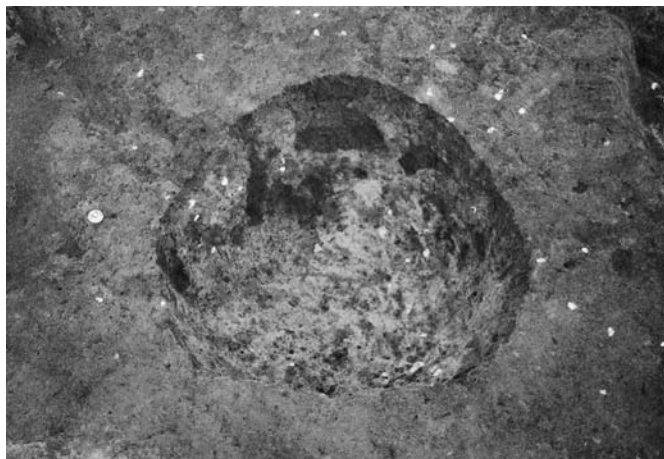
95-320号土坑遺物出土状態(南より)



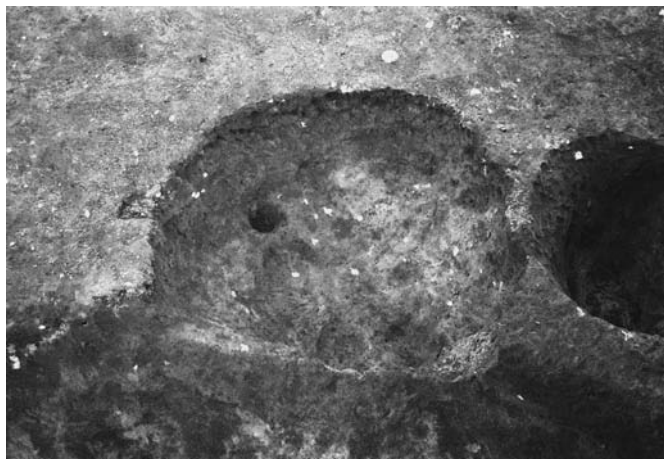
95-321号土坑全景(南より)



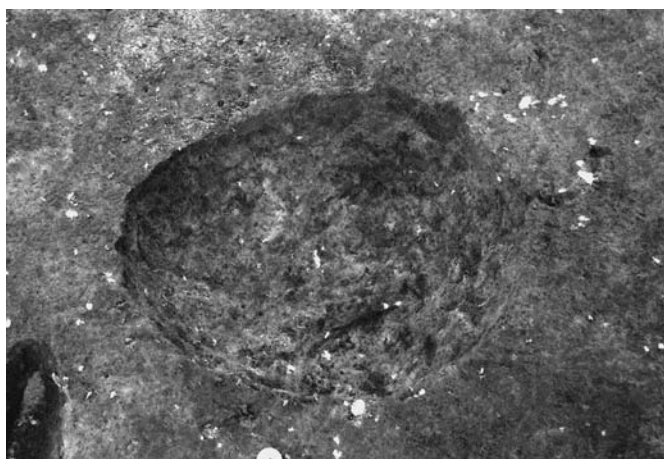
95-322号土坑全景(南より)



95-323号土坑全景(南より)



95-324号土坑全景(南西より)



95-325号土坑全景(南西より)



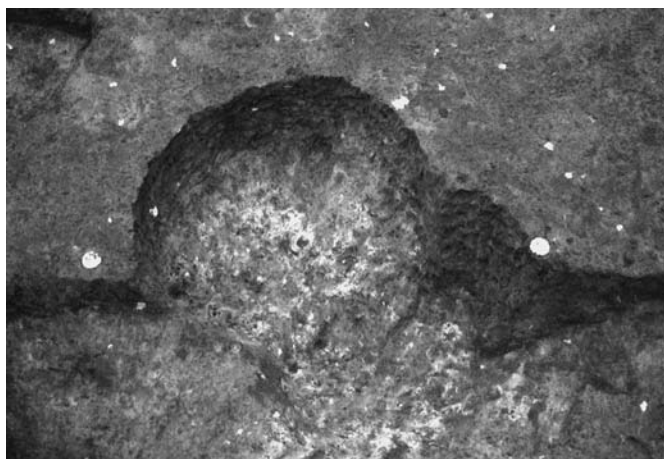
95-326号土坑遺物出土状態(南より)



95-327号土坑全景(南より)



95-328号土坑全景(東より)



95-329号土坑全景(南より)



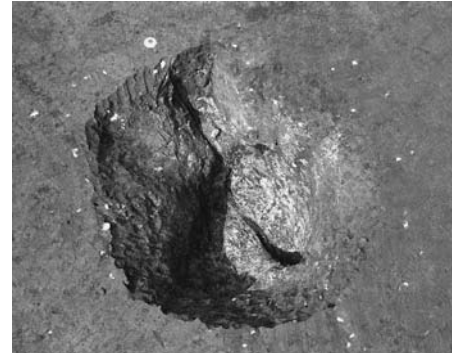
95-331号土坑全景(南東より)



5-289号ピット全景(南より)



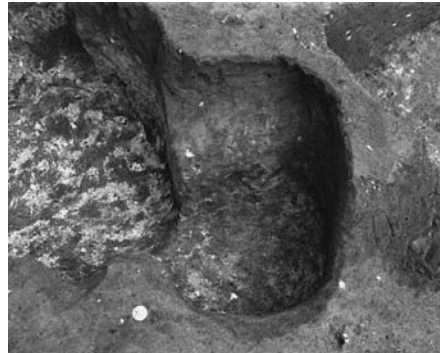
5-290号ピット全景(南より)



5-291号ピット全景(南より)



5-292号ピット全景(南より)



5-293号ピット全景(南より)



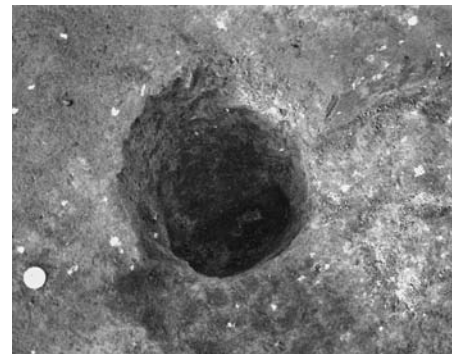
5-294号ピット全景(南より)



5-295号ピット全景(南より)



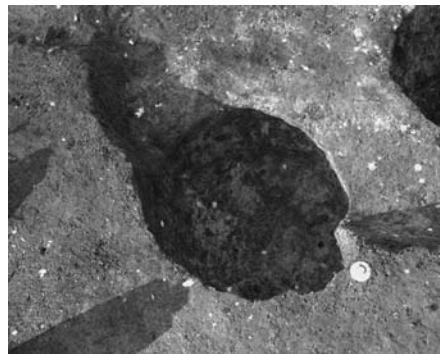
5-296号ピットセクション(南西より)



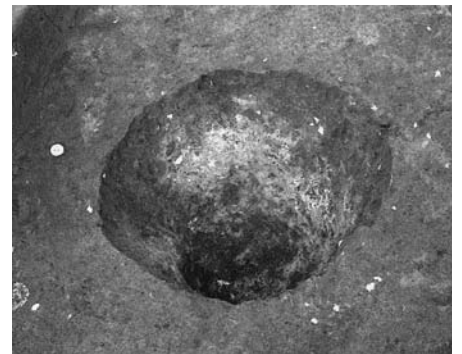
5-297号ピット全景(南より)



5-298号ピット全景(南より)



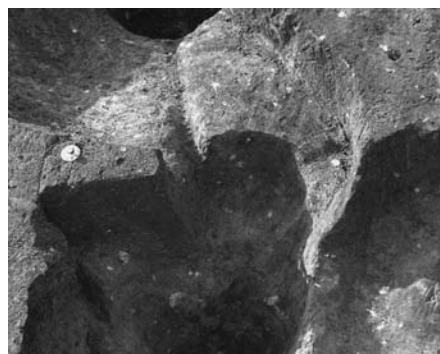
5-299号ピット全景(東より)



5-300号ピット全景(南より)



5-301号ピット全景(南より)



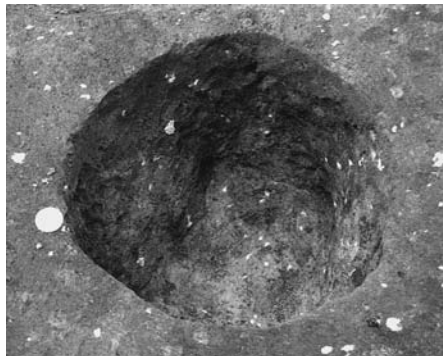
5-302号ピット全景(東より)



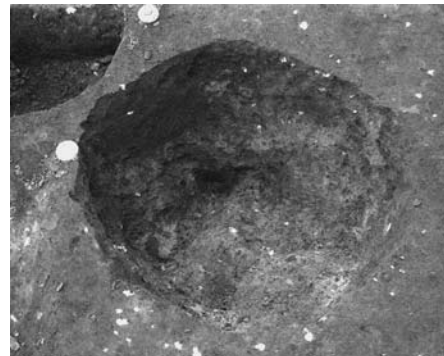
5-303号ピット全景(東より)



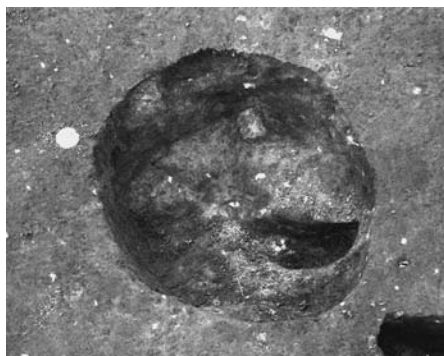
5-304号ピット全景(南西より)



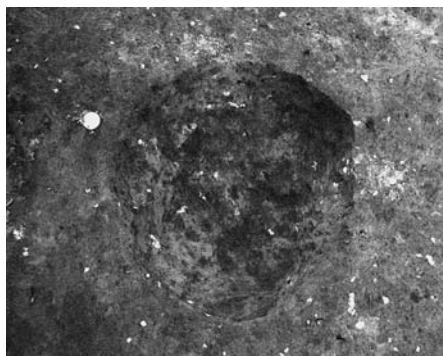
5-305号ピット全景(南より)



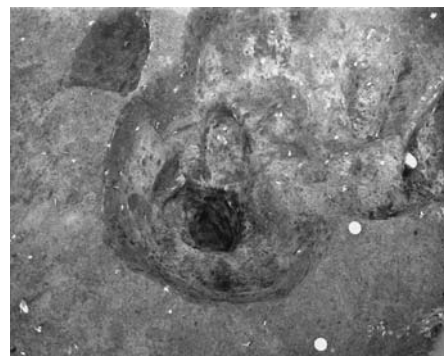
5-306号ピット全景(南より)



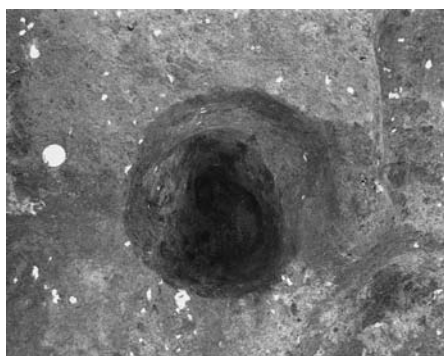
5-307号ピット全景(南より)



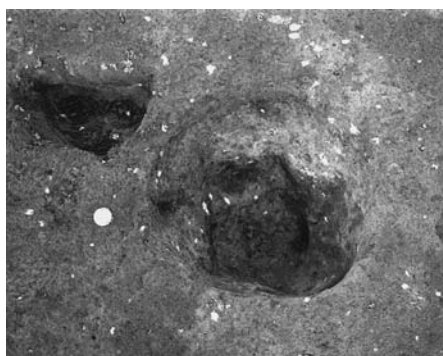
5-308号ピット全景(東より)



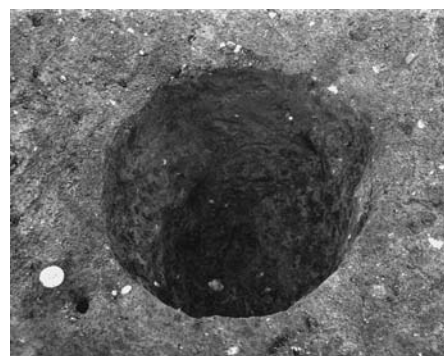
5-309号ピット全景(南より)



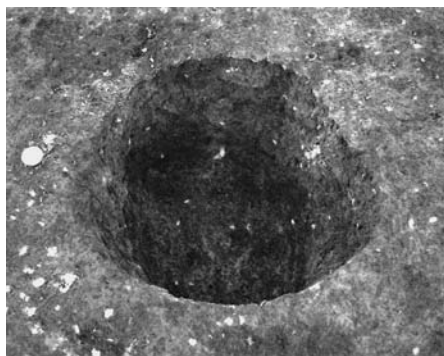
5-310号ピット全景(東より)



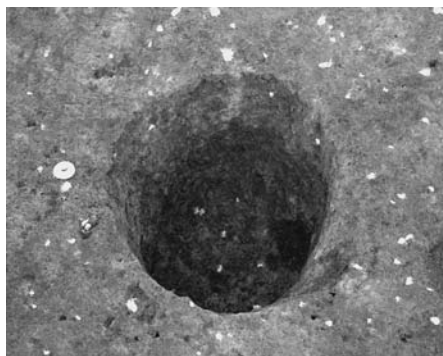
5-311号ピット全景(南より)



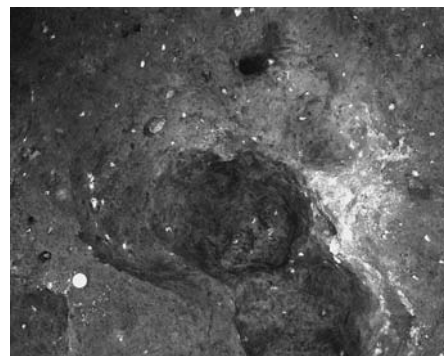
5-312号ピット全景(南より)



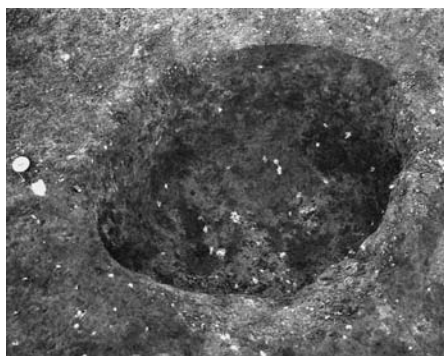
5-313号ピット全景(南より)



5-314号ピット全景(南より)



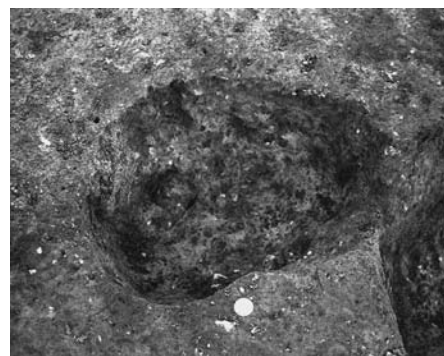
5-315号ピット全景(東より)



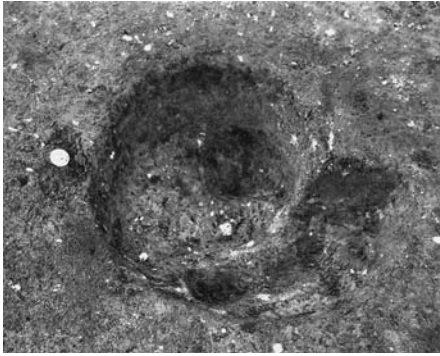
5-316号ピット全景(南より)



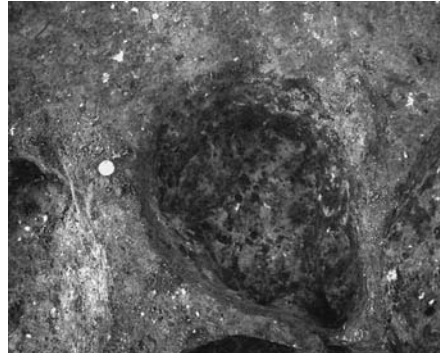
5-317号ピット全景(南より)



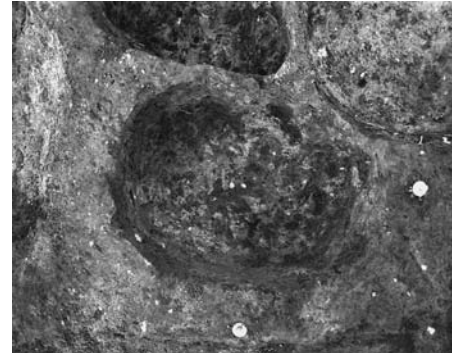
5-318号ピット全景(南西より)



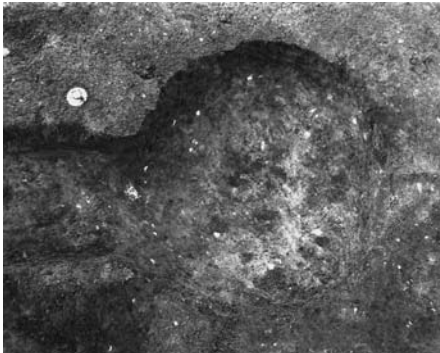
5-319号ピット全景(南より)



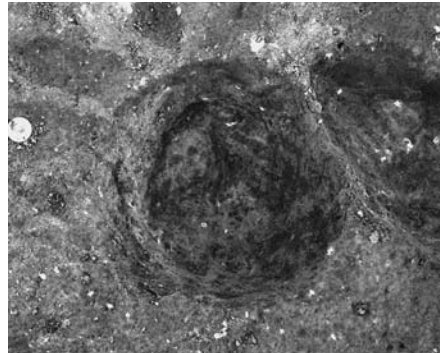
5-320号ピット全景(南より)



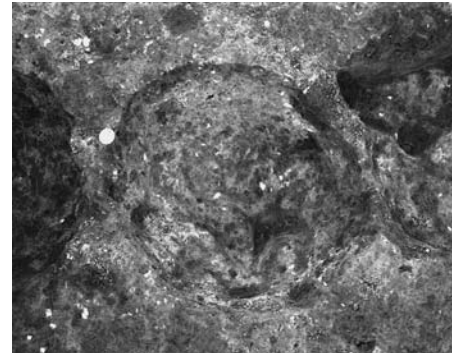
5-321号ピット全景(南より)



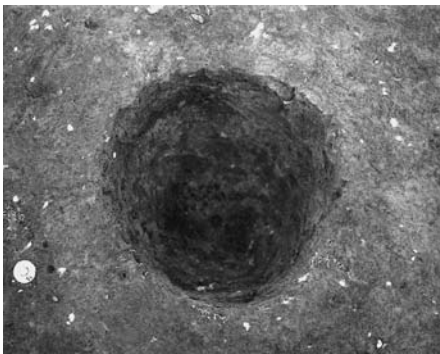
5-322号ピット全景(南より)



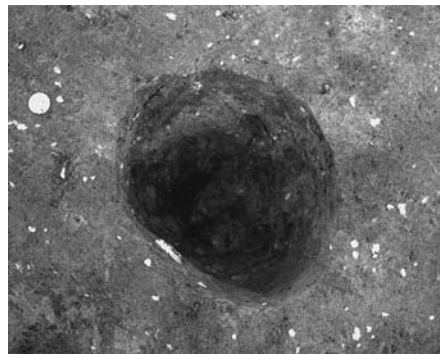
5-323号ピット全景(南より)



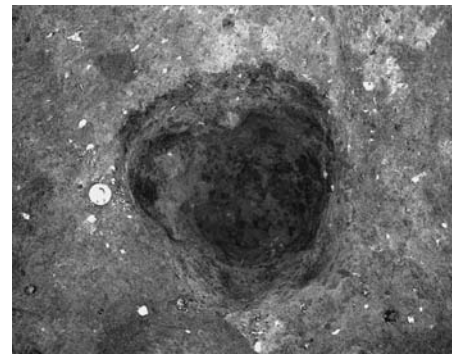
5-324号ピット全景(東より)



5-325号ピット全景(南より)



5-326号ピット全景(南より)



5-327号ピット全景(南より)



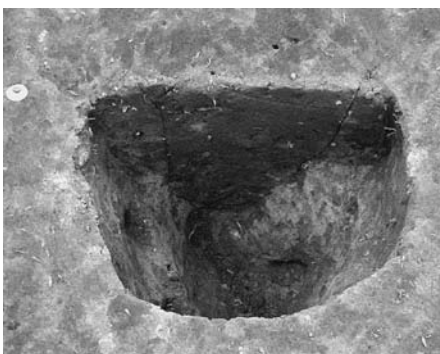
95-150号ピットセクション(東より)



95-151号ピット全景(南より)



95-152号ピットセクション(南より)



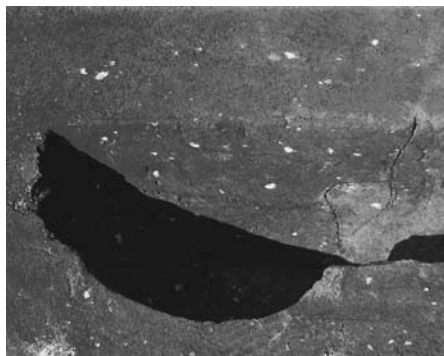
95-158号ピットセクション(南より)



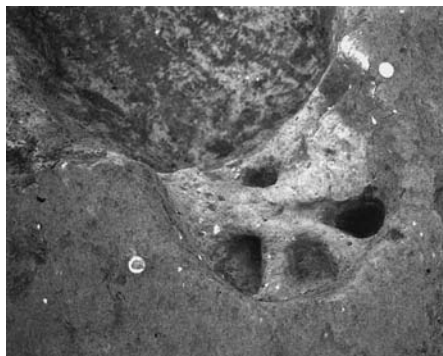
95-160号ピットセクション(南より)



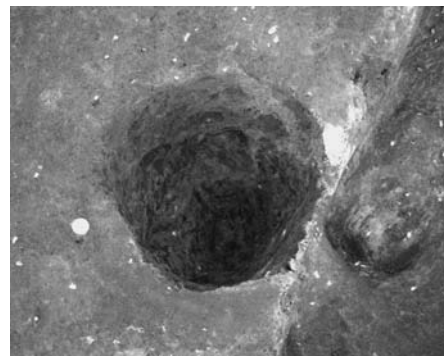
95-162号ピットセクション(南より)



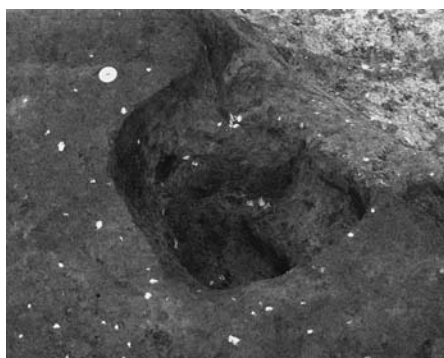
95-163号ピットセクション(南より)



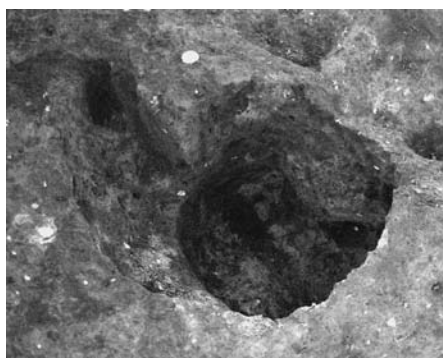
95-164号ピット全景(南より)



95-165号ピット全景(南より)



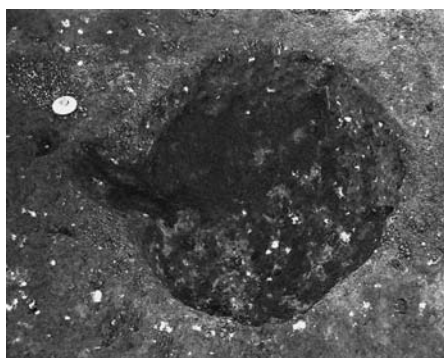
95-166号ピット全景(南より)



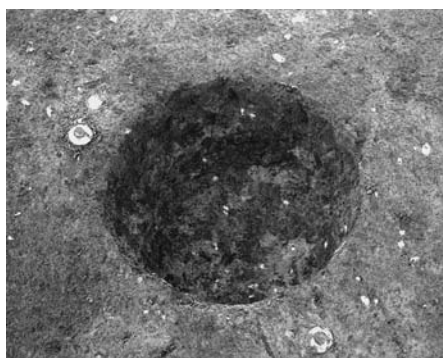
95-167号ピット全景(南より)



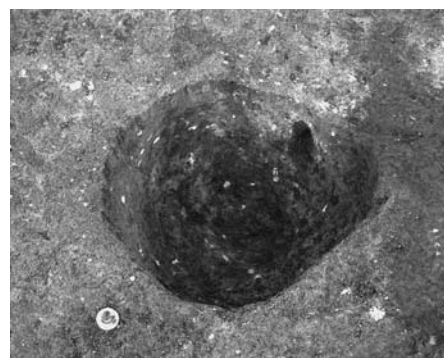
95-168号ピット全景(東より)



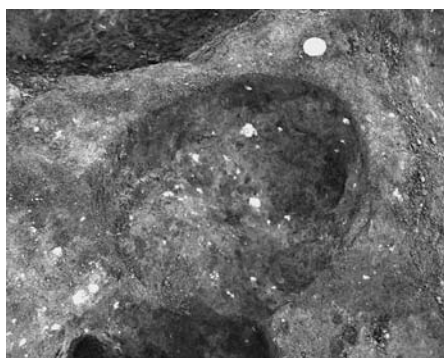
95-169号ピット全景(東より)



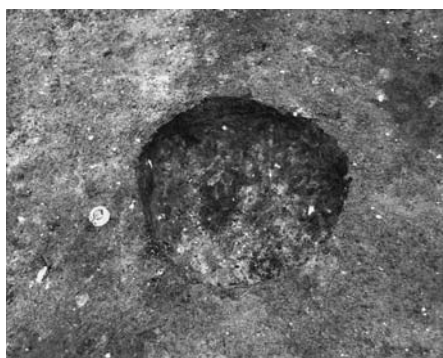
95-170号ピット全景(南より)



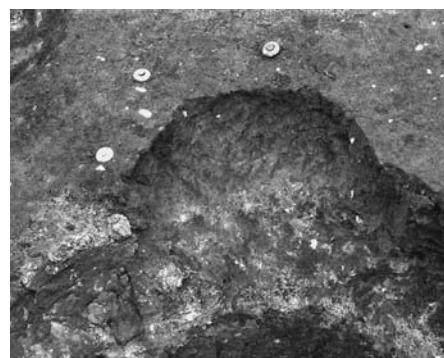
95-171号ピット全景(南西より)



95-172号ピット全景(北西より)



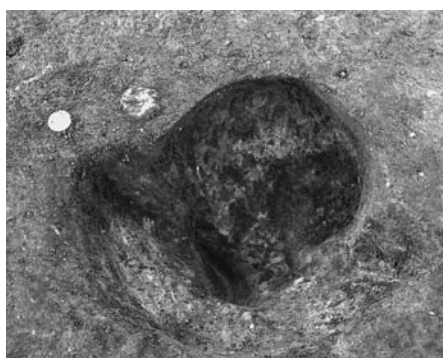
95-173号ピット全景(南より)



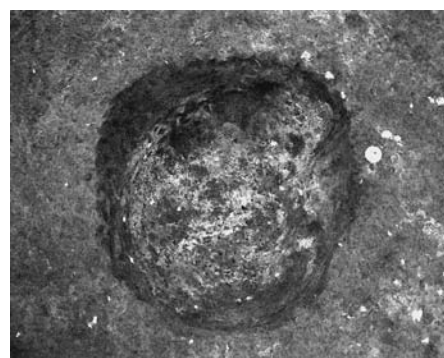
95-174号ピット全景(南より)



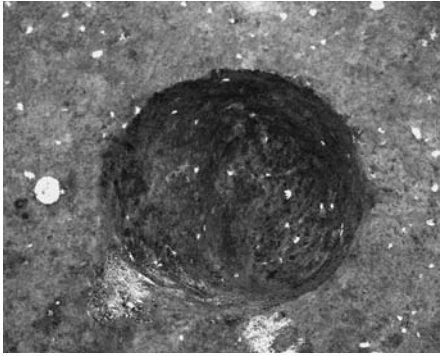
95-175号ピット全景(南より)



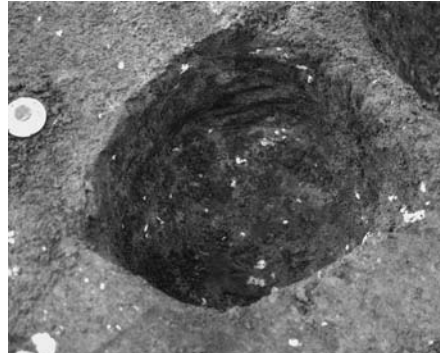
95-176号ピット全景(南より)



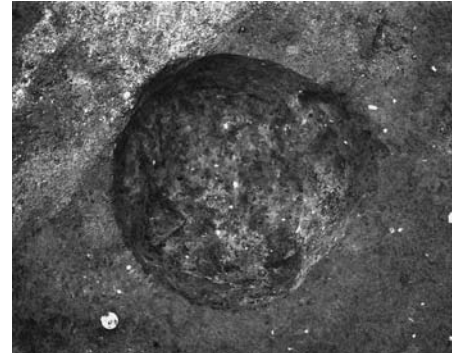
95-177号ピット全景(東より)



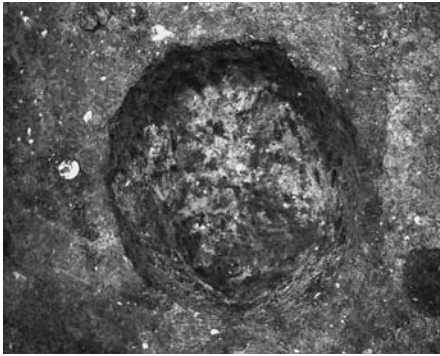
95-178号ピット全景(南より)



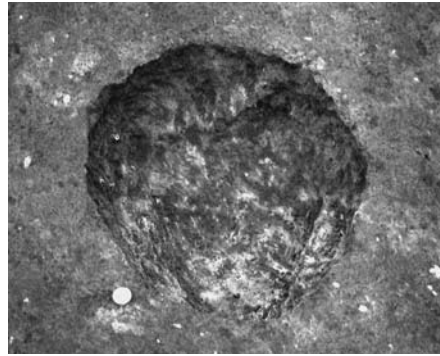
95-179号ピット全景(南より)



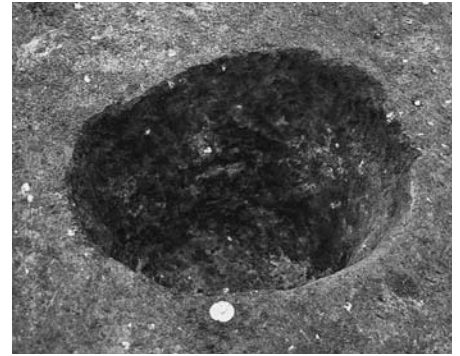
95-180号ピット全景(南より)



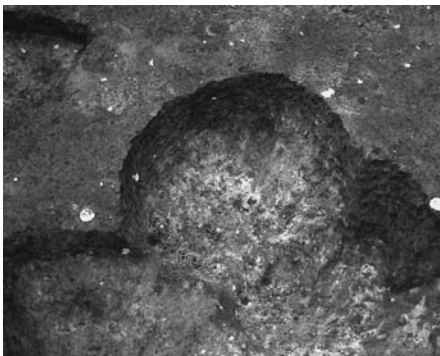
95-181号ピット全景(南より)



95-182号ピット全景(南より)



95-183号ピット全景(南より)



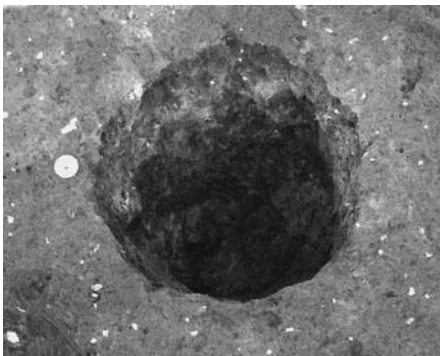
95-184号ピット全景(南より)



95-185号ピット全景(南より)



95-186号ピット全景(南より)



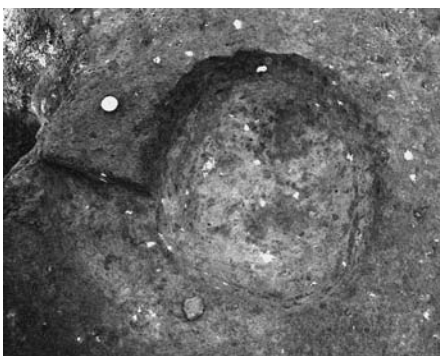
95-187号ピット全景(南より)



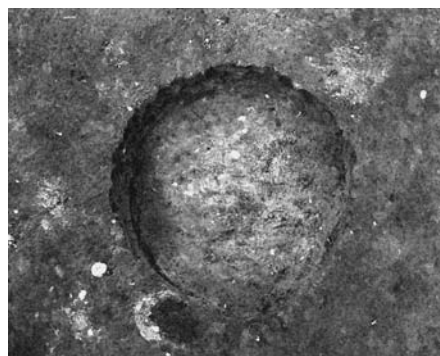
95-188号ピット全景(南より)



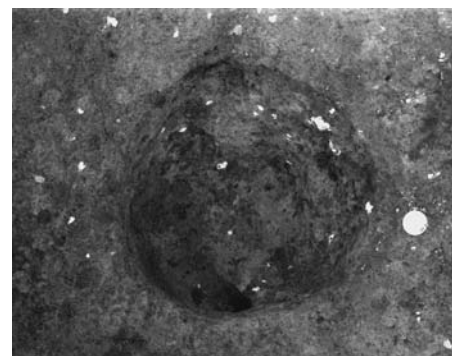
95-189号ピットセクション(北より)



95-190号ピット全景(南より)



95-191号ピット全景(南より)



95-192号ピット全景(南より)





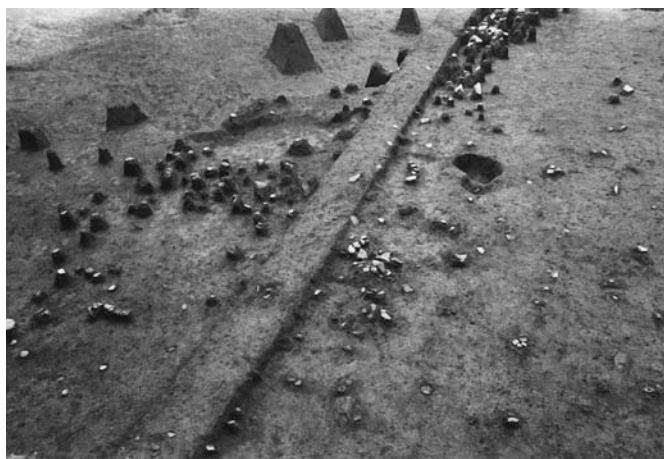
95-谷地部全景(北より)



95-谷地部セクション(西より)



95-谷地部遺物出土状態(北より)



95-谷地部遺物出土状態(南より)



95-谷地部遺物(大珠)出土状態(南より)



5-6号焼土セクション(南より)



5-6号焼土全景(西より)



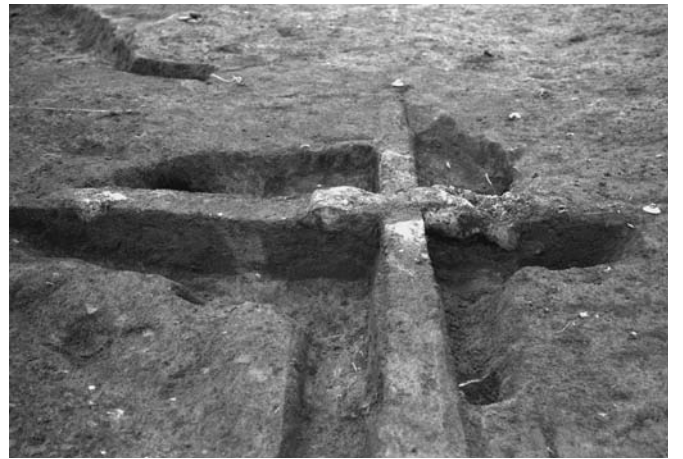
5-10号焼土全景(南より)



5-10号焼土セクション(東より)



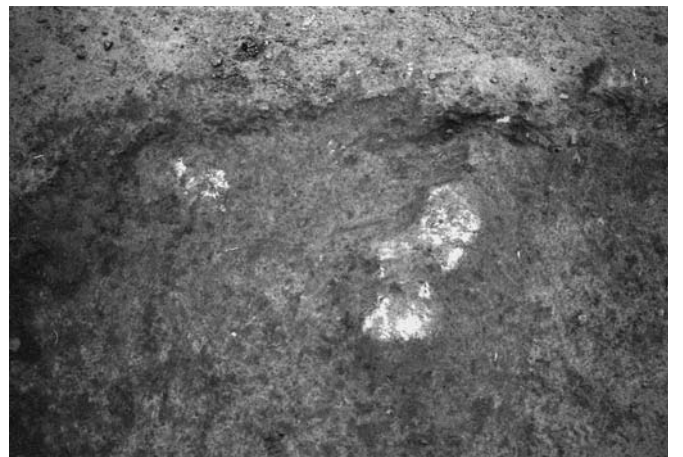
5-11号焼土全景(東より)



5-11号焼土セクション(東より)



5-12号焼土全景(東より)



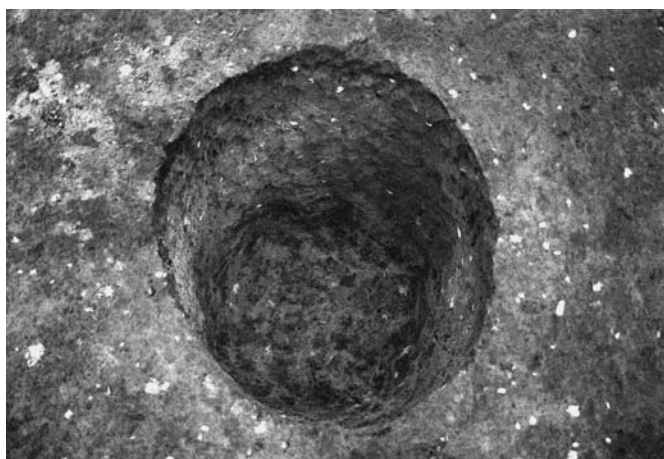
5-13号焼土全景(東より)



5-14号焼土セクション(東より)



5-15号焼土セクション(東より)



5-15号焼土下土坑全景(南より)



95-2号焼土セクション(南より)



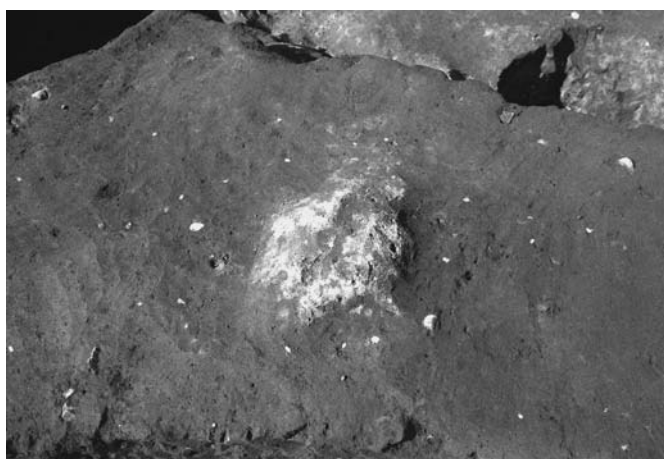
95-3号焼土セクション(東より)



95-4号焼土全景(南より)



95-5号焼土全景(南より)



95-6号焼土全景(南より)



5-30号土坑セクション(南東より)



5-66号土坑セクション(北西より)



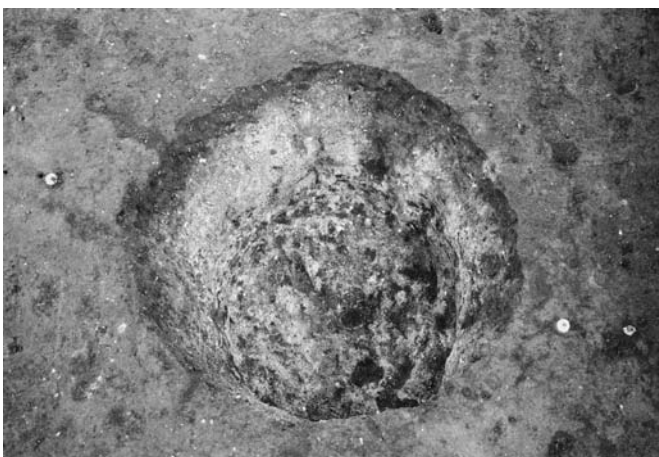
5-66号土坑全景(北西より)



5-182号土坑全景(南より)



5-1115号土坑全景(南より)



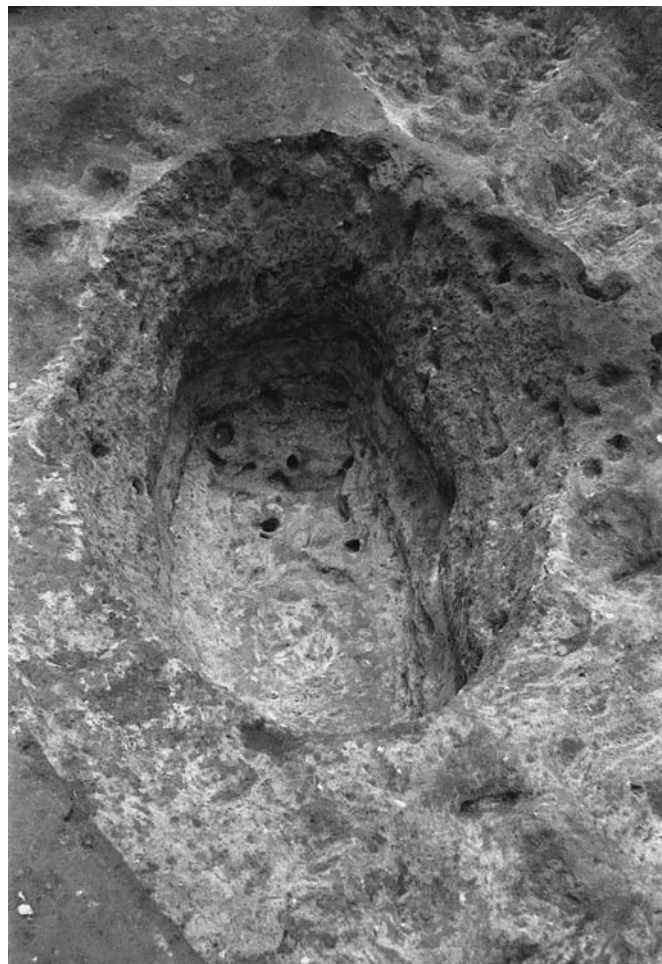
5-1117号土坑全景(南より)



5-1116号土坑全景(北東より)



5-1118号土坑全景(北東より)



5-1119号土坑全景(南東より)



5-1122号土坑全景(南より)



5-1212号土坑全景(南東より)



5-1212号土坑セクション(南東より)



5-1213号土坑セクション(南より)



5-1213号土坑全景(南東より)



8-18区全景(東より)



8-6号土坑セクション(南より)



8-6号土坑全景(北西より)



17区西・18区東トレンチ全景(北より)



17-35号土坑全景(南より)



18区トレンチ全景(北東より)



18-24号土坑全景(南東より)



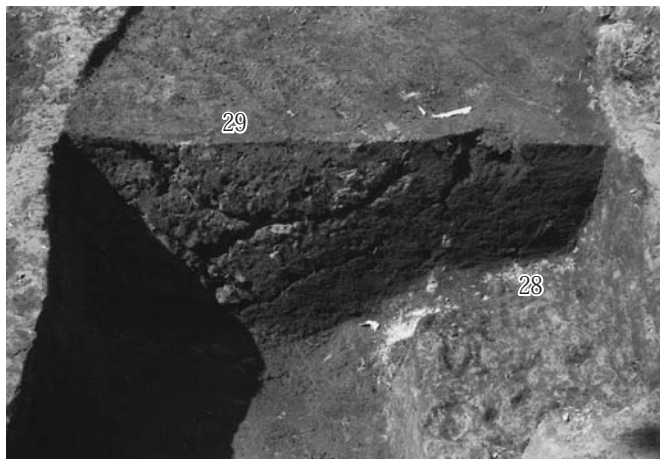
18-25号土坑全景(南東より)



18-26号土坑全景(南東より)



18-27号土坑全景(北西より)



18-28・29号土坑セクション(東より)



19区全景(東より)



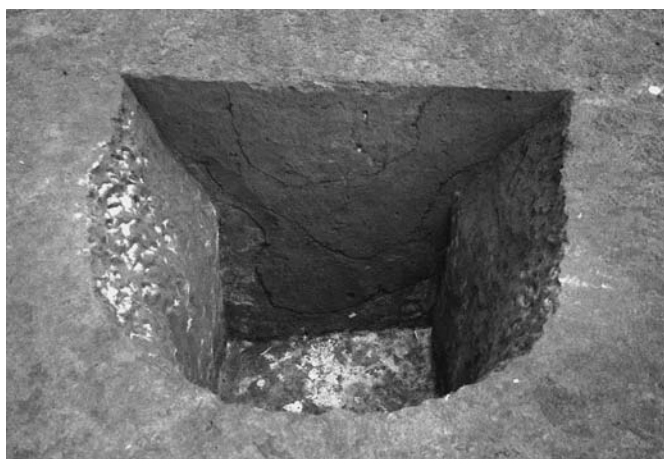
19-12号土坑セクション(南より)



19-13号土坑全景(南東より)



19-14号土坑全景(南より)



95-83号土坑セクション(南西より)



95-84号土坑セクション(南より)



95-83号土坑全景(南西より)



95-84号土坑全景(南より)





95-85号土坑セクション(南東より)



95-86号土坑セクション(東より)



95-85号土坑全景(南東より)



95-86号土坑全景(南東より)



95-87号土坑セクション(南より)



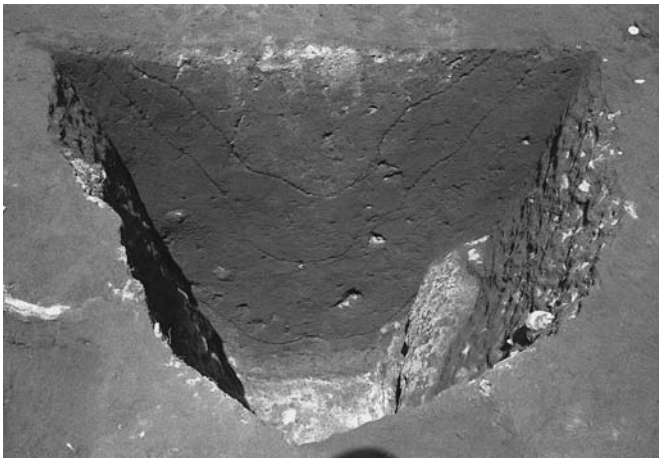
95-87号土坑全景(南東より)



95-88号土坑全景(南東より)



95-89号土坑全景(南東より)



95-89号土坑セクション(南より)



95-90号土坑全景(南東より)



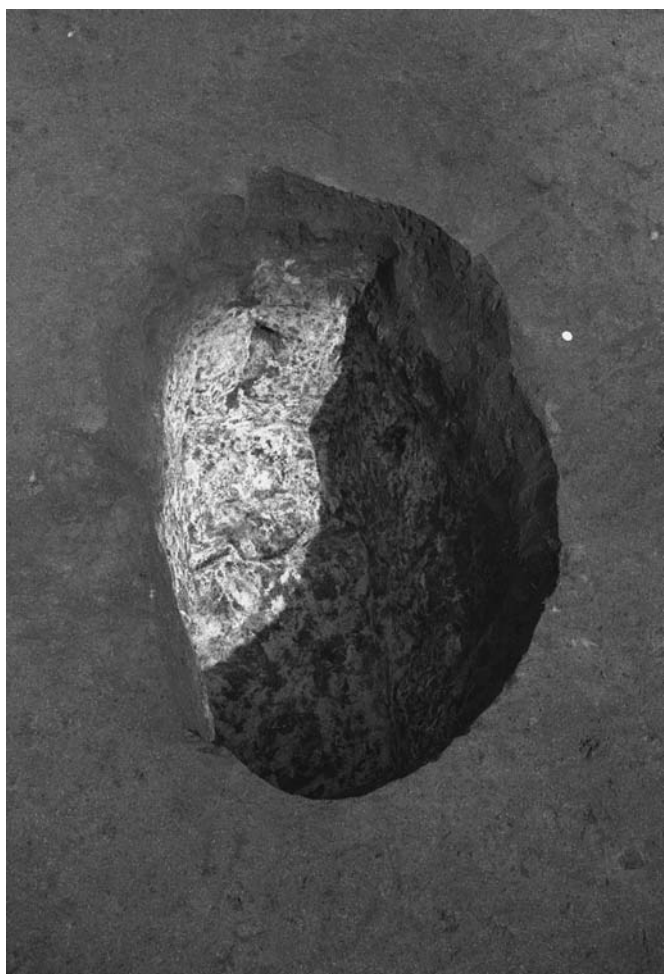
95-90号土坑セクション(南東より)



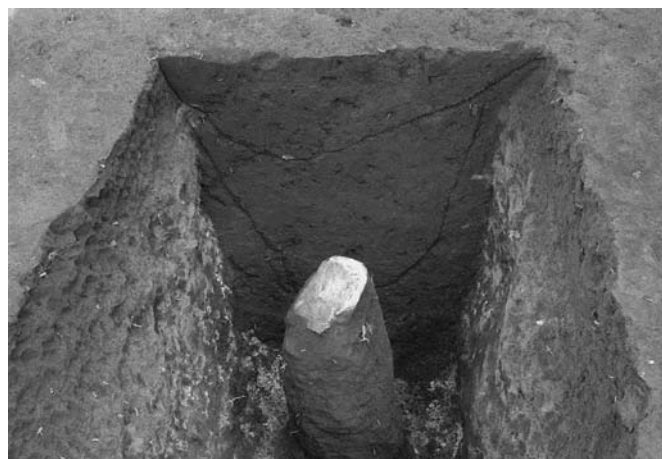
95-91号土坑セクション(南東より)



95-92号土坑全景(南より)



95-91号土坑全景(南東より)



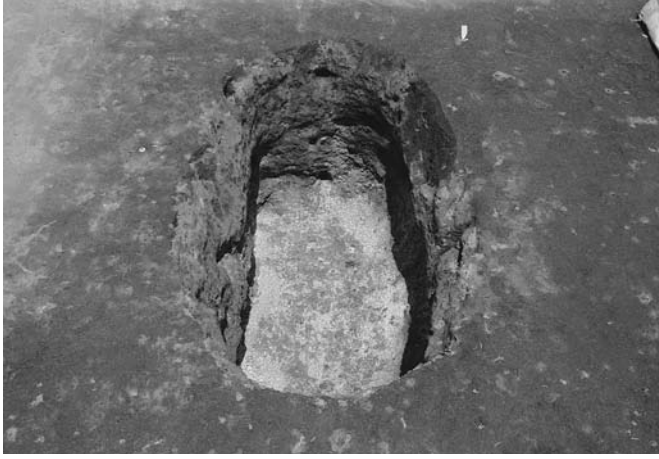
95-158号土坑セクション(西より)



95-158号土坑全景(東より)



95-177号土坑全景(北より)



95-181号土坑全景(南より)



95-187号土坑全景(西より)



95-188号土坑全景(南より)



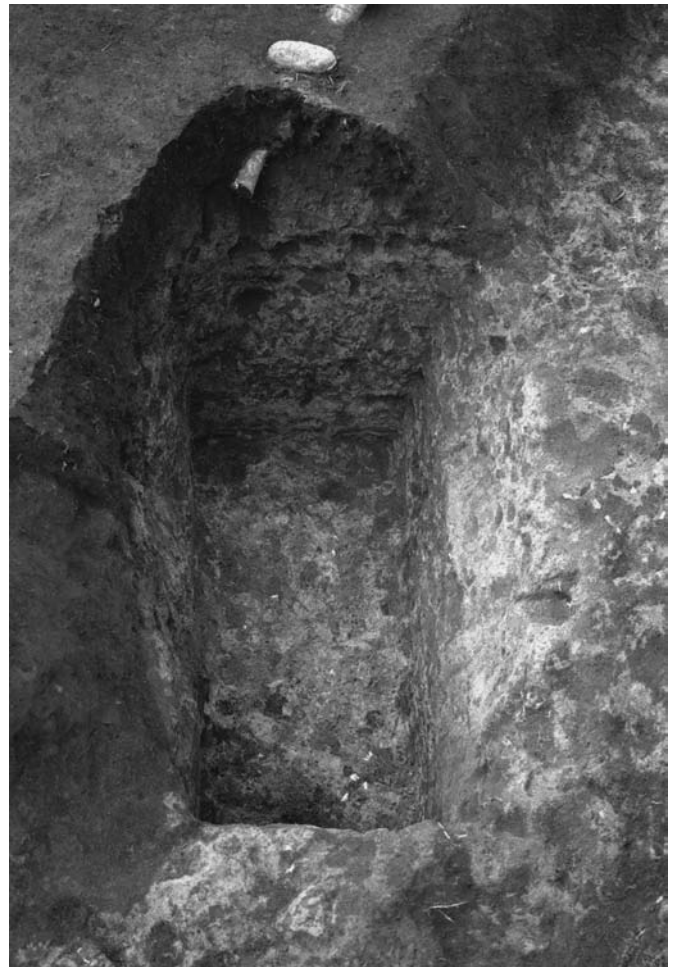
95-242号土坑セクション(東より)



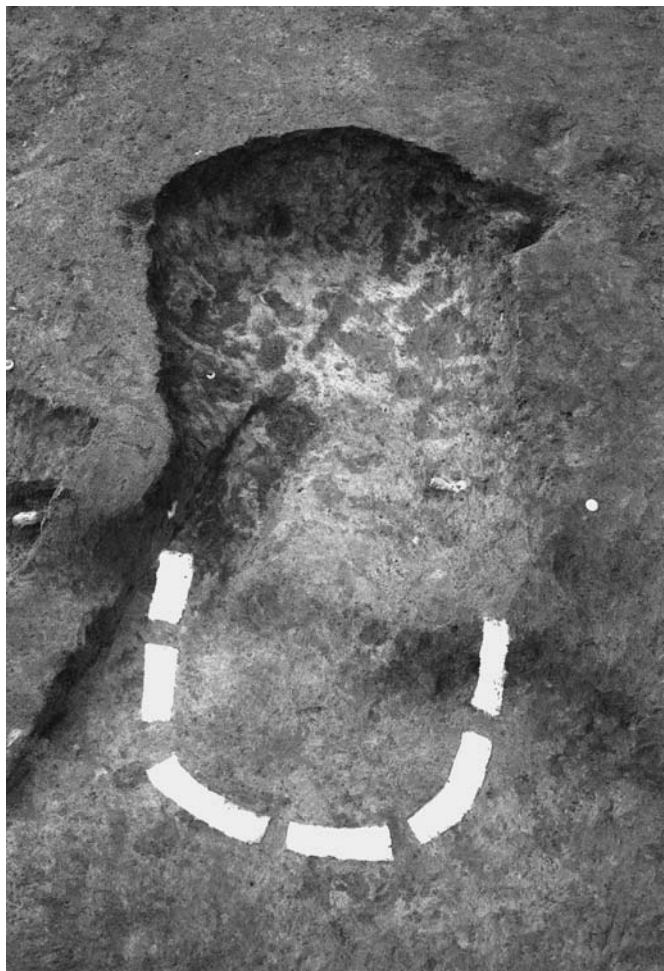
95-242号土坑全景(南より)



95-271号土坑全景(南より)



95-272号土坑全景(南東より)



95-276号土坑全景(南東より)



95-2号溝セクション(東より)



95-2号溝全景(西より)



5-1号石列全景(南より)



5-1号石列(石除去後)全景(南より)



調査前風景(南より)



第1トレンチ全景(東より)



第1トレンチセクション(東より)



第2トレンチ全景(東より)



第3トレンチ全景(西より)



第4トレンチ全景(西より)



第5トレンチ全景(西より)



第6トレンチ全景(西より)



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



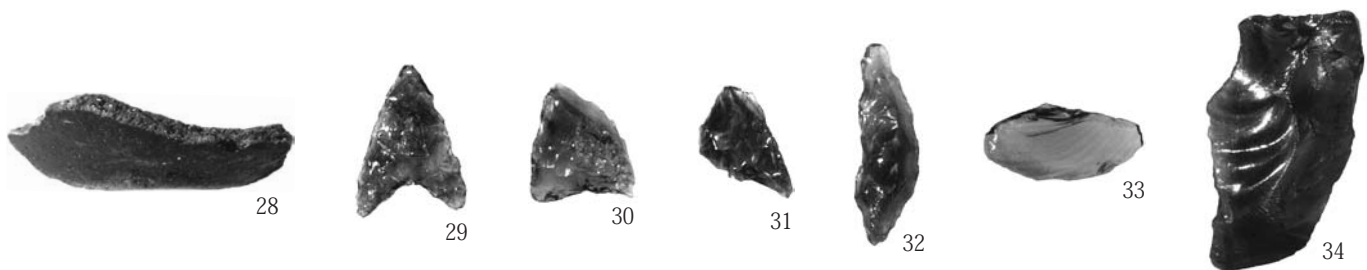
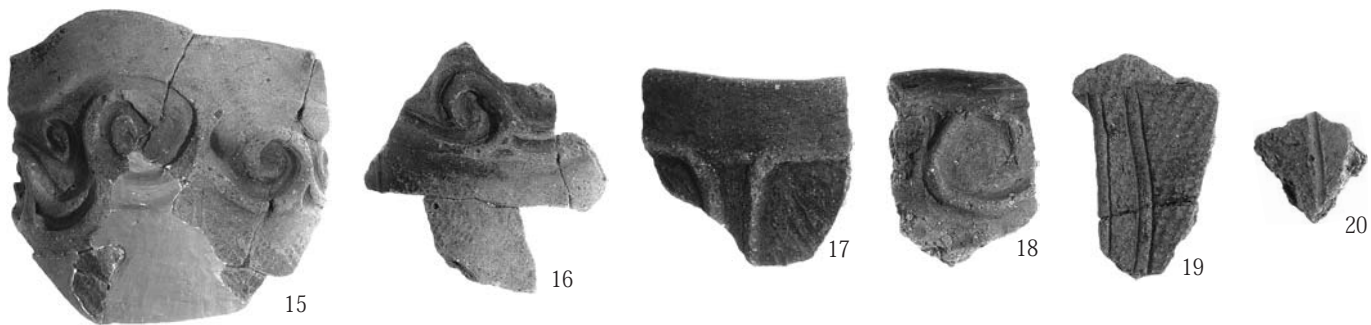
12



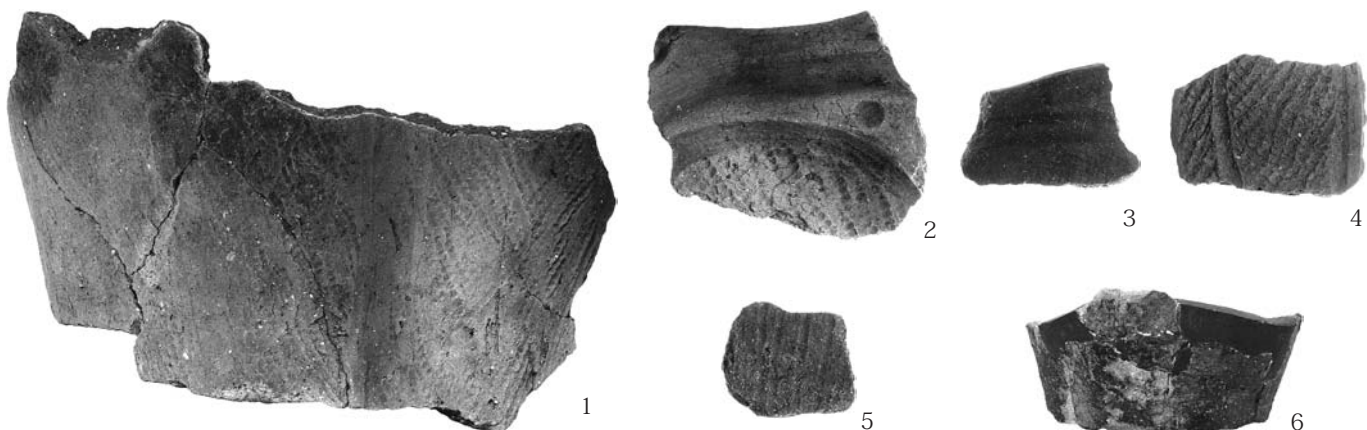
13



14

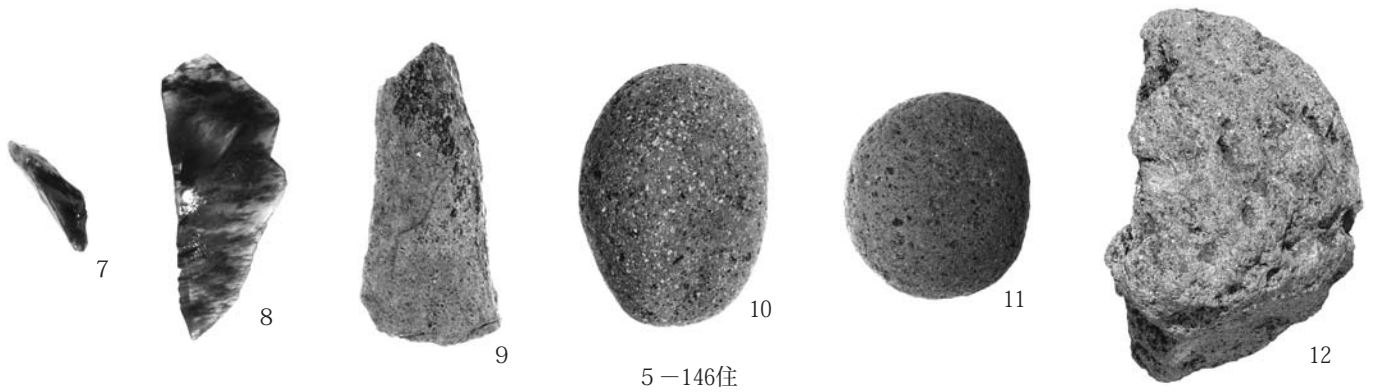


5-8住

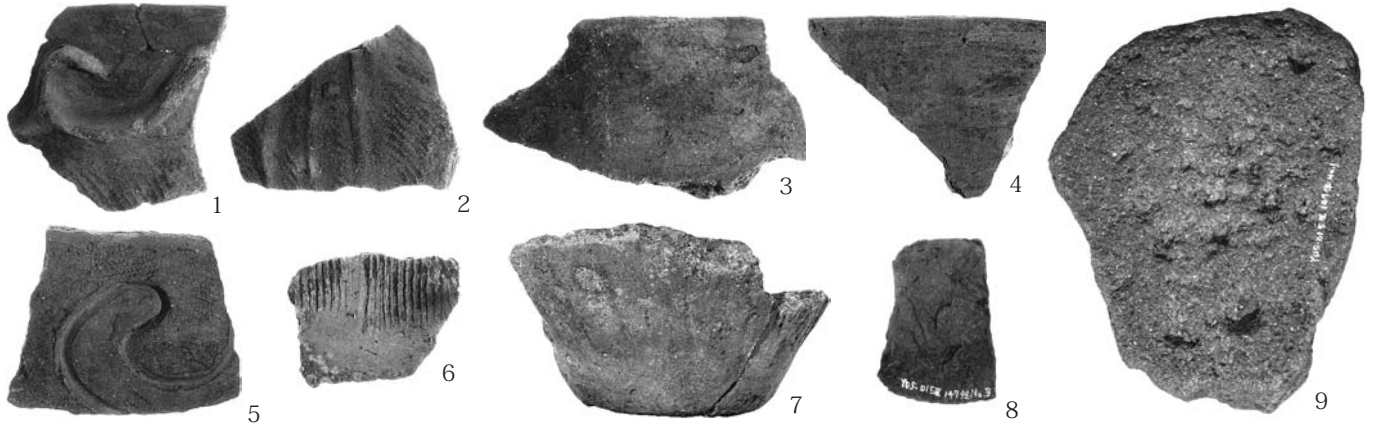


5-146住





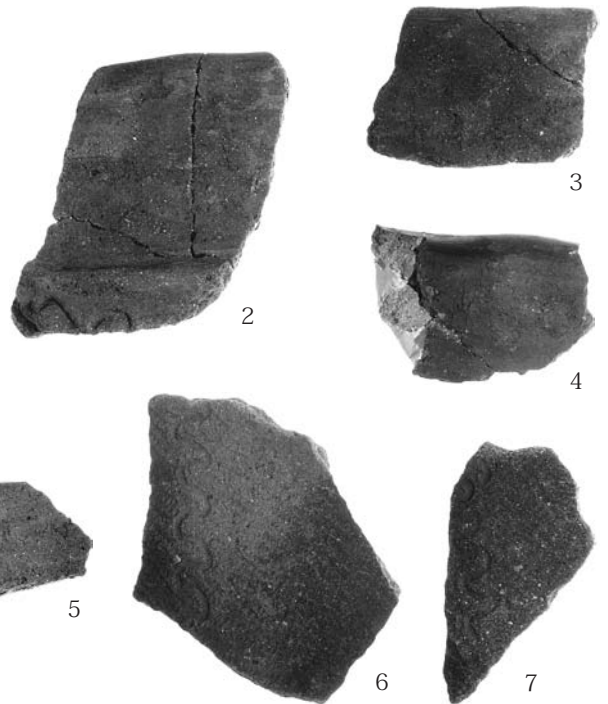
5-146住



5-147住



1



2

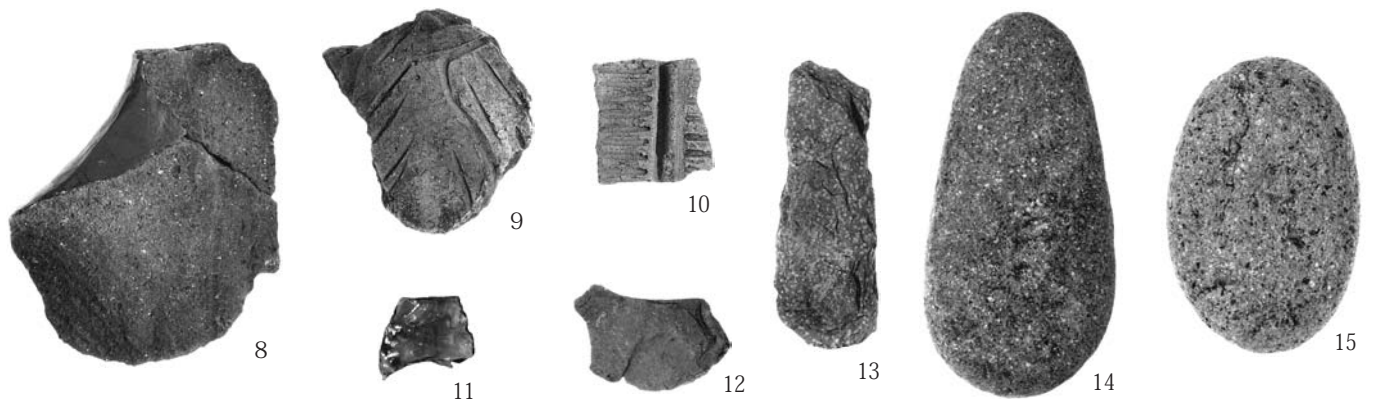
3

4

5

6

7



8

9

10

11

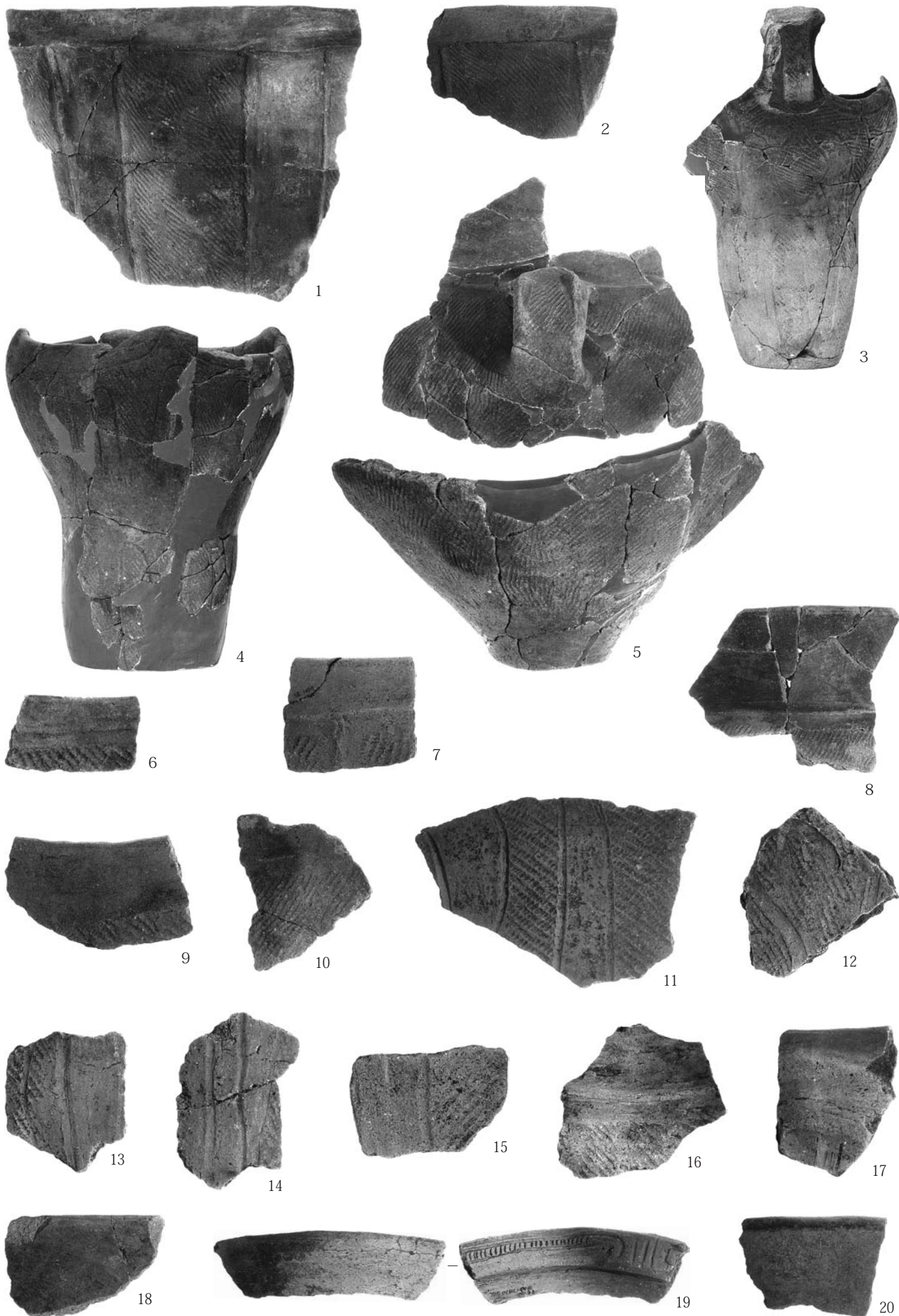
12

13

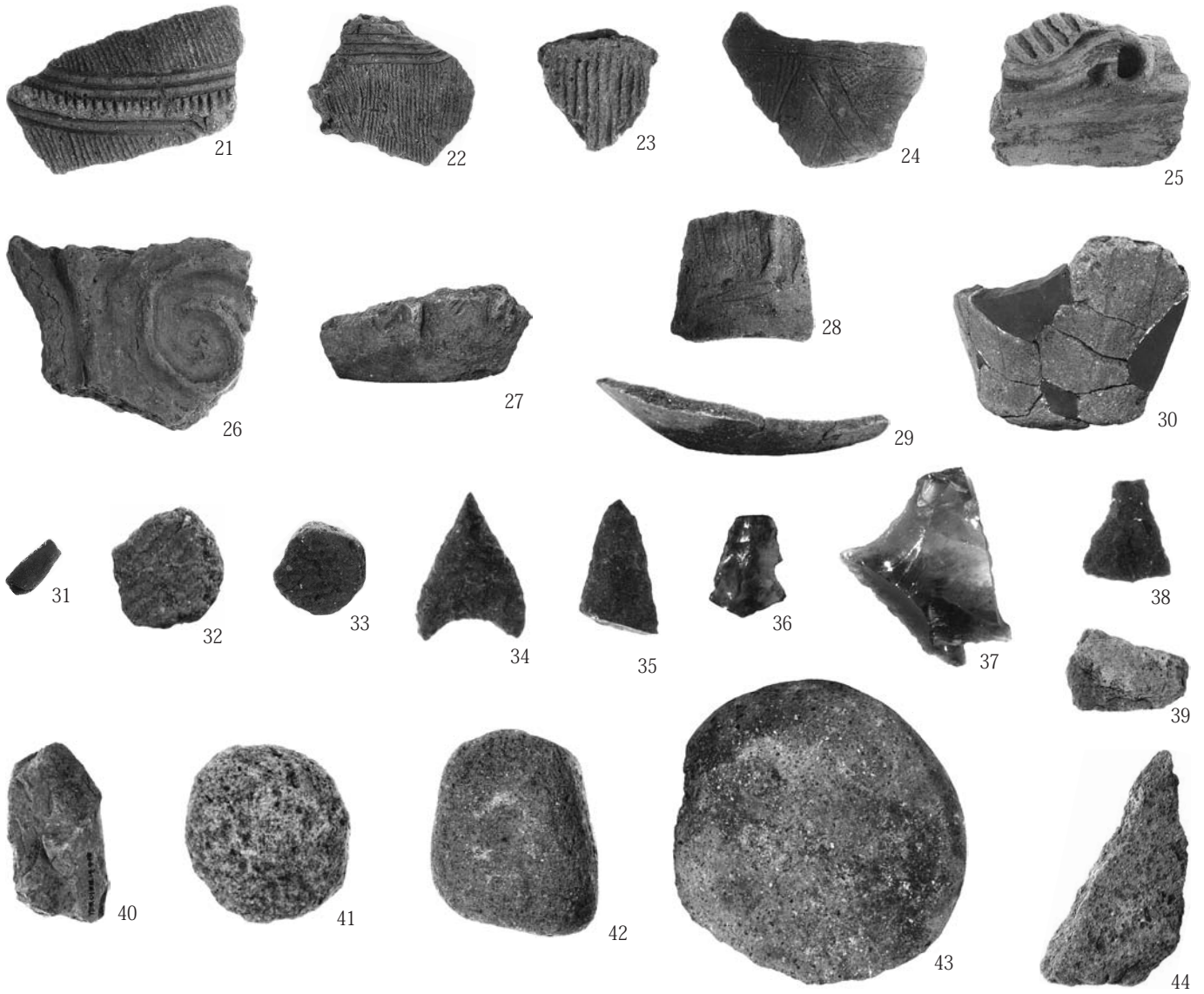
14

15

5-148住



PL.130



5-149住



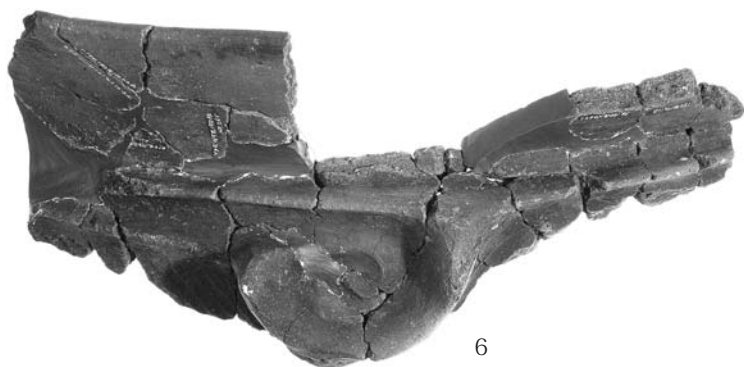
5-150住



4



5



6



7



8



9



10



12



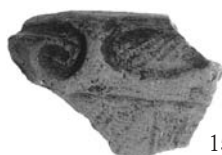
11



13



14



15



16





28



29



31



30



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



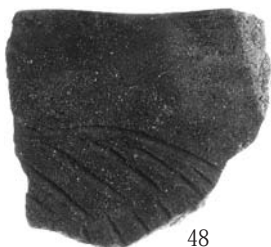
45



46



47



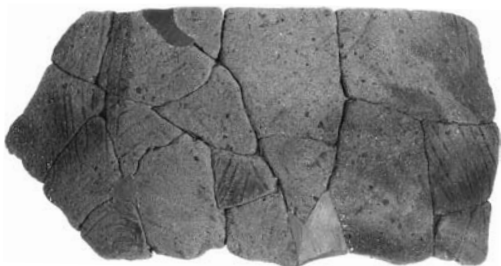
48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



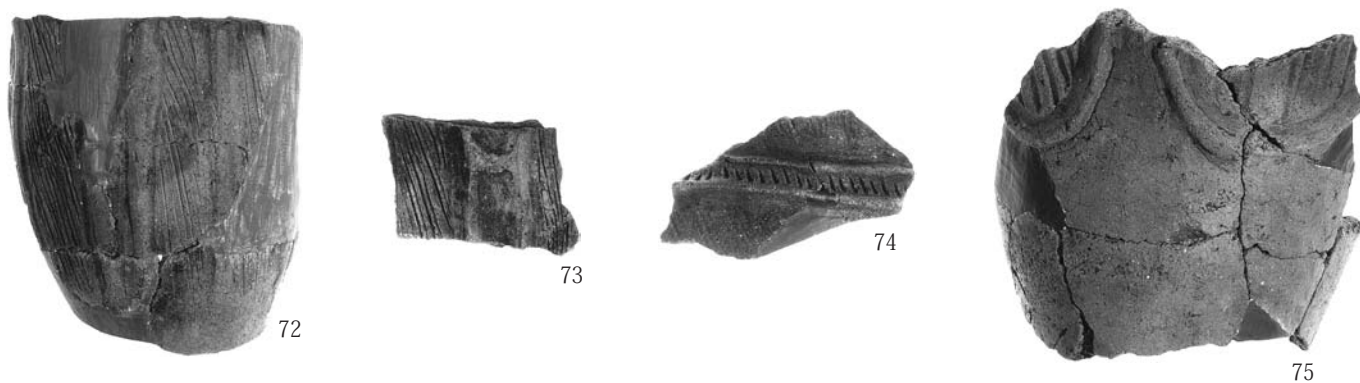
62



63



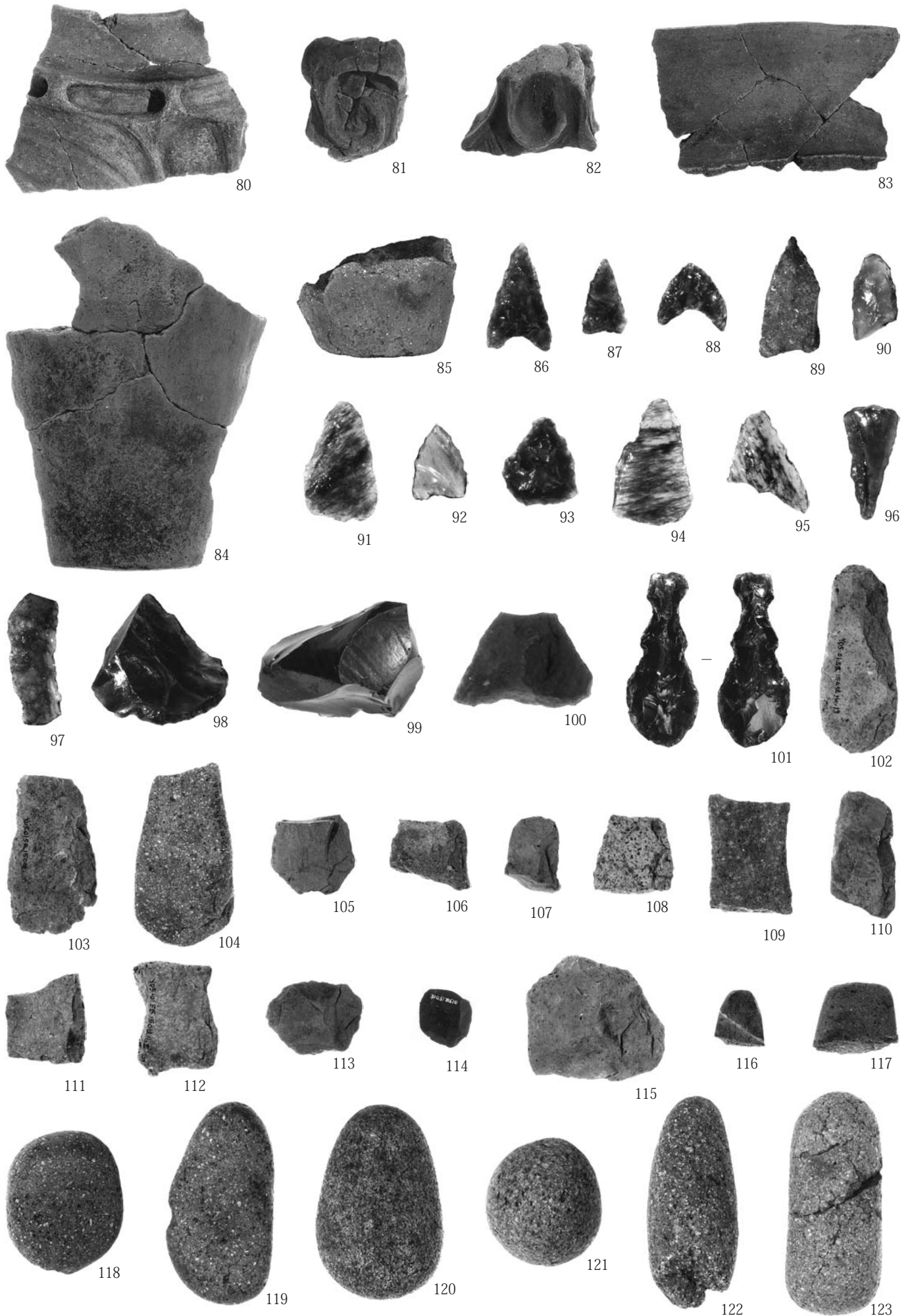
64

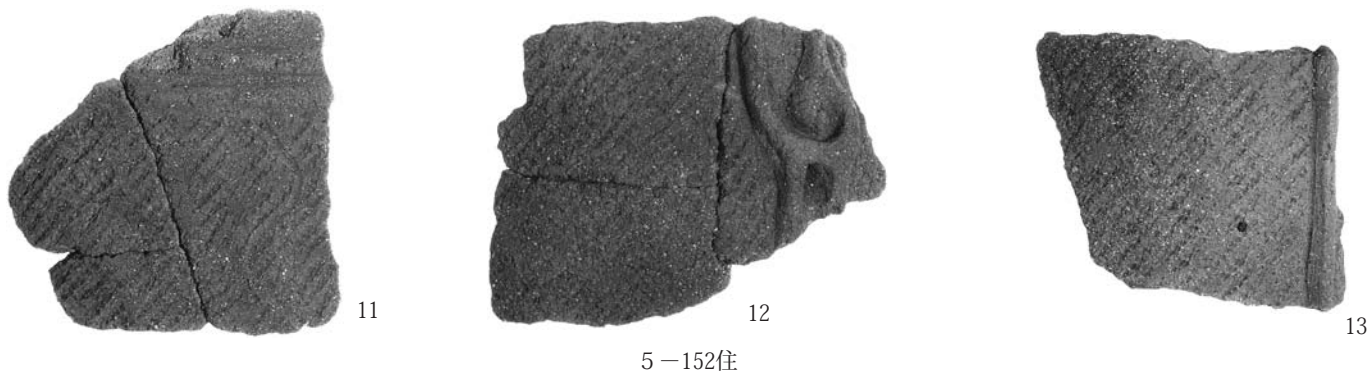
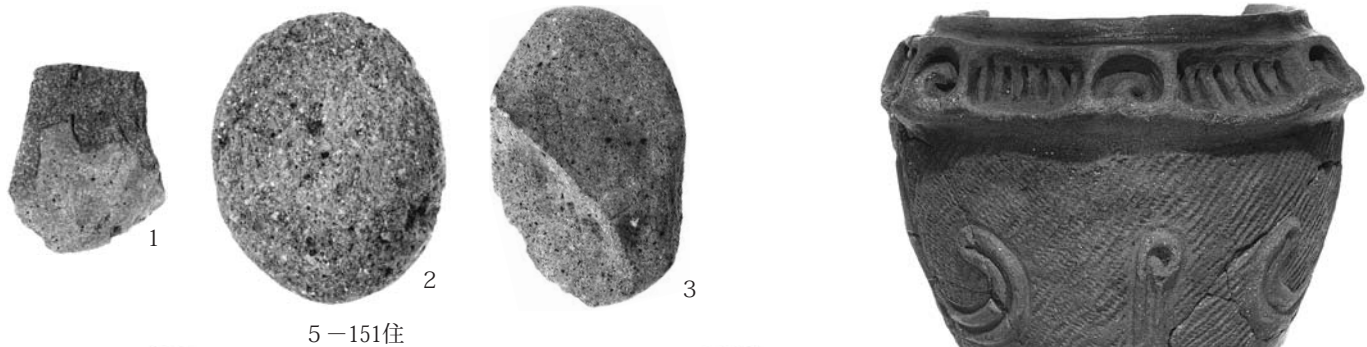
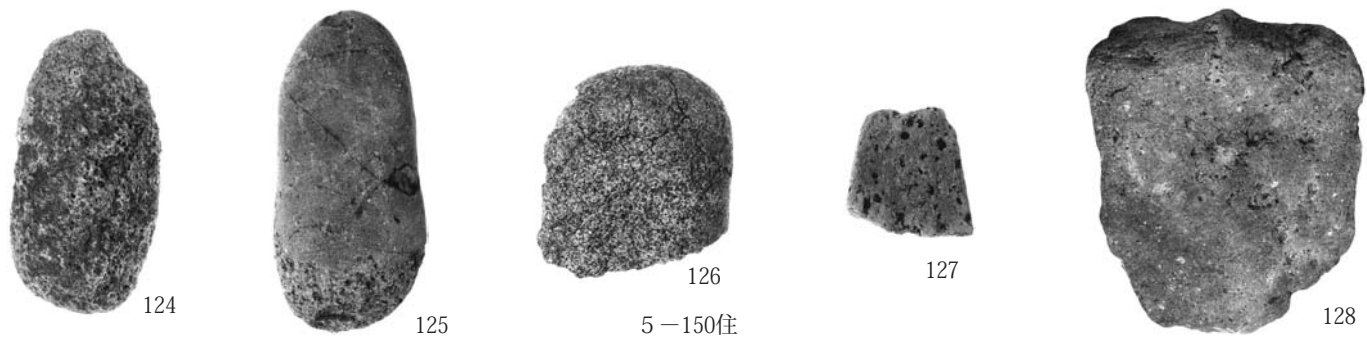


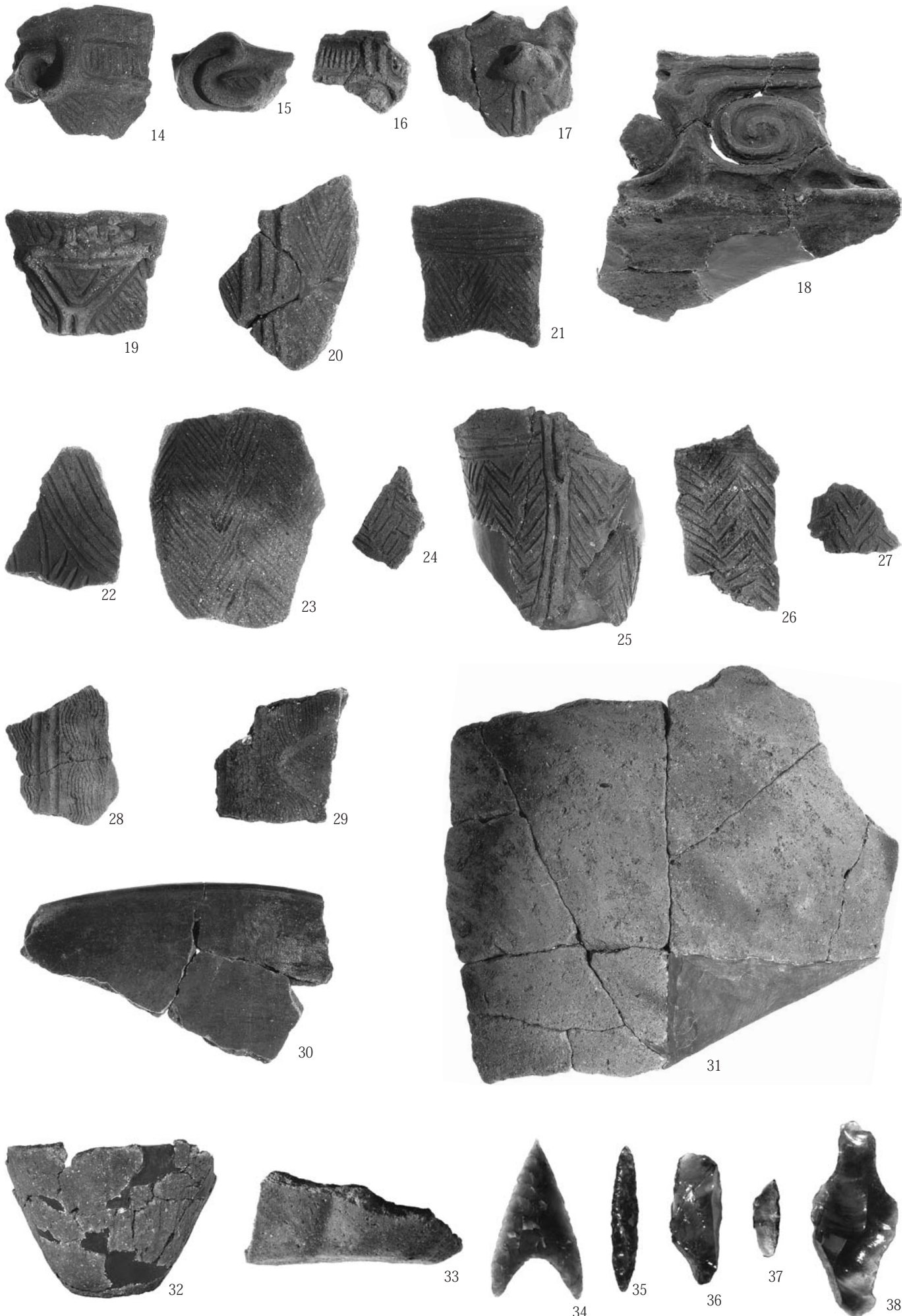
78  
5-150住

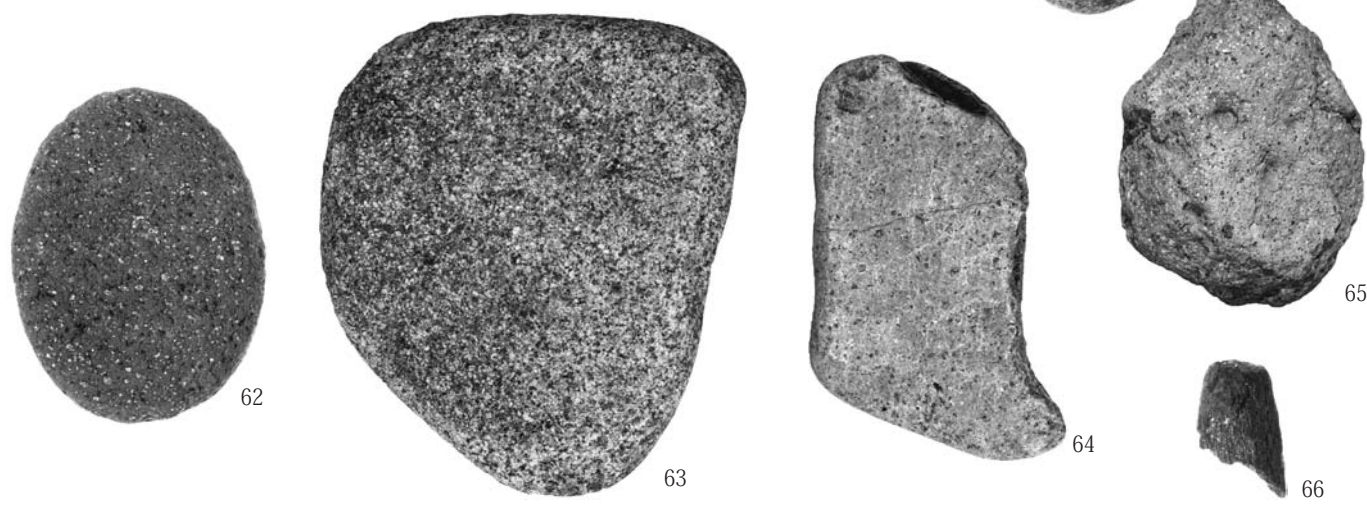
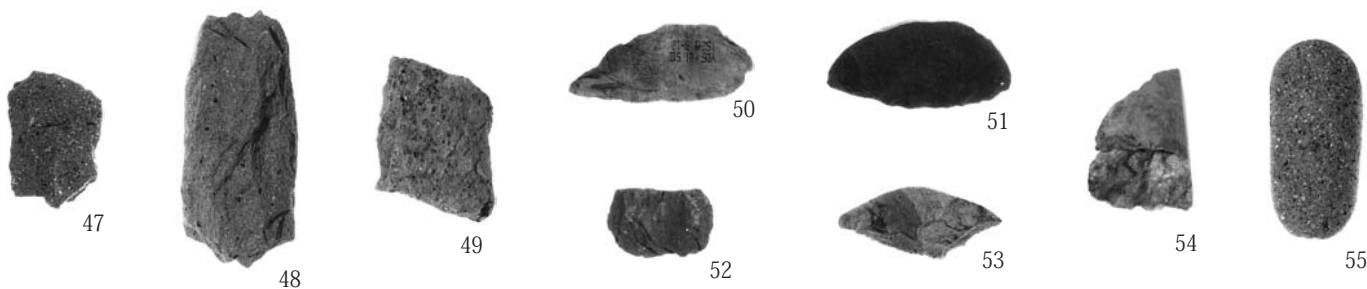
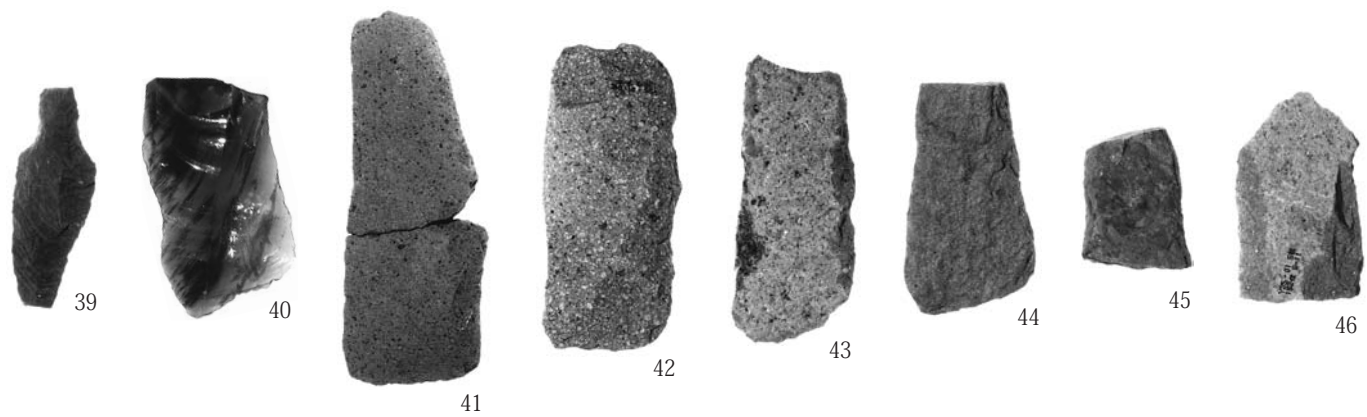
79







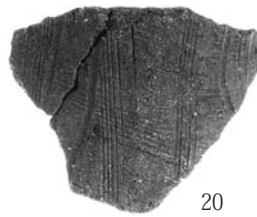


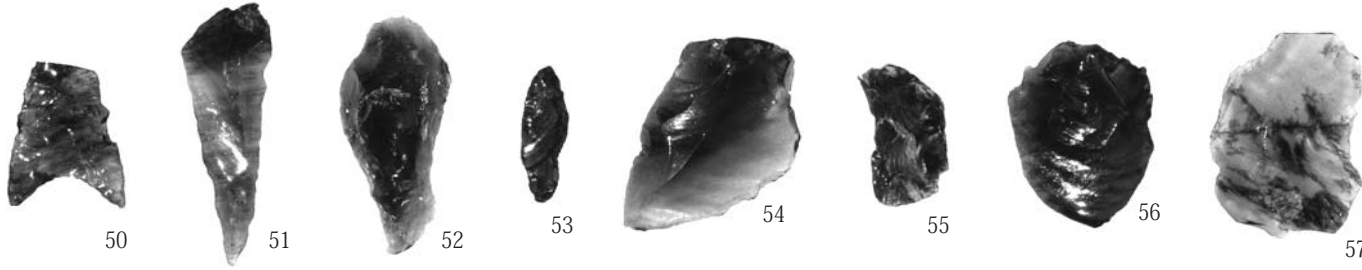
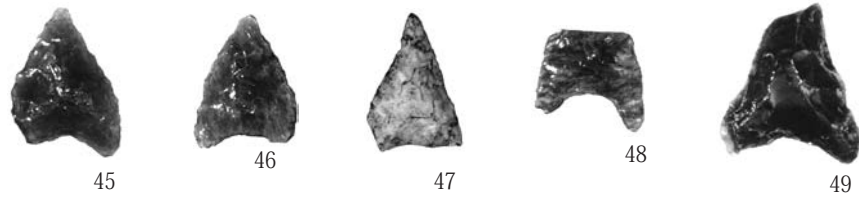
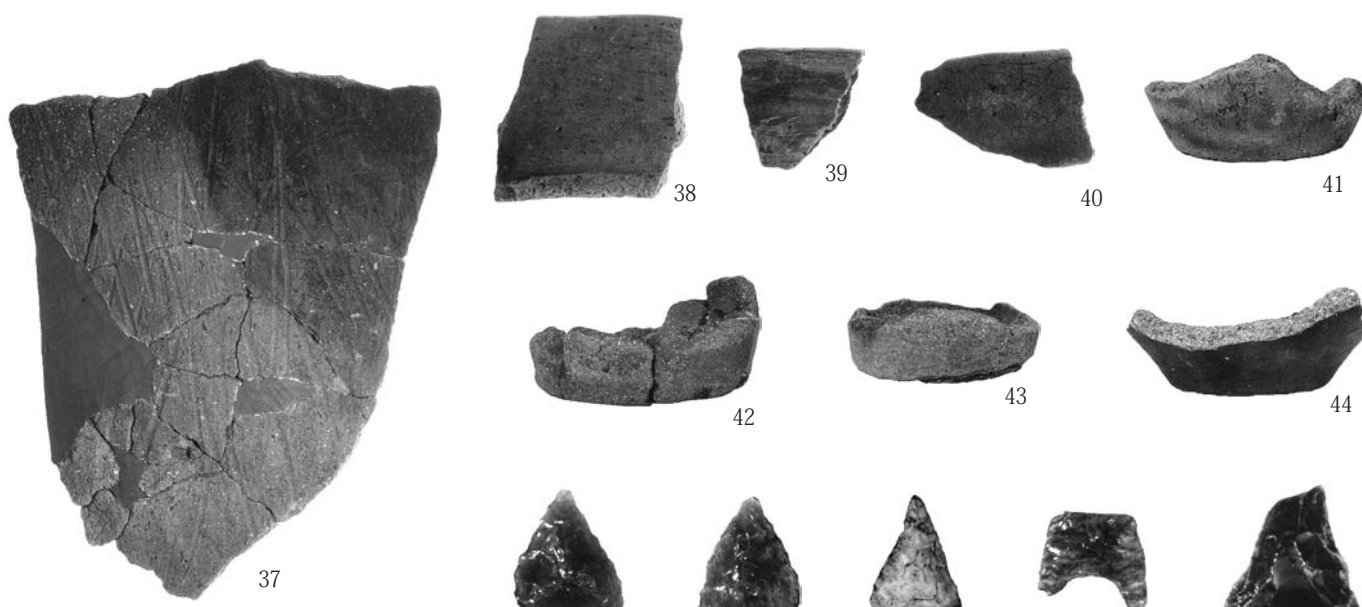
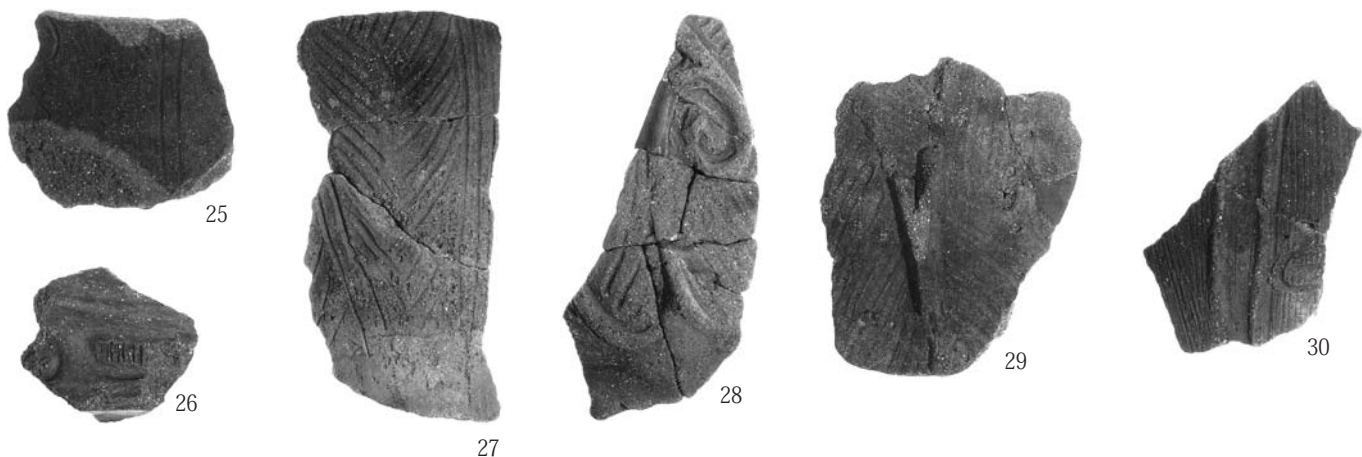


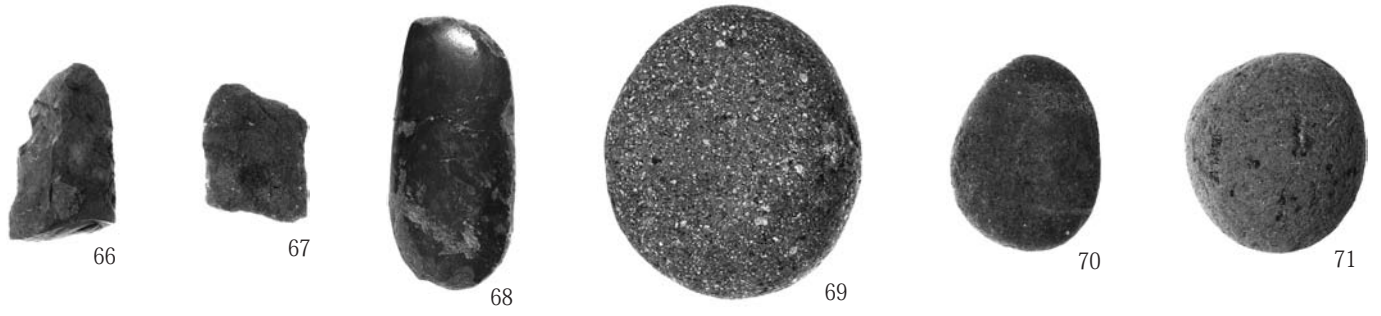
5-152住



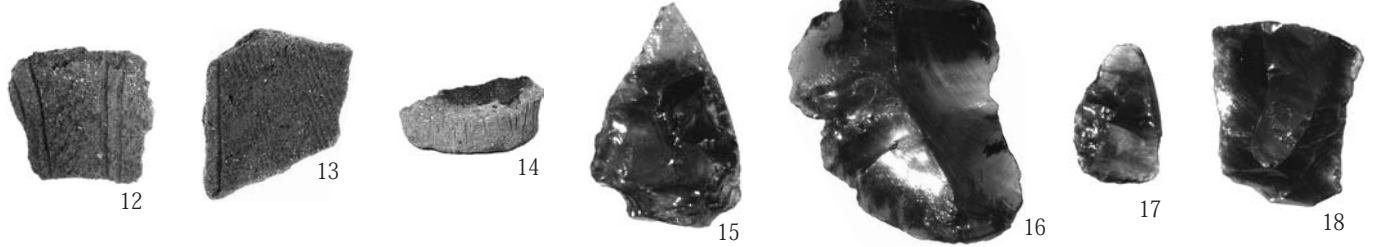
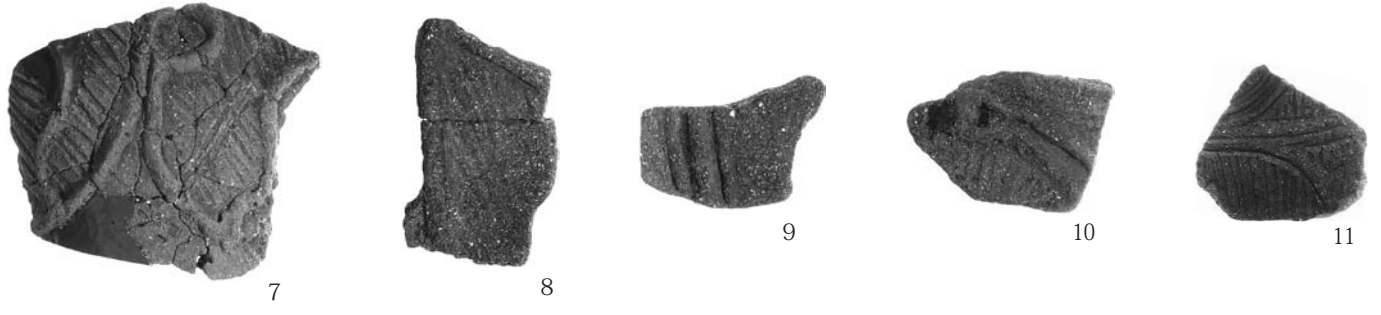
5-153住







5-153住



5-154住



5-154住



5-155住





9



10



11



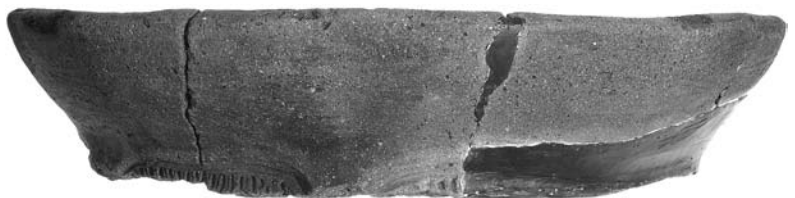
13



14



12



15



16



18



17



19



20



21



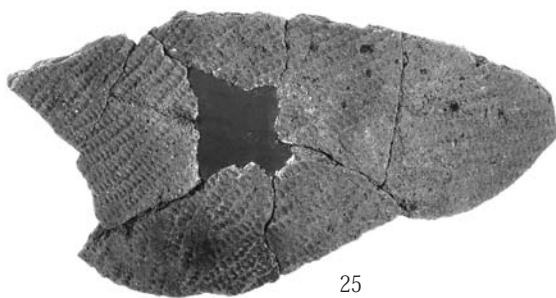
22



23



24



25



26



27



28



29



30



32



33



34



35



31



36



37



39



40



41



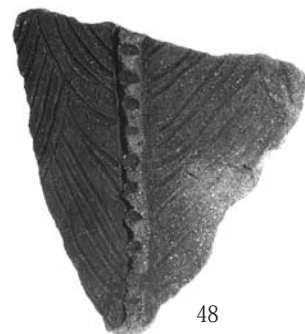
42



43



44



48



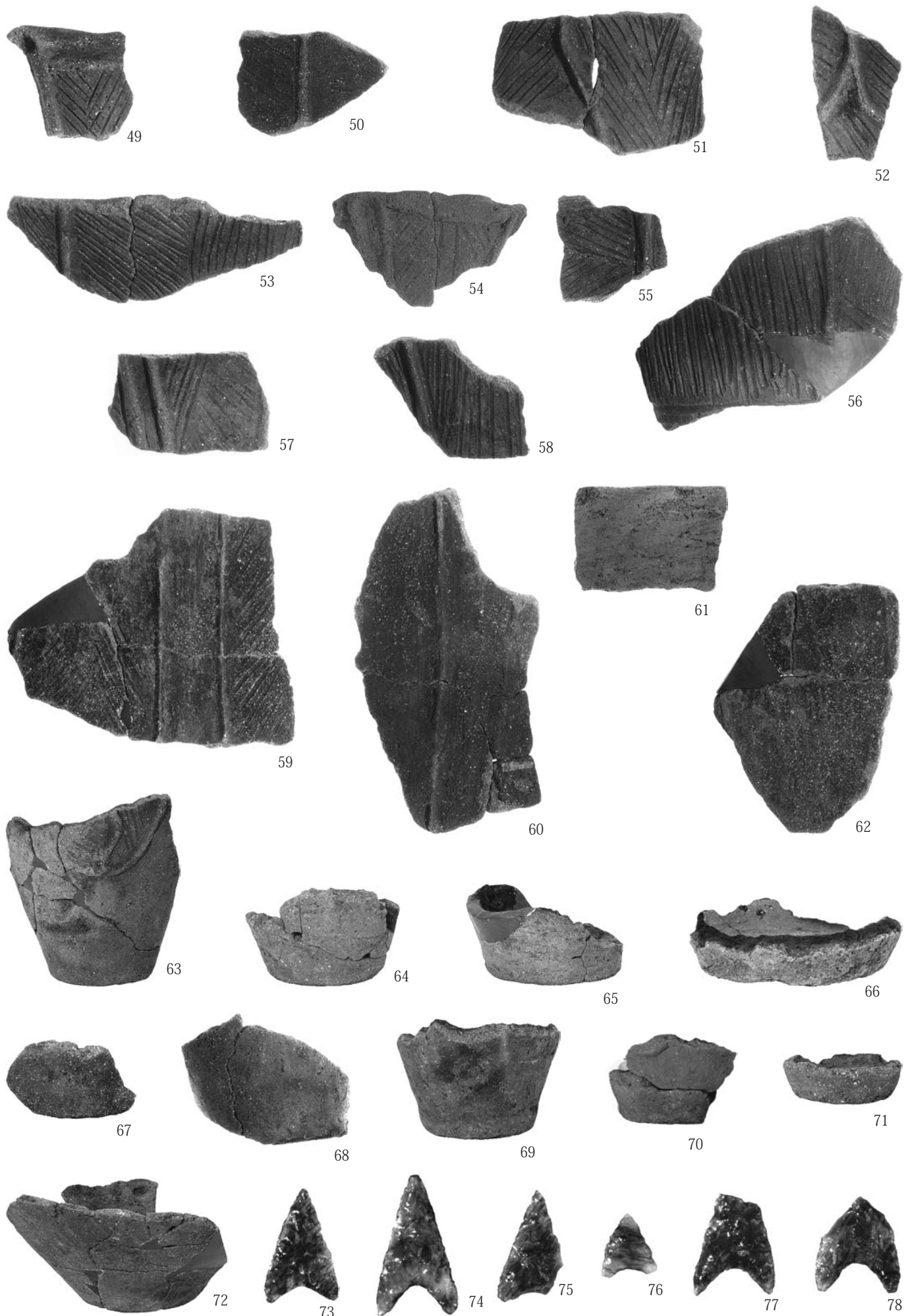
45

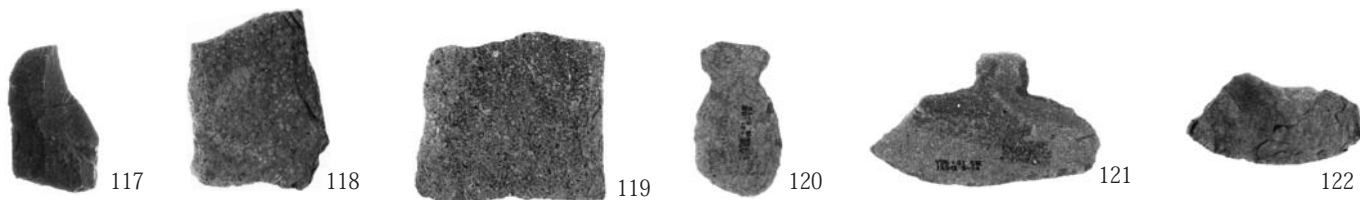
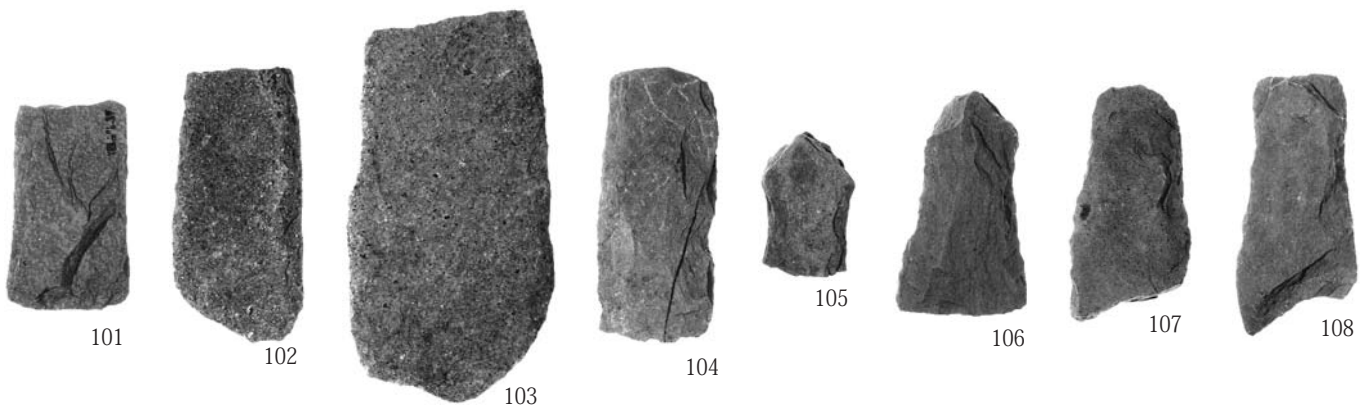
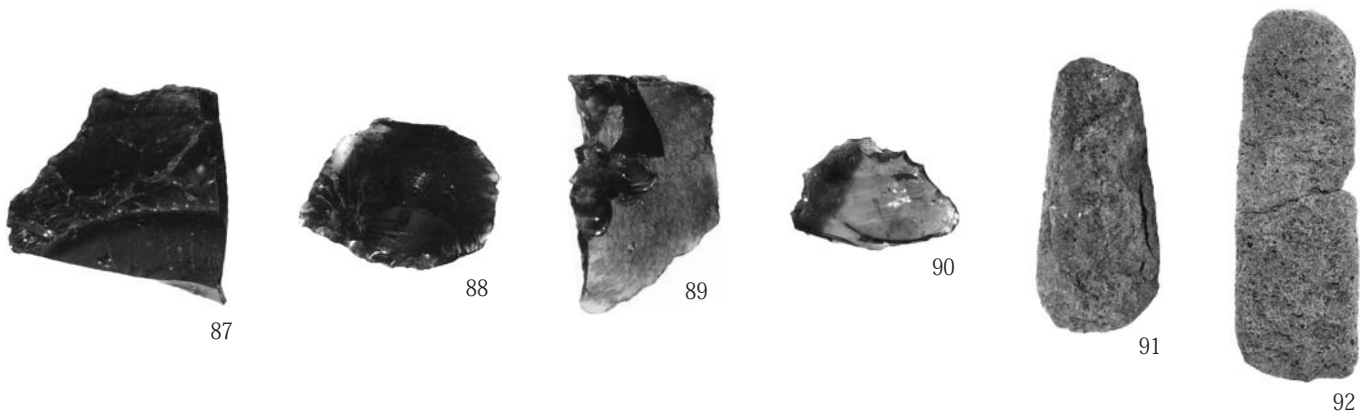
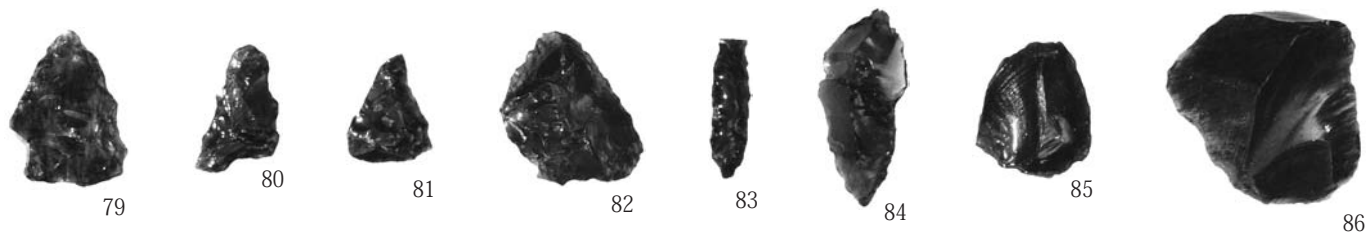


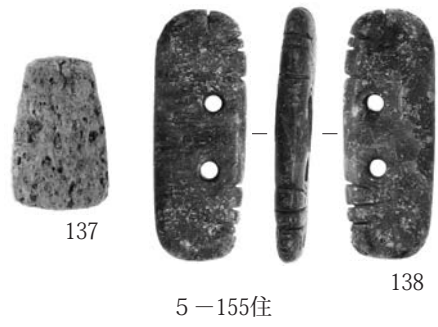
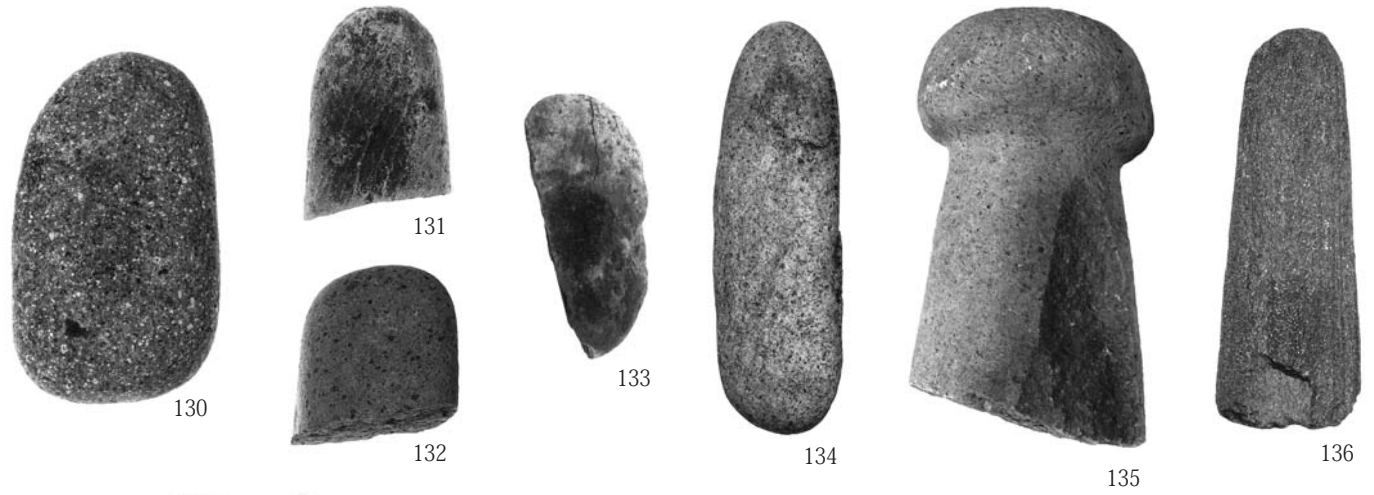
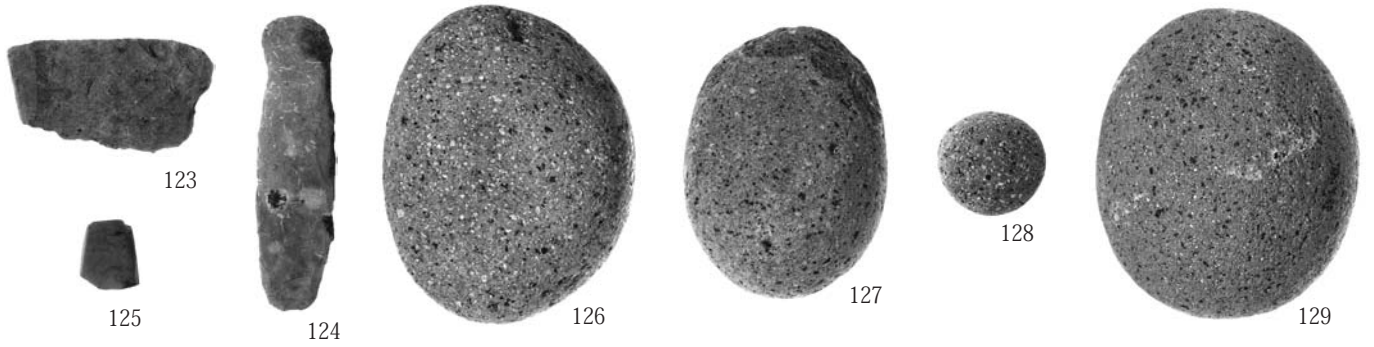
46



47









6



7



8



9



10



11



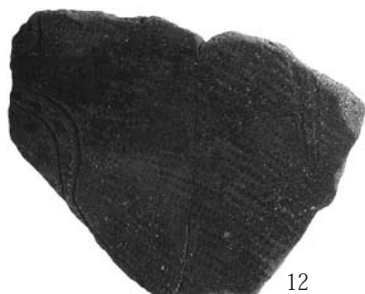
13



14



15



12



16



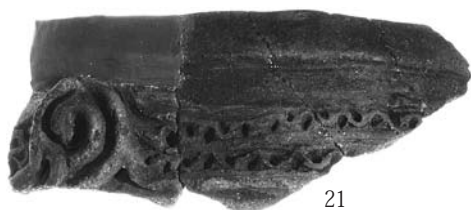
17



18



19



21



22



23



20



24



25



26



27



28



29



30



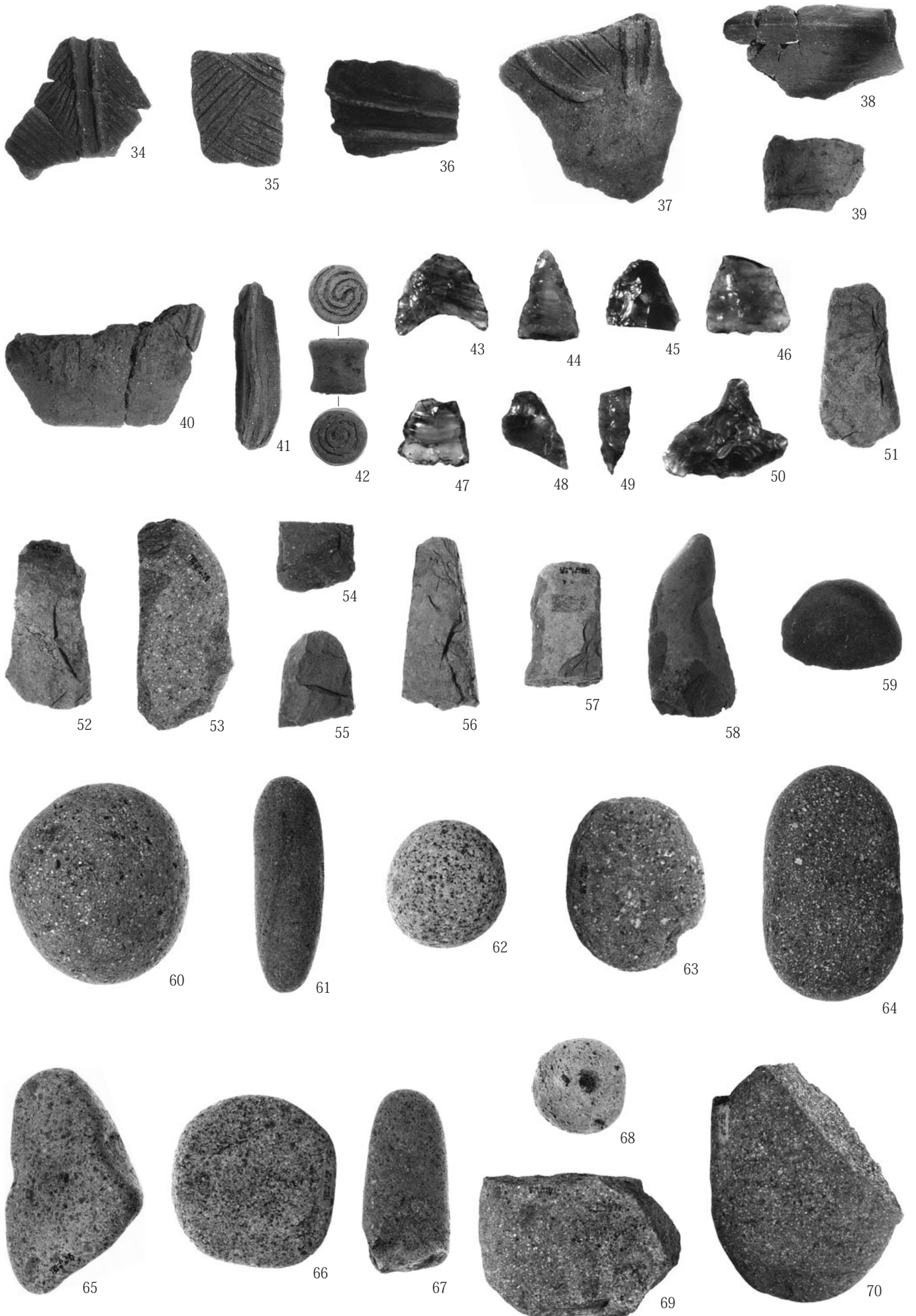
31

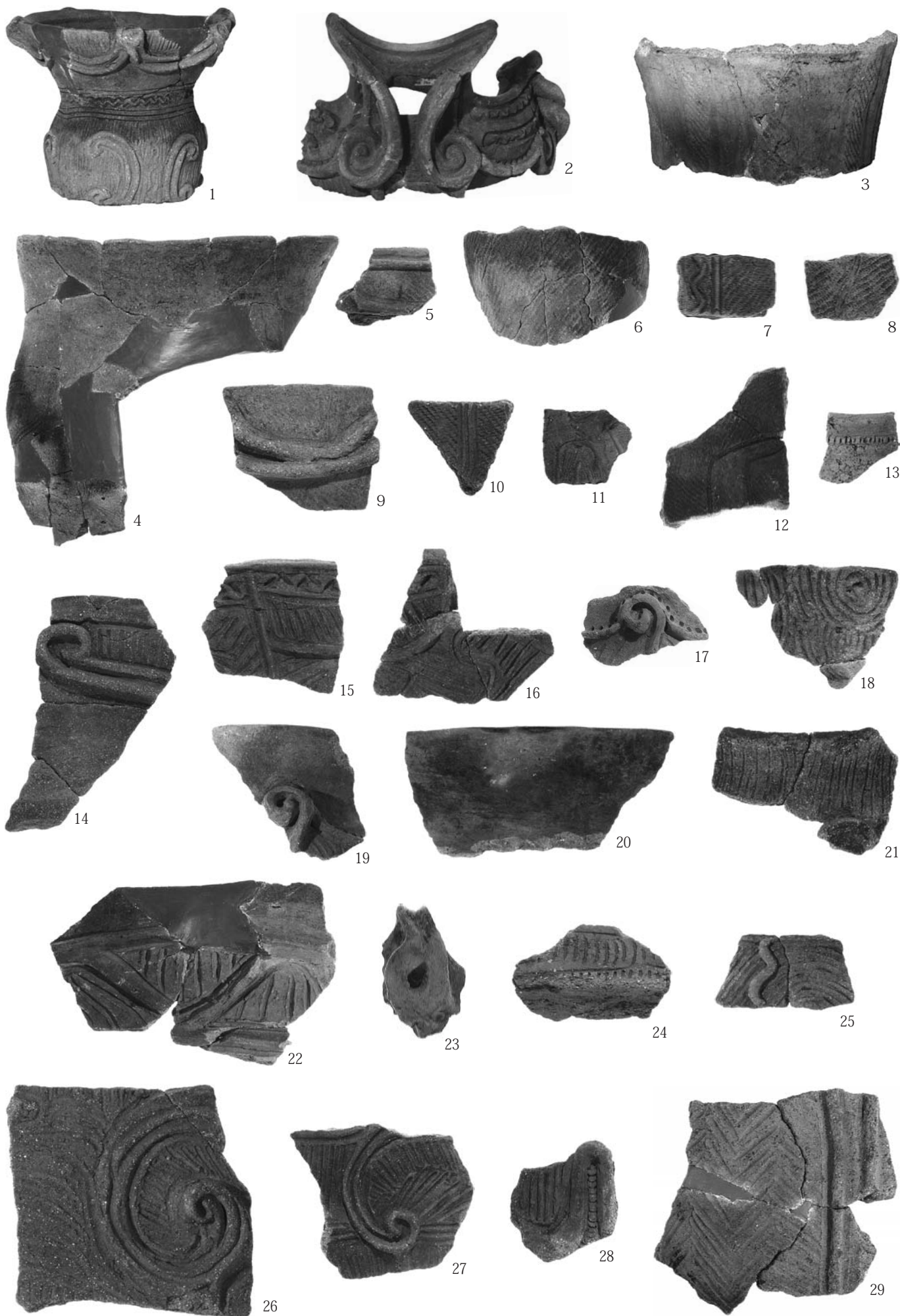


32

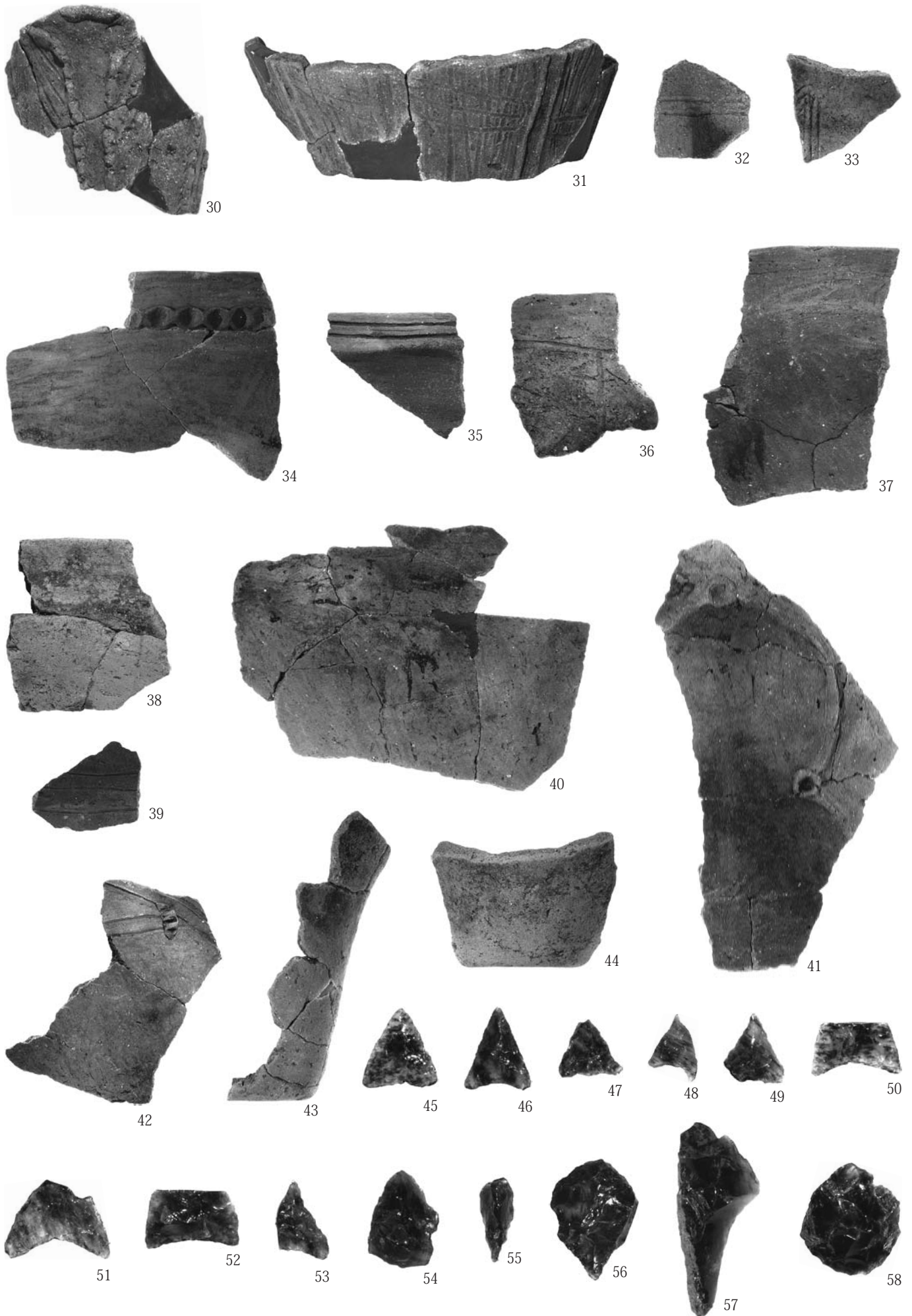


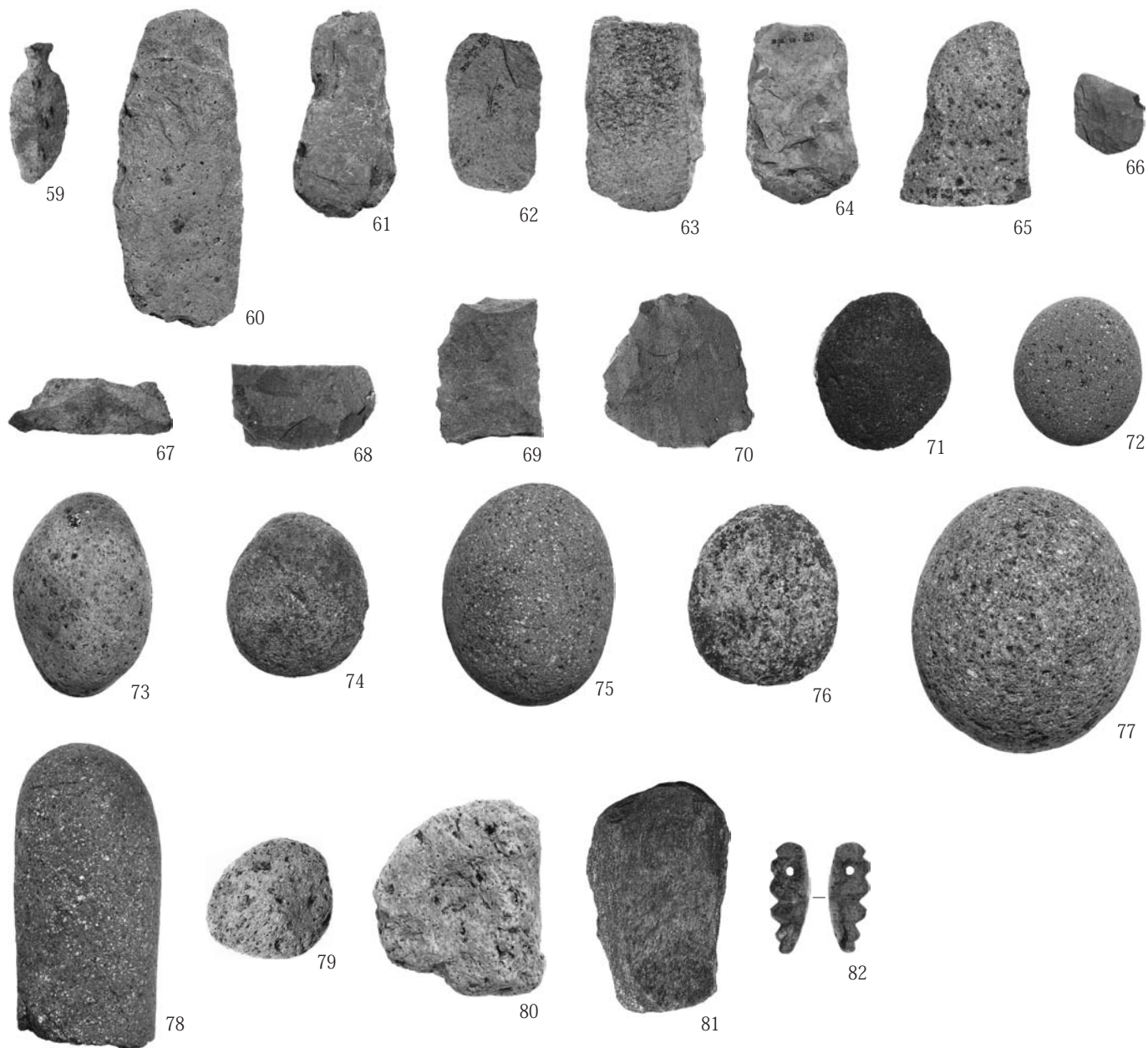
33







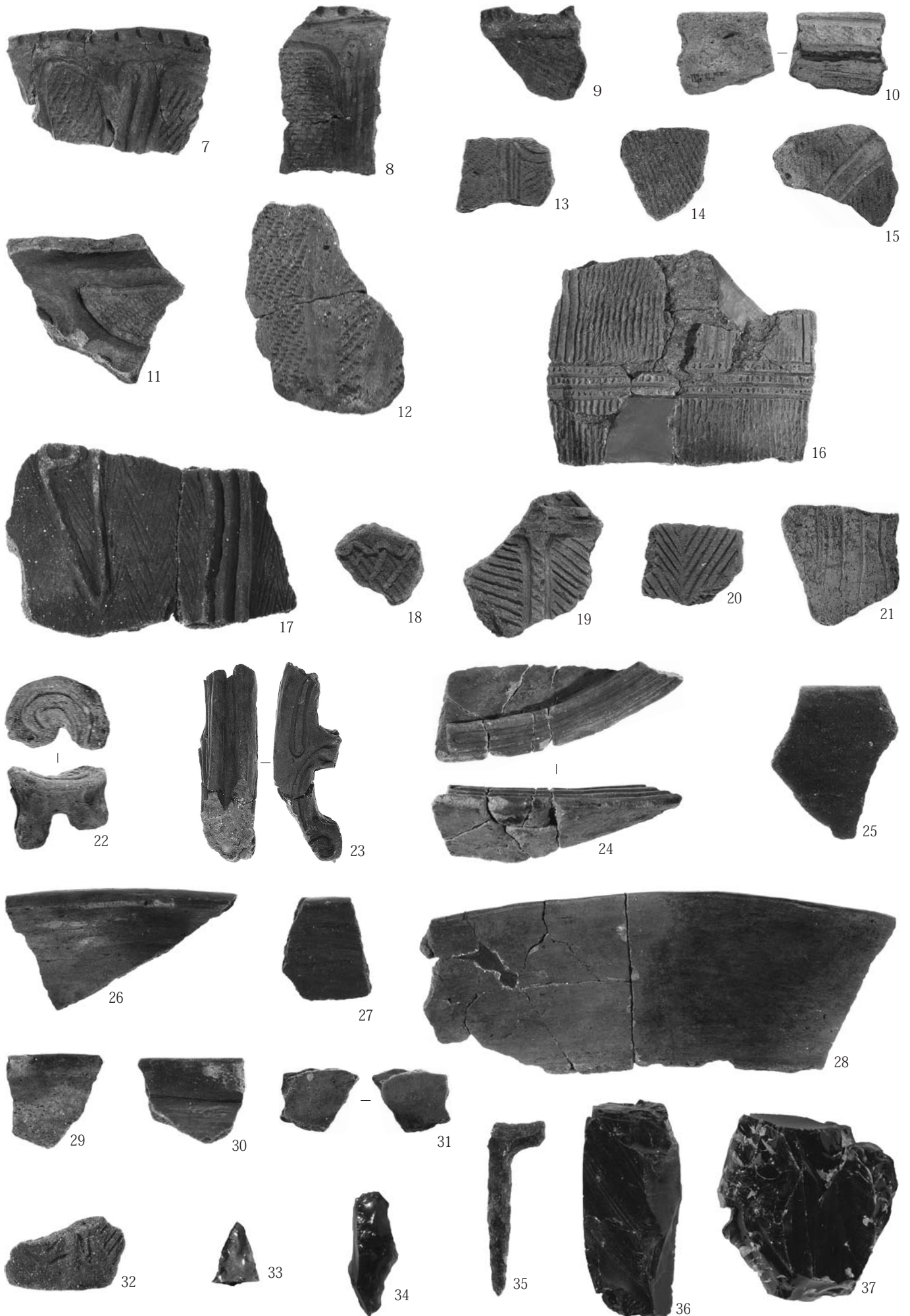


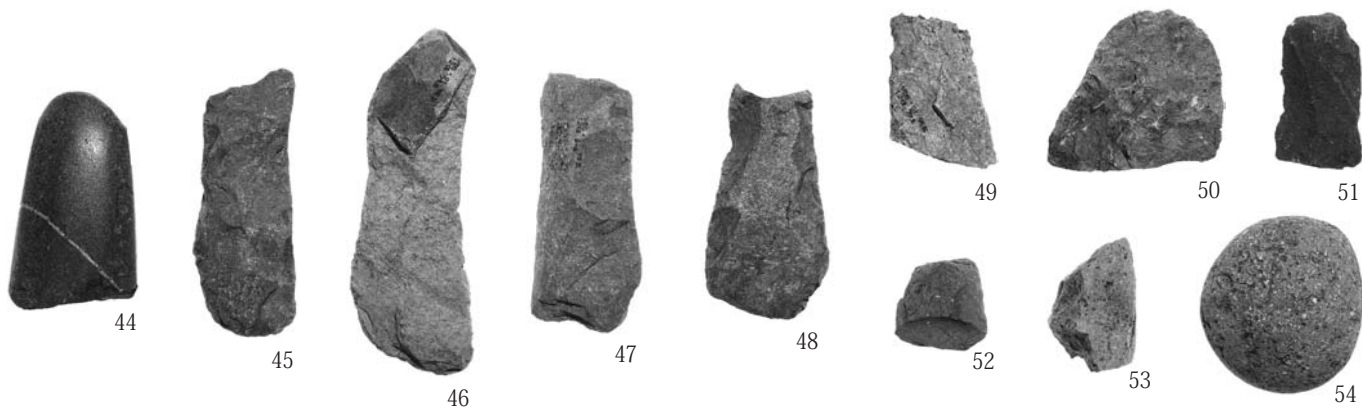
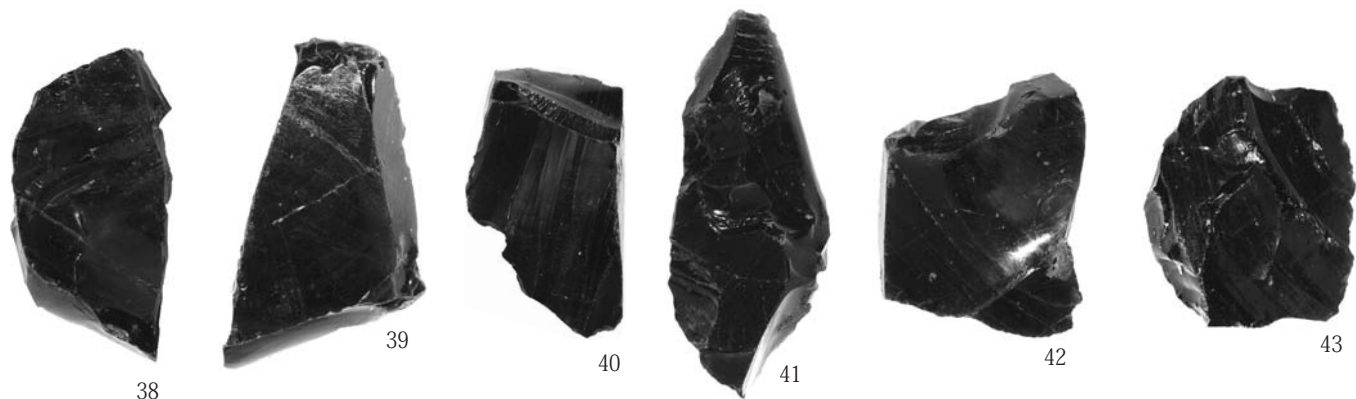


95-5住

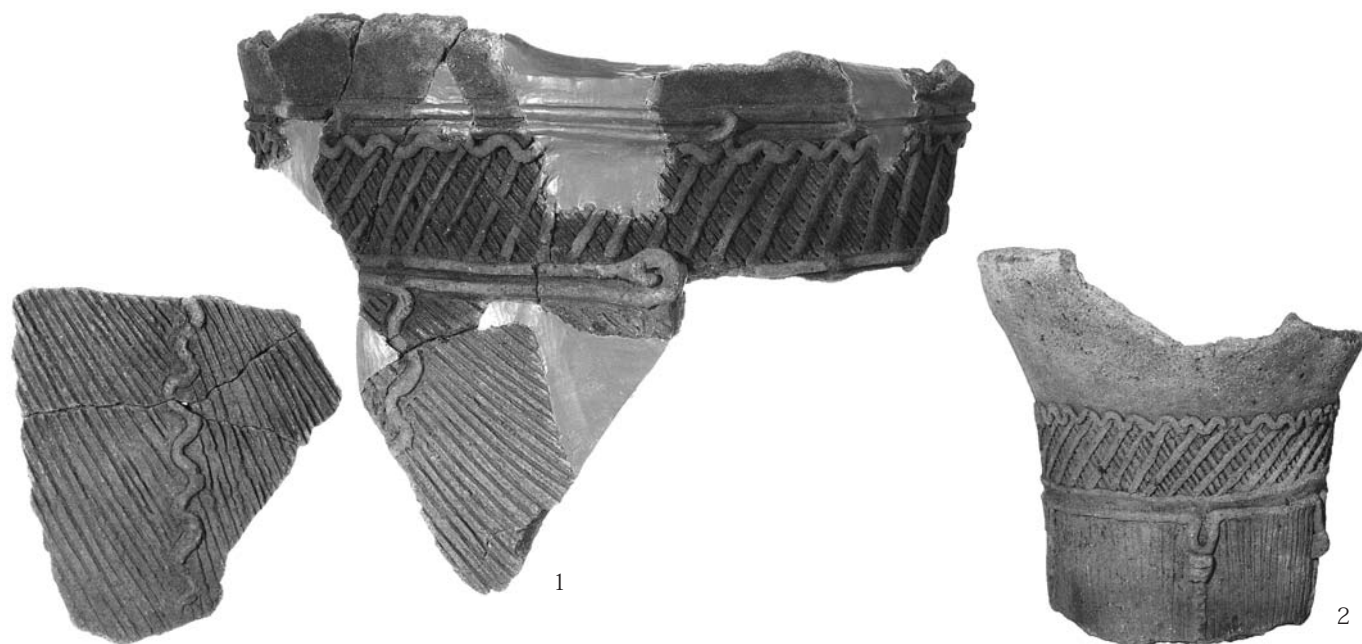


95-12住



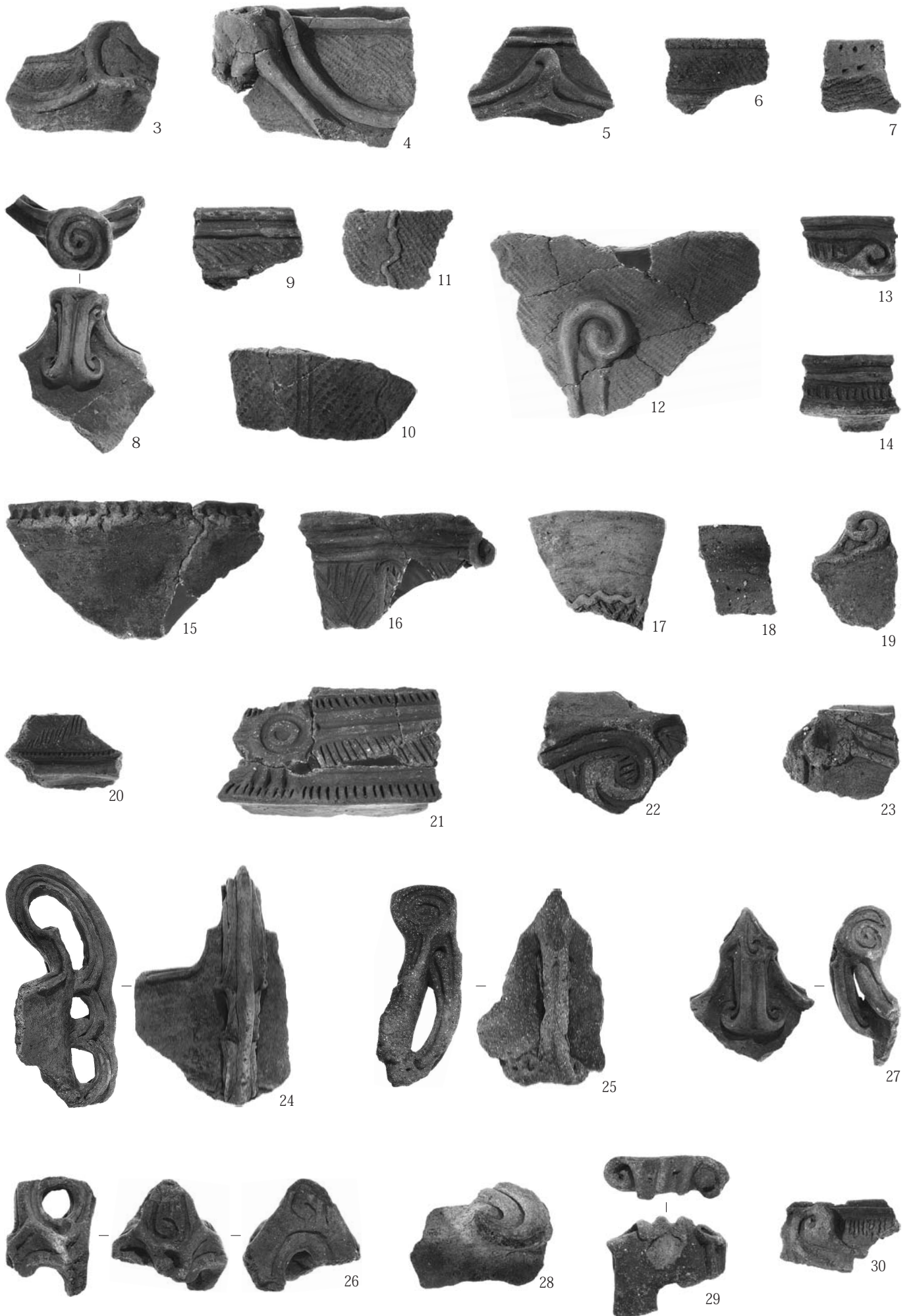


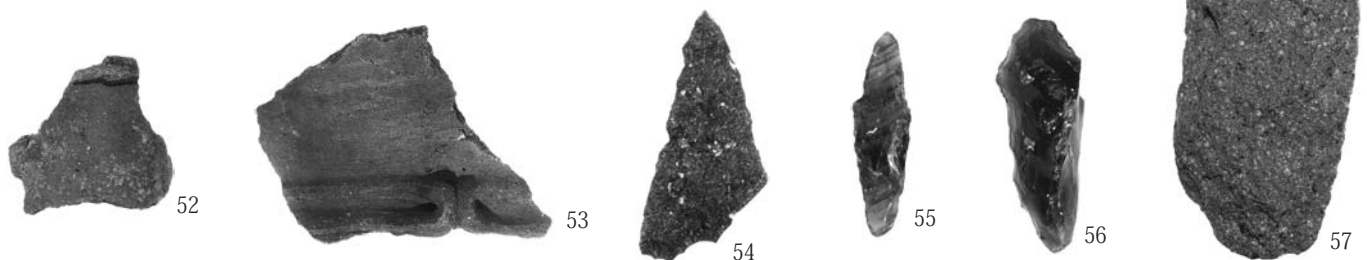
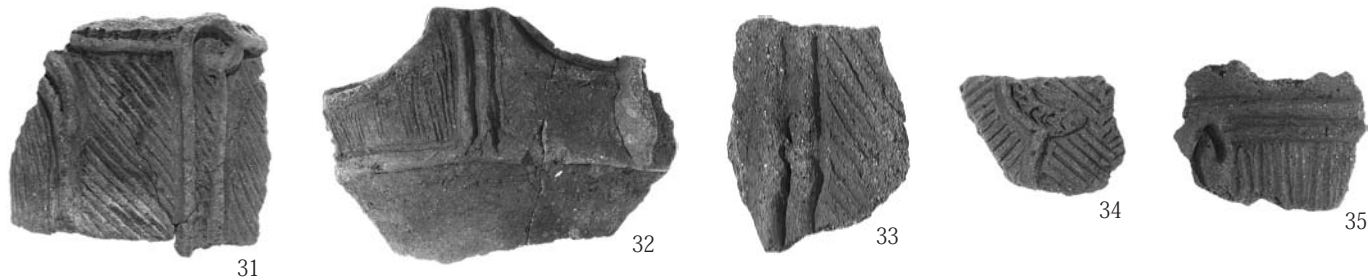
95-12住

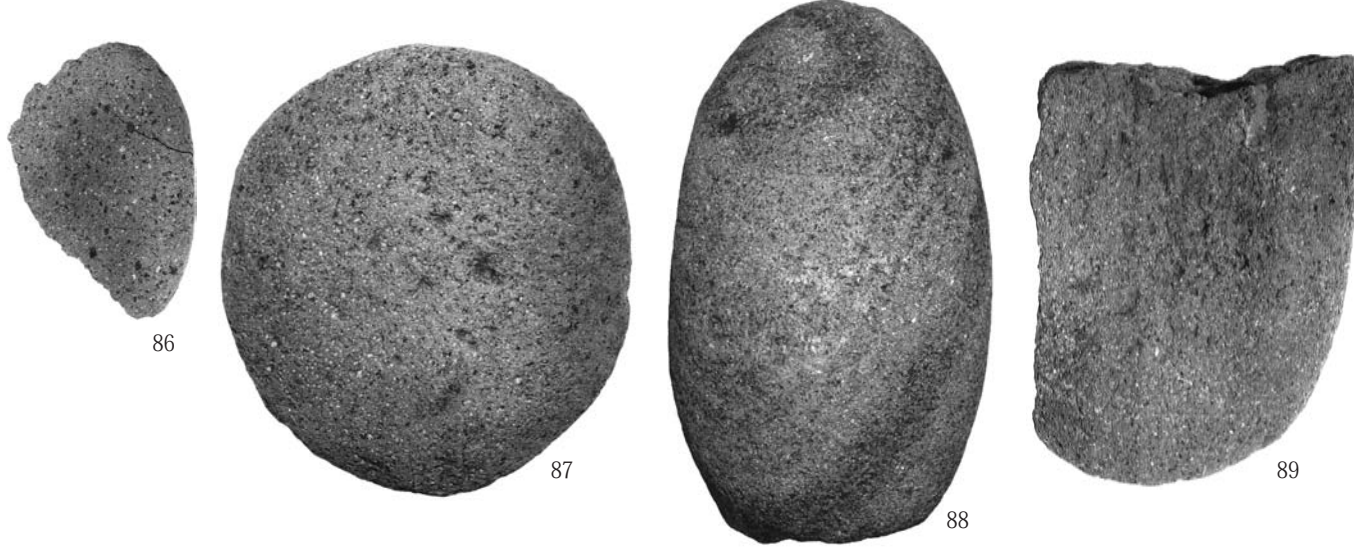
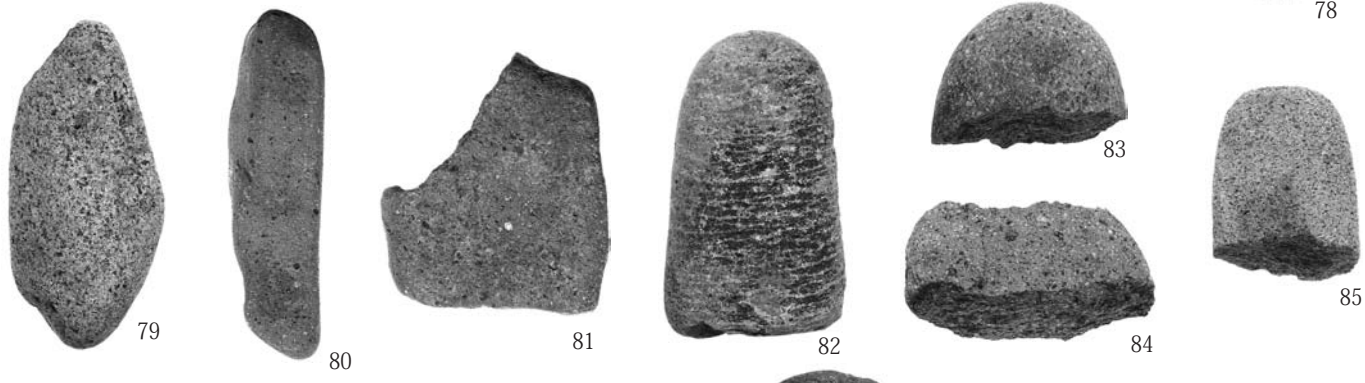
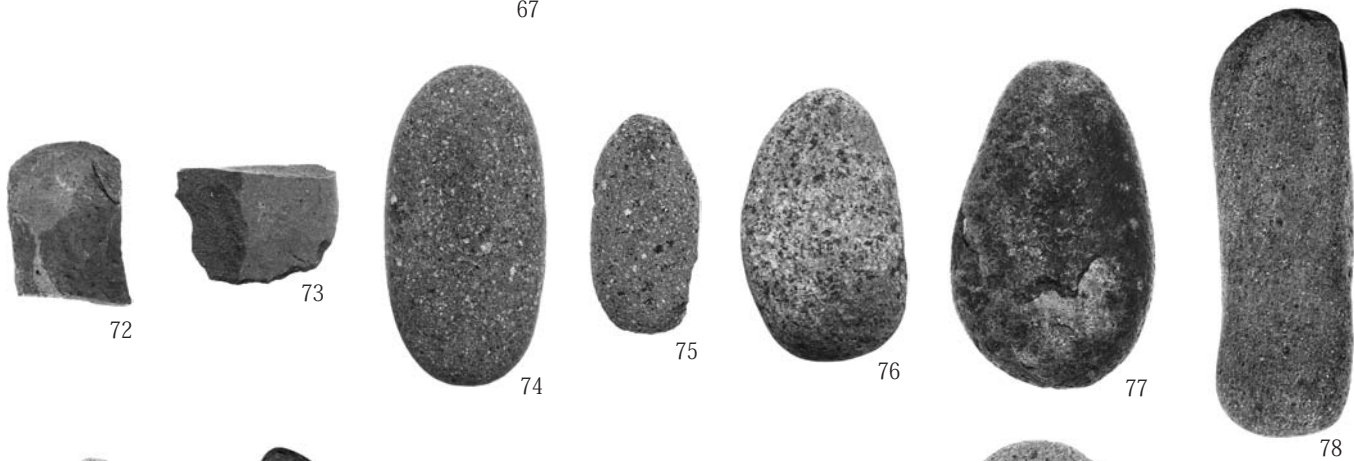
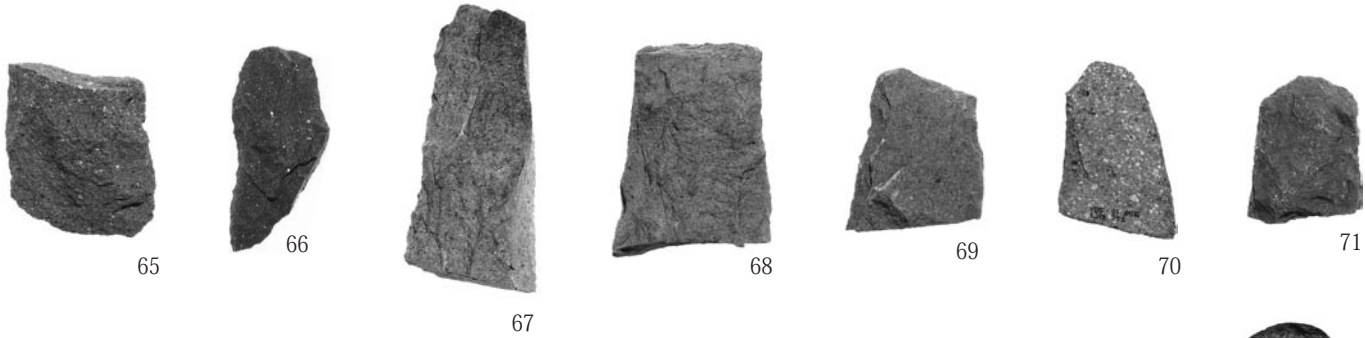


95-13住

PL.156

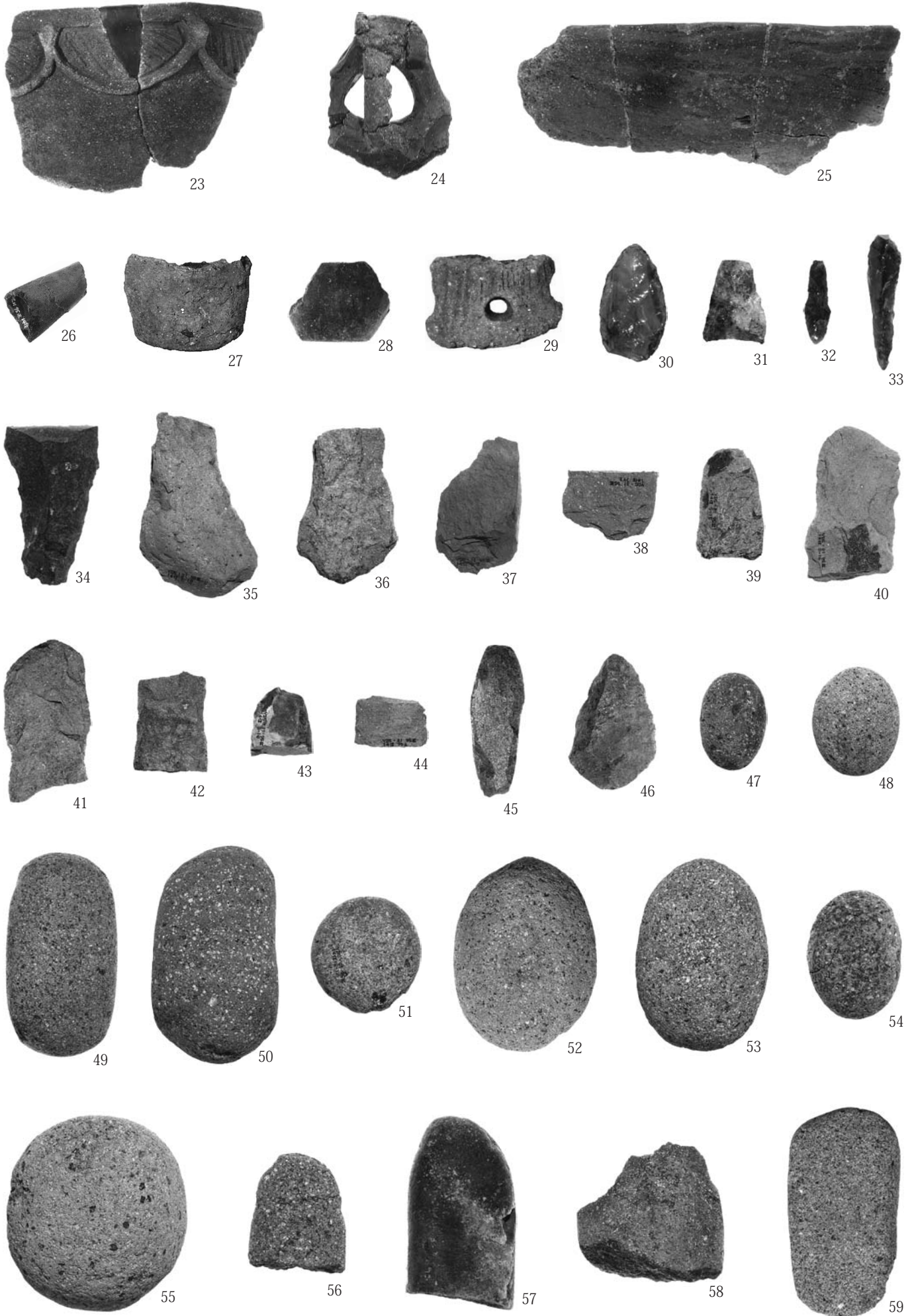


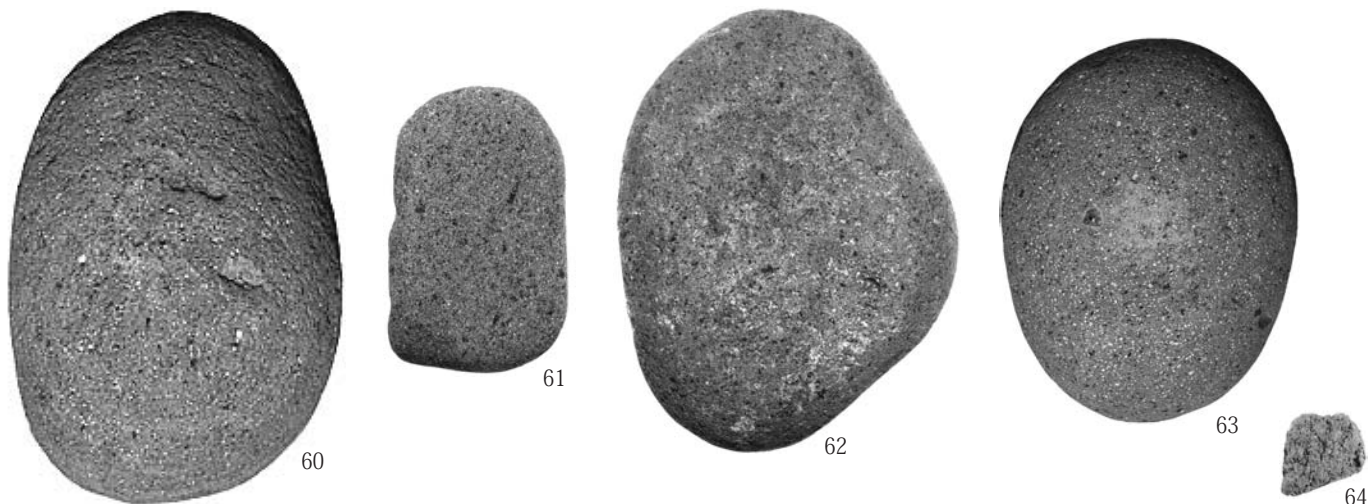




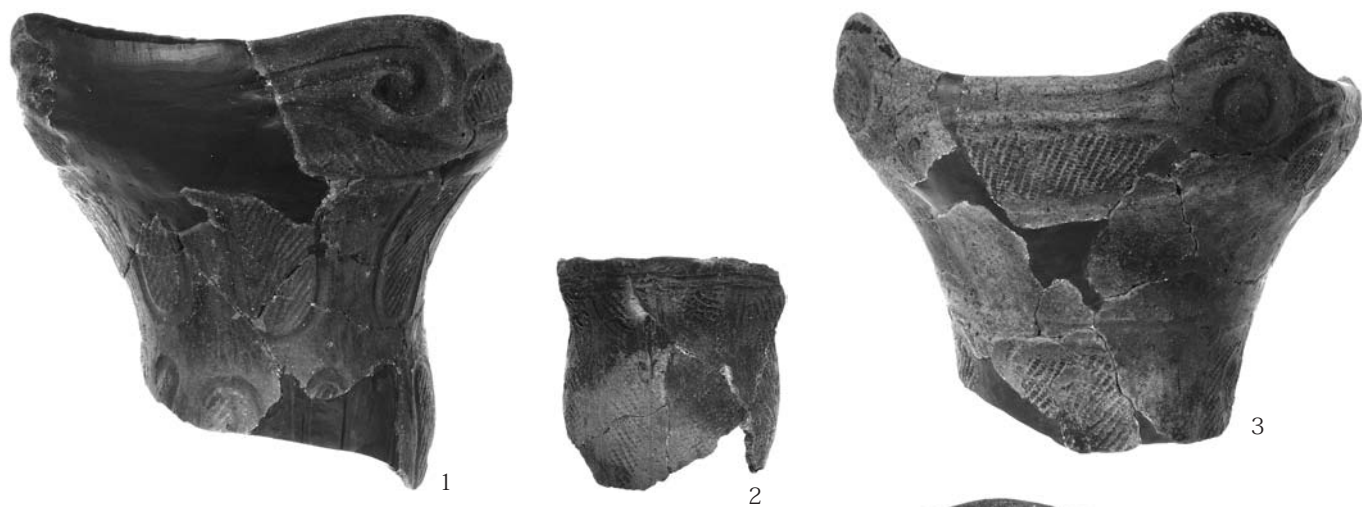






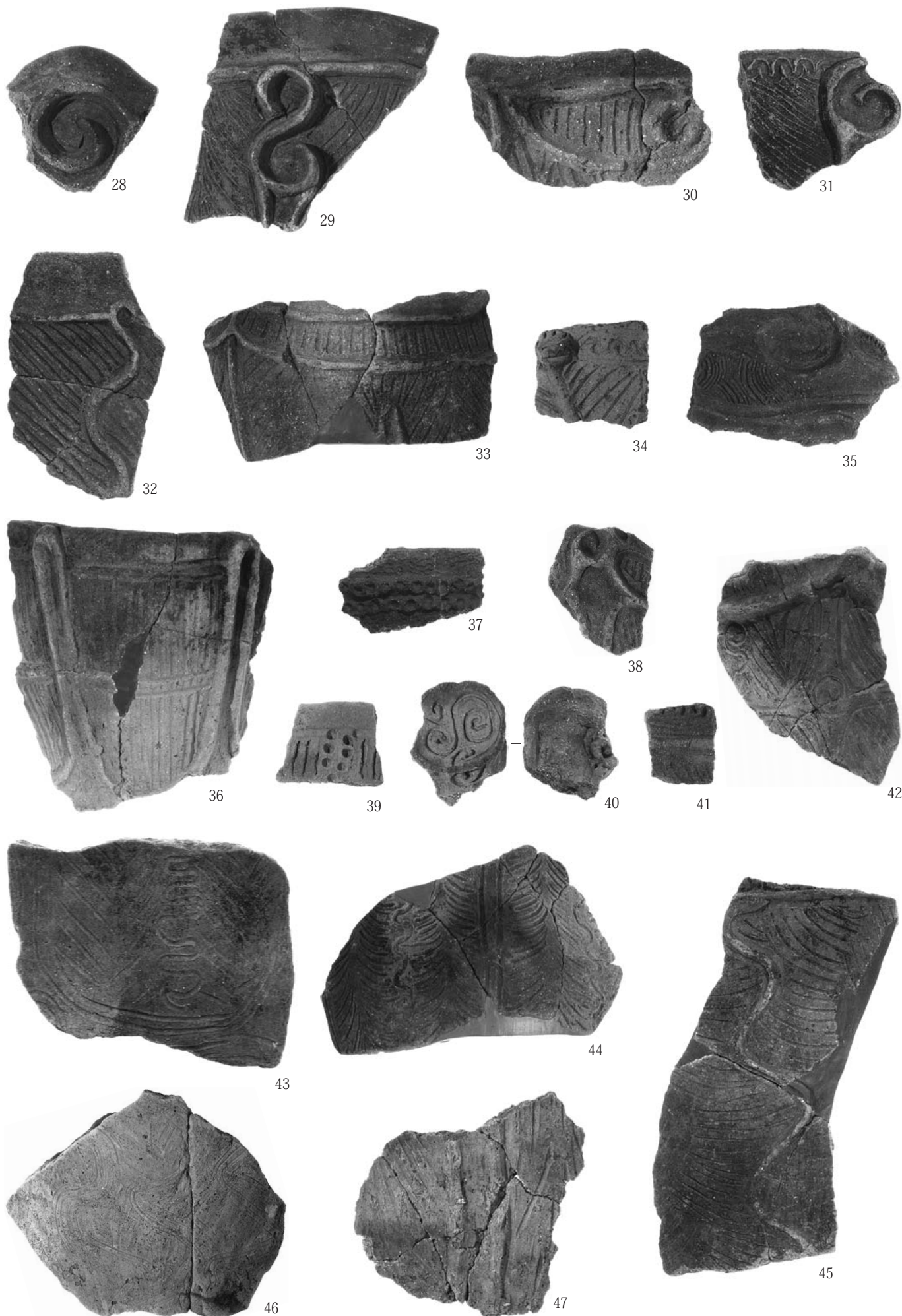


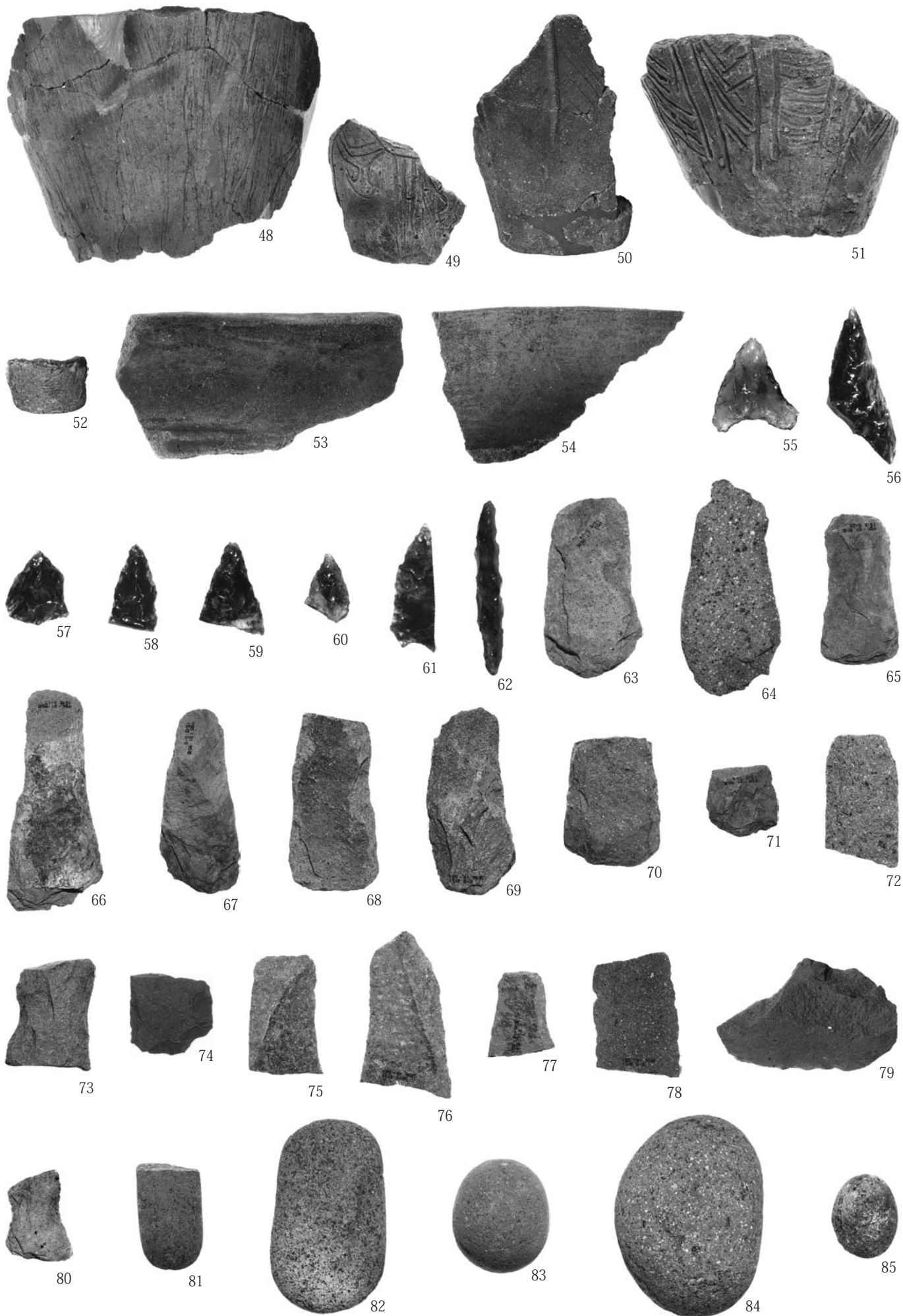
95-14住

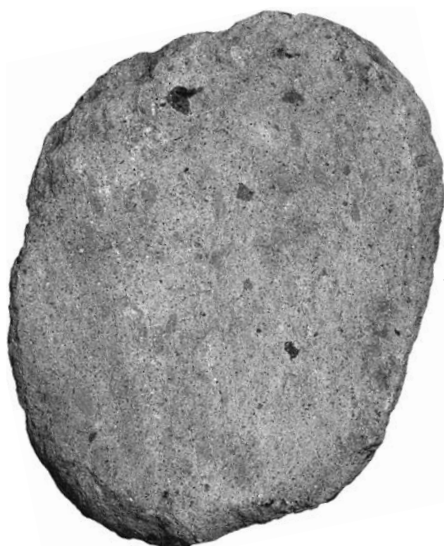


95-15住

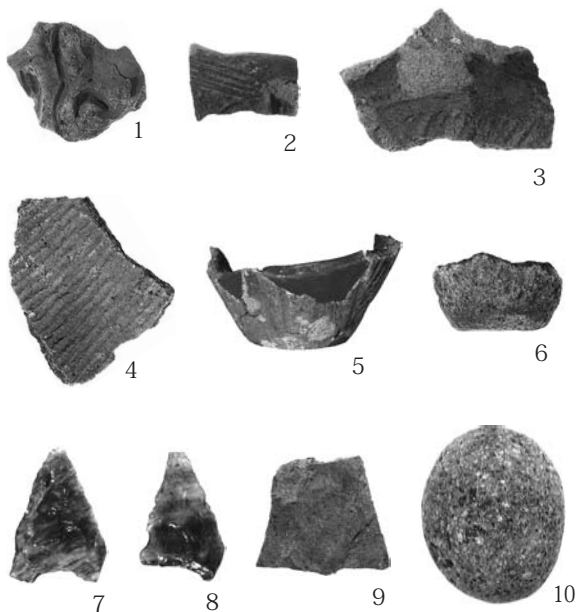








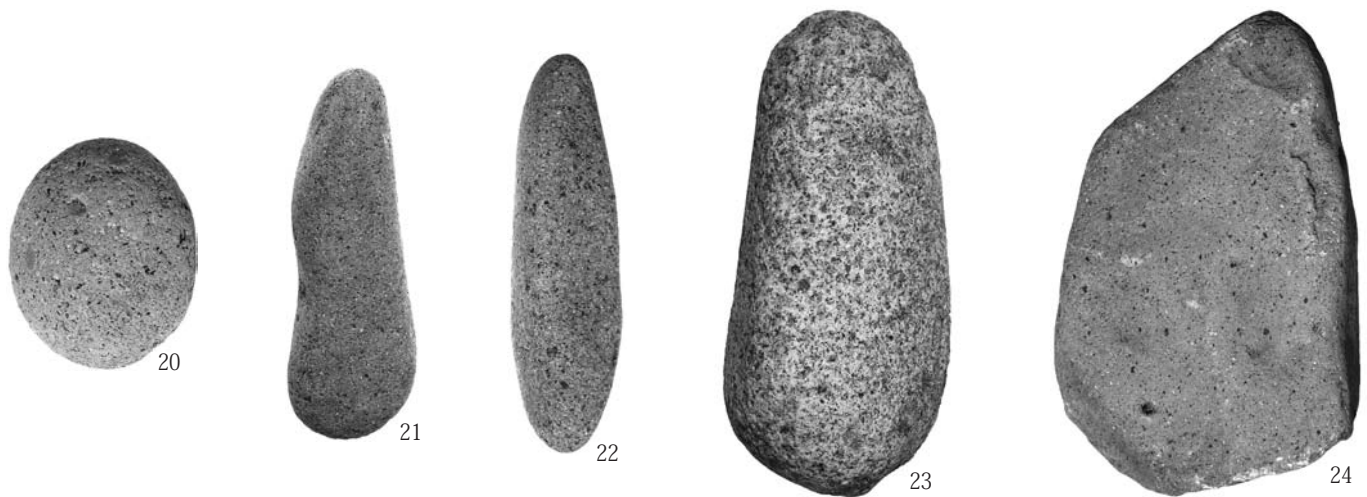
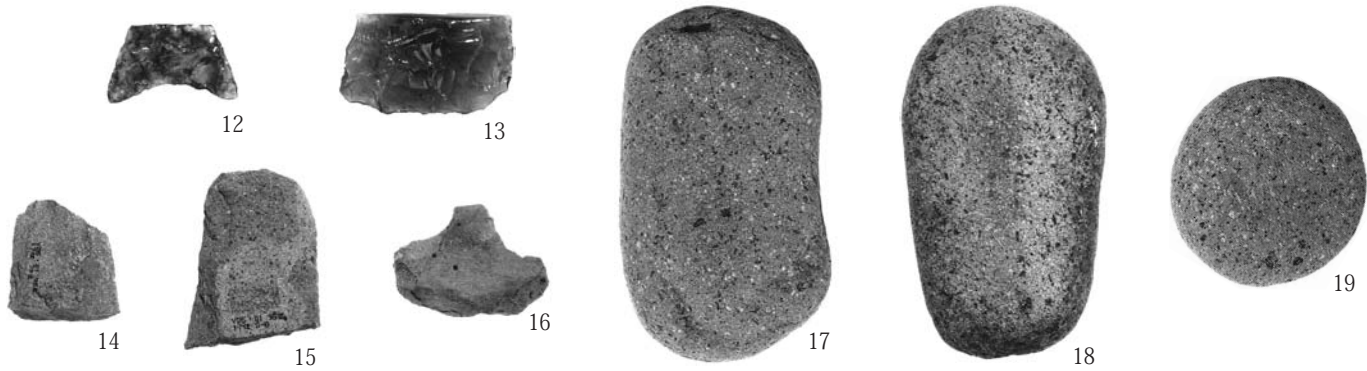
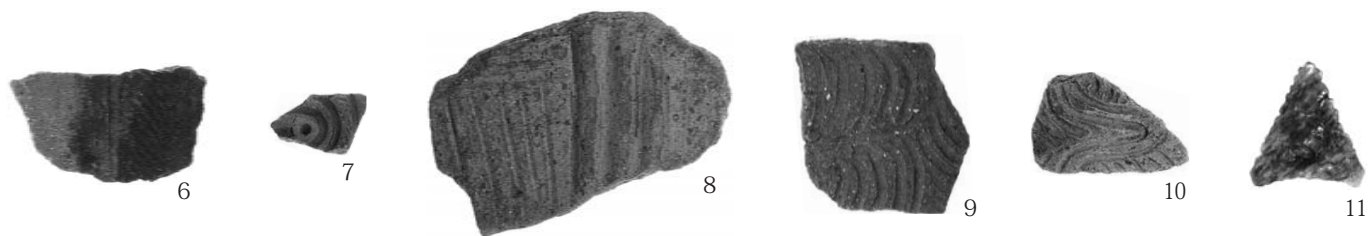
95-15住



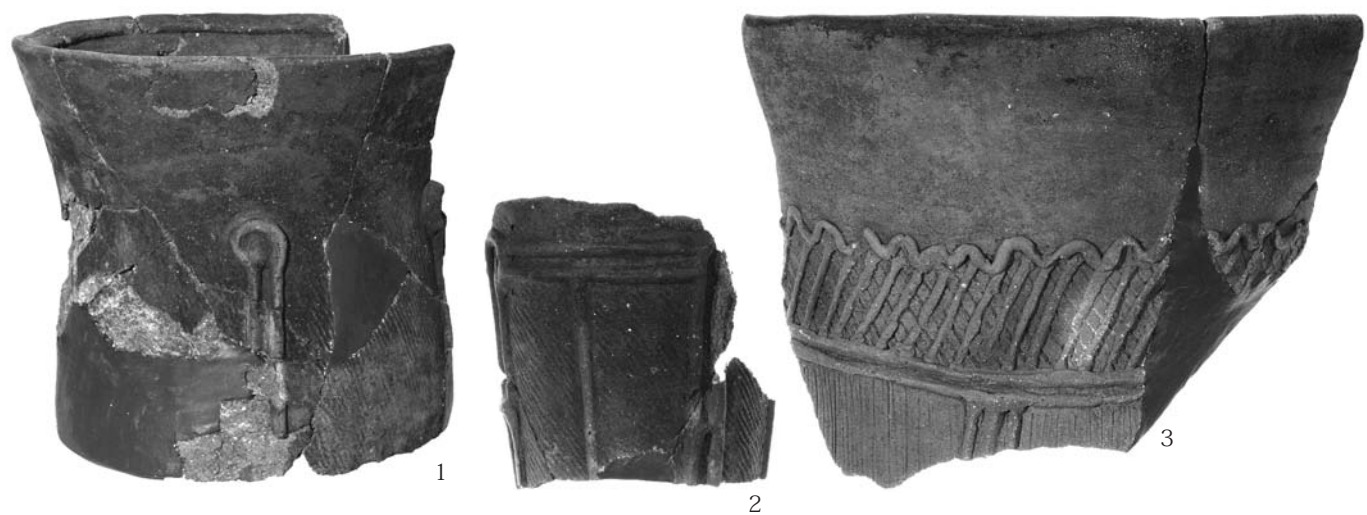
95-16住



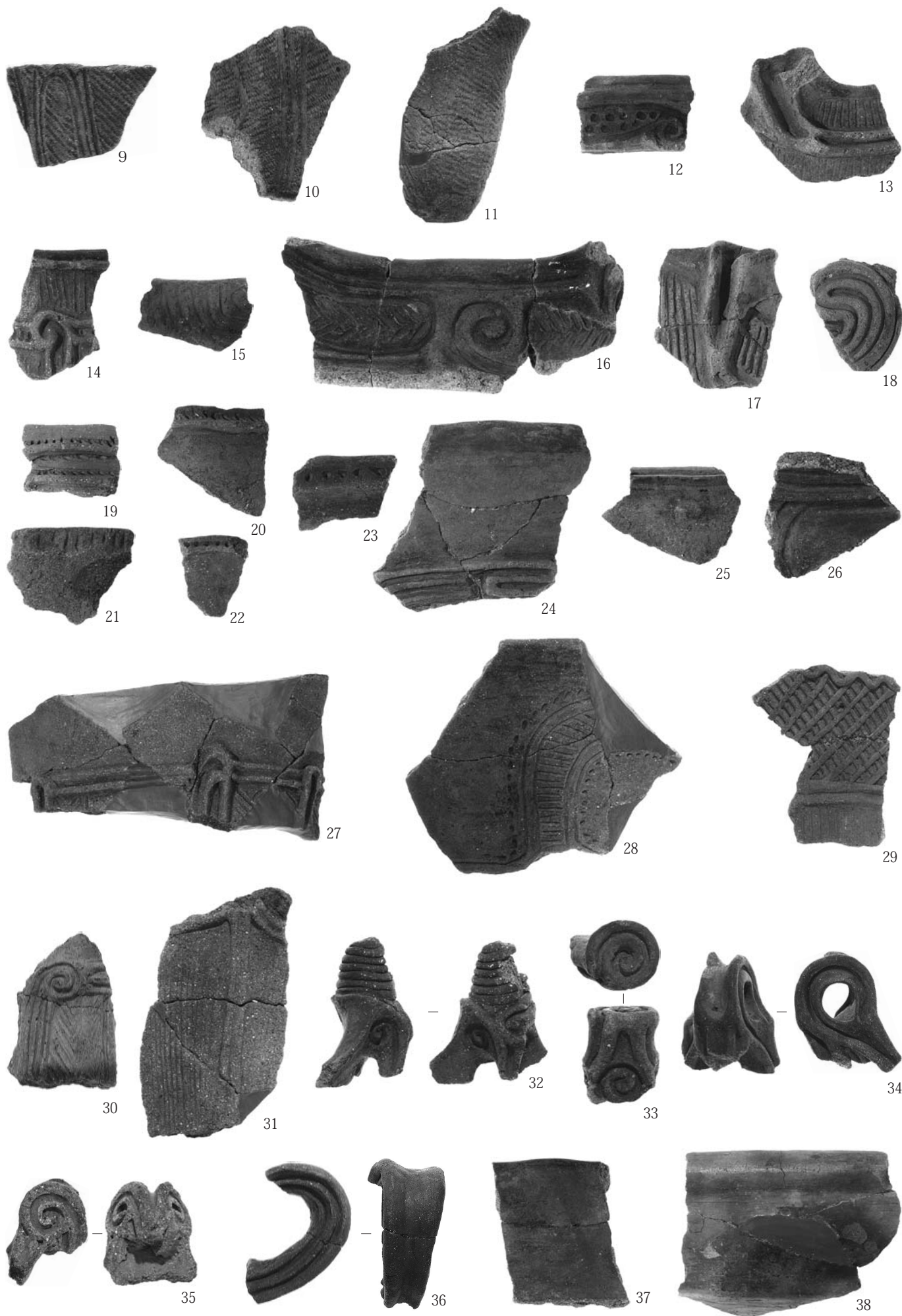
95-17住



95-17住

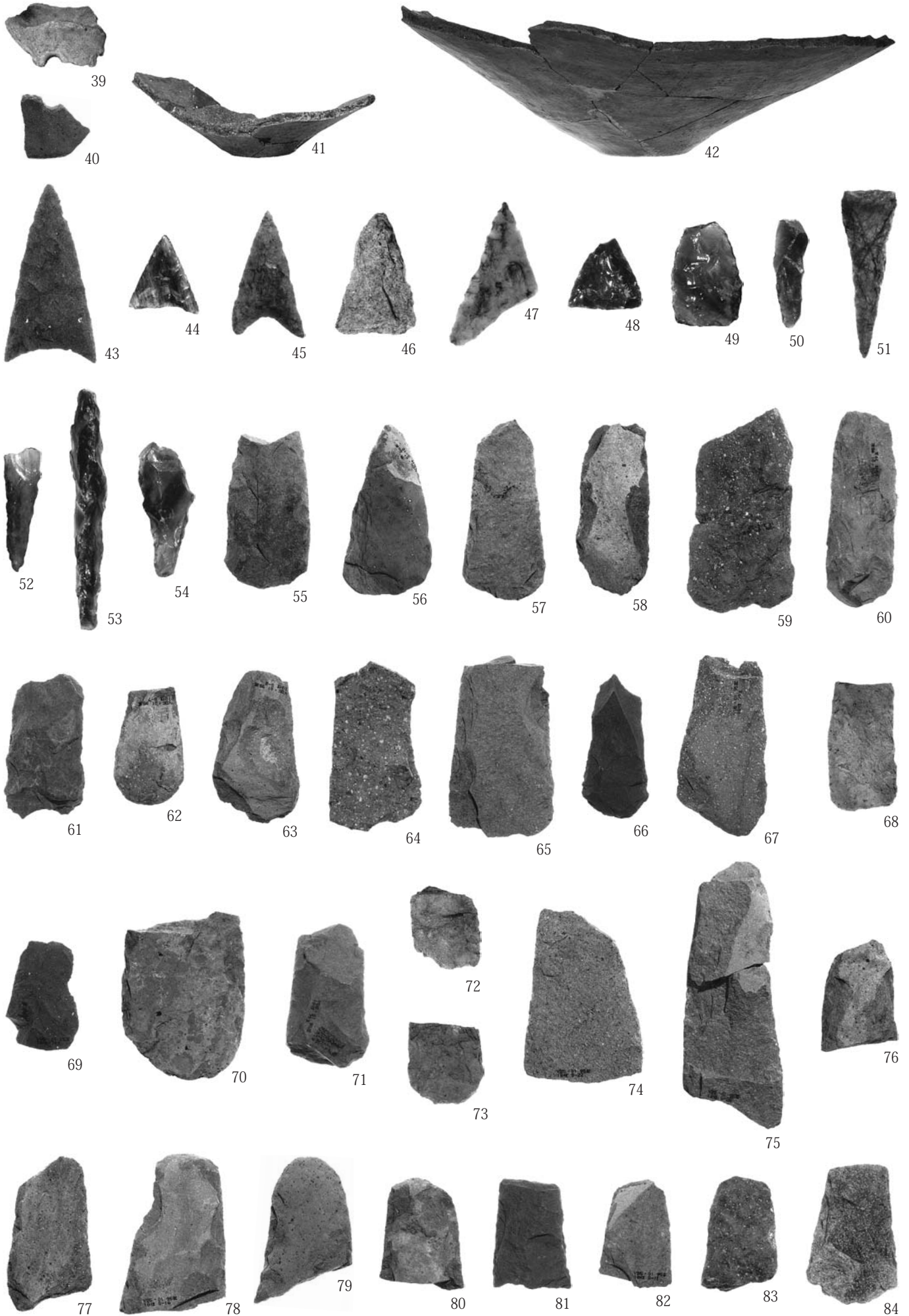


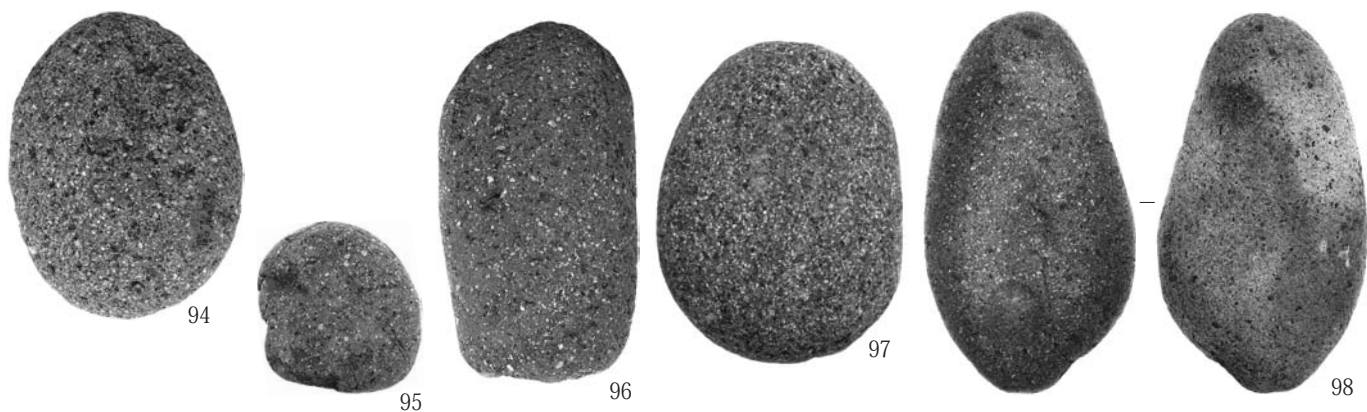
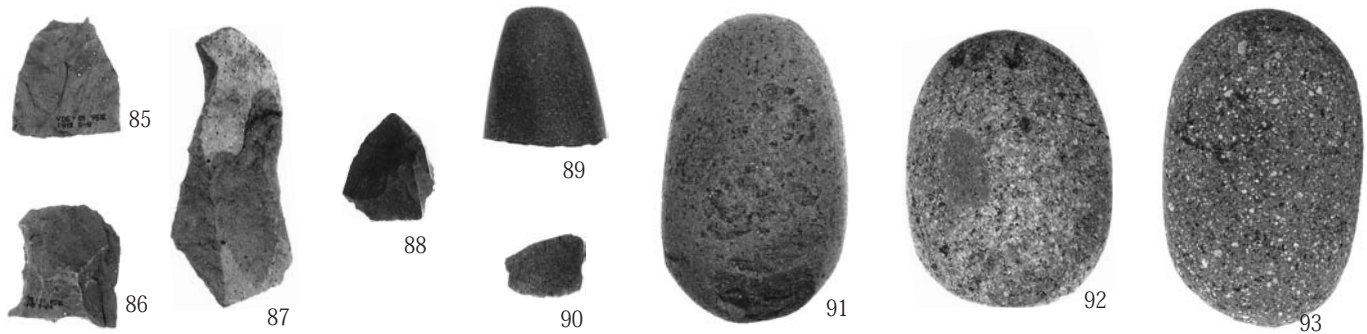
95-18住





PL.168







115

116

117

118

95-18住



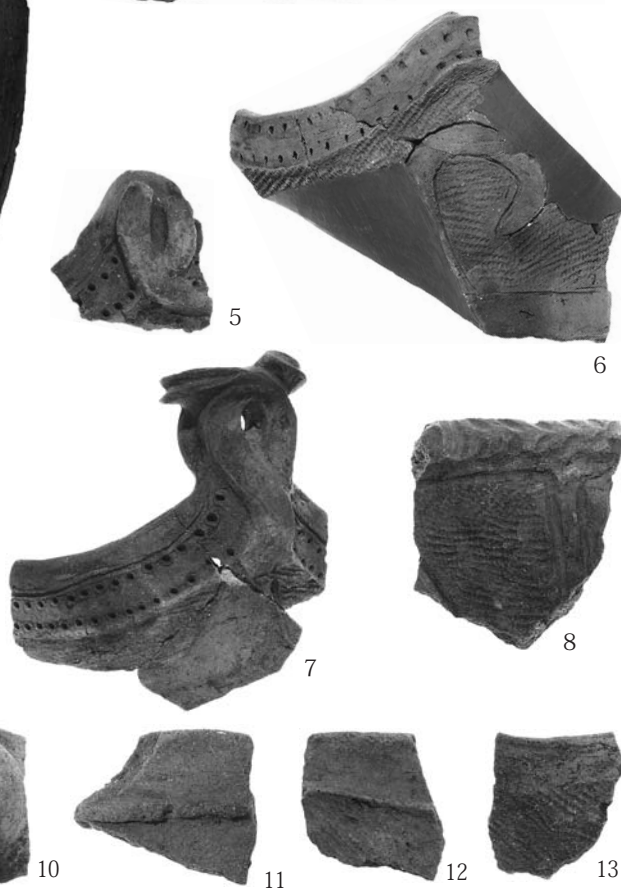
1

3

2



4



5

6

7

8

9

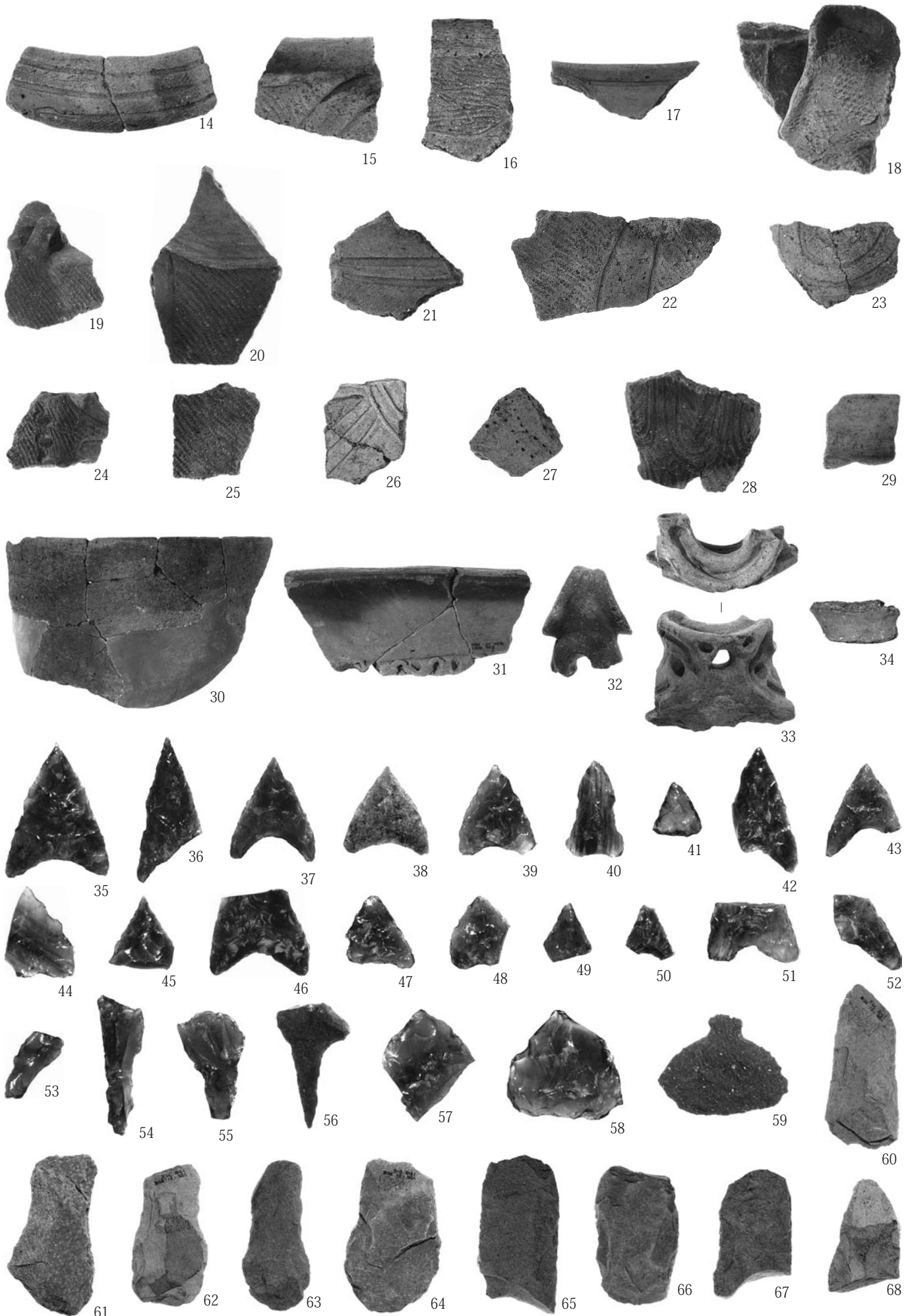
10

11

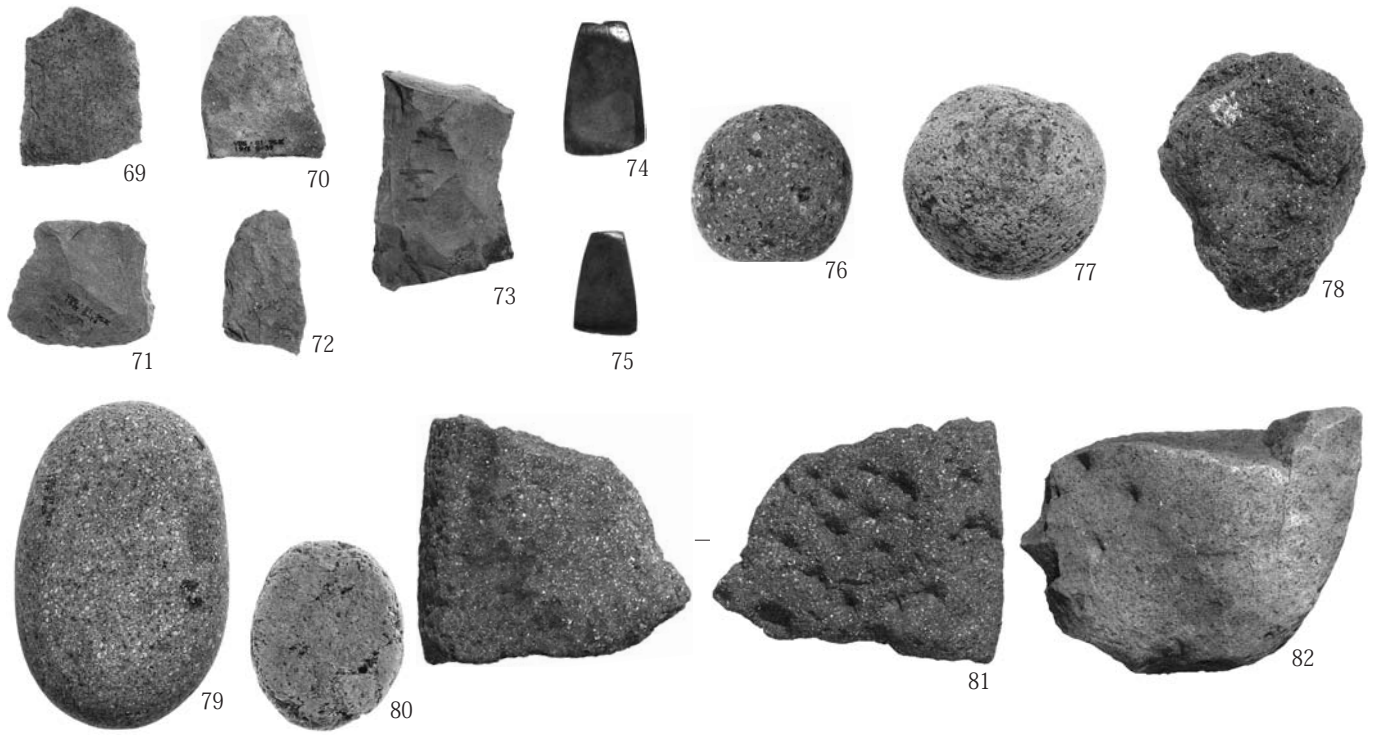
12

13

95-19住



PL.172



95-19住



95-20住



5



7



8



6



10



11



9



12



13



14



15



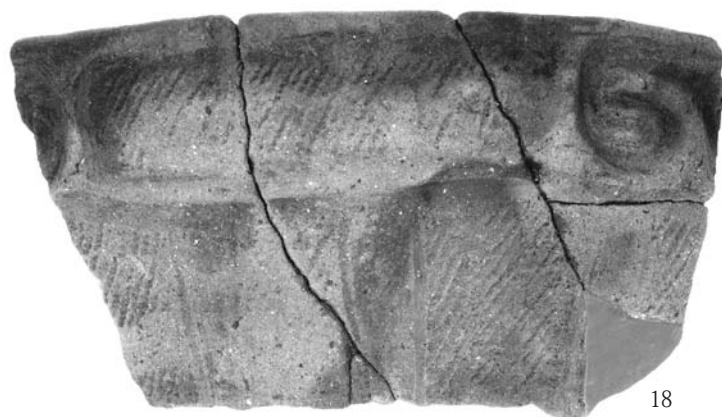
19



16



20



18



21

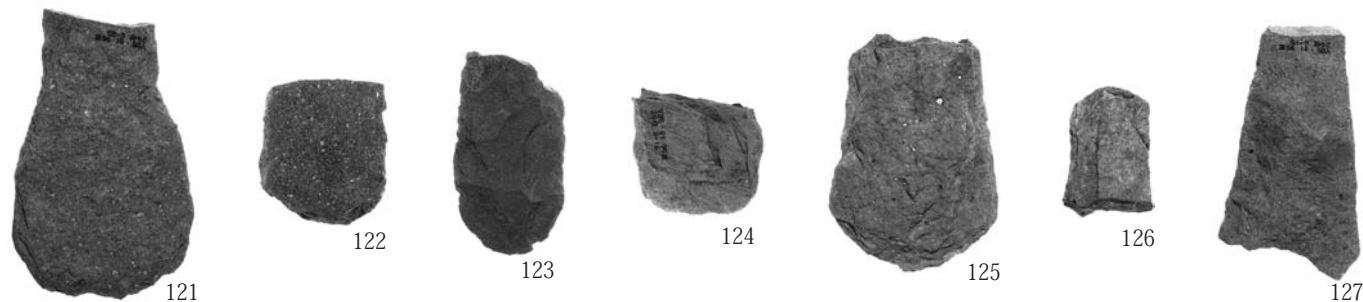
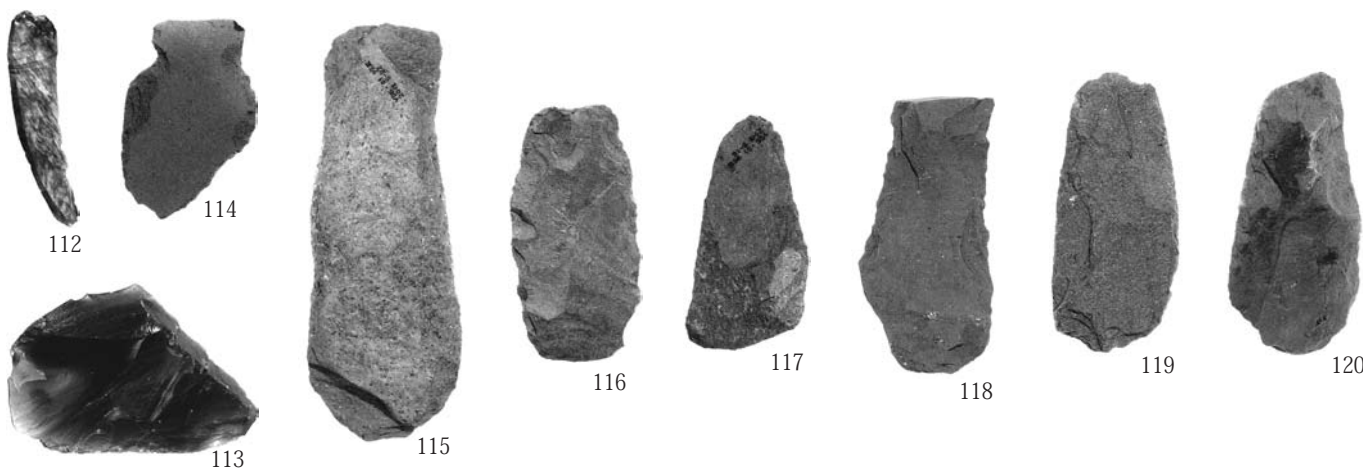
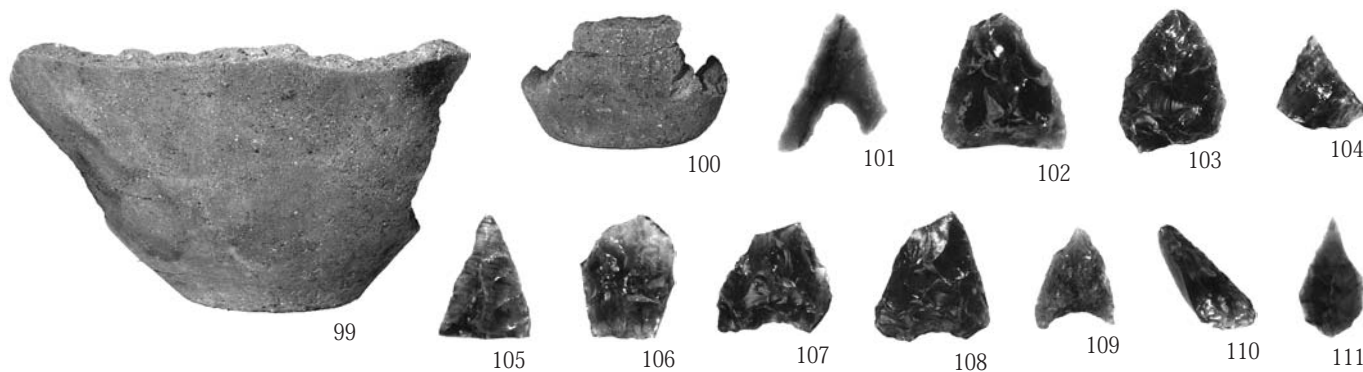
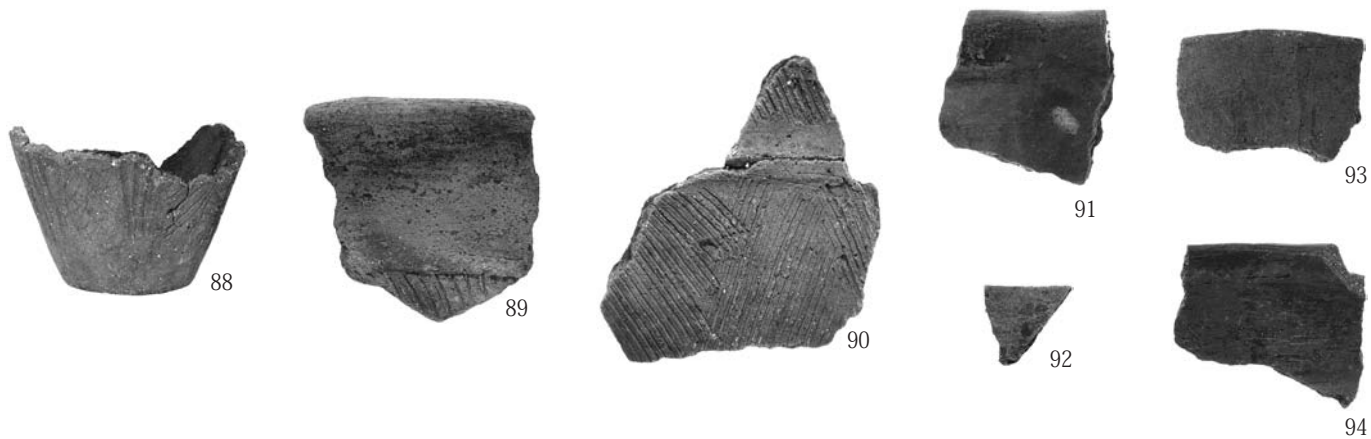




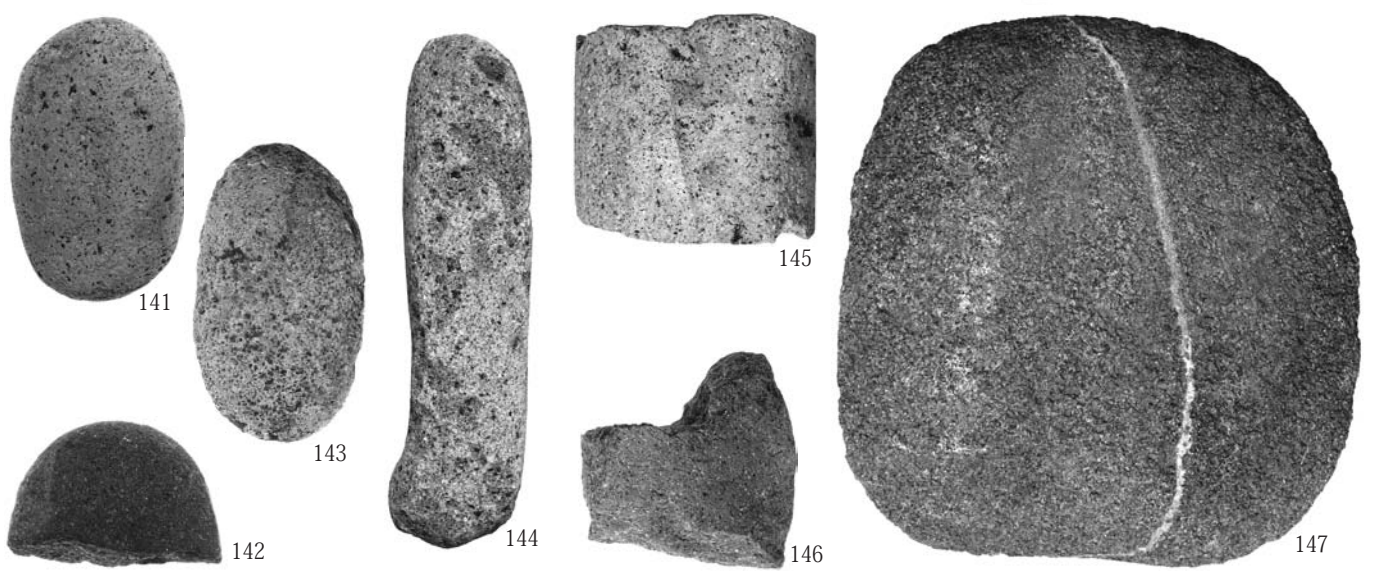
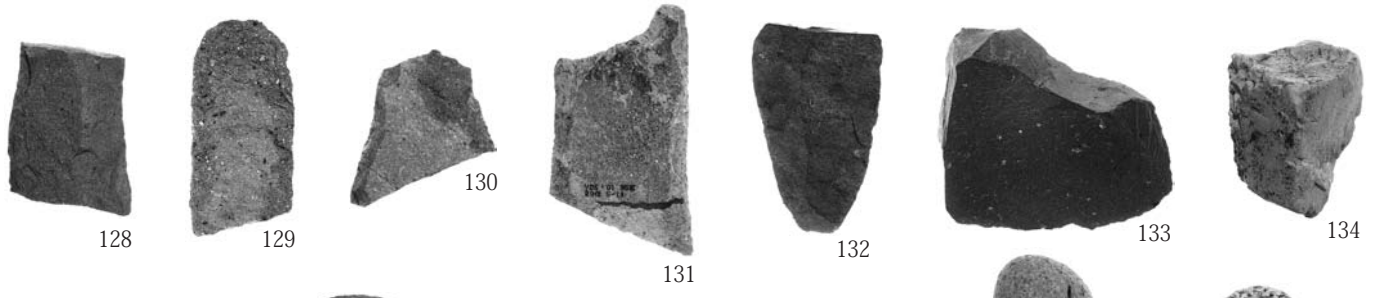




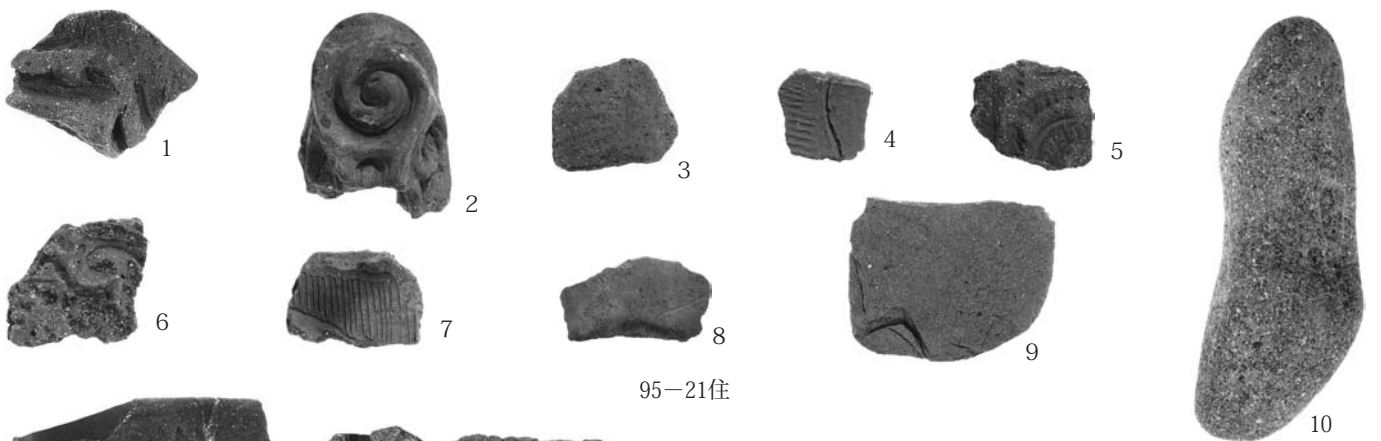




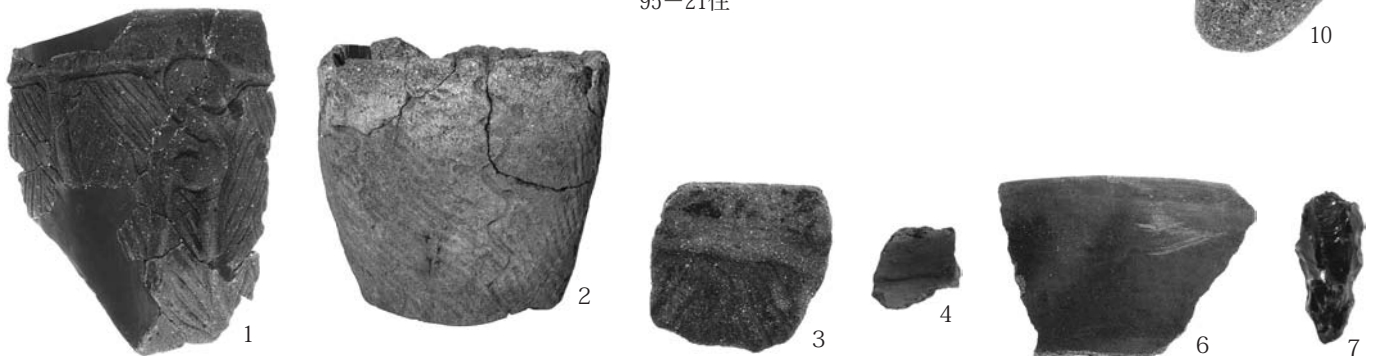
PL.180



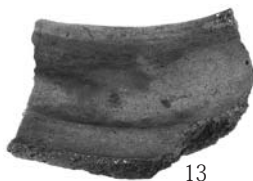
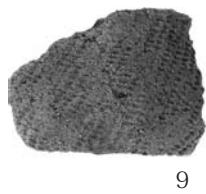
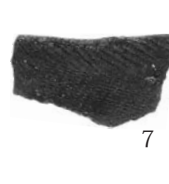
95-20住

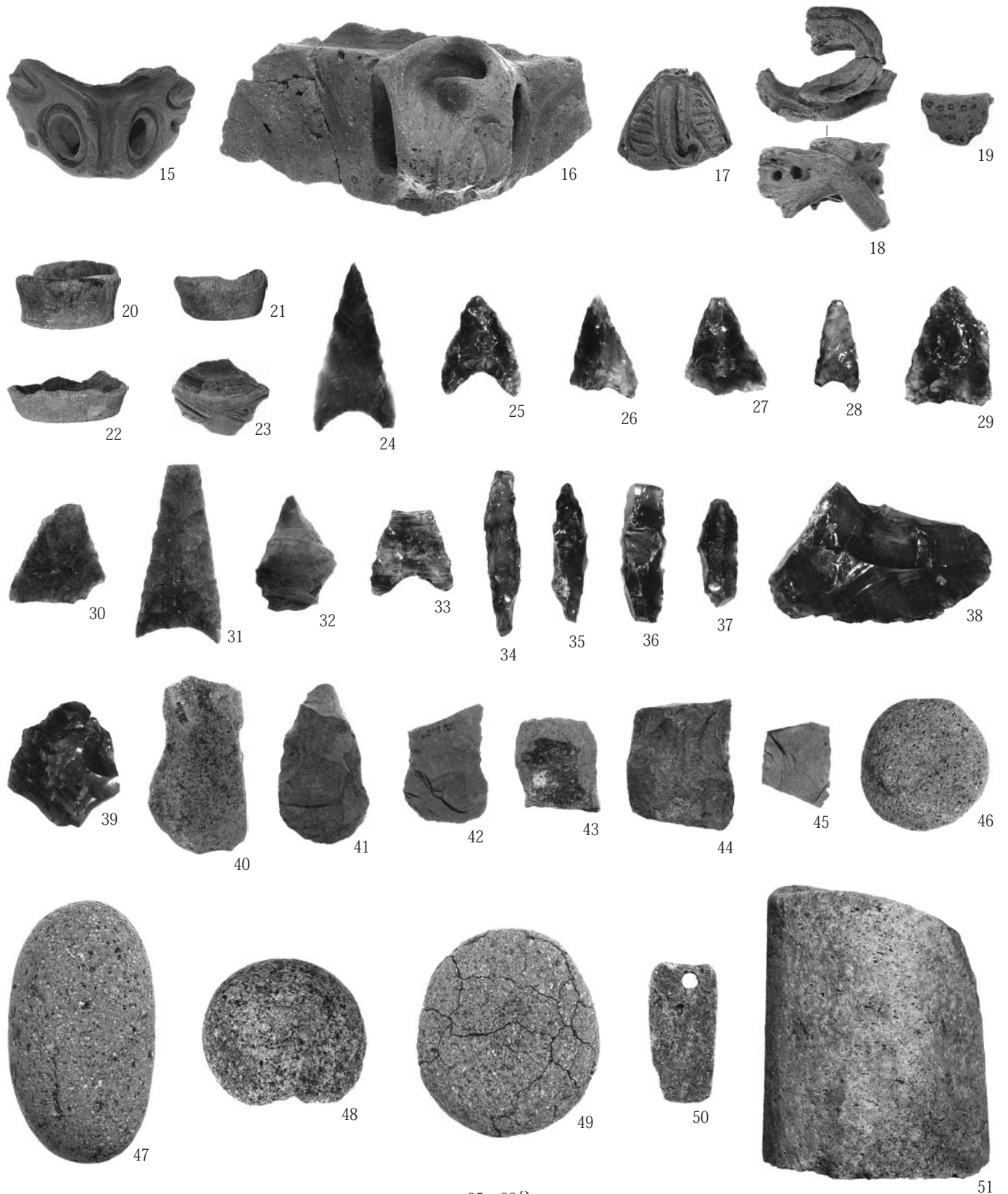


95-21住

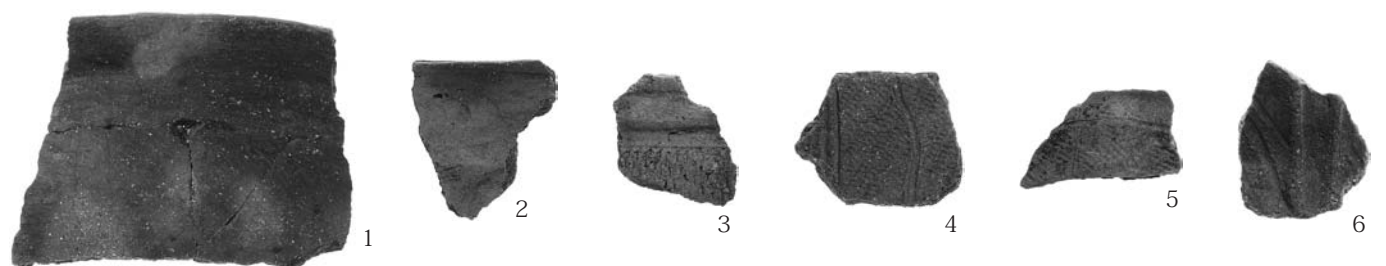


95-22住

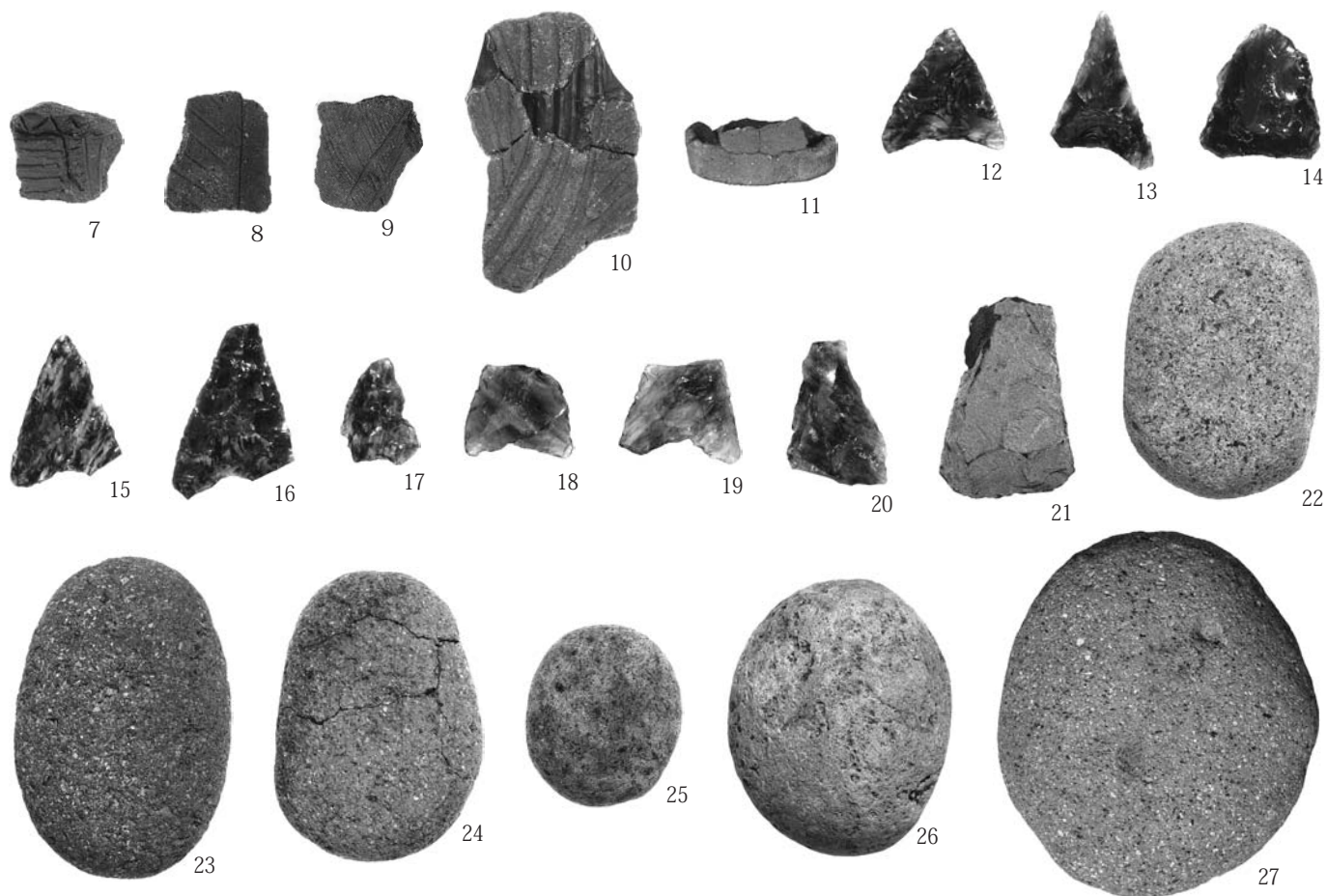




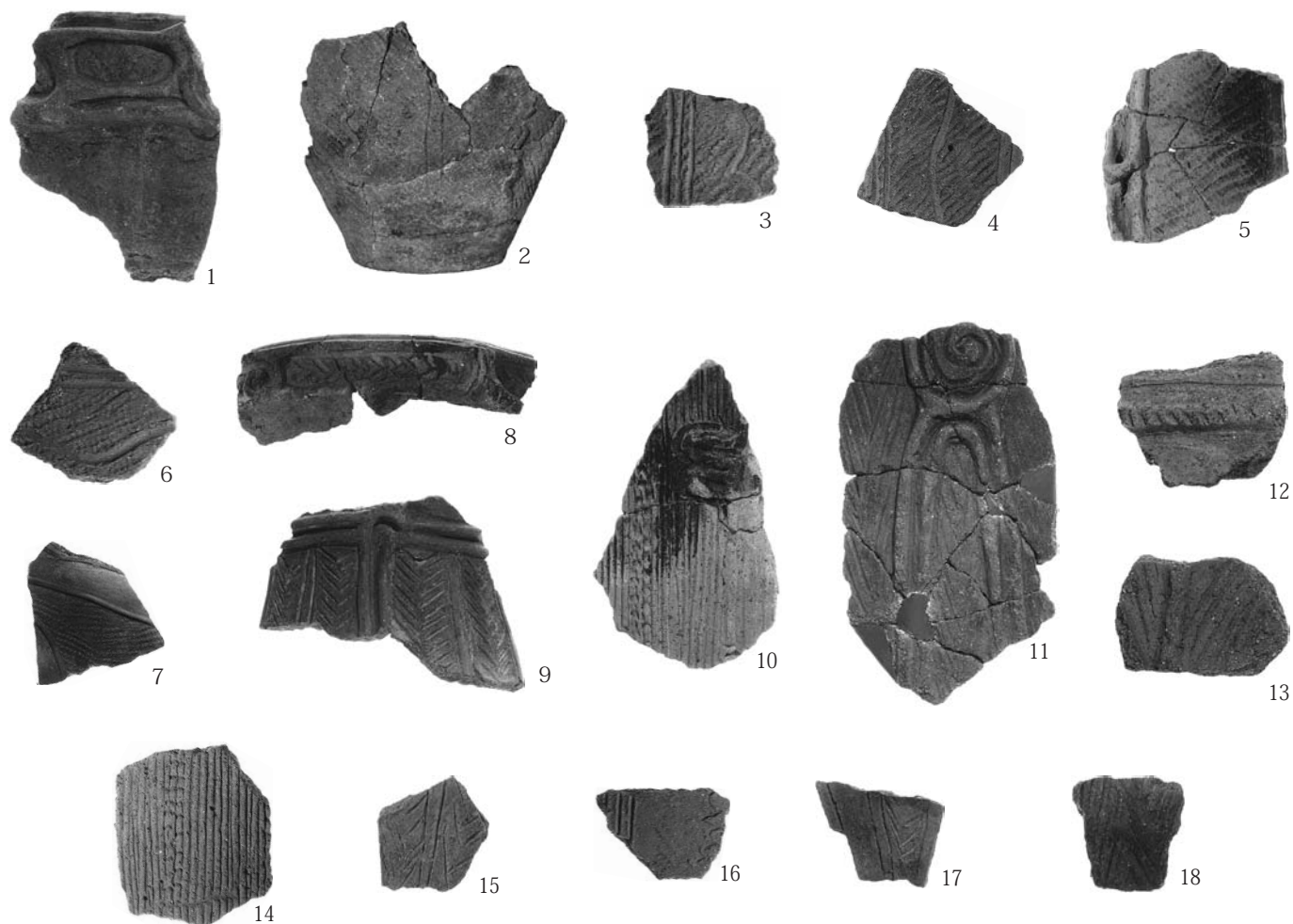
95-23住



95-24住

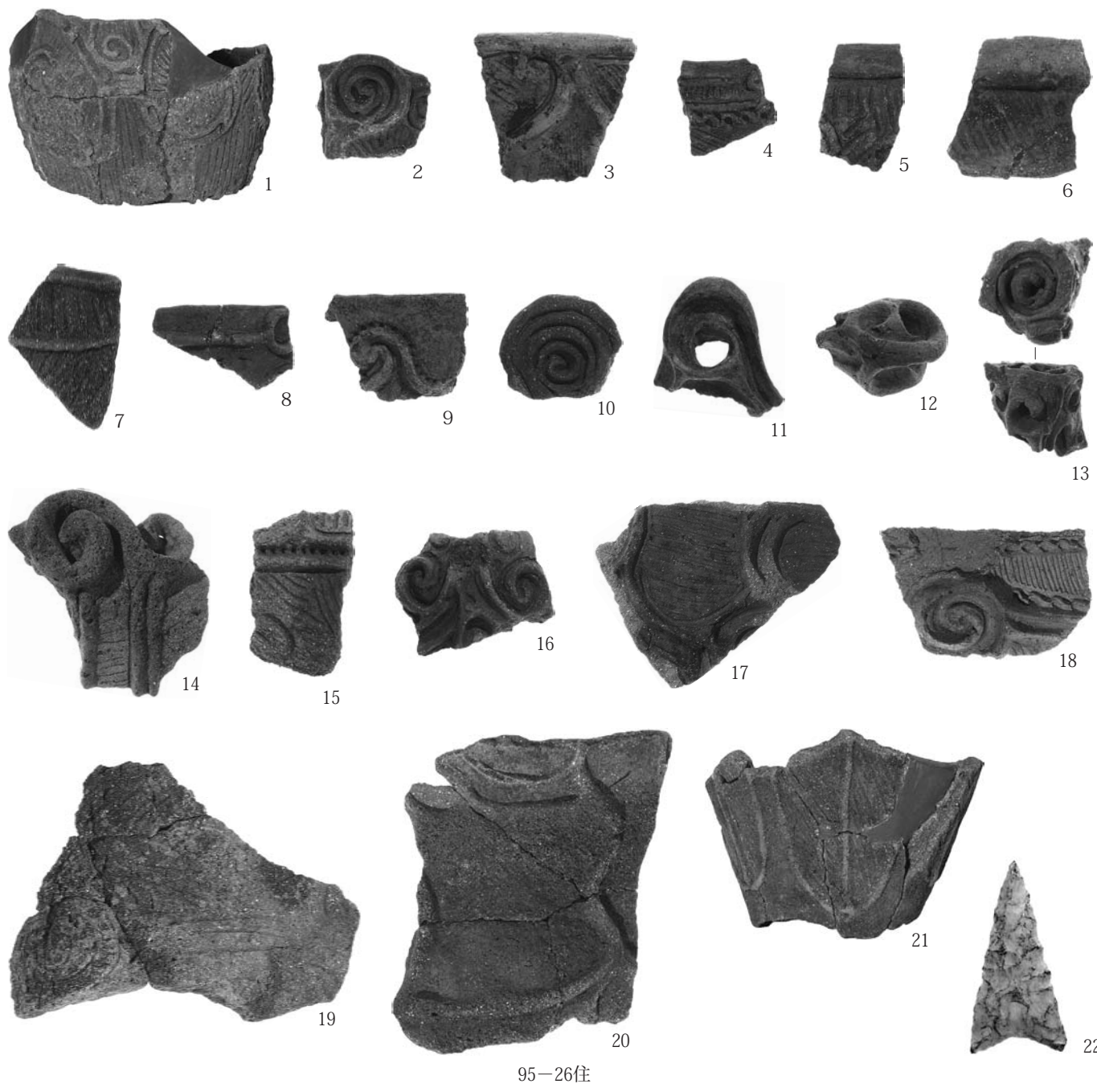
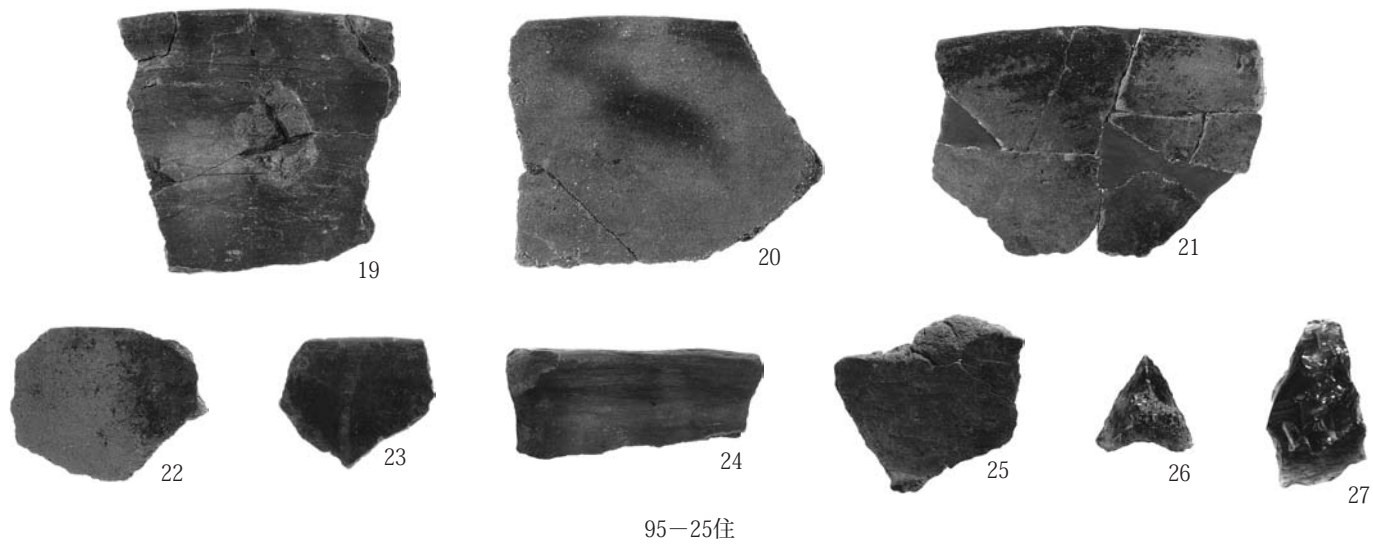


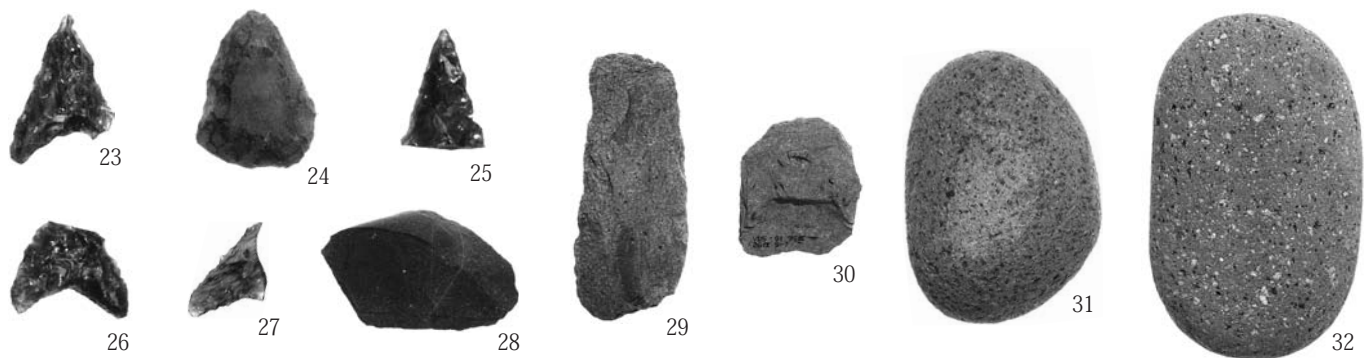
95-24住



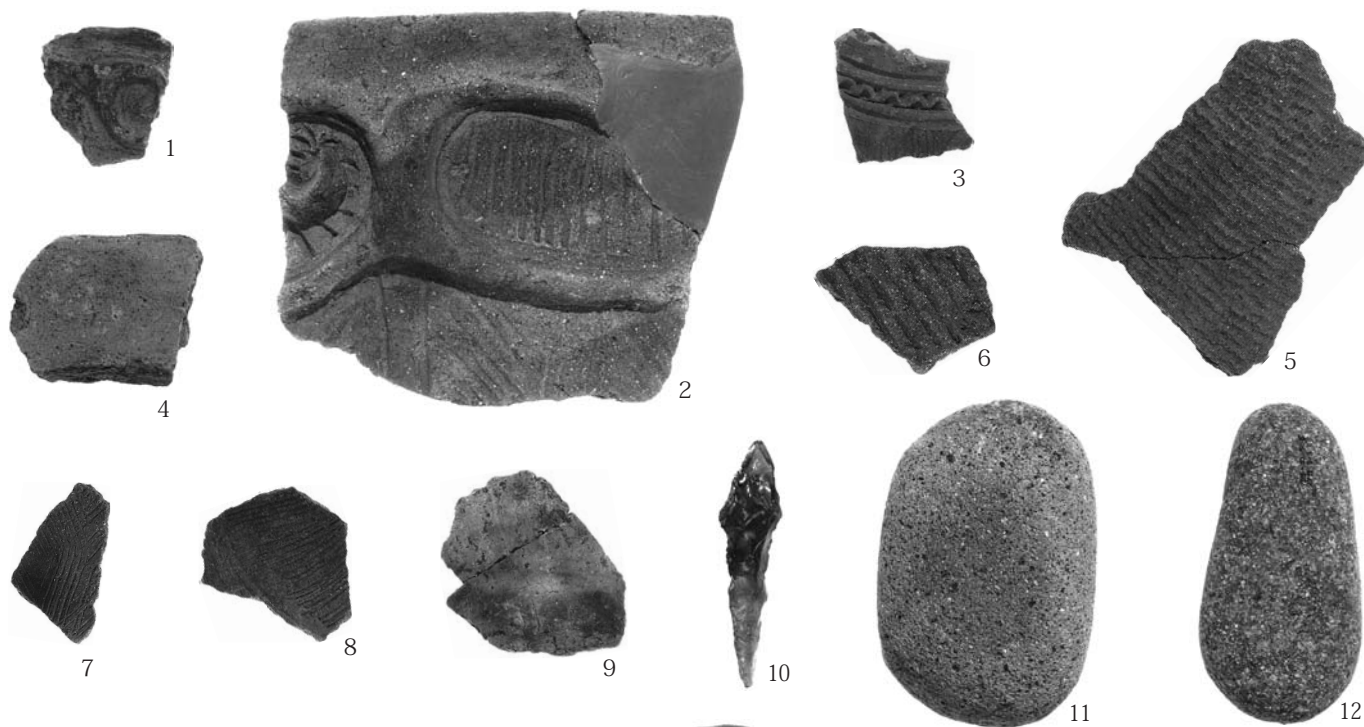
95-25住



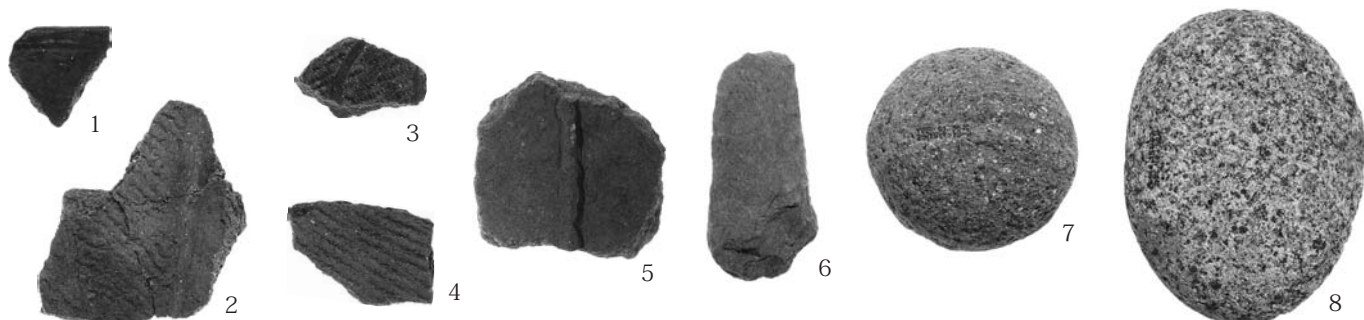
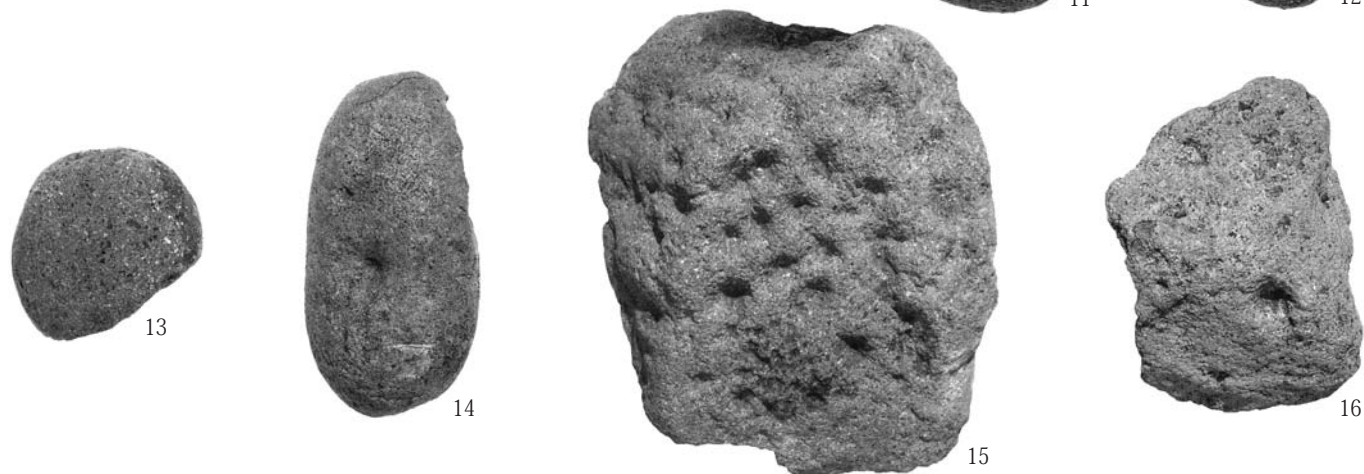




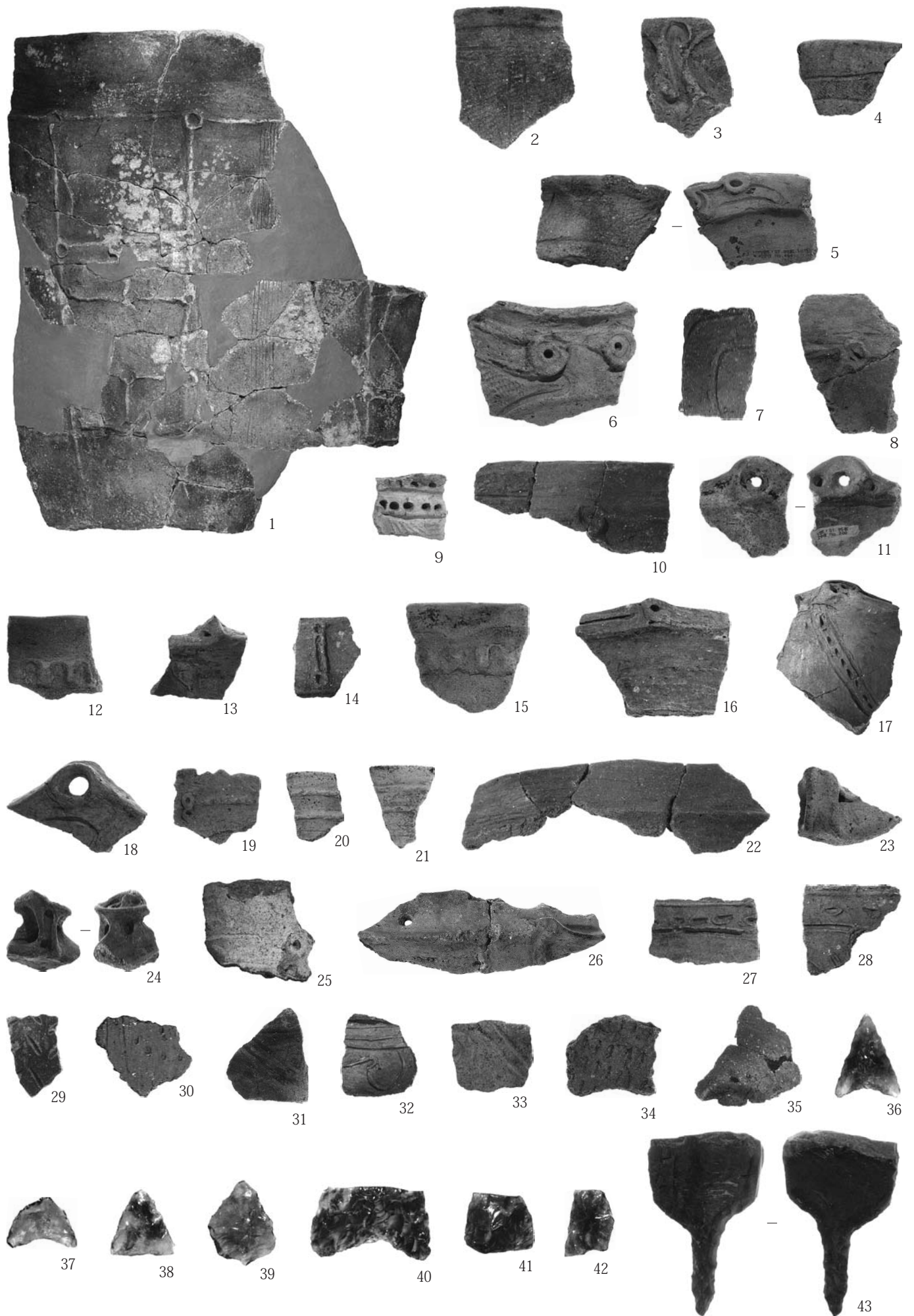
95-26住

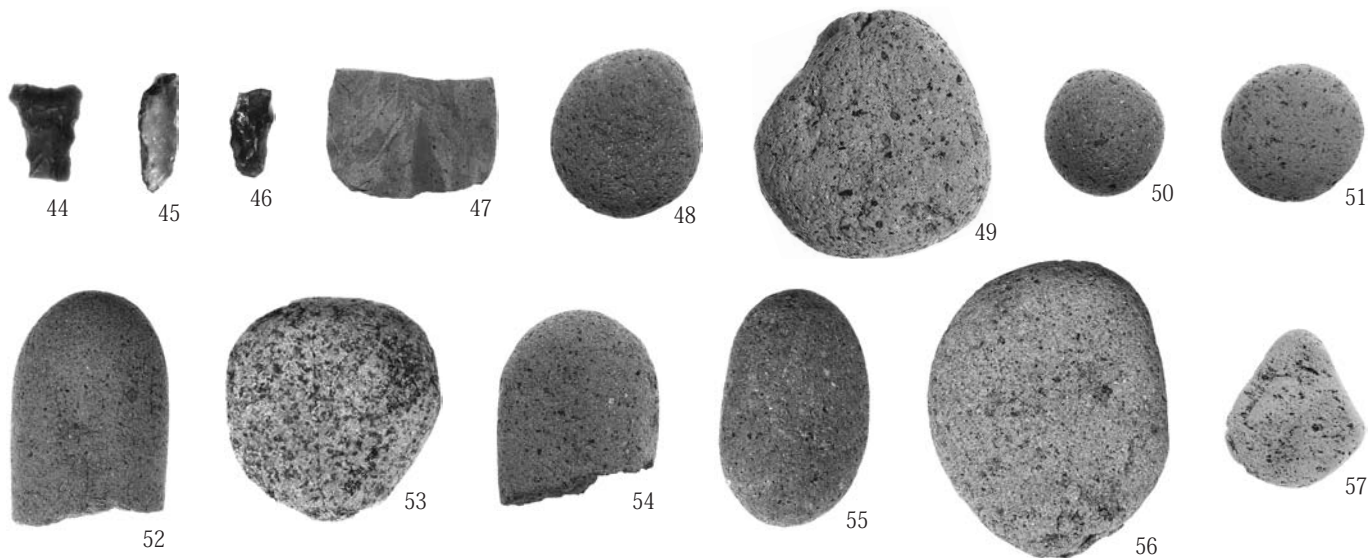


95-27住



95-28住

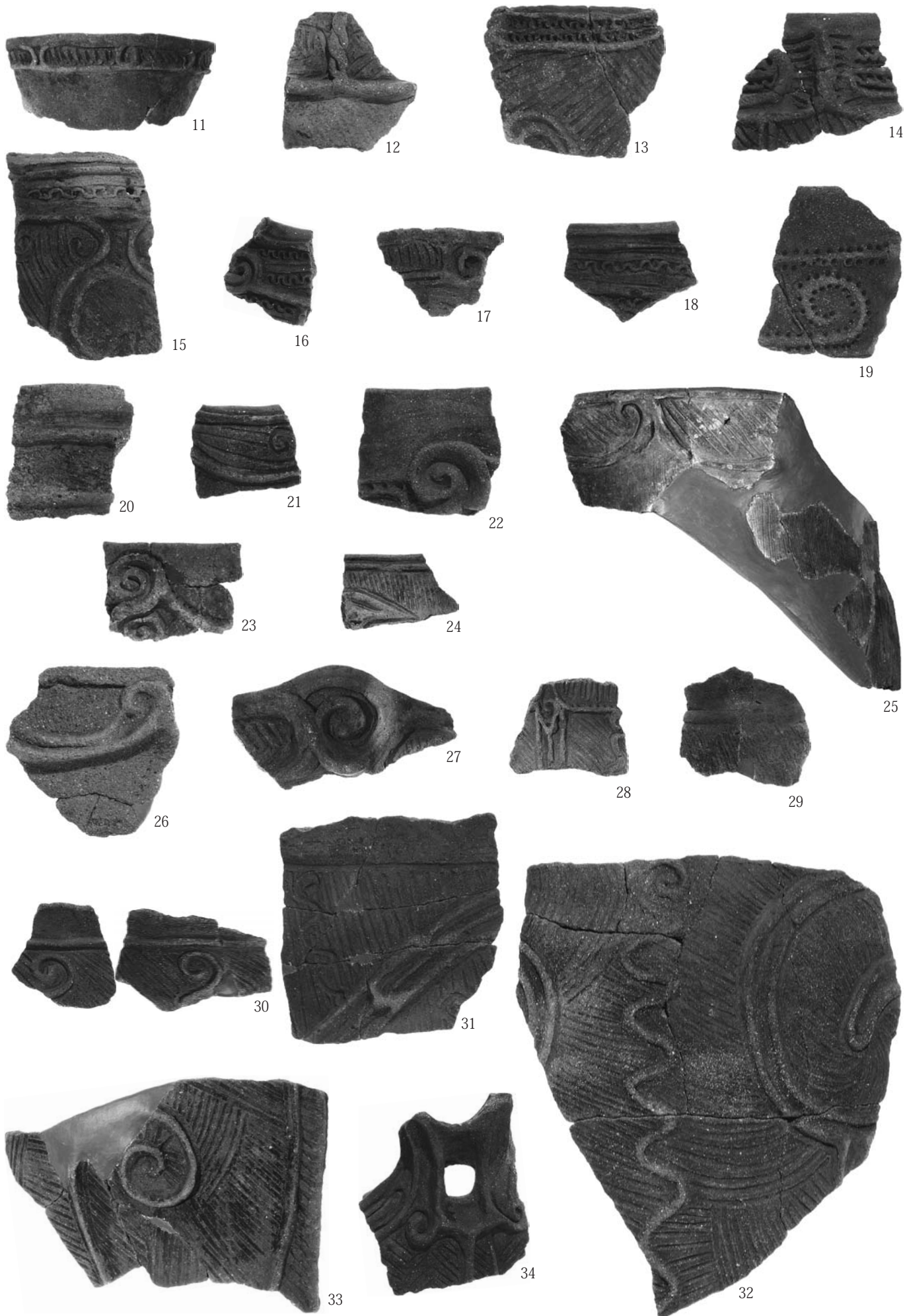


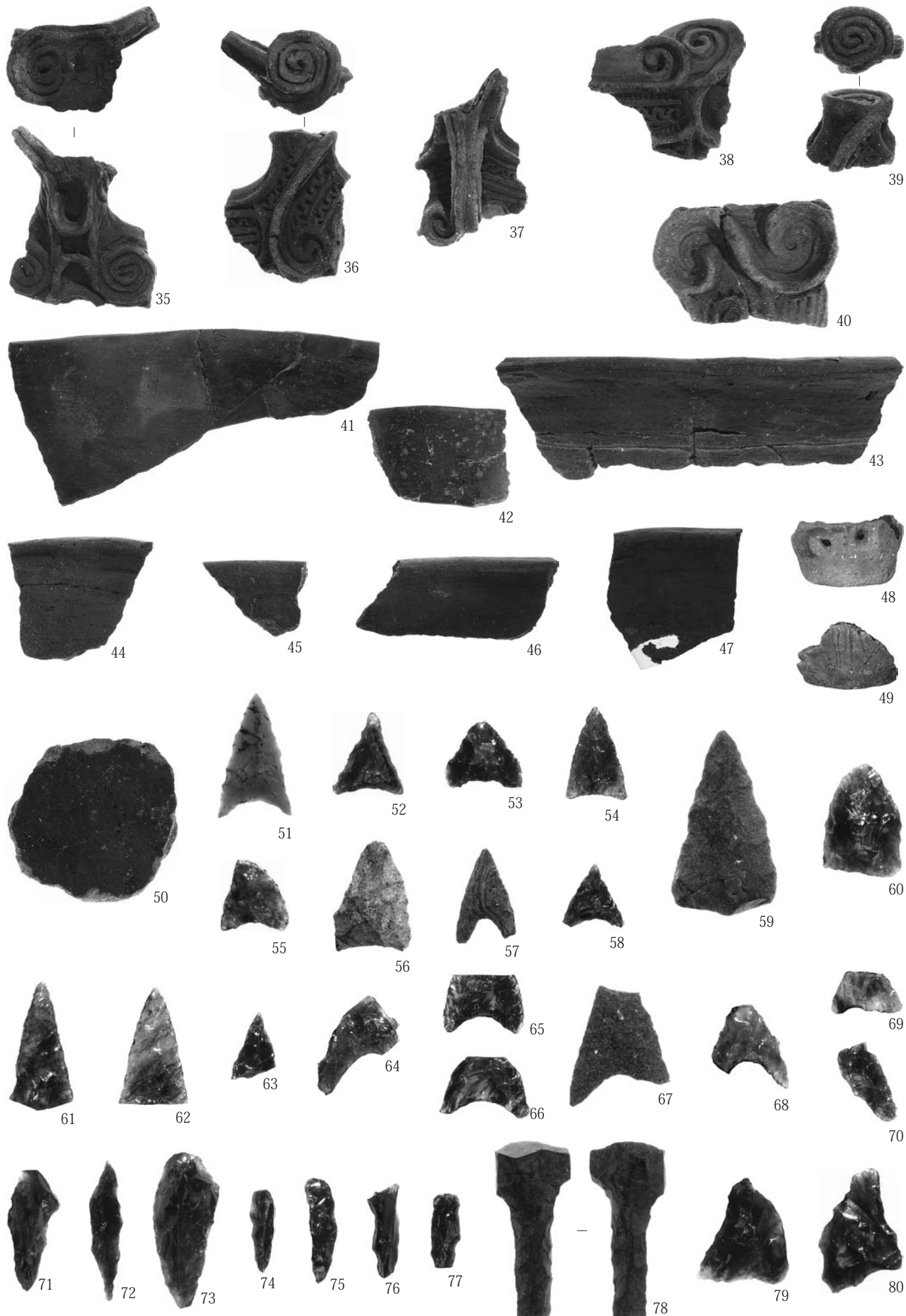


95-29住

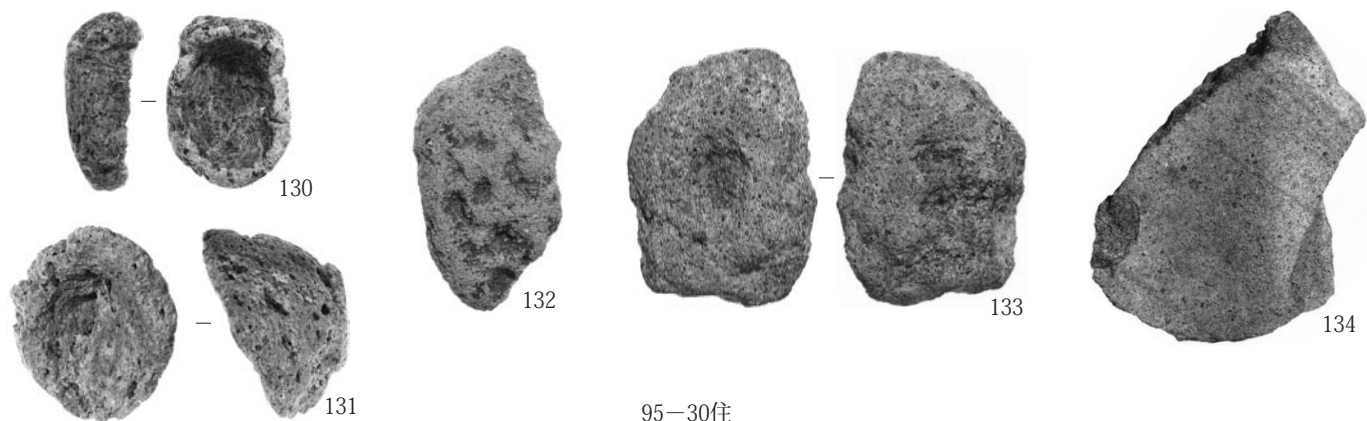
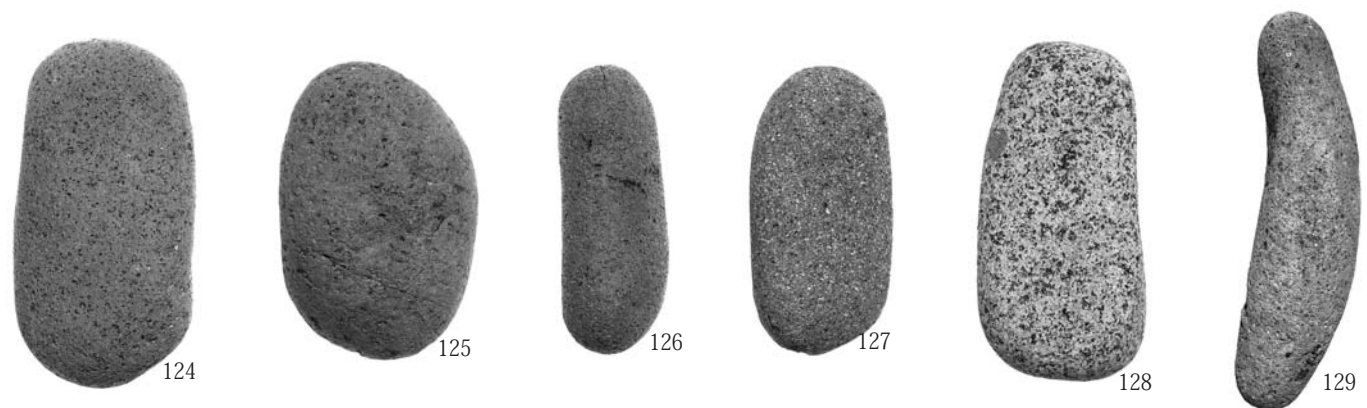
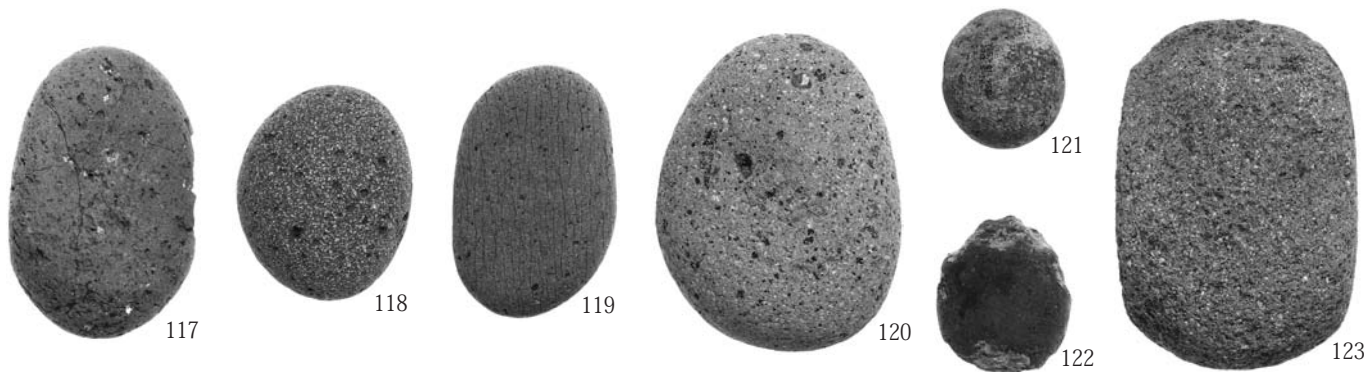


95-30住









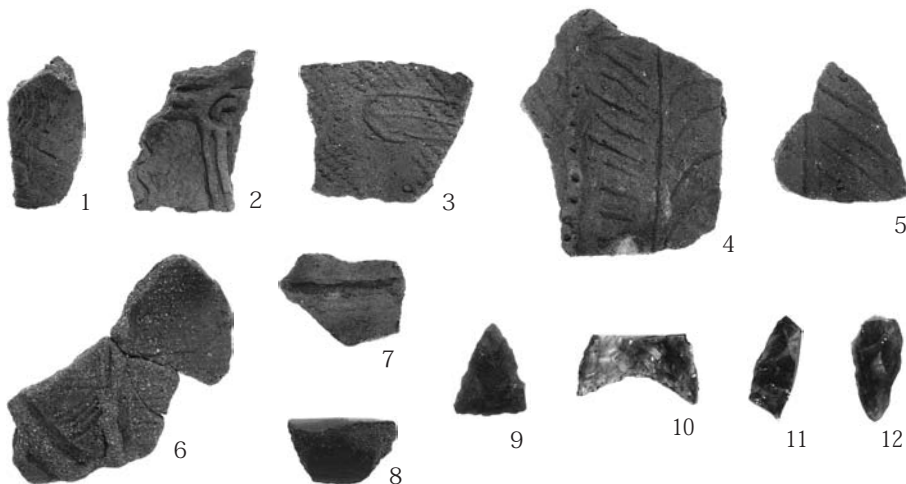
95-30住



95-31住



95-33住

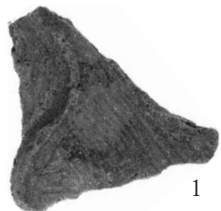


95-34住

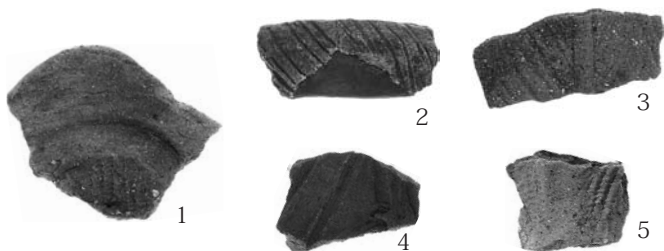




95-35住



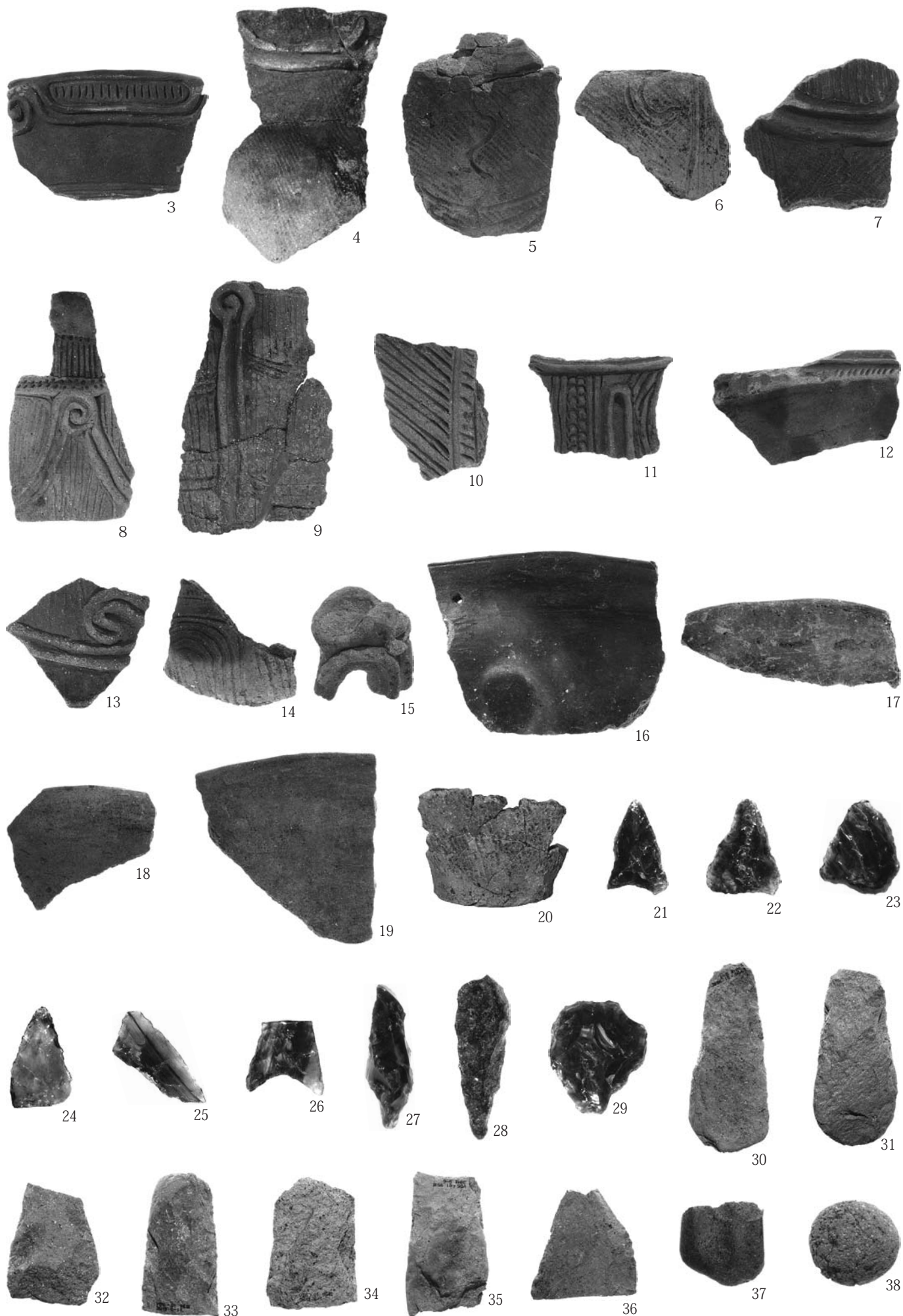
95-36住



95-37住

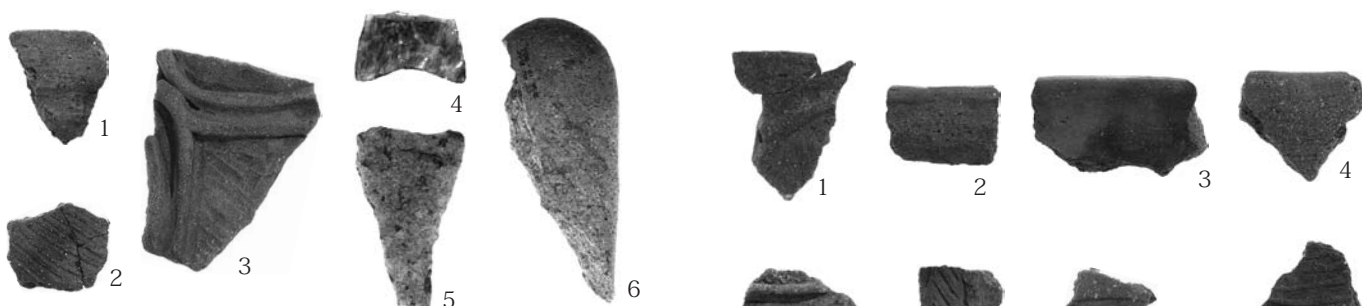


95-38住

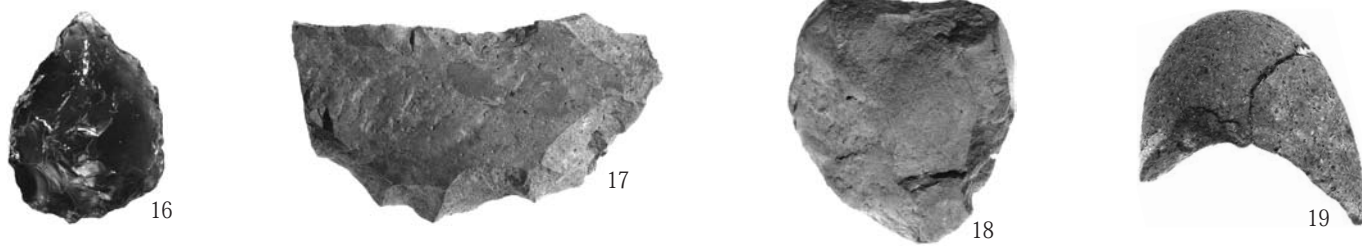
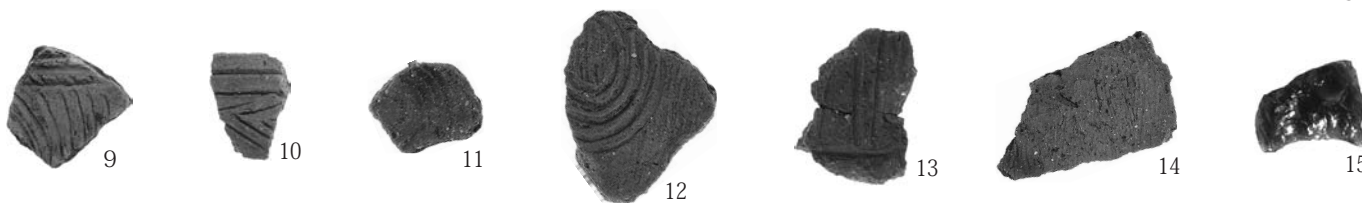




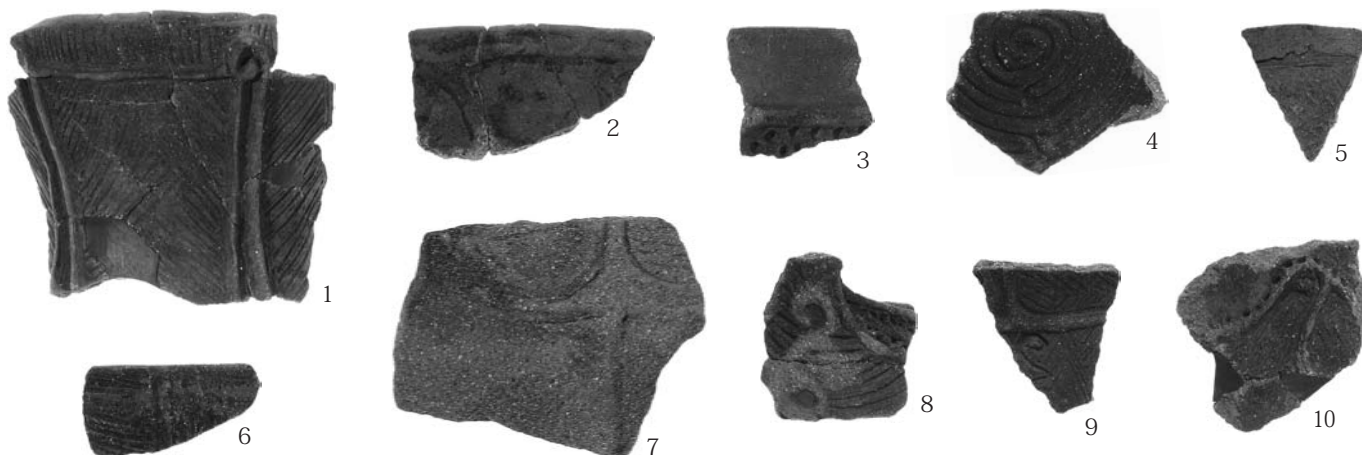
95-38住



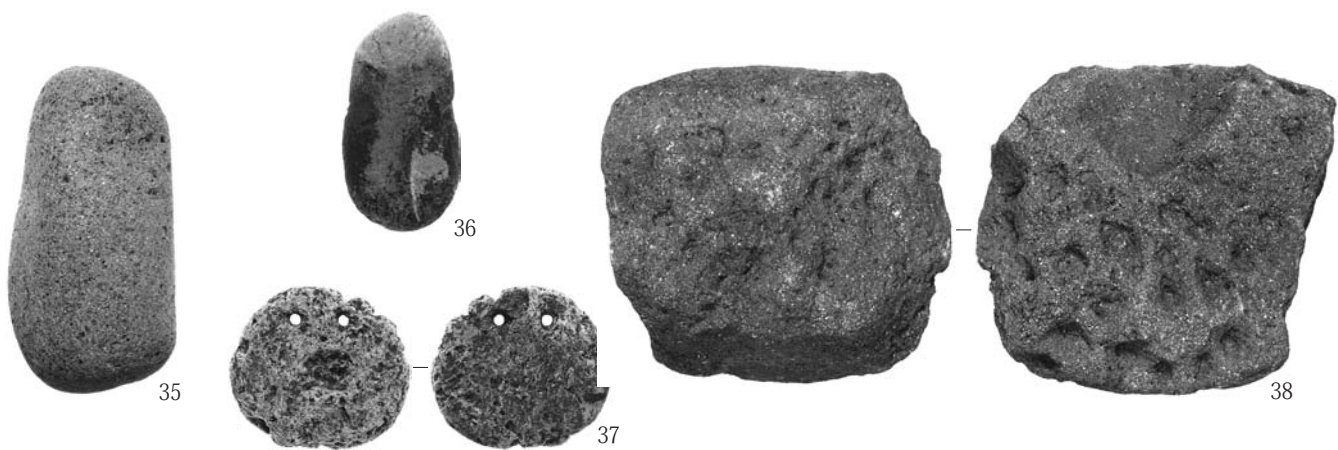
95-39住



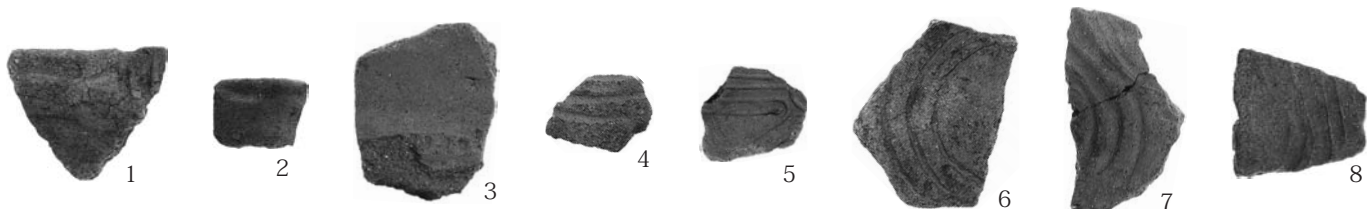
95-40住



95-41住



95-41住



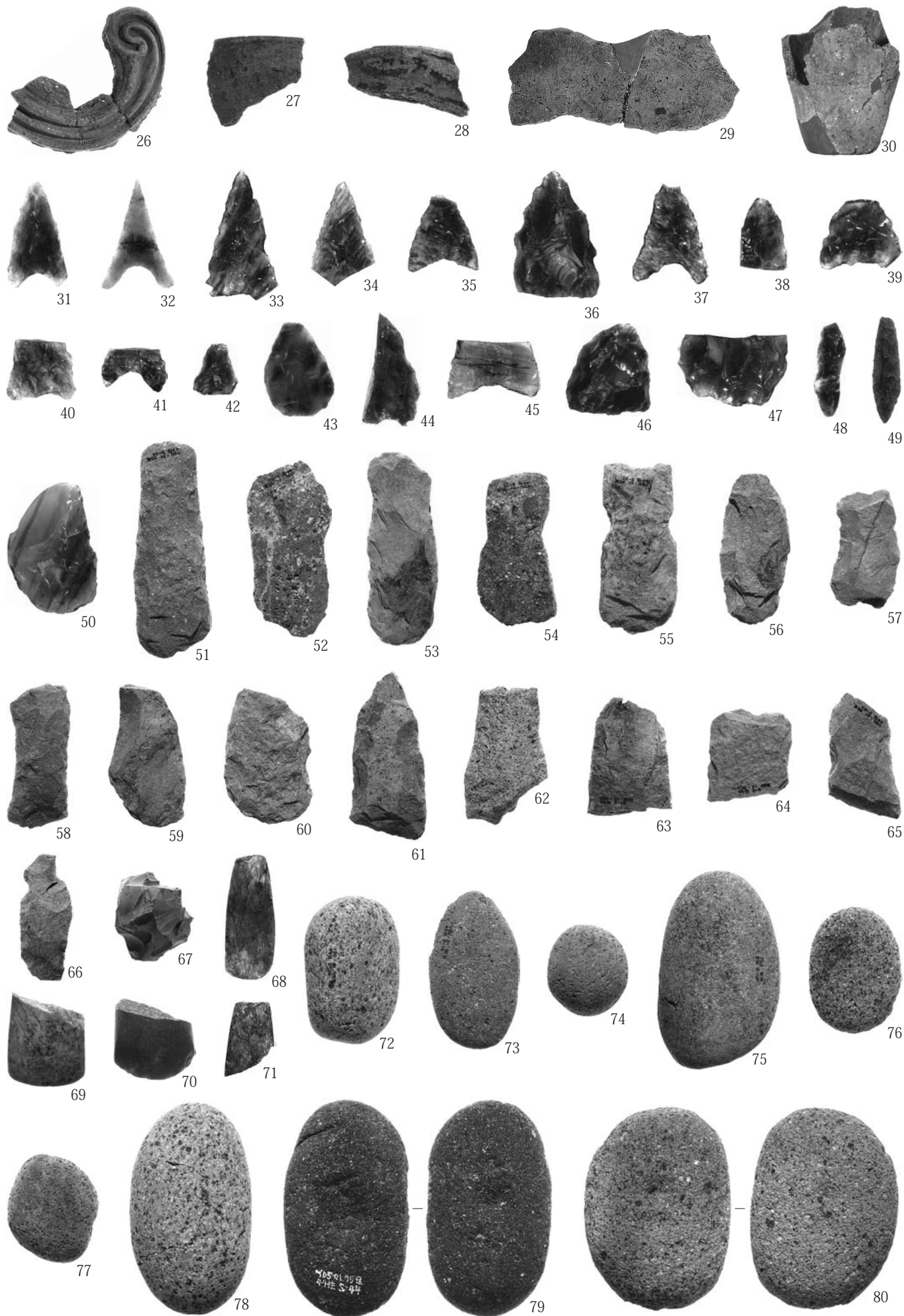
95-42住

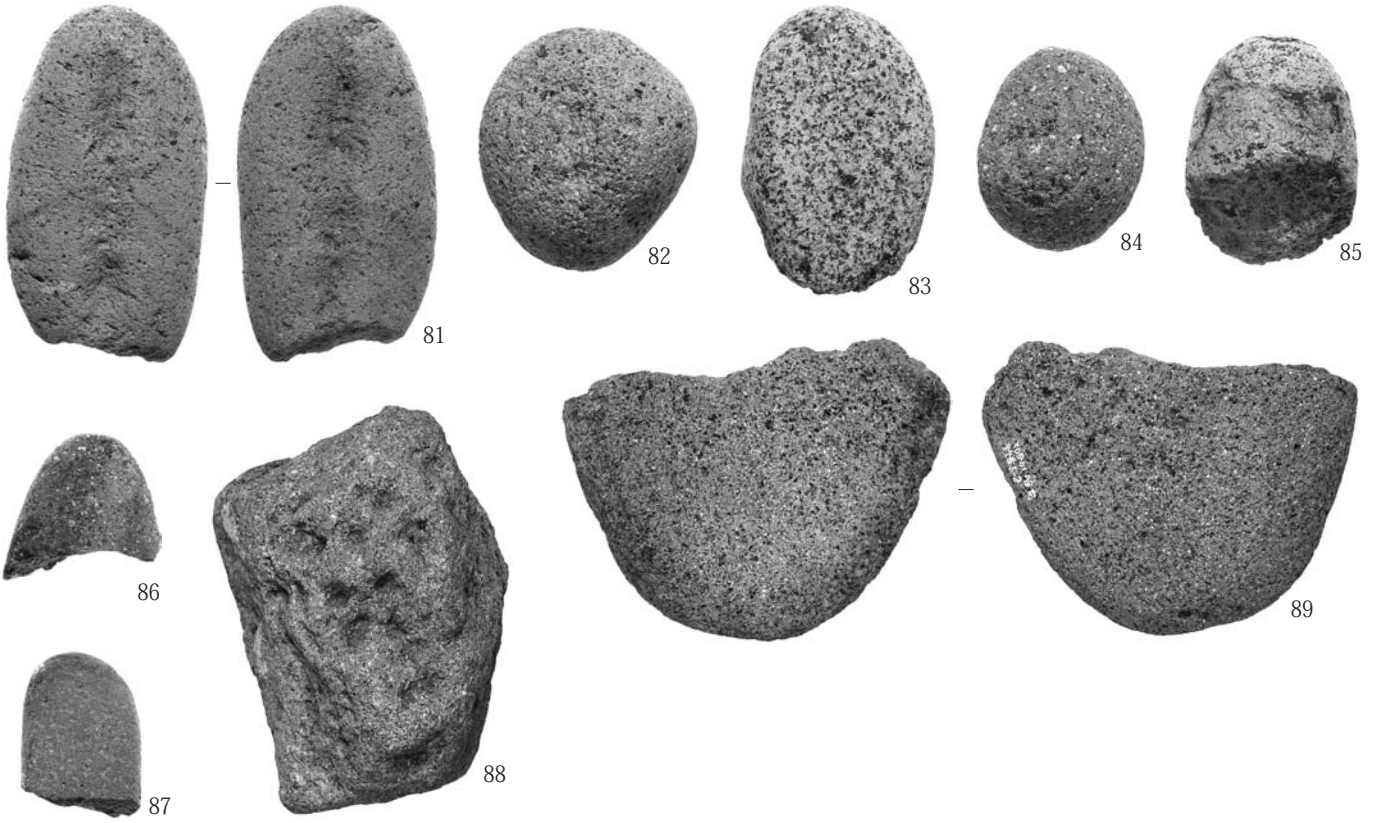


95-43住

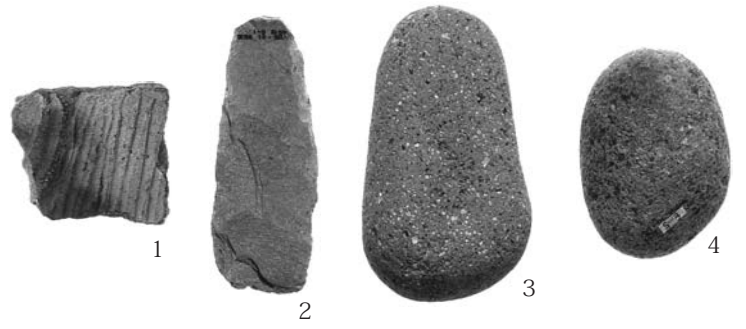


95-44住





95-44住



95-45住



1



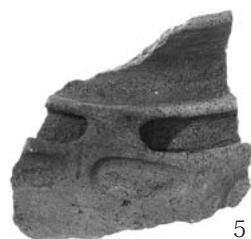
2



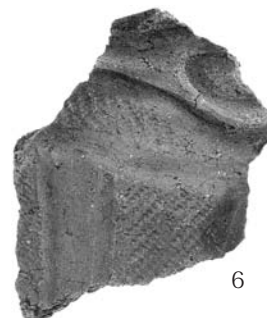
3



4



5

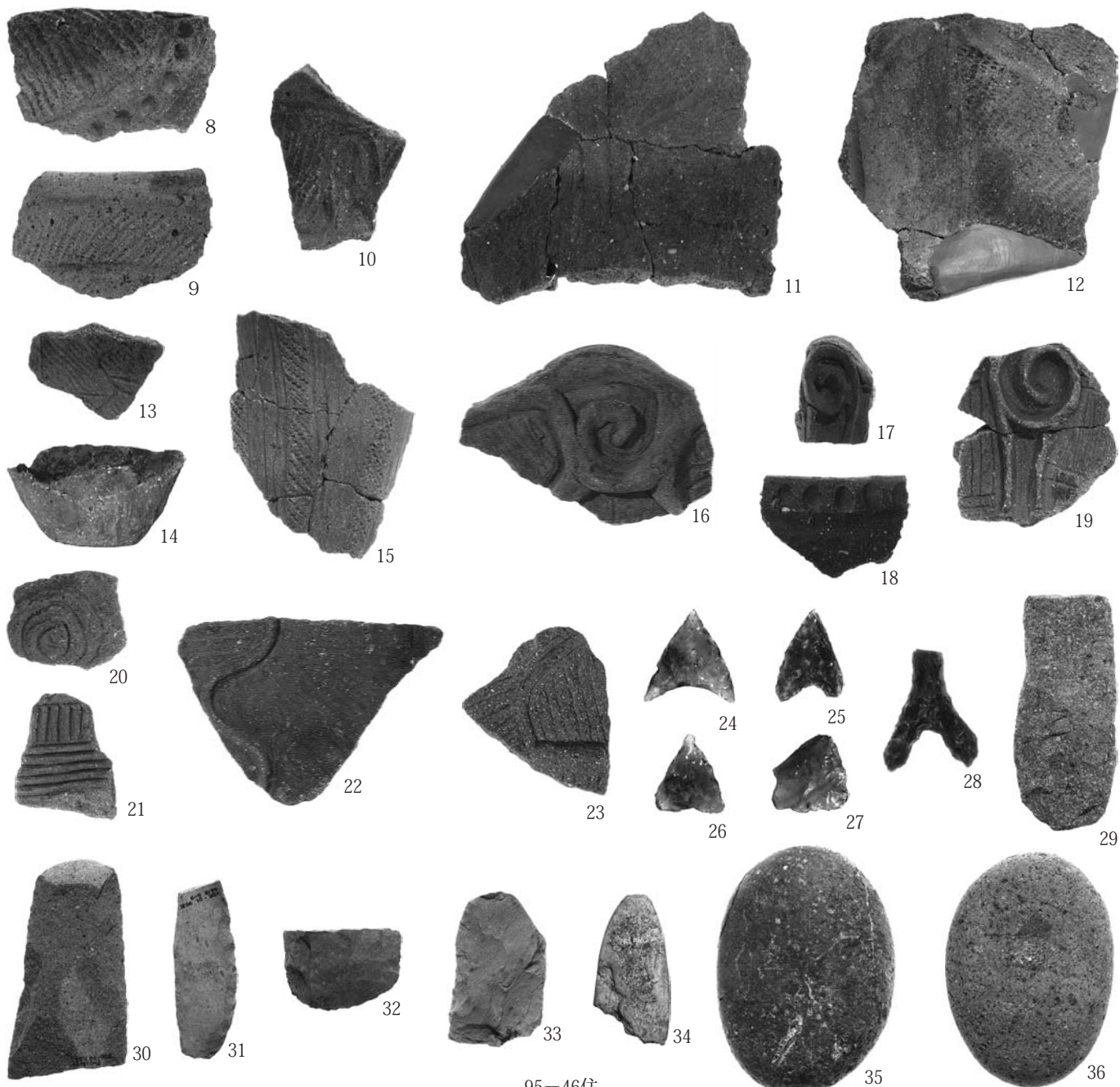


6



7

95-46住



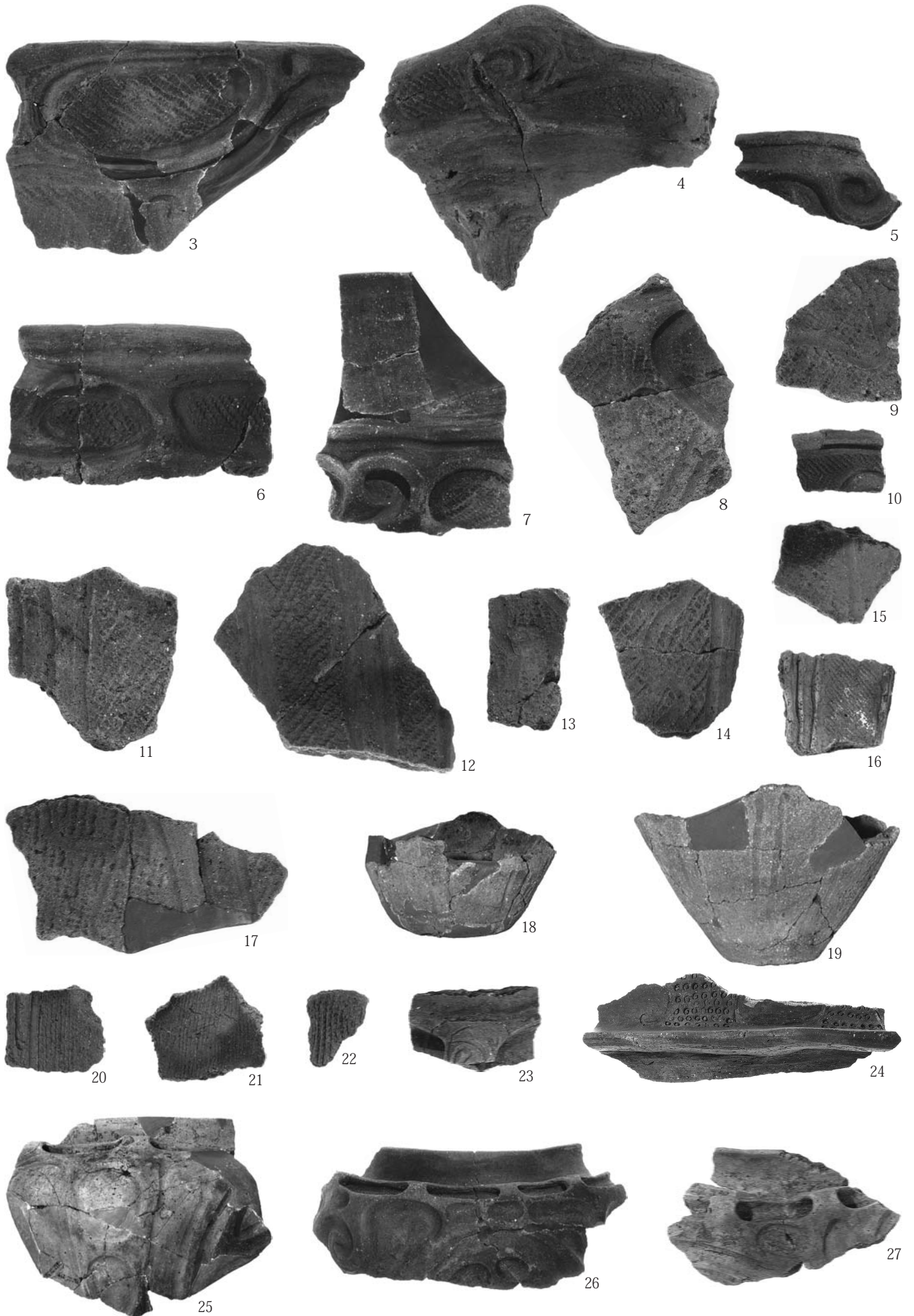
95-46住



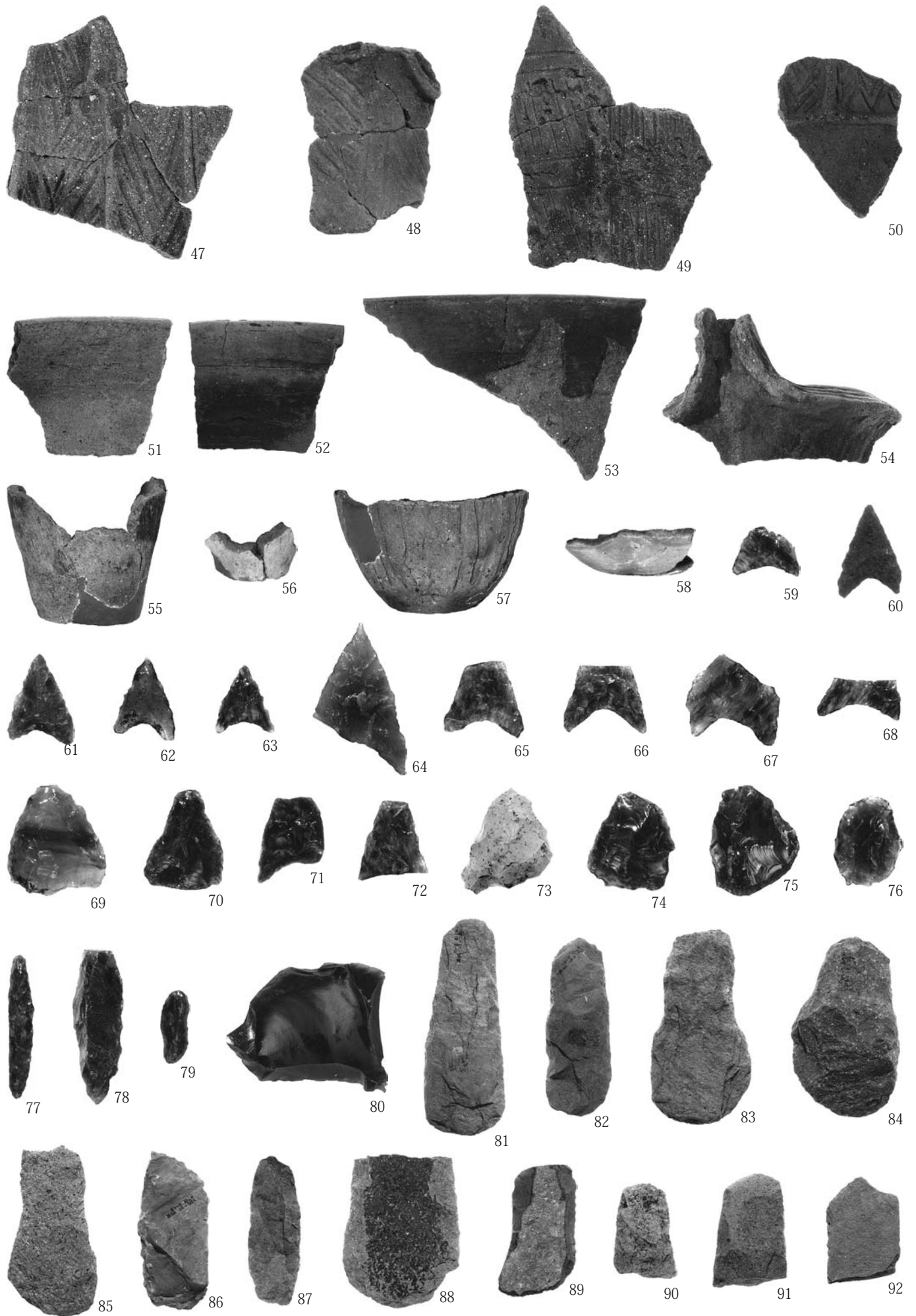
95-47住

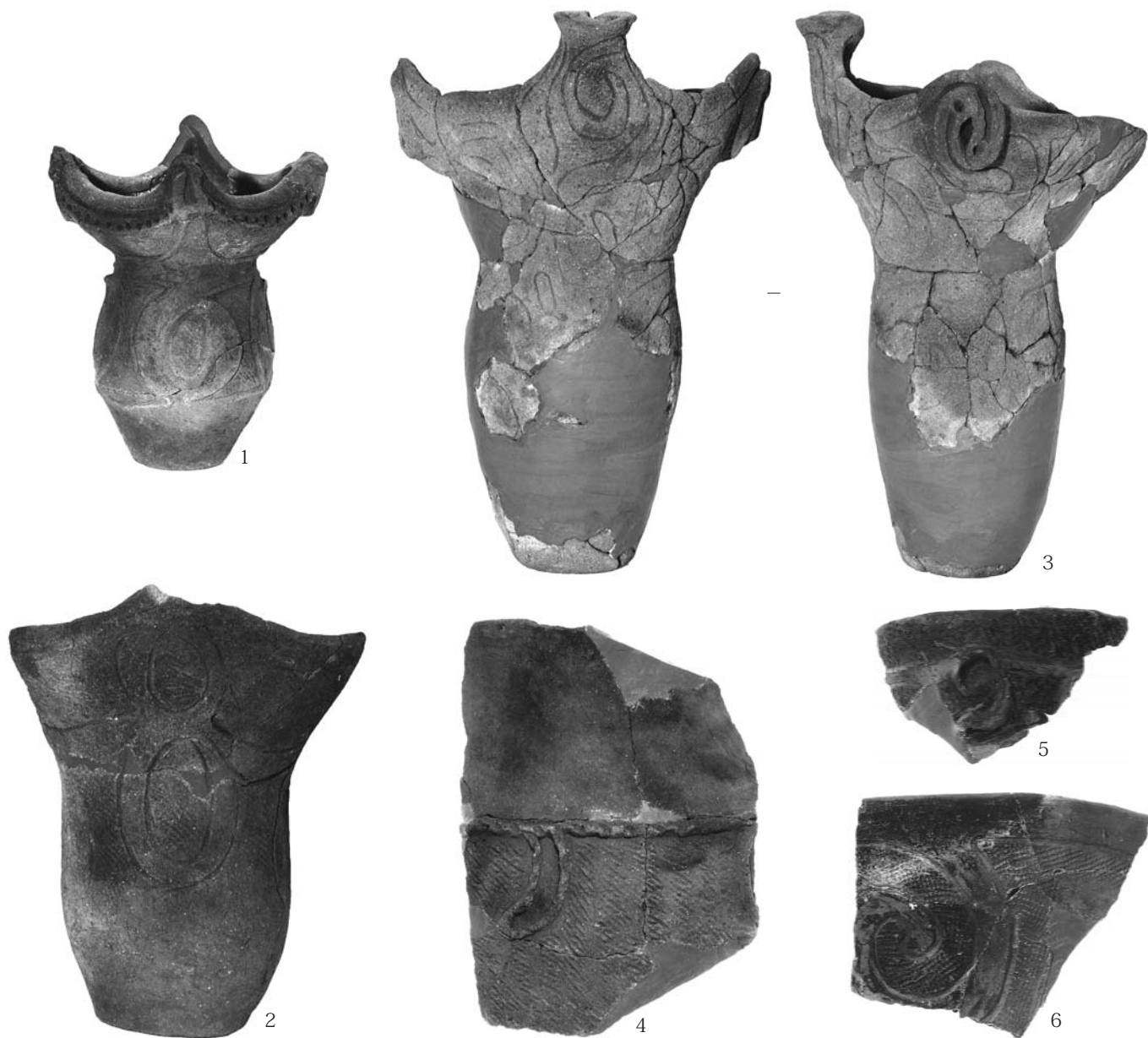
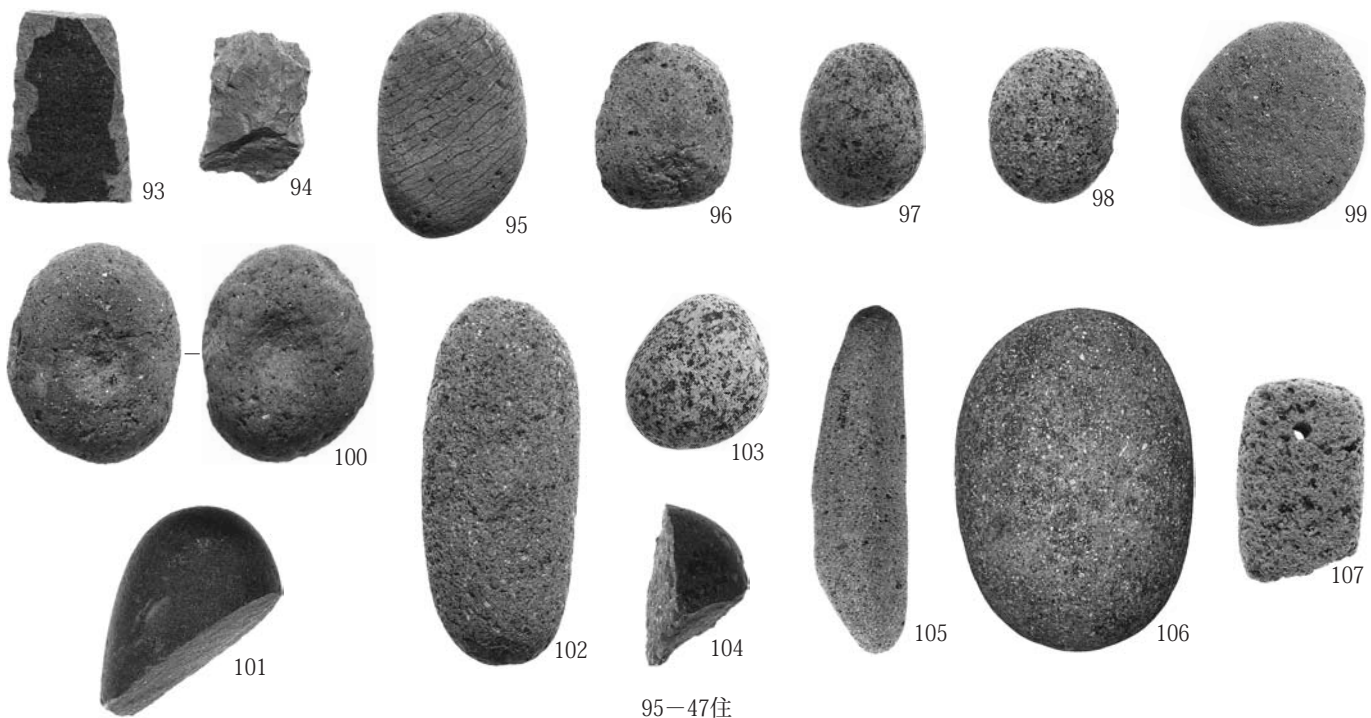


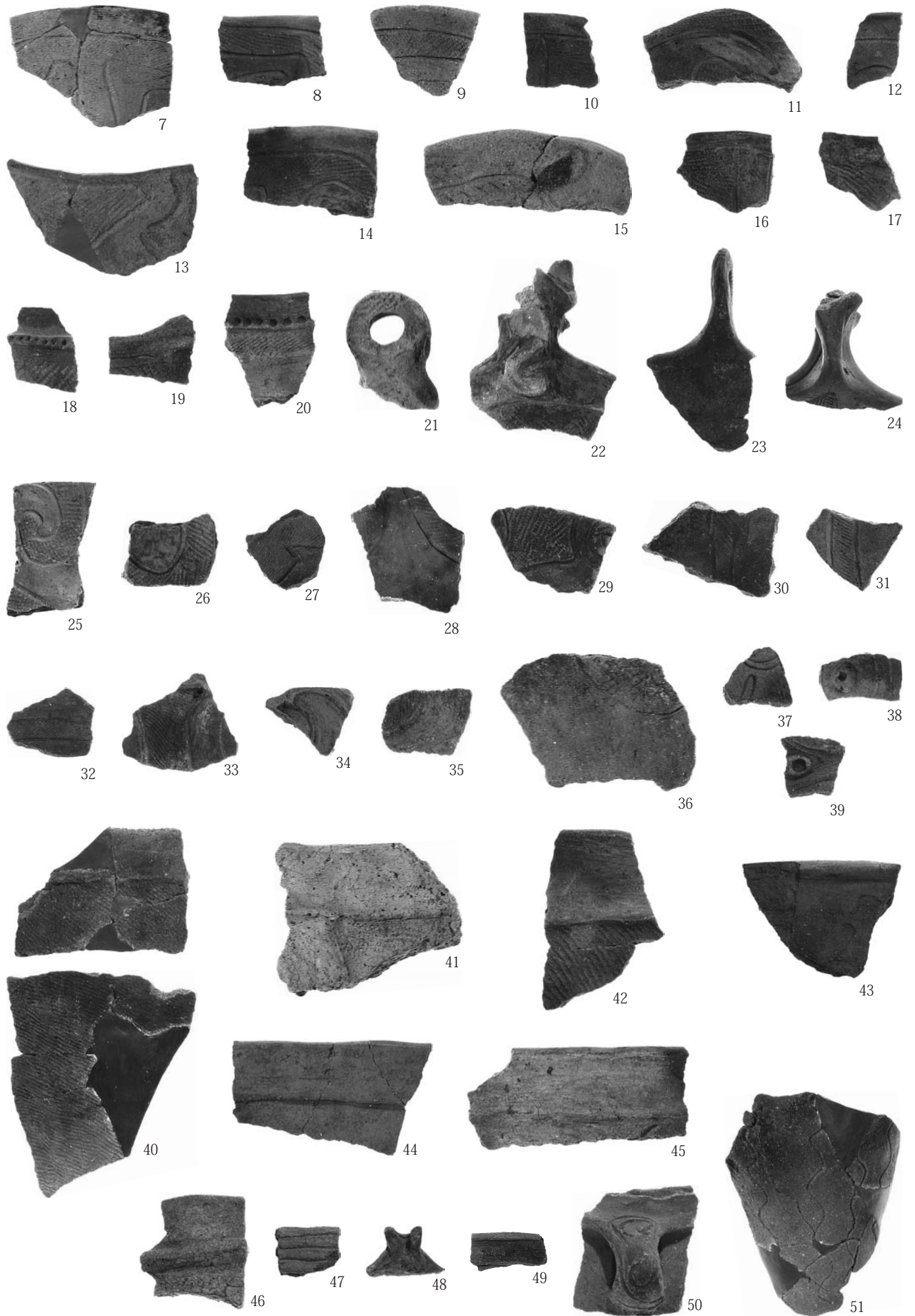


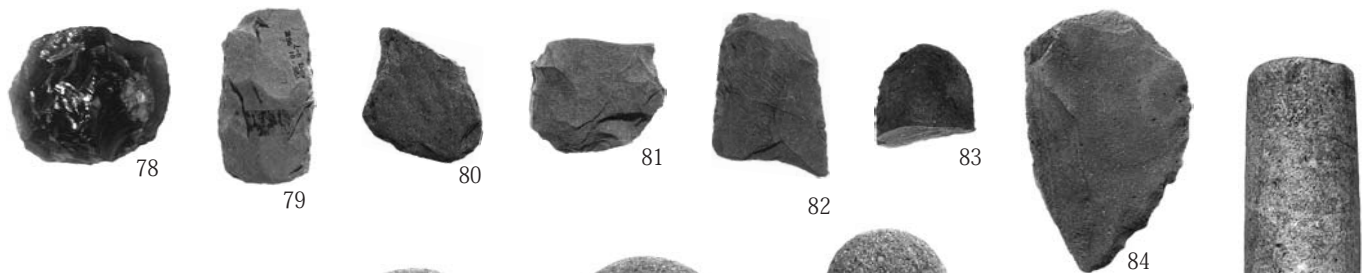
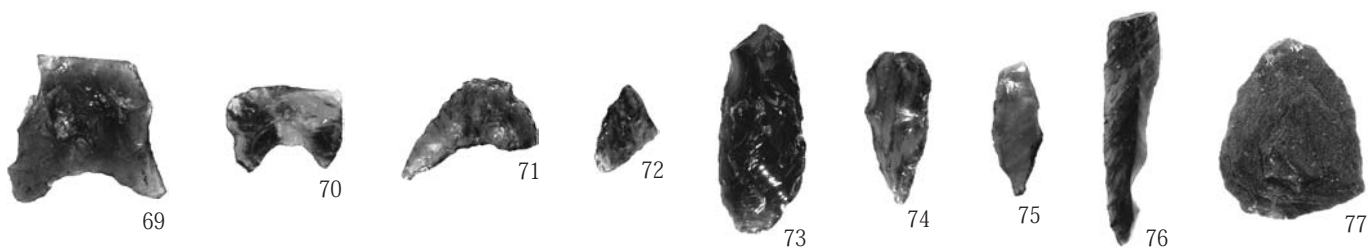
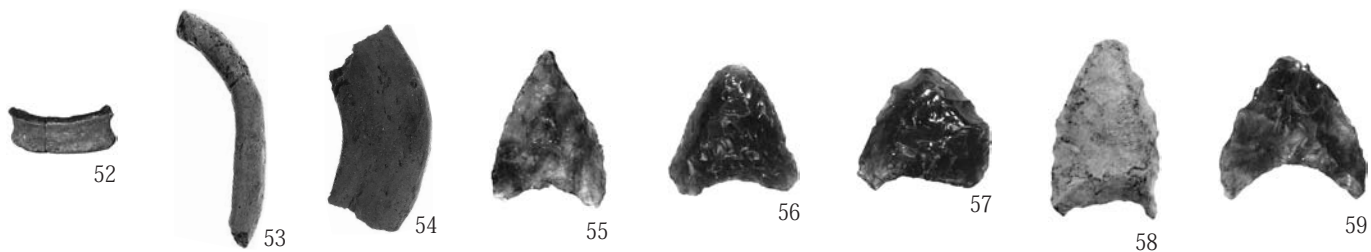




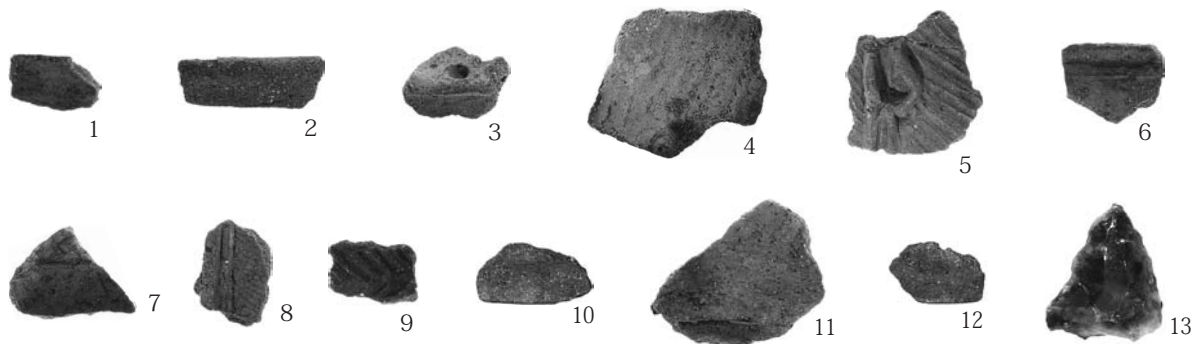




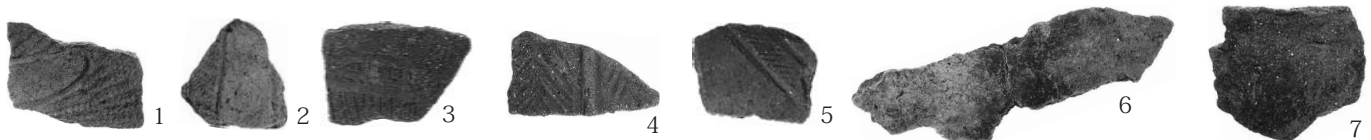




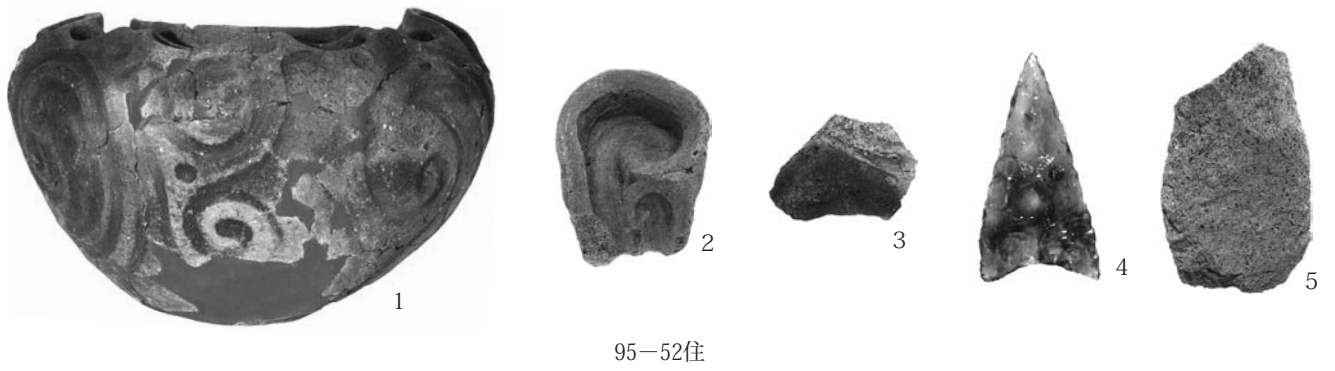
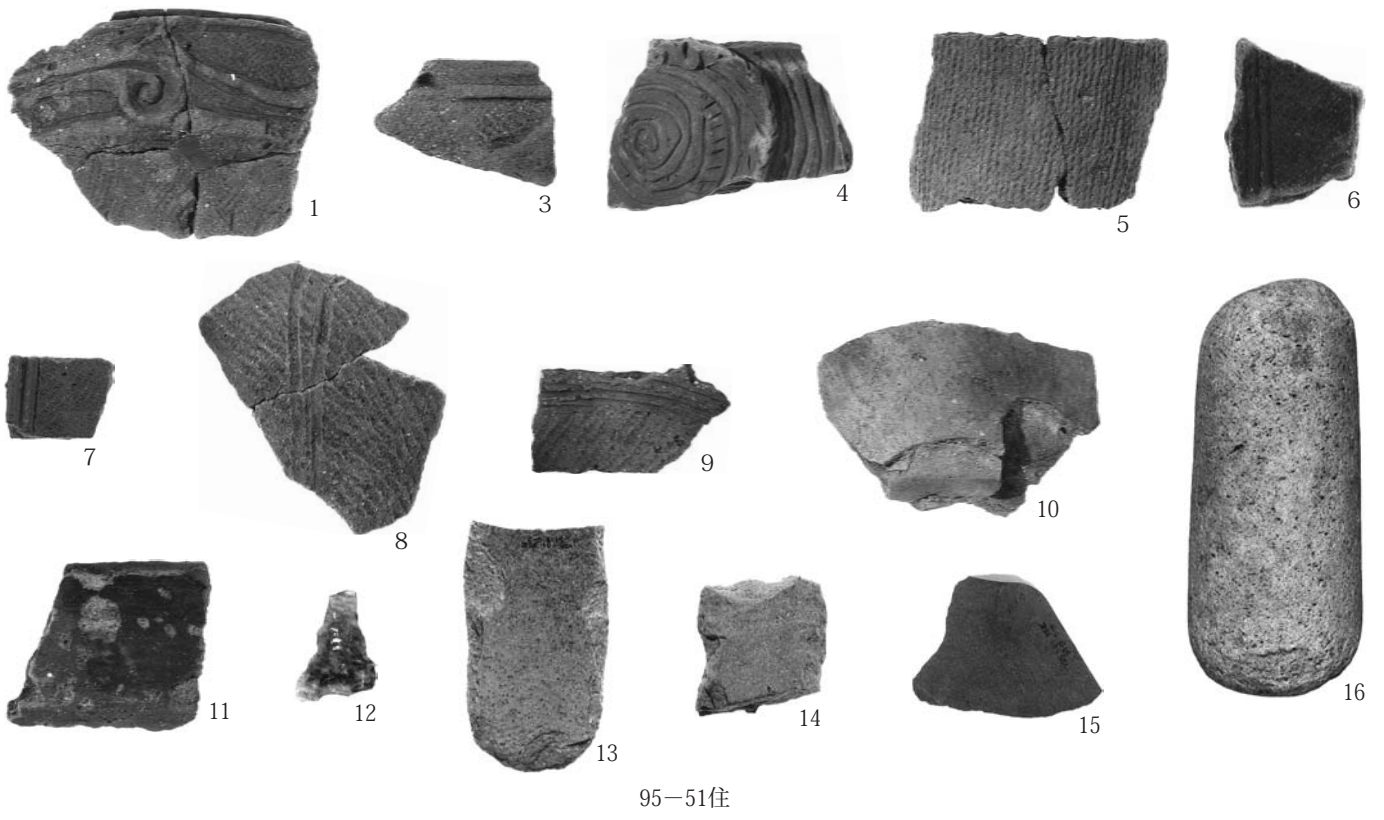
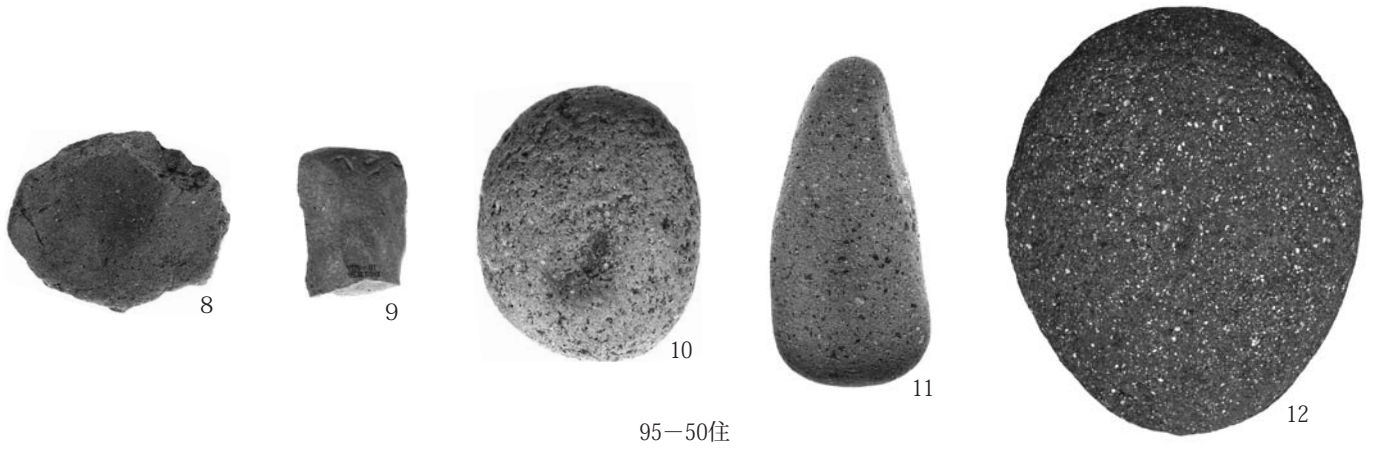
95-48住

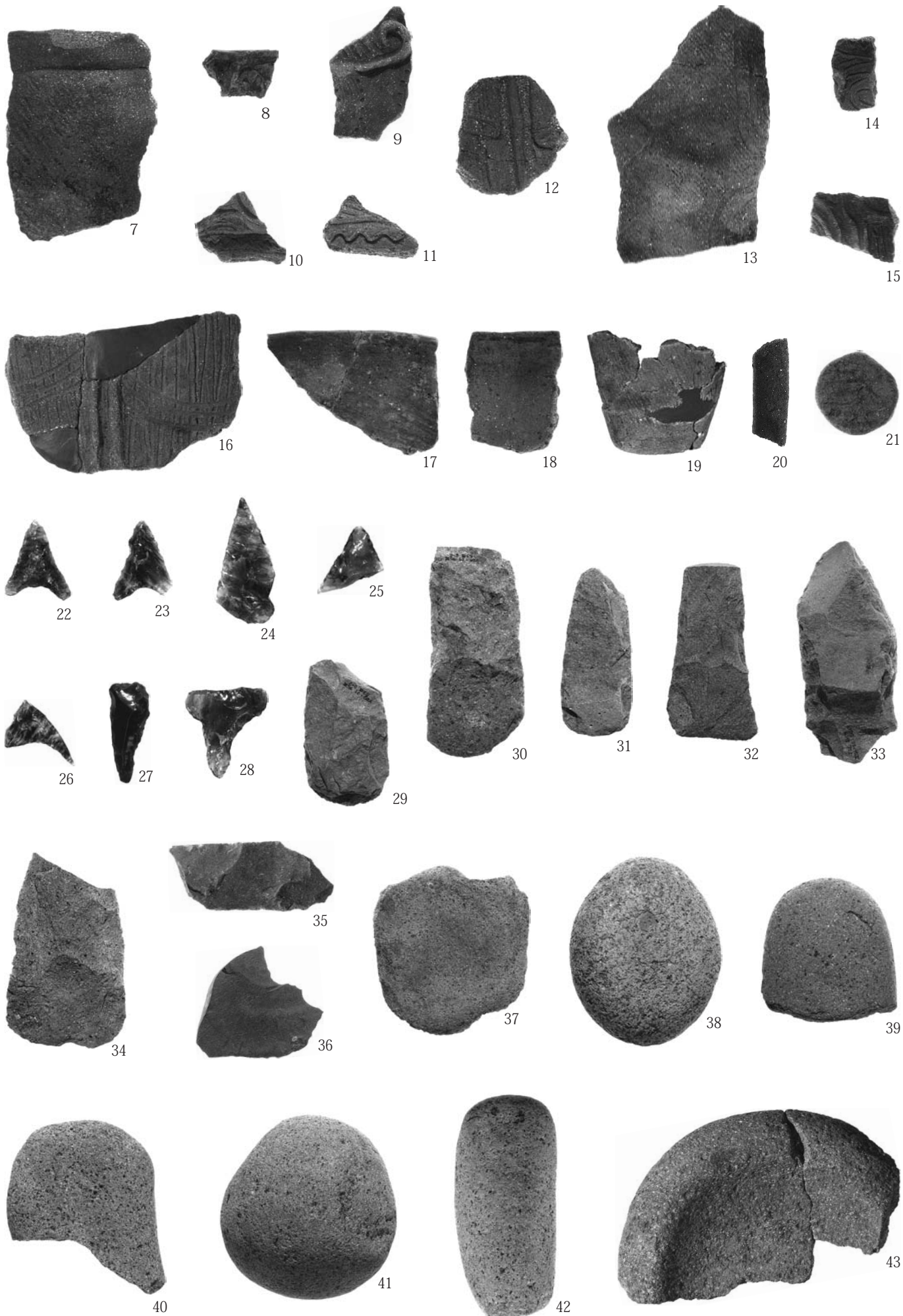


95-49住

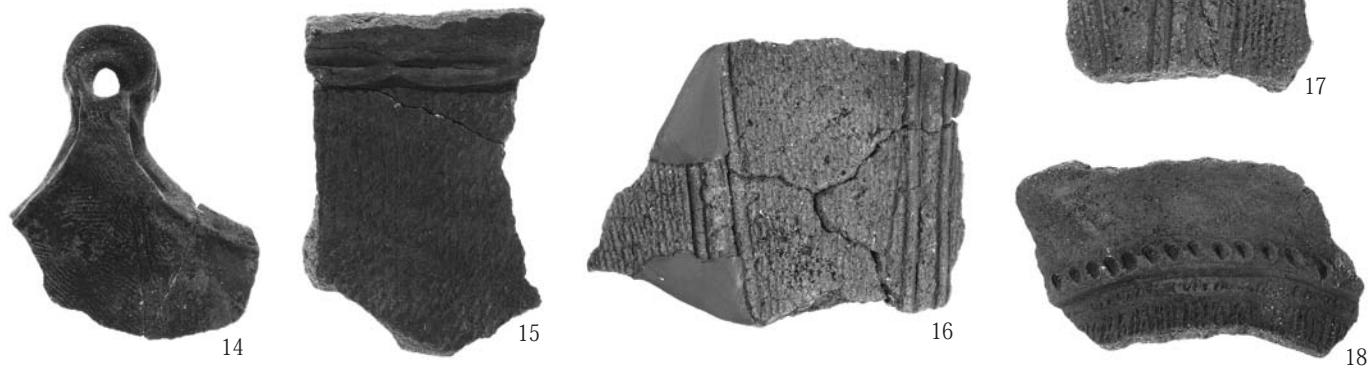
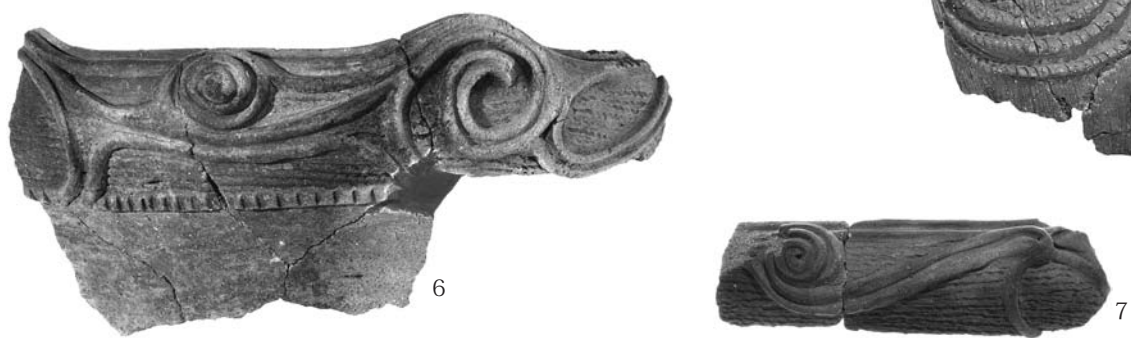


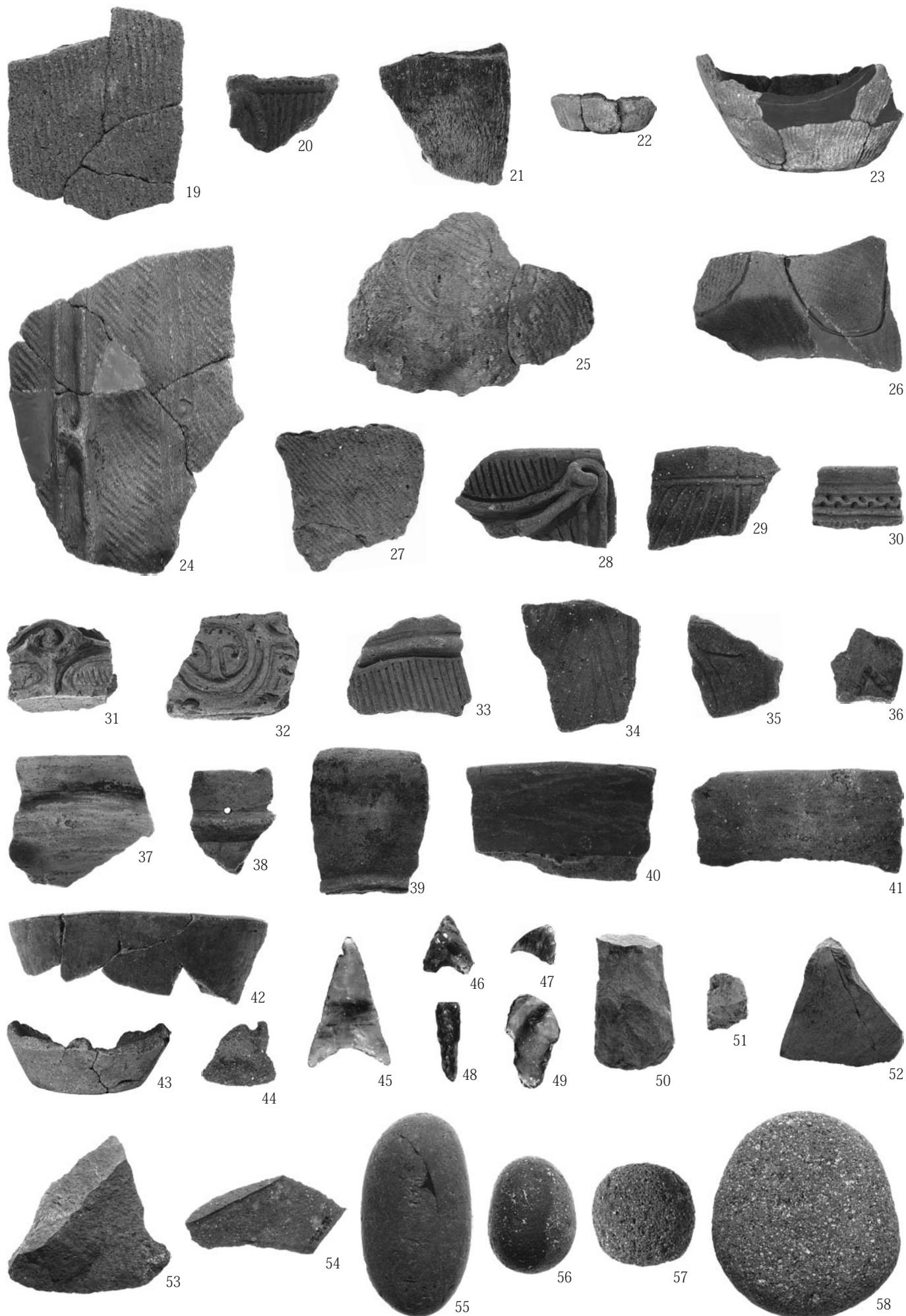
95-50住



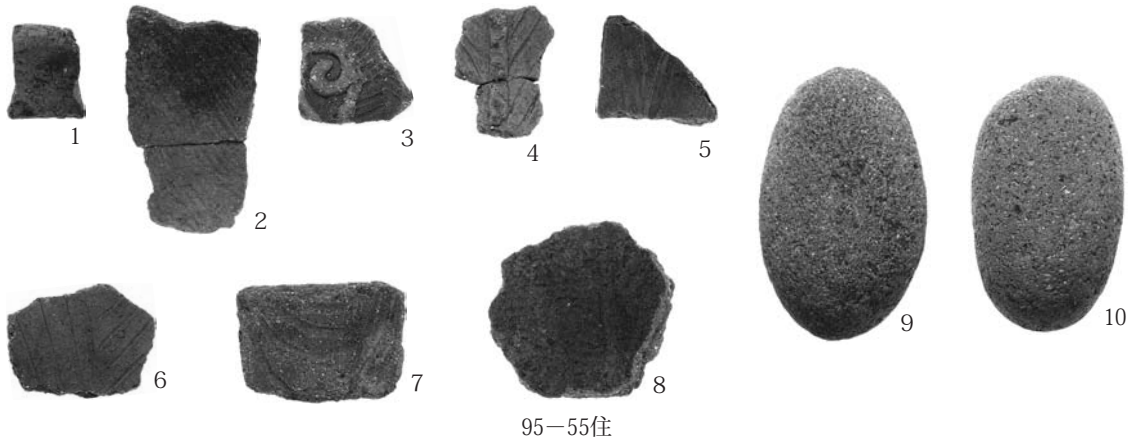








PL.210



95-56住



6



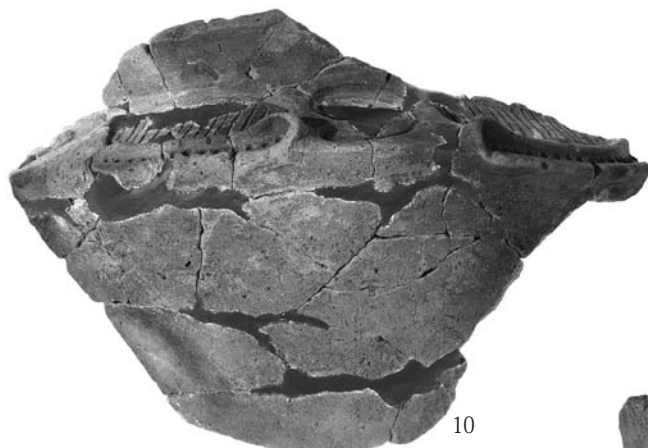
7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



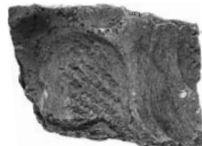
21



24



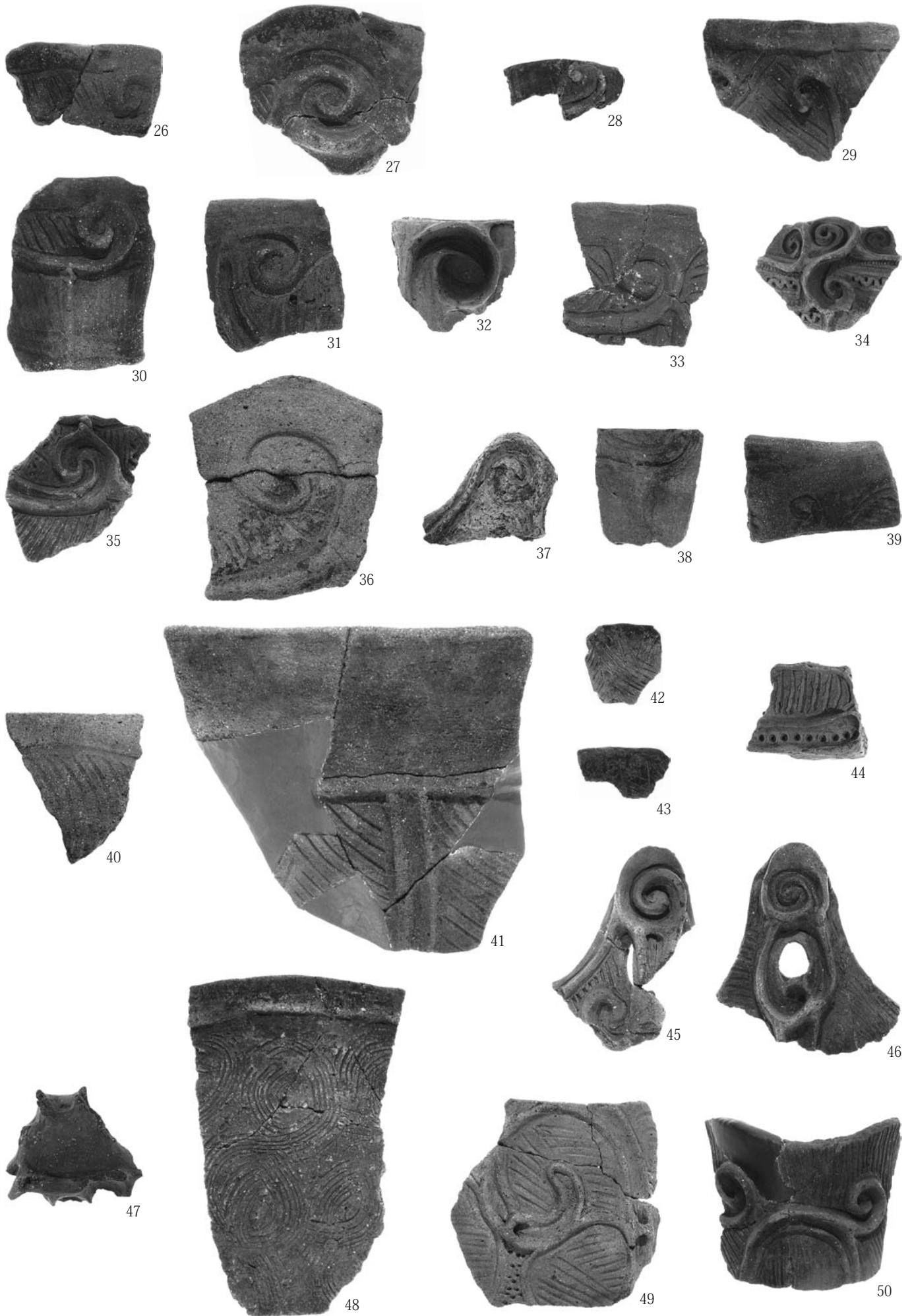
22



23



25





51



52



53



54



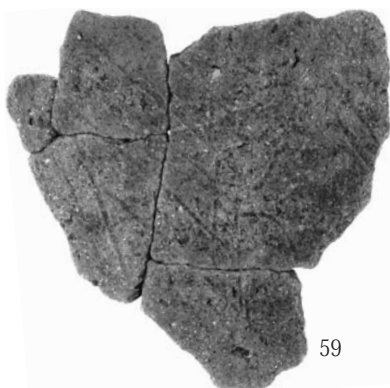
55



56



57



59



60



58



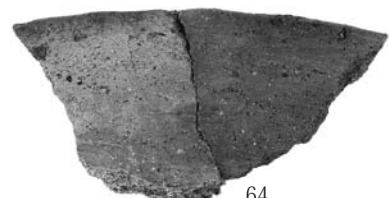
61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



71



72



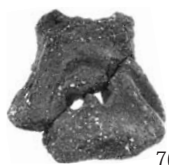
73



74



75



76



77



78



79



80

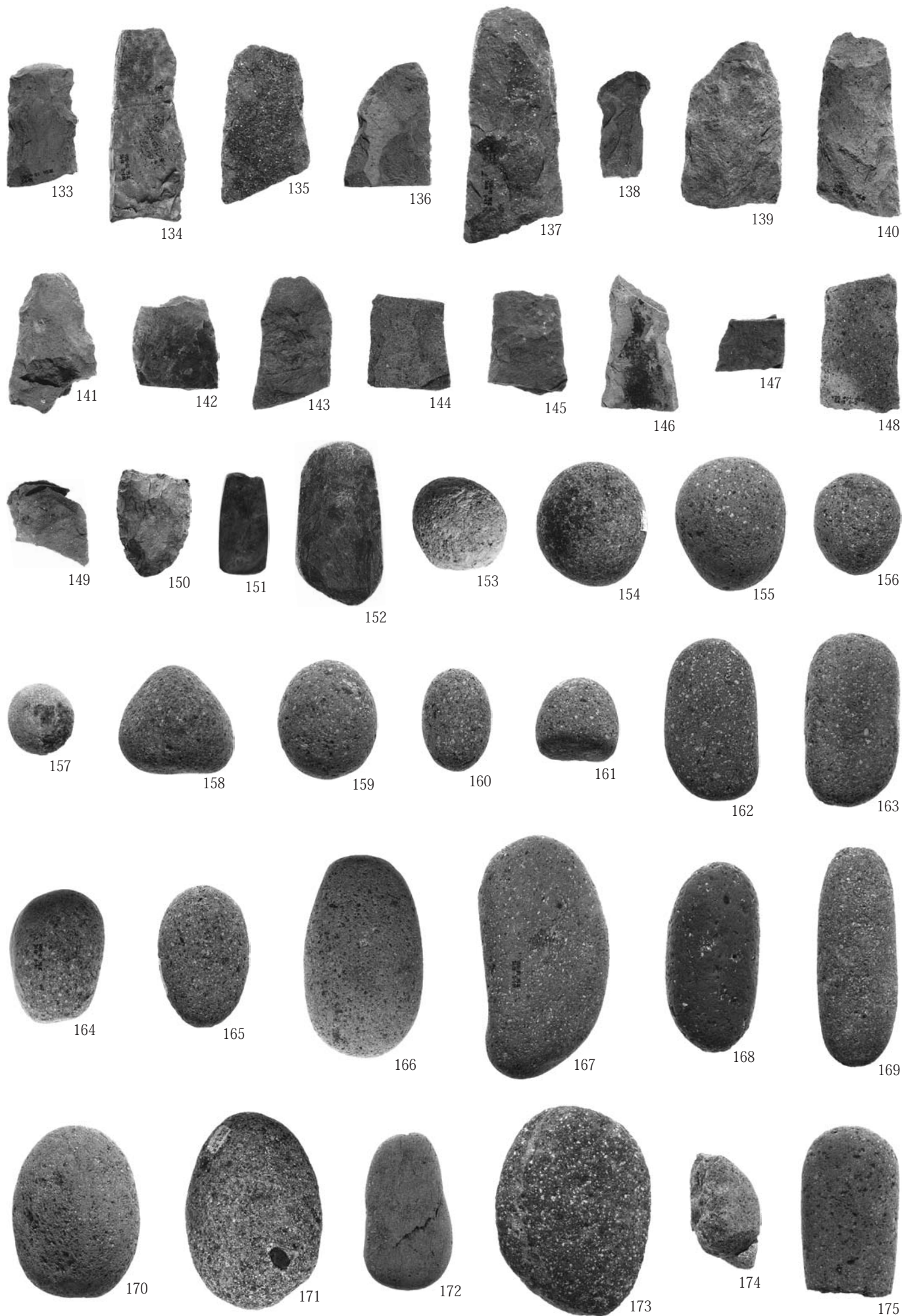


81

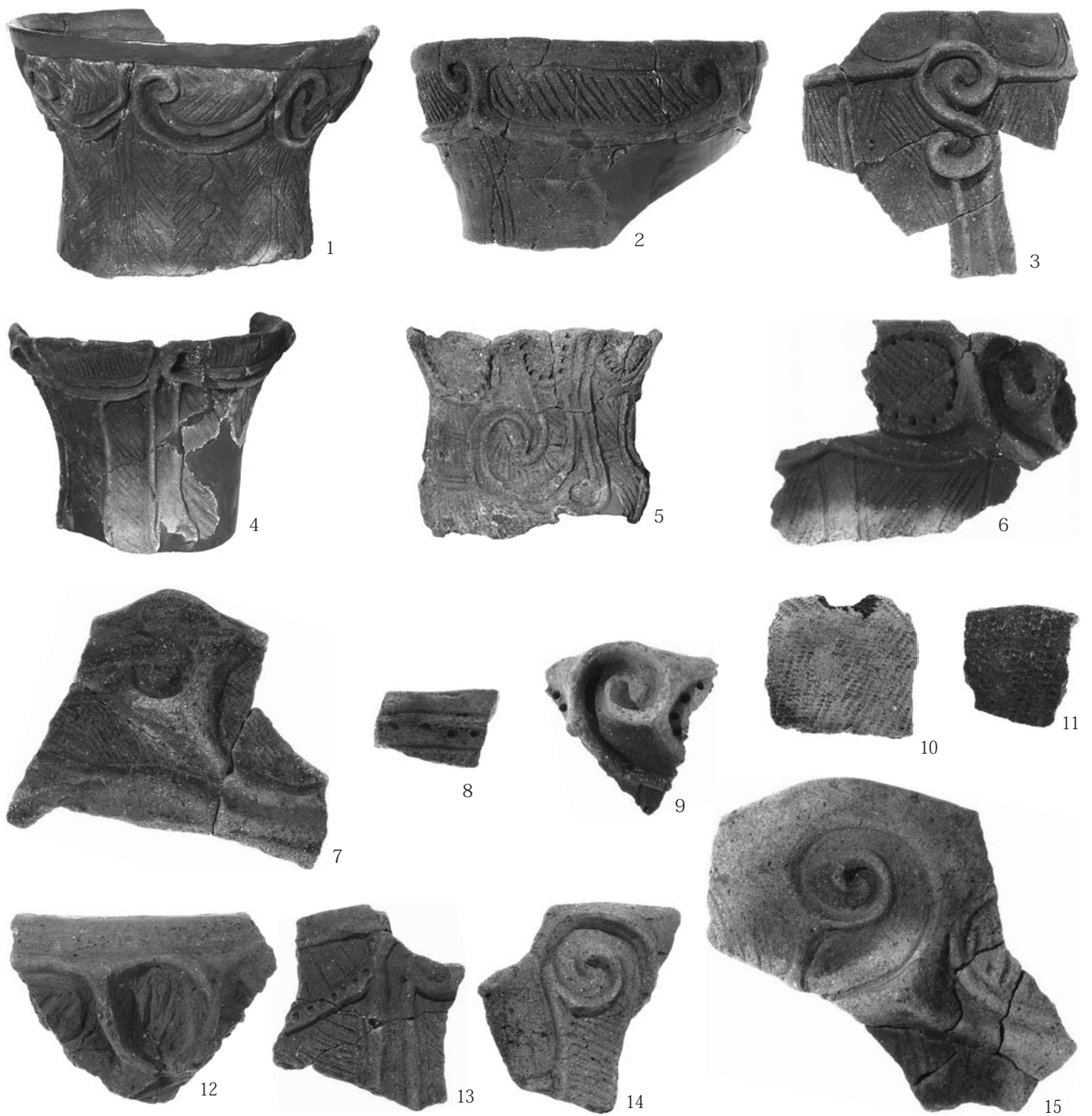
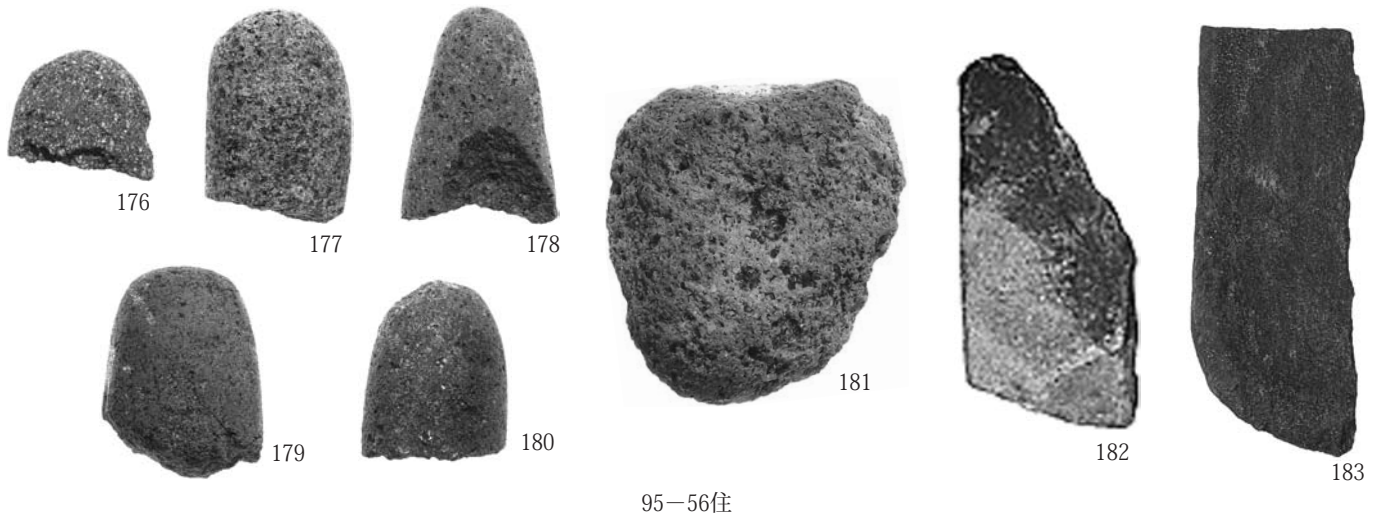


82







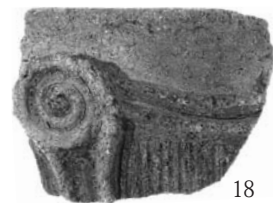




16



17



18



19



20



23



24



21



22



25



26



27



28



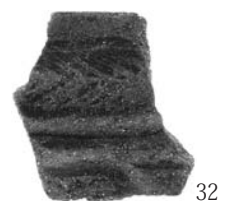
29



30



31



32



33



34



35



36



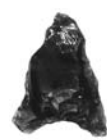
37



38

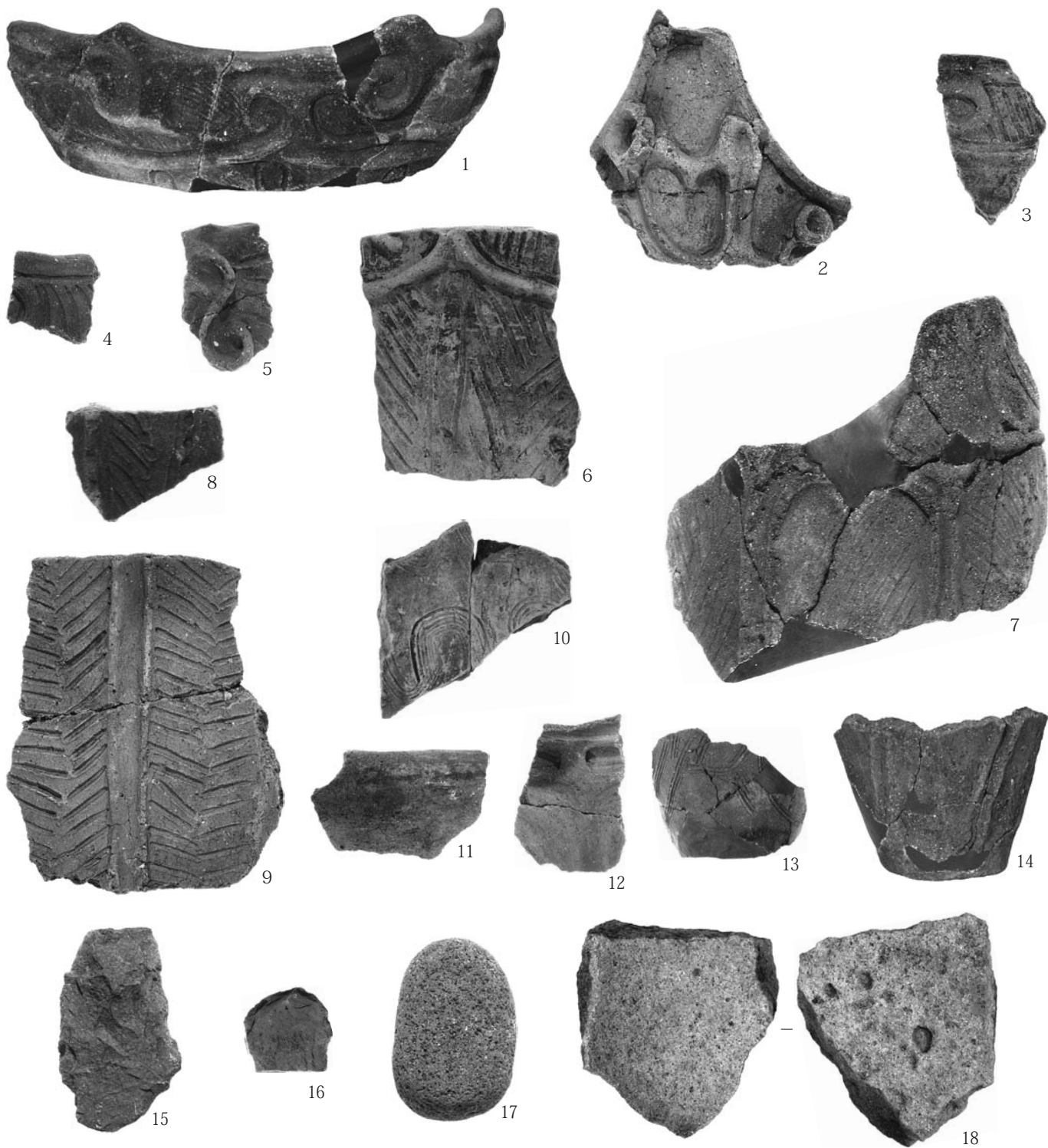


39

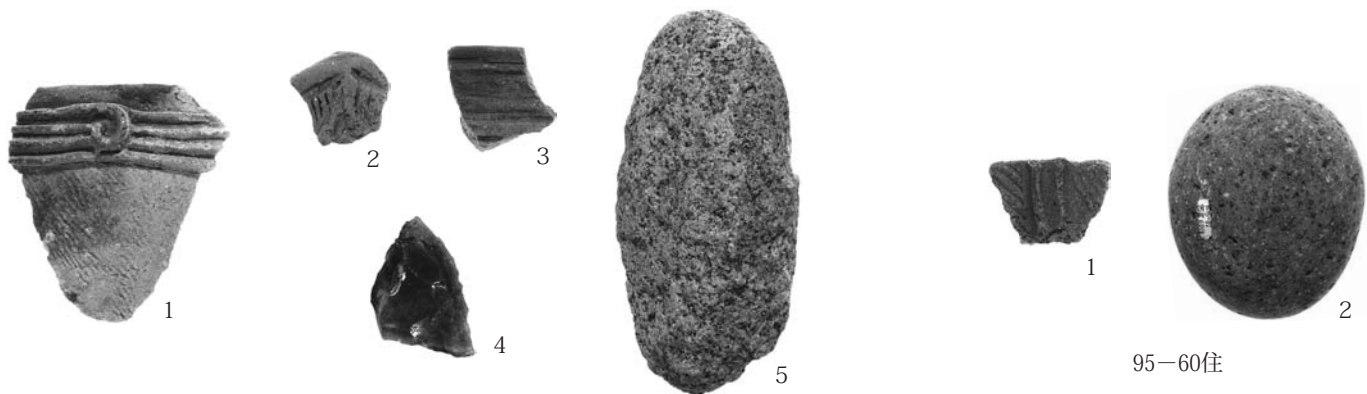


40

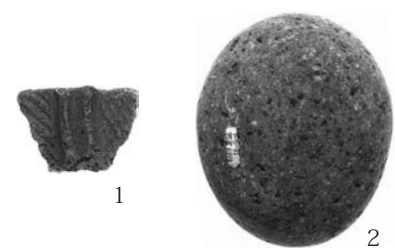




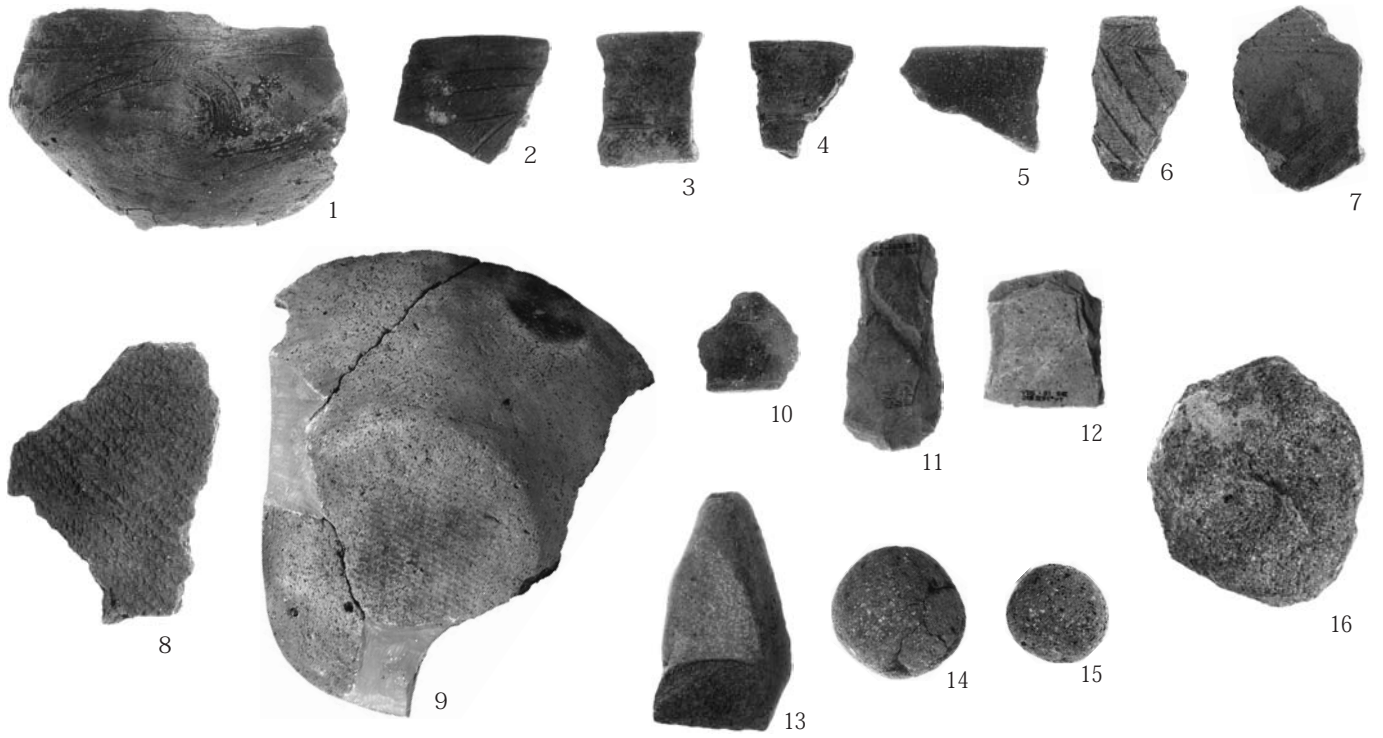
95-58住



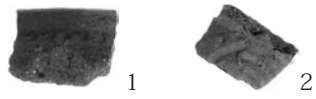
95-59住



95-60住



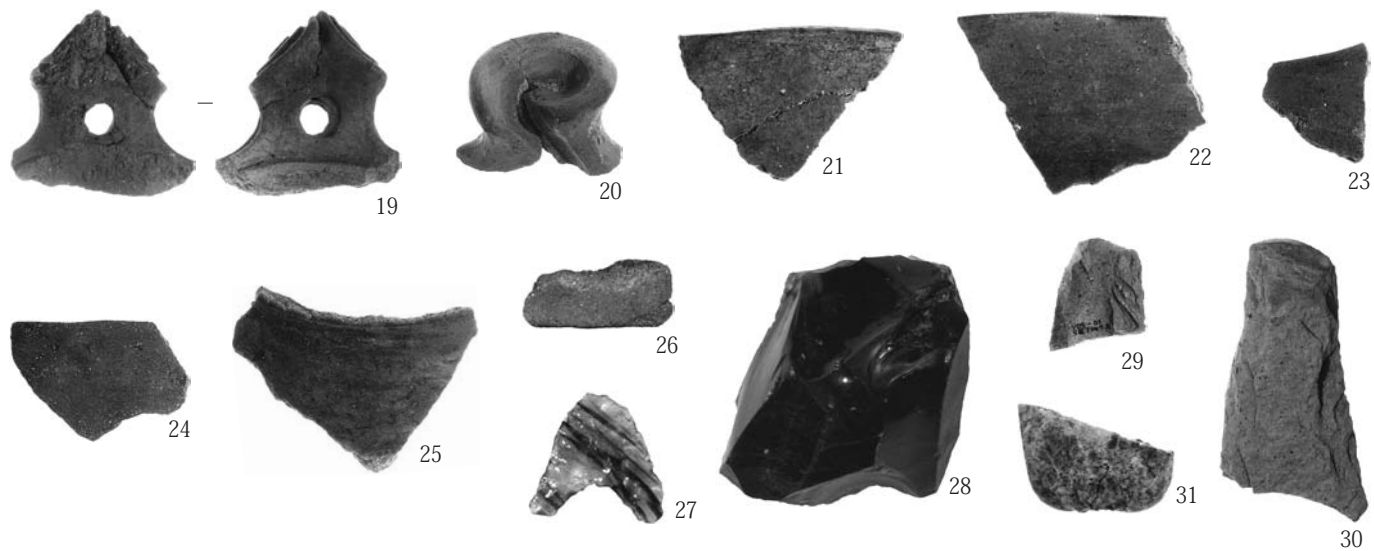
5-2 掘立



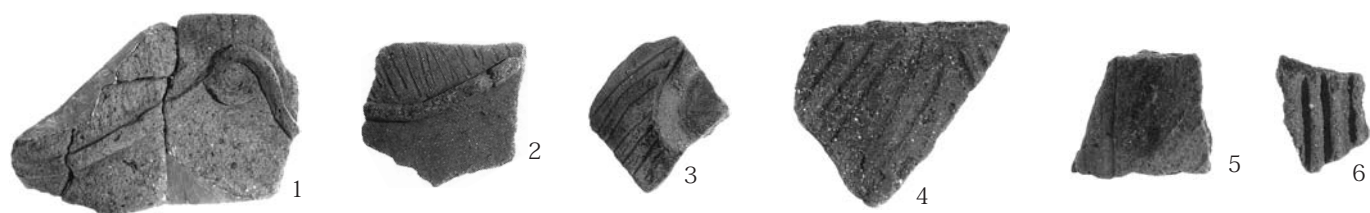
5-3 掘立



5-4 掘立



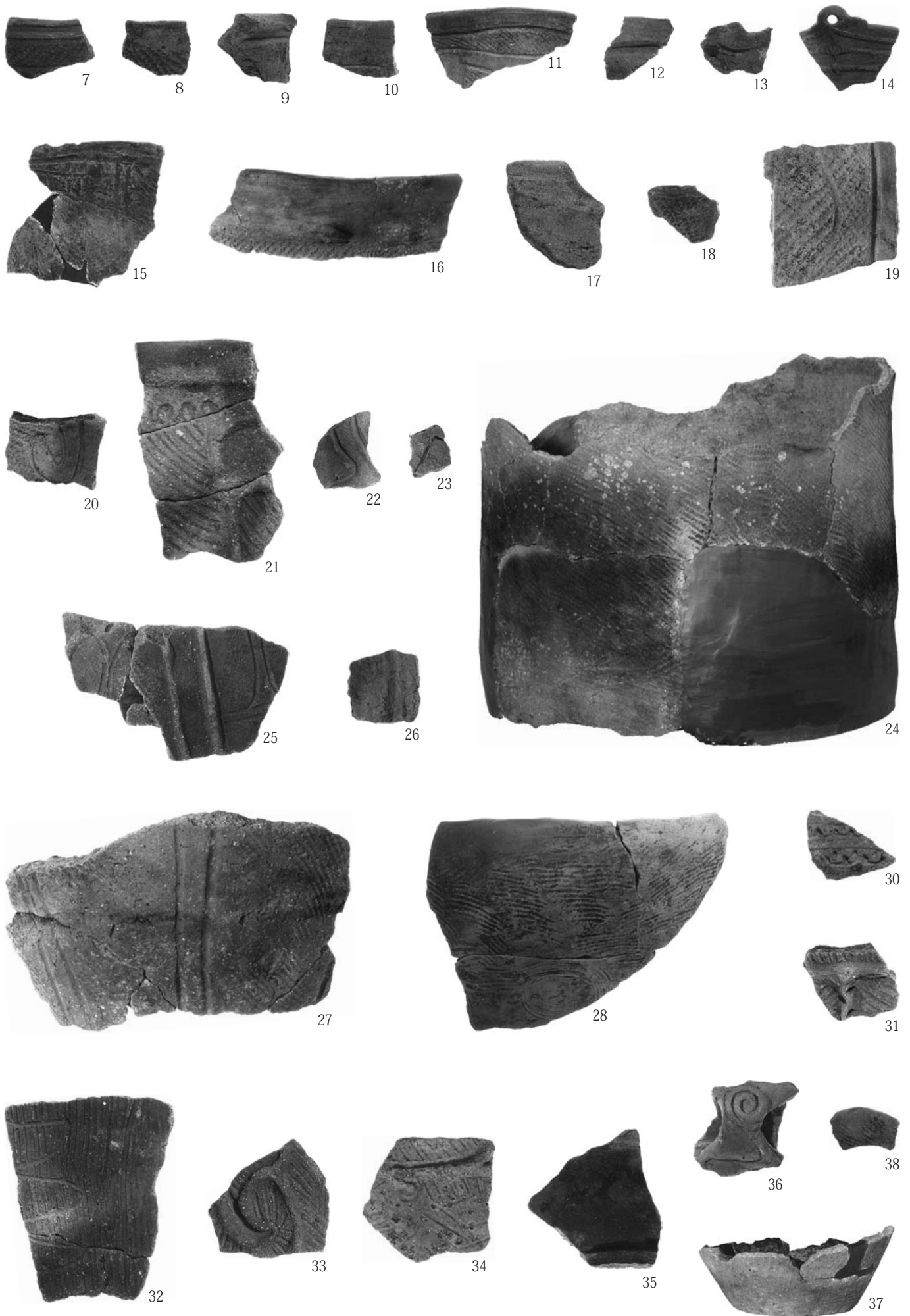
5-4 掘立

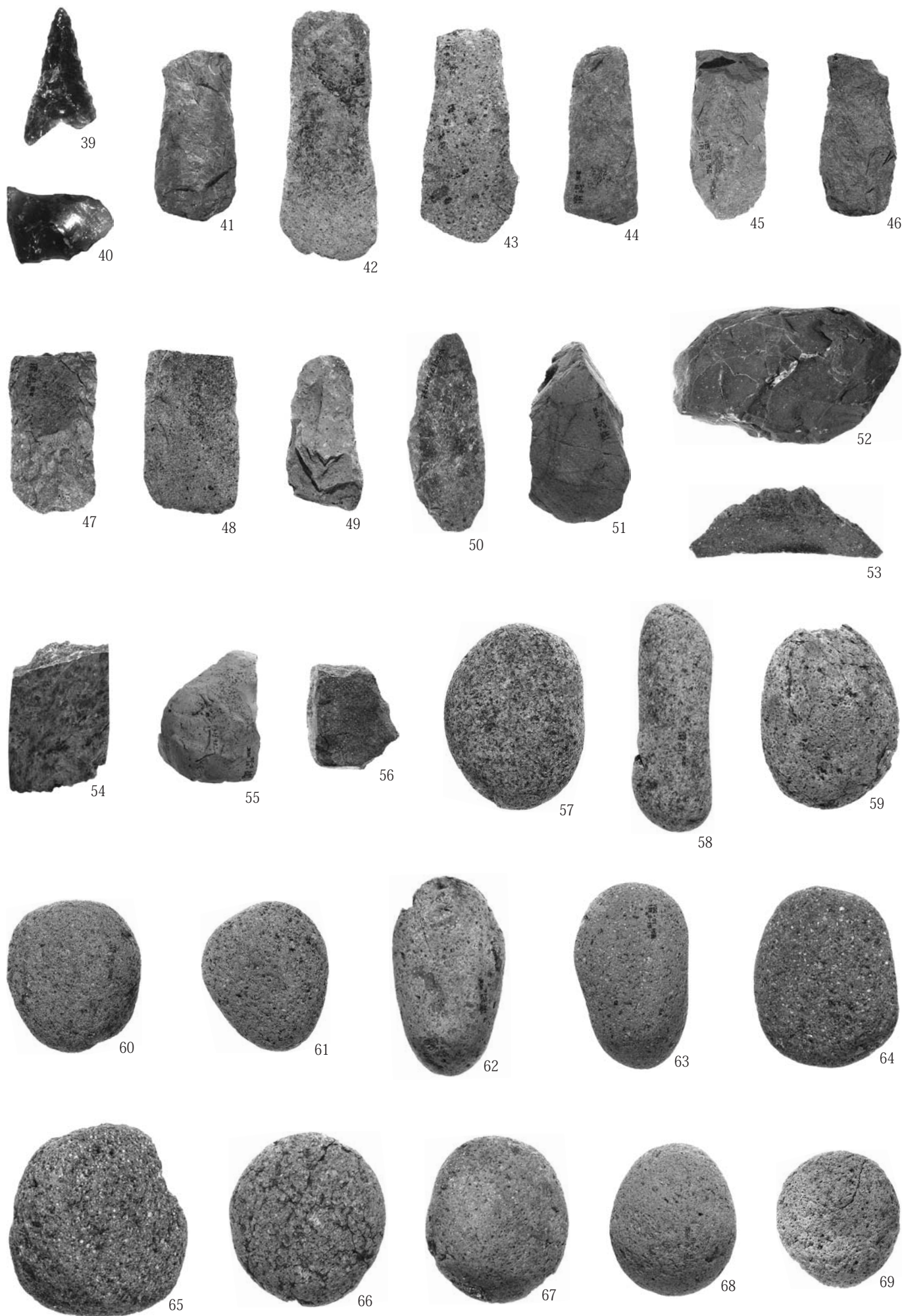


5-5 掘立

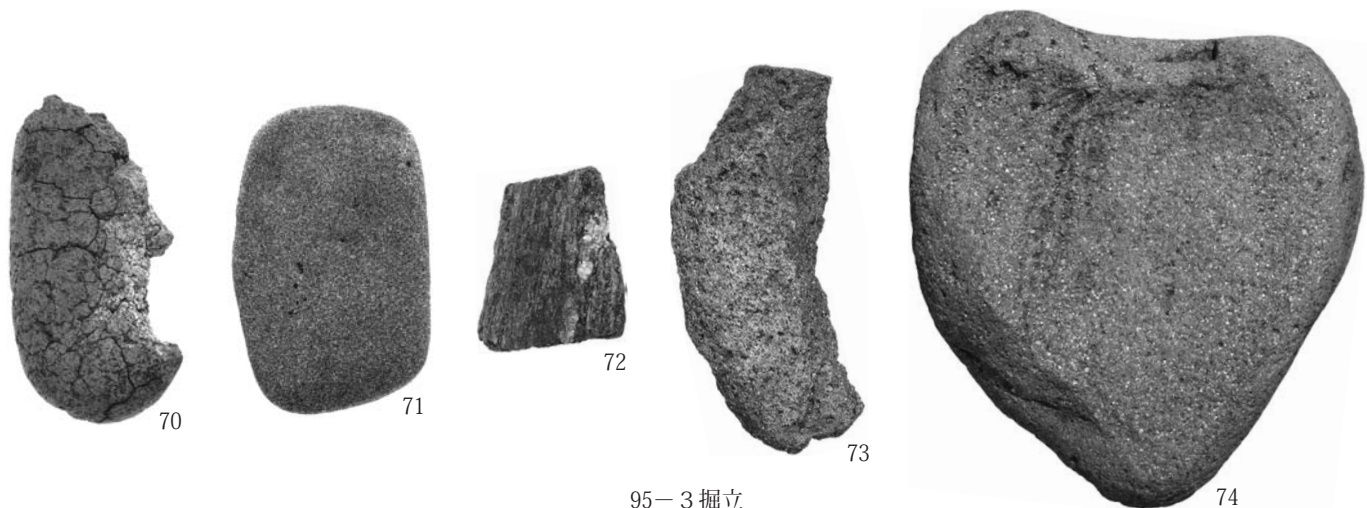


95-3 掘立

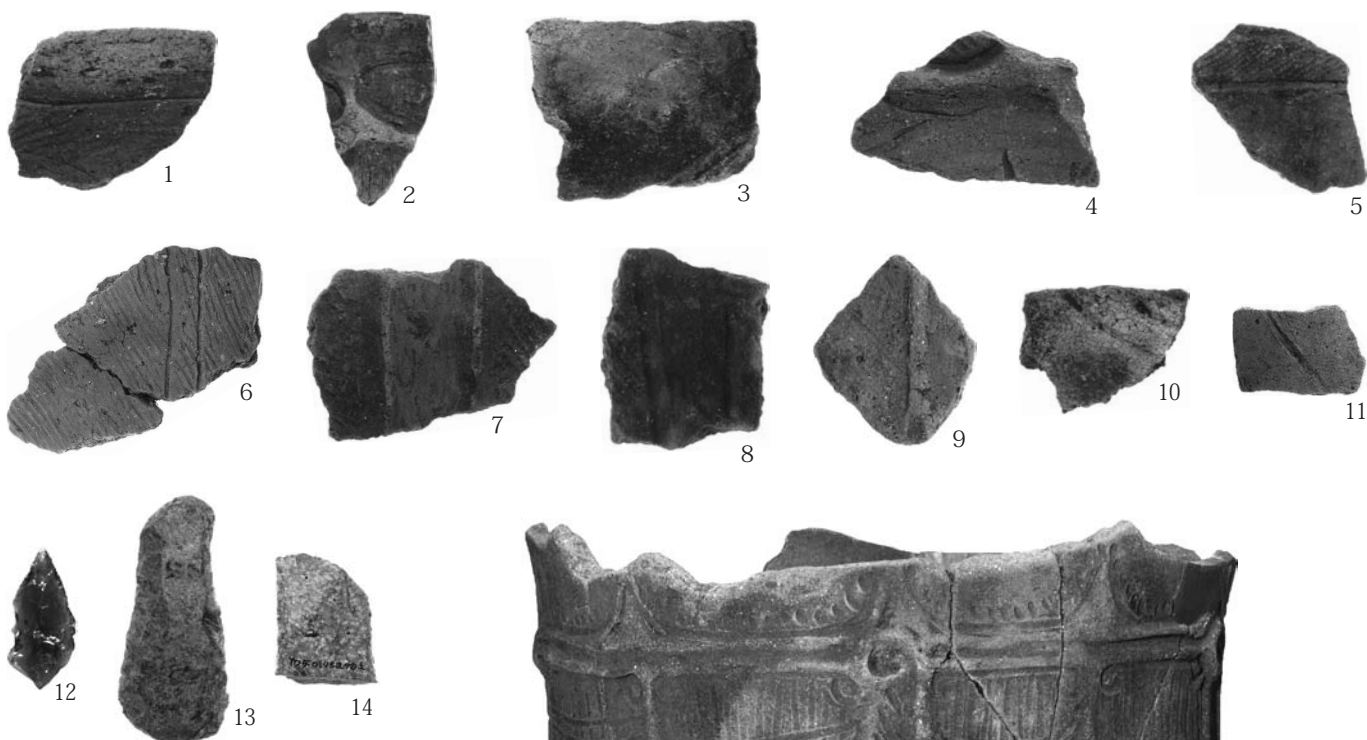








95-3 掘立



95-4 掘立



5-15 埋裏



95-1 埋裏



1

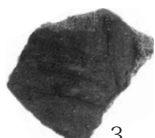
95-3埋甕



1



2



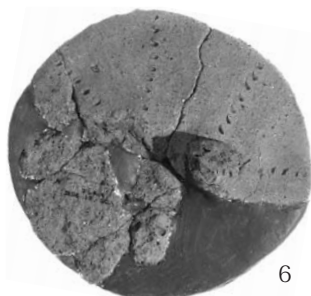
3



4



5



6



7



8



9

95-1 焼土



1

95-7 焼土



1



2

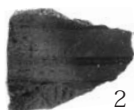


3

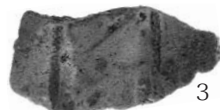
95-10 焼土



1



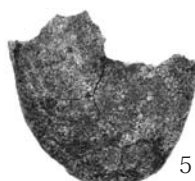
2



3



4



5

95-11 焼土



1



2

95-13 焼土

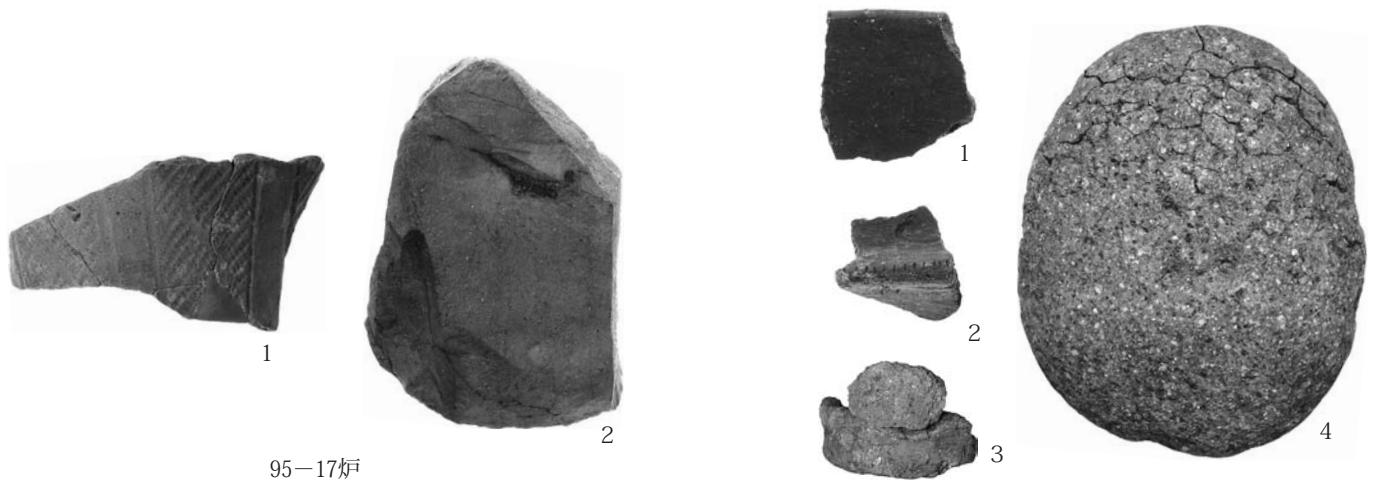


95-14焼土

95-15焼土

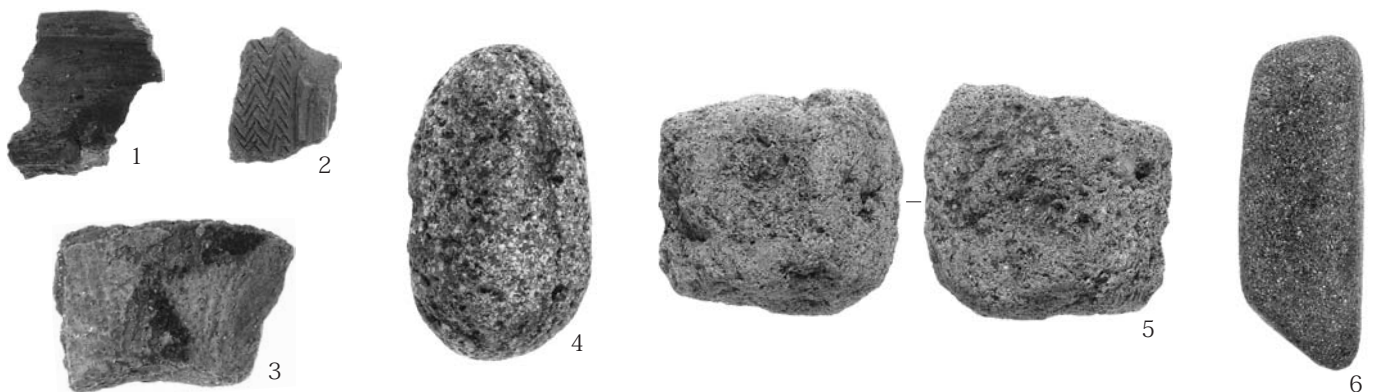


95-16焼土

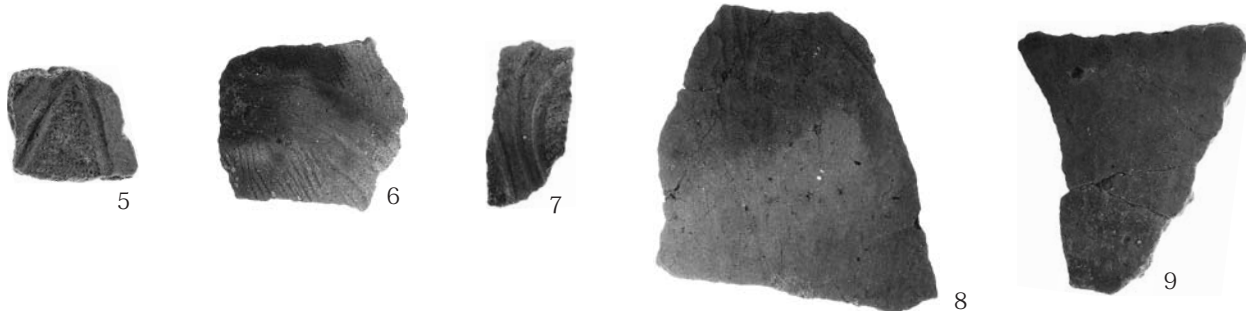
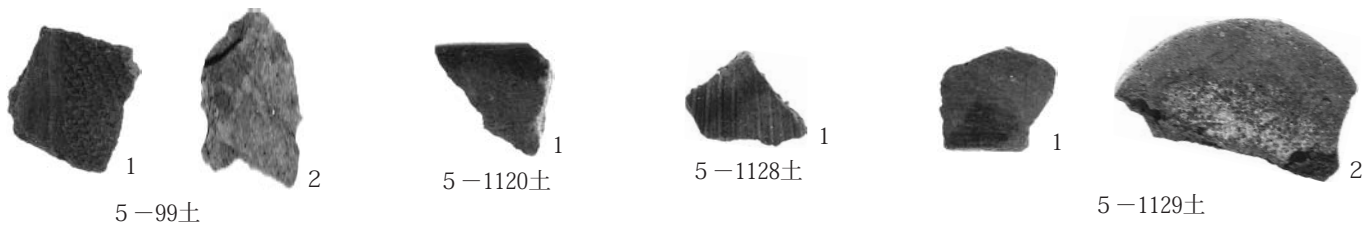


95-17炉

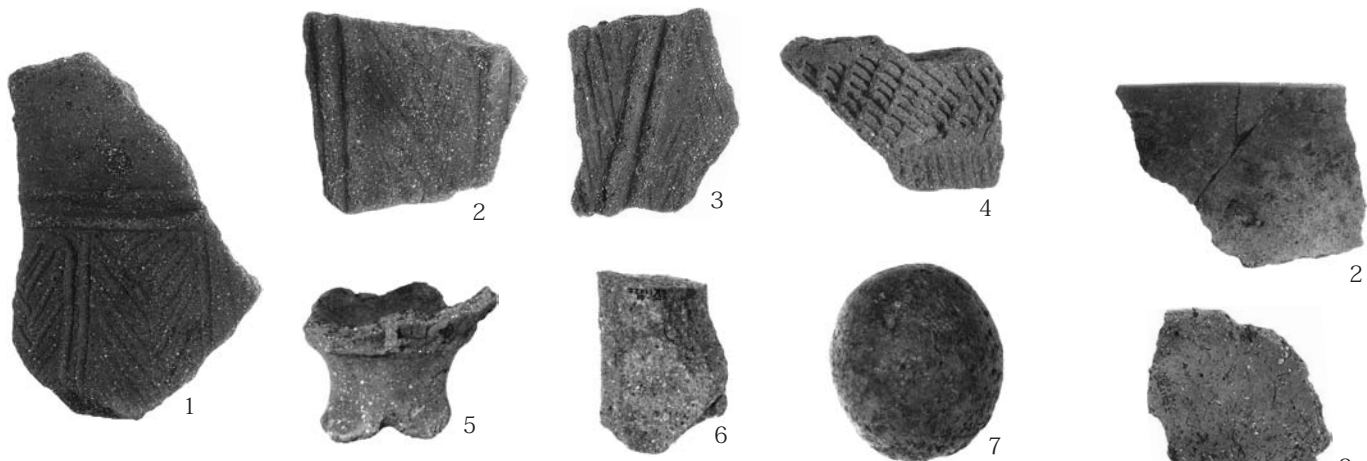
95-1配石



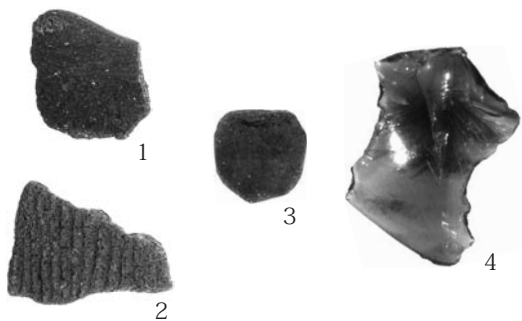
95-2配石



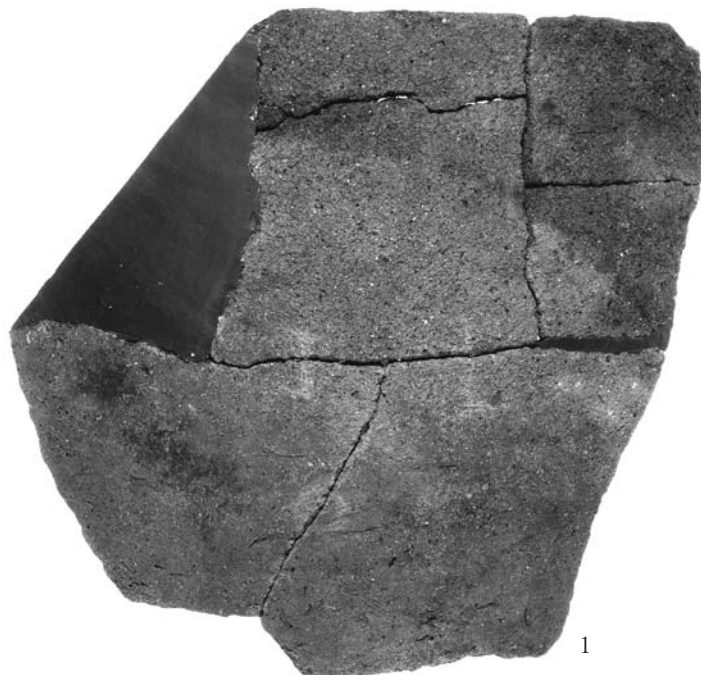
5-1130±



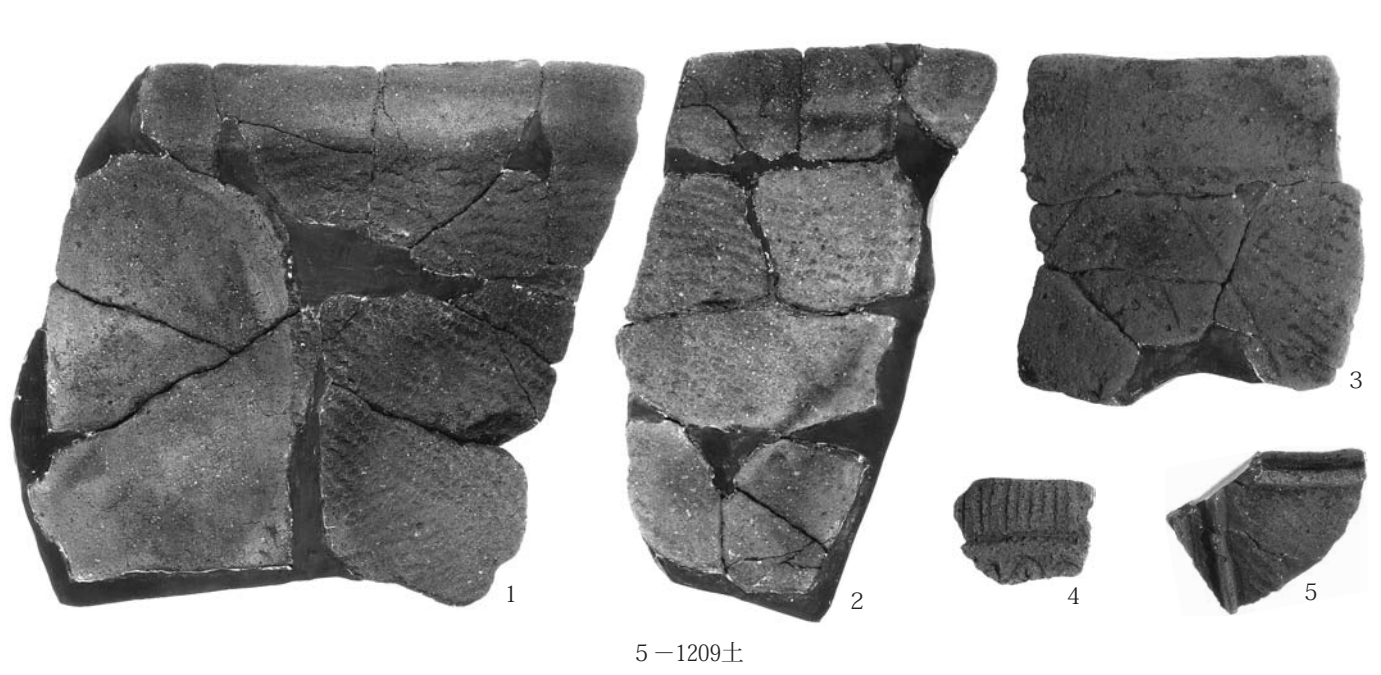
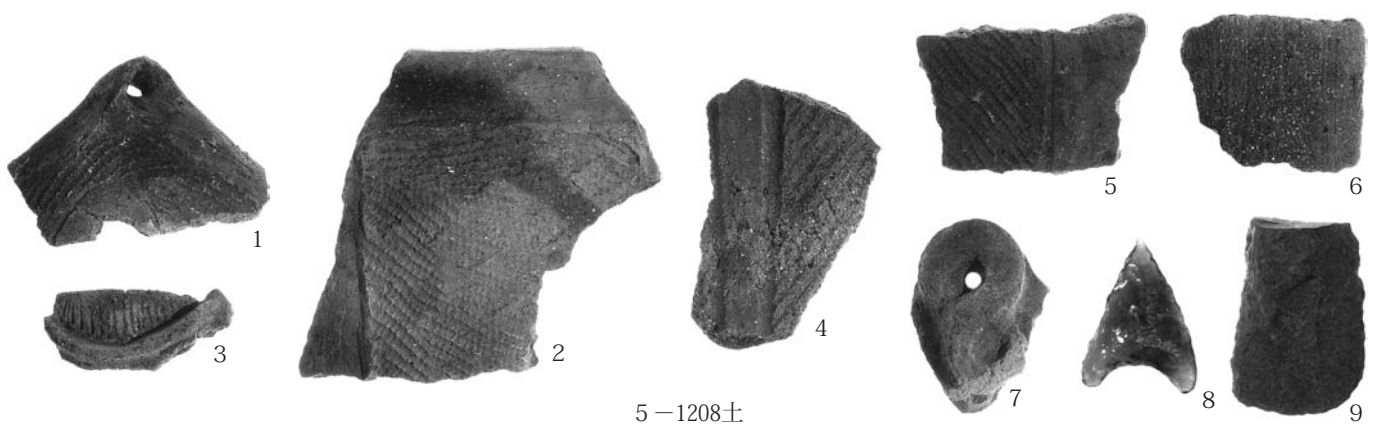
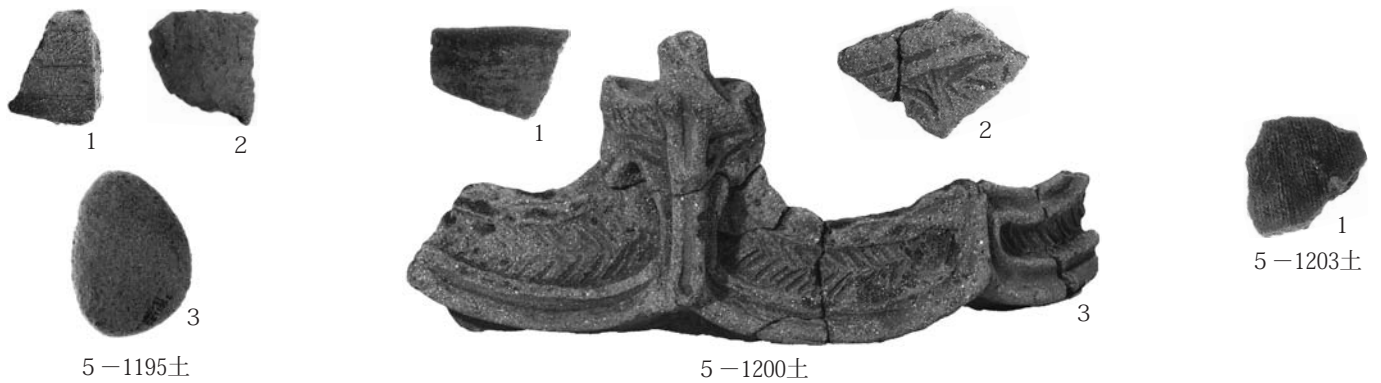
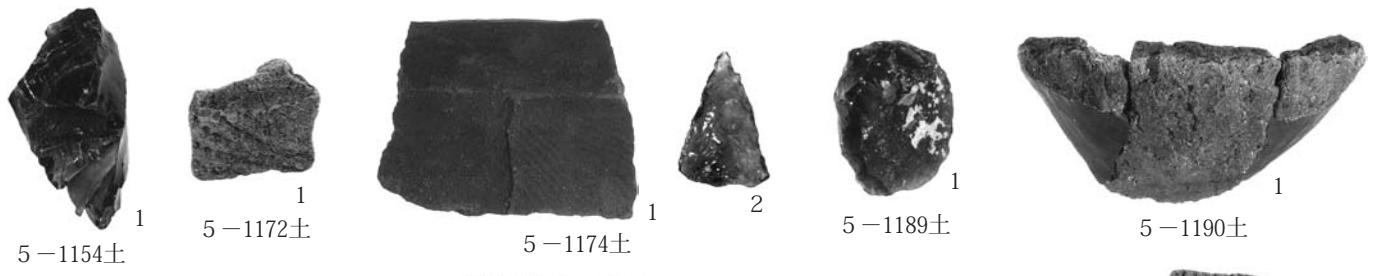
5-1142±

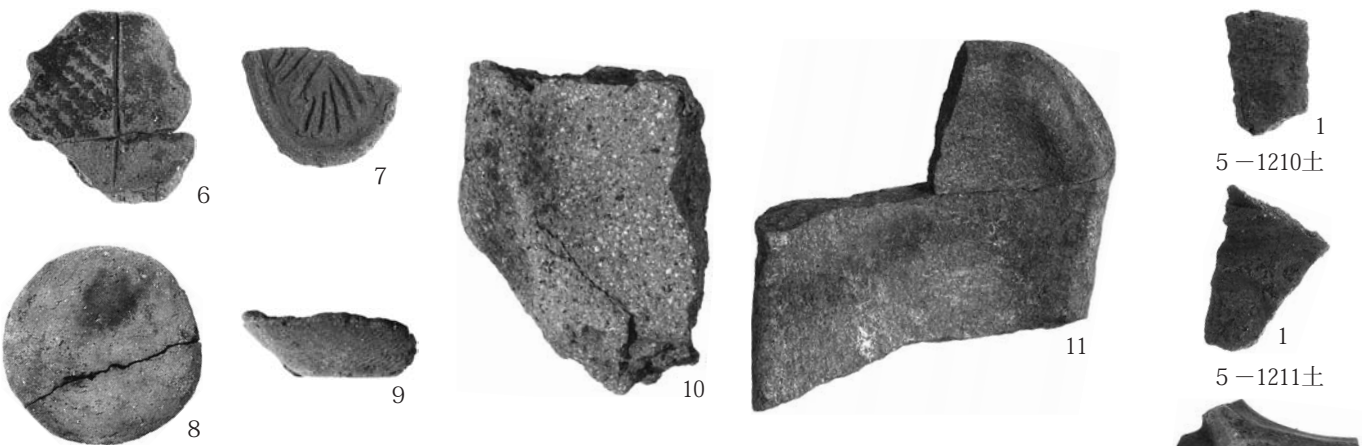


5-1151±



5-1152±





5-1209±

1

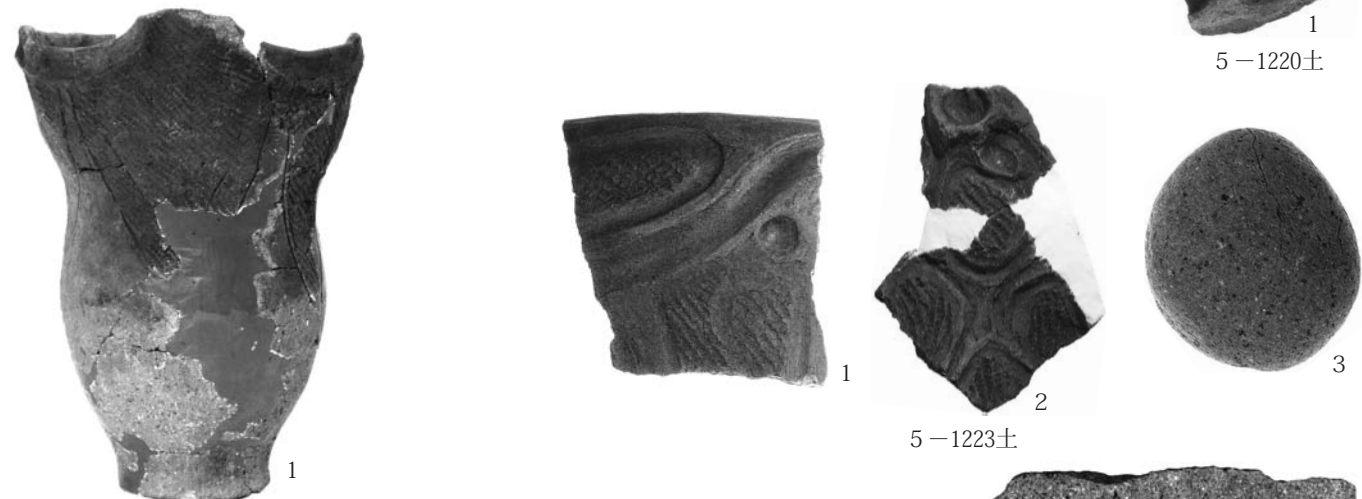
5-1210±

1

5-1211±

1

5-1220±



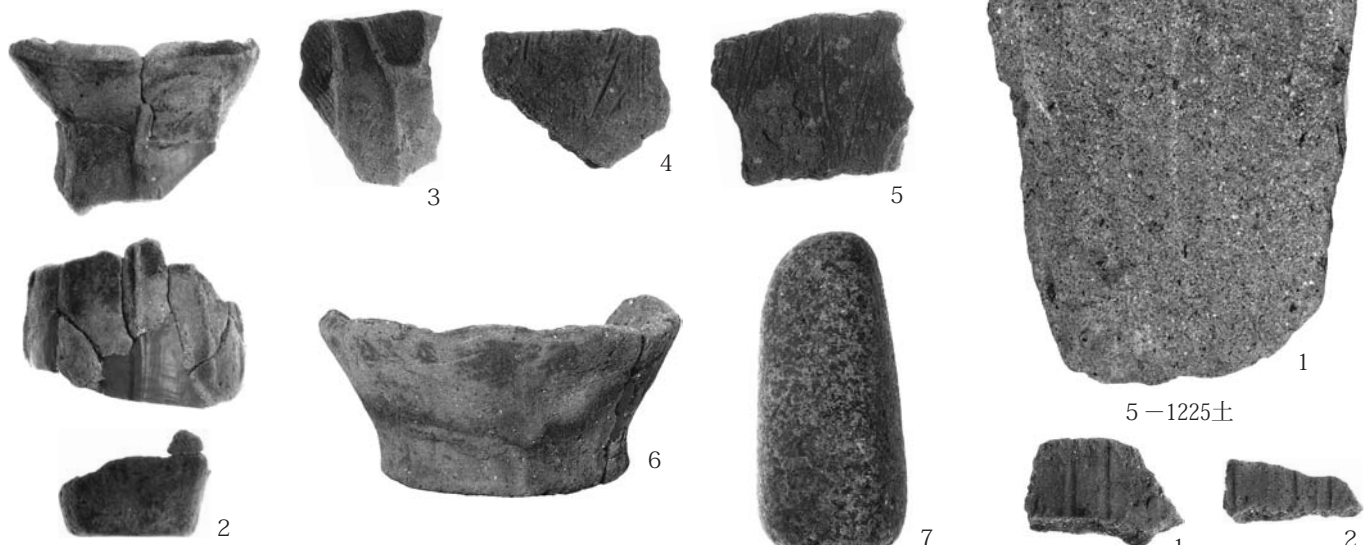
1

1

2

5-1223±

3



3

4

5

1

5-1225±

2

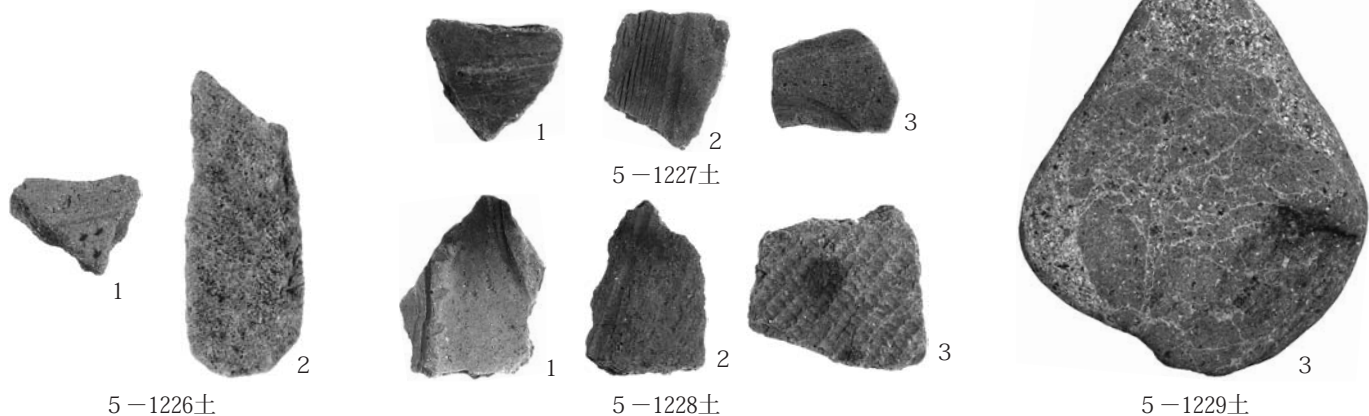
6

5-1224±

7

1

2



1

2

5-1226±

1

2

3

5-1227±

1

2

3

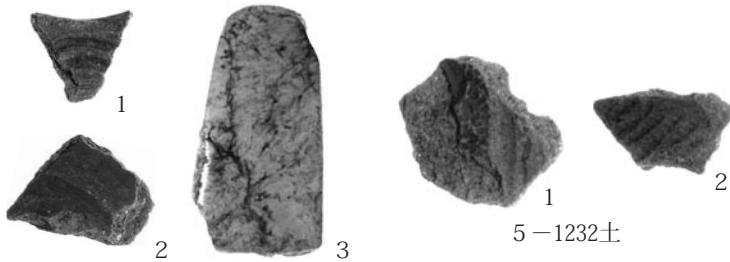
5-1228±

3

5-1229±



5-1230±

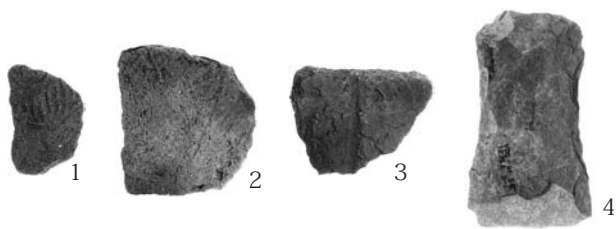


5-1231±

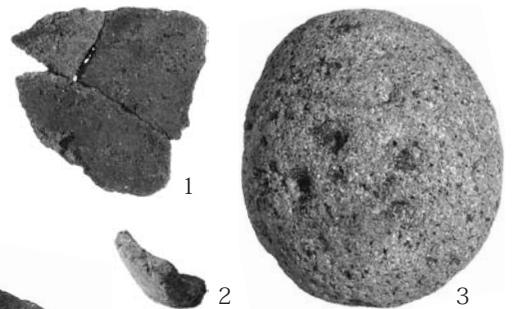
5-1232±



5-1234±



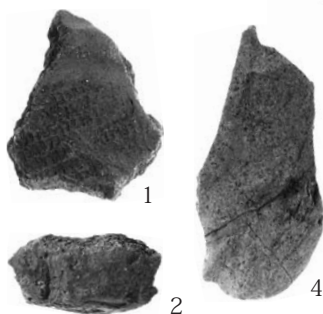
5-1235±



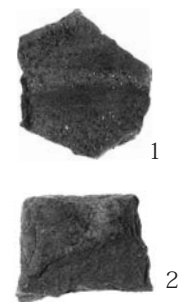
5-1237±



5-1236±



5-1238±



5-1239±



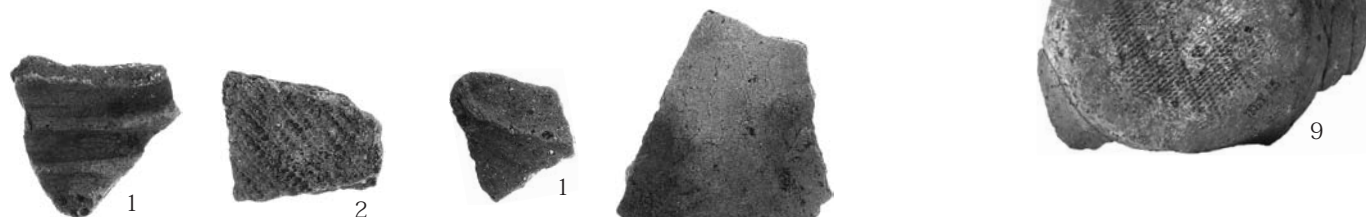
5-1240±



5-1241±



5-1242±



5-1243±



5-1247±



5-1248±



5-1251±

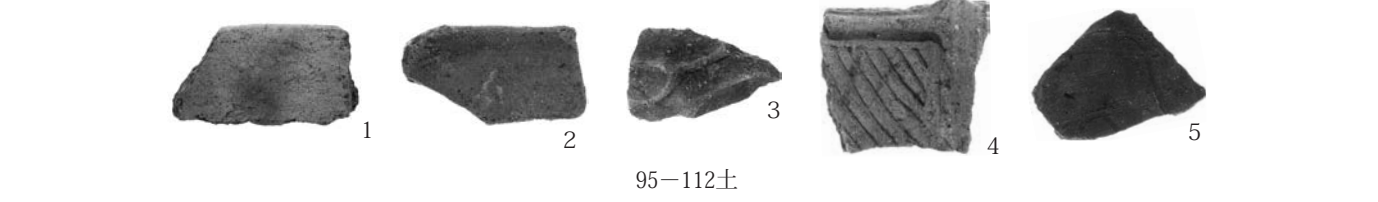
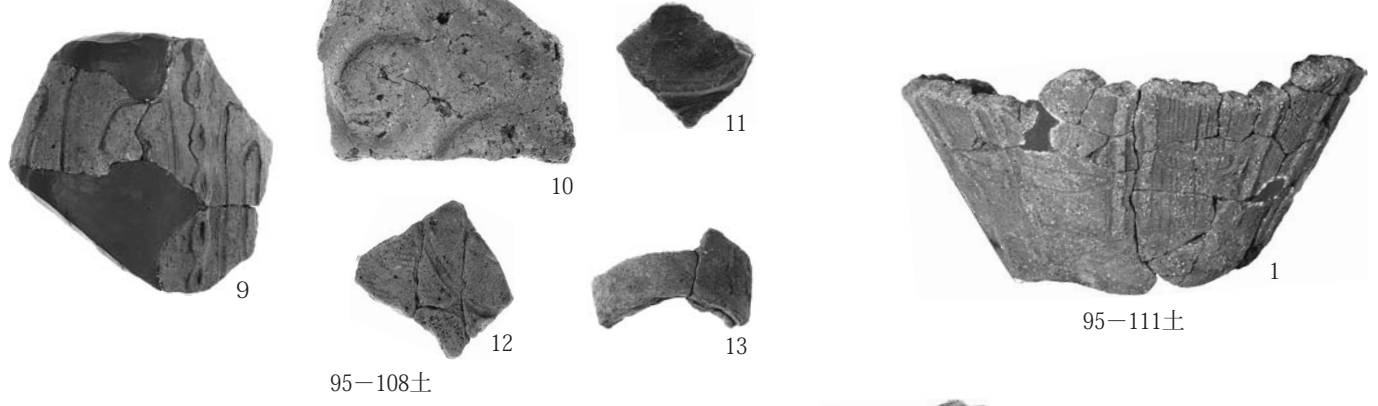
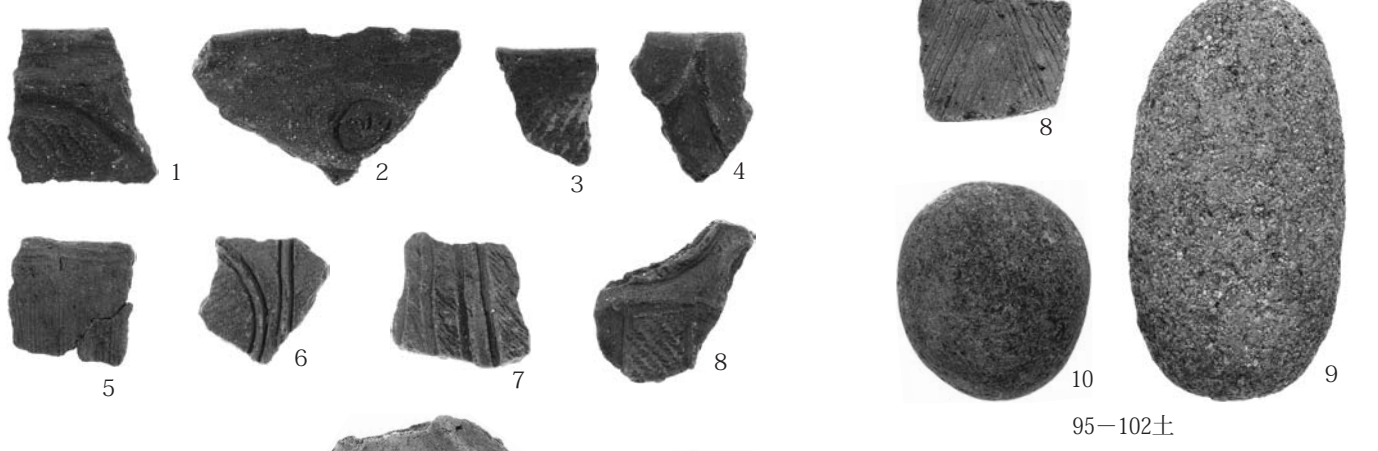
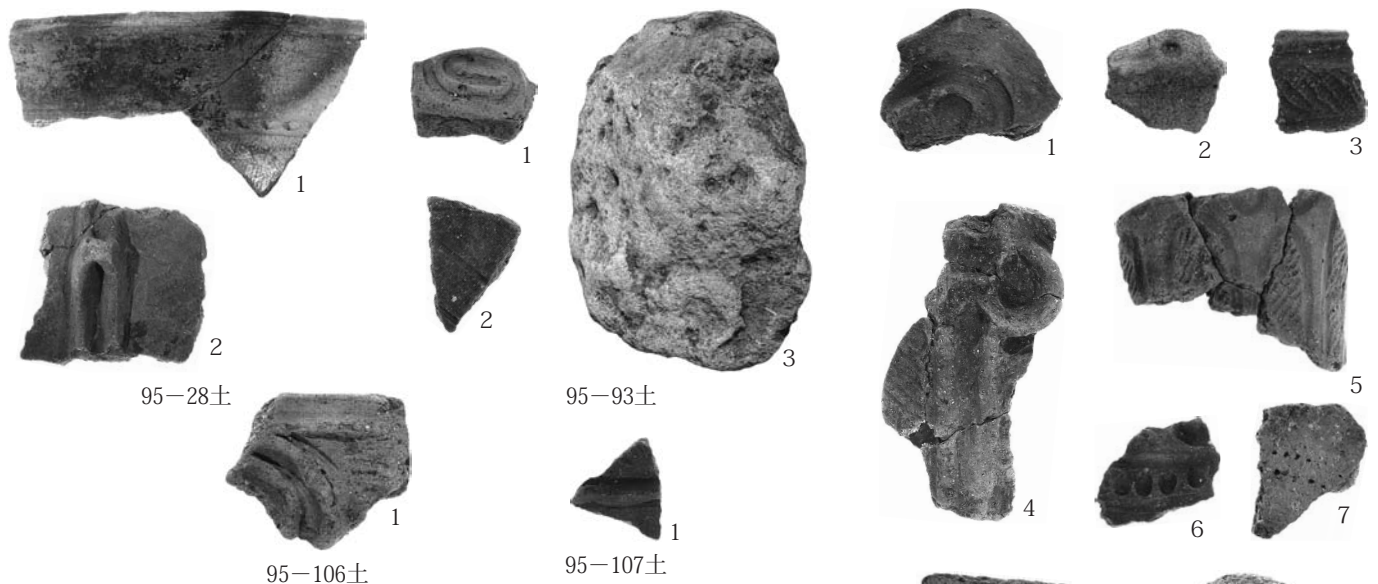


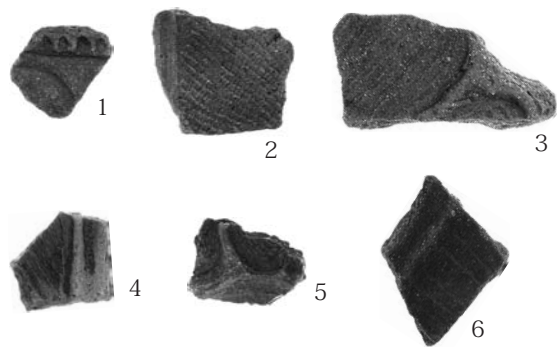
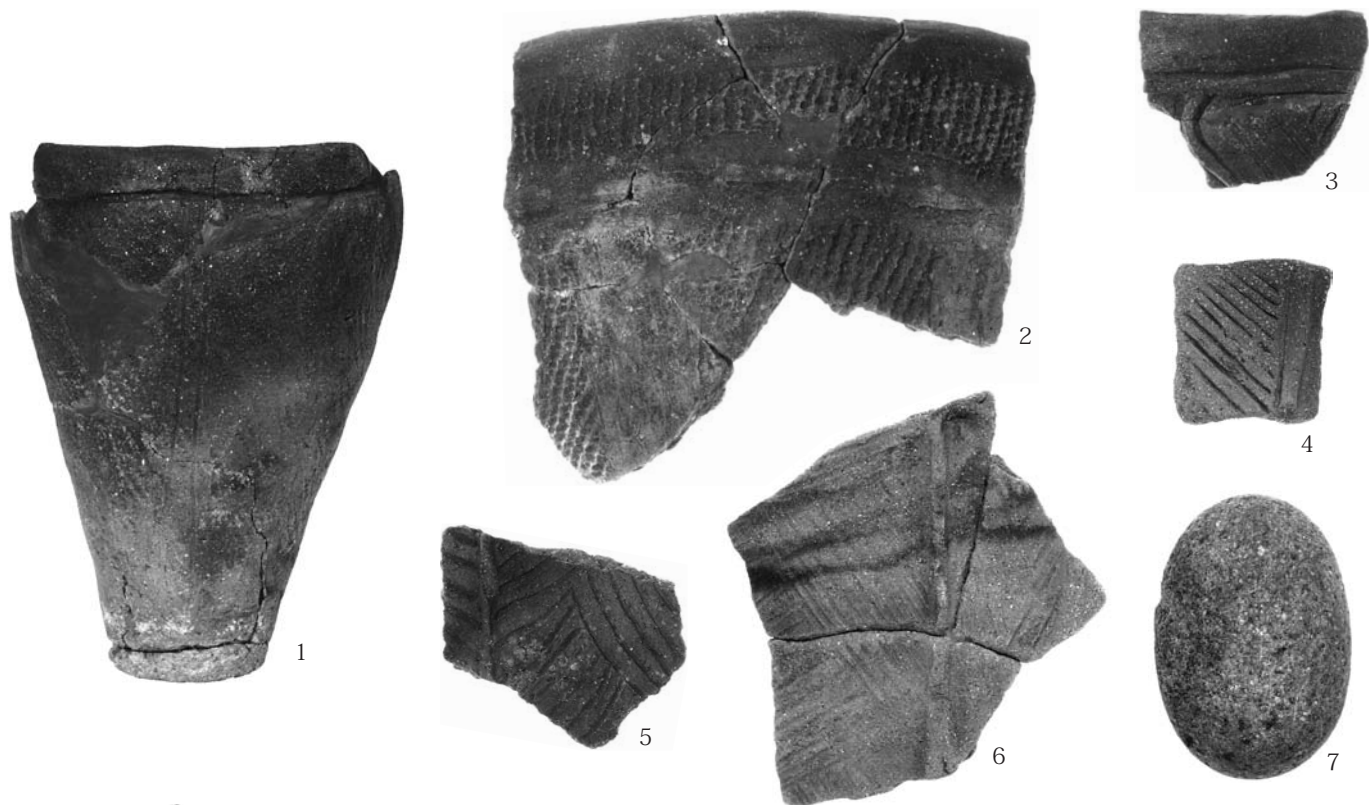
5-1253±



5-1256±







95-113土



95-114土

95-115土

95-117土

95-118土



95-119土

95-121土

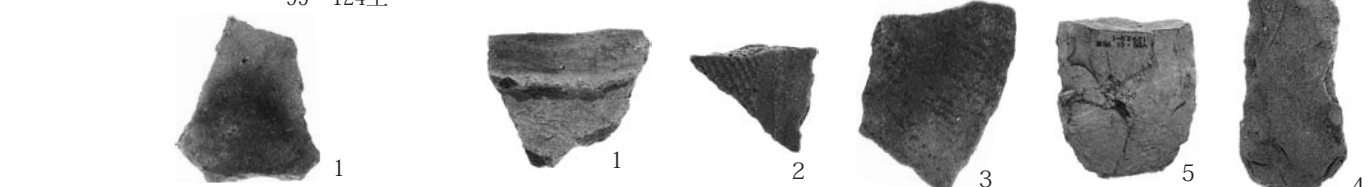


95-122土

95-123土

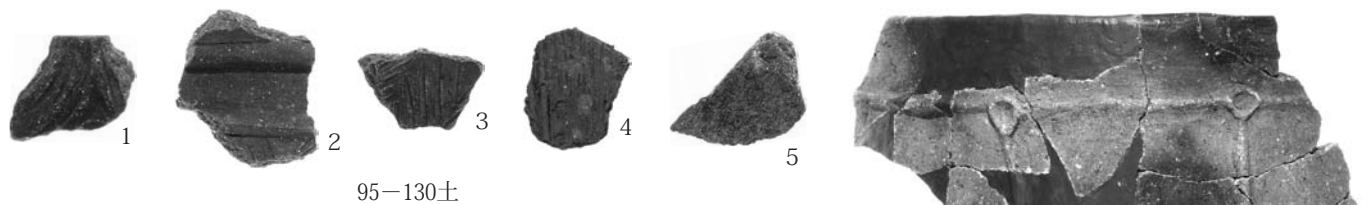


95-124土

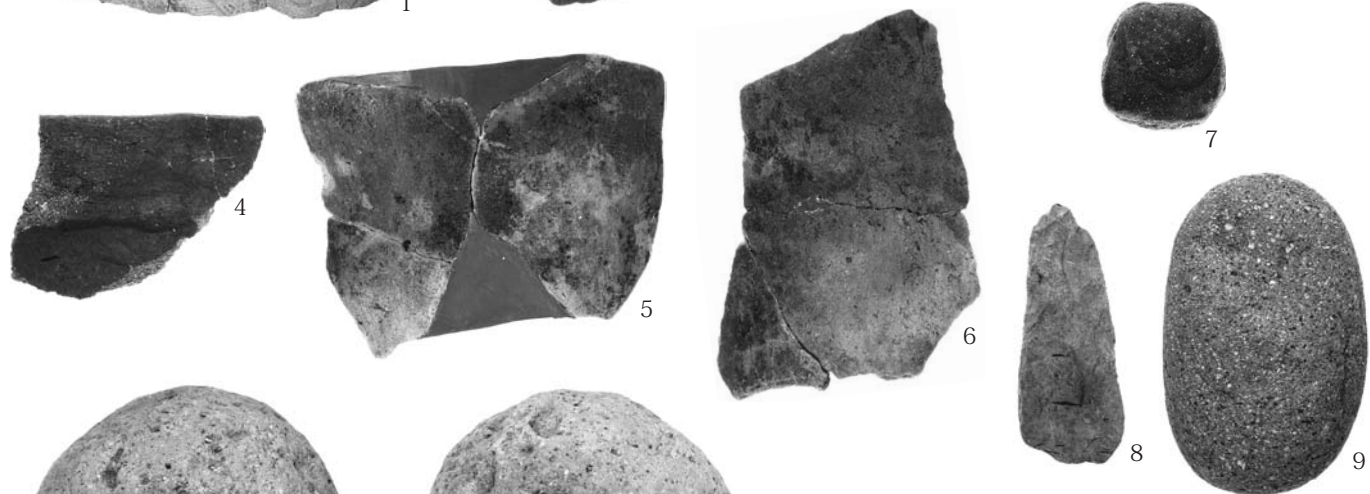
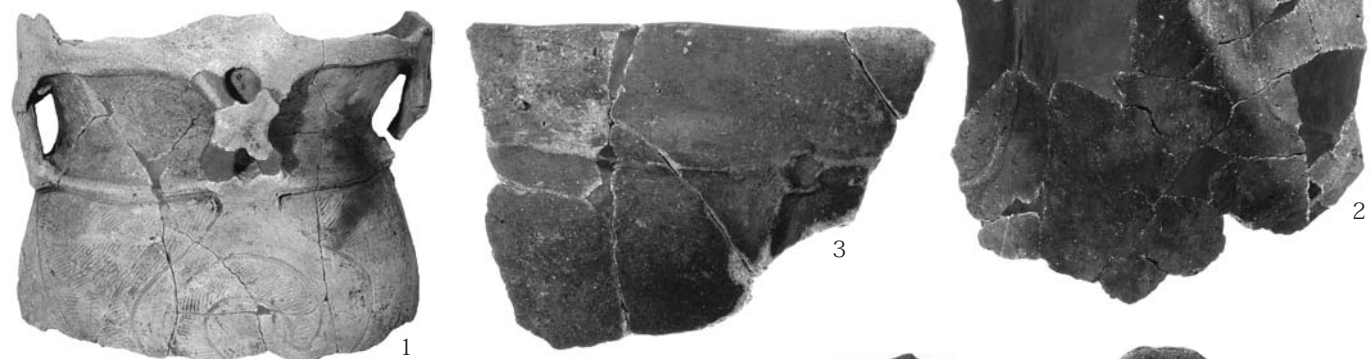


95-127土

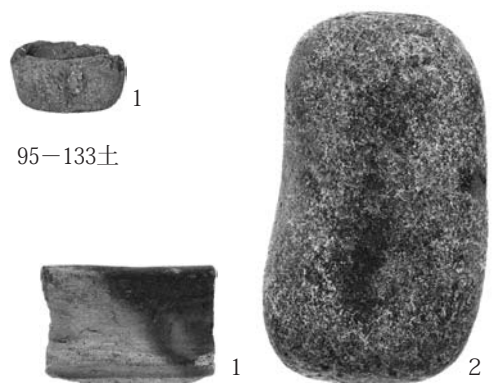
95-129土



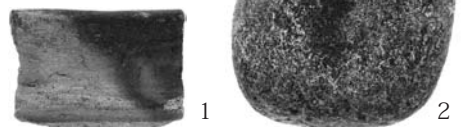
95-130±



95-131±



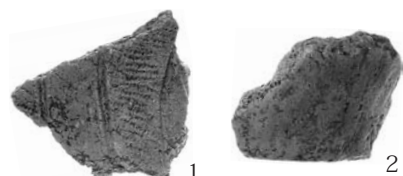
95-133±



95-136±



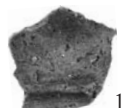
95-137±



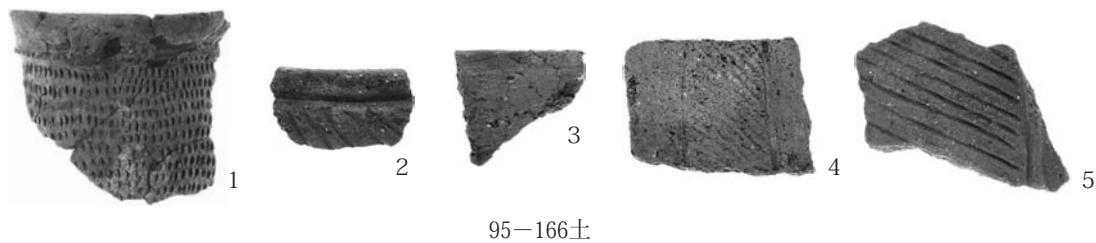
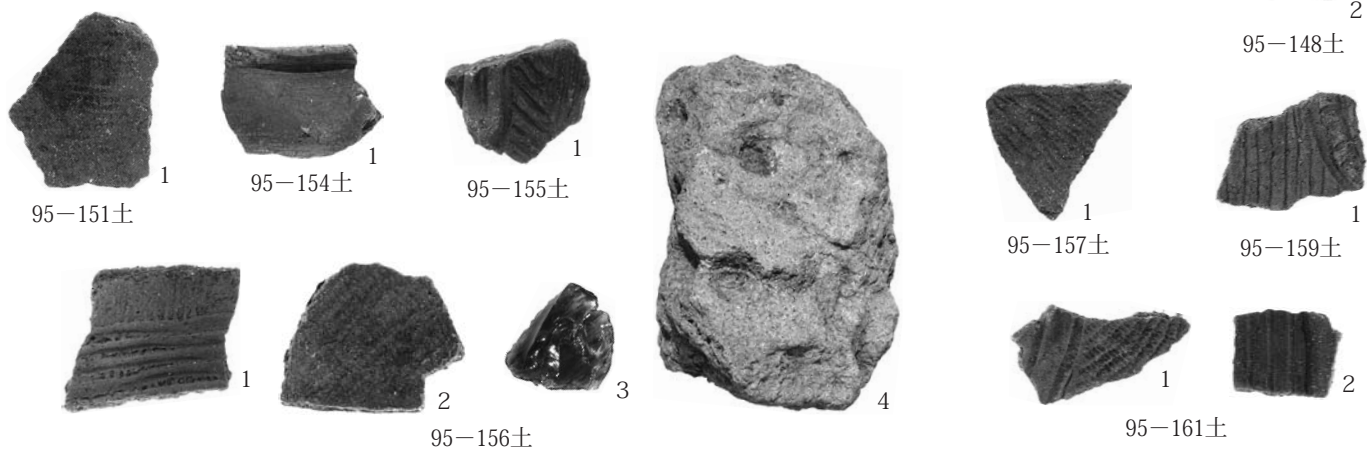
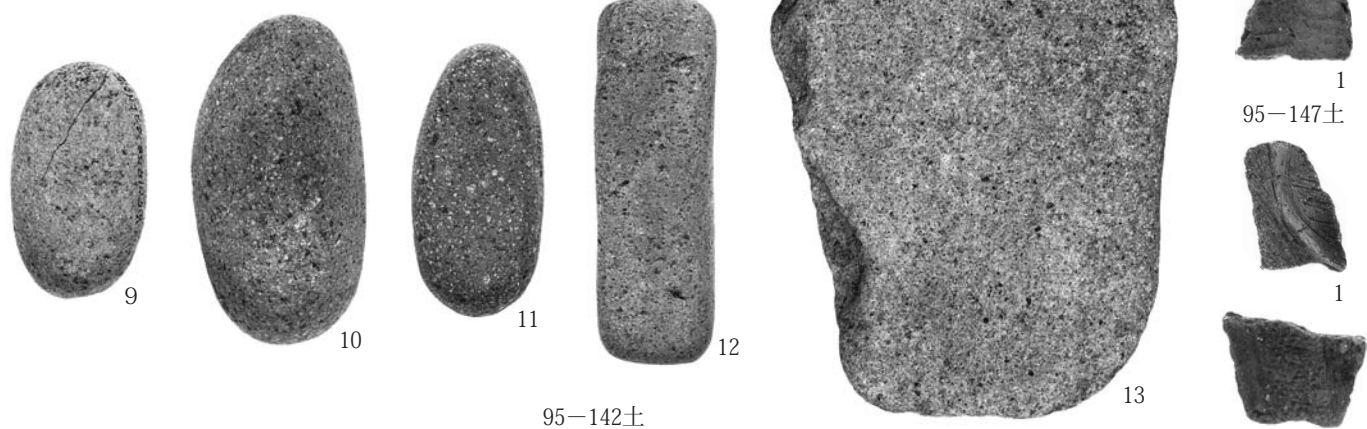
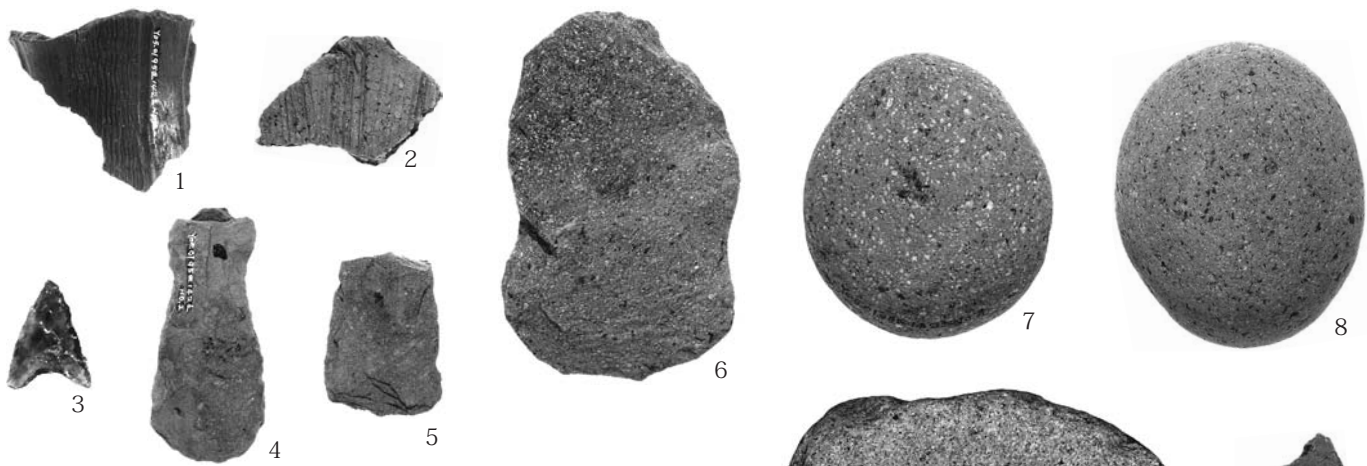
95-138±

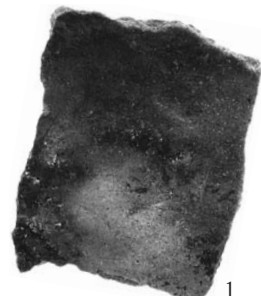
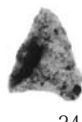
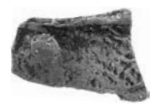
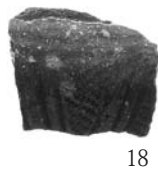
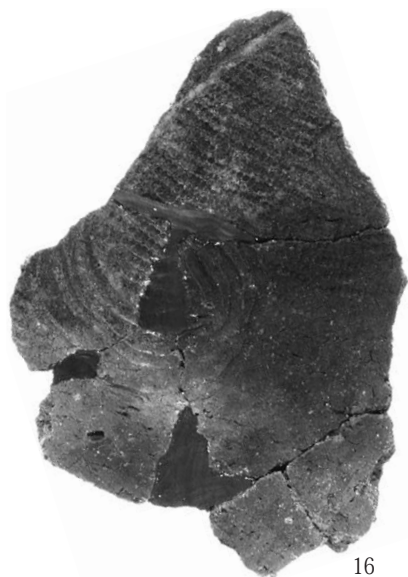
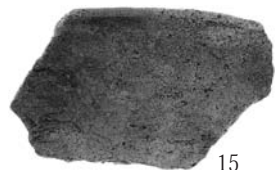
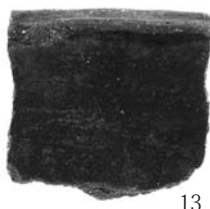


3



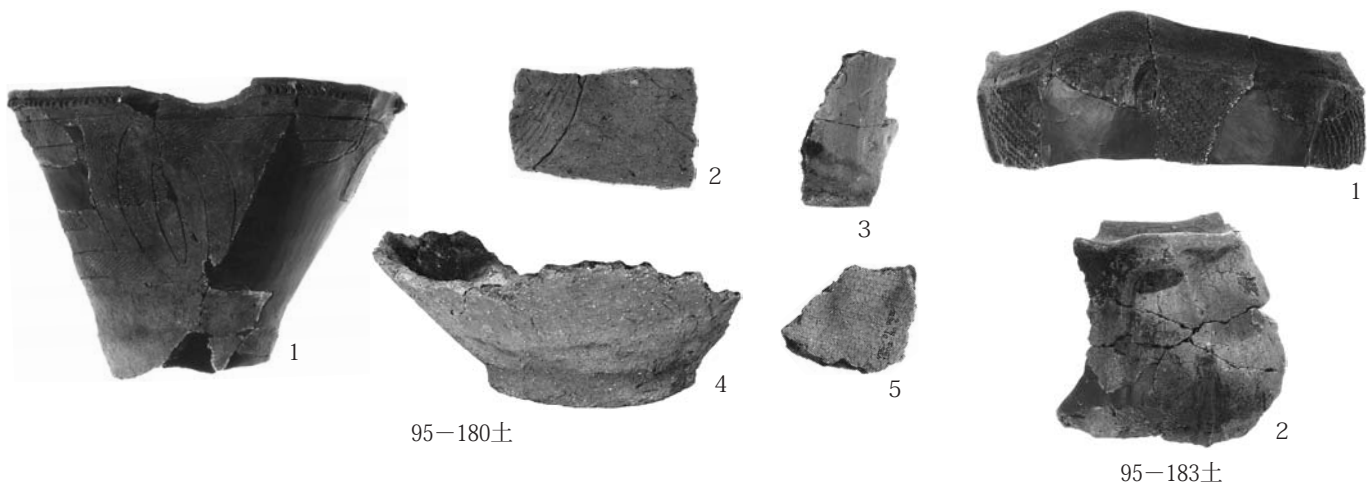
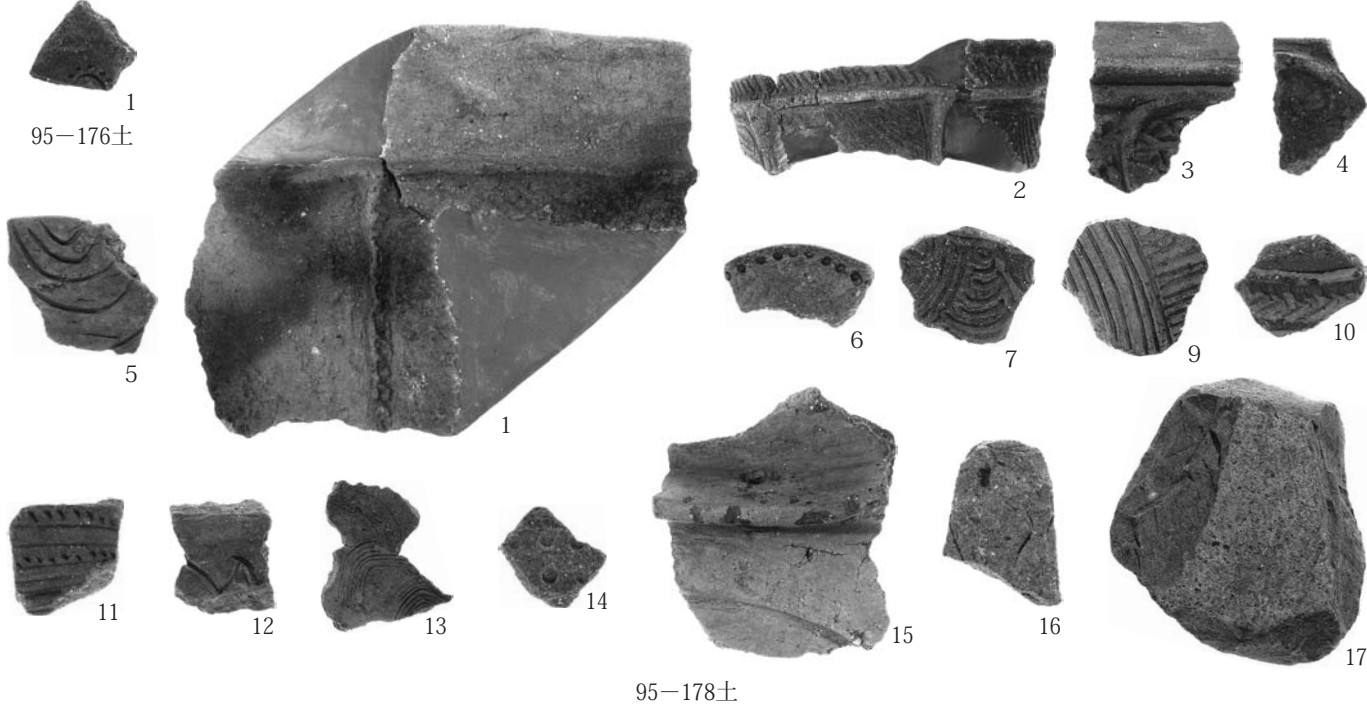
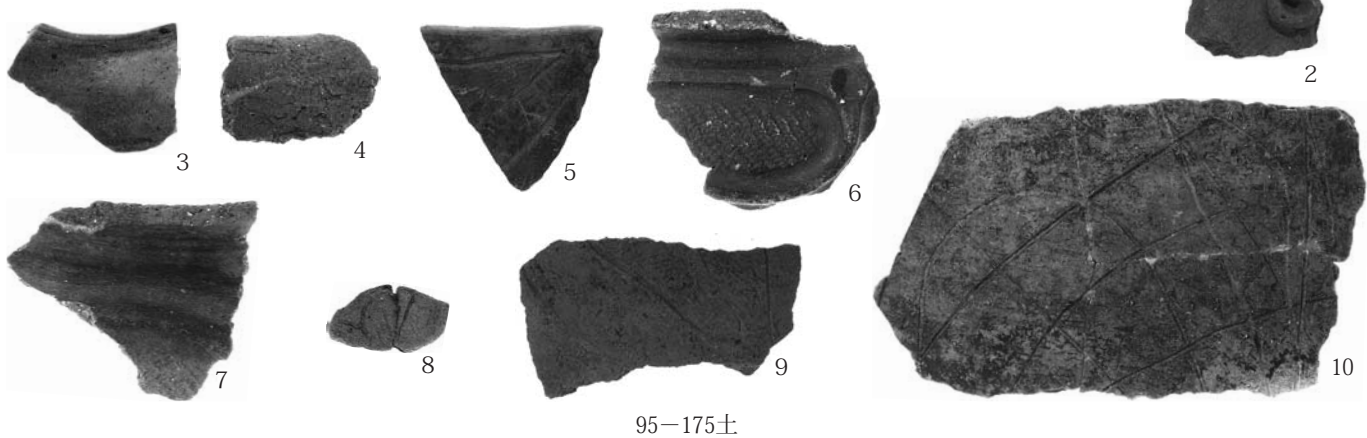
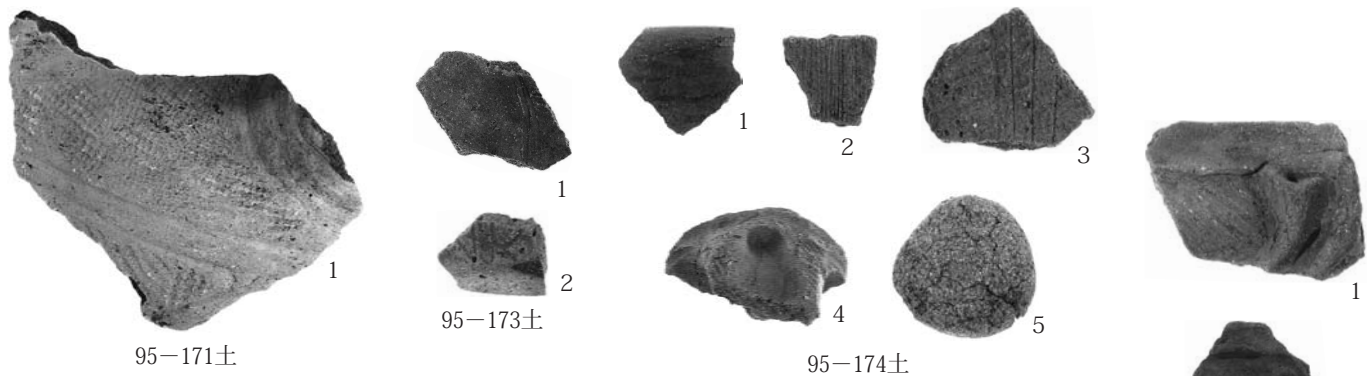
95-139±

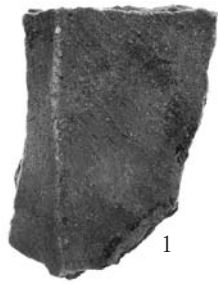




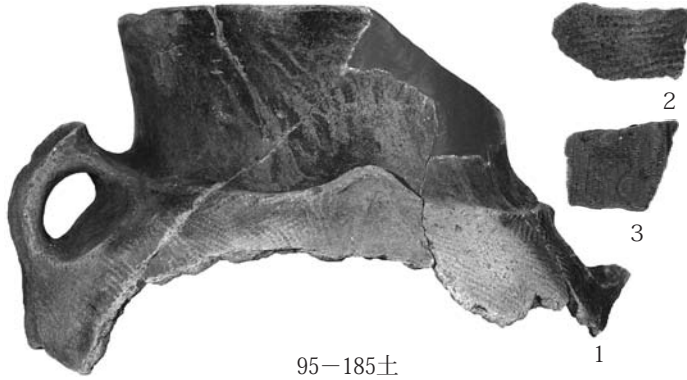
95-168土

95-170土





95-184土



95-185土



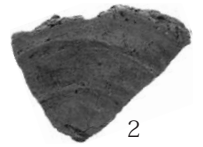
2



3



95-191土



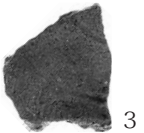
2



1



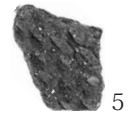
2



3



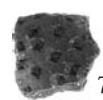
4



5



6

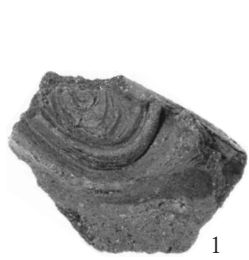


7



8

95-186土



1



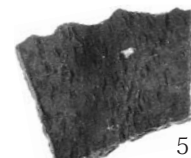
2



3



4



5

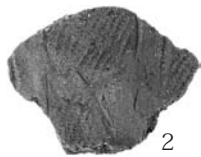


6

95-189土



1



2



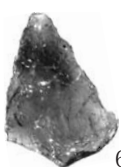
3



4



5



6

95-194土



1



1

95-198土

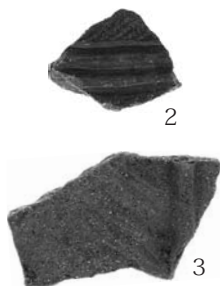


1

95-201土



1

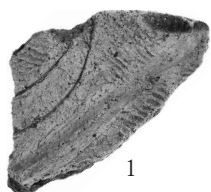


2

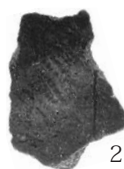


3

95-196土



1

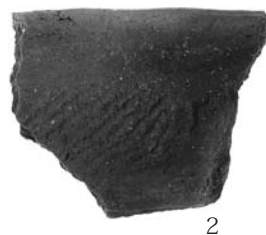


2

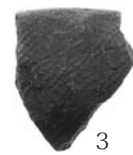


3

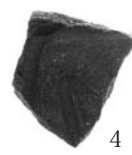
95-197土



2



3



4



5



6

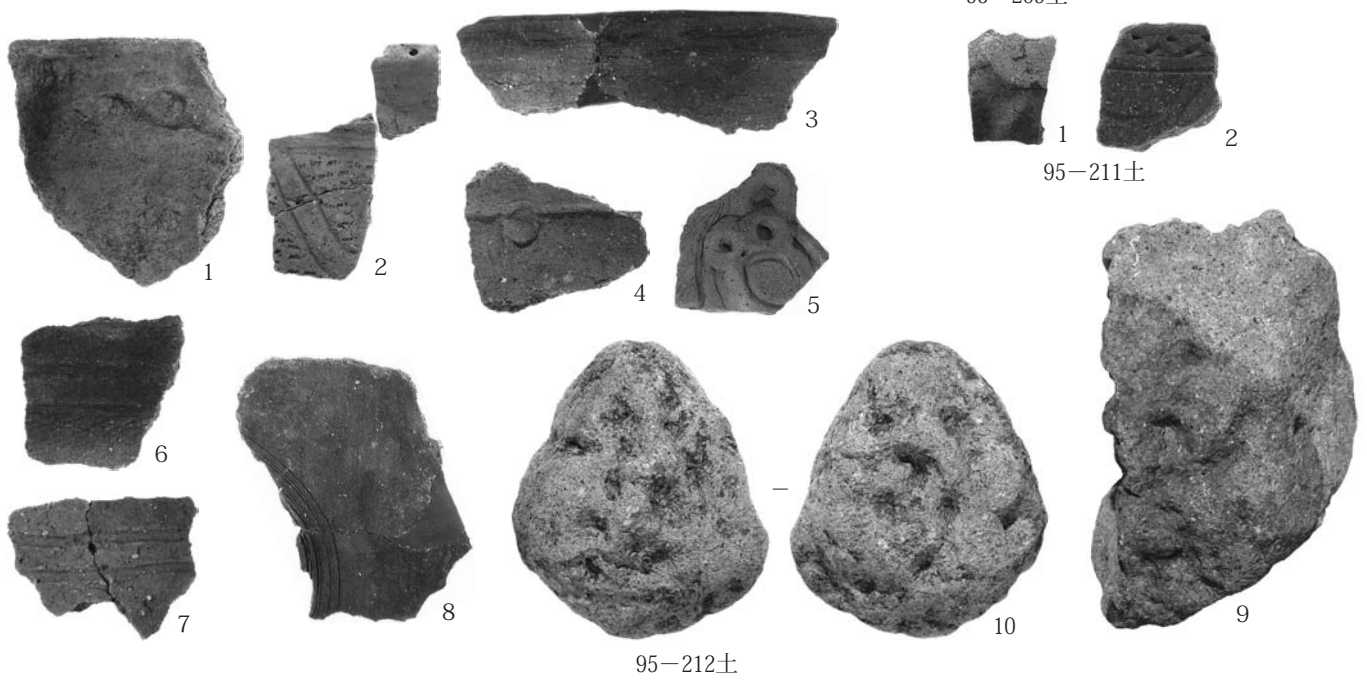
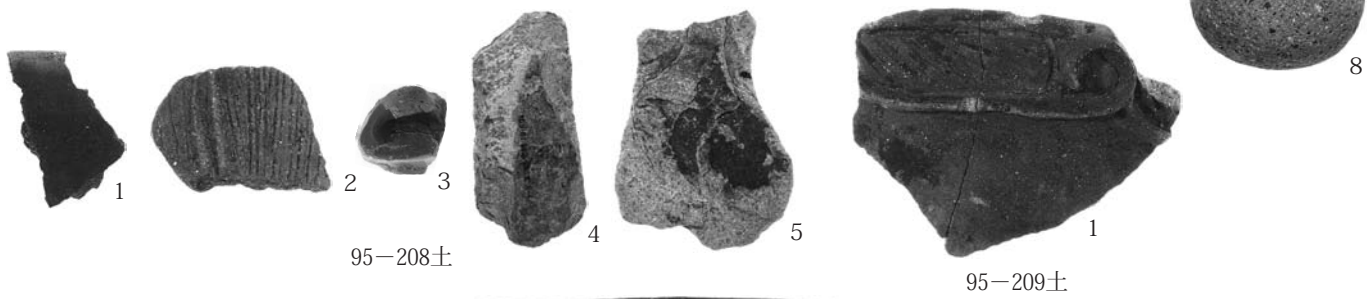
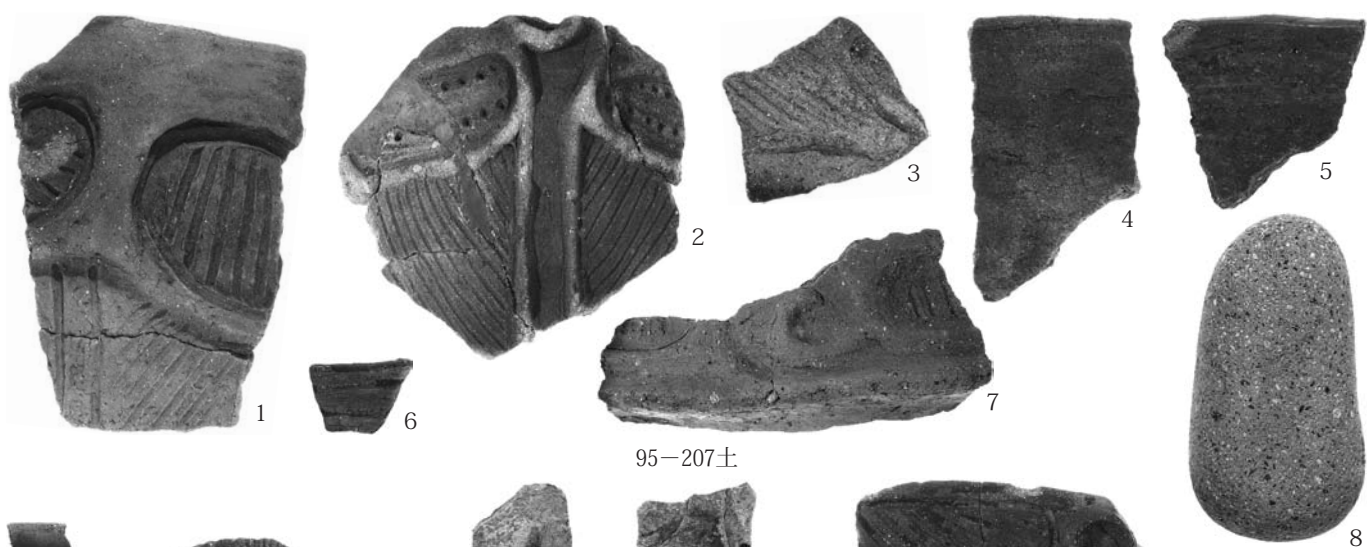
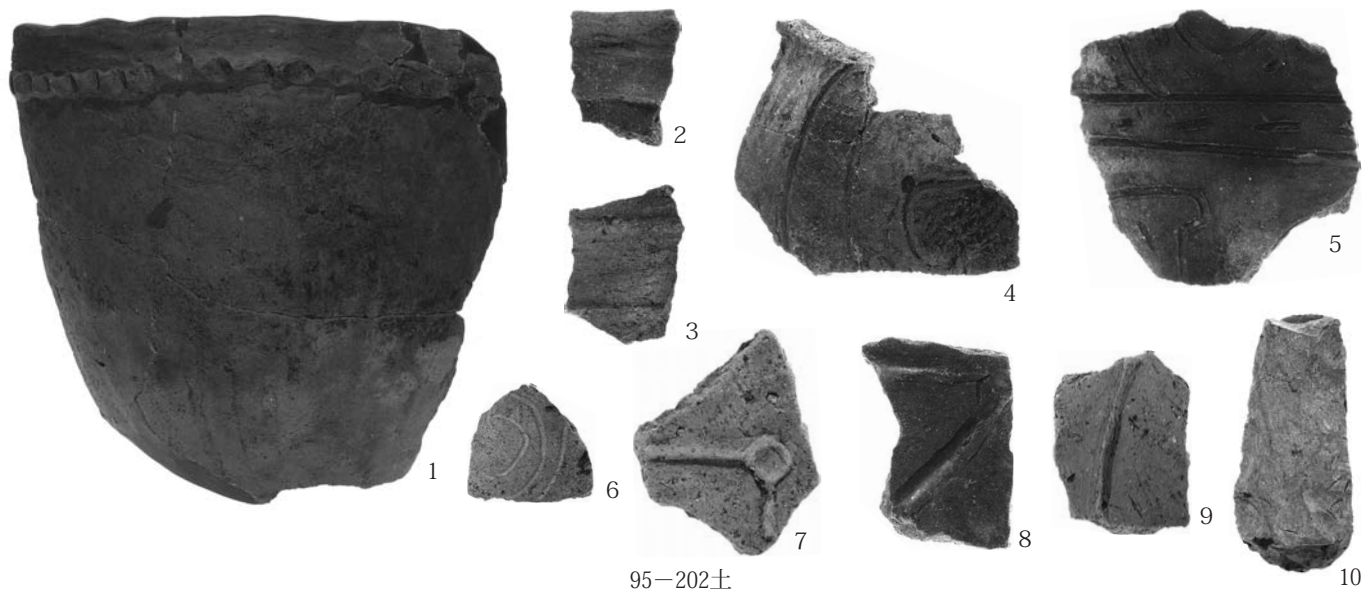


7



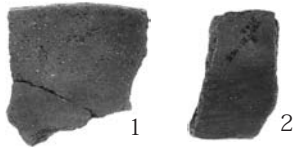
8

95-200土

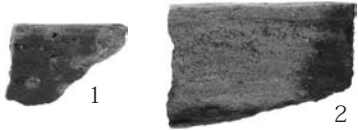
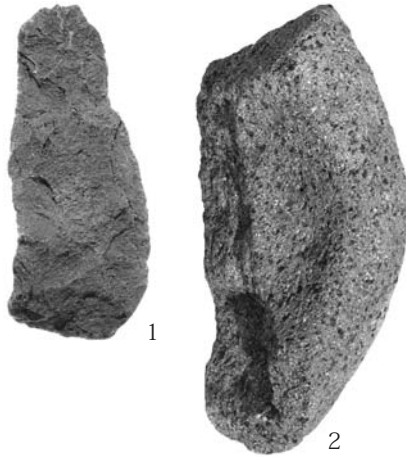




PL.240



95-214±



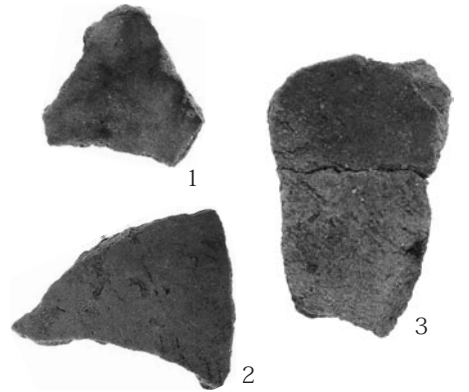
95-215±



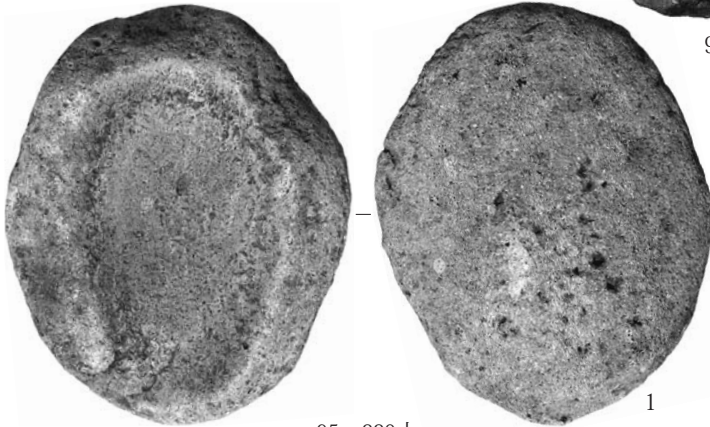
95-216±



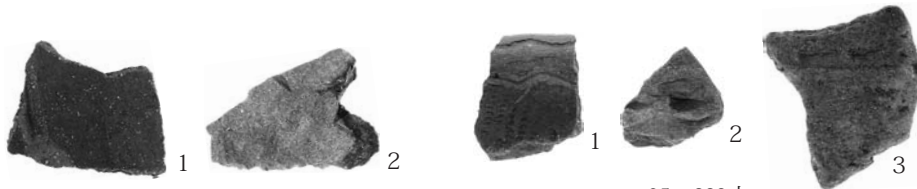
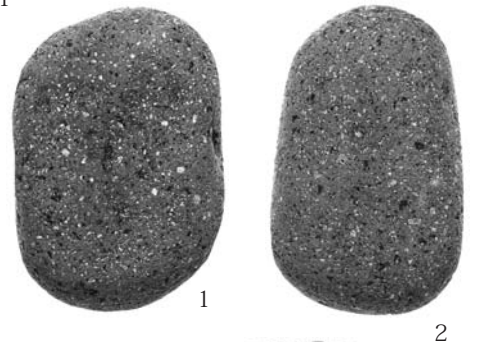
95-217±



95-218±



95-220±



95-222±

95-223±



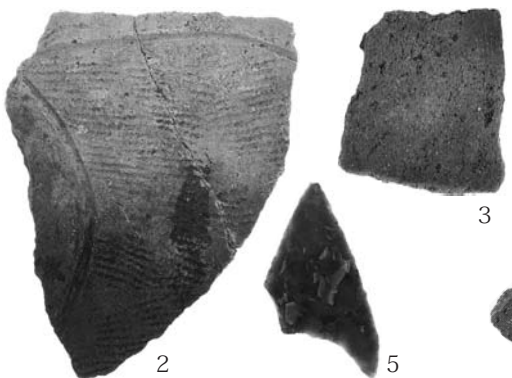
95-230±



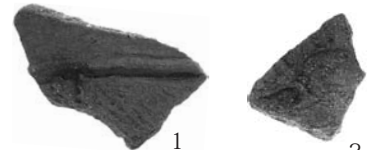
95-224±



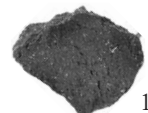
95-228±



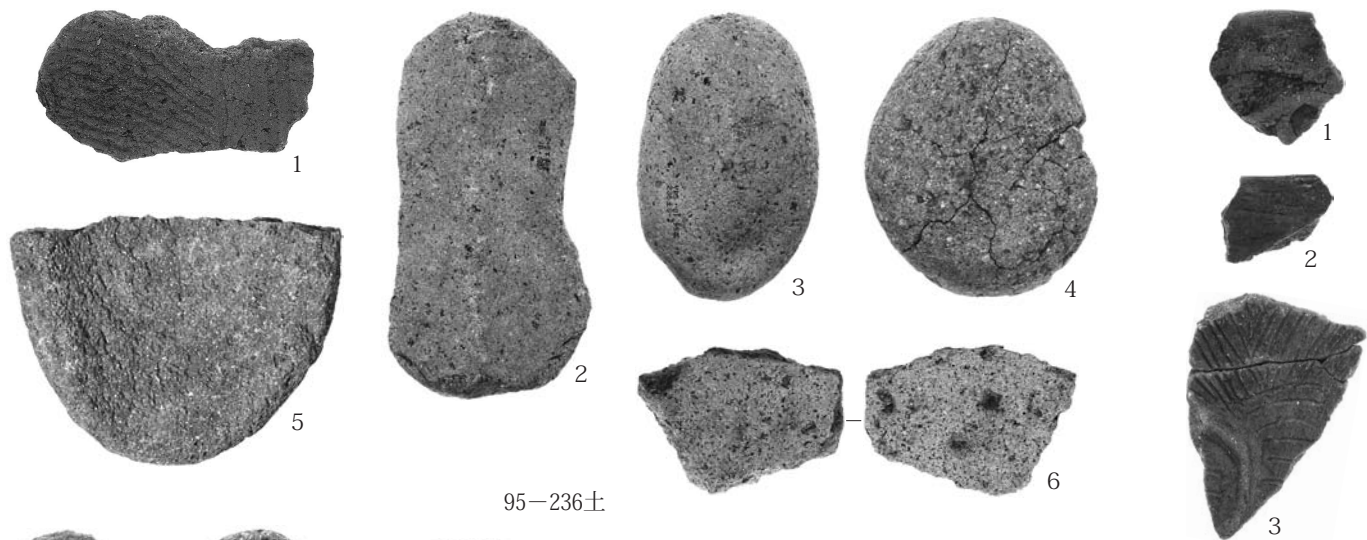
95-232±



95-233±



95-235±



95-236±

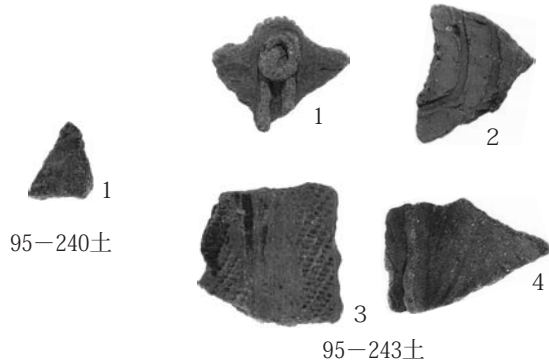


95-237±

95-238±

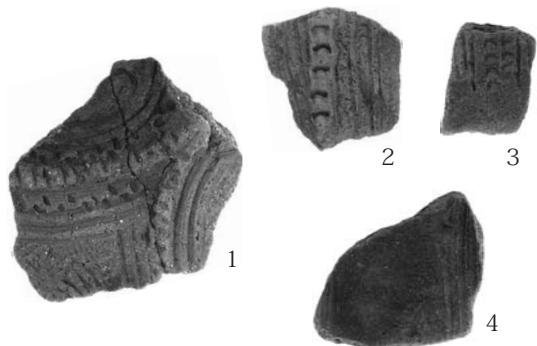


95-239±

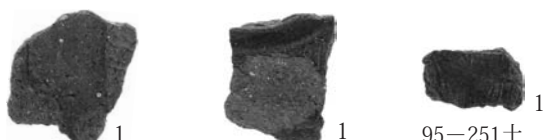


95-240±

95-243±



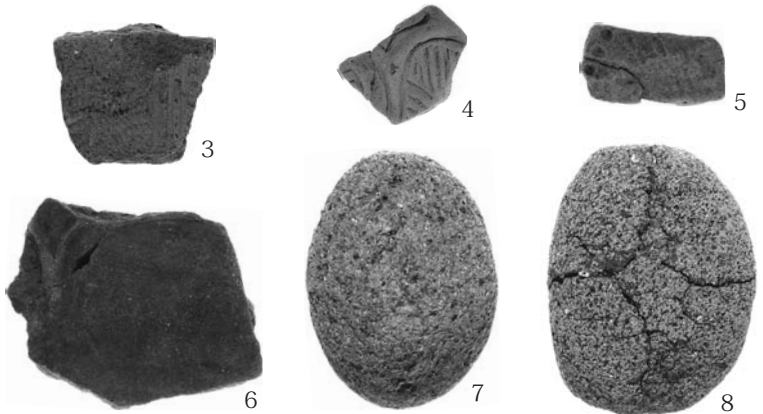
95-244±



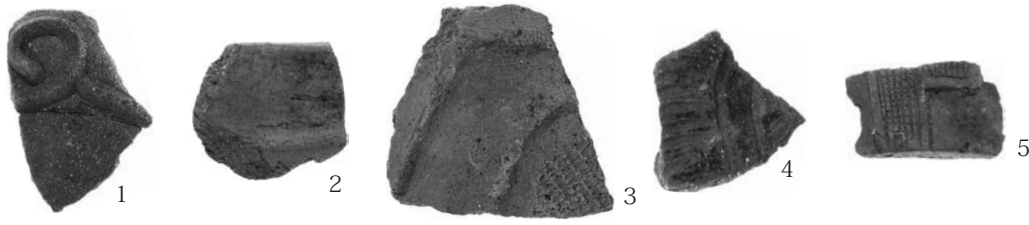
95-247±

95-248±

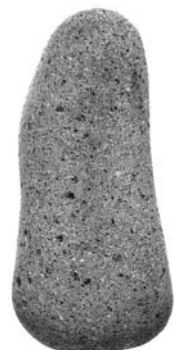
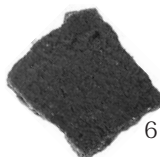
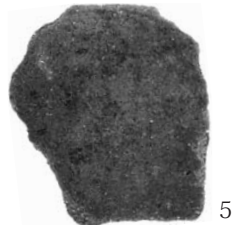
95-251±



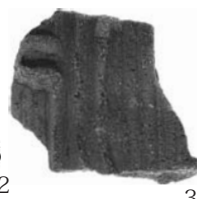
95-246±



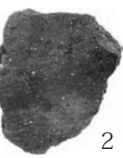
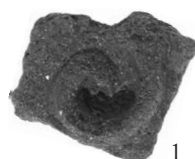
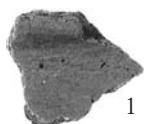
95-252土



95-255土



95-257土



95-258土

95-269土

95-278土



95-263土

95-261土

95-270土



95-267土



95-275土



95-268土



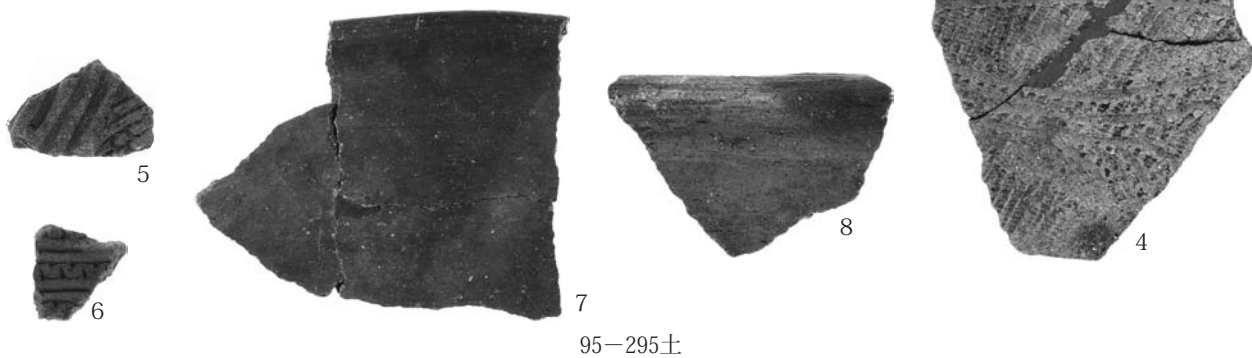
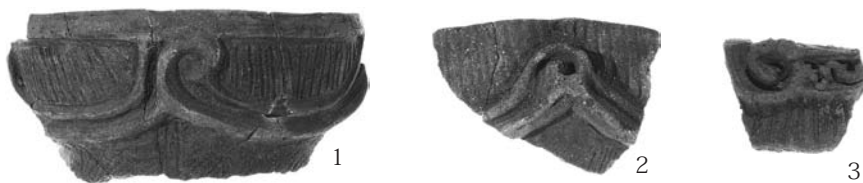
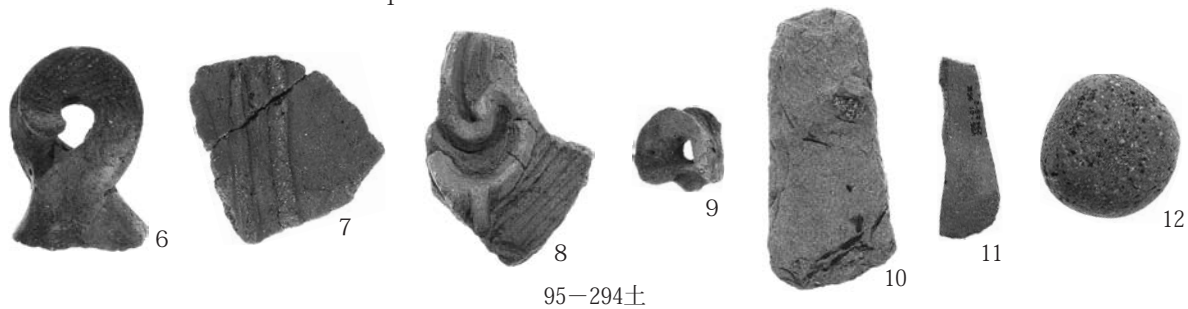
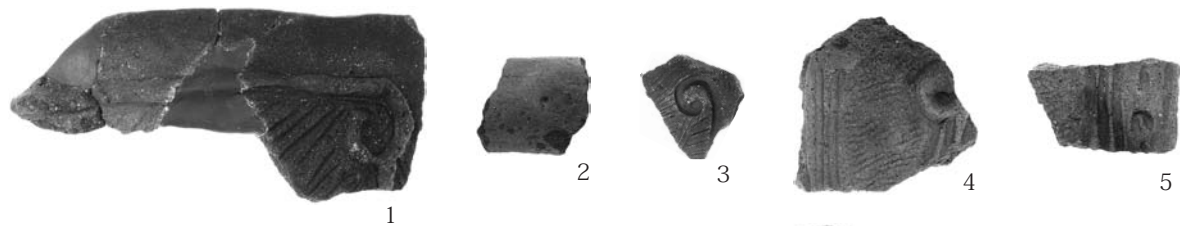
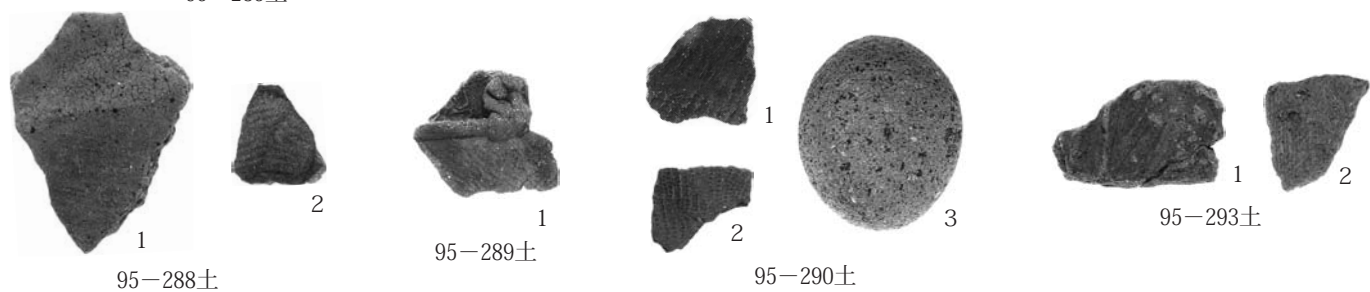
95-279土

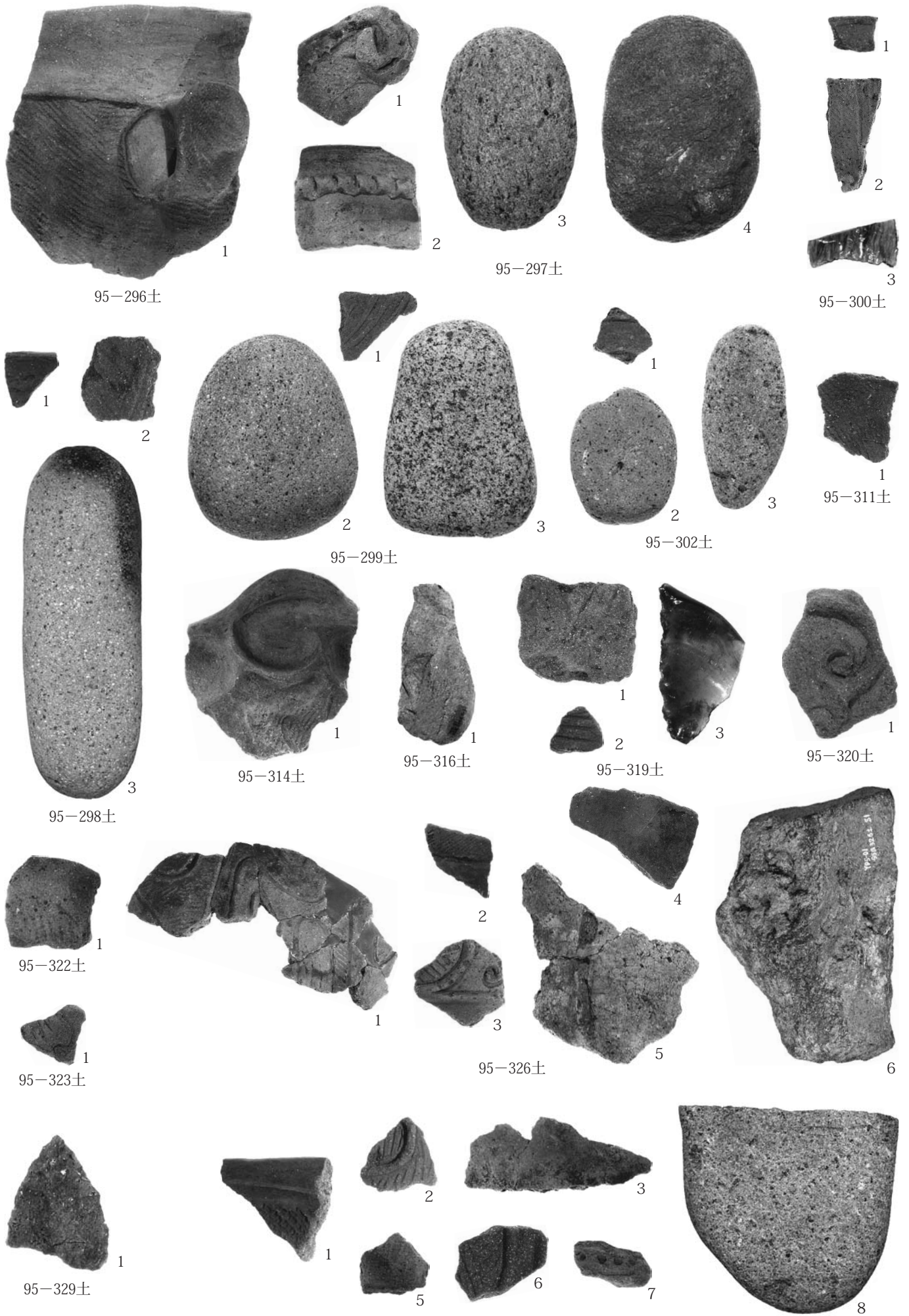


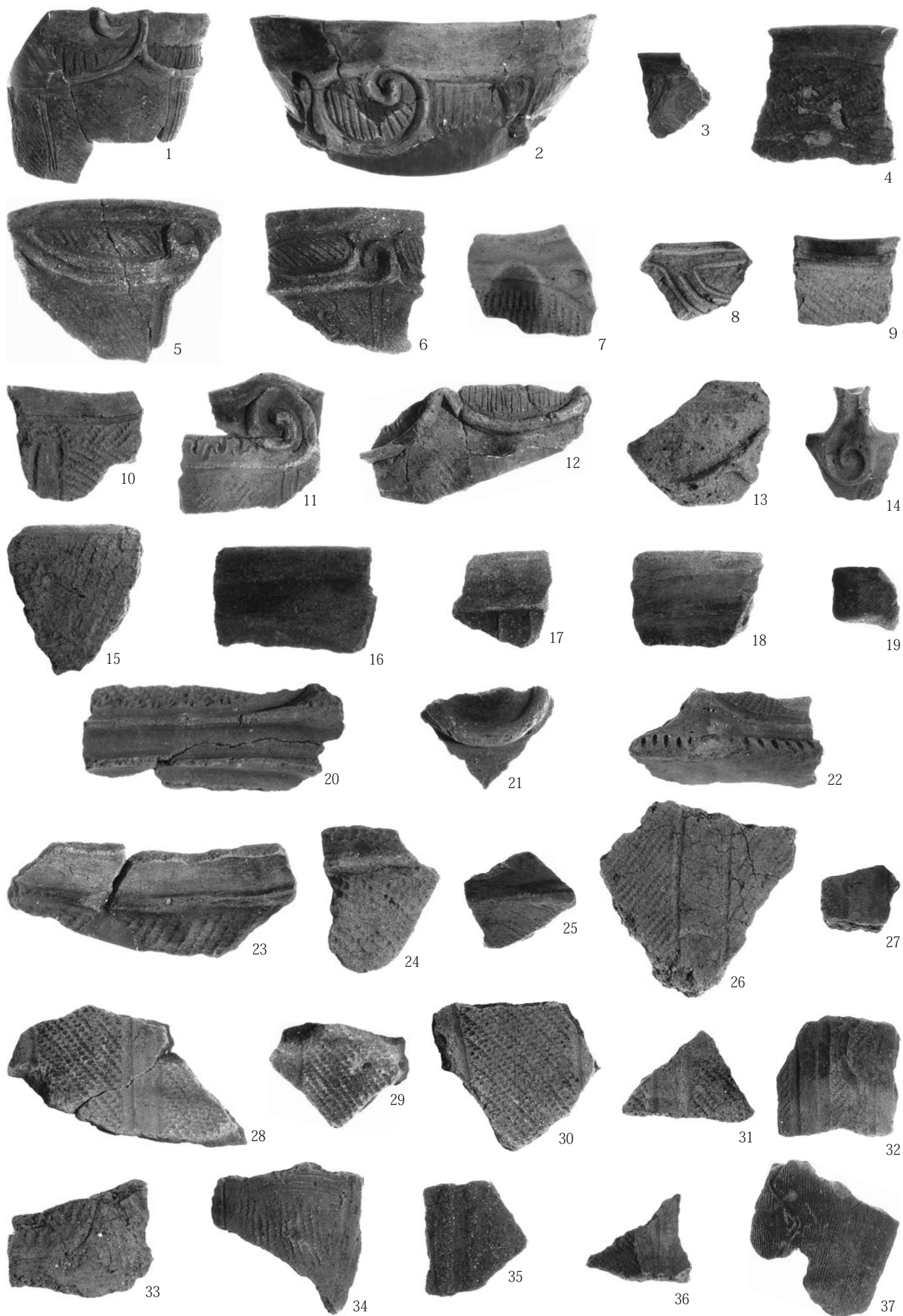
95-280土



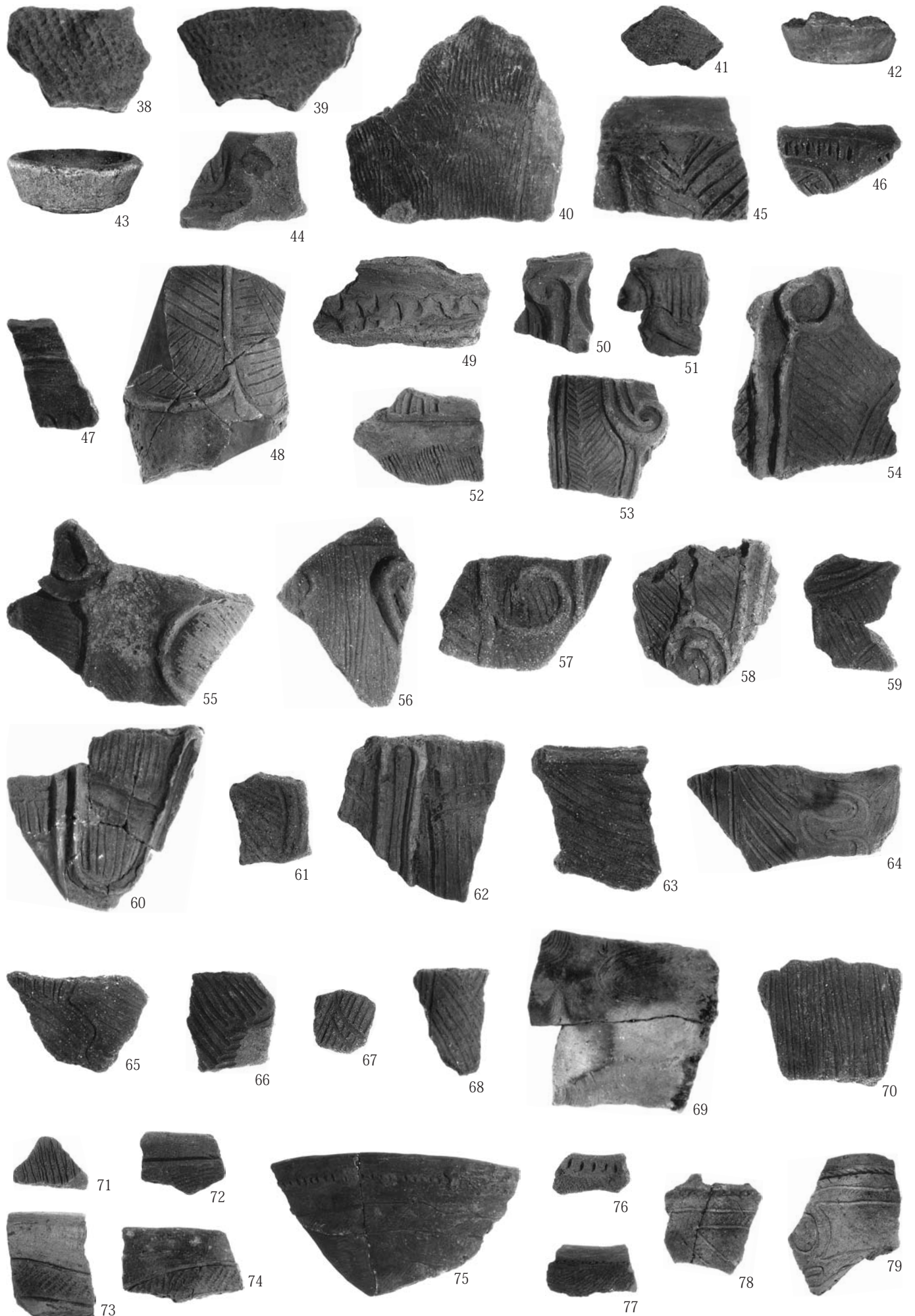
95-280土

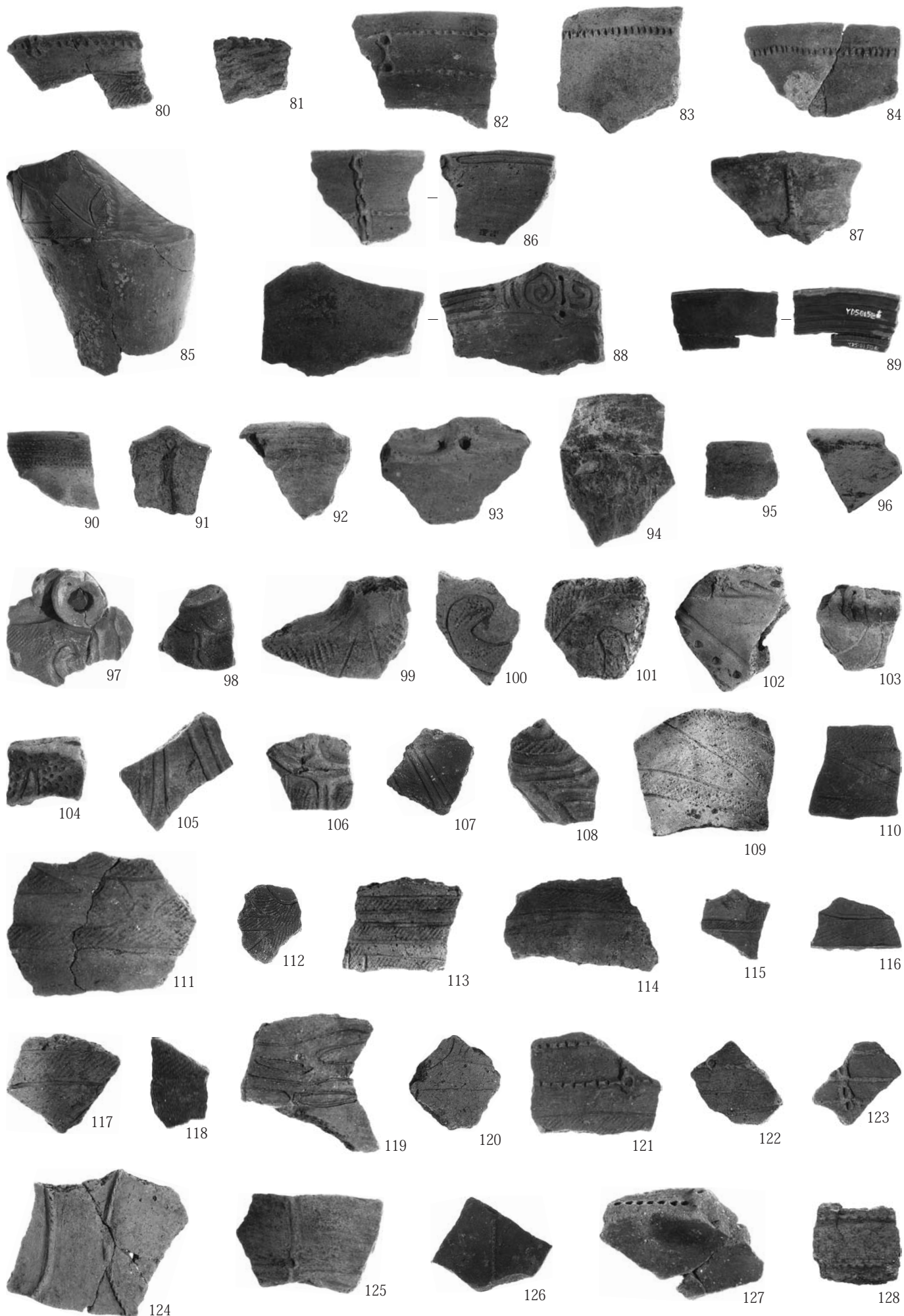






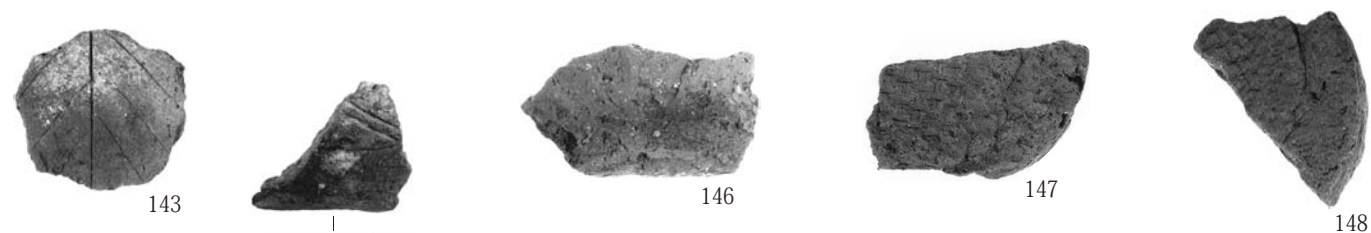
5区 遺構外出土土器





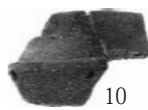
5区 遺構外出土土器



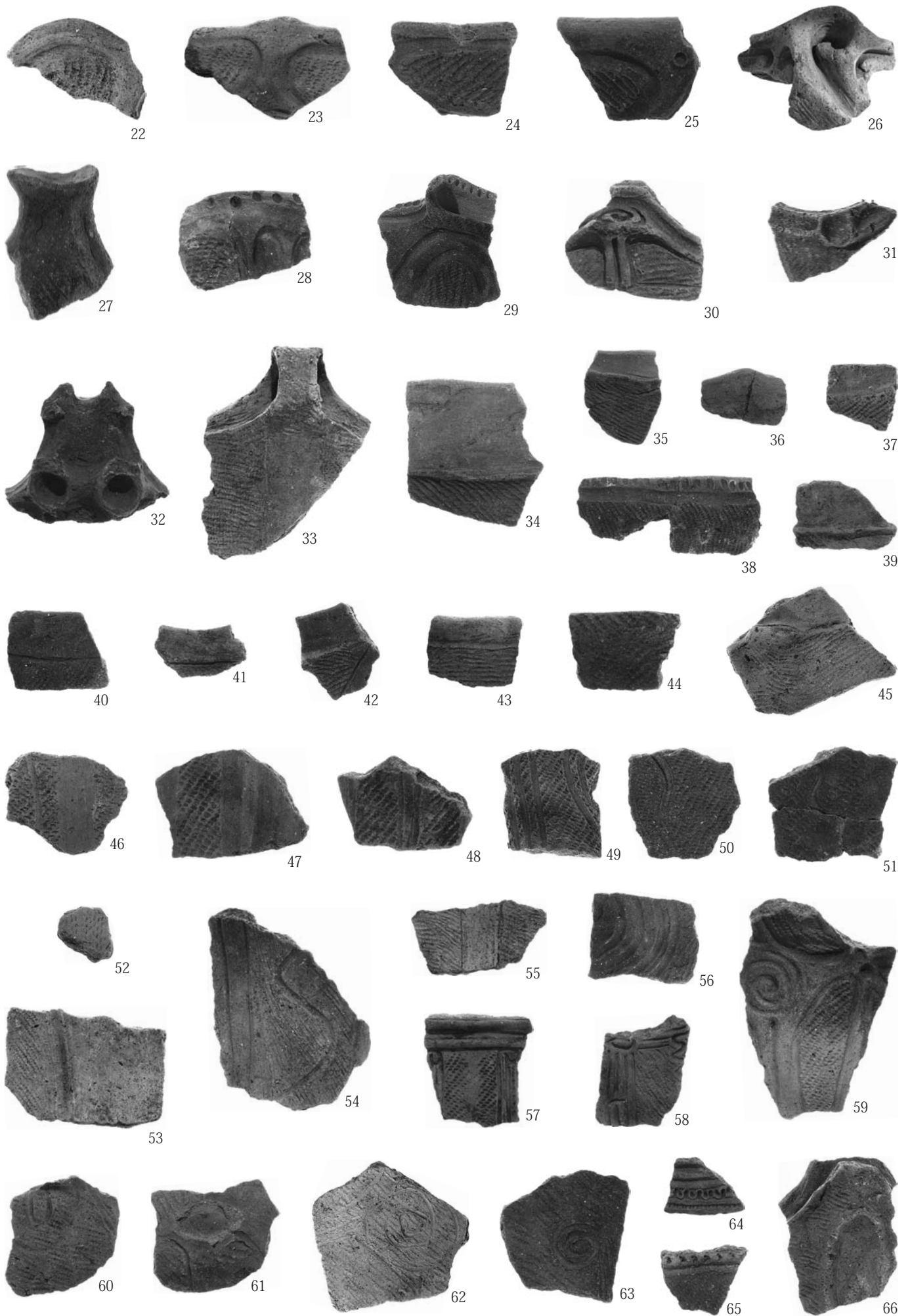


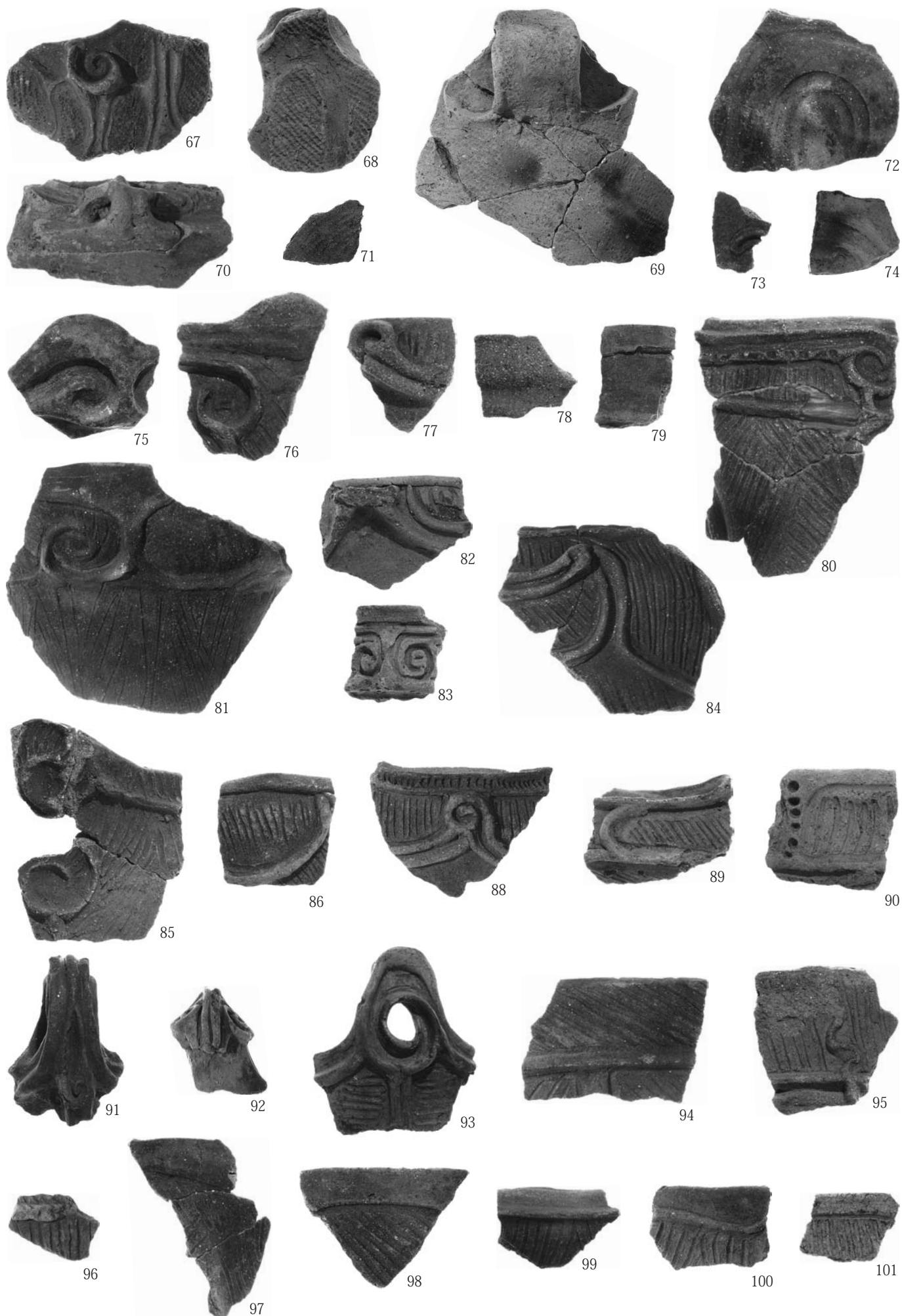
5区 遺構外出土土器

19区 遺構外出土土器

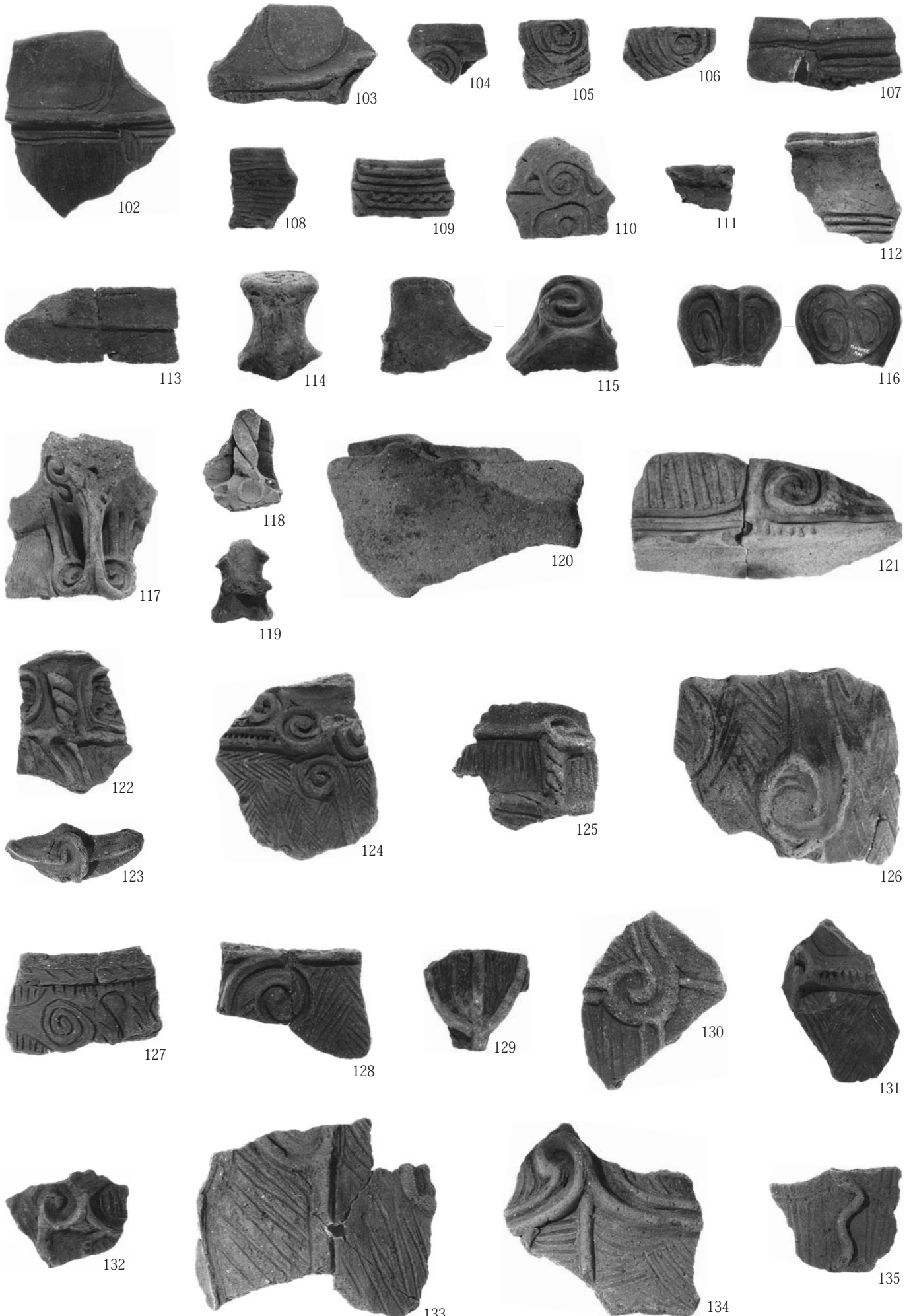


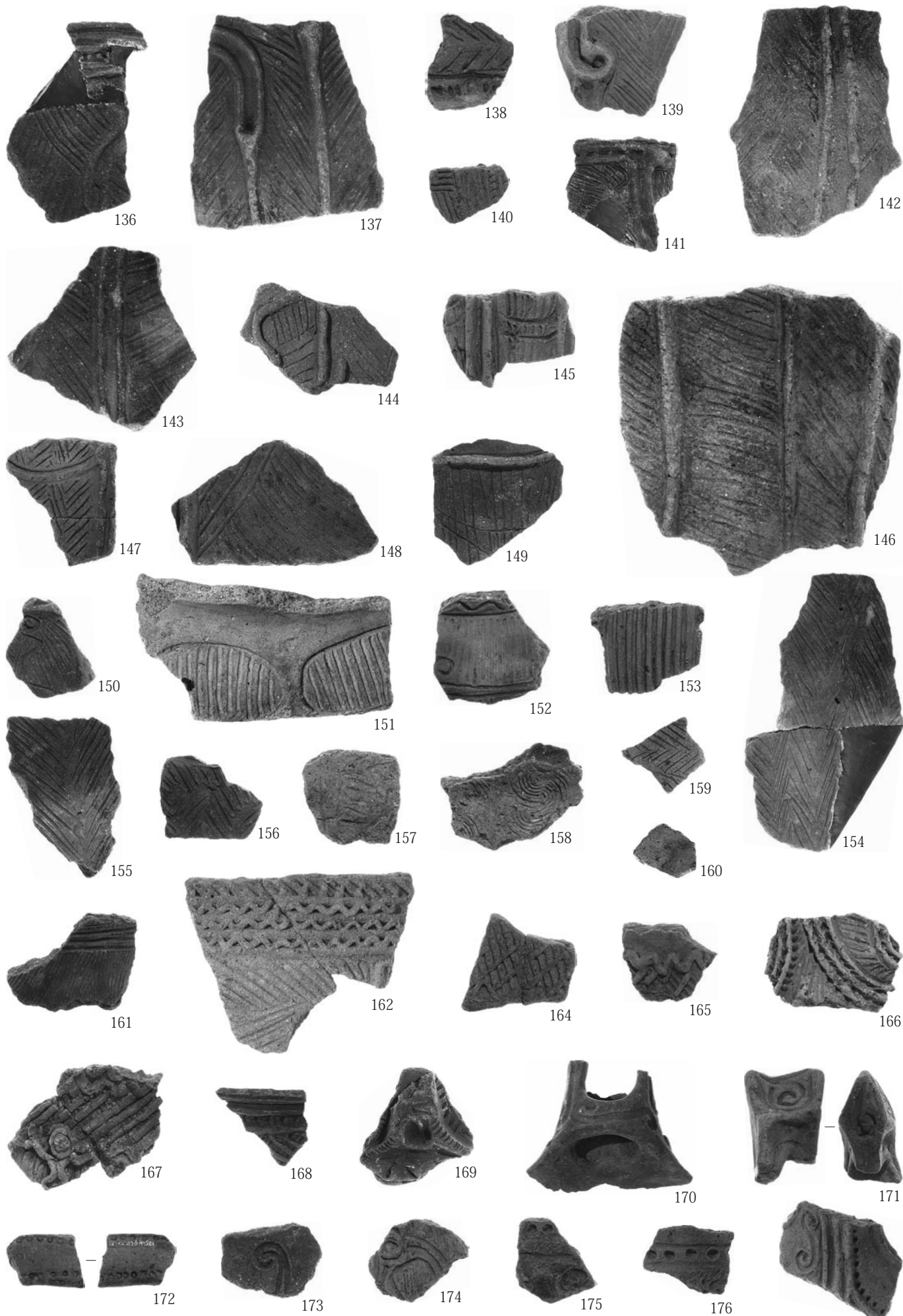
95区 遺構外出土土器





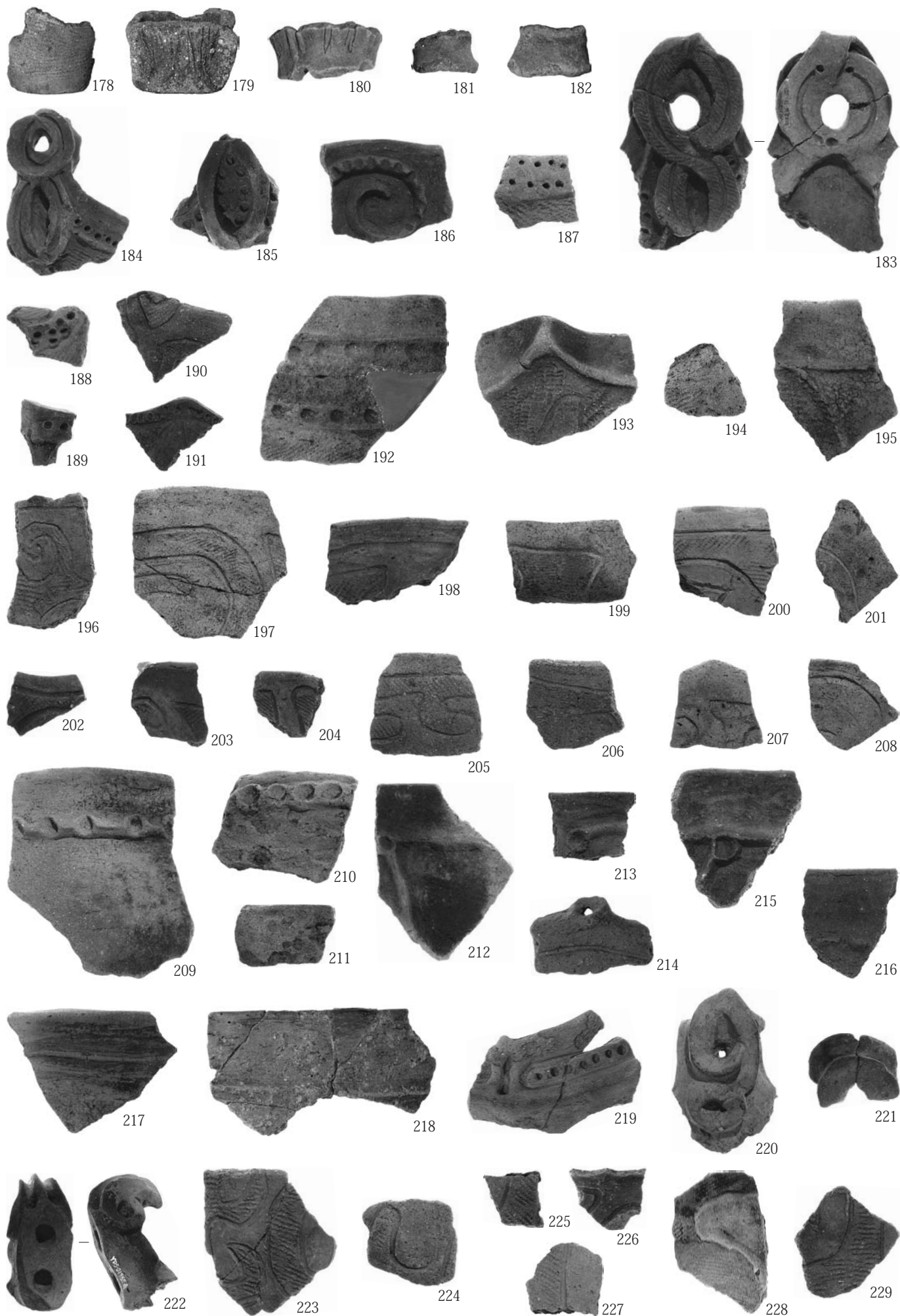
95区 遺構外出土土器





95区 遺構外出土土器

PL.254



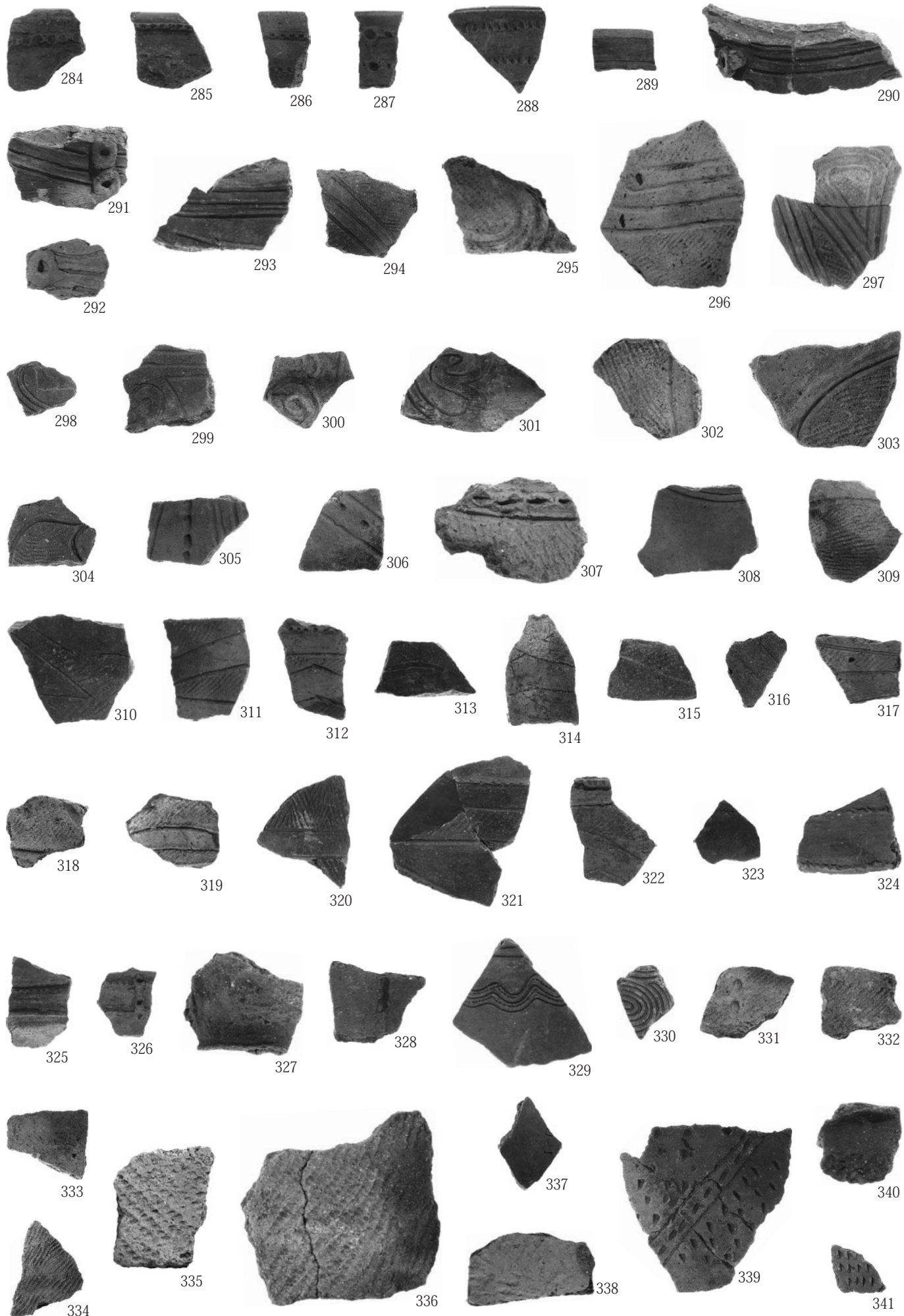
95区 遺構外出土土器

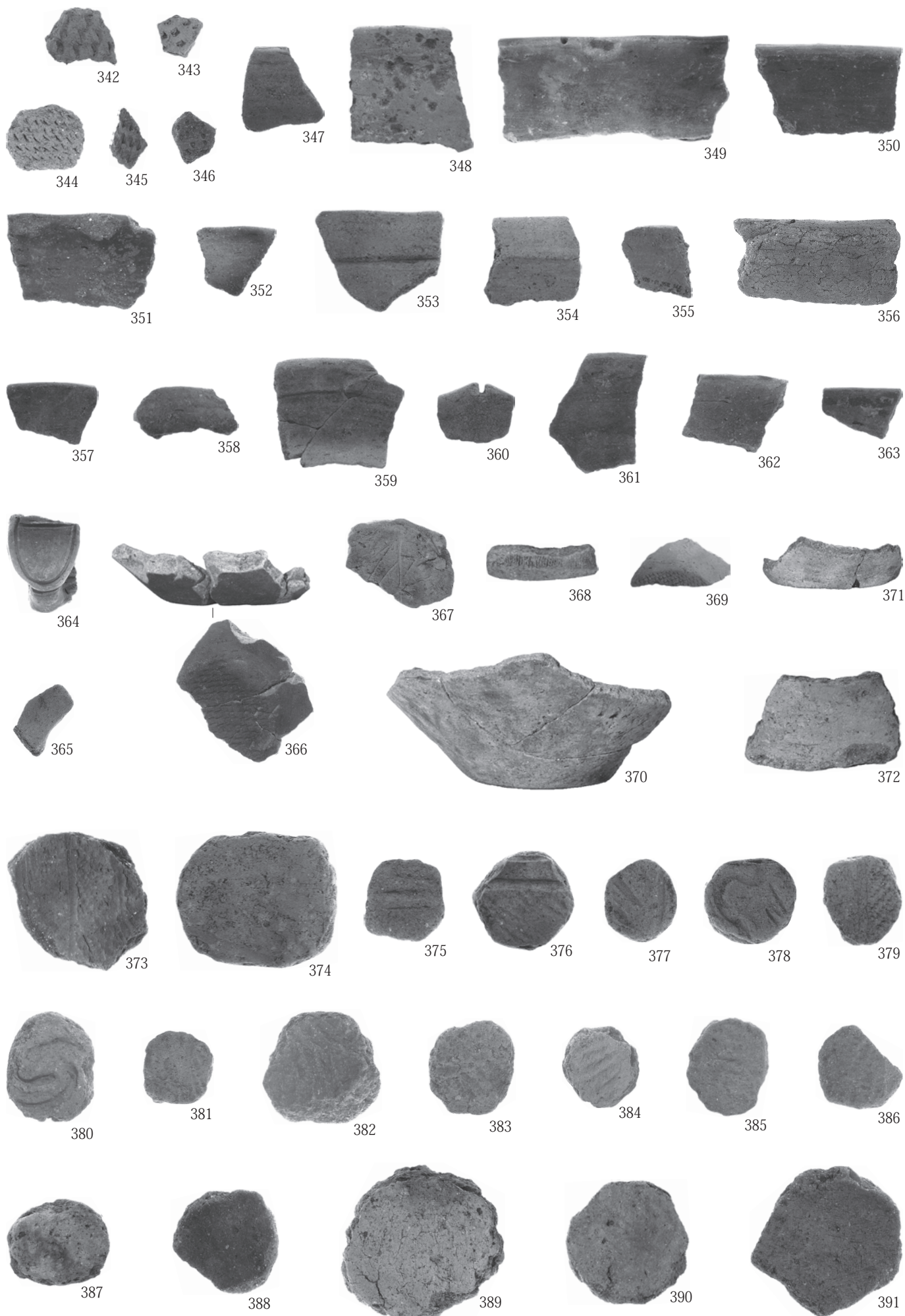


95区 遺構外出土土器



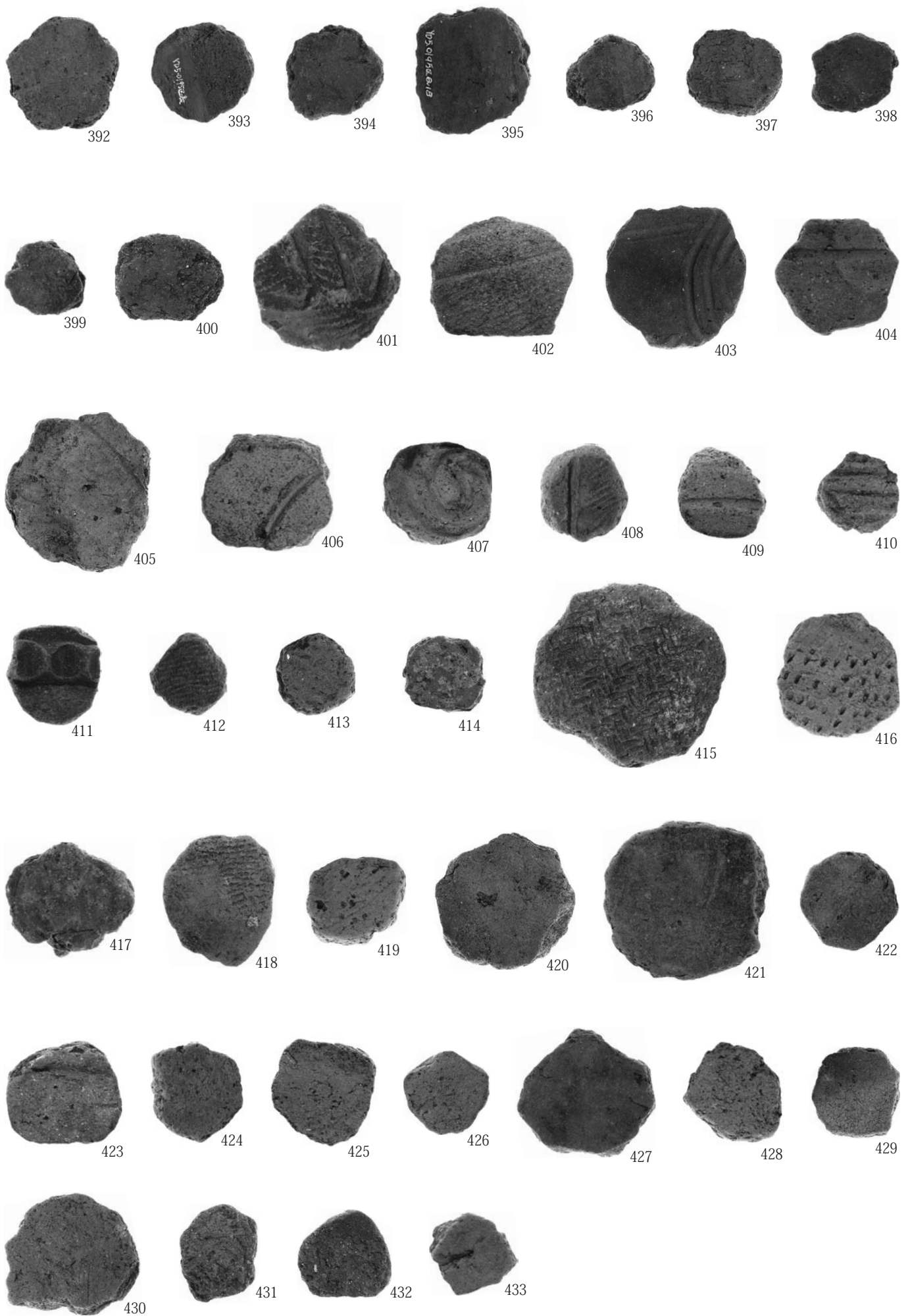
PL.256

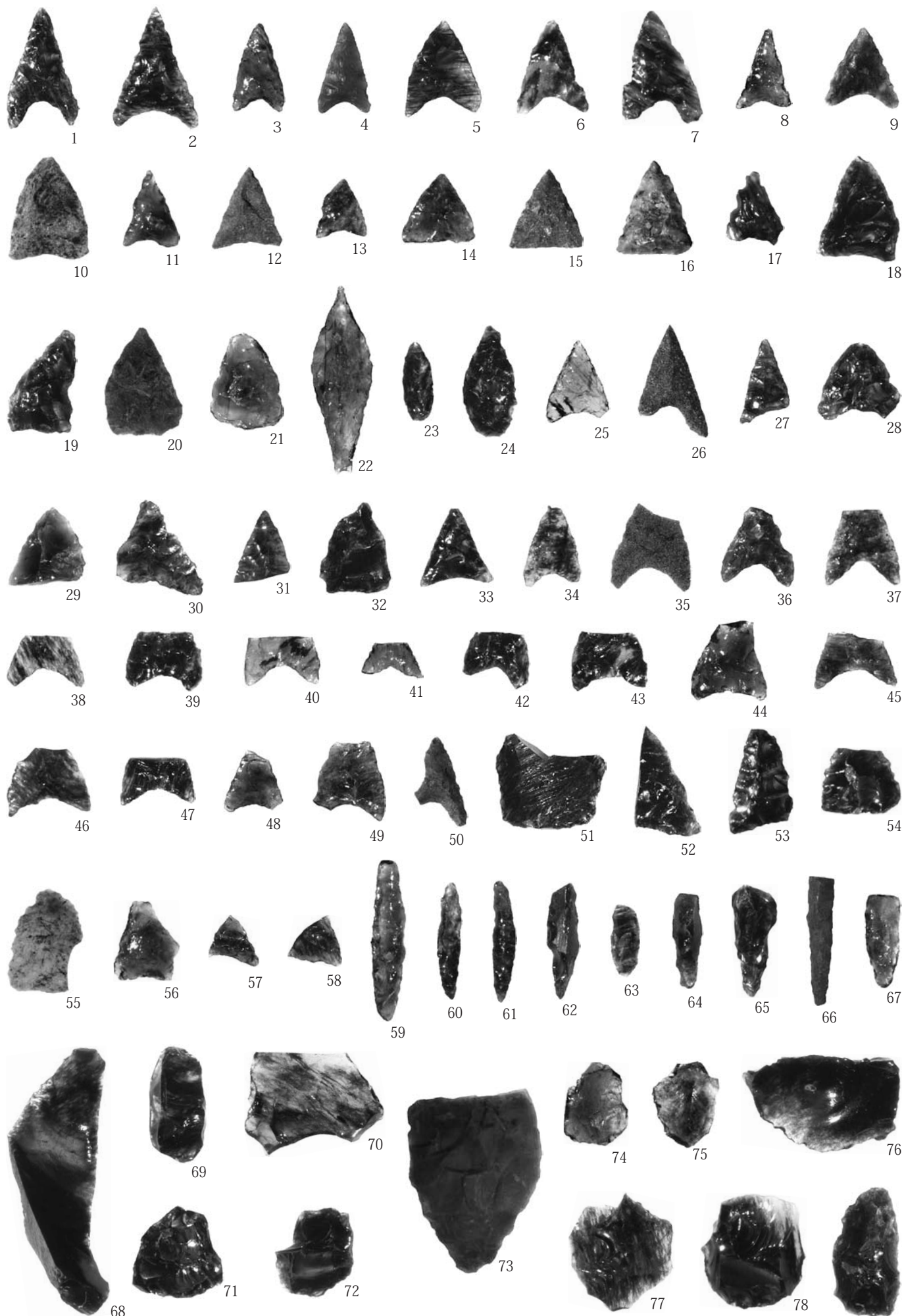




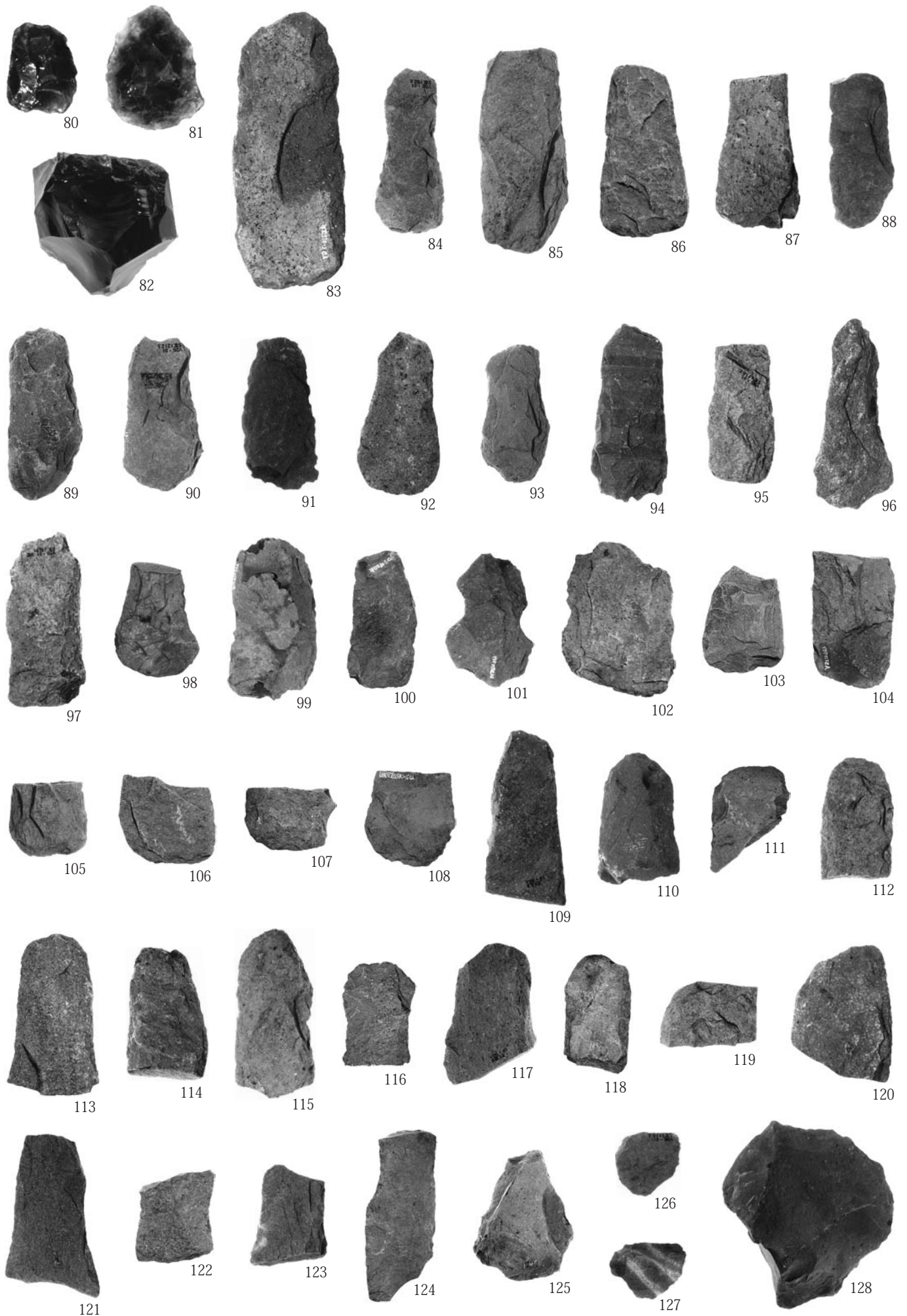
95区 遺構外出土土器

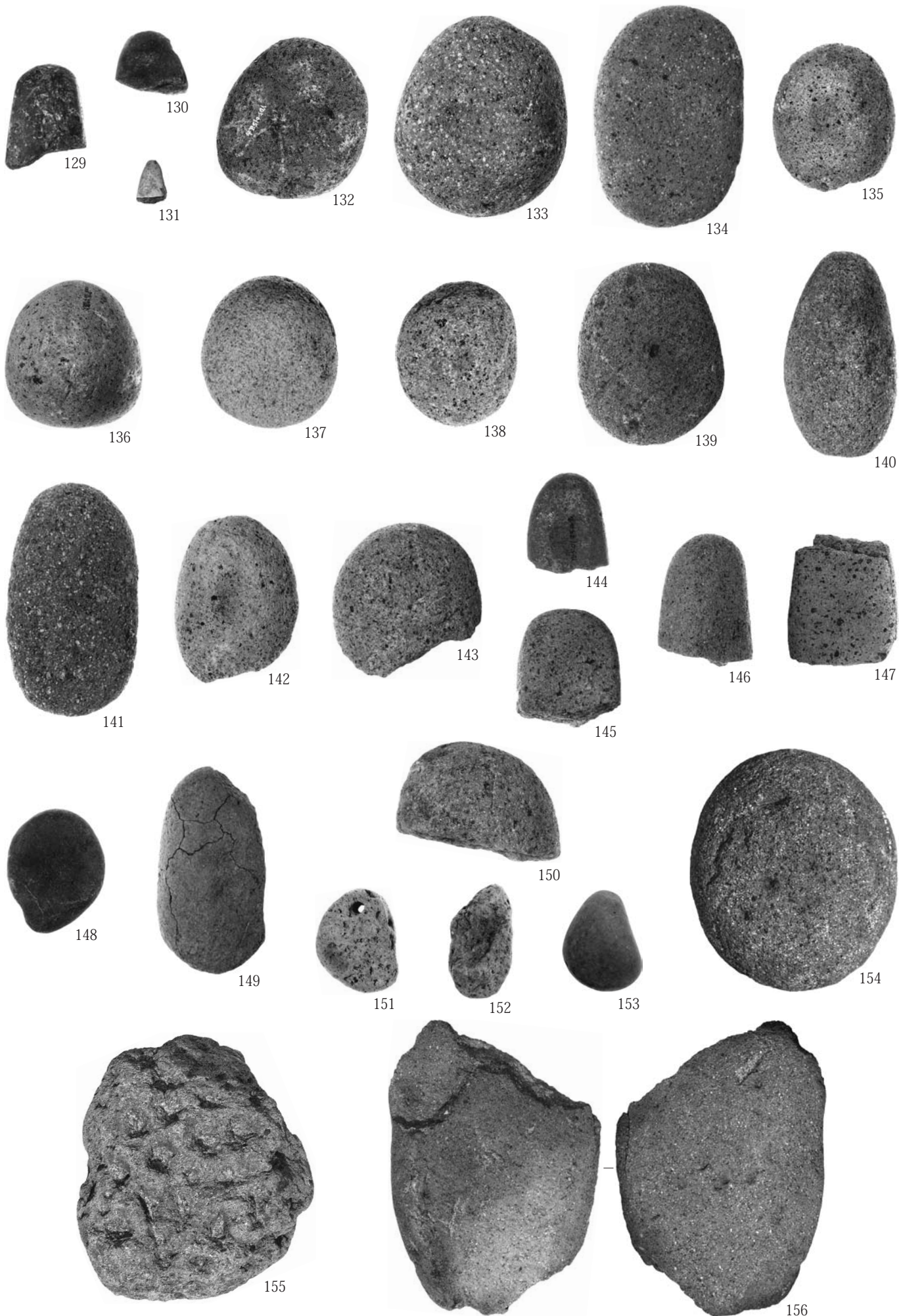
PL.258



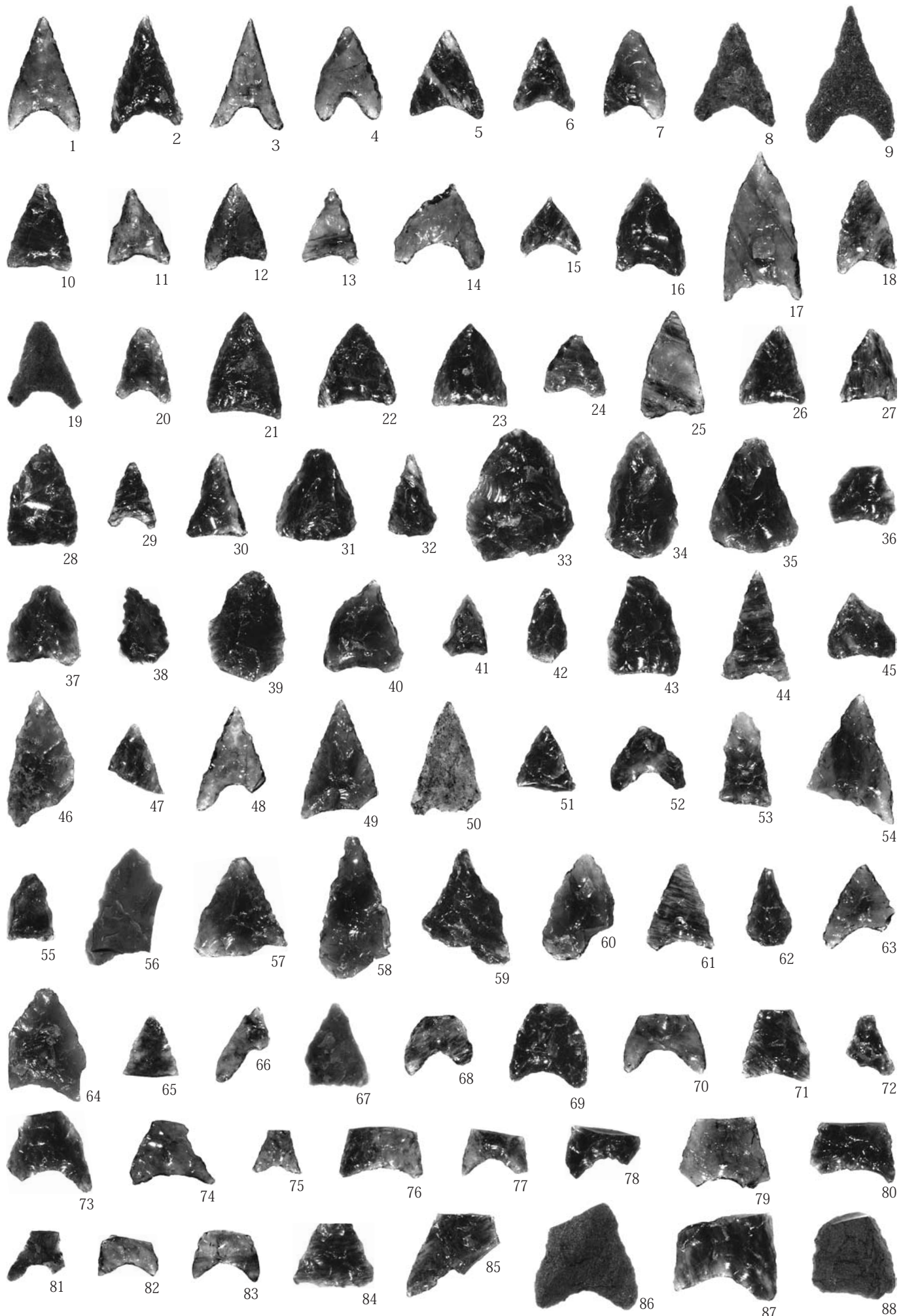


5区 遺構外出土石器

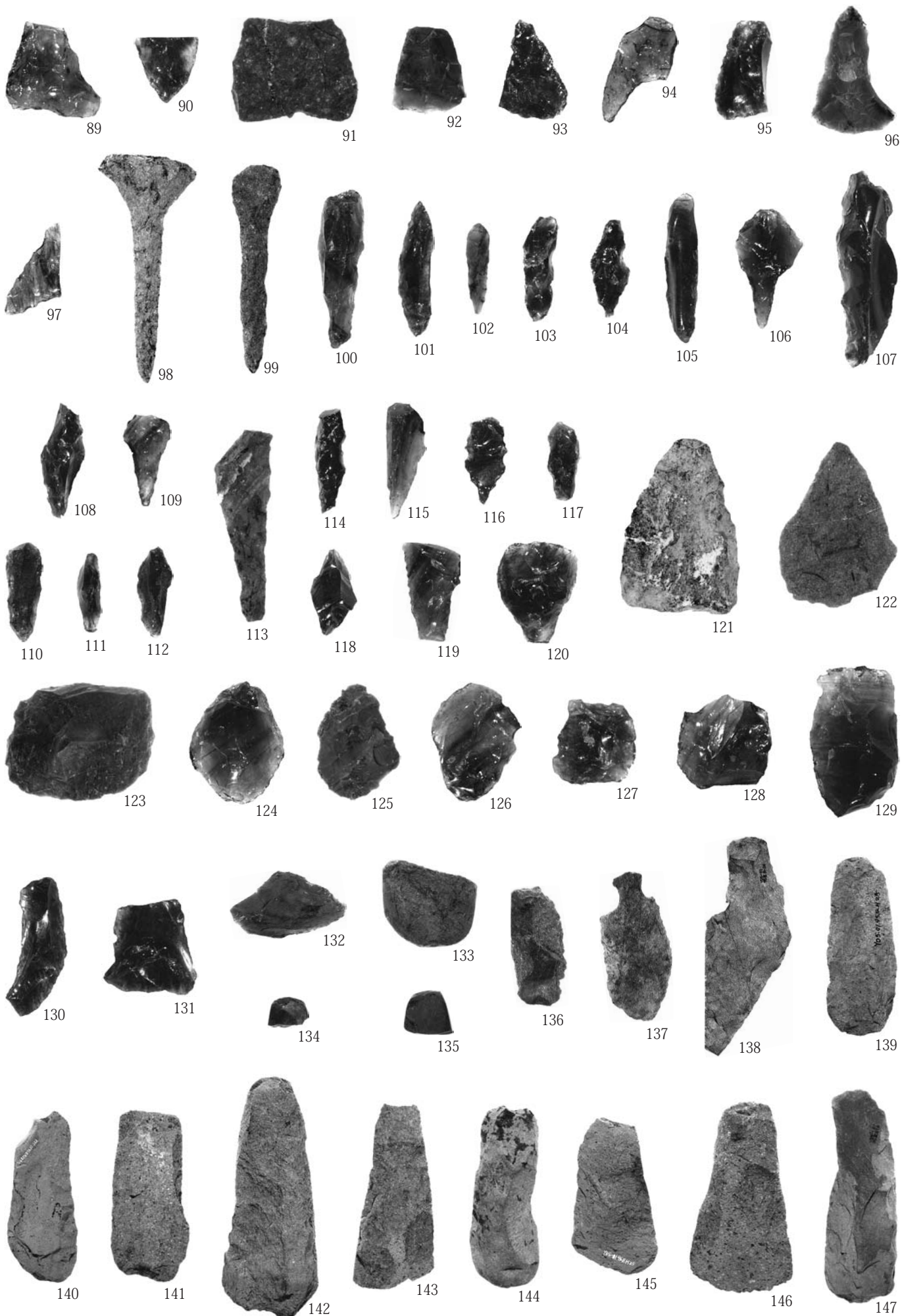




5区 遺構外出土石器

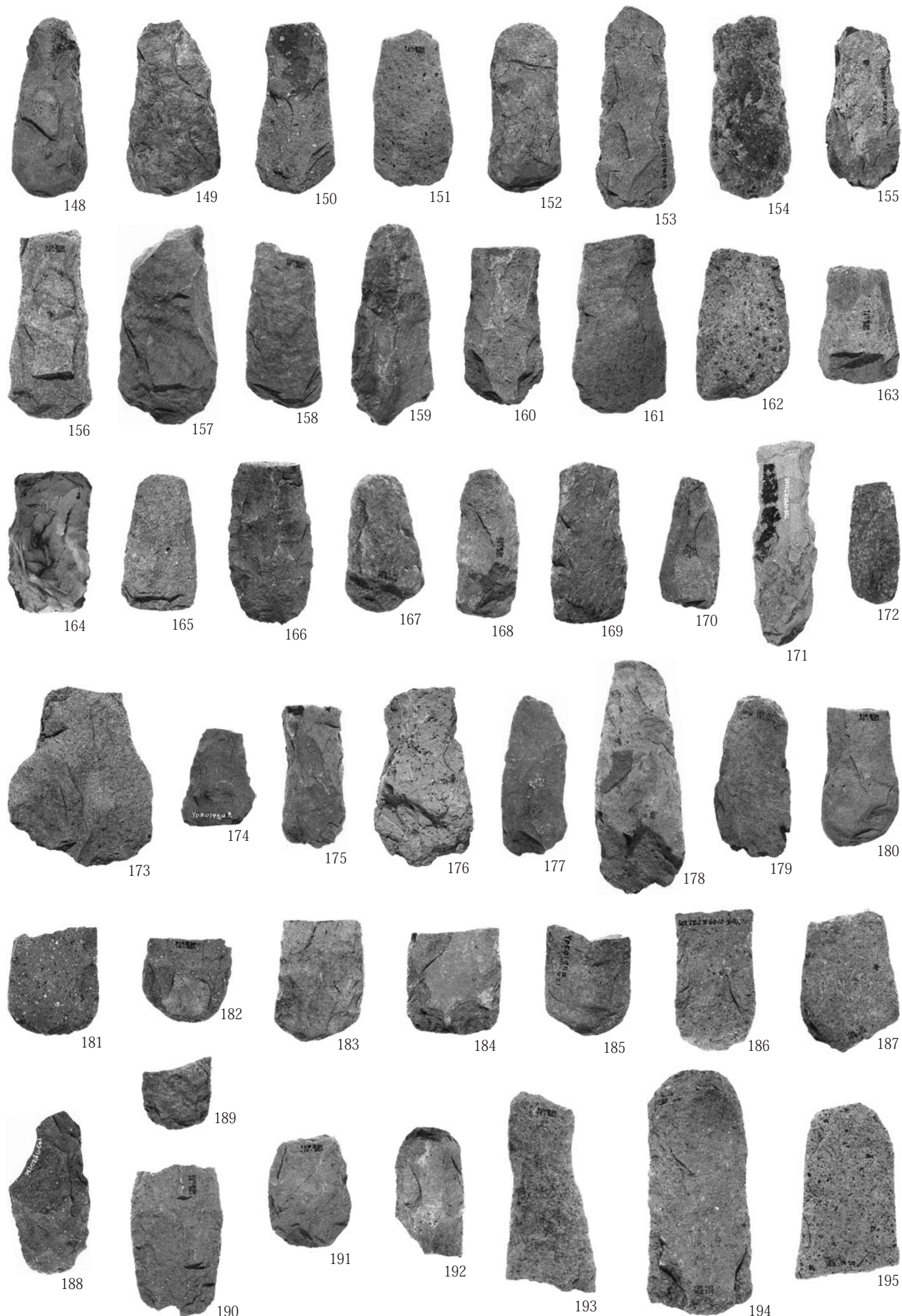


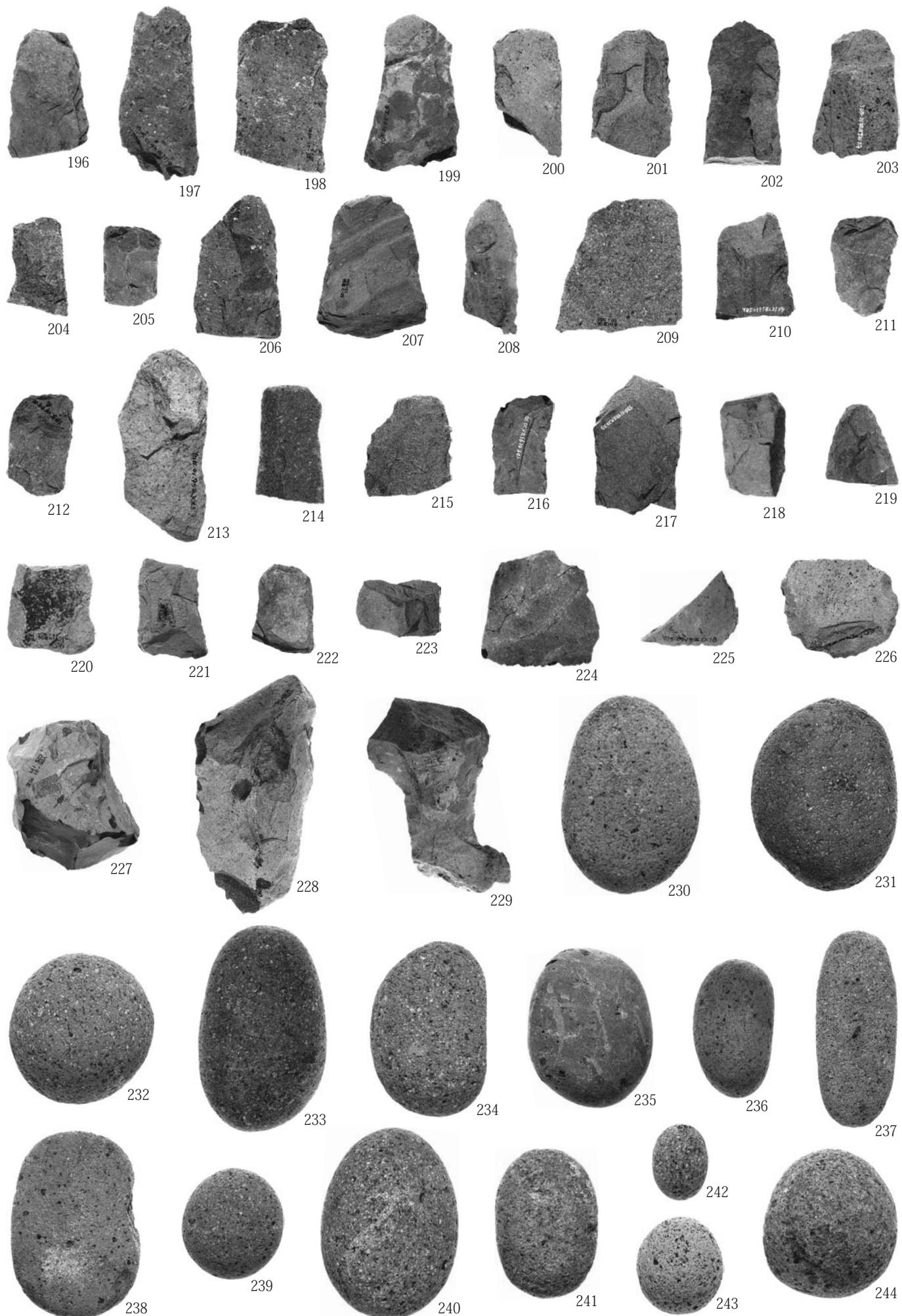
95区 遺構外出土石器



95区 遺構外出土石器

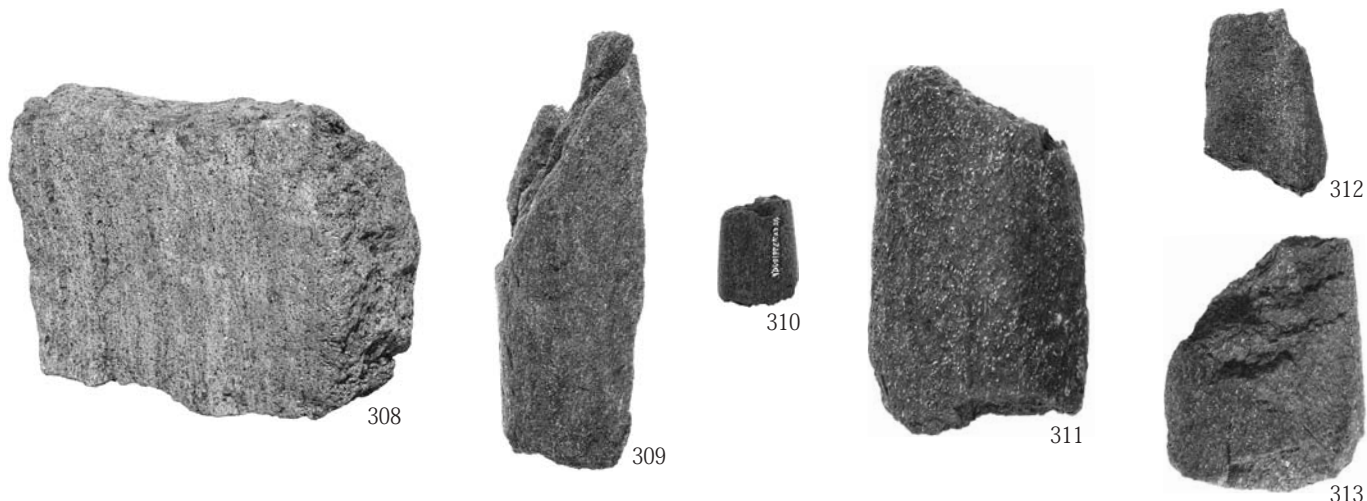






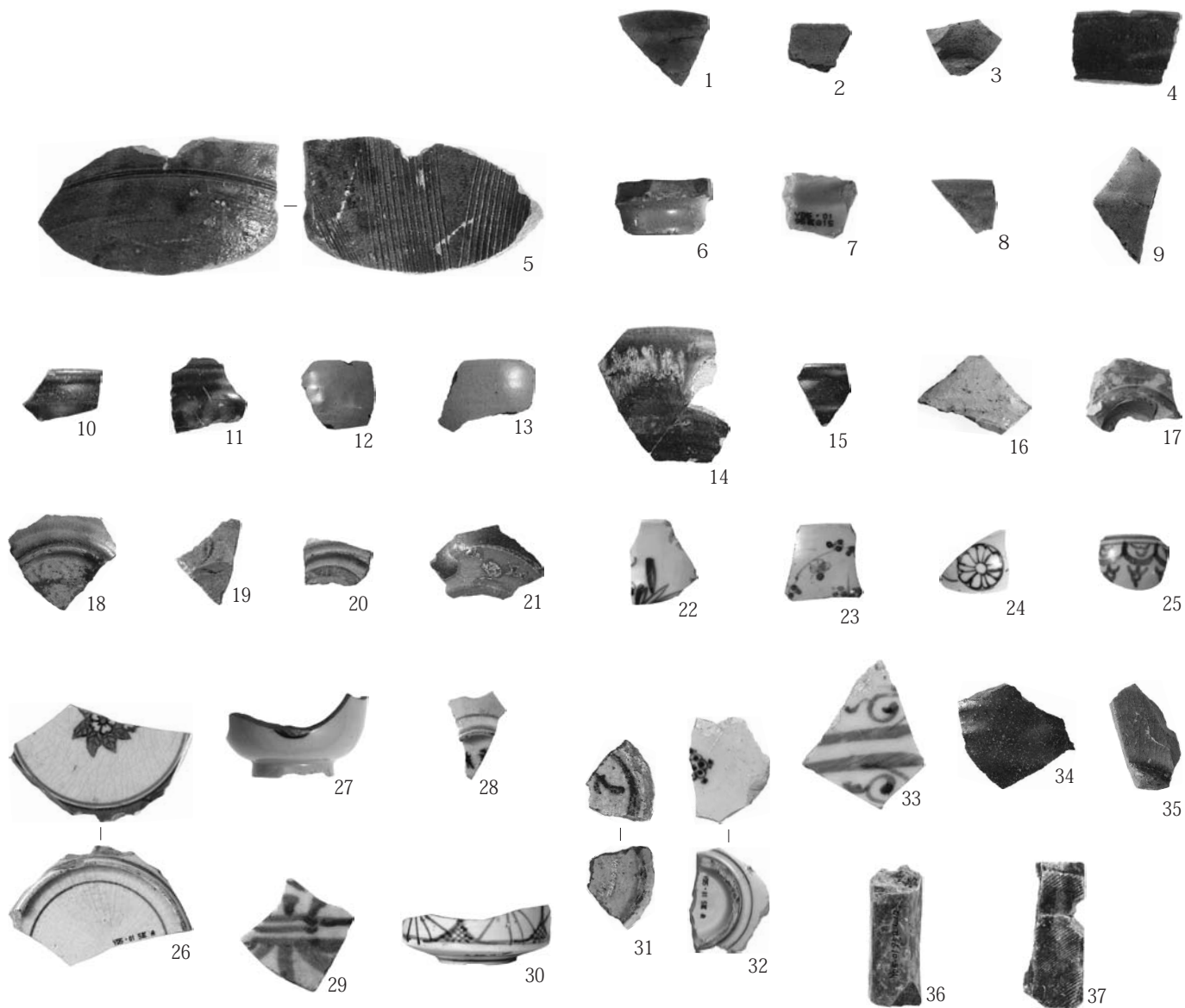
95区 遺構外出土石器







5-6 焼土



5・95区陶磁器・石器類



5・95区金属製品

公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第554集

## 長野原一本松遺跡(6)

ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第40集 一写真図版編一

---

平成25 (2013) 年 3 月18日 印刷

平成25 (2013) 年 3 月25日 発行

編集・発行／公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784-2

電話 (0279) 52-2511 (代表)

URL <http://www.gunmaibun.org/>

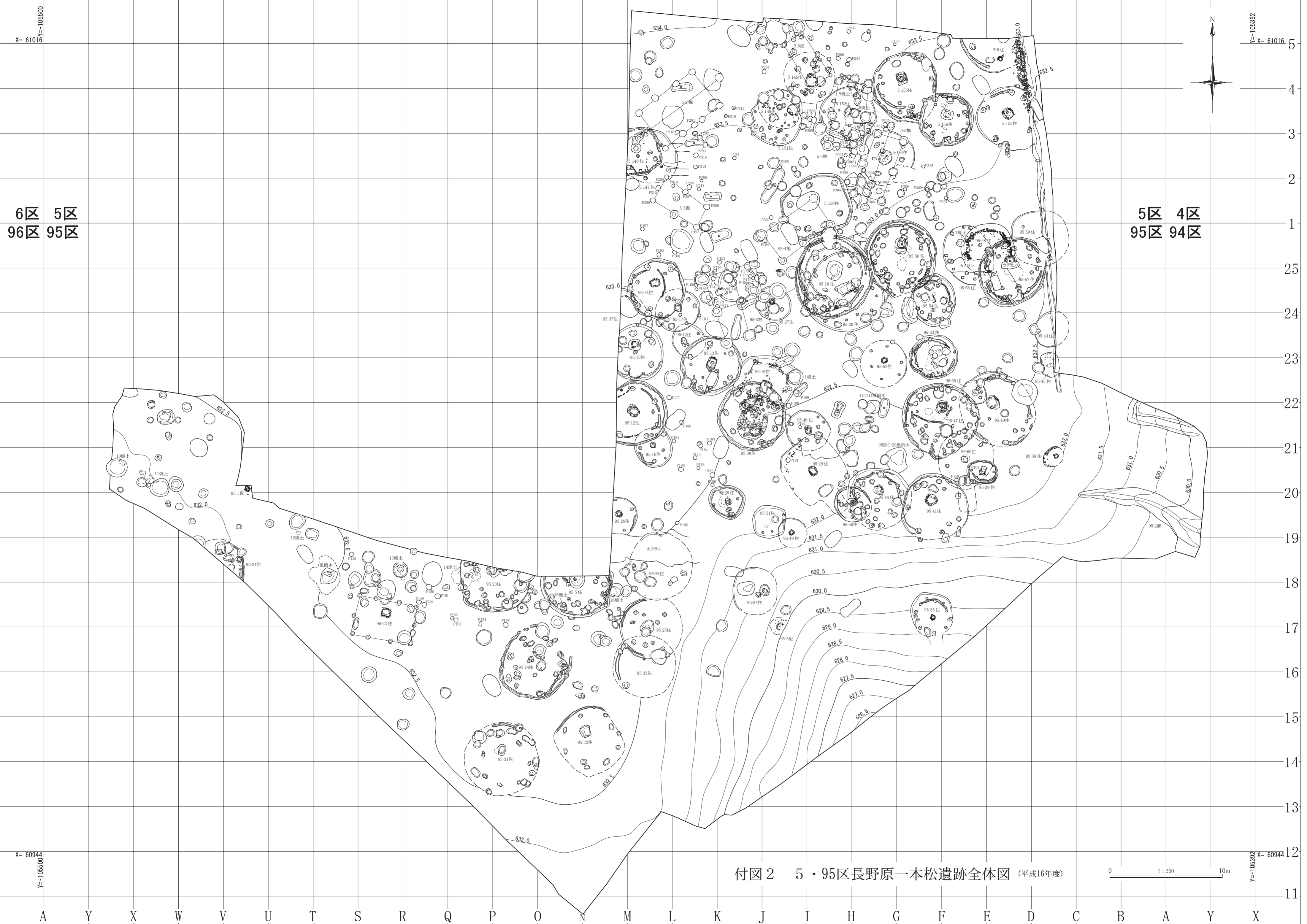
印刷／朝日印刷工業株式会社

---



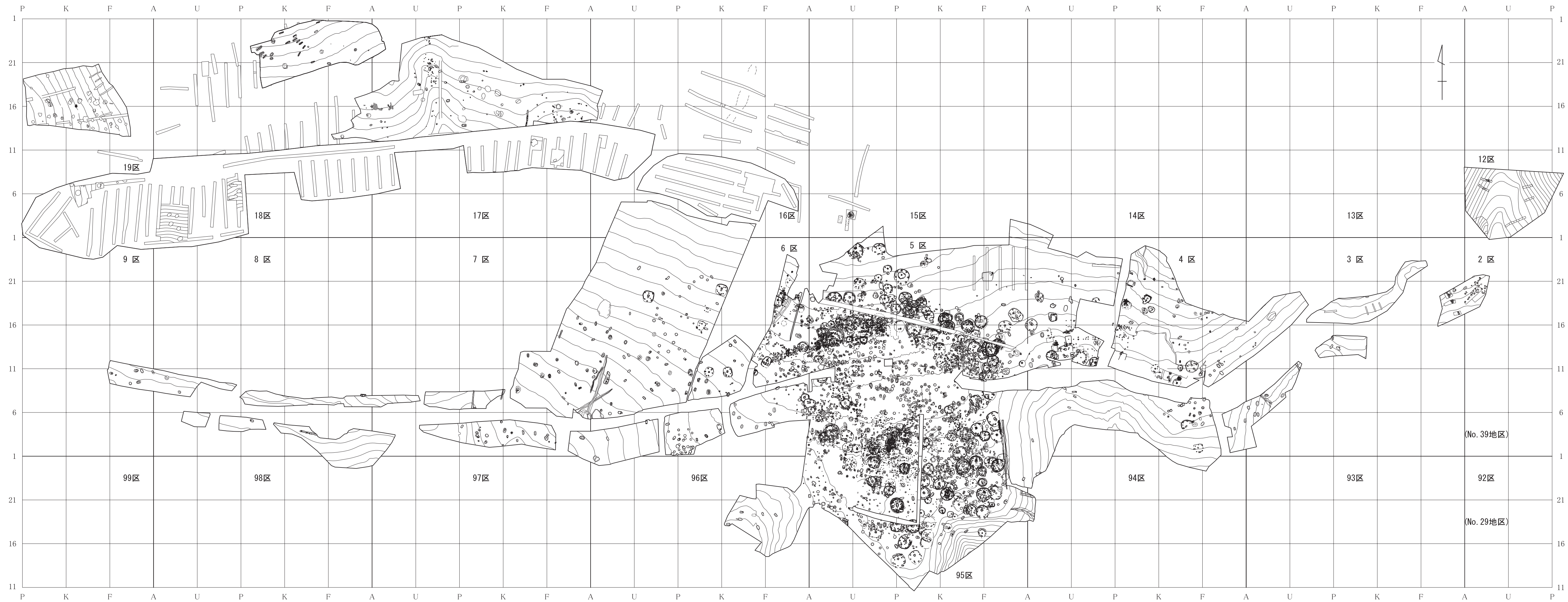






付図2 5・95区長野原一本松遺跡全体図 (平成16年度)

0 1:200 10m



付図1 長野原一本松遺跡全体図 (平成6～16年度)